ADOBE® DREAMWEAVER® CS3

ユーザガイド

Adobe

©2007 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

Adobe® Dreamweaver® CS3 ユーザーガイド Windows® / Macintosh® 版

本マニュアルがエンドユーザ使用許諾契約を含むソフトウェアと共に提供される場合、本マニュアルおよびその中に記載されているソフトウェアは、エンドユーザ使用許諾契約にもとづいて提供されるものであり、当該エンドユーザ使用許諾契約の契約条件に従ってのみ使用または複製することが可能となるものです。当該エンドユーザ使用許諾契約により許可されている場合を除き、本マニュアルのいかなる部分といえども、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の書面による事前の許可なしに、電子的、機械的、録音、その他いかなる形式・手段であれ、複製、検索システムへの保存、または伝送を行うことはできません。本マニュアルの内容は、エンドユーザ使用許諾契約を含むソフトウェアと共に提供されていない場合であっても、著作権法により保護されていることにご留意ください。

本マニュアルに記載される内容は、あくまでも参照用としてのみ使用されること、また、なんら予告なしに変更されることを条件として、提供されるものであり、従って、当該情報が、アドビ システムズ社による確約として解釈されてはなりません。アドビ システムズ社は、本マニュアルにおけるいかなる誤りまたは不正確な記述に対しても、いかなる義務や責任を負うものではありません。

新しいアートワークを創作するためにテンプレートとして取り込もうとする既存のアートワークまたは画像は、著作権法により保護されている可能性のあるものであることをご留意ください。保護されているアートワークまたは画像を新しいアートワークに許可なく取り込んだ場合、著作者の権利を侵害することがあります。従って、著作権者から必要なすべての許可を必ず取得してください。

例として使用されている会社名は、実在の会社・組織を示すものではありません。

Adobe、Adobe ロゴ、ActionScript、ColdFusion、Creative Suite、Director、Dreamweaver、Fireworks、Flash、FlashPaper、HomeSite、JRun、Photoshop、Shockwave および Version Cue は、アドビ システムズ社の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

ActiveX, Microsoft, and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. Apple and Mac OS are trademarks of Apple Inc., registered in the United States and other countries. Java and Solaris are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the United States and other countries. Linux is the registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries. UNIX is a trademark in the United States and other countries, licensed exclusively through X/Open Company, Ltd. All other trademarks are the property of their respective owners.

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/). The Graphics Interchange Format © is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated. MPEG Layer-3 audio compression technology licensed by Fraunhofer IIS and Thomson Multimedia (http://www.mp3licensing.com). You cannot use the MP3 compressed audio within the Software for real time or live broadcasts. If you require an MP3 decoder for real time or live broadcasts, you are responsible for obtaining this MP3 technology license. Speech compression and decompression technology licensed from Nellymoser, Inc. (www.nellymoser.com) Flash CS3 video is powered by On2 TrueMotion video technology. © 1992-2005 On2 Technologies, Inc. All Rights Reserved. http://www.on2.com. This product includes software developed by the OpenSymphony Group (http://www.opensymphony.com/) Sorenson SparkTM video compression and decompression technology licensed from Sorenson Media, Inc.

Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, California 95110, USA.

Notice to U.S. Government End Users. The Software and Documentation are “Commercial Items,” as that term is defined at 48 C.F.R. §2.101, consisting of “Commercial Computer Software” and “Commercial Computer Software Documentation,” as such terms are used in 48 C.F.R. §12.212 or 48 C.F.R. §227.7202, as applicable. Consistent with 48 C.F.R. §12.212 or 48 C.F.R. §§227.7202-1 through 227.7202-4, as applicable, the Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation are being licensed to U.S. Government end users (a) only as Commercial Items and (b) with only those rights as are granted to all other end users pursuant to the terms and conditions herein. Unpublished-rights reserved under the copyright laws of the United States. Adobe Systems Incorporated, 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704, USA. For U.S. Government End Users, Adobe agrees to comply with all applicable equal opportunity laws including, if appropriate, the provisions of Executive Order 11246, as amended, Section 402 of the Vietnam Era Veterans Readjustment Assistance Act of 1974 (38 USC 4212), and Section 503 of the Rehabilitation Act of 1973, as amended, and the regulations at 41 CFR Parts 60-1 through 60-60, 60-250, and 60-741. The affirmative action clause and regulations contained in the preceding sentence shall be incorporated by reference.

目次

第 1 章：はじめに

インストール 1

Adobe ヘルプ 1

参考資料 4

最新情報 10

第 2 章：ワークスペース

Dreamweaver ワークフローとワークスペース 12

ドキュメントウィンドウでの作業 23

ツールバー、インスペクタ、コンテキストメニュー、およびパネルの使用 26

Dreamweaver CS3 ワークスペースのカスタマイズ 32

第 3 章：Dreamweaver サイトの操作

Dreamweaver サイトの設定 37

サイトのビジュアルマップの操作 48

Dreamweaver での Contribute サイトの管理 53

サイトを定義しないファイル操作 59

[基本] タブのオプション 60

第 4 章：ファイルの作成と管理

ドキュメントを作成して開く 65

ファイルとフォルダの管理 74

サーバーからのファイルの取得とサーバーへのファイルの送信 83

ファイルのチェックインとチェックアウト 87

ファイルの同期 90

ファイルの違いの比較 92

ファイルのロールバック (Contribute ユーザー) 94

サイト内のファイルおよびフォルダのクローク 95

デザインノート内のファイル情報の格納 97

サイトのテスト 100

第 5 章：アセットとライブラリの管理

アセットとライブラリについて 104

アセットの操作 105

お気に入りアセットリストの作成と管理 109

ライブラリ項目の操作 111

第 6 章：CSS を使用したページの作成

カスケーディングスタイルシートについて 116

CSS の作成と管理 120

CSS を使用したページのレイアウト 139

Div タグの操作 155

AP エレメントのアニメーション化 159

第 7 章：HTML を使用したページレイアウト

レイアウト用ビジュアルエイドの使用 166
テーブルを使用したコンテンツの表示 169
レイアウトモードでのページのレイアウト 183
フレームの使用 193

第 8 章：ページへのコンテンツの追加

ページの操作 205
テキストの追加とフォーマット 217
イメージの追加と変更 233
Flash コンテンツの挿入 244
Flash Video コンテンツの追加 253
サウンドの追加 257
他のメディアオブジェクトの追加 258

第 9 章：リンクおよびナビゲーション

リンクおよびナビゲーションについて 267
リンク 269
ジャンプメニュー 277
ナビゲーションバー 279
イメージマップ 280
リンクのトラブルシューティング 282

第 10 章：ページのプレビュー

ブラウザでページをプレビュー 285
モバイルデバイスでページをプレビュー 287

第 11 章：ページコードを使用した操作

Dreamweaver でのコーディングについて 288
コーディング環境の設定 293
コーディング環境のカスタマイズ 294
コードの記述と編集 299
コードの折りたたみ 309
コードの最適化およびデバッグ 311
デザインビューでのコードの編集 315
ページのヘッドコンテンツの操作 321
サーバーサイドインクルードの使用 325
タグライブラリの管理 326
Dreamweaver へのカスタムタグの読み込み 329

第 12 章：JavaScript ビヘイビアの追加

JavaScript ビヘイビアの使用 331
Dreamweaver に組み込まれているビヘイビアの適用 334

第 13 章：他のアプリケーションとの併用

アプリケーション間の統合 349
Fireworks による作業 350

Photoshop による作業 356
Flash による作業 364
Bridge による作業 365
Device Central での作業 367

第 14 章：テンプレートの作成と管理

Dreamweaver テンプレートについて 369
テンプレートおよびテンプレートから作成されたドキュメントの認識 374
Dreamweaver テンプレートの作成 376
編集可能領域の作成 379
リピート領域の作成 380
オプション領域の使用 382
編集可能なタグ属性の定義 384
ネストされたテンプレートの作成 386
テンプレートの編集、更新、および削除 388
テンプレートのコンテンツの書き出しと読み込み 391
既存のドキュメントでのテンプレートの適用または削除 392
テンプレートから作成されたドキュメントのコンテンツの編集 394
テンプレートのシンタックス 396
テンプレートのオーサリング環境の設定 398

第 15 章：XML データの表示

XML および XSLT について 400
サーバーでの XSL 変換の実行 407
クライアントでの XSL 変換の実行 423
存在しない文字エンティティ 424

第 16 章：Spry 表示ページの作成

Spry フレームワークについて 427
Spry Widget の追加 427
アコーディオン Widget の操作 429
メニューバー Widget の操作 431
折りたたみパネル Widget の操作 436
タブ付きのパネル Widget の操作 438
テキストフィールド検査 Widget の操作 440
テキスト領域検査 Widget の操作 445
選択検査 Widget の操作 448
チェックボックス検査 Widget の操作 451
Spry でのデータの表示 453
Spry エフェクトの追加 461

第 17 章：動的サイトを構築するための準備

Web アプリケーションについて 465
ローカル Web サーバーのインストール 472
Web アプリケーションの設定 474
ColdFusion デベロッパーのためのデータベース接続 481

ASP デベロッパーのためのデータベース接続 482
PHP デベロッパーのためのデータベース接続 489
ASP.NET デベロッパーのためのデータベース接続 490
JSP デベロッパーのためのデータベース接続 493
データベース接続のトラブルシューティング 497
接続スクリプトの削除 502

第 18 章：Web アプリケーションのデータソース
データベースを使用したコンテンツの保存 503
ユーザーから送信されたデータの収集 504
セッション変数に格納されたデータへのアクセス 507

第 19 章：動的ページの作成
ビジュアル開発のためのワークスペースの最適化 510
動的ページのデザイン 513
動的コンテンツソースの概要 515
動的コンテンツのパネル 517
動的コンテンツのソースの定義 519
ページへの動的コンテンツの追加 534
動的コンテンツの変更 538
データベースのレコードの表示 540
ライブデータの表示 549
Web サービスの使用 (Windows のみ) 553
カスタムサーバービヘイビアの追加 559
フォームの作成 569

第 20 章：アプリケーションのビジュアル開発
マスターページと詳細ページの作成 (すべてのサーバー) 583
検索ページと結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP) 592
データベース検索ページの作成 (ASP.NET) 597
レコード挿入ページの作成 (すべてのサーバー) 601
レコードを更新するページの作成 (すべてのサーバー) 605
レコードを削除するページの作成 (すべてのサーバー) 610
高度なデータ操作オブジェクトでのページの作成 (ColdFusion、ASP、ASP.NET、JSP) 617
登録ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP) 624
ログインページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP) 626
許可されたビジターのみがアクセスできるページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP) 628
アプリケーションのフォルダの保護 (ColdFusion) 631
ColdFusion コンポーネントの使用 (ColdFusion) 631
JavaBeans の使用 (JSP) 637

第 21 章：ASP.NET フォームおよび ColdFusion フォームの作成
ColdFusion MX 7 フォームの作成 640
ASP.NET フォームの作成 651
ASP.NET データグリッド Web コントロールおよびデータリスト Web コントロールの作成 656

第 22 章：タスクの自動化

タスクの自動化 663

第 23 章：アクセシビリティ

Dreamweaver とアクセシビリティ 669

Dreamweaver アクセシビリティ機能 670

アクセシビリティに配慮したページデザイン 672

第 24 章：ショートカットと拡張機能

ショートカットキー 673

拡張機能 675

索引 676

第 1 章：はじめに

新しいソフトウェアをまだインストールしていない場合は、インストールおよびその他の準備作業に関する説明を最初に参照してください。ソフトウェアの使用を開始する前に、Adobe ヘルプや、ユーザーが使用できる様々なリソースの概要をお読みください。手順のビデオ、プラグイン、テンプレート、ユーザコミュニティ、セミナー、チュートリアル、RSS フィードなどを使用できます。

インストール

必要システム構成

❖ お使いの Adobe® ソフトウェアの必要システム構成および推奨事項について詳しくは、インストールディスクのお読みくださいファイルを参照してください。

ソフトウェアのインストール

1 他の Adobe アプリケーションが開いている場合はすべて閉じます。

2 インストールディスクをディスクドライブに挿入し、画面の指示に従います。

注意：詳しくは、インストールディスクのお読みくださいファイルを参照してください。

ソフトウェアのライセンス認証

Adobe ソフトウェアの単一ユーザライセンスをお持ちの場合は、ソフトウェアのライセンス認証を求めるメッセージが表示されます。これは、匿名で実行される簡単なプロセスです。ソフトウェアを起動してから 30 日以内に完了してください。

製品のライセンス認証については、インストールディスクのお読みくださいファイルを参照するか、アドビ システムズ社の Web サイト www.adobe.com/go/activation_jp を参照してください。

1 ライセンス認証ダイアログボックスが開いていない場合は、ヘルプ／ライセンス認証を選択します。

2 画面の指示に従います。

注意：別のコンピュータにソフトウェアをインストールする場合は、まず元のコンピュータでのライセンス認証を解除する必要があります。ヘルプ／ライセンス認証の解除を選択します。

登録

製品を登録すると、無料のインストールサポート、アップデート通知、その他のサービスを受けることができます。

❖ 登録を実行するには、ソフトウェアをインストールしてライセンス認証を行うと表示されるユーザ登録ダイアログボックスで、画面の指示に従います。

後で登録する場合は、ヘルプ／ユーザ登録を選択すればいつでも実行できます。

Adobe ヘルプ

Adobe ヘルプのリソース

Adobe ソフトウェア関連のドキュメントは様々な形式で用意されています。

製品内ヘルプと LiveDocs ヘルプ

製品内ヘルプからは、ソフトウェアの出荷時に用意されていたドキュメントと学習用コンテンツにアクセスできます。このヘルプは Adobe ソフトウェアのヘルプメニューから開くことができます。

LiveDocs ヘルプには、製品内ヘルプのすべてのコンテンツに加え、アップデートおよび Web 上にある追加の学習用コンテンツへのリンクが含まれています。一部の製品では、LiveDocs ヘルプのトピックにコメントを追加することもできます。各製品の LiveDocs ヘルプは、http://www.adobe.com/go/documentation_jp のアドビヘルプリソースセンターでご覧ください。

一部を除いて製品内ヘルプシステムおよび LiveDocs ヘルプでは、複数の製品のヘルプを同時に検索できます。各トピックには、Web 上の関連するコンテンツや他製品ヘルプ内のトピックへのリンクも含まれることがあります。

製品内のヘルプも Web 上のヘルプも、追加コンテンツおよびユーザコミュニティにアクセスするための拠点と考えてください。最も詳細かつ新しい内容のヘルプは常に Web 上にあります。

Adobe PDF ドキュメント

製品内ヘルプは、印刷用に最適化された PDF 形式のものも存在します。インストールガイドやホワイトペーパーなどのドキュメントも、PDF 版が用意されている場合があります。

PDF ドキュメントはすべて、www.adobe.com/go/documentation_jp のアドビヘルプリソースセンターに用意されています。ソフトウェアに含まれる PDF ドキュメントを表示するには、インストール DVD またはコンテンツ DVD のドキュメントフォルダを調べてください。

印刷ドキュメント

製品内ヘルプの印刷版は、www.adobe.com/go/store_jp のアドビストアでご購入いただけます。アドビストアでは、Adobe パブリッシングパートナーが発行した書籍も販売しています。

Adobe Creative Suite® 3 には印刷版ワークフローガイドが付属しており、単体のアドビ製品にも印刷版の使用手引きが添付されている場合があります。

製品でのヘルプの使用

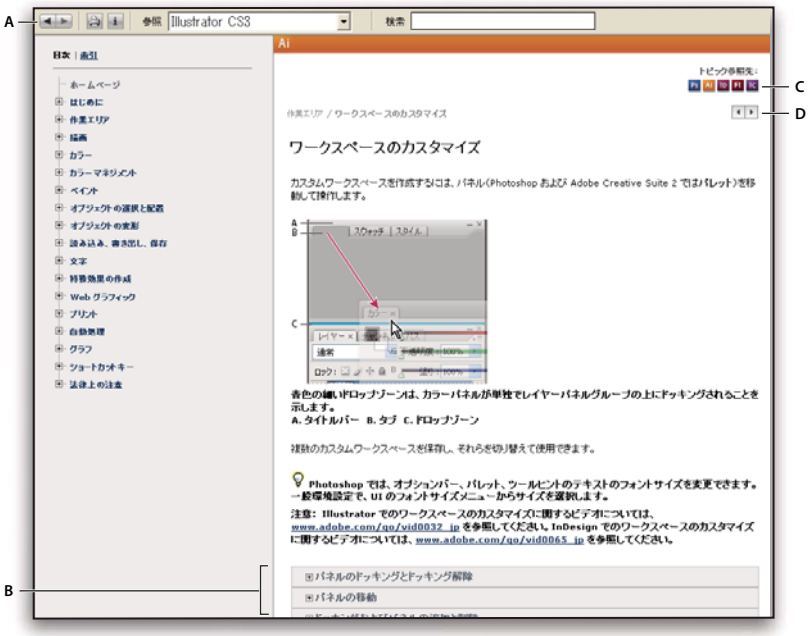
製品内ヘルプはヘルプメニューから開くことができます。Adobe Help Viewer を起動し、参照メニューをクリックすると、コンピュータにインストールされているアドビ製品のヘルプを表示できます。

次のようなヘルプ機能が製品共通の学習を促進します。

- 各トピックには、他のアドビ製品ヘルプや Web 上の追加コンテンツへのリンクが含まれている場合があります。

- 一部のトピックは複数の製品に共通しています。例えば、ヘルプトピックに Adobe Photoshop® のアイコンと Adobe After Effects® のアイコンが付いている場合、そのトピックは 2 つの製品の類似した機能を説明しているか、またはこの 2 つの製品の両方を使用するワークフローについて記載しているものです。
- 複数の製品のヘルプを同時に検索できます。

「シェイプツール」などのような語句を検索する場合は、語句を二重引用符で囲んで入力すると、入力した語句と完全に一致する語句を含むトピックのみが検索されます。



Adobe ヘルプ
A. 戻る / 進むボタン（これまでに表示したリンク）**B.** 展開や折り畳みが可能なサブトピック **C.** 共通トピックを示すアイコン **D.** 前へ / 次へボタン（トピックを順番に表示）

アクセシビリティ機能

Adobe ヘルプのコンテンツは、操作や視覚に困難のある方にもご利用いただけます。製品内ヘルプでは、標準のアクセシビリティ機能がサポートされています。

- テキストのサイズは、標準的なコンテクストメニューコマンドで変更できます（Windows のみ）。
- 本文中のリンクにはわかりやすいように下線がついています。
- リンク先のページがテキストからは分かりにくい場合、タイトルがアンカータグの title 属性で参照できます。例えば、前へおよび次へリンクには、前のトピックと次のトピックのタイトルが含まれます。
- コンテンツが高コントラストモードをサポートしています。
- キャプションのないグラフィックに代替テキストが含まれます。
- 各フレームに、その目的を示すタイトルがあります。
- 画面読みツールやテキスト読み上げツールに対応するために、コンテンツの構造は標準的な HTML タグで定義されています。
- 書式はスタイルシートで管理しているため、埋め込みフォントはありません。

ヘルプツールバーコントロールのショートカットキー（Windows）

「戻る」ボタン Alt+ 左矢印キー

「次へ」ボタン Alt+ 右矢印キー

印刷 Ctrl+P

「Adobe Help Viewer について」ボタン Ctrl+I

参照メニュー Alt+ 下向き矢印キーまたは Alt+ 上向き矢印キーで他のアプリケーションのヘルプを表示

「検索」ボックス Ctrl+S キーでカーソルを「検索」ボックス内に配置

ヘルプの移動用のショートカットキー（Windows）

- 各フレーム間を移動するには、Ctrl+Tab キー（次へ）および Shift+Ctrl+Tab キー（前へ）を押します。
- フレームのリンク間を移動してリンクを選択するには、Tab キー（次へ）または Shift+Tab キー（前へ）を押します。
- 下線を付けたリンクを有効にするには、Enter キーを押します。
- テキストサイズを大きくするには、Ctrl+ プラス記号キーを押します。
- テキストサイズを小さくするには、Ctrl+ マイナス記号キーを押します。

適切なヘルプドキュメントの選択

以下のリストに、[ヘルプ] メニューから入手できるマニュアルを示します。このリストを使用して、質問の回答が得られるヘルプシステムを検索してください。

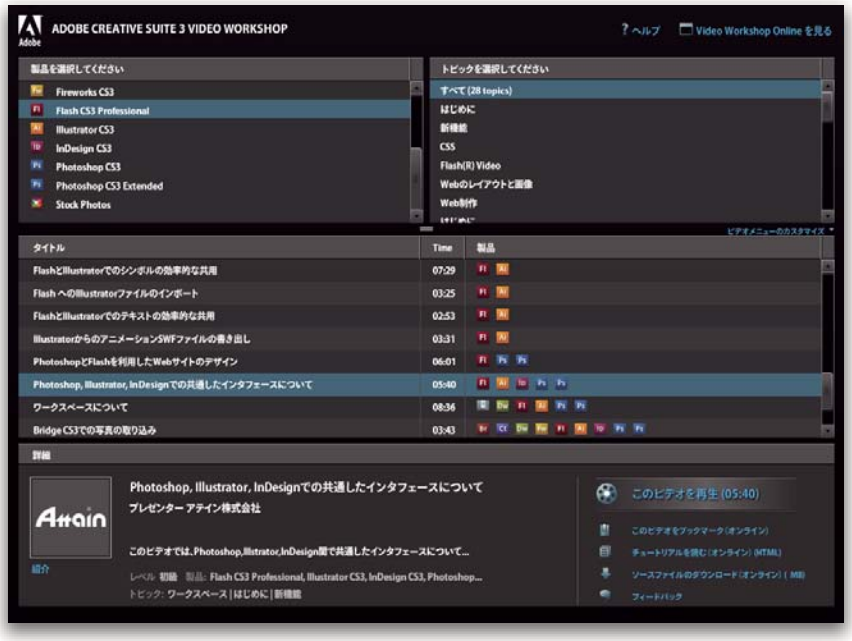
- 『*Dreamweaver* ヘルプ』(『*Dreamweaver* ユーザーガイド』と呼ばれます) には、Adobe® Dreamweaver® CS3 のすべての機能を網羅した総合的な情報が記載されており、すべてのユーザーを対象としています。
- 『*Dreamweaver* 拡張ガイド』では、Dreamweaver のフレームワークとアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) について説明しており、拡張機能を構築または Dreamweaver インターフェイスをカスタマイズする上級ユーザーを対象としています。
- 『*Dreamweaver API* リファレンス』では、拡張機能を構築およびインターフェイスをカスタマイズする上級ユーザーが使用するユーティリティ API および JavaScript API について説明します。
- 『*Spry Framework* ヘルプ』では、Ajax データセットの作成、Widget、Spry フレームワークを使用した効果について説明し、コードサンプルやクイックスタートが含まれます。これらのマニュアルは、Dreamweaver に固有ではありません。Dreamweaver については、『*Dreamweaver* ユーザーガイド』を参照してください。
- 『*ColdFusion* ヘルプ』は、Adobe のマニュアルセットから Macromedia® ColdFusion® のマニュアルを選んだものです (完全なセットは LiveDocs で入手できます)。これらのヘルプマニュアルは、ColdFusion に関心がある初級開発者と上級開発者の両方を対象としています。
- 『リファレンス』では、HTML、サーバーモデル、およびその他のリファレンスマニュアルにアクセスできます。これらは、コーディングのシンタックスや概念などについての詳しい情報を必要とする人を対象としています。

参考資料

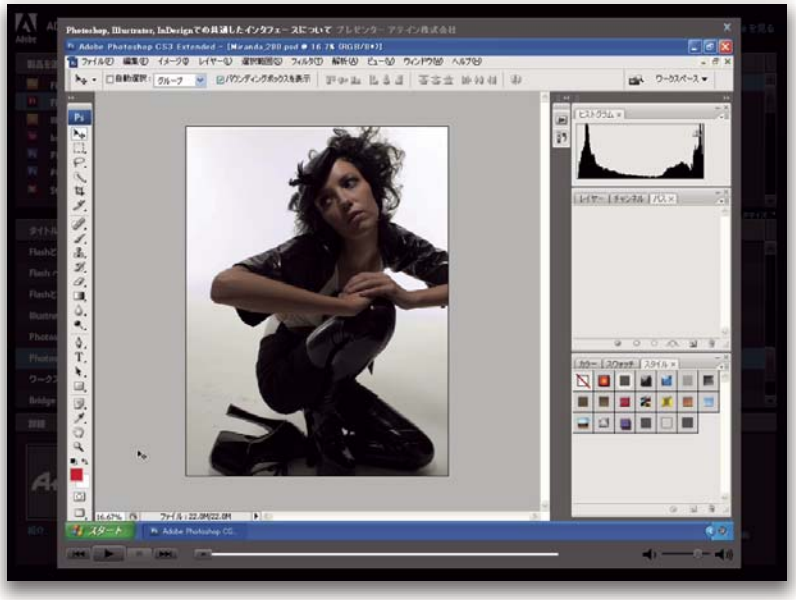
Adobe Video Workshop

Adobe Creative Suite 3 Video Workshop には、出版、Web、およびビデオの専門業者向けの様々なテーマを扱う 200 以上のトレーニングビデオが用意されています。

Adobe Video Workshop を使用すれば、Creative Suite 3 製品について学ぶことができます。多くのビデオでは、複数の Adobe アプリケーションを組み合わせて使用する方法を紹介しています。



Adobe Video Workshop を起動したら、興味のある製品や確認したいテーマを選択します。各ビデオについての詳細を参照すれば、学習内容を絞り込むことができます。



コミュニティからの紹介

Adobe Creative Suite 3 の Video Workshop には、ユーザによる専門知識の紹介や意見が収録されています。アドビの Web ページや lynda.com でも、Joe Lowery、Katrin Eismann、Chris Georgenes などの著名なデザイナーや開発者によるチュートリアル、ヒント、およびテクニックを紹介しています。Video Workshop では、Lynn Grillo、Greg Rewis、Russell Brown などのアドビエキスパートたちの話を聞くことができます。総計 30 名を超える製品専門家がそれぞれの専門知識を紹介しています。

チュートリアルとソースファイル

Adobe Video Workshop には、初心者向けと上級者向けのトレーニングが含まれています。また、新機能や重要なテクニックに関するビデオも用意されています。各ビデオはそれぞれ 1 つのテーマを扱っており、長さは通常 3 ～ 5 分間です。大部分のビデオにはイラスト付きのチュートリアルおよびソースファイルが付属しているため、詳しい手順を印刷してチュートリアルを独自に試してみることができます。

Adobe Video Workshop の使用

Adobe Video Workshop には、Creative Suite 3 製品に付属している DVD からアクセスできます。また、www.adobe.com/go/learn_videotutorials_jp からオンラインでも入手可能です。オンラインの Video Workshop には定期的に新しいビデオが追加されます。Web サイトで最新のビデオをご覧ください。

Dreamweaver CS3 ビデオ

Adobe Video Workshop では、次のような Adobe Dreamweaver® CS3 関連の多彩なテーマを扱っています（言語によっては用意されるテーマが異なる場合があります。以下のテーマすべてが利用できるとは限りません）。

- CSS ベースのレイアウトの使用とカスタマイズ
- Spry Widget の使用
- CSS によるフォームのスタイル設定
- パブリッシング関連の問題のトラブルシューティング
- ロールオーバーの作成

また、Dreamweaver CS3 を他の Adobe ソフトウェアと組み合わせて使用する方法を紹介したビデオもあります。

- Dreamweaver および Photoshop を使用した Web サイトの作成
- Contribute® での Dreamweaver テンプレートの使用
- Web アプリケーション間での読み込みおよびコピー＆ペースト

Adobe Creative Suite 3 のビデオチュートリアルについては、Adobe Video Workshop（www.adobe.com/go/learn_videotutorials_jp）を参照してください。

その他

Adobe ソフトウェアを最大限に活用できるように、様々なリソースにアクセスできます。リソースの一部は、セットアップ時にコンピュータにインストールされます。他にも、便利なサンプルおよびドキュメントがインストールディスクまたはコンテンツディスクに含まれています。また、オンラインの Adobe Exchange コミュニティ（www.adobe.com/go/exchange_jp）でもユニークなリソースが提供されています。

インストールされるリソース

ソフトウェアのインストール時には、多数のリソースがアプリケーションフォルダに保存されます。これらのファイルを表示するには、コンピュータ上の以下のアプリケーションフォルダを開きます。

- Windows®：[起動ディスク]¥Program Files¥Adobe¥[**Adobe** アプリケーション]
- Macintosh®：[起動ディスク]/ アプリケーション /[**Adobe** アプリケーション]

アプリケーションフォルダには次のリソースが含まれることがあります。

プラグイン プラグインモジュールは、ソフトウェアの機能を拡張したりソフトウェアに機能を追加したりする小さなソフトウェアプログラムです。インストールしたプラグインモジュールは、読み込みメニューや書き出しメニューの追加オプションとして表示されます。開く、別名で保存、ファイル形式を指定の各ダイアログボックスにファイル形式として表示されたり、またはフィルタサブメニューにフィルタとして表示されます。例えば、Photoshop CS3 フォルダ内のプラグインフォルダには、多数の特殊効果プラグインが自動的にインストールされます。

プリセット プリセットには、様々な種類の便利なツール、環境設定、効果、および画像が含まれています。製品のプリセットには、ブラシ、スウォッチ、カラーグループ、シンボル、カスタムシェイプ、グラフィックやレイヤーのスタイル、パターン、テクスチャ、アクション、ワークスペースなどがあります。プリセットのコンテンツはユーザインター

フェイス全体に用意されています。一部のプリセット（Photoshop ブラシライブラリなど）は、対応するツールを選択した場合のみ使用可能になります。効果や画像を最初から作成することを希望しない場合は、プリセットライブラリをヒントに発想を広げることができます。

テンプレート テンプレートファイルは、Adobe Bridge CS3 から開いて表示するか、スタートアップスクリーンから開くか、またはファイルメニューから直接開くことができます。テンプレートファイルは、製品により、レターヘッド、ニュースレター、Web サイトから DVD メニューやビデオボタンまで多岐に渡ります。各テンプレートファイルは専門技術を使用して作成されており、製品の機能の有効な活用例を示すものになっています。テンプレートは、プロジェクトを素早く立ち上げるための有益なリソースとなることがあります。

サンプル サンプルファイルにはより複雑なデザインが含まれており、新しい機能の実際の利用例を見ることができます。これらのファイルは、様々な創作の可能性を示すものです。

フォント Creative Suite 製品には、複数の OpenType® フォントやフォントファミリが用意されています。フォントはインストール時に、コンピュータの以下の場所にコピーされます。

- Windows：[起動ディスク]¥Windows¥Fonts
- Macintosh：[起動ディスク]/ ライブラリ /Fonts

フォントのインストールについては、インストール DVD のお読みくださいファイルを参照してください。

DVD コンテンツ

製品に付属のインストール DVD またはコンテンツ DVD には、ソフトウェアで使用できる追加リソースが含まれています。その他フォルダには、テンプレート、画像、プリセット、アクション、プラグイン、効果などの製品固有のファイルに加え、フォントおよびフォトグラフィーの各サブフォルダが含まれています。ドキュメントフォルダには、PDF 版のヘルプや技術情報のほか、サンプルシート、参照ガイド、ある機能に特化した情報などその他のドキュメントが保管されています。

Adobe Exchange

その他の無料コンテンツについては、www.adobe.com/go/exchange_jp のオンラインコミュニティをご覧ください。ここでは、アドビ製品用の多数のアクション、エクステンション、プラグインなどを無料でダウンロードしたり、共有したりすることができます。

Bridge Home

Adobe Bridge CS3 に新しく取り入れられた Bridge Home は、Adobe Creative Suite 3 の全ソフトウェアに関する最新情報を一箇所で提供します。Adobe Bridge を起動したら、お気に入りパネルの上部にある Bridge Home アイコンをクリックして、Creative Suite ツールに関する最新のヒント、ニュース、およびリソースを参照してください。

注意：Bridge Home はすべての言語で利用できるわけではありません。

アドビデザインセンター

アドビデザインセンターでは、業界の専門家、著名なデザイナー、およびアドビのパブリッシングパートナーによる記事、アイデア、手順説明などを紹介しています。新しいコンテンツは毎月追加されます。

デザイン製品に関する多数のチュートリアルを参照して、ビデオ、HTML チュートリアル、およびサンプルのブックの各章からヒントやテクニックを学ぶことができます。

シンクタンク、ダイアログボックス、およびチュートリアルの各項目の中心となっているのは、新しいアイデアです。

- シンクタンクの記事では、現代のデザイナーのテクノロジとの関わり、およびその経験がデザインやデザインツール、社会に対して持つ意味について考察しています。
- ダイアログボックスでは、モーショングラフィックおよびデジタルデザインの専門家たちが新しいアイデアを紹介しています。
- ギャラリーには、アーティストたちがデザインを表現した動画を紹介しています。

アドビデザインセンターは www.adobe.com/jp/designcenter でご覧いただけます。

Adobe デベロッパーセンター

アドビデベロッパーセンターでは、アドビ製品を使用して多彩なインターネットアプリケーション、Web サイト、モバイルコンテンツなどのプロジェクトを作成している開発者に向けた、サンプル、チュートリアル、記事、およびコミュニティリソースを紹介しています。デベロッパーセンターではさらに、アドビ製品のプラグインを開発する開発者向けのリソースもご用意しています。

サンプルコードやチュートリアルに加え、RSS フィード、オンラインセミナー、SDK、スクリプト作成ガイド、その他の技術的リソースも参照できます。

アドビデベロッパーセンターは www.adobe.com/go/developer_jp でご覧いただけます。

サポート

製品に関するトラブルシューティング情報を参照し、有料または無料のテクニカルサポートオプションについて調べるには、www.adobe.com/jp/support のアドビのサポート Web サイトをご覧ください。Adobe Press の書籍や、様々なトレーニングリソース、アドビソフトウェアの認定制度などの情報にアクセスするには、トレーニングのリンクを使用してください。

ダウンロード

無料のアップデート、体験版、その他の便利なソフトウェアは、www.adobe.com/go/downloads_jp でダウンロードできます。さらにアドビストア（www.adobe.com/go/store_jp）では、タスクの自動化、ワークフローのカスタマイズ、専門的な特殊効果の作成などに役立つ、サードパーティの開発者による多数のプラグインにアクセスできます。

Adobe Labs

Adobe Labs では、アドビの新しい技術、テクノロジ、および製品を体験し評価することができます。

Adobe Labs では次のようなリソースにアクセスできます。

- リリース前のソフトウェアおよびテクノロジ
- 学習に役立つコードサンプルとベストプラクティス
- 製品および技術に関するドキュメントの旧バージョン
- 同様の目的を持つ開発者との交流に役立つ、フォーラムや wiki ベースのコンテンツその他の共同リソース

Adobe Labs は共同のソフトウェア開発プロセスを促進させます。この環境を利用することで、お客様は新しい製品やテクノロジに関する生産性を向上させることができます。Adobe Labs は、アドビの開発チームが早期のフィードバックに対応することでソフトウェアを社会のニーズや期待に沿うように設計できるフォーラムでもあります。

Adobe Labs は www.adobe.com/go/labs_jp でご覧いただけます。

ユーザコミュニティ

ユーザコミュニティでは、テクノロジ、ツールおよび情報を共有するためのフォーラム、ブログなどを提供しています。質問をしたり、他のユーザによるソフトウェアの活用方法を見つけたりすることができます。ユーザ間のフォーラムは、英語、フランス語、ドイツ語、日本語で利用できます。ブログは様々な言語で掲載されています。

フォーラムやブログに参加するには、www.adobe.com/jp/communities をご覧ください。

最新情報

Adobe Dreamweaver CS3 の主な新機能

Spry framework for Ajax

Adobe® Dreamweaver® CS3 では、Spry framework for Ajax を使用して、動的ユーザーインターフェイスを視覚的にデザイン、開発、および配置できます。Spry framework for Ajax は、Web デザイナー向けの JavaScript ライブラリで、デザイナーは、ユーザーにさまざまな体験を提供するページを構築できます。他の Ajax フレームワークとは異なり、Spry は 99% が実際の HTML であるため、デザイナーと開発者の両方が同じようにアクセスできます。「427 ページの「Spry 表示ページの作成」」を参照してください。

Spry Widget

Spry Widget は、あらかじめ作成された共通のユーザーインターフェイスコンポーネントで、CSS を使用してカスタマイズして Web ページに追加できます。Dreamweaver では、XML 方式のリストおよびテーブル、アコーディオン、タブ付きのインターフェイス、検証付きのフォームエレメントなど、さまざまな Spry Widget をページに追加できます。427 ページの「Spry Widget の追加」を参照してください。

Spry エフェクト

Spry エフェクトは、Web サイトの外観と印象を向上する簡単で優れた方法です。Spry エフェクトは、HTML ページのほとんどすべてのエレメントに適用できます。Spry エフェクトを追加して、エレメントを拡大、縮小、フェード、および強調したり、特定の期間ページエレメントを視覚的に変更したりできます。461 ページの「Spry エフェクトの追加」を参照してください。

Advanced Photoshop CS3 の統合

Dreamweaver では、Photoshop CS3 と統合が強化されています。デザイナーは、複数のレイヤー全体であっても、デザインの一部を Photoshop で簡単に選択し、Dreamweaver ページに直接貼り付けることができます。Dreamweaver にダイアログボックスが表示され、ここでイメージの最適化オプションを指定できます。イメージを編集する必要がある場合は、イメージをダブルクリックするだけで、階層化された元の PSD ファイルを Photoshop で開いて編集できます。356 ページの「Photoshop による作業」を参照してください。

ブラウザ互換性チェック

Dreamweaver の新しいブラウザ互換性チェック機能により、さまざまなブラウザの CSS に関連したレンダリング問題を識別するレポートが生成されます。コードビューでは、問題には緑色のアンダーラインでフラグが付けられるので、問題の場所が正確にわかります。問題を識別したら、解決策がわかる場合はすばやく修正できます。詳細が必要な場合は、Adobe CSS Advisor にアクセスできます。135 ページの「ブラウザ間の CSS レンダリングの問題の確認」を参照してください。

Adobe CSS Advisor

Adobe CSS Advisor の Web サイトには、最新の CSS 問題に関する情報が記載されており、ブラウザ互換性チェックプロセス時に Dreamweaver ユーザーインターフェイスから直接アクセスできます。CSS Advisor では、フォーラム、Wiki ページ、ディスカッショングループ以外に、ユーザーが既存のコンテンツに関する提案や改善点を付けてコメントしたり、コミュニティ全体に役立つ新しい問題を追加したりできます。135 ページの「ブラウザ間の CSS レンダリングの問題の確認」を参照してください。

CSS レイアウト

Dreamweaver では、事前にデザインされた CSS レイアウトのセットが提供されているため、ユーザーは簡単にページをアップして実行したり、コードのさまざまなインラインコメントを使用して CSS ページのレイアウトを理解したりできます。Web 上のほとんどのサイトデザインは、1 列、2 列、または 3 列のレイアウトに分類でき、それぞれに多数の追加エレメント (ヘッダーやフッターなど) があります。Dreamweaver では、必要に応じてカスタマイズできる基本的なレイアウトデザインの総合的なリストを提供しています。143 ページの「CSS レイアウトを使用したページの作成」を参照してください。

CSS の管理

CSS の管理機能を使用すると、ドキュメント間、ドキュメントの head から外部シートへ、外部 CSS ファイル間などで CSS ルールを簡単に移動できます。また、インライン CSS を CSS ルールに変換し、ドラッグ & ドロップするだけで必要な場所に配置することもできます。132 ページの「CSS ルールの移動」および 133 ページの「インライン CSS の CSS ルールへの変換」を参照してください。

Adobe Device Central

Dreamweaver だけでなく、Creative Suite 3 ソフトウェアのファミリー全体との統合により、Adobe Device Central では、各デバイスの基本的な技術仕様にすばやくアクセスし、HTML ページのテキストおよびイメージを縮小してデバイスに表示される正確なレンダリングを表示できるため、モバイルコンテンツを簡単に作成できます。287 ページの「モバイルデバイスでページをプレビュー」を参照してください。

Adobe Bridge CS3

Adobe Bridge CS3 で Dreamweaver を使用すると、イメージおよびアセットを簡単に一貫して管理できます。Adobe Bridge では、XMP メタデータのタグ付けおよび検索機能を使用して、プロジェクトファイル、アプリケーション、および設定に集中的なアクセスが可能です。Adobe Bridge では、ファイル編成およびファイル共有機能と Adobe Stock Photos へのアクセスによって、効率的かつ独創的なワークフローを使用できるため、プリント、Web、ビデオ、およびモバイルコンテンツをうまく管理できます。365 ページの「Bridge による作業」を参照してください。

第 2 章：ワークスペース

Adobe® Dreamweaver® CS3 ワークスペースには、Web ページの作成に使用するツールバー、インスペクタ、パネルが含まれています。ワークスペースの全般的な外観やビヘイビアはカスタマイズできます。

Dreamweaver ワークフローとワークスペース

Dreamweaver ワークフローの概要

Web サイトの作成方法にはいくつかが考えられますが、ここで紹介するのはその 1 つです。

サイトの計画と設定

ファイルの配置を決定し、サイトの要件、サイトを訪れるユーザーの種類、およびサイトの目的を検討します。さらに、ログイン処理や、ブラウザ、プラグイン、およびダウンロードに関する制限など、技術的な要件についても考慮します。情報を整理し、構造を決定したら、実際にサイトの作成を開始します。37 ページの「Dreamweaver サイトの操作」を参照してください。

サイトに置くファイルの編成と管理

[ファイル] パネルでは、ファイルやフォルダを追加、削除、および名前変更することで、必要に応じてその編成を変更できます。また、[ファイル] パネルにはさまざまなツールが用意されています。これらのツールを使用して、サイトの管理、リモートサーバーとの間でのファイルの転送、ファイルの上書きを防止するチェックインおよびチェックアウト処理の設定、ローカルサイトとリモートサイトのファイルの同期などを行います。[アセット] パネルを使用すると、サイトにあるアセットの整理編成が容易になります。ほとんどのアセットは、[アセット] パネルから直接、Dreamweaver ドキュメントにドラッグできます。Dreamweaver を使用して Adobe®Contribute® サイトを管理することもできます。74 ページの「ファイルとフォルダの管理」および 104 ページの「アセットとライブラリの管理」を参照してください。

Web ページのレイアウト

実用に適したレイアウト方法を選択するか、または Dreamweaver レイアウトオプションを組み合わせて使用して、サイトの外観を作成します。レイアウトの作成では、Dreamweaver の AP エレメント、CSS の配置スタイル、または定義済みの CSS レイアウトを使用できます。テーブルツールを使用すると、ページの構造を描画して再編成することで、効率的にページをデザインできます。複数のエレメントをブラウザで一度に表示する場合は、フレームを使用してドキュメントをレイアウトします。最後に紹介するのは、Dreamweaver テンプレートを基に新しいページを作成する方法です。テンプレートを変更すると、これらのページは自動的に更新されます。116 ページの「CSS を使用したページの作成」および 166 ページの「HTML を使用したページレイアウト」を参照してください。

ページへのコンテンツの追加

アセットとデザインエレメントを追加します。これには、テキスト、イメージ、ロールオーバーイメージ、イメージマップ、色、ムービー、サウンド、HTML リンク、ジャンプメニューなどがあります。タイトルや背景などのエレメントについては組み込みのページ作成機能を使用できます。また、ページへの直接入力や、他のドキュメントにあるコンテンツの読み込みも可能です。Dreamweaver には、特定のイベントに対する応答としてタスクを実行するビヘイビアも用意されています。たとえば、サイトのビジターが [送信] ボタンをクリックしたときにフォームを検証するビヘイビアや、メインページのロードが完了したときに新たにブラウザを開くビヘイビアなどがあります。Dreamweaver に用意されている他のツールとしては、Web サイトのパフォーマンスを最大限に引き出すツールと、さまざまな Web ブラウザで正常にページを表示できるかどうかをテストするツールがあります。205 ページの「ページへのコンテンツの追加」を参照してください。

ハンドコーディングによるページの作成

Web ページのコードを手作業で記述してページを作成することもできます。Dreamweaver には、使いやすいグラフィカルな各種編集ツールが付属するほか、高度なコーディング環境も用意されています。いずれかの方法、または両方を使用してページの作成と編集が可能です。288 ページの「ページコードを使用した操作」を参照してください。

動的コンテンツ用 Web アプリケーションの設定

多くの Web サイトでは、データベースに保存されている情報をビジターが参照できるようなダイナミックページが使用されています。また、一部のビジターには、参照だけでなく、データベースへの新しい情報の追加やデータベースにある情報の編集を認めることが普通です。このようなページを作成するには、まず Web サーバーとアプリケーションサーバーを設定し、Dreamweaver サイトを作成または修正した後、データベースに接続する必要があります。465 ページの「動的サイトを構築するための準備」を参照してください。

ダイナミックページの作成

Dreamweaver では、動的コンテンツのソースとして、データベースから抽出されたレコードセット、フォームパラメータ、JavaBeans コンポーネントなど、さまざまなものを定義できます。ページに動的コンテンツを追加するには、そのコンテンツをページ上にドラッグします。

ページに 1 レコードずつ表示することも、複数レコードを一度に表示することもできます。複数のページでレコードを表示するように設定することもできます。あるページから次の (または前の) ページに移動するための特殊なリンクや、表示されているレコードを識別するためのレコードカウンタを追加することもできます。[ぺーじに 1 れこーどずつひょうじすることも、ふくすうれこーどをいちどにひょうじすることもできます。ふくすうのぺーじでれこーどをひょうじするようにせっていすることもできます。あるぺーじからつぎの (またはまえの) ぺーじにいどうするためのとくしゅなりんくや、ひょうじされているれこーどをしきべつするためのれこーどかうんたをついかすることもできます。]Adobe® ColdFusion® や Web サービスなどのテクノロジーを使用して、アプリケーションやビジネスロジックをカプセル化できます。高度な柔軟性が必要な場合は、カスタムサーバービヘイビアおよびインタラクティブなフォームを作成することもできます。510 ページの「動的ページの作成」を参照してください。

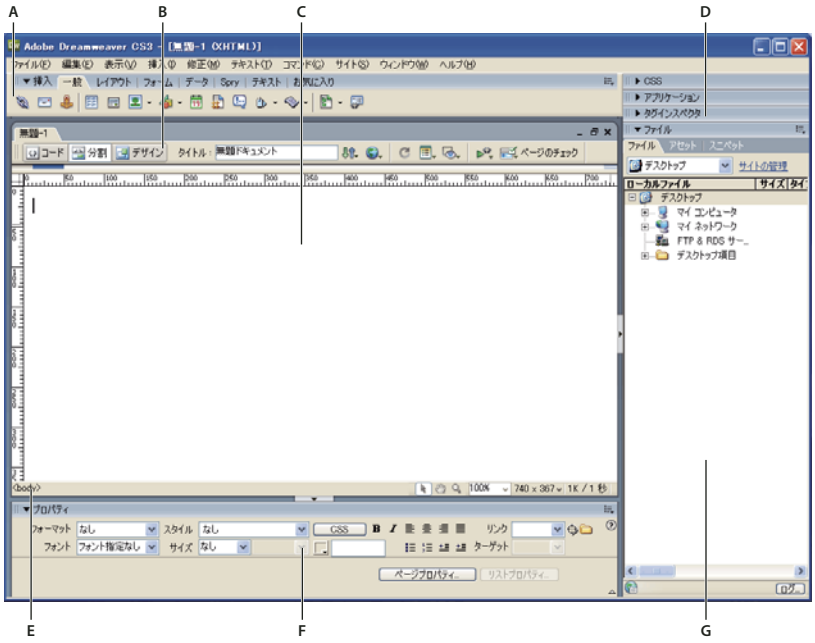
テストおよびパブリッシュ

ページのテストは、ページ開発のあらゆる段階で実施されるプロセスです。最後に、サーバー上でサイトを公開します。また、サイトが常に最新の状態で正しく機能するように、デベロッパーは定期的なメンテナンスを行います。83 ページの「サーバーからのファイルの取得とサーバーへのファイルの送信」を参照してください。

ワークスペース レイアウトの概要

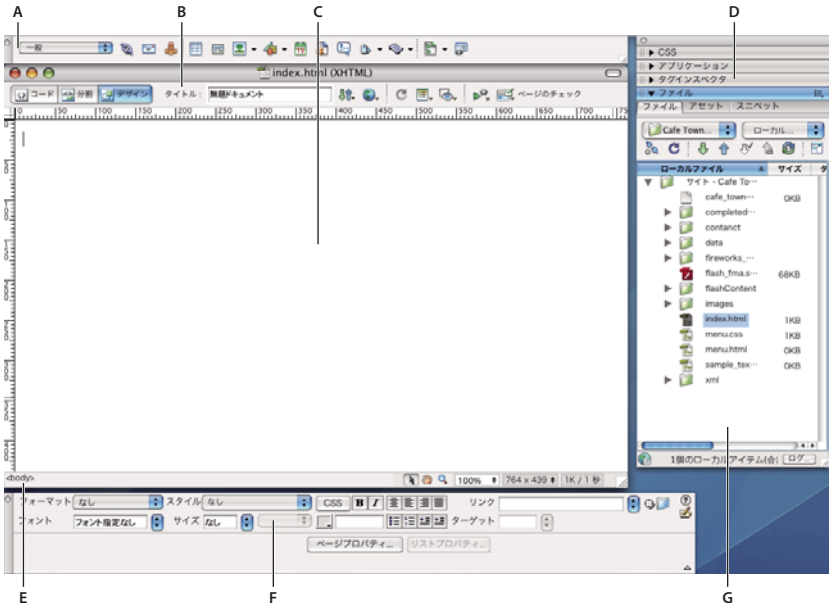
Dreamweaver のワークスペースには、ドキュメントと、オブジェクトのプロパティが表示されます。ワークスペースにはツールバーがあり、最も一般的な操作の多くを実行するためのボタンが配置されているため、ドキュメントを変更する作業をすばやく実行できます。

Windows® 上の Dreamweaver には、オールインワン型ウィンドウの統合レイアウトが用意されています。統合ワークスペースでは、すべてのウィンドウとパネルが単一の大きなアプリケーションウィンドウに統合されています。



A. 挿入バー **B.** ドキュメントツールバー **C.** ドキュメントウィンドウ **D.** パネルグループ **E.** タグセレクタ **F.** プロパティインスペクタ **G.** ファイルパネル

Mac OS® では、単一のウィンドウ内に複数のドキュメントを表示でき、各ドキュメントを示すタブが表示されます。また、フローティングワークスペースで、ドキュメントをそれぞれ別のウィンドウに表示することもできます。パネルグループは最初はドッキングされていますが、ドッキングを解除して個々のウィンドウ内に配置できます。各ウィンドウを画面の端やドキュメントウィンドウにドラッグすると、自動的に吸着またはサイズ変更できます。



A. 挿入バー **B.** ドキュメントツールバー **C.** ドキュメントウィンドウ **D.** パネルグループ **E.** タグセレクタ **F.** プロパティインスペクタ **G.** ファイルパネル

Dreamweaver ワークスペースの設定のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0143_jp を参照してください。

関連項目

26 ページの「ツールバー、インスペクタ、コンテキストメニュー、およびパネルの使用」

32 ページの「ワークスペースのレイアウトの選択 (Windows)」

32 ページの「ワークスペースのレイアウトの選択 (Macintosh)」

32 ページの「タブ付きドキュメントの表示 (Macintosh)」

ワークスペース 要素の概要

ワークスペースには、次のエレメントがあります。

注意：Dreamweaver には、他にも多くのパネル、インスペクタ、およびウィンドウがあります。ウィンドウ、インスペクタ、およびパネルを開くには、[ウィンドウ] メニューを使用します。開いているとマークされているパネル、インスペクタ、またはウィンドウを見つけられない場合には、[ウィンドウ]-[パネルの整列] を選択します。開いているすべてのパネルが整理されてレイアウトされます。

[ようこそ] 画面 最近使用したドキュメントを開いたり、新規ドキュメントを作成することができます。[ようこそ] 画面からクイックツアーやチュートリアルを参照することによって、Dreamweaver についてさらに詳しく学ぶこともできます。

[挿入] バー イメージ、テーブル、および AP エレメントなどのさまざまなオブジェクトをドキュメントに挿入するためのボタンがあります。各オブジェクトは 1 つの HTML コードで、挿入時にさまざまな属性を設定できます。たとえば、[挿入] バーの [テーブル] ボタンをクリックすると、テーブルを挿入できます。[挿入] バーの代わりに [挿入] メニューを使用してオブジェクトを挿入することもできます。

ドキュメントツールバー ドキュメントウィンドウのビュー (デザインビュー、コードビューなど) や表示オプションの選択、および一般的な操作 (ブラウザでのプレビューなど) を行うためのボタンがあります。

標準ツールバー (初期設定のワークスペースレイアウトでは非表示) [ファイル] メニューと [編集] メニューの中でよく使用される操作のためのボタンがあります。具体的には、[新規作成]、[開く]、[保存]、[すべて保存]、[カット]、[コピー]、[ペースト]、[取り消し]、および [やり直し] のボタンです。標準ツールバーを表示するには、[表示]-[ツールバー]-[標準] を選択します。

コーディングツールバー (コードビューでのみ表示) コードに関する標準的な操作の多くを実行できるボタンがあります。

スタイルレンダリングツールバー (初期設定では非表示) メディア依存のスタイルシートを使用した場合に別のメディアタイプでのデザインの外観を表示できるボタンが含まれています。カスケーディングスタイルシート (CSS) スタイルの有効 / 無効を切り替えるボタンもあります。

ドキュメントウィンドウ 現在作成または編集しているドキュメントが表示されます。

プロパティインスペクタ 選択したオブジェクトまたはテキストのプロパティを確認し、変更することができます。オブジェクトは、種類によってプロパティが異なります。初期設定では、コードワークスペースレイアウトにプロパティインスペクタは展開されません。

タグセレクタ ドキュメントウィンドウの下部のステータスバーにあります。現在の選択範囲を囲むタグの階層が表示されます。階層内の任意のタグをクリックして、そのタグを含むタグの内容をすべて選択します。

パネルグループ 関連するパネルが 1 つの見出しのもとにグループ化されています。パネルグループを展開するには、グループ名の左にある縮小の三角形をクリックします。パネルグループのドッキングを解除するには、グループのタイトルバーの左隅にあるグリッパーをドラッグします。

[ファイル] パネル Dreamweaver サイトとリモートサーバーの両方のファイルとフォルダを管理できます。また、[ファイル] パネルからは、Windows エクスプローラ (Windows) や Finder (Macintosh) と同様に、ローカルディスクにあるすべてのファイルへのアクセスが可能です。

関連項目

23 ページの「ドキュメントウィンドウでの作業」

26 ページの「ツールバー、インスペクタ、コンテキストメニュー、およびパネルの使用」

29 ページの「パネルグループについて」

ドキュメントウィンドウの概要

ドキュメントウィンドウに現在のドキュメントが表示されます。以下のいずれかから、ビューを選択します。

デザインビュー ページのレイアウトおよび編集を視覚的に行うことができる、迅速にアプリケーション開発を行うためのデザイン環境です。このビューでは、Dreamweaver 編集可能なドキュメントが、ブラウザでページを表示したときのように視覚的に表示されます。デザインビューでは、動的コンテンツがドキュメントの編集中にも表示されるように設定することができます。

コードビュー HTML、JavaScript、サーバー言語コード (PHP または CFML (ColdFusion Markup Language) など)、およびその他の種類のコードを作成および編集するためのハンドコーディング環境です。

コードビューとデザインビュー 同じドキュメントのコードビューとデザインビューの両方が単一のウィンドウ内に表示されます。

ドキュメントウィンドウにタイトルバーがある場合、タイトルバーには、ページのタイトルと、カッコで囲んだファイルのパスおよびファイル名が表示されます。変更がまだ保存されていない場合は、ファイル名の後に Dreamweaver アスタリスクが表示されます。

ドキュメントウィンドウが統合ワークスペースレイアウト内で最大化された状態では (Windows のみ)、タイトルバーは表示されません。その場合、メインワークスペースウィンドウのタイトルバーに、ページのタイトルとファイルのパスおよびファイル名が表示されます。

ドキュメントウィンドウを最大化すると、ドキュメントウィンドウの上部にタブが表示され、開いているすべてのドキュメントのファイル名が示されます。ドキュメントを切り替えるには、そのタブをクリックします。

関連項目

23 ページの「ドキュメントウィンドウでの作業」

288 ページの「Dreamweaver でのコーディングについて」

549 ページの「デザインビューでのライブデータの表示」

ドキュメントツールバーの概要

ドキュメントツールバーのボタンは、ドキュメントのさまざまなビューを素早く切り替えるのに便利です。具体的には、コードビュー、デザインビュー、コードビューとデザインビューの両方が表示される分割ビューの 3 種類です。

ツールバーには、ドキュメントの表示や、ローカルサイトとリモートサイトの間でのドキュメントの転送に関連する、共通のコマンドおよびオプションも表示されます。

A. コードビューの表示 **B.** コードビューおよびデザインビューの表示 **C.** デザインビューの表示 **D.** タイトル **E.** ファイル管理 **F.** ブラウザでのプレビュー / デバッグ **G.** デザインビューの更新 **H.** 表示オプション **I.** ビジュアルエイド **J.** マークアップの検証 **K.** ブラウザの互換性をチェック

ドキュメントツールバーには、以下のオプションが表示されます。

コードビューの表示 ドキュメントウィンドウにコードビューのみを表示します。

コードビューおよびデザインビューの表示 コードビューとデザインビュー間でドキュメントウィンドウを分割します。このような組み合わせのビューを選択すると、[表示オプション] メニューのオプション [デザインビューを上に表示] が使用できるようになります。

デザインビューの表示 ドキュメントウィンドウにデザインビューのみを表示します。

注意：XML、JavaScript、CSS またはその他のコードベースのファイルタイプで作業している場合、デザインビューでファイルを表示することはできず、[デザイン] ボタンと [分割] ボタンは淡色表示になります。

タイトル ブラウザのタイトルバーに表示するドキュメントのタイトルを入力します。ドキュメントに既にタイトルがある場合は、このフィールドに表示されます。

ファイル管理 [ファイル管理] ポップアップメニューを表示します。

ブラウザでのプレビュー / デバッグ ドキュメントをブラウザでプレビューまたはデバッグできます。ポップアップメニューからブラウザを選択します。

デザインビューの更新 コードビューでの変更をドキュメントのデザインビューに反映します。コードビューでの変更は、ファイルの保存や、このボタンをクリックするなどの操作を実行しない限り、デザインビューに自動的に表示されることはありません。

注意：更新すると、コードブロックの開始タグや終了タグを選択するなど、DOM (ドキュメントオブジェクトモデル) に依存するコード機能も更新されます。

表示オプション どのビューを他のビューの上に表示するかなど、コードビューおよびデザインビューのオプションを設定できます。現在表示されているビュー、つまりデザインビューまたはコードビュー、または両方のビューについてのオプションがメニューに表示されます。

ビジュアルエイド ページを視覚的にデザインするためのさまざまなビジュアルエイドを選択できます。

マークアップの検証 現在のドキュメントまたは選択したタグを検証できます。

ブラウザの互換性をチェック 異なるブラウザ間で CSS に互換性があるかどうかを確認できます。

関連項目

26 ページの「ツールバーの表示」

294 ページの「コーディング環境のカスタマイズ」

321 ページの「ヘッドコンテンツの表示と編集」

166 ページの「レイアウト用ビジュアルエイドの使用」

標準ツールバーの概要

標準ツールバーには、[ファイル] メニューと [編集] メニューの中でよく使用される操作のためのボタンがあります。具体的には、[新規作成]、[開く]、[保存]、[すべて保存]、[カット]、[コピー]、[ペースト]、[取り消し]、および [やり直し] のボタンです。これらのボタンは、対応するメニューコマンドを使用する場合とまったく同様に使用できます。

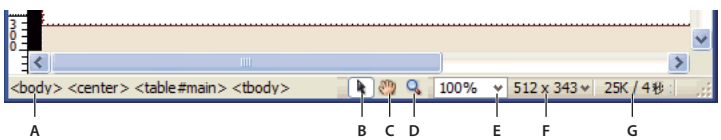
関連項目

26 ページの「ツールバーの表示」

65 ページの「ドキュメントを作成して開く」

ステータスバーの概要

ドキュメントウィンドウの下部にあるステータスバーには、作成中のドキュメントに関する追加の情報が表示されます。



A. タグセレクタ **B.** 選択ツール **C.** 手のひらツール **D.** ズームツール **E.** 表示比率を設定 **F.** [ウィンドウサイズ] ポップアップメニュー **G.** ドキュメントサイズとおおよそのダウンロード時間

タグセレクタ 現在の選択範囲を囲むタグの階層が表示されます。階層内の任意のタグをクリックして、そのタグを含むタグの内容をすべて選択します。ドキュメントのボディ全体を選択するには、<body> をクリックします。タグセレクタでタ

グの class または id 属性を設定するには、タグを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [クラス設定] または [ID 設定] を選択します。

選択ツール 手のひらツールの有効と無効を切り替えます。

手のひらツール ドキュメントをクリックしてドキュメントウィンドウにドラッグすることができます。

ズームツールと [表示比率を設定] ポップアップメニュー ドキュメントの倍率レベルを設定できます。

[ウィンドウサイズ] ポップアップメニュー (デザインビューでのみ表示) ドキュメントウィンドウをあらかじめ設定されている、またはカスタムサイズに変更できます。

ドキュメントサイズとダウンロード時間 イメージや他のメディアファイルなどのすべての依存ファイルを含む、ページのおおよそのドキュメントサイズと推定ダウンロード時間を表示します。

関連項目

25 ページの「ウィンドウサイズと接続速度の設定」

214 ページの「ズームインとズームアウト」

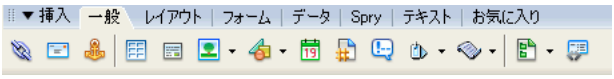
24 ページの「ドキュメントウィンドウのサイズ変更」

215 ページの「ダウンロード時間とサイズの設定」

[挿入] バーの概要

[挿入] バーには、テーブル、AP エレメント、およびイメージなどのオブジェクトを作成し、挿入するためのボタンがあります。ポインタをボタンの上に置くと、ボタンの名前とツールヒントが表示されます。

ボタンはいくつかのカテゴリに分けられており、カテゴリは [挿入] バーの上にあるタブをクリックして切り替えることができます。ASP や CFML のドキュメントなど、現在のドキュメントにサーバーコードが含まれている場合は、さらに別のカテゴリが表示されます。Dreamweaver を起動すると、前回使用していたカテゴリが開きます。



カテゴリによっては、ボタンを押すとポップアップメニューが表示されるものがあります。ポップアップメニューからオプションを選択すると、そのオプションがボタンのデフォルトのアクションになります。たとえば、[イメージ] ボタンのポップアップメニューから [イメージプレースホルダー] を選択した場合は、次に [イメージ] ボタンをクリックしたときに Dreamweaver でイメージプレースホルダーが挿入されます。ポップアップメニューから新しいオプションを選択すると、そのボタンのデフォルトのアクションは変更されます。

[挿入] バーは次のカテゴリに分かれています。

[一般] カテゴリ イメージやテーブルなど、頻繁に使用されるオブジェクトを作成および挿入できます。

[レイアウト] カテゴリ テーブル、div タグ、フレーム、Spry Widget を挿入できます。また、標準 (初期設定) と拡張テーブルの 2 つのビューから選択することもできます。

[フォーム] カテゴリ Spry 検査 widget など、フォームの作成およびフォームエレメントの挿入に使用するボタンがあります。

[データ] カテゴリ レコードセット、リピート領域、レコード挿入などのその他の動的エレメントや Spry データオブジェクトを挿入し、フォームを更新できます。

[Spry] カテゴリ Spry データオブジェクトや widget など、Spry ページを作成するためのボタンがあります。

[テキスト] カテゴリ テキストやリストのフォーマットを行うための、b、em、p、h1、ul などのタグを挿入できます。

[お気に入り] カテゴリ 最も頻繁に使用する [挿入] バーのボタンをグループ化して整理することができます。

サーバーコードのカテゴリ 特定のサーバー言語を使用するページでのみ使用できます。具体的なサーバー言語には、ASP、ASP.NET、CFML Basic、CFML Flow、CFML Advanced、JSP、および PHP があります。これらのカテゴリには、それぞれコードビューで挿入できるサーバーコードオブジェクトがあります。

関連項目

26 ページの「[挿入] バーの使用」

427 ページの「Spry 表示ページの作成」

コーディングツールバーの概要

コーディングツールバーには、コード選択範囲の展開と折りたたみ、無効なコードのハイライト表示、コメントの適用と削除、コードのインデント、最近使用したコードスニペットの挿入など、コードに関する標準的な操作の多くを実行できるボタンがあります。コーディングツールバーはコードビューのみで表示され、ドキュメントウィンドウの左側に縦に表示されます。

コーディングツールバーをドッキング解除または移動することはできませんが、非表示にすることはできます。

コーディングツールバーを編集してさらに多くのボタン ([ワードラップ]、[非表示の文字]、[自動インデント] など) を表示したり、使用しないボタンを非表示にすることができます。ただし、そのためには、ツールバーを生成する XML ファイルを編集する必要があります。詳細については、『**Dreamweaver MX** 拡張ガイド』を参照してください。

関連項目

26 ページの「ツールバーの表示」

302 ページの「コーディングツールバーでのコードの挿入」

スタイルレンダリングツールバーの概要

スタイルレンダリングツールバー (初期設定では非表示) には、メディア依存のスタイルシートを使用した場合に別のメディアタイプでのデザインの外観を表示できるボタンが含まれています。また、CSS スタイルの有効 / 無効を切り替えるボタンもあります。スタイルレンダリングツールバーを表示するには、[表示]-[ツールバー]-[スタイルレンダリング] を選択します。

このツールバーは、ドキュメントでメディア依存のスタイルシートを使用している場合のみ機能します。たとえば、スタイルシートでは、ある本文ルールを印刷メディア用に指定し、別の本文ルールをハンドヘルドデバイス用に指定できます。メディア依存のスタイルシートの作成の詳細については、World Wide Web Consortium の Web サイト (www.w3.org/TR/CSS21/media.html) を参照してください。

初期設定では、screen メディアタイプのデザインが表示され、コンピュータ画面でのページの外観を確認できます。スタイルレンダリングツールバーの各ボタンをクリックすると、次のメディアタイプでの外観を表示できます。

スクリーンメディアタイプをレンダリングする コンピュータ画面でのページの表示方法を表示します。

プリントメディアタイプをレンダリングする 紙に印刷したときのページの表示方法を表示します。

ハンドヘルドメディアタイプをレンダリングする 携帯電話や BlackBerry デバイスなどのハンドヘルドデバイスでのページの外観を表示します。

プロジェクションメディアタイプをレンダリングする 投影デバイスでのページの表示方法を表示します。

TTY メディアタイプをレンダリングする テレタイプマシンでのページの表示方法を表示します。

TV メディアタイプをレンダリングする テレビ画面でのページの表示方法を表示します。

CSS スタイルの表示と非表示を切り替える CSS スタイルの有効と無効を切り替えます。このボタンは、他のメディアタイプのボタンとは無関係に動作します。

印刷デバイスとハンドヘルドデバイスでのスタイルシートの設計に関するチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0156_jp を参照してください。

関連項目

26 ページの「ツールバーの表示」

プロパティインスペクタの概要

プロパティインスペクタでは、テキストや挿入されたオブジェクトなど、現在選択されているページエレメントの一般的なプロパティを確認および編集できます。プロパティインスペクタの内容は、選択したエレメントによって異なります。たとえば、ページ上のイメージを選択すると、プロパティインスペクタにはそのイメージのプロパティ (イメージへのファイルパス、イメージの幅と高さ、イメージを囲むボーダーなど) が表示されます。

初期設定では、プロパティインスペクタはワークスペースの下端に表示されますが、ワークスペースの上端にドッキングしたり、ワークスペースでフローティングパネルにしたりすることもできます。

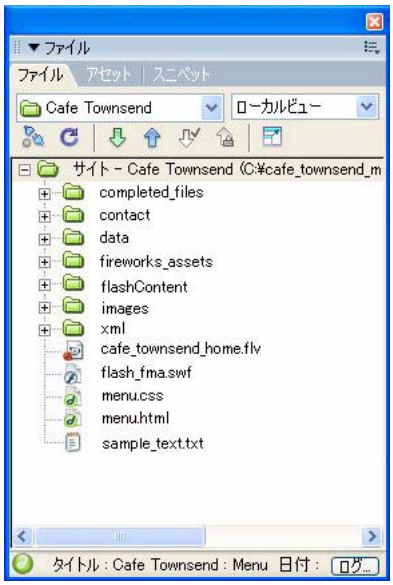
関連項目

30 ページの「パネルとパネルグループのドッキングおよびドッキング解除」

28 ページの「プロパティインスペクタの使用」

ファイルパネルの概要

[ファイル] パネルでは、作成している Dreamweaver サイトのファイルの表示と管理を行います。



[ファイル] パネルでサイト、ファイル、またはフォルダを表示するときに、表示領域のサイズを変更できます。また、[ファイル] パネルを展開または縮小することもできます。[ファイル] パネルの表示を縮小すると、ローカルサイト、リモートサイト、またはテストサーバーの内容がファイルの一覧の形で表示されます。表示を展開すると、ローカルサイト、およびリモートサイトまたはテストサーバーのいずれかが表示されます。[ファイル] パネルには、ローカルサイトのビジュアルサイトマップを表示することもできます。

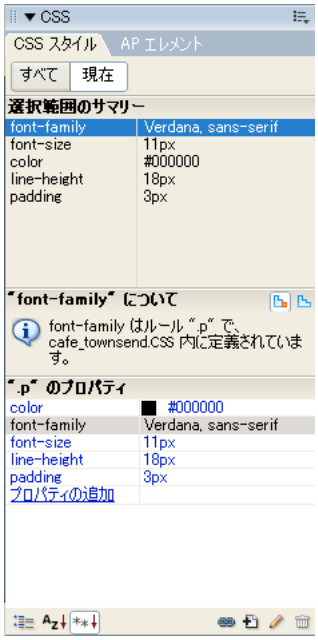
Dreamweaver サイトの場合、[ファイル] パネルは、初期設定で縮小パネルに表示されるローカルサイトまたはリモートサイトのビューを変更してカスタマイズします。

関連項目

77 ページの「[ファイル] パネルでのファイルの操作」

CSS スタイルパネルの概要

[CSS スタイル] パネルでは、現在選択されているページエレメントに影響する CSS ルールとプロパティのトラッキング ([現在] モード) や、ドキュメント全体に影響するルールとプロパティのトラッキング ([すべて] モード) が可能です。[CSS スタイル] パネルの最上部にある切り替えボタンを使用して、2 つのモードを切り替えます。また、[すべて] と [現在] のどちらのモードも、[CSS スタイル] パネルで CSS プロパティを修正することが可能です。



ペインのサイズを変更するには、ペイン間のボーダーをドラッグします。

[現在] モードでは、[CSS スタイル] パネルは、パネルドキュメントの現在の選択範囲の CSS プロパティを表示する [選択範囲のサマリー] ペイン、選択したプロパティ (選択範囲によっては、選択したタグのルールのカスケード) の場所を示す [ルール] ペイン、および選択範囲に定義されるルールの CSS プロパティを編集できる [プロパティ] ペインの 3 つのペインを表示します。

[すべて] モードでは、[CSS スタイル] パネルには [すべてのルール] ペイン (上部) と [プロパティ] ペイン (下部) の 2 つのペインが表示されます。[すべてのルール] ペインには、現在のドキュメントで定義されているルールのリストと、現在のドキュメントに添付されたスタイルシートに定義されているすべてのルールが表示されます。[プロパティ] ペインを使用すると、[すべてのルール] ペインで選択されたルールの CSS プロパティを編集できます。

[プロパティ] ペインで行う変更はすべてすぐに適用されるので、作業を進めながらプレビューすることができます。

関連項目

120 ページの「CSS の作成と管理」

ビジュアルガイドの概要

Dreamweaver は、ドキュメントをデザインするために、またドキュメントがブラウザでどのように表示されるか予測するために使用可能な、数種類のビジュアルガイドを備えています。次の操作が可能です。

- ドキュメントウィンドウを必要なウィンドウサイズに素早く吸着させ、エレメントがページにどのように収まるか確認します
- トレーシングイメージをページの背景として使用すると、Adobe® Photoshop® や Adobe® Fireworks® などのイラストレーションまたはイメージの編集アプリケーションで作成されたデザインを複製する際に役立ちます
- ルーラとガイドを使用すると、ページエレメントの正確な配置とサイズ変更のための視覚的な手がかりが表示されます
- グリッドを使用して、絶対位置のエレメント (AP エレメント) の配置とサイズ変更を正確に行います。

ページ上にグリッドが表示されていると、AP エレメントを整列しやすくなります。また、吸着が有効の場合に AP エレメントを移動またはサイズ変更すると、AP エレメントが最も近いグリッドポイントに自動的に吸着します。(イメージや段落など、その他のオブジェクトはグリッドに吸着しません。) 吸着は、グリッドが表示されているかどうかにかかわらず機能します。

関連項目

166 ページの「レイアウト用ビジュアルエイドの使用」

GoLive ユーザー

従来から GoLive を使用してきて Dreamweaver での作業に切り替えることを計画しているユーザー向けに、Dreamweaver のワークスペースとワークフローをオンラインで紹介しています。そこでは、サイトを Dreamweaver に移行する方法についても解説しています。詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_golive_jp を参照してください。

ドキュメントウィンドウでの作業

ドキュメントウィンドウでのビューの切り替え

ドキュメントウィンドウのドキュメントは、コードビュー、デザインビュー、またはコードビューとデザインビューの両方を表示する分割ビューで表示できます。

関連項目

16 ページの「ドキュメントウィンドウの概要」

コードビューへの切り替え

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [表示]-[コード] を選択します。
- ドキュメントツールバーで、[コードビューの表示] ボタン をクリックします。

デザインビューへの切り替え

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [表示]-[デザイン] を選択します。
- ドキュメントツールバーで、[デザインビューの表示] ボタン をクリックします。

コードビューおよびデザインビューの表示

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [表示]-[コードとデザイン] を選択します。
- ドキュメントツールバーで、[コードビューおよびデザインビューの表示] ボタン をクリックします。

コードビューとデザインビューの切り替え

❖ Ctrl + バッククォートキー (`) を押します。

ドキュメントウィンドウに両方のビューが表示されている場合は、このキーボードショートカットを使用すると、キーボードのフォーカスがビュー間で移動します。

ドキュメントウィンドウを並べて表示、または重ねて表示

一度にたくさんのドキュメントを開いている場合は、ドキュメントを重ねて表示、または並べて表示できます。

関連項目

32 ページの「ワークスペースのレイアウトの選択 (Windows)」

32 ページの「タブ付きドキュメントの表示 (Macintosh)」

33 ページの「カスタムワークスペースレイアウトの保存」

ドキュメントウィンドウを重ねて表示

❖ [ウィンドウ]-[重ねて表示] を選択します。

ドキュメントウィンドウを並べて表示

- (Windows) [ウィンドウ]-[上下に並べて表示] または [ウィンドウ]-[左右に並べて表示] を選択します。
- (Macintosh) [ウィンドウ]-[並べて表示] を選択します。

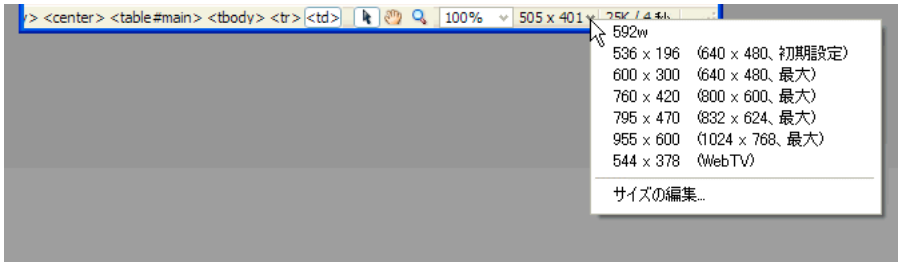
ドキュメントウィンドウのサイズ変更

ステータスバーには、ドキュメントウィンドウの現在のサイズがピクセル単位で表示されます。特定のサイズで最適に表示されるページをデザインするには、ドキュメントウィンドウをあらかじめ設定されているサイズに合わせます。あらかじめ設定されているサイズを編集したり、サイズを作成することもできます。

あらかじめ設定されているサイズへのドキュメントウィンドウの調整

❖ ドキュメントウィンドウの下部にある [ウィンドウサイズ] ポップアップメニューからサイズを選択します。

注意：(Windows のみ) ドキュメントウィンドウを最大化すると、統合ウィンドウのドキュメント領域全体をドキュメントウィンドウが占有します。ドキュメントウィンドウが最大化されているときは、サイズを変更することはできません。



表示されているウィンドウサイズは、枠線を含まないブラウザウィンドウの内側のサイズを示します。カッコ内にモニタサイズが示されます。たとえば、ビジターの多くが 640 x 480 ピクセルのモニタで、Microsoft Internet Explorer または Netscape Navigator を初期設定で使用していると予想される場合は、"536 x 196 (640 x 480、初期設定)" というサイズを使用します。

大まかにサイズを変更する場合は、ウィンドウの右下隅をドラッグするなど、オペレーティングシステムの標準の方法でウィンドウのサイズを変更します。

[ウィンドウサイズ] ポップアップメニューに表示されている数値の変更

1 [ウィンドウサイズ] ポップアップメニューの [サイズの編集] を選択します。

2 [ウィンドウサイズ] リストの幅または高さの値をクリックし、新しい値を入力します。

ドキュメントウィンドウの高さは変えずに、幅のみを特定の値に調整するには、高さを選択して削除します。

3 [詳細] ボックスをクリックし、サイズに関する説明を入力します。

[ウィンドウサイズ] ポップアップメニューへの新しいサイズの追加

1 [ウィンドウサイズ] ポップアップメニューの [サイズの編集] を選択します。

2 [幅] 列の最終値の下の空白をクリックします。

3 [幅] と [高さ] の値を入力します。

[幅] または [高さ] のいずれか一方を設定するには、一方のフィールドを空白にしておきます。

4 [詳細] フィールドをクリックし、追加したサイズに関する説明を入力します。

たとえば、「**SVGA**」または「**通常の PC**」という説明を 800 X 600 ピクセルモニタのエントリの隣に入力し、「**17 インチ Mac**」という説明を 832 x 624 ピクセルモニタのエントリの隣に入力します。ほとんどのモニタは、ピクセル単位で調整することができます。

ウィンドウサイズと接続速度の設定

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [ステータスバー] を選択します。

3 次のいずれかのオプションを設定します。

ウィンドウサイズ ステータスバーのポップアップメニューに表示されるウィンドウサイズをカスタマイズできます。

接続速度 ダウンロードサイズの計算に使用する接続速度 (KB/ 秒) を決定します。ページのダウンロードサイズは、ステータスバーに表示されます。ドキュメントウィンドウでイメージを選択すると、そのイメージのダウンロードサイズがプロパティインスペクタに表示されます。

関連項目

17 ページの「ステータスバーの概要」

24 ページの「ドキュメントウィンドウのサイズ変更」

Dreamweaver のレポート

Dreamweaver のレポートを実行して、コンテンツの検索、トラブルシューティング、またはコンテンツのテストを実行できます。次のタイプのレポートを作成できます。

[検索] タグ、属性、およびタグ内の特定のテキストを検索できます。

バリデータ コードまたはシンタックスのエラーをチェックできます。

ターゲットブラウザチェック ドキュメント内の HTML をテストして、ターゲットブラウザでサポートされていないタグや属性が使用されているかどうかをチェックします。

リンクチェック 破損リンク、外部リンク、および孤立リンクを検出して修正します。

サイトレポート サイトのワークフローの効率化と HTML 属性のテストを行います。ワークフローレポートには、チェックアウトユーザー、最近変更されたファイル、およびデザインノートのレポートがあり、HTML レポートには、結合可能なネストフォントタグ、アクセシビリティ、代替テキストなし、重複してネストされたタグ、削除可能な空のタグ、および無題ドキュメントのレポートがあります。

FTP ログ すべての FTP ファイル転送動作を表示します。

サーバーデバッグ Adobe® ColdFusion® アプリケーションのデバッグに関する情報を表示します。

関連項目

306 ページの「コード内のタグ、属性、またはテキストの検索」

100 ページの「サイトのテスト」

313 ページの「タグの検証」

313 ページの「ブラウザの互換性のチェック」

282 ページの「破損リンク、外部リンク、および孤立リンクの検索」

85 ページの「リモートサーバーへのファイル送信」

84 ページの「リモートサーバーからのファイルの取得」

314 ページの「ColdFusion デバッガの使用 (Windows のみ)」

ツールバー、インスペクタ、コンテキストメニュー、およびパネルの使用

ツールバーの表示

ドキュメント関連操作および標準の編集操作を行うには、ドキュメントツールバーと標準ツールバーを使用します。コードをすばやく挿入するには、コーディングツールバーを使用します。別のメディアタイプでのページの外観を表示するには、スタイルレンダリングツールバーを使用します。必要に応じて、ツールバーの表示と非表示を切り替えることもできます。

- [表示]-[ツールバー] を選択して、該当するツールバーを選択します。
- いずれかのツールバーを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、コンテキストメニューからツールバーを選択します。

注意 : コードインスペクタ ([ウィンドウ]-[コードインスペクタ]) でコーディングツールバーの表示と非表示を切り替えるには、インスペクタの上部にある [表示オプション] ポップアップメニューから [コーディングツールバー] を選択します。

関連項目

16 ページの「ドキュメントツールバーの概要」

17 ページの「標準ツールバーの概要」

19 ページの「コーディングツールバーの概要」

19 ページの「スタイルレンダリングツールバーの概要」

[挿入] バーの使用

[挿入] バーには、テーブルおよびイメージなどのオブジェクトを作成し、挿入するためのボタンがあります。ボタンはいくつかのカテゴリに編成されています。

関連項目

18 ページの「[挿入] バーの概要」

304 ページの「タグエディタでのタグの編集」

210 ページの「ドキュメントウィンドウでのエレメントの選択および表示」

[挿入] バーの非表示と表示

- [ウィンドウ]-[挿入] を選択します。
- [挿入] バー、ドキュメントツールバー、標準ツールバー、またはコーディングツールバー内を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、[挿入] を選択します。

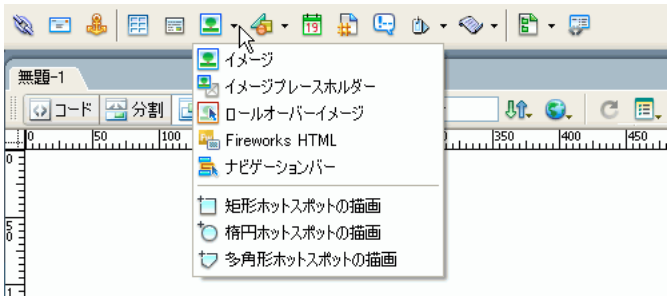
注意 : XML、JavaScript、Java、CSS などの特定のタイプのファイルで作業している場合、[挿入] バーとデザインビューのオプションは淡色表示になっています。これは、これらのコードファイルには項目を挿入できないためです。

特定カテゴリのボタンの表示

❖ [挿入] バーの最上部にあるカテゴリ名をクリックします。

ボタンのポップアップメニューの表示

❖ ボタンのアイコンの隣にある下向き矢印をクリックします。



[挿入] バーのカテゴリのメニュー表示

❖ [挿入] バーのカテゴリタブを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、[メニューとして表示] を選択します。

[挿入] バーのカテゴリのタブ表示

❖ [挿入] バーの左端にあるカテゴリ名の横の矢印をクリックし、[タブとして表示] を選択します。

オブジェクトの挿入

1 [挿入] バーの左側で、該当するカテゴリを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- オブジェクトボタンをクリックするか、またはボタンのアイコンをドキュメントウィンドウにドラッグします。
- ボタンの矢印をクリックし、メニューからオプションを選択します。

オブジェクトによっては、対応するオブジェクト挿入ダイアログボックスが表示され、ファイルの参照、またはオブジェクトのパラメータの指定を求めるメッセージが表示されます。あるいは、Dreamweaver によってコードがドキュメントに挿入されることや、コードの挿入前に情報を指定するようにタグエディタまたはパネルが表示されることもあります。

オブジェクトによっては、デザインビューでオブジェクトを挿入した場合にダイアログボックスが表示されなくても、コードビューでオブジェクトを挿入した場合にはタグエディタが表示されることがあります。いくつかのオブジェクトでは、デザインビューにオブジェクトを挿入すると、オブジェクトを挿入する前に Dreamweaver がコードビューに切り替わります。

注意：名前付きのアンカーなどの一部のオブジェクトは、ページをブラウザウィンドウに表示しても表示されません。このような不可視オブジェクトの位置をマークするアイコンをデザインビューに表示することができます。

オブジェクト挿入ダイアログボックスの非表示、および空のプレースホルダーオブジェクトの挿入

❖ オブジェクトのボタンを、Ctrl キーを押しながらクリックするか (Windows)、Option キーを押しながらクリックします (Macintosh)。

たとえば、イメージファイルを指定せずにイメージのプレースホルダーを挿入するには、Ctrl キーまたは Option キーを押しながら [イメージ] ボタンをクリックします。

注意：この手順によって、すべてのオブジェクト挿入ダイアログボックスが表示されなくなるわけではありません。ナビゲーションバー、AP エレメント、Flash オブジェクトのボタン、フレームセットなど多くのオブジェクトでは、プレースホルダーまたは初期設定値のオブジェクトは挿入されません。

[挿入] バーの環境設定の変更

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリで、イメージ、テーブル、スクリプト、およびヘッドエレメントなどのオブジェクトを挿入するときにダイアログボックスが表示されないようにするには、[オブジェクト挿入中にダイア

ログを表示] をオフにするか、または Ctrl キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押したままオブジェクトを作成します。

このオプションをオフにしてオブジェクトを挿入すると、オブジェクトに初期設定の属性値が与えられます。オブジェクトの挿入後に、オブジェクトのプロパティを変更するには、プロパティインスペクタを使用します。

[挿入] バーの [お気に入り] カテゴリでの項目の追加、削除、または管理

1 [挿入] バー内の任意のカテゴリを選択します。

2 カテゴリ名が表示されている領域ではなく、ボタンが表示されている領域を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[お気に入りのカスタマイズ] を選択します。

3 必要に応じて変更し、[OK] をクリックします。現在のカテゴリが [お気に入り] ではない場合は、そのカテゴリを選択して変更を確認します。

- オブジェクトを追加するには、左側の [使用可能なオブジェクト] ペインでオブジェクトを選択して 2 つのペイン間の矢印をクリックするか、[使用可能なオブジェクト] ペインのオブジェクトをダブルクリックします。

注意：1 回の操作で 1 つのオブジェクトを追加できます。[一般] などのカテゴリ名を選択して、カテゴリ全体をお気に入りリストに追加することはできません。

- オブジェクトまたは区切りを削除するには、右側の [お気に入りオブジェクト] ペインでオブジェクトを選択し、ペインの上にある [お気に入りオブジェクトリストから選択したオブジェクトを削除します] ボタンをクリックします。
- オブジェクトを移動するには、右側の [お気に入りオブジェクト] ペインのオブジェクトを選択し、ペインの上にある上矢印または下矢印ボタンをクリックします。
- オブジェクトの下に区切りを追加するには、右側の [お気に入りオブジェクト] ペインのオブジェクトを選択し、ペインの下にある [区切りを追加] ボタンをクリックします。

[お気に入り] カテゴリのボタンを使用したオブジェクトの挿入

❖ [挿入] バーの左側で [お気に入り] カテゴリを選択し、追加したオブジェクトに対応するボタンをクリックします。

プロパティインスペクタの使用

プロパティインスペクタでは、テキストや挿入されたオブジェクトなど、現在選択されているページエレメントの一般的なプロパティを確認および編集できます。プロパティインスペクタの内容は、選択したエレメントによって異なります。

注意：特定のタグに関連付けられたすべての属性を表示および編集するには、タグインスペクタを使用します。

関連項目

20 ページの「プロパティインスペクタの概要」

30 ページの「パネルとパネルグループのドッキングおよびドッキング解除」

316 ページの「タグインスペクタでの属性の変更」

プロパティインスペクタの表示または非表示

❖ [ウィンドウ]-[プロパティ] を選択します。

プロパティインスペクタの展開または折りたたみ

❖ プロパティインスペクタの右下隅にある縮小の三角形をクリックします。

ページエレメントのプロパティの表示および変更

1 ドキュメントウィンドウ内のページエレメントを選択します。

必要な場合は、プロパティインスペクタを展開して、選択したエレメントのすべてのプロパティを表示します。

2 プロパティインスペクタで、目的のプロパティを変更します。

注意：特定のプロパティの情報については、ドキュメントウィンドウでエレメントを選択し、プロパティインスペクタの右上隅にある [ヘルプ] アイコンをクリックします。

3 変更がドキュメントウィンドウでただちに適用されない場合は、以下のいずれかの方法で変更を適用します。

- プロパティを編集しているテキストフィールドの外側をクリックします。
- Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。
- Tab キーを押して別のプロパティに切り替えます。

コンテキストメニューの使用

コンテキストメニューを使用すると、現在の作業対象であるオブジェクトやウィンドウに関連する、有用なほとんどのコマンドとプロパティに容易にアクセスできます。コンテキストメニューには、現在の選択内容に関連するコマンドのみが表示されます。

1 オブジェクトまたはウィンドウを、右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックします (Macintosh)。

2 コンテキストメニューからコマンドを選択します。

パネルグループについて

Dreamweaver のパネルは、パネルグループにまとめられます。パネルグループ内で選択したパネルはタブとして表示されます。各パネルグループは展開または縮小でき、他のパネルグループとドッキングおよびドッキング解除することができます。

パネルグループはさらに、統合アプリケーションウィンドウにドッキングすることもできます (Windows のみ)。ドッキングを利用すると、ワークスペースを煩雑にすることなく、必要なパネルにすばやくアクセスできます。

注意：パネルグループがフロート (ドッキング解除) している場合、幅の狭い空白のバーがパネルグループの上部に表示されます。本マニュアルでは、「パネルグループのタイトルバー」という用語は、この狭い空白のバーではなく、パネルグループの名前が表示される場所を指します。

パネルとパネルグループの表示

必要に応じて、ワークスペースのパネルグループとパネルを表示または非表示にすることができます。

パネルグループの展開または折りたたみ

- パネルグループのタイトルバーの左側にある縮小の三角形 をクリックします。
- パネルグループのタイトルをクリックすると、パネルグループが折りたたまれます。

パネルグループを閉じて画面上で非表示にする

❖ パネルグループのタイトルバーにある [オプション] メニューの [パネルグループを閉じる] を選択します。

画面に表示されていないパネルまたはパネルグループを開く

❖ [ウィンドウ] メニューでパネル名を選択します。

[ウィンドウ] メニューのアイテムの横にチェックマークが表示されていれば、そのアイテムは現在開いていますが、他のウィンドウの下に隠れていて見えない場合もあります。

開いているとマークされているパネル、インスペクタ、またはウィンドウを見つけられない場合には、[ウィンドウ]-[パネルの整列] を選択します。開いているすべてのパネルが整理されてレイアウトされます。

すべてのパネルグループの非表示

❖ [ウィンドウ]-[パネルの非表示] を選択します。

展開したパネルグループにあるパネルの選択

❖ パネルの名前をクリックします。

[オプション] メニューが表示されていないパネルグループの表示

❖ パネルグループの名前または縮小の三角形をクリックしてパネルグループを展開します。

[オプション] メニューは、パネルグループが展開されている場合にのみ表示されます。

パネルグループが縮小されていても、パネルグループのコンテキストメニューから選択できるオプションもあります。コンテキストメニューを表示するには、パネルグループのタイトルバーを右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックします (Macintosh)。

パネルとパネルグループのドッキングおよびドッキング解除

必要に応じてパネルとパネルグループを移動し、ワークスペースでフローティングまたはドッキング状態になるように配置することができます。

ほとんどのパネルは、統合ワークスペース内のドキュメントウィンドウ領域の左または右のいずれかにしかドッキングできません。一方、プロパティインスペクタや [挿入] バーは、統合ウィンドウの上端または下端にのみドッキングできます。

注意： 展開した [ファイル] パネルをドッキング解除することはできません。ドッキング解除するために [ファイル] パネルを折りたたむには、パネル上部の右端にある [展開 / 折りたたむ] ボタンをクリックします。ドッキング解除した [ファイル] パネルを閉じると、そのパネルはインターフェイスに存在しなくなります。そのパネルを再度表示するには、F8 キーを押すか、[ウィンドウ]-[ファイル] を選択します。

パネルグループのドッキング解除

❖ パネルグループのタイトルバー左側にあるグリッパーを使用して、ドッキングが解除された状態が輪郭によって示されるまでパネルグループをドラッグします。

注意： プロパティインスペクタをドッキング解除すると、グリッパーバーもタイトルバーも表示されない形式のプロパティインスペクタになりますが、そのパネルの任意の部分をクリックすればドラッグや再ドッキングが可能です。

パネルまたはパネルグループの最小化と復元

❖ アンダーラインの付いたパネルタイトルをクリックすると、パネルが最小化されます。再度クリックすると、最大サイズに復元されます。

パネルまたはパネルグループの再ドッキング

❖ パネルグループのタイトルバーをワークスペースの左右にドラッグし、濃い黒のアウトラインが表示されたら離します。既に表示されているパネルのセットに追加するためには、上にドラッグして黒のアウトラインを表示しなければならないことがあります。

注意：プロパティインスペクタや結果などのパネルは、ドキュメントウィンドウの左右ではなく、上下にドッキングする必要があります。

他のパネルグループ (フローティングワークスペース) または統合ウィンドウ (Windows のみ) へのパネルグループのドッキング

❖ グリッパーを使用して、ドッキングされた状態がパネルグループの輪郭によって示されるまでパネルグループをドラッグします。

パネルグループからのパネルのドッキング解除

❖ パネルグループのタイトルバーにある [オプション] メニューから [< パネル名 > をグループ化]-[新規パネルグループ] を選択します。

パネルグループの外にパネルをドラッグする方法でも、パネルをドッキング解除できます。

他のパネルグループへのパネルのドッキング

1 移動するパネルのタブをクリックして選択します。

2 パネルグループの [オプション] メニューにある [< パネル名 > をグループ化] サブメニューで、移動先とするパネルグループを選択します。

[< パネル名 > をグループ化] コマンドの名前は、アクティブになっているパネルの名前に応じて変わります。

フローティング (ドッキング解除) パネルグループの、ドッキングを目的としないドラッグ

❖ タイトルバーの上にあるバーを使ってパネルグループをドラッグします。

パネルグループは、グリッパーを使用してドラッグしなければドッキングされません。

パネルグループのサイズ変更および名前変更

必要に応じて、パネルグループのサイズと名前を変更できます。

パネルグループのサイズ変更

- フローティングパネルの場合は、オペレーティングシステムでウィンドウのサイズを変更する場合と同様に、ドラッグによってパネルグループのセットのサイズを変更します。

たとえば、パネルグループのセットの右下隅にあるサイズ変更領域をドラッグします。

- ドッキングパネルの場合は、パネルとドキュメントウィンドウの間にある分割バーをドラッグします。

パネルグループの最大化

- パネルグループのタイトルバーにある [オプション] メニューの [パネルグループの最大化] を選択します。

• パネルグループのタイトルバー内の任意の場所をダブルクリックします。

パネルグループの名前変更

1 パネルグループのタイトルバーにある [オプション] メニューの [パネルグループ名の変更] を選択します。

2 新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。

パネルグループの保存

Dreamweaver では、さまざまな操作のためにワークスペースをカスタマイズできるように、異なるパネルグループを保存し、復元できます。ワークスペースのレイアウトを保存すると、指定されたレイアウトのパネルと、パネルの位置とサイズ、展開と縮小の状態、アプリケーションウィンドウの位置とサイズ、ドキュメントウィンドウの位置とサイズなど、その他の属性が Dreamweaver に保存されます。

関連項目

33 ページの「カスタムワークスペースレイアウトの保存」

Dreamweaver CS3 ワークスペースのカスタマイズ

ワークスペースのレイアウトの選択 (Windows)

ワークスペースのレイアウトは、いつでも切り替えることができます。

❖ [ウィンドウ]-[ワークスペースのレイアウト] を選択し、次のワークスペースレイアウトのいずれかを選択します。

デザイナー MDI (Multiple Document Interface) を使用した統合型のワークスペースです。このレイアウトでは、すべてのドキュメントウィンドウとパネルが、単一の大きなアプリケーションウィンドウに統合され、右側にパネルグループがドッキングされています。

コーダー Designer と同じ統合型のワークスペースですが、Adobe® HomeSite® および ColdFusion のレイアウトと同様にパネルグループが左側にドッキングされ、初期設定ではコードビューがドキュメントウィンドウに表示されます。

注意：いずれのレイアウトでも、ワークスペースの左右どちらにもパネルグループをドッキングできます。

デュアルスクリーン モニタが 2 台ある場合のレイアウトを構成できます。このレイアウトでは、すべてのパネルが 2 台目のモニタに表示され、ドキュメントウィンドウとプロパティインスペクタが 1 台目のモニタに表示されます。

ワークスペースのレイアウトの選択 (Macintosh)

ワークスペースのレイアウトは、いつでも切り替えることができます。

❖ [ウィンドウ]-[ワークスペースのレイアウト] を選択し、次のワークスペースレイアウトのいずれかを選択します。

指定なし 統合型のワークスペース。

デュアルスクリーン モニタが 2 台ある場合のレイアウトを構成できます。このレイアウトでは、すべてのパネルが 2 台目のモニタに表示され、ドキュメントウィンドウとプロパティインスペクタが 1 台目のモニタに表示されます。

タブ付きドキュメントの表示 (Macintosh)

1 つのドキュメントウィンドウに複数のドキュメントを表示でき、各ドキュメントを示すタブが表示されます。フローティングワークスペースの一部として表示することもでき、このとき、ドキュメントはそれぞれ別のウィンドウに表示されます。

タブ付きドキュメントを別のウィンドウで開く

❖ タブを右クリック (Windows) するか Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [次のウィンドウに移動] を選択します。

別々に表示されているドキュメントのタブ付きウィンドウへの統合

❖ [ウィンドウ]-[タブとして統合] を選択します。

タブ付きドキュメントの初期設定の変更

1 [Dreamweaver]-[環境設定] を選択し、[一般] カテゴリを選択します。

2 [タブを使用してドキュメントを開く] をオンまたはオフにし、[OK] をクリックします。

Dreamweaver では、環境設定を変更しても、現在開いているドキュメントの表示は変更されません。ただし、新しい環境設定を選択した後に開いたドキュメントは、選択した環境設定に従って表示されます。

カスタムワークスペースレイアウトの保存

Dreamweaver では、さまざまな操作のためにワークスペースをカスタマイズできるように、異なるパネルセットを保存し、復元できます。ワークスペースのレイアウトを保存すると、指定されたレイアウトのパネルと、パネルの位置とサイズ、展開と縮小の状態、アプリケーションウィンドウの位置とサイズなど、その他の属性が保存されます。

関連項目

29 ページの「パネルグループについて」

32 ページの「ワークスペースのレイアウトの選択 (Windows)」

カスタムワークスペースレイアウトの保存

1 目的どおりにパネルを配置します。

2 [ウィンドウ]-[ワークスペースのレイアウト]-[現在のレイアウトを保存] を選択します。

3 レイアウトの名前を入力して、[OK] をクリックします。

別のカスタムワークスペースレイアウトへの切り替え

❖ [ウィンドウ]-[ワークスペースのレイアウト] を選択し、カスタムレイアウトを選択します。

カスタムワークスペースレイアウトの名前変更または削除

1 [ウィンドウ]-[ワークスペースのレイアウト]-[管理] を選択します。

2 レイアウトを選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- レイアウトの名前を変更するには、[名前の変更] ボタンをクリックし、新しいレイアウトの名前を入力して、[OK] をクリックします。
- レイアウトを削除するには、[削除] ボタンをクリックします。

[ようこそ] 画面の非表示と表示

Dreamweaver の起動時、および何もドキュメントが開いていないときは、[ようこそ] 画面が表示されます。[ようこそ] 画面を非表示にするように選択しておき、後で表示することも可能です。[ようこそ] 画面を非表示にすると、開いているドキュメントがない場合にはドキュメントウィンドウは空白になります。

[ようこそ] 画面の非表示

❖ [ようこそ] 画面で [次から表示しない] チェックボックスをオンにします。

[ようこそ] 画面の表示

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [[ようこそ] 画面を表示] オプションをオンにします。

マルチユーザーシステムでの Dreamweaver のカスタマイズについて

Windows XP や Mac OS X などのマルチユーザーオペレーティングシステムであっても、ユーザーのニーズに合わせて Dreamweaver をカスタマイズすることができます。

Dreamweaver では、あるユーザーがカスタマイズした設定と、他のユーザーがカスタマイズした設定とが、互いに影響し合うことはありません。これは、マルチユーザーシステムで、ユーザーが初めて Dreamweaver を実行したときに、そのユーザー用のさまざまな設定ファイルのコピーが作成されるためです。これらのユーザー設定ファイルは、ユーザーのフォルダに保存されます。

たとえば、Windows XP では "C:¥Documents and Settings¥ ユーザー名 ¥Application Data¥Adobe¥Dreamweaver 9¥Configuration" (非表示フォルダ内にある場合もあります) に保存されます。

Mac OS X では、ユーザーのホームフォルダ、具体的には "Users/ ユーザー名 /Library/Application Support/Adobe/Dreamweaver 9/Configuration" に保存されます。

Dreamweaver を再インストールまたはアップグレードするときは、Dreamweaver によって既存のユーザー設定ファイルのバックアップコピーが自動的に作成されます。このため、手動でこれらのファイルをカスタマイズしていた場合でも、以前の変更内容を利用できます。

Dreamweaver の一般環境設定の設定

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 次のいずれかのオプションを設定します。

タブを使用してドキュメントを開く ドキュメント間を切り替えることができるタブを使用して、単一のウィンドウ内ですべてのドキュメントを開きます (Macintosh のみ)。

[ようこそ] 画面を表示 Dreamweaver [ようこそ] 画面を表示します。Dreamweaver の起動時、または何もドキュメントが開いていないときに表示されます。

起動時にドキュメントを開く Dreamweaver の終了時に開いていたドキュメントが、次回の起動時に開きます。このオプションがオフの場合、Dreamweaver を起動すると、[[ようこそ] 画面を表示] の設定に応じて、[ようこそ] 画面と空白画面のいずれかが表示されます。

読み取り専用ファイルを開く際に警告する ロックされている読み取り専用ファイルを開いたときに、警告が表示されます。ファイルのロック解除およびチェックアウト、ファイルの表示、またはキャンセルから選択できます。

ファイルを移動するときにリンクを更新する サイト内でドキュメントの移動、名前の変更、または削除を行った場合の動作を決定します。この環境設定は、常にリンクを自動更新する、リンクを更新しない、および更新の実行を確認するのいずれかに設定できます (「274 ページの「リンクの自動更新」」を参照してください)。

オブジェクト挿入中にダイアログを表示 [挿入] バーまたは [挿入] メニューを使用してイメージ、テーブル、Shockwave ムービー、およびその他のオブジェクトを挿入するときに、Dreamweaver が追加情報の入力を求めるかどうかを決定します。このオプションをオフにするとダイアログボックスが表示されず、プロパティインスペクタを使用してイメージのソースファイル、テーブルの行数などを指定する必要があります。ロールオーバーイメージおよび Fireworks HTML の場合は、このオプションの設定にかかわらず、オブジェクトを挿入するときに必ずダイアログボックスが表示されます。この設定を一時的に無効にするには、オブジェクトの作成および挿入時に Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらクリックします。

ダブルバイトのインライン入力可 日本語の文字など、ダブルバイトのテキストを使う開発環境や言語キットを使用している場合、ドキュメントウィンドウに直接ダブルバイトのテキストを入力できるようにします。このオプションを無効にすると、ダブルバイトテキストの入力と変換を行うテキストの入力ウィンドウが表示されます。テキストが確定されると、ドキュメントウィンドウに表示されます。

見出しの次の段落を標準スタイルに戻す デザインビューの見出し段落の終わりで Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押したときに、p タグが付いた新しい段落が作成されます。(見出し段落とは、h1 や h2 などの見出しタグが付いている段落です)。オプションが無効になっている場合、見出し段落の終わりで Enter キーまたは Return キーを押すと、同じ見出しタグが付いている新しい段落が作成されます。続けて複数の見出しを入力し、戻って詳細を入力することもできます。

連続するスペースを入力可能にする デザインビュー内で 2 つ以上のスペースを入力すると、区切りなしスペースが作成され、ブラウザ内に複数のスペースとして表示されます (たとえば、タイプライターのように、行間をダブルスペースにすることができます)。このオプションは、ワードプロセッサでの入力に慣れている人向けに用意されています。このオプションが無効になっている場合、複数のスペースは単一のスペースとして扱われます。これは、ブラウザでは複数のスペースが 1 つのスペースとして扱われるためです。

<b> と <i> の代わりに および を使用 Dreamweaver によって、strong タグが、通常は b タグが適用される操作を行ったときに適用されます。また、em タグも、通常は i タグが適用される操作を行ったときに適用されます。たとえば、HTML モードのテキストのプロパティインスペクタで、ボールドやイタリックのボタンをクリックしたときや、[テキスト]-[スタイル]-[ボールド] または [テキスト]-[スタイル]-[イタリック] を選択したときなどに、この処理が行われます。b および i タグを使用する場合は、このオプションをオフにします。

注意： World Wide Web Consortium は、*b* および *i* タグの使用を推奨していません。これは、*strong* および *em* タグは、*b* および *i* よりも詳細な意味情報を提供するためです。

HTML タグの代わりに CSS を使用 プロパティインスペクタでテキストをフォーマットするときに、Dreamweaver で HTML タグの代わりに CSS スタイルを使用するように指定します。Dreamweaver の初期設定では、CSS を使用します。フォント、サイズ、色をテキスト選択で定義するたびに、新しいドキュメントに固有のスタイルが作成され、プロパティインスペクタの [スタイル] ポップアップメニューから使用できるようになります。唯一の例外はボールドフォントとイタリックフォントで、この場合 Dreamweaver では CSS の代わりに HTML タグが使用されます。

ドキュメントが外部のスタイルシートにリンクしている場合でも、新しいスタイルの定義が CSS ファイルではなくドキュメントの先頭に書き込まれます。

この一般的なビヘイビアは、次のような状況では異なる場合があります。

- 既に font タグでドキュメントがすべてフォーマットされている場合、Dreamweaver は font タグを使用して body タグを変更し、HTML コードを使用します。
- ページの外観を設定するためにドキュメントの body タグで HTML が使用されているにもかかわらず、font タグだけが使用されているわけではない場合も、Dreamweaver は CSS を使用してテキストをフォーマットします。

このオプションの選択を解除した場合、Dreamweaver では font タグなどの HTML タグを使用してテキストがフォーマットされ、body タグで HTML コードを使用してページの外観が設定されます。

<p> または <h1> ～ <h6> タグ内に編集可能領域を配置する際に警告する 段落タグや見出しタグに編集可能領域がある Dreamweaver テンプレートを保存したときに、警告メッセージを表示するかどうかを指定します。このメッセージにより、その編集可能領域でそれ以上段落を作成できないことがわかります。初期設定では有効になっています。

中央揃え プロパティインスペクタの [中央揃え] ボタンをクリックしたときに divalign="center" または center タグを使用してエレメントを中央に配置するかどうかを指定します。

注意： どちらの中央揃えの方法も HTML 4.01 仕様では公式に推奨されていません。テキストの中央揃えには CSS スタイルを使用する必要があります。どちらの方法も、XHTML 1.0 Transitional 仕様では技術的に有効ですが、XHTML 1.0 Strict 仕様では有効ではありません。

ヒストリステップの最大数 [ヒストリ] パネルに表示されるステップ数を設定します。初期設定値は、ほとんどのユーザーに適した設定である必要があります。[ヒストリ] パネルに設定されている数を超えると、最も古い手順が消去されます (詳細については、「663 ページの「タスクの自動化」」を参照してください)。

スペル辞書 使用可能なスペル辞書の一覧が表示されます。辞書に複数の方言やスペル規則 (米語や英語など) がある場合は、[スペル辞書] ポップアップメニューに方言がそれぞれ表示されます。

関連項目

13 ページの「ワークスペース レイアウトの概要」

274 ページの「リンクの自動更新」

Dreamweaver のドキュメントに対するフォント環境設定

ドキュメントのエンコードによって、ドキュメントがブラウザにどのように表示されるかが決まります。Dreamweaver のフォントの環境設定を使用すると、指定したエンコード方法で特定のフォントおよびサイズを使用した場合の表示を確認できます。選択したフォントは、ビジターのブラウザへのドキュメントの表示方法には影響しません。新規ドキュメントの初期設定のエンコードを指定する方法の詳細については、「65 ページの「ドキュメントを作成して開く」」を参照してください。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストで [フォント] を選択します。

3 [フォント設定] リストからエンコードの種類 ([西ヨーロッパ言語] や [日本語] など) を選択します。

注意：アジア言語を表示するには、ダブルバイトのフォントをサポートしているオペレーティングシステムを使用している必要があります。

4 選択したエンコードの各カテゴリに使用するフォントとサイズを選択します。

注意：コンピュータにインストールされていないフォントは、フォントポップアップメニューに表示されません。たとえば、日本語のテキストを表示するには、日本語フォントがインストールされている必要があります。

プロポーショナルフォント Dreamweaver が通常のテキスト (たとえば、段落、見出し、およびテーブルのテキスト) の表示に使用するフォントです。初期設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。ほとんどの英語 (U.S.) のシステムでは、Windows には [Times New Roman 12 pt (Medium)]、Macintosh には [Times 12 pt] が初期設定されています。

等幅フォント Dreamweaver が pre、code、および tt タグ内のテキストを表示するために使用するフォントです。初期設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。ほとんどの英語 (U.S.) のシステムでは、Windows には [Courier New 10 pt (Small)]、Macintosh には [Monaco 12 pt] が 初期設定されています。

コードビュー コードビューとコードインスペクタに表示されるすべてのテキストに使用されるフォントです。初期設定は、システムにインストールされているフォントによって異なります。

関連項目

207 ページの「ドキュメントのエンコードについて」

ハイライトカラーのカスタマイズ

[ハイライト] 環境設定では、テンプレートの領域、ライブラリ項目、サードパーティタグ、レイアウトエレメント、およびコードの識別用に Dreamweaver で使用されるカラーをカスタマイズできます。

関連項目

213 ページの「カラーピッカーの使用」

157 ページの「Div タグのハイライトカラーの変更」

ハイライトカラーの変更

1 [編集]-[環境設定] を選択し、[ハイライト] カテゴリを選択します。

2 ハイライトカラーを変更するオブジェクトの横にあるカラーボックスをクリックし、カラーピッカーを使用して新しいカラーを選択するか、カラーの 16 進数値を入力します。

オブジェクトのハイライト表示の有効化または無効化

1 [編集]-[環境設定] を選択し、[ハイライト] カテゴリを選択します。

2 ハイライトカラーを有効または無効にするオブジェクトの横にある [表示] オプションをオンまたはオフにします。

第 3 章：Dreamweaver サイトの操作

Adobe® Dreamweaver® CS3 サイトは、Web サイトのすべてのファイルとアセットの集まりです。コンピュータで Web ページを作成して Web サーバーにアップロードし、更新済みファイルを転送して保存することにより Web サイトを維持できます。また、Dreamweaver を使用しないで作成した Web サイトも編集および維持することができます。

Dreamweaver サイトの設定

Dreamweaver サイトについて

Web サイトとは、関連するトピック、共通のテーマ、統一されたデザインなどを持つ相互にリンクされたドキュメントおよびアセットの集まりです。Dreamweaver は、Web サイトの作成および管理ツールです。個々のドキュメントの作成や Web サイト全体の構築を行うことができます。

Dreamweaver における " サイト " という用語は、Web サイトのドキュメントを保存するためのローカルまたはリモートの場所を指します。Dreamweaver のサイトには、Web のすべてのドキュメントの整理と管理、Web サーバーへのサイトのアップロード、リンクの追跡と管理、ファイルの管理と共有を行う方法が用意されています。Dreamweaver の機能を完全に利用するには、サイトを定義する必要があります。

注意：Dreamweaver サイトの定義に必要な操作は、ローカルフォルダの設定だけです。ただし、Web サーバーへのファイルの転送や Web アプリケーションの開発をする場合は、リモートサイトとテストサーバーの情報も追加する必要があります。

Dreamweaver サイトは、最大で 3 つの部分、つまり 3 つのフォルダで構成されます。これは、開発環境と、作成する Web サイトのタイプによって異なります。

ローカルルートフォルダ 作業中のファイルが格納されます。Dreamweaver はこのフォルダを " ローカルサイト " として表示します。このフォルダは、ローカルコンピュータ上に配置することも、ネットワークサーバー上に配置することもできます。サーバー上で直接作業する場合、ファイルを保存するたびに Dreamweaver がそのファイルをサーバーにアップロードします。

リモートフォルダ テスト用、実作業用、共同作業用などのファイルが格納されます。Dreamweaver は、このフォルダを " リモートサイト " として [ファイル] パネルに表示します。通常、リモートフォルダは Web サーバーが実行されているコンピュータ上に配置します。

ローカルフォルダとリモートフォルダによって、ローカルハードディスクと Web サーバー間のファイルの転送が可能になり、Dreamweaver サイトでのファイルの管理が簡単になります。

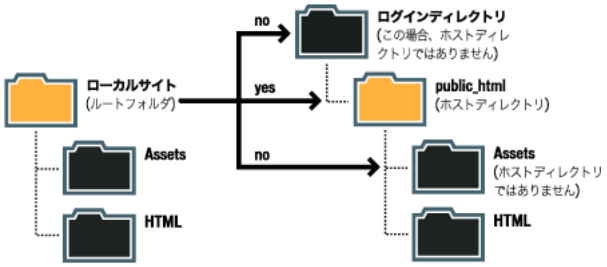
テストサーバーフォルダ Dreamweaver によって動的ページが処理されるフォルダです。

Dreamweaver のサイトを定義する場合のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0145_jp を参照してください。

ローカルフォルダとリモートフォルダの構造について

Dreamweaver を使用してリモートフォルダに接続する場合、[サイト定義] ダイアログボックスの [リモート情報] カテゴリで接続するリモートフォルダを指定する必要があります。指定したリモートフォルダ (" ホストディレクトリ " ともいいます) は、Dreamweaver サイトのローカルルートフォルダと一致している必要があります (Dreamweaver サイトの最上位レベルにあるフォルダが、ローカルルートフォルダです)。ローカルフォルダと同じようにリモートフォルダにも任意の名前を付けることができますが、インターネットサービスプロバイダにより、各ユーザーアカウントに対して public_html や pub_html などの名前が最上位レベルのリモートフォルダに付けられるのが一般的です。自分のリモートサーバーを自分自身で管理し、リモートフォルダに任意の名前を付けることができる環境の場合、ローカルルートフォルダとリモートフォルダに同じ名前を付けることをお勧めします。

以下の例は、左側にサンプルローカルルートフォルダを、右側にサンプルリモートフォルダを示しています。ローカルマシンのローカルルートフォルダは、リモートフォルダのサブフォルダやディレクトリ構造内のリモートフォルダの上位に位置するフォルダにマップされるのではなく、Web サーバーのリモートフォルダに直接マップされます。



注意：上の例は、ローカルルートフォルダと最上位レベルのリモートフォルダが、ローカルマシンとリモート Web サーバー上にそれぞれ 1 つずつある場合を示したものです。ローカルマシン上で複数の Dreamweaver サイトを管理する場合、リモートサーバー上にも同じ数のリモートフォルダが必要になります。この場合、上の例には当てはまらなくなるため、"public_html" フォルダ内に複数のリモートフォルダを作成し、ローカルマシンの対応するローカルルートフォルダにこれらのリモートフォルダをマップする必要があります。

最初にリモート接続を行う場合、通常、Web サーバーのリモートフォルダは空になっています。Dreamweaver を使用してローカルルートフォルダ内のファイルをすべてアップロードすると、リモートフォルダにこれらの Web ファイルがすべて格納されます。リモートフォルダとローカルルートフォルダのディレクトリ構造は、常に同じにしておく必要があります（つまり、ローカルルートフォルダ内のファイルとフォルダに対して、リモートフォルダ内のファイルとフォルダを 1 対 1 で対応付けておく必要があります）。リモートフォルダの構造がローカルルートフォルダの構造と一致しない場合、Dreamweaver によって間違った場所にファイルがアップロードされるため、サイトのビジターがこれらのファイルを参照できないことがあります。また、フォルダとファイルの構造が一致していない場合、イメージやリンクのパスが切断されやすくなります。

Dreamweaver をリモートルートフォルダに接続するには、そのリモートルートフォルダが存在している必要があります。Web サーバー上でリモートフォルダとして機能するフォルダが指定されていない場合、新しくフォルダを作成するか、サーバー管理者にフォルダの作成を依頼してください。

[サイトの管理] ダイアログボックスの使用

[サイトの管理] ダイアログボックスを使用すると、新規サイトの作成、サイトの編集、複製、削除、サイトの設定の読み込みまたは書き出しを実行できます。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択し、左側のリストからサイトを選択します。

2 ボタンをクリックし、以下のオプションのいずれかを選択して、[終了] をクリックします。

新規作成 新しいサイトを作成します。

編集 既存のサイトを編集します。

複製 選択したサイトのコピーを作成します。コピーは、サイトリストウィンドウに表示されます。

削除 選択したサイトを削除します。このアクションを取り消すことはできません。

書き出し サイトの設定を XML ファイル (*.ste) として書き出します。

読み込み 選択したサイトの設定ファイル (*.ste) を読み込みます。

関連項目

47 ページの「サイトの設定の読み込みおよび書き出し」

ローカルルートフォルダの設定および編集

サイト構造の計画が終了したら、Dreamweaver でサイトを設定 (定義) します。また、Dreamweaver 以外で作成した Web サイトを編集する場合は、そのサイトも定義する必要があります。Dreamweaver サイトを設定すると、1 つの Web サイトに関連付けられたすべてのドキュメントを編成できます。

ローカルルートフォルダは、DW サイトの作業ディレクトリです。このフォルダは、ローカルコンピュータ上に配置することも、ネットワークサーバー上に配置することもできます。

ファイルをパブリッシュせずにコンピュータ上でそのファイルの編集を始める場合は、ローカルフォルダのみを設定し、後でリモートフォルダとテスト用フォルダの情報を追加します。

Dreamweaver を使用して、ローカルディスク上の既存の Web サイトの編集や、リモートサイトまたはリモートサイトの分岐サイトの編集を行うことができます。Dreamweaver で作成していないサイトも編集できます。

注意：Web サーバーを実行しているシステム上にローカルルートフォルダがある場合は、リモートフォルダを指定する必要はありません。これは、Web サーバーがローカルコンピュータで実行されていることを示します。

1 以下のいずれかを選択します。

- 新しいサイトを設定するには、[サイト]-[新規サイト] を選択します。
- ローカルディスクにある既存のサイトの設定、またはリモートサイトやその分岐サイトの設定を編集するには、そのサイトが Dreamweaver で作成されたかどうかに関係なく、[サイト]-[サイトの管理] を選択し、[編集] をクリックします。

注意：定義済みの Dreamweaver サイトがない場合は [サイト定義] ダイアログボックスが表示されるため、[新規作成] をクリックする必要はありません。

2 次のいずれかの方法で設定情報を入力します。

- サイト設定ウィザードを使用してサイトを設定するには、[基本] タブをクリックして画面の指示に従います。
- 動的ページを処理するためにローカルフォルダ、リモートフォルダ、テスト用フォルダを直接設定するには、[詳細設定] タブをクリックし、[ローカル情報] カテゴリを選択してオプションを設定します。

3 [OK] をクリックして [終了] をクリックするとサイトが作成され、[ファイル] パネルにサイトが表示されます。

関連項目

80 ページの「サイト、サーバー、およびローカルドライブへのアクセス」

47 ページの「サイトの設定の読み込みおよび書き出し」

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

272 ページの「新規リンクの相対パスの設定」

74 ページの「ファイルとフォルダの管理」

ローカルルートフォルダの設定オプション

[サイト定義] ダイアログボックスの [基本] タブを使用する代わりにローカルルートフォルダのオプションを直接設定する場合は、[詳細設定] タブをクリックして以下の情報を入力します。

注意：コンピュータに作業用のサイトを設定する場合、入力が必要なのは最初の 2 つのオプションだけです。

サイト名 サイト名は [ファイル] パネルと [サイトの管理] ダイアログボックスに表示されますが、ブラウザには表示されません。

ローカルルートフォルダ サイトファイル、テンプレート、およびライブラリ項目を格納するローカルディスク上のフォルダの名前を指定します。ハードディスク上にフォルダを作成するか、フォルダアイコンをクリックして格納するフォルダを参照します。Dreamweaver でルート相対リンクの設定時には、このフォルダが基準となります。

ローカルファイルリストを自動的に更新 ファイルをローカルサイトにコピーするたびに、Dreamweaver でローカルファイルリストを自動的に更新するかどうかを指定します。このオプションをオフにすると、Dreamweaver のファイルのコ

ピー速度は向上しますが、[ファイル] パネルのローカルビューは自動更新されません。[ファイル] パネルのツールバーにある [更新] ボタンをクリックして、手動でパネルを更新する必要があります。

初期設定イメージフォルダ サイトで使用するイメージを保存しておくフォルダへのパスを指定します。パスを入力するか、フォルダアイコンをクリックして参照したフォルダを選択します。

相対リンク サイトの他のページに対して作成したリンクの相対パスを変更します。初期設定では、Dreamweaver により、ドキュメント相対パスを使用してリンクが作成されます。[サイトルート] オプションを選択してパスの設定を変更し、[HTTP アドレス] オプションに HTTP アドレスが指定されていることを確認します。

この設定を変更しても、既存のリンクのパスは変換されません。この設定は、Dreamweaver を使用して画面上で作成した、新しいリンクに対してのみ適用されます。

テストサーバーを指定するか、[編集]-[環境設定]-[ブラウザでプレビュー] で [一時ファイルを使用してプレビュー] オプションを選択していない限り、ローカルブラウザでドキュメントをプレビューしても、サイトのルート相対パスを使ってリンクされたコンテンツは表示されません。これは、サーバーと違って、ブラウザではサイトのルートを認識できないためです。

HTTP アドレス Web サイトに使用する URL を指定します。これにより、絶対 URL またはサイトルート相対パスを使用時に、サイト内のリンクを Dreamweaver で検証できるようになります。また、Dreamweaver では、このアドレスを使用して、異なるサイトルートを持つリモートサーバー上でもサイトルート相対リンクが動作することを確認します。たとえば、ハードディスクの "Sales" ローカルルートフォルダにある C:¥Sales¥images¥ フォルダのイメージファイルにリンクし、作成したサイトの URL が "SalesApp" リモートルートフォルダの http://www.mysite.com/SalesApp/ である場合は、[HTTP アドレス] テキストボックスにこの URL を入力すると、リモートサーバー上でリンクされたファイルへのパスが /SalesApp/images/ となります。

大文字と小文字を区別するリンクチェックを使用 Dreamweaver でリンクをチェックするときに、リンクとファイル名の大文字と小文字が一致することを確認します。このオプションは、ファイル名の大文字と小文字が区別される UNIX システムの場合に役に立ちます。

キャッシュを使用可能にする リンクとサイト管理タスクの速度を上げるためにローカルキャッシュを作成するかどうかを指定します。このオプションをオフにしておくと、サイトを作成する前にキャッシュを作成するかどうかを選択するダイアログボックスが Dreamweaver によって表示されます。[ファイル] パネルグループの [アセット] パネルはキャッシュが作成された場合にのみ動作するので、このオプションをオンにすることをお勧めします。

リモートフォルダの設定

このフォルダは、実作業用、共同作業用、または配布用のファイルの格納などさまざまな用途に使用されます。通常、リモートフォルダは Web サーバーが実行されているコンピュータ上に配置します。このフォルダのオプションは、[基本] タブでウィザードの質問に回答するか、[詳細設定] タブをクリックして情報を直接入力することにより設定できます。

Dreamweaver の [ファイル] パネルで、リモートフォルダはリモートサイトとして表示されます。リモートフォルダを設定する際に、Dreamweaver と Web サーバーの間でファイルをアップロードおよびダウンロードするときのアクセス方法を選択する必要があります。

リモートフォルダを設定する方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0162_jp を参照してください。

注意：Dreamweaver は、IPv6 対応サーバーへの接続をサポートしています。サポートされる接続タイプには、FTP、SFTP、WebDav、および RDS があります。詳細については、www.ipv6.org/ を参照してください。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックしてから [サイト] を選択して新しいサイトを設定するか、既存の Dreamweaver サイトを選択して [編集] をクリックします。

3 [詳細設定] タブをクリックし、[リモート情報] カテゴリを選択して、ローカルフォルダとリモートフォルダ間でファイルを転送するときに使用するアクセス方法を選択します。

なし サーバーにサイトをアップロードしない場合は、この初期設定のままにします。

FTP FTP を使用して Web サーバーに接続する場合は、この設定を使用します。

ローカル / ネットワーク ネットワークフォルダにアクセスする場合、またはローカルコンピュータ上にファイルを格納しているかローカルコンピュータ上でテストサーバーを実行している場合に、この設定を使用します。

RDS RDS を使用して Web サーバーに接続する場合、この設定を選択します。このアクセス方法の場合、Adobe® から Macromedia® ColdFusion® を実行しているコンピュータ上にリモートフォルダが存在している必要があります。

Microsoft Visual SourceSafe Microsoft Visual SourceSafe を使用して Web サーバーに接続する場合に、この設定を使用します。この方法は Windows でのみサポートされます。SourceSafe を使用するには、Microsoft Visual SourceSafe Client version 6 をインストールしておく必要があります。

WebDAV WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning : 標準リソースマネージメント) プロトコルを使用して Web サーバーに接続する場合に、この設定を使用します。

このアクセス方法では、Microsoft Internet Information Server (IIS) 5.0 や適切に構成した Apache Web サーバーなど、このプロトコルをサポートするサーバーが必要です。

注意 : アクセス方法として WebDAV を選択し、複数のユーザー環境で Dreamweaver を使用する場合、すべてのユーザーがアクセス方法として WebDAV を選択していることも確認する必要があります。WebDAV は独自のロックシステムを使用しているため、一部のユーザーのみが WebDAV を選択し、他のユーザーは FTP などの別のアクセス方法を選択している場合、Dreamweaver のチェックイン / チェックアウト機能が正常に動作しません。

関連項目

59 ページの「サイトを定義しないファイル操作」

84 ページの「リモートサーバーからのファイルの取得」

88 ページの「WebDAV を使用したファイルのチェックインとチェックアウト」

80 ページの「サイト、サーバー、およびローカルドライブへのアクセス」

74 ページの「ファイルとフォルダの管理」

FTP アクセス用のオプションの設定

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックしてから [サイト] を選択して新しいサイトを設定するか、既存の Dreamweaver サイトを選択して [編集] をクリックします。

3 [詳細設定] タブを選択し、[リモート情報] カテゴリをクリックします。

4 [FTP] を選択し、Web サイトのファイルのアップロード先となる FTP ホストのホスト名を入力します。

FTP ホスト名は、"ftp.mindspring.com" など、コンピュータシステムの完全なインターネット名にします。余分なテキストを付けずに完全なホスト名を入力してください。特に、ホスト名の前にプロトコル名を追加しないでください。

注意 : FTP ホストが不明の場合は、Web ホスティング会社に問い合わせてください。

5 一般ユーザーに表示されるドキュメントが格納されているリモートサイトのホストディレクトリ、つまりドキュメントが格納されているフォルダの名前を入力します。

ホストディレクトリとして入力する項目がわからない場合は、サーバー管理者に問い合わせるか、テキストボックスを空白のままにしてください。サーバーの中には、ルートディレクトリが FTP を使って最初に接続するディレクトリと同じものがあります。これを調べるには、サーバーに接続します。"public_html"、"www"、またはログイン名のような名前のフォルダが [ファイル] パネルのリモートファイルビューに表示される場合、その名前が [ホストディレクトリ] テキストボックスに入力するディレクトリである場合が考えられます。

6 FTP サーバーの接続に使うログイン名とパスワードを入力します。

7 [テスト] をクリックしてログイン名とパスワードをテストします。

8 初期設定では、パスワードは Dreamweaver によって自動的に保存されます。[保存] オプションをオフにすると、リモートサーバーに接続するたびに、Dreamweaver によってパスワードの入力が求められます。

9 ファイヤーウォール設定でパッシブ FTP を使用する必要がある場合は、[FTP Passive モードを使用] をオンにします。

パッシブ FTP を使用すると、リモートサーバーを必要とせずに、ローカルソフトウェアで FTP 接続ができます。パッシブ FTP が使用されているかどうかがわからない場合は、システム管理者に確認してください。

詳細については、Adobe の Web サイトに掲載されている TechNote 15220 (www.adobe.com/go/15220_jp) を参照してください。

10 IPv6 対応 FTP サーバーを使用している場合は、[拡張データ接続タイプを使用 (IPv6)] をオンにします。

Internet Protocol version 6 (IPv6) が配置された環境では、FTP コマンドの PORT と PASV がそれぞれ EPRT と EPSV に置き換えられています。このため、IPv6 対応 FTP サーバーに接続する場合は、データ接続に拡張パッシブ (EPSV) コマンドと拡張アクティブ (EPRT) コマンドを使用する必要があります。

詳細については、www.ipv6.org/ を参照してください。

11 ファイヤーウォールの内側からリモートサーバーに接続しているときは、[ファイヤーウォールの使用] をオンにします。

12 ファイヤーウォールホストまたはポートを編集するには、[ファイヤーウォールの設定] をクリックします。

13 ローカルファイルとリモートファイルを自動的に同期する場合は、[同期情報の保持] をオンにします。このオプションは初期設定ではオンになっています。

14 ファイルを保存したときに Dreamweaver によってリモートサイトにファイルが自動的にアップロードされるようにする場合は、[保存時に自動的にファイルをアップロード] をオンにします。

15 チェックイン / チェックアウトシステムをアクティブにするには、[ファイルのチェックイン / チェックアウト] をオンにします。

16 [OK] をクリックします。

FTP アクセスを使用したリモートフォルダの接続または切断

❖ [ファイル] パネルで、次の操作を行います。

- 接続するには、ツールバーの [リモートホストに接続] をクリックします。
- 切断するには、ツールバーの [切断] をクリックします。

ローカルアクセスまたはネットワークアクセス用のオプションの設定

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックしてから [サイト] を選択して新しいサイトを設定するか、既存の Dreamweaver サイトを選択して [編集] をクリックします。

3 [詳細設定] タブを選択し、[リモート情報] カテゴリをクリックして、[ローカル / ネットワーク] を選択します。

4 [リモートフォルダ] テキストボックスの横にあるフォルダアイコンをクリックして参照し、サイトファイルを保管するフォルダを選択します。

5 ローカルファイルとリモートファイルを自動的に同期する場合は、[同期情報の保持] をオンにします。このオプションは初期設定ではオンになっています。

6 ファイルを保存したときに Dreamweaver によってリモートサイトにファイルが自動的にアップロードされるようにする場合は、[保存時に自動的にファイルをアップロード] をオンにします。

7 チェックイン / チェックアウトシステムをアクティブにするには、[ファイルのチェックイン / チェックアウト] をオンにします。

8 [OK] をクリックします。

WebDAV アクセス用のオプションの設定

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックしてから [サイト] を選択して新しいサイトを設定するか、既存の Dreamweaver サイトを選択して [編集] をクリックします。

3 [詳細設定] タブを選択し、[リモート情報] カテゴリをクリックして、[WebDAV] を選択します。

4 [URL] に、接続する WebDAV サーバー上のディレクトリへの完全な URL を入力します。

この URL には、プロトコル、ポート、およびルートディレクトリ以外のディレクトリがあります。たとえば、「http://webdav.mydomain.net/mysite」と入力します。

5 ユーザー名とパスワードを入力します。

この情報はサーバー認証に使用されるだけで、Dreamweaver の操作には関係ありません。ユーザー名とパスワードがわからない場合は、システム管理者または Web マスターに確認してください。

6 [テスト] をクリックして、接続設定をテストします。

7 新しいセッションを開始するたびに Dreamweaver によってパスワードが自動的に入力されるようにするには、[保存] チェックボックスをオンにします。

8 ローカルファイルとリモートファイルが Dreamweaver によって自動的に同期されるようにする場合は、[同期情報の保持] をオンにします。このオプションは初期設定ではオンになっています。

9 ファイルを保存したときに Dreamweaver によってリモートサイトにファイルが自動的にアップロードされるようにする場合は、[保存時に自動的にファイルをアップロード] をオンにします。

10 チェックイン / チェックアウトシステムをアクティブにするには、[ファイルのチェックイン / チェックアウト] をオンにします。

ネットワークアクセスを使用したリモートフォルダの接続または切断

❖ リモートフォルダは常に接続されているため、接続操作を行う必要はありません。[更新] ボタンをクリックして、リモートファイルを表示します。

RDS アクセス用のオプションの設定

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックしてから [サイト] を選択して新しいサイトを設定するか、既存の Dreamweaver サイトを選択して [編集] をクリックします。

3 [詳細設定] タブを選択し、[リモート情報] カテゴリをクリックして、[RDS] を選択します。

4 [設定] ボタンをクリックし、[RDS サーバーの設定] ダイアログボックスに以下の情報を指定します。

- Web サーバーがインストールされているホストコンピュータの名前を入力します。

ホスト名は、IP アドレスまたは URL の可能性があります。不明の場合は、管理者に問い合わせてください。

- 接続先のポート番号を入力します。
- ホストディレクトリとしてルートリモートフォルダを入力します。

たとえば、「c:¥inetpub¥wwwroot¥myHostDir¥」と入力します。

- RDS ユーザー名とパスワードを入力します。

注意：ColdFusion Administrator のセキュリティ設定でユーザー名とパスワードを設定した場合は、これらのオプションが表示されないこともあります。

- Dreamweaver で設定を保存しておくには、[保存] チェックボックスをオンにします。

5 [OK] をクリックして [RDS サーバーの設定] ダイアログボックスを閉じます。

6 ファイルを保存したときに Dreamweaver によってリモートサイトにファイルが自動的にアップロードされるようにする場合は、[保存時に自動的にファイルをアップロード] をオンにします。

7 チェックイン / チェックアウトシステムをアクティブにするには、[ファイルのチェックイン / チェックアウト] をオンにして [OK] をクリックします。

Microsoft Visual SourceSafe アクセスの設定

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックしてから [サイト] を選択して新しいサイトを設定するか、既存の Dreamweaver サイトを選択して [編集] をクリックします。

3 [詳細設定] タブを選択し、[リモート情報] カテゴリをクリックして、[Microsoft Visual SourceSafe] を選択します。

4 [設定] ボタンをクリックし、[Microsoft Visual SourceSafe データベースを開く] ダイアログボックスに以下の情報を指定します。

- [データベースパス] で [参照] をクリックして Visual SourceSafe データベースを表示するか、ファイルのフルパスを入力します。

選択したファイルは "srcsafe.ini" ファイルになり、Visual SourceSafe の初期化に使用されます。

- [プロジェクト] に、リモートサイトのルートディレクトリとして使用する Visual SourceSafe データベース内のプロジェクトを入力します。
- [ユーザー名] と [パスワード] に、選択したデータベースへのログインユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードがわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- Dreamweaver に設定を保存しておくには、[保存] オプションを選択します。

5 [OK] をクリックして、[サイト定義] ダイアログボックスに戻ります。

6 ファイルを保存したときに Dreamweaver によってリモートサイトにファイルが自動的にアップロードされるようにする場合は、[保存時に自動的にファイルをアップロード] をオンにします。

7 ローカルファイルを開いたときに Dreamweaver によってサーバーから自動的にファイルをダウンロードしたくない場合は、[常にチェックアウトしてファイルを開く] をオフにします。

リモートフォルダ設定のトラブルシューティング

以下に、リモートフォルダの設定で発生する一般的な問題に関する情報と、その解決法を示します。

- Dreamweaver の FTP 実装は、一部のプロキシサーバー、マルチレベルファイヤーウォール、およびその他の形式の間接的なサーバーアクセスでは、正しく作動しないことがあります。FTP アクセスで問題が発生した場合は、ローカルシステム管理者に相談してください。
- Dreamweaver の FTP 実装では、リモートシステムのルートフォルダに接続する必要があります 必ずリモートシステムのルートフォルダをホストディレクトリとして指定してください。単一のスラッシュ ("/") を使用してホストディレクトリを指定している場合、接続先のディレクトリからリモートルートフォルダへの相対パスの指定が必要になることがあります。たとえば、リモートルートフォルダが上位レベルのディレクトリである場合は、ホストディレクトリに "../../" と指定する必要があります。
- スペースの代わりにアンダーラインを使用して、できるだけファイル名やフォルダ名に特殊記号を使わないでください。ファイル名やフォルダ名に、コロン、スラッシュ、ピリオド、アポストロフィー記号があると、Dreamweaver でサイトマップを作成できないことがあります。
- 長いファイル名で問題が発生した場合は、短い名前に変更します。Mac OS では、ファイル名は 31 文字以内にする必要があります。
- 多くのサーバーでは、シンボリックリンク (UNIX)、ショートカット (Windows)、エイリアス (Macintosh) を使用してサーバーディスク上のある場所にあるフォルダを別の場所のフォルダに接続させていることがよくあります。通常、このようなエイリアスが、適切なフォルダやディレクトリへの接続に影響することはありません。しかし、サーバーのある部分には接続できて、ある部分には接続できない場合には、エイリアスに問題がある可能性があります。
- 「ファイルを put できません」のようなエラーメッセージが表示される場合、リモートフォルダのディスク容量が不足している可能性があります。詳細については、FTP ログを参照してください。

注意：一般に、FTP 転送に問題がある場合は、[ウィンドウ]-[結果] (Windows) または [サイト]-[FTP ログ] (Macintosh) を選択し、[FTP ログ] タグをクリックして、FTP ログを確認してください。

テストサーバーの設定

動的ページを開発する場合、作業中に動的コンテンツの生成や表示を行うためのテストサーバーが Dreamweaver に対して必要になります。ローカルコンピュータ、開発サーバー、ステージングサーバー、またはプロダクションサーバーのいずれかを、テストサーバーとすることができます。

テストサーバーフォルダを設定する場合、事前にローカルフォルダとリモートフォルダを定義する必要があります。リモートフォルダに格納した動的ページは、通常アプリケーションサーバーによって処理できるため、リモートフォルダの設定をテストサーバーで使用することができます。

1 以下のいずれかを選択します。

- 新しいサイトを設定するには、[サイト]-[新規サイト] を選択します。
- ローカルディスクにある既存のサイトの設定、またはリモートサイトやその分岐サイトの設定を編集するには、[サイト]-[サイトの管理] を選択し、Dreamweaver で作成したサイトであるかどうかに関係なく、リストからサイトを選択して [編集] をクリックします。

注意：定義済みの Dreamweaver サイトがない場合は [サイト定義] ダイアログボックスが表示されるため、[新規作成] をクリックする必要はありません。

2 [サイトの定義] ダイアログボックスの [詳細設定] タブで [テストサーバー] を選択します。

3 Web アプリケーションに使用するサーバーテクノロジーを選択します。

4 初期設定のテストサーバーの設定をそのまま使用するか、異なる設定を入力します。

Dreamweaver の初期設定では、アプリケーションサーバーと Web サーバーが同じシステム上で実行されているものと想定されます。[サイト定義] ダイアログボックスの [リモート情報] カテゴリでリモートフォルダを定義し、アプリケーションサーバーがローカルコンピュータを含めリモートフォルダと同じシステムで実行されている場合は、[テストサーバー] カテゴリの初期設定を使用します。

[リモート情報] カテゴリでリモートフォルダを定義していない場合、[テストサーバー] カテゴリには、[ローカル情報] カテゴリで定義したローカルフォルダが初期設定の設定値として使用されます。次の 2 つの条件を満たしている場合、この設定を変更せずに使用できます。

Web サーバーとアプリケーションサーバーが同じローカルコンピュータ上で実行されている。たとえば、IIS と ColdFusion の両方をローカルの Windows XP システムで実行して ColdFusion を開発する場合などです。

ローカルルートフォルダが、Web サイトのホームディレクトリのサブフォルダである。たとえば、IIS を使用する場合、ローカルルートフォルダは "c:¥Inetpub¥wwwroot" フォルダのサブフォルダまたは "c:¥Inetpub¥wwwroot" フォルダそのものになります。

ローカルルートフォルダがホームディレクトリのサブフォルダでない場合は、ローカルルートフォルダを Web サーバーの仮想ディレクトリとして定義する必要があります。

注意：アプリケーションサーバーは、リモートサイトとは別のシステム上で実行することもできます。たとえば、[リモート情報] カテゴリの [アクセス] オプションで [Microsoft Visual SourceSafe] を選択した場合は、[テストサーバー] カテゴリで別のサーバーを指定する必要があります。

5 [URL 接頭辞] テキストボックスに、ユーザーが Web アプリケーションを開くためにブラウザで入力する URL を、ファイル名の部分を省いて入力します。

URL 接頭辞は、ドメイン名と、Web サイトのホームディレクトリにある任意のサブディレクトリ名または仮想ディレクトリ名によって構成します。ファイル名は使用しません。たとえば、アプリケーションの URL が "www.adobe.com/mycoolapp/start.jsp" の場合、URL 接頭辞は "www.adobe.com/mycoolapp/" と入力できます。

Dreamweaver が Web サーバーと同じシステム上で実行されている場合は、いずれかの **localhost** オプションをドメイン名のプレースホルダーとして使用できます。たとえば、IIS を実行しているシステムでアプリケーションの URL が "http://buttercup_pc/mycoolapp/start.jsp" の場合、URL 接頭辞を次のように入力できます。

http://localhost/mycoolapp/

さまざまな Web サーバーに関連する localhost オプションのリストについては、次の項を参照してください。

6 [OK] をクリックして [終了] をクリックし、新しいサイトをサイトのリストに追加します。

関連項目

475 ページの「アプリケーションサーバーの選択」

465 ページの「動的サイトを構築するための準備」

テストサーバーの URL 接頭辞について

Dreamweaver でテストサーバーのサービスを使用して、作業中にデータの表示やデータベースへの接続ができるように、URL 接頭辞を指定する必要があります。Dreamweaver はこのデザイン時接続を使用して、データベース内のテーブルの名前やテーブル内の列の名前など、データベースに関する有用な情報を表示します。

URL 接頭辞は、ドメイン名と、Web サイトのホームディレクトリにある任意のサブディレクトリまたは仮想ディレクトリで構成します。

注意：Microsoft IIS で使用される用語がサーバーの種類によって異なる場合がありますが、概念はほとんど同じです。

ホームディレクトリ サーバー上のフォルダのうち、ユーザーのサイトのドメイン名に対応付けられたフォルダを指します。動的ページの処理に使用するフォルダが "c:¥sites¥company¥" で、このフォルダがホームディレクトリであるとします。つまり、このフォルダが、www.mystartup.com などのサイトのドメイン名に対応付けられているとします。この場合、URL 接頭辞は http://www.mystartup.com/ になります。

動的ページの処理に使用するフォルダが、ホームディレクトリのサブフォルダである場合は、この URL にサブフォルダを追加します。ホームディレクトリが "c:¥sites¥company¥" で、サイトのドメイン名が "www.mystartup.com"、動的ページの処理に使用するフォルダが "c:¥sites¥company¥inventory" であるとします。この場合は、URL 接頭辞を次のように入力します。

http://www.mystartup.com/inventory/

動的ページの処理に使用するフォルダが、ホームディレクトリではなく、ホームディレクトリのサブディレクトリでもない場合は、仮想ディレクトリを作成する必要があります。

仮想ディレクトリ URL には表示されても、サーバーのホームディレクトリの中に物理的には存在しないフォルダです。仮想ディレクトリを作成するには、URL の中にフォルダのパスのエイリアスを指定します。たとえば、ホームディレクトリが "c:¥sites¥company"、処理用のフォルダが "d:¥apps¥inventory" のシステムで、"warehouse" というエイリアスをこのフォルダに対して定義するとします。この場合は、URL 接頭辞を次のように入力します。

http://www.mystartup.com/warehouse/

Localhost クライアント (通常はブラウザですが、この場合は Dreamweaver) と Web サーバーが同じシステム上で実行されているときに、URL 内でホームディレクトリを示す用語です。たとえば、Dreamweaver が Web サーバーと同じ Windows システム上で実行されていて、ホームディレクトリが "c:¥sites¥company" の場合、動的ページの処理に使用するフォルダを示す "warehouse" という仮想ディレクトリを定義したとします。選択した Web サーバーに対応して入力する URL 接頭辞を次に示します。

Web サーバー	URL 接頭辞
ColdFusion MX 7	http://localhost:8500/warehouse/
IIS	http://localhost/warehouse/
Apache (Windows)	http://localhost:80/warehouse/
Jakarta Tomcat (Windows)	http://localhost:8080/warehouse/

注意：初期設定では、ColdFusion MX 7 の Web サーバーはポート 8500、Apache の Web サーバーはポート 80、Jakarta Tomcat の Web サーバーはポート 8080 で実行されます。

Macintosh で Apache の Web サーバーを実行している場合、ユーザー個人のホームディレクトリは "Users:MyUserName:Sites" になります。ここで、MyUserName は、Macintosh ユーザー名です。Mac OS 10.1 以降をインストールすると、このフォルダに対して ~MyUserName というエイリアスが自動的に定義されます。したがって、Dreamweaver における初期設定の URL 接頭辞は次のようになります。

http://localhost/~MyUserName/

動的ページの処理に使用するフォルダが "Users:MyUserName:Sites:inventory" の場合、URL 接頭辞は次のようになります。

http://localhost/~MyUserName/inventory/

Dreamweaver での既存のリモート Web サイトの編集

Dreamweaver を使用して、既存のリモートサイトやリモートサイトの任意の分岐サイトをローカルディスクにコピーし、そのローカルディスク上で編集できます。Dreamweaver 以外で作成したサイトも編集できます。

1 既存のサイトを格納するローカルフォルダを作成し、そのサイトのローカルフォルダとして設定します。

注意：既存のリモートサイトの関連する分岐構造全体を、ローカルにコピーする必要があります。

2 既存のサイトに関するリモートアクセス情報を使用して、リモートフォルダを設定します。リモートサイトに接続してサイトのファイルをコンピュータにダウンロードしてから、そのファイルを編集する必要があります。

必ず、そのリモートサイト用の正しいルートフォルダを選択してください。

3 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) のツールバーにある [リモートホストに接続] ボタン (FTP アクセスの場合)、または [更新] ボタン (ネットワークアクセスの場合) をクリックし、リモートサイトを表示します。

4 次の方法でサイトを編集します。

- サイト全体を処理する場合は、[ファイル] パネルでリモートサイトのルートフォルダを選択し、ツールバーの [GET] をクリックしてサイト全体をローカルディスクにダウンロードします。
- サイトのファイルまたはフォルダを 1 つだけ処理する場合は、[ファイル] パネルのリモートビューで目的のファイルまたはフォルダを選択し、ツールバーの [GET] をクリックしてそのファイルをローカルディスクにダウンロードします。

Dreamweaver によって、ダウンロードしたファイルをサイト階層の適切な部分に配置するために必要な、リモートサイトの構造が自動的にコピーされます。サイトの一部だけを編集する場合でも、通常はイメージファイルなどの依存ファイルも含めて選択します。

サイトリストからの Dreamweaver サイトの削除

サイトのリストから Dreamweaver サイトとそのすべての設定情報を削除しても、サイトファイルはコンピュータから削除されません。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイト名を選択します。

3 [削除] をクリックし、[はい] をクリックするとサイトがリストから削除され、[いいえ] をクリックするとサイト名が残されます。次に、[終了] をクリックします。

サイトの設定の読み込みおよび書き出し

サイトの設定を XML ファイルとして書き出し、後から Dreamweaver に読み込むことができます。このため、異なるコンピュータ間や製品バージョン間で、サイトを移動したり、他のユーザーと設定を共有することができます。

サイトの設定を定期的に書き出すことにより、サイトに問題が発生したときのためにバックアップコピーを備えておくことができます。

サイトの書き出し

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 設定を書き出す 1 つまたは複数のファイルを選択し、[書き出し] をクリックします。

- 複数のサイトを選択するには、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら各サイトをクリックします。
- サイトの範囲を選択するには、Shift キーを押しながら、範囲の最初のサイトと最後のサイトをクリックします。

3 設定を書き出すサイトごとにサイトの保存先となる場所を参照し、[保存] をクリックします。(Dreamweaver によって、サイトの設定が .ste ファイル拡張子の付いた XML ファイルとして保存されます。)

4 サイトの設定をバックアップする場合は、最初のオプションを選択し、[OK] をクリックします。Dreamweaver により、ユーザー名、パスワード、ローカルパス情報など、リモートサーバーのログイン情報が保存されます。

5 他のユーザーと設定を共有する場合は、2 番目のオプションを選択し、[OK] をクリックします。(Dreamweaver は、リモートサーバーのログイン情報やローカルパスなど、他のユーザーに対しては機能しない情報は保存しません)

6 [終了] をクリックします。

注意：*.ste ファイルをサイトルートフォルダに保存するか、見つけやすいようにデスクトップに保存します。保存した場所を思い出すことができない場合は、コンピュータ上で *.ste 拡張子が付いたファイルの検索を実行し、目的のファイルを見つけます。

サイトの読み込み

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [読み込み] をクリックします。

3 拡張子 .ste のファイルに定義されている設定を読み込む、1 つまたは複数のサイトを参照して選択します。

複数のサイトを選択するには、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら各 .ste ファイルをクリックします。サイトの範囲を選択するには、Shift キーを押しながら、範囲の最初のファイルと最後のファイルをクリックします。

4 [開く] をクリックし、[終了] をクリックします。

Dreamweaver によってサイトの設定が読み込まれ、サイト名が [サイトの管理] ダイアログボックスに表示されます。

サイトのビジュアルマップの操作

サイトマップの使用

Dreamweaver サイトのローカルフォルダは、リンクされているアイコンのビジュアルマップとして表示できます。このビジュアルマップは、サイトマップと呼ばれます。サイトマップを使用して、新しいファイルを Dreamweaver サイトに追加したり、リンクを追加、変更、または削除することができます。

サイトマップには、ホームページから 2 つ下のレベルまでのサイト構造が表示されます。ページはアイコンとして示され、リンクはソースコードに含まれている順番に表示されます。

サイトマップを表示する場合、事前にサイトのホームページを定義する必要があります。サイトのホームページがマップの開始点になりますが、サイトの任意のページを開始点にすることもできます。ホームページ、表示される列数、アイコンラベルにファイル名とページタイトルのいずれを表示するか、非表示ファイルと依存ファイルを表示するかどうかを変更できます。依存ファイルとは、メインページがロードされるときブラウザによってロードされるイメージやその他の非 HTML コンテンツのことです。

サイトマップでは、ページの選択、編集ページの表示、サイトへの新規ページの追加、ファイル間のリンク作成、ページタイトルの変更などの操作が可能です。

サイトマップは、サイト構成のレイアウトに適しています。サイト構成全体を設定した後、サイトマップのグラフィックイメージを作成できます。

注意：サイトマップはローカルサイトにのみ適用されます。リモートサイトのマップを作成するには、リモートサイトのコンテンツをローカルディスクのフォルダにコピーした後、[サイトの管理] コマンドを使用して、サイトをローカルサイトとして定義します。

関連項目

271 ページの「サイトマップによるドキュメントのリンク」

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

サイトのホームページの定義または変更

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューからサイトを選択します。

2 ホームページとして設定するファイルを右クリックするか (Windows)、または Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[ホームページに設定] を選択します。

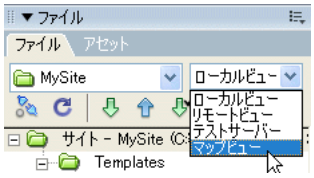
注意： [サイト定義] ダイアログボックスの [サイトマップレイアウト] オプションでホームページを設定することもできます。

3 ホームページを変更するには、手順 2 を繰り返します。

サイトマップの表示

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、以下のいずれかの操作を行います。

- 縮小されている [ファイル] パネルで、[サイトビュー] ポップアップから [マップビュー] を選択します。



- 展開されている [ファイル] パネルでツールバーの [サイトマップ] ボタンをクリックし、ローカルファイル構造のないサイトマップが表示される [マップのみ] またはローカルファイル構造が表示される [マップとファイル] を選択します。

注意： ホームページをまだ設定していない場合、またはホームページとして使用する index.html ページまたは index.htm ページが Dreamweaver では現在のサイトに見つからない場合、ホームページの選択を要求する画面が Dreamweaver によって表示されます。

2 ファイル名の横にある [+] と [–] 記号をクリックすると、第 2 レベルより深い階層のページリンクの表示と非表示を切り替えることができます。

- 赤で表示されたテキストは、破損リンクを示します。
- 青で表示され、地球のアイコンでマークされたテキストは、他のサイト上のファイルまたは電子メールやスクリプトリンクなどの特殊なリンクを示します。
- 緑のチェックマークは、ユーザーがチェックアウトしたファイルを示します。
- 赤のチェックマークは、他のユーザーがチェックアウトしたファイルを示します。
- ロックアイコンは、読み取り専用 (Windows) またはロックされた (Macintosh) ファイルを示します。

サイトマップレイアウトの修正

[サイトマップレイアウト] オプションを使って、サイトマップの表示をカスタマイズすることができます。

1 次のいずれかの操作を行って、[サイト定義] ダイアログボックスを開きます。

- [サイト]-[サイト管理] を選択し、サイトを選択して [編集] をクリックします。

• [ファイル] パネルで、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるメニューから [サイトの管理] を選択し、[編集] をクリックします。

2 [サイト定義] ダイアログボックスで、左側の [カテゴリ] リストから [サイトマップレイアウト] を選択し、以下のオプションを設定します。

列数 サイトマップウィンドウの各行に表示するページの数を設定します。

列幅 サイトマップの列の幅をピクセル単位で設定します。

アイコンラベル サイトマップ内のドキュメントアイコンに、ファイル名とページタイトルのどちらを表示するかを指定します。

非表示としてマークされたファイルの表示 サイトマップで非表示とマークした HTML ファイルを表示します。

依存ファイルの表示 サイト階層のすべての依存ファイルを表示します。

3 [OK] をクリックし、[終了] をクリックします。

サイトマップへの別のブランチの表示

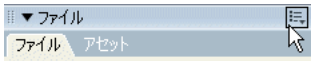
ブランチをサイトマップの焦点にすることによって、サイトにある特定のセクションの詳細を表示することができます。

1 表示するページを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

• サイトマップ内で右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[ルートとして表示] を選択します。

• の初期設定の [ファイル] パネルで右上隅のオプションメニューをクリックし、[表示]-[View Map Options]-[ルートとして表示] を選択します。



サイトマップは、指定されたページがサイトのルートであるかのようにウィンドウに再描画されます。サイトマップの上の [サイトナビゲーション] テキストボックスには、ホームページから指定されたページへのパスが表示されます。パスの項目を選択すると、1 度クリックすることによりそのレベルからサイトマップを表示できます。

3 サイトマップのブランチを拡張および縮小するには、ブランチの [+] または [-] ボタンをクリックします。

サイトマップでの複数ページの選択

• 次のいずれかの操作を実行します。

• 表示の空白の部分からスタートし、ファイルのグループの周りをドラッグして、それを選択します。

• Ctrl キー (Windows)、または Command キー (Macintosh) を押しながらクリックして、隣接していない各ページを選択します。

• Shift キーを押しながらクリックし、隣接するページ範囲を選択します。

サイトマップの編集対象ページの表示

❖ ファイルをダブルクリックするか、ファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して [開く] を選択します。

サイトへの既存ファイルの追加

❖ Windows エクスプローラまたは Macintosh Finder のファイルを、サイトマップのファイルにドラッグします。または、サイトマップのファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[既存ファイルへリンク] を選択してファイルを参照します。

サイトマップでの新規ファイルの作成およびリンクの追加

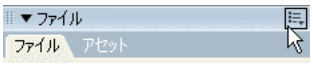
1 サイトマップのファイルを選択し、右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して [新規ファイルへリンク] を選択します。

2 リンクの名前、タイトル、およびテキストを入力し、[OK] をクリックします。

Dreamweaver によって、選択したファイルと同じフォルダに新規ファイルが保存されます。新規ファイルを非表示ブランチに追加すると、そのファイルも非表示になります。

サイトマップでのページタイトルの修正

1 縮小されている [ファイル] パネルの右上隅にあるオプションメニューをクリックし、[ファイル]-[表示]-[ページタイトルを表示] を選択してページタイトルを表示します。



2 サイトマップ内のファイルを選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- タイトルをクリックし、新しいタイトルを入力します。
- 右上隅のオプションメニューをクリックし、[ファイル]-[名前の変更] を選択します。

3 新しい名前を入力し、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

注意： [ファイル] パネルの作業では、ファイル名が変更されると、Dreamweaver によってそのファイルへのリンクがすべて更新されます。

変更を加えた後のサイトマップ表示の更新

❖ サイトマップ内の任意の場所をクリックしてすべてのファイルの選択を解除し、[ファイル] パネルのツールバーの [更新] をクリックします。

サイトマップファイルの表示 / 非表示

サイトマップのレイアウトを変更して、非表示ファイルおよび依存ファイルを表示、非表示できます。これは、キートピックまたはコンテンツを強調して、重要度の低い題材の強調度を弱めたいときに役立ちます。

サイトマップを使ってファイルを非表示にするには、ファイルを非表示としてマークする必要があります。ファイルを非表示にすると、そのリンクも非表示になります。非表示とマークしたファイルを表示すると、そのアイコンとリンクはサイトマップ内で表示されますが、名前がイタリックで表示されます。

注意： 初期設定では、依存ファイルは既に非表示になっています。

サイトマップでファイルを非表示にマーク

1 サイトマップで、ファイルを選択します。複数選択することもできます。

2 右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[リンクの表示 / 非表示] を選択します。

サイトマップで非表示とマークされたファイルのマーク解除

❖ サイトマップで、1 つまたは複数のファイルを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- サイトマップ内で右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[リンクの表示 / 非表示] を選択します。
- 縮小されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で右上隅のオプションメニューをクリックし、[表示]-[サイトマップオプション]-[非表示としてマークされたファイルの表示] を選択します。
- 縮小されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で右上隅のオプションメニューをクリックし、[表示]-[サイトマップオプション]-[リンクの表示 / 非表示] を選択します。

サイトマップでの非表示ファイルの表示または非表示

❖ 縮小 (初期設定) されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で右上隅のオプションメニューをクリックし、[表示]-[サイトマップオプション]-[非表示としてマークされたファイルの表示] を選択します。

サイトマップでの依存ファイルの表示

1 縮小 (初期設定) されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、右上隅のオプションメニューをクリックします。

2 [表示]-[サイトマップオプション]-[依存ファイルの表示] を選択します。

サイトマップのイメージとしての保存

サイトマップをイメージとして保存した後、イメージをイメージエディタで表示したり印刷することができます。

1 縮小 (初期設定) されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で右上隅のオプションメニューをクリックし、[ファイル]-[サイトマップの保存] を選択します。

2 [ファイル名] テキストボックスに名前を入力します。

3 [ファイルタイプ] メニューで、[.bmp] または [.png] を選択します。

4 ファイルの保存場所を選択し、イメージの名前を入力して、[保存] をクリックします。

サイトマップレイアウトの環境設定の設定

サイトマップの表示はカスタマイズできます。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択し、[編集] をクリックします。

2 [詳細設定] タブで、カテゴリとして [サイトマップレイアウト] を選択します。

3 [ホームページ] ボックスで、サイトのホームページのファイルのパスを入力するか、またはフォルダアイコンをクリックしてファイルを参照します。

ホームページはローカルサイトに置く必要があります。[ほーむぺーじはろーかるさいとにおくひつようがあります。] ホームページを指定していない場合や、Dreamweaver でルートに "index.html" または "index.htm" という名前のファイルが見つからない場合は、サイトマップを開くときにホームページを選択するよう Dreamweaver によって要求されます。

4 [列] オプションから選択します。

- [列数] ボックスに、サイトマップウィンドウの各行に表示されるページ数を入力します。
- [列幅] ボックスに、サイトマップの列の幅をピクセル単位で入力します。

5 [アイコンラベル] で、サイトマップ内のドキュメントアイコンにファイル名を表示するか、ページタイトルを表示するかを指定します。

6 [オプション] で、サイトマップに表示するファイルを選択します。

- [非表示としてマークしたファイルの表示] をオンにすると、サイトマップで非表示とマークした HTML ファイルが表示されます。

ページが非表示のときは、その名前とリンクはイタリックで表示されます。

- [依存ファイルの表示] をオンにすると、サイト階層のすべての依存ファイルが表示されます。

依存ファイルとは、メインページがロードされるときブラウザによってロードされるイメージなどの、HTML 以外のコンテンツのことです。

関連項目

48 ページの「サイトのビジュアルマップの操作」

Dreamweaver での Contribute サイトの管理

Contribute サイトの管理

Adobe® Contribute® CS3 は、Web ブラウザと Web ページエディタの両方の機能を備えています。Contribute を使用すると、同僚やクライアントがサイト内のページを参照したり、権限があれば編集や更新を行うこともできます。Contribute ユーザーは、書式設定されたテキストやイメージ、テーブル、リンクなど、基本的な Web コンテンツを追加したり更新することができます。Contribute サイトの管理者は、管理者以外の一般ユーザーがサイト内で行える作業を制限できます

注意：この項は、Contribute 管理者を対象としています。

サイトの管理者は、接続キーを作成して管理者以外のユーザーに送信することにより、そのユーザーにページを編集する権限を付与します。この方法の詳細については、Contribute のヘルプを参照してください。また、Dreamweaver を使用して Contribute サイトへの接続を設定すると、管理者またはサイトデザイナーは、Contribute サイトに接続して Dreamweaver のすべての編集機能を使用することができます。

Contribute は、CPS (Contribute Publishing Server) を使用して、Web サイトに機能を追加します。CPS は、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) や Active Directory などのように、組織のユーザーディレクトリサービスに Contribute を統合できるパブリッシュアプリケーションおよびユーザー管理ツールです。Dreamweaver サイトを Contribute サイトとして有効にすると、リモートサイトに接続するたびに、Dreamweaver によって Contribute の管理設定が読み取られます。Dreamweaver によって CPS が有効になっていることが検出されると、ファイルのロールバックやイベントのログ記録など、一部の CPS 機能が継承されます。

Dreamweaver を使用すると、Contribute サイトのファイルに接続して修正できます。Dreamweaver のほとんどの機能は、Contribute サイトでも他の Web サイトと同じように機能します。ただし、Contribute サイトで Dreamweaver を使用した場合は、ドキュメントの変更履歴や特定のイベントの CPS コンソールへのログ記録など、特定のファイル管理操作が Dreamweaver によって自動的に実行されます。

詳細については、Contribute のヘルプを参照してください。

Contribute サイトのサイト構造とページデザイン

Contribute ユーザーが Web サイトを編集できるようにするには、以下の点に注意してサイトを構成してください。

- 単純なサイト構造にします。フォルダ構造が深くなりすぎないようにします。関連するアイテムは 1 つのフォルダにまとめます。
- サーバー上のフォルダに適切な読み取り / 書き込み権限を設定します。
- フォルダ構造を作成するときにフォルダにインデックスページを追加して、Contribute ユーザーが新しいページを正しいフォルダに配置できるようにします。たとえば、ミーティング議事録を含むページを Contribute ユーザーが作成する場合は、サイトルートフォルダに "meeting_minutes" というフォルダを作成し、そのフォルダにインデックスページを作成します。次に、サイトのメインページからミーティング議事録のインデックスページにリンクを設定します。これで、Contribute ユーザーはそのインデックスページに移動して、そのページからリンクした、特定のミーティングに関する新しい議事録のページを作成できるようになります。
- 各フォルダのインデックスページには、そのフォルダ内にある各コンテンツページとドキュメントへのリンクのリストを用意します。
- ページのデザインはできるだけシンプルにして、装飾は最小限に抑えます。
- HTML タグではなく CSS タグを使用して、CSS スタイルに分かりやすい名前を付けます。Contribute ユーザーが Microsoft Word の標準スタイルセットを使用している場合は、CSS スタイルにも同じ名前を付けます。そうすれば、

ユーザーが Word ドキュメントから情報をコピーして Contribute ページにペーストするときに、スタイルがマッピングされます。

- CSS スタイルを Contribute ユーザーが利用できないようにするには、スタイル名の先頭に mmhide_ を追加します。たとえば、あるページで RightJustified という名前のスタイルを使用していて、Contribute ユーザーがそのスタイルを使用できないようにする場合は、スタイル名を mmhide_RightJustified に変更します。

注意：コードビューでスタイル名に mmhide_ を追加します。[CSS] パネルでは追加できません。

- CSS スタイルの使用をできるだけ少なくして、単純さと明確さを維持します。
- ヘッダーやフッターなどの HTML ページエレメントにサーバーサイドインクルードを使用する場合は、リンクされていない HTML ページを作成し、インクルードファイルへのリンクを挿入します。これで、Contribute ユーザーはそのページにブックマークを設定し、それを使ってインクルードファイルに移動したり、インクルードファイルを編集できるようになります。

関連項目

376 ページの「Dreamweaver テンプレートの作成」

120 ページの「CSS の作成と管理」

325 ページの「サーバーサイドインクルードの使用」

Contribute サイトとのファイルのやり取り

Contribute は、Dreamweaver のチェックイン / チェックアウトと同様のシステムを使用して、指定の Web ページを同時に編集できるユーザーを 1 人のみに制限します。Dreamweaver で Contribute 互換性を有効にすると、Dreamweaver のチェックイン / チェックアウトシステムも自動的に有効になります。

Dreamweaver を使用して Contribute サイトとファイルをやり取りするには、必ず [チェックイン] コマンドおよび [チェックアウト] コマンドを使用します。[チェックイン] および [チェックアウト] コマンドの代わりに [PUT] および [GET] コマンドを使ってファイルを転送すると、Contribute ユーザーがファイルに最近加えた変更を上書きしてしまう可能性があります。

Contribute サイトにファイルをチェックインすると、Dreamweaver によって、以前チェックインしたファイルのバックアップコピーが "_baks" フォルダに作成され、ユーザー名と日付がデザインノートファイルに追加されます。

関連項目

87 ページの「ファイルのチェックインとチェックアウト」

サーバー上での Contribute ファイルおよびフォルダの権限

Contribute には、各ユーザーロールに設定したファイルおよびフォルダ権限を管理する方法が用意されています。ただし、Contribute には、サーバーによって割り当てられる、ファイルやフォルダの読み取りおよび書き込み権限を管理する方法はありません。Dreamweaver では、これらの権限はサーバー上で直接管理できます。

Contribute ユーザーが、ページに表示されるイメージなどの依存ファイルに対するサーバー上の読み取りアクセス権を持っていなければ、依存ファイルの内容は Contribute ウィンドウに表示されません。たとえば、ユーザーがイメージフォルダに対する読み取りアクセス権を持っていなければ、そのフォルダ内のイメージは、Contribute では破損イメージのアイコンとして表示されます。同様に、Dreamweaver のテンプレートは、サイトのルートフォルダにあるサブフォルダに格納されます。したがって、ルートフォルダに対する読み取りアクセス権を持っていない Contribute ユーザーは、テンプレートが適切なフォルダにコピーされていない限り、そのサイトでテンプレートを使用できません。

Dreamweaver サイトを設定する際は、サーバーの "/_mm" フォルダ (ルートフォルダの "_mm" サブフォルダ)、"/Templates" フォルダ、および使用するアセットが保存されているすべてのフォルダに対する読み取りアクセス権をユーザーに付与する必要があります。

セキュリティ上の理由から "/Templates" フォルダに対する読み取りアクセス権をユーザーに付与できない場合でも、Contribute ユーザーがテンプレートにアクセスできるようにすることは可能です。

Contribute の権限の詳細については、Contribute のヘルプの「*Contribute* の使用と管理」を参照してください。

Contribute の特殊ファイル

Contribute では、ビジターには表示されない、さまざまな特殊ファイルが使用されます。

- 共有設定ファイル。わかりにくいファイル名を持った拡張子が CSI のファイルで、サイトのルートフォルダ内にある "_mm" フォルダに格納され、Contribute でサイトの管理に使用する情報が含まれています。
- 旧バージョンのファイル。"_baks" フォルダに格納されています。
- 暫定バージョンのページ。これにより、ユーザーは変更内容をプレビューできます。
- 一時的なロックファイル。特定のページが編集中またはプレビュー中であることを示します。
- デザインノートファイル。サイトのページに関するメタデータが格納されています。

一般に、このような Contribute 特殊ファイルの編集には Dreamweaver を使用しません。これらのファイルは、Dreamweaver によって自動的に管理されます。

このような Contribute 特殊ファイルを、誰でもアクセスできるサーバー上に格納したくない場合は、Contribute ユーザーがページを編集できるステージングサーバーを設定します。ユーザーが編集した Web ページは、ステージングサーバーから Web 上にあるプロダクションサーバーに定期的にコピーします。ステージングサーバーを使用する場合は、Web ページのみをプロダクションサーバーにコピーし、上記の Contribute 特殊ファイルはコピーしないでください。特に、"_mm" および "_baks" フォルダはプロダクションサーバーにコピーしないでください。

注意：アンダースコアで始まるフォルダ内のファイルをビジターに見られないようにサーバーを設定する方法については、Contribute のヘルプの「Web サイトセキュリティ」を参照してください。

ときには、Contribute 特殊ファイルを手動で削除する操作が必要になる場合があります。たとえば、ユーザーがプレビューを終えても、Contribute で一時的なプレビューページを削除できない場合があります。このような場合は、それらの一時的なページを手動で削除する必要があります。一時的なプレビューページには、TMP で始まるファイル名が付いています。

同様に、以前に使用したロックファイルが誤ってサーバー上に放置されているような状況も考えられます。このような場合は、他のユーザーがページを編集できるように、ロックファイルを手動で削除する必要があります。

Contribute で使用するサイトの準備

Contribute ユーザー用に既存の Dreamweaver サイトを準備する場合は、Contribute 互換性を明示的に有効にして Contribute に関連する機能を使用可能にする必要があります。この場合、互換性を有効にするように求めるメッセージが Dreamweaver によって表示されることはありません。ただし、管理者のいる Contribute サイトとして設定されているサイトに接続すると、Contribute 互換性を有効にするように求めるメッセージが Dreamweaver によって表示されます。

注意：Contribute は Dreamweaver と同じコンピュータにインストールし、リモートサイトに接続してから Contribute 互換性を有効にする必要があります。リモートサイトに接続しないと、Dreamweaver は Contribute の管理設定を読み取れないため、CPS またはロールバックが有効になっているかどうかを判断できません。

一部の接続タイプは Contribute 互換性をサポートしていません。接続タイプごとに次のような制限があります。

- リモートサイトへの接続に WebDAV または Microsoft Visual SourceSafe を使用する場合は、Contribute 互換性を有効にすることはできません。これは、Dreamweaver が Contribute サイトに対して使用するデザインノートおよびチェックイン / チェックアウトシステムとの互換性が、これらのソースコントロールシステムにないためです。
- RDS を使用してリモートサイトへ接続する場合は、Contribute 互換性を有効にできますが、Contribute ユーザーとサイトを共有するには、接続をカスタマイズする必要があります。
- ローカルコンピュータを Web サーバーとして使用する場合は、Contribute ユーザーと接続を共有できるように、ローカルフォルダパスだけでなく、そのコンピュータへの FTP またはネットワーク接続を使用してサイトを設定する必要があります。

Contribute 互換性を有効にすると、[デザインノートをアップロードして共有する] オプションを含め、Dreamweaver のデザインノートとチェックイン / チェックアウトシステムも自動的に有効になります。

接続しているリモートサイトで CPS (Contribute Publishing Server) が有効な場合、ファイルのチェックイン、ロールバック、パブリッシュなどのネットワーク操作をトリガするたびに、Dreamweaver から CPS に通知されます。CPS はこれらのイベントをログに記録し、ユーザーは CPS 管理コンソールでログを参照できます。CPS を無効にすると、これらのイベントはログに記録されません。

注意：CPS は Contribute を使用して有効にします。詳細については、Contribute のヘルプの「Contribute の使用と管理」を参照してください。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイトを選択し、[編集] をクリックして、[詳細設定] タブをクリックします。

3 左の [カテゴリ] リストから [Contribute] カテゴリを選択し、[Contribute 互換性を有効化] を選択します。

4 デザインノートとチェックイン / チェックアウトを有効にする必要があることを示すダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

5 チェックイン / チェックアウトの連絡先情報を入力していない場合は、ダイアログボックスに名前と電子メールアドレスを入力し、[OK] をクリックします。[サイト定義] ダイアログボックスに、ロールバックのステータス、CPS のステータス、[サイトルート URL] テキストボックス、および [Web サイトの管理] ボタンが表示されます。

Contribute でロールバックが有効になっている場合、Dreamweaver で変更する前のバージョンにファイルをロールバックできます。

6 [サイトルート URL] テキストボックスの URL を確認し、正しくない場合は修正します。Dreamweaver は、ユーザーが指定した他のサイト定義情報を基にしてサイトルート URL を作成しますが、URL が正しく作成されない場合もあります。

7 [テスト] ボタンをクリックして、正しい URL が入力されたかどうかを確認します。

注意：接続キーを送信するか、Contribute サイトの管理タスクを実行する準備が整っている場合は、残りの手順を省略してください。

8 [Contribute でサイトを管理] をクリックします。

9 [OK] をクリックし、[終了] をクリックします。

関連項目

94 ページの「ファイルのロールバック (Contribute ユーザー)」

Dreamweaver を使用した Contribute サイトの管理

Contribute 互換性を有効にすると、Dreamweaver を使用して Contribute を起動し、サイトの管理タスクを実行できるようになります。

注意：Contribute は Dreamweaver と同じコンピュータにインストールしておく必要があります。

Contribute サイトの管理者は、次のタスクを実行できます。

- サイト全体の管理設定を変更する。

Contribute の管理設定は、Web サイトのすべてのユーザーに適用される設定の集まりです。これらの設定により、Contribute を微調整して、使いやすくすることができます。

- Contribute でユーザーロールに割り当てられた権限を変更する。
- Contribute ユーザーを設定する。

Contribute ユーザーがサイトに接続するには、サイトに関する特定の情報が必要です。このような情報はすべて、" 接続キー " というファイルにパッケージ化して Contribute ユーザーに送信できます。

注意：接続キーは、Dreamweaver で書き出されたサイトファイルとは異なります。

ページの編集に必要な接続情報を Contribute ユーザーに提供するには、Dreamweaver を使用してサイトの基本的なフォルダ階層を作成し、サイトに必要なテンプレートと CSS スタイルシートを作成する必要があります。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイトを選択し、[編集] をクリックして、[詳細設定] タブをクリックします。

3 左の [カテゴリ] リストから [Contribute] カテゴリを選択します。

4 [Contribute でサイトを管理] ボタンをクリックします。

注意：Contribute 互換性を有効にしていない場合、このボタンは表示されません。

5 管理者のパスワードを入力するよう求められた場合は、管理者のパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

[Web サイトの管理] ダイアログボックスが表示されます。

- 管理設定を変更するには、左側のリストからカテゴリを選択します。
- ロール設定を変更するには、[ユーザーと役割] カテゴリで [役割の設定を編集] をクリックし、必要に応じて変更を行います。
- ユーザーを設定するために接続キーを送信するには、[ユーザーと役割] カテゴリで [接続キーを送信] をクリックし、接続ウィザードを完了します。

6 [閉じる] をクリックし、[OK] をクリックして、[終了] をクリックします。

管理設定、ユーザーロール、接続キーの詳細については、Contribute のヘルプを参照してください。

関連項目

47 ページの「サイトの設定の読み込みおよび書き出し」

Contribute サイトにおけるリモートファイルの削除、移動、名前の変更

Contribute サイトをホストしているリモートサーバーからのファイルの削除は、Dreamweaver サイトのサーバーからファイルを削除する操作とほぼ同じです。ただし、Contribute サイトからファイルを削除しようとすると、そのファイルの旧バージョンをすべて削除するかどうかの確認を Dreamweaver から求められます。旧バージョンを維持するように選択すると、Dreamweaver によって現在のバージョンのコピーが "_baks" フォルダに保存されるので、後で復元できます。

Contribute サイトでのリモートファイルの名前の変更や、別のフォルダへの移動は、Dreamweaver サイトでの操作と同じです。Contribute サイトでは、Dreamweaver によっても、"_baks" フォルダ内に保存されている旧バージョンのファイル名の変更や他のフォルダへの移動が行われます。

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) のリモートペインでファイルを選択し、BackSpace キー (Windows) または Delete キー (Macintosh) を押します。

ファイルを削除することを確認するダイアログボックスが表示されます。

2 確認のダイアログボックスで、次の操作を行います。

- 現在のバージョンのファイルだけでなく旧バージョンもすべて削除するには、[ロールバックバージョンの削除] オプションをオンにします。
- 旧バージョンをサーバー上に残すには、[ロールバックバージョンの削除] オプションをオフにします。

3 [はい] をクリックして、ファイルを削除します。

ルートフォルダにアクセスせずにテンプレートにアクセスする Contribute ユーザーの有効化

Contribute サイトでは、基礎になるファイルおよびフォルダ権限をサーバー上で直接管理できます。セキュリティ上の理由で、"/Templates" フォルダへの読み取りアクセス権をユーザーに付与できない場合でも、ユーザーがテンプレートを使用できるようにすることは可能です。

1 Contribute サイトのルートフォルダがユーザーにルートとして表示されるように設定します。

2 [ファイル] パネルを使用して、テンプレートフォルダをメインサイトのルートフォルダから Contribute サイトのルートフォルダに手動でコピーします。

3 メインサイトのテンプレートを更新したら、必要に応じて、変更したテンプレートを適切なサブフォルダに再コピーします。

このような操作を行った場合は、サブフォルダでサイトルート相対リンクを使用しないでください。サイトルート相対リンクは、Dreamweaver で定義したルートフォルダではなく、サーバー上のメインルートフォルダを基準とします。Contribute ユーザーはサイトルート相対リンクを作成できません。

Contribute ページ内のリンクが破損しているように見える場合は、フォルダ権限に問題がある可能性があります。特に、Contribute ユーザーのルートフォルダ外のページにリンクしていると、問題が発生する可能性が高くなります。このような場合は、サーバー上にある各フォルダの読み取り / 書き込み権限を確認してください。

関連項目

267 ページの「ドキュメントの場所およびパス」

Contribute サイトのトラブルシューティング

Contribute サイトのリモートファイルがチェックアウトされているように見えても、実際にはユーザーのコンピュータ上にあるファイルはロックされていないことがあります。この場合、そのファイルのロックを解除すると、ユーザーはファイルを編集できるようになります。

Contribute サイトの管理タスクを行う各ボタンをクリックすると、リモートサイトに接続できるかどうか、サイトに設定したサイトルート URL が正しいかどうかが、Dreamweaver によって検証されます。Dreamweaver が接続できない場合、または URL が無効な場合は、エラーメッセージが表示されます。

管理ツールが適切に機能しない場合は、"_mm" フォルダに問題がある可能性があります。

Contribute サイトのファイルのロック解除

注意：以下の手順を実行する前に、ファイルが実際にチェックアウトされていないことを確認してください。Contribute ユーザーが編集中のファイルのロックを解除すると、複数のユーザーが同時にファイルを編集してしまう可能性があります。

1 次のいずれかの操作を実行します。

- ドキュメントウィンドウでファイルを開き、[サイト]-[チェックアウトの取り消し] を選択します。
- [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、[チェックアウトの取り消し] を選択します。

ファイルをチェックアウトしたユーザーを示し、そのファイルのロックを解除するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。

2 ダイアログボックスが表示されたら、[はい] をクリックして確認します。

サーバー上で、そのファイルのロックが解除されます。

Contribute サイトへの接続に関する問題のトラブルシューティング

1 [サイト定義] ダイアログボックスの [Contribute] カテゴリで [サイトルート URL] の URL を検証するには、ブラウザでその URL を開き、正しいページが開くかどうかを確認します。

2 [サイト定義] ダイアログボックスの [リモート情報] カテゴリで [テスト] ボタンをクリックして、サイトに接続できるかどうかを確認します。

3 URL が正しいにもかかわらず、[テスト] ボタンをクリックするとエラーメッセージが表示される場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Contribute 管理ツールのトラブルシューティング

1 サーバー上で、"_mm" フォルダに対する読み取り / 書き込み権限と実行権限 (必要な場合) があることを確認します。

2 拡張子が CSI の共有設定ファイルが "_mm" フォルダにあることを確認します。

3 このフォルダにない場合は、接続ウィザード (Windows) または接続アシスタント (Macintosh) を使用してサイトへの接続を作成し、サイトの管理者になります。管理者になると、共有設定ファイルが自動的に作成されます。既存の Contribute Web サイトの管理者になる方法の詳細については、Contribute のヘルプの「**Contribute** の使用と管理」を参照してください。

サイトを定義しないファイル操作

サイトを定義しない FTP サーバーへの接続

Dreamweaver サイトを作成することなく、FTP サーバーまたは RDS サーバーへ接続してドキュメントを操作することができます。Dreamweaver サイトを作成せずにファイルを操作する場合、リンクチェックなどのサイト全体に対する操作は実行できなくなります。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックし、[FTP & RDS サーバー] を選択します。

3 [名前] ボックスに、サーバー接続の名前を入力します。これは、[ファイル] パネル上部のポップアップメニューに表示される名前になります。

4 [アクセスタイプ] メニューから [FTP] を選択します。

5 Web サイトのファイルのアップロード先となる FTP ホストのホスト名を入力します。

FTP ホスト名は、"ftp.mindspring.com" など、コンピュータシステムの完全なインターネット名にします。余分なテキストを付けずに完全なホスト名を入力してください。特に、ホスト名の前にプロトコル名を追加しないでください。

注意：FTP ホストが不明の場合は、ISP に問い合わせてください。

6 一般ユーザーに表示されるドキュメントが格納されているリモートサイトのホストディレクトリの名前を入力します。

7 FTP サーバーへの接続に使用するログイン名とパスワードを入力し、[テスト] をクリックしてログイン名とパスワードをテストします。

8 Dreamweaver でパスワードを保存しておくには、[保存] チェックボックスをオンにします。このオプションを選択しなかった場合、リモートサーバーに接続するたびに、パスワードの入力を要求する画面が Dreamweaver によって表示されます。

9 ファイヤーウォール設定でパッシブ FTP を使用する必要がある場合は、[FTP Passive モードを使用] をオンにします。

パッシブ FTP を使用すると、リモートサーバーを必要とせずに、ローカルソフトウェアで FTP 接続ができます。パッシブ FTP が使用されているかどうかがわからない場合は、システム管理者に確認してください。

10 ファイヤーウォールを経由してリモートサーバーに接続する場合は、[ファイヤーウォールの使用] をオンにし、次に [ファイヤーウォールの設定] をクリックしてファイヤーウォールのホストまたはポートを編集します。

11 セキュリティで保護された FTP 認証を使用するために、[Secure FTP (SFTP) を使用] をオンにして、[OK] をクリックします。

SFTP では暗号化と公開キーを使用して、テストサーバーへの接続を保護します。

注意：テストサーバーで SFTP サーバーを実行している必要があります。

12 [OK] をクリックします。[ファイル] パネルに接続先のリモートサーバーフォルダの内容が表示され、サーバー名がパネル上部のポップアップメニューに表示されます。

関連項目

40 ページの「リモートフォルダの設定」

サイトを定義しない RDS サーバーへの接続

Dreamweaver サイトを作成することなく、FTP サーバーまたは RDS サーバーへ接続してドキュメントを操作することができます。Dreamweaver サイトを作成せずにファイルを操作する場合、リンクチェックなどのサイト全体に対する操作は実行できなくなります。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [新規作成] をクリックし、[FTP & RDS サーバー] を選択します。

3 サーバー名を [説明] テキストフィールドに入力します。これは、[ファイル] パネル上部のメニューに表示される名前になります。

4 [アクセスタイプ] メニューから [RDS] を選択します。

5 ユーザーが Web アプリケーションを開くときにブラウザに入力する URL を、ファイル名の部分を省いて入力します。

たとえば、アプリケーションの URL が www.macromedia.com/mycoolapp/start.jsp だとします。この場合、URL 接頭辞として「www.adobe.com/mycoolapp/」と入力します。

6 [設定] ボタンをクリックし、アクセス情報を設定します。

7 [RDS サーバーの設定] ダイアログボックスを設定し、[OK] をクリックします。

関連項目

40 ページの「リモートフォルダの設定」

[基本] タブのオプション

[基本] タブの [ファイルの編集] オプションの設定

サイト定義ウィザードには、Dreamweaver サイトの設定で役に立つ、[ファイルの編集]、[ファイルのテスト]、および [ファイルの共有] の 3 つのセクションがあります。各セクションには、選択した設定に応じて表示される画面が複数あります。ダイアログボックスの上部に表示されるボールドのセクション名は、現在、設定プロセスのどの段階であるかを示します。3 つのセクションすべてでフォルダを設定する必要はありません。ウィザードの質問に答えれば、サイトの要件を決定できます。

このダイアログボックスでは、Dreamweaver サイトに名前を付け、その URL を指定します。

関連項目

37 ページの「Dreamweaver サイトについて」

Dreamweaver サイトの命名

❖ Dreamweaver サイトの名前を入力します。

サイトの URL の指定

❖ Dreamweaver サイトの URL (HTTP アドレス) を入力します。

Dreamweaver は、このアドレスを使用して、サイトルートの相対リンクがリモートサーバー上で動作することを確認します。リモートサーバーは、サイトルートとして異なるフォルダを持つ場合があります。たとえば、リンク先がハードディスクの C:¥Sales¥images¥ フォルダ (Sales はローカルルートフォルダ) にあるイメージファイルで、作成したサイトの URL が http://www.mysite.com/SalesApp/ (SalesApp はリモートルートフォルダ) である場合は、この URL を [HTTP アドレス] テキストボックスに入力して、リモートサーバー上でリンクしたイメージへのパスが /SalesApp/images/ となるようにします。

[基本] タブの [Editing Files Part 2] オプションの設定

このダイアログボックスでは、Web アプリケーションを構築するかどうかを指定します。Web アプリケーションは、ユーザー、Web ページ、およびデータベースを含む Web サーバー上の各種のリソースとインタラクティブに作用する Web ページの集合体です。

Web アプリケーションを構築している場合は、Web サーバー上で実行されるサーバーテクノロジーを選択する必要があります。

1 Web アプリケーションを作成するためのサーバーテクノロジーを使用しない場合は [いいえ] を、Web アプリケーションを作成するためのサーバーテクノロジーを使用する場合は [はい] を選択します。

2 [はい] を選択した場合は、サーバーテクノロジーを選択します。

Dreamweaver では、ColdFusion、ASP.NET、ASP、JSP、PHP の 5 つのサーバーテクノロジーを使用して Web アプリケーションを構築できます。各サーバーテクノロジーは、Dreamweaver のドキュメントタイプに対応しています。構築する Web アプリケーションにどのテクノロジーを選択するかは、各種スクリプト言語、また使用する予定のアプリケーションサーバーにどれくらい精通しているかなど、いくつかの要因が関係します。

関連項目

475 ページの「アプリケーションサーバーの選択」

[基本] タブの [Editing Files Part 3] オプションの設定

このダイアログボックスでは、開発環境を選択します。

1 開発中のファイルを操作する方法を選択します。

2 ファイルを格納する場所を入力するか、フォルダアイコンをクリックしてフォルダを参照して選択します。

これが Dreamweaver サイトの作業ディレクトリになります。ここには Dreamweaver サイトの " 作成中 " ファイルを格納します。Dreamweaver の [ファイル] パネルで、このフォルダはローカルサイトとして表示されます。

関連項目

37 ページの「ローカルフォルダとリモートフォルダの構造について」

[基本] タブの [ファイルのテスト] オプションの設定 (URL 接頭辞)

前述のプロセスでサーバーテクノロジーを選択すると、このダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、Dreamweaver がテストサーバーを使用して、作業中にデータを表示したりデータベースに接続することができるように、URL 接頭辞を指定します。URL 接頭辞は、ドメイン名と、Web サイトのホームディレクトリにある任意のサブディレクトリまたは仮想ディレクトリで構成します。

1 ユーザーが Web アプリケーションを開くときにブラウザに入力する URL を、ファイル名の部分を省いて入力します。

たとえば、アプリケーションの URL が www.adobe.com/mycoolapp/start.jsp だとします。この場合、URL 接頭辞として「www.adobe.com/mycoolapp/」と入力します。

Web サーバーと同じコンピュータ上で Dreamweaver を実行している場合は、ドメイン名の代わりに "localhost" を使用できます。たとえば、アプリケーションの URL が buttercup_pc/mycoolapp/start.jsp だとします。この場合は、URL の接頭辞として「http://localhost/mycoolapp/」を入力できます。

2 [URL をテスト] をクリックし、URL が機能していることを確認します。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

46 ページの「テストサーバーの URL 接頭辞について」

[基本] タブの [ファイルのテスト] オプションの設定 (リモートアクセス)

このダイアログボックスでは、Dreamweaver からテストサーバーへのアクセス方法を選択します。

Dreamweaver は、作業中に動的コンテンツを生成および表示するためにテストサーバーと連動して動作します。ローカルコンピュータ、開発サーバー、ステージングサーバー、またはプロダクションサーバーのいずれかを、テストサーバーとすることができます。開発する動的ページを処理することができれば、どのサーバーを選択してもかまいません。

❖ ポップアップメニューでアクセス方法を選択し、該当のテキストボックスに必要な情報を入力します。

なし サーバーにサイトをアップロードしない場合は、この初期設定のままにします。

FTP FTP を使用して Web サーバーに接続する場合は、この設定を使用します。

ローカル / ネットワーク ネットワークフォルダにアクセスする場合、またはローカルコンピュータ上にファイルを格納しているかローカルコンピュータ上でテストサーバーを実行している場合に、この設定を使用します。

RDS RDS を使用して Web サーバーに接続する場合、この設定を選択します。このアクセス方法の場合は、ColdFusion を実行しているコンピュータ上にリモートフォルダが存在している必要があります。

Microsoft Visual SourceSafe Microsoft Visual SourceSafe を使用して Web サーバーに接続する場合に使用します。この方法は Windows でのみサポートされます。SourceSafe を使用するには、Microsoft Visual SourceSafe Client version 6 をインストールしておく必要があります。

WebDAV WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning : 標準リソースマネージメント) プロトコルを使用して Web サーバーに接続する場合に使用します。

このアクセス方法では、Microsoft Internet Information Server (IIS) 5.0 や適切に構成した Apache Web サーバーなど、このプロトコルをサポートするサーバーが必要です。

関連項目

40 ページの「リモートフォルダの設定」

[基本] タブのリモートフォルダ設定オプション

このダイアログボックスでは、リモートサーバーフォルダを設定するかどうかを決定します。

環境に応じて、このフォルダは、テスト用、共同作業用、実作業用、または配布用のファイルの格納などさまざまな用途に使用します。通常、リモートフォルダは Web サーバーを実行するコンピュータ上に配置します。

Dreamweaver の [ファイル] パネルで、このフォルダはリモートサイトとして表示されます。リモートフォルダを使用すると、ローカルディスクと Web サーバーの間でファイルの転送が可能になり、Dreamweaver サイトでファイルを容易に共有し、管理できるようになります。

❖ リモートフォルダを設定する場合は [はい] を選択し、リモートフォルダの設定を省略する場合は [いいえ] を選択します。

関連項目

37 ページの「ローカルフォルダとリモートフォルダの構造について」

[基本] タブの [ファイルの共有] オプションの設定 (リモートアクセス)

このダイアログボックスでは、Dreamweaver からテストサーバーへのアクセス方法を選択します。

Dreamweaver は、作業中に動的コンテンツを生成および表示するためにテストサーバーと連動して動作します。ローカルコンピュータ、開発サーバー、ステージングサーバー、またはプロダクションサーバーのいずれかを、テストサーバーとすることができます。開発する動的ページを処理することができれば、どのサーバーを選択してもかまいません。

❖ ポップアップメニューでアクセス方法を選択し、該当のテキストボックスに必要な情報を入力します。

なし サーバーにサイトをアップロードしない場合は、この初期設定のままにします。

FTP FTP を使用して Web サーバーに接続する場合は、この設定を使用します。

ローカル / ネットワーク ネットワークフォルダにアクセスする場合、またはローカルコンピュータ上にファイルを格納しているかローカルコンピュータ上でテストサーバーを実行している場合に、この設定を使用します。

RDS RDS を使用して Web サーバーに接続する場合に使用します。このアクセス方法の場合は、ColdFusion を実行しているコンピュータ上にリモートフォルダが存在している必要があります。

Microsoft Visual SourceSafe Microsoft Visual SourceSafe を使用して Web サーバーに接続する場合に使用します。この方法は Windows でのみサポートされます。SourceSafe を使用するには、Microsoft Visual SourceSafe Client version 6 をインストールしておく必要があります。

WebDAV WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning : 標準リソースマネージメント) プロトコルを使用して Web サーバーに接続する場合に使用します。

このアクセス方法では、Microsoft Internet Information Server (IIS) 5.0 や適切に構成した Apache Web サーバーなど、このプロトコルをサポートするサーバーが必要です。

関連項目

40 ページの「リモートフォルダの設定」

[基本] タブの [ファイルの共有] オプション (チェックイン / チェックアウト)

このダイアログボックスでは、共同作業環境で作業している場合 (または 1 人で複数のコンピュータを使用している場合) のファイルのチェックイン / チェックアウトシステムを設定します。

ファイルをチェックアウトするとサーバー上でファイルを使用できなくなり、他のチームメンバーは Dreamweaver を使用してそのファイルを編集できなくなります。ファイルをチェックインすると、他のメンバーがそのファイルをチェックアウトして編集できるようになります。

1 グループで共同作業しているか 1 人で数台の異なるコンピュータを使って作業している場合は [チェックイン/チェックアウト機能を有効にする] をオンにしてチェックイン / チェックアウトを使用可能にし、この機能を使用不可にするには [チェックイン / チェックアウト機能を有効にしない] をオンにします。

このオプションは、ファイルを編集するためにチェックアウトしたことを他のユーザーに知らせたい場合や、他のマシンにより新しいバージョンのファイルがあることがわかるように設定したいときに便利です。

2 [ファイル] パネルからファイルを開いたときに、そのファイルが自動的にチェックアウトされるようにする場合は [Dreamweaver Should Check It Out] をオンにします。自動的にチェックアウトされないようにする場合はオフにします。

注意 : [ファイル]-[開く] を使ってファイルを開くと、このオプションがオンになっていてもファイルはチェックアウトされません。

3 名前を入力します。

[ファイル] パネルのチェックアウトしたファイルの横に入力した名前が表示されます。これにより、チームメンバーはファイルを共有する場合に情報を交換することができます。

数台のコンピュータを使って単独で作業をしている場合、各マシンで異なるチェックアウト名を使用してください (たとえば AmyR-HomeMac と AmyR-OfficePC など)。これで、チェックインするのを忘れた場合に、ファイルの最新バージョンがどこにあるかがわかります。

4 電子メールアドレスを入力します。

電子メールアドレスを入力してファイルをチェックアウトすると、[ファイル] パネル内で、チェックアウトしたユーザーの名前が、青いアンダーラインの付いたリンクとしてチェックアウトしたファイルの横に表示されます。チームメンバーがこのリンクをクリックすると、初期設定の電子メールプログラムで、電子メールアドレス、ファイルとサイト名に対応する件名が入力された新規メッセージが開きます。

関連項目

87 ページの「ファイルのチェックインとチェックアウト」

[基本] タブの [サマリー] オプション

このページには、サイトに対して選択した設定が表示されます。

サイトの設定を終了するには、以下のいずれかの操作を行います。

- 前のページに戻って設定を変更するには、[戻る] ボタンをクリックします。
- 設定が終了し、Dreamweaver でサイトを作成するには、[終了] ボタンをクリックします。

[終了] をクリックすると、Dreamweaver によってサイトが作成され、[ファイル] パネルに表示されます。

- Dreamweaver でサイトを作成しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

第 4 章：ファイルの作成と管理

Web ページの作成に加え、Web サイトに属するすべてのファイルおよびアセットを整理できます。ファイルの作成、管理、および同期、ファイルのチェックインとチェックアウト、さまざまなブラウザでのサイトの動作テストなどを行うことができます。

ドキュメントを作成して開く

Dreamweaver ドキュメントの作成について

Dreamweaver には、各種 Web ドキュメントの操作に適した柔軟な環境が用意されています。HTML ドキュメントだけでなく、CFML (ColdFusion Markup Language)、ASP、JavaScript、CSS (Cascading Style Sheets) など、テキストベースの各種ドキュメントを作成および起動できます。Visual Basic、.NET、C#、Java などのソースコードファイルにも対応しています。

Dreamweaver には、新規ドキュメントを作成するためのいくつかのオプションがあります。次のいずれかのドキュメントを作成することができます。

- 新しい空白のドキュメントまたはテンプレート
- 30 種類を超える CSS ベースのページレイアウトなど、Dreamweaver に付属の定義済みページレイアウトに基づくドキュメント
- 既存のテンプレートに基づくドキュメント

ドキュメントの環境設定を指定することもできます。たとえば、頻繁に使用するドキュメントタイプが決まっている場合は、新しいページを作成するときの初期設定として、そのドキュメントタイプを設定することができます。

メタタグ、ドキュメントタイトル、背景色などのドキュメントプロパティ、およびその他のさまざまなページプロパティをデザインビューまたはコードビューで簡単に定義できます。

Dreamweaver のファイルタイプ

Dreamweaver では、さまざまなタイプのファイルを扱うことができます。主に扱うファイルの種類は、HTML ファイルです。HTML (HyperText Markup Language) ファイルは、Web ページをブラウザで表示するためのタグベースの言語で記載されています。HTML ファイルを保存するときは、拡張子 .html または .htm を付けます。Dreamweaver の初期設定では、ファイルを保存するときに拡張子 .html が使用されます。

このほかに Dreamweaver でよく使用されるファイルタイプを次に示します。

CSS CSS (Cascading Style Sheet) ファイルの拡張子は .css です。HTML コンテンツをフォーマットし、さまざまなページエレメントの配置を制御するために使用されます。

GIF GIF (Graphics Interchange Format) ファイルの拡張子は .gif です。GIF フォーマットは、漫画、ロゴ、透明部分を含むグラフィック、およびアニメーションによく用いられている Web グラフィックフォーマットです。GIF では、最大 256 色の画像を保存できます。

JPEG JPEG (Joint Photographic Experts Group) ファイル (このフォーマットを作成した組織にちなんで命名されました) の拡張子は .jpg です。一般に、写真やハイカラーのイメージに使用されます。JPEG フォーマットが最も適しているのは、デジタル写真やスキャンされた写真、テクスチャを使用するイメージ、カラーグラデーションのあるイメージ、および 256 を超える色数を必要とするイメージです。

XML XML (eXtensible Markup Language) ファイルの拡張子は .xml です。このファイルに記録されているデータは、そのままでは表示されませんが、XSL (eXtensible Stylesheet Language) を使用してフォーマットできます。

XSL XSL (eXtensible Stylesheet Language) ファイルの拡張子は .xsl または .xslt です。Web ページ上に表示する XML データのスタイルを設定するために使用します。

CFML CFML (ColdFusion Markup Language) ファイルの拡張子は .cfm です。このファイルは、ダイナミックページの処理に使用されます。

ASPX ASP.NET ファイルの拡張子は .aspx で、これはダイナミックページの処理に使用されます。

PHP Hypertext Preprocessor ファイルの拡張子は .php で、これは動的ページの処理に使用されます。

関連項目

400 ページの「XML データの表示」

583 ページの「アプリケーションのビジュアル開発」

116 ページの「カスケーディングスタイルシートについて」

空白ページの作成

定義済みの CSS レイアウトが含まれたページを作成することも、空白のままのページを作成し、独自のレイアウトを作成することもできます。

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスの [空白ページ] カテゴリにあるページタイプ列で作成するページの種類を選択します。たとえば、プレーン HTML ページを作成する場合は HTML を、ColdFusion ページを作成する場合は ColdFusion を選択します。

3 新しいページに CSS レイアウトを使用する場合は、レイアウト列から定義済みの CSS レイアウトを選択します。CSS レイアウトを使用しない場合は、[なし] を指定します。選択に基づき、ダイアログボックスの右側に選択レイアウトのプレビューと説明が表示されます。

定義済みの CSS レイアウトには、次の種類の列が用意されています。

固定 列幅をピクセルで指定します。ブラウザのサイズやサイトのビジターのテキスト設定に関係なく、列のサイズが固定されます。

伸縮自在 列の幅をテキストのサイズに相対させた測定単位 (ems) で指定します。サイトのビジターがテキスト設定を変更すると、デザインが適合されますが、ブラウザのウィンドウサイズが変更されても、デザインは適合されません。

リキッド 列の幅をサイトのビジターのブラウザ幅に対する割合で指定します。サイトのビジターがブラウザの幅を拡大縮小すると、デザインが適合されますが、サイトのビジターがテキスト設定を変更しても、デザインは適合されません。

ハイブリッド 前述の 3 つのオプションを組み合わせた列です。たとえば、ブラウザのサイズに応じて拡大縮小されるリキッドのメイン列と、サイトのビジターのテキスト設定で指定されたサイズに応じて拡大縮小される右側の伸縮自在の列で構成される 2 列のハイブリッド右スライドバーレイアウトにすることができます。

4 [DocType] ポップアップメニューでドキュメントのタイプを選択します。たいていの場合は、初期設定の選択 XHTML 1.0 Transitional を使用できます。

[DocType (DTD)] メニューで XHTML のドキュメントタイプを選択すると、XHTML に対応するページにできます。たとえば、メニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 互換にできます。XHTML (Extensible Hypertext Markup Language) は、HTML を XML に適合するように再定義したものです。一般的には、XHTML を使用すると、Web ドキュメントの下位互換性および将来的な互換性を保ちながら、XML の利点も活用できます。

注意：XHTML の詳細については、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイトを参照してください。このサイトには、XHTML 1.1 - Module-Based XHTML (www.w3.org/TR/xhtml11/) および XHTML 1.0 (www.w3c.org/TR/xhtml1/) の仕様があります。また、XHTML バリデータサイトには、Web ベースのファイル (http://validator.w3.org/) とローカルファイル (http://validator.w3.org/file-upload.html) があります。

5 レイアウト列で CSS レイアウトを選択した場合は、[CSS のレイアウト] ポップアップメニューでレイアウトの CSS の場所を選択します。

ヘッドに追加 レイアウトの CSS を作成中のページのヘッドに追加します。

新規ファイルを作成 レイアウトの CSS を新しい外部 CSS ファイルに追加し、新しいスタイルシートを作成中のページに関連付けます。

既存ファイルへリンク レイアウトに必要な CSS ルールがすでに含まれている既存の CSS ファイルを指定できます。この場合は、CSS ファイルの関連付けペインの上にある [スタイルシートを添付] アイコンをクリックし、既存の CSS スタイルシートを選択します。このオプションは、複数のドキュメントに同じ CSS レイアウト (CSS ルールは 1 つのファイルに含まれます) を使用する場合に特に有用です。

6 (オプション) ページの作成時に、CSS レイアウトとは無関係の新しいページに CSS スタイルシートを関連付けることもできます。この場合は、CSS ファイルの関連付けペインの上にある [スタイルシートを添付] アイコンをクリックし、CSS スタイルシートを選択します。

7 ドキュメントタイプ、エンコード、ファイル拡張子などの初期設定のドキュメント環境設定を設定するには、[環境設定] オプションをクリックします。

8 さまざまなページデザインコンテンツをダウンロードできる Dreamweaver Exchange を起動するには、[コンテンツの追加] リンクをクリックします。

9 [作成] ボタンをクリックします。

10 新しいドキュメントを保存します ([ファイル]-[保存])。

11 表示されたダイアログボックスで、ファイルを保存するフォルダに移動します。

Dreamweaver サイトにファイルを保存することをお勧めします。

12 [ファイル名] テキストボックスに、ファイル名を入力します。

ドキュメントを保存するときは、ファイル名やフォルダ名にスペースや特殊記号を使用しないでください。また、数字で始まるファイル名も使用しないでください。特に、特殊文字 (é、ç、¥ など) やコロン、スラッシュ、ピリオドなどは、リモートサーバーに送信するファイルの名前には使用しないでください。多くのサーバーで、これらの記号はアップロード時に変換されるため、ファイルへのリンクが失われてしまいます。

関連項目

289 ページの「Dreamweaver によって生成された XHTML コードについて」

139 ページの「CSS を使用したページのレイアウト」

70 ページの「初期設定のドキュメントタイプおよびエンコーディングの設定」

空白テンプレートの作成

[新規ドキュメント] ダイアログボックスでは、Dreamweaver テンプレートを作成できます。初期設定では、テンプレートはサイトの "Templates" フォルダに保存されます。

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[空白のテンプレート] カテゴリを選択します。

3 ページタイプ列で、作成するページの種類を選択します。たとえば、プレーン HTML テンプレートを作成する場合は HTML を、ColdFusion テンプレートを作成する場合は ColdFusion を選択します。

4 新しいページに CSS レイアウトを使用する場合は、レイアウト列から定義済みの CSS レイアウトを選択します。CSS レイアウトを使用しない場合は、[なし] を指定します。選択に基づき、ダイアログボックスの右側に選択レイアウトのプレビューと説明が表示されます。

定義済みの CSS レイアウトには、次の種類の列が用意されています。

固定 列幅をピクセルで指定します。ブラウザのサイズやサイトのビジターのテキスト設定に関係なく、列のサイズが固定されます。

伸縮自在 列の幅をテキストのサイズに相対させた測定単位 (ems) で指定します。サイトのビジターがテキスト設定を変更すると、デザインが適合されますが、ブラウザのウィンドウサイズが変更されても、デザインは適合されません。

リキッド 列の幅をサイトのビジターのブラウザ幅に対する割合で指定します。サイトのビジターがブラウザの幅を拡大縮小すると、デザインが適合されますが、サイトのビジターがテキスト設定を変更しても、デザインは適合されません。

ハイブリッド 前述の 3 つのオプションを組み合わせた列です。たとえば、2 列をハイブリッドに、右にサイドバーレイアウトは、ブラウザのサイズに合わせて拡大縮小されるリキッドのメイン列と、サイトビジターのテキスト設定のサイズに合わせて拡大縮小される右側の伸縮自在の列で構成されます。

5 [DocType] ポップアップメニューでドキュメントのタイプを選択します。たいていの場合は、初期設定の選択 XHTML 1.0 Transitional のままにすることになります。

[DocType (DTD)] メニューで XHTML のドキュメントタイプを選択すると、XHTML に対応するページにできます。たとえば、メニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 互換にできます。XHTML (Extensible Hypertext Markup Language) は、HTML を XML に適合するように再定義したものです。一般的には、XHTML を使用すると、Web ドキュメントの下位互換性および将来的な互換性を保ちながら、XML の利点も活用できます。

注意：XHTML の詳細については、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイトを参照してください。このサイトには、XHTML 1.1 - Module-Based XHTML (www.w3.org/TR/xhtml11/) および XHTML 1.0 (www.w3c.org/TR/xhtml1/) の仕様があります。また、XHTML バリデータサイトには、Web ベースのファイル (http://validator.w3.org/) とローカルファイル (http://validator.w3.org/file-upload.html) があります。

6 レイアウト列で CSS レイアウトを選択した場合は、[CSS のレイアウト] ポップアップメニューでレイアウトの CSS の場所を選択します。

ヘッドに追加 レイアウトの CSS を作成中のページのヘッドに追加します。

新規ファイルを作成 レイアウトの CSS を新しい外部 CSS スタイルシートに追加し、新しいスタイルシートを作成中のページに関連付けます。

既存ファイルへリンク レイアウトに必要な CSS ルールがすでに含まれている既存の CSS ファイルを指定できます。この場合は、CSS ファイルの関連付けペインの上にある [スタイルシートを添付] アイコンをクリックし、既存の CSS スタイルシートを選択します。このオプションは、複数のドキュメントに同じ CSS レイアウト (CSS ルールは 1 つのファイルに含まれます) を使用する場合に特に有用です。

7 (オプション) ページの作成時に、CSS レイアウトとは無関係の新しいページに CSS スタイルシートを関連付けることもできます。この場合は、CSS ファイルの関連付けペインの上にある [スタイルシートを添付] アイコンをクリックし、CSS スタイルシートを選択します。

8 ドキュメントタイプ、エンコード、ファイル拡張子などの初期設定のドキュメント環境設定を設定するには、[環境設定] オプションをクリックします。

9 さまざまなページデザインコンテンツをダウンロードできる Dreamweaver Exchange を起動するには、[コンテンツの追加] リンクをクリックします。

10 [作成] ボタンをクリックします。

11 新しいドキュメントを保存します ([ファイル]-[保存])。テンプレートに編集可能な領域をまだ追加していない場合は、ドキュメントに編集可能な領域がないことを通知するダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

12 [テンプレートとして保存] ダイアログボックスで、テンプレートを保存するサイトを選択し、[詳細] テキストボックスにテンプレートの説明を入力します。

13 [ファイル名] テキストボックスに、新しいテンプレートの名前を入力します。テンプレート名にファイルの拡張子を付ける必要はありません。[保存] をクリックすると、新しいテンプレートに拡張子 .dwt が追加され、サイトの "Templates" フォルダに保存されます。

ドキュメントを保存するときは、ファイル名やフォルダ名にスペースや特殊記号を使用しないでください。また、数字で始まるファイル名も使用しないでください。特に、特殊文字 (é、ç、¥ など) やコロン、スラッシュ、ピリオドなどは、リモートサーバーに送信するファイルの名前には使用しないでください。多くのサーバーで、これらの記号はアップロード時に変換されるため、ファイルへのリンクが失われてしまいます。

関連項目

289 ページの「Dreamweaver によって生成された XHTML コードについて」

139 ページの「CSS を使用したページのレイアウト」

369 ページの「テンプレートの作成と管理」

37 ページの「Dreamweaver サイトの設定」

70 ページの「初期設定のドキュメントタイプおよびエンコーディングの設定」

既存のテンプレートに基づくページの作成

既存のテンプレートを選択、プレビューし、新規ドキュメントを作成することができます。Dreamweaver で定義した任意のサイトから [新規ドキュメント] ダイアログボックスを使用してテンプレートを選択するか、既存のテンプレートから [アセット] パネルを使用して新規ドキュメントを作成できます。

関連項目

369 ページの「テンプレートの作成と管理」

37 ページの「Dreamweaver サイトの設定」

70 ページの「初期設定のドキュメントタイプおよびエンコーディングの設定」

テンプレートに基づくドキュメントの作成

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[ページをテンプレートに] カテゴリを選択します。

3 サイト列で、使用するテンプレートが含まれている Dreamweaver サイトを選択し、右側のリストからテンプレートを選択します。

4 このページの基となったテンプレートを変更したときに、このページが更新されないようにするには、[テンプレートの修正時にページを更新] をオフにします。

5 ドキュメントタイプ、エンコード、ファイル拡張子などの初期設定のドキュメント環境設定を設定するには、[環境設定] オプションをクリックします。

6 さまざまなページデザインコンテンツをダウンロードできる Dreamweaver Exchange を起動するには、[コンテンツの追加] リンクをクリックします。

7 [作成] をクリックし、ドキュメントを保存します ([ファイル]-[保存])。

[アセット] パネルでのテンプレートからのドキュメント作成

1 [アセット] パネルが表示されていない場合は、[ウィンドウ]-[アセット] を選択して開きます。

2 [アセット] パネルの左側のテンプレートアイコン をクリックして、現在のサイトに含まれているテンプレートのリストを表示します。

適用するテンプレートを作成したばかりの場合は、[更新] ボタンをクリックしないと表示されない場合があります。

3 適用するテンプレートを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、次に [テンプレートから新規作成] を選択します。

ドキュメントがドキュメントウィンドウに表示されます。

4 文書を保存します。

Dreamweaver サンプルファイルに基づくページの作成

Dreamweaver には、プロ仕様のページレイアウトおよびデザインエレメントのファイルが多数付属しています。サンプルファイルを基に、サイト内のページをデザインすることができます。サンプルファイルに基づいてドキュメントを作成する場合は、Dreamweaver によりファイルのコピーが作成されます。

サンプルファイルをプレビューして、[新規ドキュメント] ダイアログボックスでドキュメントのデザイン要素の簡単な説明を確認できます。[CSS スタイルシート] を選択すると、定義済みのスタイルシートをコピーして、ドキュメントに適用できます。

注意：定義済みフレームセットに基づいてドキュメントを作成する場合は、フレームセット構造のみがコピーされ、フレームの内容はコピーされません。また、フレームファイルはそれぞれ別に保存する必要があります。

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[サンプルからのページ] カテゴリを選択します。

3 サンプルフォルダ列で CSS スタイルシート、フレームセット、開始ページ (テーマ) または開始ページ (基本) を選択し、右側のリストからサンプルファイルを選択します。

4 [作成] ボタンをクリックします。

新規ドキュメントがドキュメントウィンドウ (デザインビュー) に表示されます。CSS スタイルシートを選択した場合は、コードビューに CSS スタイルシートが表示されます。

5 ドキュメントを保存します ([ファイル]-[保存])。

6 [依存ファイルのコピー] ダイアログボックスが表示された場合は、オプションを設定し、[コピー] をクリックして選択したフォルダにアセットをコピーします。

依存ファイルの保存場所には、任意の場所を選択することも、Dreamweaver でサンプルファイルのソース名に基づき生成される初期設定のフォルダを使用することもできます。

関連項目

116 ページの「カスケーディングスタイルシートについて」

199 ページの「フレームファイルとフレームセットファイルの保存」

その他の種類のページの作成

[新規ドキュメント] ダイアログボックスの [その他] カテゴリでは、C#、VBScript、テキスト表示のページなど、Dreamweaver で使用する各種ページを作成できます。

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスの [その他] カテゴリを選択します。

3 ページタイプ列で、作成するページの種類を選択し、[作成] ボタンをクリックします。

4 ドキュメントを保存します ([ファイル]-[保存])。

初期設定のドキュメントタイプおよびエンコーディングの設定

サイトの初期設定のドキュメントとして使用するドキュメントのタイプを定義できます。

たとえば、サイトのほとんどのページが特定のファイルタイプ (Cold Fusion、HTML、ASP ドキュメントなど) である場合は、指定したファイルタイプで新しいドキュメントが自動的に作成されるようにドキュメント環境設定を設定します。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

新規ドキュメントの作成時に [新規ドキュメント] ダイアログボックスの [環境設定] ボタンをクリックして、新規ドキュメントの環境設定を行うこともできます。

2 左のカテゴリリストで [新規ドキュメント] をクリックします。

3 必要に応じて、環境設定を設定または変更し、[OK] をクリックして保存します。

初期設定のドキュメント 作成するページで使用するドキュメントタイプを選択します。

デフォルトの拡張子 作成する新しい HTML ページで使用するファイル拡張子 (.htm または .html) を指定します。

注意：このオプションは、他のファイルタイプに対しては無効になっています。

初期設定ドキュメントタイプ (DDT) 新しいページを XHTML 互換にするために、いずれかの XHTML ドキュメントタイプ定義 (DTD) を選択します。たとえば、メニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 互換にできます。

エンコーディング初期設定 ページを新規作成したとき、およびエンコードが指定されていないドキュメントを開いたときに使用されるエンコードを指定します。

ドキュメントエンコーディングとして Unicode (UTF-8) を選択した場合、UTF-8 ではすべての文字を適切に表すことができるため、エンティティエンコーディングは必要ありません。他のドキュメントエンコーディングを選択した場合は、一部の文字を表すためにエンティティエンコーディングが必要になることがあります。文字エンティティの詳細については、www.w3.org/TR/REC-html40/sgml/entities.html を参照してください。

初期設定のエンコーディングとして Unicode (UTF-8) を選択した場合は、[Unicode Signature (BOM) を含める] オプションをオンにしてバイトオーダーマーク (BOM) をドキュメントに挿入することができます。

BOM は、ファイルを Unicode として識別し、後続のバイトのバイトオーダーを指定する、テキストファイルの先頭にある 2 ～ -4 バイトです。UTF-8 にはバイトオーダーがないため、UTF-8 BOM の追加はオプションです。UTF-16 および UTF-32 の場合、BOM の追加は必須です。

Unicode 正規化形式 初期設定のエンコーディングとして Unicode (UTF-8) を選択した場合は、これらのオプションの 1 つを選択します。

Unicode 正規化形式には 4 種類があります。最も重要なものは正規化形式 C です。これは、World Wide Web の文字モデルとして最もよく使用される形式であるためです。Adobe では、完全を期すために他の 3 種類の Unicode 正規化形式も用意しています。

Ctrl + N で [新規ドキュメント] ダイアログボックスを表示 キーコマンドの使用時に初期設定のドキュメントタイプのドキュメントを自動的に作成する場合は、このオプションをオフにします (Macintosh の場合は Command + N)。

Unicode では、視覚的には似ていても、異なる方法でドキュメント内に保存できる文字があります。たとえば、"ë" (e ウムラウト) は "e ウムラウト " として 1 つの文字で表すか、" 通常のラテン文字 e" + " 結合ウムラウト " として 2 つの文字で表すことができます。Unicode 結合文字は前の文字とともに使用されるので、ウムラウトは " ラテン文字 e" の上に表示されます。どちらの形式も視覚的には同じ文字体裁になりますが、ファイルに保存される方法は各形式で異なります。

正規化は、異なる形式で保存できるすべての文字が、すべて同じ形式を使って保存されるようにする処理です。つまり、ドキュメントにあるすべての "ë" 文字は 1 つの "e ウムラウト " または "e" + " 結合ウムラウト " として保存され、1 つのドキュメントに両方の形式で保存されることはありません。

Unicode 正規化と、使用できる具体的な形式については、Unicode Web サイト (www.unicode.org/reports/tr15) を参照してください。

関連項目

289 ページの「Dreamweaver によって生成された XHTML コードについて」

207 ページの「ドキュメントのエンコードについて」

新しい HTML ドキュメントの初期設定のファイル拡張子の設定

Dreamweaver で作成する HTML ドキュメントの初期設定のファイル拡張子を定義することができます。たとえば、すべての新しい HTML ドキュメントに .htm または .html の拡張子を使用するように指定できます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

新規ドキュメントの作成時に [新規ドキュメント] ダイアログボックスの [環境設定] ボタンをクリックして、新規ドキュメントの環境設定を行うこともできます。

2 左のカテゴリリストで [新規ドキュメント] をクリックします。

3 [初期設定ドキュメントタイプ] で [HTML] が選択されていることを確認します。

4 [デフォルトの拡張子] テキストボックスで、Dreamweaver で作成する新しい HTML ドキュメントのファイル拡張子を指定します。

Windows の場合は、.html、.htm、.shtml、.shtm、.stm、.tpl、.lasso、.xhtml の拡張子を指定できます。

Macintosh の場合は、.html、.htm、.shtml、.shtm、.tpl、.lasso、.xhtml、.ssi の拡張子を指定できます。

既存のドキュメントを開いて編集

Dreamweaver で作成されたかどうかにかかわらず、既存の Web ページまたはテキストベースのドキュメントを開き、デザインビューやコードビューで編集できます。

開くドキュメントが、HTML ドキュメントとして保存された Microsoft Word ファイルである場合は、[Word HTML のクリーンアップ] コマンドを使用して、Word によって HTML ファイルに挿入された外部マークアップタグを削除できます。

Microsoft Word で生成されたものではない HTML または XHTML をクリーンアップするには、[HTML のクリーンアップ] コマンドを使用します。

JavaScript ファイル、XML ファイル、CSS スタイルシート、ワードプロセッサやテキストエディタによって保存されたテキストファイルなど、HTML 以外のテキストファイルも開くことができます。

1 [ファイル]-[開く] を選択します。

[ファイル] パネルでファイルを開くこともできます。

2 ファイルを参照して、選択します。

注意：ファイルを Dreamweaver サイト以外の場所から開いている場合は、サイト内にまとめ、そこから開いて編集することをお勧めします。

3 [開く] をクリックします。

ドキュメントがドキュメントウィンドウに表示されます。初期設定では、JavaScript、テキスト、および CSS スタイルシートはコードビューで開きます。Dreamweaver で作業しながらドキュメントを更新し、変更内容をファイルに保存できます。

関連項目

311 ページの「コードのクリーンアップ」

259 ページの「メディアファイルに使用する外部エディタの起動」

77 ページの「[ファイル] パネルでのファイルの操作」

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

Microsoft Word HTML ファイルのクリーンアップ

Microsoft Word で HTML ファイルとして保存されたドキュメントを開くことができます。この場合、[Word HTML のクリーンアップ] コマンドを使用すると、Word によって生成された Word 特有の HTML コードを削除できます。[Word HTML のクリーンアップ] コマンドは、Word 97 以降で HTML ファイルとして保存されたドキュメントに対して使用できます。

Dreamweaver によって削除されるコードは、主に Word 上でドキュメントをフォーマットおよび表示するために Word が使用するコードで、HTML ファイルを表示するために必要なものではありません。[Word HTML のクリーンアップ] コマンドを適用すると、この HTML ドキュメントを再び Word で開くことができなくなる可能性があります。このため、.doc 拡張子の付いた元の Word ファイルをバックアップコピーとして残しておいてください。

Microsoft Word で生成されたものではない HTML または XHTML をクリーンアップするには、[HTML のクリーンアップ] コマンドを使用します。

1 HTML ファイルとして Microsoft Word ドキュメントを保存します。

注意：Windows の場合は、共有違反を避けるために Word でファイルを閉じてください。

2 Dreamweaver で HTML ファイルを開きます。

Word で生成された HTML コードを表示するには、コードビューに切り替えます ([表示]-[コード])。

3 [コマンド]-[Word HTML のクリーンアップ] を選択します。

注意：ファイルの保存で使用された Word のバージョンが Dreamweaver で識別できない場合は、ポップアップメニューで正しいバージョンを選択します。

4 クリーンアップのオプションを選択します (または、選択を解除します)。入力した環境設定は、初期設定のクリーンアップ設定として保存されます。

Dreamweaver によりクリーンアップの設定が HTML ドキュメントに適用され、変更のログが表示されます (ダイアログボックスでそのオプションをオフにしていない場合)。

Word 特有のマークアップをすべて削除 HTML タグからの XML、ドキュメントのヘッドにある Word のカスタムメタデータとリンクタグ、Word XML マークアップ、条件タグとそのコンテンツ、およびスタイルの空の段落と余白など、Microsoft Word 特有の HTML がすべて削除されます。これらのオプションは、[詳細] タブで個別に選択することができます。

CSS のクリーンアップ 親スタイルで同じスタイルプロパティが定義されているインライン CSS スタイル、"mso" で始まるスタイル属性、CSS 以外のスタイル宣言、テーブルの CSS スタイル属性、ヘッドのすべての未使用スタイル定義など、Word 特有の CSS がすべて削除されます。[詳細] タブで、このオプションを詳しくカスタマイズできます。

<font> タグのクリーンアップ HTML タグが削除され、初期設定の本文テキストはサイズ 2 の HTML テキストに変換されます。

ネストされた無効なタグを修正する Word によって段落タグおよびブロックレベルの見出しタグの外側に挿入されたフォントマークアップタグが削除されます。

背景色の設定 16 進数の値を入力し、ドキュメントの背景色を設定します。背景色を設定しない場合、Word HTML ページの背景色はグレーになります。初期設定の 16 進数値は白です。

ソースフォーマットの適用 [ソースフォーマット] 環境設定および "SourceFormat.txt" ファイルで指定したソースのフォーマットオプションがドキュメントに適用されます。

完了時にログを表示 クリーンアップの終了後、ドキュメントの変更点の詳細をアラートボックスに表示します。

5 [OK] をクリックします。また、[Word 特有のマークアップをすべて削除] オプションと [CSS のクリーンアップ] オプションを詳しくカスタマイズするときは、[詳細] タブをクリックし、[OK] をクリックします。

関連項目

311 ページの「コードのクリーンアップ」

224 ページの「Microsoft Office ドキュメントの読み込み (Windows のみ)」

ファイルとフォルダの管理

ファイルとフォルダの管理について

Dreamweaver には、ファイルの管理やリモートサーバーとのファイルのやり取りを行うための [ファイル] パネルが用意されています。ローカルサイトとリモートサイトでファイルを転送する場合、ファイルやフォルダの構成が両サイト間で保持されます。サイト間でファイルを転送するときに、サイトに必要なフォルダがない場合は、Dreamweaver が対応するフォルダを作成します。Dreamweaver には、両サイトのディレクトリで必要なファイルをコピーし、不必要なファイルを削除することによって、ローカルサイトとリモートサイト間のファイルを同期させる機能もあります。

[ファイル] パネルの使用

[ファイル] パネルでは、ファイルやフォルダの表示、Dreamweaver サイトに関連しているかどうかの確認、ファイルを開く、移動するなどの一般的なファイル管理作業ができます。

注意：以前のバージョンの Dreamweaver で、[ファイル] パネルは [サイト] パネルと呼ばれていました。

[ファイル] パネルは必要に応じて移動できます。また、パネルの環境設定を指定することもできます。

このパネルでは、以下のタスクを実行できます。

- サイト、サーバー、およびローカルドライブへのアクセス
- ファイルとフォルダの表示
- [ファイル] パネルでのファイルおよびフォルダの管理
- サイトのビジュアルマップの操作

Dreamweaver サイトの場合は、以下のオプションを使用してファイルを表示または転送します。

A. サイトファイルのビュー **B.** テストサーバービュー **C.** サイトマップのビュー **D.** [サイト] ポップアップメニュー **E.** 接続 / 切断 **F.** 更新 **G.** ファイルを PUT する **H.** ファイルを GET する **I.** ファイルをチェックアウトする **J.** ファイルをチェックインする **K.** 同期 **L.** 展開 / 折りたたむ

注意：[サイトファイル]、[テストサーバー] ビュー、[サイトマップ] ビュー、および [同期] ボタンは、展開された [ファイル] パネルにのみ表示されます。

[サイト] ポップアップメニュー Dreamweaver サイトを選択し、サイトのファイルを表示できます。また、[サイト] メニューからは、Windows エクスプローラ (Windows) や Finder (Macintosh) と同様に、ローカルディスクにあるすべてのファイルへのアクセスが可能です。

サイトファイルのビュー [ファイル] パネル内の各ペインにリモートサイトとローカルサイトのファイル構成が表示されます (環境設定で、左のペインに表示するサイトと右のペインに表示するサイトを指定します)。サイトファイルビューは、[ファイル] パネルの初期設定の表示モードです。

テストサーバービュー テストサーバーとローカルサイトのディレクトリ構造が表示されます。

サイトマップのビュー ドキュメント間のリンク状態に基づいて、サイトのマップをグラフィカルに表示します。ボタンを押しながら、ポップアップメニューから [マップのみ] または [マップとファイル] を選択します。

現在のポップアップメニュー Dreamweaver サイトと接続したサーバーをリストし、ローカルドライブとデスクトップにアクセスできます。

接続 / 切断 (FTP、RDS、WebDAV プロトコル、および Microsoft Visual SourceSafe を使用して、) リモートサイトへの接続と切断を行います。初期設定では、アイドル状態が 30 分を越えると Dreamweaver により接続が自動的に切断されます (FTP のみ)。設定時間を変更するには、[編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択し、左の [カテゴリ] リストから [サイト] を選択します。

更新 ローカルおよびリモートのディレクトリリストを更新します。[サイト定義] ダイアログボックスの [ローカルファイルリストを自動的に更新] または [リモートファイルリストを自動的に更新] のいずれかをオフにしている場合は、このボタンを使って手動でディレクトリリストを更新できます。

ファイルを GET する 選択したファイルをリモートサイトからローカルサイトにコピーします。ファイルのローカルコピーがある場合は、上書きされます。[ファイルのチェックイン / チェックアウト] がオンになっていると、ローカルのコピーは読み取り専用になります。リモートサイト上のファイルは、他のメンバーがチェックアウトできるよう、そのまま残ります。[ファイルのチェックイン / チェックアウト] がオフになっていると、ファイルのコピーは読み取りおよび書き込みが可能なものになります。

注意：Dreamweaver でコピーの対象となるファイルは、[ファイル] パネルのアクティブなペインで選択されているファイルです。リモートペインがアクティブな場合は、選択したリモートファイルまたはテストサーバーファイルがローカルサイトにコピーされます。ローカルペインがアクティブな場合、Dreamweaver は選択したローカルファイルのリモートバージョンまたはテストサーバーバージョンをローカルサイトにコピーします。

ファイルを PUT する 選択したファイルをローカルサイトからリモートサイトにコピーします。

注意：Dreamweaver でコピーの対象となるファイルは、[ファイル] パネルのアクティブなペインで選択されているファイルです。ローカルペインがアクティブな場合は、選択したローカルファイルがリモートサイトまたはテストサーバーにコピーされます。リモートペインがアクティブな場合、Dreamweaver は選択したリモートサーバーファイルのローカルバージョンをリモートサイトにコピーします。

[ファイルのチェックイン / チェックアウト] がオンの状態で、リモートサイトにないファイルを新しく追加する場合、ファイルは " チェックアウト済み " としてリモートサイトにコピーされます。チェックインの状態でファイルを追加するには、チェックインボタンをクリックします。

ファイルをチェックアウトする ファイルのコピーをリモートサーバーからローカルサイトに転送して (ファイルのローカルコピーがあれば、それを上書きして)、ファイルがチェックアウトされているマークをサーバーに付けます。このオプションは、[サイト定義] ダイアログボックスで [ファイルのチェックイン / チェックアウト] が現在のサイトに対してオフに設定されている場合は使用できません。

ファイルをチェックインする ローカルファイルのコピーをリモートサーバーに転送し、他のユーザーがファイルを編集できるようにします。ローカルファイルは、読み取り専用になります。このオプションは、[サイト定義] ダイアログボックスの [ファイルのチェックイン / チェックアウト] オプションが現在のサイトに対してオフに設定されている場合は使用できません。

同期 ローカルフォルダとリモートフォルダ間でファイルが同期されます。

展開 / 折りたたむボタン [ファイル] パネルを展開または折りたたんで、表示するペインを 1 つまたは 2 つにします。

関連項目

21 ページの「ファイルパネルの概要」

40 ページの「リモートフォルダの設定」

89 ページの「リモートフォルダのファイルのチェックインとチェックアウト」

85 ページの「リモートサーバーへのファイル送信」

84 ページの「リモートサーバーからのファイルの取得」

90 ページの「ファイルの同期」

ファイルとフォルダの表示

[ファイル] パネルでは、ファイルやフォルダを Dreamweaver サイトに関連している、関連していないにかかわらず、表示できます。[ファイル] パネルでサイト、ファイル、またはフォルダを表示する場合、表示領域のサイズを変更できます。また Dreamweaver サイトに対しては、[ファイル] パネルを展開または縮小できます。

Dreamweaver サイトの場合、[ファイル] パネルは、初期設定で縮小パネルに表示されるローカルサイトまたはリモートサイトのビューを変更してカスタマイズします。または、展開されている [ファイル] パネルのコンテンツビューを [常に表示] オプションで切り替えます。

関連項目

40 ページの「リモートフォルダの設定」

45 ページの「テストサーバーの設定」

48 ページの「サイトのビジュアルマップの操作」

[ファイル] パネルを開くまたは閉じる

❖ [ウィンドウ]-[ファイル] を選択します。

[ファイル] パネルの表示の展開または縮小 (Dreamweaver サイトのみ)

❖ [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、ツールバーの [展開 / 折りたたむ] ボタン をクリックします。

注意：[ファイル] パネルがドッキングされているときに [展開 / 折りたたむ] ボタンをクリックして表示を展開すると、パネルが最大化し、ドキュメントウィンドウ内で作業できなくなります。ドキュメントウィンドウに戻るには、[展開 / 折りたたむ] ボタンをクリックしてパネルを縮小してください。[展開 / 折りたたむ] ボタンをクリックし、ドッキングされていないパネルを展開した場合でも、ドキュメントウィンドウでの操作は可能です。パネルを再びドッキングする場合は、その前にパネルの表示を縮小してください。

[ファイル] パネルの表示を縮小すると、ローカルサイト、リモートサイト、またはテストサーバーの内容がファイルの一覧の形で表示されます。表示を展開すると、ローカルサイト、およびリモートサイトまたはテストサーバーのいずれかが表示されます。[ファイル] パネルには、ローカルサイトのビジュアルサイトマップを表示することもできます。

展開されている [ファイル] パネルの表示領域のサイズの変更

❖ 展開されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、以下のいずれかの操作を行います。

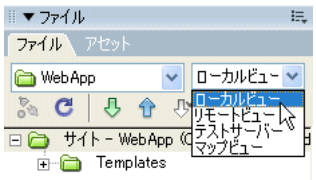
- パネルの左右の表示領域の幅を変更するには、2 つの表示領域の境界にあるバーをドラッグします。
- ビューのコンテンツをスクロールするには、[ファイル] パネルの下部にあるスクロールバーを使用します。
- サイトマップでファイル間隔を変更するには、ファイル上方の矢印をドラッグします。

[ファイル] パネル内のサイトのビューの変更 (Dreamweaver サイトのみ)

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- 縮小されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、[サイトビュー] ポップアップメニューから、[ローカルビュー]、[リモートビュー]、[テストサーバー]、または [マップビュー] を選択します。

注意：初期設定では [サイトビュー] ポップアップメニューに [ローカルビュー] が表示されます。



- 展開されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、ツールバーの [サイトファイル] ボタン (リモートサイト用)、[テストサーバー] ボタン、または [サイトマップ] ボタンをクリックします。

A. サイトファイル **B.** テストサーバー **C.** サイトマップ

- [サイトマップ] ボタンをクリックした場合は、サイトファイルと共にサイトマップを表示するか、またはサイトマップのみを表示するかを選択できます。

注意：リモートサイトまたはテストサーバーを表示する場合は、事前にリモートサイトまたはテストサーバーを設定する必要があります。サイトマップを表示する場合は、事前にホームページを設定する必要があります。

Dreamweaver サイト外のファイルの表示

❖ Windows Explorer (Windows) や Finder (Macintosh) と同じように、[サイト] ポップアップメニューでコンピュータを操作します。

[ファイル] パネルでのファイルの操作

ファイルを開く、ファイル名を変更する、またはファイルの追加、移動、削除、あるいは変更後に [ファイル] パネルの更新を行うことができます。

Dreamweaver サイトの場合、ローカルサイトとリモートサイトのどちらのファイルが、最終転送時以降に更新されて、新しくなったかを調べることができます。

関連項目

90 ページの「ファイルの同期」

80 ページの「サイト、サーバー、およびローカルドライブへのアクセス」

ファイルを開く

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューから、サイト、サーバー、またはドライブを選択します。

2 開くファイルを選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- ファイルのアイコンをダブルクリックします。
- ファイルのアイコンを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[開く] を選択します。

Dreamweaver により、ファイルがドキュメントウィンドウで開きます。

ファイルまたはフォルダの作成

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、ファイルまたはフォルダを選択します。

Dreamweaver では、新規のファイルまたはフォルダは、現在選択されているフォルダ内か、または現在選択されているファイルと同じフォルダ内に作成されます。

2 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[新規ファイル] または [新規フォルダ] を選択します。

3 新しいファイルまたはフォルダの名前を入力します。

4 Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

ファイルまたはフォルダの削除

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、削除するファイルまたはフォルダを選択します。

2 右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[削除] を選択します。

ファイルまたはフォルダの名前の変更

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、名前を変更するファイルまたはフォルダを選択します。

2 ファイルまたはフォルダの名前をアクティブにして、変更できる状態にするには、以下のいずれかの操作を行います。

- ファイル名をクリックし、一瞬、間をおいて、もう一度クリックします。
- ファイルのアイコンを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[名前の変更] を選択します。

3 新しい名前を入力して既存の名前を上書きします。

4 Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

ファイルまたはフォルダの移動

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、移動するファイルまたはフォルダを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- ファイルまたはフォルダをコピーし、新しい場所に貼り付けます。
- ファイルまたはフォルダを新しい場所にドラッグします。

3 [ファイル] パネルを更新し、新しい場所に移動したファイルまたはフォルダを表示します。

[ファイル] パネルの更新

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- ファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[更新] を選択します。
- (Dreamweaver サイトのみ) [ファイル] パネルのツールバーの [更新] ボタンをクリックします。このオプションによって両方のペインが更新されます。

注意： Dreamweaver では、他のアプリケーションで変更を加えてから Dreamweaver に戻ると、[ファイル] パネルが自動的に更新されます。

Dreamweaver サイト内でのファイルの検索

Dreamweaver では、選択したファイル、開いているファイル、チェックアウトされているファイル、または最近変更したファイルをサイト内で簡単に検索できます。ローカルサイトまたはリモートサイト内の新しいファイルを検索することもできます。

関連項目

101 ページの「レポートを使用したサイトのテスト」

開いているファイルのサイト内での検索

1 ファイルをドキュメントウィンドウで開きます。

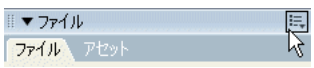
2 [サイト]-[サイトで表示] を選択します。

Dreamweaver により [ファイル] パネル内でファイルが選択されます。

注意： ドキュメントウィンドウで開いているファイルが [ファイル] パネル内の現在のサイトの一部ではない場合は、Dreamweaver によりこのファイルがどの Dreamweaver サイトに属しているかが調べられます。現在のファイルが 1 つのローカルサイトにのみ属している場合は、Dreamweaver により [ファイル] パネル内でそのサイトが開き、ファイルがハイライト表示されます。

チェックアウトされているファイルのサイト内での検索と選択

❖ 縮小されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、[ファイル] パネルの右上にある [オプション] メニューをクリックし、[編集]-[チェックアウトされたファイルの選択] を選択します。



Dreamweaver により [ファイル] パネル内でファイルが選択されます。

選択したファイルのローカルサイトまたはリモートサイト内での検索

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) のローカルビューまたはリモートビューでファイルを選択します。

2 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、ファイルを選択した場所に応じて [ローカルサイトで表示] または [リモートサイトで表示] を選択します。

Dreamweaver により [ファイル] パネル内でファイルが選択されます。

リモートサイトよりも新しいファイルをローカルサイトから探して選択

❖ 縮小されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、[ファイル] パネルの右上隅にある [オプション] メニューをクリックし、[編集]-[新しいローカルアイテムの選択] を選択します。

Dreamweaver により [ファイル] パネル内でファイルが選択されます。

ローカルサイトよりも新しいファイルをリモートサイトから探して選択

❖ 縮小されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、[ファイル] パネルの右上隅にある [オプション] メニューをクリックし、[編集]-[新しいリモートアイテムの選択] を選択します。

Dreamweaver により [ファイル] パネル内でファイルが選択されます。

最近変更されたファイルのサイト内での検索

1 縮小されている [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、[ファイル] パネルの右上隅にある [オプション] メニューをクリックし、[編集]-[最近修正したファイルを選択] を選択します。

2 以下のいずれかの操作を行い、レポートの検索日を指定します。

- 最近数日間に変更されたファイルをすべてレポートするには、[最近作成・修正されたファイル] を選択し、日数をテキストボックスに入力します。
- 特定の期間に変更されたファイルをすべてレポートするには、[期間内に作成・修正されたファイル] ラジオボタンをクリックし、日付の範囲を指定します。

3 (オプション) [修正したユーザー] テキストボックスにユーザー名を入力すると、指定した日付範囲に特定のユーザーが変更したファイルのみが検索されます。

注意：このオプションは、Contribute サイトに関するレポートに対してのみ使用できます。

4 レポートのリストに含まれているファイルを表示する場所を示すラジオボタンを必要に応じて以下から選択します。

ローカルマシン サイトに静的なページが置かれている場合に選択します。

テストサーバー サイトに動的なページが置かれている場合に選択します。

注意：このオプションでは、[サイト定義] ダイアログボックスで [テストサーバー] が定義されていることを前提としています (XREF)。[テストサーバー] を定義していないにもかかわらずそのサーバーの URL 接頭辞を入力したか、複数のサイトのレポートを実行している場合は、このオプションを使用できません。

他の場所 テキストボックスにパスを入力する場合に選択します。

5 [OK] をクリックして設定を保存します。

選択した時間帯に変更されたファイルが、Dreamweaver により、[ファイル] パネル内でハイライト表示されます。

未使用ファイルの識別と削除

サイトの他のファイルで使用されなくなったファイルを識別および削除できます。

1 [サイト]-[サイト全体のリンクチェック] を選択します。

Dreamweaver によりサイトのすべてのリンクがチェックされ、[結果] パネルに破損したリンクが表示されます。

2 [リンクチェック] パネルでメニューから [単独ファイル] を選択します。

リンクがないすべてのファイルが Dreamweaver に表示されます。これは、これらのファイルにリンクされているファイルがサイト内にないことを意味します。

3 削除するファイルを選択し、Delete キーを押すか (Windows)、Command+Delete を押します (Macintosh)。

重要：これらのファイルにリンクされている他のファイルはサイト内にありませんが、表示されているファイルの一部が他のファイルにリンクされていることがあります。ファイルを削除するときは注意してください。

関連項目

95 ページの「サイトクロークの有効 / 無効の切り替え」

サイト、サーバー、およびローカルドライブへのアクセス

Dreamweaver サイト内のファイルやフォルダに加えて、Dreamweaver サイトに置かれていないファイルやフォルダもアクセス、変更、および保存できます。Dreamweaver サイトに加えて、サーバー、ローカルドライブ、またはデスクトップにもアクセスできます。

リモートサーバーにアクセスするには、そのサーバーで作業できるように Dreamweaver を設定する必要があります。

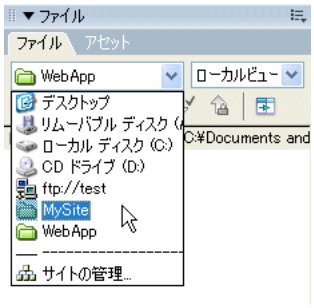
注意：ファイルの管理方法として最適なのは、Dreamweaver サイトを作成することです。

関連項目

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

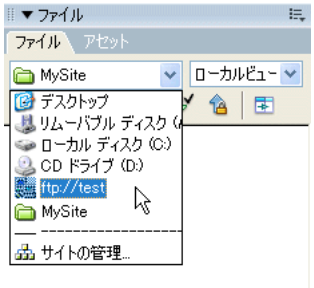
既存の Dreamweaver サイトを開く

❖ [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるメニューからサイトを選択します。



リモートの FTP サーバーまたは RDS サーバーのフォルダを開く

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるメニューからサーバー名を選択します。



注意：Dreamweaver で使用するよう設定したサーバーの名前が表示されます。

2 通常の方法でファイルに移動し、編集します。

ローカルドライブまたはデスクトップへのアクセス

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるメニューから、[デスクトップ]、[ローカルディスク]、または [CD ドライブ] を選択します。

2 ファイルを選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- Dreamweaver や別のアプリケーション内のファイルを開く
- ファイル名の変更
- ファイルのコピー
- ファイルの削除

• ファイルのドラッグ

ある Dreamweaver サイトから別のサイトに、または Dreamweaver サイトの一部になっていないフォルダにファイルをドラッグすると、Dreamweaver により ファイルがドロップ先の場所に「コピー」されます。ファイルをドラッグして同じ Dreamweaver サイト内にドロップすると、Dreamweaver によりそのファイルはドロップ先の場所に「移動」されます。Dreamweaver サイトの一部となっていないファイルを Dreamweaver サイトの一部となっていないフォルダにドラッグすると、Dreamweaver によりそのファイルはドロップ先に移動されます。

注意：初期設定で Dreamweaver がコピーを実行するファイルを移動するには、Shift キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらファイルをドラッグします。初期設定で Dreamweaver が移動を実行するファイルをコピーするには、Ctrl キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながらドラッグします。

ファイル転送に関するサイト環境設定の設定

[ファイル] パネルでは、ファイル転送機能を制御する環境設定を選択できます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [環境設定] ダイアログボックスで、左側の [カテゴリ] リストから [サイト] を選択します。

3 オプションを設定して、[OK] をクリックします。

常に表示 ローカルサイトとリモートサイトのいずれを常に表示するか、[ファイル] パネルの左右のいずれのペインにローカルサイトまたはリモートサイトを表示するかを指定します。

初期設定では、常にローカルサイトが右側に表示されます。常に表示するように選択しなかったペイン (初期設定では左ペイン) には、サイトマップまたはもう一方のサイト (初期設定ではリモートサイト) のファイルのいずれかを表示できます。

依存ファイル HTML ファイルのロード時にブラウザがロードする依存ファイル (HTML ファイルで参照されるイメージ、外部スタイルシート、その他のファイルなど) の転送を確認するダイアログボックスが表示されます。初期設定では、[GET/ チェックアウトでダイアログを表示] と [PUT/ チェックインでダイアログを表示] の両方が選択されています。

通常、新規ファイルをチェックアウトする場合は、依存ファイルも一緒にダウンロードすることをお勧めしますが、既に最新バージョンの依存ファイルがローカルディスクにある場合は、再びダウンロードする必要はありません。これはファイルのアップロードとチェックインの場合にも当てはまります。最新のコピーが宛先に既に存在している場合は、再びダウンロードする必要はありません。

これらのオプションをオフにすると、依存ファイルは転送されません。したがって、これらのオプションが選択解除になっているときでも、[依存ファイル] ダイアログボックスを表示させたい場合は、Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら [GET]、[PUT]、[チェックイン]、[チェックアウト] コマンドを選択します。

FTP 接続 交信がないまま指定の分数が経過した後に、リモートサイトへの接続を終了するかどうかを指定します。

FTP タイムアウト Dreamweaver がリモートサーバーとの接続を試みる秒数を指定します。

指定された時間内に応答がない場合は、Dreamweaver によりその旨を通知する警告ダイアログボックスが表示されます。

FTP 転送オプション Dreamweaver では、ファイルの転送時に表示されたダイアログボックスに対してユーザーからの応答がない場合、指定された秒数後に初期設定オプションを採用するかどうかを指定します。

ファイヤーウォールホスト ファイヤーウォールの後から外部サーバーに接続する際のプロキシサーバーのアドレスを指定します。

ファイヤーウォールの後にいない場合は、このスペースを空白にしておきます。ファイヤーウォールの後にいる場合は、[サイトの定義] ダイアログボックスで [ファイヤーウォールを使用] オプションを選択します

ファイヤーウォールポート リモートサーバーに接続する際のファイヤーウォールのポートを指定します。21 (FTP 用の初期設定) 以外のポートを通じて接続する場合は、ここに数値を入力します。

PUT オプション :PUT する前にファイルを保存 選択した場合、リモートサイトに送信される前に、保存されていないファイルが自動的に保存されます。

サイトの管理 既存のサイトの編集や、新規サイトの作成ができる [サイトの管理] ダイアログボックスを開きます。

"Dreamweaver/Configuration" フォルダ内の "FTPExtensionMap.txt" (Macintosh では "FTPExtensionMapMac.txt") をカスタマイズして、転送するファイルの種類を ASCII (テキスト) またはバイナリのいずれかに指定できます。詳細については、『Dreamweaver 拡張ガイド』を参照してください。

関連項目

40 ページの「リモートフォルダの設定」

展開されている [ファイル] パネルに表示されるファイルおよびフォルダの詳細のカスタマイズ

展開されている [ファイル] パネルで Dreamweaver サイトを表示すると、ファイルとフォルダに関する情報が各列に表示されます。たとえば、ファイルタイプやファイルの変更日が表示されます。

列をカスタマイズするには、以下のいずれかを行います。一部の操作は、初期設定の列ではなく、追加した列に対してのみ実行できます。

- 列の並べ替えまたは再整列
- 新しい列の追加 (最大 10 列まで)
- 列の非表示 (ファイル名の列を除く)
- サイトに接続しているすべてのユーザーが共有する列の指定
- 列の削除 (カスタム列のみ)
- 列の名前の変更 (カスタム列のみ)
- 列とデザインノートの関連付け (カスタム列のみ)

列の順序の変更

❖ 列名を選択し、上向きまたは下向きのボタンを使って、選択した列の位置を変更します。

注意：[名前] 列以外のすべての列の順序を変更できます。[名前] 列は常に 1 列目に表示されます。

詳細列の追加、削除、または変更

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイトを選択して、[編集] ボタンをクリックします。

3 左側の [カテゴリ] リストから [表示列] を選択します。

4 列を選択し、プラス [+] ボタンをクリックして列を追加するか、またはマイナス [-] ボタンをクリックして列を削除します。

注意：確認メッセージは表示されず、すぐに列が削除されるので、削除する列をよく確認してからマイナス [-] ボタンをクリックしてください。

5 [列名] テキストボックスに列の名前を入力します。

6 [デザインノートに関連付ける] メニューから値を選択するか、値を入力します。

注意：新しい列をデザインノートに関連付ける必要があります。そのため、[ファイル] パネルに表示するデータが用意されています。

7 整列を選択して、列内のテキストをどのように揃えるかを指定します。

8 列の表示 / 非表示を切り替えるには、[表示] のオンとオフを切り替えます。

9 リモートサイトに接続するすべてのユーザーが列を共有するには、[このサイトのすべてのユーザーと共有する] を選択します。

[ファイル] パネルのいずれかの詳細列での並べ替え

❖ 並べ替える列の見出しをクリックします。

見出しをもう一度クリックすると、Dreamweaver での列の並べ替え順序 (昇順または降順) が逆になります。

サーバーからのファイルの取得とサーバーへのファイルの送信

ファイル転送および依存ファイル

グループで作業している場合は、チェックイン / チェックアウトシステムを使ってローカルサイトとリモートサイト間でファイルを転送します。リモートサイトで単独で作業している場合は、チェックイン / チェックアウトシステムを使用せずに、[GET] および [PUT] コマンドを使用してファイルを転送できます。

[ファイル] パネルを使用してローカルフォルダとリモートフォルダ間でドキュメントを転送するときに、ドキュメントの依存ファイルを転送するオプションがあります。依存ファイルとは、ドキュメントで参照され、ドキュメントのロード時にブラウザがロードするイメージ、外部スタイルシート、およびその他のファイルのことです。

注意：通常、新規ファイルをチェックアウトする場合は、依存ファイルも一緒にダウンロードすることをお勧めしますが、既に最新バージョンの依存ファイルがローカルディスクにある場合は、再びダウンロードする必要はありません。これはファイルのアップロードとチェックインの場合にも当てはまります。最新のコピーがリモートサイトに既に存在している場合は、再びダウンロードする必要はありません。

ライブラリ項目は依存ファイルとして処理されます。

サーバーの中には、ライブラリのアイテムを PUT するときにエラーを報告するものがあります。ただし、これらのファイルをクロークすると、転送されないようにできます。

関連項目

87 ページの「ファイルのチェックインとチェックアウト」

95 ページの「サイトクロークの有効 / 無効の切り替え」

バックグラウンドでのファイル転送について

ファイルの取得または送信中に、サーバーに関連しないその他の操作を実行できます。バックグラウンドのファイル転送は、Dreamweaver でサポートされるすべての転送プロトコル (FTP、SFTP、LAN、WebDAV、Microsoft Visual SourceSafe、および RDS) で機能します。

サーバーに関連しない操作には、入力、外部スタイルシートの編集、サイト全体のレポートの生成、新規サイトの作成などの一般的な操作があります。

ファイル転送中に Dreamweaver で実行できないサーバー関連操作は以下のとおりです。

- ファイルの PUT/GET/ チェックイン / チェックアウト
- チェックアウトの取り消し
- データベース接続の作成
- 動的データのバインド
- ライブデータのプレビュー
- Web サービスの挿入
- リモートファイルまたはフォルダの削除
- テストサーバーでの [ブラウザでプレビュー]
- リモートサーバーへのファイルの保存
- リモートサーバーからのイメージの挿入
- リモートサーバーからファイルを開く

- 保存時のファイルの自動 PUT
- リモートサイトへのファイルのドラッグ
- リモートサイトでのカット、コピー、またはペースト
- リモートビューの更新

リモートサーバーからのファイルの取得

ファイルをリモートサイトからローカルサイトにコピーするには、[GET] コマンドを使用します。ファイルを取得するには、ドキュメントウィンドウの [ファイル] パネルを使用します。

Dreamweaver により、表示および保存できる転送中のファイル操作のログが作成されます。

注意：バックグラウンドでのファイル転送をオフにすることはできません。バックグラウンドでのファイル転送ウィンドウで詳細ログを開いている場合、そのログを閉じるとパフォーマンスが向上します。

また、Dreamweaver ではすべての FTP ファイル転送操作も記録されます。FTP を使ってファイルを転送中にエラーが発生した場合、FTP サイトログを問題解決に利用できます。

関連項目

87 ページの「ファイルのチェックインとチェックアウト」

90 ページの「ファイルの同期」

[ファイル] パネルを使用したリモートサーバーからのファイルの取得

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、ダウンロードするファイルを選択します。

通常、これらのファイルはリモートビューで選択しますが、対応するファイルをローカルビューで選択することもできます。[リモートビュー] がアクティブな場合、Dreamweaver により、選択したファイルがローカルサイトにコピーされます。ローカルビューがアクティブな場合は、Dreamweaver により、選択したローカルファイルのリモートバージョンがローカルサイトにコピーされます。

注意：リモートのバージョンがローカルのバージョンより新しいファイルだけを取得するには、[同期] コマンドを使用します。

2 ファイルを取得するには以下のいずれかの操作を行います。

- [ファイル] パネルのツールバーの [GET] ボタンをクリックします。
- [ファイル] パネルでファイルを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [GET] を選択します。

3 依存ファイルをダウンロードする場合は [依存ファイル] ダイアログボックスで [はい] をクリックします。依存ファイルのローカルコピーが既にある場合は [いいえ] をクリックします。初期設定では、依存ファイルはダウンロードされません。このオプションは、[編集]-[環境設定]-[サイト] で設定できます。

Dreamweaver により、選択したファイルが次のようにダウンロードされます。

- チェックイン / チェックアウトシステムが有効な場合にファイルを取得すると、ファイルは「読み取り専用」でローカルサイトにコピーされます。他のユーザーはリモートサイトまたはテストサーバーでそのファイルをチェックアウトできます。
- チェックイン / チェックアウトシステムを使用していない場合にファイルを取得すると、コピーされるファイルは読み取りおよび書き込み」が可能になります。

注意：グループで共同作業をしている場合、つまり他のユーザーが同じファイルで作業する場合は、[ファイルのチェックイン / チェックアウト] をオンにすることをお勧めします。他のユーザーがサイトでチェックイン / チェックアウトシステムを使っている場合は、同じシステムを使うことを推奨します。

ファイル転送はいつでも停止できます。ファイル転送を停止するには、ステータスダイアログボックスの [キャンセル] をクリックします。

ドキュメントウィンドウを使用したリモートサーバーからのファイルの取得

1 ドキュメントウィンドウでドキュメントがアクティブになっていることを確認します。

2 ファイルを取得するには以下のいずれかの操作を行います。

- [サイト]-[GET] を選択します。
- ドキュメントウィンドウのツールバーの [ファイル管理] アイコンをクリックし、メニューから [GET] を選択します。

注意：現在のファイルが [ファイル] パネルの現在のサイトの一部ではない場合は、Dreamweaver により現在のファイルがどのローカルサイトに属しているかが調べられます。現在のファイルが 1 つのローカルサイトにのみ属している場合は、Dreamweaver がそのサイトを開き、GET 操作を実行します。

FTP のログの表示

❖ [ファイル] パネルで右上の [オプション] メニューをクリックし、[表示]-[FTP サイトログ] を選択します。

リモートサーバーへのファイル送信

ローカルサイトからリモートサイトにファイルを送信しても、通常、ファイルのチェックアウトに関するステータスは変更されません。

チェックイン機能ではなく、[PUT] コマンドを使う一般的な状況は 2 つあります。

- グループで作業していなくて、チェックイン / チェックアウトシステムを無効にしている場合。
- サーバー上にファイルの現在バージョンを送信するが、送信後も編集を続ける場合。

注意：チェックイン / チェックアウトシステムが有効な状態で、リモートサイトになかったファイルを送信すると、ファイルはリモートサイトにコピーされてからチェックアウトされ、編集を続けられます。

ファイルを PUT するには、ドキュメントウィンドウの [ファイル] パネルを使用します。Dreamweaver により、表示および保存できる転送中のファイル操作のログが作成されます。

また、Dreamweaver ではすべての FTP ファイル転送操作も記録されます。FTP を使ってファイルを転送中にエラーが発生した場合、FTP サイトログを問題解決に利用できます。

リモートサーバーへのファイル送信に関するチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0163_jp を参照してください。

パブリッシュ問題のトラブルシューティングに関するチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0164_jp を参照してください。

関連項目

90 ページの「ファイルの同期」

87 ページの「チェックイン / チェックアウトシステムについて」

[ファイル] パネルを使用したリモートサーバーまたはテストサーバーへのファイルの送信

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、アップロードするファイルを選択します。

通常、ローカルビューでアップロードするファイルを選択しますが、リモートビューで選択することもできます。

注意：ローカルのバージョンがリモートのバージョンより新しいファイルのみを送信できます。

2 リモートサーバーにファイルを送信するには以下のいずれかの操作を行います。

- [ファイル] パネルのツールバーの [PUT] ボタンをクリックします。
- [ファイル] パネルでファイルを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [PUT] を選択します。

3 送信するファイルが保存されていない場合は、リモートサーバーに送信する前にファイルを保存するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます ([環境設定] ダイアログボックスの [サイト] カテゴリのこの環境設定を設定した場合)。[はい] をクリックしてファイルを保存するか、[いいえ] をクリックして前回保存したバージョンをリモートサーバーに送信します。

注意：送信前にファイルを保存しないと、前回保存した後に行った変更は、リモートサーバーに送信されません。ファイルは開いたままなので、サーバーにファイルを送信した後で変更を保存することができます。

4 [はい] をクリックすると、依存ファイルが選択したファイルと共にアップロードされます。[いいえ] をクリックすると、依存ファイルはアップロードされません。初期設定では、依存ファイルはアップロードされません。このオプションは、[編集]-[環境設定]-[サイト] で設定できます。

注意：通常、新規ファイルをチェックインする場合は、依存ファイルも一緒にアップロードすることをお勧めしますが、既に最新バージョンの依存ファイルがリモートサーバーにある場合は、再びアップロードする必要はありません。

ファイル転送を停止するには、ステータスダイアログボックスの [キャンセル] をクリックします。転送はすぐに停止しないことがあります。

現在読み取り専用であることを示すロック記号がローカルファイルのアイコンの隣に表示されます。

重要：現在アクティブなファイルをチェックインする場合に、ファイルを自動的に保存してからチェックインするように、環境設定のオプションを設定できます。

ドキュメントウィンドウを使用したリモートサーバーへのファイルの送信

1 ドキュメントウィンドウでドキュメントがアクティブになっていることを確認します。

2 ファイルを送信するには以下のいずれかの操作を行います。

- [サイト]-[PUT] を選択します。
- ドキュメントウィンドウのツールバーの [ファイル管理] アイコンをクリックし、ポップアップメニューから [PUT] を選択します。

注意：現在のファイルが [ファイル] パネルの現在のサイトの一部ではない場合は、Dreamweaver により現在のファイルがどのローカルサイトに属しているかが調べられます。現在のファイルが 1 つのローカルサイトだけに属している場合は、Dreamweaver がそのサイトを開き、PUT 操作を実行します。

FTP のログの表示

❖ [ファイル] パネルで右上の [オプション] メニューをクリックし、[表示]-[FTP サイトログ] を選択します。

ファイル転送の管理

ファイル転送操作のステータスと、転送されたファイルとその結果のリスト (転送の成功、スキップ、または失敗) を表示できます。また、ファイル操作のログを保存することもできます。

注意：Dreamweaver では、サーバーへのファイルの転送中またはサーバーからのファイルの転送中に、サーバーに関連しない他の操作を実行することができます。

ファイル転送のキャンセル

❖ [キャンセル] ボタンをクリックするか、[バックグラウンドファイル操作] ダイアログボックスを閉じます。

ファイル転送中での [バックグラウンドファイル操作] ダイアログボックスの非表示

❖ [バックグラウンドファイル操作] ダイアログボックスで [非表示] ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが最小化され、[ファイル] パネルの下部に小さい [ログ] ボタンだけが表示されます。

注意：[ログ] ボタンを非表示に設定または削除することはできません。[ログ] ボタンはパネルに常に表示されます。

最後のファイル転送の詳細の表示

1 [ファイル] パネルの下部にある [ログ] ボタンをクリックして、[バックグラウンドファイル操作] ダイアログボックスを開きます。

2 縮小の三角形をクリックします。

最後のファイル転送のログの保存

1 [ファイル] パネルの下部にある [ログ] ボタンをクリックして、[バックグラウンドファイル操作] ダイアログボックスを開きます。

2 [ログの保存] ボタンをクリックし、情報をテキストファイルとして保存します。

ファイル操作を確認するには、Dreamweaver またはテキストエディタでログファイルを開きます。

ファイルのチェックインとチェックアウト

チェックイン / チェックアウトシステムについて

グループで共同作業を行う環境では、ローカルサーバーおよびリモートサーバーからファイルをチェックインまたはチェックアウトします。リモートサーバーで単独で作業している場合は、ファイルをチェックインまたはチェックアウトせずに [PUT] および [GET] コマンドを使用できます。

注意：テストサーバーでは、GET 機能と PUT 機能を使用することはできますが、チェックイン / チェックアウト機能を使用することはできません。

ファイルをチェックアウトする操作は、「今このファイルを操作しているので触らないこと !」と宣言することと同じです。ファイルがチェックアウトされると、[ファイル] パネル内にチェックアウトした人の名前が表示され、赤色のチェックマーク (他のチームメンバーがファイルをチェックアウトした場合) または緑色のチェックマーク (本人がファイルをチェックアウトした場合) がそのファイルのアイコンの隣に表示されます。

ファイルをチェックインすると、他のユーザーがそのファイルをチェックアウトして編集することができるようになります。編集を終えたファイルをチェックインすると、その後、そのファイルのローカルバージョンは読み取り専用になり、[ファイル] パネル内でファイル名の隣にロック記号が表示されて、編集できなくなります。

Dreamweaver を使用してチェックアウトされたファイルは、リモートサーバー上で読み取り専用になりません。Dreamweaver 以外のアプリケーションでファイルを転送すると、チェックアウトされているファイルが上書きされる可能性があります。このような事故を防止するために、Dreamweaver 以外のアプリケーションでファイル階層を見ると、チェックアウトされたファイルの隣に LCK ファイルが表示されます。

LCK ファイルとチェックイン / チェックアウトシステムの仕組みの詳細については、Adobe Web サイトの TechNote 15447 (www.adobe.com/go/15447_jp) (英語のみ) を参照してください。

関連項目

83 ページの「サーバーからのファイルの取得とサーバーへのファイルの送信」

チェックイン / チェックアウトシステムの設定

チェックイン / チェックアウトシステムを使用するには、事前にローカルサイトをリモートサーバーに関連付ける必要があります。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイトを選択し、[編集] をクリックします。

3 [詳細設定] タブの左の [カテゴリ] リストで [リモート情報] を選択します。

4 グループで共同作業している (または単独で数台の異なるマシンを使って作業している) 場合は、[ファイルのチェックイン / チェックアウト] をオンにします。Web サイトのファイルのチェックインとチェックアウトを無効にする場合は、このオプションをオフにします。

このオプションは、ファイルを編集するためにチェックアウトしたことを他のユーザーに知らせたい場合や、他のマシンにより新しいバージョンのファイルがあることがわかるように設定したいときに便利です。

リモートアクセスオプションが [Microsoft Visual SourceSafe] の場合、[チェックイン / チェックアウト] オプションで使用できるのはこれだけです。このセクションで使用できる他のオプションは、[FTP]、[ローカル / ネットワーク]、[WebDAV]、および [RDS] です。

[チェックイン / チェックアウト] オプションが表示されない場合は、リモートサーバーがセットアップされていません。

5 [ファイル] パネルでファイルをダブルクリックして開くときに、ファイルが自動的にチェックアウトされるように設定するには、[常にチェックアウトしてファイルを開く] オプションをオンにします。

[ファイル]-[開く] を使ってファイルを開くと、このオプションがオンになっていてもファイルはチェックアウトされません。

6 その他のオプションを設定します。

チェックアウト名 [ファイル] パネルには、チェックアウトされているファイルと並んでチェックアウト名が表示されるので、チームメンバーは、必要なファイルをチェックアウトしているユーザーに連絡することができます。

注意：数台のマシンを使って単独で作業をしている場合、各マシンで異なるチェックアウト名を使用してください (たとえば、AmyR-HomeMac と AmyR-OfficePC など)。これで、チェックインするのを忘れた場合に、ファイルの最新バージョンがどこにあるかがわかります。

電子メールアドレス 電子メールアドレスを入力してファイルをチェックアウトすると、[ファイル] パネル内で、チェックアウトしたファイルの横に、名前が青いアンダーラインの付いたリンクとして表示されます。他のユーザーがこのリンクをクリックすると、標準として使用している電子メールプログラムが起動し、ファイルをチェックアウトしたユーザーの電子メールアドレスを宛先に、ファイルとサイト名を件名にした新規メッセージが開きます。

関連項目

40 ページの「リモートフォルダの設定」

WebDAV を使用したファイルのチェックインとチェックアウト

Dreamweaver は、リモート Web サーバー上のファイルをユーザーが共同で編集および管理できるようにする HTTP プロトコルの拡張機能セットである、WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning) を使用しているサーバーに接続できます。詳細については、www.webdav.org を参照してください。

1 既に行っていない場合は、プロジェクトファイルの保存に使用するローカルフォルダを指定する Dreamweaver サイトを定義します。

2 [サイト]-[サイトの管理] を選択し、リストでサイトをダブルクリックします。

3 [サイト定義] ダイアログボックスの [詳細設定] タブをクリックします。

4 [リモート情報] カテゴリをクリックし、[アクセス] メニューから [WebDAV] を選択します。

5 Dreamweaver が WebDAV サーバーに接続する方法を指定します。

6 [ファイルのチェックイン / チェックアウト] オプションを選択し、次の情報を入力します。

- [チェックアウト名] ボックスに、他のチームメンバーに自分を示す名前を入力します。
- [電子メールアドレス] テキストボックスに電子メールアドレスを入力します。

名前と電子メールアドレスは、WebDAV サーバーにおける所有権の識別に使用されます。この電子メールアドレスは、連絡に使用するために [ファイル] パネルに表示されます。

7 [OK] をクリックします。

Dreamweaver では、WebDAV アクセス用にサイトが構成されます。任意のサイトファイルで [チェックイン] または [チェックアウト] コマンドを使用すると、WebDAV を使用してファイルが転送されます。

注意：HTTP GET では、PHP タグや SSI のような動的コンテンツを含むファイルはチェックアウトされたものとして描画されるため、WebDAV ではこのようなファイルを正しくチェックアウトできないことがあります。

リモートフォルダのファイルのチェックインとチェックアウト

チェックイン / チェックアウトシステムを設定すると、[ファイル] パネルまたはドキュメントウィンドウで、リモートサーバー上のファイルをチェックインおよびチェックアウトできるようになります。

関連項目

81 ページの「ファイル転送に関するサイト環境設定の設定」

[ファイル] パネルを使用したファイルのチェックアウト

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、リモートサーバーからチェックアウトするファイルを選択します。

注意：ファイルは、[テストサーバー] ビューではなく [ローカルビュー] または [リモートビュー] で選択できます。

赤のチェックマークは、他のチームメンバーがファイルをチェックアウトしていることを示し、ロック記号は、ファイルが読み取り専用 (Windows) であるか、またはロックされている (Macintosh) ことを示します。

2 ファイルをチェックアウトするには、以下のいずれかの操作を行います。

- [ファイル] パネルのツールバーの [チェックアウト] ボタンをクリックします。
- 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [チェックアウト] を選択します。

3 [依存ファイル] ダイアログボックスで [はい] をクリックすると、選択したファイルと共に依存ファイルがダウンロードされます。[いいえ] をクリックすると、依存ファイルはダウンロードされません。初期設定では、依存ファイルはダウンロードされません。このオプションは、[編集]-[環境設定]-[サイト] で設定できます。

注意：通常、新規ファイルをチェックアウトする場合は、依存ファイルも一緒にダウンロードすることをお勧めしますが、既に最新バージョンの依存ファイルがローカルディスクにある場合は、再びダウンロードする必要はありません。

ユーザーがファイルをチェックアウトしたことを示す、緑のチェックマークがローカルファイルのアイコンの隣に表示されます。

重要：現在アクティブなファイルをチェックアウトすると、現在開いているファイルのバージョンが、新しくチェックアウトされたバージョンで上書きされます。

[ファイル] パネルを使用したファイルのチェックイン

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、チェックアウトされているファイルまたは新しいファイルを選択します。

注意：ファイルは、[テストサーバー] ビューではなく [ローカルビュー] または [リモートビュー] で選択できます。

2 ファイルをチェックインするには、以下のいずれかの操作を行います。

- [ファイル] パネルのツールバーの [チェックイン] ボタンをクリックします。
- 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [チェックイン] を選択します。

3 [はい] をクリックすると、依存ファイルが選択したファイルと共にアップロードされます。[いいえ] をクリックすると、依存ファイルはアップロードされません。初期設定では、依存ファイルはアップロードされません。このオプションは、[編集]-[環境設定]-[サイト] で設定できます。

注意：通常、新規ファイルをチェックインする場合は、依存ファイルも一緒にアップロードすることをお勧めしますが、既に最新バージョンの依存ファイルがリモートサーバーにある場合は、再びアップロードする必要はありません。

現在読み取り専用であることを示すロック記号がローカルファイルのアイコンの隣に表示されます。

重要：現在アクティブなファイルをチェックインする場合に、ファイルを自動的に保存してからチェックインするように、環境設定のオプションを設定できます。

ドキュメントウィンドウでの開いているファイルのチェックイン

1 チェックインするファイルがドキュメントウィンドウで開いていることを確認します。

注意：一度にチェックインできるのは、開いている 1 ファイルのみです。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [サイト]-[チェックイン] を選択します。
- ドキュメントウィンドウのツールバーの [ファイル管理] アイコンをクリックし、ポップアップメニューから [チェックイン] を選択します。

現在のファイルが [ファイル] パネルのアクティブなサイトの一部ではない場合は、Dreamweaver により現在のファイルがどのローカルに定義されたどのサイトに属しているかが調べられます。現在のファイルが [ファイル] パネルでアクティブなサイト以外のサイトに属する場合は、Dreamweaver がそのサイトを開き、チェックイン操作を実行します。

重要：現在アクティブなファイルをチェックインする場合に、ファイルを自動的に保存してからチェックインするように、環境設定のオプションを設定できます。

ファイルのチェックアウトの取り消し

ファイルをチェックアウトしても編集しない場合 (または変更内容を破棄する場合)、チェックアウトの操作を取り消して、ファイルを元の状態に戻すことができます。

ファイルのチェックアウトを取り消すには、以下のいずれかの操作を行います。

- ドキュメントウィンドウでファイルを開き、[サイト]-[チェックアウトの取り消し] を選択します。
- [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、[チェックアウトの取り消し] を選択します。

ファイルのローカルコピーが読み取り専用になり、行った変更がすべて失われます。

ファイルの同期

ローカルサイトとリモートサイトのファイルの同期

ローカルサイトとリモートサイトに作成したファイルは、2 つのサイト間で同期させることができます。

注意：リモートサイトが FTP サーバーの場合 (ネットワークされたサーバーではなく)、ファイルの同期に FTP を使います。

サイトを同期する前に、送信、取得、削除、または無視するファイルを確認できます。また、Dreamweaver は、同期の完了後に、更新されたファイルを確認します。

関連項目

86 ページの「ファイル転送の管理」

89 ページの「リモートフォルダのファイルのチェックインとチェックアウト」

84 ページの「リモートサーバーからのファイルの取得」

85 ページの「リモートサーバーへのファイル送信」

92 ページの「ファイルの違いの比較」

ローカルサイトとリモートサイトのどちらのファイルがより新しいかを同期しないでチェックする

❖ [ファイル] パネルで、次のいずれかの操作を行います。

- 右上隅にある [オプション] メニューをクリックし、[編集]-[新しいローカルアイテムの選択] または [編集]-[新しいリモートアイテムの選択] を選択します。

- [ファイル] パネルで、右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[選択]-[ローカルが最新] または [選択]-[リモートが最新] を選択します。

特定のファイルの詳細な同期情報の表示

❖ [ファイル] パネルで、情報を表示するファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[同期情報を表示] を選択します。

注意：この機能を使用するには、[サイト定義] ダイアログボックスの [リモート] のカテゴリで [同期情報の保持] オプションを選択していることが必要です。

ファイルの同期

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューからサイトを選択します。

2 (オプション) 特定のファイルまたはフォルダを選択するか、次の手順に移動してサイト全体を同期します。

3 [ファイル] パネルの右上隅の [オプション] メニューをクリックし、[サイト]-[同期] を選択します。

また、[ファイル] パネルの上部にある [同期] ボタンをクリックしてファイルを同期することもできます。

4 [同期] メニューで、次のいずれかの操作を行います。

- サイト全体を同期するには、サイト名サイト全体を選択します。
- 選択したファイルだけを同期するには、[選択したローカルファイルのみ] (または最後に選択したのが [ファイル] パネルの [リモートビュー] の場合は、[選択したリモートファイルのみ]) を選択します。

5 ファイルをコピーする方向を選択します。

最新ファイルをリモートに PUT リモートサーバーに存在しないローカルファイルまたは前回のアップロード後に変更されたローカルファイルをすべてアップロードします。

最新ファイルをリモートから GET ローカルに存在しないリモートファイルまたは前回のダウンロード後に変更されたリモートファイルをすべてダウンロードします。

最新ファイルの GET/PUT リモートサイトおよびローカルサイトのファイルの中で最も新しいバージョンが取得または送信されます。

6 ファイルの送信元のサイトに同じファイルがない場合、ファイルの送信先のサイト上のファイルを削除するかどうかを選択します。ただし、これは [方向] メニューで GET および PUT を選択した場合は選択できません。

[最新ファイルをリモートに PUT] を選択し、[削除] オプションを選択すると、該当するローカルファイルを持たないリモートサイト中のすべてのファイルが削除されます。[最新ファイルをリモートから GET] を選択すると、該当するリモートファイルを持たないローカルサイト中のすべてのファイルが削除されます。

7「プレビュー」をクリックします。

注意：ファイルを同期する前に、このタスクを実行するために Dreamweaver が実行するアクションをプレビューする必要があります。

選択した各ファイルの最新バージョンが既に両方のサイトにある場合、メッセージが表示され、同期を取る必要がないことを知らせます。それ以外の場合は、[同期] ダイアログボックスが表示され、ここで同期の実行前にファイルのアクション (送信、取得、削除、および無視) を変更できます。

8 各ファイルに実行するアクションを確認します。

9 特定のファイルに対するアクションを変更するには、ファイルを選択し、プレビューウィンドウの下部にあるアクションアイコンの 1 つをクリックします。

比較 [比較] アクションは、Dreamweaver でファイル比較ツールをインストールし指定した場合のみ動作します。アクションアイコンが灰色で表示されている場合は、そのアクションを実行できません。

選択したファイルがすでに同期がとれているとしてマーク このオプションを使用すると、選択したファイルが既に同期済みであることを指定できます。

10 [OK] をクリックしてファイルを同期します。同期の詳細は表示したり、ローカルファイルに保存したりできます。

ファイルの違いの比較

ローカルファイルとリモートファイルの相違に関する比較

Dreamweaver では、ファイルの比較ツール (差分ツール) を使用して、同じファイル、2 つの異なるリモートファイル、または 2 つの異なるローカルファイルのローカルバージョンとリモートバージョンのコードを比較できます。ファイルをローカルで操作していて、サーバー上のファイルが他のユーザーによって変更されていないかどうかを確認するときに、ローカルバージョンとリモートバージョンの比較が役立ちます。Dreamweaver で作業しながら、ファイルをサーバーに送信する前に、リモートバージョンの変更を確認してローカルバージョンにマージできます。

ファイルの以前のバージョンを名前を変更して維持している場合も、2 つのローカルファイルまたは 2 つのリモートファイルを比較すると便利です。以前のバージョン以降にファイルに対して行った変更を忘れてしまった場合は、簡単に比較を行って変更を確認できます。

比較を行う前に、サードパーティーのファイル比較ツールをシステムにインストールする必要があります。ファイル比較ツールの詳細については、Google Search など Web の検索エンジンで「ファイル比較」や「差分」のツールを検索してください。Dreamweaver はほとんどのサードパーティ製ツールと共に使用できます。

関連項目

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

Dreamweaver での比較ツールの指定

1 Dreamweaver と同じシステムにファイル比較ツールをインストールします。

2 Dreamweaver で、[編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して [環境設定] ダイアログボックスを開き、[ファイルの比較] カテゴリを選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- Windows の場合は、[参照] ボタンをクリックし、ファイルを比較するアプリケーションを選択します。
- Macintosh の場合は、[参照] ボタンをクリックし、実際のファイル比較ツールそのものではなく、コマンドラインからファイル比較ツールを起動するツールまたはスクリプトを選択します。

起動ツールまたはスクリプトは、通常、Macintosh の "usr/bin" フォルダにあります。たとえば、FileMerge を使用する場合は、"usr/bin" フォルダを参照して、FileMerge を起動するツールである opendiff を選択します。

次の表に、Macintosh 用の一般的なファイル比較ツールと、ハードディスク上のその起動ツールまたはスクリプトの場所を示します。

使用するツール	選択するファイル
FileMerge	usr/bin/opendiff
BBEdit	usr/bin/bbdiff
TextWrangler	usr/bin/twdiff

注意："usr" フォルダは、通常は Finder 内で非表示になっています。ただし、Dreamweaver の [参照] ボタンを使用してアクセスできます。

注意：実際に表示される結果は、使用する差分ツールによって異なります。結果の解釈については、ツールのユーザーマニュアルを参照してください。

2 つのローカルファイルの比較

コンピュータの任意の場所にある 2 つのファイルを比較できます。

1 [ファイル] パネルで、Ctrl キーを押しながらクリック (Windows) または Command キーを押しながらクリック (Macintosh) し、2 つのファイルを選択します。

定義されたサイトの範囲外のファイルを選択するには、[ファイル] パネルの左のポップアップメニューからローカルディスクを選択し、ファイルを選択します。

2 選択されたファイルの 1 つを右クリックし、コンテキストメニューから [ローカルファイルの比較] を選択します。

注意：ボタンが 1 つのマウスの場合は、Control キーを押しながら、選択されたファイルの 1 つをクリックします。

ファイル比較ツールが起動し、2 つのファイルが比較されます。

2 つのリモートファイルの比較

リモートサーバー上の 2 つのファイルを比較できます。このタスクを実行する前に、リモート設定を使用して Dreamweaver サイトを定義する必要があります。

1 [ファイル] パネルで、右のポップアップメニューから [リモートビュー] を選択し、リモートサーバー上のファイルを表示します。

2 Ctrl キーを押しながらクリック (Windows) または Command キーを押しながらクリック (Macintosh) し、2 つのファイルを選択します。

3 選択されたファイルの 1 つを右クリックし、コンテキストメニューから [リモートファイルの比較] を選択します。

注意：ボタンが 1 つのマウスの場合は、Control キーを押しながら、選択されたファイルの 1 つをクリックします。

ファイル比較ツールが起動し、2 つのファイルが比較されます。

ローカルファイルとリモートファイルの比較

ローカルファイルとリモートサーバー上のファイルを比較することができます。そのためには、最初にリモート設定を使用して Dreamweaver サイトを定義する必要があります。

❖ [ファイル] パネルで、ローカルファイルを右クリックし、コンテキストメニューから [リモートとの比較] を選択します。

注意：ボタンが 1 つのマウスの場合は、Control キーを押しながらローカルファイルをクリックします。

ファイル比較ツールが起動し、2 つのファイルが比較されます。

リモートファイルとローカルファイルの比較

リモートファイルとローカルファイルを比較することができます。このタスクを実行する前に、リモート設定を使用して Dreamweaver サイトを定義する必要があります。

1 [ファイル] パネルで、右のポップアップメニューから [リモートビュー] を選択し、リモートサーバー上のファイルを表示します。

2 パネルでファイルの 1 つを右クリックし、コンテキストメニューから [ローカルとの比較] を選択します。

注意：ボタンが 1 つのマウスの場合は、Control キーを押しながらファイルをクリックします。

開いているファイルとリモートファイルの比較

Dreamweaver で開いているファイルとリモートサーバー上のファイルを比較することができます。

❖ ドキュメントウィンドウで、[ファイル]-[リモートとの比較] を選択します。

ファイル比較ツールが起動し、2 つのファイルが比較されます。

ドキュメントウィンドウの上部にあるドキュメントタブを右クリックし、コンテキストメニューから [リモートとの比較] を選択することもできます。

PUT 前のファイルの比較

ファイルをローカルで編集し、リモートサーバーにアップロードを試みると、そのファイルのリモートバージョンが変更されていた場合は Dreamweaver により通知されます。このような場合、ファイルをアップロードしリモートバージョンを上書きする前に、2 つのファイルを比較するオプションがあります。

作業を開始する前に、システムにファイル比較ツールをインストールし、Dreamweaver でそのツールを指定する必要があります。

1 Dreamweaver サイトでファイルを編集後に、リモートサイトにファイルを送信します ([サイト]-[PUT])。

ファイルのリモートバージョンが変更されている場合は通知され、違いを表示するオプションが表示されます。

2 違いを表示するには、[比較] ボタンをクリックします。

ファイル比較ツールが起動し、2 つのファイルが比較されます。

ファイル比較ツールを指定していない場合は、ツールを指定するように求めるメッセージが表示されます。

3 ツールで変更を確認またはマージしたら、PUT 操作に進むか操作をキャンセルできます。

同期時のファイルの比較

Dreamweaver でサイトファイルを同期するときは、ローカルバージョンのファイルとリモートバージョンのファイルを比較できます。

作業を開始する前に、システムにファイル比較ツールをインストールし、Dreamweaver でそのツールを指定する必要があります。

1 [ファイル] パネルの任意の場所を右クリックし、コンテキストメニューから [同期] を選択します。

2 [ファイルの同期] ダイアログボックスに情報を入力し、[プレビュー] をクリックします。

[プレビュー] をクリックすると、同期中に取得される選択済みのファイルとアクションが表示されます。

3 リスト内で、比較する各ファイルを選択し、[比較] ボタン (小さい 2 ページのアイコン) をクリックします。

注意：ファイルは、HTML や ColdFusion ファイルなどのテキストベースである必要があります。

Dreamweaver により比較ツールが起動され、選択した各ファイルのローカルバージョンとリモートバージョンが比較されます。

関連項目

90 ページの「ファイルの同期」

ファイルのロールバック (Contribute ユーザー)

ファイルのロールバック (Contribute ユーザー)

Adobe Contribute 互換性を有効にすると、Dreamweaver では複数のバージョンのドキュメントが自動的に保存されます。

注意：Contribute は Dreamweaver と同じマシンにインストールされている必要があります。

ファイルのロールバックは、Contribute の管理設定でも有効にする必要があります。詳細については、『**Contribute** の使用と管理 .』を参照してください。

1 [ファイル] パネルでファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) します。

2 [ページのロールバック] を選択します。

ロールバックする、以前のバージョンのページがある場合は、[ロールバック] ダイアログボックスが表示されます。

3 ロールバックするページのバージョンを選択し、[ロールバック] をクリックします。

関連項目

55 ページの「Contribute で使用するサイトの準備」

57 ページの「Contribute サイトにおけるリモートファイルの削除、移動、名前の変更」

サイト内のファイルおよびフォルダのクローク

サイトのクロークについて

サイトをクロークすると、フォルダやファイルのタイプを GET や PUT などの操作の対象から除外できます。個々のフォルダはクロークできますが、個々のファイルをクロークすることはできません。ファイルをクロークするには、ファイルタイプを選択する必要があります。Dreamweaver はそのタイプのすべてのファイルをクロークします。Dreamweaver では、各サイトについて設定のたびに選択しなくてすむように、各サイトの設定が記憶されています。

たとえば、大規模なサイトを編集していて、毎日マルチメディアファイルをアップロードしたくない場合、サイトのクローク機能を使用して、マルチメディアフォルダをクロークしておくと、そのフォルダ内のファイルを操作の対象から除外できます。

リモートまたはローカルサイトのフォルダおよびファイルタイプをクロークできます。クロークされたフォルダおよびファイルは以下の操作の対象から除外されます。

- PUT、GET、チェックイン、およびチェックアウト操作の実行
- レポートの生成
- 新しいローカルファイルおよび新しいリモートファイルの検索
- リンクのチェックや変更など、サイト全体に対しての操作の実行
- 同期
- [アセット] パネルコンテンツの操作
- テンプレートおよびライブラリの更新

注意：Dreamweaver では、クロークされたテンプレートおよびライブラリのアイテムが、取得操作と送信操作からのみ除外されます。つまり、Dreamweaver でこれらのアイテムをクロークしても、バッチ操作の対象からは除外されません。除外すると、これらのアイテムのインスタンスとの同期が取れなくなるからです。

サイトクロークの有効 / 無効の切り替え

サイトをクロークすると、フォルダおよびファイルタイプを [GET] や [PUT] などのサイト全体の操作の対象から除外できます。サイトのクロークは、初期設定で有効です。クロークされたファイルを含む、すべてのファイルに対し操作を実行するために、永久的または一時的にクローク使用不可にできます。サイトのクロークを使用不可にすると、クロークされたすべてのファイルのクロークが解除されます。サイトを再びクローク可能にすると、以前クロークされていたファイルは再びクロークされます。

注意：[すべてをクローク解除] オプションを使用して、すべてのファイルのクロークを解除することもできますが、このオプションはクロークを使用不可にするわけではありません。また、このオプションでクロークを解除すると、再クロークする場合に、フォルダやファイルタイプを個々に選んで再度クロークしなければならなくなります。

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューからサイトを選択します。

2 ファイルまたはフォルダを選択します。

3 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、以下のいずれかの操作を行います。

- [クローク]-[クロークを使用可能にする] をオンにします (無効にする場合はオフにします)。
- [クローク]-[設定] を選択し、[サイト定義] ダイアログボックスの左側にある [カテゴリ] リストから [クローク] を選択します。[クロークを使用可能にする] をオンまたはオフにし、[次で終わるファイルをクロークする] をオンまたはオフにすることにより、特定ファイルタイプのクロークを有効または無効に設定します。クロークまたはクローク解除するファイル拡張子をテキストボックスに入力するか、または削除できます。

4 [OK] をクリックします。

サイトフォルダのクローク実行およびクローク解除

特定のフォルダをクロークすることはできますが、すべてのフォルダまたはサイト全体をクロークすることはできません。複数の特定のフォルダを同時にクロークできます。

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューから、サイトのクロークが使用可能になっているサイトを選択します。

2 クロークするまたはクローク解除するフォルダを選択します。

3 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、コンテキストメニューから [クローク]-[クローク実行] または [クローク]-[クローク解除] を選択します。

フォルダアイコンを貫く赤色の線が表示または非表示になり、フォルダがクロークされているのか、それともクローク解除されているのかを示します。

注意：クロークされた特定のフォルダを操作するには、[ファイル] パネルでアイテムを選択して、操作を実行してください。ファイルまたはフォルダを直接的に操作すれば、クロークされているフォルダでも操作できます。

特定のファイルタイプに対するクローク実行およびクローク解除

ファイルタイプを指定すると、指定したパターンで終わるファイルだけを Dreamweaver でクロークできます。たとえば、拡張子 .txt で終わるすべてのファイルをクロークすることができます。指定するファイルタイプは、ファイル拡張子である必要はありません。ファイル名の末尾のあらゆるパターンを指定できます。

注意：個別のファイル、フォルダのみ、または特定のファイルタイプのすべてのファイルを指定してクロークすることはできません。

サイト内の特定のファイルタイプのクローク

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューから、サイトのクロークが使用可能になっているサイトを選択します。

2 右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[クローク]-[設定] を選択します。

3 [次で終わるファイルをクロークする] オプションを選択し、クロークするファイルタイプをテキストボックスに入力します。

たとえば、サイト内にある、名前が .jpg で終わるすべてのファイルをクロークする場合は、「**.jpg**」と入力します。

ファイルタイプが複数の場合は半角スペース 1 個で区切ります。カンマやセミコロンは使用しません。

4 [OK] をクリックします。

対象となるファイルに赤色の線が表示され、クロークされていることが示されます。

.bak など、特定の拡張子で終わるバックアップファイルを作成するソフトウェアもあります。このようなファイルをクロークできます。

注意：クロークされた特定のフォルダを操作するには、[ファイル] パネルでアイテムを選択して、操作を実行してください。ファイルまたはフォルダを直接的に操作すれば、クロークされているフォルダでも操作できます。

サイト内の特定のファイルタイプのクローク解除

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューから、サイトのクロークが使用可能になっているサイトを選択します。

2 右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[クローク]-[設定] を選択します。

3 [サイト定義] ダイアログボックスの [詳細設定] タブで、次のいずれかの操作を行います。

- [次で終わるファイルをクロークする] オプションをオフにすると、テキストボックスに表示されているすべてのファイルタイプのクロークが解除されます。
- クロークを解除するファイルタイプをテキストボックスから削除します。

4 [OK] をクリックします。

クロークの対象だったファイルの赤色の線が消え、クロークが解除されたことがわかります。

すべてのフォルダとファイルのクローク解除

サイト内にあるすべてのフォルダとファイルに設定されているクロークを一度に解除できます。この操作は、取り消すことができません。クロークを解除したアイテムをすべて再度クロークする方法はありません。その場合は、アイテムを個々に再クロークする必要があります。

一時的にすべてのフォルダおよびファイルをクローク解除し、再クロークするには、サイトをクローク不可にします。

1 [ファイル] パネル ([ウィンドウ]-[ファイル]) で、現在のサイト、サーバー、またはドライブが表示されるポップアップメニューから、サイトのクロークが使用可能になっているサイトを選択します。

2 サイト内の任意のファイルまたはフォルダを選択します。

3 右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[クローク]-[すべてをクローク解除] を選択します。

注意：この操作を行うと、[サイト]-[クローク]-[設定] の [次で終わるファイルをクロークする] オプションがオフになります。

フォルダとファイルのアイコンに引かれていた赤色の線が消えて、サイト内のすべてのファイルおよびフォルダのクロークが解除されたことがわかります。

デザインノート内のファイル情報の格納

デザインノートについて

デザインノートとは、ファイル用に作成するノートのことです。デザインノートは、記述されるファイルと関連しますが、別のファイルに格納されます。展開されている [ファイル] パネルで、どのファイルにデザインノートが関連付けられているかを確認できます。デザインノートのアイコンが [ノート] 列に表示されます。

デザインノートを使用すると、イメージソースファイル名やファイル状態のコメントなどの、ドキュメントに関連付けられた付加ファイル情報を継続的に管理できます。たとえば、あるサイトから他のサイトにドキュメントをコピーする場合、そのドキュメントにデザインノートを追加し、オリジナルのドキュメントが他のサイトフォルダにあるとコメントできます。

デザインノートを使用して、セキュリティ上の理由でドキュメント内には含めることのできない機密情報の記録を保存することもできます。たとえば、どのようにして特定の価格や構成が選択されたかについてのメモや、どのようなマーケティング事項がデザインの決定に影響したかについての情報を追加できます。

Adobe® Fireworks® または Flash でファイルを開き、それを他の形式に書き出す場合、Fireworks および Flash は自動的にデザインノートファイル内にオリジナルソースファイルの名前を保存します。たとえば、Fireworks で "myhouse.png" を開き、それを "myhouse.gif" に書き出すと、Fireworks では自動的にオリジナルファイルの名前が入っている "myhouse.gif.mno" という名前のデザインノートファイルが作成されます。このデザインノートファイルには、オリジナルファイルの名前が絶対ファイル : URL として含まれています。したがって、"myhouse.gif" のデザインノートには以下のような行があります。

```
fw_source="file:///Mydisk/sites/assets/orig/myhouse.png"
```

同様に、Flash を使用して作成されたデザインノートには、以下のような行が含まれます。

```
fl_source="file:///Mydisk/sites/assets/orig/myhouse.fla"
```

注意 : デザインノートを共有するには、ユーザー側で同じサイトルートパス ("sites/assets/orig" など) を定義する必要があります。

グラフィックを Dreamweaver に読み込むと、グラフィックと一緒にデザインノートファイルが自動的にサイトにコピーされます。Dreamweaver でイメージを選択し、Fireworks で開いて編集しようとすると、Fireworks は編集用にオリジナルファイルを開きます。

関連項目

259 ページの「メディアファイルに使用する外部エディタの起動」

サイトのデザインノートの有効化と無効化

デザインノートはファイルと関連していますが、別のファイルに格納されます。デザインノートを使用して、イメージソースファイル名やファイル状態のコメントなど、ドキュメントに関連付けられた付加ファイル情報を継続的に管理できます。

[サイト定義] ダイアログボックスの [デザインノート] カテゴリで、選択したサイトに対してデザインノートを使用可能または使用不可に設定できます。デザインノートを使用可能にしている場合は、必要に応じて、ローカルでのみデザインノートを使用できるように選択できます。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [サイトの管理] ダイアログボックスで、サイトを選択し [編集] をクリックします。

3 [サイト定義] ダイアログボックスの [詳細設定] タブで、左側の [カテゴリ] リストから [デザインノート] を選択します。

4 [デザインノート保持] を選択してデザインノートを有効にします (無効にする場合は選択を解除します)。

5 サイトのすべてのローカルのデザインノートファイルを削除する場合には、[クリーンアップ] をクリックし、[はい] をクリックします。すべてのリモートデザインノートファイルを削除するには、[サイト]-[サイトの管理] を選択し、サイトを選択して [編集] を選択し、[リモート情報] パネルの [同期情報の保持] オプションをオフにします。

6 [デザインノートをアップロードして共有する] を選択して [OK] をクリックし、サイトに関連付けられているデザインノートを他のすべてのドキュメントと共にアップロードします。

- このオプションを選択すると、他のユーザーとデザインノートを共有できます。Dreamweaver では、ファイルを送信、または取得すると、関連付けられているデザインノートファイルも自動的に送信、または取得されます。
- このオプションを選択しない場合、Dreamweaver はデザインノートをローカルで保持しますが、ファイルと一緒にアップロードしません。サイト上で単独で作業している場合、このオプションをオフにするとパフォーマンスが向上します。デザインノートは、ファイルをチェックインまたは送信してもリモートサイトに転送されません。引き続き、サイトのデザインノートをローカルに追加および変更できます。

デザインノートとファイルの関連付け

サイト内のドキュメントやテンプレートのそれぞれに対してデザインノートを作成できます。アプレット、ActiveX コントロール、イメージ、Flash コンテンツ、Shockwave オブジェクト、ドキュメント内のイメージフィールド用にもデザインノートを作成できます。

注意：デザインノートが追加されたテンプレートを基にドキュメントを作成する場合、作成されるドキュメントはデザインノートを継承しません。

1 次のいずれかの操作を実行します。

- ドキュメントウィンドウでファイルを開き、[ファイル]-[デザインノート] を選択します。
- [ファイル] パネルで、ファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[デザインノート] を選択します。

注意：ファイルがリモートサイトにある場合は、先にファイルをチェックアウトまたは取得してから、そのファイルをローカルフォルダで選択する必要があります。

2 [基本情報] タブの [ステータス] メニューからドキュメントのステータスを選択します。

3 日付アイコン ([メモ] テキストボックスの上) をクリックし、ノートに現在の日付を挿入します。

4 [メモ] テキストボックスにコメントを入力します。

5 ファイルを開くたびにデザインノートファイルを表示させるには、[ファイルが開いているときに表示] を選択します。

6 [全情報] タブで、プラス [+] ボタンをクリックして、新規のキーと値のペアを追加します。ペアを選択してマイナス [-] ボタンをクリックすると、それを削除できます。

たとえば、キーに **Author** という名前を付け ([名前] ボックス)、値を **Heidi** に定義 ([値] ボックス) できます。

7 [OK] をクリックしてノートを保存します。

Dreamweaver では、ノートは、現在のファイルと同じ場所にある "_notes" というフォルダに保存されます。デザインノートのファイル名は、ドキュメントのファイル名に拡張子 .mno が付いたものです。たとえば、ファイル名が "index.html" の場合、関連付けられているデザインノートは "index.html.mno" という名前になります。

関連項目

83 ページの「サーバーからのファイルの取得とサーバーへのファイルの送信」

89 ページの「リモートフォルダのファイルのチェックインとチェックアウト」

デザインノートの操作

デザインノートをファイルと関連付けると、デザインノートを開いてステータスを変更したり、デザインノートを削除できるようになります。

ファイルに関連するデザインノートを開く

❖ 次のいずれかの操作を行って、デザインノートを開きます。

- ドキュメントウィンドウでファイルを開き、[ファイル]-[デザインノート] を選択します。
- [ファイル] パネルで、ファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[デザインノート] を選択します。
- [ファイル] パネルの [ノート] 列にある黄色いデザインノートアイコンをダブルクリックします。

注意：黄色いデザインノートアイコンを表示するには、[詳細] タブで [サイト]-[サイトの管理]-[サイト名]-[編集]-[表示列] を選択します。リストパネルで [ノート] を選択し、[表示] オプションを選択します。[ファイル] ツールバーの [展開 / 折りたたむ] ボタンをクリックして、ローカルサイトとリモートサイトの両方を表示すると、デザインノートを含むファイルの黄色いノートアイコンを表示する [ノート] 列がローカルサイトに表示されます。

デザインノートのカスタムステータスの割り当て

1 ファイルまたはオブジェクトのデザインノートを開きます (前述の手順を参照してください)。

2 [全情報] タブをクリックします

3 [+] ボタンをクリックします。

4 [名前] フィールドに、「**status**」という単語を入力します。

5 [値] フィールドに、ステータスを入力します。

ステータス値が既にある場合、新しい値で置き換わります。

6 [基本情報] タブをクリックすると、[ステータス] ポップアップメニューに新しいステータス値が表示されます。

注意：一度にステータスメニューに入力できるカスタム値は 1 つだけです。新しい値を入力すると、Dreamweaver により、先に入力されていたステータス値が新しい値に置き換えられます。

サイトからの関連しないデザインノートの削除

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイトを選択して、[編集] ボタンをクリックします。

3 [サイト定義] ダイアログボックスで、左側の [カテゴリ] リストから [デザインノート] を選択します。

4 [クリーンアップ] ボタンをクリックします。

Dreamweaver により、どのファイルにも関連していないサイト内のデザインノートを、すべて削除してもよいか確認するメッセージが表示されます。

Dreamweaver では、関連付けられているデザインノートファイルのあるファイルを削除すると、Dreamweaver により同時にデザインノートファイルも削除されます。このため、デザインノートファイルが単独になるのは、通常、Dreamweaver 以外のアプリケーションを使用して、関連付けられたファイルを削除または名前変更した場合だけです。

注意：[デザインノート保持] をオフにした状態で [クリーンアップ] をクリックすると、Dreamweaver によりサイトにあるすべてのデザインノートが削除されます。

サイトのテスト

サイトのテストに関するガイドライン

サーバーにアップロードして他の人に公開する前に、ローカルの環境でサイトの動作を確認することをお勧めします。サイトの構築中に頻繁にテストとトラブルシューティングを行うことにより、問題を早期に発見し、その再発を防止することができます。

ターゲットのブラウザでページが予想どおりに表示されて機能すること、リンクが破損していないこと、ページのダウンロードに時間がかかり過ぎないことを確認します。また、サイトレポートを実行して、サイト全体のテストおよびトラブルシューティングを行うこともできます。

以下のガイドラインは、サイトを訪問するビジターに快適に閲覧してもらうためのヒントです。

1. ページがターゲットブラウザで正しく機能することを確認します。

スタイル、レイヤー、プラグイン、JavaScript をサポートしていないブラウザでも、ページが見やすく、かつ機能することを確認します。古いバージョンのブラウザで正しく表示されないページについては、[チェックブラウザ] ビヘイビアを使って、ビジターを自動的に他のページに移動することもできます。

2. さまざまなブラウザおよびプラットフォームでページをプレビューします。

これにより、ターゲットブラウザチェックではわからないレイアウト、カラー、フォントサイズ、初期設定ブラウザウィンドウサイズの違いを確認できます。

3. サイトをチェックして、破損リンクがあれば修正します。

他のサイトでもデザインの変更や再構成が行われている可能性があるため、リンク先のページが移動したり、削除されている可能性があります。リンクチェックレポートを実行してリンクをテストできます。

4. ページのファイルサイズおよびダウンロードに必要な時間を確認します。

大きなテーブルが含まれているページは、ブラウザによっては、テーブル全体のダウンロードが終わるまで何も表示されません。こういった場合はテーブルを分割することをお勧めします。分割できない場合は、ページの上部、テーブルの外側に Welcome メッセージや広告バナーなどのサイズの小さいコンテンツを置いて、テーブルのダウンロード中でもこれらのマテリアルが表示されるようにします。

5. サイトレポートを数回実行し、サイト全体のテストおよびトラブルシューティングを行います。

これにより、サイト全体をチェックして、無題ドキュメント、空のタグ、重複してネストされたタグなどの問題を確認できます。

6. コードを検証し、タグやシンタックスエラーを見つけます。

7. パブリッシュ後のサイトを更新および維持します。

サイトのパブリッシュとは、サイトを第三者に広く利用してもらうことです。サイトのパブリッシュは継続的なプロセスであり、さまざまな方法で行うことができます。サイトのパブリッシュでは、Dreamweaver のツールや外部のバージョンコントロール用アプリケーションを使って、バージョンコントロールシステムを定義および実行するプロセスが重要です。

8. ディスカッションフォーラムを使用します。

Dreamweaver ディスカッショングループは、Adobe Web サイト (www.adobe.com/go/dreamweaver_newsgroup_jp) で開催されています。

ディスカッショングループは、他のブラウザやプラットフォームなどの情報を得るには、最適のリソースです。他の Dreamweaver ユーザーと技術的な問題について話し合ったり、役に立つヒントを共有したりできます。

パブリッシュ問題のトラブルシューティングに関するチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0164_jp を参照してください。

関連項目

283 ページの「破損リンクの修正」

277 ページの「Dreamweaver でのリンクのテスト」

335 ページの「[チェックブラウザ] ビヘイビアの適用」

313 ページの「タグの検証」

313 ページの「ブラウザの互換性のチェック」

レポートを使用したサイトのテスト

ワークフロー、またはアクセシビリティなどの HTML 属性に関するサイトレポートは、現在のドキュメント、選択したファイル、またはサイト全体に対して実行できます。また、[レポート] コマンドを使用してサイト内のリンクをチェックできます。

ワークフローレポートを使用すると、Web チームのメンバーが共同で行う作業を効率化できます。誰がファイルをチェックアウトしたか、どのファイルがデザインノートと関連付けされているか、どのファイルが最近変更されたかを示すワークフローレポートを実行することができます。名前、値などのパラメータを指定することで、デザインノートのレポートをより詳細にすることができます。

注意：ワークフローレポートを実行するように定義されたリモートサイトへの接続が必要です。

HTML レポートを使用して、さまざまな HTML 属性のレポートをコンパイルおよび生成できます。結合可能なネストフォントタグ、アクセシビリティ、代替テキストの欠損、重複してネストされたタグ、削除可能な空のタグ、無題ドキュメントなどをチェックすることができます。

実行したレポートを XML ファイルとして保存し、テンプレートインスタンス、データベースまたはスプレッドシートに読み込んで、印刷したり Web サイトで表示することができます。

注意： Adobe Dreamweaver Exchange Web サイトを利用して、他のレポートタイプを Dreamweaver に追加することもできます。

関連項目

25 ページの「Dreamweaver のレポート」

277 ページの「Dreamweaver でのリンクのテスト」

675 ページの「Dreamweaver の拡張機能を追加および管理する」

レポートを使ったサイトのテスト

1 [サイト]-[レポート] を選択します。

サイトのアクセシビリティレポートだけを実行するには、[ファイル]-[ページのチェック]-[アクセシビリティのチェック] を選択します。レポートが [結果] パネルグループの [サイトレポート] パネルに表示されます。

2 [レポート内容] ポップアップメニューからレポートの対象を選択し、実行するレポートタイプ (ワークフローまたは HTML) を設定します。

[サイト内の選択したファイルを検査] を選択してレポートを作成するには、先に [ファイル] パネルでファイルを選択しておく必要があります。

3 ワークフローレポートを選択した場合は、[レポート設定] をクリックします。それ以外の場合は、この手順を省略します。

注意： 複数のワークフローレポートを選択した場合は、各レポートごとに [レポート設定] ボタンをクリックします。レポートを 1 つ選択し、[レポート設定] をクリックして設定を入力します。別のワークフローレポートに対しても同じ処理を繰り返します。

チェックアウトユーザー 特定のチームメンバーがチェックアウトしたすべてのドキュメントのリストを表示するレポートが作成されます。チームメンバーの名前を入力し、[OK] をクリックして [レポート] ダイアログボックスに戻ります。

デザインノート 選択したドキュメントまたはサイトのすべてのデザインノートのリストを表示するレポートが作成されます。名前と値のペアを入力し、ポップアップメニューから対応する条件を選択します。[OK] をクリックして、[レポート] ダイアログボックスに戻ります。

最近修正したファイルを選択 指定した期間中に変更されたファイルのリストを表示するレポートが作成されます。表示するファイルの日付の範囲と場所を入力します。

4 HTML レポートを選択した場合、次のレポートから選択します。

結合可能なネストフォントタグ コードのクリーンアップ時に結合可能なネストフォントタグのリストを表示するレポートが作成されます。

たとえば、STOP! のようになります。 がレポートされます。

代替テキストなし 代替テキストを持たない img タグのリストを表示するレポートが作成されます。

代替テキストとは、イメージを含むページを、テキスト専用ブラウザまたはイメージを手動でダウンロードするように設定されたブラウザで表示したときに、イメージの代わりに表示されるテキストのことです。スクリーンリーダーは代替テキストを読み上げます。また、一部のブラウザでは、ユーザーがイメージ上にマウスを置いたときに代替テキストが表示されます。

チェックアウトユーザー 特定のチームメンバーがチェックアウトしたすべてのドキュメントのリストを表示するレポートが作成されます。

アクセシビリティ 1998 年に制定された米国リハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティガイドラインに矛盾するコンテンツについて詳細なレポートが作成されます。

重複してネストされたタグ クリーンアップ対象のネストタグについての詳細なレポートが作成されます。

たとえば、 The rain in Spain stays mainly in the plain のような記述はレポート対象です。

削除可能な空のタグ HTML コードのクリーンアップ時に削除可能なすべての空のタグについての詳細なレポートが作成されます。

たとえば、コードビューでさまざまなアイテムやイメージを削除した場合に、削除したアイテムに付属するタグがドキュメントに残ってしまうことがあります。

無題ドキュメント 選択パラメータ内に含まれるすべての無題ドキュメントのリストを表示するレポートが作成されます。Dreamweaver により初期設定のタイトルが付いたドキュメント、タイトルが重複しているドキュメント、または title タグのないドキュメントがすべてレポートされます。

5 [実行] をクリックして、レポートを作成します。

実行するレポートのタイプに応じて、ファイルの保存、サイトの定義、またはフォルダの選択 (選択していない場合) などの操作を行うよう要求されます。

[結果] パネルグループの [サイトレポート] パネルに結果のリストが表示されます。

レポートの使用および保存

1 レポートを実行します (詳細については、前の手順を参照してください)。

2 [サイトレポート] パネルで以下のいずれかの操作を行って、レポートを表示します。

- 結果の並べ替えの基準にする列の見出しをクリックします。

ファイル名、行番号、説明を基準に並べ替えることができます。複数の異なるレポートを作成し、それぞれのレポートを別々に表示させたままにすることもできます。

- 問題の説明を表示するには、レポート内の任意の行を選択し、[サイトレポート] パネルの左の [詳細情報] ボタンをクリックします。

この情報は [リファレンス] パネルに表示されます。

- レポート内の任意の行をダブルクリックすると、ドキュメントウィンドウ内に対応するコードが表示されます。

注意：デザインビューで表示している場合は、Dreamweaver により表示が自動的に分割ビューに切り替えられ、報告される問題がコードで表示されます。

3 [レポートの保存] をクリックして、レポートを保存します。

レポートの保存時に、既存のテンプレートファイルにレポートを読み込むことができます。その後、データベースやスプレッドシートにそのテンプレートファイルを読み込んで印刷したり、Web で表示したりできます。

HTML レポートを作成した後は、[HTML のクリーンアップ] コマンドを実行し、レポートに出力された HTML エラーを修正します。

第 5 章：アセットとライブラリの管理

[アセット] パネル ([ファイル] パネルと同じパネルグループ内) は、ライブラリ項目と呼ばれる再利用可能なコンテンツなどのサイトアセットを整理するために主に使用するツールです。

アセットとライブラリについて

アセットについて

Adobe® Dreamweaver® CS3 を使用すると、イメージ、ムービー、カラー、スクリプト、リンクなど、サイトに保存されているアセットを管理およびプレビューすることができます。またアセットは、現在のドキュメントのページに直接ドラッグして挿入することができます。

アセットはさまざまなソースから取得します。たとえば、Adobe® Fireworks® や Adobe® Flash® などのアプリケーションでアセットを作成したり、共同作業者からアセットを受け取ることができます。また、クリップアートの CD からアセットをコピーしたり、グラフィック Web サイトからイメージをコピーすることも可能です。

Dreamweaver では、ライブラリとテンプレートという 2 つの特殊なアセットにもアクセスできます。いずれもリンクされたアセットなので、ライブラリ項目またはテンプレートを編集すると、Dreamweaver はこれらのアセットを使用しているすべてのドキュメントを更新します。通常、ライブラリ項目は、サイトロゴや著作権表示など、小さなデザインアセットを表しています。大きなデザイン領域を制御する場合は、ライブラリ項目ではなくテンプレートを使用します。

関連項目

369 ページの「Dreamweaver テンプレートについて」

ライブラリ項目について

ライブラリとは、Web ページに配置するために作成した個別のアセットの集合体またはコピーが格納される、Dreamweaver の特殊なファイルです。ライブラリにあるこれらのアセットは、ライブラリ項目と呼ばれます。ライブラリに保存できる項目には、イメージ、テーブル、サウンド、Flash ファイルなどがあります。ライブラリ項目を編集するたびに、その項目を使用しているすべてのページが自動的に更新されます。

たとえば、ある企業のために大規模なサイトを構築しているとします。その企業は、各ページにスローガンを表示したいと考えています。この場合、スローガンを含んだライブラリ項目を作成し、それを各ページで使用することができます。スローガンに変更があった場合、ライブラリ項目を編集すれば、各ページにあるスローガンが自動的に更新されます。

Dreamweaver では、各サイトのローカルルートフォルダ内の "Library" フォルダにライブラリ項目が保存されます。各サイトには、独自のライブラリがあります。

ライブラリ項目は、テキスト、テーブル、フォーム、Java アプレット、プラグイン、ActiveX エレメント、ナビゲーションバー、イメージなど、ドキュメントの body セクションに含まれる任意のエレメントから作成できます。

イメージなど、リンクされている項目については、項目への参照だけがライブラリに格納されます。ライブラリ項目が正常に動作するためには、元のファイルが指定位置に保存されている必要があります。

ただし、ライブラリ項目にイメージを保存しておく方が便利な場合もあります。たとえば、ライブラリ項目に完全な img タグを保存すると、イメージの alt テキストや src 属性のサイト全体での変更を簡単に行えます。(ただし、イメージの width 属性と height 属性を変更する場合は、イメージエディタを使用してイメージの実際のサイズを変更するのでない限り、この方法を使用しないでください)。

注意：ライブラリ項目にリンクが含まれていると、リンクが新しいサイトで動作しない場合があります。また、ライブラリ項目内のイメージは、新しいサイトにはコピーされません。

ライブラリ項目を使用する場合、Dreamweaver により Web ページには、ライブラリ項目自体ではなく、ライブラリ項目へのリンクが挿入されます。つまり、Dreamweaver によりそのライブラリ項目の HTML ソースコードのコピーがドキュメントに挿入され、元の外部項目への参照を含む HTML コメントが追加されます。この外部項目への参照によって、自動更新が可能になっています。

Dreamweaver のビヘイビアが関連付けられたエレメントを含むライブラリ項目を作成すると、Dreamweaver によって、エレメントとそのイベントハンドラがライブラリ項目ファイルにコピーされます。イベントハンドラとは、アクションを実行するイベント (onClick、onLoad、onMouseOver など) とイベントの発生時に呼び出すアクションを指定する属性です。Dreamweaver では、関連付けられた JavaScript 関数はライブラリ項目にコピーされません。ただし、ライブラリ項目をドキュメントに挿入すると、適切な JavaScript 関数がまだ配置されていなければ、Dreamweaver によってドキュメントの head セクションに自動的に挿入されます。

注意：JavaScript を手作業でコーディングする (Dreamweaver のビヘイビアを使用せずに作成する) 場合は、[JavaScript の呼出し] ビヘイビアを使用してコードを実行すると、ライブラリ項目の一部にすることができます。コードの実行に Dreamweaver のビヘイビアを使用しない場合、コードはライブラリ項目の一部として保持されません。

ライブラリ項目のビヘイビアを編集する場合、特別な条件があります。ライブラリ項目にはスタイルシートは含まれません。これらのエレメントのコードは、head セクションの現在のコンテンツをコピーします。

関連項目

114 ページの「ライブラリ項目のビヘイビアの編集」

アセットの操作

[アセット] パネルの概要

現在のサイトのアセットを管理するには、[アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) を使用します。[アセット] パネルには、ドキュメントウィンドウ内のアクティブなドキュメントに関連しているサイトのアセットが表示されます。

注意：[アセット] パネルにアセットを表示するには、ローカルサイトを定義しておく必要があります。

[サイト] リストが表示された [アセット] パネル。リストの左側にはカテゴリアイコン、上部にはプレビュー領域があります。

[アセット] パネルでアセットを表示する方法は 2 種類あります。

[サイト] リスト サイト内のドキュメントに使用されているカラーや URL など、サイト内のすべてのアセットが表示されます。

お気に入りリスト 明示的に選択したアセットだけが表示されます。

この 2 つのリスト表示を切り替えるには、プレビュー領域の上にある [サイト] または [お気に入り] ラジオボタンを選択します。この 2 つのリスト表示は、[テンプレート] カテゴリおよび [ライブラリ] カテゴリでは使用できません。

注意：いずれのリストでも、[アセット] パネルでの操作はほとんど同じです。ただし、[お気に入り] リストでしか実行できないタスクがいくつかあります。

いずれのリストでも、アセットは次のいずれかのカテゴリに分類されます。

イメージ GIF、JPEG、または PNG 形式のイメージファイルです。

カラー テキスト、背景、リンクの色など、ドキュメントおよびスタイルシートで使用する色です。

URL 現在のサイトドキュメントにある外部リンクです。FTP、gopher、HTTP、HTTPS、JavaScript、電子メール (mailto)、ローカルファイル (file://) の各リンクがあります。

Flash 任意のバージョンの Adobe Flash のファイルです。[アセット] パネルには、SWF (圧縮された Flash) ファイルのみが表示され、FLA (Flash ソース) ファイルは表示されません

Shockwave 任意のバージョンの Adobe Shockwave のファイルです。

ムービー QuickTime ファイルまたは MPEG ファイルです。

スクリプト JavaScript ファイルまたは VBScript ファイルです。[アセット] パネルには、HTML ファイル内のスクリプト (独立した JavaScript ファイルまたは VBScript ファイル内のスクリプトではありません) は表示されません。

テンプレート 複数のページで使用するマスターページレイアウトです。テンプレートを修正すると、テンプレートに関連付けられているすべてのページが自動的に修正されます。

ライブラリ項目 複数のページで使用するデザインエレメントです。ライブラリ項目を変更すると、そのライブラリ項目が含まれているすべてのページが更新されます。

注意：[アセット] パネルに表示されるファイルは、このいずれかのカテゴリに分類されるものだけです。他のタイプのファイルをアセットと呼ぶこともありますが、このパネルには表示されません。

初期設定では、各カテゴリ内のアセットは名前のアルファベット順に表示されますが、タイプなどの基準に従って並べ替えることもできます。また、アセットのプレビューや、列およびプレビュー領域のサイズ変更もできます。

関連項目

109 ページの「お気に入りアセットリストの作成と管理」

111 ページの「ライブラリ項目の操作」

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

プレビュー領域でのアセットの表示

❖ [アセット] パネル内でアセットを選択します。

たとえば、ムービーアセットを選択した場合は、プレビュー領域にアイコンが表示されます。ムービーを表示するには、プレビュー領域の右上隅にある [再生] ボタン (緑色の三角) をクリックします。

カテゴリ内のアセットの表示

❖ [アセット] パネルの左側のカテゴリアイコンをクリックします。

アセットの並べ替え

❖ 列見出しをクリックします。

たとえば、すべての GIF イメージをひとまとめにし、すべての JPEG イメージをひとまとめにするといったように、イメージをタイプ別に並べ替えるには、[タイプ] 列見出しをクリックします。

列のサイズ変更

❖ 2 つの列見出しを分割する線をドラッグします。

プレビュー領域のサイズ変更

❖ プレビュー領域とアセットリストの間の分割バーを、上または下にドラッグします。

[アセット] パネルの更新

[サイト] リストの作成には数秒かかります。Dreamweaver で、最初にサイトキャッシュを読み取る必要があるからです。

次のような変更は、[アセット] パネルにすぐには反映されません。たとえば、サイトにアセットを追加したり、サイトからアセットを削除した場合、その変更は、[更新サイトリスト] ボタンをクリックして [サイト] リストを更新するまで [アセット] パネルに反映されません。Dreamweaver ではなく、Windows エクスプローラや Finder などでアセットを追加または削除した場合は、サイトキャッシュを再構築して、[アセット] パネルを更新する必要があります。

サイト内の特定のカラーや URL のインスタンスだけを削除した場合、またはこれまでサイトで使用されていなかったカラーや URL が含まれる新規ファイルを保存した場合は、その変更は、[サイト] リストを更新するまで [アセット] パネルに反映されません。

- [サイト] リストを手動で更新するには、[更新サイトリスト] ボタン をクリックします。Dreamweaver では、必要に応じてサイトキャッシュが作成または更新されます。
- [サイト] リストを更新して手動でサイトキャッシュを再構築するには、[アセット] リスト内で右クリック (Winodws) するか、または Command キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[更新サイトリスト] を選択します。

ドキュメントへのアセットの追加

一般的なアセットは、ドキュメントウィンドウのコードビューまたはデザインビューにドラッグするか、パネルの [挿入] ボタンを使用して、ドキュメントに挿入できます。カラーおよび URL は、デザインビュー内で選択したテキストに挿入または適用できます。URL は、イメージなどの、デザインビュー内のその他のエレメントにも適用できます。

1 デザインビューで、アセットを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [アセット] パネルで、左側のアセットカテゴリボタンから選択します。

注意：テンプレート以外のカテゴリを選択します。テンプレートはドキュメント全体に対して適用されます。ドキュメントに挿入することはできません。

3 パネルの上部の [サイト] または [お気に入り] を選択し、アセットを選択します。

ライブラリ項目には [サイト] リストおよび [お気に入り] リストはありません。ライブラリ項目を挿入する場合は、この手順を省略します。

4 次のいずれかの操作を実行します。

- パネル内のアセットをドキュメントにドラッグします。

スクリプトはドキュメントウィンドウのヘッドコンテンツ領域にドラッグできます。この領域が表示されていない場合は、[表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択してください。

- パネルでアセットを選択し、[挿入] をクリックします。

挿入されたアセットがカラーの場合、挿入ポイントの後に表示されるテキストに適用されます。

[アセット] パネルでのテキストへのカラーの適用

[アセット] パネルには、テキスト、テーブルボーダー、背景などのさまざまなエレメントに既に適用されているカラーが表示されます。

1 ドキュメント内のテキストを選択します。

2 [アセット] パネルで、[カラー] カテゴリ を選択します。

3 カラーを選択し、[適用] をクリックします。

関連項目

109 ページの「お気に入りアセットの追加または削除」

[アセット] パネルでのイメージまたはテキストへの URL の適用

1 テキストまたはイメージを選択します。

2 [アセット] パネルで、URL が格納されている場所に応じてサイトビューまたはお気に入りビューで [URL] カテゴリ を選択します。

注意：初期設定では、サイトのファイルの URL はサイトビューに格納されます。お気に入りビューには、ユーザーが追加した URL が格納されます。

3 URL を選択します。

4 次のいずれかの操作を実行します。

- パネル内の URL をデザインビュー内の選択範囲にドラッグします。
- URL を選択して、[適用] をクリックします。

アセットの選択と編集

[アセット] パネルでは、複数のアセットを一度に選択することができます。これは、アセットの編集を迅速に開始する方法でもあります。

関連項目

259 ページの「メディアファイルに使用する外部エディタの起動」

複数のアセットの選択

1 [アセット] パネルでアセットを選択します。

2 以下のいずれかの方法でその他のアセットを選択します。

- Shift キーを押しながらクリックし、連続して表示されている複数のアセットを選択します。
- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら個々のアセットをクリックして、選択範囲に追加します (既存の選択範囲に隣接しているかいないかは関係ありません)。アセットの選択を解除するには、Ctrl キーまたは Command キーを押しながら、選択されているアセットをクリックします。

アセットの編集

[アセット] パネルでアセットを編集する場合、アセットタイプによってビヘイビアが異なります。イメージなどの特定のアセットには外部エディタを使用します。そのアセットタイプで使用する外部エディタを定義済みの場合は、その外部エディタが自動的に起動します。カラーと URL を編集できるのは、[お気に入り] リストでだけです。テンプレートおよびライブラリ項目を編集する場合は、Dreamweaver で変更を行います。

1 [アセット] パネルで、次のいずれかの操作を行います。

- アセットをダブルクリックします。
- アセットを選択し、[編集] ボタン をクリックします。

注意：外部エディタでアセットを編集する必要がある場合で、外部エディタが自動的に起動しないときは、[編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して [ファイルタイプ / エディタ] カテゴリを選択し、そのアセットタイプに使用する外部エディタが定義されていることを確認します。

2 変更を加えます。

3 最後に、次のいずれかの操作を行います。

- ファイルベースのアセット (カラーや URL 以外のアセット) の場合は、使用したエディタでアセットを保存して閉じます。
- アセットが URL の場合は、[URL の編集] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

注意：アセットがカラーの場合は、カラーを選択すると、カラーピッカーが自動的に閉じます。カラーを選択しないでカラーピッカーを閉じるには、Esc キーを押します。

別のサイトでのアセットの再利用

[アセット] パネルには、現在のサイト内の認識されているタイプのすべてのアセットが表示されます。現在のサイトのアセットを別のサイトで使用するには、そのアセットを別のサイトにコピーする必要があります。個別アセット、複数の個別アセット、またはお気に入りフォルダ全体を一度にコピーできます。

リモートサイトとの間でアセットをやり取りするには、まず [アセット] パネル内のアセットに対応するファイルを [ファイル] パネルで見つける必要があります。

注意：[アセット] パネルに表示されているサイトとは違うサイトが [ファイル] パネルに表示されることがあります。これは、[アセット] パネルがアクティブドキュメントに関連付けられているためです。

[ファイル] パネルでのアセットファイルの検索

1 [アセット] パネルで、検索するアセットのカテゴリを選択します。

2 [アセット] パネルでアセットの名前またはアイコンを右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、コンテキストメニューから [サイトで表示] を選択します。

注意：[サイトで表示] は、サイト内のファイルに対応していないカラーおよび URL では使用できません。

アセットファイルを選択した状態で [ファイル] パネルが表示されます。[サイトで表示] コマンドで見つけることができるのは、アセット自体に対応しているファイルです。そのアセットを使用するファイルではありません。

[アセット] パネルから別のサイトへのアセットのコピー

1 [アセット] パネルで、コピーするアセットのカテゴリを選択します。

2 [サイト] リストまたは [お気に入り] リストで、アセットを右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[サイトにコピー] を選択して、定義済みのすべてのサイトが一覧表示されたサブメニューからコピー先のサイト名を選択します。

注意：[お気に入り] リストでは、個別のアセットの他に、お気に入りフォルダもコピーできます

アセットは、コピー先のサイト内の対応する場所にコピーされます。Dreamweaver では、必要に応じて、コピー先のサイトの階層内に新しいフォルダが作成されます。アセットは、コピー先のサイトの [お気に入り] リストにも追加されます。

注意：コピーしたアセットがカラーまたは URL の場合は、コピー先のサイトの [お気に入り] サイトにだけ表示されます。カラーと URL はファイルに対応していないので、他のサイトにコピーするファイルがありません。

お気に入りアセットリストの作成と管理

お気に入りアセットの管理

サイトが大規模な場合、認識されているアセットがすべてリストに一覧表示されていると扱いにくいことがあります。頻繁に使用するアセットを [お気に入り] リストに追加し、関連するアセットをグループにまとめ、目的に合わせてニックネームを付けて、[アセット] パネル内で簡単に見つけられるようにすることができます。

注意：お気に入りのアセットは、個別ファイルとしてディスクに保存されるわけではありません。これらは [サイト] リスト内のアセットへの参照です。Dreamweaver[お気に入り] リストに表示する [サイト] リストのアセットは、によって記録されます。

[アセット] パネルの [お気に入り] リストの操作は、ほとんどが [サイト] リストの操作と同じです。ただし、[お気に入り] リストだけで実行できるタスクがいくつかあります。

お気に入りアセットの追加または削除

[アセット] パネル内のサイトの [お気に入り] リストにアセットを追加する方法は、いくつかあります。

[お気に入り] リストにカラーまたは URL を追加するには、追加手順を実行する必要があります。新しいカラーおよび URL は [サイト] リストには追加できません。[サイト] リストには、既にサイトで使用されているアセットしか表示されません。

注意：テンプレートとライブラリ項目の [お気に入り] リストはありません。

関連項目

105 ページの「[アセット] パネルの概要」

213 ページの「カラーピッカーの使用」

[お気に入り] リストへのアセットの追加

次のいずれかの操作を実行します。

- [アセット] パネルの [サイト] リストでアセットを選択し、[お気に入りに追加] ボタン をクリックします。
- [アセット] パネルの [サイト] リスト内でアセットを選択し、右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、[お気に入りに追加] を選択します。
- [ファイル] パネルでファイルを選択し、右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、[お気に入りに追加] を選択します。Dreamweaver により、[アセット] パネル内のカテゴリに対応していないファイルは無視されます。
- ドキュメントウィンドウのデザインビューでエレメントを右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) します。次に、コンテキストメニューのコマンドを選択して、[お気に入り] のカテゴリにエレメントを追加します。

テキストのコンテキストメニューには、そのテキストにリンクが関連付けられているかどうかによって、[お気に入りカラーに追加] または [お気に入り URL に追加] のいずれかが表示されます。[アセット] パネルで追加できるのは、このいずれかのカテゴリに該当するエレメントだけです。

[お気に入り] リストへの新しいカラーまたは URL の追加

1 [アセット] パネルで、[カラー] カテゴリまたは [URL] カテゴリを選択します。

2 パネルの上部にある [お気に入り] オプションを選択します。

3 [新規カラー] または [新規 URL] ボタン をクリックします。

4 次のいずれかの操作を実行します。

- カラーピッカーを使用してカラーを選択し、必要に応じてカラーにニックネームを付けます。

カラーを選択せずにカラーピッカーを終了するには、Esc キーを押すか、またはカラーピッカーの上部にあるグレーのバーをクリックします。

- [URL の追加] ダイアログボックスで URL およびニックネームを入力して、[OK] をクリックします。

[お気に入り] リストからのアセットの削除

1 [アセット] パネルで、パネルの上部にある [お気に入り] オプションを選択します。

2 [お気に入り] リスト内でアセット (またはフォルダ) を選択します。

3 [お気に入りから削除] ボタン をクリックします。

アセットは [お気に入り] リストから削除されますが、[サイト] リストからは削除されません。お気に入りフォルダを削除すると、このフォルダとそのすべての内容が削除されます。

お気に入りアセットのニックネームの作成

アセットにニックネーム (#999900 ではなく PageBackgroundColor など) を指定できるのは、[お気に入り] リストでだけです。[サイト] リストでは、アセットは常に実際のファイル名 (カラーや URL の場合は値) で表示されます。

1 [アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) で、アセットが含まれているカテゴリを選択します。

2 パネルの上部にある [お気に入り] オプションを選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- [アセット] パネルで、アセットの名前またはアイコンを右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、[ニックネームの編集] を選択します。
- アセットの名前を一度クリックし、間を置いてもう一度クリックします。ダブルクリックしないでください。ダブルクリックすると、編集できるようにアセットが開いてしまいます。

4 アセットのニックネームを入力し、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

関連項目

105 ページの「[アセット] パネルの概要」

お気に入りフォルダのアセットのグループ化

お気に入りフォルダにアセットを入れても、ディスク上でのアセットのファイルの位置は変わりません。

1 [アセット] パネルで、パネルの上部にある [お気に入り] オプションを選択します。

2 [新規お気に入りフォルダ] ボタン をクリックします。

3 フォルダ名を入力し、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

4 アセットをフォルダ内にドラッグします。

ライブラリ項目の操作

ライブラリ項目の作成

ライブラリ項目は、Web サイトで頻繁に再利用または更新するエレメントです。

関連項目

104 ページの「ライブラリ項目について」

選択に基づいたライブラリ項目の作成

1 ドキュメントウィンドウで、ドキュメントの一部を選択して、ライブラリ項目として保存します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- 選択項目を [ライブラリ] カテゴリ にドラッグします。
- [ライブラリ] カテゴリの下部にある [新規ライブラリ項目] ボタン をクリックします。
- [修正]-[ライブラリ]-[ライブラリにオブジェクトを追加] を選択します。

3 新しいライブラリ項目名を入力し、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

Dreamweaver により、各ライブラリ項目は、サイトのローカルルートフォルダの "Library" フォルダに、ファイル拡張子 .lbi が付いた個別のファイルとして保存されます。

空のライブラリ項目の作成

1 ドキュメントウィンドウで何も選択されていないことを確認します。

選択されているものがあると、その選択項目が新しいライブラリ項目に配置されます。

2 [アセット] パネルで、[ライブラリ] カテゴリ を選択します。

3 パネルの下部にある [新規ライブラリ項目] ボタン をクリックします。

4 項目が選択されている状態で、項目の名前を入力して、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

ライブラリ項目のドキュメントへの挿入

ライブラリ項目をページに追加すると、ライブラリ項目への参照と共に実際のコンテンツがドキュメントに挿入されます。

1 ドキュメントウィンドウに挿入ポイントを配置します。

2 [アセット] パネルで、[ライブラリ] カテゴリ を選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- ライブラリ項目を [アセット] パネルからドキュメントウィンドウにドラッグします。

項目への参照をドキュメントに含めずに、ライブラリ項目のコンテンツを挿入するには、Ctrl キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら、[アセット] パネルのライブラリ項目をドラッグします。この方法でライブラリ項目を挿入すると、ドキュメント内でライブラリ項目を編集できます。ただし、そのライブラリ項目が使用されているページを更新しても、ドキュメントは更新されません。

- ライブラリ項目を選択し、[挿入] をクリックします。

ライブラリ項目の編集とドキュメントの更新

ライブラリ項目を編集するときは、その項目が使用されているドキュメントをすべて更新できます。更新しない場合、ドキュメントはライブラリ項目に関連付けられたまま保持されます。ドキュメントは後から更新できます。

ライブラリ項目の名前を変更してドキュメントやテンプレートとの関連付けを解除したり、サイトのライブラリからライブラリ項目を削除したり、不明なライブラリ項目を再作成することができます。

注意：ライブラリ項目を編集するときに [CSS スタイル] パネルは使用できません。ライブラリ項目に含めることができるのは body エレメントだけで、カスケーディングスタイルシート (CSS) コードは、ドキュメントの head セクションに挿入されるからです。また、ライブラリ項目には body タグやその属性を含めることができないため、[ページプロパティ] ダイアログボックスも使用できません。

ライブラリ項目の編集

1 [アセット] パネルで、[ライブラリ] カテゴリ を選択します。

2 ライブラリ項目を選択します。

3 [編集] ボタン をクリックするか、またはライブラリ項目をダブルクリックします。

ライブラリ項目の編集のために、Dreamweaver により、ドキュメントウィンドウに似た新しいウィンドウが表示されます。グレーの背景は、編集しているのがドキュメントではなくライブラリ項目であることを示しています。

4 変更を加えて、その内容を保存します。

5 そのライブラリ項目を使用しているローカルサイトのドキュメントを更新するかどうかを指定します。直ちに更新するには、[更新] を選択します。[更新しない] を選択すると、[修正]-[ライブラリ]-[現在のページの更新] または [サイト全体の更新] を選択するまで、ドキュメントは更新されません。

すべてのライブラリ項目に最新バージョンを使用するための現在のドキュメントの更新

❖ [修正]-[ライブラリ]-[現在のページを更新] を選択します。

サイト全体、または特定のライブラリ項目が使用されているすべてのドキュメントの更新

1 [修正]-[ライブラリ]-[サイト全体の更新] を選択します。

2 [更新場所] ポップアップメニューで、更新する対象を指定します。

- 選択したサイトのすべてのページを更新して、すべてのライブラリ項目に最新バージョンを使用するには、[サイト全体] を選択し、横のポップアップメニューでサイト名を選択します。

- 現在のサイトで特定のライブラリ項目を使用しているすべてページを更新するには、[次を含むファイル] を選択し、横のポップアップメニューでライブラリ項目名を選択します。

3 [更新] オプションで [ライブラリ項目] が選択されていることを確認してください。

同時にテンプレートを更新する場合は、[テンプレート] も選択します。

4 [開始] をクリックします。

Dreamweaver により、指定のファイルが更新されます。[ログを表示] オプションを選択した場合、Dreamweaver はファイルが正常に更新されたかどうかなどの情報をレポートとして表示します。

ライブラリ項目の名前の変更

1 [アセット] パネルで、[ライブラリ] カテゴリ を選択します。

2 ライブラリ項目を選択し、間をおいてもう一度クリックします。ダブルクリックしないでください。ダブルクリックすると、編集できるようにアセットが開いてしまいます。

3 新しい名前を入力します。

4 任意の位置をクリックするか、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

5 [更新] または [更新しない] を選択して、そのライブラリ項目を使用しているドキュメントを更新するかどうかを指定します。

ライブラリからのライブラリ項目の削除

ライブラリ項目を削除すると、Dreamweaver によりライブラリ項目はライブラリから削除されますが、そのライブラリ項目が使用されているドキュメントの内容は変更されません。

1 [アセット] パネルで、[ライブラリ] カテゴリ を選択します。

2 ライブラリ項目を選択します。

3 [削除] ボタンをクリックするか、または Delete キーを押し、ライブラリ項目を削除することを確認します。

重要： 削除したライブラリ項目は、[取り消し] を使って元に戻すことはできません。ただし、ライブラリ項目を再作成することができます。

不明の、または削除されたライブラリ項目の再作成

1 ドキュメント内のライブラリ項目のインスタンスを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [再作成] ボタンをクリックします。

ライブラリ項目のハイライト表示のカスタマイズ

[ハイライト] 環境設定によって、ライブラリ項目のハイライトカラーをカスタマイズしたり、ライブラリ項目のハイライトの表示と非表示を切り替えることができます。

関連項目

213 ページの「カラーピッカーの使用」

ライブラリ項目のハイライトカラーの変更

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [環境設定] ダイアログボックスの左側にあるリストから [ハイライト] カテゴリを選択します。

3 [ライブラリ項目] カラーボックスをクリックし、カラーピッカーを使用してハイライトカラーを選択します。または、テキストボックスにハイライトカラーの 16 進数値を入力します。

4 [表示] を選択して、ドキュメントウィンドウにハイライトカラーを表示します。

5 [OK] をクリックします。

ドキュメントウィンドウでハイライトの表示と非表示を切り替えるには

❖ ハイライトを表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。ハイライトを非表示にするには、[不可視エレメント] を選択解除します。

ライブラリ項目のプロパティの編集

プロパティインスペクタを使用すると、ライブラリ項目を開いて編集したり、選択したライブラリ項目をソースファイルから切り離すことができます。また、現在選択しているライブラリ項目で項目を上書きすることもできます。

1 ドキュメント内のライブラリ項目を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、次のいずれかのオプションを選択します。

ソース ライブラリ項目のソースファイルの名前と位置が表示されます。この情報は編集できません。

開く 編集用にライブラリ項目のソースファイルを開きます。これは、[アセット] パネルのライブラリ項目を選択して [編集] ボタンをクリックする操作と同じです。

ドキュメント内の切り離されたライブラリ項目を編集することはできますが、既にライブラリ項目ではないので、元のライブラリ項目を変更しても更新されません。

再作成 元のライブラリ項目を現在の選択項目で上書きします。元のライブラリ項目が不明、または誤って削除された場合にこのオプションを使用すると、ライブラリ項目を再作成できます。

ドキュメント内でライブラリ項目を編集可能にする

ドキュメントに追加したライブラリ項目をそのページ用に編集する場合は、ドキュメント内の項目とライブラリとのリンクを解除する必要があります。ライブラリ項目のインスタンスを編集可能にすると、ライブラリ項目を変更してもそのインスタンスは更新されなくなります。

1 現在のドキュメント内のライブラリ項目を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [オリジナルから切り離す] をクリックします。

ライブラリ項目のビヘイビアの編集

ライブラリ項目のビヘイビアを編集するには、項目をドキュメントに挿入して編集可能にする必要があります。変更を行った後は、ライブラリ内の項目をドキュメント内の編集済みの項目で置き換えて、ライブラリ項目を再作成することができます。

1 ライブラリ項目が含まれているドキュメントを開きます。

ライブラリ項目の名前、およびライブラリ項目に含まれる正確なタグをメモしておきます。この情報は、後で必要になります。

2 ライブラリ項目を選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [オリジナルから切り離す] をクリックします。

3 ビヘイビアが関連付けられているエレメントを選択します。

4 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で、変更するアクションをダブルクリックします。

5 表示されるダイアログボックスで変更を行い、[OK] をクリックします。

6 [アセット] パネルで、[ライブラリ] カテゴリ を選択します。

7 元のライブラリ項目の名前を大文字小文字の使い分けも含めて正確に記録し、元のライブラリ項目を選択し、[削除] ボタンをクリックします。

8 ドキュメントウィンドウで、ライブラリ項目を構成しているすべてのエレメントを選択します。

必ず、元のライブラリ項目にあったエレメントと同じものを選択してください。

9 [アセット] パネルの [新規ライブラリ項目] ボタン をクリックし、削除したライブラリ項目とスペルも大文字小文字の使い分けも同じ名前を新しいライブラリ項目に付けます。

10 そのライブラリ項目をサイト内の他のドキュメントでも更新するには、[修正]-[ライブラリ]-[サイト全体の更新] を選択します。

11 [更新場所] ポップアップメニューで、[次を含むファイル] を選択します。

12 隣接するポップアップメニューで、作成したライブラリ項目の名前を選択します。

13 [更新] オプションで、[ライブラリ項目] が選択されていることを確認し、[開始] をクリックします。

14 更新が完了したら、[閉じる] をクリックします。

関連項目

321 ページの「JavaScript ビヘイビアの使用」

第 6 章：CSS を使用したページの作成

Adobe® Dreamweaver® CS3 には、CSS (Cascading Style Sheets : カスケーディングスタイルシート) を使用して Web ページのスタイルやレイアウトを作成する場合に役立つ多くの機能が用意されています。

カスケーディングスタイルシートについて

カスケーディングスタイルシートについて

CSS (Cascading Style Sheet : カスケーディングスタイルシート **)** は、Web ページでのコンテンツの外観を制御するフォーマットルールの集合です。CSS スタイルを使用してページのフォーマットを設定し、コンテンツとプレゼンテーションを分離します。ページのコンテンツ (HTML コード) は HTML ファイル自体に格納され、コードのプレゼンテーションを定義する CSS ルールは他のファイル (外部スタイルシート) または HTML ドキュメントの他の部分 (通常は head セクション) に格納されます。コンテンツとプレゼンテーションを分離することにより、変更を加えたいときにすべてのページのすべてのプロパティを更新する必要がないので、共通の場所からのサイトの外観の維持が簡単に行えるようになります。また、コンテンツとプレゼンテーションを分離することにより、HTML コードをより単純で簡潔なものにし、その結果ブラウザのロード時間を短縮し、スクリーンリーダーを使用するユーザーなどアクセシビリティに問題のあるユーザーのナビゲーションを簡素化することができます。

CSS により、ページの外観を正確かつ柔軟に制御できるようになります。CSS を使用することで、ボールド、イタリック、アンダーライン、およびテキストの影、テキストカラーおよび背景色、リンクカラーおよびリンクのアンダーラインの設定など、特定のフォントおよびフォントサイズを含む多くのテキストのプロパティを制御することができます。CSS を使用してフォントを制御することにより、ページのレイアウトや外観をどのブラウザでも同じように処理することができます。

テキストのフォーマットの他に、CSS を使用して Web ページ内のブロックレベルのエレメントのフォーマットや位置も制御できます。ブロックレベルのエレメントは、通常 HTML の新しい行で区切られ、視覚的にブロックとしてフォーマットされるスタンドアロンのコンテンツの断片です。たとえば、h1 タグ、p タグ、および div タグは、すべて Web ページのブロックレベルのエレメントを生成します。ブロックレベルのエレメントに対してマージンやボーダーを設定し、これらのエレメントを特定の場所に配置し、背景色を追加し、周囲をフロートテキストで囲むことなどができます。ブロックレベルのエレメントの操作は、CSS を使用してページをレイアウトする上での基本的な方法です。

カスケーディングスタイルシートに関するチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0152_jp を参照してください。

関連項目

155 ページの「Div タグの操作」

139 ページの「CSS を使用したページのレイアウト」

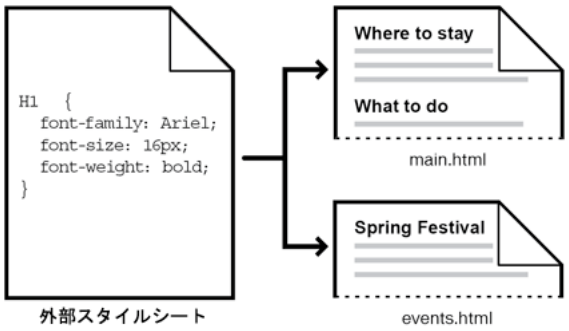
CSS ルールについて

CSS 書式設定ルールは、セレクタと宣言の 2 つの部分 (または、ほとんどの場合、宣言のブロック) で構成されます。セレクタとは、フォーマットされたエレメントを識別する用語 (p、h1、クラス名、ID など) で、宣言ブロックは、スタイルプロパティが何であるかを定義するものです。以下の例では、h1 はセレクタであり、山カッコ ({}) 内のすべてのコードは宣言のブロックです。

```
h1 {
font-size: 16 pixels;
font-family: Helvetica;
font-weight:bold;
}
```

個々の宣言は、プロパティ (font-family など) と値 (Helvetica など) の 2 つの部分で構成されます。上記の CSS ルールでは、h1 タグに対して特定のスタイルが作成されています。このスタイルにリンクされたすべての h1 タグのテキストは、サイズが 16 ピクセル、フォントが Helvetica で、ボールドです。

ルールまたはルールの集まりから取得されたスタイルは、通常は外部スタイルシート、または HTML ドキュメントの head セクションなど、実際のテキストのフォーマットとは別の場所に保存されます。したがって、h1 タグのルールを多くのタグに一度に適用することができます (また、外部スタイルシートでは、多くの異なるページの多くのタグに一度に適用することができます)。このようにして、CSS は非常に簡単な更新機能を提供します。ある場所のルールを更新すると、定義済みのスタイルを使用するすべてのエレメントのフォーマットが新しいスタイルに自動的に更新されます。



Dreamweaver では、以下のタイプのスタイルを定義できます。

- クラススタイルを使用して、ページ上の任意のエレメントまたは複数のエレメントにスタイルプロパティを適用することができます。
- **HTML** タグスタイルは、次のような特定のタグのフォーマットを再定義します。h1。h1 タグの CSS スタイルを作成または変更すると、h1 タグでフォーマットされたテキストは瞬時にすべて変更されます。
- 高度なスタイルはエレメントの特定の組み合わせ、または CSS で可能な他のセレクタフォームのフォーマットを再定義します。たとえば、セレクタ td h2 は、テーブルセル内に h2 ヘッダがある場合に常に適用されます。高度なスタイルで、特定の id 属性を含むタグのフォーマットを再定義することもできます。たとえば、#myStyle で定義されるスタイルは、id="myStyle" という属性と値のペアを含むすべてのタグに適用されます。

CSS ルールは次の場所に置くことができます。

外部 CSS スタイルシート 外部の CSS (.css) ファイル (HTML ファイルではありません) に保存されている CSS ルールの集まりです。このファイルは、ドキュメントの head セクションのリンクまたは @import ルールを使用して、Web サイト内のページにリンクされます。複数のページにリンクすることも可能です。

内部 (または、埋め込み) CSS スタイルシート HTML ドキュメントの head 部分の style タグに記述される CSS ルールの集まりです。

インラインスタイル HTML ドキュメント内の特定のタグインスタンス内で定義されます (インラインスタイルの使用はお勧めしません)。

既存のドキュメントで定義されているスタイルが CSS スタイルガイドラインに準拠していれば、Dreamweaver はそのスタイルを認識します。また、Dreamweaver は、適用されるほとんどのスタイルを直接デザインビューに表示します (ただし、ページを最も正確かつ " 鮮明に " レンダリングする方法は、ブラウザウィンドウによるドキュメントのプレビューです)。CSS スタイルの中には、Microsoft Internet Explorer、Netscape、Opera、Apple Safari、または他のブラウザで表示が異なるものや、現在はどのブラウザでもサポートされていないものがあります。

O'Reilly CSS リファレンスガイドを Dreamweaver で表示するには、[ヘルプ]-[リファレンス] を選択し、[リファレンス] パネルのポップアップメニューから [O'REILLY CSS Reference] を選択します。

関連項目

131 ページの「クラススタイルの適用、削除、名前の変更」

カスケーディングスタイルについて

カスケーディングという用語は、ブラウザが Web ページの特定のエレメントのスタイルを最終的に表示する方法を指すものです。Web ページで表示されるスタイルは、3 つの異なるソースによって決まります。ページの作成者が作成したスタイルシート、ユーザーがカスタマイズしたスタイルの選択 (ある場合)、ブラウザ自体の初期設定のスタイルです。前のトピックでは、Web ページとそのページに関連付けられたスタイルシートの両方の作成者として、Web ページのスタイルを作成する方法について説明しています。ただし、ブラウザにも Web ページの表示方法を指定するデフォルトのスタイルシートが用意されており、ユーザーはそれらのスタイルを選択して Web ページの表示を調整することで、ブラウザをカスタマイズすることもできます。Web ページの最終的な外観は、最適な方法で Web ページを表示できるように、これらの 3 つのソースのルールをすべて組み合わせた (カスケーディング) 結果です。

共通タグである段落タグや <p> タグは、この概念を示すものです。初期設定では、ブラウザには段落テキスト (つまり、HTML コード内の <p> タグの間に挿入されるテキスト) のフォントおよびフォントサイズを定義するスタイルシートが用意されています。たとえば Internet Explorer では、段落テキストを含むすべての本文テキストは、初期設定で Times New Roman (Medium) フォントで表示されます。

ただし、Web ページの作成者であるユーザーは、スタイルシートを作成して、ブラウザの段落フォントおよびフォントサイズの初期設定を上書きすることができます。たとえば、スタイルシートで以下のルールを作成できます。

```
p {
font-family: Arial;
font-size: small;
}
```

ユーザーがページを読み込むと、作成者であるユーザーが設定した段落フォントおよびフォントサイズ設定によって、ブラウザの初期設定の段落テキスト設定が上書されます。

ユーザーはスタイルを選択して、用途に合わせた最適なブラウザ表示をカスタマイズできます。たとえば、Internet Explorer でフォントが小さすぎると感じた場合、[表示]-[文字のサイズ]-[最大] を選択して、ページのフォントを読みやすいサイズに拡大することができます。最終的には (少なくともこの場合には)、ユーザーの選択により、初期設定のブラウザの段落フォントおよびフォントサイズと、Web ページの作成者によって作成された段落スタイルの両方が上書きされます。

カスケードのもう一つの重要な要素に、継承があります。Web ページのほとんどのエレメントのプロパティが継承されます。たとえば、段落タグは body タグから特定のプロパティを継承し、箇条書きタグは段落タグから特定のプロパティを継承します。たとえば、スタイルシートに以下のルールを作成したとします。

```
body {
font-family: Arial;
font-style: italic;
}
```

この場合、段落タグが body タグからこれらのプロパティを継承するため、Web ページのすべての段落テキスト (および、段落タグのプロパティを継承するテキスト) は Arial のイタリックになります。ただし、ルールをより具体的に設定して、継承による標準形式を上書きするスタイルを作成することもできます。たとえば、スタイルシートに以下のルールを作成したとします。

```
body {
font-family: Arial;
font-style: italic;
}
p {
font-family: Courier;
font-style: normal;
}
```

この場合、すべての本文テキストは、Courier 標準 (非イタリック) で表示される段落 (および、それによって継承される) テキストを除いて Arial の イタリックになります。技術的に説明すると、段落タグは最初に body タグに設定されたプロパティを継承しますが、段落タグには独自に定義されたプロパティがあるため、継承したプロパティは無視されます。つまり、通常ページエレメントは前に記述されたプロパティを継承しますが、プロパティをタグに直接適用することにより、継承による標準形式が常に上書きされます。

上記のすべての要素の組み合わせと、CSS 仕様 (特定の種類の CSS ルールに異なるウエイトを与えるシステム) などのその他の要素と CSS ルールの順序により、最終的に高い優先順位を持つ項目が低い優先順位のプロパティを上書きする複雑なカスケードが作成されます。カスケード、継承、仕様を規定するルールの詳細については、www.w3.org/TR/CSS2/cascade.html を参照してください。

テキストのフォーマットと CSS について

Dreamweaver の初期設定では、テキストのフォーマットには CSS が使用されます。プロパティインスペクタやメニューコマンドを使用してテキストにスタイルを適用すると、CSS ルールが作成され、現在のドキュメントのヘッドに埋め込まれます。

[CSS スタイル] パネルを使用すると、CSS ルールとプロパティを作成および編集できます。[CSS スタイル] パネルはプロパティインスペクタよりも格段に強固なエディタであり、ルールがドキュメントの先頭に埋め込まれているか、外部スタイルシートにあるかとは無関係に、現在のドキュメントで定義されているすべての CSS ルールが表示されます。Adobe では、CSS の作成と編集のプライマリツールとして、プロパティインスペクタの代わりに [CSS スタイル] パネルを使用することをお勧めします。それにより、コードが簡潔で維持しやすくなります。

独自に作成するスタイルやスタイルシートの他にも、Dreamweaver に付属するスタイルシートを使用して、ドキュメントにスタイルを適用することもできます。

CSS を使用してテキストをフォーマットする方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0153_jp を参照してください。

関連項目

217 ページの「テキストの追加とフォーマット」

120 ページの「[CSS スタイル] パネルについて」

124 ページの「CSS ルールの新規作成」

ショートハンド CSS プロパティについて

CSS の仕様では、ショートハンド **CSS** と呼ばれる簡略シンタックスを使用してスタイルを作成することができます。ショートハンド CSS では、1 つの宣言を使用して複数のプロパティ値を指定できます。たとえば、font プロパティを使用して、font-style、font-variant、font-weight、font-size、line-height、font-family の各プロパティを 1 行で設定できます。

ショートハンド CSS を使用する際に重要なのは、ショートハンド CSS プロパティで省略された値には初期設定値が割り当てられるという点です。したがって、同じタグに複数の CSS ルールが割り当てられている場合には、ページが正しく表示されないこともあります。

たとえば、次の h1 ルールでは、長い形式の CSS シンタックスを使用しています。font-variant、font-stretch、font-size-adjust、および font-style の各プロパティは、初期設定値が割り当てられています。

```
h1 {
font-weight: bold;
font-size: 16pt;
line-height: 18pt;
font-family: Arial;
font-variant: normal;
font-style: normal;
font-stretch: normal;
font-size-adjust: none
}
```

ショートハンドプロパティで書き換えると、同じタグは次のようになることがあります。

```
h1 { font: bold 16pt/18pt Arial }
```

ショートハンド表記を使用して記述した場合、省略した値には自動的に初期設定値が割り当てられます。上の例のショートハンドでは、font-variant、font-style、font-stretch、font-size-adjust の各タグが省略されています。

長短の CSS シンタックス形式を使用して複数の場所でスタイルを定義した場合 (たとえば、HTML ページに埋め込んだスタイルと外部スタイルシートから読み込むスタイル)、ショートハンドルールで省略したプロパティが別のルールで明示的に指定したプロパティより優先される (カスケードされる) ことがあります。

こういった理由から、Dreamweaver では初期設定で長い形式の CSS 表記を使用しています。これにより、ショートハンドルールが長い形式のルールよりも優先されることによって生じる問題が回避されます。Dreamweaver で、ショートハンド CSS 表記を使用して記述した Web ページを開いても、Dreamweaver で作成する CSS ルールは長い形式になります。Dreamweaver で CSS ルールを作成および編集する方法を指定するには、[編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して [環境設定] ダイアログボックスを表示し、[CSS スタイル] カテゴリで CSS 編集環境設定を変更します。

注意：[CSS スタイル] パネルでは、長い形式の表記のみを使用してルールが作成されます。[CSS スタイル] パネルを使用してページや CSS スタイルシートを作成する際、ショートハンド CSS ルールでハンドコーディングすると、ショートハンドのプロパティが、長い形式のプロパティより優先されることがあります。これを避けるため、長い形式の CSS 表記を使用してスタイルを作成してください。

CSS の作成と管理

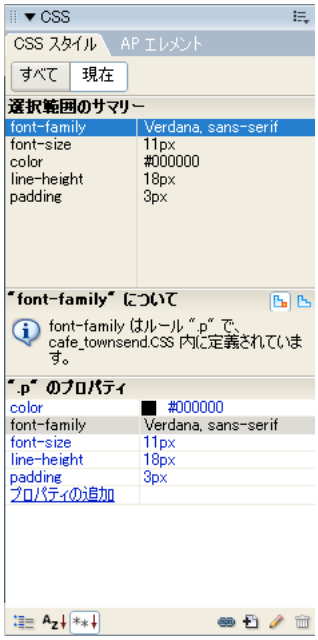
[CSS スタイル] パネルについて

[CSS スタイル] パネルでは、現在選択されているページエレメントに影響する CSS ルールとプロパティのトラッキング ([現在] モード) や、ドキュメントに使用できるすべてのルールとプロパティのトラッキング ([すべて] モード) が可能です。パネルの最上部にある切り替えボタンを使用して、2 つのモードを切り替えます。また、[すべて] と [現在] のどちらのモードも、[CSS スタイル] パネルで CSS プロパティを修正することが可能です。

[現在] モードと [すべて] モードでの [CSS スタイル] パネルの詳細については、次の 2 つの項を参照してください。

[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル

[現在] モードでは、[CSS スタイル] パネルは、パネルドキュメントの現在の選択範囲の CSS プロパティを表示する [選択範囲のサマリー] ペイン、選択したプロパティ (選択範囲によっては、選択したタグのルールのカスケード) の場所を示す [ルール] ペイン、および選択範囲に適用されるルールの CSS プロパティを編集できる [プロパティ] ペインの 3 つのペインを表示します。



ペインのサイズを変更するには、ペイン間のボーダーをドラッグします。列のサイズを変更するには、分割線をドラッグします。

[選択範囲のサマリー] ペインには、アクティブなドキュメントで現在選択されている項目の CSS プロパティの概要とそれらの値が表示されます。この概要には、選択範囲に直接適用されるすべてのルールのプロパティが表示されます。表示されるのは、設定済みプロパティのみです。

たとえば、次のルールでは、クラススタイルとタグ (この場合は段落) スタイルを作成します。

```
.foo{
color: green;
font-family: 'Arial';
}
p{
font-family: 'serif';
font-size: 12px;
}
```

ドキュメントウィンドウで .foo のクラススタイルを持つ段落テキストを選択すると、[選択範囲のサマリー] ペインには両方のルールの該当するプロパティが表示されます。これは、両方のルールが選択範囲に適用されるためです。この場合、[選択範囲のサマリー] ペインには次のプロパティが表示されます。

```
font-size: 12px
font-family: 'Arial'
color: green
```

[選択範囲のサマリー] ペインでは、プロパティが詳細度に関して昇順に表示されます。前述の例では、タグスタイルがフォントサイズを定義し、クラススタイルがフォントファミリとカラーを定義します。クラススタイルによって定義されたフォントファミリが、タグスタイルによって定義されたフォントファミリに優先されますが、これはクラスセレクタの詳細度がタグセレクタよりも高いためです。CSS の仕様の詳細については、www.w3.org/TR/CSS2/cascade.html を参照してください。

[ルール] ペインには、選択範囲に応じて詳細ビューまたはルールビューという 2 つの異なるビューがあります。詳細ビュー (初期設定のビュー) には、選択した CSS プロパティを定義するルールの名前と、そのルールが含まれたファイルの名前が表示されます。ルールビューには、現在の選択範囲に直接的または間接的に適用されるすべてのルールのカスケード、または階層が表示されます (ルールが直接適用されるタグは右の列に表示されます)。[ルール] ペインの右上隅にある [選択したプロパティに関する情報を表示] および [選択したタグのルールを重ねて表示] ボタンをクリックすると、2 つのビューを切り替えることができます。

[選択範囲のサマリー] ペインでプロパティを選択すると、定義されたルールのすべてのプロパティが [プロパティ] ペインに表示されます ([ルール] ビューが選択されている場合は、定義されたルールが [ルール] ペインでも選択されます)。たとえば、フォントファミリ、フォントサイズ、およびカラーを定義する .maintext というルールがある場合、[選択範囲のサマリー] ペインでこれらの任意のプロパティを選択すると、.maintext ルールで定義されたすべてのプロパティが [プロパティ] ペインに表示され、選択した .maintext ルールが [ルール] ペインに表示されます。さらに、[ルール] ペインで任意のルールを選択すると、そのルールのプロパティが [プロパティ] ペインに表示されます。次に、CSS が現在のドキュメントに埋め込まれているか、添付されたスタイルシートによりリンクされているかとは無関係に、[プロパティ] ペインを使用して CSS を素早く修正できます。初期設定では、[プロパティ] ペインには設定済みプロパティのみが表示され、それらがアルファベット順に並べ替えられます。

[プロパティ] ペインは 2 つの他のビューで表示することもできます。カテゴリビューには、フォント、背景、ブロック、ボーダーなどのカテゴリにプロパティがまとめて表示され、設定済みプロパティが各カテゴリの先頭に青のテキストで表示されます。リストビューには、使用可能なすべてのプロパティがアルファベット順に一覧表示され、同じように設定済みプロパティは先頭でソートされ、青のテキストで表示されます。ビューを切り替えるには、[プロパティ] ペインの左下隅にある [カテゴリビューの表示]、[リストビューの表示]、または [設定済みプロパティのみを表示] ボタンをクリックします。

すべてのビューで、設定済みプロパティは青色で表示され、選択したエレメントと無関係なプロパティには赤い斜線が表示されます。無関係なルールの上にマウスを置くと、そのプロパティが無関係である理由を説明するメッセージが表示されます。通常、プロパティが無関係と判断されるのは、他に優先するプロパティが存在する場合や、そのプロパティが継承されたプロパティではない場合です。

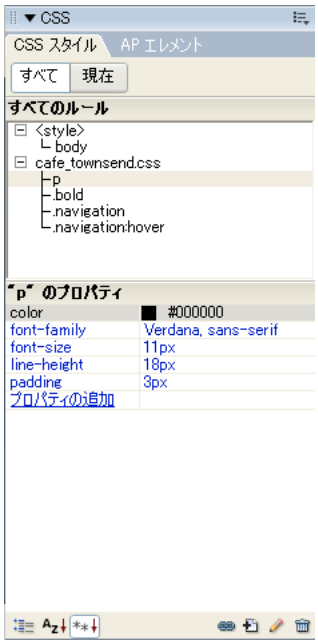
[プロパティ] ペインで行う変更はすべてすぐに適用されるので、作業を進めながらプレビューすることができます。

関連項目

123 ページの「[CSS スタイル] パネルを開く」

[すべて] モードでの [CSS スタイル] パネル

[すべて] モードでは、[CSS スタイル] パネルには [すべてのルール] ペイン (上部) と [プロパティ] ペイン (下部) の 2 つのペインが表示されます。[すべてのルール] ペインには、現在のドキュメントで定義されているルールのリストと、現在のドキュメントに添付されたスタイルシートに定義されているすべてのルールが表示されます。[プロパティ] ペインを使用すると、[すべてのルール] ペインで選択されたルールの CSS プロパティを編集できます。



ペインのサイズを変更するには、ペイン間のボーダーをドラッグします。[プロパティ] の列のサイズを変更するには、分割線をドラッグします。

[すべてのルール] ペインでルールを選択すると、そのルールで定義されたすべてのプロパティが [プロパティ] ペインの下に表示されます。次に、CSS が現在のドキュメントに埋め込まれているか、添付されたスタイルシートにリンクされているかとは無関係に、[プロパティ] ペインを使用して CSS を素早く修正できます。初期設定では、[プロパティ] ペインには設定済みプロパティのみが表示され、それらがアルファベット順に並べ替えられます。

プロパティは 2 つの他のビューで表示することもできます。カテゴリビューには、フォント、背景、ブロック、ボーダーなどのカテゴリにプロパティがまとめて表示され、設定済みプロパティは各カテゴリの先頭に表示されます。リストビューには、使用可能なすべてのプロパティがアルファベット順に一覧表示され、同じように設定済みプロパティは先頭でソートされます。ビューを切り替えるには、[プロパティ] ペインの左下隅にある [カテゴリビューの表示]、[リストビューの表示]、または [設定済みプロパティのみを表示] ボタンをクリックします。すべてのビューで、設定済みプロパティは青で表示されます。

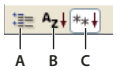
[プロパティ] ペインで行う変更はすべてすぐに適用されるので、作業を進めながらプレビューすることができます。

関連項目

123 ページの「[CSS スタイル] パネルを開く」

[CSS スタイル] パネルのボタンとビュー

[すべて] モードと [現在] モードの両方で、[CSS スタイル] パネルには、[プロパティ] ペイン (下のペイン) でビューを変更できる 3 つのボタンが含まれています。



A. カテゴリビュー **B.** リストビュー **C.** プロパティビューの設定

カテゴリビュー Dreamweaver でサポートされる CSS プロパティが、フォント、背景、ブロック、ボーダー、ボックス、リスト、位置、拡張の 8 つのカテゴリに分類されます。各カテゴリのプロパティはリストに含まれます。このリストは、カテゴリ名の横にある [+] ボタンをクリックすることにより展開または縮小できます。設定されているプロパティがリストの上部に青色で表示されます。

リストビュー Dreamweaver でサポートされるすべての CSS プロパティがアルファベット順に表示されます。設定されているプロパティがリストの上部に青色で表示されます。

プロパティビューの設定 設定済みのプロパティだけが表示されます。設定済みのプロパティビューは初期設定のビューです。

[すべて] および [現在] モードの両方で、[CSS スタイル] パネルには以下のボタンが含まれます。

A. スタイルシートを添付 **B.** 新規 CSS ルール **C.** スタイルの編集 **D.** CSS ルールの削除

スタイルシートを添付 [外部スタイルシートのリンク] ダイアログボックスが表示されます。現在のドキュメントにリンクする、または読み込む外部スタイルシートを選択します。

新規 CSS ルール 作成するスタイルのタイプを選択できるダイアログボックスが表示されます。たとえば、このダイアログボックスでは、クラススタイルを作成するのか、HTML タグを再定義するのか、または CSS セレクタを定義するのかを選択できます。

スタイルの編集 現在のドキュメントまたは外部スタイルシートに定義されているスタイルを編集できるダイアログボックスが表示されます。

CSS ルールの削除 選択したルールまたはプロパティが [CSS スタイル] パネルから削除され、そのスタイルが適用されていたすべてのエレメントからフォーマットが削除されます。ただし、そのスタイルで参照されるクラスまたは ID プロパティは削除されません。[CSS ルールの削除] ボタンは、添付された CSS スタイルシートを削除 (または、" リンクを削除 ") することもできます。

[CSS スタイル] パネルを右クリック (Windows)、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) すると、CSS スタイルシートのコマンドを実行するためのオプションがコンテキストメニューに表示されます。

[CSS スタイル] パネルを開く

[CSS スタイル] パネルを使用すれば、CSS スタイルを表示、編集、削除できる他、外部スタイルシートをドキュメントに添付することもできます。

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [ウィンドウ]-[CSS スタイル] を選択します。
- Shift + F11 キーを押します。
- プロパティインスペクタで [CSS] ボタンをクリックします。

CSS スタイルの環境設定

CSS スタイルの環境設定によって、Dreamweaver が CSS スタイルを定義するコードの記述方法を制御します。ユーザーの好みに応じて、CSS スタイルをショートハンドフォームで記述することができます。ただし、古いバージョンのブラウザでは、ショートハンドが正確に解釈されないこともあります。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択し、[カテゴリ] リストから [CSS スタイル] を選択します。

2 適用する CSS スタイルのオプションを設定します。

CSS ルールの作成時 : ショートハンドの使用 Dreamweaver がショートハンドで記述する CSS スタイルプロパティを選択します。

CSS ルールの編集時 : ショートハンドの使用 Dreamweaver が既存のスタイルをショートハンドで書き換えるかどうかを制御します。

すべてのスタイルを変更せずにそのまま残す場合は、[オリジナルで使用している場合] を選択します。

[ショートハンドの使用] で選択したプロパティのスタイルをショートハンドで書き換える場合は、[上記のチェックボックスに合わせる] を選択します。

CSS パネルのダブルクリック時 CSS ルールを編集するツールを選択します。

3 [OK] をクリックします。

CSS ルールの新規作成

CSS ルールを作成して、class 属性で識別される HTML タグまたは特定の範囲のテキストのフォーマットを自動的に設定することができます。

1 ドキュメントに挿入ポイントを置き、次のいずれかの操作を行って [新規 CSS ルール] ダイアログボックスを表示します。

- [テキスト]-[CSS スタイル]-[新規] を選択します。
- [CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS スタイル]) の右下隅にある [新規 CSS ルール] (+) ボタンをクリックします。

2 作成する CSS スタイルのタイプを以下のように定義します。

- class 属性としてテキストの範囲またはブロックに適用できるカスタムスタイルを作成するには、[クラス] オプションを選択し、次に [名前] テキストボックスにスタイル名を入力します。

注意 : クラス名の先頭にはピリオドを付ける必要がありますが、残りの部分には、任意の文字と数字を組み合わせて使用できます (たとえば、.myhead1)。先頭のピリオドを省略しても、Dreamweaver によって自動的にピリオドが入力されます。

- 特定の HTML タグに設定されている初期設定のフォーマットを再定義するには、[タグ] オプションを選択し、[タグ] テキストボックスに HTML タグを入力するか、ポップアップメニューから選択します。
- 特定のタグの組み合わせ、または特定の Id 属性を持つすべてのタグのフォーマットを定義するには、[詳細] オプションを選択し、[セレクタ] テキストボックスに HTML タグを入力するか、ポップアップメニューから選択します。ポップアップメニューで使用できるセレクタ (疑似クラスセレクタとも呼ばれます) は、a:active、a:hover、a:link、および a:visited です。

3 スタイルが定義される場所として次のいずれかを選択し、[OK] をクリックします。

- 既にドキュメントに関連付けられているスタイルシートのスタイルを配置するには、スタイルシートを選択します。
- 外部スタイルシートを作成するには、[新規スタイルシートファイル] を選択します。
- 現在のドキュメントにスタイルを埋め込むには、[現在のドキュメントのみ] を選択します。

4 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで、新しい CSS ルールに設定するスタイルのオプションを選択します。詳細については、次の項を参照してください。

5 スタイルプロパティの設定が完了したら、[OK] をクリックします。

注意：スタイルのオプションを設定せずに [OK] をクリックすると、空の新規ルールが作成されます。

CSS プロパティの設定

テキストのフォント、背景イメージと背景色、間隔とレイアウトプロパティ、リストのエレメントの外観など、CSS ルールのプロパティを定義することができます。最初に新しいルールを作成し、次に以下のいずれかのプロパティを設定します。

CSS タイププロパティの定義

[CSS ルール定義] ダイアログボックスの [タイプ] カテゴリを使用して、CSS スタイルの基本的なフォントおよびタイプの設定を定義します。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift+F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [タイプ] を選択し、スタイルプロパティを設定します。

以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

フォント スタイルのフォントファミリーを 1 つまたは複数設定します。ブラウザのテキストに使用されるのは、リストにあるフォントのうち、ユーザーのシステムにインストールされている最初のフォントです。Internet Explorer 3.0 でも表示できるようにするには、最初に Windows のフォントを指定してください。フォント属性は、両方のブラウザでサポートされています。

サイズ テキストのサイズを定義します。数値とサイズ単位を選択して特定のサイズを選択することも、相対的なサイズを選択することもできます。ピクセルを使用すると、ブラウザでテキストが変形されなくなります。サイズ属性は、両方のブラウザでサポートされています。

スタイル フォントスタイルとして [標準]、[イタリック]、または [オブリーク] を指定します。初期設定は [標準] です。スタイル属性は、両方のブラウザでサポートされています。

ライン高 テキストが配置される行の高さを設定します。この設定は一般に行間と呼ばれます。[標準] を選択すると、フォントサイズに適した高さが自動的に計算されます。または、正確な数値を入力し、使用する単位を選択します。ラインの高さ属性は、両方のブラウザでサポートされています。

飾り テキストにアンダーライン、オーバーライン、または取り消し線を付けます。テキストを点滅させることもできます。標準テキストの初期設定は [なし] です。リンクの初期設定は [アンダーライン] です。このオプションを [なし] に設定すると、特別なクラスを定義することによって、リンクからアンダーラインを削除できます。飾り属性は、両方のブラウザでサポートされています。

ウエイト 特定または相対的な太さをフォントに適用します。[標準] は 400、[ボールド] は 700 に相当します。ウエイト属性は、両方のブラウザでサポートされています。

バリアント テキストにスモールキャプスを設定します。Dreamweaver のドキュメントウィンドウでは、この属性は表示されません。バリアント属性は、Internet Explorer ではサポートされていますが、Netscape Navigator ではサポートされていません。

大文字 / 小文字 選択範囲の各単語の最初の文字を大文字にするか、あるいはテキストのすべての文字を大文字または小文字にするかを設定します。大文字 / 小文字属性は、両方のブラウザでサポートされています。

カラー テキストカラーを設定します。カラー属性は、両方のブラウザでサポートされています。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS スタイルの背景プロパティの定義

[CSS ルール定義] ダイアログボックスの [背景] カテゴリを使用して、CSS スタイルの背景設定を定義します。背景プロパティは、Web ページの任意のエレメントに適用できます。たとえば、テキスト、テーブル、ページなどのページエレメントの背後に背景色や背景イメージを追加するスタイルを作成できます。また、背景イメージの位置も設定できます。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift + F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [背景] を選択し、必要なスタイルプロパティを設定します。

以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

背景色 エレメントの背景色を指定します。背景色属性は、両方のブラウザでサポートされています。

背景イメージ エレメントの背景イメージを指定します。背景イメージ属性は、両方のブラウザでサポートされています。

リピート 背景イメージの繰り返しの有無と、繰り返しの方法を指定します。リピート属性は、両方のブラウザでサポートされています。

- [リピートなし] を選択すると、イメージはエレメントの開始位置に 1 回表示されます。
- [リピート] を選択すると、エレメントの背後にイメージが水平および垂直方向にタイル状に表示されます。
- [X 軸にリピート] または [Y 軸にリピート] を選択すると、イメージが水平または垂直方向に帯状に表示されます。イメージは、エレメントの境界内に収まるように切り抜かれます。

注意：[繰り返し] プロパティを使用して *body* タグを再定義すると、繰り返しのない背景イメージを設定できます。

添付 背景イメージを元の場所に固定するか、コンテンツと共にスクロールするかを指定します。ブラウザによっては、[固定] オプションを指定しても [スクロール] と同様に処理されることがあります。この属性は Internet Explorer ではサポートされていますが、Netscape Navigator ではサポートされていません。

水平位置および垂直位置 背景イメージを最初に配置する位置を、エレメントを基準として指定します。このオプションを使用して、背景イメージをページの縦方向中央および横方向中央に揃えることができます。添付プロパティが [固定] の場合は、この位置はエレメントではなくドキュメントウィンドウが基準になります。この属性は Internet Explorer ではサポートされていますが、Netscape Navigator ではサポートされていません。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS スタイルのブロックプロパティの定義

[CSS ルール定義] ダイアログボックスの [ブロック] カテゴリを使用して、タグとプロパティの間隔および整列を定義します。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift + F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [ブロック] を選択し、以下のいずれかのスタイルプロパティを設定します。以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

単語間隔 単語間のスペースを設定します。特定の値を指定するには、ポップアップメニューから [値] を選択し、数値を入力します。2 つ目のポップアップメニューで、単位 (ピクセル、ポイントなど) を選択します。

注意：負の値を入力することもできますが、表示はブラウザに依存します。Dreamweaver のドキュメントウィンドウでは、この属性は表示されません。

文字間隔 文字間のスペースを拡張または縮小します。文字間のスペースを縮小するには、負の値 (-4 など) を指定します。文字間隔の設定は、テキストの行揃え設定に優先します。文字間隔属性は、Internet Explorer 4 以降および Netscape Navigator 6 でサポートされています。

縦に整列 このオプションを適用するエレメントの縦方向の整列を指定します。Dreamweaver では、この属性は <img> タグに適用された場合にのみ、ドキュメントウィンドウに表示されます。

テキストの行揃え エレメント内のテキストの整列方法を指定します。テキストの行揃え属性は、両方のブラウザでサポートされています。

テキストインデント テキストの最初の行をどれだけインデントするかを指定します。負の値を入力してインデントを解除することもできますが、表示はブラウザに依存します。Dreamweaver では、この属性はタグがブロックレベルのエレメントに適用された場合にのみ、ドキュメントウィンドウに表示されます。テキストインデント属性は、両方のブラウザでサポートされています。

ホワイトスペース エレメント内のホワイトスペースの処理方法を指定します。次の 3 つのオプションから選択します。[標準] を選択すると、ホワイトスペースは表示されません。[PRE] を選択すると、テキストは pre タグに囲まれているものとして処理されます。したがって、スペース、タブ、リターンなどのすべてのホワイトスペースが残ります。[折り返さない] を選択した場合は、br タグの位置でのみテキストが折り返されます。Dreamweaver のドキュメントウィンドウでは、この属性は表示されません。ホワイトスペース属性は、Netscape Navigator および Internet Explorer 5.5 でサポートされています。

表示 エレメントの表示または非表示、およびエレメントの表示方法を指定します。[なし] を選択すると、エレメントは非表示になります。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS スタイルのボックスプロパティの定義

[CSS ルール定義] ダイアログボックスの [ボックス] カテゴリを使用して、ページ上のエレメントの配置を制御するタグおよびプロパティの設定を定義します。

余白およびマージンを適用する場合は、エレメントの個々の辺に設定を適用できます。また、[すべて同一] を使用して、エレメントのすべての辺に同じ設定を適用することもできます。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift+F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [ボックス] を選択し、以下のいずれかのスタイルプロパティを設定します。以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

幅および高さ エレメントの幅と高さを設定します。

フロート エレメントのどちら側に他のエレメント (テキスト、絶対位置の Div、テーブルなど) を回り込ませるかを設定します。他のエレメントは、通常どおりフローティングエレメントの周囲に配置されます。フロート属性は、両方のブラウザでサポートされています。

クリア どちら側で AP エレメントを禁止するかを定義します。[クリア] で指定した側に AP エレメントが表示されるとき、クリア属性が設定されているエレメントはその下に移動します。クリア属性は、両方のブラウザでサポートされています。

余白 エレメントの内容とそのボーダー (ボーダーがない場合はマージン) との間のスペースの量を指定します。[すべて同一] オプションをオフにすると、エレメントのそれぞれの辺の余白を設定できます。

すべて同一 オンにすると、エレメントの上下左右に同じ余白プロパティが適用されます。

マージン エレメントのボーダー (ボーダーがない場合は余白) と他のエレメントとの間のスペースの量を指定します。Dreamweaver では、この属性はブロックレベルのエレメント (段落、見出し、リストなど) に適用された場合にのみドキュメントウィンドウに表示されます。[すべて同一] オプションをオフにすると、エレメントのそれぞれの辺のマージンを設定できます。

すべて同一 オンにすると、エレメントの上下左右に同じマージンプロパティが適用されます。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS スタイルのボーダープロパティの定義

[CSS ルール定義] ダイアログボックスの [ボーダー] カテゴリを使用して、エレメントを囲むボーダーの幅、カラー、スタイルなどの設定を定義します。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift + F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [ボーダー] を選択し、以下のいずれかのスタイルプロパティを設定します。以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

スタイル ボーダーのスタイルの表示方法を設定します。スタイルの表示方法は、ブラウザに依存します。Dreamweaver のドキュメントウィンドウでは、すべてのスタイルが単色で表示されます。スタイル属性は、両方のブラウザでサポートされています。[すべて同一] オプションをオフにすると、エレメントのそれぞれの辺のボーダースタイルを設定できます。

すべて同一 オンにすると、エレメントの上下左右に同じボーダーのスタイルプロパティが適用されます。

幅 エレメントのボーダーの太さを設定します。幅属性は、両方のブラウザでサポートされています。[すべて同一] オプションをオフにすると、エレメントのそれぞれの辺のボーダー幅を設定できます。

すべて同一 オンにすると、エレメントの上下左右に同じボーダー幅が適用されます。

カラー ボーダーのカラーを指定します。各辺のカラーを個別に設定できますが、表示はブラウザに依存します。[すべて同一] オプションをオフにすると、エレメントのそれぞれの辺のボーダーカラーを設定できます。

すべて同一 オンにすると、エレメントの上下左右に同じボーダーカラーが適用されます。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS スタイルのリストプロパティの定義

[CSS ルール定義] ダイアログボックスの [リスト] カテゴリでは、リストタグのリスト設定 (ブレットサイズやタイプなど) を定義します。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift + F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [リスト] を選択し、以下のいずれかのスタイルプロパティを設定します。以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

タイプ ブレットまたは番号の表示方法を設定します。タイプ属性は、両方のブラウザでサポートされています。

ブレットイメージ ブレットに使用するカスタムイメージを指定します。[参照] (Windows) または [選択] (Macintosh) をクリックしてイメージを参照するか、イメージのパスを入力します。

位置 リスト項目のテキストを折り返してインデントを行うか (外側)、またはテキストを折り返して左マージンから表示するか (内側) を設定します。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS スタイルの位置プロパティの定義

位置スタイルプロパティは、選択した CSS スタイルに関連付けされたコンテンツをどのようにページに配置するかを指定します。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift + F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [位置] を選択し、必要なスタイルプロパティを設定します。

以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

タイプ ブラウザでの選択したエレメントの配置方法を以下のように指定します。

- *[絶対的]* では、最も近い絶対位置または相対位置に配置された祖先を基準にして、[配置] の各ボックスに入力した座標値を使用してコンテンツを配置します。絶対位置または相対位置に配置された祖先が存在しない場合は、ページの左上隅を基準にします。
- *[相対的]* では、ドキュメントのテキストフローでのブロックの位置を基準として、[配置] の各ボックスに入力した座標値を使用してコンテンツブロックを配置します。たとえば、相対位置で 20px の上と左の座標をエレメントに指定すると、それぞれがエレメントをフローの標準位置から 20px 右および 20px 下に移動します。また、上、左、右、または下

の各座標を指定し、または指定せずに、エレメントを相対位置に配置し、絶対位置の子のコンテキストを設定することができます

- *[固定]* では、ブラウザの左上を基準として、[配置] の各ボックスに入力した座標値を使用してコンテンツを配置します。ユーザーがページをスクロールする場合、コンテンツはこの位置に固定されたままになります。
- *[静的]* では、テキストフロー内の位置にコンテンツを配置します。これは、配置可能なすべての HTML エレメントの初期設定の位置です。

表示 / 非表示 コンテンツの初期表示を設定します。[可視性] プロパティを指定しない場合、初期設定により、コンテンツは親タグの値を継承します。body タグの初期設定の可視性を表示できます。以下の可視性オプションのいずれかを選択します。

- *[継承]* (初期設定) では、コンテンツの親の表示 / 非表示プロパティが継承されます。
- *[表示]* では、親の値には関係なく、コンテンツが表示されます。
- *[非表示]* では、親の値には関係なく、コンテンツは非表示になります。

Z インデックス コンテンツの重ね順を指定します。Z インデックスが大きいエレメントが、Z インデックスが小さい (または、何も設定されてない) エレメントの上に表示されます。プラスとマイナスの両方の値を指定できます。コンテンツが絶対位置に配置されている場合、[AP エレメント] パネルを使用して、重ね順を簡単に変更できます。

オーバーフロー コンテナのコンテンツ (たとえば、Div または P) がそのサイズを超過した場合に生じる動作を設定します。これらのプロパティは、コンテナのサイズを次のように制御します。

- *[表示]* を選択すると、コンテンツがすべて表示されるように、コンテナのサイズが拡大します。コンテナは、右下方向に拡大します。
- *[非表示]* を選択すると、コンテナのサイズは変更されず、これより大きいコンテンツは切り捨てられます。スクロールバーは表示されません。
- *[スクロール]* を選択すると、コンテンツがコンテナのサイズを超えているかどうかにかかわらず、コンテナにスクロールバーが表示されます。スクロールバーの表示を明示的に指定すると、動的な環境でスクロールバーが表示されたり非表示になったりすることによる混乱を回避できます。このオプションは、ドキュメントウィンドウでは表示されません。
- *[自動]* を選択すると、コンテナのコンテンツがボーダーに収まらない大きさになった場合にのみスクロールバーが表示されます。このオプションは、ドキュメントウィンドウでは表示されません。

配置 コンテンツブロックの位置とサイズを指定します。ブラウザでの位置の解釈は、[タイプ] の設定により異なります。サイズの値は、コンテンツブロックのコンテンツが指定サイズを越えた場合は無視されます。

初期設定では、位置とサイズの単位はピクセルです。単位として、pc (パイカ)、pt (ポイント)、in (インチ)、mm (ミリメートル)、cm (センチメートル)、(ems)、(exs)、% (親の値に対する割合) を指定することもできます。単位は、値の後にスペースを入れず続けて入力します (例 : **3mm**)。

切り抜き コンテンツのどの部分を表示するかを定義します。切り抜き領域を指定すれば、JavaScript のようなスクリプト言語でその領域にアクセスしてプロパティを操作し、ワイプなどの特殊効果を作成することができます。このようなワイプは、[プロパティの変更] ビヘイビアを使用して設定できます。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS スタイルの拡張プロパティの定義

拡張スタイルプロパティには、フィルタ、改ページオプション、およびポインタオプションがあります。

注意 : Dreamweaver にはこの他にも多数の拡張プロパティがありますが、それらのプロパティにアクセスするには [CSS スタイル] パネルを開く必要があります。利用可能な拡張プロパティのリストを表示するには、[CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS スタイル]) を開き、このパネルの下部にある [カテゴリビューの表示] ボタンをクリックして [拡張] カテゴリを展開します。

1 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、Shift+F11 キーを押して開きます。

2 [CSS スタイル] パネルの上部ペインで既存のルールまたはプロパティをダブルクリックします。

3 [CSS ルール定義] ダイアログボックスで [拡張] を選択し、以下のいずれかのスタイルプロパティを設定します。以下のプロパティは、このスタイルにおいて重要でない場合は空白にしておきます。

改ページ 設定すると、印刷時に、このスタイルによって制御されているオブジェクトの前または後で強制的に改ページします。ポップアップメニューから、設定するオプションを選択します。このオプションは 4.0 ブラウザではサポートされませんが、将来のバージョンでサポートされる可能性があります。

カーソル このスタイルによって制御されているオブジェクト上にポインタが移動するとポインタイメージが変化するように設定します。ポップアップメニューから、設定するオプションを選択します。この属性は、Internet Explorer 4.0 以降および Netscape Navigator 6 でサポートされています。

フィルタ このスタイルによって制御されているオブジェクトに、ぼかしや反転などの特殊効果を適用します。ポップアップメニューから効果を選びます。

4 オプションの設定が終了したら、パネルの左側で別の CSS カテゴリを選択してさらにスタイルプロパティを設定するか、[OK] をクリックします。

CSS ルールの編集

ドキュメントに適用したルールは、内部または外部ルールであるかを問わず、簡単に編集できます。

ドキュメント内のテキストを制御する CSS スタイルシートを編集すると、その CSS スタイルシートで制御されるすべてのテキストが瞬時に再フォーマットされます。外部スタイルシートでの編集は、そのスタイルシートにリンクしているすべてのドキュメントに反映されます。

スタイルシートの編集に使用する外部エディタを設定できます。

[CSS スタイル] パネルでのルールの編集 ([現在] モード)

1 [ウィンドウ]-[CSS スタイル] を選択し、[CSS スタイル] パネルを表示します。

2 [CSS] スタイルパネルの上部にある [現在] ボタンをクリックします。

3 現在のページからテキストエレメントを選択してそのプロパティを表示します。

4 次のいずれかの操作を実行します。

- [選択範囲のサマリー] ペインでプロパティをダブルクリックして [<プロパティ名> のCSS ルール定義] ダイアログボックスを表示し、変更を行います。
- [選択範囲のサマリー] ペインでプロパティを選択し、下の [プロパティ] ペインでそのプロパティを編集します。
- [ルール] ペインでルールを選択し、下の [プロパティ] ペインでルールのプロパティを編集します。

注意：Dreamweaver の環境設定を変更すると、CSS 編集時のダブルクリックのビヘイビアと他のビヘイビアを変更できます。

[CSS スタイル] パネルでのルールの編集 ([すべて] モード)

1 [ウィンドウ]-[CSS スタイル] を選択し、[CSS スタイル] パネルを表示します。

2 [CSS] スタイルパネルの上部にある [すべて] ボタンをクリックします。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- [すべてのルール] ペインでルールをダブルクリックして [CSS ルール定義] ダイアログボックスを表示し、変更を行います。
- [すべてのルール] ペインでルールを選択し、下の [プロパティ] ペインでルールのプロパティを編集します。
- [すべてのルール] ペインでルールを選択し、[CSS スタイルパネル] の右下隅にある [スタイルの編集] ボタンをクリックします。

注意：Dreamweaver の環境設定を変更すると、CSS 編集時のダブルクリックのビヘイビアと他のビヘイビアを変更できます。

CSS セレクタ名の変更

1 [CSS スタイル] パネル ([すべて] モード) で、変更するセレクタを選択します。

2 セレクタをもう一度クリックし、名前を編集できるようにします。

3 変更を行い、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

ルールへのプロパティの追加

[CSS スタイル] パネルを使用して、ルールにプロパティを追加することができます。

1 [CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS]) の [すべてのルール] ペイン ([すべて] モード) でルールを選択するか、[選択範囲のサマリー] ペイン ([現在] モード) でプロパティを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [プロパティ] ペインで [設定済みプロパティのみを表示] が選択されている場合は、[プロパティの追加] リンクをクリックしてプロパティを追加します。
- [プロパティ] ペインでカテゴリビューまたはリストビューが選択されている場合は、追加するプロパティの値を入力します。

クラススタイルの適用、削除、名前の変更

クラススタイルは、テキストを制御するタグとは無関係に、ドキュメントの任意のテキストに適用できる唯一の CSS スタイルです。[CSS スタイル] パネルには、現在のドキュメントに関連付けられているすべてのクラススタイルが、クラススタイル名の前にピリオドが付加された形で表示されます。これらのクラススタイルは、テキストのプロパティインスペクタの [スタイル] ポップアップメニューにも表示されます。

ほとんどのスタイルはすぐに更新されますが、ページをブラウザでプレビュー表示して、スタイルが望みどおりに適用されたかどうかを確認してください。同じテキストに複数のスタイルを適用すると、スタイルが競合して予想外の結果が生じることがあります。

外部 CSS スタイルシートで定義されたスタイルをプレビューする場合は、ブラウザでページをプレビューするときに変更が反映されるようにスタイルシートを保存します。

関連項目

116 ページの「カスケーディングスタイルシートについて」

118 ページの「カスケーディングスタイルについて」

120 ページの「[CSS スタイル] パネルについて」

CSS クラススタイルの適用

1 ドキュメント内の、CSS スタイルを適用するテキストを選択します。

挿入ポイントを段落内に置くと、段落全体にスタイルが適用されます。

1 つの段落内で特定範囲のテキストを選択した場合は、CSS スタイルは選択範囲だけに適用されます。

特定のタグだけに CSS スタイルを適用するには、ドキュメントウィンドウの左下にあるタグセレクタでタグを選択します。

2 クラススタイルを適用するには、以下のいずれかの操作を行います。

- [CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS スタイル]) で、[すべて] モードを選択し、適用するスタイルの名前を右クリックして、コンテキストメニューから [適用] を選択します。
- テキストのプロパティインスペクタで、[スタイル] ポップアップメニューから適用するクラススタイルを選択します。
- ドキュメントウィンドウで、選択したテキストを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) します。次に、コンテキストメニューから [CSS スタイル] を選択し、適用するスタイルを選択します。
- [テキスト]-[CSS スタイル] を選択し、サブメニューから適用するスタイルを選択します。

選択範囲からのクラススタイルの削除

1 スタイルを削除するオブジェクトまたはテキストを選択します。

2 テキストのプロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[スタイル] ポップアップメニューから [なし] を選択します。

クラススタイル名の変更

1 [CSS スタイル] パネルで、名前を変更する CSS クラススタイルを右クリックし、[クラス名を変更] を選択します。

[CSS スタイル] パネルの [オプション] メニューから [クラス名を変更] を選択して、クラス名を変更する方法もあります。

2 [クラス名を変更] ダイアログボックスで、名前を変更するクラスが [クラス名を変更] ポップアップメニューで選択されていることを確認します。

3 [新しい名前] テキストボックスに新しいクラスの名前を入力し、[OK] をクリックします。

名前を変更するクラスが現在のドキュメントの head の内部に記述されている場合、Dreamweaver はクラス名を変更するだけでなく、現在のドキュメントで使用されているそのクラスのすべてのインスタンスについてもクラス名を変更します。名前を変更するクラスが外部の CSS ファイルに記述されている場合、Dreamweaver はそのファイルを開き、クラス名を変更します。Dreamweaver によって、[検索および置換] ダイアログボックスも表示されます。これにより、古いクラス名のすべてのインスタンスをサイト内で検索できます。

CSS ルールの移動

Dreamweaver の CSS 管理機能を使用すると、CSS ルールを別の場所に簡単に移動できます。ルールの移動は、ドキュメント間、ドキュメントの head から外部スタイルシートへ、外部 CSS ファイル間などで行うことができます。

注意：移動しようとしているルールが、移動先のスタイルシートのルールと競合する場合、Dreamweaver は [同じ名前のルールが存在] ダイアログボックスを表示します。競合するルールを移動することを選択した場合、Dreamweaver によって、移動したルールが移動先スタイルシートの競合するルールと隣接する位置に配置されます。

関連項目

302 ページの「コーディングツールバーでのコードの挿入」

CSS ルールを新しいスタイルシートに移動する

1 次のいずれかの操作を実行します。

- [CSS スタイル] パネルで、移動するルールを選択します。次に、選択項目を右クリックし、コンテキストメニューから [CSS ルールを移動] を選択します。複数のルールを選択するには、Ctrl キー (Windows) または Command キーを押しながらクリックしてルールを選択します。
- コードビューで、移動するルールを選択します。次に、選択項目を右クリックし、コンテキストメニューから [CSS スタイル]-[CSS ルールを移動] を選択します。

注意：ルールの一部を選択すると、ルール全体の位置が変更されます。

2 [外部スタイルシートへ移動] ダイアログボックスで、新しいスタイルシートオプションを選択し、[OK] をクリックします。

3 [スタイルシートファイルの新規保存] ダイアログボックスで、新しいスタイルシートの名前を入力し、[保存] をクリックします。

[保存] をクリックすると、Dreamweaver によって、選択したルールを使用した新しいスタイルシートが保存され、現在のドキュメントに添付されます。

コーディングツールバーを使用して、ルールを移動することもできます。コーディングツールバーは、コードビューでのみ利用できます。

CSS ルールを既存のスタイルシートに移動する

1 次のいずれかの操作を実行します。

- [CSS スタイル] パネルで、移動するルールを選択します。次に、選択項目を右クリックし、コンテキストメニューから [CSS ルールを移動] を選択します。複数のルールを選択するには、Ctrl キー (Windows) または Command キーを押しながらクリックしてルールを選択します。
- コードビューで、移動するルールを選択します。次に、選択項目を右クリックし、コンテキストメニューから [CSS スタイル]-[CSS ルールを移動] を選択します。

注意：ルールの一部を選択すると、ルール全体の位置が変更されます。

2 [外部スタイルシートへ移動] ダイアログボックスでポップアップメニューから既存のスタイルシートを選択するか、既存のスタイルシートを参照し、[OK] をクリックします。

注意：ポップアップメニューには、現在のドキュメントにリンクされているすべてのスタイルシートが表示されます。

コーディングツールバーを使用して、ルールを移動することもできます。コーディングツールバーは、コードビューでのみ利用できます。

ドラッグにより CSS ルールを再配置し、移動する

❖ [CSS スタイル] パネル ([すべて] モード) で、ルールを選択し、目的の場所にドラッグします。ルールを選択してドラッグすることで、スタイルシート内でのルールの順序を変更することができます。また、別のスタイルシートはドキュメントの head にルールを移動することもできます。

複数のルールを一度に移動するには、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら複数のルールをクリックして選択します。

移動する前に複数のルールを選択する

❖ [CSS スタイル] パネルで、Ctrl キーを押しながらクリック (Windows) または Command キーを押しながらクリック (Macintosh) し、複数のルールを選択します。

インライン CSS の CSS ルールへの変換

インラインスタイルの使用はお勧めしません。CSS をわかりやすくするため、インラインスタイルを、ドキュメントの head 内または外部スタイルシート内で定義された CSS ルールに変換できます。

1 コードビュー ([表示]-[コード]) で、変換するインライン CSS が含まれている <style> タグ全体を選択します。

2 右クリックし、[CSS スタイル]-[インライン CSS をルールに変換] を選択します。

3 [インライン CSS の変換] ダイアログボックスで、新しいルールのクラス名を入力し、次のいずれかの操作を行います。

- 新しい CSS ルールの配置先のスタイルシートを選択し、[OK] をクリックします。
- 新しい CSS ルールの配置先としてドキュメントの head を選択し、[OK] をクリックします。

コーディングツールバーを使用して、ルールを変換することもできます。コーディングツールバーは、コードビューでのみ利用できます。

関連項目

302 ページの「コーディングツールバーでのコードの挿入」

外部 CSS スタイルシートへのリンク

外部 CSS スタイルシートを編集すると、その CSS スタイルシートにリンクされたすべてのドキュメントに編集内容が反映されます。ドキュメントの CSS スタイルを書き出して新しい CSS スタイルシートを作成し、外部スタイルシートに添付またはリンクすると、ドキュメント内の CSS スタイルを適用できます。

サイト内に存在するスタイルシートであれば、どれでもページに添付できます。また Dreamweaver には、自動的にサイトに移動してページに添付できる既にできあがったスタイルシートが付属しています。

1 次のいずれかの操作を行って、[CSS スタイル] パネルを開きます。

- [ウィンドウ]-[CSS スタイル] を選択します。
- Shift+F11 キーを押します。

2 [CSS スタイル] パネルで、[外部スタイルシートを添付] ボタンをクリックします (ボタンは、パネルの右下隅にあります)。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- [参照] をクリックして、外部 CSS スタイルシートを参照します。
- [ファイル /URL] ボックスにスタイルシートのパスを入力します。

4 [次の形式で追加] で、以下のオプションのいずれかを選択します。

- [リンクさせる] を選択すると、現在のドキュメントと外部スタイルシートとのリンクを作成できます。これにより、HTML コードに link href タグが作成され、パブリッシュされたスタイルシートの場所を示す URL が参照されます。この方法は、Microsoft Internet Explorer と Netscape Navigator の両方で使用できます。
- link タグを使用して外部スタイルシートから別の外部スタイルシートへの参照を追加することはできません。スタイルシートをネストするには、読み込みディレクティブを使用する必要があります。多くのブラウザでは、ページ内 (スタイルシート内ではなく) の読み込みディレクティブが認識されます。ルールが重複する外部スタイルシートが読み込まれているのかリンクされているのかによって、競合するプロパティの解決方法は少々異なります。外部スタイルシートをリンクするのではなく読み込む場合は、[ファイルを読み込む] を選択します。

5 [メディア] ポップアップメニューで、スタイルシートのターゲットメディアを指定します。

メディア依存のスタイルシートの詳細については、World Wide Web Consortium の Web サイト (www.w3.org/TR/CSS21/media.html) を参照してください。

6 [プレビュー] ボタンをクリックすると、スタイルシートによって目的のスタイルが現在のページに適用された状態を確認できます。

スタイルを適用した結果が予想と異なる場合は [キャンセル] をクリックしてスタイルシートを削除します。ページの外観が、適用する前の状態に戻ります。

7 [OK] をクリックします。

関連項目

70 ページの「Dreamweaver サンプルファイルに基づくページの作成」

CSS スタイルシートの編集

一般に、CSS スタイルシートには 1 つまたは複数のルールが含まれています。CSS スタイルシートの個々のルールを編集するには [CSS スタイル] パネルを使用します。または、必要に応じて、CSS スタイルシートで直接編集することもできます。

1 [CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS スタイル]) で、[すべて] モードを選択します。

2 [すべてのルール] ペインで、編集するスタイルシートの名前をダブルクリックします。

3 ドキュメントウィンドウで、必要に応じてスタイルシートを変更し、保存します。

CSS コードのフォーマット

Dreamweaver のインターフェイスを使用して CSS ルールを作成または編集するときは、CSS コードのフォーマットを制御する環境設定を行うことができます。たとえば、すべての CSS プロパティを個別の行に配置する環境設定や、CSS ルール間に空白行を挿入する環境設定を行うことができます。

CSS コードフォーマットの環境設定を行うと、選択した環境設定が、作成するすべての新しい CSS ルールに自動的に適用されます。ただし、これらの環境設定をドキュメントごとに個別に適用することもできます。この機能は、フォーマットする必要がある古い HTML または CSS ドキュメントがある場合に便利です。

注意：CSS コードフォーマットの環境設定は、外部スタイルシートおよび埋め込まれたスタイルシートのみに適用され、インラインスタイルには適用されません。

関連項目

295 ページの「コードフォーマットの変更」

CSS コードフォーマットの環境設定

1 [編集]-[環境設定] を選択します。

2 [環境設定] ダイアログボックスで、[コードフォーマット] カテゴリを選択します。

3 [高度なフォーマット] の横にある [CSS] ボタンをクリックします。

4 [CSS ソースフォーマットオプション] ダイアログボックスで、CSS ソースコードに適用するオプションを選択します。選択したオプションに基づいた CSS の外観のプレビューが、下のプレビューウィンドウに表示されます。

プロパティをインデント ルール内のプロパティのインデント値を設定します。タブまたはスペースを指定できます。

行ごとにプロパティ ルール内の各プロパティを別個の行に記述します。

行ごとに開始波カッコ ルールの開始波カッコをセレクタとは別の行に記述します。

複数のプロパティのみ 単一プロパティのルールをセレクタと同じ行に記述します。

同じ行のルールのすべてのセレクタ ルールのすべてのセレクタを同じ行に記述します。

ルール間に空白行 各ルール間に空白行を挿入します。

5 [OK] をクリックします。

注意：CSS コードフォーマットは、[環境設定] ダイアログボックスの [コードフォーマット] カテゴリで設定した [改行タイプ] 環境設定も継承します。

CSS スタイルシートでの CSS コードの手動によるフォーマット

1 CSS スタイルシートを開きます。

2 [コマンド]-[ソースフォーマットの適用] を選択します。

CSS コードフォーマットの環境設定で設定したフォーマットオプションが、ドキュメント全体に適用されます。個別に範囲を選択してフォーマットすることはできません。

埋め込み CSS コードの手動によるフォーマット

1 ドキュメントのヘッドに埋め込まれた CSS を含んでいる HTML ページを開きます。

2 CSS コードの任意の部分を選択します。

3 [コマンド]-[ソースフォーマットを選択範囲に適用] を選択します。

CSS コードフォーマットの環境設定で設定したフォーマットオプションが、ドキュメントのヘッド内のすべての CSS ルールのみに適用されます。

注意：各自で指定したコードフォーマットの環境設定に従ってドキュメント全体をフォーマットする場合は、[コマンド]-[ソースフォーマットの適用] を選択します。

ブラウザ間の CSS レンダリングの問題の確認

ブラウザ互換性チェック (BCC) 機能は、一部のブラウザで問題が生じる HTML と CSS の組み合わせを見つける際に役立ちます。開いているファイルで BCC を実行すると、Dreamweaver によってファイルがスキャンされ、発生の可能性がある CSS レンダリングの問題が [結果] パネルに報告されます。バグの発生する可能性が、4 分の 1、2 分の 1、4 分の 3、

または完全に塗りつぶされた円で示されます (4 分の 1 が塗りつぶされた円は発生の可能性があることを表し、完全に塗りつぶされた円は発生の可能性がかなり高いことを表します)。Dreamweaver によって、検出された潜在的なバグごとに Adobe CSS Advisor 上のバグに関する文書への直接リンクが提供されます。Adobe CSS Advisor の Web サイトでは、一般に知られているブラウザレンダリングバグが詳しく説明され、それらを修正するための解決策が提示されています。

初期設定では、BCC 機能によって次のブラウザがチェックされます。Firefox 1.5、Internet Explorer (Windows) 6.0 および 7.0、Internet Explorer (Macintosh) 5.2、Netscape Navigator 8.0、Opera 8.0 および 9.0、Safari 2.0。

この機能は、以前のターゲットブラウザチェック機能に取って代わるものですが、以前の機能の CSS に関する機能性を維持しています。つまり、新しい BCC 機能でも、ドキュメント内のコードがテストされて、対象のブラウザでサポートされていない CSS のプロパティや値があるかどうかが確認されます。

潜在的なブラウザサポートの問題には、次の 3 つのレベルがあります。

- エラーは、ページの一部分が表示されなくなるなど、特定のブラウザで目に見える大きな問題を起こす可能性がある CSS コードを示します。エラーは、ブラウザサポートの問題に対して既定で表示されるため、場合によっては影響が不明であるコードもエラーとしてマークされます。
- 警告は、表示上の大きな問題が発生することはないものの、特定のブラウザでサポートされない CSS コードを示します。
- 情報メッセージに、特定のブラウザではサポートされないものの表示上は影響がないコードが示されます。

ブラウザ互換性チェックによってドキュメントが変更されることはありません。

を参照してください。

関連項目

313 ページの「タグの検証」

ブラウザ互換性チェックの実行

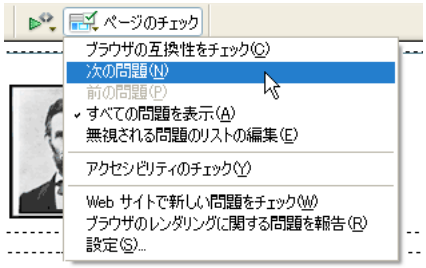
❖ [ファイル]-[ページのチェック]-[ブラウザ互換性] を選択します。

検出された問題によって影響を受けるエレメントを選択します。

❖ [結果] パネルで当該問題をダブルクリックします。

コード内の次のエラーまたは前のエラーへのジャンプ

❖ ドキュメントツールバーの [ブラウザ互換性チェック] メニューで、[次の問題] または [前の問題] を選択します。



チェック対象となる Dreamweaver 用のブラウザの選択

1 [結果] パネル ([ウィンドウ]-[結果]) で、[ブラウザ互換性チェック] タブを選択します。

2 [結果] パネルの左上隅で緑の矢印をクリックし、[設定] を選択します。

3 チェックする各ブラウザの横にあるチェックボックスをオンにします。

4 選択したブラウザごとに、対応するポップアップメニューでチェックする最低バージョンを選択します。

たとえば、CSS レンダリングバグが Internet Explorer 5.0 以降および Netscape Navigator 7.0 以降で出現する可能性を確認するには、これらのブラウザ名の横のチェックボックスをオンにし、Internet Explorer のポップアップメニューで [5.0] を、Netscape のポップアップメニューで [7.0] を選択します。

ブラウザ互換性チェックからの問題の除外

1 ブラウザ互換性チェックを実行します。

2 [結果] パネルで、今後のチェックの対象から外す問題を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) します。

3 コンテキストメニューで [問題を無視] を選択します。

無視される問題のリストの編集

1 [結果] パネル ([ウィンドウ]-[結果]) で、[ブラウザ互換性チェック] タブを選択します。

2 [結果] パネルの左上隅で緑の矢印をクリックし、[無視される問題のリストの編集] を選択します。

3 "Exceptions.xml" ファイルで、無視される問題のリストから削除する問題を探し、それを削除します。

4 "Exceptions.xml" ファイルを保存して閉じます。

ブラウザ互換性チェックのレポートの保存

1 ブラウザ互換性チェックを実行します。

2 [結果] パネルの左側で [レポートの保存] ボタンをクリックします。

[結果] パネルのボタン上にマウスポインタを置くと、ボタンのツールヒントが表示されます。

注意：レポートは自動保存されません。レポートのコピーを残しておく場合は、上記の手順に従ってレポートを保存する必要があります。

ブラウザ互換性チェックのレポートのブラウザによる表示

1 ブラウザ互換性チェックを実行します。

2 [結果] パネルの左側で [レポートの参照] ボタンをクリックします。

[結果] パネルのボタン上にマウスポインタを置くと、ボタンのツールヒントが表示されます。

Adobe CSS Advisor の Web サイトを開きます。

1 [結果] パネル ([ウィンドウ]-[結果]) で、[ブラウザ互換性チェック] タブを選択します。

2 パネルの右下にあるリンクテキストをクリックします。

デザインタイムスタイルシートの使用

デザインタイムスタイルシートを使用すると、Dreamweaver のドキュメントを編集しているときに、CSS スタイルシートによって適用されているデザインの表示と非表示を切り替えることができます。たとえば、このオプションを使用して、ページをデザインするときに Macintosh 固有または Windows 固有のスタイルシートの効果を追加または除外できます。

デザインタイムスタイルシートは、ドキュメントで作業している間のみ適用されます。ページがブラウザウィンドウに表示されるときは、ドキュメントに実際に添付されているスタイルまたは埋め込まれているスタイルのみがブラウザに表示されます。

注意：スタイルレンダリングツールバーを使用して、ページ全体のスタイルのオン / オフを切り替えることもできます。スタイルレンダリングツールバーを表示するには、[表示]-[ツールバー]-[スタイルレンダリング] を選択します。[CSS スタイル表示の切り替え] ボタン (一番右のボタン) は、ツールバーの他のメディアボタンとは独立して動作します。

デザインタイムスタイルシートを使用するには、以下の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を実行して [デザインタイムスタイルシート] ダイアログボックスを開きます。

- [CSS スタイル] パネル内を右クリックして、コンテキストメニューから [デザインタイム] を選択します。
- [テキスト]-[CSS スタイル]-[デザインタイム] を選択します。

2 ダイアログボックスで、選択したスタイルシートの表示と非表示を切り替えるオプションを設定します。

- デザイン時に CSS スタイルシートを表示するには、[デザイン中のみ表示] の上にある [+] ボタンをクリックし、[ファイルの選択] ダイアログボックスで、表示する CSS スタイルシートを参照します。
- デザイン時に CSS スタイルシートを非表示にするには、[デザイン中は非表示] の上にある [+] ボタンをクリックし、[ファイルの選択] ダイアログボックスで CSS スタイルシートを参照します。
- リストからスタイルシートを削除するには、削除するスタイルシートをクリックして、[-] ボタンをクリックします。

3 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

[CSS スタイル] パネルが更新され、選択したスタイルシートの名前と共にスタイルシートの状態を表す " 非表示 " または " デザイン " という文字列が表示されます。

関連項目

19 ページの「スタイルレンダリングツールバーの概要」

Dreamweaver サンプルスタイルシートの使用

Dreamweaver にはサンプルスタイルシートが用意されています。これらのシートはそのままページに適用できる他、これらを基にして独自のスタイルを開発することもできます。

1 次のいずれかの操作を行って、[CSS スタイル] パネルを開きます。

- [ウィンドウ]-[CSS スタイル] を選択します。
- Shift + F11 キーを押します。

2 [CSS スタイル] パネルで、[スタイルシートを添付] ボタンをクリックします (ボタンは、パネルの右下隅にあります)。

3 [外部スタイルシートのリンク] ダイアログボックスで [サンプルスタイルシート] をクリックします。

4 [サンプルスタイルシート] ダイアログボックスで、リストボックスからスタイルシートを選択します。

リストボックスでスタイルシートを選択すると、[プレビュー] ペインに、選択したスタイルシートのテキストとカラーのフォーマットが表示されます。

5 [プレビュー] ボタンをクリックして、スタイルシートを適用し、現在のページに目的のスタイルが適用されたことを確認します。

スタイルを適用した結果が予想と異なる場合はリストから別のスタイルシートを選択し、[プレビュー] をクリックしてそのスタイルを確認します。

6 Dreamweaver の初期設定では、ページに定義したサイトのルート直下にある "CSS" フォルダにスタイルシートが保存されます。フォルダが存在しない場合は、Dreamweaver によって自動的に作成されます。[参照] をクリックして別のフォルダに移動することで、ファイルの保存場所を変更できます。

7 スタイルシートのフォーマットルールがデザイン条件を満たしていることを確認した後、[OK] をクリックします。

Contribute サイトでの CSS スタイルシートの更新

Adobe Contribute ユーザーは、CSS スタイルシートを変更できません。Contribute サイト用のスタイルシートを変更するには、Dreamweaver を使用します。

1 Dreamweaver のスタイルシート編集ツールを使用してスタイルシートを編集します。

2 サイト上で作業している Contribute ユーザー全員に、そのスタイルシートを使用しているページをパブリッシュし、それらのページを再度編集して新しいスタイルシートを表示するように指示します。

Contribute サイトのスタイルシートを更新する際には、以下の点に注意してください。

- スタイルシートを変更する際に、Contribute ユーザーがそのスタイルシートを使用しているページを編集中の場合、スタイルシートに加えた変更は、そのページをパブリッシュするまでユーザーに表示されません。
- スタイルシートからスタイルを削除しても、そのスタイルシートを使用しているページにあるスタイル名は削除されません。しかし、そのスタイルは既に存在しないため、そのページは Contribute ユーザーが意図したとおりには表示されません。したがって、特定のスタイルを適用しても、そのスタイルが反映されないとユーザーから報告があった場合は、そのスタイルがスタイルシートから削除されていることが原因の可能性があります。

CSS を使用したページのレイアウト

CSS ページのレイアウトについて

CSS ページのレイアウトでは、従来の HTML のテーブルやフレームではなくカスケーディングスタイルシートフォーマットを使用して、Web ページ上のコンテンツが整理されます。CSS レイアウトの基本的な作成ブロックは Div タグです。Div タグは、テキストやイメージなどのページエレメントのコンテナとして機能することの多い HTML タグです。CSS レイアウトを作成する場合は、ページ上に Div タグを置き、それらのタグにコンテンツを追加し、さらにそれらをさまざまな場所に配置します。テーブルの行と列内にのみ存在するテーブルセルとは異なり、Div タグは Web ページ上のあらゆる場所に配置できます。Div タグは、絶対的に配置するか (x 座標と y 座標を指定)、相対的に配置 (他のページエレメントからの距離を指定) できます。

CSS レイアウトを一から作成するのは、多数の方法があることから困難になりかねません。単純な 2 列の CSS レイアウトを作成する場合でも、フロート、マージン、余白などの CSS プロパティをほぼ無限に組み合わせて設定できます。また、異種ブラウザ間のレンダリングの問題があるために、一部の CSS レイアウトがブラウザによって正しく表示されたり表示されなかったりします。Dreamweaver では、CSS レイアウトを使用するページを簡単に作成できるように、異なるブラウザ間で正しく動作する、事前にデザインされたレイアウトを 30 種類以上提供しています。

CSS レイアウトを使用するページを作成するには、Dreamweaver 付属の事前にデザインされた CSS レイアウトを使用する方法が最も簡単ですが、Dreamweaver の絶対位置のエレメント (AP エレメント) を使用して CSS レイアウトを作成することもできます。Dreamweaver の AP エレメントは、HTML ページエレメントです。具体的には、div タグまたは絶対位置が割り当てられた他のタグです。ただし、Dreamweaver の AP エレメントには、絶対的な位置が指定されることから、ブラウザウィンドウのサイズに応じてページ上の位置を調整できないという制限があります。

上級ユーザーであれば、div タグを手動で挿入し、それらのタグに CSS の位置スタイルを適用してページレイアウトを作成することもできます。

CSS ページレイアウトの作成に関するチュートリアルは、www.adobe.com/go/vid0155_jp を参照してください。

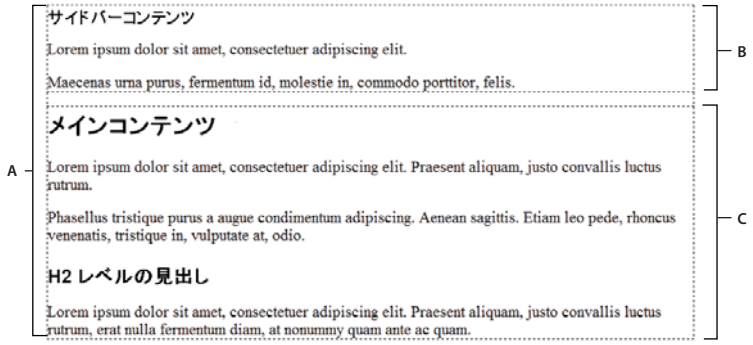
関連項目

155 ページの「Div タグの操作」

CSS ページのレイアウト構造について

この項に進む前に、CSS の基本的な概念を理解しておく必要があります。

CSS レイアウトの基本的な作成ブロックは Div タグです。Div タグは、テキストやイメージなどのページエレメントのコンテナとして機能することの多い HTML タグです。次の例では、3 つの異なる Div タグを含んだ HTML ページを示します。1 つは大きな " コンテナ " タグで、残りの 2 つはコンテナタグに含まれているサイドバータグとメインコンテンツタグです。



A. コンテナ Div **B.** サイドバー Div **C.** メインコンテンツ Div

次に示すのは、HTML 内の 3 つの Div タグをすべて含んだコードです。

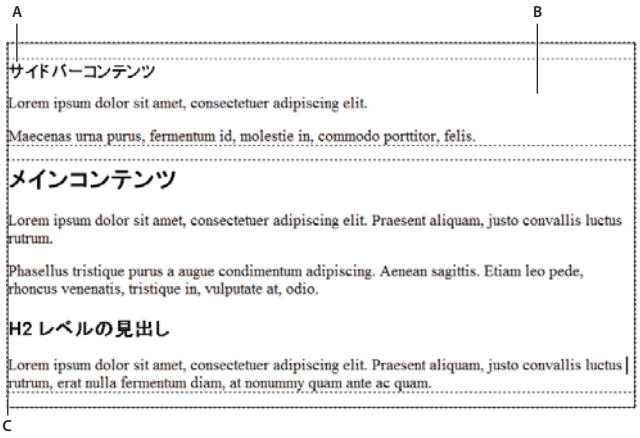
```
<!--container div tag-->
<div id="container">
<!--sidebar div tag-->
    <div id="sidebar">
    <h3>Sidebar Content</h3>
    <p>Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit.</p>
    <p>Maecenas urna purus, fermentum id, molestie in, commodo  porttitor, felis.</p>
    </div>

<!--mainContent div tag-->
    <div id="mainContent">
    <h1> Main Content </h1>
   <p>Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit. Praesent aliquam,  justo convallis luctus rutrum.</p>
   <p>Phasellus tristique purus a augue condimentum adipiscing. Aenean  sagittis. Etiam leo pede, rhoncus venenatis, tristique in, vulputate at, odio.</p>
    <h2>H2 level heading </h2>
   <p>Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit. Praesent aliquam,  justo convallis luctus rutrum, erat nulla fermentum diam, at nonummy quam  ante ac quam.</p>
    </div>
</div>
```

上の例では、どの Div タグにも " スタイル " が関連付けられていません。CSS ルールが定義されていない状態では、各 Div タグとそのコンテンツがページ上の初期設定の位置に配置されます。ただし、各 Div タグには固有の ID が割り当てられており (上の例を参照)、この ID を使用して CSS ルールを作成し、これを適用することで、Div タグのスタイルと配置を変更できます。

次に示す CSS ルールは、ドキュメントのヘッドか外部 CSS ファイルに保存されており、ページ上の最初の (コンテナ) Div タグ用のスタイルルールを作成します。

```
#container {
    width: 780px;
    background: #FFFFFF;
    margin: 0 auto;
    border: 1px solid #000000;
    text-align: left;
}
```

この #container ルールでは、コンテナ Div タグのスタイルとして、780 ピクセルの幅、白い背景、余白なし (ページの左側)、1 ピクセルの黒い実線の境界線、および左揃えのテキストを設定しています。このルールがコンテナ Div タグに適用されたときの結果は次のとおりです。

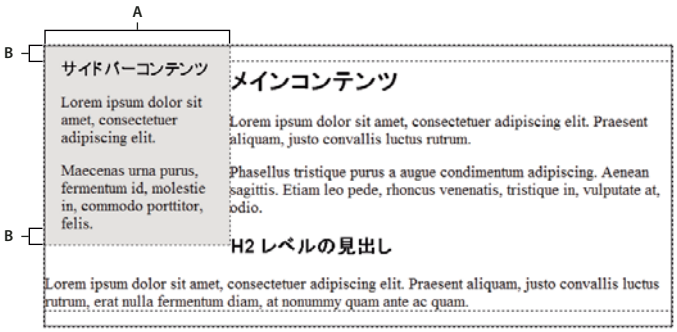


コンテナ Div タグ、780 ピクセル、余白なし
A. 左揃えのテキスト **B.** 白い背景 **C.** 1 ピクセルの黒い実線の境界線

次の CSS ルールは、サイドバー Div タグ用のスタイルルールを作成します。

```
#sidebar {
    float: left;
    width: 200px;
    background: #EBEBEB;
    padding: 15px 10px 15px 20px;
}
```

この #sidebar ルールでは、サイドバー Div タグのスタイルとして、200 ピクセルの幅、グレーの背景、15 ピクセルの上余白と下余白、10 ピクセルの右余白、および 20 ピクセルの左余白を設定しています。さらにこのルールでは、"float: left" でサイドバー Div タグの位置を設定しています。これは、サイドバー Div タグをコンテナ Div タグの左側に配置するプロパティです。このルールがサイドバー Div タグに適用されたときの結果は次のとおりです。

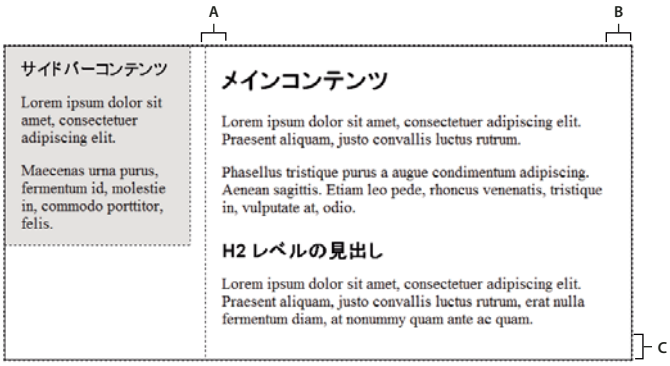


サイドバー Div、左フロート
A. 200 ピクセルの幅 **B.** 上余白と下余白、15 ピクセル

最後に、メインコンテンツ Div タグ用の CSS ルールでレイアウトが完成します。

```
#mainContent {
    margin: 0 0 0 250px;
    padding: 0 20px 20px 20px;
}
```

この #mainContent ルールでは、メインコンテンツ Div タグのスタイルとして、250 ピクセルの左マージンを設定しています。これは、コンテナ Div の左側とメインコンテンツ Div の左側の間に 250 ピクセルのスペースを空けることを意味します。さらにこのルールでは、メインコンテンツ Div の右側、下側、左側それぞれに 20 ピクセルの空間を空けるよう設定しています。このルールがメインコンテンツ Div に適用されたときの結果は次のとおりです。



メインコンテンツ Div、250 ピクセルの左マージン
A. 20 ピクセルの左余白 **B.** 20 ピクセルの右余白 **C.** 20 ピクセルの下余白

コード全体を次に示します。

```
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=iso-8859-1" />
<title>Untitled Document</title>
<style type="text/css">
#container {
    width: 780px;
    background: #FFFFFF;
    margin: 0 auto;
    border: 1px solid #000000;
    text-align: left;
}
#sidebar {
    float: left;
    width: 200px;
    background: #EBEBEB;
    padding: 15px 10px 15px 20px;
}
#mainContent {
    margin: 0 0 0 250px;
    padding: 0 20px 20px 20px;
}
</style>
</head>
<body>
<!--container div tag-->
<div id="container">
    <!--sidebar div tag-->
    <div id="sidebar">
    <h3>Sidebar Content</h3>
    <p>Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit.</p>
    <p>Maecenas urna purus, fermentum id, molestie in, commodo  porttitor, felis.</p>
    </div>
    <!--mainContent div tag-->
    <div id="mainContent">
    <h1> Main Content </h1>
   <p>Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit. Praesent aliquam,  justo convallis luctus
rutrum.</p>
   <p>Phasellus tristique purus a augue condimentum adipiscing. Aenean  sagittis. Etiam leo pede, rhoncus
venenatis, tristique in, vulputate at, odio.</p>
    <h2>H2 level heading </h2>
   <p>Lorem ipsum dolor sit amet, consectetuer adipiscing elit. Praesent aliquam,  justo convallis luctus
rutrum, erat nulla fermentum diam, at nonummy quam  ante ac quam.</p>
    </div>
</div>
</body>
```

注意：上の例のコードは、Dreamweaver 付属の事前にデザインされたレイアウトを使用して新しいドキュメントを作成するときに、2 列を固定に、左にサイドバーレイアウトを作成するコードを簡略化したものです。

関連項目

116 ページの「カスケーディングスタイルシートについて」

CSS レイアウトを使用したページの作成

Dreamweaver で新しいページを作成するときに、CSS レイアウトをあらかじめ含んでいるページを作成することができます。Dreamweaver では、30 種類以上の CSS レイアウトを選択できるようになっています。また、CSS レイアウトを独自に作成して設定フォルダに追加すると、[新規ドキュメント] ダイアログボックスにレイアウトの選択肢としてそれらが表示されるようになります。

Dreamweaver の CSS レイアウトが正しく表示されるブラウザは、Firefox (Windows と Macintosh) 1.0、1.5、2.0、Internet Explorer (Windows) 5.5、6.0、7.0、Opera (Windows と Macintosh) 8.0、9.0、および Safari 2.0 です。

関連項目

66 ページの「空白ページの作成」

70 ページの「初期設定のドキュメントタイプおよびエンコーディングの設定」

133 ページの「外部 CSS スタイルシートへのリンク」

CSS レイアウトを使用したページの作成

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[空白ページ] カテゴリを選択します (初期設定ではこれが選択されます)。

3 [Page Type] で、作成するページの種類を選択します。

注意：レイアウトには HTML ページタイプを選択する必要があります。たとえば、HTML、ColdFusion®、JSP などを選択できます。ActionScript™、CSS、ライブラリ項目、JavaScript、XML、XSLT、ColdFusion コンポーネントの各ページには、CSS レイアウトを使用できません。[新規ドキュメント] ダイアログボックスの [その他] カテゴリのページタイプにも、CSS ページレイアウトを含めることはできません。

4 [レイアウト] で、使用する CSS レイアウトを選択します。30 種類以上のレイアウトから選択できます。プレビューウィンドウにレイアウトが表示され、選択したレイアウトの簡単な説明が示されます。

事前にデザインされた CSS レイアウトでは、次のタイプの列が提供されています。

固定 列幅がピクセル単位で指定されます。この列のサイズは、ブラウザのサイズやサイトビジターのテキスト設定に基づいて変更されません。

伸縮自在 列幅が、テキストのサイズに対する相対的な単位 (ems) で指定されます。サイトビジターがテキスト設定を変更すると、それに合わせてデザインが調整されますが、ブラウザウィンドウのサイズに基づいてデザインが変更されることはありません。

リキッド 列幅が、サイトビジターのブラウザの幅に対する割合として指定されます。サイトビジターがブラウザの幅を変更すると、それに合わせてデザインが調整されますが、サイトビジターのテキスト設定に基づいてデザインが変更されることはありません。

ハイブリッド 上記の 3 つのオプションを任意に組み合わせた列です。たとえば、2 列をハイブリッドに、右にサイドバーレイアウトは、ブラウザのサイズに合わせて拡大縮小されるメインの列と、サイトビジターのテキスト設定のサイズに合わせて拡大縮小される右側の伸縮自在の列で構成されます。

5 [DocType] ポップアップメニューでドキュメントタイプを選択します。

6 [レイアウト CSS] ポップアップメニューで、レイアウトの CSS の場所を選択します。

ヘッドに追加 レイアウトの CSS を、作成中のページのヘッドに追加します。

新規ファイルを作成 レイアウトの CSS を新しい外部 CSS スタイルシートに追加し、この新しいスタイルシートを作成中のページに添付します。

既存ファイルへリンク レイアウトに必要な CSS ルールをあらかじめ含んでいる既存の CSS ファイルを指定できます。このオプションは、複数のドキュメントで同じ CSS レイアウト (CSS ルールが単一のファイルに収められているレイアウト) を使用する場合に特に便利です。

7 次のいずれかの操作を実行します。

- [レイアウト CSS] ポップアップメニューで [ヘッドに追加] (初期設定オプション) を選択した場合は、[作成] をクリックします。
- [レイアウト CSS] ポップアップメニューで [新規ファイルを作成] を選択した場合は、[作成] をクリックし、[スタイルシートファイルの新規保存] ダイアログボックスで新しい外部ファイルの名前を指定します。
- [レイアウト CSS] ポップアップメニューで [既存ファイルへリンク] を選択した場合は、[Add Style Sheet] アイコンをクリックして [CSS ファイルを添付] テキストボックスに外部ファイルを追加することで [スタイルシートファイルの新規保存] ダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。作業が完了したら、[新規ドキュメント] ダイアログボックスで [作成] をクリックします。

注意： [既存ファイルへリンク] オプションを選択する場合は、指定するファイルに CSS ファイルに対するルールがあらかじめ含まれている必要があります。

レイアウト CSS を新しいファイルに挿入するか、外部ファイルにリンクすると、Dreamweaver によって自動的にそのファイルが作成中の HTML ページにリンクされます。

注意： Internet Explorer の表示上の問題に対処するための IE 条件分岐コメント (CC) は、レイアウト CSS の場所として新規外部ファイルまたは既存の外部ファイルを選択した場合でも、新しい CSS レイアウトドキュメントのヘッドに埋め込まれたままとなります。

8 (オプション) CSS レイアウトとは無関係の新しいページを作成する際に、そのページに CSS スタイルシートを添付することもできます。そのためには、[CSS ファイルを添付] ペインの上にある [スタイルシートを添付] アイコンをクリックし、CSS スタイルシートを選択します。

カスタム CSS レイアウトの選択リストへの追加

1 [新規ドキュメント] ダイアログボックスの選択リストに追加したい CSS レイアウトを含んでいる HTML ページを作成します。レイアウトの CSS は、HTML ページのヘッドに含まれていなければなりません。

カスタム CSS レイアウトを Dreamweaver 付属の他のレイアウトと一貫させるには、.htm 拡張子を指定して HTML ファイルを保存する必要があります。

2 HTML ページを "Adobe Dreamweaver CS3\Configuration\BuiltIn\Layouts" フォルダに追加します。

3 (オプション) レイアウトのプレビューイメージ (たとえば .gif ファイルや .png ファイル) を "Adobe Dreamweaver CS3\Configuration\BuiltIn\Layouts" フォルダに追加します。Dreamweaver 付属の初期設定イメージは、幅が 227 ピクセル、高さが 193 ピクセルの PNG ファイルです。

プレビューイメージファイルには、容易に追跡できるように、HTML ファイルと同じ名前を付けてください。たとえば、HTML ファイルの名前が myCustomLayout.htm である場合は、プレビューイメージファイルの名前を image myCustomLayout.png にします。

4 (オプション) カスタムレイアウト用のノートファイルを作成します。このためには、"Adobe Dreamweaver CS3\Configuration\BuiltIn\Layouts_notes" フォルダを開き、同じフォルダ内にあるいずれかの既存ノートファイルをコピーしてペーストし、そのコピーファイルの名前をカスタムレイアウトに合わせて変更します。たとえば、oneColElsCtr.htm.mno ファイルをコピーし、そのファイル名を myCustomLayout.htm.mno にすることができます。

5 (オプション) カスタムレイアウト用のノートファイルを作成したら、このファイルを開いて、レイアウト名、説明、およびプレビューイメージを指定できます。

Dreamweaver での AP エレメントについて

AP エレメント (絶対位置のエレメント) は、HTML ページエレメントです。具体的には、div タグまたは絶対位置が割り当てられた他のタグです。AP エレメントには、テキストやイメージ、または HTML ドキュメントのボディに配置可能なその他のコンテンツを組み込むことができます。

Dreamweaver では、AP エレメントを使用してページをレイアウトできます。AP エレメントを別の AP エレメントの前や後に配置したり、一部の AP エレメントだけを非表示にしたり、AP エレメントを画面上で移動させることができます。また、AP エレメントに背景イメージを置き、その前面に、背景が透明のテキストを含む 2 つ目の AP エレメントを置くことができます。

AP エレメントは、通常絶対位置の Div タグです。これらは、Dreamweaver が初期設定で挿入する AP エレメントです。ただし、HTML エレメント (たとえば、イメージ) に絶対位置を割り当てることによって、AP エレメントとして分類できることに注意してください。すべての AP エレメント (絶対位置の Div タグだけではなく) は、[AP エレメント] パネルに表示されます。

絶対位置の Div エレメントの HTML コード

Dreamweaver では、div タグの使用により、AP エレメントが作成されます。Draw AP Div ツールを使用して AP エレメントを描画する場合、Dreamweaver では、div タグがドキュメントに挿入され、Div タグに ID 値が割り当てられます。初期設定では、描画する最初の Div には apDiv1、2 番目の Div には apDiv2 というように ID 値が割り当てられます。絶対位置の Div の名前は、後から [AP エレメント] パネルまたはプロパティインスペクタを使って変更することができます。Dreamweaver では、絶対位置の Div を配置し、絶対位置の Div にその正確なサイズを割り当てるために、埋め込まれた CSS がドキュメントの先頭に使用されます。

以下に、絶対位置の Div に対応する HTML コードのサンプルを示します。

```
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=iso-8859-1" />
<title>Sample AP Div Page</title>
<style type="text/css">
<!--
    #apDiv1 {
        position:absolute;
        left:62px;
        top:67px;
        width:421px;
        height:188px;
        z-index:1;
    }
-->
</style>
</head>
<body>
    <div id="apDiv1">
    </div>
</body>
</html>
```

ページ上での絶対位置の Div (または、任意の AP エレメント) のプロパティ、たとえば x 座標と y 座標、z インデックス (重ね順ともいいます)、表示 / 非表示などを設定することができます。

絶対位置の Div の挿入

Dreamweaver を使用すると、ページ上で絶対位置の Div を簡単に作成し、配置することができます。ネストした絶対位置の Div を作成することもできます。

絶対位置の Div を挿入すると、Dreamweaver により、初期設定では絶対位置の Div のアウトラインが表示され、ポインタをブロックの上に移動するとそのブロックがハイライト表示されます。[表示]-[ビジュアルエイド] メニューで [AP エレメントのアウトライン] と [CSS レイアウトのアウトライン] の両方を無効にすれば、絶対位置の Div (または、任意の AP エレメント) のアウトラインを表示するビジュアルエイドを無効にすることができます。デザイン時のビジュアルエイドとして、AP エレメントの背景およびボックスモデルを有効にすることができます。

絶対位置の Div を作成した後にコンテンツを絶対位置の Div に追加するには、挿入ポイントを絶対位置の Div 内に配置し、コンテンツをページに追加するときと同じ要領でコンテンツを追加します。

関連項目

151 ページの「AP エレメントの選択」

157 ページの「Div タグのハイライトカラーの変更」

157 ページの「CSS レイアウトブロックの視覚化」

1 つの絶対位置の Div または複数の絶対位置の Div の連続的な描画

1 [挿入] バーの [レイアウト] カテゴリで、[絶対位置の Div 描画] ボタン をクリックします。

2 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、以下のいずれかの操作を行います。

- ドラッグして 1 つの絶対位置の Div を描きます。
- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらドラッグして、複数の絶対位置の Div を連続して描きます。

Ctrl キーまたは Command キーを押している間は、新しい絶対位置の Div を続けて描くことができます。

絶対位置の Div のドキュメント内の特定の場所への挿入

❖ 挿入ポイントをドキュメントウィンドウに配置し、[挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[絶対位置の Div] を選択します。

注意：この手順により、ドキュメントウィンドウでクリックした任意の位置に絶対位置の Div のタグが配置されます。このため、絶対位置の Div の視覚的なレンダリングは、その周囲にある他のページエレメント (テキストなど) に影響を与える可能性があります。

絶対位置の Div への挿入ポイントの配置

❖ 絶対位置の Div のボーダーより内側の任意の場所をクリックします。

絶対位置の Div のボーダーがハイライト表示され、選択ハンドルが表示されますが、絶対位置の Div 自体は選択されません。

絶対位置の Div のボーダーの表示

❖ [表示]-[ビジュアルエイド] を選択し、[絶対位置の Div アウトライン] または [CSS レイアウトのアウトライン] を選択します。

注意：両方のオプションを同時に選択しても、同じ結果になります。

絶対位置の Div のボーダーの非表示

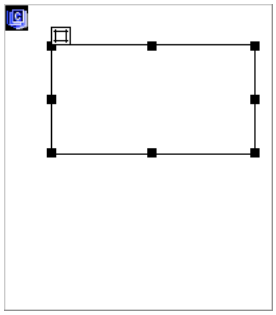
❖ [表示]-[ビジュアルエイド] を選択し、[絶対位置の Div アウトライン] および [CSS レイアウトのアウトライン] の選択を解除します。

ネストされた絶対位置の Div の操作

ネストされた絶対位置の Div とは、コードが別の絶対位置の Div 内に含まれている絶対位置の Div のことです。たとえば次のコードは、ネストされていない 2 つの絶対位置の Div とネストされた 2 つの絶対位置の Div を示しています。

```
<div id="apDiv1"></div>
<div id="apDiv2"></div>
<div id="apDiv3">
    <div id="apDiv4"></div>
</div>
```

絶対位置の Div の両方のセットのグラフィック描画は、次のように見えます。



Div タグの最初のセットでは、1 つの Div がページの一方の上部に配置されています。Div タグの 2 番目のセットでは、apDiv4 Div は実際に apDiv3 Div の内部に配置されています ([AP エレメント] パネルを使用して、絶対位置の Div の重ね順を変更できます)。

ネストは、絶対位置の Div のグループ化に使用できます。ネストされた絶対位置の Div は親の絶対位置の Div と共に移動し、親の絶対位置の Div の表示 / 非表示を継承するように設定できます。

[ネスト] オプションを有効にすると、別の絶対位置の Div 内から絶対位置の Div を描画したときに自動的にネストされるようになります。別の絶対位置の Div の内部または上に描画するには、[オーバーラップ防止] オプションをオフにする必要があります。

ネストされた絶対位置の Div の描画

1 [AP エレメント] パネル ([ウィンドウ]-[AP エレメント]) で、[オーバーラップ防止] の選択が解除されていることを確認します。

2 [挿入] バーの [レイアウト] カテゴリで、[絶対位置の Div 描画] ボタン をクリックします。

3 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、既存の絶対位置の Div 内をドラッグして絶対位置の Div を描画します。

[AP エレメント] 環境設定で [ネスト] が無効になっている場合は、Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら、絶対位置の Div 内で絶対位置の Div をネストします。

ネストした絶対位置の Div がどのように表示されるかは、ブラウザによって異なります。ネストした絶対位置の Div を作成する場合は、デザイン時にさまざまなブラウザを使用して絶対位置の Div の表示を頻繁に確認するようにしてください。

ネストされた絶対位置の Div の挿入

1 [オーバーラップ防止] オプションがオフになっていることを確認します。

2 挿入ポイントをドキュメントウィンドウのデザインビューの既存の絶対位置の Div 内に配置し、[挿入]-[絶対位置の Div] を選択します。

[AP エレメント] パネルを使用して別の AP エレメント内に既存の AP エレメントをネストする

1 [ウィンドウ]-[AP エレメント] を選択し、[AP エレメント] パネルを開きます。

2 [AP エレメント] パネルで AP エレメントを選択し、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、AP エレメントを [AP エレメント] パネルのターゲット AP エレメントにドラッグします。

3 ターゲット AP エレメントの名前がハイライト表示されたら、マウスボタンを離します。

別の絶対位置の Div に絶対位置の Div を描画して、絶対位置の Div を自動的にネストする

❖ [AP エレメント] 環境設定の [ネスト] オプションを選択します。

[AP エレメント] 環境設定の表示または設定

[環境設定] ダイアログボックスの [AP エレメント] カテゴリを使って、新規作成する AP エレメントの初期設定を定義します。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストで [AP エレメント] を選択し、次の環境設定を指定して [OK] をクリックします。

表示 / 非表示 初期設定で AP エレメントが表示されるかどうかを指定します。オプションには、[標準]、[継承]、[表示]、および [非表示] があります。

幅および高さ [挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[絶対位置の Div] を使用して、AP エレメントの幅と高さの初期設定をピクセル単位で指定します。

背景色 初期設定の背景色を指定します。カラーピッカーからカラーを選択します。

背景イメージ 初期設定の背景イメージを指定します。[参照] をクリックして、コンピュータ上でイメージファイルを検索します。

ネスト :[絶対位置の Div 内に作成する場合はネストする] 既存の絶対位置の Div の境界内のポイントから開始して描画する絶対位置の Div を、ネストされた絶対位置の Div とするかどうかを指定します。Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら絶対位置の Div を描画すると、この設定を一時的に変更することができます。

Netscape 4 との互換性 : [AP エレメントを挿入する際にサイズ修正を追加する] ドキュメントの先頭のコンテンツに JavaScript を挿入して、ブラウザウィンドウのサイズを変更すると AP エレメントの位置情報が失われるという Netscape 4 ブラウザの既知の問題点を解決します。

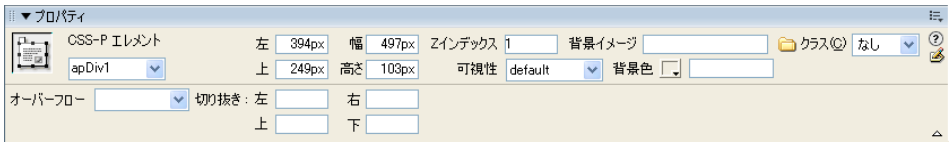
この JavaScript によってウィンドウのサイズ変更のたびに強制的にページが再ロードされるため、AP エレメントに正しい位置が再度割り当てられます。[コマンド]-[Netscape サイズ修正の追加 / 削除] を選択して、JavaScript コードを手動で追加または削除することもできます。

単一の AP エレメントのプロパティの表示または設定

AP エレメントを選択すると、プロパティインスペクタに AP エレメントのプロパティが表示されます。

1 AP エレメントを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の右下隅にある縮小の三角形をクリックして (まだ展開されていない場合)、すべてのプロパティを表示します。



3 次のいずれかのオプションを設定します。

CSS-P エレメント 選択した AP エレメントの ID を指定します。ID は、[AP エレメント] パネルと JavaScript コード内の AP エレメントを識別します。

標準の英数字のみを使用します。スペース、ハイフン、スラッシュ、ピリオドなどの特殊文字は使用しないでください。AP エレメントには、固有の ID を付けてください。

注意 : CSS-P プロパティインスペクタは、相対位置に配置されたエレメントと同じオプションを表示します。

左および上 ページまたは親の AP エレメント (ネストされている場合) の左上隅を基準として、AP エレメントの左上隅の位置を指定します。

幅および高さ AP エレメントの幅と高さを指定します。

注意 : AP エレメントのコンテンツが指定したサイズを超える場合は、コンテンツをすべて表示できるように、AP エレメントの下端 (Dreamweaver のデザインビューに表示されます) が延長されます。[オーバーフロー] プロパティが [表示] に設定されている場合を除き、AP エレメントがブラウザに表示されるときに下端は延長されません。

[初期設定] では、位置とサイズの単位はピクセル (px) です。単位として、pc (パイカ)、pt (ポイント)、in (インチ)、mm (ミリメートル)、cm (センチメートル)、または % (親の AP エレメントに対応する値に対する割合) を指定することもできます。単位は、値の後にスペースを入れず続けて入力します (たとえば、3 ミリメートルの場合は「3mm」と入力します)。

Z インデックス AP エレメントの Z インデックス、または重ね順を指定します。

ブラウザでは、大きい番号の AP エレメントが小さい番号の AP エレメントよりも前に表示されます。プラスとマイナスの両方の値を指定できます。AP エレメントの重ね順を変更する場合は、特定の **z** インデックス値を入力するよりも、[AP エレメント] パネルを使用する方が簡単です。

可視性 AP エレメントが最初に表示されるかどうかを指定します。必要に応じて次のオプションを選択します。

- 初期設定では、表示 / 非表示のプロパティは指定されていません。このプロパティが指定されていない場合、ほとんどのブラウザでは [継承] が初期設定になります。
- [継承] では、AP エレメントの親の表示 / 非表示プロパティが使用されます。
- [表示] では、親の値には関係なく、AP エレメントのコンテンツが表示されます。
- [非表示] では、親の値には関係なく、AP エレメントのコンテンツが非表示になります。

スクリプト言語 (JavaScript など) を使うと、表示 / 非表示プロパティを制御して、AP エレメントのコンテンツを動的に表示できます。

背景イメージ AP エレメントの背景イメージを指定します。

フォルダアイコンをクリックし、イメージファイルを参照して選択します。

背景色 AP エレメントの背景色を指定します。

このオプションを空白のままにしておくと、透明な背景が指定されます。

クラス AP エレメントのスタイルを表すために使用する CSS クラスを指定します。

オーバーフロー AP エレメントの指定されたサイズを超えた場合に、ブラウザで AP エレメントがどのように表示されるかを制御します。

[表示] を指定した場合は、指定のサイズを超えたコンテンツも AP エレメントに表示されます。実際には、コンテンツをすべて表示できるように AP エレメントが延長されます。[非表示] を指定した場合は、AP エレメントのサイズを超えたコンテンツはブラウザに表示されません。[スクロール] を指定した場合は、スクロールバーが必要かどうかには関係なく、ブラウザ上で AP エレメントにスクロールバーが追加されます。[自動] を指定すると、スクロールバーが必要な場合 (つまり、AP エレメントのコンテンツが AP エレメントの境界を越える場合) にのみ、ブラウザ上で AP エレメントのスクロールバーが表示されます。

注意：overflow オプションは、ブラウザによってはサポートされていないことがあります。

切り抜き AP エレメントの表示部分を定義します。

左、上、右、下の各座標を指定して、AP エレメントの座標空間に四角形を定義します (AP エレメントの左上隅を基準とします)。AP エレメントは切り抜かれるため、指定した四角形の部分のみが表示されます。たとえば、AP エレメントの左上隅に指定した幅 50 ピクセル、高さ 75 ピクセルの四角形の部分以外のコンテンツを非表示にするには、L = 0、T = 0、R = 50、B = 75 と設定します。

注意：CSS ではクリップに対して別の意味が指定されていますが、Dreamweaver でのクリップの解釈は、ほとんどのブラウザと同じです。

4 テキストボックスに値を入力したら、Tab キーまたは Enter キー (Windows)、Return キー (Macintosh) を押して値を適用します。

複数の AP エレメントのプロパティの表示または設定

2 つ以上の AP エレメントを選択すると、AP エレメントのプロパティインスペクタにはテキストのプロパティと AP エレメントプロパティの一部が表示されます。これを使用すると、複数の AP エレメントを同時に変更することができます。

複数の AP エレメントの選択

❖ Shift キーを押しながら AP エレメントを選択します。

複数の AP エレメントのプロパティの表示と設定

1 複数の AP エレメントを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の右下隅にある縮小の三角形をクリックして (まだ展開されていない場合)、すべてのプロパティを表示します。

3 複数の AP エレメントに対して、次のプロパティを設定します。

左および上 ページまたは親の AP エレメント (ネストされている場合) の左上隅を基準として、AP エレメントの左上隅の位置を指定します。

幅および高さ AP エレメントの幅と高さを指定します。

注意：AP エレメントのコンテンツが指定したサイズを超える場合は、コンテンツをすべて表示できるように、AP エレメントの下端 (Dreamweaver のデザインビューに表示されます) が延長されます。[オーバーフロー] プロパティが [表示] に設定されている場合を除き、AP エレメントがブラウザに表示されるときに下端は延長されません。

[初期設定] では、位置とサイズの単位はピクセル (px) です。単位として、pc (パイカ)、pt (ポイント)、in (インチ)、mm (ミリメートル)、cm (センチメートル)、または % (親の AP エレメントに対応する値に対する割合) を指定することもできます。単位は、値の後にスペースを入れず続けて入力します (たとえば、3 ミリメートルの場合は「3mm」と入力します)。

可視性 AP エレメントが最初に表示されるかどうかを指定します。必要に応じて次のオプションを選択します。

- 初期設定では、表示 / 非表示のプロパティは指定されていません。このプロパティが指定されていない場合、ほとんどのブラウザでは [継承] が初期設定になります。
- [継承] では、AP エレメントの親の表示 / 非表示プロパティが使用されます。
- [表示] では、親の値には関係なく、AP エレメントのコンテンツが表示されます。
- [非表示] では、親の値には関係なく、AP エレメントのコンテンツが非表示になります。

スクリプト言語 (JavaScript など) を使うと、表示 / 非表示プロパティを制御して、AP エレメントのコンテンツを動的に表示できます。

タグ AP エレメントを定義するのに使用する HTML タグを指定します。

背景イメージ AP エレメントの背景イメージを指定します。

フォルダアイコンをクリックし、イメージファイルを参照して選択します。

背景色 AP エレメントの背景色を指定します。このオプションを空白のままにしておくと、透明な背景が指定されます。

4 テキストボックスに値を入力したら、Tab キーまたは Enter キー (Windows)、Return キー (Macintosh) を押して値を適用します。

[AP エレメント] パネルの概要

[AP エレメント] パネル ([ウィンドウ]-[AP エレメント]) を使用して、ドキュメントの AP エレメントを管理します。[AP エレメント] パネルを使って、オーバーラップの防止、AP エレメントの表示 / 非表示の変更、AP エレメントのネストおよび重ね、AP エレメントの選択ができます。

注意：Dreamweaver の AP エレメントは、HTML ページエレメントです。具体的には、*div* タグまたは絶対位置が割り当てられた他のタグです。[AP エレメント] パネルは、相対位置に配置されたエレメントを表示しません。

AP エレメントは、名前のリストとして **z** インデックスの順に表示されます。初期設定では、最初に作成された AP エレメント (**z** インデックスが 1 となる) がリストの一番下に表示され、最後に作成された AP エレメントが一番上に表示されます。ただし、その場所を重ね順に変更して、AP エレメントの **z** インデックスを変更しても構いません。たとえば、8 個の AP エレメントを作成し、4 番目の AP エレメントを一番上に移動する場合は、この AP エレメントに他の AP エレメントよりも大きい **z** インデックスを割り当てることができます。

AP エレメントの選択

AP エレメントを操作するときや、AP エレメントのプロパティを変更するときは、1 つまたは複数の AP エレメントを選択できます。

[AP エレメント] パネルで AP エレメントを選択します。

❖ [AP エレメント] パネル ([ウィンドウ]-[AP エレメント]) で、AP エレメントの名前をクリックします。

ドキュメントウィンドウで AP エレメントを選択します。

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- AP エレメントの選択ハンドルをクリックします。

選択ハンドルが表示されていない場合は、AP エレメントの内部をクリックするとハンドルが表示されます。

- AP エレメントのボーダーをクリックします。
- AP エレメントの内部を、Ctrl+Shift キーを押しながらクリックするか (Windows)、Command+Shift キーを押しながらクリックします (Macintosh)。
- AP エレメント内をクリックし、Ctrl+A (Windows) または Command+A (Macintosh) を押して、AP エレメントのコンテンツを選択します。再度 Ctrl+A (Windows) または Command+A (Macintosh) を押して AP エレメントを選択します。
- AP エレメント内をクリックして、タグセレクタでタグを選択します。

複数の AP エレメントの選択

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [AP エレメント] パネル ([ウィンドウ]-[AP エレメント]) で、複数の AP エレメントの名前を Shift キーを押しながらクリックします。
- ドキュメントウィンドウで、Shift キーを押しながら、2 つ以上の AP エレメントの内側またはボーダーをクリックします。

AP エレメントの重ね順の変更

AP エレメントの重ね順を変更するには、プロパティインスペクタまたは [AP エレメント] パネルを使用します。[AP エレメント] パネルのリストの先頭に表示される AP エレメントは、重ね順の一番上にあり、ほかの AP エレメントの前に表示されます。

HTML コードでは、AP エレメントの重ね順、つまり **z** インデックスによって、ブラウザでの AP エレメントの描画順序を指定します。AP エレメントの重ね順は、AP エレメントの **z** インデックスを大きくするほど上になります。[AP エレメント] パネルまたはプロパティインスペクタを使用すると、各 AP エレメントの **z** インデックスを変更できます。

[AP エレメント] パネルを使用して、AP エレメントの重ね順を変更します。

1 [ウィンドウ]-[AP エレメント] を選択し、[AP エレメント] パネルを開きます。

2 AP エレメントを希望の重ね順まで上下にドラッグします。

AP エレメントを移動するときに表示される線は、AP エレメントが表示される場所を示します。希望の重ね順の位置に線が表示されていることを確認して、マウスボタンを離します。

プロパティインスペクタを使用した AP エレメントの重ね順の変更

1 [ウィンドウ]-[AP エレメント] を選択して [AP エレメント] パネルを開き、現在の重ね順を確認します。

2 [AP エレメント] パネルまたはドキュメントウィンドウで AP エレメントを選択します。

3 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [Z インデックス] テキストボックスに数値を入力します。

- AP エレメントを重ね順の上に移動するには、それより大きな数字を入力します。
- AP エレメントを重ね順の下に移動するには、それより小さな数字を入力します。

AP エレメントの表示と非表示

ドキュメントを編集しているとき、[AP エレメント] パネルを使用して AP エレメントの表示と非表示を手動で切り替えて、異なる条件でページがどのように表示されるかを確認することができます。

注意：現在選択されている AP エレメントは常に表示されており、選択されている間はほかの AP エレメントの前に表示されます。

AP エレメントの表示 / 非表示の変更

1 [ウィンドウ]-[AP エレメント] を選択し、[AP エレメント] パネルを開きます。

2 AP エレメントの表示と非表示を切り替えるには、その AP エレメントの目のアイコン列をクリックします。

- 開いた目のアイコンは、AP エレメントが表示されていることを示します。
- 閉じた目は非表示であることを示します。
- 目のアイコンが表示されていない場合は、通常、AP エレメントが親から表示 / 非表示の設定を継承していることを表します（AP エレメントがネストされていない場合は、常に表示されるドキュメントボディが親になります)。

また、表示 / 非表示が指定されていない場合も、目のアイコンは表示されません (この場合、プロパティインスペクタでは、可視性はデフォルトと表示されます)。

すべての AP エレメントの表示 / 非表示を一度に変更する

❖ [AP エレメント] パネル ([ウィンドウ]-[AP エレメント]) で、列の一番上の見出しにある目のアイコンをクリックします。

注意：この手順によって、すべての AP エレメントを表示または非表示に設定できますが、継承されることはありません。

AP エレメントのサイズ変更

1 つずつ AP エレメントのサイズを変更することも、複数の AP エレメントの幅と高さをまとめて同じサイズに変更することもできます。

[オーバーラップ防止] オプションがオンの場合は、別の AP エレメントと重なるように AP エレメントのサイズを変更することはできません。

関連項目

167 ページの「レイアウトグリッドの使用」

AP エレメントのサイズ変更

1 デザインビューで、AP エレメントを選択します。

2 AP エレメントのサイズを変更するには、以下のいずれかの操作を行います。

- ドラッグしてサイズを変更するには、AP エレメントのサイズ変更ハンドルのいずれかをドラッグします。
- 一度に 1 ピクセルずつサイズを変更するときは、Ctrl キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら、矢印キーを押します。

矢印キーを押すと、AP エレメントの右と下のボーダーが移動します。この方法で、上と左のボーダーを使ってサイズを変更することはできません。

- 吸着グリッド単位でサイズを変更するときは、Shift+Ctrl キーを押しながら (Windows)、または Shift+Option キーを押しながら (Macintosh)、矢印キーを押します。
- プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、幅 (W) と高さ (H) の値を入力します。

AP エレメントのサイズを変更すると、その幅と高さが変わります。表示される AP エレメントのコンテンツの大きさについては定義されません。AP エレメント内の可視領域は、環境設定で定義することができます。

複数の AP エレメントを一度にサイズ変更する

1 デザインビューで、2 つ以上の AP エレメントを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [修正]-[整列]-[幅の統一] または [修正]-[整列]-[高さの統一] を選択します。

最初に選択した AP エレメントのサイズが、最後に選択した AP エレメントの幅または高さに合わせて変更されます。

- プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [複数の CSS-P エレメント] で、幅と高さの値を入力します。

この値が、選択した AP エレメントすべてに適用されます。

AP エレメントの移動

多くの基本的なグラフィックアプリケーションでオブジェクトを移動する場合とほとんど同じ方法で、デザインビューで AP エレメントを移動することができます。

[オーバーラップ防止] オプションがオンのとき、AP エレメントがほかの AP エレメントと重なるように移動することはできません。

1 デザインビューで、1 つまたは複数の AP エレメントを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- ドラッグして移動するには、最後に選択した AP エレメント (黒でハイライト表示) の選択ハンドルをドラッグします。
- 一度に 1 ピクセルずつ移動するには、矢印キーを使用します。

Shift キーを押しながら矢印キーを押すと、現在の吸着グリッド単位分だけ AP エレメントを移動することができます。

関連項目

167 ページの「レイアウトグリッドの使用」

AP エレメントの整列

AP エレメント整列コマンドを使って、1 つまたは複数の AP エレメントを最後に選択した AP エレメントのボーダーに整列します。

AP エレメントを整列するとき、親の AP エレメントを選択して移動した場合は、選択されていない子の AP エレメントも移動することがあります。これを防ぐには、ネストした AP エレメントを使用しないようにしてください。

1 デザインビューで、AP エレメントを選択します。

2 [修正]-[整列] を選択して、整列オプションを選択します。

たとえば、[上] を選ぶと、すべての AP エレメントが移動して、上のボーダーが最後に選択した AP エレメント (黒でハイライト表示) の上のボーダーと水平位置が同じになります。

AP エレメントをテーブルに変換

一部の Web デザイナーは、テーブルまたはレイアウトモードを使用してレイアウトを作成する代わりに AP エレメントを使用する場合があります。Dreamweaver では、AP エレメントを使用してレイアウトを作成し、必要な場合はその後テーブルに変換することができます。たとえば、バージョン 4.0 より前のブラウザをサポートする必要がある場合は、AP エレメントをテーブルに変換する必要があります。ただし、AP エレメントをテーブルに変換することは、コードの膨張に加えてテーブル内に大量の空のセルが作成されるため、まったくお勧めできません。テーブルを使用するページレイアウトが必要な場合は、Dreamweaver で使用できる標準のテーブルレイアウトツールを使用してページレイアウトを作成することをお勧めします。

AP エレメントからテーブル、およびその逆の変換を繰り返しながらレイアウトを調整して、ページデザインを最適化することができます。ただし、テーブルを AP エレメントに再変換する場合、Dreamweaver では、テーブルへの変換前にページ上にあった AP エレメントの種類に関係なく、テーブルは絶対位置の Div に再変換されます。ページ上の特定のテーブルまたは AP エレメントを変換することはできません。ページ全体で AP エレメントをテーブルに変換、またはテーブルを絶対位置の Div に変換する必要があります。

注意：テンプレートドキュメント、またはテンプレートが適用されているドキュメントでは、AP エレメントからテーブルへの変換、またはテーブルから絶対位置の Div への変換はできません。代わりに、非テンプレート ドキュメントでレイアウトを作成し、変換した後で、テンプレートとして保存してください。

AP エレメントとテーブル間の変換

AP エレメントを使ってレイアウトを作成してから、AP エレメントをテーブルに変換すると、そのレイアウトを古いバージョンのブラウザで表示できるようになります。

テーブルに変換する前に、AP エレメントがオーバーラップしていないことを確認してください。

AP エレメントをテーブルに変換

1 [修正]-[変換]-[絶対位置の DIV をテーブルに] を選択します。

2 必要に応じて次のオプションを指定して、[OK] をクリックします。

最も正確に AP エレメントごとにセルが作成され、さらに AP エレメント間の間隔を維持するためのセルが作成されます。

最小 : 空のセルを表示しない 指定したピクセル数の中に AP エレメントを配置するときに、AP エレメントの縁が揃えられます。

このオプションを選択すると、作成されるテーブルには空白の行と列が少なくなりますが、正確さに欠ける場合もあります。

透明 GIF の使用 テーブルの最後の行が透明 GIF で埋められます。これにより、テーブルがすべてのブラウザで同じ列幅で表示されることになります。

このオプションがオンの場合は、作成されたテーブルの列をドラッグして編集することはできません。このオプションがオフの場合は、作成されるテーブルには透明 GIF は含まれませんが、列の幅はブラウザによって異なります。

ページ中央に揃える 作成されるテーブルがページの中央に配置されます。このオプションがオフの場合は、テーブルはページの左端から開始します。

テーブルを絶対位置の Div に変換

1 [修正]-[変換]-[テーブルを絶対位置の DIV に] を選択します。

2 必要に応じて次のオプションを指定して、[OK] をクリックします。

AP エレメントのオーバーラップ防止 AP エレメントを作成、移動、またはサイズ変更するとき、オーバーラップを防ぐために AP エレメントの位置が制限されます。

AP エレメントパネルの表示 [AP エレメント] パネルが表示されます。

グリッドの表示とグリッドに吸着 グリッドを利用して AP エレメントを簡単に配置することができます。

テーブルは、絶対位置の Div に変換されます。空のセルは、背景色が指定されていなければ AP エレメントには変換されません。

注意：テーブルの外にあるページエレメントも絶対位置の Div に配置されます。

AP エレメントのオーバーラップ防止

テーブルセルはオーバーラップできないため、Dreamweaver では、オーバーラップしている AP エレメントからテーブルを作成することはできません。ドキュメント内の AP エレメントをテーブルに変換する予定がある場合は、[オーバーラップ防止] オプションを使用して、AP エレメントがオーバーラップしないように AP エレメントの移動と配置を制限します。

このオプションがオンの場合は、既存の AP エレメントの上に AP エレメントを作成したり、既存の AP エレメントに重なるように AP エレメントを移動またはサイズを変更したり、既存の AP エレメント内にネストしたりすることはできません。AP エレメントのオーバーラップを作成後、このオプションを有効にする場合は、個々の AP エレメントのオーバーラップをドラッグして、もう 1 つの AP エレメントから切り離します。Dreamweaver では、[AP エレメントのオーバーラップ防止] を有効にした場合、ページ内の既存の AP エレメントのオーバーラップが自動的に修正されません。

このオプションと吸着が使用可能のとき、AP エレメントの吸着によって 2 つの AP エレメントがオーバーラップしてしまう場合は、AP エレメントはグリッドには吸着しません。その代わりに、最も近くの AP エレメントの縁に吸着します。

注意：[オーバーラップ防止] オプションがオンの場合でも、アクションによっては AP エレメントをオーバーラップできる場合があります。[挿入] メニューから AP エレメントを挿入するときや、プロパティインスペクタで数値を入力するとき、または HTML ソースコードを編集して AP エレメントの位置を変更するときは、このオプションが選択されていても、AP エレメントをオーバーラップまたはネストすることができます。オーバーラップが発生した場合は、デザインビューでオーバーラップする AP エレメントをドラッグして引き離します。

- [AP エレメント] パネル ([ウィンドウ]-[AP エレメント]) で、[オーバーラップ防止] オプションを選択します。
- ドキュメントウィンドウで、[修正]-[整列]-[AP エレメントのオーバーラップ防止] を選択します。

Div タグの操作

Div タグの操作について

div タグを手動で挿入し、それらのタグに CSS の位置スタイルを適用してページレイアウトを作成することができます。div タグは、Web ページのコンテンツ内の論理区域を定義するタグです。div タグを使用すると、コンテンツのブロックを中央に配置して列効果を作成し、異なるカラー領域を作成するなどの作業を行うことができます。

div タグとカスケーディングスタイルシート (CSS) を使用する Web ページの作成に不慣れな場合は、Dreamweaver に付属の事前にデザインされたいずれかのレイアウトに基づいて CSS レイアウトを作成することができます。CSS の操作には不安があるが、テーブルの使用に精通している場合は、テーブルを使用することもできます。

注意： Dreamweaver では、これらの Div タグを絶対位置の Div 描画ツールを使用して作成しなかった場合でも、すべての Div タグが AP エレメント (絶対位置のエレメント) として処理されます。

関連項目

145 ページの「Dreamweaver での AP エレメントについて」

143 ページの「CSS レイアウトを使用したページの作成」

169 ページの「テーブルを使用したコンテンツの表示」

Div タグの挿入

div タグを使用すると、CSS レイアウトブロックを作成して、それをドキュメントに配置できます。これは、ドキュメントに関連付けられているスタイルが配置された既存の CSS スタイルシートがある場合に便利です。Dreamweaver により、Div タグをすばやく挿入して既存のスタイルを適用することができます。

1 ドキュメントウィンドウで、div タグを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[Div タグ] を選択します。
- [挿入] バーの [レイアウト] カテゴリで、[Div タグを挿入] ボタン をクリックします。

3 次のいずれかのオプションを設定します。

挿入 div タグの位置 (タグの前または後、あるいはタグの開始前または開始後の挿入ポイントのいずれか) を選択し、新しいタグでない場合はタグ名を選択できます。

クラス 選択すると、現在タグに適用されているクラススタイルを表示できます。スタイルシートを添付した場合、そのスタイルシートに定義されているクラスがリストに表示されます。このポップアップメニューを使用して、以下のいずれかの操作を行います。

- タグに適用するスタイルを選択します。
- [なし] を選択すると、現在選択しているスタイルが削除されます。
- [スタイルシートを添付] を選択すると、外部スタイルシートを関連付けるダイアログボックスが開きます。

Div ID div の識別に使用する名前を変更できます。スタイルシートを添付した場合、そのスタイルシートに定義されている ID がリストに表示されます。ドキュメント内にすでにあるブロックの ID は表示されません。

注意：ドキュメント内の別のタグと同じ ID を入力すると、Dreamweaver により警告が表示されます。

CSS の編集 [CSS スタイル] パネルを開きます。

4 [OK] をクリックします。

div タグがボックスとしてプレースホルダーテキストと共にドキュメント内に表示されます。ボックスの端の上にポインタを移動すると、Dreamweaver により、ボックスの端はハイライト表示されます。

div タグは、絶対位置に配置されている場合、AP エレメントになります (絶対位置に配置されていない div タグは編集できます)。

関連項目

145 ページの「Dreamweaver での AP エレメントについて」

143 ページの「CSS レイアウトを使用したページの作成」

Div タグの編集

div タグを挿入すると、このタグを操作するか、このタグにコンテンツを追加することができます。

注意：絶対位置に配置された Div タグは、AP エレメントになります。

div タグにボーダーを割り当てるか [CSS レイアウトのアウトライン] を選択すると、ボーダーが表示されます。[CSS レイアウトのアウトライン] は、[表示]-[ビジュアルエイド] メニューで、初期設定で選択されます。div タグの上にポインタを移動すると、Dreamweaver によってタグがハイライト表示されます。ハイライトカラーを変更し、またはハイライト表示を無効にすることができます。

div タグを選択すると、[CSS スタイル] パネルでルールを表示し、編集することができます。コンテンツを div タグに追加するには、div タグ内に挿入ポイントを配置し、コンテンツをページに追加するときと同じ要領でコンテンツを追加します。

関連項目

145 ページの「Dreamweaver での AP エレメントについて」

123 ページの「[CSS スタイル] パネルを開く」

Div タグに適用されているルールの表示および編集

1 以下のいずれかの操作を行い、div タグを選択します。

- div タグのボーダーをクリックします。

ボーダーを見つけるには、ハイライト表示されている部分を探します。

- div タグの内側をクリックし、Ctrl + A (Windows) または Command + A (Macintosh) を 2 回押します。
- div タグの内側をクリックし、ドキュメントウィンドウの下部にあるタグセレクタから div タグを選択します。

2 [CSS スタイル] パネルが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[CSS スタイル] を選択して開きます。

div タグに適用されているルールがパネルに表示されます。

3 必要に応じて編集します。

コンテンツを追加する Div タグへの挿入ポイントの配置

❖ タグのボーダーより内側の任意の場所をクリックします。

Div タグ内のプレースホルダーテキストの変更

❖ テキストを選択し、テキストを上書き入力するか、Delete キーを押します。

注意：ページにコンテンツを追加する場合と同じ要領で、*div* タグにコンテンツを追加します。

Div タグのハイライトカラーの変更

デザインビューで div タグの端にポインタを移動すると、Dreamweaver によりタグのボーダーがハイライト表示されます。必要に応じて [環境設定] ダイアログボックスでハイライト表示を有効または無効にするか、ハイライトカラーを変更します。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストで [ハイライト] を選択します。

3 次のいずれかの変更を加えて、[OK] をクリックします。

- div タグのハイライトカラーを変更するには、[マウスオーバー] カラーボックスをクリックし、カラーピッカーを使用してハイライトカラーを選択します。または、テキストボックスにハイライトカラーの 16 進数値を入力します。
- div タグのハイライト表示の有効または無効を切り替えるには、[マウスオーバー] の [表示] チェックボックスをオンまたはオフにします。

注意：これらのオプションは、ポインタを移動したときに、Dreamweaver によってハイライト表示されるすべてのオブジェクト (テーブルなど) に影響します。

CSS レイアウトブロックの視覚化

デザインビューで作業をしながら、CSS レイアウトブロックを視覚化することができます。CSS レイアウトブロックは HTML ページエレメントであり、ページ上の任意の場所に配置できます。具体的に CSS レイアウトブロックとは、div タグ (display:inline なし)、あるいは display:block、position:absolute、または position:relative CSS 宣言を含む他のページエレメントのことです。以下に示すのは、Dreamweaver では CSS レイアウトブロックと見なされるエレメントの例です。

- div タグ
- 絶対位置または相対位置が割り当てられたイメージ
- a タグ (display:block スタイルが割り当てられているもの)
- 絶対位置または相対位置が割り当てられた段落

注意：視覚的なレンダリングのため、CSS レイアウトブロックにはインラインエレメント (コードがテキストの行に含まれるエレメント)、または段落のような単純なブロックエレメントは含まれません。

Dreamweaver には、CSS レイアウトブロックを表示するためのビジュアルエイドが多数用意されています。たとえば、デザイン中に CSS レイアウトブロックのアウトライン、背景、およびボックスモデルを有効にすることができます。また、レイアウトブロックの上にマウスポインタを移動したときに、選択した CSS レイアウトブロックのプロパティを表示するツールヒントを表示することもできます。

以下のリストに、Dreamweaver で表示される CSS レイアウトブロックのビジュアルエイドを示します。

CSS レイアウトのアウトライン ページ上にあるすべての CSS レイアウトブロックのアウトラインが表示されます。

CSS レイアウトの背景 個別の CSS レイアウトブロックに一時的に割り当てられた背景色が表示され、通常、ページ上に表示される他の背景色またはイメージは非表示になります。

CSS レイアウトブロックの背景を表示するためにビジュアルエイドを有効にすると、Dreamweaver は、各 CSS レイアウトブロックに個別の背景色を自動的に割り当てます。(Dreamweaver では、アルゴリズム的処理によって背景色が選択されるため、ユーザーが背景色を割り当てる方法はありません。割り当てられたカラーは独特の視覚を持ち、CSS レイアウトブロックを区別できるようになっています。

CSS レイアウトのボックスモデル 選択した CSS レイアウトブロックのボックスモデル (余白とマージン) が表示されます。

CSS レイアウトブロックの表示

必要に応じて、CSS レイアウトブロックのビジュアルエイドの表示 / 非表示を切り替えることができます。

CSS レイアウトブロックのアウトラインの表示

❖ [表示]-[ビジュアルエイド]-[CSS レイアウトのアウトライン] を選択します。

CSS レイアウトブロックの背景の表示

❖ [表示]-[ビジュアルエイド]-[CSS レイアウトの背景] を選択します。

CSS レイアウトブロックのボックスモデルの表示

❖ [表示]-[ビジュアルエイド]-[CSS レイアウトのボックスモデル] を選択します。

ドキュメントツールバーの [ビジュアルエイド] ボタンをクリックしても、CSS レイアウトブロックのビジュアルエイドオプションにアクセスすることができます。

CSS 以外のレイアウトブロックエレメントによるビジュアルエイドの使用

デザインタイムスタイルシートを使用すると、通常は CSS レイアウトブロックとは見なされないエレメントの背景、ボーダー、またはボックスモデルを表示することができます。そのためには、display:block 属性を適切なページエレメントに割り当てるデザインタイムスタイルシートを最初に作成する必要があります。

1 外部 CSS スタイルシートを作成します。[ファイル]-[新規] を選択し、[カテゴリ] リストから [基本ページ] を選択し、[基本ページ] リストから [CSS] を選択して [作成] をクリックします。

2 新しいスタイルシートで、CSS レイアウトブロックとして表示するページエレメントに display:block 属性を割り当てるルールを作成します。

たとえば、段落およびリスト項目に背景色を表示する場合は、次のルールを使ってスタイルシートを作成することができます。

```
p{
display:block;
}
li{
display:block;
}
```

3 ファイルを保存します。

4 デザインビューで、新しいスタイルを関連付けるページを開きます。

5 [テキスト]-[CSS スタイル]-[デザインタイム] を選択します。

6 [デザインタイムスタイルシート] ダイアログボックスで、[デザイン中のみ表示] テキストボックスの上にある [+] ボタンをクリックし、作成したスタイルシートを選択して [OK] をクリックします。

7 [OK] をクリックして [デザインタイムスタイルシート] ダイアログボックスを閉じます。

スタイルシートがドキュメントに関連付けられます。前述の例を使ってスタイルシートを作成した場合、すべての段落とリスト項目は display:block 属性によってフォーマットされ、段落およびリスト項目に対して CSS レイアウトブロックのビジュアルエイドを有効または無効にできるようになります。

関連項目

137 ページの「デザインタイムスタイルシートの使用」

AP エレメントのアニメーション化

AP エレメントのアニメーション化について

動的 HTML (DHTML) は、HTML とスクリプト言語を組み合わせたもので、これを利用して HTML エレメントのスタイルや配置プロパティを変更することができます。Dreamweaver のタイムラインは、動的 HTML を使用して、AP エレメントとイメージのプロパティを時間の経過と共に変更します。タイムラインを使うと、ActiveX コントロール、プラグイン、Java アプレットをまったく使用しないでアニメーションを作成できます (ただし、JavaScript は必要です)。

注意：" 動的 " という用語が Web に関連して使われる場合は、状況によって意味が異なることがあります。動的 HTML と動的 Web ページの考え方とを混同しないでください。動的 Web ページとは、サーバーサイドのコードによって動的に生成して表示する Web ページのことです。

タイムラインを利用して、AP エレメントの位置、サイズ、表示 / 非表示、重ね順を変更できます (タイムラインの AP エレメント機能はバージョン 4.0 以降のブラウザでのみ動作します)。また、ページのロード後にほかのアクションを発生させたい場合にも便利です。たとえば、タイムラインでイメージタグのソースファイルを変更すると、時間の経過に伴って、さまざまなイメージをページ上に表示できます。

タイムラインによって生成された JavaScript コードを確認するには、ドキュメントウィンドウのコードビューを開きます。タイムラインのコードは、ドキュメントの head セクションにある script タグ中の MM_initTimelines() 関数に挿入されています。

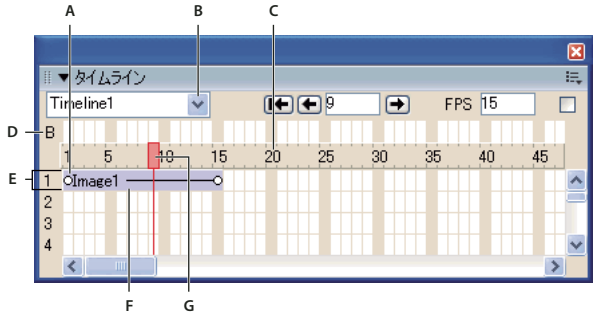
タイムラインが含まれているドキュメントの HTML を編集する際は、タイムラインが参照する関連要素の移動、名前変更、削除はしないように注意してください。

関連項目

145 ページの「Dreamweaver での AP エレメントについて」

[タイムライン] パネルの概要

[タイムライン] パネルには、時間の経過に伴って AP エレメントとイメージのプロパティがどのように変化するかが表示されます。[ウィンドウ]-[タイムライン] を選択して [タイムライン] パネルを開きます。



A. キーフレーム **B.** [タイムライン] ポップアップメニュー **C.** フレーム番号 **D.** ビヘイビアチャネル **E.** アニメーションチャネル **F.** アニメーションバー **G.** 再生ヘッド

キーフレーム オブジェクトのプロパティ (位置など) が指定されたバーに含まれているフレームを定義します。Dreamweaver では、キーフレーム間にあるフレームの中間値が計算されます。キーフレームは小さい円のマークで示されます。

ビヘイビアチャネル タイムラインの特定のフレームで実行されるビヘイビアを表示するチャネルです。

[タイムライン] ポップアップメニュー ドキュメントのどのタイムラインが [タイムライン] パネルに現在表示されているかを表します。

アニメーションチャネル AP エレメントとイメージをアニメーション化するためのバーを表示するチャネルです。

アニメーションバー 各オブジェクトのアニメーションの持続時間を示します。異なるオブジェクトを示す複数のバーを 1 行内に収めることができます。ただし、同じフレームの同じオブジェクトを複数のバーで制御することはできません。

再生ヘッド ドキュメントウィンドウに現在表示されているタイムラインのフレームを表します。

フレーム番号 フレームのシーケンス番号を示します。逆送りボタンと再生ボタンの間の数字は、現在のフレーム番号を示します。フレームの総数と毎秒のフレーム数 (FPS) を設定することで、アニメーションの持続時間を制御できます。一般的な Windows システムや Macintosh システムで実行される大半のブラウザでは、初期設定の毎秒 15 フレームが適切な平均フレームレートです。

注意： これより速くしても、パフォーマンスが向上するとは限りません。ブラウザは、指定されたフレームレートで再生できないときでも、常にアニメーションのすべてのフレームを再生します。ブラウザが管理可能な数値を超える場合、フレームレートは無視されます。

コンテキストメニュー タイムラインに関連するさまざまなコマンドがあります。

再生オプション

アニメーションを表示するための再生オプションを以下に示します。

巻き戻し 再生ヘッドをタイムラインの先頭フレームに移動します。

逆送り 再生ヘッドを 1 フレーム左に移動します。[逆送り] ボタンをクリックして、マウスボタンを押したままにすると、タイムラインが逆送りで再生されます。

再生 再生ヘッドを 1 フレーム右に移動します。[再生] ボタンをクリックして、マウスボタンを押したままにすると、タイムラインが順方向に再生されます。

自動再生 現在のページがブラウザにロードされると、タイムラインの再生を自動的に開始します。[自動再生] を指定すると、ページのロード時に [タイムラインの再生] アクションを実行するビヘイビアがページの body タグに関連付けられます。

ループ ブラウザでページが開いているときに現在のタイムラインを無限にループ再生させます。[ループ] を設定すると、アニメーションの最終フレームの後で、ビヘイビアチャネルの中に [タイムラインフレームに移動] ビヘイビアが挿入されます。[ビヘイビア] チャネルでビヘイビアのマーカーをダブルクリックすると、そのビヘイビアのパラメータを編集して、ループ回数を変更することができます。

タイムラインを使用した AP エレメントのアニメーション化

最も一般的なタイムラインアニメーションの 1 つに、パスに沿って AP エレメントを移動させるものがあります。タイムラインは AP エレメントだけを移動することができます。イメージやテキストが動くようにするには、[挿入] バーの [絶対位置の Div を描画] ボタンを使って AP エレメントを作成してから、イメージ、テキスト、またはその他の種類のコンテンツを絶対位置の Div に挿入します。

タイムラインは、他の AP エレメントおよびイメージを変更することもできます。

1 AP エレメントをアニメーション開始時の場所に移動します。

2 [ウィンドウ]-[タイムライン] を選択します。

3 アニメーション化する AP エレメントを選択します。

正しいエレメントを選択したことを確認してください。AP エレメントを選択するには、AP エレメントマーカーまたは AP エレメント選択ハンドルをクリックするか、[AP エレメント] パネルを使用します。AP エレメントが選択されると、次の図のように周囲にハンドルが表示されます。

A. AP エレメント選択ハンドルをクリックして、AP エレメントを選択 **B.** 内部にイメージを持つ AP エレメントを選択

AP エレメント内部をクリックすると、点滅する挿入ポイントが AP エレメント内部に表示されますが、実際の AP エレメントは選択されません。

4 [修正]-[タイムライン]-[タイムラインにオブジェクトを追加] を選択するか、選択した APエレメントを [タイムライン] パネルの中にドラッグします。

タイムラインの最初のチャネルにバーが表示されます。バーにはレイヤーの AP エレメントが表示されます。

5 バーの最後にあるキーフレームマーカーをクリックします。

6 ページ上の AP エレメントをアニメーション終了時の場所に移動します。

ドキュメントウィンドウ内のアニメーションのパスを示す線が表示されます。

7 AP エレメントをカーブ内に移動するには、アニメーションバーを選択して、バーの中央にあるフレームを Ctrl キーを押しながらクリックするか (Windows)、または Command キーを押しながらクリックして (Macintosh)、クリックしたフレームにキーフレームを追加するか、アニメーションバーの中央のフレームをクリックして、コンテキストメニューで [キーフレームの追加] を選択します。

追加のキーフレームを定義するには、この手順を繰り返します。

8 再生ボタンを押したままにすると、アニメーションをページ上でプレビューすることができます。

この手順を繰り返してさらにタイムラインに AP エレメントとイメージを追加し、より複雑なアニメーションを作成できます。

関連項目

145 ページの「絶対位置の Div の挿入」

152 ページの「AP エレメントのサイズ変更」

パスのドラッグによるタイムラインの作成

複雑なパスを持つアニメーションを作成するには、個々のキーフレームを作成するよりも、AP エレメントをドラッグする際のパスを記録した方がより効率的です。

1 AP エレメントを選択します。

2 AP エレメントをアニメーション開始時の場所に移動します。

AP エレメントが選択されていることを確認します。AP エレメントに挿入ポイントがあるときは、その AP エレメントは選択されていません。AP エレメントを選択するには、AP エレメントマーカーまたは AP エレメント選択ハンドルをクリックするか、[AP エレメント] パネルを使用します。

3 [修正]-[タイムライン]-[絶対位置エレメントのパスを記録] を選択します。

4 ページの周りに AP エレメントをドラッグして、パスを作成します。

5 アニメーション終了時の場所で AP エレメントを離します。

Dreamweaver は、適切な数のキーフレームを持つアニメーションバーをタイムラインに追加します。

6 [タイムライン] パネルで、[巻き戻し] ボタンをクリックした後、[再生] ボタンを押し続けて、アニメーションをプレビューします。

関連項目

152 ページの「AP エレメントのサイズ変更」

タイムラインの変更

タイムラインの基本コンポーネントを定義した後で、フレームの追加と削除、アニメーションの開始時点の変更などの変更を加えることができます。

- アニメーションの時間を長くするには、最後のフレームマーカーを右方向にドラッグします。アニメーションのすべてのキーフレームが、相互の位置関係を保ったまま移動します。他のキーフレームが移動しないようにするには、Ctrl キーを押しながら最後のフレームマーカーをドラッグします。
- AP エレメントがキーフレーム位置に到達する時点を進める場合や遅らせる場合は、バー上のキーフレームマーカーを右または左に移動します。
- アニメーションの開始時点を変更するには、アニメーションに関連付けられているバーを選択して (一度に複数のバーを選択するには Shift キーを押しながら選択します)、左または右にドラッグします。
- アニメーションパス全体を移動するには、バー全体を選択してから、ページ上のオブジェクトをドラッグします。Dreamweaver により、すべてのキーフレームの位置が調整されます。バー全体が選択されているときに変更を加えると、すべてのキーフレームが変更されます。
- タイムラインでフレームを追加または削除するには、[修正]-[タイムライン]-[フレームの追加] または [修正]-[タイムライン]-[フレームの削除] を選択します。
- ページをブラウザで開いたときにタイムラインを自動再生するには、[自動再生] をクリックします。[自動再生] を設定すると、ページのロード時に [タイムラインの再生] アクションを実行するビヘイビアがページに割り当てられます。
- タイムラインを続けてループさせるには、[ループ] をクリックします。[ループ] を設定すると、アニメーションの最終フレームの後で、ビヘイビアチャネルの中に [タイムラインフレームに移動] アクションが挿入されます。このビヘイビアのパラメータを編集してループの回数を指定することができます。

タイムラインによるイメージと AP エレメントのプロパティの変更

タイムラインを使って AP エレメントを移動するほかに、AP エレメントの表示 / 非表示、サイズ、重ね順を変更することができます。また、イメージのソースファイルを変更することもできます。

1 [タイムライン] パネルで、以下のいずれかの操作を行います。

- 変更するオブジェクトを制御するバーで、既存のキーフレームを 1 つ選択します。開始フレームと終了フレームは常にキーフレームです。
- アニメーションバーの中央にあるフレームをクリックし、[修正]-[タイムライン]-[キーフレームの追加] を選択して、新しいキーフレームを作成します。または、アニメーションバーの中のフレームを Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらクリックして、新しいキーフレームを作成することもできます。

2 以下のいずれかの操作を行って、オブジェクトの新しいプロパティを定義します。

- イメージのソースファイルを変更するには、プロパティインスペクタの [ソース] テキストボックスの隣にあるフォルダアイコンをクリックし、新しいイメージを参照して選択します。
- AP エレメントの表示 / 非表示を変更するには、プロパティインスペクタの [可視性] テキストボックスのポップアップメニューから [継承]、[表示]、または [非表示] を選択します。または、[AP エレメント] パネルの目のアイコンを使用します。
- AP エレメントのサイズを変更するには、AP エレメントのサイズ変更ハンドルをドラッグするか、プロパティインスペクタの [幅] と [高さ] の各テキストボックスに新しい値を入力します。すべてのブラウザで AP エレメントのサイズを動的に変更できるとは限りません。
- AP エレメントの重ね順を変更するには、[Z インデックス] テキストボックスに新しい値を入力するか、[AP エレメント] パネルを使って現在の AP エレメントの重ね順を変更します。

3 [再生] ボタンを押してアニメーションを表示します。

関連項目

152 ページの「AP エレメントの表示と非表示」

151 ページの「AP エレメントの重ね順の変更」

複数のタイムラインの使用

ページ上のすべてのアクションを 1 つのタイムラインで制御するよりも、ページの各部分をそれぞれ別のタイムラインで制御する方が簡単です。たとえば、そのようなページには、個々のタイムラインを実行するインタラクティブエレメントを含めることができます。

- タイムラインを新規作成するには、[修正]-[タイムライン]-[タイムラインの追加] を選択します。
- 選択したタイムラインを削除するには、[修正]-[タイムライン]-[タイムラインの削除] を選択します。これにより、選択したタイムラインからすべてのアニメーションが完全に削除されます。
- 選択したタイムラインの名前を変更するには、[修正]-[タイムライン]-[タイムライン名の変更] を選択するか、[タイムライン] パネルの [タイムライン] ポップアップメニューに新しい名前を入力します。
- [タイムライン] パネルに別のタイムラインを表示するには、[タイムライン] パネルの [タイムライン] ポップアップメニューで新しいタイムラインを選択します。

アニメーションのコピー & ペースト

希望どおりのアニメーションシーケンスが完成したら、シーケンスをコピーして、現在のタイムライン内の別の領域、同じドキュメント内の別のタイムライン、または別のドキュメントのタイムラインにペーストすることができます。また、複数のシーケンスを同時にコピーしてペーストすることも可能です。

1 アニメーションバーをクリックして、シーケンスを選択します。複数のシーケンスを選択するには、Shift キーを押しながら複数のアニメーションバーをクリックします。すべてのシーケンスを選択するには、Ctrl+A キー (Windows) または Command+A キー (Macintosh) を押します。

2 選択範囲をコピーまたはカットします。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- 再生ヘッドを、現在のタイムラインにあるほかの時点に移動します。
- [タイムライン] ポップアップメニューで、他のタイムラインを選択します。
- 他のドキュメントを開くか、新規ドキュメントを作成して、次に [タイムライン] パネルの中をクリックします。

4 選択範囲をタイムラインにペーストします。

同じオブジェクトのアニメーションバーをオーバーラップさせることはできません。これは、1 つの AP エレメントが同時に 2 つの場所に存在することはできないからです (イメージも、同時に 2 つの異なるソースを持つことはできません)。ペーストするアニメーションバーが同じオブジェクトの他のアニメーションバーとオーバーラップする場合は、Dreamweaver により、オーバーラップしない最初のフレームに選択範囲が自動的に移動します。

アニメーションシーケンスをほかのドキュメントにペーストする際、以下の 2 つの原則を念頭に置いてください。

- AP エレメントのアニメーションシーケンスをコピーするとき、新しいドキュメントに同じ名前の AP エレメントがある場合、Dreamweaver は、新しいドキュメントの既存の AP エレメントにアニメーションのプロパティを適用します。
- AP エレメントのアニメーションシーケンスをコピーするときに、新しいドキュメントに同じ名前の AP エレメントがない場合、Dreamweaver は、AP エレメントとそのコンテンツをアニメーションシーケンスと共にオリジナルのドキュメントからペーストします。ペーストしたアニメーションシーケンスを新規ドキュメントの他の AP エレメントに適用するには、コンテキストメニューで [オブジェクトの変更] を選択して、ポップアップメニューで 2 つ目の AP エレメントの名前を選択します。必要に応じて、ペーストした AP エレメントを削除します。

アニメーションシーケンスの他のオブジェクトへの適用

時間を節約するために、アニメーションシーケンスを一度作成して、それをドキュメントにある残りの AP エレメントに適用することができます。

1 [タイムライン] パネルで、アニメーションシーケンスをクリックして選択します。

2 Select Edit > Copy to copy the sequence.

3 [タイムライン] パネルのいずれかのフレームをクリックして、そのフレームにシーケンスをペースト ([編集]-[ペースト]) します。

4 ペーストしたアニメーションシーケンスを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [オブジェクトの変更] を選択します。

5 表示されるダイアログボックスで、ポップアップメニューから他のオブジェクトを選択して、[OK] をクリックします。

6 同じアニメーションシーケンスを使用する残りのオブジェクトに関して、手順 2 ～ 4 を繰り返します。

アニメーションシーケンスを作成した後で、アニメーション化する AP エレメントを変えることもできます。その場合は、手順 3 と 4 を繰り返します (コピーやペーストは必要ありません)。

タイムライン名の変更

1 [修正]-[タイムライン]-[タイムライン名の変更] を選択します。

2 新しい名前を入力します。

ドキュメントに [タイムラインを再生] ビヘイビアアクションが含まれている場合 (たとえば、タイムラインを開始するためにクリックしなければならないボタンが含まれている場合) は、新しいタイムライン名が反映されるようにビヘイビアを編集する必要があります。

タイムラインのアニメーションのヒント

アニメーションのパフォーマンスを向上し、アニメーションの作成を簡単にするヒントを、以下に示します。

- 複数イメージアニメーションの場合、ソースファイルを切り替える代わりに、AP エレメントの表示 / 非表示を切り替えます。イメージのソースファイルを切り替えると、新しいイメージをダウンロードする必要があるので、アニメーションが遅くなる可能性があります。アニメーションを実行する前に、非表示の AP エレメントにすべてのイメージを一度にダウンロードすると、一時停止やイメージの欠落を防止できます。
- アニメーションバーを延長して、アニメーションを滑らかにします。アニメーションの動きがギクシャクする場合や、イメージが抜ける場合は、AP エレメントのアニメーションバーの最終フレームをドラッグしてアニメーションを延長し、フレーム数を増やします。アニメーションバーを延長すると、動きの始点と終点の間のデータポイント数が増え、オブジェクトの動きが遅くなります。動きを速くするには、毎秒のフレーム数 (fps) の値を増やします。ただし、平均

的なシステムで実行されるブラウザでは、15 fps を大きく上回る速度ではアニメーション化できません。各種システムおよびブラウザでアニメーションをテストして、最適な設定を求めるようにしてください。

- 大きなビットマップのアニメーション化は避けてください。大きなイメージをアニメーション化すると、アニメーションが遅くなります。代わりに合成イメージを作成して、イメージの一部だけを動かしてください。たとえば、車輪だけをアニメーション化して車が走行しているように見せることができます。
- シンプルなアニメーションを作成してください。現在のブラウザの処理能力を超えるアニメーションを作成しないようにします。システムやインターネット接続のパフォーマンスが低下しても、ブラウザはタイムラインアニメーションのフレームをすべて再生します。

第 7 章：HTML を使用したページレイアウト

Adobe® Dreamweaver® CS3 には、HTML のテーブルやフレームを使用して Web ページを作成するためのレイアウトツールが用意されています。アプリケーションが提供するルーラ、ガイド、グリッドは、正確なページレイアウトやエレメント配置に役立ちます。

レイアウト用ビジュアルエイドの使用

ルーラの設定

ルーラは、レイアウトの測定、整理、および計画に役立ちます。ルーラは、ページの左および上のボーダー上に、ピクセル、インチ、またはセンチ単位で表示できます。

- ルーラのオンとオフを切り替えるには、[表示]-[ルーラ]-[表示] を選択します。
- 原点を変更するには、ドキュメントウィンドウのデザインビューの左上にあるルーラの原点アイコンをページ上の任意の場所にドラッグします。
- ルーラを初期設定の位置にリセットするには、[表示]-[ルーラ]-[初期設定に戻す] を選択します。
- 測定単位を変更するには、[表示]-[ルーラ] を選択し、次に [ピクセル]、[インチ]、または [センチ] を選択します。

レイアウトガイドの設定

ガイドは、ルーラからドキュメントにドラッグする線です。ガイドは、オブジェクトをより正確に配置および整列するために役立ちます。ガイドを使用してページエレメントのサイズを測定したり、Web ブラウザの " 折り " (表示可能領域) をエミュレートしたりすることもできます。

エレメントを整列するために、エレメントをガイドに吸着、またはガイドをエレメントに吸着することができます。吸着機能が動作するためには、エレメントが順に絶対位置指定されている必要があります。ガイドをロックして、他のユーザーが誤って移動しないようにすることもできます。

縦または横のガイドの作成

1 対応するルーラからドラッグします。

2 ドキュメントウィンドウ内にガイドを配置し、マウスボタンを離します。ガイドを配置し直すには、ガイドを再度ドラッグします。

注意：初期設定では、ガイドはドキュメントの上部または左側からの絶対ピクセル単位で記録され、ルーラの原点に対して相対的に表示されます。ガイドを割合で記録するには、Shift キーを押しながらガイドを作成または移動します。

ガイドの表示と非表示の切り替え

❖ [表示]-[ガイド]-[ガイドを表示] を選択します。

エレメントをガイドに吸着

- エレメントをガイドに吸着するには、[表示]-[ガイド]-[ガイドに吸着] を選択します。
- ガイドをエレメントに吸着するには、[表示]-[ガイド]-[ガイドをエレメントに吸着] を選択します。

注意：絶対位置のエレメント (AP エレメント)、テーブル、イメージなどのエレメントのサイズを変更すると、サイズ変更されたエレメントはガイドに吸着します。

すべてのガイドをロックまたはロック解除

❖ [表示]-[ガイド]-[ガイドをロック] を選択します。

ガイドの表示および特定の位置への移動

1 ガイド上にマウスポインタを置いて、ガイド位置を確認します。

2 ガイドをダブルクリックします。

3 [ガイドの移動] ダイアログボックスに新しい位置を入力し、[OK] をクリックします。

ガイド間の距離の表示

❖ Ctrl キー (Windows)、または Command キー (Macintosh) を押しながら、2 つのガイド間の任意の部分の上にマウスポインタを置きます。

注意：測定単位は、ルーラに使用されている測定単位と同じです。

Web ブラウザの折り (表示可能領域) のエミュレート

❖ [表示]-[ガイド] を選択し、メニューから既存のブラウザサイズを選択します。

ガイドの削除

❖ ドキュメントから外にガイドをドラッグします。

ガイド設定の変更

❖ [表示]-[ガイド]-[ガイドの編集] を選択し、以下のオプションを設定して [OK] をクリックします。

ガイドカラー グリッドラインのカラーを指定します。色見本をクリックして、カラーピッカーからカラーを選択するか、テキストボックスに 16 進数値を入力します。

距離線の色 ガイド間にマウスポインタを置いたときに、距離のインジケータとして表示されるラインのカラーを指定します。色見本をクリックして、カラーピッカーからカラーを選択するか、テキストボックスに 16 進数値を入力します。

ガイドを表示 デザインビューにガイドが表示されます。

ガイドに吸着 ページの周囲でページエレメントを動かすときに、ページエレメントがガイドに吸着されます。

ガイドのロック ガイドが所定の位置にロックされます。

ガイドをエレメントに吸着 ガイドをドラッグするときに、ガイドがページ上のエレメントに吸着されます。

すべてクリア ページからすべてのガイドがクリアされます。

テンプレートでのガイドの使用

Dreamweaver テンプレートにガイドを追加すると、テンプレートのすべてのインスタンスはガイドを継承します。ただし、テンプレートインスタンス内のガイドは編集可能領域として扱われるので、ガイドは変更できます。テンプレートインスタンスの変更されたガイドは、マスターテンプレートを使用してインスタンスが更新されると、元の場所に復元されます。

独自のガイドをテンプレートのインスタンスに追加できます。この方法で追加されたガイドは、マスターテンプレートを使用してテンプレートインスタンスが更新されたときに上書きされません。

関連項目

153 ページの「AP エレメントの整列」

153 ページの「AP エレメントの移動」

レイアウトグリッドの使用

ドキュメントウィンドウでは、グリッドに縦と横の線からなるシステムが表示されます。これは、正確にオブジェクト配置するために役立ちます。絶対位置指定されたページエレメントを移動するときに自動的にグリッドに吸着させることができます。グリッド設定を指定して、グリッドを変更したり、吸着の動作を制御したりすることもできます。吸着は、グリッドが表示されているかどうかには関係なく機能します。

関連項目

153 ページの「AP エレメントの整列」

153 ページの「AP エレメントの移動」

グリッドの表示と非表示の切り替え

❖ [表示]-[グリッド]-[グリッドの表示] を選択します。

吸着機能の有効と無効の切り替え

❖ [表示]-[グリッド]-[グリッドに吸着] を選択します。

グリッド設定の変更

1 [表示]-[グリッド]-[グリッド設定] を選択します。

2 以下のオプションを選択し、[OK] をクリックして変更を適用します。

カラー グリッドラインのカラーを指定します。色見本をクリックして、カラーピッカーからカラーを選択するか、テキストボックスに 16 進数値を入力します。

グリッドを表示 デザインビューにグリッドが表示されます。

グリッドに吸着 ページエレメントがグリッドのラインに吸着されます。

間隔 グリッドラインの間隔を制御します。数値を入力し、メニューから [ピクセル]、[インチ]、または [センチ] を選択してください。

表示 グリッドラインを実線または点線のどちらで表示するかを指定します。

注意： [グリッドの表示] を選択していなければ、ドキュメント内にグリッドが表示されず、変更結果も感じられません。

トレーシングイメージの使用

トレーシングイメージをガイドとして使用すると、Adobe Freehand や Fireworks などのグラフィックアプリケーションで作成されたページデザインを再現できます。

トレーシングイメージとは、ドキュメントウィンドウの背景に配置されている JPEG、GIF、または PNG イメージのことです。トレーシングイメージは、非表示、透明度の設定、および位置の変更が可能です。

トレーシングイメージは Dreamweaver 内にのみ表示されます。ページをブラウザで表示するときに、トレーシングイメージが表示されることはありません。トレーシングイメージが表示されているときは、ページの実際の背景イメージと背景色はドキュメントウィンドウには表示されません。ページがブラウザで表示される場合は、背景イメージと背景色も表示されます。

ドキュメントウィンドウにトレーシングイメージを配置

1 次のいずれかの操作を実行します。

- [表示]-[トレーシングイメージ]-[ロード] を選択します。
- [修正]-[ページプロパティ] を選択し、[トレーシングイメージ] テキストボックスの横の [参照] をクリックします。

2 イメージファイルを選択し、[選択] をクリックします。

3 [イメージの透明度] スライダをドラッグしてイメージの透明度を指定し、[OK] をクリックします。

別のトレーシングイメージに切り替える場合や、現在のトレーシングイメージの透明度を変更する場合は、[修正]-[ページプロパティ] を選択します。

トレーシングイメージの表示と非表示の切り替え

❖ [表示]-[トレーシングイメージ]-[表示] を選択します。

トレーシングイメージ位置の変更

❖ [表示]-[トレーシングイメージ]-[位置の調整] を選択します。

- トレーシングイメージの位置を正確に指定するには、[X] テキストボックスと [Y] テキストボックスに、座標値を入力します。
- トレーシングイメージを 1 ピクセルずつ移動するには、矢印キーを使用します。
- トレーシングイメージを 5 ピクセルずつ移動するには、Shift キーと矢印キーを押します。

トレーシングイメージ位置のリセット

❖ [表示]-[トレーシングイメージ]-[位置のリセット] を選択します。

トレーシングイメージが、ドキュメントウィンドウの左上隅 (0,0) に戻ります。

トレーシングイメージを選択したエレメントに整列

1 ドキュメントウィンドウでエレメントを選択します。

2 [表示]-[トレーシングイメージ]-[選択範囲にイメージを整列] を選択します。

トレーシングイメージの左上隅が、選択したエレメントの左上隅に揃います。

テーブルを使用したコンテンツの表示

テーブルについて

テーブルは、表データを表示したり、HTML ページ上にテキストやグラフィックを配置するのに非常に便利です。テーブルは 1 つまたは複数の行で構成され、各行は 1 つまたは複数のセルで構成されます。通常 HTML コードでは列を明示的に指定しませんが、Dreamweaver では行やセルと同様に列を操作できます。

Dreamweaver にはテーブルを操作および表示するための方法が 2 種類用意されています。1 つは、テーブルを行と列から成るグリッドとして表示する標準モードで、もう 1 つは基本構造にテーブルをそのまま使用しながらページ上でのボックスの描画、サイズ変更、および移動が可能なレイアウトモードです。

テーブルが選択されている場合または挿入ポイントがテーブル内にある場合は、Dreamweaver によりテーブルの幅と各テーブル列の列幅が表示されます。幅の横にテーブルヘッダーメニューと列ヘッダーメニューの矢印が表示されます。これらのメニューを使用すると、テーブル関連の使用頻度の高いコマンドに素早くアクセスできます。幅とメニューは表示と非表示を切り替えられます。

テーブルヘッダーメニューにテーブルまたは列の幅が表示されない場合、そのテーブルまたは列には HTML コードで指定された幅がありません。2 つの数字が表示される場合は、デザインビューに表示される表示幅と HTML コードに指定された幅が一致していません。これは、テーブルの右下隅をドラッグしてテーブルのサイズを変更するか、設定されている幅よりも大きいコンテンツをセルに追加した場合に発生します。

たとえば、200 ピクセルの幅に設定された列に対して、幅を 250 ピクセルに拡張するコンテンツを追加すると、その列に対して 2 つの数字が表示されます。この例の場合であれば 200 (コードに指定されている幅) とカッコで囲まれた (250) という数値 (画面上に表示される列の表示幅) が示されます。

注意：さらに、CSS 位置指定を使用したページレイアウトも可能です。

関連項目

139 ページの「CSS を使用したページのレイアウト」

183 ページの「レイアウトモードでのページのレイアウト」

HTML でのテーブルフォーマットの優先順位

デザインビューでテーブルをフォーマットしている場合は、テーブル全体、または選択した行、列、セルのそれぞれに対してプロパティを設定することができます。背景色や整列などのプロパティを、テーブル全体についてある値に設定し、個別のセルついては別の値に設定した場合、セルフォーマットは行フォーマットよりも優先され、行フォーマットはテーブルフォーマットより優先されます。

つまり、テーブルフォーマットの優先順位は次のようになります。

1 セル

2 行

3 テーブル

たとえば、1 つのセルの背景色を青色に設定し、テーブル全体の背景色を黄色に設定した場合は、セルフォーマットがテーブルフォーマットより優先されるので、青色のセルは黄色に変わりません。

注意：Dreamweaver では、列のプロパティを設定すると、設定内容に応じて列内の各セルに対応する *td* タグの属性が変更されます。

テーブルセルの分割とマージについて

一列に並んだセルまたは四角形の形に並んだセルであれば、任意の数の隣接するセルをマージして、複数の列と行にわたる単一セルを作成することができます。以前にマージされているかどうかにかかわらず、セルは任意の数の行または列に分割できます。Dreamweaver により、必要な colspan 属性または rowspan 属性が追加されてテーブルが自動的に再構成され、指定どおりの配置が実現されます。

以下の例では、最初の 2 行の中央にあるセルが、2 行にまたがる単一セルとしてマージされています。

テーブルの挿入とコンテンツの追加

新規のテーブルを作成するには [挿入] バーまたは [挿入] メニューを使用します。次に、テーブルセルにテキストおよびイメージを追加します。操作方法は、テーブルの外部にテキストやイメージを追加する場合と同じです。

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、テーブルを表示する位置に挿入ポイントを置きます。

注意：ドキュメントが空白の場合は、ドキュメントの先頭にしか挿入ポイントを配置できません。

- [挿入]-[テーブル] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで、[テーブル] をクリックします。

2 [テーブル] ダイアログボックスで以下の属性を設定し、[OK] をクリックしてテーブルを作成します。

行 テーブルの行数を指定します。

列 テーブルの列数を指定します。

テーブルの幅 テーブル幅をピクセル値で指定するか、またはブラウザウィンドウの幅に対する割合で指定します。

ボーダーの太さ テーブルのボーダー幅をピクセル値で指定します。

セル内間隔 隣接するテーブルセルの間隔をピクセル単位で指定します。

ボーダーの太さやセルの余白と間隔を明示的に指定しなければ、一般的なブラウザでは、ボーダーとセル内余白が 1、セル内間隔が 2 に設定されているものとしてテーブルが表示されます。テーブルのボーダー、余白、間隔を表示しないようにするには、[セル内余白] および [セル内間隔] を 0 に設定してください。

セル内余白 セルのボーダーとコンテンツの間のピクセル数を指定します。

なし テーブルの列見出しまたは行見出しが使用できなくなります。

左 テーブルの最初の列が見出し列になり、テーブルの各 " 行 " に対する見出しを入力できるようになります。

上 テーブルの最初の行が見出し行になり、テーブルの各 列 に対する見出しを入力できるようになります。

両方 テーブル内に列見出しと行見出しの両方を入力できます。

Web サイトのビジターがスクリーンリーダーを使用する場合に備えて、ヘッダーを使用することをお勧めします。スクリーンリーダーがテーブルの見出しを読み上げることで、スクリーンリーダーのユーザーはテーブル情報を知ることができます。

キャプション テーブル外に表示されるテーブルのタイトルを指定します。

キャプションの整列 テーブルキャプションがテーブルに対してどの位置に表示されるかを指定します。

サマリー テーブルの説明を指定します。スクリーンリーダーはサマリーテキストを読み上げますが、このテキストはユーザーのブラウザには表示されません。

関連項目

217 ページの「テキストの追加とフォーマット」

233 ページの「イメージの追加と変更」

テーブルデータの読み込みと書き出し

他のアプリケーション (Microsoft Excel など) で作成され、区切り記号付きテキストフォーマット (項目がタブ、カンマ、コロン、またはセミコロンで区切られている形式) で保存された表形式のデータを Dreamweaver に読み込んで、テーブルとしてフォーマットできます。

さらに、テーブル内のデータを、Dreamweaver からテキストファイルに書き出すこともできます。このとき、隣接するセルのコンテンツは区切り記号で区切られます。使用できる区切り記号は、カンマ、コロン、セミコロン、スペースです。テーブルを書き出す場合、テーブル全体が書き出されます。テーブルの一部を選択して書き出すことはできません。

テーブルの中の一部のデータのみ (最初の 6 行や最初の 6 列など) が必要な場合は、そのデータを含むセルをコピーし、テーブルの外にペーストして新規テーブルを作成してから、その新規テーブルを書き出します。

テーブルデータの読み込み

1 次のいずれかの操作を実行します。

- [ファイル]-[読み込み]-[表データ] を選択します。
- [挿入] バーの [データ] カテゴリで、[表データの読み込み] アイコンをクリックします。
- [挿入]-[テーブルオブジェクト]-[表データの読み込み] を選択します。

2 表データの以下のオプションを指定して [OK] をクリックします。

データファイル 読み込むファイルの名前を指定します。[参照] ボタンをクリックしてファイルを選択します。

区切り 読み込むファイルで使われている区切り文字を指定します。

[その他] を選択すると、テキストボックスがポップアップメニューの右側に表示されます。ここに、ファイルで使用する区切り文字を入力します。

注意：データファイルの保存時に使用された区切り文字を指定してください。区切り文字を正確に指定しないと、ファイルが適切に読み込まれず、データがテーブル内で正しくフォーマットされません。

テーブルの幅 テーブルの幅を指定します。

- 列内で最も長いテキストストリングが収まる幅の列を作成するには、[データに適合] を選択します。
- ピクセル単位またはブラウザウィンドウの幅に対する割合でテーブル幅を固定値で指定するには、[設定] を選択します。

ボーダー テーブルのボーター (枠線) の幅をピクセル単位で指定します。

セル内余白 セルのコンテンツとボーダーの間隔をピクセル単位で指定します。

セル内間隔 隣接するテーブルセルの間隔をピクセル単位で指定します。

ボーダーの幅やセルの余白と間隔を明示的に指定しなければ、一般的なブラウザでは、ボーダーとセル内余白が 1、セル内間隔が 2 に設定されているものとしてテーブルが表示されます。テーブルに余白と間隔を表示しないようにするには、[セル内余白] および [セル内間隔] を 0 に設定します。ボーダーを 0 に設定しているときにセルおよびテーブルの境界を見るには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[テーブルボーダー] を選択してください。

最上行のフォーマット 必要に応じて、テーブルの最上行に適用するフォーマットを指定できます。フォーマットなし、ボールド、イタリック、ボールドイタリックの 4 つのフォーマットオプションから選択します。

テーブルの書き出し

1 テーブル内の任意のセルに挿入ポイントを置きます。

2 [ファイル]-[書き出し]-[テーブル] を選択します。

3 次のオプションを指定します。

区切り 書き出すファイル内の項目間を区切るのに使用する区切り文字を指定します。

改行 書き出したファイルを開くオペレーティングシステムを Windows、Macintosh、または UNIX から選択します。オペレーティングシステムが異なれば、テキストの行末を示す方法が異なるからです。

4 [書き出し] をクリックします。

5 ファイル名を入力して [保存] をクリックします。

テーブルエレメントの選択

一度にテーブル全体、行、または列を選択できます。個別のセルを選択することもできます。

テーブル、行、列、またはセル上にポインタを置くと、Dreamweaver により選択範囲に含まれるすべてのセルがハイライト表示されるため、選択対象となるセルを確認できます。これは、ボーダーのないテーブル、複数の列や行にまたがったセル、またはネストされたテーブルを取り扱う場合に役に立ちます。ハイライトカラーは環境設定で変更できます。

ポインタをテーブルのボーダー上に置き、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押したままにすると、テーブルの構造全体、つまりテーブル内のすべてのセルがハイライト表示されます。これは、テーブルがネストされている場合に、その中の特定のテーブルの構造を表示するのに役立ちます。

テーブル全体の選択

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- テーブルの左上隅、テーブルの右端または下端、あるいは行または列のボーダーをクリックします。

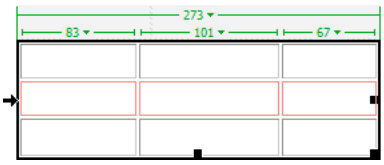
注意：テーブルを選択できるときは、ポインタがテーブルのグリッドアイコンに変わります (行または列のボーダーをクリックしない場合)。

- テーブルセル内でクリックし、ドキュメントウィンドウの左下隅にあるタグセレクタで <table> タグを選択します。
- テーブルセル内でクリックして、[修正]-[テーブル]-[テーブル選択] を選択します。
- テーブルセル内でクリックし、テーブルのヘッダーメニューをクリックし、[テーブル選択] を選択します。選択ハンドルが、選択したテーブルの下端および右端 に表示されます。

個別あるいは複数の行または列の選択

1 ポインタを行の左端または列の上端部分に移動します。

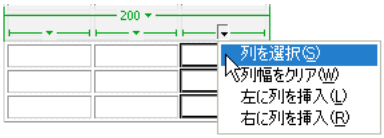
2 ポインタが選択矢印に変わったら、クリックして行または列を選択するか、またはドラッグして複数の行または列を選択します。



1 つの列の選択

1 列内をクリックします。

2 列ヘッダーメニューをクリックし、[列を選択] を選択します。



1 つのセルの選択

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- テーブルセル内でクリックし、ドキュメントウィンドウの左下隅にあるタグセレクタで <td> タグを選択します。
- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらセル内をクリックします。
- セル内をクリックし、[編集]-[すべて選択] を選択します。

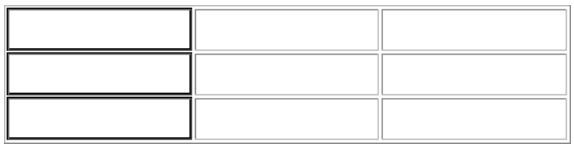
テーブル全体を選択しようとして単一のセルが選択された場合は、もう一度 [編集]-[すべて選択] を選択してください。

一列または四角形に並んだセルの選択

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- あるセルから別のセルまでドラッグします。
- セルを 1 つクリックし、そのセル内で Ctrl キーを押しながらクリック (Windows) または Command キーを押しながらクリック (Macintosh) して選択します。次に Shift キーを押しながら別のセルをクリックします。

選択した 2 つのセルで一列または長方形状にはさまれた範囲にあるすべてのセルが選択されます。



連続しない複数のセルの選択

❖ Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、選択するセル、行、または列をクリックします。

まだ選択されていないセル、行、または列を Ctrl キーまたは Command キーを押しながらクリックすると、選択範囲に追加されます。既に選択されている場合は、選択が解除されます。

テーブルエレメントのハイライトカラーの変更

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストで [ハイライト] を選択し、以下のいずれかの変更を行って [OK] をクリックします。

- テーブルエレメントのハイライトカラーを変更するには、[マウスオーバー] カラーボックスをクリックし、カラーピッカーを使用してハイライトカラーを選択します。または、テキストボックスにハイライトカラーの 16 進数値を入力します。
- テーブルエレメントのハイライト表示のオン / オフを切り替えるには、[マウスオーバー] の [表示] オプションをオンまたはオフにします。

注意：これらのオプションは、ポインタを置くと Dreamweaver によりハイライト表示される、絶対位置のエレメント (AP エレメント) およびレイアウトモードで表示されるテーブルやセルなどのすべてのオブジェクトに適用されます。

テーブルのプロパティの設定

プロパティインスペクタを使用して、テーブルを編集することもできます。

1 テーブルを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の右下隅にある縮小の三角形をクリックし、必要に応じて以下のプロパティを変更します。

テーブル ID テーブル ID を指定します。

[行] と [列] テーブルの行数と列数を指定します。

幅および高さ テーブルの幅と高さをピクセル値で指定するか、またはブラウザウィンドウの幅に対する割合で指定します。

注意：通常は、テーブルの高さを設定する必要はありません。

ボーダー テーブルのボーダー幅をピクセル値で指定します。

ボーダーの幅やセルの余白と間隔を明示的に指定しなければ、一般的なブラウザでは、ボーダーとセル内余白が 1、セル内間隔が 2 に設定されているものとしてテーブルが表示されます。テーブルに余白と間隔を表示しないようにするには、[ボーダー]、[セル内余白]、および [セル内間隔] を 0 に設定します。ボーダーを 0 に設定しているときにセルおよびテーブルの境界を見るには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[テーブルボーダー] を選択してください。

セル余白 セルのコンテンツとボーダーの間隔をピクセル単位で指定します。

セル間隔 隣接するテーブルセルの間隔をピクセル単位で指定します。

行揃え 同じ段落内にあるテキストやイメージなどのエレメントに対するテーブルの相対的な位置を指定します。

[左] を選択すると、テーブルは他のエレメントの左に配置されます (同じ段落内にあるテキストはテーブルの右側で折り返します)。[右] を指定すると、テーブルは他のエレメントの右に配置されます (テキストはテーブルの左で折り返します)。[中央] を指定すると、テーブルは中央に配置されます (テキストはテーブルの上または下、あるいはその両方に表示されます)。[指定なし] を選択すると、ブラウザの初期設定の行揃えが適用されます。

行揃えが [指定なし] に設定されると、他のコンテンツはテーブルの隣に表示されません。テーブルが他のコンテンツの隣に並ぶように表示するには、[左] または [右] を選択してください。

[列幅をクリア] および [行の高さをクリア] を選択すると、明示的に指定されたテーブルの列幅または行の高さがすべて削除されます。

[テーブル幅をピクセルに変換] および [テーブルの高さをピクセルに変換] では、テーブル内の各列の幅または高さを、ピクセル単位で表した現在の幅または高さに設定します (また、テーブル全体の幅もピクセル単位で表した現在の幅に設定します)。

[幅を%に変換] および [テーブルの高さを%に変換] では、テーブル内の各列の幅または高さを、ドキュメントウィンドウの幅に対する割合で表した現在の幅または高さに設定します。また、テーブル全体の幅もドキュメントウィンドウの幅に対する割合で表した現在の幅に設定します。

背景色 テーブルの背景色を指定します。

ボーダーカラー テーブルのボーダーの色を指定します。

背景イメージ テーブルの背景イメージを指定します。

テキストボックスに値を入力したら、Tab キーまたは Enter キー (Windows)、Return キー (Macintosh) を押して値を適用します。

セル、行、列のプロパティの設定

プロパティインスペクタを使用すると、テーブル内のセルや行を編集できます。

1 列または行を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、以下のオプションを設定します。

横 セル、行、または列のコンテンツの横方向の配置を指定します。セルのコンテンツをセルの左、右、中央のいずれかに配置されるように揃えたり、またはブラウザの初期設定 (通常のセルの場合は左配置、ヘッダーセルの場合は中央配置) を使用するように指定できます。

縦 セル、行、または列のコンテンツの縦方向の配置を指定します。コンテンツをセルの上、中央、下、ベースラインのいずれかに配置されるように揃えたり、またはブラウザの初期設定 (通常は中央配置) を使用するように指定することができます。

幅および高さ 選択したセルの幅と高さをピクセル単位、またはテーブル全体の幅または高さに対する割合で指定します。割合で指定するには、値の後にパーセント記号 (%) を付けます。ブラウザの自動調整機能を使って、コンテンツや他の列と行の幅と高さを基に、適切な幅や高さで選択したセルを表示するには、フィールドを空白のままにします (初期設定)。

初期設定では、ブラウザ側で、列内の最も幅の広いイメージまたは最も長い行が収まるように行の高さと列の幅が選択されます。コンテンツを追加した列が、テーブルの他の列よりもはるかに広くなることがあるのはこのためです。

注意：高さは、テーブル全体の高さに対する割合で指定できますが、ブラウザでは、指定した割合の高さで行が表示されない場合があります。

背景 (上側テキストフィールド) セル、列、または行の背景イメージのファイル名を指定します。フォルダアイコンをクリックしてイメージを参照するか、または [ファイルの指定] アイコンを使用してイメージファイルを選択します。

背景 (下側の色見本とテキストフィールド) カラーピッカーを使用して、セル、列、または行の背景色を指定します。

ボーダー セルのボーダー色を指定します。

セルのマージ 選択したセル、行、列が 1 つのセルに結合されます。セルをマージできるのは、選択したセルが長方形または一列に並んでいる場合のみです。

セルの分割 セルが複数のセルに分割されます。セルは一度に 1 つしか分割できません。複数のセルを選択した場合、このボタンは使用不可になります。

折り返さない クリックすると、行の折り返しが禁止され、すべてのテキストが指定されたセル内に 1 行で保持されます。[折り返さない] が有効になっていると、入力したデータ、またはセルにペーストしたデータに応じてセルが拡張します。通常、セルは最も長い語または最も幅広のイメージが収まるように左右方向に拡張された後、他のコンテンツが収まるように必要に応じて上下方向にも拡張されます。

ヘッダー 選択したセルをテーブルヘッダーセルとしてフォーマットします。初期設定では、テーブルヘッダーセルのコンテンツはボールドで、中央に整列されます。

幅および高さの指定単位にはピクセルまたはパーセントを使用でき、ピクセルからパーセントへ、またはその逆に変換することができます。

注意：Dreamweaver では、列のプロパティを設定すると、設定内容に応じて列内の各セルに対応する td タグの属性が変更されます。これに対して、行のプロパティの一部を設定すると、Dreamweaver によって tr タグの属性は変更されますが、行内の各 td タグの属性は変更されません。1 つの行のすべてのセルに同じフォーマットを適用する場合は、フォーマットを tr タグに適用すると、見やすく簡潔な HTML コードを作成できます。

3 Tab キーか Enter キー (Windows)、または Return キー (Macintosh) を押して値を適用します。

テーブルを簡単に編集するための拡張テーブルモードの使用

拡張テーブルモードでは、ドキュメント内のすべてのテーブルに対して一時的にセル内の余白や間隔を追加し、テーブルのボーダーを広げることで、編集作業を簡単にします。このモードでは、テーブル内のアイテムを選択でき、挿入ポイントを正確に配置できます。

たとえば、テーブルを拡張すると、イメージの右側または左側に挿入ポイントを配置するときに誤ってイメージやテーブルセルを選択することがありません。

注意：選択、または挿入ポイントの配置が済んだら、デザインビューの標準モードに戻って編集を行います。サイズ変更などの視覚的な操作の場合、拡張テーブルモードでは意図したとおりの結果を得られないことがあります。

拡張テーブルモードへの切り替え

1 コードビューで作業をしている場合は、[表示]-[デザイン]、または [表示]-[コードとデザイン] を選択します。コードビューでは、拡張テーブルモードに切り替えることはできません。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [表示]-[テーブルモード]-[拡張テーブルモード] を選択します。
- [挿入] バーの [レイアウト] カテゴリで、[拡張テーブルモード] をクリックします。

拡張テーブルモードというバーがドキュメントウィンドウの上部に表示されます。Dreamweaver により、ページ上のすべてのテーブルのセルに余白や間隔が追加され、テーブルのボーダーが広げられます。

拡張テーブルモードの終了

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- ドキュメントウィンドウの上部にある拡張テーブルモードというバーで、[終了] をクリックします。
- [表示]-[テーブルモード]-[標準モード] を選択します。
- [挿入] バーの [レイアウト] カテゴリで、[標準モード] をクリックします。

テーブルおよびセルのフォーマット

テーブルの表示を変更するには、テーブルやセルのプロパティを設定するか、または既存のテーブルデザインを適用します。テーブルおよびセルのプロパティを設定する際は、フォーマットの優先順位が、セル、行、テーブルの順番になる点に注意してください。

テーブルセル内のテキストをフォーマットするには、テーブルの外にあるテキストをフォーマットするときと同じ手順を使用します。

関連項目

217 ページの「テキストの追加とフォーマット」

テーブル、行、セル、または列のフォーマット変更

1 テーブル、セル、行、または列を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の右下隅にある縮小の三角形をクリックし、必要に応じて以下のプロパティを変更します。

3 必要に応じてプロパティを変更します。

オプションの詳細については、プロパティインスペクタの [ヘルプ] アイコンをクリックしてヘルプを参照してください。

注意：Dreamweaver では、列のプロパティを設定すると、設定内容に応じて列内の各セルに対応する td タグの属性が変更されます。これに対して、行のプロパティの一部を設定すると、Dreamweaver によって tr タグの属性は変更されますが、行内の各 td タグの属性は変更されません。1 つの行のすべてのセルに同じフォーマットを適用する場合は、フォーマットを tr タグに適用すると、見やすく簡潔な HTML コードを作成できます。

コードビューでのテーブルのアクセシビリティ値の追加または編集

❖ コード内の該当する属性を編集します。

コード内のタグを素早く見つけるには、テーブル内でクリックし、ドキュメントウィンドウの下部にあるタグセレクタで <table> タグを選択します。

デザインビューでのテーブルのアクセシビリティ値の追加または編集

- テーブルのキャプションを編集するには、キャプションをハイライト表示し、新しいキャプションを入力します。
- キャプションの整列を編集するには、テーブルのキャプション内に挿入ポイントを配置し、右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[タグコードの編集] を選択します。
- テーブルのサマリーを編集するには、テーブルを選択し、右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[タグコードの編集] を選択します。

テーブル、列、および行のサイズ変更

テーブルのサイズ変更

テーブル全体、または個々の行や列のサイズを変更できます。テーブル全体のサイズを変更すると、テーブル内のセルはすべて、比例してサイズ変更されます。セルに対して幅または高さが明示的に指定されている場合に、そのセルを含むテーブルのサイズを変更すると、ドキュメントウィンドウに表示されるセルの画面上のサイズは変わりますが、セルの指定された幅と高さは変更されません。

テーブルのサイズを変更するには、テーブルのいずれかの選択ハンドルをドラッグします。テーブルが選択されている場合または挿入ポイントがテーブルにある場合、Dreamweaver により、テーブルの上部または下部に、テーブルヘッダーメニューと一緒にテーブル幅が表示されます。

HTML コード内の列幅セットが画面上の表示幅と一致しないことがあります。この場合、幅を合わせることができます。Dreamweaver に表示されるテーブルと列の幅およびヘッダーメニューは、必要に応じて表示と非表示を切り替えることができるため、テーブルをレイアウトするのに便利です。

列および行のサイズ変更

列の幅または行の高さを変更するには、プロパティインスペクタを使用するか、列または行のボーダーをドラッグします。サイズ変更がうまくいかない場合は、列の幅または行の高さをクリアしてもう一度やり直してください。

注意：コードビューで HTML コードを直接変更して、セルの幅および高さを変更することもできます。

テーブルが選択されている場合または挿入ポイントがテーブル内にある場合は、Dreamweaver により、列の上部または下部に、列ヘッダーメニューとともに列幅が表示されます。列ヘッダーメニューは、必要に応じて表示と非表示を切り替えることができます。

関連項目

288 ページの「ページコードを使用した操作」

テーブル、列、および行のサイズ変更

テーブルのサイズ変更

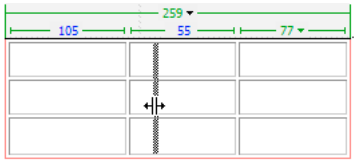
❖ テーブルを選択します。

- テーブルの横方向のサイズを変更するには、右端の選択ハンドルをドラッグします。
- テーブルの縦方向のサイズを変更するには、下端の選択ハンドルをドラッグします。
- テーブルの両方向でサイズを変更するには、右下隅の選択ハンドルをドラッグします。

テーブル全体の幅を保ったまま列幅を変更

❖ 変更する列の右側のボーダーをドラッグします。

隣接する列の幅も変化するため、実際には 2 つの列のサイズを変更することになります。列がどのように調節されるかが表示されます。テーブル全体の幅は変更されません。

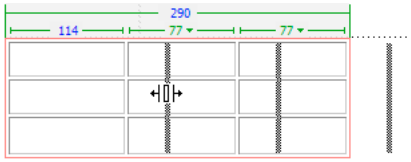


注意：幅がピクセル数ではなくパーセントで指定されているテーブルでは、右端の列の右ボーダーをドラッグすると、テーブル全体の幅が変化し、すべての列がそれに比例して広くなったり狭くなったりします。

他の列のサイズを保ったまま列幅を変更

❖ Shift キーを押したまま、列のボーダーをドラッグします。

1 つの列の幅が変更されます。列がどのように調整されるかが表示されます。テーブル全体の幅は、サイズ変更する列に合わせて変化します。



行の高さを画面上で変更

❖ 行の下ボーダーをドラッグします。

コードの列幅を表示幅に統一

1 セル内をクリックします。

2 テーブルヘッダーメニューをクリックし、[すべての幅を固定] を選択します。

Dreamweaver により、コードに指定されている幅が表示幅に合わせて再設定されます。

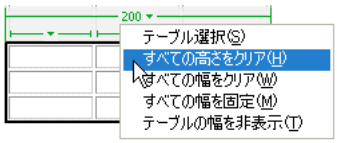
テーブルに設定されている幅または高さをすべてクリア

1 テーブルを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [修正]-[テーブル]-[列幅のクリア]、または [修正]-[テーブル]-[行の高さをクリア] を選択します。
- プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[行の高さをクリア] ボタン または [列幅をクリア] ボタン をクリックします。

• テーブルヘッダーメニューをクリックし、[すべての高さをクリア] または [すべての幅をクリア] を選択します。



列に設定されている幅のクリア

❖ 列内をクリックし、列ヘッダーメニューをクリックして、[列幅をクリア] を選択します。

テーブルと列の幅およびメニューの表示と非表示の切り替え

1 [表示]-[ビジュアルエイド]-[テーブルの幅] を選択します。

2 テーブル内を右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[テーブル]-[テーブルの幅] を選択します。

行と列の追加および削除

行と列を追加および削除するには、[修正]-[テーブル] または列ヘッダーメニューを使用します。

テーブルの最後のセルで Tab キーを押すと、自動的にテーブルに行が 1 つ追加されます。

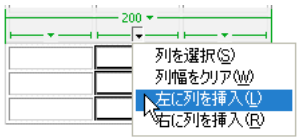
1 つの行または列の追加

❖ セル内をクリックし、次のいずれかの操作を行います。

• [修正]-[テーブル]-[行の挿入] または [修正]-[テーブル]-[列の挿入] を選択します。

行の場合は挿入ポイントの上、列の場合は挿入ポイントの左側に表示されます。

• 列ヘッダーメニューをクリックし、[左に列を挿入] または [右に列を挿入] を選択します。



複数の行または列の追加

1 セル内をクリックします。

2 [修正]-[テーブル]-[行または列の挿入] を選択し、表示されるダイアログボックスに情報を入力して [OK] をクリックします。

挿入 行を挿入するか、列を挿入するかを指定します。

[行数] または [列数] 挿入する行または列の数を指定します。

場所 新しい行または列を、選択したセルが含まれる行または列の前と後のどちらに追加するかを指定します。

行または列の削除

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

• 削除する行または列内のセルをクリックし、[修正]-[テーブル]-[行の削除] または [修正]-[テーブル]-[列の削除] を選択します。

• 行全体または列全体を選択し、[編集]-[クリア] を選択するか、Delete キーを押します。

プロパティインスペクタを使用して行または列を追加または削除

1 テーブルを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、以下のいずれかの操作を行います。

- 行を追加または削除するには、[行] の値を増減します。
- 列を追加または削除するには、[列] の値を増減します。

注意： Dreamweaver では、データが入力されている行や列を削除する場合でも、警告メッセージは表示されません。

セルの分割およびマージ

プロパティインスペクタ、または [修正]-[テーブル] サブメニューのコマンドを使用して、セルを分割またはマージします。

セルをマージおよび分割する別の方法として、Dreamweaver には、セルを構成する行または列の数を変更する機能もあります。

テーブル内の複数のセルをマージ

1 互いに隣り合っていて四角形に並んでいるセルを選択します。

次の図では、選択範囲が四角形なので、セルをマージできます。

Location Name	City	State or Country
Baltimore-Washington International	Baltimore	MD
Cairo International	Cairo	Egypt
Canberra	Canberra	Australia
Cairns	Cairns	Queensland
Cape Town Airport	Cape Town	South Africa

次の図では、選択範囲が四角形ではないので、セルをマージできません。

Location Name	City	State or Country
Baltimore-Washington International	Baltimore	MD
Cairo International	Cairo	Egypt
Canberra	Canberra	Australia
Cairns	Cairns	Queensland
Cape Town Airport	Cape Town	South Africa

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [修正]-[テーブル]-[セルのマージ] を選択します。
- 展開されているプロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[セルのマージ] をクリックします。

注意：ボタンが表示されない場合は、プロパティインスペクタの右下隅にある矢印をクリックすると、すべてのオプションが表示されます。

個別のセルのコンテンツは、でき上がったマージしたセル内に配置されます。選択した最初のセルのプロパティが、マージしたセルに適用されます。

セルの分割

1 セル内をクリックし、次のいずれかの操作を行います。

- [修正]-[テーブル]-[セルの分割] を選択します。
- 展開してあるプロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[セルの分割] をクリックします。

注意：ボタンが表示されない場合は、プロパティインスペクタの右下隅にある矢印をクリックすると、すべてのオプションが表示されます。

2 [セルの分割] ダイアログボックスで、セルの分割方法を指定します。

セル分割 セルを行または列に分割するかどうかを指定します。

[行数]/[列数] セルを分割する行または列の数を指定します。

セルを構成する行または列の数の増減

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [修正]-[テーブル]-[行の拡大] または [修正]-[テーブル]-[列の拡大] を選択します。
- [修正]-[テーブル]-[行の縮小] または [修正]-[テーブル]-[列の縮小] を選択します。

セルのコピー、ペースト、および削除

セルのフォーマットを保持しながら、単一のセル、または複数のセルを一度にコピー、ペースト、または削除できます。

セルをペーストする場合、挿入ポイントにペーストできます。また、既存のテーブルの選択範囲に置き換わる形でもペーストできます。複数のテーブルセルをペーストするには、クリップボードのコンテンツが、セルがペーストされるテーブルまたはテーブル内の選択範囲の構成と適合している必要があります。

テーブルセルのカットまたはコピー

1 単一のセル、または互いに隣り合っていて四角形に並んでいる複数のセルを選択します。

次の図では、選択範囲が四角形なので、セルをカットまたはコピーできます。

Location Name	City	State or Country
Baltimore-Washington International	Baltimore	MD
Cairo International	Cairo	Egypt
Canberra	Canberra	Australia
Cairns	Cairns	Queensland
Cape Town Airport	Cape Town	South Africa

次の図では、選択範囲が四角形ではないので、セルをカットまたはコピーできません。

Location Name	City	State or Country
Baltimore-Washington International	Baltimore	MD
Cairo International	Cairo	Egypt
Canberra	Canberra	Australia
Cairns	Cairns	Queensland
Cape Town Airport	Cape Town	South Africa

2 [編集]-[カット] または [編集]-[コピー] を選択します。

注意：行全体または列全体を選択して [編集]-[カット] を選択すると、セルのコンテンツだけでなく、その行または列全体がテーブルから切り取られます。

テーブルセルのペースト

1 セルをペーストする場所を選択します。

- 既存のセルをペーストするセルで上書きするには、ペースト先のセル範囲を選択するときに、クリップボード内のセルと同じレイアウトになるように選択します。たとえば、3 × 2 ブロックのセルをコピーまたはカットした場合は、3 × 2 ブロックのセルを選択してペーストすると、上書きできます。
- 特定のセルの上に 1 つの行全体をペーストするには、そのセル内でクリックします。
- 特定のセルの左側に 1 つの列全体をペーストするには、そのセル内でクリックします。

注意：クリップボード内のセルがペースト先の行全体または列全体のセル数に満たない場合に、テーブル内の 1 つのセルをクリックしてクリップボードにあるセルをペーストすると、クリックしたセルとそれに隣接したセルが (テーブル内の場所に応じて) ペーストしたセルで上書きされることがあります。

- ペーストするセルで新しいテーブルを作成するには、挿入ポイントをテーブルの外に置きます。

2 [編集]-[ペースト] を選択します。

行または列全体を既存のテーブルにペーストしている場合は、行または列がテーブルに追加されます。個別のセルをペーストしている場合は、選択されたセルのコンテンツが置き換えられます。テーブルの外側にペーストしているときは、該当の行、列、セルが新規テーブルの定義に使用されます。

セルを残したままセルのコンテンツだけを削除

1 セルを選択します。

注意：1 つの行全体または列全体を選択していないことを確認してください。

2 [編集]-[クリア] を選択するか、または Delete キーを押します。

注意：行全体または列全体を選択して [編集]-[クリア] を選択するか Delete キーを押すと、セルのコンテンツだけでなく、選択した行または列全体がテーブルから削除されます。

マージされたセルを含む行または列の削除

1 行または列を選択します。

2 [修正]-[テーブル]-[行の削除] または [修正]-[テーブル]-[列の削除] を選択します。

テーブルのネスト

ネストされたテーブルとは、他のテーブルのセル内に挿入されたテーブルのことです。ネストされたテーブルは、他のテーブルの場合と同様にフォーマットできます。ただし、テーブルの幅は、テーブルが含まれるセルの幅に制約されます。

1 既存のテーブルのセル内でクリックします。

2 [挿入]-[テーブル] を選択し、[テーブルの挿入] オプションを設定して [OK] をクリックします。

テーブルのソート

1 つの列のコンテンツを基準にしてテーブルの行をソートできます。2 列のコンテンツに基づく、さらに複雑なテーブルのソートもできます。

属性の colspan または rowspan を含むテーブル、つまりマージされたセルを含むテーブルはソートできません。

1 テーブルを選択するか、任意のセルをクリックします。

2 [コマンド]-[テーブルのソート] を選択し、表示されるダイアログボックスで以下のオプションを設定して [OK] をクリックします。

ソート条件 どの列の値を基準にしてテーブル行をソートするかを指定します。

順序 列をアルファベット順と数値順のどちらでソートするか、また昇順 (A ～ Z、低位の数値から高位の数値へ) と降順のどちらでソートするかを指定します。

列のコンテンツが数値の場合、[番号順] を選択します。1 桁または 2 桁の数値のリストにアルファベット順ソートを適用すると、数値は数字の順序 (たとえば、1、2、3、10、20、30) ではなく、単語と見なした順序 (たとえば、1、10、2、20、3、30) でソートされます。

第 2 のソート条件および順序 第 2 のソート条件として使用する別の列を指定します。[第 2 のソート条件] ポップアップメニューで 2 番目のソート基準とする列を指定し、[順序] ポップアップメニューで第 2 のソート順序を指定してください。

最初の行も含めてソートする オンにすると、テーブルの最初の行がソートに含まれます。先頭の行を見出しとして先頭の位置から動かしたくない場合は、このオプションをオフにします。

ヘッダー行をソートする テーブルに thead セクションがある場合に、そこに含まれるすべての行を本体の行と同じ基準を使用してソートします。thead 行は thead セクションに残り、ソート後もそのままテーブルの最上段に表示されます。thead タグに関する詳細については、[リファレンス] パネル ([ヘルプ]-[リファレンス] を選択) を参照してください。

フッター行をソートする テーブルに tfoot セクションがある場合に、そこに含まれるすべての行を本体の行と同じ基準を使用してソートします。tfoot 行は tfoot セクションに残り、ソート後もそのままテーブルの最下段に表示されます。tfoot タグに関する詳細については、[リファレンス] パネル ([ヘルプ]-[リファレンス] を選択) を参照してください。

ソートの完了後もすべての行カラーを維持する オンにすると、コンテンツと関連付けられたテーブル行の属性 (カラーなど) が、ソート後もそれぞれの行に保持されます。テーブル行が 2 つの交互に並ぶカラーでフォーマットされている場合、ソートされたテーブルでも行が同じように交互に色分けされるようにするには、このオプションをオフにします。行の属性が各行のコンテンツに固有のものである場合は、このオプションをオンにして、ソート後のテーブルでも、行と属性との関連付けが保たれるようにします。

レイアウトモードでのページのレイアウト

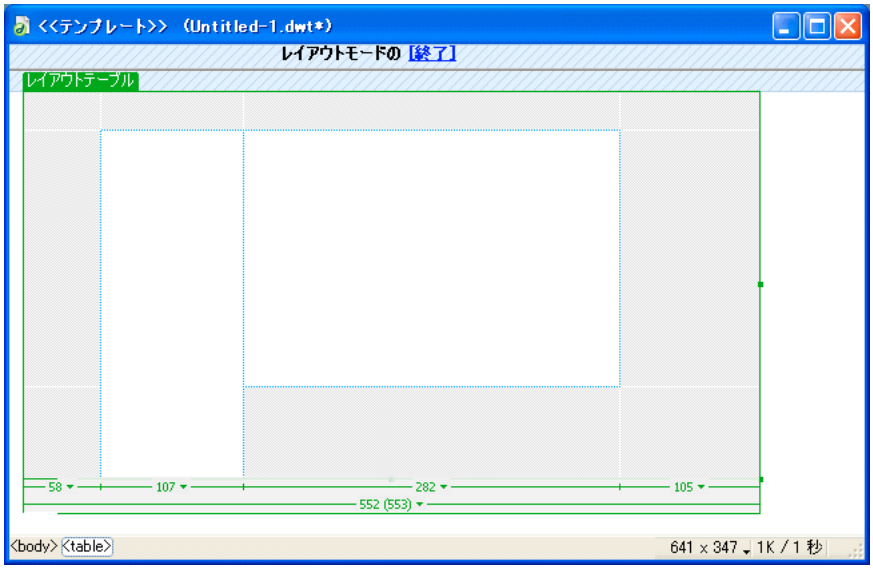
レイアウトモードについて

ページをレイアウトする際、HTML テーブルを使用して要素を配置するという方法が一般的です。ただし、テーブルは本来表データを表示するためのものなので、Web ページのレイアウトには使用しづらい面もあります。Dreamweaver には、テーブルを使用したページレイアウトに便利なレイアウトモードが用意されています。

レイアウトモードでは、レイアウトセルおよびレイアウトテーブルを使用して、コンテンツを追加する前にページをレイアウトします。たとえば、ページの上にヘッダーグラフィック用のセルを、ページの左側にナビゲーションバー用のセルを、右側にコンテンツ用のセルを描画できます。コンテンツを追加するときに、必要に応じてセルを移動してレイアウトを調整できます。

コンテンツを配置する準備ができてから各セルを描画するというのが、最もフレキシブルな方法です。これにより、レイアウトテーブルに空白領域を長く残しておけるので、より簡単にセルの移動やサイズ変更ができます。

レイアウトテーブルは緑のアウトラインで、レイアウトセルは青のアウトラインでページに表示されます ポインタをテーブルセルの上に移動すると、Dreamweaver により、そのセルがハイライト表示されます。デフォルトのアウトラインカラーとハイライトカラーは環境設定で変更できます。



ページは、Web ページのレイアウトで最も一般的な、単一レイアウトテーブル内に複数のレイアウトセルを作成する方法、または複数の個別のレイアウトテーブルを作成し、より複雑なレイアウトを作成する方法でレイアウトできます。レイアウトテーブルを複数使用するとレイアウトの各セクションが分離されるため、他のセクションの変更の影響を受けなくなります。

既存のレイアウトテーブル内に新しいレイアウトテーブルを配置して、レイアウトテーブルをネストすることもできます。この方法を使用すると、レイアウト内の一部の行または列が、レイアウト内の他の行または列と整列しない場合に、テーブルの構造を単純化できます。たとえば、ネストされたレイアウトテーブルでは、左の列に 4 行、そして右の列に 3 行の、2 列から成るレイアウトを簡単に作成できます。

注意：標準モードまたはレイアウトモードでテーブルを使用する代わりに、CSS 位置指定を使用してページをレイアウトすることも可能です。

関連項目

169 ページの「テーブルを使用したコンテンツの表示」

139 ページの「CSS を使用したページのレイアウト」

レイアウトモードでのテーブルおよびセルの幅の表示

レイアウトテーブルとセルの幅は、テーブルが選択されている場合または挿入ポイントがテーブル内にある場合に、テーブルの上部または下部にピクセル単位またはページ幅に対する割合で表示されます。幅の横にテーブルヘッダーメニューと列ヘッダーメニューの矢印が表示されます。これらのメニューを使用すると、よく使用されるコマンドに素早くアクセスできます。

注意：テーブルのタブおよびヘッダーメニューと一緒に列幅を表示しないようにするには、すべてのビジュアルエイドを非表示にします ([表示]-[ビジュアルエイド]-[すべて非表示])。

列の幅が表示されず、次のいずれかのようになることがあります。

- 幅が表示されない。テーブルヘッダーメニューにテーブルまたは列の幅が表示されない場合、そのテーブルまたは列には HTML コードで指定された幅がありません。
- 2 つの数字が表示される。2 つの数字が表示される場合は、デザインビューに表示される表示幅と HTML コードに指定された幅が一致していません。これは、テーブルの右下隅をドラッグしてテーブルのサイズを変更するか、設定されている幅よりも大きいコンテンツをセルに追加した場合に発生します。

たとえば、200 ピクセルの幅に設定された列に対して、幅を 250 ピクセルに拡張するコンテンツを追加すると、その列の最上部に 2 つの数字が表示されます。この例の場合であれば、200 (コードに指定されている幅) およびカッコで囲まれた (250) という数値 (画面上に表示される列の表示幅) が示されます。

- 曲線が表示される。自動伸縮に設定されている列には、曲線が表示されます。
- ダブルバーが表示される。スペーサーイメージを含む列には、列幅の周囲にダブルバーが表示されます。

レイアウトテーブルおよびレイアウトセルのグリッドライン

レイアウトテーブルでレイアウトセルを描画する場合、薄いグリッド線が新しいレイアウトセルの端から、それを含むレイアウトテーブルの端まで表示されます。これらの線は、古いセルと新しいセルを整列する際や、HTML テーブルの基本構造を視覚的に確認する際に便利です。また、セルの位置に基づいて設定され、変更されない Dreamweaver グリッドも、ページのレイアウトに使用できます。

Dreamweaver により、新しいセルの端はすぐ近くにある既存のセルの端に自動的に吸着され、整列されます。レイアウトセルをオーバーラップすることはできません。また、テーブルの端近くにセルを描画すると、セルの端がそれを含むレイアウトテーブルの端に自動的に吸着されます。

関連項目

166 ページの「レイアウト用ビジュアルエイドの使用」

固定列幅および自動伸縮列

レイアウトモードの列の幅は、固定幅にすることも、ブラウザウィンドウに合わせて自動的に拡張すること (自動伸縮) もできます。

固定列幅 300 ピクセルなどの特定の数値幅に固定されます。各固定幅列の列幅は、Dreamweaver により列の上部または下部に表示されます。

自動伸縮列 ブラウザウィンドウの幅に応じて自動的に変更されます。レイアウトに自動伸縮列が含まれる場合、レイアウトは常にビジターのブラウザウィンドウの幅全体に拡大されて表示されます。自動伸縮を設定できるのは、レイアウトテーブル内の 1 つの列だけです。自動伸縮列の場合、列幅領域に曲線が表示されます。

一般的には、ページのメインコンテンツを含む列が自動伸縮にレイアウトされます。これにより、その他すべての列は固定幅に自動的に設定されます。たとえば、ページのレイアウトの左側には幅の広いイメージがあり、右側にはテキストの列があるとします。左の列を固定幅に設定し、サイドバー領域を自動伸縮に設定します。

列を自動伸縮に設定すると、スペーサーイメージを使用しないように指定していない限り、Dreamweaver により、固定幅の列にはスペーサーイメージが挿入され、その列の幅が一定に保たれます。スペーサーイメージは、ブラウザウィンドウでは表示されない透過イメージで、間隔の制御に使用されます。

スペーサーイメージ

スペーサーイメージ (スペーサー **GIF** ともいいます) は、自動伸縮テーブルで間隔を制御するために使用される透過イメージです。スペーサーイメージは、1 ピクセルの透明な GIF イメージで、指定された数値のピクセル幅に拡張されます。ブラウザでは、テーブルの列内のセルに含まれる最も幅の広いイメージよりも狭い列は描画できないため、テーブル列にスペーサーイメージを配置することにより、その列は少なくともスペーサーイメージの幅に維持されます。

スペーサーイメージを使用しないよう指定しない限り、列の自動伸縮を設定すると、Dreamweaver によりスペーサーイメージが自動的に追加されます。必要に応じて手動で各列のスペーサーイメージを追加および削除できます。スペーサーイメージを含む列には、列幅を表示される領域にダブルバーが表示されます。

スペーサーイメージは、手動で特定の列に挿入または特定の列から削除できます。また、ページ内のすべてのスペーサーイメージを削除することもできます。

標準モードからレイアウトモードへの切り替え

レイアウトテーブルまたはレイアウトセルを描画する前に、標準モードからレイアウトモードに切り替える必要があります。レイアウトモードでレイアウト用のテーブルを作成する場合は、テーブルへのコンテンツの追加やテーブル編集を行う前に、標準モードに切り替えることをお勧めします。

注意：標準モードでテーブルを作成してからレイアウトモードに切り替えると、レイアウトテーブル内に空のレイアウトセルが表示される場合があります。新しいレイアウトセルを作成したり、レイアウトセルを移動する前に、これらの空のレイアウトセルを削除しなければならない場合があります。

レイアウトモードへの切り替え

1 コードビューで作業している場合は、[表示]-[デザイン]、または [表示]-[コードとデザイン] を選択してデザインビューに切り替えます。

注意：コードビューではレイアウトモードに切り替えられません。

2 [表示]-[テーブルモード]-[レイアウトモード] を選択します。

レイアウトモードというバーがドキュメントウィンドウの上部に表示されます。ページ上にテーブルがある場合は、レイアウトテーブルとして表示されます。

レイアウトモードの終了

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- ドキュメントウィンドウの上部にあるレイアウトモードというバーで、[終了] をクリックします。
- [表示]-[テーブルモード]-[標準モード] を選択します。

• [挿入] バーの [レイアウト] カテゴリで、[標準] ボタンをクリックします。

Dreamweaver によって標準モードに戻ります。

レイアウトモードでの描画

レイアウトモードでは、セルとテーブルを描画できます。他のテーブルにネストされた複数のテーブルを描画することもできます。吸着グリッドを使用すると、セルの整列が容易になります。

レイアウトテーブル外にレイアウトセルを描画すると、Dreamweaver により、セルのコンテナとしてレイアウトテーブルが自動的に作成されます。レイアウトセルは、レイアウトテーブルの外側に置くことはできません。

注意：レイアウトモードでは、標準モードで使用できるテーブル挿入ツールおよび絶対位置の Div 描画ツールは使用できません。これらのツールを使用するには、まず標準モードに切り替える必要があります。

Dreamweaver が自動的に作成したレイアウトテーブルは、ドキュメントウィンドウのサイズを変更したときでも、最初はデザインビュー全体に拡大されて表示されます。初期設定のウィンドウ全体に拡大されたテーブルでは、デザインビューのどこにでもレイアウトセルを描画できます。テーブルボーダーをクリックし、テーブルのサイズ変更ハンドルをドラッグすると、テーブルを特定のサイズに設定できます。

ポインタをレイアウトセルの上に移動すると、Dreamweaver により、そのセルがハイライト表示されます。環境設定で、ハイライト表示のオン / オフを切り替えたり、ハイライトカラーを変更したりできます。

レイアウトテーブルを別のレイアウトテーブル内に描画することにより、ネストされたテーブルを作成することもできます。ネストされたテーブル内のセルは、外側のテーブルに対して実行された変更の影響を受けません。たとえば、外側のテーブルの行または列のサイズを変更しても、内側のテーブルセルのサイズは変わりません。

複数レベルのネストされたテーブルを挿入できます。ネストされたテーブルは、そのテーブルを含むテーブルより大きくすることはできません。

注意：レイアウトセルを描画する前にページの中央にレイアウトテーブルを描画すると、描画するテーブルは自動的により大きなテーブル内にネストされます。

関連項目

166 ページの「レイアウト用ビジュアルエイドの使用」

レイアウトセルの作成

1 現在、標準モードではなく、レイアウトモードであることを確認します。

2 [挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[レイアウトセル] を選択します。

3 ページ上のセルの開始位置にプラス記号 (+) ポインタを置き、そこからドラッグしてレイアウトセルを作成します。

メニュー項目を繰り返し選択しないで複数のレイアウトセルを描画するには、レイアウトセルを描画するときに、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらドラッグします。Ctrl キーまたは Command キーを押したままにすると、レイアウトセルを連続して描画できます。

レイアウトテーブルの端の近くにセルを描画すると、セルの端が自動的にレイアウトテーブルの端に吸着されます。吸着を一時的に使用不可にするには、Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながらセルを描画します。

ページ上のセルの周りに青いアウトラインが表示されます。アウトラインカラーは環境設定で変更できます。

レイアウトテーブルの描画

1 現在、標準モードではなく、レイアウトモードであることを確認します。

2 [挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[レイアウトテーブル] を選択します。

3 ページ上にプラス記号 (+) ポインタを置き、ドラッグしてレイアウトテーブルを作成します。

メニュー項目を繰り返し選択しないで複数のレイアウトテーブルを描画するには、レイアウトテーブルを描画するときに、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらドラッグします。Ctrl キーまたは Command キーを押したままにすると、レイアウトテーブルを連続して描画できます。

レイアウトテーブルは、ページレイアウト内の空いている領域、既存のレイアウトセルおよびテーブルの周辺、または既存のレイアウトテーブル内にネストして作成できます。ページにコンテンツがあり、ページレイアウトの空いている領域にレイアウトテーブルを追加する場合、新しいレイアウトテーブルを描画できるのはそのコンテンツの下だけです。

既存のコンテンツの下にレイアウトテーブルを描こうとしたときに、描画用ではないポインタが表示される場合は、ドキュメントウィンドウのサイズを変更し、既存のコンテンツの下とウィンドウの下の間の空白領域を大きくします。

注意：テーブルは互いにオーバーラップできませんが、他のテーブル内に完全に組み込むことができます。

ページ上のレイアウトテーブルの周りに緑のアウトラインが表示されます。アウトラインカラーは環境設定で変更できます。

レイアウトセルのハイライト表示の環境設定を変更

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [カテゴリ] リストから [ハイライト] を選択します。

3 次のいずれかの変更を加えて、[OK] をクリックします。

- ハイライトカラーを変更するには、[マウスオーバー] カラーボックスをクリックし、カラーピッカーを使用してハイライトカラーを選択します。または、テキストボックスにハイライトカラーの 16 進数値を入力します。
- ハイライト表示のオン / オフを切り替えるには、[マウスオーバー] の [表示] オプションをオンまたはオフにします。

注意：これらのオプションは、ポインタを置くとハイライト表示される、テーブルや絶対位置のエレメント (AP エレメント) などのすべてのオブジェクトに適用されます。

ネストされたレイアウトテーブルの描画

1 現在、標準モードではなく、レイアウトモードであることを確認します。

2 [挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[レイアウトテーブル] を選択します。

3 既存のレイアウトテーブルの空いている (グレーの) 領域にプラス記号 (+) ポインタを置き、ドラッグしてネストされたレイアウトテーブルを作成します。

注意：レイアウトセル内には、レイアウトテーブルを作成できません。ネストされたレイアウトテーブルは、既存のレイアウトテーブルの空いている領域か、既存のセルの周りにのみ作成できます。

既存のレイアウトセルまたはテーブルの周りにレイアウトテーブルを描画

1 現在、標準モードではなく、レイアウトモードであることを確認します。

2 [挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[レイアウトテーブル] を選択します。

3 プラス記号 (+) ポインタをドラッグして、既存のレイアウトセルまたはテーブルのセットの周囲に四角形を描きます。既存のセルまたはテーブルが囲まれ、新しいネストされたレイアウトテーブルが表示されます。

新しいネストされたテーブルの角に、既存のレイアウトセルがちょうど合うようにするには、セルの角の近くからドラッグを開始します。新しいテーブルの角がセルの角に吸着します。レイアウトセルに完全に包含されたレイアウトテーブルを作成することはできないため、レイアウトセルの中央でドラッグを開始することはできません。

レイアウトセルへのコンテンツの追加

標準モードの場合と同様に、レイアウトモードで、テキスト、イメージ、その他のコンテンツをレイアウトセルに追加できます。コンテンツを挿入するセルをクリックし、テキストを入力するか、その他のコンテンツを挿入します。

コンテンツをレイアウトテーブルの空いている (グレーの) 領域に挿入することはできません。そのため、テーブルにコンテンツを追加するには、最初にレイアウトセルを作成する必要があります。

レイアウトセルは、セルより大きなコンテンツを追加すると自動的に拡張されます。セルが拡張されるとそのセルが含まれる列も拡張されて、周囲のセルのサイズが変わることがあります。列の列幅にはコード内の幅が表示され、その後のカッコには列の表示幅 (画面上の実際の表示幅) が表示されます。

関連項目

217 ページの「テキストの追加とフォーマット」

レイアウトセルへのテキストの追加

1 テキストを追加するレイアウトセル内に挿入ポイントを配置します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- テキストをセルに入力します。入力していくとセルが自動的に拡張されます。
- 他のドキュメントからコピーしたテキストをペーストします。

レイアウトセルへのイメージの追加

1 イメージを追加するレイアウトセル内に挿入ポイントを配置します。

2 [挿入]-[イメージ] を選択します。

3 イメージファイルを選択して、[OK] をクリックします。

セルの高さのクリア

レイアウトセルを作成すると、Dreamweaver によりセルの高さが自動的に指定され、空であってもセルは描画した高さで表示されます。コンテンツをセルに挿入し、高さの指定が必要なくなったら、テーブルから明示的なセルの高さを削除できます。

❖ テーブルの上部にあるタブをクリックしてレイアウトテーブルを選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [行の高さをクリア] をクリックします。

Dreamweaver により、テーブルに指定されていた高さがすべてクリアされます。一部のテーブルセルは、垂直方向に縮小する可能性があります。

レイアウトセルおよびテーブルのサイズ変更と移動

レイアウトセルおよびネストされたレイアウトテーブルを移動およびサイズ変更して、ページレイアウトを調整できます。一番外側のレイアウトテーブルはサイズ変更のみ可能です。

レイアウトセルをサイズ変更または移動するときに、それらをオーバーラップすることはできません。さらに、セルを含むレイアウトテーブルの境界を越えて、セルを移動またはサイズ変更することもできません。レイアウトセルは、レイアウトセル内のコンテンツより小さくできません。

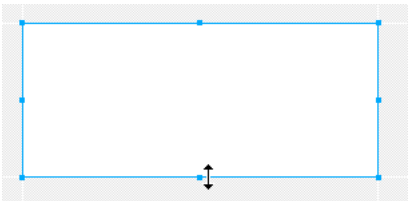
関連項目

166 ページの「レイアウト用ビジュアルエイドの使用」

レイアウトセルのサイズ変更

1 セルの端をクリックするか、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらセル内の任意の場所をクリックしてセルを選択します。

2 選択ハンドルをドラッグしてセルのサイズを変更します。



セルの端が自動的に吸着されて、その他のセルの端と整列します。

レイアウトセルの移動

1 セルの端をクリックするか、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらセル内の任意の場所をクリックしてセルを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらセルをレイアウトテーブル内の別の場所にドラッグします。
- セルを 1 ピクセルずつ移動するには、矢印キーを押します。

Shift キーを押しながら矢印キーを押すとセルが 10 ピクセルずつ移動します。

レイアウトテーブルのサイズ変更

1 テーブルの上部にあるタブをクリックし、テーブルを選択します。

2 選択ハンドルをドラッグしてテーブルのサイズを変更します。

テーブルの端が自動的に吸着されて、その他のセルおよびテーブルの端と整列します。

レイアウトテーブルの移動

1 テーブルの上部にあるタブをクリックし、テーブルを選択します。

注意：レイアウトテーブルを移動できるのは、テーブルが別のレイアウトテーブル内にネストされている場合のみです。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- テーブルをページ上の別の場所にドラッグします。
- テーブルを 1 ピクセルずつ移動するには、矢印キーを押します。

Shift キーを押しながら矢印キーを押すとテーブルが 10 ピクセルずつ移動します。

レイアウトセルおよびテーブルのフォーマット

プロパティインスペクタでは、幅、高さ、背景色、セルのコンテンツの整列など、レイアウトセルのさまざまな属性を設定できます。

プロパティインスペクタでレイアウトセルをフォーマット

1 セルの端をクリックするか、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらセル内の任意の場所をクリックしてセルを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) を開き、以下に示すセルのフォーマットプロパティを設定します。

固定 セルを固定幅に設定します。横にあるテキストボックスにピクセル単位で幅を入力してください。

自動伸縮 セルを自動伸縮に設定します。

高さ セルの高さをピクセル単位で設定します。

背景 レイアウトセルの背景色を指定します。カラーボックスをクリックし、[カラーピッカー] でカラー選択するか、横のテキストボックスにカラーに対応する 16 進数の数値を入力します。

横 セルのコンテンツの横揃えを設定します。整列は、[左]、[中央]、[右]、[指定なし] のいずれかに設定できます。

縦 セルのコンテンツの縦揃えを設定します。整列は、[上]、[中央]、[下]、[ベースライン]、[指定なし] のいずれかに設定できます。

折り返さない 選択すると、テキストは折り返されません。このオプションが選択されていると、改行しないで 1 行に収まるようにレイアウトセルが拡張されます。

3 テキストボックスに値を入力したら、Tab キーまたは Enter キー (Windows)、Return キー (Macintosh) を押して値を適用します。

レイアウトテーブルのプロパティの設定

1 テーブルの上部にあるタブをクリックし、テーブルを選択します。

2 プロパティインスペクタを開き ([ウィンドウ]-[プロパティ])、以下に示すテーブルのフォーマットプロパティを設定し、Tab キーまたは Enter キー (Windows)、あるいは Return キー (Macintosh) を押して値を適用します。

固定 テーブルをピクセル単位で固定幅に設定します。

自動伸縮 テーブルの右端の列を自動伸縮に設定します。

高さ テーブルの高さをピクセル単位で指定します。

セル余白 レイアウトセルのコンテンツとセルボーダーの間のスペース量をピクセル単位で設定します。セルの余白を変更し、レイアウトテーブルの列幅がカッコで囲まれて表示される場合は、[セルの幅を固定] オプションを使用します。

セル間隔 レイアウトセル間のスペースをピクセル単位で設定します。セルの間隔を変更し、レイアウトテーブルの列幅がカッコで囲まれて表示される場合は、[セルの幅を固定] オプションを使用します。

行の高さをクリア レイアウトテーブル内のすべてのセルの明示的な高さ設定を削除します。Dreamweaver では、セルが空であっても描画したとおりにレイアウトが表示されるように、明示的なセルの高さが指定されます。このオプションは、レイアウトセルにコンテンツを配置してから選択してください。配置する前にクリックすると、空のセルが垂直方向に縮小されます。

注意：行の高さをクリアすると、レイアウトテーブルの空いているグレーの領域 (セルが含まれていない領域) に予期しない影響が生じることがあります。特に、空の行がテーブルから完全に削除され、テーブルが垂直方向に縮小されて表示されることがあります。

セルの幅を固定 クリックすると、HTML で指定されたテーブルの各セル幅が、そのセル内のコンテンツ幅に一致するように変更されます (レイアウトに固定幅のセルがある場合)。

すべてのスペーサーを削除 レイアウトテーブルから、スペーサーイメージ (レイアウトで間隔の制御に使用される透過イメージ) を削除します。

注意：スペーサーイメージを削除すると、テーブルの一部の列が極端に狭くなることがあります。一般的には、各列に目的の幅に維持するコンテンツが含まれていない場合、スペーサーイメージをそのまま残しておく必要があります。

ネストを削除 別のレイアウトテーブル内にネストされたレイアウトテーブルが削除されます。そのコンテンツは失われません。内部レイアウトテーブルが削除され、それに含まれていたレイアウトセルは外側のテーブルの一部になります。

列幅の設定

列を特定の幅に設定したり、可能な限りブラウザウィンドウと同じサイズに拡張したりすることができます (自動伸縮)。また、スペーサーイメージを使用して列の最小幅を指定できます。

スペーサーイメージを初めて挿入する際に、サイトに対してスペーサーイメージを設定します。スペーサーイメージに対する環境設定も可能です。

レイアウトが完了する前に、列を自動伸縮に設定すると、テーブルレイアウトに予期しない影響があることがあります。列が予期しない幅にならないようにするには、列を自動伸縮に設定する前に完全なレイアウトを作成し、列の自動伸縮にスペーサーイメージを使用するようにしてください。ただし、目的の幅を維持するその他のコンテンツが各列に含まれている場合は、スペーサーイメージは不要です。

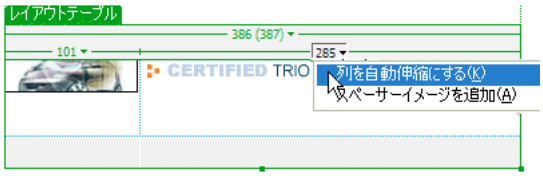
列幅に 2 つの数字が表示される場合は、HTML コードで設定された列幅が画面上の列の表示幅と一致していません。コードに指定されている幅を表示幅に合わせることができます。

注意：これらのオプションはレイアウトモードで使用する必要があります。また、列メニューが列の下部に表示される場合もあります。

列の自動伸縮

1 次のいずれかの操作を実行します。

- 列ヘッダーメニューをクリックし、[列を自動伸縮にする] を選択します。



- セルの端をクリックして列内のセルを選択し、プロパティインスペクタの [自動伸縮] を選択します。

注意：自動伸縮を設定できるのは、テーブル内の 1 つの列だけです。

2 (オプション) このサイトのスペーサーイメージを設定していない場合は、[スペーサーイメージを選択] ダイアログボックスが表示されます。ここで使用するイメージを設定して、[OK] をクリックしてください。

自動伸縮列の上部または下部に曲線が表示されます。スペーサーイメージを含む列の上部または下部にダブルバーが表示されます。

列を固定幅に設定

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- 列ヘッダーメニューをクリックし、[列を固定幅にする] を選択します。[列を固定幅にする] では、(コード内の) 列の幅は、列の現在の表示幅に指定されます。
- セルの端をクリックして列内のセルを選択し、プロパティインスペクタで [固定] を選択して数値を入力します。列のコンテンツの幅よりも小さい数値を入力すると、Dreamweaver により、コンテンツの幅に合わせて幅が設定されます。

列の幅は、列の上部または下部に表示されます。

スペーサーイメージを列に挿入

列の自動伸縮を設定する場合は、スペーサーイメージを使用するかどうかと、使用するスペーサーイメージを選択できます。イメージは表示されませんが、列が少しシフトして列の上部または下部にダブルバーが表示され、スペーサーイメージが含まれていることが示されます。

1 列ヘッダーメニューをクリックし、[スペーサーイメージを追加] を選択します。

2 このサイトのスペーサーイメージを設定していない場合は、[スペーサーイメージを選択] ダイアログボックスで使用するイメージを選択し、[OK] をクリックします。

スペーサーイメージファイルを作成する 選択すると、スペーサーイメージとして使用する GIF イメージが作成されます。また、スペーサーイメージファイルを保存するフォルダ (サイトのイメージフォルダなど) も選択できます。これは、サイトのスペーサーイメージファイルをまだ作成していない場合の推奨オプションです。

既存のスペーサーイメージファイルを使用する 選択すると、自動伸縮テーブルで使用する既存のスペーサーイメージファイルを指定できます。スペーサーイメージは、1 ピクセルの透明な GIF にする必要があります。

自動伸縮テーブル用にスペーサーイメージを使用しない 選択すると、スペーサーイメージが Dreamweaver によりテーブルに自動的に追加されなくなります。このオプションは、列を自動伸縮に設定せずにスペーサーイメージを挿入する場合には表示されません。このオプションを選択すると、レイアウトの固定幅列が狭くなり、場合によってはゼロになることもあります。スペーサーイメージは、描画された元のレイアウトの構造を保つ働きをします。このオプションは、固定幅に

設定されている列が縮小しないように既に十分なコンテンツが配置されているか、スペーサーイメージを手動で追加してある場合にのみ使用してください。

スペーサーイメージを 1 つの列から削除

❖ 列ヘッダーメニューをクリックし、[スペーサーイメージを削除] を選択します。

注意：スペーサーイメージを削除すると、列がシフトする場合があります。

すべてのスペーサーイメージをテーブルから削除

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- テーブルヘッダーメニューをクリックし、[すべてのスペーサーイメージを削除] を選択します。
- テーブルを選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [すべてのスペーサーを削除] をクリックします。

注意：テーブルのレイアウトがシフトすることがあります。コンテンツを含まない列は、デザインビューではまったく表示されないことがあります。

セルの幅を固定

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- テーブルヘッダーメニューをクリックし、[すべての幅を固定] を選択します。

- テーブルを選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [すべてのスペーサーを削除] をクリックします。

Dreamweaver により、コードに指定されている幅が表示幅に合わせて再設定されます。

レイアウトモードの環境設定

スペーサーイメージファイルおよび Dreamweaver がレイアウトテーブルやレイアウトセルの描画に使用するカラーに関する環境設定を指定できます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [カテゴリ] リストで [レイアウトモード] を選択し、レイアウトモードの環境設定を指定して [OK] をクリックします。

スペーサーの自動挿入 列を自動伸縮に設定したときに、Dreamweaver によりスペーサーイメージを自動的に挿入するかどうかを指定します。

注意：自動伸縮テーブルでスペーサーイメージを使用しないと、固定幅の列のサイズが変わったり、コンテンツが含まれていない場合は、デザインビューでまったく表示されなくなることがあります。ただし、デザインビューに表示されなくてもコード上では列が存在します。

スペーサーイメージ サイトのスペーサーイメージファイルを設定します。

[対象サイト] メニューからサイトを選択して [作成] ボタンをクリックし、新しいスペーサーイメージファイルを作成するか、[参照] ボタンをクリックしてそのサイト内の既存のスペーサーイメージファイルを検索します。

セルアウトライン レイアウトセルのアウトラインカラーを設定します。

セルハイライト セルにポインタを移動したときに、レイアウトセルのアウトラインカラーをどのように変更するかを設定します。

テーブルアウトライン レイアウトテーブルのアウトラインカラーを設定します。

テーブルの背景 レイアウトセルがないレイアウトテーブルの領域に使用されるカラーを設定します。

フレームの使用

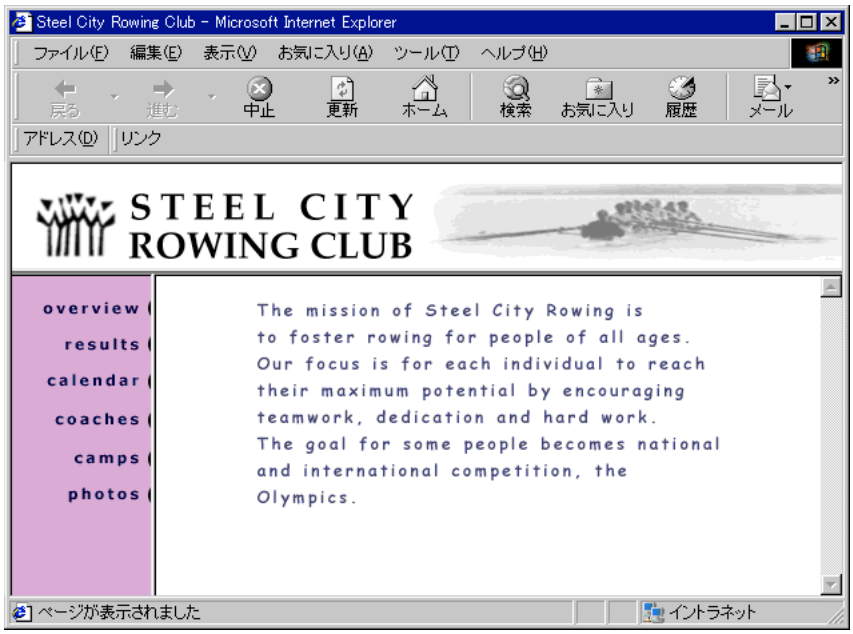
フレームおよびフレームセットの仕組み

フレーム はブラウザウィンドウの一領域で、ブラウザウィンドウの他の領域で表示されているものとは別の HTML ドキュメントが表示されます。フレームによって、ブラウザウィンドウを複数の領域に分け、各領域に異なる HTML ドキュメントを表示することができます。1 つのフレームにナビゲーションコントロール用のドキュメントを表示し、別のフレームにドキュメントのコンテンツを表示するのが、フレームの最も一般的な使用方法です。

フレームセット は、複数のフレームのレイアウトとプロパティを一組のセットとして定義する HTML ファイルです。このファイルには、フレームの数、サイズ、配置、および各フレームに最初に表示するページの URL が含まれます。フレームセットファイル自体には、noframes セクション以外は、ブラウザに表示される HTML コンテンツは含まれません。フレームセットファイルは、フレームセットの表示方法とフレームに表示されるドキュメントの情報をブラウザに提供するだけです。

ブラウザで一組のフレームを表示するには、フレームセットファイルの URL を入力します。すると、ブラウザが該当するドキュメントをフレーム内に表示します。通常、サイトのフレームセットファイルは、ビジターがファイル名を指定しない場合にデフォルトで表示されるように、index.html という名前にします。

次の例は、3 つのフレームで構成されるフレームレイアウトを示したものです。ページの端にある縦長のフレームにはナビゲーションバーが、上端のフレームには Web サイトのロゴとタイトルが表示されます。そして、ページの残りの部分を占める大きなフレームにメインコンテンツが表示されます。これらのフレームには、それぞれ独立した HTML ドキュメントが表示されます。



この例では、最上部のフレームに表示されるドキュメントは、ビジターがサイトをナビゲートしても変わりません。端にあるフレームナビゲーションバーにはリンクがあります。その中のリンクを 1 つクリックすると、メインコンテンツフレームのコンテンツが変わり、端のフレームは変わりません。右側にあるメインコンテンツフレームには、ビジターが左側でクリックしたリンクに該当するドキュメントが表示されます。

フレームはファイルではありません。フレームに現在表示されているドキュメントは、フレームの一部であって分離できないと考えられがちですが、実際にはドキュメントはフレームの一部ではありません。フレームはドキュメントを保持するコンテナです。

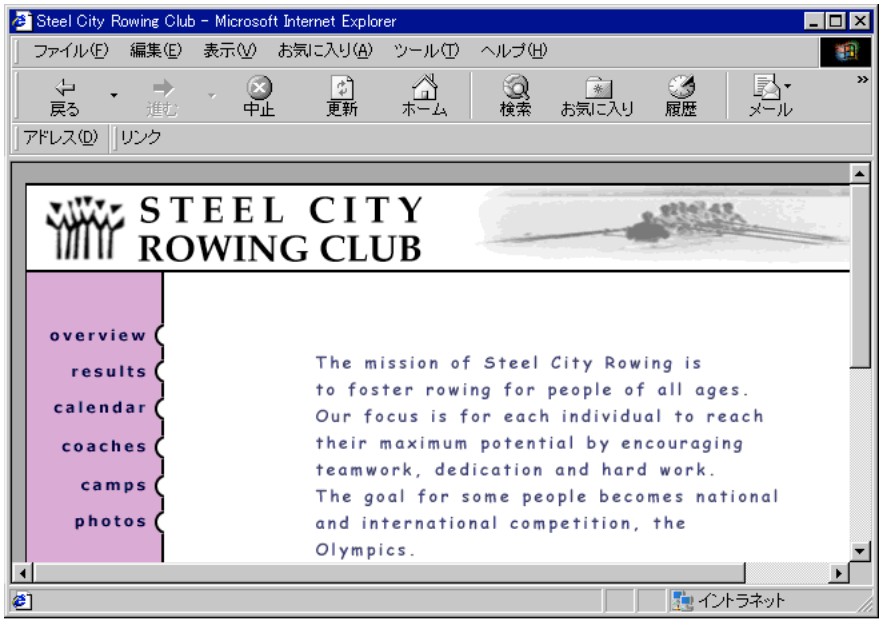
注意：" ページ " という語は、1 つの HTML ドキュメントを指すこともあれば、一度に複数の HTML ドキュメントが表示されている場合も含む、ある時点のブラウザウィンドウのコンテンツ全体を指すこともあります。" フレームを使用するページ " という場合、通常は、一組のフレームと各フレームに初期状態で表示されるドキュメントを指します。

3 つのフレームで構成される単一ページとしてブラウザに表示されるサイトは、実際には少なくとも 4 つの独立した HTML ドキュメントで構成されています。つまり、フレームセットファイルに加えて、各フレームに初期状態で表示されるコンテンツを格納する 3 つのドキュメントが使われています。Dreamweaver でフレームセットを使用してページをデザインする場合、ブラウザ内でページを正しく表示するためには、これらの 4 つのファイルをそれぞれ保存する必要があります。

フレームを使用するかどうかの決定

フレームは、ナビゲーションを実現するために最もよく使用されます。一組のフレームには、通常、ナビゲーションバーを含む 1 つのフレームと、メインコンテンツページを表示する別のフレームが含まれます。

多くの場合は、フレームを使用しなくても、フレームセットを使用する場合と同等の機能を持つ Web ページを作成できます。たとえば、ページの左側にナビゲーションバーを配置するには、ページを一組のフレームに置き換えるか、サイト内のすべてのページにナビゲーションバーを配置します (Dreamweaver を使用すると、同じレイアウトを使用する複数のページを簡単に作成できます)。次の例は、フレームを使用せずにフレームに類似したレイアウトを実現しているページデザインを示したものです。



設計が適切でないサイトではフレームが不必要に使われており、たとえば、ビジターがナビゲーションボタンをクリックするたびに、ナビゲーションフレームのコンテンツが再ロードされるようにフレームセットが設計されていることがあります。適切に使用すればフレームはサイトにとって非常に便利な存在で、たとえば、あるフレーム内のナビゲーションコントロールを保持したまま、別のフレーム内のコンテンツだけを更新するといったことが可能になります。

ブラウザによってはフレームを十分にサポートしておらず、また、障害を持つビジターにはフレーム操作が困難なこともあります。そのためフレームを使用する場合は、フレームセット内にフレームを見られないビジター向けの noframes セクションを用意する必要があります。サイトのフレームなしバージョンへの明示的なリンクを提供することも可能です。

フレームの使用には次の利点があります。

- ビジターのブラウザで、ナビゲーション関連のグラフィックをページごとに再ロードする必要がありません。
- コンテンツが大きすぎてウィンドウに収まりきらない場合、各フレームに各フレーム用のスクロールバーがあるので、その他のフレームに無関係にスクロールできます。たとえば、1 つのフレームの長いコンテンツページを最下部までス

クロールした場合、ナビゲーションバーが別のフレームにあれば、ナビゲーションバーを使用するために最上部までスクロールして戻る必要はありません。

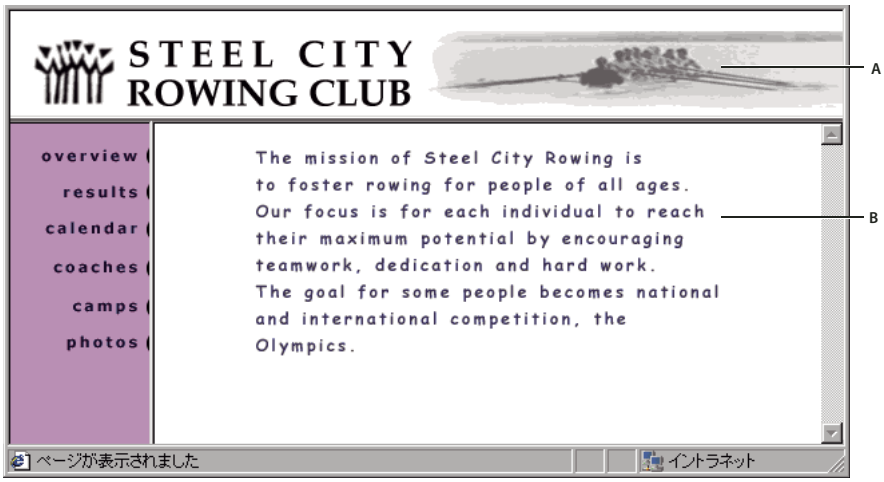
フレームの使用には次の欠点があります。

- フレーム間でグラフィック要素を正確に整列させるのが難しいことがあります。
- ナビゲーションのテストに時間がかかることがあります。
- フレーム内の個別のページの URL はブラウザに表示されません。そのため、フレーム内に表示されている特定のページをロードするためのサーバーコードを提供しない限り、ビジターが特定のページをブックマークするのは困難です。

ネストされたフレームセット

他のフレームセットの内側にあるフレームセットは、ネストされたフレームセットと呼ばれます。1 つのフレームセットファイルに、ネストされたフレームセットを複数含めることができます。実際、フレームを使用している Web ページのほとんどで、ネストされたフレームが使用されています。また、Dreamweaver の大部分の定義済みフレームセットでもネストが使用されています。行または列によってフレームの数が異なるフレームセットでは、フレームセットをネストさせる必要があります。

たとえば、最も一般的なフレームセットでは、上部に (会社のロゴが表示される) フレームが 1 つあり、下部にはフレームが 2 つ (ナビゲーションフレームとコンテンツフレーム) あります。このレイアウトではネストされたフレームセットが必要になります。つまり、2 行で構成されるフレームセットに加えて、その 2 行目に 2 列で構成されるフレームセットをネストする必要があります。



A. メインフレームセット **B.** メニューフレームとコンテンツフレームがメインフレームセットの中にネストされています。

Dreamweaver では必要に応じてフレームセットをネスト処理します。そのため、Dreamweaver のフレーム分割ツールを使用する場合は、どのフレームがネストされ、どのフレームがネストされないかの詳細に気を配る必要はありません。

HTML でフレームセットをネストする方法は 2 とおりあります。内側のフレームセットを外側のフレームセットと同じファイルで定義する方法と、それぞれを個別のファイルで定義する方法です。Dreamweaver の各定義済みフレームセットは、1 つのファイルでフレームセットすべてを定義しています。

いずれの方法でネストされていても表示結果は同じで、コードを調べない限り、どの方法でネストしているかは簡単には判別できません。Dreamweaver で外部フレームセットファイルが使用される可能性が最も高いのは、[フレーム内に開く] コマンドを使用してフレーム内にフレームセットファイルを開く場合です。これを実行すると、リンクのターゲットの設定に問題が発生することがあります。一般に、すべてのフレームセットを 1 つのファイルに定義する方法が最も簡単です。

ドキュメントウィンドウでのフレームセットの操作

Dreamweaver では、1 つのドキュメントウィンドウで、一組のフレームと関連付けられたすべてのドキュメントを表示および編集できます。これにより、編集しながらブラウザにフレーム付きページがどのように表示されるか、だいたいわかります。ただし、この方法には、慣れるまではわかりにくい面もあります。特に、各フレーム内に個別の HTML ドキュメントが表示される点に注意してください。ドキュメントが空であっても、プレビューする前にドキュメントをすべて保存する必要があります (これは、フレームセットに、各フレームに表示するドキュメントの URL が含まれていないと、フレームセットを正確に表示できないためです。)

フレームセットがブラウザに適切に表示されることを確認するには :

1 フレームセットを作成し、各フレームに表示されるドキュメントを指定します。

2 フレームに表示されるすべてのファイルを保存します。各フレームに表示される HTML ドキュメントはそれぞれ別のドキュメントなので、フレームセットファイルと共に各ドキュメントを保存する必要があります。

3 各フレームおよびフレームセットのオプションを設定します (各フレームの名前、スクロールオプション、非スクロールオプションの設定など)。

4 すべてのリンクについてプロパティインスペクタの [ターゲット] プロパティを設定し、リンクされたコンテンツが適切な領域に表示されるようにします。

フレームおよびフレームセットの作成

Dreamweaver でフレームセットを作成する方法は 2 とおりあります。複数の定義済みフレームセットの中から選択するか、または、ユーザー自身でフレームセットをデザインします。

定義済みフレームセットを選択すると、レイアウトの作成に必要なすべてのフレームセットとフレームが設定されます。これは、フレームを使用したレイアウトを素早く作成する最も簡単な方法です。定義済みのフレームセットは、ドキュメントウィンドウのデザインビューからのみ挿入できます。

ドキュメントウィンドウに " 分割バー " を追加すれば、Dreamweaver 内でユーザー独自のフレームセットをデザインすることも可能です。

フレームセットを作成または操作する前に [表示]-[ビジュアルエイド]-[フレームボーダー] を選択して、ドキュメントウィンドウのデザインビューにフレームボーダーを表示してください。

関連項目

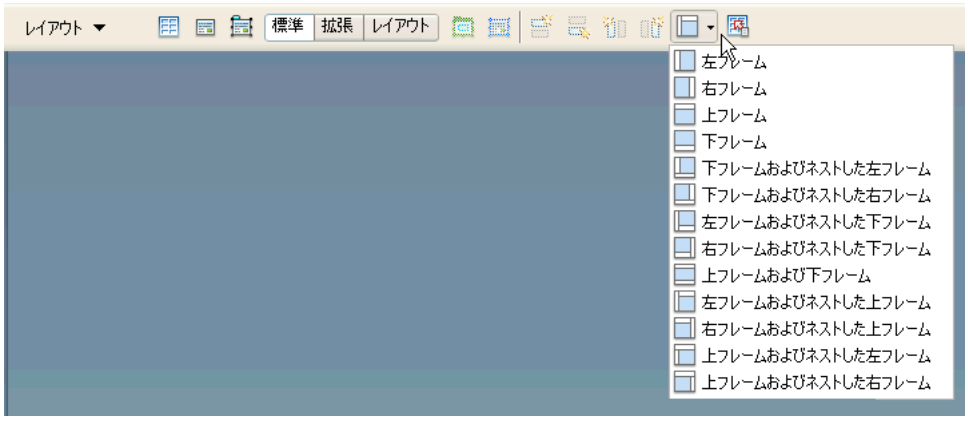
672 ページの「アクセシビリティに配慮したページデザイン」

定義済みフレームセットを作成してフレーム内に既存のドキュメントを表示

1 ドキュメント内に挿入ポイントを置き、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入]-[HTML]-[フレーム] を選択し、定義済みフレームセットを選択します。
- [挿入] バーの [レイアウト] カテゴリで、[フレーム] ボタンの下向き矢印をクリックし、定義済みフレームセットを選択します。

フレームセットアイコンは、現在のドキュメントに適用される各フレームセットを視覚的に表現しています。フレームセットのアイコンの青い領域は現在のドキュメント用のフレームで、白い領域は他のドキュメントを表示するフレームです。



2 フレームのアクセシビリティ属性を要求するよう Dreamweaver を設定してある場合は、ポップアップメニューからフレームを選択し、フレームの名前を入力して [OK] をクリックします。スクリーンリーダーを使用するビジターの場合は、ページでフレームが検出されると、スクリーンリーダーがこの名前を読み上げます。

注意：新しい名前を入力せずに [OK] をクリックすると、Dreamweaver により、フレームセット内の場所 (左フレーム、右フレームなど) に対応した名前が自動的に設定されます。

注意：[キャンセル] を押すと、フレームセットはドキュメント内に表示されますが、Dreamweaver はアクセシビリティタグや属性をこのフレームセットに関連付けません。

名前を付けるフレームのダイアグラムを表示するには、[ウィンドウ]-[フレーム] を選択します。

空の定義済みフレームセットの作成

1 [ファイル]-[新規作成] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[サンプルからのページ] カテゴリを選択します。

3 [サンプルフォルダ] 列の [フレームセット] フォルダを選択します。

4 [サンプルページ] 列からフレームセットを選択し、[作成] をクリックします。

5 [環境設定] でフレームアクセシビリティ属性をアクティブにしている場合は、[フレームタグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスが表示されます。各フレームについてこのダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックしてください。

注意：[キャンセル] を押すと、フレームセットはドキュメント内に表示されますが、Dreamweaver はアクセシビリティタグや属性をこのフレームセットに関連付けません。

フレームセットの作成

❖ [修正]-[フレームセット] を選択し、サブメニューから分割用のアイテム ([フレームを左に分割] または [フレームを右に分割] など) を選択します。

Dreamweaver により、ウィンドウが複数のフレームに分割されます。既に既存のドキュメントを開いている場合は、そのドキュメントがいずれかのフレーム内に表示されます。

フレームを小さいフレームに分割

- 挿入ポイントがあるフレームを分割するには、[修正]-[フレームセット] サブメニューを選択し、分割用のアイテムを選択します。
- 1 つのフレームまたは一組のフレームを縦または横に分割するには、デザインビューの端から中央に向けてフレームボーダーをドラッグします。
- デザインビューの端以外の位置にあるフレームボーダーを使用してフレームを分割するには、Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら、フレームボーダーをドラッグします。
- 1 つのフレームを 4 つのフレームに分割するには、デザインビューの 1 つの角からフレームボーダーをフレームの中央までドラッグします。

フレームを 3 つ作成するには、2 つフレームを作成してから、そのいずれかを分割します。隣接する 2 つのフレームをマージするには、フレームセットのコードを編集しなければならないことがあります。そのため、4 つのフレームを 3 つに変更するのは、2 つのフレームを 3 つに変更するよりも困難です。

フレームの削除

❖ フレームボーダーをドラッグしてページの外で離すか、親フレームのボーダーにドラッグします。

削除するフレーム内のドキュメントに保存されていないコンテンツがあると、Dreamweaver からドキュメントを保存するよう要求されます。

注意：フレームセットは、ボーダーのドラッグでは完全には削除できません。フレームセットを削除するには、それが表示されているドキュメントウィンドウを閉じます。フレームセットファイルが保存されている場合は、ファイルを削除します。

フレームのサイズ変更

- フレームのおおよそのサイズを設定するには、ドキュメントウィンドウのデザインビューでフレームボーダーをドラッグします。
- プロパティインスペクタを使用すると正確なサイズを指定できるほか、ブラウザウィンドウのサイズが小さいためにフレームが完全に表示できない場合にブラウザがフレームの行または列に割り当てるスペースも指定できます。

フレームとフレームセットの選択

フレームまたはフレームセットのプロパティを変更するには、まず変更するフレームまたはフレームセットを選択します。フレームまたはフレームセットの選択は、ドキュメントウィンドウ内で行うか、[フレーム] パネルを使用して行います。

[フレーム] パネルは、フレームセット内のフレームを視覚的に表現したものです。[フレーム] パネルには、フレームセット構造の階層が表示されます。ドキュメントウィンドウでは、この階層は明確に判別できないことがあります。[フレーム] パネルでは、フレームセットは太いボーダーで囲まれています。また、フレームは細いグレーの線で囲まれており、それぞれのフレームはフレーム名で識別されます。

ドキュメントウィンドウのデザインビューでフレームを選択すると、そのボーダーが点線で表示されます。また、フレームセットを選択すると、そのフレームセットに含まれるすべてのフレームのボーダーが明るい点線で表示されます。

注意：フレームに表示されたドキュメントに挿入ポイントを配置することは、フレームを選択することとは異なります。フレームを選択するには、(フレームプロパティの設定など) さまざまな操作をする必要があります。

[フレーム] パネル内でのフレームまたはフレームセットの選択

1 [ウィンドウ]-[フレーム] を選択します。

2 [フレーム] パネルで、次の操作を行います。

- フレームを選択するには、目的のフレームをクリックします。[フレーム] パネルとドキュメントウィンドウのデザインビューの両方で、フレームの周囲に選択アウトラインが表示されます。
- フレームセットを選択するには、フレームセットを囲むボーダーをクリックします。

ドキュメントウィンドウ内でのフレームまたはフレームセットの選択

- フレームを選択するには、デザインビューで Alt キー (Windows) または Option + Shift (Macintosh) を押しながら、フレームの内側をクリックします。
- フレームセットを選択するには、デザインビューでフレームセット内のフレームボーダーの 1 つをクリックします。これを行うには、フレームボーダーが表示されている必要があります。非表示になっている場合は、[表示]-[ビジュアルエイド]-[フレームボーダー] を選択してフレームボーダーを表示してください。

注意：通常、フレームセットは、ドキュメントウィンドウよりも [フレーム] パネルで選択する方が簡単です。詳細については、前のトピックを参照してください。

別のフレームまたはフレームセットの選択

- 現在選択しているものと同じ階層レベルにある次または前のフレームまたはフレームセットを選択するには、Alt キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、左矢印キーまたは右矢印キーを押します。これらのキーを使用すると、フレームセットファイルに定義された順序で、フレームおよびフレームセットを順番に切り替えることができます。
- 親フレームセット (現在選択されているものを含むフレームセット) を選択するには、Alt キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら上矢印キーを押します。
- 現在選択しているフレームセットの最初の子フレームまたはフレームセット (フレームセットファイルで一番最初に定義されているもの) を選択するには、Alt キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら下矢印キーを押します。

フレーム内にドキュメントを開く

フレームの最初のコンテンツを指定するには、フレーム内の空のドキュメントに新しいコンテンツを挿入するか、フレーム内で既存のドキュメントを開きます。

1 フレームに挿入ポイントを置きます。

2 [ファイル]-[フレーム内に開く] を選択します。

3 フレーム内に開くドキュメントを選択し、[OK] (Windows) または [選択] (Macintosh) をクリックします。

4 (オプション) そのドキュメントを、ブラウザでフレームセットを開いたときにフレームに表示される初期設定のドキュメントにするには、フレームセットを保存します。

フレームファイルとフレームセットファイルの保存

ブラウザでフレームセットをプレビューできるようにするには、フレームセットファイルとフレームに表示するすべてのドキュメントを保存する必要があります。フレームセットファイルとフレームに表示されるすべてのドキュメントは、それぞれ個別に保存することも一括して保存することもできます。

注意：Dreamweaver のビジュアルツールを使用してフレームのセットを作成する場合、フレームに表示される各新規ドキュメントには初期設定のファイル名が指定されます。たとえば、最初のフレームセットファイルの名前は "UntitledFrameset-1" に、フレーム内の最初のドキュメントの名前は "UntitledFrame-1" になります。

フレームセットファイルの保存

❖ [フレーム] パネルまたはドキュメントウィンドウで、フレームセットを選択します。

- フレームセットファイルを保存するには、[ファイル]-[フレームセットの保存] を選択します。
- フレームセットファイルを新しいファイルとして保存するには、[ファイル]-[フレームセットの新規保存] を選択します。

注意：まだフレームセットファイルが保存されていない場合は、2 つのコマンドは同じです。

フレーム内に表示されるドキュメントの保存

❖ フレーム内をクリックし、[ファイル]-[フレームの保存]、または [ファイル]-[フレームの新規保存] を選択します。

一組のフレームと関連付けられたすべてのファイルの保存

❖ [ファイル]-[すべてのフレームを保存] を選択します。

この操作によって、フレームセットファイルおよびフレームに表示されるドキュメントすべてを含む、フレームセット内の開いているすべてのドキュメントが保存されます。フレームセットファイルがまだ保存されていない場合は、デザインビューでフレームセット (または保存されていないフレーム) の周りに太いボーダーが表示されて、ファイル名を選択できます。

注意：[ファイル]-[フレーム内に開く] を選択してフレーム内にドキュメントを開いた場合、フレームセットを保存するときにフレーム内に開いたドキュメントが、そのフレームで表示される初期設定のドキュメントになります。そのドキュメントを初期設定にしない場合は、フレームセットファイルを保存しないでください。

フレームのプロパティおよび属性の表示と設定

大部分のフレームプロパティの表示および設定には、プロパティインスペクタを使用できます (ボーダー、マージン、フレームにスクロールバーを表示するかどうかなど)。フレームのプロパティを設定すると、フレームセットでそのプロパティの設定が上書きされます。

title 属性 (name 属性とは異なります) などのフレーム属性を設定して、アクセシビリティを向上させることもできます。フレームのアクセシビリティオーサリングオプションを有効にすると、フレーム作成時に属性が設定されます。また、フレームの挿入後に属性を設定することも可能です。フレームのアクセシビリティ属性を編集するには、タグインスペクタを使用して HTML コードを直接編集してください。

関連項目

672 ページの「アクセシビリティに配慮したページデザイン」

フレームのプロパティの表示または設定

1 以下のいずれかの操作を行って、フレームを選択します。

- ドキュメントウィンドウのデザインビューで、Alt キー (Windows) または Option + Shift (Macintosh) を押しながらフレームをクリックします。
- [フレーム] パネル ([ウィンドウ]-[フレーム]) でフレームをクリックします。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の右下隅にある縮小の三角形をクリックして、すべてのフレームプロパティを表示します。

3 フレームのプロパティインスペクタオプションを設定します。

フレーム名 リンクの target 属性またはフレームを参照するためにスクリプトで使用される名前を指定します。フレーム名は 1 語にします。アンダースコア (_) は使用できますが、ハイフン (–)、ピリオド (.)、およびスペースは使用できません。

フレーム名は、数字ではなく文字で始まる必要があります。フレーム名では、大文字と小文字が区別されます。フレーム名には、「**top**」や「**navigator**」などの JavaScript の予約語は使用しないでください。

リンクから別のフレームのコンテンツが変わるようにするには、ターゲットフレームに名前を付ける必要があります。後でフレーム間のリンクを作成しやすくするには、各フレームの作成時に名前を付けます。

ソース フレームに表示するソースドキュメントを指定します。フォルダアイコンをクリックし、ファイルを参照して選択します。

スクロール フレームにスクロールバーを表示するかどうかを指定します。このオプションを [初期設定] に設定すると、対応する属性の値は設定されず、各ブラウザの初期設定値が使用されます。多くのブラウザでは初期設定に [自動] が設定されており、ブラウザウィンドウの現在のフレームに全コンテンツを表示する領域がない場合のみ、スクロールバーが表示されます。

サイズ変更なし 選択すると、ビジターがブラウザ内でフレームボーダーをドラッグしてフレームサイズを変更できません。

注意：Dreamweaver では、いつでもフレームのサイズを変更できます。このオプションは、ブラウザでフレームを表示しているビジターにのみ適用されます。

ボーダー 現在のフレームのボーダーをブラウザに表示するかどうかを指定します。フレームの [ボーダー] オプションを選択すると、フレームセットに定義されているボーダー設定が上書きされます。

ボーダーのオプションには、[はい] (ボーダーを表示)、[いいえ] (ボーダーを非表示)、および [指定なし] があります。親フレームセットで [ボーダー] が [いいえ] に設定されていない限り、ほとんどのブラウザでは初期設定でボーダーが表示されます。ボーダーが非表示になるのは、そのボーダーを共有するすべてのフレームで [ボーダー] が [いいえ] に設定されている場合、または、親フレームセットの [ボーダー] プロパティが [いいえ] に設定されており、かつボーダーを共有するフレームで [ボーダー] が [指定なし] に設定されている場合に限られます。

ボーダーカラー フレームのすべてのボーダーのボーダーカラーを設定します。このカラーは、フレームに接するすべてのボーダーに適用され、フレームセットに指定されたボーダーカラーを上書きします。

マージン幅 左右のマージン (フレームボーダーとコンテンツの間のスペース) の幅をピクセル単位で設定します。

マージンの高さ では、上下のマージン (フレームボーダーとコンテンツの間のスペース) の高さをピクセル単位で設定します。

注意：フレームのマージン幅と高さの設定は、[修正]-[ページプロパティ] ダイアログボックスを選択して設定したマージンとは異なります。

フレームの背景色を変更するには、ページプロパティでフレームのドキュメントの背景色を設定します。

フレームのアクセシビリティ値の設定

1 [フレーム] パネル ([ウィンドウ]-[フレーム]) で、いずれかのフレームに挿入ポイントを置いて、フレームを選択します。

2 [修正]-[タグの編集] を選択します。

3 左の [カテゴリ] リストで [スタイルシート / アクセシビリティ] を選択し、値を入力して [OK] をクリックします。

フレームのアクセシビリティ値の変更

1 現在デザインビューが表示されている場合は、ドキュメントのコードビュー、またはコードビューとデザインビューの両方を表示します。

2 [フレーム] パネル ([ウィンドウ]-[フレーム]) で、いずれかのフレームに挿入ポイントを置いて、フレームを選択します。Dreamweaver により、コード内のフレームタグがハイライト表示されます。

3 コードを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[タグの編集] を選択します。

4 タグエディタを使用して必要な変更を加え、[OK] をクリックします。

フレーム内ドキュメントの背景色の変更

1 フレームに挿入ポイントを置きます。

2 [修正]-[ページプロパティ] を選択します。

3 [ページプロパティ] ダイアログボックスで [背景色] メニューをクリックし、背景色を選択します。

フレームセットプロパティの表示および設定

大部分のフレームセットプロパティの表示および設定には、プロパティインスペクタを使用できます (フレームセットのタイトル、ボーダー、フレームサイズなど)。

フレームセットドキュメントのタイトル設定

1 以下のいずれかの操作を行って、フレームセットを選択します。

- ドキュメントウィンドウのデザインビューで、フレームセット内の 2 つのフレーム間のボーダーをクリックします。
- [フレーム] パネル ([ウィンドウ]-[フレーム]) で、フレームセットを囲むボーダーをクリックします。

2 ドキュメントウィンドウのツールバーの [タイトル] フィールドに、フレームセットドキュメントの名前を入力します。

ビジターがブラウザ上にフレームセットを表示すると、ブラウザのタイトルバーにそのタイトルが表示されます。

フレームセットプロパティの表示または設定

1 以下のいずれかの操作を行って、フレームセットを選択します。

- ドキュメントウィンドウのデザインビューで、フレームセット内の 2 つのフレーム間のボーダーをクリックします。
- [フレーム] パネル ([ウィンドウ]-[フレーム]) で、フレームセットを囲むボーダーをクリックします。

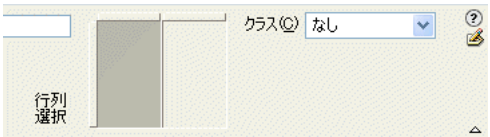
2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の右下隅にある縮小の三角形をクリックして、以下のフレームセットオプションを設定します。

ボーダー ドキュメントをブラウザで表示するときに、フレームの周りにボーダーを表示するかどうかを指定します。ボーダーを表示するには [はい] を選択します。ボーダーを非表示にするには [いいえ] を選択します。ボーダーを表示するかどうかの決定をブラウザに任せるには [指定なし] を選択します。

ボーダー幅 フレームセットに含まれるすべてのボーダーの幅を指定します。

ボーダーカラー ボーダーのカラーを設定します。カラーピッカーを使用してカラーを選択するか、カラーの 16 進値を入力します。

行列選択 選択したフレームセットの行と列のフレームサイズを設定します。[行列選択] 領域の左側または上部にあるタブをクリックし、[値] テキストボックスに高さまたは幅を入力してください。



3 各フレームに対して割り当てられるブラウザのスペースを指定するには、[単位] メニューから次の選択肢を選択します。

ピクセル 選択した列または行のサイズを絶対値で設定します。このオプションは、ナビゲーションバーなどの、サイズを固定する必要があるフレームに適しています。ピクセルでフレームのサイズを指定すると、パーセントまたは相対でサイズを指定するよりも前にスペースが割り当てられます。フレームサイズの最も一般的な設定方法では、左側のフレームは固定ピクセル幅、右側のフレームは相対幅に設定します。右側のフレームは、ピクセル幅が割り当てられた後の残りのスペース全体を占めるように拡張されて表示されます。

注意：すべての幅をピクセル単位で指定した場合、ビジターがブラウザでフレームセットを表示するときの幅が指定された幅よりも広すぎるか狭すぎると、使用可能なスペースと一致するようにすべてのフレームが同じ比率で拡張または縮小されます。これは、高さをピクセルで指定した場合も同じです。したがって、少なくとも 1 つの幅と高さを [相対] に設定することをお勧めします。

% 選択した列または行を、そのフレームセットの合計の幅または高さに対する特定の割合に指定します。単位が [%] に設定されているフレームは、単位が [ピクセル] に設定されているフレームより後にスペースを割り当てられ、単位が [相対] に設定されているフレームより前にスペースを割り当てられます。

相対 選択した列または行に、ピクセルおよびパーセントを指定したフレームにスペースが割り当てられた後の残りの使用可能スペースを割り当てます。残りのスペースは、サイズが [相対] に設定されたフレームの間で比例して分けられます。

注意：[単位] メニューで [相対] を選択すると、[値] フィールドに入力した数値は消去されます。数値を指定する場合は、再入力する必要があります。[相対] に設定された行または列が 1 つだけの場合は、数値を入力する必要はありません。その行または列に、他の行または列にスペースが割り当てられた後の残りのスペースがすべて割り当てられるからです。異なるブラウザ間での互換性を完全に確保するには、[値] フィールドに 1 を入力します。これは、何も値を入力しない場合と同じです。

リンクを持つフレームコンテンツの制御

あるフレーム内のリンクから別のフレームにドキュメントを開くには、リンクのターゲットを設定する必要があります。リンクされたコンテンツをどのフレームまたはウィンドウで開くかは、リンクの target 属性で指定します。

たとえば、ナビゲーションバーが左側のフレームにあり、リンクされたコンテンツを右側のメインコンテンツフレームに表示したい場合、ナビゲーションバーのそれぞれのリンクのターゲットとして、メインコンテンツフレームの名前を指定します。ビジターがナビゲーションリンクをクリックすると、指定されたコンテンツがメインフレームに表示されます。

1 デザインビューで、テキストまたはオブジェクトを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [リンク] ボックスで、次のいずれかの操作を行います。

- フォルダアイコンをクリックし、リンク先のファイルを選択します。
- [ファイルの指定] アイコンを [ファイル] パネルにドラッグし、リンク先のファイルを選択します。

3 プロパティインスペクタの [ターゲット] メニューで、リンクされたドキュメントを表示するフレームまたはウィンドウを選択します。

- _blank は、リンクされたドキュメントを新しいブラウザウィンドウに開き、現在のウィンドウをそのままの状態に保ちます。
- _parent は、リンクされたドキュメントを、リンクが表示されるフレームの親フレームセット内で開き、フレームセット全体を置き換えます。
- _self は、現在のフレーム内でリンクを開き、そのフレームのコンテンツを置き換えます。
- _top は、リンクされたドキュメントを現在のブラウザウィンドウ内で開き、すべてのフレームを置き換えます。

フレーム名はこのメニューにも表示されます。名前の付いたフレームを選択して、リンクされたドキュメントをそのフレーム内で開きます。

注意：フレーム名は、フレームセット内でドキュメントを編集しているときにのみ表示されます。ドキュメントをドキュメント自体のドキュメントウィンドウで編集している場合、フレーム名は [ターゲット] ポップアップメニューに表示されません。フレームセット外でドキュメントを編集している場合は、[ターゲット] テキストボックスにターゲットフレーム名を入力できます。

サイト外のページにリンクする場合は、必ず target="_top" または target="_blank" を使用して、ページがサイトの一部分として表示されないようにしてください。

フレームをサポートしていないブラウザ向けコンテンツの提供

Dreamweaver では、フレームをサポートしないテキストベースのブラウザおよび古いグラフィカルブラウザに表示するコンテンツを指定できます。このコンテンツは、noframes タグで囲まれ、フレームセットファイルに保存されます。フレームをサポートしていないブラウザ上にフレームセットファイルをロードすると、noframes タグで囲まれたコンテンツだけが表示されます。

注意：noframes 領域に表示するコンテンツは、" フレーム処理が可能なブラウザにアップグレードする必要があります。" だけでは不十分です。たとえば、サイトビジターが使用しているシステムがフレームに対応していない可能性もあります。

1 [修正]-[フレームセット]-[NoFrames(ノーフレーム) の内容編集] を選択します。

Dreamweaver によってデザインビューがクリアされ、"(ノーフレーム) コンテンツ " とデザインビューの上部に表示されます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- ドキュメントウィンドウで、通常のドキュメントの場合と同じようにコンテンツを入力または挿入します。
- [ウィンドウ]-[コードインスペクタ] を選択し、body タグ間 (noframes タグ内の) に挿入ポイントを置き、そのコンテンツの HTML コードを入力します。

3 再度 [修正]-[フレームセット]-[NoFrames(ノーフレーム) の内容編集] を選択し、フレームセットドキュメントの標準表示に戻ります。

フレームでの JavaScript ビヘイビアの使用

特にフレームでの使用に適した JavaScript ビヘイビアとナビゲーション関連のコマンドがいくつかあります。

フレームテキストを設定 フレームのコンテンツとフォーマットが、指定したコンテンツに置き換わります。コンテンツには、有効な HTML を含めることができます。このアクションを使用して、フレームに情報を動的に表示します。

URL に移動 現在のフレームまたは指定したフレーム内に新しいページが開きます。このアクションは、2 つ以上のフレームのコンテンツを 1 回クリックするだけで変更する場合に特に便利です。

ナビゲーションバーの挿入 ページにナビゲーションバーが追加されます。ナビゲーションバーを挿入すると、ビヘイビアをそのイメージに関連付け、ビジターのアクションに応じて表示されるイメージを設定できます。たとえば、ボタンイメージの選択 / 非選択の状態を切り替えて表示し、ビジターにサイトのどのページが表示されるかを知らせることができます

ジャンプメニューの挿入 リンクのメニューリストを設定できます。このリストをクリックすると、ブラウザウィンドウ内にファイルが開きます。また、ドキュメントが表示される特定のウィンドウまたはフレームをターゲットにすることもできます

関連項目

342 ページの「[フレームテキストを設定] ビヘイビアの適用」

339 ページの「[URL に移動] ビヘイビアの適用」

341 ページの「[ナビゲーションバーイメージの設定] ビヘイビアの適用」

339 ページの「[ジャンプメニュー] ビヘイビアの適用」

第 8 章：ページへのコンテンツの追加

HTML を理解していなくても、Web ページにコンテンツを視覚的に追加できます。Web ページへのテキスト、イメージ、Flash ビデオ、サウンド、その他のメディアオブジェクトの追加、ページプロパティの設定を行うことができます。

ページの操作

ページの操作について

Adobe® Dreamweaver® CS3 では、新しい Web ページを簡単に作成し、ページタイトル、背景のイメージとカラー、テキストとリンクのカラーなど Web ページのプロパティを指定できるさまざまな機能が提供されています。さらに、Web サイトのパフォーマンスを最大限発揮できるようにするツールや、異なる Web ブラウザで互換性が保たれるようにページを作成およびテストするツールも用意されています。

Web ページを作成するときは、その Web ページの表示に使用されるブラウザやオペレーティングシステム、およびサポートが必要な言語を考慮する必要があります。Dreamweaver により、各種の Web ブラウザで正確に表示されるカラーの選択、各種言語の文字 (文字形式) のエンコードの設定、および Web ブラウザと Web サイトの互換性の確認を行うことができます。

ページプロパティの設定について

[ページプロパティ] ダイアログボックス ([修正]-[ページプロパティ]) を使用すると、Dreamweaver で作成したページごとにレイアウトやフォーマットのプロパティを指定できます。[ページプロパティ] ダイアログボックスでは、初期設定のフォントファミリーとフォントサイズ、背景色、マージン、リンクスタイル、およびその他の多数のページデザインプロパティを指定できます。新しく作成したページごとにページプロパティを新たに割り当てることができる他、既存のページのプロパティを修正することもできます。

Dreamweaver の初期設定では、CSS (Cascading Style Sheets : カスケーディングスタイルシート) を使用してテキストをフォーマットします。[環境設定] ダイアログボックス ([編集]-[環境設定]) を使用して、ページフォーマット環境設定を HTML フォーマットに変更することもできます。CSS ページプロパティを使用している場合は、[ページプロパティ] ダイアログボックスの [外観]、[リンク]、および [見出し] カテゴリで定義されているすべてのプロパティに CSS タグが使用されます。これらの属性を定義する CSS タグは、そのページの head セクションに埋め込まれます。

注意：選択したページプロパティは、アクティブなドキュメントにのみ適用されます。ページで外部 CSS スタイルシートを使用する場合、Dreamweaver ではスタイルシートで設定されているタグは上書きされません。上書きすると、このスタイルシートを使用するその他すべてのページに影響がでるためです。

CSS ページプロパティと HTML ページプロパティ

初期設定では、CSS タグを使用してページプロパティを割り当てます。HTML タグを使用する場合は、[環境設定] ダイアログボックスでこれを指定する必要があります。

CSS の代わりに HTML を選択した場合、プロパティインスペクタには [スタイル] ポップアップメニューが表示されます。ただし、フォント、サイズ、カラー、整列の各コントロールには、HTML タグを使用して設定したプロパティのみが表示されます。現在の選択項目に適用されていた CSS プロパティの値は表示されなくなり、[サイズ] ポップアップメニューは使用できなくなります。

関連項目

212 ページの「CSS の代わりの HTML の指定」

207 ページの「ページプロパティの設定」

アクティブコンテンツの変換

Dreamweaver は、アクティブコンテンツを含む Web ページを修復します。アクティブコンテンツは、ユーザーが Internet Explorer の最新バージョンで操作するためにクリックすることが必要なコンテンツです。アクティブコンテンツには、次の要素を含めることができます。

- Adobe® Flash®、Adobe® Flash® Video、Adobe® FlashPaper™ のコンテンツ
- Shockwave® または Authorware® のコンテンツ
- Java アプレット
- Real Media コンテンツ
- QuickTime コンテンツ
- カスタム ActiveX コントロール
- その他の ActiveX コントロールまたはプラグイン

Dreamweaver でページを開くと常に、アクティブコンテンツの有無についてページがスキャンされます。次に、ページ内のアクティブコンテンツのタイプに応じて、3 つのオプションのいずれかが提示されます。

- ページの object タグにアクティブコンテンツが埋め込まれており、その object タグに param タグか embed タグのみが含まれる場合、Dreamweaver では、ページのすべてのアクティブコンテンツを変換するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。
- ページが上記と同様の場合、ただし他の種類のタグを含む object タグに埋め込まれたアクティブコンテンツもページに含まれる場合、Dreamweaver では、param タグか embed タグを含む object タグのみを変換するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。
- param タグまたは embed タグ以外のタグを含む object タグに埋め込まれたアクティブコンテンツのみがページに含まれる場合、Dreamweaver では、これらのタグを変換できないことを通知する警告メッセージが表示されます。

最初の 2 つの [アクティブコンテンツの変換] ダイアログボックスのいずれかで [はい] をクリックすると、param タグか embed タグを含む既存の object タグが検索され、その object タグが noscript タグで囲まれます。そして、外部ファイル内の JavaScript 関数を呼び出すことでアクティブコンテンツの想定される機能を提供する script タグが追加されます。Dreamweaver では、この外部ファイル (AC_RunActiveContent.js) は自動的に作成され、更新済みファイルの保存時に新しいフォルダ (サイトのルートである Scripts) に配置されます。更新済みページをアップロードする場合、手動でまたは [依存ファイル] ダイアログボックスで [はい] をクリックすることにより AC_RunActiveContent.js ファイルをアップロードする必要があります。

注意：Active X オブジェクトをドキュメントに挿入すると、Dreamweaver では、2 つの外部ファイル AC_RunActiveContent.js および AC_ ActiveX.js が作成されます。更新済みページをアップロードする場合、手動でまたは [依存ファイル] ダイアログボックスで [はい] をクリックすることにより両ファイルをアップロードする必要があります。

Dreamweaver は、object タグのみを調整します。古いページにアクティブコンテンツを挿入するために使用される場合がある独立した embed タグ や applet タグは調整しません (ただし、object タグ内で囲まれた embed タグは、object タグを囲む目的で調整されます)。Web ページに embed タグまたは applet タグが含まれる場合、これらのタグを object タグに変換した後、Web ページを開く必要があります。これにより、Dreamweaver による変換が実行されます。Web ページ内の embed タグおよび applet タグは、検索を実行することにより簡単に特定できます。

この機能は拡張可能であり、特定の種類のプラグイン (RealPlayer や Windows Media Player のコンテンツなど) を使用する場合がある Web ページを変換するために、サードパーティーの拡張機能を使用できます。

また、[ファイル]-[変換]-[アクティブコンテンツ] を選択することにより、アクティブコンテンツの変換機能を使用することもできます。

注意：アクティブコンテンツはページごとに更新する必要があります。サイトのすべてのページを一度に更新することはできません。サイト全体で object タグを検索してから、object タグを含むページを開き、Dreamweaver によりページを修復することが最も適切な方法です。

アクティブコンテンツの詳細については、www.adobe.com/jp/devnet/activecontent/ を参照してください。

カスタムコンテンツの変換

Dreamweaver は、識別された object タグに含まれる param タグおよび embed タグのみを変換します。コードをカスタマイズしている場合 (たとえば object タグ内部に img タグまたは他の種類のタグを追加している場合、Dreamweaver JavaScript 関数は param タグおよび embed タグに対してのみ属性値ペアを生成するので、JavaScript 関数はランタイムにそのコンテンツに対して適切なストリングを書き込みません。カスタムコードにより実行時に適切なレンダリングを行いながら Internet Explorer で想定どおりの機能を求めるには、次のいずれかの操作を行う必要があります。

- カスタムコードと共に動作する JavaScript 関数を記述します。(また、必要な場合は [編集]-[環境設定]-[コードの書き換え] を選択することにより、Dreamweaver のアクティブコンテンツの変換機能をオフにできます。)
- generateScript() 関数を使用して object タグ内で他の種類の情報を検索し、その情報を JavaScript 関数に渡して、異なる種類の引数を処理できるようにする拡張機能を開発します。

アクティブコンテンツの詳細については、www.adobe.com/jp/devnet/activecontent/ を参照してください。

関連項目

219 ページの「テキストの検索と置換」

ドキュメントのエンコードについて

ドキュメントのエンコードで、ドキュメント内の文字に使用するエンコードを指定します。ドキュメントのエンコードは、ドキュメントの冒頭の meta タグで指定します。これによって、ドキュメントのデコード方法、およびデコードされたテキストの表示に使用するフォントが、ブラウザと Dreamweaver に通知されます。

たとえば、[西ヨーロッパ言語 (Latin1)] を指定した場合、次のような meta タグが挿入されます。<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=iso-8859-1">。Dreamweaver では、[フォント設定] で [西ヨーロッパ言語 (Latin1)] エンコードに指定したフォントでドキュメントが表示されます。ブラウザでは、ドキュメントはブラウザのユーザーが [西ヨーロッパ言語 (Latin1)] エンコードに指定したフォントで表示されます。

[日本語 (Shift JIS)] を指定した場合は、<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS"> という meta タグが挿入されます。Dreamweaver では、ドキュメントは [日本語] エンコードに指定したフォントで表示されます。ブラウザでは、ブラウザのユーザーが [日本語] エンコードに指定しているフォントがドキュメントの表示に使用されます。

ページのドキュメントエンコードを変更して、新しいドキュメントの作成時に Dreamweaver が使用する初期設定のエンコードを変更できます。各エンコードの表示に使用するフォントも変更できます。

関連項目

70 ページの「初期設定のドキュメントタイプおよびエンコーディングの設定」

ページプロパティの設定

ページタイトル、背景イメージ、背景色、テキストカラー、リンクカラー、およびマージンは、すべての Web ドキュメントの基本プロパティです。これらのプロパティを設定または変更し、Web ページのオーサリングで使用する言語固有のドキュメントエンコードの種類を指定できます。また、[ページプロパティ] ダイアログボックスにより、こうしたエンコードの種類で使用する Unicode 正規化形式も指定できます。

背景イメージと背景色の両方を使用する場合、イメージをダウンロードしている間は背景色が表示され、次にイメージが背景色を覆って表示されます。背景イメージに透明ピクセルが含まれる場合は、その下の背景色が表示されます。

1 [修正]-[ページプロパティ] を選択するか、テキストのプロパティインスペクタの [ページプロパティ] ボタンをクリックします。

2 ページプロパティを編集し、[OK] をクリックします。

ドキュメントタイプ (DTD) ドキュメントタイプ定義を指定します。たとえば、ポップアップメニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 互換にできます。

エンコーディング ドキュメント内の文字に使用されるエンコードを指定します。

Unicode 正規化形式 ドキュメントのエンコードとして UTF-8 を選択する場合のみ有効になります。Unicode 正規化形式には 4 種類があります。最も重要なものは正規化形式 C です。これは、World Wide Web の文字モデルとして最もよく使用される形式であるためです。Adobe では、完全を期すために他の 3 種類の Unicode 正規化形式も用意しています。

Unicode では、視覚的には似ていても、異なる方法でドキュメント内に保存できるいくつかの文字があります。たとえば、"ë" (e ウムラウト) は "e ウムラウト " として 1 つの文字で表すか、" 通常のラテン文字 e" + " 結合ウムラウト " として 2 つの文字で表すことができます。Unicode 結合文字は前の文字とともに使用されるので、ウムラウトは " ラテン文字 e" の上に表示されます。どちらの形式も視覚的には同じ文字体裁になりますが、ファイルに保存される方法は各形式で異なります。

正規化は、異なる形式で保存できるすべての文字が、すべて同じ形式を使って保存されるようにする処理です。つまり、ドキュメントにあるすべての "ë" 文字は 1 つの "e ウムラウト " または "e" + " 結合ウムラウト " として保存され、1 つのドキュメントで両方の形式で保存されることはありません。

Unicode 正規化と使用可能な具体的な形式については、Unicode Web サイト (www.unicode.org/reports/tr15) を参照してください。

関連項目

212 ページの「CSS の代わりの HTML の指定」

289 ページの「Dreamweaver によって生成された XHTML コードについて」

125 ページの「CSS プロパティの設定」

ページフォント、背景色、および背景イメージの設定

[ページプロパティ] ダイアログボックスで、フォント、背景色、背景イメージなど、Web ページのいくつかの基本的なページレイアウトオプションを指定できます。

1 [修正]-[ページプロパティ] を選択するか、テキストのプロパティインスペクタの [ページプロパティ] ボタンをクリックします。

2 [外観] カテゴリを選択し、オプションを設定します。

ページフォント Web ページで使用する初期設定のフォントファミリーを指定します。Dreamweaver では、テキストエレメントに別のフォントが設定されていない限り、ここで指定したフォントファミリーが使用されます。

サイズ Web ページで使用する初期設定のフォントサイズを指定します。Dreamweaver では、テキストエレメントに別のフォントサイズが設定されていない限り、ここで指定したフォントサイズが使用されます。

テキストカラー フォントのレンダリングに使用する初期設定のカラーを指定します。

背景色 ページの背景色を設定します。[背景色] ボックスをクリックして、カラーピッカーからカラーを選択します。

背景イメージ 背景イメージを設定します。[参照] ボタンをクリックし、イメージを参照して選択します。または、[背景イメージ] ボックスに背景イメージへのパスを入力します。

背景イメージがウィンドウ全体に満たない場合、Dreamweaver ではブラウザの場合と同様に背景イメージがタイル状に (繰り返して) 表示されます。背景イメージを繰り返さないようにするには、CSS を使用して、イメージの繰り返しを無効にします。

リピート ページ上で背景イメージをどのように表示するかを指定します。

- 背景イメージを 1 度だけしか表示しない場合は、[リピートなし] オプションを選択します。
- イメージを水平および垂直に繰り返すまたは並べて表示する場合は、[リピート] オプションを選択します。
- イメージを水平に並べて表示する場合は、[X 軸にリピート] を選択します。
- イメージを垂直に並べて表示する場合は、[Y 軸にリピート] を選択します。

[左マージン] および [右マージン] 左右のページマージンのサイズを指定します。

[上マージン] および [下マージン] 上下のページマージンのサイズを指定します。

リンクプロパティの設定

リンク、訪問済みリンク、およびアクティブリンクで使用する初期設定のフォント、フォントサイズ、およびカラーを定義できます。

1 [修正]-[ページプロパティ] を選択するか、テキストのプロパティインスペクタの [ページプロパティ] ボタンをクリックします。

2 [リンク] カテゴリを選択し、オプションを設定します。

リンクのフォント リンクテキストで使用する初期設定のフォントファミリーを指定します。初期設定では、別のフォントが指定されていない限り、ページ全体に対して指定されたフォントファミリーが使用されます。

サイズ リンクテキストで使用する初期設定のフォントサイズを指定します。

リンクカラー リンクテキストに適用するカラーを指定します。

訪問済みリンク 訪問済みリンクに適用するカラーを指定します。

ロールオーバーリンク マウス (またはポインタ) がリンクの上に置かれたときに適用するカラーを指定します。

アクティブリンク マウス (またはポインタ) でリンクをクリックしたときに適用するカラーを指定します。

アンダーライン リンクに適用するアンダーラインを指定します。たとえば、外部 CSS スタイルシートを通して、ページで既にアンダーラインのリンクスタイルが定義されている場合は、[アンダーライン] メニューは " 変更しない " オプションに設定されます。このオプションにより、定義済みのリンクスタイルについて警告されます。[ページプロパティ] ダイアログボックスでアンダーラインのリンクスタイルを変更すると、前のリンク定義が変更されます。

ページの見出しプロパティの設定

リンク、訪問済みリンク、およびアクティブリンクで使用する初期設定のフォント、フォントサイズ、およびカラーを定義できます。

1 [修正]-[ページプロパティ] を選択するか、テキストのプロパティインスペクタの [ページプロパティ] ボタンをクリックします。

2 [見出し] カテゴリを選択し、オプションを設定します。

フォント Web ページで使用する初期設定のフォントファミリーを指定します。Dreamweaver では、テキストエレメントに別のフォントが設定されていない限り、ここで指定したフォントファミリーが使用されます。

[見出し 1] から [見出し 6] 6 レベルまでの見出しタグに使用するフォントのサイズとカラーを指定します。

タイトルとエンコードのページプロパティの設定

リンク、訪問済みリンク、およびアクティブリンクで使用する初期設定のフォント、フォントサイズ、およびカラーを定義できます。[タイトル / エンコーディング] ページプロパティカテゴリでは、Web ページのオーサリングに使用する言語に特有のドキュメントエンコードタイプと、そのエンコードタイプで使用する Unicode 正規化形式を指定できます。

1 [修正]-[ページプロパティ] を選択するか、テキストのプロパティインスペクタの [ページプロパティ] ボタンをクリックします。

2 [タイトル / エンコーディング] カテゴリを選択し、オプションを設定します。

タイトル ドキュメントウィンドウおよびほとんどのブラウザウィンドウのタイトルバーに表示されるページタイトルを指定します。

ドキュメントタイプ (DTD) ドキュメントタイプ定義を指定します。たとえば、ポップアップメニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 互換にできます。

エンコーディング ドキュメント内の文字に使用されるエンコードを指定します。

ドキュメントエンコーディングとして Unicode (UTF-8) を選択した場合、UTF-8 ではすべての文字を適切に表すことができるため、エンティティエンコーディングは必要ありません。他のドキュメントエンコーディングを選択した場合は、一部の文字を表すためにエンティティエンコーディングが必要になることがあります。文字エンティティの詳細については、www.w3.org/TR/REC-html40/sgml/entities.html を参照してください。

Unicode 正規化形式 ドキュメントのエンコードとして UTF-8 を選択する場合のみ有効になります。Unicode 正規化形式には 4 種類があります。最も重要なものは正規化形式 C です。これは、World Wide Web の文字モデルとして最もよく使用される形式であるためです。他の 3 種類の Unicode 正規化形式も提供されています。

Unicode Signature (BOM) を含める ドキュメントにバイトオーダーマーク (BOM) を含めます。BOM は、ファイルを Unicode として識別する、テキストファイルの先頭にある 2 ～ 4 バイトです。ファイルが Unicode である場合は、後続のバイトのバイトオーダーを指定します。UTF-8 にはバイトオーダーがないため、UTF-8 BOM の追加はオプションです。UTF-16 および UTF-32 の場合、BOM の追加は必須です。

再読み込み 既存のドキュメントを変換するか、新しいエンコードを使用して再度開きます。

トレーシングイメージを使用したページのデザイン

ページのデザインでガイドとして使用するイメージファイルを挿入できます。

1 [修正]-[ページプロパティ] を選択するか、テキストのプロパティインスペクタの [ページプロパティ] ボタンをクリックします。

2 [トレーシングイメージ] カテゴリを選択し、オプションを設定します。

トレーシングイメージ デザインをコピーするガイドとして使用するイメージを指定します。このイメージは、リファレンス専用です。また、ドキュメントがブラウザに表示されるときには表示されません。

透明度 トレーシングイメージの透明度を、完全に透明から完全に不透明の間で指定します。

ドキュメントウィンドウでのエレメントの選択および表示

ドキュメントウィンドウのデザインビューでエレメントを選択するには、そのエレメントをクリックします。エレメントが不可視になっている場合は、そのエレメントを表示しないと選択できません。

HTML コードの一部には、ブラウザで表示されないものがあります。たとえば、comment タグは、ブラウザには表示されません。ただし、ページの作成時にこれらの不可視エレメントを選択、編集、移動、および削除できるようにしておくと便利です。

Dreamweaver では、ドキュメントウィンドウのデザインビューで、不可視エレメントの位置を示すアイコンを表示するかどうかを指定できます。[不可視エレメント] の環境設定でオプションを設定することにより、表示するエレメントのマーカーを指定できます。たとえば、アンカーポイントを表示し、改行を非表示にするよう指定できます。

一部の不可視エレメント (コメントやアンカーポイントなど) は、[挿入] バーの [一般] カテゴリのボタンを使用して作成できます。作成したエレメントは、プロパティインスペクタを使用して変更できます。

関連項目

293 ページの「コードの表示」

26 ページの「[挿入] バーの使用」

エレメントの選択

- ドキュメントウィンドウで表示エレメントを選択するには、エレメントをクリックするか、エレメント上をドラッグします。
- 不可視エレメントを選択するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択してから (このメニュー項目がまだ選択されていない場合)、ドキュメントウィンドウでエレメントのマーカーをクリックします。

オブジェクトによっては、ページ上で対応するコードが挿入されている位置とは別のところに表示される場合があります。たとえば、デザインビューでは絶対位置のエレメント (AP エレメント) はページの任意の位置に配置できますが、コードビューでは AP エレメントを定義するコードは固定位置に配置されます。不可視エレメントを表示している場合、Dreamweaver では、不可視エレメントのコードの位置を示すマーカーがドキュメントウィンドウに表示されます。マーカーを選択すると、エレメント全体が選択されます。たとえば、AP エレメントのマーカーを選択すると、その AP エレメント全体が選択されます。

- 完全なタグを、その内容と共に選択するには、ドキュメントウィンドウの左下にあるタグセレクタでタグをクリックします。タグセレクタは、デザインビューおよびコードビューの両方に表示されます。タグセレクタには常に、現在の選択範囲または挿入ポイントを含むタグが表示されます。左端のタグは、現在の選択範囲または挿入ポイントを含む一番外側のタグです。次のタグは、一番外側のタグのすぐ内側にあり、次に表示されるのは前のタグのすぐ内側のタグです。右端のタグは、現在の選択範囲または挿入ポイントを含む一番内側のタグです。

次の例では、挿入ポイントが段落タグ <p> の中にあります。目的の段落を含むテーブルを選択するには、<table> タグ (<p> タグの左にあります) を選択します。

選択したテキストまたはオブジェクトに関連付けられている HTML コードの確認

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- ドキュメントツールバーで、[コードビューの表示] ボタンをクリックします。
- [表示]-[コード] を選択します。
- ドキュメントツールバーで、[コードビューおよびデザインビューの表示] ボタンをクリックします。
- [表示]-[コードとデザイン] を選択します。
- [ウィンドウ]-[コードインスペクタ] を選択します。

コードエディタ (コードビューまたはコードインスペクタ) で選択したものは、通常、ドキュメントウィンドウでも選択されています。2 つのビューを同期させないと、選択したものが表示されないことがあります。

不可視エレメントのマーカーアイコンの表示 / 非表示の切り替え

❖ [表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。

注意：不可視エレメントを表示すると、他のエレメントが数ピクセル分移動するので、ページのレイアウトがわずかに変化する場合があります。レイアウトを正確に表示するには、不可視エレメントを非表示にしてください。

不可視エレメントの環境設定の設定

[不可視エレメント] 環境設定を使用して、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択したときに表示されるエレメントの種類を指定します。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して、[不可視エレメント] をクリックします。

2 表示する必要のあるエレメントを選択し、[OK] をクリックします。

注意：ダイアログボックスでエレメント名の横に表示されるチェックマークは、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択すると、そのエレメントが表示されることを表します。

アンカーポイント ドキュメント内の各アンカーポイント (a name = "") の位置を示すアイコンが表示されます。

スクリプト ドキュメント本文で JavaScript コードまたは VBScript コードの位置を示すアイコンが表示されます。このアイコンを選択すると、プロパティインスペクタでスクリプトを編集することも、外部スクリプトファイルにリンクすることもできます。

コメント HTML コメントの位置を示すアイコンが表示されます。このアイコンを選択すると、プロパティインスペクタにコメントが表示されます。

改行 各改行 (BR) の位置を示すアイコンが表示されます。このオプションはデフォルトではオフになっています。

クライアント側のイメージマップ ドキュメント内の各クライアントサイドイメージマップの位置を示すアイコンが表示されます。

埋め込みスタイル ドキュメントのボディセクションに埋め込まれた CSS スタイルの位置を示すアイコンが表示されます。ドキュメントのヘッドセクションに配置されている CSS スタイルは、ドキュメントウィンドウには表示されません。

非表示フォームフィールド type 属性が "hidden" に設定されているフォームフィールドの位置を示すアイコンが表示されます。

フォーム区切り フォームの周りの境界線が表示されるので、フォームエレメントを挿入する位置を確認できます。この境界線は、form タグの範囲を表すので、この境界線内のフォームエレメントはすべて、form タグに適切に囲まれています。

AP エレメントのアンカーポイント AP エレメントを定義するコードの位置を示すアイコンが表示されます。AP エレメント自体は、ページの任意の位置に配置できます。AP エレメントは不可視エレメントではありません。AP エレメントを定義するコードだけが不可視です。このアイコンを選択して AP エレメントを選択すると、AP エレメントが非表示に指定されていても、その AP エレメントの内容が表示されます。

整列のアンカーポイント align 属性を指定可能なエレメントの HTML コードの位置を示すアイコンが表示されます。このようなエレメントには、イメージ、テーブル、ActiveX オブジェクト、プラグイン、アプレットなどがあります。エレメントの HTML コードが、表示オブジェクトから分離されている場合もあります。

ビジュアルサーバーマークアップタグ 内容をドキュメントウィンドウに表示できないサーバーマークアップタグ (Active Server Pages タグや ColdFusion タグなど) の位置が表示されます。

非ビジュアルサーバーマークアップタグ 内容をドキュメントウィンドウに表示できないサーバーマークアップタグ (Active Server Pages タグや ColdFusion タグなど) の位置が表示されます。

CSS 表示 : なし リンクされた、または埋め込まれたスタイルシートの display:none プロパティによって非表示にされているコンテンツの位置を示すアイコンが表示されます。

動的テキストの表示方法 {Recordset:Field} の形式を使用して、初期設定でページに動的テキストを表示します。これらの値の長さが十分にあり、ページのフォーマットを変形できる場合、表示を {} に変更できます。

サーバーサイドインクルード 各サーバーサイドインクルードファイルの実際のコンテンツを表示します。

CSS の代わりの HTML の指定

初期設定では、CSS タグを使用してページプロパティを割り当てます。HTML タグを使用する場合は、[環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリにある [HTML タグの代わりに CSS を使用] チェックボックスをオフにする必要があります。

1 [編集]-[環境設定] を選択します。

2 [環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリにある [HTML タグの代わりに CSS を使用] チェックボックス ([一般] パネルの [編集オプション] セクションにあるチェックボックス) をオフにし、[OK] をクリックします。

HTML [ページプロパティ] ダイアログボックスの [外観] の設定

HTML [ページプロパティ] ダイアログボックスの [外観] カテゴリでは、Web ページのいくつかの基本的なページレイアウトオプションを指定できます。

[背景イメージ] および [背景] ページの背景イメージと背景色を指定します。

[テキスト] および [リンク] テキスト、リンク、訪問済みリンク、およびアクティブリンクの初期設定カラーを定義します。CSS スタイルシートを使用して、これらのカラーを制御することもできます。

[左マージン] および [上マージン] body タグ内のページマージンのサイズを指定します (Microsoft Internet Explorer の場合にのみ適用)。Netscape Navigator では、これらの値は無視され、代わりに [マージン幅] および [マージンの高さ] の値が使用されます。両方のブラウザで最善の結果を得るために、両方のブラウザのマージン値を指定します。したがって、2 つだけではなく、4 つのマージン値をすべて指定します。どのブラウザにもマージンが表示されないようにするために、4 つの値すべてに 0 を設定します。Dreamweaver では、ドキュメントウィンドウにページマージンは表示されません。マージンを表示するには、[ブラウザでプレビュー] を使用します。

[マージン幅] および [マージンの高さ] body タグ内のページマージンのサイズを指定します (Netscape Navigator の場合にのみ適用)。Internet Explorer では、これらの値は無視され、代わりに [左マージン] および [上マージン] の値が使用されます。両方のブラウザで最善の結果を得るために、両方のブラウザのマージン値を指定します。したがって、2 つだけではなく、4 つのマージン値をすべて指定します。両ブラウザでマージンが表示されないようにするために、4 つの値すべてに 0 を設定します。Dreamweaver では、ドキュメントウィンドウにページマージンは表示されません。マージンを表示するには、[ブラウザでプレビュー] を使用します。

関連項目

131 ページの「クラススタイルの適用、削除、名前の変更」

205 ページの「ページプロパティの設定について」

212 ページの「CSS の代わりの HTML の指定」

Web セーフカラー

HTML では、カラーは 16 進数値 (#FF0000 など) またはカラーの名前 (red) で表します。Web セーフカラーとは、256 色モードの Windows システムおよび Macintosh システムにおいて、Netscape Navigator と Microsoft Internet Explorer のどちらでも同様に表示される色です。従来は、Web セーフカラーは 216 色あり、00、33、66、99、CC、または FF (RGB 値はそれぞれ 0、51、102、153、204、255) の対を組み合わせた 16 進数の値が Web セーフカラーを表すと考えられていました。

テストの結果、Web セーフカラーは 216 色ではなく、212 色しかないことがわかりました。Windows の Internet Explorer では、#0033FF (0、51、255)、#3300FF (51、0、255)、#00FF33 (0、255、51)、および #33FF00 (51、255、0) が正確に再現されないからです。

Web ブラウザが初めて登場した当時、多くのコンピュータで表示できるカラーは 256 色 (8 bpc (ビット / チャネル)) までした。現在では、大多数のコンピュータは数千色から数百万色 (16 bpc および 32 bpc) を表示できます。したがって、最近のコンピュータシステムを使用しているユーザー向けにサイトを開発するのであれば、ブラウザセーフカラーパレットを使用する必要性がほとんどありません。

Web セーフカラーパレットを使用する理由の 1 つとして、PDA や携帯電話のディスプレイなど、コンピュータ以外の Web デバイス向けに開発する場合が考えられます。こうしたデバイスの多くに装備されているディスプレイは、モノクロ (1 bpc) または 256 色 (8 bpc) であるためです。

Dreamweaver の [カラーキューブ] パレット (初期設定) および [連続したトーン] パレットでは、216 色の Web セーフパレットを使用します。これらのパレットからカラーを選択すると、カラーの 16 進数値が表示されます。

Web セーフ範囲外のカラーを選択するには、Dreamweaver カラーピッカーの右上隅にあるカラーホイールボタンをクリックして、システムカラーピッカーを開きます。システムカラーピッカーでは、Web セーフカラー以外のカラーも選択できます。

Netscape Navigator の UNIX 版では、Windows 版および Macintosh 版とは異なるカラーパレットを使用します。UNIX ブラウザ (または、24 bpc のモニタを使用する Windows または Macintosh のユーザーや、8 bpc のモニタを使用する UNIX ユーザー) のみを対象として設計している場合は、SunOS 向けの Web セーフカラーを生成する 00、40、80、BF、または FF の対を組み合わせた 16 進数値の使用を検討してください。

カラーピッカーの使用

Dreamweaver では、ほとんどのダイアログボックス、および多くのページエレメントに対応するプロパティインスペクタにカラーボックスがあり、クリックするとカラーピッカーが開きます。カラーピッカーを使用して、ページエレメントのカラーを選択します。また、ページエレメントの初期設定のテキストカラーを設定できます。

1 ダイアログボックスまたはプロパティインスペクタで、カラーボックスをクリックします。

カラーピッカーが表示されます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- スポイトを使用して、パレットからカラー見本を選択します。[カラーキューブ] パレット (初期設定) および [連続したトーン] パレットのカラーはすべて Web セーフですが、他のパレットは Web セーフではありません。
- スポイトを使用して、画面上の任意の位置からカラーを選択します。Dreamweaver のウィンドウの外から選択することもできます。デスクトップや他のアプリケーションからカラーを選択するには、マウスボタンを押したままにします。これにより、スポイトは Dreamweaver の外でもフォーカスを失わず、カラーを選択できるようになります。デスクトップや他のアプリケーションをクリックすると、Dreamweaver により、クリックした場所のカラーが選択されます。ただし、他のアプリケーションに切り替えた場合は、Dreamweaver ウィンドウをクリックする必要があります。これにより、Dreamweaver で作業を続けることができます。

- カラーの選択範囲を拡張するには、カラーピッカーの右上隅にあるポップアップメニューを使用します。[カラーキューブ]、[連続したトーン]、[Windows OS]、[Mac OS]、[グレースケール]、および [Web セーフカラーに吸着] が選択できます。

注意：[カラーキューブ] および [連続したトーン] の各カラーパレットは Web セーフですが、[Windows OS]、[Mac OS] および [グレースケール] は Web セーフではありません。Web セーフではないパレットを使用して [Web セーフカラーにスナップ] を選択した場合、Dreamweaver では選択したカラーが最も近い Web セーフカラーで置き換えられます。したがって、表示されているものとは異なる色が設定される可能性があります。

- 別のカラーを選択せずに現在のカラーをクリアするには、[カラーの指定なし] ボタン をクリックします。
- システムカラーピッカーを開くには、カラーホイールボタン をクリックします。

ズームインとズームアウト

Dreamweaver では、ドキュメントウィンドウで表示倍率 (ズームイン) を拡大することにより、グラフィックのピクセルの正確さの確認、小さい項目のより簡単な選択、小さいテキストを使用したページのデザイン、大きいページのデザインなどを行うことができます。

注意：ズームツールは、デザインビューでのみ使用できます。

関連項目

17 ページの「ステータスバーの概要」

ページのズームインとズームアウト

1 ドキュメントウィンドウの右下隅にあるズームツール (虫眼鏡のアイコン) を選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- 目的の倍率に拡大されるまで、ページ上の場所をクリックします。
- ページ上でズームインする領域にボックスをドラッグして、マウスボタンを離します。
- 表示比率のポップアップメニューから既存の倍率レベルを選択します。
- 表示比率のテキストボックスに倍率レベルを入力します。

ズームツールを使用せずにズームインするには、Ctrl+= (Windows) または Command+= (Macintosh) を押します。

3 ズームアウト (表示倍率の縮小) を行うには、ズームツールを選択して、Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながらページをクリックします。

ズームツールを使用せずにズームアウトするには、Ctrl+- (Windows) または Command+- (Macintosh) を押します。

ズーム後のページの編集

❖ ドキュメントウィンドウの右下隅にあるポインタツール (ポインタのアイコン) を選択し、ページ内をクリックします。

ズーム後のページの縮小

1 ドキュメントウィンドウの右下隅にある手のひらツール (手の形のアイコン) を選択します。

2 ページをドラッグします。

ドキュメントウィンドウへの選択範囲の拡大表示

1 ページ上のエレメントを選択します。

2 [表示]-[選択オブジェクト] を選択します。

ドキュメントウィンドウへのページ全体の拡大表示

❖ [表示]-[ドキュメント全体] を選択します。

ドキュメントウィンドウへのページ幅全体の拡大表示

❖ [表示]-[幅を合わせる] を選択します。

JavaScript ビヘイビアを使用したブラウザとプラグインの検出

ビヘイビアを使って、ビジターが使っているブラウザの種類と、特定のプラグインがインストールされているかどうかを判別できます。

チェックブラウザ ブラウザの種類とバージョンに応じて、異なるページを表示することができます。たとえば、Netscape Navigator 4.0 以降のブラウザを使用しているビジターを特定のページに進ませ、Microsoft Internet Explorer 4.0 以降を使用しているビジターを別のページに進ませ、その他のブラウザのビジターを現在のページに留まるようにすることができます。

プラグインのチェック 特定のプラグインがインストールされているかどうかに応じて、異なるページを表示します。たとえば、Shockwave™ がインストールされているビジターをあるページに進ませ、インストールされていないビジターを別のページに進ませることができます。

関連項目

331 ページの「JavaScript ビヘイビアの使用」

335 ページの「[チェックブラウザ] ビヘイビアの適用」

336 ページの「[プラグインのチェック] ビヘイビアの適用」

ダウンロード時間とサイズの設定

Dreamweaver では、イメージやプラグインなど、リンクされたすべてのオブジェクトを含むページのコンテンツ全体を基にしてサイズが計算されます。また、Dreamweaver ではステータスバーの環境設定で指定した接続スピードに基づいて、ダウンロード時間が概算されます。実際のダウンロード時間は、全般的なインターネットの状況によって異なります。

特定の Web ページのダウンロード時間をチェックする場合、"8 秒ルール " を参考にします。一般に、ダウンロードの待ち時間の限界は 8 秒であるといわれています。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [ステータスバー] を選択します。

3 ダウンロード時間の計算基準にする接続速度を選択し、[OK] をクリックします。

関連項目

25 ページの「ウィンドウサイズと接続速度の設定」

ブラウザでのプレビューの環境設定

サイトのプレビュー時にブラウザを使用する場合の環境設定と、初期設定のプライマリブラウザおよびセカンダリブラウザを定義できます。

1 [ファイル]-[ブラウザでプレビュー]-[ブラウザリストの編集] を選択します。

2 リストにブラウザを追加するには、[+] ボタンをクリックし、[ブラウザの追加] ダイアログボックスに情報を入力して、[OK] をクリックします。

3 リストからブラウザを削除するには、ブラウザを選択してから [-] ボタンをクリックします。

4 選択したブラウザの設定を変更するには、[編集] ボタンをクリックし、[ブラウザの編集] ダイアログボックスで設定を変更して、[OK] をクリックします。

5 [プライマリブラウザ] または [セカンダリブラウザ] オプションを選択し、選択したブラウザがプライマリブラウザかセカンダリブラウザのどちらであるかを指定します。

F12 キー (Windows) または Option+F12 (Macintosh) を押すと、プライマリブラウザが開きます。Ctrl+F12 (Windows) または Command+F12 (Macintosh) を押すと、セカンダリブラウザが開きます。

6 [一時ファイルを使用してプレビュー] を選択し、プレビューおよびサーバーのデバッグ用に一時的なコピーを作成します。ドキュメントを直接更新する場合は、このオプションをオフにします。

Web ページの保存と復帰

現在の名前と場所でドキュメントを保存することも、新しい名前で別の場所にドキュメントのコピーを保存することもできます。

ファイルに名前を付けるときは、ファイル名やフォルダ名にスペースおよび特殊記号を使用しないでください。特に、特殊文字 (é、ç、¥ など) やコロン、スラッシュ、ピリオドなどは、リモートサーバーに送信するファイルの名前には使用しないでください。多くのサーバーで、これらの記号はアップロード時に変換されるため、ファイルへのリンクが失われてしまいます。また、数字で始まるファイル名も使用しないでください。

関連項目

66 ページの「空白ページの作成」

ドキュメントの保存

1 次のいずれかの操作を実行します。

- ディスク上の現在のバージョンを上書きし、変更内容すべてを保存するには、[ファイル]-[保存] を選択します。
- 別のフォルダにファイルを保存するには、または別の名前を使用してファイルを保存するには、[ファイル]-[新規保存] を選択します。

2 表示された [新規保存] ダイアログボックスで、ファイルを保存するフォルダに移動します。

3 [ファイル名] テキストボックスに、ファイルの名前を入力します。

4 [保存] をクリックして、ファイルを保存します。

開いているすべてのドキュメントの保存

1 [ファイル]-[すべて保存] を選択します。

2 未保存のドキュメントが開かれている場合は、未保存のドキュメントごとに [新規保存] ダイアログボックスが表示されます。

表示されたダイアログボックスで、ファイルを保存するフォルダに移動します。

3 [ファイル名] ボックスに、ファイルの名前を入力し、[保存] をクリックします。

ドキュメントの保存済み最新バージョンへの復帰

1 [ファイル]-[復帰] を選択します。

ダイアログボックスが表示され、行った変更を破棄して保存済み最新バージョンに復帰するかどうかを尋ねられます。

2 [はい] をクリックして最新バージョンに復帰します。変更を保存する場合は、[いいえ] をクリックします。

注意：ドキュメントを保存してから Dreamweaver を終了した場合は、Dreamweaver を再起動して、ドキュメントの最新バージョンに戻すことはできません。

テキストの追加とフォーマット

テキストの挿入について

Dreamweaver でテキストを Web ページに追加する場合、Web ページにテキストを直接入力する、別のドキュメントからテキストをコピー & ペーストする、別のアプリケーションからテキストをドラッグするなどの方法が使用できます。また、ASCII テキストファイル、リッチテキストフォーマットファイル、Microsoft Office ドキュメントなど、その他のドキュメントタイプからのテキストの読み込みやリンクを行うことができます。

テキストのドキュメントへの追加

ドキュメントウィンドウでテキストを直接入力するかカット & ペーストすれば、そのテキストを Dreamweaver ドキュメントに追加することができます。また、テキストを別のドキュメントから読み込むこともできます。

Dreamweaver ドキュメントにテキストをペーストする場合は、[ペースト] または [ペーストスペシャル] コマンドを使用できます。[ペーストスペシャル] コマンドを使用すると、ペーストされるテキストのフォーマットを指定できます。たとえば、フォーマットされた Microsoft Word ドキュメントから Dreamweaver ドキュメントにテキストをペーストするときに、すべてのフォーマットを削除し、ペーストしたテキストに独自の CSS スタイルシートを適用するとします。この場合は Word でテキストを選択し、クリップボードにコピーし、[ペーストスペシャル] コマンドを使用して、テキストのみをペーストするオプションを選択します。

[ペーストスペシャル] コマンドを使用して他のアプリケーションからテキストをペーストする場合は、ペーストの環境設定を初期設定のオプションとして指定できます。

注意： コードビューでは、Ctrl+V (Windows) または Command+V (Macintosh) を押すと、常にテキストのみ (フォーマットなし) がペーストされます。

❖ 以下のいずれかの操作を行って、ドキュメントにテキストを追加します。

- ドキュメントウィンドウにテキストを直接入力します。
- 他のアプリケーションからテキストをコピーし、Dreamweaver に切り替えてドキュメントウィンドウのデザインビューに挿入ポイントを置き、[編集]-[ペースト] または [編集]-[ペーストスペシャル] を選択します。

[編集]-[ペーストスペシャル] を選択することにより、いくつかのペーストオプションフォーマットを選択できます。

以下のキーボードショートカットを使用してペーストすることもできます。

ペーストオプション	ショートカットキー
ペースト	Ctrl+V (Windows) Command+V (Macintosh)
ペーストスペシャル	Ctrl+Shift+V (Windows) Command+Shift+V (Macintosh)

特殊文字の挿入

HTML では、一部の特殊文字を名前または数字で表し、これを **entity** と呼びます。HTML には、著作権記号 (©)、アンバサンド (&)、登録商標記号 (®) などの文字のエンティティ名があります。各エンティティには、— などの名前と、それに対応する — などの数値があります。

HTML では、コードに山形カッコ <> が使用されるため、" より大きい " または " より小さい " を表す特殊文字が Dreamweaver にコードと解釈されないよう配慮する必要があります。その場合、" より大きい " (>) には > を使用し、" より小さい " (<) には < を使用します。

多くのブラウザ、特に、古いブラウザや Netscape Navigator および Internet Explorer 以外のブラウザは、大半の名前付きエンティティを正しく表示できません。

1 ドキュメントウィンドウで、特殊文字を挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[HTML]-[特殊文字] サブメニューから、文字の名前を選択します。
- [挿入] バーの [テキスト] カテゴリで [文字] ボタンを選択し、サブメニューから文字を選択します。

他にも多数の特殊文字を利用できます。目的の特殊文字を選択するには、[挿入]-[HTML]-[特殊文字]-[その他] を選択するか、または、[挿入] バーの [テキスト] カテゴリで [文字] ボタンをクリックし、[その他の文字] オプションを選択します。[その他の文字を挿入] ダイアログボックスから文字を選択し、[OK] をクリックします。

文字間のスペースの追加

HTML では、文字と文字の間に使用できるスペースは 1 個だけです。スペースを 2 個以上ドキュメントに追加するには、区切りなしスペースを挿入します。区切りなしスペースが自動的にドキュメントに追加されるように環境設定を行うことができます。

区切りなしスペースの挿入

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[HTML]-[特殊文字]-[区切りなしスペース] を選択します。
- Ctrl+Shift キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながらスペースキーを押します。
- [挿入] バーの [テキスト] カテゴリで [文字] ボタンをクリックし、[区切りなしスペース] アイコンを選択します。

環境設定による区切りなしスペースの追加

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [一般] カテゴリで [複数の連続したスペースを許可] がオンになっていることを確認します。

ブレットリストおよび番号リストの作成

番号リスト、ブレットリスト、および定義リストは、既存のテキストから、またはドキュメントウィンドウで新たにテキストを入力しながら作成することができます。

定義リストは、ブレットポイントや番号など項目リストの先頭に付ける文字を使用しないもので、用語集や説明に使用されます。リストはネストすることもできます。ネストしたリストとは、リストの中に別のリストが含まれているリストのことです。たとえば、番号リストまたはブレットリストを別の番号リストの中にネストすることができます。

[リストプロパティ] ダイアログボックスを使用して、リスト全体または個々のリスト項目の外観を設定します。個々のリスト項目またはリスト全体に対して、番号スタイルの設定、番号のリセット、ブレットスタイルオプションの設定を行うことができます。

関連項目

125 ページの「CSS プロパティの設定」

新しいリストの作成

1 Dreamweaver ドキュメントで、リストを追加する位置に挿入ポイントを置き、以下のいずれかの操作を行います。

- プロパティインスペクタの [リスト] ボタンまたは [番号リスト] ボタンをクリックします。
- [テキスト]-[リスト] を選択し、[リスト] (ブレットリスト)、[番号リスト]、[定義リスト] から目的のリストタイプを選択します。

指定したリスト項目の先頭に付く文字が、ドキュメントウィンドウに表示されます。

2 リスト項目のテキストを入力します。Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押すと、次のリスト項目が作成されます。

3 リストの作成を終了するには、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を 2 回押します。

既存のテキストからのリストの作成

1 リストに変換する一連の段落を選択します。

2 プロパティインスペクタで [リスト] ボタンまたは [番号リスト] ボタンをクリックするか、[テキスト]-[リスト] を選択して、[リスト]、[番号リスト]、[定義リスト] から目的のリストタイプを選択します。

ネストしたリストの作成

1 ネストするリスト項目を選択します。

2 プロパティインスペクタの [インデント] ボタンをクリックするか、[テキスト]-[インデント] を選択します。

テキストがインデントされ、元のリストの HTML 属性を使用して別のリストが作成されます。

3 上記と同様の手順で、インデントされたテキストに新しいリストのタイプまたはスタイルを適用します。

リスト全体に対するリストプロパティの設定

1 ドキュメントウィンドウで、少なくとも 1 つのリスト項目を作成します。リスト項目を追加すると、新しいスタイルが自動的に適用されます。

2 リスト項目のテキストに挿入ポイントを置いて [テキスト]-[リスト]-[リストのプロパティ] を選択し、[リストプロパティ] ダイアログボックスを開きます。

3 リストを定義するオプションを設定します。

リストタイプ リストのプロパティを指定します。これに対して、[リスト項目] ではリスト内の個々の項目を指定します。ポップアップメニューから、[ブレットリスト]、[番号リスト]、[ディレクトリリスト]、または [メニューリスト] を選択します。[リストタイプ] の設定に従って、異なるオプションがダイアログボックスに表示されます。

スタイル 番号リストまたはブレットリストに使用する数字またはブレットのスタイルを設定します。リスト内の項目に対して別のスタイルを指定した場合を除き、リストの全項目にこのスタイルが適用されます。

カウントの開始 番号リストの最初の項目の値を設定します。

4 [OK] をクリックし、選択結果を設定します。

リスト項目のリストプロパティの設定

1 ドキュメントウィンドウで、設定を反映するリスト項目のテキストに挿入ポイントを置きます。

2 [テキスト]-[リスト]-[プロパティ] を選択します。

3 [リスト項目] で、定義するオプションを設定します。

新規スタイル 選択したリスト項目のスタイルを指定します。[新規スタイル] メニューに表示されるスタイルは、[リストタイプ] メニューに表示されるリストのタイプに関連付けられています。たとえば、[リストタイプ] メニューに [ブレットリスト] が表示されている場合は、[新規スタイル] メニューで選択できるのはブレットのオプションのみです。

カウントをリセット 番号リストの最初の項目の番号を設定します。

4 [OK] をクリックし、オプションを設定します。

テキストの検索と置換

[検索および置換] コマンドを使用すると、ドキュメント内のテキスト、HTML タグ、および HTML 属性を検索できます。複数のドキュメントを検索することもできます。[結果] パネルグループにある [検索] パネルには、[すべて検索] を使用した検索の結果が表示されます。

注意：サイト内のファイルを検索するには、[ローカルサイトで表示] または [リモートサイトで表示] を使用します。

関連項目

293 ページの「コードの表示」

テキストの検索と置換

1 検索対象とするドキュメントを開きます。複数のドキュメントまたは 1 つのフォルダを検索する場合は、[ファイル] パネルで選択します。

2 [編集]-[検索および置換] を選択します。

3 以下のいずれかの [検索場所] オプションを使用して、検索するファイルを指定します。

選択したテキスト アクティブなドキュメントで現在選択されているテキストだけが検索対象となります。

現在のドキュメント アクティブなドキュメントだけが検索対象となります。

現在開いているドキュメント 現在開かれているすべてのドキュメントが検索対象となります。

フォルダ 特定のフォルダだけが検索対象となります。[フォルダ] を選択した後にフォルダのアイコンをクリックし、検索するフォルダを参照して選択します。

サイト内の選択したファイル [ファイル] パネルで現在選択されているファイルとフォルダだけが検索対象となります。

現在のローカルサイト全体 検索範囲が拡張され、現在のサイトのすべての HTML ドキュメント、ライブラリファイル、テキストドキュメントが対象となります。

4 [検索] ポップアップメニューで検索の種類を指定します。

ソースコード HTML ソースコード内の特定のテキスト文字列を検索します。このオプションを使用して特定のタグを検索することもできますが、[特定のタグ] 検索を使用すると、より柔軟なタグ検索が可能です。

テキスト ドキュメント内の特定のテキスト文字列を検索します。テキスト検索では、文字列の途中にある HTML はすべて無視されます。たとえば、"**the black dog**" という文字列を検索すると、"the black dog" と "the black dog" の両方が見つかります。

テキスト (高度) タグの内側または外側にある特定のテキスト文字列を検索します。たとえば、以下の HTML が記載されたドキュメントで **tries** を検索する場合で [タグ内部以外] と i タグを指定したときは、2 つ目の tries という単語だけが検索されます。John tries to get his work done on time, but he doesn't always succeed. He tries very hard. .

特定のタグ すべての td タグ (valign が top に設定されている) など、特定のタグ、属性、属性値を検索します。

注意：Windows では Ctrl+Enter または Shift+Enter、Macintosh では Control+Return、Shift+Return、または Command+Return を押すとテキスト検索フィールドに改行が追加されるので、改行文字を検索することができます。正規表現を使用せずに改行文字を検索する場合は、[ホワイトスペースの違いを無視] をオフにします。この検索では、単なる改行ではなく、改行文字が検索されます。たとえば、
 タグや <p> タグは検索されません。デザインビューでは、改行文字は改行ではなくスペースとして表示されます。

5 検索範囲を拡張または限定するには、以下のオプションを使用します。

大文字と小文字を区別 大文字と小文字の区別が一致するテキストだけが検索されます。たとえば、「**the brown derby**」を検索した場合、「The Brown Derby」は検索されません。

ホワイトスペースを無視 すべてのホワイトスペースが 1 個のスペースと見なされて検索が実行されます。たとえば、このオプションを選択し、「**this text**」と指定すると、「this text」や「this　text」は検索されますが、「thistext」は検索されません。このオプションは、[正規表現を使用] が選択されているときは使用できません。この場合、ホワイトスペースの違いを無視するように正規表現を明確に記述する必要があります。<p> タグおよび
 タグは、ホワイトスペースとして認識されません。

単語単位で検索 単語として一致するテキストだけが検索されます。

注意：このオプションを使用した場合の検索結果は、検索文字列の先頭と末尾に語境界を表す正規表現 \b を付けて正規表現検索を行った場合の検索結果と同じになります。

正規表現を使用 検索文字列内の特定の文字および短い文字列 (?、*、\w、\b など) が正規表現演算子として解釈されます。たとえば、「**the b\w*\b dog**」を検索すると、「the black dog」と「the barking dog」の両方が見つかります。

注意：コードビューを使用してドキュメントを変更しているときに、ソースコード以外のものを検索または置換しようとすると、Dreamweaver が 2 つのビューを同期させていることを通知するダイアログボックスが、検索が実行される前に表示されます。

6 検索した語を置換しないで検索を続けるには、[次を検索] または [すべて検索] をクリックします。

次を検索 現在のドキュメントに存在する次の検索テキストや検索タグが選択されます。Dreamweaver では、複数のドキュメントを検索している場合、現在のドキュメントに検索文字列が見つからなくなると、次のドキュメントに移動します。

すべて検索 [結果] パネルグループにある [検索] パネルが開きます。単一のドキュメントを検索対象としている場合、[すべて検索] を使用すると、検索条件に一致するテキストやタグすべてが、その周辺のコンテキストと共に表示されます。ディレクトリやサイト内を検索している場合は、[すべて検索] を使用すると、そのタグを含むドキュメントが一覧表示されます。

7 検索したテキストやタグを置換するには、[置換] または [すべて置換] をクリックします。

8 作業が終了したら、「閉じる」をクリックします。

[検索および置換] ダイアログボックスを表示せずに再度検索

❖ F3 (Windows) または Command+G (Macintosh) を押します。

特定の検索結果のコンテキスト内での表示

1 [ウィンドウ]-[結果] を選択して [検索] パネルを表示します。

2 [検索] パネルで行をダブルクリックします。

現在のファイルを検索している場合は、目的の検索結果を含む行がドキュメントウィンドウに表示されます。

複数のファイルを検索している場合は、目的の検索結果を含むファイルが開きます。

同じ検索の再実行

❖ [検索および置換] ボタンをクリックします。

実行中の検索の中止

❖ [停止] ボタンをクリックします。

特定のタグの検索

ドキュメント内のテキストやタグを検索したり、検索した内容を別のテキストやタグで置換するには、[検索および置換] ダイアログボックスを使用します。

1 [編集]-[検索および置換] を選択します。

2 [検索] ポップアップメニューから [特定のタグ] を選択します。

3 [検索] ポップアップメニューの横にあるポップアップメニューから、特定のタグまたは [任意] を選択します。または、テキストボックスにタグ名を入力します。

4 (オプション) 以下のいずれかのタグモディファイヤーを使用して、検索を限定します。

属性あり タグ内に含まれる属性を、一致条件として指定します。この属性に特定の値を指定するか、または [any value] を選択します。

属性なし タグ内にあってはならない属性を、一致条件として指定します。たとえば、すべての img タグ (alt 属性なし) を検索する場合に、このオプションを選択します。

含んでいる 元のタグ内に必要なテキストまたはタグを、一致条件として指定します。たとえば、heading 1 というコードでは、font タグが b タグの内側にあります。

含んでいない 元のタグ内にあってはならないテキストまたはタグを、一致条件として指定します。

タグ内部 ターゲットタグ内に必要なタグを、一致条件として指定します。

タグ内部以外 ターゲットタグ内にあってはならないタグを、一致条件として指定します。

5 (オプション) 検索をさらに制限するには、[+] ボタンを押して手順 3 を繰り返します。

6 手順 3 と 4 でタグモディファイヤーを 1 つも適用しなかった場合は、[-] ボタンをクリックしてタグモディファイヤーのポップアップメニューを閉じます。

7 タグの検出時にアクション (タグの削除や置換など) を実行する場合は、[アクション] ポップアップメニューからアクションを選択し、必要に応じて、アクションを実行するために必要な追加情報を指定します。

特定のテキストの検索 (高度)

ドキュメント内のテキストやタグを検索したり、検索した内容を別のテキストやタグで置換するには、[検索および置換] ダイアログボックスを使用します。

1 [編集]-[検索および置換] を選択します。

2 [検索] ポップアップメニューから [テキスト (高度)] を選択します。

3 [検索] ポップアップメニューの横にあるテキストフィールドに検索するテキストを入力します。

たとえば、**Untitled** という語句を入力します。

4 [タグ内部] または [タグ内部以外] を選択した後、隣にあるポップアップメニューでタグを選びます。

たとえば、[タグ内部] を選択してから、title を選びます。

5 (オプション) [+] ボタンをクリックし、以下のいずれかのタグモディファイヤーを使用して検索範囲を限定します。

属性あり タグ内に含まれる属性を、一致条件として指定します。この属性に特定の値を指定するか、または [any value] を選択します。

属性なし タグ内にあってはならない属性を、一致条件として指定します。たとえば、すべての img タグ (alt 属性なし) を検索する場合に、このオプションを選択します。

含んでいる 元のタグ内に必要なテキストまたはタグを、一致条件として指定します。たとえば、heading 1 というコードでは、font タグが b タグの内側にあります。

含んでいない 元のタグ内にあってはならないテキストまたはタグを、一致条件として指定します。

タグ内部 ターゲットタグ内に必要なタグを、一致条件として指定します。

タグ内部以外 ターゲットタグ内にあってはならないタグを、一致条件として指定します。

6 (オプション) 検索をさらに制限するには、手順 4 を繰り返します。

省略形と頭字語の定義

HTML には、ページで検索エンジン、スペルチェッカー、言語翻訳プログラム、スピーチシンセサイザに使用する省略形と頭字語を定義できるタグが用意されています。たとえば、ページの省略形 ME (mechanical engineer) は機械エンジニアを表し、頭字語 WHO (World Health Organization) は世界保健機関を表すように指定できます。

1 ページのテキストで省略形または頭字語を選択します。

2 [挿入]-[HTML]-[Text Objects]-[Abbreviation]、または [挿入]-[HTML]-[Text Objects]-[Acronym] を選択します。

3 頭字語または省略形の全文を入力します。

4 英語、ドイツ語、イタリア語など、言語を入力します。

コピー & ペーストの環境設定

[編集]-[ペースト] を使用して他のアプリケーションからテキストをペーストするときは、[ペーストスペシャル] の環境設定を初期設定のオプションとして設定することができます。たとえば、常にテキストをテキストのみとしてペーストする場合や、基本的なフォーマットが適用されたテキストとしてペーストする場合は、[環境設定] ダイアログボックスの [コピー / ペースト] で初期設定オプションを設定できます。

注意：Dreamweaver ドキュメントにテキストをペーストする場合は、[ペースト] または [ペーストスペシャル] コマンドを使用できます。[ペーストスペシャル] コマンドを使用すると、ペーストされるテキストのフォーマットを指定できます。たとえば、フォーマットされた Microsoft Word ドキュメントから Dreamweaver ドキュメントにテキストをペーストするときに、すべてのフォーマットを削除し、ペーストしたテキストに独自の CSS スタイルシートを適用するとします。この場合は Word でテキストを選択し、クリップボードにコピーし、[ペーストスペシャル] コマンドを使用して、テキストのみをペーストするオプションを選択します。

注意：[環境設定] ダイアログボックスの [コピー / ペースト] で設定された環境設定は、デザインビューでペーストされる内容のみに適用されます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [コピー / ペースト] カテゴリをクリックします。

3 次のオプションを設定して、[OK] をクリックします。

テキストのみ 書式設定されていないテキストをペーストできます。元のテキストがフォーマットされている場合、改行と段落を含むすべてのフォーマットが削除されます。

構造 (段落、リスト、テーブル) 付きテキスト 構造を維持しているが、基本的なフォーマットを維持していないテキストをペーストできます。たとえば、テキストをペーストして、段落、リスト、およびテーブルの構造を維持し、ボールド、イタリック、およびその他のフォーマットを維持しないようにできます。

構造と基本書式 (ボールド、イタリック) 付きテキスト 構造化された HTML フォーマットテキストと単純な HTML フォーマットテキストの両方 (段落やテーブルの他に、b、i、u、strong、em、hr、abbr、acronym の各タグで書式設定されたテキストなど) をペーストできます。

構造と完全な書式 (ボールド、イタリック、スタイル) 付きテキスト すべての構造、HTML フォーマット、および CSS スタイルを維持したテキストをペーストできます。

注意：[構造と完全な書式 (ボールド、イタリック、スタイル) 付きテキスト] オプションでは、外部スタイルシートの CSS スタイルは維持されません。また、スタイルのペースト元となるアプリケーションでクリップボードへのペースト時にスタイルが維持されない場合も、CSS スタイルは維持されません。

改行を維持 ペーストするテキストで改行を維持します。[テキストのみ] を選択した場合、このオプションは無効になります。

Word の段落スペースのクリーンアップ [構造と基本書式 (ボールド、イタリック) 付きテキスト] を選択し、テキストをペーストするときに段落間の余分なスペースを削除する場合は、このオプションを選択します。

スペルチェックとスペルの訂正

[テキスト] メニューの [スペルチェック] コマンドを使用して、現在のドキュメントのスペルチェックを行います。[スペルチェック] コマンドは、HTML タグおよび属性値を無視します。

初期設定では、スペルチェックに米国英語の辞書を使用します。辞書を変更するには、[編集]-[環境設定]-[一般] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定]-[一般] (Macintosh) を選択し、[スペル辞書] ポップアップメニューから使用する辞書を選択します。他の言語の辞書は、Dreamweaver サポートセンター (www.adobe.com/jp/support/dreamweaver/) からダウンロードできます。

1 [テキスト]-[スペルチェック] を選択するか、Shift+F7 キーを押します。

Dreamweaver で認識できない単語が検出されると、[スペルチェック] ダイアログボックスが表示されます。

2 認識されない単語をどのように処理するか、適切なオプションを選択します。

辞書に追加 認識されなかった単語をユーザー辞書に追加します。

無視 現在の単語を無視します。

すべて無視 現在の単語をすべて無視します。

修正 現在の単語を、[修正] テキストボックスに入力されたテキストまたは [修正候補] リストから選択された単語で置き換えます。

すべて修正 現在の単語を同じ方法ですべて置き換えます。

表データの読み込み

表データをドキュメントに読み込むには、まず、Microsoft Excel ファイルやデータベースファイルなどのファイルを、区切り記号付きテキストファイルとして保存します。

表データを読み込んでフォーマットし、Microsoft Word HTML ドキュメントからテキストを読み込むことができます。

Microsoft Excel ファイルの内容を Web ページに読み込むことで、Excel ドキュメントから Dreamweaver ドキュメントにテキストを追加することもできます。

1 [ファイル]-[読み込み]-[表データの読み込み] を選択するか、[挿入]-[テーブルオブジェクト]-[表データの読み込み] を選択します。

2 読み込むファイルを参照するか、ファイル名をテキストボックスに入力します。

3 ファイルを区切り記号付きテキストとして保存したときに使用した区切りを選択します。選択できるオプションは、[タブ]、[カンマ]、[セミコロン]、[コロン]、および [その他] です。

[その他] を選択すると、その横に空のフィールドが表示されます。区切りとして使用した文字を入力してください。

4 その他のオプションを使用して、データを読み込むテーブルをフォーマットまたは定義し、[OK] をクリックします。

関連項目

72 ページの「既存のドキュメントを開いて編集」

171 ページの「テーブルデータの読み込みと書き出し」

Microsoft Office ドキュメントの読み込み (Windows のみ)

Microsoft Word や Excel ドキュメントの完全な内容を新規または既存の Web ページに挿入できます。Word または Excel ドキュメントを読み込むと、Dreamweaver は変換された HTML を受け取って Web ページに挿入します。HTML に変換されたファイルは、Dreamweaver が受け取った後のサイズが 300KB 未満になることが必要です。

ファイル全体の内容を読み込む代わりに、Word ドキュメントの一部をペーストし、フォーマットを保持することもできます。

注意：Microsoft Office 97 を使用している場合は、Word や Excel のドキュメントの内容を読み込むことはできません。代わりに、ドキュメントへのリンクを挿入します。

1 Word または Excel ドキュメントの内容を挿入する Web ページを開きます。

2 デザインビューでファイルを選択するには以下のいずれかの操作を行います。

- ファイルを現在の位置から、その内容を表示するページにドラッグします。
- [ファイル]-[読み込み]-[Word ドキュメント] または [ファイル]-[読み込み]-[Excel ドキュメント] を選択します。

3 [ドキュメントの挿入] ダイアログボックスで追加するファイルを検索し、ダイアログボックスの下部にある [フォーマット] ポップアップメニューからいずれかのフォーマットオプションを選択して [開く] をクリックします。

テキストのみ 書式設定されていないテキストを挿入します。元のテキストがフォーマットされている場合、すべてのフォーマットが削除されます。

構造 (段落、リスト、テーブル) 付きテキスト 構造を維持しているが、基本的なフォーマットを維持していないテキストを挿入します。たとえば、テキストをペーストして、段落、リスト、およびテーブルの構造を維持し、ボールド、イタリック、およびその他のフォーマットを維持しないようにできます。

構造と基本書式 (ボールド、イタリック) 付きテキスト 構造化された HTML フォーマットテキストと単純な HTML フォーマットテキストの両方 (段落やテーブルの他に、b、i、u、strong、em、hr、abbr、acronym の各タグで書式設定されたテキストなど) を挿入します。

構造と完全な書式 (ボールド、イタリック、スタイル) 付きテキスト すべての構造、HTML フォーマット、および CSS スタイルを維持したテキストを挿入します。

Word の段落スペースのクリーンアップ [構造 (段落、リスト、テーブル) 付きテキスト] または [構造と基本書式 (ボールド、イタリック) 付きテキスト] を選択し、テキストをペーストするときに段落間の余分なスペースを削除します。

Word または Excel ドキュメントの内容がページに表示されます。

Word または Excel ドキュメントへのリンクの作成

既存のページに Microsoft Word または Excel ドキュメントへのリンクを挿入できます。

1 リンクを表示するページを開きます。

2 ファイルを現在の位置から Dreamweaver ページにドラッグし、好きな場所にリンクを置きます。

3 [リンクを作成] を選択して [OK] をクリックします。

4 リンクするドキュメントがサイトのルートフォルダ外にある場合、Dreamweaver からドキュメントをサイトのルートフォルダにコピーするよう要求されます。

ドキュメントをサイトのルートフォルダにコピーすれば、Web サイトをパブリッシュしたときに、そのドキュメントに確実にアクセスできるようになります。

5 Web サーバーにページをアップロードする場合は、Word または Excel ファイルもアップロードしてください。

ページに Word または Excel ドキュメントへのリンクが含まれるようになります。リンクテキストは、リンクしたファイルの名前です。リンクテキストは変更できます。

関連項目

275 ページの「サイトマップでのリンクの管理」

テキストのフォーマットについて (CSS と HTML)

Dreamweaver では、標準的なワードプロセッサと同様の操作でテキストを書式設定できます。テキストブロックには初期設定のフォーマットスタイル (段落、見出し 1、見出し 2、など) を設定できます。また、選択したテキストのフォント、サイズ、色、整列の変更や、ボールド、イタリック、コード (monospace)、アンダーラインなどのテキストスタイルの適用も可能です。

Dreamweaver の初期設定では、テキストのフォーマットに CSS が用いられます。CSS を使用すると、Web デザイナーや開発者は、アクセシビリティ機能を向上させ、ファイルサイズを小さくする一方で Web ページのデザインをより詳細に管理できるようになります。Dreamweaver のフォーマットコマンドを使用してテキストの書式設定と整列を行うと、CSS ルールが現在のドキュメントに埋め込まれます。これにより、既存のスタイルの再利用が簡単になり、また、作成するスタイルに名前を付けられるようになります。CSS は、テキストのフォーマットや Web ページのレイアウト設定の手段として、多くの場面で利用されるようになりました。

必要に応じて、Web ページのテキストのフォーマットや整列に HTML マークアップタグを使用することもできます。CSS の代わりに HTML タグを使用するには、Dreamweaver の初期設定のテキストフォーマット環境設定を変更する必要があります。

CSS を使用することで、ドキュメントの構造を崩さずに Web ページのスタイルを管理することができます。CSS では、Web ページの視覚的なデザインエレメント (フォント、色、マージンなど) と構造ロジックを分離できるので、Web デザイナーはコンテンツの整合性を犠牲にせずに、表示面と印刷面で Web ページを管理することができます。また、印刷時のデザインやページレイアウトを単独のコードブロックで定義でき、イメージマップ、font タグ、テーブル、スペーサー GIF などに頼る必要がないため、ダウンロードの高速化、サイトメンテナンスの効率化、および複数の Web ページにわたるデザイン属性の集中管理が可能です。

CSS を使用すると、特定のクラス内のすべてのテキストのフォーマットの定義や、特定のタグ (h1、h2、p、li など) のフォーマットの再定義を行うことができます。

CSS で作成したスタイルは直接ドキュメントに保存できます (プロパティインスペクタを使用してテキストに書式を設定する場合の初期設定)。より優れた性能と柔軟性を得るには、外部スタイルシートにスタイルを保存できます。1 つの外部スタイルシートを複数の Web ページに添付した場合、そのスタイルシートに加えた変更がすべてのページに自動的に反映されます。ページのすべての CSS ルールにアクセスするには、[CSS スタイル] パネルを使用します ([ウィンドウ]-[CSS スタイル])。

注意: 1 つのページ内で CSS と HTML 3.2 フォーマットを組み合わせて使用できます。これらのフォーマットは次のように優先順位を付けて適用されます。HTML 3.2 フォーマットは、外部 CSS スタイルシートによって適用されるフォーマットより優先されます。また、ドキュメントに埋め込まれた CSS は、外部 CSS より優先されます。

関連項目

123 ページの「[CSS スタイル] パネルを開く」

116 ページの「カスケーディングスタイルシートについて」

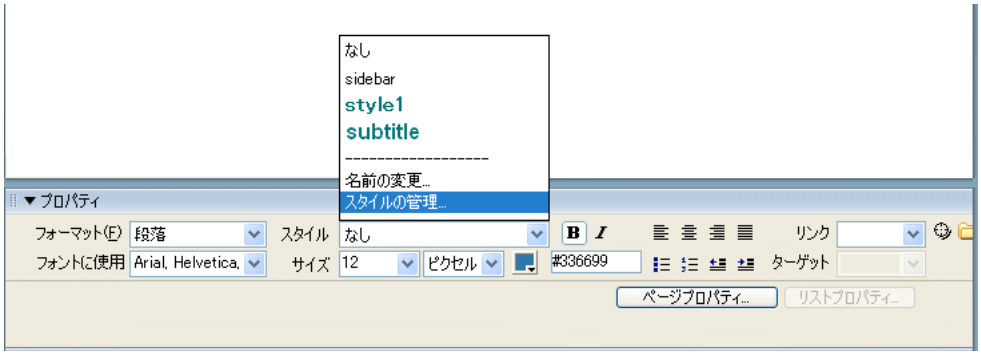
212 ページの「CSS の代わりの HTML の指定」

プロパティインスペクタを使用したテキストのフォーマット

テキストのプロパティインスペクタでは、現在選択しているテキストのフォーマットを設定できます。新しいオプションを設定して、フォーマットを変更することができます。スタイルは直ちにテキストに適用されます。

プロパティインスペクタを使用してテキストのフォーマットを設定すると、Dreamweaver では、各テキストエレメントに割り当てたフォーマットプロパティが常に管理され、Style1、Style2、Style3、Style**n** という命名規則に従って各エレメントにラベルが割り当てられます。同じフォーマット属性を複数のテキストエレメントに割り当てても、Dreamweaver では、それらのエレメントに同じタイトルのラベルが付けられるため、スタイル名が重複することはありません。Dreamweaver で所定の本文テキストにラベルを適用しておくと、[スタイル] ポップアップメニューを使用してそのラベルを適用できるようになります。これは、ラベルの適用により、ページ内部にスタイルのライブラリが作成されるためです。その結果、ページ上でテキストエレメントを選択するだけで同じスタイルを適用したり、[スタイル] メニューからスタイルを選択できるようになります。スタイル名は "Heading1"、"Heading2"、"Body"、"TableBody" など、よりわかりやすい名前に変更できます。

プロパティインスペクタの [スタイル] ポップアップメニューには、ページ内のスタイルの名前と、そのスタイルのプロパティのプレビューが表示されます。プレビューで表示されるプロパティは、font family、font size、font weight、text color、background color です。



プロパティインスペクタを使用してボールドやイタリックのスタイルを適用すると、Dreamweaver では対応する または タグが自動的に挿入されます。3.0 以前のバージョンのブラウザに対応するページをデザインしている場合は、[環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリで、この環境設定を変更する必要があります ([編集]-[環境設定])。

プロパティインスペクタを使用してテキストをフォーマットする方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0147_jp を参照してください。

関連項目

120 ページの「CSS の作成と管理」

124 ページの「CSS ルールの新規作成」

34 ページの「Dreamweaver の一般環境設定の設定」

プロパティインスペクタでのテキストプロパティの設定

テキストのプロパティインスペクタを使用して、HTML フォーマットまたは CSS フォーマットを適用することができます。HTML フォーマットを使用すると、フォント、サイズ、ボールド、イタリックなどのテキストフォーマットオプションを選択できます。CSS フォーマットを使用すると、選択したテキストに CSS クラススタイルを適用できます。

プロパティインスペクタでの CSS フォーマットの設定

1 プロパティインスペクタが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択して開きます。

2 フォーマットしたいテキストを選択します。

3 選択したテキストに適用する CSS オプションを設定します。

フォーマット 選択したテキストの段落スタイルを設定します。たとえば、[段落] を選択すると <p> タグの初期設定のフォーマットが適用され、[見出し 1] を選択すると H1 タグが追加されます。

スタイル 選択したテキストに現在適用されているクラススタイルを表示します。選択範囲にスタイルがまったく適用されていない場合は、ポップアップメニューに [CSS スタイルなし] と表示されます。選択範囲に複数のスタイルが適用されている場合は、メニューに何も表示されません。

[スタイル] メニューを使用して、以下のいずれかの操作を行います。

- 選択範囲に適用するスタイルを選択します。
- [なし] を選択すると、現在選択しているスタイルが削除されます。
- [スタイルシートを添付] を選択すると、外部スタイルシートを関連付けるダイアログボックスが開きます。

ボールド [環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリのスタイルの環境設定に従って、選択したテキストに <b> または が適用されます。

イタリック [環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリのスタイルの環境設定に従って、選択したテキストに <i> または が適用されます。

プロパティインスペクタでの HTML フォーマットの設定

1 プロパティインスペクタが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択して開きます。

2 フォーマットしたいテキストを選択します。

3 選択したテキストに適用するオプションを設定します。

フォーマット 選択したテキストの段落スタイルを設定します。たとえば、[段落] を選択すると <p> タグの初期設定のフォーマットが適用され、[見出し 1] を選択すると H1 タグが追加されます。

フォントリスト 選択したフォントリストをテキストに適用します。適用するフォントリストをポップアップメニューから選択するか、[フォントリストの編集] を選択して、フォントリストを作成または編集します。

サイズ 特定のフォントサイズ (1 ～ 7) を選択できます。初期設定は 3 です。また、basefont サイズを基準とするフォントサイズ (+1 ～ +7、–1 ～ –7) を選択することもできます。

テキストカラー テキストの表示色を選択します。カラーボックスをクリックして Web セーフカラーを選択するか、その横のテキストフィールドに #FF0000 などの 16 進数値を入力します。

ボールド [環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリのスタイルの環境設定に従って、選択したテキストに <b> または が適用されます。

イタリック [環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリのスタイルの環境設定に従って、選択したテキストに <i> または が適用されます。

左揃え、中央揃え、右揃え それぞれの整列方法が適用されます。

リンク 選択したテキストのハイパーテキストリンクを作成します。フォルダアイコンをクリックしてサイト内のファイルを参照するか、URL を入力します。または、[ファイルの指定] アイコンを [ファイル] パネル内のファイルにドラッグするか、[ファイル] パネル内のファイルをボックスにドラッグします。

ターゲット リンクされたドキュメントをロードするフレームまたはウィンドウを指定します。

- _blank は、リンクされたファイルを新規のブラウザウィンドウにロードします。
- _parent を選択すると、リンクされたファイルは、リンクが含まれているフレームの親フレームセットまたはウィンドウにロードされます。リンクを含むフレームがネストされていない場合は、リンクされているファイルは、ブラウザウィンドウ全体にロードします。
- _self は、リンクされたファイルを、リンクと同じフレームまたはウィンドウにロードします。このターゲットはあらかじめ指定されているので、通常は指定する必要がありません。
- _top は、リンクされたファイルをブラウザウィンドウ全体にロードして、すべてのフレームを削除します。

リスト 選択したテキストのブレットリストを作成します。テキストが選択されていない場合は、新しいブレットリストが開始します。

番号リスト 選択したテキストの番号リストを作成します。テキストが選択されていない場合は、新しい番号リストが開始します。

リスト項目 [リストプロパティ] ダイアログボックスを開きます。

インデントおよびインデント解除 blockquote タグが適用または削除され、選択したテキストのインデントが設定または解除されます。リストにインデントを設定するとネストしたリストが作成され、インデントを解除するとリストのネストが解除されます。

段落の書式設定

Dreamweaver は、ページフォーマットおよびオブジェクトフォーマットに使用される Web 標準をすべてサポートしています。

プロパティインスペクタの [フォーマット] ポップアップメニューまたは [テキスト]-[段落フォーマット] サブメニューを使用して、標準の段落タグおよび見出しタグを適用することができます。

1 挿入ポイントを段落内に置くか、段落内のテキストを選択します。

2 [テキスト]-[段落フォーマット] サブメニュー、またはプロパティインスペクタの [フォーマット] ポップアップメニューを使用して、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 段落フォーマットを選択します。たとえば、[見出し 1]、[見出し 2]、[プリフォーマットテキスト] などです。選択したスタイルに関連付けられている HTML タグ ([見出し 1] の h1、[見出し 2] の h2、[プリフォーマットテキスト] の pre など) は、段落全体に適用されます。
- [なし] を選択し、段落フォーマットを削除します。

見出しタグを段落に適用すると、Dreamweaver では標準スタイルの段落が次の行として自動的に追加されます。この設定を変更するには、[編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択し、[一般] カテゴリの [編集オプション] で、[見出しの次の段落を標準スタイルに戻す] をオフにします。

関連項目

227 ページの「プロパティインスペクタでのテキストプロパティの設定」

125 ページの「CSS プロパティの設定」

テキストのカラーの変更

ページのすべてのテキストについて初期設定のカラーを変更したり、ページで選択されたテキストのカラーを変更したりできます。

関連項目

213 ページの「カラーピッカーの使用」

ページの初期設定のテキストカラーを定義します。

❖ [修正]-[ページプロパティ]-[Appearance or Links] を選択して、[テキストカラー]、[リンクカラー]、[訪問済みリンク]、および [アクティブリンク] の各オプションのカラーを選択します。

注意：アクティブリンクカラーは、クリックしているリンクに表示されるカラーです。一部の Web ブラウザでは、指定したカラーが使用されない場合があります。

選択したテキストのカラーの変更

❖ テキストを選択して、次のいずれかの操作を行います。

- プロパティインスペクタのカラーボックスをクリックして、カラーを選択します。
- [テキスト]-[カラー] を選択し、システムカラーピッカーからカラーを選択して [OK] をクリックします。
- プロパティインスペクタのフィールドに、カラー名または 16 進数を直接入力します。

テキストを初期設定のカラーに戻す

1 プロパティインスペクタで、カラーボックスをクリックして Web セーフカラーのパレットを開きます。

2 取り消しボタン (右上隅にある赤い斜線の入った白い正方形のボタン) をクリックします。

テキストの整列

ページ上のテキストを整列するには、プロパティインスペクタまたは [テキスト]-[行揃え] サブメニューを使用します。[テキスト]-[行揃え]-[中央] コマンドを使用すると、ページ上の任意のエレメントを中央に揃えることができます。

ページ上のテキストの整列

1 整列させるテキストを選択するか、テキストの先頭にポイントを置きます。

2 プロパティインスペクタで整列オプション ([右]、[左]、[中央]) のいずれかをクリックするか、[テキスト]-[行揃え] から整列コマンドを選択します。

ページエレメントの中央揃え

1 中央に揃えるエレメント (イメージ、プラグイン、テーブル、またはその他のページエレメント) を選択します。

2 [テキスト]-[行揃え]-[中央] を選択します。

注意：テキストのブロック全体を整列して中央に揃えることはできますが、見出しの一部または段落の一部だけを整列して中央に揃えることはできません。

テキストのインデント

[インデント] コマンドを使用すると、HTML タグ blockquote がテキストの段落に適用され、ページの両端でテキストがインデントされます。

1 インデントする段落に挿入ポイントを置きます。

2 プロパティインスペクタの [インデント] ボタンまたは [インデント解除] ボタンをクリックするか、[テキスト]-[インデント] または [テキスト]-[インデント解除] を選択するか、コンテキストメニューから [リスト]-[インデント] または [リスト]-[インデント解除] を選択します。

注意：1 つの段落に複数のインデントを適用することができます。このコマンドを選択するたびに、テキストはドキュメントの両端からさらにインデントされます。

段落スペースの追加

Dreamweaver の操作は、多くのワードプロセッサアプリケーションの操作に似ています。新規の段落を作成するには Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。Web ブラウザでは、段落間に空白のスペース行が自動的に挿入されます。段落間にスペース行を追加するには、改行を挿入します。

段落区切りの追加

❖ Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

改行の追加

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- Shift+Enter キー (Windows) または Shift+Return キー (Macintosh) を押します。
- [挿入]-[HTML]-[特殊文字]-[改行] を選択します。
- [挿入] バーの [テキスト] カテゴリで [文字] ボタンを選択し、次に [改行] アイコンをクリックします。

区切り線の使用

区切り線は情報を整理するのに役立ちます。ページ上で区切り線を使用して、テキストとオブジェクトを視覚的に分けることができます。

区切り線の作成

1 ドキュメントウィンドウで、区切り線を挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[HTML]-[区切り線] を選択します。

区切り線の修正

1 ドキュメントウィンドウで、区切り線を選択します。

2 [ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、プロパティを修正します。

幅および高さ 区切り線の幅と高さを、ピクセル単位またはページサイズに対する割合 (%) で指定します。

行揃え 区切り線の整列を指定します ([指定なし]、[左]、[中央]、または [右] から選択)。この設定は、区切り線の幅がブラウザウィンドウの幅より小さい場合に適用されます。

シェーディング 区切り線にシェーディングを付けるかどうかを指定します。このオプションをオフにすると、区切り線は単色で表示されます。

フォントスタイルの適用

テキストのフォーマットは、文字 1 つだけに適用することも、サイトの段落とテキストブロック全体に適用することもできます。プロパティインスペクタまたは [テキスト] メニューを使用して、選択したテキストのフォント属性を設定または変更します。設定できるフォント属性は、フォントタイプ、スタイル (ボールドやイタリックなど)、およびサイズです。

1 テキストを選択します。テキストが選択されていない場合は、この後に入力するテキストのオプションが適用されます。

2 必要に応じて次のオプションを選択します。

- フォントを変更するには、プロパティインスペクタまたは [テキスト]-[フォント] サブメニューからフォントリストを選択します。[フォント指定なし] を選択すると、現在のフォントの適用が解除されます。[フォント指定なし] により、選択したテキストに初期設定のフォント (ブラウザの初期設定のフォントまたは CSS スタイルシートでそのタグに定義されているフォント) が適用されます。
- フォントのスタイルを変更するには、プロパティインスペクタで [ボールド] または [イタリック] をクリックするか、[テキスト]-[スタイル] サブメニューからフォントスタイル ([ボールド]、[イタリック]、[アンダーライン] など) を選択します。

注意：プロパティインスペクタを使用してボールドやイタリックのスタイルを適用すると、それぞれのスタイルに対応する タグまたは タグが挿入されます。3.0 以前のバージョンのブラウザに対応するページをデザインしている場合は、[環境設定] ダイアログボックスの [一般] カテゴリで、この環境設定を変更する必要があります ([編集]-[環境設定])。

- フォントサイズを変更するには、プロパティインスペクタまたは [テキスト]-[サイズ] サブメニューからサイズ ([1] ～ [7]) を選択します。

HTML フォントサイズは相対的なもので、特定のポイントサイズではありません。ユーザーは、使用するブラウザの初期設定のフォントのポイントサイズを設定します。これは、プロパティインスペクタまたは [テキスト]-[サイズ] サブメニューで、[フォント指定なし] または [3] を選択したときに表示されるフォントサイズです。サイズが [1] または [2] の場合は初期設定のフォントサイズより小さく、[4] ～ [7] の場合はこれより大きく表示されます。また、Macintosh 版 Internet Explorer 5 の初期設定のフォントサイズは Windows 版と同じですが、Windows のフォントは Mac OS のフォントよりも大きく表示されます。

フォントサイズの一貫性を保つには、CSS スタイルを使用してフォントサイズをピクセル単位で設定します。

- 選択したテキストのサイズを調節するには、プロパティインスペクタまたは [テキスト]-[サイズ変更] サブメニューから、相対サイズ ([+1] ～ [+4]、[–1] ～ [–3]) を選択します。

注意：これらの数値は、basefont サイズを基準とする相対サイズを表します。デフォルトの basefont 値は 3 です。したがって、a +4 値ではフォントサイズは 3 + 4、つまり 7 になります。フォントサイズ値の合計の上限は 7 です。これより大きい値に設定しようとしても、フォントサイズは 7 で表示されます。basefont タグ (head セクションで定義される) は、Dreamweaver では表示されませんが、ブラウザには正しいフォントサイズで表示されます。これは、フォントサイズ 3 に設定したテキストと +3 に設定したテキストを比較すれば確認できます。

関連項目

116 ページの「CSS を使用したページの作成」

124 ページの「CSS ルールの新規作成」

スタイル名の変更

テキストをフォーマットすると、各ページで作成したスタイルが Dreamweaver で常に確認され、再利用できるようにスタイルのライブラリが作成されます。これにより、テキストブロックに同じフォーマットを簡単に適用できるため、ページ間で一貫性のある外観を作成することができます。

1 テキストのプロパティインスペクタにある [スタイル] ポップアップメニューから [名前の変更] を選択します。

2 [スタイル名の変更] ポップアップメニューから名前を変更するスタイルを選択します。

3 [変更後のスタイル名] テキストフィールドに新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。

フォントリストの修正

プロパティインスペクタおよび [テキスト]-[フォント] サブメニューに表示されるフォントリストを設定するには、[フォントリストの編集] コマンドを使用します。

フォントリストにより、ブラウザでの Web ページのテキストの表示方法を指定します。ブラウザでは、ユーザーのシステムにインストールされているフォントリストの、最初のフォントが使用されます。リストにあるフォントがいずれもインストールされていない場合は、ブラウザの環境設定の指定に基づいてテキストが表示されます。

フォントリストの修正

1 [テキスト]-[フォント]-[フォントリストの編集] を選択します。

2 ダイアログボックス上部のリストから、フォントリストを選びます。

選択したフォントリストに含まれるフォントが、ダイアログボックスの左下隅の [選択されたフォント] リストに表示されます。その右のリストには、システムにインストールされているフォントがすべて表示されます。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- フォントリストのフォントを追加または削除するには、[選択されたフォント] リストと [選択可能なフォント] リストの間にある矢印ボタン ([<<] または [>>]) をクリックします。
- フォントリストを追加または削除するには、ダイアログボックスの上部にある [+] ボタンまたは [-] ボタンをクリックします。
- システムにインストールされていないフォントを追加するには、[選択可能なフォント] リストの下のテキストフィールドにフォント名を入力してから、[<<] ボタンをクリックしてそのフォントをフォントリストに追加します。システムにインストールされていないフォントを追加する機能は、Macintosh でページを作成しているときに Windows 固有のフォントを指定する場合などに利用できます。
- フォントリスト内を上下に移動するには、ダイアログボックスの上にある矢印ボタンをクリックします。

新しいフォントリストの追加

1 [テキスト]-[フォント]-[フォントリストの編集] を選択します。

2 [選択可能なフォント] リストからフォントを選択し、[<<] ボタンをクリックしてそのフォントを [選択されたフォント] リストに追加します。

3 手順 2 を繰り返して、フォントを 1 つずつリストに追加します。

システムにインストールされていないフォントを追加するには、[選択可能なフォント] リストの下のテキストフィールドにフォント名を入力してから、[<<] ボタンをクリックしてそのフォントをフォントリストに追加します。システムにインストールされていないフォントを追加する機能は、Macintosh でページを作成しているときに Windows 固有のフォントを指定する場合などに利用できます。

4 フォントの選択を終了したら、[選択可能なフォント] メニューで一般的なフォントファミリーを選択し、[<<] ボタンをクリックして、[選択されたフォント] リストに移動します。

一般的なフォントファミリーには、cursive、fantasy、monospace、sans-serif、serif があります。[選択されたフォント] リストのフォントがいずれもシステムにインストールされていない場合は、テキストは一般的なフォントファミリーに対応付けられた初期設定のフォントで表示されます。たとえば、大半のシステムでは、初期設定の monospace フォントには Courier が使用されます。

日時の挿入

Dreamweaver には便利な [日付] オブジェクトがあり、フォーマット (時刻付きまたは時刻なし) を指定して現在の日付を挿入できるだけでなく、ファイルが保存されるたびに日時を更新するオプションもあります。

注意：[日付の挿入] ダイアログボックスに表示される日付と時刻は、現在の日時でも、ビジターがサイトにアクセスしたときに表示される日時でもありません。これらの日付は、単に日時の表示方法の例を示しているだけです。

1 ドキュメントウィンドウで、日時を挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[日付] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリ内で、[日付] ボタンをクリックします。

3 表示されるダイアログボックスで、曜日のフォーマット、日付のフォーマット、および時刻のフォーマットを選択します。

4 ドキュメントを保存するたびに日時を更新する場合は、[保存時に自動的に更新] をオンにします。日時をテキスト形式で挿入し、自動更新しない場合は、このオプションをオフにします。

5 [OK] をクリックして日時を挿入します。

[保存時に自動的に更新] をオンにした場合、ドキュメントに挿入した日時のフォーマットを編集するには、フォーマットされたテキストをクリックし、プロパティインスペクタの [日付フォーマットの編集] をクリックします。

イメージの追加と変更

イメージについて

さまざまなグラフィックファイル形式がありますが、Web ページでは、一般に GIF、JPEG、および PNG の 3 つのファイル形式が使用されます。GIF および JPEG 形式が最もサポートされており、大半のブラウザで表示できます。

PNG ファイルは、柔軟性があり、ファイルサイズも小さいため、ほとんどの種類の Web グラフィック環境で使用するのに適しています。しかし、PNG イメージは、Microsoft Internet Explorer 4.0 以降と Netscape Navigator 4.04 以降の一部のブラウザでしかサポートされていないため、それ以外のブラウザでは表示できません。そのため、PNG 形式をサポートする特定のブラウザのユーザー向けにデザインする場合を除き、通常は GIF または JPEG 形式を選択して、多くのユーザーがアクセスできるようにします。

GIF (Graphic Interchange Format) GIF ファイル形式は、最大 256 色を使用し、連続階調ではないイメージや、ナビゲーションバー、ボタン、アイコン、ロゴなどのカラーや階調を均一的に使用したイメージ、平板なカラーの領域を多く含むイメージの表示に最適です。

JPEG (Joint Photographic Experts Group) JPEG ファイル形式は、約 100 万色のカラー情報を保持できるため、写真や連続階調の画像などに最適です。JPEG ファイルの画質が高いほど、ファイルサイズは大きくなり、ダウンロード時間が長くなります。イメージの画質とファイルサイズのバランスを調整するには、JPEG ファイルを圧縮します。

PNG (Portable Network Group) 形式 PNG ファイル形式は、GIF ファイルのパテントフリーな代替ファイル形式で、インデックスカラー、グレースケール、および True Color イメージや、透明度のアルファチャネルをサポートしています。PNG は、Adobe® Fireworks® のネイティブファイル形式です。PNG ファイルでは、オリジナルのレイヤー、ベクター、カラー、およびドロップシャドウなどの特殊効果の情報がすべて保持されます。さらに、イメージ内のすべてのエレメントが編集可能な状態で保持されます。Dreamweaver で PNG ファイルと認識されるファイルは、.png ファイル拡張子が付いたもののみです。

イメージの挿入

Dreamweaver のドキュメントにイメージを挿入すると、HTML ソースコード内に、イメージファイルへの参照が生成されます。常に正しく参照されるようにするには、イメージファイルを現在のサイトに置く必要があります。Dreamweaver では、現在のサイトにイメージファイルがない場合、サイトにファイルをコピーするかどうかをたずねるメッセージが表示されます。

イメージを動的に挿入することもできます。動的イメージとは、頻繁に変更されるイメージのことです。たとえば、バナー広告の交替表示システムでは、バナーのリストから 1 つのバナーが無作為に選択され、ページが要求されると、選択したバナーのイメージが動的に表示されます。

イメージを挿入した後、目の不自由な方のためにスクリーンリーダーにより読み取ることができるイメージタグのアクセシビリティ属性を設定できます。この属性は、HTML コードで編集できます。

イメージを挿入する方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0148_jp を参照してください。

1 ドキュメントウィンドウ内のイメージを表示する位置に挿入ポイントを置き、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリ内で、[イメージ] アイコン をクリックします。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [イメージ] ボタンをクリックし、[イメージ] アイコンを選択します。[挿入] バーに表示されている [イメージ] アイコンを使用すると、アイコンをドキュメントウィンドウ (またはコードを扱っている場合はコードビューウィンドウ) にドラッグできます。
- [挿入]-[イメージ] を選択します。
- [アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) からイメージをドラッグし、ドキュメントウィンドウ内の目的の場所に配置します。次に、手順 3 に進みます。
- [ファイル] パネルからイメージをドラッグし、ドキュメントウィンドウ内の目的の場所に配置します。次に、手順 3 に進みます。
- イメージをデスクトップからドキュメントウィンドウ上の目的の場所に配置します。次に、手順 3 に進みます。

2 ダイアログボックスが表示されたら、次のいずれかの操作を行います。

- [ファイルシステム] をクリックして、イメージファイルを選択します。
- [データソース] を選択して、動的イメージソースを選択します。
- [サイトとサーバー] ボタンをクリックして、いずれかの Dreamweaver サイトのリモートフォルダからイメージファイルを選択します。

3 挿入するイメージまたはコンテンツソースが保存された場所を参照し、目的のイメージソースを選択します。

保存していないドキュメントで作業している場合、Dreamweaver はイメージファイルへの参照 "file://" を生成します。サイト内でドキュメントを保存すると、Dreamweaver はその参照をドキュメント相対パスに変換します。

注意：イメージを挿入すると、リモートサーバーにあるイメージ (ローカルハードドライブにはないイメージ) の絶対パスを使用できます。作業中にパフォーマンスが低下する場合は、[コマンド]-[外部ファイルを表示] をオフにして、デザインビューでのイメージ表示を無効にできます。

4 [OK] をクリックします。[環境設定] で [イメージタグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスをアクティブにしている場合は、このダイアログボックスが表示されます ([編集]-[環境設定])。

5 [代替テキスト] テキストボックスおよび [詳細 (長い形式)] テキストボックスに値を入力して、[OK] をクリックします。

- [代替テキスト] ボックスに、イメージの名前または簡単な説明を入力します。スクリーンリーダーが、ここに入力した情報を読み上げます。入力文字数は 50 文字程度に制限します。説明が長い場合は、イメージについての詳細が記述されたファイルへのリンクを [詳細 (長い形式)] テキストボックスに入力しておくことを検討してください。
- [詳細 (長い形式)] ボックスには、Web ページのビジターがイメージをクリックしたときに表示されるファイルの場所を入力します。または、フォルダアイコンをクリックして参照し、そのファイルを選択します。このテキストボックスでは、イメージに関連するファイル、またはイメージに関する詳細を記述したファイルへのリンクを指定します。

注意：テキストボックスは、必要に応じて、一方のみまたは両方に入力できます。スクリーンリーダーは、イメージの代替属性を読み上げます。

注意：Dreamweaver では、[キャンセル] をクリックするとイメージがドキュメント内に表示されますが、アクセシビリティタグや属性はこのイメージに関連付けられません。

6 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) でイメージのプロパティを設定します。

関連項目

536 ページの「イメージを動的にする」

280 ページの「イメージマップ」

672 ページの「アクセシビリティの高いページデザインのためのワークスペースの最適化」

207 ページの「ページプロパティの設定」

イメージプロパティの設定

イメージプロパティインスペクタでイメージのプロパティを設定できます。イメージのプロパティが表示されない場合は、インスペクタの右下隅にある縮小の三角形をクリックします。

1 [ウィンドウ]-[プロパティ] を選択することにより、選択したイメージのプロパティインスペクタを表示します。

2 サムネールイメージの下のテキストボックスを使用して、スワップイメージなどの Dreamweaver ビヘイビアや、JavaScript、VBScript などのスクリプト言語を使用するときにイメージを参照できるような名前を入力します。

3 必要に応じてイメージのオプションを設定します。

幅および高さ イメージの幅と高さをピクセル単位で指定します。これらのテキストボックスは、ページにイメージを挿入するときに Dreamweaver により自動的に元のサイズに更新されます。

実際のイメージの幅および高さに一致しない [幅] および [高さ] の値を設定すると、ブラウザでイメージが正しく表示されないことがあります (元の値に戻すには、[幅] および [高さ] テキストボックスのラベルをクリックするか、これらのテキストボックスに新しい値を入力したときに右側に表示される [イメージを元のサイズに戻す] ボタンをクリックします)。

注意：これらの値を変更してイメージのインスタンスの表示サイズを調整することはできますが、ダウンロード時間は短縮されません。これは、ブラウザはイメージのデータをすべてダウンロードしてからイメージのサイズを調整するからです。ダウンロード時間を短縮し、イメージのすべてのインスタンスが同じサイズで表示されるようにするには、イメージ編集アプリケーションを使ってイメージを拡大 / 縮小します。

ソース イメージのソースファイルを指定します。フォルダアイコンをクリックして、参照してソースファイルを選択するか、パスを入力します。

リンク イメージのハイパーリンクを指定します。ファイルの指定アイコンを [ファイル] パネルのファイルにドラッグするか、フォルダアイコンをクリックし、ローカルサイトのドキュメントを参照して選択するか、URL を手動で入力します。

行揃え イメージとテキストを同じ行に整列させます。

代替 テキスト専用ブラウザ、またはイメージを手動でダウンロードするように設定されたブラウザの場合に、イメージの場所に表示される代用のテキストです。目の不自由な方がテキスト専用ブラウザとスピーチシンセサイザを組み合わせて使用する場合には、テキストが読み上げられます。一部のブラウザでは、ポインタをイメージの位置に置いたときにこのテキストが表示されます。

マップ名とホットスポットツール ラベルを付けてクライアントサイドイメージマップを作成できます。

縦間隔と横間隔 イメージの上下左右にスペース (ピクセル単位) を追加します。[縦間隔] では、イメージの上下にスペースを追加します。[横間隔] では、イメージの左右にスペースを追加します。

ターゲット リンクされたページをロードするフレームまたはウィンドウを指定します。このオプションは、イメージが他のファイルにリンクされている場合にのみ使用できます。現在のフレームセットにあるすべてのフレームの名前が [ターゲット] リストに表示されます。以下のターゲット名を選ぶこともできます。

- _blank は、リンクされたファイルを新規のブラウザウィンドウにロードします。
- _parent は、リンクされたファイルを、リンクが含まれている親フレームセットまたはフレームのウィンドウにロードします。 リンクを含むフレームがネストされていない場合は、リンクされているファイルは、ブラウザウィンドウ全体にロードします。
- _self は、リンクされたファイルを、リンクと同じフレームまたはウィンドウにロードします。このターゲットは初期設定なので、通常は指定する必要はありません。
- _top は、リンクされたファイルをブラウザウィンドウ全体にロードして、すべてのフレームを削除します。

ソース (低) メインイメージの前にロードされるイメージを指定します。通常は、メインイメージの 2 bpc (モノクロ) バージョンを選択します。このファイルの利点は、ロードにかかる時間が短いことと、ビジターがこれから表示されるイメージを把握しやすいことです。

ボーダー イメージのボーターの幅をピクセル単位で指定します。初期設定値はボーダーなしです。

編集 [環境設定]-[ファイルタイプ エディタ] で指定したイメージエディタを起動して、選択イメージを開きます。

最適化 [最適化] ダイアログボックスが開きます

切り抜き 選択したイメージから不要な領域を削除してイメージのサイズをトリミングします。

リサンプリング サイズ変更したイメージをリサンプリングし、変更後のイメージのサイズや形に合わせて画質を向上させます。

明るさとコントラスト イメージの明るさとコントラストの設定を調整します。

シャープ イメージのシャープネスを調整します。

サイズのリセット イメージの幅と高さを元のサイズに戻します。このボタンは、選択したイメージの幅や高さの値を調整する際、[幅] および [高さ] テキストボックスの右側に表示されます。

コード内でのイメージアクセシビリティ属性の編集

イメージのアクセシビリティ属性を挿入してあれば、HTML コードでこれらの属性値を編集できます。

1 ドキュメントウィンドウで、イメージを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- コードビューで該当するイメージ属性を編集します。
- 右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[タグの編集] を選択します。
- プロパティインスペクタの [代替] の値を変更します。

Dreamweaver でのイメージの編集

Dreamweaver には基本的なイメージ編集機能が用意されています。この機能を使用すると、Fireworks などの外部イメージ編集アプリケーションを使用せずに、イメージを修正できます。Dreamweaver のイメージ編集ツールを使用すると、Web サイトで使用するイメージの作成を担当するコンテンツデザイナーとの共同作業が容易になります。

注意：コンピュータに Fireworks をインストールしなくても、Dreamweaver のイメージ編集機能を利用できます。

❖ [修正]-[イメージ] を選択します。必要に応じて Dreamweaver の以下のイメージ編集機能を設定します。

リサンプリング サイズ変更する JPEG および GIF イメージファイルに対しピクセルを追加または減らすことで、元のイメージの表示に可能な限り合わせることができます。イメージのリサンプリングを行うと、イメージのファイルサイズが縮小し、ダウンロードのパフォーマンスが向上します。

Dreamweaver でイメージのサイズを変更するとき、新しい寸法に収まるようにイメージをリサンプリングできます。ビットマップオブジェクトのリサンプリングでは、イメージのサイズを大きくする場合はピクセル数を増やし、サイズを小さくする場合はピクセル数を減らします。高い解像度にイメージをリサンプリングした場合、通常、画像品質はほとんど低下しません。低い解像度にリサンプリングした場合は、データの損失が必ず生じ、通常、画質は低下します。

切り抜き イメージの領域を減らしてイメージを編集します。典型的な例では、イメージの主要部分を強調するためにイメージを切り抜き、その周囲にある不要な部分を削除します。

明るさとコントラスト イメージのピクセルのコントラストや明るさを修正できます。これは、イメージのハイライト部、シャドウ部、ハーフトーン部に影響を与えます。[明るさ / コントラスト] は通常、暗すぎたり明るすぎたりするイメージを修正する場合に使用します。

シャープ イメージのエッジのコントラストが明確になり、イメージの焦点を調整できます。イメージをスキャンする場合やデジタル写真を撮影する場合、大半のイメージキャプチャソフトウェアは、初期設定の処理でイメージのオブジェクトのエッジをソフトにします。これにより、きわめて微細な箇所からイメージを構成するピクセルが失われるのを防いでいます。その一方で、デジタルイメージファイルの細部を引き出すために、エッジのコントラストを上げてイメージをシャープにすることがしばしば必要になります。

注意：Dreamweaver のイメージ編集機能は、JPEG および GIF のイメージファイル形式にのみ使用できます。これらのイメージ編集機能を使用して、他の形式のビットマップイメージファイルを編集することはできません。

イメージプレースホルダーの挿入

イメージプレースホルダーは、最終的なイメージを Web ページに追加できるようになるまでの間使用するグラフィックです。プレースホルダーのサイズと色を設定し、さらにテキストラベルを付けることができます。

1 ドキュメントウィンドウ内のイメージプレースホルダーを挿入する位置に、挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[イメージオブジェクト]-[イメージプレースホルダー] を選択します。

3 [名前] (オプション) には、イメージプレースホルダーのラベルとして表示するテキストを入力します。ラベルを表示しない場合は、テキストボックスを空白のままにしてください。名前には、先頭を英字、先頭以下は英字と数字のみを使用できます。スペースや日本語は使用できません

4 [幅] および [高さ] (必須) には、イメージサイズをピクセル単位で入力します。

5 [カラー] (オプション) には、次のいずれかの操作を行ってカラーを適用します。

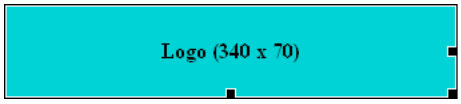
- カラーピッカーを使用してカラーを選択します。
- カラーの 16 進数値 (たとえば、#FF0000) を入力します。
- Web 対応のカラー名 (たとえば、赤) を入力します。

6 [代替テキスト] (オプション) に、テキスト専用ブラウザを使用するビジター用の説明文を入力します。

注意：空の src 属性を含むイメージタグが自動的に HTML コードに挿入されます。

7 [OK] をクリックします。

プレースホルダーのカラー、サイズ属性、およびラベルは、以下のように表示されます。



ブラウザに表示したときにはラベルおよびサイズテキストは表示されません。

関連項目

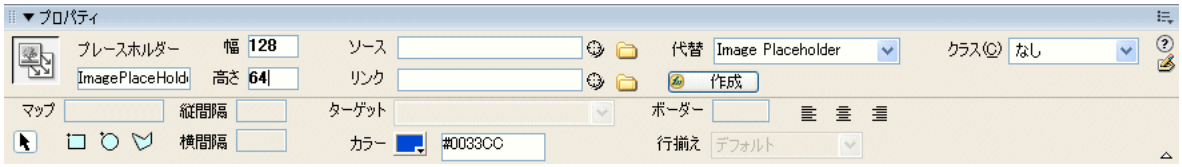
239 ページの「イメージの視覚的なサイズ変更」

351 ページの「Fireworks による Dreamweaver イメージプレースホルダーの修正」

イメージプレースホルダーのプロパティの設定

イメージプレースホルダーのプロパティを設定するには、まずドキュメントウィンドウでプレースホルダーを選択します。次に、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択し、プロパティインスペクタを表示します。すべてのプロパティを表示するには、右下隅にある縮小の三角形をクリックします。

プロパティインスペクタを使用して、プレースホルダーイメージの名前、幅、高さ、イメージソース、代替テキストの説明、整列、およびカラーを設定します。



プレースホルダーのプロパティインスペクタで灰色表示されているテキストボックスと [行揃え] テキストボックスは使用不可になっています。これらのプロパティは、プレースホルダーをイメージに置き換えるときに、プロパティインスペクタで設定できます。

❖ 必要に応じて以下のオプションを設定します。

幅および高さ イメージプレースホールダーの幅と高さをピクセル単位で設定します。

ソース イメージのソースファイルを指定します。プレースホルダーイメージの場合、このテキストボックスは空です。[参照] ボタンをクリックして、プレースホルダーグラフィックを置き換えるイメージを選択します。

リンク イメージのハイパーリンクを指定します。ファイルの指定アイコンを [ファイル] パネルのファイルにドラッグするか、フォルダアイコンをクリックして参照し、ローカルサイトのドキュメントを選択するか、URL を入力します。

代替 テキスト専用ブラウザ、またはイメージを手動でダウンロードするように設定されたブラウザの場合に、イメージの場所に表示される代用のテキストです。目の不自由な方がテキスト専用ブラウザとスピーチシンセサイザを組み合わせて使用する場合には、テキストが読み上げられます。一部のブラウザでは、ポインタをイメージの位置に置いたときにこのテキストが表示されます。

作成 Fireworks を起動して、代替イメージを作成します。[作成] ボタンは、Fireworks がコンピュータにインストールされていない場合は使用できません。

サイズのリセット イメージの幅と高さを元のサイズに戻します。

カラー イメージプレースホルダーのカラーを指定します。

関連項目

351 ページの「Fireworks による Dreamweaver イメージプレースホルダーの修正」

イメージプレースホルダーの置き換え

イメージプレースホルダーは、ブラウザにイメージを表示しません。サイトをパブリッシュする前に、追加したイメージプレースホルダーを GIF や JPEG などの Web 対応イメージファイルに置き換える必要があります。

Fireworks を使用している場合は、Dreamweaver のイメージプレースホルダーから新しいグラフィックを作成できます。作成されるイメージは、プレースホルダーイメージと同じサイズに設定されます。イメージを編集してから、Dreamweaver で置き換えます。

1 ドキュメントウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- イメージプレースホルダーをダブルクリックします。
- イメージプレースホルダーをクリックして選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [ソース] テキストボックスの横にあるフォルダアイコンをクリックします。

2 [イメージソース] ダイアログボックスで、イメージプレースホルダーと置き換えるイメージに移動します。

関連項目

351 ページの「Fireworks による Dreamweaver イメージプレースホルダーの修正」

イメージの整列

ただし、同じ行にあるテキスト、他のイメージ、プラグイン、他のエレメントなどとイメージを整列させることはできます。また、イメージを横方向に整列させるように設定することもできます。

1 デザインビューでイメージを選択します。

2 [揃える] ポップアップメニューを使用して、プロパティインスペクタでイメージの整列属性を設定します。

同じ段落や行にある別のエレメントを基準にして整列を設定できます。

注意：HTML では、ワードプロセッサアプリケーションとは異なり、イメージの周囲にテキストを回り込ませることはできません。

整列オプションは、次のとおりです。

指定なし ベースラインの整列を指定します。初期設定値は、ビジターが使用するブラウザによって異なります。

ベースラインおよび下 テキスト (または同じパラグラフ内の他のエレメント) のベースラインを選択したオブジェクトの下端に揃えます。

上 イメージの上端を行で最も背の高いアイテム (イメージまたはテキスト) の上端に揃えます。

中央 イメージの中心を現在行のベースラインに揃えます。

テキスト上部 イメージの上端をその行で最も背の高い文字の上端に揃えます。

中央 (絶対的) イメージの中心を現在の行のテキスト中央に揃えます。

下部 (絶対的) イメージの下端をテキストの行最下端 ("**g**" などの並び線より下に延びた部分を持つディセンダ文字を含む) に揃えます。

左 選択したイメージを左マージンに配置し、テキストをその右側に配置します。左揃えのテキストがイメージと同じ行にある場合は、通常、左揃えのイメージが新しい行に送られます。

右 イメージを右マージンに配置し、テキストをその左側に配置します。右揃えのテキストがイメージと同じ行にある場合は、通常、右揃えのイメージが新しい行に送られます。

イメージの視覚的なサイズ変更

Dreamweaver では、イメージ、プラグイン、Shockwave ファイル、Flash ファイル、アプレット、ActiveX コントロールなどのエレメントを、画面上で確認しながら視覚的にサイズ変更できます。

Dreamweaver でイメージを視覚的にサイズ変更することにより、イメージの大きさによってレイアウトがどのように変化するか確認できます。ただし、指定した比率にイメージファイルそのものが拡大 / 縮小されるわけではありません。Dreamweaver でイメージを視覚的にサイズ変更したとしても、イメージ編集アプリケーション (Fireworks など) を使用してイメージファイル自体のサイズを拡大 / 縮小しなかった場合は、該当のページをロードする際にユーザーのブラウザ側でイメージが拡大 / 縮小されます。このため、ページのダウンロード時間が長くなると共に、ユーザーのブラウザにイメージが正しく表示されない可能性があります。ダウンロード時間を短縮し、イメージのすべてのインスタンスが同じサイズで表示されるようにするには、イメージ編集アプリケーションを使ってイメージを拡大 / 縮小します。

Dreamweaver でイメージのサイズを変更するとき、新しい寸法に収まるようにイメージをリサンプリングできます。リサンプリングでは、サイズ変更する JPEG および GIF イメージファイルに対しピクセルを追加または減らすことで、元のイメージの表示に可能な限り合わせることができます。イメージのリサンプリングを行うと、イメージのファイルサイズが縮小し、ダウンロードのパフォーマンスが向上します。

関連項目

236 ページの「Dreamweaver でのイメージの編集」

エレメントの視覚的なサイズ変更

1 ドキュメントウィンドウでエレメント (イメージまたは SWF ファイルなど) を選択します。

エレメントの下部と右側、および右下隅にサイズ変更ハンドルが表示されます。サイズ変更ハンドルが表示されない場合は、エレメント以外の場所をクリックして選択解除してから、もう一度エレメントを選択するか、タグセレクタの該当するタグをクリックして選択します。

2 以下のいずれかの操作を行って、エレメントのサイズを変更します。

- エレメントの幅を調節するには、右辺の選択ハンドルをドラッグします。
- エレメントの高さを調節するには、下辺の選択ハンドルをドラッグします。
- エレメントの幅と高さを同時に調節するには、角の選択ハンドルをドラッグします。
- Shift キーを押しながら角の選択ハンドルをドラッグすると、縦横比 (その幅 : 高さの比率) を保持したまま、エレメントのサイズを変更できます。
- エレメントの幅と高さを特定サイズ (たとえば、1 x 1 ピクセル) に調整するには、プロパティインスペクタを使って数値を入力します。エレメントをドラッグ操作でサイズ変更する場合は、最小 8 x 8 ピクセルまで縮小できます。

3 元のサイズに戻すには、プロパティインスペクタで [幅] および [高さ] テキストボックスの値を削除するか、イメージプロパティインスペクタで [サイズのリセット] ボタンをクリックします。

イメージを元のサイズに戻す

❖ イメージのプロパティインスペクタで [サイズのリセット] ボタン をクリックします。

サイズ変更したイメージのリサンプリング

1 上記の手順で、イメージをサイズ変更します。

2 イメージのプロパティインスペクタで [リサンプリング] ボタン をクリックします。

注意 : ビットマップ以外のエレメントや、イメージプレースホルダーはリサンプリングできません。

イメージの切り抜き

Dreamweaver では、ビットマップファイルイメージの切り抜き (トリミング) ができます。

注意：イメージを切り抜くと、ディスク上のソースイメージファイルも変更されます。このため、元のイメージに戻す場合に備えて、イメージファイルのバックアップコピーを保管することをお勧めします。

1 切り抜くイメージを含むページを開いてイメージを選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- イメージのプロパティインスペクタで [切り抜きツール] アイコン をクリックします。
- [修正]-[イメージ]-[切り抜き] を選択します。

選択したイメージを囲む切り抜きハンドルが表示されます。

2 切り抜きハンドルを調節して、イメージの中で必要な領域を境界ボックスで囲みます。

3 境界ボックスの内側でダブルクリックするか、Enter キーを押して選択範囲を切り抜きます。

4 切り抜こうとしているイメージファイルがディスク上で変更されることを知らせるダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。選択しているビットマップで境界ボックスの外側にあるすべてのピクセルが削除されます。イメージ内の他のオブジェクトは保持されます。

5 イメージをプレビューして目的の表示になっているかを確認します。目的の表示と異なる場合は、[編集]-[取り消し 切り抜き] を選択し、元のイメージに戻します。

注意：Dreamweaver を終了する前、または外部のイメージ編集アプリケーションでファイルが編集される前であれば、切り抜きコマンドの効果を取り消して元のイメージファイルに戻すことができます。

Fireworks を使用したイメージの最適化

Dreamweaver から Web ページのイメージを最適化することができます。

1 最適化するイメージを含むページを開いてイメージを選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- イメージのプロパティインスペクタで [Fireworks で最適化] ボタン をクリックします。
- [修正]-[イメージ]-[Fireworks でイメージを最適化] を選択します。

2 PNG ファイルとして最適化するか、または開いたイメージファイルを使用するかを選択、確認します。

3 イメージファイルを編集した後、[更新] をクリックしてファイルを保存します。

イメージの明るさとコントラストの調整

明るさとコントラスト機能を使用すると、イメージのピクセルのコントラストや明るさを修正できます。これは、イメージのハイライト部、シャドウ部、ハーフトーン部に影響を与えます。[明るさ / コントラスト] は通常、暗すぎたり明るすぎたりするイメージを修正する場合に使用します。

1 調整するイメージを含むページを開いてイメージを選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- イメージのプロパティインスペクタで [明るさとコントラスト] ボタン をクリックします。
- [修正]-[イメージ]-[明るさとコントラスト] を選択します。

2 [明るさ] スライダおよび [コントラスト] スライダをドラッグして設定を調整します。値は -100 ～ +100 の範囲で入力します。

3 [OK] をクリックします。

イメージをシャープにする

シャープ機能を使用すると、オブジェクトの縁を囲むピクセル間のコントラストが上がり、高い鮮明度やシャープネスを持つイメージになります。

1 シャープにするイメージを含むページを開いてイメージを選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- イメージのプロパティインスペクタで [シャープ] ボタン をクリックします。

• [修正]-[イメージ]-[シャープ] を選択します。

2 スライダコントロールをドラッグするか、テキストボックスに 0 から 10 までの値を入力して、Dreamweaver でイメージをどの程度シャープにするか指定します。[シャープ] ダイアログボックスを使用してイメージのシャープネスを調整しながら、イメージの変化をプレビューできます。

3 イメージが適切に補正されたら、[OK] をクリックします。

4 [ファイル]-[保存] を選択して変更を保存します。イメージを変更する前の状態に戻すには、[編集]-[取り消し シャープ] を選択します。

注意：イメージを含むページを保存する前であれば、シャープコマンドの効果を取り消して元のイメージファイルに戻すことができます。ページを保存すると、イメージの変更が保存され、元に戻せなくなります。

ロールオーバーイメージの作成

ページにロールオーバーイメージを挿入することができます。ロールオーバーとは、ブラウザで表示したときにポインタを置くと変化するイメージのことです。

ロールオーバーを作成するには、2 つのイメージが必要です。1 つ目は、ページを最初にロードしたときに表示されるイメージのプライマリイメージで、2 つ目は、ポインタをプライマリイメージ上に移動すると表示されるイメージのセカンダリイメージです。2 つのイメージは同じサイズにする必要があります。Dreamweaver では、ロールオーバーイメージのプロパティがプライマリイメージに一致するように調整されます。

ロールオーバーイメージは、onMouseOver イベントに反応するように自動的に設定されます。別のイベント (マウスクリックなど) に反応するようにイメージを設定したり、ロールオーバーイメージを変更したりできます。

ロールオーバーを作成する方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0159_jp を参照してください。

1 ドキュメントウィンドウのロールオーバーを 表示したい場所に、挿入ポイントを置きます。

2 以下のいずれかの方法でロールオーバーを挿入します。

• [挿入] バーの [一般] カテゴリで [イメージ] ボタンをクリックし、[Rollover Image] アイコンを選択します。[挿入] バーに [Rollover Image] アイコンを表示して、そのアイコンをドキュメントウィンドウにドラッグします。

• [挿入]-[イメージオブジェクト]-[Rollover Image] を選択します。

3 オプションを設定して、[OK] をクリックします。

イメージ名 ロールオーバーイメージの名前。

元の画像 ページのロード時に表示するイメージ。テキストボックスにパスを入力するか、または [参照] をクリックしてイメージを選択します。

ロールオーバーイメージ ポインタを元のイメージに合わせたときに表示するイメージ。パスを入力するか、または [参照] をクリックしてイメージを選択します。

ロールオーバーイメージのプリロード ビジターがイメージにポインタを置いたときに遅延が発生しないようにブラウザのキャッシュにイメージをプリロードします。

代替テキスト (オプション) テキスト専用ブラウザを使用するビジター用の説明文を入力します。

クリック時に URL へ移動 ユーザーがロールオーバーイメージをクリックしたときに開くファイルです。パスを入力するか、または [参照] をクリックしてファイルを選択します。

注意：イメージへのリンクを設定しないと、Dreamweaver では、ロールオーバービヘイビアが添付されている HTML ソースコードにヌルリンク (#) が自動的に挿入されます。ヌルリンクを削除すると、ロールオーバーイメージは無効になります。

4 [ファイル]-[ブラウザでプレビュー] を選択するか、F12 キーを押します。

5 ブラウザで、プライマリイメージ上にポインタを移動し、ロールオーバーイメージを表示します。

注意：デザインビューではロールオーバーイメージの効果を見ることはできません。

関連項目

347 ページの「[スワップイメージ] ビヘイビアの適用」

279 ページの「ナビゲーションバーの挿入」

外部イメージエディタの使用

Dreamweaver で作業中に、選択したイメージを外部イメージエディタで開くことができます。外部イメージエディタでイメージファイルを保存し Dreamweaver に戻ると、編集内容を反映したイメージがドキュメントウィンドウに表示されます。

Fireworks をプライマリ外部エディタとして設定することができます。エディタで開くファイルタイプを設定することもできます。また、複数のイメージエディタを選択することもできます。たとえば、GIF ファイルを編集する場合は Fireworks を起動し、JPG または JPEG ファイルを編集する場合は別のイメージエディタを起動するように環境設定を変更できます。

関連項目

356 ページの「Photoshop による作業」

350 ページの「Fireworks による作業」

259 ページの「メディアファイルに使用する外部エディタの起動」

外部イメージエディタの起動

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- 編集するイメージをダブルクリックします。
- 編集するイメージを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[エディタを指定して編集]-[参照] を選択してエディタを選択します。
- 編集したいイメージを選択して、プロパティインスペクタで [編集] をクリックします。
- [ファイル] パネルでイメージファイルをダブルクリックし、プライマリイメージエディタを起動します。イメージエディタが指定されていない場合、Dreamweaver では、そのファイルタイプに対して初期設定されているエディタが起動します。

注意：[ファイル] パネルからイメージを開くと、Fireworks の統合機能を使用できません。したがって、Fireworks はオリジナルの PNG ファイルを開きません。Fireworks の統合機能を使うには、ドキュメントウィンドウからイメージを開きます。

Dreamweaver ウィンドウに戻ってもイメージが更新されない場合は、イメージを選択してプロパティインスペクタの [更新] ボタンをクリックしてください。

既存のファイルタイプに対する外部イメージエディタの設定

グラフィックファイルを開いて編集するためのイメージエディタを選択できます。

1 次のいずれかの操作を実行して [ファイルタイプ / エディタ] 環境設定ダイアログボックスを開きます。

- [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して、左にある [カテゴリ] リストの [ファイルタイプ / エディタ] を選択します。
- [編集]-[Edit with External Editor] を選択し、[ファイルタイプ / エディタ] をクリックします。

2 [拡張子] リストから、外部イメージエディタを設定するファイル拡張子を選択します。

3 [エディタ] リストの上にある [+] ボタンをクリックします。

4 [外部エディタの選択] ダイアログボックスで、選択したファイルタイプを編集するときに起動するアプリケーションの保存場所まで移動します。

5 そのアプリケーションをこのファイルタイプのプライマリエディタとして設定する場合は、[環境設定] ダイアログボックスの [プライマリエディタに設定] をクリックします。

6 このファイルタイプに、追加のエディタを設定する場合は、手順 3 ～ 4 を繰り返します。

Dreamweaver は、このタイプのイメージを編集するときに自動的にプライマリエディタを使います。ドキュメントウィンドウのイメージには、コンテキストメニューに一覧表示される他のエディタを選択できます。

[拡張子] リストへの新規ファイルタイプの追加

1 次のいずれかの操作を実行して [ファイルタイプ / エディタ] 環境設定ダイアログボックスを開きます。

- [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して、左にある [カテゴリ] リストの [ファイルタイプ / エディタ] を選択します。
- [編集]-[Edit with External Editor] を選択し、[ファイルタイプ / エディタ] をクリックします。

2 [ファイルタイプ / エディタ] 環境設定ダイアログボックスで、[拡張子] リストの上の [+] ボタンをクリックします。

テキストボックスが [拡張子] リスト内に表示されます。

3 追加するファイルタイプのファイル拡張子を入力します。

4 追加したファイルタイプで起動する外部エディタを設定するには、[エディタ] リストの上の [+] ボタンをクリックします。

5 表示されるダイアログボックスで、この種類のイメージファイルを編集するのに使用するアプリケーションを選択します。

6 このエディタをその種類のイメージのプライマリエディタにする場合は、[プライマリエディタに設定] をクリックします。

既存エディタの環境設定の変更

1 次のいずれかの操作を実行して [ファイルタイプ / エディタ] 環境設定ダイアログボックスを開きます。

- [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して、左にある [カテゴリ] リストの [ファイルタイプ / エディタ] を選択します。
- [編集]-[Edit with External Editor] を選択し、[ファイルタイプ / エディタ] をクリックします。

2 [ファイルタイプ / エディタ] 環境設定ダイアログボックスの [拡張子] リストで、既存のエディタを表示するために変更するファイルタイプを選択します。

3 [エディタ] リストで、起動するエディタを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- [エディタ] リストの上の [+] または [–] ボタンをクリックし、エディタを追加または削除します。
- [プライマリエディタに設定] ボタンをクリックし、初期設定で起動する編集用エディタを変更します。

イメージへのビヘイビアの適用

イメージやイメージホットスポットに使用できるビヘイビアを適用できます。ホットスポットにビヘイビアを適用すると、Dreamweaver では area タグに HTML ソースコードが挿入されます。イメージに適用できるビヘイビアは 3 種類あります。[プリロードイメージ]、[スワップイメージ]、[スワップイメージの復元] の 3 つです。

イメージのプリロード すぐにはページに表示されないイメージ (ビヘイビア、AP エレメント、JavaScript とスワップされるイメージなど) をブラウザキャッシュにロードします。これにより、ダウンロード時にイメージの表示が遅れるのを防ぐことができます。

スワップイメージ SRC 属性 (img タグの) を変更して、イメージを別のイメージとスワップさせます。このアクションを使用して、ボタンロールオーバー、その他のイメージ効果 (複数のイメージを同時にスワップさせることなど) を作成します

スワップイメージの復元 最後にスワップされた一式のイメージが前のソースファイルに戻ります。このアクションは、初期設定では、[スワップイメージ] アクションをオブジェクトに割り当てると、自動的に追加されます。これを手動で選択する必要はありません

ビヘイビアを使用すると、ナビゲーションバーやジャンプメニューのような、さらに洗練されたナビゲーションシステムが作成できます

関連項目

277 ページの「ジャンプメニューの挿入」

279 ページの「ナビゲーションバーの挿入」

347 ページの「[スワップイメージ] ビヘイビアの適用」

341 ページの「[イメージのプリロード] ビヘイビアの適用」

Flash コンテンツの挿入

Flash ファイルタイプについて

Dreamweaver には Flash オブジェクトが付属しており、コンピュータに Flash がインストールされていなくても使用できます。

Dreamweaver で使用可能な Flash コマンドを使用する前に、以下に示すさまざまなタイプの Flash ファイルを理解しておく必要があります。

Flash ファイル (.fla) あらゆるプロジェクトのソースファイルであり、Flash プログラムで作成されます。このタイプのファイルは Flash でのみ開くことができます。Dreamweaver またはブラウザでは開くことができません。Flash で Flash ファイルを開き、それを SWF または SWT ファイルとして書き出せばブラウザで使用できるようになります。

Flash SWF ファイル (.swf) Web 上で表示するために最適化された、ファイル (.fla) の圧縮バージョンです。このファイルは、ブラウザで再生したり、Dreamweaver でプレビューすることができますが、Flash で編集することはできません。このファイルタイプは、Flash ボタンオブジェクトと Flash テキストオブジェクトを使用する場合に作成されます。

Flash テンプレートファイル (.swt) Flash SWF ファイルの情報を変更したり、置換することができます。これらのファイルは、Flash ボタンオブジェクトで使用されます。Flash ボタンオブジェクトを使用すると、独自のテキストまたはリンクを使用してテンプレートを変更し、カスタム SWF を作成してドキュメントに挿入できます。Dreamweaver では、これらのテンプレートファイルは "Dreamweaver/Configuration/Flash Objects" フォルダの下の "Flash Buttons" フォルダおよび "Flash Text" フォルダに保存されています。

Adobe Exchange for Dreamweaver Web サイト (www.adobe.com/go/dreamweaver_exchange_jp) から新しいボタンテンプレートをダウンロードし、"Flash Buttons" フォルダに保存できます。ボタンテンプレートの新規作成に関する詳細については、www.adobe.com/go/flash_buttons_jp にある、このトピックに関する記述を参照してください。

Flash エレメントファイル (.swc) SWF ファイルです。Web ページに組み込むことで高機能なインターネットアプリケーションを作成できます。Flash エレメントにはカスタマイズ可能なパラメータがあり、これを変更してさまざまなアプリケーション機能を実行できます。

Flash Video ファイル形式 (.flv) Flash® Player を通じた配信に備えてエンコードされたオーディオデータおよびビデオデータを含むビデオファイルです。たとえば、QuickTime または Windows Media ビデオファイルがある場合は、エンコーダ (Flash® 8 Video Encoder や Sorensen Squeeze など) を使用してビデオファイルを FLV ファイルに変換します。詳細については、Flash デベロッパーセンター (www.adobe.com/jp/devnet/flash/) を参照してください。

関連項目

364 ページの「Flash による作業」

246 ページの「Flash ボタンの作成と挿入」

246 ページの「Flash ボタンオブジェクトの修正」

253 ページの「Flash Video コンテンツの追加」

Flash コンテンツの挿入とプレビュー

Dreamweaver を使用してページに Flash コンテンツ (SWF ファイルと Shockwave ムービー) を追加した後、ドキュメントおよびブラウザでページをプレビューします。また、プロパティインスペクタの Flash コンテンツのプロパティを設定できます。

Web ページに Flash を追加する方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0150_jp を参照してください。

関連項目

364 ページの「Flash による作業」

364 ページの「Flash での Dreamweaver の SWF ファイルの編集」

261 ページの「Shockwave ムービーの挿入」

253 ページの「Flash Video コンテンツの追加」

SWF ファイル (Flash コンテンツ) の挿入

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、コンテンツの挿入ポイントを配置してから、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] を選択し、次に [Flash] アイコン をクリックします。
- [挿入]-[メディア]-[Flash] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、Flash ファイル (.swf) を選択します。

ドキュメントウィンドウに Flash プレースホルダーが表示されます。これは Flash のボタンオブジェクトおよびテキストオブジェクトの場合とは異なる動作です。

ドキュメントウィンドウでの Flash コンテンツのプレビュー

1 ドキュメントウィンドウで Flash プレースホルダーをクリックして、プレビューする Flash コンテンツを選択します。

2 プロパティインスペクタの [再生] ボタンをクリックします。[停止] ボタンをクリックするとプレビューが終了します。また、F12 キーを押すと、Flash コンテンツをブラウザでプレビューできます。

1 ページに、すべての Flash コンテンツをプレビューするには、Ctrl+Alt+Shift+P (Windows) または Shift+Option+Command+P (Macintosh) を押します。すべての Flash オブジェクトおよび SWF ファイルが [再生] に設定されます。

Flash ムービーおよび Shockwave ムービーのプロパティの設定

Internet Explorer および Netscape Navigator の両方で最高画質が得られるように、Dreamweaver では、object タグと embed タグを使用して Flash ムービーと Shockwave ムービーが挿入されます。object タグは ActiveX コントロール対応の Microsoft Internet Explorer によって定義され、embed タグはプラグイン対応の Netscape Navigator によって定義されます。プロパティインスペクタで以下のプロパティを表示するには、Flash SWF ファイルまたは Shockwave ムービーを選択します。

❖ Flash SWF ファイルまたは Shockwave ムービーを選択し、プロパティインスペクタでオプションを設定します (すべての Flash SWF ファイルプロパティを表示するには、プロパティインスペクタの右下隅にある縮小の三角形をクリックします)。

名前 スクリプト処理の際に使用するムービーを識別する名前を指定します。プロパティインスペクタの左端にあるラベルの付いていないテキストボックスに名前を入力します。

幅および高さ ムービーの幅と高さをピクセル単位で指定します。

ファイル Flash ムービーファイルまたは Shockwave ムービーファイルへのパスを指定します。フォルダアイコンをクリックして、ファイルを参照するか、パスを入力します。

ソース Dreamweaver と Flash が両方ともコンピュータにインストールされている場合に、Flash ソースドキュメント (FLA) へのパスを指定します。Flash ファイル (SWF) を編集するには、ムービーのソースドキュメントを更新します。

編集 FLA ファイル (Flash オーサリングツールで作成したファイル) を更新するために Flash を起動します。Flash がコンピュータにロードされていない場合、このオプションは使用できません。

サイズのリセット 選択したムービーが元のサイズに戻ります。

ループ ムービーが連続的に再生されます。オフにすると、ムービーは一度再生されて停止します。

自動再生 ページをロードしたときにムービーが自動的に再生されます。

縦間隔と横間隔 それぞれムービーの上部と下部、左と右に残すホワイトスペースのピクセル数を指定します。

品質 ムービーの再生中のアンチエイリアスを制御します。ムービーは、設定を高くすると外観が向上しますが、画面上で適切にレンダリングするには、より高速のプロセッサが必要になります。[低] では、外観よりも処理速度が重視され、[高] では、処理速度よりも外観が重視されます。[自動 (低)] では、最初は速度が重視されますが、可能な場合は外観が改善されていきます。[自動 (高)] では、最初は外観も処理速度も重視されますが、必要に応じて処理速度が重視されて外観が低下します。

スケール [幅] テキストボックスと [高さ] テキストボックスで設定した寸法にムービーの寸法を合わせる方法を指定します。初期設定では、ムービー全体が表示されます。

境界線なし ムービーを設定された寸法に収めるので、ボーダーは表示されず、最初の縦横比が保持されます。

フィット 縦横比に関係なく、設定された寸法にムービーを合わせます。

行揃え ページ上のムービーの整列方法を指定します。

背景 ムービー領域の背景色を指定します。この背景色は、ムービーのロード時および再生後など、ムービーの再生中以外でも表示されます。

パラメータ ムービーに渡す追加のパラメータを入力するためのダイアログボックスが表示されます。これら追加のパラメータに適合するようにムービーをデザインする必要があります。

Flash ボタンの作成と挿入

デザインビューやコードビューで作業しながら、ドキュメント内に Flash ボタンを作成および挿入できます。このために、Flash をインストールする必要はありません。この Flash ボタンオブジェクトは Flash テンプレートに基づいて作成される更新可能なボタンです。

注意：Flash のボタンオブジェクトやテキストオブジェクトを挿入するには、ドキュメントを保存しておく必要があります。

1 ドキュメントウィンドウで、Flash ボタンを挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を行って、[Flash オブジェクトの挿入] ダイアログボックスを開きます。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] を選択し、次に [Flash ボタン] アイコン をクリックします。
- [挿入]-[メディア]-[Flash ボタン] を選択します。

3 [Flash ボタンの挿入] ダイアログボックスに情報を入力して [適用] または [OK] をクリックすると、ドキュメントウィンドウに Flash ボタンが挿入されます。

デザインビューでボタンをプレビューするには [適用] をクリックします。ダイアログボックスを開いたままで、ドキュメント内のボタンをプレビューできます。

Flash ボタンオブジェクトの修正

Flash ボタンオブジェクトのプロパティとコンテンツは変更することができます。

プロパティインスペクタに、選択した Flash ボタンのプロパティが表示されます。プロパティインスペクタを使用すると、幅、高さ、背景色など、ボタンの HTML 物理属性を指定できます。右下隅にある縮小の三角形をクリックすると、さらにプロパティを表示することができます。

ボタンのテキストやカラー、ボタンのクリック時にブラウザで開く URL など、Flash ボタンの他のコンテンツプロパティを修正するには、[Flash ボタンの挿入] ダイアログボックスを使用します。

関連項目

249 ページの「Flash テキストオブジェクトの挿入」

238 ページの「イメージの整列」

239 ページの「イメージの視覚的なサイズ変更」

265 ページの「パラメータを使用したメディアオブジェクトの制御」

675 ページの「Dreamweaver の拡張機能を追加および管理する」

プロパティインスペクタで Flash オブジェクトのプロパティを変更します。

1 ドキュメントウィンドウで、Flash ボタンオブジェクトをクリックして選択します。

2 プロパティインスペクタが表示されていない場合は、それを開きます。右下隅にある縮小の三角形をクリックすると、さらにプロパティを表示することができます。

3 プロパティインスペクタ内のオプションを設定します。

名前 スクリプト処理の際に使用するボタンを識別する名前を指定します。プロパティインスペクタの左端にあるラベルの付いていないテキストボックスに名前を入力します。

幅および高さ オブジェクトの幅と高さをピクセル単位で指定します。[デザイン] ビューで、サイズ変更ハンドルを使用して、オブジェクトのサイズを簡単に変更できます。プロパティインスペクタの [サイズのリセット] を選択すると、オブジェクトを元のサイズに戻すことができます。

ファイル Flash オブジェクトのファイルへのパスを指定します。フォルダアイコンをクリックして、ファイルを参照するか、パスを入力します。

編集 Flash オブジェクトのダイアログボックスが表示され、選択した Flash オブジェクトを編集できます。

サイズのリセット 選択したオブジェクトが元のサイズにリセットされます。

縦間隔と横間隔 それぞれボタンの上部と下部、左と右に残すホワイトスペースのピクセル数を指定します。

品質 quality パラメータ (ボタンを定義する object タグと embed タグの) を設定します。Flash コンテンツは、設定を高くすると外観が向上しますが、画面上で適切にレンダリングするには、より高速のプロセッサが必要になります。[低] では、外観よりも処理速度が重視され、[高] では、処理速度よりも外観が重視されます。[自動 (低)] では、最初は速度が重視されますが、可能な場合は外観が改善されていきます。[自動 (高)] では、最初は外観も処理速度も重視されますが、必要に応じて処理速度が重視されて外観が低下します。

スケール scale パラメータ (ボタンオブジェクトまたはテキストオブジェクトを定義する object タグと embed タグの) を設定します。このパラメータは、width と height によって SWF ファイルに定義されている範囲内での Flash コンテンツの表示方法を定義します。選択肢は、初期設定の [全体表示]、[枠なし]、および [フィット] の 3 つです。[全体表示] を選択すると、SWF ファイルの縦横比が維持され、ゆがみが防止された状態で、指定した範囲に SWF ファイル全体が表示されます。また、背景色の境界線が SWF ファイルの両側に表示される場合があります。[枠なし] は、SWF ファイルの一部が切り取られることを除いて、[全体表示] と同様です。[フィット] を選択すると、SWF ファイル全体が指定した範囲に収まりますが、SWF ファイルの縦横比が維持されないので、ゆがみが生じる場合があります。

行揃え ページ上のオブジェクトの整列方法を定義します。

背景 オブジェクトの背景色を指定します。

再生／停止 Flash オブジェクトがドキュメントウィンドウでプレビューされます。グリーンの [再生] ボタンをクリックすると、オブジェクトが再生モードで表示されます。レッドの [停止] ボタンをクリックすると、オブジェクトの再生が停止して、オブジェクトの編集が可能になります。

パラメータ 追加のパラメータを入力するためのダイアログボックスが表示されます。

Flash オブジェクトコンテンツの修正

1 コンテンツを変更する場合は、次のいずれかの方法で、[Flash ボタンの挿入] ダイアログボックスを表示します。

- Flash ボタンオブジェクトをダブルクリックします。
- プロパティインスペクタの [編集] をクリックします。

- 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、コンテキストメニューから [編集] を選択します。

2 [スタイル] リストから必要なボタンスタイルを選択します。

[サンプル] テキストボックスに、選択したボタンの見本が表示されます。この見本をクリックして、ブラウザでどのように機能するか確認します。

注意：Flash ボタンの定義中に (たとえば、テキストやフォントの選択を変更している場合など)、[サンプル] ボックスが自動的に更新されて変更が反映されることはありません。ダイアログボックスを閉じて、デザインビューでボタンを確認したときに、これらの変更が表示されます。

3 (オプション) [ボタンテキスト] ボックスで、表示するテキストを入力します。

このテキストボックスは、選択したボタンに {Button Text} パラメータが定義されている場合にのみ変更できます。これは、[サンプル] テキストボックスに表示されます。ファイルをプレビューするときに、{Button Text} は、入力したテキストに置き換わります。

4 [フォント] メニューから、ボタンのテキストフォントを選択します。

システムで、ボタンの初期設定フォントが使用できない場合は、メニューから別のフォントを選択します。[サンプル] ボックスにはフォントは表示されませんが、[適用] をクリックしてページにボタンを挿入することでテキストをプレビューできます。

5 [サイズ] ボックスに、フォントサイズを数値で入力します。

6 (オプション) [リンク] テキストボックスに、ボタンに対応するドキュメント相対リンクまたは絶対リンクを入力します。

これは、ビジターがボタンをクリックしたときにブラウザに表示されるサイトの URL です。

7 (オプション) [ターゲット] ボックスに、リンクされたドキュメントを開く場所を指定します。ポップアップメニューで、フレームオプションまたはウィンドウオプションを選択できます。フレームセットで Frame オブジェクトを編集している場合のみ、フレーム名が表示されます。

8 (オプション) [背景色] ボックスで、Flash SWF ファイルの背景色を設定します。カラーピッカーを使用するか、Web の 16 進法値 (#FFFFFF など) を入力します。

9 [名前を付けて保存] ボックスにファイル名を入力して、新規 SWF ファイルを保存します。

たとえば、"botton1.swf" などの、初期設定のファイル名を使用するか、新規の名前を入力します。ファイルにドキュメント相対リンクが含まれる場合、そのファイルを現在の HTML ドキュメントと同じディレクトリに保存して、ドキュメント相対リンクを保持する必要があります。

10 [スタイルの追加] をクリックして、Adobe Exchange のサイトに進み、さらにボタンスタイルをダウンロードします。

11 [適用] または [OK] をクリックして、ドキュメントウィンドウに Flash ボタンを挿入します。

[適用] を選択すると、ダイアログボックスを開いたままデザインビューで変更を確認できます。これにより、Flash ボタンに引き続き変更を加えることができます。

ドキュメントでの Flash ボタンオブジェクトのプレビュー

Dreamweaver のドキュメントウィンドウで、Flash ボタンをプレビューすることができます。ブラウザでドキュメントをプレビューして、Flash ボタンが実際にどのように表示されるか確認することをお勧めします。

1 デザインビューで、Flash ボタンオブジェクトをドキュメントで選択します。

2 プロパティインスペクタで、[再生] をクリックします。

3 [停止] ボタンをクリックするとプレビューが終了します。

注意：Flash ボタンオブジェクトは、再生している間は編集できません。

Flash テキストオブジェクトの挿入

Flash テキストオブジェクトを使用すると、テキストのみで構成した Flash SWF ファイルの作成や挿入ができます。これによって、選択したデザイナーフォントとテキストを含む小さなベクターグラフィックムービーを作成できます。

1 ドキュメントウィンドウで、Flash テキストを挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を行って、[Flash テキストの挿入] ダイアログボックスを開きます。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] を選択し、次に [Flash テキスト] アイコンをクリックします。
- [挿入]-[メディア]-[Flash テキスト] を選択します。

3 [Flash テキストの挿入] ダイアログボックスに情報を入力して [適用] または [OK] をクリックすると、ドキュメントウィンドウに Flash テキストが挿入されます。

[適用] をクリックすると、ダイアログボックスが開いたままなので、ドキュメントでテキストをプレビューできます。

Flash テキストオブジェクトを変更または再生するには、Flash ボタンの場合と同じ手順に従います。

関連項目

246 ページの「Flash ボタンオブジェクトの修正」

364 ページの「Flash による作業」

Flash エレメントのダウンロードとインストール

Web ページで Flash エレメントを使用する場合、最初に Adobe® Extension Manager を使用して Dreamweaver にそのエレメントを追加する必要があります。Extension Manager は、Adobe アプリケーションに拡張機能をインストールし、管理するための独立したアプリケーションです。[コマンド]-[拡張機能の管理] を選択して、Dreamweaver から Extension Manager を起動します。

Dreamweaver 用の最新の Flash エレメントについては、Adobe Exchange Web サイト (www.adobe.com/go/dreamweaver_exchange_jp) を参照してください。Web サイトにログインすると、Flash エレメントや他の Dreamweaver 拡張機能の多くを無料でダウンロードしたり、ディスカッショングループに参加したり、ユーザーの評価やレビューを参照したり、Extension Manager をインストールおよび使用することができます。新しい Flash エレメントや他の Dreamweaver 拡張機能をインストールするには、Extension Manager を前もってインストールする必要があります。

Extension Manager を使用して Flash エレメントや他の Dreamweaver 拡張機能をインストールできます。

関連項目

675 ページの「Dreamweaver の拡張機能を追加および管理する」

Flash エレメントの挿入

Dreamweaver を使用すると、Flash エレメントをドキュメントに挿入できます。Flash エレメントにより、高機能のインターネットアプリケーションをすばやく簡単に、作成済みのエレメントを使用して構築できます。

1 ドキュメントウィンドウで、Flash エレメントの挿入ポイントを配置して、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] ボタンをクリックし、挿入する Flash エレメントを選択します。
- [挿入]-[メディア]-[**Flash** エレメント名] を選択します。

Dreamweaver に Flash エレメントのイメージビューアが含められます。

[Flash エレメントの保存] ダイアログボックスが表示されます。

2 Flash エレメントのファイル名を入力し、サイトの適切な場所に保存します。

3 [OK] をクリックします。

Flash エレメントのプレースホルダーがドキュメントに表示されます。タグインスペクタとプロパティインスペクタを使用して Flash エレメントのプロパティを変更できます。

4 [ファイル]-[ブラウザでプレビュー] を選択して Flash エレメントをプレビューします。

Flash エレメントの編集

タグインスペクタとプロパティインスペクタを使用して、Flash エレメントの属性を編集します。

タグインスペクタおよびプロパティインスペクタのどちらでも、Flash コンポーネントの属性を表示および編集できます。タグインスペクタでは、コンポーネントに関連付けられたカスタマイズ可能な属性 (パラメータ) を表示および編集できます。プロパティインスペクタでは、Flash エレメントの高さ、幅、および SRC 属性と、デザインビューでの Flash エレメントのプレビュー方法を変更できます。

1 ドキュメントウィンドウで、以下のいずれかの操作を行います。

- デザインビューで、Flash エレメントを選択します。
- コードビューで Flash コンポーネントの名前またはそのコンテンツの任意の場所をクリックします。

2 タグインスペクタが表示されていない場合は、[ウィンドウ]-[タグインスペクタ] を選択して開きます。

3 タグインスペクタとプロパティインスペクタを使用して、Flash エレメントの属性を編集します。

- 属性名の右側にある属性値列に、属性の新しい値を入力します。
- 属性値を変更するには、値を選択して編集します。
- 値のない属性に値を追加するには、属性の右側にある属性値列をクリックしてから値を入力します (詳細については、次の手順を参照してください)。
- 属性が URL の値をとる場合は URL を入力してください。
- 定義済みの値を属性に使用する場合は、属性値列の右側に表示されるポップアップメニュー (カラーピッカー) から値を選択します。
- 動的コンテンツのソース (データベースなど) の値を属性に使用する場合は、属性値列の右側にある [動的データ] ボタンをクリックします。次に、ソースを選択します。

4 Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押すか、タグインスペクタ内の別の場所をクリックして、ドキュメント内のタグを更新します。

関連項目

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

イメージビューア Flash エレメントの使用

Adobe Dreamweaver CS3 には、ページで使用できる Flash エレメントが用意されています。これは Flash イメージビューアと呼ばれ、ウェブフォトアルバムとしても使用できます。

このイメージビューアエレメントは、一連の JPEG イメージまたは SWF イメージをロードして表示するための、サイズ変更可能なアプリケーションです。イメージのリストを定義し、それと共に各イメージに対してリンクおよびキャプションを定義します。

ユーザーは、[前へ] ボタンおよび [次へ] ボタンを使用して順番にイメージを表示したり、特定のイメージの番号を入力してそのイメージにジャンプしたりできます。また、イメージをスライドショー形式で再生するように設定することもできます。

注意：Web サイトのビジターがページ内のイメージビューアを表示するには、ビジターの環境に Flash® Player 7 以降がインストールされている必要があります。

1 イメージビューアを表示するページに挿入ポイントを配置し、[挿入]-[メディア]-[イメージビューア] を選択します。

2 [Flash エレメントの保存] ダイアログボックスで、エレメントを保存するサイト内の場所を参照し、名前を入力し、[保存] をクリックします。

注意：Flash エレメントの保存場所は、イメージビューアの追加先のページが保存されている Dreamweaver サイトと同じにすることをお勧めします。

Flash エレメントのプレースホルダーがページに表示され、タグインスペクタが開きます。

3 Flash エレメントのプレースホルダーが選択されていない場合は、それを選択します。

4 タグインスペクタ ([ウィンドウ]-[タグインスペクタ]) で imageURLs パラメータの横にあるフィールドをクリックし、行末にある [配列値の編集] アイコンをクリックします。

5 プレースホルダーエレメントを削除するには、[imageURL 配列の編集] ダイアログボックスで [-] ボタンをクリックします。イメージを追加するには、[+] ボタンをクリックし、表示される空白値の行の横のフォルダアイコンをクリックし、追加するイメージを選択します。JPEG ファイルまたは SWF ファイルを追加できます。

注意：使用するファイルの保存場所は、イメージビューアの追加先のページが保存されている Dreamweaver サイトと同じにすることをお勧めします。

6 [OK] をクリックして [imageURL 配列の編集] ダイアログボックスを閉じます。

7 (オプション) タグインスペクタを使用して、イメージビューアのその他のパラメータを設定します。

注意：また、プロパティインスペクタでイメージビューアのプロパティを設定できます。詳細については、Flash エレメントを選択し、プロパティインスペクタの [ヘルプ] アイコンをクリックしてヘルプを参照してください。

8 イメージビューアのプレースホルダーが選択されている状態で、展開されているプロパティインスペクタの [再生] ボタンをクリックしてイメージビューアを起動し、次のイメージビューアコントロールを使用してイメージを表示します。

- イメージを順番に表示するには、[次へ] ボタンまたは [前へ] ボタンをクリックします。
- 特定のイメージにスキップするには、テキストボックスに番号を入力します。
- スライドショーとしてイメージを表示するには、[再生] ボタンをクリックします。スライドショーを停止するには [停止] ボタンをクリックします。

9 展開されているプロパティインスペクタの [停止] ボタンをクリックして、イメージビューアの再生を停止します。

イメージビューアのパラメータ

パラメータ	説明
bgColor	背景色を指定します。
frameColor	イメージのボーダーのカラーを指定します。ボーダーを表示するには、frameShow パラメータを [はい] に設定します。
frameShow	各イメージの周囲にボーダーを表示するかどうかを指定します。
frameThickness	各イメージの周囲に表示するボーダーのサイズをピクセル単位で指定します。
captionColor	imageCaptions に記述するイメージキャプションの色を指定します。
captionFont	imageCaptions に記述するイメージキャプションのフォントを指定します。
captionSize	imageCaptions に記述するイメージキャプションのポイントサイズを指定します。
imageCaptions	imageURLs に指定されている各イメージのキャプションを記述します。キャプションはイメージの一部またはすべてに対して使用できますが、使用しなくてもかまいません。
imageLinks	imageURLs に指定されている各イメージの URL を記述します。リンクの URL はイメージの一部またはすべてに対して使用できますが、使用しなくてもかまいません。

パラメータ	説明
imageURLs	イメージビューアで表示するイメージの場所を記述します。使用できるのは、非プログレッシブの JPEG ファイルまたは SWF ファイルのみです。
imgLinkTarget	linkURLs に指定されている URL をロードするためのブラウザウィンドウを指定します。このパラメータは、_blank、_self、_top、_parent のいずれかに設定できます。
showControls	ユーザーが Flash エレメントを再生するときにイメージビューアのコントロールを表示するかどうかを指定します。
slideAutoPlay	イメージをスライドショー形式で再生するかどうかを指定します。このパラメータを true に設定した場合は、最初のイメージがロードされるとすぐに、イメージの再生がスライドショー形式で開始されます。
slideDelay	[再生] ボタンを押すか、autoPlay を有効にした場合、各イメージ間での待ち時間 (秒) を指定します。イメージのロードに時間がかかる場合は、このパラメータに指定した時間内にイメージが変更されます。
slideLoop	イメージのスライドショーを連続ループで再生することを指定します。
title	イメージビューアの上部に表示されるタイトルを指定します。
titleColor	title に記述するタイトルの色を指定します。
titleFont	title に記述するイメージビューアタイトルのフォントを指定します。
titleSize	title に記述するイメージビューアタイトルのポイントサイズを指定します
transitionsType	イメージビューアでのイメージの表示方法を指定します。いくつかのロードオプションから選択します。

FlashPaper ドキュメントの挿入

Adobe® FlashPaper™ ドキュメントを Web ページに挿入することができます。FlashPaper ドキュメントが含まれるページをブラウザで開くと、新しい Web ページをロードしなくても、FlashPaper ドキュメント内のすべてのページを参照することができます。ドキュメントの検索や、印刷、ズームインおよびズームアウトもできます。

FlashPaper の詳細については、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/jp/products/flashpaper/) を参照してください。

1 ドキュメントウィンドウで、ページ内で FlashPaper ドキュメントを表示する場所に挿入ポイントを置き、[挿入]-[メディア]-[FlashPaper] を選択します。

2 [FlashPaper の挿入] ダイアログボックスで、FlashPaper ドキュメントを参照して選択します。

3 必要な場合は、幅と高さをピクセル単位で入力して、Web ページ上の FlashPaper オブジェクトのサイズを指定します。幅が合うように、ドキュメントが拡大 / 縮小されます。

4 [OK] をクリックして、ドキュメントをページに挿入します。

FlashPaper ドキュメントは Flash オブジェクトであるため、ページに Flash プレースホルダーが表示されます。

5 FlashPaper ドキュメントをプレビューするには、プレースホルダーをクリックし、プロパティインスペクタの [再生] ボタンをクリックします。

6 [停止] ボタンをクリックするとプレビューが終了します。また、F12 キーを押すと、ドキュメントをブラウザでプレビューできます。FlashPaper ツールバーはブラウザで完全に機能します。

1 ページに、すべての Flash コンテンツをプレビューするには、Ctrl+Alt+Shift+P (Windows) または Shift+Option+Command+P (Macintosh) を押します。すべての Flash オブジェクトおよび SWF ファイルが [再生] に設定されます。

7 必要な場合は、プロパティインスペクタで他のプロパティを設定します。

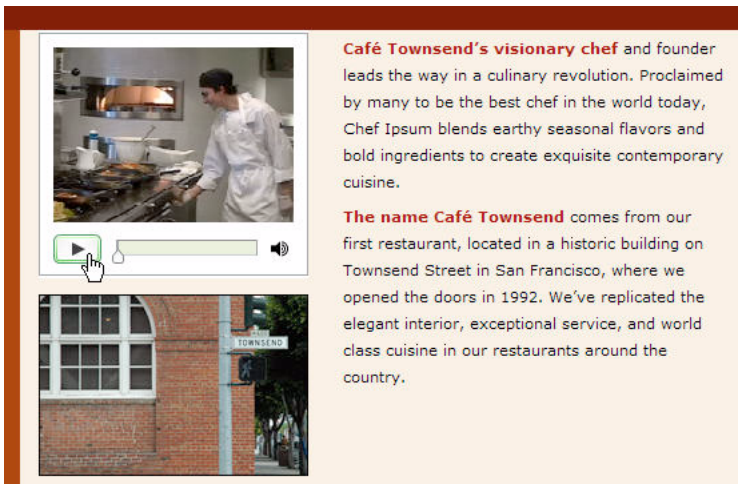
FlashPaper オブジェクトは、Flash オブジェクトとして Flash オブジェクトのプロパティインスペクタを共有します。プロパティ設定の詳細については、プロパティインスペクタの [ヘルプ] ボタンをクリックしてヘルプを参照してください。

Flash Video コンテンツの追加

Flash Video の挿入

Flash オーサリングツールを使用しなくても、Web ページに Flash Video コンテンツを簡単に挿入できます。その前に、Flash Video (FLV) ファイルを作成する必要があります。

Dreamweaver には、Flash Video コンポーネントを挿入できます。ブラウザで表示する場合は、このコンポーネントにより、選択した Flash Video コンテンツが再生コントロール一式と共に表示されます。



Dreamweaver では、サイトビジターに Flash Video を配信するために次のオプションを利用できます。

プログレッシブダウンロードビデオ サイトビジターのハードディスクに Flash ビデオ (FLV) ファイルをダウンロードして再生します。ただし、ビデオ配信の従来の " ダウンロード再生 " 方式と異なり、プログレッシブダウンロードの場合は、ダウンロードが完了する前にビデオファイルの再生を開始できます。

ストリーミングビデオ スムーズに再生するための短いバッファ期間の終了後、Flash Video コンテンツをストリーミングして Web ページ上で再生します。Web ページでストリーミングビデオをオンにするには、Adobe® Flash® Media Server にアクセスできる必要があります。

エンコードされた Flash Video (FLV) ファイルを Dreamweaver で使用する前に、ファイルを作成する必要があります。2 種類のコーデック (圧縮 / 圧縮解除テクノロジー : Sorenson Squeeze および On2) で作成したビデオファイルを挿入できます。

- Sorenson Squeeze コーデックでビデオを作成した場合、サイトビジターがプログレッシブダウンロードビデオを再生するには、Adobe の Flash® Player 7 以降が必要です。ストリーミングビデオを再生するには、Flash Player 6.0.79 以降が必要です。
- On2 コーデックでビデオを作成した場合、サイトビジターには Flash Player 8 以降が必要です。

Flash Video ファイルをページに挿入したら、Flash Video を表示する適切なバージョンの Flash Player をユーザーが所有しているかどうかを検出するコードをこのページに挿入できます。ユーザーが適切なバージョンを持っていない場合は、最新の Flash Player をダウンロードするよう求めるメッセージがユーザーに対して表示されます。

Flash Video の詳細については、Flash デベロッパーセンター (www.adobe.com/jp/devnet/flash/) を参照してください。

Flash Video の挿入

1 [挿入]-[メディア]-[Flash Video] を選択します。

2 [Flash Video の挿入] ダイアログボックスで、[ビデオタイプ] ポップアップメニューから [プログレッシブダウンロードビデオ] を選択します。

3 ダイアログボックスの残るオプションを設定し、[OK] をクリックします。

プログレッシブダウンロードビデオのオプションの設定

[Flash Video の挿入] ダイアログボックスで、Web ページに挿入された Flash ビデオ (FLV) ファイルのプログレッシブダウンロード配信に関するオプションを設定できます。

1 [挿入]-[メディア]-[Flash] を選択します (または [一般] 挿入バーの [Flash Video] アイコンをクリックします)

2 [Flash Video の挿入] ダイアログボックスで、[ビデオタイプ] メニューから [プログレッシブダウンロードビデオ] を選択します。

3 次のオプションを指定します。

URL FLV ファイルへの相対パスまたは絶対パスを指定します。相対パス (mypath/myvideo.flv など) を指定するには、[参照] ボタンをクリックし、FLV ファイルに移動して選択します。絶対パスを指定するには、FLV ファイルの URL (http://www.example.com/myvideo.flv など) を入力します。

注意： ビデオプレーヤーを正しく機能させるには、FLV ファイルにメタデータが含まれている必要があります。Flash Communication Server 1.5.2、FLV Exporter バージョン 1.2、および Sorenson Squeeze 4.0 で作成した FLV ファイルには、メタデータが自動的に格納されます。

Macintosh では、HTML ファイルから 2 つ以上、上のレベルにあるディレクトリ内の FLV ファイルを指す場合は絶対パスを使用する必要があります。

スキン Flash Video コンポーネントの外観を指定します。選択したスキンのプレビューが [スキン] ポップアップメニューの下に表示されます。

幅 FLV ファイルの幅をピクセル単位で指定します。Dreamweaver に FLV ファイルの正確な幅を特定させるには、[サイズの検出] ボタンをクリックします。Dreamweaver が幅を特定できない場合は、幅の値を入力する必要があります。

高さ FLV ファイルの高さをピクセル単位で指定します。Dreamweaver に FLV ファイルの正確な高さを特定させるには、[サイズの検出] ボタンをクリックします。Dreamweaver が高さを特定できない場合は、高さの値を入力する必要があります。

注意： スキンを含めた合計とは、FLV ファイルの幅と高さに、選択したスキンの幅と高さを加えたものです。

縦横比を固定する Flash Video コンポーネントの幅と高さの比率と同じ縦横比が維持されます。このオプションは初期設定ではオンになっています。

自動再生 Web ページが開かれたときにビデオを再生するかどうかを指定します。

自動巻き戻し ビデオを再生し終わった後に再生制御を開始位置に戻すかどうかを指定します。

必要に応じて Flash Player のダウンロードをユーザーに対して要求します Flash Video を表示するのに必要な Flash Player のバージョンを検出し、ユーザーが適切なバージョンを持っていない場合は最新バージョンの Flash Player をダウンロードするよう求めるコードがページに挿入されます。

メッセージ ユーザーが Flash Video を表示するために Flash Player の最新バージョンをダウンロードすることが必要な場合に表示するメッセージを指定します。

4 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じると、Web ページに Flash Video コンテンツが追加されます。

[Flash Video の挿入] コマンドを実行すると、ビデオプレーヤーの SWF ファイルとスキンの SWF ファイルが生成されます。これらのファイルは、Web ページに Flash Video コンテンツを表示するために使用されます。(新しいファイルが表示されない場合は、[ファイル] パネルの [更新] ボタンをクリックすると表示されます。) これらのファイルは、

Flash Video コンテンツを追加する HTML ファイルと同じディレクトリに保存されます。Flash Video コンテンツを含む HTML ページをアップロードすると、これらのファイルは依存ファイルとしてアップロードされます ([依存ファイルを PUT しますか] ダイアログボックスで [はい] をクリックした場合)。

ストリーミングビデオのオプションの設定

[Flash Video の挿入] ダイアログボックスで、Web ページに挿入された Flash ビデオ (FLV) ファイルのストリーミングビデオダウンロードに関するオプションを設定できます。

1 [挿入]-[メディア]-[Flash] を選択します (または [一般] 挿入バーの [Flash Video] アイコンをクリックします)

2 [ビデオタイプ] ポップアップメニューから [ストリーミングビデオ] を選択します。

サーバー URI サーバー名、アプリケーション名、およびインスタンス名を rtmp://www.example.com/app_name/instance_name の形式で指定します。

ストリーム名 再生する FLV ファイルの名前 (myvideo.flv など) を指定します。拡張子 .flv は省略可能です。

注意 : ビデオプレーヤーを正しく機能させるには、FLV ファイルにメタデータが含まれている必要があります。Flash® Communication Server 1.5.2、FLV Exporter バージョン 1.2、および Sorenson Squeeze 4.0 で作成した FLV ファイルには、メタデータが自動的に格納されます。

スキン Flash Video コンポーネントの外観を指定します。選択したスキンのプレビューが [スキン] ポップアップメニューの下に表示されます。

幅 FLV ファイルの幅をピクセル単位で指定します。Dreamweaver に FLV ファイルの正確な幅を特定させるには、[サイズの検出] ボタンをクリックします。Dreamweaver が幅を特定できない場合は、幅の値を入力する必要があります。

高さ FLV ファイルの高さをピクセル単位で指定します。Dreamweaver に FLV ファイルの正確な高さを特定させるには、[サイズの検出] ボタンをクリックします。Dreamweaver が高さを特定できない場合は、高さの値を入力する必要があります。

注意 : スキンを含めた合計とは、FLV ファイルの幅と高さに、選択したスキンの幅と高さを加えたものです。

縦横比を固定する Flash Video コンポーネントの幅と高さの比率と同じ縦横比が維持されます。このオプションは初期設定ではオンになっています。

ライブビデオフィード Flash Video コンテンツがライブであるかどうかを指定します。[ライブビデオフィード] オプションがオンの場合、Flash Player は Flash® Media Server からストリーミング配信されるライブビデオフィードを再生します。ライブビデオフィードの名前は、[ストリーム名] テキストボックスで指定した名前です。

注意 : [ライブビデオフィード] がオンの場合、ライブビデオを操作することはできないので、コンポーネントのスキン上にはボリュームコントロールのみが表示されます。また、[自動再生] および [自動巻き戻し] オプションは無効になります。

自動再生 Web ページが開かれたときにビデオを再生するかどうかを指定します。

自動巻き戻し ビデオを再生し終わった後に再生制御を開始位置に戻すかどうかを指定します。

バッファ時間 ビデオの再生を開始する前にバッファリングする必要がある時間を秒単位で指定します。初期設定ではバッファ時間は 0 に設定されているため、[再生] ボタンをクリックした直後にビデオの再生が開始されます。([自動再生] がオンの場合は、サーバーとの接続が確立すると同時にビデオの再生が開始されます。) サイトビジターの接続スピードよりもビットレートの高いビデオを配信する場合や、インターネットトラフィックにより帯域幅や接続性の問題が発生する可能性がある場合は、バッファ時間を設定することを考えてください。たとえば、Web ページに 15 秒分のビデオが送信されてから再生を開始するようにするには、バッファ時間を 15 に設定します。

必要に応じて Flash Player のダウンロードを要求します Flash Video を表示するのに必要な Flash Player のバージョンを検出し、ユーザーが適切なバージョンを持っていない場合は最新バージョンの Flash Player をダウンロードするよう求めるコードがページに挿入されます。

メッセージ ユーザーが Flash Video を表示するために Flash Player の最新バージョンをダウンロードすることが必要な場合に表示するメッセージを指定します。

3 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じると、Web ページに Flash Video コンテンツが追加されます。

[Flash Video の挿入] コマンドを実行すると、ビデオプレーヤーの SWF ファイルとスキンの SWF ファイルが生成されます。これらのファイルは、Web ページに Flash Video を表示するために使用されます。このコマンドにより、main.asc ファイルも生成されます。このファイルは、Flash Media Server にアップロードする必要があります。(新しいファイルが表示されない場合は、[ファイル] パネルの [更新] ボタンをクリックすると表示されます。) これらのファイルは、Flash Video コンテンツを追加する HTML ファイルと同じディレクトリに保存されます。Flash Video コンテンツを含む HTML ページをアップロードするときには、必ず SWF ファイルを Web サーバーにアップロードし、main.asc ファイルを Flash Media Server にアップロードしてください。

注意：main.asc ファイルが既にサーバー上にある場合は、[Flash Video の挿入] コマンドで生成された main.asc ファイルをアップロードする前に、サーバー管理者に確認してください。

必要なメディアファイルをすべてアップロードするには、Dreamweaver のドキュメントウィンドウで Flash Video コンポーネントのプレースホルダーを選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [メディアのアップロード] ボタンをクリックします。必要なファイルのリストを表示するには、[必要なファイルを表示] をクリックします。

注意：[メディアのアップロード] ボタンをクリックしても、Flash Video コンテンツを含む HTML ファイルはアップロードされません。

Flash Video の表示に必要な Flash Player のバージョンの検出

Flash Video ファイルをページに挿入するとき、ユーザーが Flash Video を表示するための適切なバージョンの Flash Player を持っているかどうかを検出するコードを挿入することもできます。ユーザーが適切なバージョンを持っていない場合は、最新の Flash Player をダウンロードするよう求めるメッセージがユーザーに対して表示されます。

ビデオの作成に使用したコーデックによっては、Flash Video を表示するために別のバージョンの Flash Player が必要な場合があります。Sorenson Squeeze コーデックで作成したビデオの場合、サイトビジターがプログレッシブダウンロードビデオを再生するには Flash Player 7 以降が必要で、ストリーミングビデオを再生するには、Flash Player 6.0.79 以降が必要です。On2 コーデックで作成したビデオの場合、サイトビジターには Flash Player 8 以降が必要です。

Flash Player のバージョンを検出するコードの挿入

1 Flash Video をページに挿入する場合は、[Flash Video の挿入] ダイアログボックスで [必要に応じて Flash Player のダウンロードを要求します] オプションを選択します。

すでに Flash Video をページに挿入している場合は、それをページから削除し、このオプションを選択した状態で再度挿入します。

注意：最初のビデオより新しいバージョンの Flash Player が必要な別の Flash Video を挿入した場合は、検出コードが新しいバージョンをダウンロードするようにユーザーに求めます。

2 デフォルトの警告メッセージを受け入れるか、独自のメッセージを指定します。

Flash Video をページから削除すると、検出コードは不要になります。Dreamweaver を使用してコードを削除できます。

Flash Player のバージョンを検出するコードの削除

❖ [コマンド]-[Flash Video 検出の削除] を選択します。

Flash Video コンポーネントの編集または削除

Web ページ内の Flash Video コンテンツの設定を変更するには、Dreamweaver のドキュメントウィンドウで Flash Video コンポーネントのプレースホルダーを選択してプロパティインスペクタを使用するか、Flash Video コンポーネントを削除してから [挿入]-[メディア]-[Flash Video] を選択してコンポーネントを再挿入する必要があります。

Flash Video コンポーネントの編集

1 Dreamweaver のドキュメントウィンドウで、Flash Video コンポーネントのプレースホルダーの中央にある Flash Video アイコンをクリックしてプレースホルダーを選択します。

2 [ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、変更を加えます。

注意：プロパティインスペクタを使用して、プログレッシブダウンロードからストリーミングに変更するなど、ビデオタイプを変更することはできません。ビデオタイプを変更するには、Flash Video コンポーネントを削除し、[挿入]-[メディア]-[Flash Video] を選択してコンポーネントを再挿入する必要があります。

Flash Video コンポーネントの削除

❖ Dreamweaver のドキュメントウィンドウで、Flash Video コンポーネントのプレースホルダーを選択し、Delete キーを押します。

サウンドの追加

オーディオファイル形式

サウンドを Web ページに追加できます。サウンドのファイルおよび形式には、.wav、.midi、.mp3 など、さまざまな種類があります。サウンドを追加する形式と方法を決定する前に考慮する要素として、追加の目的、聴取者、ファイルサイズ、音質、およびブラウザ間の差異が挙げられます。

注意：サウンドファイルの処理方法はブラウザによって大きく異なり、一貫していません。サウンドファイルを Flash SWF ファイルに追加してから、その SWF ファイルを埋め込んで一貫性を高めることができます。

以下に、一般的な音声ファイル形式と、各 Web デザインに対する利点と欠点について説明します。

.midi または .mid (Musical Instrument Digital Interface) 器楽曲のためのファイル形式です。MIDI ファイルは多くのブラウザにサポートされており、プラグインを必要としません。MIDI ファイルの音質は非常に優れていますが、ビジターのサウンドカードに左右される可能性があります。小さな MIDI ファイルで長いサウンドクリップを再生できます。MIDI ファイルは録音できません。また、コンピュータ上で特別なハードウェアおよびソフトウェアと合成する必要があります。

.wav (Waveform Extension) この形式のファイルは、音質が高く、多くのブラウザでサポートされており、プラグインを必要としません。CD、テープ、マイクなど、独自の WAV ファイルを記録できます。ただし、ファイルサイズが大きいので、Web ページ上で使用できるサウンドクリップの長さが厳密に制限されます。

.aif (Audio Interchange File Format、つまり AIFF) WAV 形式と同様に音質が高く、ほとんどのブラウザで再生可能であり、プラグインは必要ではありません。また、AIFF ファイルを CD、テープ、マイクなどから録音することができます。ただし、ファイルサイズが大きいので、Web ページ上で使用できるサウンドクリップの長さが厳密に制限されます。

.mp3 (Motion Picture Experts Group Audio Layer3、MPEG-Audio Layer-3) 圧縮形式の 1 つで、この形式ではサウンドファイルがかなり小さくなりますが、高い音質を実現できます。MP3 ファイルを適切に録音して圧縮すれば、その音質は CD の音質に匹敵します。MP3 テクノロジーによってファイルを " ストリーム " できるので、ビジターはファイル全体がダウンロードされるのを待たなくても音を聴くことができます。ただし、ファイルサイズが Real Audio ファイルより大きいので、通常のダイアルアップ (電話回線) によるモデム接続で 1 曲全部をダウンロードすると、長い時間かかる場合があります。MP3 ファイルを再生するには、ビジターは QuickTime、Windows Media Player、RealPlayer などのアプリケーションまたはプラグインをダウンロードしてインストールする必要があります。

.ra、.ram、.rpm、などの Real Audio 圧縮率が高く、ファイルサイズが MP3 形式よりも小さくなります。曲のファイル全体を時間がかかりすぎることなくダウンロードできます。通常の Web サーバーからファイルを " ストリーム " できるので、ビジターはファイルが完全にダウンロードされる前に音を聴き始めることができます。Real Audio 形式のファイルを再生するためには、ビジターは、RealPlayer 用のアプリケーションまたはプラグインのダウンロードとインストールが必要です。

.qt、.qtm、.mov、または QuickTime Apple Computer が開発した形式で、音声およびビデオの両方をサポートしています。QuickTime は、Apple Macintosh のオペレーティング システムに組み込まれており、音声、ビデオまたはアニメーションを使用するほとんどの Macintosh アプリケーションに使用されます。Windows を搭載したコンピュータでも QuickTime 形式のファイルを再生できますが、専用の QuickTime ドライバが必要です。QuickTime は、Cinepak、JPEG、MPEG など、ほとんどのエンコード形式をサポートします。

注意：前述の一般的な形式以外にも、Web 上で利用できる音声やビデオのファイル形式が多数存在します。聞き慣れないメディアファイル形式を使用する場合は、その作成者に問い合わせ、最適な使用方法と配置方法を確認してください。

関連項目

258 ページの「メディアオブジェクトの挿入と編集」

音声ファイルへのリンク

音声ファイルへのリンクは、Web ページにサウンドを追加する簡単で効果的な方法の 1 つです。この方法ではサウンドファイルが組み込まれるので、ビジターはサウンドファイルを聴くかどうかを選択できます。また広範囲の聴取者がサウンドファイルを使用できるようになります。

1 音声ファイルへのリンクとして使用するテキストまたはイメージを選択します。

2 プロパティインスペクタで、[リンク] テキストボックスの横にあるフォルダアイコンをクリックして音声ファイルを参照するか、[リンク] テキストボックスにファイルのパスと名前を入力します。

サウンドファイルの埋め込み

音声を埋め込むと、サウンドが直接ページに組み込まれますが、サイトのビジターが、選択したサウンドファイルに対して適切なプラグインを所有している場合にだけサウンドが再生されます。サウンドをバックグラウンドミュージックとして使用する場合や、音量、ページ上のプレーヤーの表示方法、サウンドファイルの開始点と終了点を制御する場合などに、ファイルを埋め込みます。

Web ページにサウンドファイルを組み込む際は、それらが Web サイトで適切に使用されること、また Web サイトのビジターがどのようにそれらメディアリソースを使用するかを慎重に考慮してください。ビジターが音声コンテンツの再生を望まない場合を考えて、サウンドの再生を有効または無効にできるようにする必要があります。

1 デザインビューで、ファイルを埋め込む位置に挿入ポイントを置き、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [プラグイン] アイコンをクリックします。
- [挿入]-[メディア]-[プラグイン] を選択します。

2 プロパティインスペクタで、[リンク] テキストボックスの横にあるフォルダアイコンをクリックして音声ファイルを参照するか、[リンク] テキストボックスにファイルのパスと名前を入力します。

3 該当するテキストボックスに値を入力するか、ドキュメントウィンドウでプラグインプレースホルダーのサイズを変更して、幅と高さを指定します。

これらの値によって、音声コントロールがブラウザで表示されるサイズが決定します。

関連項目

262 ページの「Netscape Navigator プラグインコンテンツの挿入」

他のメディアオブジェクトの追加

メディアオブジェクトの挿入と編集

Dreamweaver ドキュメントには、Flash SWF ファイルやオブジェクト、QuickTime ムービーや Shockwave ムービー、Java アプレット、ActiveX コントロール、またはその他の音声オブジェクトやビデオオブジェクトを挿入することができます。メディアオブジェクトのアクセシビリティ属性を挿入してあれば、HTML コードでアクセシビリティ属性の設定と属性値の編集を行うことができます。

1 ドキュメントウィンドウ内でオブジェクトを挿入する場所に挿入ポイントを置きます。

2 オブジェクトを挿入するには、以下のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリ内で、[メディア] ボタンをクリックし、挿入するオブジェクトタイプのアイコンを選択します。

- [挿入]-[メディア] サブメニューから、適切なオブジェクトを選択します。
- 挿入するオブジェクトが Flash、Shockwave、アプレット、または ActiveX オブジェクトでない場合は、[挿入]-[メディア] サブメニューから [プラグイン] を選択します。

ダイアログボックスが表示されるので、そこでソースファイルを選択して、メディアオブジェクトのパラメータを指定します。

ダイアログボックスを表示しないようにするには、[編集]-[環境設定]-[一般] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定]-[一般] (Macintosh) を選択して、[オブジェクト挿入中にダイアログを表示] オプションをオフにします。ダイアログボックスの表示に関して設定されているあらゆる環境設定を無効にするには、Ctrl キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながらオブジェクトを挿入します。たとえば、ファイルを指定せず、Shockwave ムービーにプレースホルダーを挿入するには、Ctrl キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら、[一般] 挿入バーにある [メディア] ポップアップメニューの [Shockwave] ボタンをクリックするか、[挿入]-[メディア]-[Shockwave] を選択します。

3 [ファイルの選択] または [Flash の挿入] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

注意：[編集]-[環境設定] ダイアログボックスでメディアを挿入するときに、属性の表示を選択した場合は、[Accessibility Attributes] ダイアログボックスが表示されます。

4 アクセシビリティ属性の設定

注意：また、オブジェクトを選択してコードビューで HTML コードを編集するか、オブジェクトを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して [タグコードの編集] を選択することにより、メディアオブジェクト属性を編集することもできます。

タイトル メディア オブジェクトのタイトルを入力します。

アクセスキー テキストボックスに、ブラウザでフォームオブジェクトを選択する際に使用するキーボードの文字 (1 文字) を入力します。これにより、サイトのビジターは Ctrl キー (Windows) とアクセスキーを同時に押すことでオブジェクトを選択できるようになります。たとえば、アクセスキーとして「B」を入力すると、Ctrl+B キーでブラウザ内のオブジェクトを選択できます。

タブインデックス フォームオブジェクトのタブ順序の番号を入力します。タブ順序を設定しておくと、ページに他のリンクやフォームオブジェクトがある場合に、Web サイトのビジターは、Tab キーを使用して特定の順序でオブジェクト間を移動できます。1 つのオブジェクトに対してタブ順序を設定したら、他のすべてのオブジェクトについてもタブ順序を設定するようにしてください。

5 [OK] をクリックしてメディアオブジェクトを挿入します。

注意：Dreamweaver で [キャンセル] をクリックすると、メディアオブジェクトのプレースホルダーがドキュメント内に表示されますが、アクセシビリティタグや属性はこのプレースホルダーに関連付けられません。

ソースファイルを指定する場合、または次元およびその他のパラメータと属性を設定する場合は、各オブジェクトのプロパティインスペクタを使用します。オブジェクトのアクセシビリティ属性を編集できます。

関連項目

672 ページの「アクセシビリティの高いページデザインのためのワークスペースの最適化」

262 ページの「Netscape Navigator プラグインコンテンツの挿入」

メディアファイルに使用する外部エディタの起動

ほとんどのメディアファイルは、Dreamweaver から外部エディタを起動して編集できます。ファイルの編集用に Dreamweaver から起動するエディタを指定することもできます。

1 メディアファイルのタイプが、使用しているシステムのエディタに関連付けられていることを確認します。

ファイルタイプに関連付けられているエディタを調べるには、Dreamweaver で [編集]-[環境設定] を選択し、[カテゴリ] リストから [ファイルタイプ / エディタ] を選択します。[拡張子] 列でファイルの拡張子をクリックすると、関連付けられているエディタが [エディタ] 列に表示されます。ファイルタイプに関連付けられているエディタを変更することができます。

2 [ファイル] パネルでメディアファイルをダブルクリックして、外部エディタで開きます。

[ファイル] パネルでファイルをダブルクリックしたときに起動するエディタをプライマリエディタといいます。たとえば、イメージファイルをダブルクリックすると、Dreamweaver によって Adobe Fireworks などのプライマリ外部エディタが起動され、このイメージファイルが開かれます。

3 ファイルの編集にプライマリ外部エディタを使用しない場合は、以下のいずれかの操作で、システムにある別のエディタを使用してファイルを編集できます。

- [ファイル] パネルでファイル名を右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、コンテキストメニューから [ツールを指定して開く] を選択します。
- デザインビューで現在のページ内のデザインエレメントを右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [エディタを指定して編集] を選択します。

Dreamweaver から起動するエディタの指定

Dreamweaver でファイルタイプを編集する際に使用するエディタを指定できます。また、Dreamweaver によって認識されるファイルタイプを追加または削除できます。

特定のファイルタイプについて起動する外部エディタの明示的な指定

1 [編集]-[環境設定] を選択し、[カテゴリ] リストから [ファイルタイプ / エディタ] を選択します。

たとえば、.gif、.wav、.mpg などのファイル名の拡張子が [拡張子] の左下に一覧表示されます。選択した拡張子に関連付けられている外部エディタが [エディタ] の右下に一覧表示されます。

2 [拡張子] リストでファイルタイプの拡張子を選択し、以下のいずれかの操作を行います。

- ファイルタイプに新しいエディタを関連付けるには、[エディタ] リストの上にある [+] ボタンをクリックして表示されたダイアログボックスに情報を入力します。

たとえば、ファイルタイプに Acrobat を関連付けるには、Acrobat のアプリケーションアイコンを選択します。

- あるエディタをファイルタイプのプライマリエディタ ([ファイル] パネルでそのファイルタイプをダブルクリックした時に起動するエディタ) にするには、[エディタ] リストからそのエディタを選択して [プライマリエディタに設定] をクリックします。
- エディタとファイルタイプの関連付けを解除するには、[エディタ] リストでそのエディタを選択し、[エディタ] リストの上にある [-] ボタンをクリックします。

新しいファイルタイプの追加とエディタの関連付け

1 [拡張子] リストの上にある [+] ボタンをクリックしてファイルタイプの拡張子 (拡張子の前に付くピリオド (.) を含む) を入力します。複数の拡張子を関連付けるには、それぞれをスペースで区切って入力します。

たとえば、システムにインストールされている XML エディタに .xml と .xsl を関連付けるには、「**.xml .xsl**」と入力します。

2 [エディタ] リストの上にある [+] ボタンをクリックして表示されたダイアログボックスに情報を入力し、そのファイルタイプのエディタを選択します。

ファイルタイプの削除

❖ [拡張子] リストでファイルタイプを選択し、[拡張子] リストの上にある [-] ボタンをクリックします。

注意：ファイルタイプは、一度削除すると元に戻せないので、よく確認してから削除してください。

メディアオブジェクトでのデザインノートの使用

Dreamweaver の他のオブジェクトと同様に、デザインノートをメディアオブジェクトに追加できます。デザインノートとは、特定のファイルに関連付けられたノートで、そのファイルとは別のファイルに格納されています。デザインノートを使用すると、イメージソースファイル名やファイル状態のコメントなどの、ドキュメントに関連付けられた付加ファイル情報を継続的に管理できます。

1 ドキュメントウィンドウで、オブジェクトを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) します。

注意：オブジェクトにデザインノートを追加する前に、サイトを定義する必要があります。

2 コンテキストメニューから [デザインノート] を選択します。

3 デザインノートに、必要な情報を入力します。

[ファイル] パネルでファイルを選択し、コンテキストメニューを表示して、コンテキストメニューから [デザインノート] を選択することによって、デザインノートをメディアオブジェクトに追加することもできます。

関連項目

98 ページの「サイトのデザインノートの有効化と無効化」

97 ページの「デザインノート内のファイル情報の格納」

Shockwave ムービーの挿入

Dreamweaver を使用すると、ドキュメントに Shockwave ムービーを挿入できます。Adobe® Shockwave® は、Web 上でのインタラクティブなマルチメディアの標準であり、Adobe の Macromedia® Director® で作成されたメディアファイルを、最も一般的なブラウザで迅速にダウンロードして再生できる圧縮形式です。

1 ドキュメントウィンドウで、Shockwave ムービーの挿入ポイントを配置して、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] ボタンをクリックし、メニューから [Shockwave] アイコン をクリックします。
- [挿入]-[メディア]-[Shockwave] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、ムービーファイルを選択します。

3 プロパティインスペクタで、[幅] と [高さ] テキストボックスにムービーの幅と高さをそれぞれ入力します。

関連項目

245 ページの「Flash コンテンツの挿入とプレビュー」

Flash 以外のビデオの追加

Web ページには、異なるフォーマットを使用して、いくつかの方法でビデオを追加することができます。ビデオは、ユーザーの PC にダウンロードしたり、ダウンロード中に再生するようにストリーミングすることが可能です。

1 サイトフォルダにクリップを置きます。

このようなクリップは通常、AVI または MPEG ファイル形式で作成されています。

2 クリップへのリンクを作成するか、ページにクリップを埋め込みます。

クリップへのリンクを作成するには、" クリップのダウンロード " などのリンクテキストを入力します。そのテキストを選択して、プロパティインスペクタでフォルダアイコンをクリックします。ビデオファイルを選択します。

注意：Real Media、QuickTime、Windows Media などの一般的なストリーミングフォーマットを表示するには、対応するアプリケーション (プラグイン) をダウンロードする必要があります。

Netscape Navigator プラグインコンテンツの挿入

Netscape Navigator プラグイン用の QuickTime ムービーなどのコンテンツを作成し、Dreamweaver を使用してそのコンテンツを HTML ドキュメントに挿入できます。よく使用されるプラグインとしては RealPlayer と QuickTime がありますが、コンテンツファイルの中には MP3 ムービーと QuickTime ムービーが組み込まれているものがあります。

Netscape Navigator プラグインで実行するムービーやアニメーションをドキュメントウィンドウのデザインビューで直接プレビューできます。一度にプラグイン要素すべてを再生して、ページがユーザーに対してどのように表示されるかを確認することも、プラグイン要素を 1 つずつ再生して、適切なメディア要素が埋め込まれていることを確認することもできます。

注意：ActiveX コントロールで実行するムービーやアニメーションはプレビューできません。

Netscape Navigator プラグインのコンテンツを挿入した後、プロパティインスペクタを使用して、そのコンテンツのパラメータを設定します。プロパティインスペクタで以下のプロパティを表示するには、Netsacpe Navigator プラグインオブジェクトを選択します。

最初、プロパティインスペクタには、最も一般的に使用するプロパティが表示されます。右下隅にある縮小の三角形をクリックすると、すべてのプロパティが表示されます。

Netscape Navigator プラグインコンテンツの挿入とプロパティの設定

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、コンテンツの挿入ポイントを配置して、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] ボタンをクリックし、メニューから [プラグイン] アイコン をクリックします。
- [挿入]-[メディア]-[プラグイン] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、Netscape Navigator プラグインのコンテンツファイルを選択し、[OK] をクリックします。

3 プロパティインスペクタ内のプラグインオプションを設定します。

名前 スクリプト処理に使用するプラグインを識別する名前を指定します。プロパティインスペクタの左端にあるラベルの付いていないテキストボックスに名前を入力します。

幅および高さ ページ上のオブジェクトに割り当てる幅と高さをピクセル単位で指定します。

ソース ソースデータファイルを指定します。フォルダアイコンをクリックして、ファイルを参照するか、ファイル名を入力します。

プラグイン URL pluginspace 属性の URL を指定します。ユーザーがプラグインをダウンロードできるサイトの完全な URL を入力します。ページを表示するユーザーがプラグインを持っていない場合、ブラウザはこの URL からプラグインをダウンロードしようとします。

行揃え ページ上のオブジェクトの整列方法を指定します。

縦間隔と横間隔 それぞれプラグインの上部と下部、左と右に残すホワイトスペースの量をピクセル単位で指定します。

ボーダー プラグインの周囲にある境界線の幅を指定します。

パラメータ Netscape Navigator プラグインに渡す追加のパラメータを入力するためのダイアログボックスが表示されます。多くのプラグインは、特別なパラメータに対応します。たとえば、Flash プラグインには、bgcolor、salign、および scale のパラメータが組み込まれています。

また、[属性] ボタンをクリックすると、選択したプラグインに割り当てられている属性を表示できます。このダイアログボックスで、幅や高さなどの属性の編集、追加、および削除ができます。

ドキュメントウィンドウでのプラグインコンテンツの再生

1 [挿入]-[メディア]-[Shockwave]、[挿入]-[メディア]-[Flash]、または [挿入]-[メディア]-[Plugin] を選択して、メディア要素を挿入します。複数の要素を挿入することもできます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- 挿入したメディア要素の 1 つを選択し、[表示]-[プラグイン]-[再生] を選択するか、プロパティインスペクタの [再生] ボタンをクリックします。
- [表示]-[プラグイン]-[すべて再生] を選択すると、選択したページにある、プラグインで実行するメディア要素をすべて再生できます。

注意：[すべて再生] は、現在のドキュメントだけに適用されます。たとえば、フレームセットの他のドキュメントには適用されません。

プラグインコンテンツの再生の停止

❖ メディア要素を選択して、[表示]-[プラグイン]-[停止] を選択するか、プロパティインスペクタの [停止] ボタンをクリックします。

[表示]-[プラグイン]-[すべて停止] を選択すると、すべてのプラグインコンテンツの再生を停止できます。

Netscape Navigator プラグインのトラブルシューティング

ドキュメントウィンドウでプラグインコンテンツを再生するための手順に従っても、プラグインコンテンツの一部が再生されない場合は、次の操作を試みます。

- 関連するプラグインがコンピュータにインストールされていることと、使用しているプラグインのバージョンとコンテンツが互換性のあることを確認します。
- テキストエディタで "Configuration/Plugins/UnsupportedPlugins.txt" ファイルを開き、問題のあるプラグインが一覧表示されているかどうかを確認します。このファイルには、Dreamweaver で不具合が発生するためにサポートされていないプラグインが記録されています。特定のプラグインによって問題が生じた場合は、そのプラグインをこのファイルに追加します。
- 十分なメモリ容量があることを確認します。一部のプラグインには、実行のためにさらに 2 ～ 5 MB のメモリ容量が必要です。

ActiveX コントロールの挿入

ページに ActiveX コントロールを挿入することができます。ActiveX コントロール (以前の OLE コントロール) は、再使用可能なコンポーネントで、ブラウザプラグインと同じように機能する小型アプリケーションのようなものです。Windows では、ActiveX コントロールは Internet Explorer で実行されますが、Macintosh または Netscape Navigator では実行されません。Dreamweaver で ActiveX オブジェクトを使用すると、ActiveX コントロールの属性とパラメータをビジターのブラウザで指定できます。

ActiveX オブジェクトを挿入したら、プロパティインスペクタを使用して、ActiveX コントロールの object タグの属性とパラメータを設定します。プロパティインスペクタの [パラメータ] をクリックして、プロパティインスペクタに表示されないプロパティの名前と値を入力します。ActiveX コントロールのパラメータには、一般的に使用されているような標準形式はありません。どのパラメータを使用するかについては、使用している ActiveX コントロールのマニュアルを参照してください。

❖ ドキュメントウィンドウで、コンテンツの挿入ポイントを配置して、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] ボタンをクリックし、[ActiveX] アイコン をクリックします。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] ボタンをクリックし、[ActiveX] アイコンをクリックします。[挿入] バーに [ActiveX] アイコンを表示して、そのアイコンをドキュメントウィンドウにドラッグします。
- [挿入]-[メディア]-[ActiveX] を選択します。Internet Explorer のページ上に ActiveX が表示される場所が、アイコンによって指定されます。

ActiveX のプロパティ

最初、プロパティインスペクタには、最も一般的に使用するプロパティが表示されます。右下隅にある縮小の三角形をクリックすると、すべてのプロパティが表示されます。

名前 スクリプト処理の際に使用する ActiveX オブジェクトを識別する名前を指定します。プロパティインスペクタの左端にあるラベルの付いていないテキストボックスに名前を入力します。

幅および高さ オブジェクトの幅と高さをピクセル単位で指定します。

クラス ID ブラウザに対する ActiveX コントロールを識別します。値を入力するか、ポップアップメニューで値を選択します。ページのロード時に、ブラウザは、Class ID の値を使用して、ページに関連付けられている ActiveX オブジェクトに必要な ActiveX コントロールの保存場所を検索します。ブラウザは、指定された ActiveX コントロールを検索できない場合に、[ベース] で指定された保存場所から ActiveX コントロールのダウンロードを試みます。

埋め込み embed タグを ActiveX コントロールの object タグ内に追加します。ActiveX コントロールに Netscape Navigator プラグインと同等の機能が備わっている場合は、embed タグでこのプラグインを有効にします。ActiveX プロパティとして入力した値は、Dreamweaver により、その ActiveX プロパティに相当する Netscape Navigator プラグインに割り当てられます。

行揃え ページ上のオブジェクトの整列方法を指定します。

パラメータ ActiveX オブジェクトに渡す追加のパラメータを入力するためのダイアログボックスが表示されます。多くの ActiveX コントロールは、特別なパラメータに対応します。

ソース [埋め込み] オプションがオンの場合に、Netscape Navigator プラグインに使用するデータファイルを定義します。値を入力しなかった場合、Dreamweaver により、既に入力されている ActiveX プロパティを基にして値が設定されます。

縦間隔と横間隔 オブジェクトの上下左右に残すホワイトスペースの幅をピクセル単位で指定します。

ベース ActiveX コントロールを含む URL を指定します。ActiveX コントロールがビジターのシステムにインストールされていない場合、Internet Explorer により ActiveX コントロールがこの場所からダウンロードされます。[ベース] パラメータの指定がなく、ビジターが適切な ActiveX コントロールをインストールしていない場合は、そのブラウザで ActiveX オブジェクトを表示することはできません。

代替イメージ ブラウザが object タグをサポートしていない場合に表示するイメージを指定します。このオプションは、[埋め込み] オプションが選択解除されている場合にだけ選択できます。

データ ロードする ActiveX コントロールのデータファイルを指定します。Shockwave および RealPlayer などの ActiveX コントロールの多くでは、このパラメータは使用されません。

Java アプレットの挿入

Dreamweaver を使用すると、Java アプレットを HTML ドキュメントに挿入できます。Java は、Web ページへの埋め込みが可能な軽量アプリケーション (アプレット) を作成できるプログラミング言語です。

Java アプレットを挿入した後、プロパティインスペクタを使用してパラメータを設定します。プロパティインスペクタで、以下のプロパティを表示するには、Java アプレットを選択します。

1 ドキュメントウィンドウで、アプレットを挿入する位置に挿入ポイントを置き、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [メディア] ボタンをクリックし、[アプレット] アイコン をクリックします。
- [挿入]-[メディア]-[アプレット] を選択します。

2 Java アプレットを含むファイルを選択します。

Java アプレットのプロパティ

最初、プロパティインスペクタには、最も一般的に使用するプロパティが表示されます。右下隅にある縮小の三角形をクリックすると、すべてのプロパティが表示されます。

名前 スクリプト処理の際に使用するアプレットを識別する名前を指定します。プロパティインスペクタの左端にあるラベルの付いていないテキストボックスに名前を入力します。

幅および高さ アプレットの幅と高さをピクセル単位で指定します。

コード アプレットの Java コードを含むファイルを指定します。フォルダアイコンをクリックして、ファイルを参照するか、ファイル名を入力します。

ベース 選択したアプレットを含むフォルダを識別します。アプレットを選択すると、このテキストボックスにデータが自動的に入力されます。

行揃え ページ上のオブジェクトの整列方法を指定します。

代替 ユーザーのブラウザで Java アプレットがサポートされていない場合、または Java が無効になっている場合に表示する代替コンテンツ (通常はイメージ) を指定します。Dreamweaver でテキストを入力すると、アプレットの alt 属性の値としてそのテキストが挿入されます。イメージを選択すると、Dreamweaver によって、img タグが挿入されます (開始と終了の applet タグの間)。

注意： Java が無効になっている Netscape Navigator、およびテキストベースのブラウザである Lynx の両方で表示可能な代替コンテンツを指定するには、イメージを選択してから、コードインスペクタで、alt 属性を img タグに手動で追加します。

縦間隔と横間隔 それぞれアプレットの上部と下部、左と右に残すホワイトスペースの量をピクセル単位で指定します。

パラメータ アプレットに渡す追加のパラメータを入力するためのダイアログボックスが表示されます。アプレットの多くは、特別なパラメータに応答します。

ビヘイビアを使用したメディアの制御

ビヘイビアをページに追加して、さまざまなメディアオブジェクトを開始および停止することができます。

Shockwave および Flash のコントロール Shockwave ムービーまたは Flash SWF ファイルで再生、停止、巻き戻し、フレームへの移動を行います。

サウンドの再生 サウンドを再生します。たとえば、ユーザーがマウスのポインタをリンク上で移動させるたびに、サウンドエフェクトを再生することができます。

プラグインのチェック サイトのビジターが、必要なプラグインをインストールしているか確認できます。ビジターが適切なプラグインを持っているかどうかによって、ビジターを異なる URL へ導きます。この処理は Netscape Navigator プラグインにのみ適用されます。これは、[プラグインのチェック] ビヘイビアでは ActiveX コントロールに対しては確認を行わないためです。

関連項目

336 ページの「[Shockwave および Flash のコントロール] ビヘイビアの適用」

340 ページの「[サウンドの再生] ビヘイビアの適用」

336 ページの「[プラグインのチェック] ビヘイビアの適用」

パラメータを使用したメディアオブジェクトの制御

Shockwave ファイルと Flash SWF ファイル、ActiveX コントロール、Netscape Navigator プラグイン、および Java アプレットを制御するための特別なパラメータの値を入力します。パラメータは、object、embed、applet の各タグと組み合わせて使用します。パラメータによって、オブジェクトのさまざまなタイプ固有の属性が設定されます。たとえば、Flash オブジェクトの場合、object タグに対して quality パラメータ <paramname="quality"value="best"> を使用できます。[パラメータ] ダイアログボックスは、プロパティインスペクタからアクセスできます。使用するオブジェクトに必要なパラメータの詳細については、そのオブジェクトのマニュアルを参照してください。

注意： ActiveX コントロールのデータファイルを識別するために、一般的に使用されているような標準パラメータはありません。どのパラメータを使用するかについては、使用している ActiveX コントロールのマニュアルを参照してください。

パラメータの名前および値を入力します。

1 ドキュメントウィンドウで、パラメータを含めることのできるオブジェクト (Shockwave ムービー、ActiveX コントロール、Netscape Navigator プラグイン、Java アプレットなど) を選択します。

2 次のいずれかの方法で [パラメータ] ダイアログボックスを開きます。

- オブジェクトを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、コンテキストメニューから [パラメータ] を選択します。
- プロパティインスペクタが開いていない場合は開いて、プロパティインスペクタの下半分に表示されている [パラメータ] ボタンをクリックします。ただし、プロパティインスペクタが展開されていることを確認してから実行します。

3 [+] ボタンをクリックし、該当する列にパラメータ名と値を入力します。

パラメータの削除

❖ パラメータを選択して、[–] ボタンを押します。

パラメータの並び替え

❖ パラメータを選択して、上向き矢印と下向き矢印のボタンを使用します。

第 9 章：リンクおよびナビゲーション

サイトの設定が完了したら、ページを相互にリンクします。HTML リンク、ジャンプメニュー、ナビゲーションバー、およびイメージマップを作成することができます。

リンクおよびナビゲーションについて

リンクについて

Web サイトのドキュメントを保存する Dreamweaver サイトを設定し、HTML ページを作成すると、自分のドキュメントから他のドキュメントにリンクできるようになります。

Dreamweaver では、ドキュメント、イメージ、マルチメディアファイル、またはダウンロード可能なプログラムへのリンクをさまざまな方法で作成できます。見出し、リスト、テーブル、絶対位置のエレメント (AP エレメント)、またはフレームなど、ドキュメント内のどこにでも、テキストやイメージのリンクを確立できます。

サイトマップには、ファイルのリンクがビジュアル化されて表示されます。サイトマップでは、サイトへの新規ドキュメントの追加、ドキュメントリンクの作成と削除、依存ファイルへのリンクのチェックが可能です。

リンクの作成および管理は、さまざまな方法で行うことができます。最初にすべてのファイルとページを作成してからリンクを追加する方法もあれば、実際にはまだ作成されていないページやファイルを想定してリンクを作成する方法もあります。リンクを管理するもう 1 つの方法としては、プレースホルダーページを作成します。プレースホルダーページでは、すべてのサイトページを完成させる前に、リンクの追加およびリンクのテストができます。

関連項目

48 ページの「サイトマップの使用」

277 ページの「Dreamweaver でのリンクのテスト」

ドキュメントの場所およびパス

リンクを作成する場合は、リンク元のドキュメントとリンク先のドキュメント間のファイルパスを把握している必要があります。

各 Web ページには、URL (Universal Resource Locator : ユニバーサルリソースロケータ) と呼ばれる固有のアドレスがあります。ただし、ローカルリンク (同じサイト内のドキュメント間で作成されるリンク) を作成する場合は、リンクを作成するドキュメントの URL のすべてを指定する必要はありません。代わりに、現在のドキュメントまたはサイトのルートフォルダからの相対パスを指定します。

リンクパスには、次の 3 種類があります。

- 絶対パス (http://www.adobe.com/support/dreamweaver/contents.html など)。
- ドキュメント相対パス (dreamweaver/contents.html など)。
- サイトルート相対パス (/support/dreamweaver/contents.html など)。

Dreamweaver を使用すると、リンクを作成するためのドキュメントパスの種類を簡単に選択できます。

注意：使用するリンクの種類は、好みに応じて選択できます。サイトの相対パスでもドキュメント相対パスでも、使用しやすいパスで指定することができます。リンクを表示する場合は、パスの入力とは対照的に常に正確なパスを入力する必要があります。

絶対パス

絶対パスは、使用するプロトコル (Web を表す http://) をはじめとして、http://www.adobe.com/support/dreamweaver/contents.html のように、リンクされたドキュメントの完全な URL を表します。

他のサーバー上のドキュメントにリンクする際は、絶対パスを使用します。また、ローカルリンク (同じサイト内のドキュメント間のリンク) でも絶対パスを使用できます。ただし、絶対パスで指定した場合、他のドメイン内にサイトを移動するとローカルの絶対パスによるリンクはすべて機能しなくなります。それに対して、ローカルリンクで相対パスを使用すると、サイト内でファイルを移動した場合でも柔軟に対応できます。

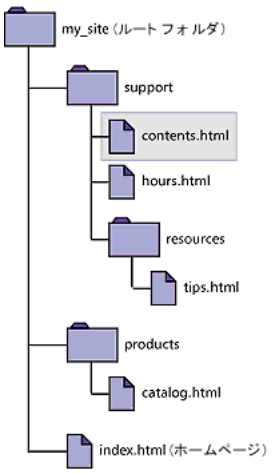
注意：リンクではなくイメージを挿入すると、リモートサーバーにあるイメージ (ローカルハードドライブにはないイメージ) の絶対パスを使用できます。

ドキュメント相対パス

ドキュメント相対パスは、ほとんどの Web サイトのローカルリンクに最も適しています。現在のドキュメントとリンク対象のドキュメントが同じフォルダ内にあり、共にそのまま配置しておく場合は特に便利です。ドキュメント相対パスを使うと、現在のドキュメントからリンクされたドキュメントまでのパスをフォルダ階層を通して指定して、他のフォルダのドキュメントにリンクできます。

ドキュメント相対パスを指定する場合は、現在のドキュメントとリンク対象のドキュメントのパスで異なる部分だけを指定します。両方に共通する絶対パスの部分は省略します。

たとえば、次の構造のサイトがあるとします。



- "contents.html" から "hours.html" (いずれも同じフォルダ内) にリンクするには、相対パス "hours.html" を使用します。
- "tips.html" ("resources" サブフォルダ内) にリンクするには、相対パス "resources/tips.html" を使用します。スラッシュ (/..) は、フォルダ階層で 1 レベル下に移動することを意味します。
- "index.html" (親フォルダ内で、"contents.html" の 1 レベル上にある) にリンクするには、相対パス "../index.html" を使います。スラッシュ (../) は、フォルダ階層で 1 レベル上に移動することを意味します。
- "catalog.html" (親フォルダの、別のサブフォルダにある) にリンクするには、相対パス "../products/catalog.html" を使います。"../" は、親フォルダに向かって上に移動することを意味し、"products/" は、"products" サブフォルダに向かって下に移動することを意味します。

いくつかのまとまったファイルをグループとして移動する場合、たとえばフォルダ全体を移動するような場合は、フォルダ内のすべてのファイル間で相対パスが維持されるため、ファイル間のドキュメント相対リンクを更新する必要はありません。ただし、ドキュメント相対リンクを含む個別のファイルを移動する場合、またはドキュメント相対リンクでリンクされた個別のファイルを移動する場合は、リンクを更新する必要があります。[ファイル] パネルでファイルを移動または名前変更すると、Dreamweaver によってすべての相対リンクが自動的に更新されます。

関連項目

272 ページの「新規リンクの相対パスの設定」

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

サイトルート相対パス

サイトルート相対パスは、サイトのルートフォルダからドキュメントまでのパスを指定します。複数のサーバーを使用する、または複数のサイトを持つサーバーを使用する大規模な Web サイトを構築している場合には、サイトルート相対パスが適しています。ただし、このようなパスの使い方を十分に理解していない場合は、ドキュメント相対パスを使用することもできます。

サイトルート相対パスは、サイトのルートフォルダを意味するスラッシュから始まります。たとえば、"/support/tips.html" はサイトのルートフォルダの "support" サブフォルダにある "tips.html" ファイルへのサイトルート相対パスです。

通常、サイトルート相対パスは、Web サイト上のあるフォルダから他のフォルダに HTML ファイルを頻繁に移動する必要がある場合のリンクの指定に適しています。ルート相対リンクを含むドキュメントを移動する場合、リンクを変更する必要はありません。たとえば、HTML ファイルで依存ファイル (イメージなど) に対してサイトルート相対リンクを使用している場合、HTML ファイルを移動しても、依存ファイルのリンクは有効のままです。

ただし、サイトルート相対リンクでリンクされたドキュメントを移動または名前変更する場合は、そのリンクを更新する必要があります。ドキュメント間の相対パスが変わっていない場合でも、リンクの更新が必要です。たとえば、フォルダを移動すると、そのフォルダ内のファイルへのすべてのサイトルート相対リンクを更新する必要があります。[ファイル] パネルでファイルを移動または名前変更すると、Dreamweaver によってすべての相対リンクが自動的に更新されます。

関連項目

272 ページの「新規リンクの相対パスの設定」

リンク

ファイルとドキュメントのリンク

リンクを作成する前に、絶対パス、ドキュメント相対パス、サイトルート相対パスについて理解しておいてください。ドキュメント中でいくつかの種類のリンクが作成できます。

- グラフィック、ムービー、PDF、またはサウンドファイルのような、他のドキュメントまたはファイルへのリンク。
- ドキュメント内の特定の場所にジャンプするアンカーポイントリンク。
- 受信者のアドレスが既に入力されている、新しい空の電子メールメッセージを作成する電子メールリンク。
- オブジェクトにビヘイビアを割り付けたり、JavaScript コードを実行するリンクを作成することができるヌルリンクまたはスクリプトリンク。

プロパティインスペクタや [ファイルの指定] アイコンを使用して、イメージ、オブジェクト、またはテキストから他のドキュメントやファイルへのリンクを作成できます。

Dreamweaver では、ドキュメント相対パスを使用してサイトの他のページへのリンクが作成されます。Dreamweaver では、サイトルート相対パスを使用して新しいリンクを作成することもできます。

重要：ドキュメント相対パスは始点を定義しないと有効にならないので、必ずドキュメント相対パスを作成する前に新規ファイルを保存してください。ファイルを保存しないでドキュメント相対パスを作成すると、Dreamweaver ではファイルが保存されるまで "file://" で始まる絶対パスが一時的に使用されます。ファイルを保存すると、Dreamweaver では "file://" パスが相対パスに変換されます。

リンクの作成のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0149_jp を参照してください。

関連項目

267 ページの「ドキュメントの場所およびパス」

リンクへの JavaScript ビヘイビアの割り当て

ドキュメント内のすべてのリンクに、ビヘイビアを割り当てることができます。リンクされたエレメントをドキュメントに挿入する場合、次のビヘイビアを使用できます。

ステータスバーテキストを設定 メッセージのテキストを指定し、ブラウザウィンドウの左下のステータスバーに表示することができます。たとえば、このビヘイビアを使用すると、リンクに関連付けられている URL を表示する代わりに、ステータスバーにリンク先を記述できます。

ブラウザウィンドウを開く 新規ウィンドウで URL を開きます。名前、サイズ、属性 (サイズ変更可能かどうか、メニューバーがあるかなど) など、新規ウィンドウのプロパティを指定できます。

ジャンプメニュー ジャンプメニューを編集します。メニューリストの変更、他のリンクされたファイルの指定、またはリンクされたドキュメントを開くブラウザ位置の変更が可能です。

ナビゲーションバーイメージの設定 ナビゲーションバーのイメージの表示方法をカスタマイズします。たとえば、このビヘイビアを使用すると、ナビゲーションバー上にポインタがあるとき、ナビゲーションバーまたはページに一定のイメージが表示されるようにすることができます。

関連項目

334 ページの「Dreamweaver に組み込まれているビヘイビアの適用」

プロパティインスペクタによるドキュメントへのリンク

プロパティインスペクタのフォルダアイコンや [リンク] ボックスを使用して、イメージ、オブジェクト、またはテキストから他のドキュメントやファイルにリンクを作成できます。

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューでテキストまたはイメージを選択します。

2 プロパティインスペクタを開き ([ウィンドウ]-[プロパティ])、次のいずれかの操作を行います。

- [リンク] ボックスの右のフォルダアイコンをクリックし、ファイルを参照して選択します。

リンクされたドキュメントへのパスが、[URL] ボックスに表示されます。[HTML ファイルの選択] ダイアログボックスの [相対位置] ポップアップメニューを使用して、ドキュメント相対パスとルート相対パスのいずれにするかを指定し、[選択] をクリックします。選択するパスの種類は、現在のリンクのみに適用されます。サイトの [相対位置] ボックスの初期設定は変更できます。

- [リンク] ボックスにドキュメントへのパスおよびファイル名を入力します。

ローカルサイトのドキュメントにリンクする場合、ドキュメント相対パスまたはサイトルート相対パスを入力します。サイトの外のドキュメントにリンクする場合、"http://" のようなプロトコルの種類を含む絶対パスを入力します。この方法を使用すると、まだ作成されていないファイルへのリンクを入力できます。

3 [ターゲット] ポップアップメニューから、ドキュメントを開く場所を選択します。

- _blank は、リンクされたドキュメントを新規のブラウザウィンドウにロードします。
- _parent は、リンクされたドキュメントを、リンクが含まれている親フレームセットまたはフレームの親ウィンドウにロードします。リンクを含むフレームがネストされていない場合は、リンクされているドキュメントは、ブラウザウィンドウ全体にロードされます。
- _self は、リンクされたドキュメントをリンクと同じフレームまたはウィンドウにロードします。このターゲットは初期設定なので、通常は指定する必要はありません。
- _top は、リンクされたドキュメントをブラウザウィンドウ全体にロードして、すべてのフレームを削除します。

ページ内のすべてのリンクのターゲットが同じである場合は、[挿入]-[HTML]-[ヘッドタグ]-[ベース] を選択してターゲット情報を指定し、ターゲットを一度に選択できます。ターゲットフレームの詳細については、203 ページの「リンクを持つフレームコンテンツの制御」を参照してください。

関連項目

267 ページの「ドキュメントの場所およびパス」

[ファイルの指定] アイコンによるドキュメントのリンク

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューでテキストまたはイメージを選択します。

2 次のいずれかの方法でリンクを作成します。

- プロパティインスペクタの [リンク] ボックスの右にある [ファイルの指定] アイコン (ターゲットアイコン) を、他の開いているドキュメント、開いているドキュメントにある可視アンカーポイント、または [ファイル] パネルにあるドキュメントにドラッグします。
- Shift キーを押しながら一定の範囲を選択し、他の開いているドキュメント、開いているドキュメント内の可視のアンカーポイント、または [ファイル] パネルのドキュメントにドラッグします。

注意 : 開いているドキュメントにリンクできるのは、ドキュメントがドキュメントウィンドウで最大化されていない場合のみです。ドキュメントを並べて表示するには、[ウィンドウ]-[重ねて表示] または [ウィンドウ]-[並べて表示] を選択します。選択しているときに、開いているドキュメントをポイントすると、そのドキュメントは画面の前面に移動します。

サイトマップによるドキュメントのリンク

サイトマップで作成するリンクは、選択した HTML ファイルの下部に表示されるので、サイト全体にリンクをすばやく作成することができます。

サイトマップと [ファイルの指定] アイコンによるドキュメントのリンク

この方法は、サイトを構築し、素早くそのサイト間のリンクを作成する場合に適しています。

1 [ファイル] パネルで、ビューのポップアップメニューから [マップビュー] を選択します。

2 サイトマップで HTML ファイルを選択します。

3 選択したファイルの [ファイルの指定] アイコン (ターゲットアイコン) をドラッグして、サイトマップ内の他のファイルまたはサイトファイルビューのローカルファイルにドラッグします。

リンクされたファイルの名前が付いたリンクは、選択した HTML ファイルの下部に置かれます。

サイトマップでのドキュメントのリンク

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- Windows エクスプローラまたは Macintosh Finder からページをサイトマップ内のページにドラッグします。
- サイトマップで HTML ページを選択し、コンテキストメニューから [既存ファイルへリンク] を選択します。
- サイトマップで HTML ページを選択し、コンテキストメニューから [新規ファイルへリンク] を選択します。

[ハイパーリンク] コマンドによるリンクの追加

[ハイパーリンク] コマンドを使用すると、イメージ、オブジェクト、または別のドキュメントやファイルにテキストリンクを作成できます。

1 ドキュメント内のリンクを表示する箇所に挿入ポイントを置きます。

2 以下のいずれかの操作を実行し、[ハイパーリンクの挿入] ダイアログボックスを表示します。

- [挿入]-[ハイパーリンク] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリを選択し、[ハイパーリンク] ボタンをクリックします。

3 リンクのテキストを入力し、[リンク] テキストボックスに、リンク先のファイル名を入力します (またはフォルダアイコンをクリックして、ファイルを指定します)。

4 [ターゲット] ポップアップメニューから、ファイルを開くウィンドウを選択するか、またはこのウィンドウ名を入力します。

現在のドキュメントで指定したすべてのフレームの名前がポップアップリストに表示されます。存在しないフレームを指定した場合、リンクされたページは、指定した名前の新規ウィンドウで開きます。以下のターゲット名を選ぶこともできます。

- _blank は、リンクされたファイルを新規のブラウザウィンドウにロードします。
- _parent は、リンクされたファイルを、リンクが含まれている親フレームセットまたはフレームのウィンドウにロードします。リンクを含むフレームがネストされていない場合は、リンクされているファイルは、ブラウザウィンドウ全体にロードします。
- _self は、リンクされたファイルを、リンクと同じフレームまたはウィンドウにロードします。このターゲットは初期設定なので、通常は指定する必要はありません。
- _top は、リンクされたファイルをブラウザウィンドウ全体にロードして、すべてのフレームを削除します。

5 [タブインデックス] ボックスに、タブ順序の番号を入力します。

6 [タイトル] ボックスに、リンクのタイトルを入力します。

7 [アクセスキー] ボックスに、ブラウザでリンクを選択する操作を行うキー (1 文字) を割り当てます。

8 [OK] をクリックします。

新規リンクの相対パスの設定

初期設定では、Dreamweaver はドキュメント相対パスを使用して、サイトの他のページへのリンクを作成します。サイトルート相対パスを使用するには、サーバー上のドキュメントルートと同じ機能を持つローカルルートフォルダを選択して、Dreamweaver でローカルフォルダを定義します。Dreamweaver はこのフォルダを使って、ファイルへのサイトルート相対パスを決定します。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [サイトの管理] ダイアログボックスで、リストにあるサイトをダブルクリックします。

3 [サイト定義] ダイアログボックスで詳細設定が表示されていない場合は、[詳細設定] タブをクリックします。

[サイト定義] ダイアログボックスの [詳細設定] タブに [ローカル情報] カテゴリのオプションが表示されます。

4 [ドキュメント] または [サイトルート] オプションを選択して、新しいリンクの相対パスを設定します。

この設定を変更しても、[OK] をクリックした後に既存のリンクのパスは変換されません。この設定は、Dreamweaver で作成した新規リンクにだけ適用されます。

注意：テストサーバーを指定するか、[編集]-[環境設定]-[ブラウザでプレビュー] で [一時ファイルを使用してプレビュー] オプションを選択していない限り、ローカルブラウザでドキュメントをプレビューしても、サイトのルート相対パスを使ってリンクされたコンテンツは表示されません。これは、サーバーと違って、ブラウザではサイトのルートを認識できないためです。サイトルート相対パスでリンクされているコンテンツをすぐにプレビューする場合は、リモートサーバーにファイルを置き、[ファイル]-[ブラウザでプレビュー] を選択します。

5 サイトルート相対パスの場合、[HTTP アドレス] ボックスに Web サイトの URL を入力します。

Dreamweaver はこのアドレスを使用して、サイトルート相対リンクが、サイトルートが異なることがあるリモートサーバー上で動作するかどうかを確認します。たとえば、ハードディスクの C:¥Sales¥images¥ フォルダ (Sales はローカルルートフォルダ) にあるイメージファイルにリンクし、完了したサイトの URL が http://www.mysite.com/SalesApp/ (SalesApp はリモートルートフォルダ) である場合は、[HTTP] ボックスに URL を入力すると、リモートサーバー上でリンクされたファイルへのパスが /SalesApp/images/ となります。

注意：以前のリリースの Dreamweaver では、正しいリモートルートフォルダを追加できず、これにより実行時にページで障害が発生していました。

6 [OK] をクリックします。

新しいパス設定は現在のサイトのみに適用されます。

関連項目

267 ページの「ドキュメントの場所およびパス」

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

ドキュメント内の特定の場所へのリンク

プロパティインスペクタを使用して、最初にアンカーポイントを作成し、ドキュメント内の特定のセクションにリンクできます。アンカーポイントを使用してドキュメント内のマーカーを設定できます。アンカーポイントは、特定のトピック、またはドキュメントの先頭に置かれる場合がほとんどです。これらのアンカーポイントへのリンクを作成すると、ビジターは特定の位置に素早く移動できます。

アンカーポイントを作成するには、2 つの処理が必要です。つまり、まずアンカーポイントを作成し、その後そのアンカーポイントにリンクを作成します。

注意：アンカーポイントを絶対位置のエレメント (AP エレメント) に配置することはできません。

アンカーポイントの作成

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、アンカーポイントを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[アンカーポイント] を選択します。
- Ctrl+Alt+A キー (Windows) または Command+Option+A キー (Macintosh) を押します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリを選択し、[アンカーポイント] ボタンをクリックします。

3 [アンカーポイント] ボックスに、アンカーの名前を入力し、[OK] をクリックします。アンカーポイントの名前にはスペースを使用できません。

挿入ポイントにアンカーマーカーが表示されます。

注意：アンカーマーカーが表示されない場合は、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。

アンカーポイントへのリンク

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、リンク元にするテキストまたはイメージを選択します。

2 プロパティインスペクタの [リンク] ボックスで、シャープ記号 (#) とアンカーの名前を入力します。たとえば、現在のドキュメント内のアンカーポイント "top" にリンクするには、「**#top.**」と入力します。同じフォルダ内の別のドキュメントにあるアンカーポイント "top" にリンクするには、「**filename.html#top**」と入力します。

注意：アンカーポイントの名前では、大文字と小文字は区別されます。

[ファイルの指定] によるアンカーポイントへのリンク

1 アンカーポイントを含むドキュメントを開きます。

注意：アンカーが表示されない場合は、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択してアンカーを表示します。

2 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、リンク元にするテキストまたはイメージを選択します。他の開いているドキュメントを使用する場合は、そのドキュメントに切り替える必要があります。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- プロパティインスペクタの [リンク] ボックスの右にある [ファイルの指定] アイコン (ターゲットアイコン) をクリックして、リンク先にする、同じドキュメント内のアンカーポイントまたは別の開いているドキュメント内のアンカーポイントにドラッグします。
- ドキュメントウィンドウで、Shift キーを押しながら選択したテキストまたはイメージを、リンク先にするアンカーポイント (同じドキュメント内のアンカーポイントまたは開いている別のドキュメント内のアンカーポイント) にドラッグします。

電子メールリンクの作成

電子メールリンクをクリックすると、ユーザーのブラウザに関連付けられたメールプログラムを使用して、空の新規メッセージウィンドウが開きます。電子メールメッセージウィンドウの [宛先] ボックスには、電子メールリンクで指定されたアドレスが自動的に入力されます。

[電子メールの挿入] コマンドによる電子メールリンクの作成

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、電子メールリンクを表示する場所に挿入ポイントを置くか、電子メールリンクとして表示するテキストまたはイメージを選択します。

2 以下のいずれかの操作を行い、リンクを挿入します。

- [挿入]-[電子メールリンク] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリを選択し、[電子メールリンク] ボタンをクリックします。

3 テキストボックスで、電子メールの本文を入力または編集します。

4 [電子メール] テキストボックスに電子メールアドレスを入力し、[OK] をクリックします。

プロパティインスペクタによる電子メールリンクの作成

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューでテキストまたはイメージを選択します。

2 プロパティインスペクタの [リンク] ボックスに「**mailto:** 」と入力し、その後に続けて電子メールアドレスを入力します。

コロンと電子メールアドレスの間には、スペースを入力しないでください。

Null (ヌル) およびスクリプトリンクの作成

ヌルリンクとは、指定されていないリンクのことです。ヌルリンクを使って、ページ上のオブジェクトまたはテキストにビヘイビアを添付します。たとえば、ヌルリンクにビヘイビアを関連付けると、リンクにポインタを置いたときに、イメージの切り替えまたは絶対位置のエレメント (AP エレメント) の表示が行われます。

スクリプトリンクは、JavaScript コードを実行するか、JavaScript 関数を呼び出します。現在の Web ページから離れずに、ユーザーに項目の詳細情報を提供するのに役立ちます。スクリプトリンクは、ユーザーが特定の項目をクリックしたときに、計算、フォームの確認、その他の処理タスクを実行するためにも使用できます。

関連項目

333 ページの「ビヘイビアの適用」

ヌルリンクの作成

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、テキスト、イメージ、またはオブジェクトを選択します。

2 プロパティインスペクタの [リンク] ボックスに、「**javascript:;**」(**javascript** の後にコロンとセミコロンを続けます) と入力します。

スクリプトリンクの作成

1 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、テキスト、イメージ、またはオブジェクトを選択します。

2 プロパティインスペクタの [リンク] ボックスに「**javascript:**」と入力し、その後に続けて JavaScript コードまたは関数呼び出しを入力します。コロンと JavaScript コードまたは関数呼び出しとの間には、スペースを入力しないでください。

リンクの自動更新

Dreamweaver では、ローカルサイト内でドキュメントを移動する、または名前を変更するときに、ドキュメントのリンクを更新することができます。この機能は、サイト全体 (またはサイトのうちの自己完結しているセクション全体) がローカルディスクに保存されている場合に最も効果的です。Dreamweaver では、リモートフォルダ内のファイルは、リモートサーバーにローカルファイルを送信するかチェックインするまで更新されません。

更新処理の速度を高めるには、Dreamweaver で、ローカルフォルダのすべてのリンク情報を保存するキャッシュファイルを作成します。キャッシュファイルは、ローカルサイトにあるファイルへのリンクを追加、変更、削除するたびに自動的に更新されます。

リンクの自動更新の有効化

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 [環境設定] ダイアログボックスで、左側の [カテゴリ] リストから [一般] を選択します。

3 [一般] の [ドキュメントオプション] セクションで、[ファイルを移動するときにリンクを更新する] ポップアップメニューから、次のいずれかのオプションを選択します。

常に許可 選択したドキュメントの移動や名前変更を行ったときに、そのドキュメントに対するすべてのリンクが自動的に更新されます。

調整しない 選択したドキュメントの移動や名前変更を行っても、そのドキュメントに対するリンクの自動更新は実行されません。

警告を表示 更新の対象になるすべてのファイルが一覧表示されたダイアログボックスが表示されます。これらのファイルのリンクを更新するには [更新] をクリックします。ファイルを変更しない場合は [更新しない] をクリックします。

4 [OK] をクリックします。

サイトのキャッシュファイルの作成

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイトを選択して、[編集] ボタンをクリックします。

3 [詳細設定] タブをクリックして、[サイト定義] ダイアログボックスの詳細設定カテゴリを表示します。

4 左の [カテゴリ] リストで [ローカル情報] を選択します。

5 [ローカル情報] カテゴリで、[キャッシュを使用可能にする] を選択します。

Dreamweaver を起動してから、初めてローカルフォルダのファイルへのリンクを変更または削除するときに、Dreamweaver には、キャッシュをロードするように促すメッセージが表示されます。[はい] をクリックすると、Dreamweaver ではキャッシュがロードされ、変更を行ったファイルへのリンクがすべて更新されます。[いいえ] をクリックすると、Dreamweaver では変更はキャッシュに記録されますが、キャッシュはロードされず、リンクは更新されません。

大きいサイトの場合は、キャッシュのロードに数分かかることがあります。Dreamweaver では、ローカルサイト上のファイルのタイムスタンプとキャッシュに記録されたタイムスタンプを比較して、キャッシュが最新のものかどうかを確認する必要があるからです。Dreamweaver の外でファイルを変更していない場合は、[停止] ボタンをクリックしてかまいません。

キャッシュの再作成

❖ [ファイル] パネルで、[サイト]-[詳細]-[サイトキャッシュの再作成] を選択します。

サイトマップでのリンクの管理

リンクを追加、変更、または削除すると、サイトマップのサイトの構造を変更できます。Dreamweaver ではサイトマップが自動更新され、変更がサイトに反映されます。

関連項目

48 ページの「サイトのビジュアルマップの操作」

リンクの変更

1 サイトマップで、変更するリンクのリンク先ページを選択します。つまり、現在このページをリンク先としているドキュメントが別のページを指すようにします。次に、右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、コンテキストメニューから [リンクの変更] を選択します。

2 リンク先にするファイルを参照するか、またはこのファイルの URL を入力します。

3 [OK] をクリックします。

リンクの削除

1 サイトマップでページを選択します。

2 右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [リンクの削除] を選択します。

リンクを削除すると、ファイルそのものは削除されず、リンクの削除先ファイルを指しているリンクがページの HTML ソースから削除されます。

リンクのソースを開く

1 サイトマップでファイルを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [サイト]-[リンクのソースを開く] (Windows) または [サイト]-[サイトマップ表示]-[リンクのソースを開く] (Macintosh) を選択します。
- 右クリック (Windows) するか、または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [リンクのソースを開く] を選択します。

ドキュメントウィンドウにリンクがハイライト表示され、プロパティインスペクタとリンクを含むソースファイルが開きます。

サイト全体のリンクの変更

ファイルを移動したり名前を変更したときに、Dreamweaver によって自動的にリンクが更新されるようにするだけでなく、電子メール、FTP、ヌル、スクリプトリンクを含むすべてのリンクを手動で他の場所に設定することができます。

この方法は、他のファイルのリンク先になっているファイルを削除する場合に便利ですが、それ以外の目的にも利用できます。たとえば、サイト全体で " 今月の映画 " という語句を /movies/july.html にリンクするとします。8 月 1 日になれば、このリンクを変更して /movies/august.html を指すようにすることになります。

1 [ファイル] パネルのローカルビューで、ファイルを選択します。

注意：電子メール、FTP、ヌル、またはスクリプトリンクを変更する場合、ファイルを選択する必要はありません。

2 [サイト]-[サイト全体のリンクの変更] を選択します。

3 [サイト全体のリンクの変更] ダイアログボックスで、次のオプションを入力します。

変更するリンク先 フォルダアイコンをクリックし、リンクを解除するファイルを参照して選択します。電子メール、FTP、ヌル、またはスクリプトリンクを変更する場合、変更するリンクのテキスト全部を入力します。

変更後のリンク先 フォルダアイコンをクリックし、リンク先にする新しいファイルを参照して選択します。電子メール、FTP、ヌル、またはスクリプトリンクを変更する場合、置換するリンクのテキスト全部を入力します。

4 [OK] をクリックします。

Dreamweaver では、選択したファイルにリンクしているすべてのドキュメントについて、それぞれのドキュメントで使用されていたパス形式を使用して、リンク先が新しいファイルに指定されるように更新します。たとえば、今までドキュメント相対パスが使用されている場合は、新しいリンク先へのパスもドキュメント相対パスが使用されます。

リンクをサイト全体で変更した後、選択ファイルは単独ファイル (リンク元のファイルがローカルディスク上に存在しないファイル) になります。このファイルを削除しても、Dreamweaver のローカルサイトのリンクは破損しません。

重要：これらの変更はローカルで行われているので、リモートフォルダの対応する単独ファイルを手動で削除して、リンクを変更したすべてのファイルを配置またはチェックインする必要があります。この処理をしないと、変更内容がサイトに反映されません。

Dreamweaver でのリンクのテスト

Dreamweaver 内ではリンクはアクティブにならないので、ドキュメントウィンドウ内でリンクをクリックしても、リンク先のドキュメントを開くことはできません。

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- リンクを選択して、[修正]-[リンクページを開く] を選択します。
- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、リンクをダブルクリックします。

注意：リンクされたドキュメントは、ローカルディスクにある必要があります。

関連項目

282 ページの「破損リンク、外部リンク、および孤立リンクの検索」

283 ページの「破損リンクの修正」

ジャンプメニュー

ジャンプメニューについて

ジャンプメニューとは、ドキュメント内に表示されるポップアップメニューで、サイトのビジターが参照でき、ドキュメントまたはファイルへのリンクが一覧表示されます。Web サイト内のドキュメントへのリンク、他の Web サイト上のドキュメントへのリンク、電子メールリンク、グラフィックへのリンク、さらに、ブラウザで開くことが可能なあらゆる種類のファイルへのリンクを作成することができます。

ジャンプメニューの各オプションは、URL に関連付けられます。オプションを選択したユーザーは、関連付けられた URL にリダイレクト (" 移動 ") されます。ジャンプメニューは [ジャンプメニュー] フォームオブジェクトの中に挿入されます。

ジャンプメニューには、次の 3 つのコンポーネントを含めることができます。

- (オプション) メニュー項目のカテゴリの説明、または " 選択してください :" などの指示を表示するメニュー選択プロンプト。
- (必須) リンクされたメニュー項目のリスト。オプションが選択されると、リンクされたドキュメントまたはファイルが開きます。
- (オプション) [移動] ボタン。

関連項目

339 ページの「[ジャンプメニュー] ビヘイビアの適用」

339 ページの「[ジャンプメニュー移動] ビヘイビアの適用」

ジャンプメニューの挿入

1 ドキュメントを開き、ドキュメントウィンドウに挿入ポイントを配置します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[フォーム]-[ジャンプメニュー] を選択します。
- [挿入] バーの [フォーム] カテゴリを選択し、[ジャンプメニュー] ボタンをクリックします。

3 [ジャンプメニューの挿入] ダイアログボックスで入力を完了したら、[OK] をクリックします。これらのオプションは、次のとおりです。

[+] ボタンと [-] ボタン メニュー項目を挿入するには [+] ボタンをクリックし、さらにメニュー項目を追加するには [+] ボタンをもう一度クリックします。メニュー項目を削除するには、メニュー項目を選択して [-] ボタンをクリックします。

矢印ボタン メニュー項目を選択し、上または下の矢印ボタンをクリックして上または下に移動します。

テキスト メニュー項目の名前を入力します。メニューに選択プロンプト (" 選択してください " など) を含める場合は、1 番目のメニュー項目としてここに入力してください。この場合、下部にある [URL の変更後、最初の項目を選択] オプションも選択する必要があります。

選択時に URL に移動 目的のファイルを参照するか、このファイルのパスを入力します。

URL を開く場所 同じウィンドウまたはフレームのいずれでファイルを開くかを指定します。目的のフレームがメニューに表示されない場合、[ジャンプメニューの挿入] ダイアログボックスを閉じて、フレームに名前を付けます。

メニューの後に移動ボタンを挿入 メニュー選択プロンプトの代わりに移動ボタンを挿入する場合に選択します。

URL の変更後、最初の項目を選択 1 番目のメニュー項目としてメニュー選択プロンプト (" 選択してください ") を挿入する場合に選択します。

関連項目

200 ページの「フレームのプロパティおよび属性の表示と設定」

ジャンプメニュー項目の編集

メニュー項目の順序の変更や、メニュー項目のリンク先ファイルの変更、さらにメニュー項目の追加、削除、名前変更が可能です。

リンクされたファイルを開く場所を変更したり、メニュー選択プロンプトを追加または変更するには、[ビヘイビア] パネルの [ジャンプメニュー] ビヘイビアを適用する必要があります。

1 プロパティインスペクタが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択して開きます。

2 ドキュメントウィンドウのデザインビューで、ジャンプメニューオブジェクトをクリックして選択します。

3 プロパティインスペクタで [リスト値] ボタンをクリックします。

4 [リスト値] ダイアログボックスで、メニュー項目を変更し、[OK] をクリックします。

関連項目

339 ページの「[ジャンプメニュー] ビヘイビアの適用」

ジャンプメニューのトラブルシューティング

ジャンプメニュー項目を選択した後は、そのページに戻っても、または [URL を開く場所] ボックスでフレームを指定しても、同じ項目を選択し直すことはできません。この問題に対処する方法は、2 とおりあります。

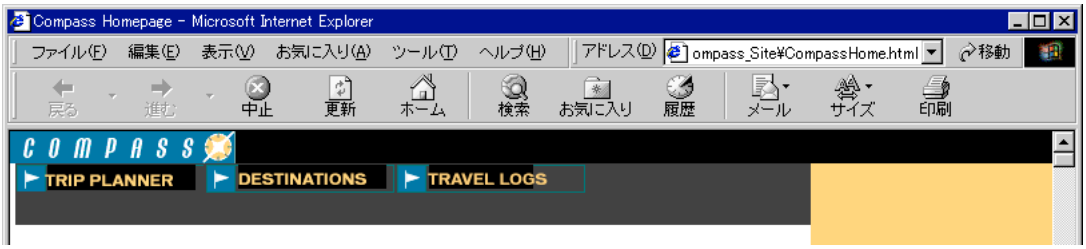
- カテゴリまたは " 選択してください " などの指示を表示するメニュー選択プロンプトを使用します。メニュー選択プロンプトは、メニュー選択ごとに自動的に再選択されます。
- ユーザーが現在選択しているリンクに再度アクセスできる [移動] ボタンを使います。ジャンプメニューで [移動] ボタンを使用する場合、メニューの選択内容に関連付けられた URL にユーザーをジャンプさせるメカニズムは、[移動] ボタンだけになります。ジャンプメニューでメニュー項目を選択しても、ユーザーが別のページまたはフレームに自動的にリダイレクトされることはなくなります。

注意 : [ジャンプメニューの挿入] ダイアログボックスで 1 つのジャンプメニューごとに、どちらか 1 つのオプションを選択してください。これは、これらのオプションがジャンプメニュー全体に適用されるためです。

ナビゲーションバー

ナビゲーションバーについて

ナビゲーションバーは、イメージまたはイメージのセットで構成され、ユーザーのアクションに応じて表示が変化します。ナビゲーションバーを使用すると、サイトのページとファイル間を簡単に移動できます。



ナビゲーションバーには、次の 4 つの状態があります。

- [アップ] は、エレメントをまだクリックしていない場合や操作していない場合に表示されるイメージです。
- [オーバー] は、アップイメージにポインタを置いたときに表示されるイメージです。たとえばエレメントが明るくなるなど、エレメントの見た目が変わるため、ユーザーはエレメントの操作が可能であることがわかります。
- [ダウン] は、エレメントをクリックしたときに表示されるイメージです。たとえば、エレメントをクリックすると、ナビゲーションバーは表示されたまま、新しいページがロードされます。ただし、選択済みであることがわかるように、クリックしたエレメントの表示は暗くなります。
- [ダウン中オーバー] は、エレメントをクリックした後でダウンイメージの上にポインタを移動すると表示されるイメージです。たとえば、エレメントは淡色表示されます。この状態の場合、サイトの現在の場所にいる限り、このエレメントをもう一度クリックすることはできないということが視覚的にわかります。

ナビゲーションバーイメージに常にこの 4 つの状態を設定する必要はありません。たとえば、[アップ] と [ダウン] だけを設定することもできます。

ドキュメントにナビゲーションバーを作成した後は、[ナビゲーションバーの修正] コマンドを使ってナビゲーションバーへのイメージの追加や削除ができます。このコマンドを使用して、イメージの変更、エレメントをクリックしたときに開くファイルの変更、ファイルを開く他のウィンドウやフレームの選択、イメージの位置の変更を行います。

ナビゲーションバーの挿入

[ナビゲーションバーの挿入] コマンドを使用する前に、各ナビゲーションエレメントの表示イメージを作成する必要があります。クリックすると別のページに移動できるので、ナビゲーションバーエレメントをボタンとして捉えることもできます。

ナビゲーションバーを作成し、それをサイト内の他のページにコピーしてフレームと共に使用します。ページビヘイビアを編集すると、ページがアクセスされたときにさまざまな状態を表示することができます。

1 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[イメージオブジェクト]-[ナビゲーションバー] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリを選択し、[イメージ] ボタンをクリックして、[ナビゲーションバーの挿入] を選択します。

2 [ナビゲーションバーの挿入] ダイアログボックスで次のオプションを指定し、[OK] をクリックします。これらのオプションは、次のとおりです。

[+] ボタンと [-] ボタン エレメントを挿入するには [+] ボタンをクリックし、さらにエレメントを追加するには [+] ボタンをもう一度クリックします。エレメントを削除するには、エレメントを選択して [-] ボタンをクリックします。

エレメント名 ナビゲーションバーエレメントの名前 (たとえば **Home**) を入力します。各エレメントは、4 つのイメージ状態を持つボタンに対応しています。そのエレメント名は [ナビゲーションバーエレメント] リストに表示されます。矢印ボタンを使って、ナビゲーションバーでエレメントを配置します。

アップイメージ、オーバーイメージ、ダウンイメージ、ダウン中オーバーイメージ 4 つの状態に対応させるイメージを参照して選択します。アップイメージの指定だけが必須で、他の状態のイメージの指定は省略可能です。

代替テキスト エレメント名としてわかりやすい名前を入力します。テキスト専用ブラウザまたはイメージを手動でダウンロードするように設定されたブラウザでは、代替テキストは、イメージの代わりに表示されます。スクリーンリーダーは代替テキストを読み上げます。また、一部のブラウザでは、ユーザーがナビゲーションバーエレメント上にマウスを置いたときに代替テキストが表示されます。

クリック時に URL へ移動 [参照] ボタンをクリックして、開くリンクファイルを指定し、同じウィンドウまたはフレームのいずれで開くかを指定します。目的のフレームがポップアップメニューに表示されない場合、[ナビゲーションバーの挿入] ダイアログボックスを閉じて、フレームに名前を付けます。

イメージのプリロード ページをダウンロードするときにイメージもダウンロードする場合に選択します。これにより、ロールオーバーイメージの上にポインタを置いたときの表示の遅れを防止できます。

最初にダウンイメージを表示 初期設定のアップ状態ではなく、最初にダウン状態でエレメントを表示する場合に選択します。たとえば、ホームページを最初にロードするときに、ナビゲーションバー上の Home エレメントがダウン状態になります。このオプションをエレメントに適用すると、[ナビゲーションバーエレメント] リストのエレメントの後にアスタリスク (*) が表示されます。

挿入 エレメントの挿入方向を縦または横のいずれかに指定します。

テーブルを使用 テーブルとして挿入するエレメントを選択します。

関連項目

200 ページの「フレームのプロパティおよび属性の表示と設定」

ナビゲーションバーの修正

1 アクティブなページでナビゲーションバーを選択します。

2 [修正]-[ナビゲーションバー] を選択します。

3 [ナビゲーションバーエレメント] リストから編集したいエレメントを選択します。

4 必要に応じて変更し、[OK] をクリックします。

イメージマップ

イメージマップについて

イメージマップとは、ホットスポットと呼ばれる領域に分割されたイメージのことです。ホットスポットをクリックすると、新しいファイルが開くなどのアクションが実行されます。

クライアントサイドのイメージマップでは、ハイパーテキストリンク情報は HTML ドキュメントに保存されます。これは、ハイパーテキストリンク情報が別個のマップファイルに保存されるサーバーサイドのイメージマップの場合とは異なります。サイトビジターがイメージのホットスポットをクリックすると、関連付けられた URL が直接サーバーに送られます。クライアントサイドのイメージマップは、サーバーがクリック箇所を解釈しなくてもすむので、サーバーサイドのイメージマップよりも高速に処理されます。クライアントサイドのイメージマップは、Netscape Navigator 2.0 以降、NCSA Mosaic 2.1 および 3.0、Microsoft Internet Explorer のすべてのバージョンでサポートされています。

Dreamweaver では、既存のドキュメント内のサーバーサイドのイメージマップへの参照は変更されません。したがって、同じドキュメント内で、クライアントサイドのイメージマップとサーバーサイドのイメージマップの両方を使用することができます。両タイプのイメージマップをサポートするブラウザでは、クライアントサイドのイメージマップが優先的に使用されます。サーバーサイドのイメージマップをドキュメントに組み込むには、適切な HTML コードを記述する必要があります。

クライアントサイドのイメージマップの挿入

クライアントサイドのイメージマップを挿入するときは、ホットスポット領域を作成してから、ホットスポット領域をクリックしたときに開くリンクを定義します。

注意：ホットスポット領域は複数作成できますが、それらは同じイメージマップの一部です。

1 ドキュメントウィンドウで、イメージを選択します。

2 プロパティインスペクタの右下隅にある縮小の三角形をクリックして、すべてのプロパティを表示します。

3 [マップ] ボックスに、イメージマップの一意な名前を入力します。1 つのドキュメント内で複数のイメージマップを使っている場合、それぞれのマップに異なる名前を付けてください。

4 イメージマップ領域を定義するには、以下のいずれかの操作を行います。

- 円状ツールを選択し、ポインタをイメージ上にドラッグし、円形のホットスポットを作成します。
- 長方形ツールを選択し、ポインタをイメージ上にドラッグして、長方形のホットスポットを作成します。
- 多角形ツールを選択して、各角を 1 回クリックして、不規則な形状のホットスポットを定義します。矢印ツールをクリックし、形状を確定します。

ホットスポットを作成すると、ホットスポットのプロパティインスペクタが表示されます。

5 ホットスポットのプロパティインスペクタの [リンク] ボックスで、フォルダのアイコンをクリックして、ホットスポットがクリックされたときに開くファイルを選択するか、またはそのパスを入力します。

6 [ターゲット] ポップアップメニューから、ファイルを開くウィンドウを選択するか、またはこのウィンドウ名を入力します。

現在のドキュメントで指定したすべてのフレームの名前がポップアップリストに表示されます。存在しないフレームを指定した場合、リンクされたページは、指定した名前の新規ウィンドウにロードされます。以下のターゲット名を選ぶこともできます。

- _blank は、リンクされたファイルを新規のブラウザウィンドウにロードします。
- _parent は、リンクされたファイルを、リンクが含まれている親フレームセットまたはフレームのウィンドウにロードします。リンクを含むフレームがネストされていない場合は、リンクされているファイルは、ブラウザウィンドウ全体にロードします。
- _self は、リンクされたファイルを、リンクと同じフレームまたはウィンドウにロードします。このターゲットは初期設定なので、通常は指定する必要はありません。
- _top は、リンクされたファイルをブラウザウィンドウ全体にロードして、すべてのフレームを削除します。

注意：このターゲットオプションは、選択したホットスポットにリンクが含まれていない場合は使用できません。

7 [代替] ボックスに、テキスト専用ブラウザ、またはイメージを手動でダウンロードするよう設定されたブラウザに表示する代替テキストを入力します。ブラウザによっては、ユーザーがマウスポインタをホットスポット上に置いたときに、このテキストがツールヒントとして表示されます。

8 イメージマップに追加のホットスポットを定義するには、手順 4 ～ 7 を繰り返します。

9 イメージのマッピングを終了したら、ドキュメントの空白の領域をクリックし、プロパティインスペクタの表示内容を切り替えます。

イメージマップのホットスポットの修正

イメージマップ内に作成したホットスポットは簡単に編集できます。ホットスポット領域の移動、ホットスポットのサイズ変更や絶対位置のエレメント (AP エレメント) の前面 / 背面への移動などを行うことができます。

ホットスポットを含むイメージを他のドキュメントにコピーしたり、あるイメージから別のイメージにホットスポット (複数可) をコピー & ペーストしたりできます。イメージに関連付けられたホットスポットを、新規ドキュメントにコピーすることもできます。

イメージマップでの複数のホットスポットの選択

1 ポインタホットスポットツールを使用してホットスポットを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- 目的のホットスポットを Shift キーを押しながらクリックします。
- すべてのホットスポットを選択するには、Ctrl+A キー (Windows) または Command+A キー (Macintosh) を押します。

ホットスポットの移動

1 ポインタホットスポットツールを使用してホットスポットを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- 新しい位置にホットスポットをドラッグして移動します。
- Shift+ 矢印キーを押すと、目的の方向へ 10 ピクセルずつホットスポットを移動することができます。
- 矢印キーを押すと、目的の方向へ 1 ピクセルずつホットスポットを移動することができます。

ホットスポットのサイズ変更

1 ポインタホットスポットツールを使用してホットスポットを選択します。

2 ホットスポット選択ハンドルをドラッグし、ホットスポットのサイズまたは形状を変更します。

リンクのトラブルシューティング

破損リンク、外部リンク、および孤立リンクの検索

破損リンクおよび単独ファイル (サイトには存在していても、サイト内の他のファイルにリンクされていないファイル) を検索するには、[リンクのチェック] 機能を使用します。この検索は、開いているファイル、ローカルサイトの一部、またはローカルサイト全体に対してできます。

Dreamweaver では、サイト内のドキュメントに対するリンクだけを確認します。Dreamweaver では、選択されたドキュメントの外部リンクについてはリストを作成しますが、確認はしません。

また、サイトの他のファイルで使用されなくなったファイルを識別および削除することもできます。

関連項目

79 ページの「未使用ファイルの識別と削除」

現在のドキュメントのリンクのチェック

1 ファイルを Dreamweaver のローカルサイト内の場所に保存します。

2 [ファイル]-[ページのチェック]-[リンク] を選択します。

[結果] パネルグループの [リンクチェック] パネルに [破損リンク] レポートが表示されます。

3 [リンクチェック] パネルで、[表示] ポップアップメニューから [外部リンク] を選択し、別のレポートを表示します。

[結果] パネルグループの [リンクチェック] パネルに [外部リンク] レポートが表示されます。

サイト全体のリンクをチェックする場合には、孤立したファイルをチェックできます。

4 レポートを保存するには、[リンクチェック] パネルの [レポートの保存] ボタンをクリックします。レポートは一時ファイルなので、保存しないとその内容は失われます。

ローカルサイトの一部にあるリンクのチェック

1 [ファイル] パネルで、[現在のサイト] ポップアップメニューからサイトを選択します。

2 ローカルビューで、チェックするフォルダまたはファイルを選択します。

3 チェックを開始するには、次のいずれかの操作を行います。

- 選択したファイルの 1 つを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) して、コンテキストメニューから [リンクのチェック]-[選択したファイル / フォルダ] を選択します。
- [ファイル]-[ページのチェック]-[リンク] を選択します。

[結果] パネルグループの [リンクチェック] パネルに [破損リンク] レポートが表示されます。

4 [リンクチェック] パネルで、[表示] ポップアップメニューから [外部リンク] を選択し、別のレポートを表示します。

[結果] パネルグループの [リンクチェック] パネルに [外部リンク] レポートが表示されます。

サイト全体のリンクをチェックする場合には、孤立したファイルをチェックできます。

5 レポートを保存するには、[リンクチェック] パネルの [レポートの保存] ボタンをクリックします。

サイト全体のリンクのチェック

1 [ファイル] パネルで、[現在のサイト] ポップアップメニューからサイトを選択します。

2 [サイト]-[サイト全体のリンクチェック] を選択します。

[結果] パネルグループの [リンクチェック] パネルに [破損リンク] レポートが表示されます。

3 [リンクチェック] パネルで、[表示] ポップアップメニューから [外部リンク] または [単独ファイル] を選択し、別のレポートを表示します。

[リンクチェック] パネルに、指定したレポートタイプに一致するファイルのリストが表示されます。

注意： [単独ファイル] のレポートを作成した場合、リストから単独ファイルを選択して Delete キーを押すと、[リンクチェック] パネルからそのファイルを直接削除することができます。

4 レポートを保存するには、[リンクチェック] パネルの [レポートの保存] ボタンをクリックします。

破損リンクの修正

リンクのレポートを実行後、破損リンクとイメージ参照は、[リンクチェック] パネルで直接修正することができます。また、リストからファイルを開いて、プロパティインスペクタでリンクを修正することもできます。

[リンクチェック] パネルでのリンクの修正

1 リンクチェックレポートを実行します。

2 [結果] パネルグループの [リンクチェック] パネルの [破損リンク] 列 ([ファイル] 列ではなく) から破損リンクを選択します。

破損リンクの横にフォルダアイコンが表示されます。

3 破損リンクの横にあるフォルダアイコンをクリックし、適切なファイルを参照して選択するか、適切なパスとファイル名を入力します。

4 Tab キーか Enter キー (Windows) を押すか、または Return キー (Macintosh) を押します。

同じファイルにほかにも破損参照がある場合は、他のファイルにある参照も修正するように求められます。[はい] をクリックすると、Dreamweaver では、このファイルを参照するリストにあるすべてのドキュメントが更新されます。[いいえ] をクリックすると、Dreamweaver では現在の参照だけが更新されます。

注意：サイトで [ファイルのチェックイン / チェックアウト] が有効になっている場合は、Dreamweaver は変更する必要のあるファイルのチェックアウトを試みます。ファイルのチェックアウトができない場合、Dreamweaver は警告ダイアログボックスを表示し、破損参照の変更は行いません。

プロパティインスペクタでのリンクの修正

1 リンクチェックレポートを実行します。

2 [結果] パネルグループの [リンクチェック] パネルで、[ファイル] 列のエントリをダブルクリックします。

Dreamweaver では、ドキュメントを開き、問題のあるイメージまたはリンクを選択し、プロパティインスペクタ内でパスとファイル名をハイライト表示します。プロパティインスペクタが表示されていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してインスペクタを開きます。

3 プロパティインスペクタで新規パスおよびファイル名を設定するには、フォルダアイコンをクリックして参照し、適切なファイルを選択するか、ハイライト表示されているテキストの上に入力します。

イメージ参照を更新している間に、新しいイメージが不適切なサイズで表示された場合は、プロパティインスペクタの [幅] および [高] ラベルをクリックするか、[更新] ボタンをクリックして、幅と高さの値をリセットします。

4 ファイルを保存します。

修正したリンクは、[リンクチェック] リストから削除されます。[リンクチェック] に新しいパスとファイル名を入力したり、プロパティインスペクタで変更を保存しても、まだ破損リンクとして表示されている場合があります。これは、Dreamweaver が新しいファイルを認識していないために、リンクがまだ破損していると見なしているからです。

第 10 章：ページのプレビュー

デザインビューでは、ページが Web でどのように表示されるかプレビューできます。ただし、ブラウザとまったく同じように表示することはできません。[ブラウザでプレビュー] 機能を使用すると、特定のブラウザにページを表示して作成したデザインを確認できます。

ブラウザでページをプレビュー

ブラウザでのプレビュー

任意の時点でページをブラウザでプレビューできます。事前にページを Web サーバーにアップロードしておく必要はありません。必要なプラグインや ActiveX コントロールがブラウザにインストールされている状態でページをプレビューすると、JavaScript ビヘイビア、ドキュメント相対リンクと絶対リンク、ActiveX® コントロール、Netscape Navigator プラグインなど、すべてのブラウザ関連の機能が動作します。

ドキュメントをプレビューする場合、プレビューする前に保存します。保存しないと、最新の変更がブラウザに表示されません。

1 ページをプレビューするには以下のいずれかの操作を行います。

- [ファイル]-[ブラウザでプレビュー] を選択し、リストからブラウザを 1 つ選択します。

注意：リストにブラウザが表示されない場合は、[編集]-[環境設定] または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択し、左側にある [ブラウザでプレビュー] カテゴリを選択して、ブラウザを選択します。

- F12 キー (Windows) か Option + F12 (Macintosh) を押してプライマリブラウザで現在のドキュメントを表示します。
- Ctrl + F12 (Windows) か Command + F12 (Macintosh) を押してセカンダリブラウザで現在のドキュメントを表示します。

2 リンクをクリックし、ページのコンテンツをテストします。

Service Pack 2 がインストールされた Windows XP コンピュータで Internet Explorer を使用する場合は、ファイルのアクティブなコンテンツの表示が制限されたことを示すメッセージがブラウザに表示されることがあります。この問題を解決するには、ファイルに Mark of the Web コードを挿入します。

注意：テストサーバーを指定するか、[編集]-[環境設定]-[ブラウザでプレビュー] で [一時ファイルを使用してプレビュー] オプションを選択していない限り、ローカルブラウザでドキュメントをプレビューしても、サイトのルート相対パスを使ってリンクされたコンテンツは表示されません。これは、サーバーと違って、ブラウザではサイトのルートを認識できないためです。

ルート相対パスでリンクされているコンテンツをプレビューする場合は、リモートサーバー上にファイルを置き、[ファイル]-[ブラウザでプレビュー] を選択します。

3 テストが終了したら、ブラウザ内のページを閉じます。

関連項目

269 ページの「サイトルート相対パス」

Internet Explorer でのアクティブコンテンツのプレビュー (Windows)

Windows XP Service Pack 2 更新のインストール後にアクティブコンテンツを含むドキュメントを Internet Explorer でプレビューする場合、アクティブコンテンツはブラウザに表示されません。この問題を解決するには、ドキュメントに Mark of the Web コードを挿入します。

Internet Explorer は、ローカルマシンゾーンで実行しようとするアクティブコンテンツやスクリプトをブロックします。セキュリティ上の理由から、Microsoft はこのゾーンにおいて初期設定で実行できるものに対し制限を強化しています。Mark of the Web コードは、アクティブコンテンツを別のゾーン (この場合は、インターネットゾーン) で実行するようブラウザに指示します。詳細については、Adobe の Web サイトに掲載されている TechNote 19578 (www.adobe.com/go/19578_jp) を参照してください。

Mark of the Web コードの挿入

❖ Dreamweaver でドキュメントを開き、[コマンド]-[Mark of the Web の挿入] を選択します。

Dreamweaver によって、コードに以下の行が挿入されます。

```
<!-- saved from url=(0014)about:internet -->
```

この行は、ローカルマシンゾーンをバイパスし、インターネットゾーンでアクティブコンテンツを実行するようブラウザに指示します。

Mark of the Web コードの削除

1 Dreamweaver で、Mark of the Web コードを含むドキュメントを開きます。

2 [コマンド]-[Mark of the Web の削除] を選択します。

プレビュー用のブラウザの指定

プレビュー用のブラウザを最大で 20 個定義できます。またプライマリブラウザおよびセカンダリブラウザを指定できます。Internet Explorer 6.0、Netscape Navigator 7.0、および Safari ブラウザ (Macintosh のみ) でサイトをプレビューすることをお勧めします。これらの一般的なグラフィカルブラウザの他、Lynx のようなテキスト専用ブラウザでページをテストすることが必要な場合もあります。

1 [ブラウザでプレビュー] オプションを開くには、次のいずれかの操作を行います。

- [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択し、左側にあるカテゴリから [ブラウザでプレビュー] を選択します。
- [ファイル]-[ブラウザでプレビュー]-[ブラウザリストの編集] を選択します。

2 リストにブラウザを追加するには、[+] ボタンをクリックし、[ブラウザの追加] ダイアログボックスに情報を入力して、[OK] をクリックします。

3 リストからブラウザを削除するには、ブラウザを選択してから [-] ボタンをクリックします。

4 選択したブラウザの設定を変更するには、[編集] ボタンをクリックし、[ブラウザの編集] ダイアログボックスで設定を変更して、[OK] をクリックします。

5 [プライマリブラウザ] または [セカンダリブラウザ] を選択し、選択したブラウザがプライマリブラウザかセカンダリブラウザのいずれであるかを指定します。

F12 キー (Windows) または Option + F12 (Macintosh) を押すと、プライマリブラウザが開きます。Ctrl + F12 (Windows) または Command + F12 (Macintosh) を押すと、セカンダリブラウザが開きます。

6 [一時ファイルを使用してプレビュー] を選択し、プレビューおよびサーバーのデバッグ用に一時的なコピーを作成します。ドキュメントを直接更新する場合は、このオプションをオフにします。

モバイルデバイスでページをプレビュー

Adobe Device Central と Dreamweaver を使用したモバイルコンテンツのプレビュー

Dreamweaver で作成したページを様々なモバイルデバイスでプレビューするには、Opera のスモールスクリーンレンダリング機能が内蔵された Device Central を使用します。デバイスよって使用されるブラウザは様々ですが、Device Central によるプレビューで、選択したデバイス上でコンテンツがどのように表示され動作するか、およその感触を得られます。

1 Dreamweaver を起動します。

2 ファイルを開きます。

3 次のいずれかの操作を行います。

- ファイル／ブラウザでプレビュー／ Device Central を選択します。
- ドキュメントウィンドウのツールバーで、ブラウザでのプレビュー / デバッグボタン をクリックしたまま、「ブラウザでプレビュー Device Central」を選択します。

ファイルが Device Central の「エミュレータ」タブに表示されます。別のデバイスでテストするには、デバイスセットリストまたは使用可能なデバイスリストで異なるデバイス名をダブルクリックします。

第 11 章：ページコードを使用した操作

Adobe® Dreamweaver® CS3 はビジュアルデザインツールであると同時に、コードヒント、コードの折りたたみやデバッグなどの高度なコード編集機能を備えたコードエディタでもあります。

Dreamweaver でのコーディングについて

サポートされる言語

Adobe® Dreamweaver® CS3 には、テキストの編集機能だけでなく、コードヒントなど、次の言語でのコーディングを支援する各種の機能が備わっています。

- HTML
- XHTML
- CSS
- JavaScript
- CFML (ColdFusion Markup Language)
- Visual Basic (ASP および ASP.NET の場合)
- C# (ASP.NET の場合)
- JSP
- PHP

上記以外の言語 (Perl など) は、Dreamweaver の言語固有のコーディング機能ではサポートされていません。たとえば、Perl ファイルを作成して編集することは可能ですが、Perl のコードヒントは使用できません。

関連項目

288 ページの「Dreamweaver での自動コード修正」

299 ページの「コードヒントの使用」

無効なマークアップの修正について

ドキュメントに無効なコードが含まれている場合は、Dreamweaver のデザインビューにそのコードが表示されます。必要に応じて、そのコードをコードビューでハイライト表示することもできます。いずれかのビューでコードを選択すると、そのコードが無効である理由と、その修正方法が、プロパティインスペクタに表示されます。

ドキュメントを開いたときに各種の無効なコードが自動的に書き換えられるように設定することができます。

関連項目

288 ページの「Dreamweaver での自動コード修正」

297 ページの「コードの書き換えの環境設定」

Dreamweaver での自動コード修正

指定した基準に従って手入力のコードを自動的にクリーンアップするためのオプションを Dreamweaver で設定できます。ただし、コード書き換えオプションを有効にするか、コードを変更するアクションを実行しない限り、コードが書き換えられることはありません。たとえば、[ソースフォーマットの適用] コマンドを使用しない限り、Dreamweaver は、ユーザーが記述した空白や属性の大文字小文字を変更しません。

これらのコード書き換えオプションの一部は初期設定で有効になっています。

Dreamweaver の Roundtrip HTML 機能により、オリジナルの HTML ソースコードのコンテンツと構造を維持したまま、テキストベースの HTML エディタと Dreamweaver を交互に切り替えて、両アプリケーションで同じドキュメントを編集できます。これらの機能は、以下のとおりです。

- では、サードパーティ製のテキストエディタを起動して、現在のドキュメントを編集します。
- 初期設定では、無効なコードであっても、別の HTML エディタで作成または編集したコードが Dreamweaver で変更されることはありません。ただし、コード書き換えオプションを有効にしている場合はこの限りではありません。
- Dreamweaver で認識されないタグ (XML タグなど) は、それらのタグを検証する基準がないため、修正されません。認識されないタグが他のタグにオーバーラップしている場合 (たとえば、<MyNewTag>text</MyNewTag>)、Dreamweaver ではエラーと認識されますが、コードの書き換えは行われません。
- コードビューで無効なコードを黄色でハイライト表示するように Dreamweaver を設定することもできます。ハイライト表示されたセクションを選択すると、プロパティインスペクタにエラーの修正方法が表示されます。

関連項目

294 ページの「コーディング環境のカスタマイズ」

297 ページの「コードの書き換えの環境設定」

294 ページの「キーボードショートカットのカスタマイズ」

292 ページの「サーバービヘイビアコードについて」

Dreamweaver によって生成された XHTML コードについて

Dreamweaver では、大半の XHTML 要件を満たすように、新しい XHTML コードの生成や既存の XHTML コードのクリーンアップが行われます。また、その他の XHTML 要件に対応するために必要なツールも用意されています。

注意：一部の要件は、HTML の各種バージョンの要件と同じです。

以下の表に、Dreamweaver で自動的に満たされる XHTML 要件を示します。

XHTML 要件	Dreamweaver で行われる処理

ドキュメントには、ルートエレメントの前に DOCTYPE 宣言が必要です。この宣言は、XHTML 用の 3 つの DTD (Document Type Definition) ファイル (Strict、Transitional、または Frameset) のいずれかを参照する必要があります。	XHTML DOCTYPE を XHTML ドキュメントに追加します。
	`<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">`
	または、XHTML ドキュメントにフレームセットがある場合は次のようになります。
	`<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Frameset//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-frameset.dtd">`

ドキュメントのルートエレメントは `html` にしてください。また、`html` エレメントは XHTML 名前空間を明示する必要があります。	`namespace` 属性を `html` エレメントに追加します。 `<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">`
標準ドキュメントには、`head`、`title`、および `body` 構造エレメントが必要です。フレームセットドキュメントには、`head`、`title`、および `frameset` 構造エレメントが必要です。	標準ドキュメントには、`head`、`title`、および `body` エレメントが含まれています。フレームセットドキュメントには、`head`、`title`、および `frameset` エレメントが含まれています。

XHTML 要件	Dreamweaver で行われる処理

ドキュメントのすべてのエレメントは、適切にネストされる必要があります。
`<p>This is a <i>bad example.</p></i>`
`<p>This is a <i>good example.</i></p>`
	正しくネストされたコードを生成します。また、XHTML をクリーンアップするときに、Dreamweaver によって生成されていないコードのネストを訂正します。

すべてのエレメントおよび属性名は、小文字にする必要があります。	生成される XHTML コードの HTML エレメントおよび属性名を小文字にします。また、タグおよび属性の大文字 / 小文字の設定にかかわらず、クリーンアップ時に小文字にします。
DTD で EMPTY と宣言されているエレメントを除き、すべてのエレメントには終了タグが必要です。	生成するコードに終了タグを挿入します。また XHTML クリーンアップ時に終了タグを挿入します。
空のエレメントには終了タグを付けるか、開始タグの末尾を /> にする必要があります。たとえば、 は無効です。正しい形式は、 </br> または です。空のエレメントは以下のとおりです。area、base、basefont、br、col、frame、hr、img、input、isindex、link、meta、および param。 XML をサポートしていないブラウザとの下位互換性のためには、/> の前にスペースが必要です。たとえば、 とする必要があり、 ではありません。	生成するコードの空のタグに、終了スラッシュの前にスペースを入れて空のエレメントを挿入します。また、XHTML クリーンアップ時にも同様の操作を行います。
属性を省略して短くすることはできません。たとえば、<td nowrap> は無効です。正しい形式は、<td nowrap="nowrap"> になります。 この要件は次の属性に適用されます。checked、compact、declare、defer、disabled、ismap、multiple、noresize、noshade、nowrap、readonly、および selected。	生成するコードに、完全な属性値のペアを挿入します。また XHTML クリーンアップ時に同様の処理を行います。 メモ : HTML ブラウザが HTML 4 をサポートしていない場合は、完全なフォームで記述されていても、これらのブール値の属性が認識されないことがあります。
すべての属性値は、引用符で囲む必要があります。	生成するコードの属性値を引用符で囲みます。また、XHTML クリーンアップ時に同様の処理を行います。
以下のエレメントには、id 属性と name 属性が必要です。a、applet、form、frame、iframe、img、および map。たとえば、Introduction は無効です。正しい形式は、 Introduction または Introduction です。	name 属性および id 属性を同じ値に設定する必要があるのは、name 属性がプロパティインスペクタで設定されたとき、Dreamweaver によってコードが生成されたとき、および XHTML をクリーンアップするときです。
列挙型の値を持つ属性の場合、この値は小文字にする必要があります。 列挙型の値は、指定された使用可能な値のリストから得られる値です。たとえば、align 属性には、center、justify、left、および right の値を使用できます。	生成するコードの列挙型の値を小文字にします。また、XHTML クリーンアップ時に同様の処理を行います。
すべての script および style エレメントには、type 属性が必要です。 HTML 4 以降は type 属性が script エレメントに必須の属性です (HTML 4 以降、language 属性は推奨されなくなりました)。	type 属性および language 属性を、生成するコードの script エレメントに設定します。また、type 属性を style エレメントに設定します。XHTML クリーンアップ時にも同様の処理を行います。
すべての img エレメントおよび area エレメントに alt 属性が必要です。	生成するコードのこれらの属性を設定します。また、XHTML クリーンアップ時に同様の処理を行い、alt 属性のないものをレポートします。

関連項目

313 ページの「XHTML 準拠ページの作成」

正規表現について

正規表現とは、テキスト内の文字の組み合わせを表すパターンのことです。コードの検索時に正規表現を使用して、var で始まる行や数値を含む属性値などの概念を表すことができます。

以下の表は、正規表現の特殊文字、その意味、および使用例を示しています。この表のいずれかの特殊文字を含むテキストを検索するには、その特殊文字の前にバックスラッシュを付けてエスケープします。たとえば、some conditions apply* というフレーズからアスタリスク (*) を検索する場合の検索パターンは、**apply*** のようになります。アスタリスクをエスケープしないと、"apply" にアスタリスクが 1 つ付いているパターンではなく、"apply" の出現箇所 (および "appl"、"applyy"、"applyyy" などの出現箇所) がすべて検索されてしまいます。

文字	意味	例
^	入力または行の始め	`^T` は、"This good earth" の "T" を検索しますが、"Uncle Tom's Cabin" の "T" は無視します。
$	入力または行の終わり	`h$` は、"teach" の "h" を検索しますが、"teacher" の "h" は無視します。
*	直前の文字の 0 回以上の繰り返し	`um*` は、"rum" の "um"、"yummy" の "umm"、および "huge" の "u" を検索します。
+	直前の文字の 1 回以上の繰り返し	`um+` は、"rum" の "um" および "yummy" の "umm" を検索しますが、"huge" の場合は無視します。
?	直前の文字を 0 回または 1 回 (直前の文字がオプションであることを示す)	`st?on` は、"Johnson" の "son"、"Johnston" の "ston" を検索しますが、"Appleton" や "tension" の場合は無視します。
.	新行 (改行) 以外のすべての単一文字	`.an` は、"bran muffins can be tasty" の "ran" および "can" を検索します。
x|y	x または y	`FF0000|0000FF` は、`bgcolor="#FF0000"` の "FF0000" および `font color="#0000FF"` の "0000FF" を検索します。
{n}	直前の文字の n 回繰り返し	`o{2}` は、"loom" の "oo" および "mooooo" の最初の 2 つの "o" を検索しますが、"money" の場合は無視します。
{n,m}	直前の文字の最低 n 回、最高 m 回の繰り返し	`F{2,4}` は、"#FF0000" の "FF" および "#FFFFFF" の最初の 4 つの "F" を検索します。
[abc]	カッコ内に含まれる文字 1 つ。ハイフンを使って、特定範囲の文字を指定 ([a-f] と [abcdef] は同じ)	`[e-g]` は、"bed" の "e"、"folly" の "f"、"guard" の "g" を検索します。
[^abc]	カッコ内に含まれない文字 1 つ。ハイフンを使って、特定範囲の文字を指定 ([^a-f] と [^abcdef] は同じ)	`[^aeiou]` は、"orange" の "r"、"book" の "b"、"eek!" の "k" を最初に検索します。
\b	語境界 (スペース、改行など)	`\bb` は、"book" の "b" を検索しますが、"goober" や "snob" の "b" は無視します。
\B	語境界以外のすべて。	`\Bb` は、"goober" の "b" を検索しますが、"book" の "b" は無視します。
\d	数字 1 文字。[0-9] と同じ	`\d` は、"C3PO" の "3" および "apartment 2G" の "2" を検索します。
\D	非数字 1 文字。[^0-9] と同じ	`\D` は、"900S" の "S" および "Q45" の "Q" を検索します。
\f	用紙送り	
\n	改行	
\r	キャリッジリターン	
\s	スペース、タブ、用紙送り、改行を含むホワイトスペース 1 つ	`\sbook` は、"blue book" の "book" を検索しますが、"notebook" の場合は無視します。
\S	非ホワイトスペース 1 つ	`\Sbook` は、"notebook" の "book" を検索しますが、"blue book" の場合は無視します。

文字	意味	例
\t	タブ 1 つ	
\w	下線を含む、英数字 1 つ。[A-Za-z0-9_] と同じ	b\w* は、"the barking dog" の "barking" および "the big black dog" の "big" と "black" を検索します。
\W	非英数字の 1 つ。[^A-Za-z0-9_] と同じ	\W は、"Jake&Mattie" の "&" および "100%" の "%" を検索します。
Ctrl+Enter または Shift+Enter (Windows)、Control+Return、Shift+Return、または Command+Return (Macintosh)	改行文字。正規表現を使用しない場合に改行文字を検索するときは、[ホワイトスペースの違いを無視] をオフにしてください。この検索では、一般の意味の改行ではない特定の文字が検索されます。たとえば、 タグや <p> タグは無視されます。デザインビューでは、改行文字は改行ではなくスペースとして表示されます。	

カッコで正規表現内をグループ分けし、後で参照できるように区別します。その後で、[置換] フィールドで $1、$2、$3 などを使用して、1 番目、2 番目、3 番目、およびそれ以降のカッコのグループを参照します。

注意：[検索] ボックスでは、$1、$2、$3 ではなく \1、\2、\3 を使用して、正規表現内のカッコのグループを参照します。

たとえば、(\d+)\/(\d+)\/(\d+) を検索し、それを $2/$1/$3 で置換すると、スラッシュで区切られた日付の日、月が入れ替わるので、アメリカ式とヨーロッパ式の日付を変換することができます。

関連項目

306 ページの「コード内のタグ、属性、またはテキストの検索」

306 ページの「検索パターンの保存と再利用」

サーバービヘイビアコードについて

Dreamweaver では、動的ページの開発時に [サーバービヘイビア] パネルからサーバービヘイビアを選択すると、適切なコードブロックがページに挿入され、そのサーバービヘイビアが機能するようになります。

このコードブロック内のコードを手動で変更すると、該当するサーバービヘイビアを [バインディング] や [サーバービヘイビア] などのパネルを使用して編集することはできなくなります。Dreamweaver は、ページコード内の特定のパターンに基づいてサーバービヘイビアを検出し、[サーバービヘイビア] パネルに表示します。コードブロック内のコードがなんらかの形で変更されると、Dreamweaver ではサーバービヘイビアを検出できなくなり、したがって [サーバービヘイビア] パネルに表示できなくなります。しかしその場合でも、サーバービヘイビアはページ内に残り、Dreamweaver のコーディング環境で編集できます。

関連項目

288 ページの「Dreamweaver での自動コード修正」

510 ページの「ビジュアル開発のためのワークスペースの最適化」

540 ページの「データベースのレコードの表示」

コーディング環境の設定

コーディング環境の変更

Dreamweaver のコーディング環境は、自分の操作方法に合わせてカスタマイズすることができます。たとえば、コードの表示方法を変更したり、異なるキーボードショートカットを設定したりできます。または、好みのタグライブラリを読み込んで使用することも可能です。

コードの表示

現在のドキュメントのソースコードを表示するには、いくつかの方法があります。コードをドキュメントウィンドウに表示するには、コードビューを有効にします。ドキュメントウィンドウを分割すると、ページとそれに関連するコードの両方を表示できます。また、独立したコーディングウィンドウであるコードインスペクタを使用して編集することもできます。コードインスペクタは、コードビューと同じように機能するので、現在のドキュメントの分離可能なコードビューとして考えることができます。

関連項目

295 ページの「コードフォーマットの変更」

297 ページの「コードヒントの設定」

298 ページの「コードカラーリングの設定」

ドキュメントウィンドウでのコードの表示

❖ [表示]-[コード] を選択します。

ドキュメントウィンドウでのコーディングとページ編集の同時進行

1 [表示]-[コードとデザイン] を選択します。

上のペインにコード、下のペインにページが表示されます。

2 ページを上部に表示するには、ドキュメントツールバーの [表示オプション]-[デザインビューを上に表示] を選択します。

3 ドキュメントウィンドウ内のペインのサイズを調整するには、分割バーを目的の位置までドラッグします。分割バーは、2 つのペインの間にあります。

デザインビューで変更を加えると、コードビューが自動的に更新されます。ただし、コードビューで変更を加えた場合は、デザインビューのドキュメントを手動で更新する必要があります。デザインビューをクリックするか、F5 キーを押してください。

コードインスペクタによる別ウィンドウでのコードの表示

コードインスペクタを使用すると、コードビューで実行できるのと同じ作業を独立したコーディングウィンドウで行うことができます。

❖ [ウィンドウ]-[コードインスペクタ] を選択します。ツールバーには、次のオプションが表示されます。

ファイル管理 ファイルを PUT または GET します。

ブラウザでプレビュー / デバッグ ドキュメントをブラウザでプレビューまたはデバッグできます。

デザインビューの更新 デザインビューでドキュメントを更新し、コードに対する変更内容を反映します。コードに対する変更内容は、ファイルの保存や、このボタンのクリックなどの操作を実行しない限り、デザインビューに自動的には反映されません。

リファレンス [リファレンス] パネルを開きます。詳細については、308 ページの「言語リファレンス資料の使用」を参照してください。

コードのナビゲーション コード内を素早く移動できます。詳細については、305 ページの「JavaScript または VBScript の関数へのジャンプ」を参照してください。

表示オプション コードの表示方法を指定できます。詳細については、295 ページの「コードの表示方法の設定」を参照してください。

ウィンドウの左端に沿ったコーディングツールバーの使用方法については、302 ページの「コーディングツールバーでのコードの挿入」を参照してください。

コード指向のワークスペースの使用 (Windows のみ)

Windows では、Adobe の Macromedia® HomeSite® のワークスペースに類似した、パネルグループがメインウィンドウの右側ではなく左側にドッキングされているワークスペースを使用できます。このワークスペースレイアウトでは、プロパティインスペクタは初期設定で展開されておらず、ドキュメントウィンドウは初期設定でコードビューに表示されます。

関連項目

32 ページの「ワークスペースのレイアウトの選択 (Windows)」

キーボードショートカットのカスタマイズ

Dreamweaver では、好みのキーボードショートカットを使用できます。特定のキーボードショートカットによる操作 (たとえば、Ctrl + Enter で改行を挿入、Ctrl + G でコード内の特定の位置に移動、Shift + F6 でファイルを検証) に慣れている場合は、キーボードショートカットエディタを使用してそのショートカットを Dreamweaver に追加することができます。操作方法については、673 ページの「キーボードショートカットをカスタマイズする」を参照してください。

関連項目

301 ページの「コードスニペットの操作」

初期設定でファイルをコードビューで開く

HTML が通常記述されていないタイプのファイル (JavaScript ファイルなど) を開くと、このファイルはデザインビューではなくコードビュー (またはコードインスペクタ) に表示されます。コードビューでどのファイルタイプを開くかを指定することができます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [ファイルタイプ / エディタ] を選択します。

3 [コードビューで開く] ボックスに、自動的にコードビューで開くファイルタイプの拡張子を追加します。

各拡張子の間にはスペースを入れます。入力できる拡張子の数に制限はありません。

関連項目

299 ページの「外部エディタの使用」

311 ページの「バリデータによるコーディングエラーの検出」

コーディング環境のカスタマイズ

コーディングの環境設定について

コードのフォーマット、書き換え、カラーリングなどの環境設定を行うことにより、Dreamweaver コーディング環境を特定のニーズに合うようにカスタマイズできます。

注意：高度な環境設定を行うには、タグライブラリエディタを使用します (詳細については、326 ページの「タグライブラリの管理」を参照してください)。

コードの表示方法の設定

ワードラップの設定、コードの行番号の表示、無効なコードのハイライト表示、コードエレメントのシンタックスカラーリングの設定、インデントの設定、非表示の文字の表示は、[表示]-[コードビューオプション] メニューから行います。

1 コードビューまたはコードインスペクタでドキュメントを表示します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [表示]-[コードビューオプション] を選択します。
- コードビューまたはコードインスペクタの上部にあるツールバーで [表示オプション] ボタン をクリックします。

3 必要に応じて以下のオプションを選択または選択解除します。

ワードラップ コードがウィンドウ幅に合わせて折り返され、水平方向にスクロールすることなく参照できるようになります。これはコードを見やすくするための機能で、実際に改行が挿入されるわけではありません。

行番号 コードの横に行番号を表示します。

非表示の文字 ホワイトスペースの代わりに特殊文字を表示します。たとえば、スペースはドットに置き換わり、タブは二重山かっこに置き換わり、改行は段落マーカーに置き換わります。

注意：ワードラップ用に Dreamweaver で表示されるソフト改行は、段落マーカーと一緒には表示されません。

無効なコードをハイライト表示 Dreamweaver により、無効な HTML コードをすべて黄色でハイライト表示します。無効なタグを選択すると、エラーの修正方法に関する情報がプロパティインスペクタに表示されます。

シンタックスカラーリング コードの色付けを有効または無効にします。カラーリングスキームの変更方法については、298 ページの「コードカラーリングの設定」を参照してください。

自動インデント コードの入力中に Enter キーが押されたときに、コードを自動的にインデント表示します。コードの新しい行は、前の行と同じレベルにインデントされます。インデント幅の変更方法については、295 ページの「コードフォーマットの変更」の [タブサイズ] オプションを参照してください。

関連項目

293 ページの「コードの表示」

19 ページの「コーディングツールバーの概要」

コードフォーマットの変更

コードの表示を変更するには、フォーマット環境設定でインデント、行の長さ、タグ名と属性名の大文字と小文字の区別などを指定します。

[常に無視する] を除くすべてのコードフォーマットオプションは、新規ドキュメントか、または既存のドキュメントに対する新規追加分にのみ適用されます。

既存の HTML ドキュメントのフォーマットを変更するには、そのドキュメントを開いて [コマンド]-[ソースフォーマットの適用] を選択します。

1 [編集]-[環境設定] を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [コードフォーマット] を選択します。

3 次のいずれかのオプションを設定します。

インデント Dreamweaver で生成されるコードを (コードフォーマット環境設定で指定したインデント規則に従って) インデントするかどうかを指定します。

注意：このダイアログボックスのインデントオプションのほとんどは、Dreamweaver によって生成されるコードにのみ適用され、ユーザーが入力したコードには適用されません。ユーザーが入力した新しいコード行を前の行と同じレベルにインデントするには、[表示]-[コードビューオプション]-[自動インデント] を選択します。詳細については、295 ページの「コードの表示方法の設定」を参照してください。

使用（テキストボックスおよびポップアップメニュー）Dreamweaver で生成されるコードのインデントに使用するスペースまたはタブの数を指定します。たとえば、テキストボックスに「3」と入力し、ポップアップメニューで [タブ] を選択すると、Dreamweaver によって生成されるコードは各インデントレベルで 3 つのタブ文字を使用してインデントされます。

タブサイズ コードビューに表示する各タブの幅を文字数で指定します。たとえば、[タブサイズ] を 4 に設定すると、コードビューに表示される各タブの幅は、4 つの空白文字分になります。このとき、[インデント] オプションで [タブ] および [3] に設定されていると、Dreamweaver によって生成されるコードは各インデントレベルで 3 つのタブ文字を使用してインデントされるので、コードビューでは 12 文字分の空白が表示されます。

注意：Dreamweaver では、スペースまたはタブを使用してインデントが設定されます。コードの挿入時に一連のスペースがタブに変換されることはありません。

自動折り返し 行の長さが指定の列幅に達したときに、改行文字（ハードリターンとも呼ばれます）を挿入します。(Dreamweaver では、改行文字はブラウザで表示したときのドキュメントの外観に影響しない箇所にのみ挿入されます。このため、一部の行は、[自動折り返し] オプションで指定した長さよりも長くなる場合があります。一方、コードビューの [折り返し] オプションを使用した場合は、ウィンドウ幅よりも長い行に改行が挿入されたように表示されますが、実際には改行は挿入されません。

改行タイプ リモートサイトのホストとして動作するリモートサーバーの種類 (Windows、Macintosh、または UNIX) を指定します。正しい改行タイプを選択することにより、リモートサーバー上で HTML ソースコードが正しく表示されます。この改行設定は、特定の種類の改行文字しか認識しない外部テキストエディタで作業するときにも有用です。たとえば、外部エディタとしてメモ帳 (Windows) を使用する場合は CR LF を設定し、SimpleText (Macintosh) を使用する場合は CR を設定します。

注意：FTP を使用して接続する各サーバーでは、このオプションはバイナリ転送モードにのみ適用されます。Dreamweaver の ASCII 転送モードでは、このオプションは無視されます。ASCII モードでファイルをダウンロードする場合、Dreamweaver では、使用しているコンピュータのオペレーティングシステムに基づいて改行が設定されます。一方、ASCII モードでファイルをアップロードする場合は、すべての改行が CR LF に設定されます。

[タグの大文字 / 小文字の初期設定] および [属性の大文字 / 小文字の初期設定] タグ名と属性名を大文字と小文字のどちらで表示するかを指定します。これらのオプションは、デザインビューで挿入および編集するタグと属性に適用されます。ただし、コードビューに直接入力するタグと属性には適用されません。また、[常に無視する] のオプションを選択していない場合は、ドキュメントを開いても、ドキュメント内のタグと属性には適用されません。

注意：これらの環境設定は、HTML ページにのみ適用されます。大文字タグおよび大文字属性は無効な XHTML 要素であるため、XHTML ページではこれらの環境設定は無視されます。

[常に無視する]：タグおよび属性 既存の HTML ドキュメントを開いたときなどに、指定した大文字と小文字のオプションを常に適用するかどうかを指定します。これらのオプションのいずれかを選択し、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じると、現在のドキュメントに含まれるすべてのタグまたは属性が直ちに大文字または小文字に変換されます。このオプションはオフにしない限り常に有効であり、次に開く各ドキュメントでもすべてのタグまたは属性が変換されます。コードビューおよびクイックタグ編集で入力するタグや属性も、指定したとおりに大文字または小文字に変換されます。[挿入] バーを使用して入力するタグや属性も、同様に変換されます。たとえば、タグ名を常に小文字にする場合は、[タグの大文字 / 小文字の初期設定] で小文字を設定し、[常に無視する] の [タグの大文字・小文字] オプションをオンにします。このように設定すると、大文字のタグ名を含むドキュメントを開いたときに、Dreamweaver によりタグ名が自動的に小文字に変換されます。

注意：古いバージョンの HTML ではタグおよび属性名に大文字または小文字のいずれかを使用できましたが、XHTML では、タグおよび属性名に小文字を使用する必要があります。Web は XHTML に移行しつつあるため、一般に、タグ名および属性名には小文字を使用することをお勧めします。

TD タグ：TD タグ内に改行を含めない <td> タグの直後または </td> タグの直前に空白文字または改行があるときに、一部の古いブラウザで起こる表示上の問題に対処します。このオプションを選択すると、Dreamweaver では <td> タグの後ま

たは </td> タグの前に改行が必要なフォーマットがタグライブラリで設定されている場合でも、それらの位置に改行が挿入されなくなります。

高度なフォーマット カスケーディングスタイルシート (CSS) コードや個々のタグと属性のフォーマットオプションをタグライブラリエディタで設定できます。

空白文字 (日本語版のみ) HTML コード用に   または全角スペースのいずれかを選択できます。ここで選択した空白文字は、テーブルの作成時や、日本語エンコーディングのページで [連続するスペースを入力可能にする] オプションがオンになっている場合に、空のタグに使用されます。

関連項目

134 ページの「CSS コードのフォーマット」

コードヒントの設定

コードヒントを利用すると、コードビューまたはクイックタグ編集でコードを入力するときに、タグ名、属性、および値を素早く入力できます。

コードヒントがオフの場合でも、Ctrl + スペースキーを押すと、コードビューにポップアップヒントを表示できます。

1 [編集]-[環境設定] を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [コードヒント] を選択します。

3 次のいずれかのオプションを設定します。

コードヒントがオフの場合でも、Ctrl + スペースキーを押すと、コードビューにポップアップヒントを表示できます。

終了タグ Dreamweaver による終了タグの挿入方法を指定します。初期設定では、Dreamweaver により次の文字を入力した後に自動的に終了タグが挿入されます。</。この初期設定を変更して、開始タグの最後の山形カッコ (>) を入力した後に終了タグが挿入されるようにすることや、終了タグがまったく挿入されないようにすることもできます。

コードヒントを使用可能にする コードビューでのコード入力時にヒントを表示します。[遅延] スライダをドラッグして、該当するヒントが表示されるまでの時間 (秒) を設定します。

メニュー 入力時に表示するコードヒントの種類を設定します。メニューに表示されるものをすべて使用することも、一部だけを使用することもできます。

関連項目

299 ページの「コードヒントの使用」

318 ページの「クイックタグ編集でのヒントメニューの使用」

コードの書き換えの環境設定

コードの書き換えの環境設定では、ドキュメントを開いたとき、フォームのエレメントをコピー & ペーストしたとき、プロパティインスペクタなどの Dreamweaver ツールを使用して属性値や URL を入力したときに、コードを自動的に修正するかどうかと、その方法を指定します。この環境設定の内容は、コードビューでの HTML やスクリプトの編集には影響しません。

コードの書き換えのオプションを無効にすると、ドキュメントウィンドウ上の HTML に、本来であれば書き換えられる無効なマークアップアイテムが表示されます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [コードの書き換え] を選択します。

3 次のいずれかのオプションを設定します。

無効なネストや開始タグを修正する オーバーラップしているタグを書き換えます。たとえば、text は、text に書き換えられます。このオプションを選択すると、閉じ引用符や閉じカッコが抜けている場合、適宜挿入されます。

ペーストするときにフォームアイテムの名前を変更 フォームオブジェクト名の重複を回避できます。このオプションは初期設定では有効になっています。

注意：この環境設定ダイアログボックス内の他のオプションと異なり、このオプションは、ドキュメントを開いたときには適用されず、フォームエレメントをコピー & ペーストしたときにのみ適用されます。

余分な終了タグを削除する 対応する開始タグがない終了タグを削除します。

タグの修正や削除の際に警告する 技術的に誤りがあり、Dreamweaver によって修正された HTML についての要約を表示します。この要約には、問題のある場所の行番号と桁位置が示されるため、修正された部分を参照して、適切に処理されているかどうかを確認できます。

コードの書き換え禁止 : 拡張子付きのファイル内 指定した拡張子のファイルについて、コードを書き換えないように Dreamweaver を設定できます。これは、サードパーティのタグがファイルに含まれている場合に役立ちます。

& を使用して属性値の <、>、&、" をエンコード プロパティインスペクタなどの Dreamweaver ツールを使用して入力または編集した属性値を、正当な文字だけで構成されるように自動修正します。このオプションは初期設定では有効になっています。

注意：このオプションおよび後続のオプションは、コードビューで入力した URL には適用されません。また、ファイル内の既存のコードは変更されません。

特殊文字をエンコードしない 正当な文字だけが使用されるように、Dreamweaver による URL の自動修正機能を無効にします。このオプションは初期設定では有効になっています。

&# を使用して URL の特殊文字をエンコード プロパティインスペクタなどの Dreamweaver ツールを使用して URL を入力または編集した場合、これらの URL が正当な文字だけで構成されるように自動修正します。

% を使用して URL の特殊文字をエンコード 1 つ前のオプションと同じ処理が行われますが、特殊文字のエンコード方法が異なります。このエンコード方法 (パーセント記号を使用) の方が古いブラウザとの互換性という点では優れていますが、一部の言語の文字を適切に処理できません。

ブラウザセーフスクリプトを使用して挿入 Dreamweaver で挿入されるアクティブコンテンツが、最新バージョンの Internet Explorer でのコンテンツ表示に適したタグを使用して記述されるようになります。初期設定では、Dreamweaver は、Flash および Shockwave のアクティブコンテンツにのみブラウザセーフスクリプトを使用します。しかし、この機能は拡張が可能であり、他の種類のアクティブコンテンツもサードパーティ製の拡張機能を使用して適切に挿入することができます。

ファイルを開くときにタグをスクリプトに変換 アクティブコンテンツを含むファイルを開いたときに <object>、<embed>、<applet> の各タグを削除し、代わりに適切な JavaScript タグを追加します。

関連項目

72 ページの「Microsoft Word HTML ファイルのクリーンアップ」

コードカラーリングの設定

[コードカラーリング] 環境設定では、フォーム関連のタグや JavaScript 識別子など、タグやコードエレメントの一般的なカテゴリに対してカラーを指定できます。特定のタグにカラーリングを設定するには、タグライブラリエディタでタグ定義を編集します。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [コードカラーリング] を選択します。

3 コードビューとコードインスペクタの初期設定の背景色を選択します。

4 ドキュメントタイプを選択し、[カラーリングスキームの編集] をクリックします。

5 アイテムを選択し、そのテキストカラー、背景色、さらに必要に応じてスタイル (ボールド、イタリック、アンダーライン) を設定し、[OK] をクリックします。

プレビューペインのサンプルコードが新しい色とスタイルに変わります。

6 [OK] をクリックします。

関連項目

398 ページの「テンプレートのコードカラーリング環境設定のカスタマイズ」

328 ページの「ライブラリ、タグ、および属性の編集」

外部エディタの使用

特定の拡張子のファイルを編集するときに使用する外部エディタを指定できます。たとえば、Dreamweaver から BBEdit、メモ帳、TextEdit などのテキストエディタを起動して、JavaScript (JS) ファイルを編集できます。

さまざまなファイル拡張子に異なる外部エディタを割り当てることができます。

関連項目

294 ページの「初期設定でファイルをコードビューで開く」

ファイルタイプに対する外部エディタの設定

1 [編集]-[環境設定] を選択します。

2 左側の [カテゴリ] リストから [ファイルタイプ / エディタ] を選択し、オプションを設定して [OK] をクリックします。

コードビューで開く Dreamweaver のコードビューで自動的に開くファイルの拡張子を指定します。

外部コードエディタ 使用するテキストエディタを指定します。

変更をリロード Dreamweaver で開かれているドキュメントが外部エディタで変更された場合に、Dreamweaver によって検出される動作を指定します。

実行時に保存 Dreamweaver で編集中のドキュメントを、外部エディタを起動する前に必ず保存するか、ドキュメントを保存しないか、または外部エディタを起動するたびに保存の確認を行うかを指定します。

Fireworks さまざまなメディアファイルタイプ用のエディタを指定します。

外部コードエディタの起動

❖ [編集]-[エディタを指定して編集 外部エディタ] を選択します。

コードの記述と編集

コードヒントの使用

コードヒント機能を使用すると、コードを迅速に間違いなく挿入および編集することができます。コードビューで、タグ、属性、CSS プロパティ名の最初の数文字など、特定の文字を入力すると、その入力を完了するための候補のリストが表示されます。この機能を使用すると、コードを挿入または編集したり、タグに使用可能な属性、関数に使用可能なパラメータ、オブジェクトに使用可能なメソッドを調べることができます。

コードヒントは、さまざまな種類のコードで使用できます。コードの断片の始まりを示す特定の文字を入力すると、該当する項目のリストが表示されます。たとえば、開始山形カッコ (<) を入力すると、HTML タグ名のコードヒントリストが表示されます。

最良の結果を得るため、関数とオブジェクトにコードヒントを使用する場合は特に、[コードヒント] 環境設定ダイアログボックスの [遅延] オプションで遅延を 0 秒に設定します。

コードヒントリストを閉じるには、BackSpace キー (Windows) または Delete キー (Macintosh) を押します。

関連項目

297 ページの「コードヒントの設定」

コードヒントメニューの表示

❖ Ctrl + スペースキーを押します。

コードヒントによるコードビューでのマークアップまたはその他のコードの挿入

1 コードの断片の先頭を入力します。たとえば、タグを挿入する場合は、開始山形カッコ (<) を入力します。属性を挿入する場合は、タグ名の直後に挿入ポイントを置き、スペースキーを押します。

項目のリスト (タグ名や属性名など) が表示されます。

リストを閉じるには、Esc キーを押します。

2 リストをスクロールするには、スクロールバーまたは上矢印キーと下矢印キーを使用します。

3 リストから項目を挿入するには、項目をダブルクリックするか、項目を選択して Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

最近作成した CSS スタイルが CSS スタイルのコードヒントリストに表示されない場合は、コードヒントリストから [スタイルリストの更新] を選択してください。デザインビューが表示されている場合は、[スタイルリストの更新] の選択後、一時的に無効なコードがデザインビューに表示される可能性があります。デザインビューから無効なコードを削除するには、スタイルの挿入後に F5 キーを押してデザインビューを再度更新してください。

4 終了タグを挿入するには、「</ (スラッシュ)」を入力します。

注意：初期設定では、Dreamweaver により、終了するために必要なタグが検出され、タグが自動的に挿入されます。この初期設定を変更して、Dreamweaver により、開始タグの最後の山形カッコ (>) を入力した後に終了タグが挿入されるようにすることも、終了タグが挿入されないようにすることもできます。[編集]-[環境設定]-[コードヒント] を選択し、[終了タグ] オプションのいずれかを選択します。

コードヒントによるタグの編集

- ある属性を別の属性に置換するには、まず属性とその値を削除してから、前の説明に従って新しい属性とその値を追加します。
- 値を変更するには、まず値を削除してから、前の説明に従って新しい値を追加します。

プロパティインスペクタによるサーバー言語タグの編集

コードのプロパティインスペクタを使用すると、コードビューを開かずにサーバー言語タグ (ASP タグなど) 内のコードを編集できます。

1 デザインビューで、サーバー言語タグのアイコンを選択します。

2 プロパティインスペクタの、[編集] ボタンをクリックします。

3 タグのコードを適宜変更して [OK] をクリックします。

関連項目

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

コードスニペットの操作

コードスニペットを使用すると、今後すぐに再使用するためにコンテンツを保存できます。HTML、JavaScript、CFML、ASP、JSP などのスニペットを作成、挿入、編集、または削除できます。作成したコードスニペットの管理や、チームメンバーとの共有も可能です。スニペットの作成時にひな型として使用できる定義済みのスニペットもいくつか用意されています。

<font> タグおよびその他の非推奨のエレメントや属性を含むスニペットは、[スニペット] パネルの " レガシー " フォルダに表示されます。

コードスニペットの挿入

1 スニペットを挿入する位置に挿入ポイントを置くか、スニペットを囲むコードを選択します。

2 [スニペット] パネル ([ウィンドウ]-[スニペット]) で、スニペットをダブルクリックします。

スニペットを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、ポップアップメニューから [挿入] を選択することもできます。

コードスニペットの作成

1 [スニペット] パネルで、パネルの下部にある [新規スニペット] アイコンをクリックします。

2 スニペットの名前を入力します。

注意：スニペット名には、スラッシュ (/ または \)、特殊文字、二重引用符 (") など、ファイル名に含めることのできない文字は使用できません。

3 (オプション) スニペットの説明テキストを入力します。これにより、他のチームメンバーにもスニペットが使いやすくなります。

4 [スニペットの種類] で、[選択範囲を囲む] または [ブロックの挿入] を選択します。

a[選択範囲を囲む] を選択した場合は、次のオプション用のコードを追加します。

前に挿入 現在の選択範囲の前に挿入するコードを入力するかペーストします。

後に挿入 現在の選択範囲の後に挿入するコードを入力するかペーストします。

ブロックに初期設定の間隔を設定するには、改行を使用します。テキストボックス内で Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

注意：開始ブロックおよび終了ブロックとしてスニペットを作成できるため、それらを使用して他のタグおよびコンテンツを囲むことがでます。これは、特別なフォーマット、リンク、ナビゲーションエレメント、およびスクリプトブロックを挿入する場合に便利です。囲むコンテンツをハイライト表示して、スニペットを挿入します。

b[ブロックの挿入] を選択した場合は、挿入するコードを入力またはペーストします。

5 (オプション) [プレビュータイプ] で [コード] または [デザイン] を選択します。

デザイン コードを生成し、[スニペット] パネルのプレビューペインに表示します。

コード コードをプレビューペインに表示します。

6 [OK] をクリックします。

コードスニペットの編集または削除

❖ [スニペット] パネルでスニペットを選択し、パネルの下部にある [スニペットの編集] ボタンまたは [削除] ボタンをクリックします。

コードスニペットフォルダの作成とコードスニペットの管理

1 [スニペット] パネルで、パネルの下部にある [新規スニペットフォルダ] ボタンをクリックします。

2 必要に応じて、スニペットを新規フォルダまたは他のフォルダにドラッグします。

スニペットのキーボードショートカットの追加または編集

1 [スニペット] パネルで、右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[キーボードショートカットの編集] を選択します。

キーボードショートカットエディタが表示されます。

2 [コマンド] ポップアップメニューで [スニペット] を選択します。

スニペットのリストが表示されます。

3 スニペットを選択し、キーボードショートカットを割り当てます。

詳細については、673 ページの「キーボードショートカットをカスタマイズする」を参照してください。

チームの他のメンバーとのスニペットの共有

1 Dreamweaver アプリケーションフォルダの "Configuration/Snippets" フォルダで、共有するスニペットに対応するファイルを探します。

2 スニペットファイルを自身のコンピュータまたはネットワークコンピュータ上の共有フォルダにコピーします。

3 チームの他のメンバーに、スニペットファイルをそれぞれの "Configuration/Snippets" フォルダにコピーするように依頼します。

コーディングツールバーでのコードの挿入

1 現在、コードビューであることを確認します ([表示]-[コード])。

2 コード内に挿入ポイントを置くか、コードブロックを選択します。

3 コーディングツールバー内のボタンをクリックするか、ツールバーのポップアップメニューからメニュー項目を選択します。

各ボタンの機能については、ボタンの上にポインタを移動すると、ツールヒントが表示されます。コーディングツールバーには、初期設定では以下のボタンが表示されます。

現在開いているドキュメント 現在開いているドキュメントが表示されます。1 つを選択すると、そのドキュメントがドキュメントウィンドウに表示されます。

フルタグをたたむ 1 組の開始タグと終了タグで囲まれているコード部分 (<table> と </table> の間のコード部分など) を折りたたみます。タグを折りたたむには、開始タグまたは終了タグのどちらかに挿入ポイントを置いてから、[フルタグをたたむ] ボタンをクリックする必要があります。

開始タグまたは終了タグの内側に挿入ポイントを置き、Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら [フルタグをたたむ] ボタンをクリックすると、フルタグの外側のコードも折りたたむことができます。さらに、Ctrl キーを押しながらこのボタンをクリックすると、スマート折りたたみ機能が無効になり、Dreamweaver は、フルタグの外側で折りたたむコード部分を調整しなくなります。詳細については、309 ページの「コードの折りたたみについて」を参照してください。

選択範囲をたたむ 選択されているコード範囲を折りたたみます。

Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら [選択範囲をたたむ] ボタンをクリックしても、選択範囲の外側のコードを折りたたむことができます。さらに、Ctrl キーを押しながらこのボタンをクリックすると、スマート折りたたみ機能が無効になり、Dreamweaver から操作することなく、選択範囲をすべて折りたたむことができます。詳細については、309 ページの「コードの折りたたみについて」を参照してください。

すべて展開 折りたたまれているコードをすべて展開表示します。

親タグを選択 挿入ポイントを置いた行のコード部分と、それを囲む開始タグおよび終了タグを選択します。このボタンを繰り返しクリックし、開始タグと終了タグが正しく対応している場合は、最終的に Dreamweaver により、最も外側の html タグと /html タグが選択されます。

カッコ内を選択 挿入ポイントを置いた行のコード部分と、それを囲むカッコ、波カッコ、または角カッコが選択されます。このボタンを繰り返しクリックし、開始と終了のカッコが正しく対応している場合は、ドキュメントの最も外側のカッコ、波カッコ、または角カッコが、最終的に Dreamweaver によって選択されます。

行番号 コードの各行の先頭に表示する行番号の表示 / 非表示を切り替えることができます。

無効なコードをハイライト表示 無効なコードを黄色でハイライト表示します。

コメントの適用 選択したコードの両側にコメントタグを挿入するか、新しいコメントタグを開きます。

- [HTML コメントの適用] を選択すると、選択したコードが <! で囲まれます。-- と --!> で囲むか、コードが選択されていない場合は新しいコメントタグを表示します。
- [// コメントの適用] を選択すると、選択した CSS または JavaScript コードの各行の先頭に // タグが挿入されます。コードが選択されていない場合は、// タグが 1 つだけ挿入されます。
- [/* */ コメントの適用] を選択すると、選択した CSS または JavaScript コードが /* と */ で囲まれます。
- [' コメントの適用] は Visual Basic コード向けのものです。これを選択すると、Visual Basic スクリプトの各行の先頭に一重引用符が挿入されます。コードが選択されていない場合は、挿入ポイントの場所に一重引用符が挿入されます。
- ASP、ASP.NET、JSP、PHP、または ColdFusion ファイルを操作している状態で [サーバーコメントの適用] オプションを選択すると、Dreamweaver により正しいコメントタグが自動的に検出され、選択範囲に対して適用されます。

コメントの削除 選択されているコードからコメントタグを削除します。ネストされたコメントを含む選択範囲の場合、外側のコメントタグのみが削除されます。

折り返しタグ 選択したコードを、クイックタグ編集で選択したタグで囲みます。

最近使用したスニペット 最近使用したコードスニペットを [スニペット] パネルから挿入できます。詳細については、301 ページの「コードスニペットの操作」を参照してください。

CSS を移動または変換 CSS を別の場所に移動するか、インライン CSS を CSS ルールに変換できます。詳細については、132 ページの「CSS ルールの移動」および 133 ページの「インライン CSS の CSS ルールへの変換」を参照してください。

コードのインデント 選択範囲を右に移動します。

コードのインデント解除 選択範囲を左に移動します。

ソースコードのフォーマット 以前に指定したコードフォーマットが選択したコードに適用されます。コードが選択されていない場合は、ページ全体に適用されます。[ソースコードのフォーマット] ボタンから [コードフォーマット設定] を選択して、コードフォーマットを素早く設定することも、[タグライブラリの編集] を選択してタグライブラリを編集することもできます。

コーディングツールバーで使用できるボタンの数は、ドキュメントウィンドウのコードビューのサイズによって異なります。使用できるボタンをすべて表示するには、コードビューウィンドウのサイズを変更するか、コーディングツールバーの下部にある縮小の三角形をクリックします。

コーディングツールバーを編集してさらに多くのボタン ([ワードラップ]、[非表示の文字]、[自動インデント] など) を表示したり、使用しないボタンを非表示にすることもできます。ただし、そのためには、ツールバーを生成する XML ファイルを編集する必要があります。詳細については、『**Dreamweaver** 拡張ガイド』を参照してください。

注意：非表示の文字を表示するオプションは、[表示] メニューから使用できます ([表示]-[コードビューオプション]-[非表示の文字])。このオプションは、コーディングツールバーの初期設定のボタンではありません。

関連項目

312 ページの「タグおよびカッコの対応の検証」

19 ページの「コーディングツールバーの概要」

26 ページの「ツールバーの表示」

[挿入] バーでのコードの挿入

1 コードに挿入ポイントを置きます。

2 [挿入] バー内の適切なカテゴリを選択します。

3 [挿入] バー内のボタンをクリックします。または、[挿入] バーのポップアップメニューからアイテムを選択します。

アイコンをクリックすると、直ちにコードがページに表示されるか、コードを完成するためにさらに情報を求めるダイアログボックスが表示されます。

各ボタンの機能については、ボタンの上にポインタを移動すると、ツールヒントが表示されます。[挿入] バーで使用できるボタンの数と種類は、現在のドキュメントタイプによって異なります。また、コードビューとデザインビューのどちらを使用しているかによっても異なります。

[挿入] バーには使用頻度の高いタグが表示されます。すべてのタグが表示されるわけではありません。より多くの中からタグを選択するには、[タグ選択] ダイアログボックスを使用してください。

関連項目

18 ページの「[挿入] バーの概要」

[タグ選択] ダイアログボックスでのタグの挿入

[タグ選択] ダイアログボックスを使用すると、Dreamweaver タグライブラリ内の任意のタグをページに挿入できます。ColdFusion および ASP.NET のタグライブラリのタグも挿入できます。

1 コード内に挿入ポイントを置き、右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[タグの挿入] を選択します。

[タグ選択] ダイアログボックスが表示されます。左側のペインには、サポートされているタグのライブラリのリストが表示され、右側のペインには、選択したタグライブラリフォルダ内の個別のタグが表示されます。

2 タグライブラリからタグのカテゴリを選択するか、カテゴリを展開してサブカテゴリを選択します。

3 右側のペインからタグを選択します。

4 [タグ選択] ダイアログボックス内でタグのシンタックスおよび使い方を表示するには、[タグ情報] ボタンをクリックします。タグに関する情報がある場合は、表示されます。

5 [リファレンス] パネルで同じタグ情報を表示するには、[?] アイコンをクリックします。タグに関する情報がある場合は、表示されます。

6 選択したタグをコードに挿入するには、[挿入] をクリックします。

タグが山形カッコで囲まれて右側のペインに表示される場合 (<title></title> など)、そのタグには追加情報が不要なため、タグはすぐにドキュメントの挿入ポイントに挿入されます。

タグに追加情報が必要な場合は、タグエディタが表示されます。

7 タグエディタが表示されたら、情報を追加して [OK] をクリックします。

8 [閉じる] ボタンをクリックします。

関連項目

326 ページの「Dreamweaver のタグライブラリについて」

タグエディタでのタグの編集

タグエディタを使用して、タグの属性を表示、指定、および編集します。

1 コードビュー内のタグまたはデザインビュー内のオブジェクトを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、ポップアップメニューから [タグの編集] を選択します。このダイアログボックスの内容は、選択したタグによって異なります。

2 タグの属性を指定または編集して、[OK] をクリックします。

タグエディタ内でタグに関する詳細を表示するには、[タグ情報] をクリックします。

コードブロックのインデント

コードビューまたはコードインスペクタ内でコードを記述および編集する際には、選択したコードブロックまたはコード行のインデントレベルを、1 タブずつ右または左へ移動することによって変更できます。

選択したコードブロックのインデント

- Tab キーを押します。
- [編集]-[コードのインデント] を選択します。

選択したコードブロックのインデントの解除

- Shift+Tab キーを押します。
- [編集]-[コードのインデント解除] を選択します。

コードのコピーとペースト

1 コードビューまたは他のアプリケーションからコードをコピーします。

2 コードビュー内に挿入ポイントを置き、[編集]-[ペースト] を選択します。

関連項目

310 ページの「折りたたまれたコード部分のペーストと移動」

HTML コメントの挿入

コメントとは、コードの説明や関連情報などを記述するために HTML コード内に挿入する説明テキストのことです。コメントのテキストはコードビューでのみ表示され、ブラウザには表示されません。

挿入ポイントへのコメントの挿入

❖ [挿入]-[コメント] を選択します。

コードビューにコメントタグが挿入され、そのタグの中央に挿入ポイントが配置されます。コメントを入力します。

デザインビューでは、[コメント] ダイアログボックスが表示されます。コメントを入力し、[OK] をクリックします。

デザインビューでのコメントマーカーの表示

❖ [表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。

環境設定の [不可視エレメント] で [コメント] オプションを選択しておいてください。このオプションが選択されていない場合は、コメントマーカーは表示されません。

既存のコメントの編集

- コードビューで、コメントを検索してそのテキストを編集します。
- デザインビューで、コメントマーカーを選択し、プロパティインスペクタで該当コメントのテキストを編集してから、ドキュメントウィンドウ内をクリックします。

JavaScript または VBScript の関数へのジャンプ

コードビューでもコードインスペクタでも、コードに含まれる JavaScript または VBScript のすべての関数のリストを表示し、任意の関数にジャンプすることができます。

1 コードビュー ([表示]-[コード]) またはコードインスペクタ ([ウィンドウ]-[コードインスペクタ]) でドキュメントを表示します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- コードビュー内の任意の位置で右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [関数] サブメニューを選択します。

デザインビューでは、この関数のサブメニューが表示されません。

コード内で使用されているすべての JavaScript 関数または VBScript 関数がサブメニューに表示されます。

関数をアルファベット順に表示するには、コードビュー内で Ctrl キーを押しながら右クリック (Windows) または Option+Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[関数] サブメニューを選択します。

- コードインスペクタでは、ツールバーの [コードのナビゲーション] ボタン ({ }) をクリックします。

3 関数名を選択し、コード内のその関数にジャンプします。

コード内のタグ、属性、またはテキストの検索

特定のタグ、属性、属性値を検索できます。たとえば、alt 属性がないすべての img タグを検索することができます。

また、一連のコンテナタグの内側または外側にある特定のテキスト文字列を検索することもできます。たとえば、title タグに含まれている無題という語句を検索すると、サイト上にあるすべての無題ページを検索できます。

1 検索対象とするドキュメントを開きます。複数のドキュメントまたは 1 つのフォルダを検索する場合は、[ファイル] パネルで選択します。

2 [編集]-[検索および置換] を選択します。

3 検索対象のファイルを指定してから、検索の種類と検索するテキストまたはタグを指定します。置換するテキストを指定することもできます。次に、[検索] ボタンまたは [置換] ボタンをクリックします。

4 [閉じる] ボタンをクリックします。

5 [検索および置換] ダイアログボックスを表示せずに再検索するには、F3 (Windows) を押すか、Command キーを押しながら G キー (Macintosh) を押します。

関連項目

291 ページの「正規表現について」

219 ページの「テキストの検索と置換」

検索パターンの保存と再利用

検索パターンを保存して後から再利用できます。

関連項目

291 ページの「正規表現について」

219 ページの「テキストの検索と置換」

検索パターンの保存

1 [検索および置換] ダイアログボックス ([編集]-[検索および置換]) で、検索のパラメータを設定します。

2 [クエリーの保存] ボタン (ディスクアイコン) をクリックします。

3 表示されたダイアログボックスで、クエリーを保存するフォルダに移動します。次に、クエリーを識別するためのファイル名を入力して、[保存] をクリックします。

たとえば、alt 属性のない img タグの検索が検索パターンに含まれている場合は、クエリーに img_no_alt.dwr などの名前を付けることができます。

注意：保存したクエリーのファイル名には、拡張子 .dwr が付けられます。古いバージョンの Dreamweaver で保存したクエリーの場合は、拡張子 .dwq が付いていることもあります。

検索パターンの再利用

1 [編集]-[検索および置換] を選択します。

2 [クエリーのロード] ボタン (フォルダアイコン) をクリックします。

3 クエリーが保存されているフォルダに移動します。クエリーファイルを選択して、[開く] をクリックします。

4 [次を検索]、[すべて検索]、[置換]、[すべて置換] のいずれかをクリックして、検索を始めます。

選択したコード範囲の変更

1 コードビューでコードを選択し、右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) します。

2 [選択] サブメニューを選択し、必要に応じて以下のオプションを選択します。

選択範囲をたたむ 選択されているコード範囲を折りたたみます。

選択範囲以外をたたむ 選択されているコード範囲の外側部分を折りたたみます。

選択範囲を展開 選択されているコード範囲を展開表示します。

フルタグをたたむ 1 組の開始タグと終了タグで囲まれているコード部分 (<table> と </table> の間のコード部分など) を折りたたみます。

選択範囲以外のフルタグをたたむ 1 組の開始タグと終了タグの外側のコード部分 (<table> と </table> の外側のコード部分など) を折りたたみます。

すべて展開 折りたたまれているコードをすべて展開表示します。

HTML コメントの適用 選択したコードが <! で囲まれます。-- と --!> で囲むか、コードが選択されていない場合は新しいコメントタグを表示します。

/* */ コメントの適用 選択した CSS または JavaScript コードが /* および */ で囲まれます。

// コメントの適用 選択した CSS または JavaScript コードの各行の先頭に // タグが挿入されます。コードが選択されていない場合は、// タグが 1 つだけ挿入されます。

' コメントの適用 Visual Basic スクリプトの各行の先頭に一重引用符が挿入されます。コードが選択されていない場合は、挿入ポイントの場所に一重引用符が挿入されます。

サーバーコメントの適用 選択されているコードを囲みます。ASP、ASP.NET、JSP、PHP、または ColdFusion ファイルを操作している状態で [サーバーコメントの適用] オプションを選択すると、Dreamweaver により正しいコメントタグが自動的に検出され、選択範囲に対して適用されます。

バックスラッシュコメントハックの適用 選択されている CSS コードをコメントタグで囲み、そのコードが Internet Explorer 5 for Macintosh で無視されるようにします。

Caio Hack の適用 選択されている CSS コードをコメントタグで囲み、そのコードが Netscape Navigator 4 で無視されるようにします。

コメントの削除 選択されているコードからコメントタグを削除します。ネストされたコメントを含む選択範囲の場合、外側のコメントタグのみが削除されます。

バックスラッシュコメントハックの削除 選択されている CSS コードからコメントタグを削除します。ネストされたコメントを含む選択範囲の場合、外側のコメントタグのみが削除されます。

Caio Hack の削除 選択されている CSS コードからコメントタグを削除します。ネストされたコメントを含む選択範囲の場合、外側のコメントタグのみが削除されます。

タブをスペースに変換 選択範囲内の各タブを、[コードフォーマット] 環境設定の [タブサイズ] で設定されている数のスペースに変換します。詳細については、295 ページの「コードフォーマットの変更」を参照してください。

スペースをタブに変換 選択範囲内の一連のスペースをタブに変換します。タブサイズと等しい数のスペースの並びが 1 つのタブに変換されます。

インデント 選択範囲を右にインデントします。詳細については、305 ページの「コードブロックのインデント」を参照してください。

インデント解除 選択範囲を左に移動します。

すべてのタグを削除 選択範囲内のすべてのタグを削除します。

選択箇所をテーブルに変換 属性のない table タグで選択範囲を囲みます。

改行を追加 選択範囲の各行の末尾に br タグを追加します。

大文字に変換 選択範囲内のすべての文字 (タグ、属性名、属性値を含む) を大文字に変換します。

小文字に変換 選択範囲内のすべての文字 (タグ、属性名、属性値を含む) を小文字に変換します。

タグを大文字に変換 選択範囲内のすべてのタグ、属性名、属性値を大文字に変換します。

タグを小文字に変換 選択範囲内のすべてのタグ、属性名、属性値を小文字に変換します。

関連項目

309 ページの「コード部分の折りたたみと展開」

言語リファレンス資料の使用

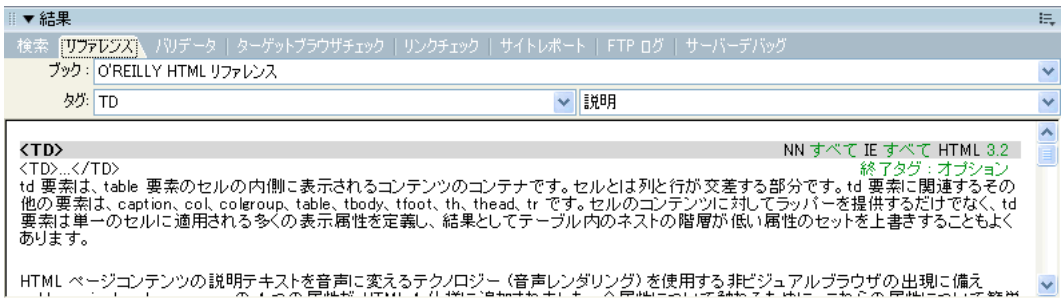
[リファレンス] パネルには、マークアップ言語、プログラミング言語、CSS スタイルに関するクイックリファレンスツールが用意されています。このツールは、コードビュー (またはコードインスペクタ) で作業中の特定のタグ、オブジェクト、スタイルに関する情報を提供します。[リファレンス] パネルには、ドキュメントにペーストできるコード例も示されます。

[リファレンス] パネルを開く

1 コードビューで、以下のいずれかの操作を行います。

- タグ、属性、またはキーワードを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [リファレンス] を選択します。
- タグ、属性、またはキーボードに挿入ポイントを置き、Shift+F1 キーを押します。

[リファレンス] パネルが開き、クリックしたタグ、属性、またはキーワードに関する情報が表示されます。



2 [リファレンス] パネルに表示されるテキストのサイズを変更するには、パネルの右上にある小さな矢印で示されたオプションメニューから、[フォント大]、[フォント中]、または [フォント小] を選択してください。

コード例のドキュメントへのペースト

1 リファレンスコンテンツ内のコード例をクリックします。

コード例全体がハイライト表示されます。

2 [編集]-[コピー] を選択し、コードビューでドキュメントにコード例をペーストします。

[リファレンス] パネルでのリファレンスコンテンツの参照

1 他の書籍を参照して、タグ、オブジェクト、スタイルに関する情報を表示するには、[ブック] ポップアップメニューから該当する書籍を選択します。

2 特定の項目に関する情報を表示するには、[タグ]、[オブジェクト]、[スタイル]、または [CFML] ポップアップメニュー (選択した書籍によって異なります) から該当項目を選択します。

3 選択した項目の属性情報を表示するには、[タグ]、[オブジェクト]、[スタイル]、または [CFML] ポップアップメニューの横にあるポップアップメニューから属性を選択します。

このメニューには、選択した項目の属性のリストが含まれています。初期設定では、選択した項目の説明が表示されるように、[説明] が選択されます。

コードの印刷

コードを印刷して、オフラインで編集、アーカイブ、配布できます。

1 コードビューでページを開きます。

2 [ファイル]-[コードの印刷] を選択します。

3 印刷のオプションを指定し、[OK] (Windows) または [プリント] (Macintosh) をクリックします。

コードの折りたたみ

コードの折りたたみについて

コードの一部を折りたたむか展開表示することで、スクロールバーを使用せずにドキュメントの異なる部分を表示できます。たとえば、ページの下部にある div タグに適用される head タグ内のすべての CSS ルールを表示する場合は、head タグと div タグに囲まれているすべてのコードを折りたたんで、両方のコード部分を一度に表示できます。コード部分はデザインビューとコードビューの両方で選択できますが、コードを折りたためるのはコードビューだけです。

注意：Dreamweaver のテンプレートから作成したファイルの場合、そのテンプレートファイル (.dwt) 内でコードが折りたたまれていても、すべてのコードが完全に展開された状態で表示されます。

関連項目

310 ページの「折りたたまれたコード部分のペーストと移動」

302 ページの「コーディングツールバーでのコードの挿入」

311 ページの「コードのクリーンアップ」

コード部分の折りたたみと展開

コードを選択すると、選択したコード範囲の横に一連の折りたたみボタン (Windows ではマイナス記号、Macintosh では縦方向の三角形) が表示されます。これらのボタンをクリックして、選択範囲の折りたたみと展開を行います。コードが折りたたまれると、折りたたみボタンは展開ボタン (Windows ではプラス記号、Macintosh では横方向の三角形) に変わります。

実際に折りたたまれるコード部分が、選択した範囲とは異なる場合があります。Dreamweaver では、" スマート折りたたみ " という機能により、最も一般的な範囲や、コードが見やすくなるような範囲が折りたたまれます。たとえば、インデントされたタグを選択するときに、タグの前にあるインデント用のスペースを含めて選択した場合でも、Dreamweaver によってこうしたスペースが折りたたまれることはありません。一般的に、このような場合はインデントが維持された方が望ましいためです。Dreamweaver でスマート折りたたみを無効にして、選択したとおりの範囲を折りたたむには、Ctrl キーを押しながらコードを折りたたみます。

また、折りたたまれたコード部分に、エラーまたは特定のブラウザでサポートされていないコードが含まれている場合は、そのコード部分に警告アイコンが表示されます。

Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら、いずれかの折りたたみボタン、またはコーディングツールバーの [選択範囲をたたむ] ボタンをクリックする方法でも、コードを折りたたむことができます。

1 一部のコードを選択します。

2 [編集]-[コードをたたむ] を選択し、いずれかのオプションを選択します。

関連項目

307 ページの「選択したコード範囲の変更」

302 ページの「コーディングツールバーでのコードの挿入」

折りたたまれたコード部分の選択

❖ コードビューで、折りたたまれたコード部分をクリックします。

注意：折りたたまれたコード部分の一部をデザインビューで選択すると、そのコード部分が自動的にコードビューで展開表示されます。デザインビューでコード部分全体を選択した場合は、そのコード部分はコードビューでたたまれたままになります。

折りたたまれたコード部分を展開せずに表示

❖ 折りたたまれたコード部分の上にマウスポインタを置きます。

キーボードショートカットによるコードの折りたたみと展開

❖ 以下のキーボードショートカットを使用することもできます。

コマンド	Windows	Macintosh
選択範囲をたたむ	Control+Shift+C	Command+Shift+C
選択範囲以外をたたむ	Control+Alt+C	Command+Alt+C
選択範囲を展開	Ctrl+Shift+E	Command+Shift+E
フルタグをたたむ	Ctrl+Shift+J	Command+Shift+J
選択範囲以外のフルタグをたたむ	Control+Alt+J	Command+Alt+J
すべて展開	Control+Alt+E	Command+Alt+E

折りたたまれたコード部分のペーストと移動

折りたたまれたコード部分をコピー & ペーストすることや、ドラッグして移動することができます。

関連項目

302 ページの「コーディングツールバーでのコードの挿入」

311 ページの「コードのクリーンアップ」

折りたたまれたコード部分のコピー & ペースト

1 折りたたまれたコード部分を選択します。

2 [編集]-[コピー] を選択します。

3 コードをペーストする部分に挿入ポイントを置きます。

4 [編集]-[ペースト] を選択します。

注意：他のアプリケーションにペーストすることはできますが、コード部分の折りたたまれた状態は維持されません。

折りたたまれたコード部分のドラッグ

1 折りたたまれたコード部分を選択します。

2 選択範囲を新しい場所にドラッグします。

選択範囲のコピーをドラッグするには、Ctrl キー (Windows) または Alt キー (Macintosh) を押しながらドラッグします。

注意：他のドキュメントにドラッグすることはできません。

コードの最適化およびデバッグ

バリデータによるコーディングエラーの検出

Dreamweaver のバリデータを使用すると、コード内のタグやシンタックスエラーを簡単に検出できます。バリデータの検証対象とするタグベース言語、検証する特定の問題、およびバリデータが報告するエラーのタイプを指定できます。

注意：doctype を明示的に指定するドキュメントを検証するときは、バリデータの環境設定は無視されます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [バリデータ] を選択します。

3 バリデートの基準とするタグライブラリを選択します。

同じタグライブラリ (言語) の複数のバージョンを選択することはできません。たとえば、HTML 4.0 を選択した場合は、HTML 3.2 や HTML 2.0 を同時に選択することはできません。バリデートの基準とする最も古いバージョンを選択してください。たとえば、ドキュメントに有効な HTML 2.0 コードが含まれている場合は、それは HTML 4.0 コードとしても有効です。

4 [オプション] をクリックし、選択したライブラリのオプションを設定します。

5 バリデータが報告するエラーと警告のタイプについて [表示] オプションを選択します。

6 バリデータでチェックする項目を選択します。

テキスト内の引用符 ドキュメントのテキスト内で引用符が使用されるたびに、HTML ドキュメントのテキスト内では引用符ではなく " エンティティを使用する必要があるという警告が、Dreamweaver によって表示されます。

テキスト内のエンティティ Dreamweaver により、特定の文字 (アンパサンド (&)、小なり記号 (<)、および大なり記号 (>)) を、これらに対応する HTML エンティティに変更するよう推奨するメッセージが表示されます。

7 [OK] をクリックして [バリデータオプション] ダイアログボックスを閉じ、もう一度 [OK] をクリックして環境設定を確定します。

関連項目

313 ページの「タグの検証」

コードのクリーンアップ

空のタグの削除、ネストされた font タグの結合、煩雑で読みにくい HTML コードや XHTML コードの改良を自動的に実行できます。

Microsoft Word 文書から生成された HTML をクリーンアップする方法については、72 ページの「既存のドキュメントを開いて編集」を参照してください。

1 ドキュメントを開きます。

- ドキュメントが HTML の場合は、[コマンド]-[HTML のクリーンアップ] を選択します。
- ドキュメントが XHTML の場合は、[コマンド]-[XHTML のクリーンアップ] を選択します。

XHTML ドキュメントに対して [XHTML のクリーンアップ] コマンドを使用すると、XHTML シンタックスエラーを修正したり、タグ属性を小文字にすることができます。また、タグに必要な属性が欠けている場合は、それを追加したり、レポートすることもできます。さらに、HTML クリーンアップ操作を実行できます。

2 表示されたダイアログボックスで、任意のオプションを選択して [OK] をクリックします。

注意：ドキュメントのサイズ、および選択したオプションの数により、クリーンアップが終了するまでに数秒かかる場合があります。

削除 : 空のタグ 間にコンテンツを挟んでいないタグをすべて削除します。たとえば、 および は空のタグと見なされて削除されますが、some text の タグは削除されません。

削除 : 重複してネストされたタグ 無駄に重複しているタグをすべて削除します。たとえば、This is what I really wanted to say というコードでは、really という語を囲む **b** タグは重複しているため削除されます。

削除 : Dreamweaver 以外の HTML コメント Dreamweaver によって挿入された以外のコメントをすべて削除します。たとえば、<!--begin body text--> は削除されますが、<!-- TemplateBeginEditable name="doctitle" --> は、テンプレートの編集可能領域の先頭を示す Dreamweaver のコメントであるため削除されません。

削除 : Dreamweaver の特殊マークアップ テンプレートとライブラリ項目の更新時にドキュメントを自動更新するため、Dreamweaver によってコードに追加されたコメントを削除します。テンプレートベースのドキュメントでコードをクリーンアップする際にこのオプションをオンにすると、ドキュメントがテンプレートから切り離されます。詳細については、394 ページの「テンプレートからのドキュメントの切り離し」を参照してください。

削除 : 特定のタグ このオプションの横にあるテキストボックスに指定したタグを削除します。外部のビジュアルエディタで挿入したカスタムタグや、Web サイト上に表示しない blink などのタグを削除する場合は、このオプションを使用します。複数のタグを入力するときは、font,blink のように、それぞれのタグをカンマ (,) で区切ってください。

可能な場合ネストされた タグを結合 同じ範囲のテキストが複数の font タグによって制御されている場合、これらのタグを結合します。たとえば、big red は big red に変更されます。

完了時にログを表示 クリーンアップ終了後、ドキュメントの変更点の詳細を直ちにアラートボックスに表示します。

関連項目

295 ページの「コードフォーマットの変更」

298 ページの「コードカラーリングの設定」

タグおよびカッコの対応の検証

ページ内のタグ、カッコ (( ))、波カッコ ({ })、角カッコ ([ ]) が正しく対応しているかどうかを検証できます。つまり、すべての開始タグおよび開始カッコに対して、対応する終了タグや閉じカッコがあるかどうか、逆に、開始タグのない終了タグがないかを検証できます。

タグの対応の確認

1 コードビューでドキュメントを開きます。

2 チェック対象のネストされたコード内に挿入ポイントを置きます。

3 [編集]-[親タグを選択] を選択します。

コード内の対応するタグ (およびその内容) が選択されます。Dreamweaver では、タグが正しく対応している場合、[編集]-[親タグを選択] の選択を続けると、最終的に最も外側の html タグと /html タグが選択されます。

カッコ、波カッコ、または角カッコの対応の確認

1 コードビューでドキュメントを開きます。

2 チェック対象のコード内に挿入ポイントを置きます。

3 [編集]-[カッコ内を選択] を選択します。

対応しているカッコ、波カッコ、または角カッコで囲まれるコードがすべて選択されます。[編集]-[カッコ内を選択] をもう一度選択すると、新規選択範囲を囲むカッコ、波カッコ、または角カッコ内のコードがすべて選択されます。

ブラウザの互換性のチェック

ブラウザ互換性チェック (BCC) 機能は、ブラウザ表示上のバグを発生させる可能性がある HTML と CSS の組み合わせを見つける場合に役立ちます。この機能により、ターゲットブラウザではサポートされていない CSS のプロパティや値がドキュメント内のコードにあるかどうかもテストできます。

注意：この機能は、以前のターゲットブラウザチェック機能に取って代わるものですが、以前の機能の CSS に関する機能性を維持しています。

関連項目

135 ページの「ブラウザ間の CSS レンダリングの問題の確認」

タグの検証

現在のドキュメントや選択したタグに、タグまたはシンタックス上のエラーがないかどうかを確認できます。Dreamweaver では、HTML、XHTML、CFML (ColdFusion Markup Language)、JSP (JavaServer Pages)、WML (Wireless Markup Language)、XML など、多数の言語で記述されたドキュメントを検証できます。

対象とするタグベース言語の指定、検証する問題の指定、およびレポートするエラーのタイプの指定など、バリデータの環境設定を設定することができます。詳細については、「バリデータの環境設定」を参照してください。

注意：ドキュメントのアクセシビリティを検証するには、100 ページの「サイトのテスト」を参照してください。

1 次のいずれかの操作を実行します。

- XML または XHTML ファイルの場合は、[ファイル]-[ページのチェック]-[XML としてバリデート] を選択します。
- それ以外のファイルの場合は、[ファイル]-[ページのチェック]-[マークアップのバリデート] を選択します。

[結果] パネルの [バリデータ] タブに、エラーや警告がないことを示すメッセージが表示されます。シンタックスエラーが見つかった場合は、それらのエラーが一覧表示されます。

2 エラーメッセージをダブルクリックすると、ドキュメントのエラーがハイライト表示されます。

3 レポートを XML ファイルとして保存するには、[レポートの保存] ボタンをクリックします。

4 プライマリブラウザ (レポートを印刷できる) にレポートを表示するには、[レポートの参照] ボタンをクリックします。

XHTML 準拠ページの作成

新しいページを作成する際に、そのページを XHTML 準拠にすることができます。また、既存の HTML ドキュメントを XHTML 準拠にすることもできます。

関連項目

289 ページの「Dreamweaver によって生成された XHTML コードについて」

XHTML 準拠のドキュメントの作成

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 作成するページのカテゴリとタイプを選択します。

3 ダイアログボックスの右端にある [DocType] ポップアップメニューから、いずれかの XHTML ドキュメントタイプ定義 (DTD) を選択して [作成] をクリックします。

たとえば、ポップアップメニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 準拠にできます。

注意：すべてのタイプのドキュメントを XHTML 準拠にできるわけではありません。

初期設定による XHTML 準拠ドキュメントの作成

1 [編集]-[環境設定] または [Dreamweaver]-[環境設定] (Mac OS X) を選択し、[新規ドキュメント] カテゴリを選択します。

2 初期設定ドキュメントを選択し、[初期設定ドキュメントタイプ (DTD)] ポップアップメニューからいずれかの XHTML ドキュメントタイプ定義を選択して [OK] をクリックします。

たとえば、ポップアップメニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 準拠にできます。

既存の HTML ドキュメントの XHTML 対応化

1 ドキュメントを開き、次のいずれかの操作を行います。

- フレームのないドキュメントの場合は、[ファイル]-[変換] を選択し、いずれかの XHTML ドキュメントタイプ定義を選択します。

たとえば、ポップアップメニューから [XHTML 1.0 Transitional] または [XHTML 1.0 Strict] を選択すると、HTML ドキュメントを XHTML 準拠にできます。

- フレームのあるドキュメントの場合は、フレームを選択してから [ファイル]-[変換] を選択し、いずれかの XHTML ドキュメントタイプ定義を選択します。

2 ドキュメント全体を変換する場合は、この手順をすべてのフレームおよびフレームセットドキュメントに対して行います。

注意：テンプレートから作成したドキュメントは、そのテンプレートと同じ言語で維持する必要があるため変換できません。たとえば、XHTML テンプレートに基づくドキュメントは XHTML のまま維持する必要があります。同様に、XHTML に準拠しない HTML テンプレートに基づくドキュメントは HTML で維持する必要があり、XHTML などの他の言語に変換することはできません。

ColdFusion デバッガの使用 (Windows のみ)

Dreamweaver のテストサーバーとして ColdFusion を使用して ColdFusion ページを開発する場合は、Dreamweaver 内から ColdFusion のデバッグ情報を参照できます。

注意：この機能は、Macintosh ではサポートされていません。Macintosh で開発する場合は、[ブラウザでプレビュー] (F12) を使用して別のブラウザで ColdFusion ページを開くことができます。ページにエラーがある場合は、ページの下部にエラーの考えられる原因についての情報が表示されます。

ColdFusion MX 6.1 以前を実行している場合は、デバッグを開始する前に、ColdFusion Administrator でデバッグ設定が有効になっていることを確認してください。ColdFusion MX 7 以降を実行している場合は、Dreamweaver によりこの設定は自動的に有効になります。

また、Dreamweaver テストサーバーで ColdFusion が実行されているかも確認する必要があります。詳細については、45 ページの「テストサーバーの設定」を参照してください。

内部ブラウザにページが表示されるたびに、デバッグ情報が更新されるようにするには、ファイルが要求されるたびに、Internet Explorer がファイルの新しいバージョンをチェックするようにします。Internet Explorer で、[ツール]-[インターネットオプション] を選択し、[全般] タブを選択して [インターネット一時ファイル] の [設定] ボタンをクリックします。[設定] ダイアログボックスで、[ページを表示するごとに確認する] オプションを選択します。

1 Dreamweaver で ColdFusion ページを開きます。

2 ドキュメントツールバーの [サーバーのデバッグ] アイコン をクリックします。

Dreamweaver は、ColdFusion サーバーにページを要求し、取得したページを内部の Internet Explorer ブラウザウィンドウに表示します。ページにエラーがある場合は、ページの下部に、考えられるエラーの原因が表示されます。

同時に、[サーバーデバッグ] パネルが開きます。パネルには、ページを表示するためにサーバーが処理したすべてのページ、ページで実行されたすべての SQL クエリー、およびすべてのサーバー変数とその値など、有用な情報が多く表示されます。また、実行回数の概要も示されます。

3 [例外] カテゴリが [サーバーデバッグ] パネルに表示された場合は、[+] アイコンをクリックしカテゴリを展開します。

問題が起こった場合、またはページに問題があった場合は、[例外] カテゴリが表示されます。カテゴリを展開し、問題の詳細を確認します。

4 [サーバーデバッグ] パネルの [場所] 列でページの URL をクリックして、そのページをコードビューで開き、コードを修正します。

問題のページが Dreamweaver によって検出された場合は、問題のある行がハイライト表示された状態でページが開きます。問題のページが Dreamweaver によって検出できなかった場合は、そのページの場所をたずねるメッセージが表示されます。

5 エラーを修正し、ファイルをサーバーに保存します。次に、ブラウザをクリックします。

Dreamweaver により、ページが内部ブラウザに再表示され、[サーバーデバッグ] パネルが更新されます。ページに問題がなくなると、[例外] カテゴリはパネルに表示されなくなります。

6 デバッグモードを終了するには、コードビュー ([表示]-[コード]) またはデザインビュー ([表示]-[デザイン]) に切り替えます。

関連項目

631 ページの「ColdFusion コンポーネントの使用 (ColdFusion)」

デザインビューでのコードの編集

デザインビューでのコードの編集について

Dreamweaver では、基になるソースコードを記述しなくても、Web ページを視覚的に作成して編集することができます。ただし、作成した Web ページの細かな調整やトラブルシューティングを行うために、コードを直接編集する必要が生じる場合もあります。Dreamweaver では、デザインビューで作業しながら一部のコードを編集することができます。

このセクションは、主にデザインビューで作業しながら、コードも素早く確認したいというユーザーを対象にしています。

デザインビューでの子タグの選択

デザインビューで子タグを含むオブジェクト (たとえば HTML テーブル) を選択した状態で [編集]-[子タグ] を選択すると、そのオブジェクトの最初の子タグを素早く選択できます。

注意：このコマンドは、デザインビューのみで有効になります。

たとえば、<table> タグには、通常 <tr> という子タグがあります。タグセレクタで <table> タグを選択する場合、[編集]-[子タグ] を選択すると、テーブルの最初の行を選択できます。Dreamweaver によって、タグセレクタで最初の <tr> タグが選択されます。<tr> タグには子タグ (<td> タグ) があるので、再度 [編集]-[子タグ] を選択すると、テーブルの最初の子セルが選択されます。

プロパティインスペクタでのコードの編集

プロパティインスペクタを使用して、ページ上のテキストやオブジェクトの属性を調べたり、編集することができます。一般に、プロパティインスペクタに表示されるプロパティはタグの属性と対応しています。プロパティインスペクタでプロパティを変更すると、通常、それに対応する属性をコードビューで変更した場合と同じ結果が得られます。

注意：タグインスペクタおよびプロパティインスペクタのどちらでも、タグの属性を表示および編集できます。タグインスペクタでは、タグに関連付けられたすべての属性を表示および編集できます。プロパティインスペクタには一部の最も一般的な属性しか表示されませんが、属性値の変更機能がタグインスペクタよりも充実しており、特定のタグに対応していない特定のオブジェクト (テーブル列など) を編集することができます。

1 ページ上でテキストをクリックするか、オブジェクトを選択します。

ドキュメントウィンドウの下に、テキストまたはオブジェクトのプロパティインスペクタが表示されます。プロパティインスペクタが表示されない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択します。

2 プロパティインスペクタで、属性を変更します。

プロパティインスペクタでの CFML の編集

プロパティインスペクタを使用して、デザインビューで ColdFusion マークアップを調べたり、修正したりすることができます。

1 プロパティインスペクタで [属性] ボタンをクリックして、タグの属性を編集するか、または新しい属性を追加します。

2 開始タグと終了タグの間にコンテンツが含まれている場合は、[コンテンツ] ボタンをクリックして、そのコンテンツを編集します。

[コンテンツ] ボタンは、選択されたタグが空のタグでない場合 (つまり、開始タグと終了タグが両方ともある場合) のみ表示されます。

3 タグに条件式が含まれている場合は、[式] ボックスでその条件式を変更してください。

タグインスペクタでの属性の変更

タグインスペクタを使用して、属性や属性値を編集または追加します。タグインスペクタでは、他の IDE (Integrated Development Environment: 統合開発環境) と同じようなプロパティシートを使用してタグとオブジェクトを編集できます。

1 ドキュメントウィンドウで、以下のいずれかの操作を行います。

- コードビュー (またはコードインスペクタ) で、タグの名前またはそのコンテンツをクリックします。
- デザインビューで、オブジェクトを選択するか、タグセレクタ内のタグを選択します。

2 タグインスペクタを開き ([ウィンドウ]-[タグインスペクタ])、[属性] タブを選択します。

選択したタグの属性とその現在の値がタグインスペクタに表示されます。

3 タグインスペクタで、以下のいずれかの操作を行います。

- カテゴリ別に編成された属性を表示するには、[カテゴリビューの表示] ボタン をクリックします。
- アルファベット順のリストで属性を表示するには、[リストビューの表示] ボタン をクリックします。
- 属性値を変更するには、目的の値を選択して編集します。
- 値が指定されていない属性に値を追加するには、その属性の右側にある属性値列をクリックしてから値を入力します。
- 定義済みの値を属性に使用する場合は、属性値列の右側に表示されるポップアップメニュー (カラーピッカー) から値を選択します。
- URL 値を属性に使用する場合は、[参照] ボタンのクリックまたは [ファイルの指定] アイコンによりファイルを選択するか、テキストボックスに URL を入力します。
- 動的コンテンツのソース (データベースなど) の値を属性に使用する場合は、属性値列の右側にある [動的データ] ボタンをクリックします。次に、ソースを選択します。
- 属性値を削除するには、目的の値を選択して BackSpace キー (Windows) または Delete キー (Macintosh) を押します。
- 属性の名前を変更するには、属性名を選択して編集します。

注意：標準属性の名前を変更してからその属性に値を追加すると、その属性と新しい値は該当するカテゴリに移動されます。

- まだリストにない新しい属性を追加するには、リストの最後にある属性名の下の空きスペースをクリックし、新しい属性名を入力します。

4 Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押すか、タグインスペクタ内の別の場所をクリックして、ドキュメント内のタグを更新します。

関連項目

331 ページの「JavaScript ビヘイビアの使用」

120 ページの「CSS の作成と管理」

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

クイックタグ編集の概要

クイックタグ編集を使用すると、HTML タグの確認、挿入、編集をデザインビューを離れずに簡単に行うことができます。

クイックタグ編集で無効な HTML を入力すると、Dreamweaver によって閉じ引用符や山形閉じカッコが必要な箇所に挿入され、自動的に修正されます。

クイックタグ編集のオプションを設定するには、Ctrl+T (Windows) または Command+T (Macintosh) を押してクイックタグ編集を開きます。

クイックタグ編集には以下の 3 つのモードがあります。

- HTML の挿入モードでは、新しい HTML コードを挿入できます。
- タグの編集モードでは、既存のタグを編集できます。
- 折り返しタグモードでは、現在の選択範囲を新しいタグで囲むことができます。

注意：クイックタグ編集で使用されるモードは、デザインビューで現在選択している内容に応じて決まります。

いずれのモードでも、クイックタグ編集を使用する際の基本手順は同じです。つまり、エディタを開き、タグと属性を入力または編集して、エディタを閉じます。

クイックタグ編集をアクティブにして、Ctrl+T (Windows) または Command+T (Macintosh) を押すと、各モードに順番に切り替えることができます。

関連項目

318 ページの「クイックタグ編集でのヒントメニューの使用」

クイックタグ編集でのコードの編集

クイックタグ編集を使用すると、デザインビューを離れずに、HTML タグを簡単に挿入し、編集できます。

関連項目

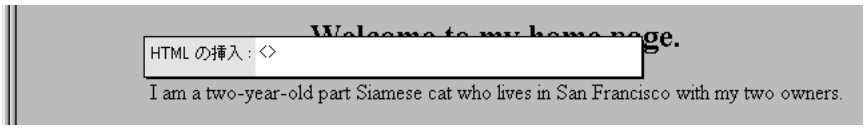
319 ページの「デザインビューでのスクリプトの記述と編集」

HTML タグの挿入

1 デザインビューで、コードを挿入するページ内の場所をクリックして、挿入ポイントを置きます。

2 Ctrl + T (Windows) または Command + T (Macintosh) を押します。

HTML の挿入モードで、クイックタグ編集が開きます。



3 HTML タグを入力して Enter キーを押します。

タグがコードに挿入され、対応する終了タグがある場合はそれも挿入されます。

4 変更しないで終了する場合は、Esc キーを押します。

HTML タグの編集

1 デザインビューでオブジェクトを選択します。

ドキュメントウィンドウの最下段にあるタグセレクタから、編集するタグを選択することもできます。詳細については、319 ページの「タグセレクタでのコードの編集」を参照してください。

2 Ctrl + T (Windows) または Command + T (Macintosh) を押します。

タグの編集モードで、クイックタグ編集が開きます。

3 新しい属性を入力するか、既存の属性を編集します。またはタグ名を変更します。

4 次の属性に進むには Tab キーを押します。前の属性に戻るには Shift+Tab を押します。

注意：初期設定では、Tab キーまたは Shift+Tab を押すと、変更がドキュメントに適用されます。

5 すべての変更を適用してクイックタグ編集を閉じるには、Enter キーを押します。

6 これ以上変更しないで終了するには、Esc キーを押します。

選択範囲を HTML タグで囲む

1 デザインビューで、書式設定されていないテキストまたはオブジェクトを選択します。

注意：開始 HTML タグまたは終了 HTML タグを含むテキストやオブジェクトを選択した場合、クイックタグ編集は、折り返しタグモードではなくタグの編集モードで開きます。

2 Ctrl+T (Windows) または Command+T (Macintosh) を押すか、またはプロパティインスペクタの [クイックタグ編集] ボタンをクリックします。

折り返しタグモードで、クイックタグ編集が開きます。

3 **strong** などの単一の開始タグを入力し、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

現在の選択部分の始めに開始タグが挿入され、終わりに終了タグが挿入されます。

4 これ以上変更しないで終了するには、Esc キーを押します。

クイックタグ編集でのヒントメニューの使用

クイックタグ編集には、編集中または挿入中のタグに指定可能な属性を一覧表示する属性ヒントメニューがあります。

クイックタグ編集では、ヒントメニューを使用不可にしたり、メニューが表示されるまでの待ち時間を調節することもできます。

タグに指定できる属性をヒントメニューに一覧表示するには、クイックタグ編集で属性名の編集中に数秒間作業を停止します。ヒントメニューが表示され、編集中のタグで使用できるすべての属性が一覧表示されます。

同様に、有効なタグ名をヒントメニューで表示するには、クイックタグ編集でタグ名の入力中または編集中に数秒間作業を停止します。

注意：クイックタグ編集のコードヒントの環境設定は、通常のコードヒントの環境設定によって制御されます。詳細については、297 ページの「コードヒントの設定」を参照してください。

関連項目

317 ページの「クイックタグ編集の概要」

ヒントメニューの使用

1 次のいずれかの操作を実行します。

- タグ名または属性名の入力を開始します。コードヒントメニューで選択すると、入力した文字で始まる最初の項目にジャンプします。
- 上矢印キーや下矢印キーを使用して項目を選択してください。
- 項目を探すには、スクロールバーを使用します。

2 選択した項目を挿入するには、Enter キーを押すか、項目をダブルクリックします。

3 項目を挿入しないでヒントメニューを閉じるには、Esc キーを押すか、入力を続けます。

ヒントメニューの無効化または表示待ち時間の調整

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択して、[クイックタグ編集] を選択します。

[環境設定] ダイアログボックスに [クイックタグ編集] カテゴリが表示されます。

2 ヒントメニューを使用不可にするには、[タグヒントを使用可能にする] オプションをオフにします。

3 メニューが表示されるまでの待ち時間を変更するには、[遅延] スライダを調整して [OK] をクリックします。

タグセレクタでのコードの編集

タグセレクタを使用すると、デザインビューを離れずに、タグを選択、編集、または削除することができます。タグセレクタはドキュメントウィンドウの最下部のステータスバーに表示され、以下のように、一連のタグで構成されています。

タグの編集または削除

1 ドキュメント内をクリックします。

挿入ポイントに適用できるタグが、タグセレクタに表示されます。

2 タグセレクタのタグを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) します。

3 タグを編集するには、メニューから [タグの編集] を選択します。クイックタグ編集で適宜変更を行います。詳細については、317 ページの「クイックタグ編集でのコードの編集」を参照してください。

4 タグを削除するには、メニューから [タグを削除] を選択します。

タグに対応するオブジェクトの選択

1 ドキュメント内をクリックします。

挿入ポイントに適用できるタグが、タグセレクタに表示されます。

2 タグセレクタのタグをクリックします。

タグで表示されるオブジェクトが、ページ上で選択されます。

この方法を使用して、テーブルの行 (tr タグ) またはセル (td タグ) をそれぞれ選択します。

デザインビューでのスクリプトの記述と編集

クライアントサイドの JavaScript と VBScript は、次の方法でコードビューでもデザインビューでも記述できます。

- デザインビューを離れずに、作成しているページの JavaScript または VBScript を記述します。
- デザインビューを離れずに、外部スクリプトファイルへのリンクをドキュメント内に作成します。
- デザインビューを離れずに、スクリプトを編集します。

作業を開始する前に、スクリプトマーカーがページに表示されるように、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択しておいてください。

クライアントサイドスクリプトの記述

1 スクリプトを挿入する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[HTML]-[スクリプトオブジェクト]-[スクリプト] を選択します。

3 [言語] ポップアップメニューからスクリプト言語を選択します。

JavaScript を使用していてバージョンが不明な場合には、JavaScript1.1 や JavaScript1.2 ではなく JavaScript を選択してください。

4 [コンテンツ] ボックスに、スクリプトコードを入力またはペーストします。

開始および終了の script タグを含める必要はありません。

5 [スクリプトなし] ボックスに、HTML コードを入力またはペーストします。選択したスクリプト言語をサポートしていないブラウザでは、スクリプトは実行されず、ここに入力したコードが表示されます。

6 [OK] をクリックします。

外部スクリプトファイルへのリンク

1 スクリプトを挿入する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[HTML]-[スクリプトオブジェクト]-[スクリプト] を選択します。

3 [コンテンツ] ボックスには何も入力しないで、[OK] をクリックします。

4 ドキュメントウィンドウのデザインビューでスクリプトマーカーを選択します。

5 プロパティインスペクタで、フォルダアイコンをクリックし、表示されるファイルから外部スクリプトファイルを選択します。または、[ソース] ボックスにファイル名を入力します。

スクリプトの編集

1 スクリプトマーカーを選択します。

2 プロパティインスペクタの、[編集] ボタンをクリックします。

[スクリプトプロパティ] ダイアログボックスにスクリプトが表示されます。

外部スクリプトファイルとリンクしている場合は、コードビューでファイルが開き、そこで編集することができます。

注意：スクリプトタグの間にコードがある場合は、外部スクリプトファイルとリンクされていても、[スクリプトプロパティ] ダイアログボックスが開きます。

3 [言語] ボックスで、JavaScript または VBScript のいずれかをスクリプトの言語として指定します。

4 [タイプ] ポップアップメニューで、スクリプトのタイプとして [クライアントサイド] または [サーバーサイド] のいずれかを指定します。

5 (オプション) [ソース] ボックスで、外部にリンクされたスクリプトファイルを指定します。

フォルダアイコンまたは [参照] ボタンをクリックして、ファイルを選択するか、またはパスを入力してください。

6 スクリプトを編集し、[OK] をクリックします。

デザインビューでの ASP サーバーサイドスクリプトの編集

ASP スクリプトのプロパティインスペクタを使用して、デザインビューで ASP サーバーサイドスクリプトを調べたり、修正したりすることができます。

1 デザインビューで、サーバー言語タグのアイコンを選択します。

2 ASP スクリプトのプロパティインスペクタで [編集] ボタンをクリックします。

3 ASP サーバーサイドスクリプトを編集して [OK] をクリックします。

プロパティインスペクタによるページ上のスクリプトの編集

1 プロパティインスペクタで、[言語] ポップアップメニューからスクリプト言語を選択するか、[言語] ボックスに言語名を入力します。

注意：JavaScript を使用していてバージョンが不明な場合には、JavaScript1.1 や JavaScript1.2 ではなく JavaScript を選択してください。

2 [タイプ] ポップアップメニューで、スクリプトのタイプとして [クライアントサイド] または [サーバーサイド] のいずれかを指定します。

3 (オプション) [ソース] ボックスで、外部にリンクされたスクリプトファイルを指定します。フォルダアイコンをクリックしてファイルを選択するか、またはパスを入力してください。

4 [編集] をクリックして、スクリプトを編集します。

関連項目

319 ページの「デザインビューでのスクリプトの記述と編集」

JavaScript ビヘイビアの使用

タグインスペクタの [ビヘイビア] タブを使用して、JavaScript (クライアントサイド) ビヘイビアをページエレメントに簡単に関連付けることができます。詳細については、334 ページの「Dreamweaver に組み込まれているビヘイビアの適用」を参照してください。

ページのヘッドコンテンツの操作

ページには、そのページに関する情報を記述するエレメントがあり、この情報が検索ブラウザで使用されます。head エレメントのプロパティを設定すると、ページの識別方法を制御できます。

ヘッドコンテンツの表示と編集

ドキュメントの head セクションのエレメントは、[表示] メニュー、ドキュメントウィンドウのコードビュー、コードインスペクタのいずれかを使用して表示することができます。

ドキュメントの head セクションのエレメントの表示

❖ [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。ドキュメントウィンドウのデザインビューの最上部に、head コンテンツの各エレメントのマーカーが表示されます。

注意： ドキュメントウィンドウがコードビューだけを表示するように設定されている場合は、[表示]-[ヘッドコンテンツ] はグレー表示され、選択できません。

ドキュメントの head セクションへのエレメントの挿入

1 [挿入]-[HTML]-[ヘッド] サブメニューから、項目を選択します。

2 表示されるダイアログボックスまたはプロパティインスペクタで、エレメントのオプションを入力します。

ドキュメントの head セクションのエレメントの編集

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 head セクションのいずれかのアイコンをクリックして選択します。

3 プロパティインスペクタで、エレメントのプロパティを設定または変更します。

ページのメタプロパティの設定

meta タグは head エレメントで、文字のエンコード、作成者、著作権、キーワードなど、現在のページに関する情報を記録します。また、これらのタグは、ページの有効期限、更新間隔、PICS レーティングなどの情報をサーバーに渡すために使用されます。PICS (Platform for Internet Content Selection) とは、映画に指定されている年齢制限と同じように、Web ページにアクセス制限 (レーティング) を割り当てるしくみです。

meta タグの追加

1 [挿入]-[HTML]-[ヘッド]-[Meta] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスでプロパティを指定します。

既存の meta タグの編集

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 ドキュメントウィンドウの上部に表示される [Meta] マーカーを選択します。

3 プロパティインスペクタでプロパティを指定します。

meta タグのプロパティ

❖ meta タグのプロパティを次のように設定します。

属性 meta タグの内容が、ページの説明 (name) または HTTP ヘッダー情報 (http-equiv) のどちらであるかを指定します。

値 このタグに記述する情報のタイプを指定します。description、keywords、refresh など、一部の値は既に適切に定義されており、それぞれに対応するプロパティインスペクタが Dreamweaver に存在しますが、実用上は任意の値を指定できます (例 : creationdate、documentID、level)。

コンテンツ 実際の情報を指定します。たとえば、[値] に level を指定した場合、[コンテンツ] には beginner、intermediate、advanced のいずれかを指定します。

ページタイトルの設定

タイトルプロパティは、ページタイトル 1 つだけです。タイトルは、Dreamweaver のドキュメントウィンドウのタイトルバーに表示されますが、ページをブラウザで表示した場合も、ほとんどのブラウザでタイトルバーに表示されます。タイトルは、ドキュメントウィンドウのツールバーにも表示されます。

ドキュメントウィンドウのタイトルの指定

❖ ドキュメントウィンドウのツールバーの [タイトル] テキストボックスに、タイトルを入力します。

ヘッドコンテンツのタイトルの指定

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 ドキュメントウィンドウの上部に表示される [タイトル] マーカーを選択します。

3 プロパティインスペクタでページタイトルを指定します。

ページのキーワードの指定

サーチエンジンロボット (Web を自動参照して、サーチエンジンがインデックスを付ける情報を収集するプログラム) の多くは、キーワード meta タグの内容を読み取り、その情報を使用して Web ページのインデックスをデータベース内に作成します。一部のサーチエンジンでは、インデックスを付けるキーワード数または文字数が制限されていたり、制限を超えるとすべてのキーワードが無視される場合があります。このため、厳選した少数のキーワードだけを使用することをお勧めします。

キーワード meta タグの追加

1 [挿入]-[HTML]-[ヘッド]-[キーワード] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、キーワードをコンマ区切りで指定します。

キーワード meta タグの編集

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 ドキュメントウィンドウの上部に表示される [キーワード] マーカーを選択します。

3 プロパティインスペクタで、キーワードを表示、変更、または削除します。コンマで区切られたキーワードを追加することもできます。

ページの詳細の指定

サーチエンジンロボット (Web を自動参照して、サーチエンジンがインデックスを付ける情報を収集するプログラム) の多くは、詳細 meta タグの内容を読み取ります。サーチエンジンロボットには、この情報を使用して Web ページのインデックスをデータベース内に作成するものや、検索結果のページ上にドキュメントの最初の数行を表示する代わりに、この情報を表示するものがあります。一部のサーチエンジンではインデックスを付ける文字数に制限があるため、ページの説明は数語以内にすることをお勧めします (ジョージア州アルバニーのポークバーベキュー配達サービス、世界各国の顧客に対応した Web デザインを手ごろな価格で提供 など)。

詳細 meta タグの追加

1 [挿入]-[HTML]-[ヘッド]-[詳細] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスに説明文を入力します。

詳細 meta タグの編集

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 ドキュメントウィンドウの上部に表示される [詳細] マーカーを選択します。

3 プロパティインスペクタで、説明文を表示、変更、または削除します。

ページの更新プロパティの設定

更新エレメントを使用して、一定の時間が経過したらページが自動的に更新されるように (現在のページを再ロードまたは別のページを表示) 指定します。このエレメントは、通常、URL が変更されたというテキストメッセージの表示後に、別の URL にリダイレクトするときに使用します。

更新 meta タグの追加

1 [挿入]-[HTML]-[ヘッド]-[更新] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、更新 meta タグのプロパティを設定します。

更新 meta タグの編集

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 ドキュメントウィンドウの上部に表示される [更新] マーカーを選択します。

3 プロパティインスペクタで、更新 meta タグのプロパティを設定します。

更新 meta タグのプロパティの設定

❖ 更新 meta タグのプロパティを次のように指定します。

遅延 ブラウザがページを更新するまでの待ち時間 (秒) です。ブラウザのロード終了後すぐにページを更新するには、このボックスに「0」を入力します。

[URL] または [アクション] 指定した遅延時間の経過後に、ブラウザで別の URL に移動するか、現在のページを更新するかを指定します。現在のページを更新するのではなく、別の URL を開く場合は、[参照] ボタンをクリックしてロードするページを参照し、選択します。

ページのベース URL プロパティの設定

ベースエレメントを使用して、ページ内のすべてのドキュメント相対パスの基準と見なされるベース URL を設定します。

ベース meta タグの追加

1 [挿入]-[HTML]-[ヘッド]-[ベース] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、ベース meta タグのプロパティを指定します。

ベース meta タグの編集

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 ドキュメントウィンドウの上部に表示される [ベース] マーカーを選択します。

3 プロパティインスペクタで、ベース meta タグのプロパティを指定します。

ベース meta タグのプロパティの指定

❖ ベース meta タグのプロパティを次のように指定します。

Href ベースの URL です。[参照] ボタンをクリックしてファイルを参照および選択するか、ボックスにパスを入力します。

ターゲット リンク先のすべてのドキュメントを開くフレームまたはウィンドウを指定します。現在のフレームセットからフレームを 1 つ選択するか、次の予約名のいずれかを選択します。

- _blank: リンクされたドキュメントを、名前のない新規のブラウザウィンドウにロードします。
- _parent: リンクされたドキュメントを、リンクが含まれている親フレームセットまたはフレームのウィンドウにロードします。リンクを含むフレームがネストされていない場合は、[_top] を選択した場合と同じことになり、リンクされたドキュメントはブラウザウィンドウ全体にロードされます。
- _self: リンクされたドキュメントを、リンクと同じフレームまたはウィンドウにロードします。このターゲットは初期設定なので、通常は指定する必要はありません。
- _top: リンクされたドキュメントをブラウザウィンドウ全体にロードして、すべてのフレームを削除します。

ページのリンクプロパティの設定

link タグを使用して、現在のドキュメントと別のファイルとのリレーションシップを定義します。

注意 : link タグが head セクション内にある場合、body セクション内にあるドキュメント間の HTML リンクと同じものではありません。

リンク meta タグの追加

1 [挿入]-[HTML]-[ヘッド]-[リンク] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、リンク meta タグのプロパティを指定します。

リンク meta タグの編集

1 [表示]-[ヘッドコンテンツ] を選択します。

2 ドキュメントウィンドウの上部に表示される [リンク] マーカーを選択します。

3 プロパティインスペクタで、リンク meta タグのプロパティを指定します。

リンク meta タグのプロパティの指定

❖ リンク meta タグのプロパティを次のように設定します。

Href リレーションシップを定義する対象ファイルの URL です。[参照] ボタンをクリックしてファイルを参照および選択するか、ボックスにパスを入力します。この属性は、通常の HTML という意味でリンク先のファイルを示すものではありません。リンクエレメントで指定するリレーションシップはそれよりも複雑です。

ID リンクに固有の識別子を指定します。

タイトル リレーションシップの説明を入力します。この属性は、リンク先のスタイルシートと特別な関連があります。詳細については、World Wide Web Consortium の Web サイト (www.w3.org/TR/REC-html40/present/styles.html#style-external) で、HTML 4.0 仕様の「External Style Sheets」の項を参照してください。

Rel 現在のドキュメントと、[Href] ボックスで指定したドキュメントとのリレーションシップを指定します。指定可能な値には、Alternate、Stylesheet、Start、Next、Prev、Contents、Index、Glossary、Copyright、Chapter、Section、Subsection、Appendix、Help、Bookmark などがあります。複数のリレーションシップを指定する場合は、値をスペースで区切ります。

Rev 現在のドキュメントと、[Href] ボックスで指定したドキュメントとのリレーションシップの逆 ([Rel] の逆) を指定します。指定可能な値は、[Rel] と同じです。

サーバーサイドインクルードの使用

サーバーサイドインクルードについて

Dreamweaver では、ページへのサーバーサイドインクルードの挿入、インクルードの編集、またはインクルードが含まれているページのプレビューを行うことができます。

サーバーサイドインクルードは、ブラウザでサーバーからのドキュメントが要求されたときに、サーバーによってドキュメントに組み込まれるファイルです。

インクルード指示が組み込まれたドキュメントがビジターのブラウザから要求されると、サーバーはインクルード指示を処理して、その指示をインクルードファイルの内容に置換した新規ドキュメントを作成します。その後、サーバーはこの新規ドキュメントをビジターのブラウザに送信します。しかし、ブラウザでローカルドキュメントを直接開いた場合、そのドキュメントのインクルード指示がサーバーで処理されないため、指示が未処理のままドキュメントが開かれ、組み込まれることになっていたファイルはブラウザに表示されません。このように、Dreamweaver を使用しないと、ファイルをローカルで開いて作業する際に、サーバーにアップロードした後の該当ファイルがビジターのブラウザにどのように表示されるかを確認しづらくなることがあります。

Dreamweaver を使用することにより、サーバーにアップロードした後のドキュメントがどのように表示されるかを、デザインビューとブラウザの両方でプレビューすることができます。

サーバーサイドインクルードをドキュメントに含めると、外部ファイルへの参照が挿入されます。指定したファイルの内容がドキュメントに実際に挿入されるわけではありません。Dreamweaver では、この外部ファイルの内容がデザインビューに表示されるため、ページを簡単にデザインできます。

インクルードファイルをドキュメント内で直接編集することはできません。サーバーサイドインクルードの内容を編集するには、組み込まれる側のファイルを直接編集する必要があります。外部ファイルを変更した場合は、その外部ファイルが組み込まれるすべてのドキュメントで自動的に変更が反映されます。

サーバーサイドインクルードには 2 つの種類があります。[仮想] および [ファイル] です。使用している Web サーバーの種類に応じて、いずれかを選択してください。

- Apache Web サーバーを使用している場合は、[仮想] を選択します。Apache では、あらゆる状況で [仮想] が使用できますが、[ファイル] が使用できる場合は限られています。
- Microsoft IIS サーバーを使用している場合は、[ファイル] を選択します。[仮想] が IIS サーバーで使用できるのは、特定の環境に限られます。

注意：IIS サーバーでは、特別なソフトウェアをインストールしないと、フォルダ階層で現在のフォルダの上位にあるフォルダのファイルをインクルードすることができません。IIS サーバーのフォルダ階層で上位のフォルダのファイルをインクルードする必要がある場合は、必要なソフトウェアがインストールされているかどうかをシステム管理者に確認してください。

- その他のサーバーを使用している場合、または使用しているサーバーの種類が不明な場合は、どちらのオプションを使用すべきかシステム管理者に確認してください。

設定に応じて、サーバーサイドインクルードが指定されているかどうかをすべてのファイルについて調べるサーバーや、.shtml、.shtm、.inc など、特定の拡張子の付いたファイルだけを調べるサーバーがあります。サーバーサイドインクルードが機能しない場合は、インクルード指示を指定するファイルの名前に特別な拡張子を付ける必要があるかどうかをシステム管理者に確認してください。たとえば、ファイルの名前が "canoe.html" である場合、"canoe.shtml" に変更しなければならないことがあります。ファイル名に .html または .htm の拡張子を付けておく場合は、サーバー側で特定の拡張子が付いたファイルだけでなく、すべてのファイルについてサーバーサイドインクルードの有無が確認されるような設定を行うようにシステム管理者に依頼します。ファイルにサーバーサイドインクルードが指定されているかどうかの解析には時間がかかるため、解析対象となるページは、他のページよりも表示処理が遅くなります。このため、システム管理者によっては、すべてのファイルを解析する設定を行わない場合もあります。

サーバーサイドインクルードの挿入

Dreamweaver を使用すると、サーバーサイドインクルードをページに挿入することができます。

サーバーサイドインクルードの挿入

1 [挿入]-[サーバーサイドインクルード] を選択します。

2 表示されるダイアログボックスで、ファイルを参照して選択します。

初期設定では、[ファイル] タイプのインクルードが挿入されます。

3 インクルードのタイプを変更するには、ドキュメントウィンドウでサーバーサイドインクルードを選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で次のようにタイプを変更します。

- Apache Web サーバーを使用している場合は、[仮想] を選択します。Apache では、あらゆる状況で [仮想] が使用できますが、[ファイル] が使用できる場合は限られています。
- Microsoft IIS サーバーを使用している場合は、[ファイル] を選択します。[仮想] が IIS サーバーで使用できるのは、特定の環境に限られます。

注意：IIS サーバーでは、特別なソフトウェアをインストールしないと、フォルダ階層で現在のフォルダの上位にあるフォルダのファイルをインクルードすることができません。IIS サーバーのフォルダ階層で上位のフォルダのファイルをインクルードする必要がある場合は、必要なソフトウェアがインストールされているかどうかをシステム管理者に確認してください。

- その他のサーバーを使用している場合、または使用しているサーバーの種類が不明な場合は、どちらのオプションを使用すべきかシステム管理者に確認してください。

インクルード対象ファイルの変更

1 ドキュメントウィンドウでサーバーサイドインクルードを選択します。

2 [ウィンドウ]-[プロパティ] を選択し、プロパティインスペクタを開きます。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- フォルダアイコンをクリックし、インクルード対象の新しいファイルを参照して選択します。
- テキストボックスに、インクルード対象の新しいファイルのパスとファイル名を入力します。

サーバーサイドインクルードの内容の編集

Dreamweaver を使用すると、サーバーサイドインクルードを編集することができます。インクルードファイルに関連付けられている内容を編集するには、そのファイルを開く必要があります。

1 デザインビューまたはコードビューでサーバーサイドインクルードを選択し、プロパティインスペクタで [編集] をクリックします。

インクルードファイルが新しいドキュメントウィンドウで開きます。

2 ファイルを編集して保存します。

変更は、すぐに現在のドキュメントと、ファイルが含まれている次に開くドキュメントに反映されます。

3 必要に応じて、インクルードファイルをリモートサイトにアップロードします。

タグライブラリの管理

Dreamweaver のタグライブラリについて

タグライブラリとは、Dreamweaver における特定のタイプのタグを集めたものであり、Dreamweaver によるそれらのタグのフォーマット方法に関する情報も合わせて格納されています。タグライブラリは、Dreamweaver がコードヒント、ターゲットブラウザチェック、タグ選択、およびその他のコーディング機能に使用するタグについての情報を提供しま

す。タグライブラリエディタでは、タグライブラリ、タグ、属性、および属性値を追加または削除できます。また、タグライブラリのプロパティの設定 (コードの内容を簡単に識別できるようにフォーマットを指定するなど) や、タグおよび属性の編集も実行できます。

関連項目

329 ページの「Dreamweaver へのカスタムタグの読み込み」

294 ページの「コーディング環境のカスタマイズ」

タグライブラリエディタを開く、または閉じる

1 [編集]-[タグライブラリ] を選択して、タグライブラリエディタを開きます。

[タグライブラリエディタ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのオプションは、選択したタグによって異なります。

2 次のいずれかの方法でタグライブラリエディタを閉じます。

- 変更内容を保存するには、[OK] をクリックします。
- 変更内容を保存せずにエディタを閉じるには、[キャンセル] をクリックします。

注意：[キャンセル] をクリックすると、タグライブラリエディタで行った変更がすべて消去されます。タグまたはタグライブラリを削除した場合は、復元されます。

ライブラリ、タグ、および属性の追加

タグライブラリエディタを使用すると、タグライブラリ、タグ、属性を Dreamweaver のタグライブラリに追加できます。

関連項目

294 ページの「コーディング環境のカスタマイズ」

329 ページの「Dreamweaver へのカスタムタグの読み込み」

タグライブラリの追加

1 タグライブラリエディタ ([編集]-[タグライブラリ]) で、[+] ボタンをクリックして、[新しいタグライブラリ] を選択します。

2 [ライブラリ名] ボックスに名前を入力し (たとえば「**Miscellaneous Tags**」)、[OK] をクリックします。

タグライブラリへのタグの追加

1 タグライブラリエディタ ([編集]-[タグライブラリ]) で、[+] ボタンをクリックして、[新しいタグ] を選択します。

2 [タグライブラリ] ポップアップメニューでタグライブラリを選択します。

3 新しいタグの名前を入力します。複数のタグを追加するには、タグの名前をカンマとスペースで区切ります (たとえば **cfgraph, cfgraphdata**)。

4 新しいタグに対応する終了タグ (</...>) がある場合は、[一致する終了タグがあります] を選択します。

5 [OK] をクリックします。

タグへの属性の追加

1 タグライブラリエディタ ([編集]-[タグライブラリ]) で、[+] ボタンをクリックして、[新しい属性] を選択します。

2 [タグライブラリ] ポップアップメニューでタグライブラリを選択します。

3 [タグ] ポップアップメニューでタグを選択します。

4 新しい属性の名前を入力します。複数の属性を追加するには、属性の名前をカンマとスペースで区切ります (たとえば **width, height**)。

5 [OK] をクリックします。

ライブラリ、タグ、および属性の編集

タグライブラリエディタを使用して、タグライブラリのプロパティを設定し、ライブラリ内のタグや属性を編集できます。

関連項目

294 ページの「コーディング環境のカスタマイズ」

タグライブラリのプロパティの設定

1 タグライブラリエディタ ([編集]-[タグライブラリ]) の [タグ] リストで、タグライブラリ (タグではなく) を選択します。

注意： タグライブラリのプロパティは、タグライブラリが選択されている場合のみ表示されます。タグライブラリは、[タグ] リストの最上位フォルダに表されます。たとえば、"HTML タグ " フォルダはタグライブラリを表し、"HTML タグ " フォルダ内の "abbr" フォルダはタグを表します。

2 [使用する場所] リストで、このタグライブラリを使用するドキュメントタイプをすべて選択します。

ここで選択したドキュメントタイプによって、タグライブラリのコードヒントを提供するドキュメントタイプが決まります。たとえば、あるタグライブラリに対して HTML オプションを選択しない場合、そのタグライブラリのコードヒントは HTML ファイルでは表示されません。

3 (オプション) [タグ接頭辞] ボックスに、タグの接頭辞を入力します。

注意： 接頭辞を使用して、コード内のタグを特定のタグライブラリの一部として識別します。接頭辞を使用しないタグライブラリもあります。

4 [OK] をクリックします。

タグライブラリ内のタグの編集

1 タグライブラリエディタ ([編集]-[タグライブラリ]) の [タグ] リストで、タグライブラリを展開し、タグを選択します。

2 [タグフォーマット] の以下のオプションを設定します。

改行 Dreamweaver でタグの改行を挿入する位置を指定します。

コンテンツ Dreamweaver でタグの内容を挿入する方法を指定します。つまり、改行、フォーマット、およびインデントの規則をタグの内容に適用するかどうかを指定します。

大文字 / 小文字 特定のタグに対する大文字と小文字の区別を指定します。[指定なし]、[小文字]、[大文字]、または [大文字 / 小文字混在] を選択します。[大文字 / 小文字混在] を選択すると、[タグ名に大文字と小文字が混在] ダイアログボックスが表示されます。Dreamweaver がタグを挿入する際に使用する文字種 (大文字または小文字) でタグを入力し (「**getProperty**」など)、[OK] をクリックします。

初期設定 すべてのタグに適用される初期設定の大文字または小文字の区別を設定します。表示される [タグの大文字 / 小文字の初期設定] ダイアログボックスで、[< 大文字 >] または [< 小文字 >] を選択して [OK] をクリックします。

XML および XHTML 標準に合わせる場合などに、初期設定を小文字にします。

タグの属性の編集

1 タグライブラリエディタ ([編集]-[タグライブラリ]) の [タグ] リストで、タグライブラリを展開し、タグを展開してタグ属性を選択します。

2 [属性の大文字 / 小文字] ポップアップメニューで、[指定なし]、[小文字]、[大文字]、または [大文字 / 小文字混在] を選択します。

[大文字 / 小文字混在] を選択すると、[属性名に大文字と小文字が混在] ダイアログボックスが表示されます。Dreamweaver が属性を挿入する際に使用する文字種 (大文字または小文字) で属性を入力し (「**onClick**」など)、[OK] をクリックします。

[初期設定] リンクをクリックすると、すべての属性名に対する大文字と小文字の区別の初期設定を指定できます。

3 [属性タイプ] ポップアップメニューで、属性のタイプを選択します。

[列挙] を選択した場合は、その属性に指定可能なすべての値を [値] ボックスに入力します。値は、スペースではなくカンマで区切ります。たとえば、cfchart タグの showborder 属性の値を列挙する場合は、「yes,no」のように入力します。

ライブラリ、タグ、および属性の削除

1 タグライブラリエディタ ([編集]-[タグライブラリ]) の [タグ] リストで、タグライブラリ、タグ、または属性を選択します。

2 [-] ボタンをクリックします。

3 [OK] をクリックして、選択したアイテムを削除します。

[タグ] リストからアイテムが削除されます。

4 [OK] をクリックしてタグライブラリエディタを閉じ、削除を完了します。

関連項目

294 ページの「コーディング環境のカスタマイズ」

Dreamweaver へのカスタムタグの読み込み

Dreamweaver へのカスタムタグの読み込みについて

Dreamweaver にカスタムタグを読み込み、オーサリング環境の一部として使用することができます。たとえば、読み込まれたカスタムタグをコードビューに入力し始めると、コードヒントメニューにタグの属性の一覧が表示され、属性を選択することができます。

XML ファイルからのタグの読み込み

XML DTD (Document Type Definition) ファイルまたはスキーマから、タグを読み込むことができます。

1 タグライブラリエディタを開きます ([編集]-[タグライブラリ])。

2 [+] ボタンをクリックし、[DTD Schema]-[XML DTD またはスキーマファイルの読み込み] を選択します。

3 DTD またはスキーマファイルのファイル名または URL を入力します。

4 タグで使用する接頭辞を入力します。

注意：接頭辞を使用して、コード内のタグを特定のタグライブラリの一部として識別します。接頭辞を使用しないタグライブラリもあります。

5 [OK] をクリックします。

カスタム ASP.NET タグの読み込み

カスタム ASP.NET タグを Dreamweaver に読み込むことができます。

作業を始める前に、[サイト定義] ダイアログボックスで定義されているテストサーバーにカスタムタグがインストールされていることを確認してください (詳細については、45 ページの「テストサーバーの設定」を参照してください)。コンパイル済みタグ (DLL ファイル) は、サイトルートの "/bin" フォルダに配置する必要があります。コンパイルされていないタグ (ASCX ファイル) は、サーバー上の任意の仮想ディレクトリまたはサブディレクトリに配置できます。詳細については、Microsoft ASP.NET のマニュアルを参照してください。

1 Dreamweaver で ASP.NET ページを開きます。

2 タグライブラリエディタを開きます ([編集]-[タグライブラリ])。

3 [+] ボタンをクリックし、必要に応じて以下のオプションを選択して [OK] をクリックします。

- アプリケーションサーバーからすべての ASP.NET カスタムタグを読み込むには、[ASP.NET]-[すべての ASPNet カスタムタグの読み込み] を選択します。
- アプリケーションサーバーから特定のカスタムタグのみを読み込むには、[ASP.NET]-[選択した ASPNet カスタムタグの読み込み] を選択します。Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、リストに表示されているタグをクリックします。

ファイルまたはサーバーからの JSP タグの読み込み (web.xml)

各種のファイルや JSP サーバーから、Dreamweaver に JSP タグライブラリを読み込むことができます。

1 Dreamweaver で JSP ページを開きます。

2 タグライブラリエディタを開きます ([編集]-[タグライブラリ])。

3 [+] ボタンをクリックし、[JSP]-[ファイル (*.tld、*.jar、*.zip) からの読み込み] または [JSP]-[サーバー (web.xml) からの読み込み] を選択します。

4 [参照] ボタンをクリックするかファイル名を入力して、タグライブラリが保存されているファイルを指定します。

5 タグライブラリを識別する URI を入力します。

多くの場合、URI (Uniform Resource Identifier) にはタグライブラリをメンテナンスする組織の URL が使用されています。この URL は、該当組織の Web サイトを表示するためのものではなく、タグライブラリを一意に識別するために使用されます。

6 (オプション) タグで使用する接頭辞を入力します。一部のタグライブラリは、接頭辞情報に基づいて、コード内のタグを特定のタグライブラリの一部として認識します。

7 [OK] をクリックします。

JRun タグの読み込み

Adobe の Macromedia® JRun™ を使用する場合は、JRun タグを Dreamweaver に読み込むことができます。

1 Dreamweaver で JSP ページを開きます。

2 タグライブラリエディタを開きます ([編集]-[タグライブラリ])。

3 [+] ボタンをクリックし、[JSP]-[JRun サーバータグをフォルダから読み込み] を選択します。

4 JRun タグが保存されているフォルダの名前を入力します。

5 タグライブラリを識別する URI を入力します。

多くの場合、URI (Uniform Resource Identifier) にはタグライブラリをメンテナンスする組織の URL が使用されています。この URL は、該当組織の Web サイトを表示するためのものではなく、タグライブラリを一意に識別するために使用されます。

6 (オプション) タグで使用する接頭辞を入力します。一部のタグライブラリは、接頭辞情報に基づいて、コード内のタグを特定のタグライブラリの一部として認識します。

7 [OK] をクリックします。

第 12 章：JavaScript ビヘイビアの追加

Web サイトの外観、機能、魅力を向上するために、組み込みビヘイビアを使用できます。組み込みビヘイビアを使用すると、JavaScript の知識がなくても Web ページのエレメントにビヘイビアを割り付けることができます。

JavaScript ビヘイビアの使用

JavaScript ビヘイビアについて

Adobe® Dreamweaver® CS3 ビヘイビアを使用して JavaScript コードをドキュメントに配置すると、ビジターが Web ページを多様に変更したり、特定のタスクを開始したりできます。ビヘイビアとは、イベントと、そのイベントが実行するアクションの組み合わせです。ビヘイビアは、[ビヘイビア] パネルでアクションとそのアクションを実行するイベントを指定することによってページに追加します。

注意：ビヘイビアコードは、クライアントサイドの JavaScript コードです。つまり、サーバーではなく、ブラウザで実行されます。

イベントとは、ページを訪れたビジターが何らかの操作を実行したことを示す、ブラウザで生成される事実上のメッセージのことです。たとえば、ビジターがリンク上にポインタを移動すると、そのリンクに対してブラウザ側で onMouseOver イベントが生成され、さらにその応答として、表示中のページに指定されている何らかの JavaScript コードを呼び出す必要があるかどうかが確認されます。ページエレメントが異なると定義されるイベントも異なります。たとえば、ほとんどのブラウザで、onMouseOver と onClick は、リンクに関連付けられているイベントですが、onLoad は、イメージ、およびドキュメントの body セクションに関連付けられているイベントです。

アクションは、ブラウザウィンドウを開く、AP エレメントの表示と非表示を切り替える、サウンドを再生する、Adobe Shockwave ムービーを停止するなどの特定のタスクを実行する、事前に記述された JavaScript コードです。Dreamweaver に用意されているアクションは、異種ブラウザ間で最大の互換性を実現できるように設計されています。

ビヘイビアをページエレメントに関連付けると、そのエレメントに対するイベントが発生するたびに、そのイベントに関連付けられているアクション (JavaScript コード) がビヘイビアによって呼び出されます。ただし、指定したアクションを実行するために使用できるイベントは、ブラウザによって異なります。たとえば、リンクに [ポップアップメッセージ] アクションを関連付けて、onMouseOver イベントにより実行されることを指定すると、ポインタがリンク上に配置されるたびにメッセージがポップアップします。

1 つのイベントで複数の異なるアクションを実行することができます。また、アクションの発生順を指定することができます。

Dreamweaver には、約 24 個のアクションが用意されています。それ以外のアクションは、Exchange の Web サイト (www.adobe.com/go/dreamweaver_exchange_jp) およびサードパーティデベロッパーのサイトで確認きます。JavaScript に精通していれば、独自のアクションを記述できます。

注意：ビヘイビアとアクションは Dreamweaver の用語であり、HTML の用語ではありません。ブラウザ側からは、アクションは他の JavaScript コードと同じように見えます。

[ビヘイビア] パネルの概要

[ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) では、ビヘイビアをページエレメント (具体的にはタグ) に関連付けたり、以前に関連付けたビヘイビアのパラメータを変更したりできます。

現在選択されているページエレメントに既に関連付けられているビヘイビアは、[ビヘイビア] パネルの主要領域のビヘイビアリストに、イベントごとにアルファベット順に表示されます。同じイベントに対して複数のアクションが表示されている場合、アクションは、リスト内の表示順に実行されます。ビヘイビアリストにビヘイビアが表示されない場合は、現在選択されているエレメントに関連付けられているビヘイビアはありません。

[ビヘイビア] パネルには、次のオプションがあります。

イベント設定の表示 現在のドキュメントに関連付けられているイベントのみ表示されます。イベントは、クライアントサイドとサーバーサイドのいずれかのカテゴリに編成されています。各カテゴリのイベントは折りたたみ式のリストに含まれています。[イベント設定の表示] が初期設定の表示です。

すべてのイベントを表示 指定したカテゴリのすべてのイベントがアルファベット順で表示されます。

+ (追加) 現在選択されているエレメントに関連付けることができるアクションのメニューが表示されます。このリストからアクションを選択すると、ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、アクションのパラメータを指定することができます。すべてのアクションが淡色表示されている場合は、選択したエレメントによって生成できるイベントはありません。

- (削除) 選択したイベントとアクションがビヘイビアリストから削除されます。

上矢印ボタンと下矢印ボタン 特定のイベントに対するビヘイビアリスト内で、選択したアクションが上または下に移動します。変更できるのは、特定のイベントに対するアクションの順序だけです。たとえば、onLoad イベントに関するいくつかのアクションの順序は変更できますが、すべての onLoad アクションはビヘイビアリストに留まります。矢印ボタンは、リストで上または下に移動できないアクションに対しては使用できません。

イベント そのアクションを実行できるすべてのイベントがポップアップメニューに表示されます。このメニューは、イベントが選択されていないときには表示されません。選択されているイベント名の隣の矢印ボタンをクリックすると表示されます。表示されるイベントは、選択したオブジェクトによって異なります。目的のイベントが表示されない場合は、選択したページエレメントまたはタグが正しいかどうかを確認してください。特定のタグを選択するには、ドキュメントウィンドウの左下隅にあるタグセレクタを使用します。また、[表示するイベント] サブメニューで適切なブラウザが選択されているかどうかも確認してください。

注意： カッコに囲まれたイベント名は、リンクのみに使用できます。これらのイベント名の 1 つを選択すると、選択したページエレメントにヌルリンクが自動的に追加され、エレメントではなくリンクにビヘイビアが関連付けられます。ヌルリンクは、HTML コードでは、href="javascript:;" と記述されます。

表示するイベント 現在のビヘイビアが動作するブラウザを指定します。これは、[イベント] メニューのサブメニューです。このメニューで選択したブラウザに応じて、[イベント] メニューに表示されるイベントが決まります。一般的に、古いブラウザでは、新しいブラウザよりもサポートされるイベント数が少なく、ほとんどの場合、ターゲットブラウザの選択範囲を広げるほど、表示されるイベント数が少なくなります。たとえば、[3.0 およびそれ以降] を選択すると、選択できるのは、Netscape Navigator および Microsoft Internet Explorer 3.0 以降のバージョンで使用可能なイベントだけで、イベントのリストは非常に限られたものになります。

イベントについて

各ブラウザにはイベント群が用意されており、これらのイベントは、[ビヘイビア] パネルの [アクション] ([+]) メニューに一覧表示されるアクションに関連付けることができます。Web ページのビジターが、ページでイメージをクリックするなどのインタラクティブな操作を行うと、ブラウザによってイベントが生成されます。これらのイベントは、アクションを実行する JavaScript 関数を呼び出すために使用できます。Dreamweaver には、これらのイベントを使用して実行できる一般的なアクションが多数用意されています。

各ブラウザがサポートしているイベントの名前と説明については、Dreamweaver サポートセンター (www.adobe.com/go/dreamweaver_support_jp) を参照してください。

選択したオブジェクトと [表示するイベント] サブメニューで指定したブラウザに応じて、異なるイベントが [イベント] メニューに表示されます。指定したブラウザのページエレメントでサポートされるイベントを確認するには、ドキュメントにページエレメントを挿入してビヘイビアを 1 つ関連付けてから、[ビヘイビア] パネルの [イベント] メニューを確認します。初期設定では、イベントは HTML 4.01 イベントリストから抽出され、それらは最新のブラウザのほとんどでサポートされています。イベントは、関連するオブジェクトがページに存在しない場合、または選択したオブジェクトがイベントを受け取れない場合は、無効 (淡色表示) になっていることがあります。必要なイベントが表示されない場合には、選択したオブジェクトが正しいかどうかを確認するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

ビヘイビアをイメージに関連付ける場合に、onMouseOver など一部のイベントがカッコに囲まれて表示されます。これらのイベントはリンクでのみ使用できます。Dreamweaver では、これらのイベントの 1 つを選択すると、イメージが <a> タグで囲まれ、無効なリンクが定義されます。無効なリンクは、プロパティインスペクタの [リンク] テキストボックスで、javascript:; と表されます。リンク値を変更して、ヌルリンクを、別のページへの実際のリンクに変換することができます。ただし、JavaScript リンクを別のリンクに置き換えずに削除すると、ビヘイビアが削除されます。

指定したブラウザの特定のイベントで使用できるタグを確認するには、Dreamweaver の "/Configuration/Behaviors/Events" フォルダに保存されているファイルの中から該当するイベントを検索してください。

ビヘイビアの適用

ビヘイビアはドキュメント全体 (つまり、<body> タグ)、リンク、イメージ、フォームエレメント、およびその他一部の HTML エレメントに関連付けることができます。

選択するターゲットブラウザによって、特定のエレメントに対してサポートされるイベントが決定します。

各イベントに対して、複数のアクションを指定することができます。アクションは、[ビヘイビア] パネルの [アクション] 列に表示されている順序で発生します。ただし、この順序は変更することができます。

1 ページ上で、イメージまたはリンクなどのエレメントを選択します。

ビヘイビアをページ全体に関連付けるには、ドキュメントウィンドウの左下にあるタグセレクタで <body> タグをクリックします。

2 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択します。

3 [+] ボタンをクリックして、[アクション] メニューでアクションを選択します。

メニューで淡色表示になっているアクションは選択できません。淡色表示になっている原因として、必要なオブジェクトが現在のドキュメントに存在しないことが考えられます。たとえば、ドキュメントに Shockwave または Flash SWF ファイルがない場合は、[Shockwave および Flash のコントロール] アクションが淡色表示になります。

アクションを選択すると、そのアクションのパラメータと使い方の説明を示すダイアログボックスが表示されます。

4 アクションのパラメータを入力して、[OK] をクリックします。

Dreamweaver に用意されているアクションはすべて、最新のブラウザで動作します。一部のアクションは古いブラウザでは動作しませんが、エラーの原因にはなりません。

注意： ターゲットエレメントには一意の ID が必要です。たとえば、イメージに [スワップイメージ] ビヘイビアを適用する場合、そのイメージには ID が必要です。エレメントに ID が指定されていない場合、Dreamweaver により自動的に指定されます。

5 アクションを実行する初期設定のイベントは、[イベント] 列に表示されます。これが必要なトリガイベントでない場合は、[イベント] ポップアップメニューで別のイベントを選択します。[イベント] メニューを開くには、[ビヘイビア] パネルでイベントまたはアクションを選択して、イベント名とアクション名の間に表示される下向きの黒い矢印をクリックします。

ビヘイビアの変更または削除

ビヘイビアを関連付けると、アクションを実行するイベントの変更、アクションの追加または削除、およびアクションのパラメータの変更ができます。

1 ビヘイビアが関連付けられているオブジェクトを選択します。

2 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択します。

3 変更を加えます。

- アクションのパラメータを編集するには、アクション名をダブルクリックするか、アクションを選択して Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。さらに、ダイアログボックスでパラメータを変更して、[OK] をクリックします。

- 特定のイベントに対するアクションの順序を変更するには、アクションを選択して、上矢印または下矢印をクリックします。または、アクションを選択して、そのアクションを他のアクション間の目的の場所にカット & ペーストすることもできます。
- ビヘイビアを削除するには、そのビヘイビアを選択して [-] ボタンをクリックするか、Delete キーを押します。

ビヘイビアの更新

1 ビヘイビアが関連付けられているエレメントを選択します。

2 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択し、ビヘイビアをダブルクリックします。

3 ビヘイビアのダイアログボックスで変更を行い、[OK] をクリックします。

このページのこのビヘイビアのすべてのオカレンスが更新されます。サイトの他のページにそのビヘイビアがある場合は、ページごとに更新する必要があります。

サードパーティのビヘイビアのダウンロードおよびインストール

Exchange for Dreamweaver の Web サイト (www.adobe.com/go/dreamweaver_exchange_jp) では、多くの拡張機能が提供されています。

1 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択し、[アクション] メニューから [ビヘイビアの追加] を選択します。

プライマリブラウザが開き、Exchange のサイトが表示されます。

2 パッケージを参照または検索します。

3 必要な拡張機能パッケージをダウンロードおよびインストールします。

証左については「675 ページの「Dreamweaver の拡張機能を追加および管理する」」を参照してください。

関連項目

675 ページの「Dreamweaver の拡張機能を追加および管理する」

Dreamweaver に組み込まれているビヘイビアの適用

組み込みビヘイビアの使用

Dreamweaver に搭載されているビヘイビアは、最新のブラウザで動作するように記述されています。古いブラウザでは、ビヘイビアはエラーを報告せずに終了します。

注意：Dreamweaver のアクションは、できるだけ多くのブラウザで動作するように慎重に記述されています。Dreamweaver のアクションから手動でコードを削除したり、そのコードをユーザー独自のコードに置き換えると、ブラウザ間の互換性がなくなる可能性があります。

Dreamweaver のアクションは異種ブラウザ間での互換性を最大化するように記述されていますが、ブラウザの一部には JavaScript をまったくサポートしないものもあり、またブラウザの JavaScript 機能をオフにして Web を参照するユーザーもたくさんいます。異種プラットフォーム間で最善の結果を得るには、JavaScript を使用しないユーザーもサイトを使用できるように、<noscript> タグで囲んだ代替インターフェイスを用意します。

[JavaScript の呼出し] ビヘイビアの適用

[JavaScript の呼出し] ビヘイビアでは、イベントの発生時に JavaScript コードのカスタム関数または行が実行されます。ユーザーが独自のスクリプトを記述することができます。また、Web から無償で入手できるさまざまな JavaScript ライブラリのコードを使用することもできます。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [JavaScript の呼出し] を選択します。

2 実行する JavaScript を正確に入力するか、関数名を入力します。

たとえば、[戻る] ボタンを作成するには、「**if (history.length > 0){history.back()}**」と入力します。コードを関数内にカプセル化した場合は、関数名だけ (たとえば **hGoBack()**) を入力します。

3 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[プロパティの変更] ビヘイビアを適用します。

[プロパティの変更] ビヘイビアを使用して、オブジェクトのプロパティの 1 つの値 (div の背景色やフォームのアクションなど) 変更します。

注意：このビヘイビアは、HTML および JavaScript に精通している場合に限り使用してください。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [プロパティの変更] を選択します。

2 [エレメントのタイプ] メニューからエレメントタイプを選択し、そのタイプの名前の付いたエレメントをすべて表示します。

3 [エレメントの ID] メニューからエレメントを選択します。

4 [プロパティ] メニューでプロパティを選択するか、テキストボックスにプロパティ名を入力します。

5 [新規の値] フィールドに新規プロパティの新規の値を入力します。

6 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[チェックブラウザ] ビヘイビアの適用

注意：このビヘイビアは Dreamweaver CS 3 では推奨されていません。このビヘイビアにアクセスするには、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [~ 非推奨] メニュー項目を選択する必要があります。

[チェックブラウザ] ビヘイビアを使用して、ビジターのブラウザのブランドとバージョンに応じて、異なるページをビジターに送信できます。たとえば、Netscape Navigator 4.0 を使用しているビジターを、Internet Explorer 4.0 を使用しているビジターと異なるページに進ませることができます。

ほとんどすべてのブラウザと互換性があり、他の JavaScript を使用していないページの <body> タグにこのビヘイビアを関連付けると便利です。このようにすると、ビジターが JavaScript をオフにした状態でこのページに進んだ場合でも、内容の一部を見ることができます。

別のオプションとして、このビヘイビアを無効なリンク (<a href="javascript:;"> など) に関連付けて、ビジターのブラウザのブランドとバージョンに基づいて、アクションにリンク先を決定させることができます。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [~ 非推奨]-[チェックブラウザ] を選択します。

2 ビジターを区別する方法 (ブラウザのブランド、ブラウザのバージョン、またはそれら両方) を決定します。

3 Netscape Navigator のバージョンを指定します。

4 隣接するポップアップメニューで、移動先のオプション ([URL に移動]、[代替 URL に移動]、または [移動しない]) を選択します。ここで、ビジターのブラウザが、Netscape Navigator の指定したバージョン以降の場合とそうでない場合に、それぞれどうするかを指定するオプションを選択します。

5 Internet Explorer のバージョンを指定し、手順 4 と同様に移動先のオプションを選択します。

6 [他のブラウザ] メニューで、ビジターのブラウザが Netscape Navigator でも Internet Explorer でもない場合にどうするかを指定するオプションを選択します。

Netscape Navigator および Internet Explorer 以外のブラウザの場合は、[移動しない] が最適なオプションです。これら以外のブラウザのほとんどでは JavaScript をサポートしておらず、このビヘイビアを読み取ることができない場合は、結果として現在のページに留まることになるからです。

7 ダイアログボックスの最下段のテキストボックスに、URL および代替 URL のパスとファイル名を入力します。リモート URL を入力する場合は、www アドレスの先頭に「http://」を入力する必要があります。

8 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[プラグインのチェック] ビヘイビアの適用

[プラグインのチェック] ビヘイビアを使用して、指定したプラグインがインストールされているかどうかに応じて、ビジターを異なるページに進ませます。たとえば、Shockwave をインストール済みのビジターをあるページに進ませ、Shockwave をインストールしていないビジターを別のページに進ませることができます。

注意： JavaScript を使用して Internet Explorer で特定のプラグインを検出することはできません。ただし、Flash または Director を選択すると、ページに適切な VBScript コードが追加されるので、これらのプラグインを Windows の Internet Explorer で検出することができます。プラグインの検出は、Mac OS の Internet Explorer では実行できません。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [プラグインのチェック] を選択します

2 [プラグイン] メニューでプラグインを選択するか、[入力] をクリックして、隣のテキストボックスにプラグインの正確な名前を入力します。

Netscape Navigator の「Plug-ins について」のページに太字で明記されているように、プラグインの正確な名前を使用する必要があります (Windows では、Navigator の [ヘルプ]-[Plug-ins について] コマンドを選択し、Macintosh では、Apple メニューの [Plug-ins について] を選択します)。

3 [URL] テキストボックスで、プラグインをインストールしているビジター用の URL を指定します。

リモート URL を指定する場合は、アドレスの先頭に「http://」を付ける必要があります。フィールドを空白のままにすると、同じページに留まります。

4 [代替 URL] テキストボックスで、プラグインをインストールしていないビジター用の代替 URL を指定します。フィールドを空白のままにすると、同じページに留まります。

5 プラグインを検出できない場合の動作を指定します。初期設定では、検出を実行できない場合、ビジターは [代替 URL] テキストボックスに表示されている URL に進みます。また、ビジターを最初の URL ([URL] フィールドに指定した URL) に進ませるには、[ActiveX が使用可能な場合、最初の URL に移動してください。] オプションを選択します。このオプションを選択すると、事実上このオプションは、" プラグインの不存在をブラウザが明示的に示さない限り、ビジターがプラグインをインストールしているものと想定する " という意味になります。一般的に、プラグインコンテンツがページに必須の場合は、このオプションを選択し、必須でない場合は、このオプションの選択を解除します。

注意： このオプションは、Internet Explorer のみに適用されます。Netscape Navigator では常にプラグインを検出できます。

6 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[Shockwave および Flash のコントロール] ビヘイビアの適用

注意： このビヘイビアは Dreamweaver CS 3 では推奨されていません。このビヘイビアにアクセスするには、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [~ 非推奨] メニュー項目を選択する必要があります。

[Shockwave および Flash のコントロール] ビヘイビアを使用して、Shockwave ムービーまたは Flash SWF ファイルで再生、停止、巻き戻し、フレームへの移動を行います。

1 [挿入]-[メディア]-[Shockwave] または [挿入]-[メディア]-[Flash] を選択して、Shockwave ムービーまたは Flash SWF ファイルを挿入します。

2 [ウィンドウ]-[プロパティ] を選択して、[Shockwave] アイコンまたは [Flash] アイコンの隣にある左上のテキストボックスにムービーの名前を入力します。このビヘイビアを使用してムービーを制御するには、そのムービーに名前を付ける必要があります。

3 Shockwave または Flash SWF ファイルを制御するために使用する項目 ([再生] ボタンなど) を選択します。

4 [ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから、[~ 非推奨]-[Shockwave および Flash のコントロール] を選択します。

5 [ムービー] メニューからムービーを選択します。

Dreamweaver では、現在のドキュメント内のすべての Shockwave と Flash SWF ファイルの名前が自動的に一覧表示されます。具体的には、Dreamweaver では、<object> タグまたは <embed> タグ内にある、.dcr、.dir、.swf、.spl の拡張子で終わるファイル名のムービーが自動的に一覧表示されます。

6 ムービーで再生、停止、巻き戻し、フレームへの移動のいずれかを指定します。[再生] オプションを選択すると、ビヘイビアが発生したフレームからムービーの再生が開始されます。

7 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[AP エレメントをドラッグ] ビヘイビアの適用

[AP エレメントをドラッグ] ビヘイビアを使用すると、ビジターは絶対位置 (AP) のエレメントをドラッグできます。このビヘイビアを使用して、パズル、スライダコントロール、その他の移動可能なインターフェイスエレメントを作成します。

ビジターが AP エレメントをドラッグできる方向 (水平、垂直、任意)、ビジターが AP エレメントをドラッグするターゲット、AP エレメントがターゲットから特定のピクセル数以内になったときの AP エレメントのターゲットへの吸着の有無、AP エレメントがターゲットをヒットしたときのアクション、その他を指定することができます。

[AP エレメントをドラッグ] ビヘイビアは、ビジターが AP エレメントをドラッグする前に呼び出す必要があるので、[AP エレメントをドラッグ] を body オブジェクト (onLoad イベントとともに) に関連付けます。

1 [挿入]-[レイアウトオブジェクト]-[絶対位置の Div] を選択するか、[挿入] バーの [絶対位置の Div を描画] ボタンをクリックして、ドキュメントウィンドウのデザインビューで絶対位置の Div を描きます。

2 ドキュメントウィンドウの左下隅にあるセレクタで <body> をクリックします。

3 [ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから、[AP エレメントをドラッグ] を選択します。

[AP エレメントをドラッグ] を使用できない場合は、AP エレメントが選択されている可能性があります。

4 [AP エレメント] ポップアップメニューで、AP エレメントを選択します。

5 [モーション] ポップアップメニューで、[制限あり] または [制限なし] のいずれかを選択します。

制限のないモーションは、パズル、その他のドラッグ & ドロップゲームに適しています。スライダコントロールと、ファイルの引き出し、カーテン、ミニブラインドのような動く景色には、制限のあるモーションを選択します。

6 制限のあるモーションの場合、[上]、[下]、[左]、[右] テキストボックスに値 (ピクセル単位) を入力します。

値は、AP エレメントの開始位置を基準にしています。四角形領域内にモーションを制限するには、4 つのテキストボックスすべてに正の値を入力します。垂直方向のモーションだけを可能にするには、[上] と [下] に正の値を入力して、[左] と [右] には「0」と入力します。水平方向のモーションだけを可能にするには、[左] と [右] に正の値を入力して、[上] と [下] には「0」と入力します。

7 [左] と [上] のテキストボックスに、ドロップターゲット用の値 (ピクセル単位) を入力します。

ドロップターゲットは、ビジターに AP エレメントをドラッグさせたいスポットです。AP エレメントは、左と上の座標が [左] と [上] テキストボックスに入力した値と合致したとき、ドロップターゲットに達したとみなされます。値は、ブラウザウィンドウの左上隅を基準にしています。[現在位置の表示] をクリックすると、テキストボックスに AP エレメントの現在の位置が自動的に入力されます。

8 [吸着] テキストボックスに値 (ピクセル単位) を入力して、ビジターがどれだけドロップターゲットに近づいてから AP エレメントをターゲットに吸着させるかを指定します。

この値が大きいほど、ビジターはドロップターゲットを見つけやすくなります。

9 簡単なパズルと景色の操作の場合、これで作業を終えることができます。AP エレメント用にドラッグハンドルを定義したり、ドラッグされているときに AP エレメントのモーションの後を追ったり、AP エレメントがドロップされたときにアクションを実行したりするには、[詳細設定] タブをクリックします。

10 AP エレメントの特定の領域をクリックしないとその AP エレメントをドラッグできないように指定するには、[ドラッグハンドル] メニューで、[エレメント内の領域] を選択して、ドラッグハンドルの上と左の座標、および幅と高さを入力します。

このオプションは、AP エレメント内部のイメージに、タイトルバーや描画ハンドルのように、ドラッグを示唆するエレメントが含まれているときに使うと便利です。ビジターが AP エレメントのどこをクリックしてもドラッグできるようにする場合は、このオプションを設定しません。

11 使用する [ドラッグ中] オプションを次の中から選択します。

- ドラッグ中に重ね順の最上部に AP エレメントを移動する必要がある場合は、[エレメントを前面に移動] を選択します。このオプションを選択した場合、ポップアップメニューで、AP エレメントを最上部に置いておくか、重ね順の元の位置に戻すかを選択します。
- JavaScript コードまたは関数名 (たとえば、monitorAPelement()) を [JavaScript の呼出し] ボックスに入力して、AP エレメントのドラッグ中にコードまたは関数を繰り返し実行します。たとえば、AP エレメントの座標を監視して、「目標に近づいています」または「ドロップターゲットから見当はずれの位置です」などのヒントをテキストボックスに表示する関数を記述することができます。

12 JavaScript コードまたは関数名 (たとえば、**evaluatePelementPos()**) を 2 番目の [JavaScript の呼出し] ボックスに入力して、AP エレメントがドロップされるときにコードまたは関数を実行します。AP エレメントがドロップターゲットに達したときにだけ JavaScript が実行されるようにするには、[スナップした場合のみ] オプションを選択します。

13 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

ドラッグ可能な AP エレメントについての情報収集

AP エレメントをドラッグするビヘイビアをオブジェクトに関連付けると、Dreamweaver により MM_dragLayer() 関数がドキュメントの head セクションに挿入されます。関数は、AP エレメントの古い命名規則 (つまり "Layer") を保持するため、以前のバージョンの Dreamweaver で作成されたレイヤーは編集可能なまま保持されます。AP エレメントをドラッグ可能として登録するだけでなく、この関数は、各ドラッグ可能 AP エレメントに MM_LEFTRIGHT、MM_UPDOWN、および MM_SNAPPED の 3 つのプロパティを定義します。これらのプロパティは、AP エレメントの相対水平位置、AP エレメントの相対垂直位置、および AP エレメントがドロップターゲットに達したかどうかを判別するために、独自の JavaScript 関数で使用することができます。

注意：ここで提供している情報は、経験のある JavaScript プログラマのみを対象として提供しています。

たとえば、以下の関数は、MM_UPDOWN プロパティ (AP エレメントの現在の垂直位置) の値を curPosField というフォームフィールドに表示します。[フォーム] フィールドは、ページのロード終了後もコンテンツを変更できるので、継続的に更新される情報を表示するのに役立ちます。

```
function getPos(layerId){
    var layerRef = document.getElementById(layerId);
    var curVertPos = layerRef.MM_UPDOWN;
    document.tracking.curPosField.value = curVertPos;
}
```

フォームフィールドに MM_UPDOWN や MM_LEFTRIGHT の値を表示する代わりに、これらの値を他のさまざまな方法で使用することができます。たとえば、値がどれだけドロップ領域に近いかに応じてメッセージをフォームフィールドに表示する関数を記述したり、値に応じて AP エレメントの表示と非表示を切り替える別の関数を呼び出したりできます。

複数の AP エレメントがページ上にあり、ビジターが次のページまたはタスクに進む前に、その AP エレメントすべてがターゲットに達する必要のある場合に、MM_SNAPPED プロパティの読み取りを行うと特に便利です。たとえば、true の MM_SNAPPED 値をもつ AP エレメントの数を数える関数を記述し、AP エレメントがドロップされるつどこれを呼び出すことができます。吸着数が必要な数に達したときに、ビジターを次のページに進ませたり、祝辞メッセージを表示したりできます。

[URL に移動] ビヘイビアの適用

[URL に移動] ビヘイビアは、現在のウィンドウまたは指定したフレームで新規ページを開きます。このビヘイビアは、2 つ以上のフレームのコンテンツを 1 回クリックするだけで変更する場合に便利です。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [URL に移動] を選択します。

2 [開くロケーション] リストから URL の移動先を選択します。

[開くロケーション] リストには、現在のフレームセットのフレームすべての名前とメインウィンドウが自動的に一覧表示されます。フレームがない場合は、メインウィンドウが唯一のオプションです。

注意：このビヘイビアでは、フレームに "top"、"blank"、"self"、または "parent" という名前が付けられている場合、不測の結果を生じる場合があります。ブラウザが、これらの名前を予約ターゲット名と間違う場合があるからです。

3 [参照] をクリックして開くドキュメントを選択するか、[URL] テキストボックスにドキュメントのパスとファイル名を入力します。

4 手順 2 と 3 を繰り返して、他のフレームの追加のドキュメントを開きます。

5 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[ジャンプメニュー] ビヘイビアの適用

[挿入]-[フォーム]-[ジャンプメニュー] を使用してジャンプメニューを作成すると、Dreamweaver により、メニューオブジェクトが作成され、[ジャンプメニュー] ビヘイビアまたは [ジャンプメニュー移動] ビヘイビアがそのメニューオブジェクトに関連付けられます。通常、[ジャンプメニュー] ビヘイビアをオブジェクトに手動で関連付ける必要はありません。

既存のジャンプメニューを次の 2 つの方法のいずれかを使用して編集できます。

- [ビヘイビア] パネルで既存の [ジャンプメニュー] ビヘイビアをダブルクリックすると、メニュー項目の編集と再配置、ジャンプ先のファイルの変更、およびジャンプ先のファイルを開くウィンドウの変更を実行できます。
- ジャンプメニューを選択して、プロパティインスペクタの [リスト値] ボタンを使用すると、あらゆるメニューで項目を編集するのと同じように、ジャンプメニューで項目を編集できます。

1 ドキュメントにジャンプメニューオブジェクトがまだない場合は、それを作成します。

2 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [ジャンプメニュー] を選択します。

3 [ジャンプメニュー] ダイアログボックスで必要に応じて変更を加えて、[OK] をクリックします。

関連項目

277 ページの「ジャンプメニュー」

577 ページの「動的 HTML フォームメニューの挿入または変更」

[ジャンプメニュー移動] ビヘイビアの適用

[ジャンプメニュー移動] ビヘイビアは、[ジャンプメニュー] ビヘイビアと大きく関連しています。[ジャンプメニュー移動] によって、[移動] ボタンをジャンプメニューに関連付けることができます。このビヘイビアを使用する前に、ドキュメントにジャンプメニューが既に存在している必要があります。[移動] ボタンをクリックすると、ジャンプメニューで選択したリンクが開きます。通常、ジャンプメニューに [移動] ボタンは必要ありません。ジャンプメニューから項目を選択すると、通常はそれ以上ユーザーが操作することなく、URL がロードされます。ただし、ビジターがジャンプメニューで既に選択されているのと同じ項目を選択すると、ジャンプは生じません。一般的に、この場合にジャンプが生じなくても問題はありません。ただし、ジャンプメニューが 1 つのフレームに表示され、ジャンプメニューの項目が他のフレームのページにリンクしている場合に、ビジターがジャンプメニューで既に選択されている項目を再度選択できるようにするには、[移動] ボタンが便利です。

注意：ジャンプメニューで [移動] ボタンを使用する場合、メニューの選択内容に関連付けられた URL にユーザーをジャンプさせるメカニズムは、[移動] ボタンだけになります。ジャンプメニューでメニュー項目を選択しても、ユーザーが別のページまたはフレームに自動的にリダイレクトされることはなくなります。

1 [移動] ボタン (通常はボタンイメージ) として使用するオブジェクトを選択して、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [ジャンプメニュー移動] メニューを選択します。

2 [ジャンプメニューを選択] メニューで、[移動] ボタンでアクティブにするメニューを選択し、[OK] をクリックします。

[ブラウザウィンドウを開く] ビヘイビアの適用

[ブラウザウィンドウを開く] ビヘイビアを使用して、新規ウィンドウでページを開きます。サイズ、属性 (サイズ変更可能かどうか、メニューバーがあるかなど)、名前などの新規ウィンドウのプロパティを指定できます。たとえば、このビヘイビアを使用して、ビジターがサムネールイメージをクリックしたときに別のウィンドウでより大きなイメージを開くことができます。また、このビヘイビアを使用して、新規ウィンドウをイメージとちょうど同じサイズにすることができます。

ウィンドウに属性を指定しない場合、ウィンドウは、そのウィンドウを開いたウィンドウのサイズおよび属性を使用して開かれます。ウィンドウに属性を指定すると、明示的にオンにされていない他のすべての属性が自動的にオフになります。たとえば、ウィンドウに属性を設定しない場合に、1024 × 768 ピクセルのウィンドウが、ナビゲーションバー ([戻る]、[次]、[ホーム]、[再読み込み] の各ボタンを表示)、ロケーションツールバー (URL を表示)、ステータスバー (下部にステータスメッセージを表示)、およびメニューバー ([ファイル]、[編集]、[表示] およびその他のメニューを表示) が表示された状態で開かれるとします。幅を 640、高さを 480 に明示的に設定し、他の属性は設定しない場合、640 × 480 ピクセルのウィンドウが、ツールバーが表示されない状態で開かれます。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [ブラウザウィンドウを開く] を選択します。

2 [参照] をクリックしてファイルを選択するか、表示する URL を入力します。

3 ウィンドウの幅と高さ (ピクセル単位) のオプションと、さまざまなツールバー、スクロールバー、サイズ変更ハンドルなどに関するオプションを設定します。ウィンドウをリンクのターゲットにしたり、JavaScript を使用してウィンドウを制御したりするには、スペースまたは特殊文字を使用せずに、そのウィンドウに名前を付ける必要があります。

4 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[サウンドの再生] ビヘイビアの適用

[サウンドの再生] ビヘイビアを使用すると、ポインタがリンク上に移動したときにサウンドエフェクトを再生したり、ページをロードしたときにミュージッククリップを再生したりするなどのことができます。

注意：サウンド再生のために、音声プラグインなどの追加の音声サポートがブラウザに必要な場合があります。異なるブラウザでは異なるプラグインが使用されるので、サウンドエフェクトがどのように再生されるかを確実に予想することは困難です。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [サウンドの再生] を選択します。

2 [参照] をクリックしてサウンドファイルを選択するか、[サウンドの再生] テキストボックスにパスとファイル名を入力します。

3 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[ポップアップメッセージ] ビヘイビアの適用

[ポップアップメッセージ] ビヘイビアを設定すると、指定したメッセージを示す JavaScript 警告が表示されます。JavaScript 警告には [OK] ボタンしかないため、このビヘイビアは、ユーザーに対して選択肢を与えるためではなく、情報を提供するために使用します。

有効な JavaScript の関数呼び出し、プロパティ、グローバル変数、その他の式をテキストに埋め込むことができます。JavaScript 式を埋め込む場合は、波カッコ ({}) で囲みます。波カッコを表示するには、前にバックスラッシュを付けます (\{)。

例 :

```
The URL for this page is {window.location}, and today is {new Date()}.
```

注意 : 警告の外観はブラウザによって制御されます。外観をより細かく制御するには、[ブラウザウィンドウを開く] ビヘイビアの使用をお勧めします。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [ポップアップメッセージ] を選択します。

2 [メッセージ] テキストボックスにメッセージを入力します。

3 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[イメージのプリロード] ビヘイビアの適用

[プリロードイメージ] ビヘイビアでは、ページが最初に表示されるときに表示されないイメージ (たとえば、ビヘイビアまたはスクリプトでスワップされるイメージ) をキャッシュに保存することにより、表示にかかる時間を短縮します。

注意 : [スワップイメージ] ビヘイビアを使用し、[スワップイメージ] ダイアログボックスで [プリロードイメージ] オプションを選択すると、ハイライト表示されたイメージがすべて自動的にプリロードされます。そのため、[スワップイメージ] を使用する場合は、[プリロードイメージ] を手動で追加する必要はありません。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [プリロードイメージ] を選択します。

2 [参照] をクリックしてイメージファイルを選択するか、[イメージソースファイル] テキストボックスにイメージのパスとファイル名を入力します。

3 ダイアログボックスの最上部にある [+] ボタンをクリックして、[イメージのプリロード] リストにイメージを追加します。

4 現在のページでプリロードする残りのイメージすべてに対して、手順 3 と 4 を繰り返します。

5 [イメージのプリロード] リストからイメージを削除するには、削除するイメージを選択して、[-] ボタンをクリックします。

6 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[ナビゲーションバーイメージの設定] ビヘイビアの適用

[ナビゲーションバーイメージの設定] ビヘイビアを使用すると、イメージがナビゲーションバーイメージに変換されるか、ナビゲーションバーのイメージの表示とアクションが変更されます

[ナビゲーションバーイメージの設定] ダイアログボックスの [基本] タブを使用すると、ナビゲーションバーイメージの作成または更新、ユーザーが [ナビゲーションバー] ボタンをクリックしたときに表示される URL の変更、および URL を表示するウィンドウの選択を行うことができます。

[ナビゲーションバーイメージの設定] ダイアログボックスの [詳細] タブを使用すると、現在のボタンの状態に基づいて、ドキュメント内の他のイメージの状態を変更できます。初期設定では、ナビゲーションバーのエレメントをクリックすると、ナビゲーションバーの他のエレメントが自動的にアップイメージの状態に戻ります。選択したイメージがダウンイメージまたはオーバーイメージの状態のときに、イメージの別の状態を設定する場合は [詳細] タブを使用します。

関連項目

279 ページの「ナビゲーションバー」

[ナビゲーションバーイメージの設定] ビヘイビアの編集

1 ナビゲーションバーでイメージを選択し、[ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択します。

2 [アクション] メニューで、変更するイベントに関連付けられている [ナビゲーションバーイメージの設定] ビヘイビアを選択します。

3 [ナビゲーションバーイメージの設定] ダイアログボックスの [基本] タブで、編集オプションを選択します。

ナビゲーションバーボタンへの複数のイメージの設定

1 ナビゲーションバーで編集するイメージを選択し、[ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択します。

2 [アクション] メニューで、変更するイベントに関連付けられている [ナビゲーションバーイメージの設定] アクションをダブルクリックします。

3 [ナビゲーションバーイメージの設定] ダイアログボックスの [詳細] タブをクリックします。

4 [エレメントを表示中] メニューで、イメージの状態を選択します。

- 選択したイメージをユーザーがクリックした後に別のイメージの表示を変更する場合は、[ダウンイメージ] を選択します。
- 選択したイメージ上にポインタがあるときに別のイメージの表示を変更する場合は、[オーバーイメージ] または [ダウン中オーバーイメージ] を選択します。

5 [設定イメージ] リストで、ページ上の別のイメージを選択します。

6 [参照] をクリックして表示するイメージファイルを選択するか、[移動イメージファイル] テキストボックスにイメージファイルのパスを入力します。

7 手順 4 で [オーバーイメージ] または [ダウン中オーバーイメージ] を選択した場合、追加オプションがあります。[ダウン時の移動イメージファイル] テキストボックスで、[参照] ボタンをクリックしてイメージファイルを選択するか、イメージファイルのパスを入力します。

[フレームテキストを設定] ビヘイビアの適用

[フレームテキストを設定] ビヘイビアを使用すると、フレームテキストを動的に設定できるので、フレームのコンテンツとフォーマットを、指定するコンテンツに置き換えることができます。コンテンツには、有効な HTML コードを含めることができます。このビヘイビアを使用して、情報を動的に表示します。

[フレームテキストを設定] ビヘイビアによってフレームのフォーマットが置き換わりますが、[背景色の固定] を選択すると、ページの背景色とテキストカラーの属性を維持することができます。

有効な JavaScript の関数呼び出し、プロパティ、グローバル変数、その他の式をテキストに埋め込むことができます。JavaScript 式を埋め込む場合は、波カッコ ({}) で囲みます。波カッコを表示するには、前にバックスラッシュを付けます (\{)。

例 :

```
The URL for this page is {window.location}, and today is {new Date()}.
```

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [テキスト設定]-[フレームテキストを設定] を選択します。

2 [フレームテキストを設定] ダイアログボックスの [フレーム] メニューから、ターゲットフレームを選択します。

3 [現在の HTML を取得] ボタンをクリックして、ターゲットフレームの body セクションの現在のコンテンツをコピーします。

4 [新規 HTML] テキストボックスにメッセージを入力します。

5 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

関連項目

196 ページの「フレームおよびフレームセットの作成」

[コンテナのテキストを設定] ビヘイビアの適用

[コンテナのテキストを設定] ビヘイビアを使用すると、ページの既存のコンテナのコンテンツとフォーマット (つまり、テキストまたはその他のエレメントを含めることができる任意のエレメント) が、指定するコンテンツに置き換わります。コンテンツには、有効な HTML ソースコードを含めることができます。

有効な JavaScript の関数呼び出し、プロパティ、グローバル変数、その他の式をテキストに埋め込むことができます。JavaScript 式を埋め込む場合は、波カッコ ({}) で囲みます。波カッコを表示するには、前にバックスラッシュを付けます (\{)。

例 :

```
The URL for this page is {window.location}, and today is {new Date()}.
```

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [テキスト設定]-[コンテナのテキストを設定] を選択します。

2 [コンテナのテキストを設定] ダイアログボックスの [コンテナ] メニューを使用して、ターゲットエレメントを選択します。

3 [新規 HTML] テキストボックスに新規テキストまたは HTML を入力します。

4 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

関連項目

145 ページの「絶対位置の Div の挿入」

[ステータスバーテキストを設定] ビヘイビアの適用

[ステータスバーテキストを設定] ビヘイビアを使用すると、ブラウザウィンドウの左下隅のステータスバーにメッセージが表示されます。たとえば、このビヘイビアを使用すると、リンクに関連付けられている URL を表示する代わりに、ステータスバーにリンク先を記述できます。ビジターは通常、ステータスバーのメッセージを無視または見逃します。また、すべてのブラウザが、ステータスバーのテキストの設定をフルサポートしているとは限りません。メッセージが重要な場合は、ポップアップメッセージまたは AP エレメントのテキストとして表示することをお勧めします。

注意 : Dreamweaver で [ステータスバーテキストを設定] ビヘイビアを使用する場合、一部のブラウザでは、ステータスバーのテキストを変更するときに特別な調整が必要なため、ブラウザのステータスバーのテキストが変更されるという保証はありません。たとえば、Firefox では [詳細オプション] を変更して、JavaScript でステータスバーのテキストを変更する必要があります。詳しくは、ご使用のブラウザのマニュアルを参照してください。

有効な JavaScript の関数呼び出し、プロパティ、グローバル変数、その他の式をテキストに埋め込むことができます。JavaScript 式を埋め込む場合は、波カッコ ({}) で囲みます。波カッコを表示するには、前にバックスラッシュを付けます (\{)。

例 :

```
The URL for this page is {window.location}, and today is {new Date()}.
```

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [テキスト設定]-[ステータスバーテキストを設定] を選択します。

2 [ステータスバーテキストを設定] ダイアログボックスの [メッセージ] ボックスにメッセージを入力します。

メッセージは簡潔にします。ステータスバーに収まらないメッセージは切り捨てられます。

3 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[テキストフィールドのテキストを設定] ビヘイビアの適用

[テキストフィールドのテキストを設定] ビヘイビアを使用すると、フォームのテキストフィールドのコンテンツが、指定するコンテンツに置き換わります。

有効な JavaScript の関数呼び出し、プロパティ、グローバル変数、その他の式をテキストに埋め込むことができます。JavaScript 式を埋め込む場合は、波カッコ ({}) で囲みます。波カッコを表示するには、前にバックスラッシュを付けます (\{)。

例 :

```
The URL for this page is {window.location}, and today is {new Date()}.
```

名前の付いたテキストフィールドの作成

1 [挿入]-[フォーム]-[テキストフィールド] を選択します。

Dreamweaver から form タグを追加するようプロンプトが表示されたら、[はい] をクリックします。

2 プロパティインスペクタで、テキストフィールドの名前を入力します。名前がページ上で固有であることを確認します。同じページ上では、たとえフォームが異なっても、複数のエレメントに同じ名前を使用しないでください。

[テキストフィールドのテキストを設定] の適用

1 テキストフィールドを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [テキスト設定]-[テキストフィールドのテキストを設定] を選択します。

2 [テキストフィールド] メニューからターゲットテキストフィールドを選択し、新しいテキストを入力します。

3 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[エレメントの表示 - 非表示] ビヘイビアの適用

[エレメントの表示 - 非表示] ビヘイビアでは、複数のページエレメントを表示または非表示にしたり、表示か非表示かの初期設定を復元したりすることができます。このビヘイビアは、ユーザーがページでインタラクティブな操作を行うとき、情報を表示するのに便利です。たとえば、ユーザーが植物のイメージ上にマウスポインタを移動したときに、その植物の生育時期、生育地域、必要な日照量、育つ大きさなどの詳細を示すページエレメントが表示されるようにすることができます。ビヘイビアは、関連するエレメントを表示または非表示にするだけです。非表示にする場合でも、ページのフローからエレメントが実際に削除されるわけではありません。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [エレメントの表示 - 非表示] を選択します。

[エレメントの表示 - 非表示] を使用できない場合は、AP エレメントが選択されている可能性があります。どちらのバージョン 4.0 のブラウザでも、AP エレメントではイベントが受け付けられません。このため、<body> タグまたはリンク (<a> タグ) のような別のオブジェクトを選択する必要があります。

2 [エレメント] リストから表示または非表示にするエレメントを選択し、[表示]、[非表示]、または [復元] (表示または非表示の初期設定を復元) をクリックします。

3 表示 / 非表示を変更する残りのエレメントすべてに対して、手順 2 を繰り返します。1 つのビヘイビアを使用して、複数のエレメントの表示 / 非表示を変更できます。

4 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[ポップアップメニューを表示] ビヘイビアの適用

注意 : このビヘイビアは Dreamweaver CS 3 では推奨されていません。このビヘイビアにアクセスするには、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [~ 非推奨] メニュー項目を選択する必要があります。

[ポップアップメニューを表示] ビヘイビアを使用して Dreamweaver のポップアップメニューを作成または編集するか Dreamweaver のドキュメントに挿入した Fireworks ポップアップメニューを開いて変更します。

注意 : この機能は、Dreamweaver 8 以前でこの機能を使用していたユーザーのために提供されています。新しいポップアップメニューを作成および編集するには、[挿入] バーの Spry メニューバー Widget を使用します。Widget のコードは、カスタマイズと維持が簡単です。詳細については、「431 ページの「メニューバー Widget の操作」」を参照してください。

[ポップアップメニューを表示] ダイアログボックスに、横または縦のポップアップメニューを作成するオプションを設定します。このダイアログボックスを使用して、ポップアップメニューのカラー、テキスト、位置を変更できます。

注意：Fireworks のイメージベースのポップアップメニューでイメージを編集するには、Dreamweaver のプロパティインスペクタの [編集] ボタンを使用する必要があります。ただし、[ポップアップメニューを表示] コマンドを使用して、イメージベースのポップアップメニューのテキストを変更することができます。

1 オブジェクトを選択し、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [~ 非推奨]-[ポップアップメニューを表示] を選択します。

2 以下のタブを使用してポップアップメニューのオプションを設定します。

コンテンツ 各メニュー項目の名前、構造、URL、ターゲットを設定します。

外観 メニューの [アップ状態] と [オーバー状態] の外観を設定し、メニュー項目のフォントを設定します。

詳細 メニューセルのプロパティを設定します。たとえば、セルの幅、セルの高さ、セルの色とボーダー幅、テキストインデント、およびユーザーがマウスをトリガ上に移動してからメニューが表示されるまでの経過時間を設定することができます。

位置 トリガするイメージまたはリンクに対するメニューの相対位置を設定します。

関連項目

350 ページの「Fireworks による作業」

ポップアップメニュー項目の追加、削除、並べ替え

メニュー項目を作成するには、[ポップアップメニューを表示] ダイアログボックスの [コンテンツ] タブを使用します。また、このタブは、既存の項目を削除したり、項目がメニューに表示される順序を変更する場合にも使用できます。

ポップアップメニュー項目の追加

1 [コンテンツ] タブで、初期設定のテキスト ([新規項目]) を選択し、ポップアップメニュー項目の名前を入力します。

2 必要に応じて、追加のオプションを設定します。

- メニュー項目をクリックすると別のファイルが開かれるように設定するには、[リンク] テキストボックスにファイルパスを入力するか、[フォルダ] アイコンをクリックしてドキュメントを選択します。
- ドキュメントを開く場所 (新規ウィンドウや特定のフレームなど) を設定するには、[ターゲット] メニューで場所を選択します。

注意：目的のフレームが [ターゲット] メニューに表示されない場合は、[ポップアップメニューを表示] ダイアログボックスを閉じて、ドキュメントウィンドウでフレームを選択し、名前を付けます。

3 [+] ボタンをクリックし、メニュー項目の追加を続行します。

完了したら、[OK] をクリックして初期設定を確定するか、[ポップアップメニューを表示] タブを選択して追加オプションを設定します。

インデントによるサブメニューの作成

❖ [ポップアップメニューを表示] リストで、項目を選択し、[項目をインデント] をクリックします。インデントを削除するには、[項目のインデントを解除] をクリックします。

注意：リストの最初の項目はインデントできません。

メニュー内の項目の順序の変更

❖ [ポップアップメニューを表示] リストで、項目を選択し、上矢印または下矢印をクリックします。

メニューからの項目の削除

❖ [ポップアップメニューを表示] リストで、項目を選択し、[-] ボタンをクリックします。

ポップアップメニューのフォーマット

メニュー項目を作成した後で、[ポップアップメニューを表示] ダイアログボックスの [外観] タブを使用して、ポップアップメニューに対して方向、フォント属性、ボタンの状態属性を設定します。オプションを設定しながら、プレビューペインで外観への影響を確認します。

1 メニューの方向を設定する場合は、[外観] タブの最上段のポップアップメニューで、[メニュー (縦)] または [メニュー (横)] を選択します。

2 テキストフォーマットオプションの設定

- [フォント] メニューで、メニュー項目のフォントを選択します。ビジターのシステムで使用される可能性の高いフォントを選択します。
- フォントサイズ、スタイル属性、テキストの整列または行端揃えの各オプションをメニュー項目テキスト用に設定します。

注意：適用するフォントがフォントリストにない場合は、[フォントリストの編集] オプションを使用して、目的のフォントをフォントリストに追加します。

3 [アップ状態] ボックスと [オーバー状態] ボックスで、カラーピッカーを使用して、メニュー項目ボタンのテキストカラーとセルカラーを設定します。

4 完了したら、[OK] をクリックするか、さらに [ポップアップメニューを表示] タブを選択して追加オプションを設定します。

高度な外観オプション

セルの幅とセルの高さ メニューボタンの幅と高さをピクセル単位で設定します。セルの幅は、最も幅の広い項目を基準にして自動的に設定されます。セルの幅を広げたり高さを高くしたりするには、ポップアップメニューの [ピクセル] を選択して、[セルの幅] テキストボックスまたは [セルの高さ] テキストボックスに、表示されている値よりも大きい値を入力します。

セル内余白 セルのコンテンツと境界線の間のピクセル数を指定します。

セル内間隔 隣接するセルの間隔をピクセル単位で指定します。

テキストインデント セル内のメニュー項目のインデントをピクセル単位で設定します。

メニュー遅延 ユーザーがトリガしているイメージまたはリンクからマウスを離した後にメニューに表示される時間の長さを設定します。値はミリ秒で指定されるため、初期設定の 1000 は 1 秒に相当します。3 秒の遅延を指定するには、「3000」と入力します。

ポップアップのボーダー メニュー項目にボーダーを付けるかどうかを設定します。ボーダーを付ける場合は、[ボーダーを表示] を選択します。

ボーダー幅 ボーダーの幅をピクセル単位で設定します。

影、ボーダーカラー、ハイライト ボーダーオプションのカラーを選択します。影とハイライトは、プレビューには反映されません。

ドキュメントでのポップアップメニューの位置の設定

位置オプションを使用して、トリガしているイメージまたはリンクに対してポップアップメニューが相対的に表示される位置を指定します。また、ユーザーがマウスをトリガから離したときに、メニューを非表示にするかどうかを指定することもできます。

1 [ポップアップメニューを表示] ダイアログボックスで、[位置] タブをクリックします。

2 次のいずれかの操作を行って、ポップアップメニューの場所を設定します。

- 設定済みオプションのいずれかを選択します。
- [X] ボックスに横座標を入力し、[Y] ボックスに縦座標を入力して、位置座標を設定します。座標の原点はメニューの左上隅です。

3 マウスが上に置かれていないときにポップアップメニューを非表示にするには、[onMouseOut イベントでメニューを非表示] を選択します。これを選択しなかった場合、メニューは表示されたままになります。

4 [OK] をクリックします。

ポップアップメニューの変更

[ポップアップメニューを表示] ビヘイビアでは、ポップアップメニューのコンテンツを編集または更新することができます。メニュー項目を追加、削除、または変更したり、メニュー項目を並べ替えたり、トリガしたイメージまたはリンクに対するメニューの相対位置を指定することができます。

注意：この機能は、Dreamweaver 8 以前でこの機能を使用していたユーザーのために提供されています。新しいポップアップメニューを作成および編集するには、[挿入] バーの Spry メニューバー Widget を使用します。Widget のコードは、カスタマイズと維持が簡単です。詳細については、「431 ページの「メニューバー Widget の操作」」を参照してください。

既存の HTML ベースのポップアップメニューを開くには :

1 Dreamweaver ドキュメント内で、ポップアップメニューを実行するリンクまたはイメージを選択します。

2 [ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから、[ポップアップメニューを表示] を選択します。

3 ダイアログボックスで変更を行い、[OK] をクリックします。

[スワップイメージ] ビヘイビアの適用

[スワップイメージ] ビヘイビアを使用すると、src 属性 (<img> タグ) を変更することによって、あるイメージが別のイメージにスワップされます。このビヘイビアを使用して、ボタンロールオーバー、その他のイメージ効果 (複数のイメージを同時にスワップさせることなど) を作成します。ロールオーバーイメージを挿入すると、[スワップイメージ] ビヘイビアが自動的にページに追加されます。

注意：このビヘイビアで影響を受けるのは src 属性だけなので、高さと幅が元のイメージと同じサイズのイメージにスワップすることが必要です。そうでない場合、スワップしたイメージが、元のイメージのサイズに合うように縮小または拡大されます。

[スワップイメージの復元] ビヘイビアでは、最後にスワップされた一連のイメージが前のソースファイルに復元されます。[スワップイメージ] ビヘイビアをオブジェクトに関連付けると、常にこのビヘイビアが自動的に追加されます。[スワップイメージ] を関連付けるときに [復元] オプションを選択したままにすると、[スワップイメージの復元] ビヘイビアを手動で選択する必要がなくなります。

1 [挿入]-[イメージ] を選択するか、[挿入] バーの [イメージ] ボタンをクリックしてイメージを挿入します。

2 プロパティインスペクタの左端にあるテキストボックスにイメージの名前を入力します。

イメージに名前を付けることは必須ではありません。ビヘイビアをオブジェクトに関連付けると、自動的にイメージに名前が付けられます。ただし、前もってすべてのイメージに名前を付けておけば、[スワップイメージ] ダイアログボックスでイメージをより簡単に識別できます。

3 追加のイメージを挿入するには、手順 1 と 2 を繰り返します。

4 通常はスワップ対象のイメージであるオブジェクトを選択して、[ビヘイビア] パネルの [アクション] メニューから [スワップイメージ] を選択します。

5 [イメージ] リストで、ソースを変更するイメージを選択します。

6 [参照] をクリックして新規イメージファイルを選択するか、[ソースの設定] テキストボックスに新規イメージのパスとファイル名を入力します。

7 変更する追加のイメージがある場合は、手順 5 と 6 を繰り返します。一度に変更するイメージすべてに対して、同じ [スワップイメージ] アクションを使用します。ただし、対応する [スワップイメージの復元] アクションは、それらすべてのイメージを復元しません。

8 [プリロードイメージ] オプションを選択すると、ページのロード時に新しいイメージがキャッシュに保存されます。

これにより、ダウンロード時にイメージの表示が遅れるのを防ぐことができます。

9 [OK] をクリックして、初期設定のイベントが正しいことを確認します。 初期設定のイベントが正しくない場合は、別のイベントを選択するか、[表示するイベント] サブメニューでターゲットブラウザを変更します。

[検査フォーム] ビヘイビアの適用

[検査フォーム] ビヘイビアを使用すると、特定のテキストフィールドのコンテンツがチェックされて、ユーザーが適切なタイプのデータを入力したかどうかが確認されます。このビヘイビアを onBlur イベントと関連付けて、ユーザーがフォームに記入するつどフィールドを検査するか、onSubmit イベントと関連付けて、ユーザーが [送信] ボタンをクリックしたときにいくつかのフィールドを同時に評価します。このビヘイビアをフォームに関連付けると、無効なデータが含まれるフォームは送信されなくなります。

1 [挿入]-[フォーム] を選択するか、[挿入] バーの [フォーム] ボタンをクリックしてフォームを挿入します。

2 [挿入]-[フォーム]-[テキストフィールド] を選択するか、[挿入] バーの [テキストフィールド] ボタンをクリックしてテキストフィールドを挿入します。

追加のテキストフィールドを挿入するには、この手順を繰り返します。

3 検査方法を次の中から選択します。

- ユーザーがフォームを記入するときに個々のフィールドを検査するには、テキストフィールドを選択して、[ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択します。
- ユーザーがフォームを送信するときに複数のフィールドを検査するには、ドキュメントウィンドウの左下隅にあるタグセレクタで <form> タグをクリックして、[ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択します。

4 [アクション] メニューで [検査フォーム] を選択します。

5 次のいずれかの操作を実行します。

- 個々のフィールドを検査する場合は、ドキュメントウィンドウで選択したのと同じフィールドを [フィールド] リストで選択します。
- 複数のフィールドを検査する場合は、[フィールド] リストからテキストフィールドを選択します。

6 フィールドにデータを含める必要がある場合は、[必須] オプションを選択します。

7 次の [受諾] オプションのいずれかを選択します。

すべて 必須フィールドにデータが含まれているかどうかがチェックされます。データのタイプは任意です。

電子メールアドレス フィールドに @ 記号が含まれているかどうかチェックされます。

数字 フィールドに数字だけが含まれているかどうかチェックされます。

数字の範囲 フィールドに特定の範囲の数字が含まれているかどうかチェックされます。

8 複数のフィールドを検査する場合、検査する追加のフィールドがあれば、手順 6 と 7 を繰り返します。

9 [OK] をクリックします。

ユーザーがフォームを送信するときに複数のフィールドを検査する場合、[イベント] メニューに onSubmit イベントが自動的に表示されます。

10 個々のフィールドを検査する場合、初期設定のイベントが onBlur または onChange であることを確認します。このいずれかでない場合、いずれかのイベントを選択します。

いずれのイベントでも、ユーザーがフィールドから移動したときに [検査フォーム] ビヘイビアを実行します。違うのは、onBlur はユーザーがフィールドに入力したかどうかに関係なく実行されるのに対し、onChange はユーザーがフィールドの内容を変更した場合にのみ実行される点です。必須のフィールドでは、onBlur イベントの使用をお勧めします。

第 13 章：他のアプリケーションとの併用

Adobe® Dreamweaver® CS3 は、Flash、Fireworks、Adobe® Photoshop®、Adobe® Bridge など、多くの Adobe アプリケーションとの統合が可能です。Dreamweaver のワークスペースから、Adobe® Device Central など、他の Adobe アプリケーションを直接使用できます。

アプリケーション間の統合

Photoshop、Flash、Fireworks の統合について

Photoshop、Fireworks、Flash は、グラフィックファイルや SWF ファイルの作成と管理に適した強力な Web 開発ツールです。これらのツールと Dreamweaver を緊密に統合することで、Web デザインのワークフローを簡素化できます。

注意：その他の一部のアプリケーションとも、制約はありますが統合できます。たとえば、InDesign ファイルを XHTML として書き出し、Dreamweaver でそれを続けて編集できます。このワークフローのチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0202_jp を参照してください。

Dreamweaver のドキュメントにイメージや Flash コンテンツ (SWF ファイル) を簡単に挿入できます。イメージまたは Flash コンテンツを Dreamweaver ドキュメントに挿入した後で、それらのデータを作成元のエディタで編集することも可能です。

注意：Dreamweaver をこれらの Adobe アプリケーションと共に使用するには、これらのアプリケーションがコンピュータにインストールされている必要があります。

Fireworks と Flash の場合、ラウンドトリップ編集とデザインノートを使用して、製品間の統合を実現することができます。ラウンドトリップ編集により、Dreamweaver と他のアプリケーションとの間でコードの更新内容が適切に伝達されます。たとえば、アプリケーション間でロールオーバービヘイビアや他のファイルへのリンクを維持することができます。

デザインノートは小さなファイルで、Dreamweaver では、このファイルの情報に基づいて、書き出されたイメージや Flash ファイルのソースドキュメントの場所を特定できます。Dreamweaver で定義したサイトに Fireworks、Flash、または Photoshop からファイルを直接書き出す場合は、元の PSD ファイル、PNG ファイル、または Flash オーサリングファイル (FLA) への参照情報を含むデザインノートが、Web 対応ファイル (GIF、JPEG、または SWF) と共に該当サイトに自動的に書き出されます。

場所情報に加えて、デザインノートには、書き出されたファイルに関する他の適切な情報が格納されます。たとえば、Fireworks のテーブルを書き出す場合、そのテーブルの一部として書き出されるイメージファイルごとに 1 つずつデザインノートが作成されます。書き出し元のファイルにホットスポットまたはロールオーバーが指定されている場合は、それらのホットスポットやロールオーバーのスクリプトに関する情報がデザインノートに含まれます。

書き出し時には、同じフォルダ内に _notes という名前のフォルダが作成されます。このフォルダには、Dreamweaver に Photoshop または Fireworks を統合する際に必要なデザインノートが保存されます。

注意：デザインノートを使用するには、Dreamweaver サイトに対してデザインノートが有効になっていることを確認する必要があります。デザインノートは初期設定では有効になっています。ただし、デザインノートが無効になっていても、Photoshop イメージファイルを挿入すると Dreamweaver によってデザインノートが作成され、ソース PSD ファイルと同じ場所に格納されます。

Dreamweaver と Fireworks の統合のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0188_jp を参照してください。

Dreamweaver と Photoshop の統合のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0200_jp を参照してください。

関連項目

97 ページの「デザインノートについて」

98 ページの「サイトのデザインノートの有効化と無効化」

Fireworks による作業

Fireworks イメージの挿入

Dreamweaver と Fireworks は、リンク、イメージマップ、テーブルスライスなどの変更を始め、同一のファイルに対する数々の編集操作を互いに認識し、共有します。また、HTML ページ上の Web グラフィックファイルの編集、最適化、配置のワークフローは、2 つのアプリケーション間で合理化されています。

Fireworks から書き出したグラフィックを Dreamweaver ドキュメントに直接配置するには、イメージの挿入コマンドを使用します。または、Dreamweaver のイメージプレースホルダーから新しい Fireworks グラフィックを作成することもできます。

1 Dreamweaver ドキュメント内で、イメージを表示する位置に挿入ポイントを置き、次のいずれかの操作を行います。

- [挿入]-[イメージ] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリ内で [イメージ] ボタンをクリックするか、またはドキュメント上に [イメージ] ボタンをドラッグします。

2 Fireworks から書き出した目的のファイルを見つけて、[OK] (Windows) または [開く] (Macintosh) をクリックします。

注意：目的の Fireworks ファイルが現在の Dreamweaver サイトの外部にある場合は、このファイルをルートフォルダにコピーするかどうかを確認するメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。

関連項目

349 ページの「Photoshop、Flash、Fireworks の統合について」

Dreamweaver からの Fireworks イメージまたはテーブルの編集

Dreamweaver でイメージ、または Fireworks テーブルを構成するイメージスライスを開いて編集する際は、Fireworks が自動的に起動し、そのイメージやテーブルの書き出し元の PNG ファイルが Fireworks で開きます。

注意：この動作を実行するには、Fireworks が PNG ファイル用のプライマリ外部イメージエディタとして設定されている必要があります。また、Fireworks は JPEG ファイルや GIF ファイル用の初期設定のエディタとして設定されていますが、Photoshop をこれらのファイルタイプ用の初期設定のエディタとして設定することもできます。

イメージが Fireworks テーブルの一部である場合は、HTML コード内に <!--fw table--> というコメントが記述されていれば、Fireworks テーブル全体を開いて編集できます。Fireworks から Dreamweaver サイトに、Dreamweaver スタイルの [HTML とイメージ] 設定を使用してソース PNG ファイルを書き出した場合、Fireworks テーブルのコメントが自動的に HTML コード内に挿入されます。

1 Dreamweaver でプロパティインスペクタが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択して開きます。

2 イメージまたはイメージスライスをクリックして選択します。

Fireworks から書き出されたイメージを選択すると、プロパティインスペクタではその選択内容が Fireworks のイメージまたはテーブルであることが識別され、PNG ソースファイルの名前が表示されます。

3 編集用に Fireworks を起動するには、次のいずれかの操作を行います。

- プロパティインスペクタで [編集] をクリックします。
- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、選択したイメージをダブルクリックします。

- 選択したイメージを右クリックするか (Windows)、または Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、コンテキストメニューの [エディタを指定して編集 Fireworks] を選択します。

注意：Fireworks で PNG ソースファイルの場所を特定できない場合は、配置場所の指定を求めるメッセージが表示されます。Fireworks ソースファイルを操作すると、ソースファイルと書き出しファイルの両方に変更が保存されます。それ以外の場合は、書き出されたファイルのみが更新されます。

4 Fireworks で、ソース PNG ファイルを編集して [終了] をクリックします。

Fireworks で変更内容が PNG ファイルに保存され、更新後のイメージ (または HTML とイメージ) が書き出され、フォーカスが Dreamweaver に戻ります。Dreamweaver に、更新されたイメージまたはテーブルが表示されます。

Dreamweaver と Fireworks の統合のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0188_jp を参照してください。

関連項目

242 ページの「外部イメージエディタの使用」

Dreamweaver からの Fireworks イメージの最適化

Dreamweaver を使用すると、Fireworks イメージやアニメーションをすばやく変更できます。Dreamweaver では、最適化設定、アニメーション設定、書き出されたイメージのサイズおよび領域を変更できます。

1 Dreamweaver で目的のイメージを選択し、[コマンド]-[イメージを最適化] を選択します。

2 [イメージプレビュー] ダイアログボックスで、次の操作を行います。

- 最適化設定を編集するには、[オプション] タブをクリックします。
- 書き出されたイメージのサイズと領域を編集するには、[ファイル] タブをクリックします。

3 完了したら、[OK] をクリックします。

関連項目

360 ページの「イメージの最適化設定の選択」

Fireworks による Dreamweaver イメージプレースホルダーの修正

Dreamweaver ドキュメント内にイメージのプレースホルダーを作成して Fireworks を起動し、そのプレースホルダーに配置するグラフィックイメージまたは Fireworks テーブルをデザインできます。

イメージプレースホルダーから新規イメージを作成するには、Dreamweaver および Fireworks を両方ともシステムにインストールしておく必要があります。

1 PNG ファイル用のイメージエディタとして、Fireworks が設定されていることを確認します。

2 ドキュメントウィンドウで、イメージのプレースホルダーをクリックして選択します。

3 次のいずれかの操作を行い、Fireworks を [編集元 Dreamweaver] モードで起動します。

- プロパティインスペクタの [作成] をクリックします。
- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押したまま、イメージのプレースホルダーをダブルクリックします。
- イメージのプレースホルダーを右クリックするか (Windows)、または Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[イメージの作成 Fireworks] をクリックします。

4 Fireworks のオプションを使用してイメージをデザインします。

Fireworks では、Dreamweaver 内のイメージプレースホルダーを取り扱う際、イメージサイズ (Fireworks キャンバスのサイズに関連)、イメージ ID (ソースファイルおよび作成した書き出しファイルの初期設定のドキュメント名として Fireworks で使用)、テキストの整列といった、イメージプレースホルダーの既存設定が認識されます。また、Dreamweaver での作業時にイメージプレースホルダーに割り当てたリンクや所定のビヘイビア (スワップイメージ、ポップアップメニュー、ナビゲーションバー、テキスト設定など) も認識されます。

注意：イメージのプレースホルダーに追加されているリンクは、Fireworks では表示されませんが、維持されています。Fireworks でホットスポットを描画してリンクを追加した場合も、Dreamweaver でイメージのプレースホルダーに追加したリンクが削除されるわけではありません。ただし、Fireworks で新しいイメージからスライスを切り抜いた場合は、イメージのプレースホルダーを置き換えた時点で Dreamweaver ドキュメント内の既存のリンクが削除されます。

Fireworks では、イメージプレースホルダーに対するイメージの整列、カラー、Vspace と Hspace、マップの設定は認識されません。これらの設定は、イメージプレースホルダーのプロパティインスペクタでは使用不可になります。

5 完了したら、[終了] をクリックします。保存を確認するメッセージが表示されます。

6 [保存する場所] テキストボックスで、Dreamweaver ローカルサイトフォルダとして定義したフォルダを選択します。

Dreamweaver ドキュメントへの挿入時にイメージプレースホルダーに名前を付けた場合は、その名前が [ファイル名] ボックスに初期値として表示されます。この名前は変更できます。

7 [保存] をクリックして、PNG ファイルを保存します。

[書き出し] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、イメージを GIF 形式または JPEG 形式で書き出します。スライスイメージの場合は HTML とイメージの両方を書き出します。

8 [保存する場所] で、Dreamweaver ローカルサイトフォルダを選択します。

[ファイル名] ボックスには、PNG ファイルに指定したのと同じファイル名が表示されます。この名前は変更できます。

9 [ファイルの種類] で、書き出すファイルのタイプを選択します。たとえば、[イメージのみ] や [HTML とイメージ] を選択します。

10 [保存] をクリックして、書き出されたファイルを保存します。

ファイルが保存され、フォーカスが Dreamweaver に戻ります。Dreamweaver ドキュメントで、イメージのプレースホルダーが、書き出されたファイルまたは Fireworks テーブルに置き換えられます。

関連項目

242 ページの「外部イメージエディタの使用」

233 ページの「イメージの挿入」

Fireworks のポップアップメニューについて

Fireworks を使用すると、CSS ベースのポップアップメニューを素早く簡単に作成できます。

Fireworks で作成したポップアップメニューには、拡張性が高くダウンロードが高速であることに加え、次のような利点があります。

- メニュー項目は、サーチエンジンによるインデックス付けが可能です。
- メニュー項目をスクリーンリーダーで読み取れるため、よりアクセスしやすいページになります。
- Fireworks が生成するコードは標準に準拠しており、検証することができます。

Fireworks のポップアップメニューは Dreamweaver または Fireworks で編集できますが、両方で同時に編集することはできません。Dreamweaver で行った変更内容は、Fireworks では保持されません。

関連項目

353 ページの「Dreamweaver での Fireworks ポップアップメニューの編集」

Dreamweaver での Fireworks ポップアップメニューの編集

Fireworks 8 以降で作成したポップアップメニューは Dreamweaver または Fireworks で編集できますが (ラウンドトリップ編集を使用)、両方で同時に編集することはできません。ポップアップメニューを Dreamweaver で編集した後にこの内容を Fireworks で再編集すると、再編集前の編集内容は、テキストコンテンツを除いてすべて失われます。

Dreamweaver でポップアップメニューを編集する場合は、Fireworks でメニューを作成した後、Dreamweaver だけを使用してメニューの編集とカスタマイズを行います。

Fireworks でメニューを編集する場合は、Dreamweaver のラウンドトリップ編集機能を使用できますが、Dreamweaver ではメニューを直接編集しないようにしてください。

1 Dreamweaver でポップアップメニューが表示されている Fireworks テーブルを選択し、プロパティインスペクタで [編集] をクリックします。

Fireworks で PNG ソースファイルが開かれます。

2 Fireworks で、ポップアップメニューエディタを使用してメニューを編集し、Fireworks ツールバーの [終了] をクリックします。

ポップアップメニューの編集内容が Dreamweaver に反映されます。

Fireworks MX 2004 以前のバージョンで作成したポップアップメニューは、Dreamweaver では、[ビヘイビア] パネルから表示可能な [ポップアップメニューを表示] ダイアログボックスを使用して編集できます。

関連項目

352 ページの「Fireworks のポップアップメニューについて」

Fireworks MX 2004 以前のバージョンで作成したポップアップメニューの編集

1 Dreamweaver で、ポップアップメニューを起動するホットスポットまたはイメージを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル (Shift+F3) で、[アクション] リストの [ポップアップメニューを表示] をダブルクリックします。

3 [ポップアップメニューを表示] ダイアログボックスで変更を行い、[OK] をクリックします。

関連項目

344 ページの「[ポップアップメニューを表示] ビヘイビアの適用」

Fireworks ソースファイルの [起動と編集] 環境設定の指定

Fireworks を使用してイメージを編集するのは、Web ページ上のそれらのイメージが、Fireworks のソース PNG ファイルから事前に書き出されている場合が通常です。編集するイメージファイルを Dreamweaver で開くと、ソースの PNG ファイルが自動的に Fireworks で開きます。ファイルが見つからない場合は、PNG ファイルの場所を指定するように求めるメッセージが表示されます。必要に応じて、Fireworks で環境設定を行い、挿入済みのイメージファイルを Dreamweaver で開くように指定できます。または、Dreamweaver でイメージを開くたびに、挿入済みのイメージファイルと Fireworks ソースファイルのいずれを使用するか指定することもできます。

注意： Dreamweaver で Fireworks の [起動と編集] 環境設定が認識されるのは、特定の場合に限られます。特に、Fireworks テーブルの一部でなく、ソース PNG ファイルへの正しいデザインノートパスを含むイメージは、開いて最適化する必要があります。

1 Fireworks で [編集]-[環境設定] (Windows) または [Fireworks]-[環境設定] (Macintosh) を選択し、[起動と編集] タブをクリックするか (Windows)、ポップアップメニューから [起動と編集] を選択します (Macintosh)。

2 外部アプリケーションに配置されている Fireworks イメージを編集または最適化する場合に適用する環境設定オプションを指定します。

常にオリジナルの PNG を使用 配置されたイメージのソースとしてデザインノートに定義されている Fireworks PNG ファイルを自動的に開きます。ソース PNG ファイルとそれに対応する配置済みイメージが更新されます。

オリジナルの PNG を使用しない ソース PNG ファイルが存在するかどうかに関係なく、配置されている Fireworks イメージを自動的に開きます。配置されたイメージのみ更新されます。

起動時に確認 ソース PNG ファイルを開くかどうかを確認するメッセージを表示します。また、このメッセージから起動と編集の環境設定をグローバルに指定することもできます。

Dreamweaver ドキュメントへの Fireworks HTML コードの挿入

Fireworks の [書き出し] コマンドを使用して、最適化したイメージと HTML ファイルを書き出し、Dreamweaver サイトフォルダ内の場所に保存できます。このファイルは、Dreamweaver に挿入できます。Dreamweaver では、Fireworks で生成された HTML コード、そのコードに関連するイメージ、スライス、JavaScript をまとめて 1 つのドキュメントに挿入できます。

1 Dreamweaver 内で、Fireworks HTML コードを挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[イメージオブジェクト]-[Fireworks HTML] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで [イメージ] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [Fireworks HTML] をクリックします。

3 [参照] をクリックして、目的の Fireworks HTML ファイルを選択します。

4 挿入後にこのオリジナルファイルを使用する予定がない場合は、[挿入後削除する] オプションを選択します。このオプションを選択しても、該当する HTML ファイルに関連付けられている PNG ファイルには影響ありません。

注意：HTML ファイルがネットワークドライブ上にある場合は、[ごみ箱] または [ゴミ箱] に移動されるのではなく、システムから完全に削除されます。

5 [OK] をクリックし、指定した HTML コードと、関連するイメージ、スライス、JavaScript を Dreamweaver ドキュメントに挿入します。

Fireworks HTML コードの Dreamweaver へのペースト

Fireworks で生成したイメージおよびテーブルを Dreamweaver 内に配置する場合の簡単な方法は、Fireworks HTML コードをコピーして直接 Dreamweaver ドキュメント内にペーストする方法です。

Fireworks HTML コードの Dreamweaver へのコピー & ペースト

1 Fireworks で [編集]-[HTML コードのコピー] を選択します。

2 ウィザードの指示に従って、HTML とイメージの書き出し設定を行います。書き出したイメージの保存先を指定する画面では、Dreamweaver サイトフォルダを書き出し先として指定します。

ウィザードによって、イメージが指定保存先に書き出され、HTML コードがクリップボードにコピーされます。

3 Dreamweaver 内で HTML コードをペーストする位置に挿入ポイントを置き、[編集]-[ペースト] を選択します。

書き出した Fireworks ファイルに関連付けられているすべての HTML コードと JavaScript コードが Dreamweaver ドキュメントにコピーされ、イメージへのリンクがすべて更新されます。

Fireworks HTML コードの Dreamweaver への書き出しおよびペースト

1 Fireworks で [ファイル]-[書き出し] を選択します。

2 Dreamweaver サイトフォルダをイメージの書き出し先として指定します。

3 [書き出し] ポップアップメニューから [HTML とイメージ] を選択します。

4 [HTML] ポップアップメニューから [クリップボードにコピー] を選択し、[書き出し] をクリックします。

5 Dreamweaver ドキュメント内で、書き出した HTML コードをペーストする位置に挿入ポイントを置き、[編集]-[Paste Fireworks HTML] を選択します。

書き出した Fireworks ファイルに関連付けられているすべての HTML コードと JavaScript コードが Dreamweaver ドキュメントにコピーされ、イメージへのリンクがすべて更新されます。

Dreamweaver 内に配置されている Fireworks HTML コードの更新

Fireworks では、Dreamweaver に配置された Fireworks ファイルを更新する方法として、[起動と編集] 環境設定の代わりに [ファイル]-[HTML の更新] コマンドを使用することもできます。[HTML を更新] コマンドを使用すると、Fireworks でソース PNG ファイルを編集した後で、Dreamweaver ドキュメントに書き出して配置した HTML コードとイメージファイルに更新内容を自動的に反映できます。このコマンドを使用すれば、Dreamweaver ファイルは Dreamweaver が実行中でなくても更新できます。

1 Fireworks で、ソース PNG ファイルを開いて編集します。

2 [ファイル]-[保存] を選択します。

3 Fireworks で [ファイル]-[HTML の更新] を選択します。

4 更新対象の HTML が記述されている Dreamweaver ファイルを見つけて選択し、[開く] をクリックします。

5 更新されたイメージファイルの配置先となるフォルダに移動し、[選択] をクリックします。

Fireworks により、Dreamweaver ドキュメント内の HTML コードと JavaScript コードが更新されます。Fireworks ではさらに、HTML と関連する更新されたイメージを書き出し、そのイメージを指定保存先フォルダに配置します。

更新対象の HTML コードが見つからない場合、Dreamweaver ドキュメントに新しい HTML コードを挿入するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。Fireworks は、ドキュメントの先頭に、新しい JavaScript コードのセクションを置き、セクションの最後に、HTML テーブルまたはイメージへのリンクを置きます。

ウェブフォトアルバムの作成

指定したフォルダに格納されているイメージをフォトアルバムとして表示する Web サイトを自動的に生成できます。Dreamweaver では Fireworks を使用して、指定フォルダ内にあるイメージごとにサムネールイメージと大きなサイズのイメージをそれぞれ作成します。その後 Dreamweaver により、完成したすべてのサムネールイメージと、大きなサイズのイメージへのリンクを含む Web ページが作成されます。ウェブフォトアルバムを作成するには、Dreamweaver と Fireworks 4 以降をシステムにインストールしておく必要があります。

開始する前に、単一フォルダにフォトアルバムのすべてのイメージを入れます。このフォルダはサイト内にある必要はありません。さらに、イメージファイルの名前に .gif、.jpg、.jpeg、.png、.psd、.tif、.tiff のいずれかの拡張子が付いていることを確認します。ファイル拡張子が認識されないイメージは、フォトアルバムには表示されません。

1 Dreamweaver で、[コマンド]-[ウェブフォトアルバムを作成] を選択します。

2 [フォトアルバムのタイトル] テキストボックスにタイトルを入力します。ここで指定したタイトルが、サムネールを表示するページの最上部に灰色の四角形に囲まれて表示されます。

[サブヘッド情報] と [その他の情報] の各テキストボックスに、タイトルの下に表示する補足テキストを 2 行分まで入力できます。

3 [ソースイメージフォルダ] テキストボックスの隣の [参照] ボタンをクリックして、ソースイメージが格納されているフォルダを選択します。次に、[コピー先フォルダ] テキストボックスの隣の [参照] ボタンをクリックして、書き出されたすべてのイメージおよび HTML ファイルを置く保存先フォルダを選択または作成します。

保存先フォルダには既存のフォトアルバムがないフォルダを指定します。フォトアルバムが存在しているフォルダを指定すると、新規イメージの名前が既存のイメージの名前と同じ場合に、既存のサムネールファイルとイメージファイルが上書きされます。

4 サムネールイメージの表示オプションを指定します。

- [サムネールサイズ] ポップアップメニューからサムネールイメージのサイズを選択します。元のイメージが縦横比を維持して縮尺され、指定されたピクセル寸法の正方形に収まるサムネールが作成されます。
- サムネールの下に、対応する元のイメージのファイル名を表示するには、[ファイル名を表示] を選択します。
- サムネールを表示するテーブルの列の数を入力します。

5 [サムネールフォーマット] ポップアップメニューから、GIF (128 色または 256 色) または JPEG (高画質またはファイルサイズ小) のいずれかのフォーマットを選択します。

6 [ソースイメージフォーマット] ポップアップメニューから、大きなサイズのイメージのフォーマットとして GIF または JPEG を選択します。サムネールに対して指定したフォーマットとは異なるフォーマットを指定してもかまいません。

注意：元のイメージファイルをそのまま大きなイメージとして使用することはできません。元のフォーマットが GIF および JPEG 以外の場合、すべてのブラウザで正しく表示されるとは限らないためです。元のイメージが JPEG ファイルの場合、大きなサイズのイメージは、元のファイルよりもファイルサイズが大きくなるか、画質が低下することがあります。

7 大きなサイズのイメージに対し [スケール] の割合を選択します。

[スケール] を 100% に設定すると、作成した大きなサイズのイメージは、元のイメージと同一サイズになります。スケールの割合はすべてのイメージに適用されます。元のイメージがすべて同じサイズでない限り、同じ割合で縮尺しても望みどおりの結果にならない場合があります。

8 [戻る]、[ホーム]、および [次へ] というラベルの付いたナビゲーションリンクがある Web ページをソースイメージごとに個別に作成する場合は、[各フォトにナビゲーションページを作成] を選択します。

このオプションを選択すると、サムネールからナビゲーションページへのリンクが設定されます。このオプションを選択しない場合、サムネールから大きなサイズのイメージへの直接リンクが設定されます。

9 [OK] をクリックすると、ウェブフォトアルバムの HTML およびイメージファイルが作成されます。

Fireworks が実行中でない場合は自動的に起動し、サムネールイメージと大きなサイズのイメージが作成されます。イメージファイルの数が多い場合は、この処理にはしばらく時間がかかります。処理が完了すると、Dreamweaver は再びアクティブになり、完成したサムネールを一覧表示するページが作成されます。

10「アルバムが作成されました」というメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

フォトアルバムページが表示されるまで数秒かかることがあります。サムネールは、ファイル名のアルファベット順で表示されます。

注意：Dreamweaver によるアルバムの作成中に [キャンセル] をクリックしても、作成処理は停止しません。Dreamweaver でメインのフォトアルバムページが表示されなくなるだけです。

Photoshop による作業

Photoshop の統合について

Photoshop イメージファイル (PSD 形式) は、Dreamweaver の Web ページに挿入し、Dreamweaver で Web 対応のイメージファイル (GIF、JPEG、および PNG 形式) として最適化できます。また、マルチレイヤーまたはマルチスライス Photoshop イメージ全体またはその一部を、Dreamweaver の Web ページにペーストすることもできます。

注意：この統合機能をよく使用する場合は、Photoshop イメージを Web サイト上に格納すると簡単にアクセスできるようになります。Web サイト上に格納する場合、Photoshop イメージをクロークして、ローカルサイトとリモートサーバーの間に不要な処理が発生しないようにしてください。

Dreamweaver と Photoshop での作業のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0200_jp を参照してください。

関連項目

96 ページの「特定のファイルタイプに対するクローク実行およびクローク解除」

Photoshop と Dreamweaver を使用した作業

Photoshop を使用して作成した画像は、Dreamweaver を使用して Web ページ用に最適化してから挿入することができます。また、Photoshop 画像からスライスやレイヤーの一部分のみを選択し、Dreamweaver を使用してそれらの画像を Web ページに挿入することもできます。これらの画像を Web ページに挿入した後でも、そのソースファイルを Photoshop で編集し、Dreamweaver で使用している Web 画像として更新することができます。

Photoshop で作成した画像を Web ページに挿入するには、以下のワークフローを実行します。

- Photoshop で、画像を通常の Photoshop ファイル（PSD）として保存します。先に JPEG、GIF、PNG などの画像に変換する必要はありません。
- Dreamweaver で、その PSD ファイルを選択して Web ページに挿入します。Dreamweaver では、画像を Web 向けに最適化した後、ページに挿入できます。

Photoshop 画像のスライスまたはレイヤーを Web ページの画像として使用するには、以下のワークフローを実行します。

- Photoshop で、目的のスライスまたはレイヤーを選択し、編集／コピーを選択してクリップボードにコピーします。
- Dreamweaver で、クリップボードのスライスまたはレイヤーを Web ページにペーストします。Dreamweaver では、画像を Web 用に最適化した後、ページに挿入できます。

Photoshop で作成した Web 画像を更新するには、以下のワークフローを実行します。

- Dreamweaver で、PSD ファイルから生成して Dreamweaver で挿入した JPEG 画像、GIF 画像、または PNG 画像を選択し、プロパティパネルから編集ボタンをクリックします。Dreamweaver から Photoshop が起動し、ソースファイルが開きます。
- Photoshop で、必要に応じてソースファイルを編集し、保存します。次に、画像全体またはその一部を選択してクリップボードにコピーします。
- Dreamweaver で、クリップボードからペーストして WEB ページ上の画像を上書きします。元の最適化設定を使用してソースファイルを最適化し、Web ページ上の画像をクリップボードに更新された画像で置き換えます。

Photoshop および Dreamweaver を使用した作業に関するビデオチュートリアルは、www.adobe.com/go/vid0200_jp を参照してください。

関連項目

357 ページの「ページへの Photoshop イメージの挿入」

358 ページの「ページへの Photoshop 選択のコピー」

359 ページの「Photoshop を使用した Dreamweaver ページのイメージの編集」

ページへの Photoshop イメージの挿入

1 Dreamweaver で、イメージを挿入するページ上の場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[イメージ] を選択します。

3 [参照] ボタンをクリックして [イメージソースの選択] ダイアログボックスで Photoshop PSD イメージファイルを見つけ、そのファイルに移動します。

4 表示される [イメージプレビュー] ダイアログボックスで、必要に応じて最適化設定を調整して [OK] をクリックします。

5 Web 対応イメージファイルを、Web サイトのルートフォルダ内の場所に保存します。

- 初期設定イメージフォルダがある場合、ルートフォルダ以外の場所にファイルを保存すると、そのファイルは初期設定イメージフォルダにもコピーされます。
- 初期設定イメージフォルダがない場合、ルートフォルダ以外の場所にファイルを保存すると、ファイルは Dreamweaver によってその場所に保存され、ファイルのコピーをルートフォルダにも保存するかどうかを確認する

メッセージが表示されます。通常は、このオプションを受け入れてください。ここでこのオプションをキャンセルすると、ファイルは Dreamweaver ページに配置されませんが、選択した外部の場所に Web 対応イメージが保存されます。

Dreamweaver では、最適化設定に従ってイメージが定義され、Web 対応イメージがページに配置されます。ファイル名や元の PSD ファイルの格納場所などのイメージに関する情報は、デザインノートがサイトに対して有効になっているかどうかに関係なく、デザインノートに保存されます。デザインノートを使用すると、Dreamweaver から元の Photoshop ソースファイルに戻ってファイルを編集できます。

注意：ページに配置されたイメージの最適化設定を後で変更する場合は、イメージのプロパティインスペクタで [最適化] ボタンをクリックすると、必要なときにイメージを最適化できます。

関連項目

669 ページの「Dreamweaver とアクセシビリティ」

360 ページの「イメージの最適化設定の選択」

ページへの Photoshop 選択のコピー

Photoshop イメージ全体またはその一部をコピーし、Web 対応イメージとして Dreamweaver ページにペーストできます。イメージの選択した領域を単一のレイヤーまたはレイヤーのセットとしてコピーしたり、イメージのスライスをコピーできます。

1 Photoshop で、次のいずれかの操作を行います。

- 選択ツールを使用してコピーする部分を選択し、[編集]-[コピー] を選択することにより、単一レイヤー全体または一部をコピーします。この方法では、選択した領域のアクティブなレイヤーのみがクリップボードにコピーされます。レイヤーベースの効果を使用している場合、それらの効果はコピーされません。
- 選択ツールを使用してコピーする部分を選択し、[編集]-[結合部分をコピー] を選択することにより、複数のレイヤーをコピーして結合します。この方法では、選択した領域にあるすべてのアクティブなレイヤーと下位のレイヤーが結合され、クリップボードにコピーされます。これらのレイヤーのいずれかに関連付けられたレイヤーベースの効果を使用している場合、それらの効果はコピーされます。
- スライス選択ツールを使用してスライスを選択し、[編集]-[コピー] を選択することにより、スライスをコピーします。この方法では、スライスのすべてのアクティブなレイヤーと下位のレイヤーが結合され、クリップボードにコピーされます。

[選択]-[すべて] を選択すると、コピーするすべてのイメージを素早く選択できます。

2 Dreamweaver (デザインビューまたはコードビュー) で、イメージを挿入するページ上の場所に挿入ポイントを置きます。

3 [編集]-[ペースト] を選択します。

4 [イメージプレビュー] ダイアログボックスで、必要に応じて最適化設定を調整し、[書き出し] をクリックします。

5 Web 対応イメージファイルを、Web サイトのルートフォルダ内の場所に保存します。

- 初期設定イメージフォルダがある場合、ルートフォルダ以外の場所にファイルを保存すると、そのファイルは初期設定イメージフォルダにもコピーされます。
- 初期設定イメージフォルダがない場合、ルートフォルダ以外の場所にファイルを保存すると、ファイルは Dreamweaver によってその場所に保存され、ファイルのコピーをルートフォルダにも保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。通常は、このオプションを受け入れてください。ここでこのオプションをキャンセルすると、ファイルは Dreamweaver ページに配置されませんが、選択した外部の場所に Web 対応イメージが保存されます。

Dreamweaver では、最適化設定に従ってイメージが定義され、Web 対応イメージがページに配置されます。元の PSD ソースファイルの格納場所などのイメージに関する情報は、デザインノートがサイトに対して有効になっているかどうかに関係なく、デザインノートに保存されます。デザインノートを使用すると、Dreamweaver から元の Photoshop ファイルに戻ってファイルを編集できます。

Dreamweaver と Photoshop を含め、さまざまなアプリケーション間におけるコピーとペーストのチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0193_jp を参照してください。

関連項目

669 ページの「Dreamweaver とアクセシビリティ」

360 ページの「イメージの最適化設定の選択」

Photoshop を使用した Dreamweaver ページのイメージの編集

Photoshop イメージを Dreamweaver ページに配置すると、元の PSD ソースイメージまたはページに表示された Web 対応の JPEG、GIF、PNG ファイルを、Photoshop で編集できます。Web 対応のファイルを変更しても、ソース PSD ファイルは更新されないため、この 2 つのファイルは異なった内容になります。ソース PSD ファイルを編集して同じ内容が維持されるようにすることをお勧めします。

注意：編集するファイルタイプのプライマリ外部エディタとして Photoshop が設定されていることを確認してください。

関連項目

236 ページの「Dreamweaver でのイメージの編集」

242 ページの「外部イメージエディタの使用」

360 ページの「イメージの最適化設定の選択」

360 ページの「Dreamweaver からの Photoshop イメージの再挿入」

360 ページの「Photoshop イメージ選択の再コピー」

239 ページの「イメージの視覚的なサイズ変更」

Photoshop での元の PSD ソースファイルの編集

1 Dreamweaver で、Photoshop で作成された Web 対応イメージを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- イメージのプロパティインスペクタで [編集] ボタンをクリックします。
- Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、ファイルをダブルクリックします。
- 目的のイメージを右クリックするか (Windows) または Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、コンテキストメニューの [ソースの編集に使用] を選択し、[Photoshop] を選択します。

注意：この操作を実行するには、Photoshop を PSD イメージファイル用のプライマリ外部イメージエディタとして設定する必要があります。また、Photoshop を JPEG、GIF、および PNG の各ファイルタイプ用の初期設定のエディタとして設定することもできます。

2 Photoshop でファイルを編集した後、次のいずれかの操作を行って、ページのイメージを更新することができます。

- ファイルを再挿入し、最適化設定を再定義します。
- イメージまたは選択範囲をページにペーストします。Dreamweaver は既存の最適化設定を使用します。

もう一度最適化するには、プロパティインスペクタの [最適化] ボタンをクリックして [イメージプレビュー] ダイアログボックスを表示します。Photoshop でイメージを作成した場合、Photoshop イメージをもう一度読み込むと、最適化設定を適用し直すことができます。イメージに関連付けられた Photoshop PSD ファイルがない場合は、Web 対応イメージが表示されます。

Photoshop での Web 対応イメージファイルの編集

1 Dreamweaver で、[編集]-[環境設定]-[ファイルタイプ] を選択し、Photoshop を JPEG、GIF、および PNG ファイルタイプ用の初期設定のエディタとして定義します。Photoshop が PSD ファイル用の初期設定のプライマリエディタとして設定されます。

- 新しいファイルタイプを追加するには、左側のパネル上部にある [+] ボタンをクリックします。

- いずれかのファイルタイプの外部エディタを追加または変更するには、左側のパネルで目的のファイルタイプを選択し、右側のパネル上部にある [+] ボタンをクリックします。[Select External Editor file locator] ダイアログボックスが表示されます。

2 Photoshop で作成されたイメージを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- Alt キー (Windows) または Option キー (Macintosh) を押しながら、ファイルをダブルクリックします。
- 選択されたイメージを右クリックするか (Windows) または Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、コンテキストメニューの [エディタを指定して編集]-[参照] を選択して、Photoshop アプリケーションファイルを探します。
- [修正]-[イメージ]-[Photoshop] を選択します。

3 必要に応じて Photoshop でファイルを編集した後、そのファイルを保存します。

4 Dreamweaver で、ファイルが変更後のリビジョンに更新されますが、イメージのサイズの再設定が必要になることがあります。

イメージのプロパティインスペクタで Dreamweaver のイメージ編集ツールを使用するか、[修正]-[イメージ] メニューコマンドを選択すると、Web 対応イメージに対して切り抜きや最適化の再実行などの簡単な編集を行うことができます。これらの操作では Web 対応イメージだけが更新され、PSD ソースファイルは更新されません。

Dreamweaver からの Photoshop イメージの再挿入

別の PSD ファイルを挿入することにより、Dreamweaver ページ内にある Photoshop で作成されたイメージを置き換える場合、[イメージプレビュー] ダイアログボックスが表示され、新しいイメージ用の最適化設定を再入力する必要があります。

1 Dreamweaver で、次のいずれかの方法を実行して別の Photoshop PSD ファイルを選択します。

- [ファイルの指定] アイコンを使用して、[ファイル] パネルから別の PSD ファイルを選択します。
- 既存のイメージをダブルクリックし、新しいファイルを参照します。

2 これ以降の手順は、新しいイメージを挿入する場合と同じです。最適化設定を調整し、サイトにファイルを保存します。

Photoshop イメージ選択の再コピー

Dreamweaver ページ内にある Photoshop で作成されたイメージを、PSD ファイルの選択範囲からコピーしたイメージに置き換える場合、[イメージプレビュー] ダイアログボックスは表示されません。代わりに、ページのそのイメージ用に設定した最適化設定が再使用されます。

1 Photoshop で、イメージを編集してそのイメージ全体または一部をコピーします。

2 Dreamweaver で、既存のイメージを選択します。

3 [編集]-[ペースト] を選択します。

イメージの最適化設定の選択

[イメージプレビュー] ダイアログボックスは、次の 3 つのセクションで構成されています。

- [オプション] タブでは、使用するファイル形式の定義や、色などの環境の設定を行うことができます。
- [ファイル] タブでは、イメージの拡大 / 縮小やサイズを設定できます。
- [プレビュー] パネルでは、設定に応じてイメージの表示がどのように変わるかを確認できます。

関連項目

362 ページの「最適化設定」

[オプション] タブでのイメージファイルのオプションの選択

1 [オプション] タブの [フォーマット] ポップアップメニューで、使用するファイルタイプとして JPEG、GIF、PNG のいずれかを選択します。

2 (オプション) [オプション] タブで、選択したファイルタイプに関するその他のイメージオプション設定を選択します。

(オプション) [イメージプレビュー] ダイアログボックスでの設定の確認

1 設定方法に応じてイメージの表示がどのように変わるかを確認する場合、[イメージプレビュー] ダイアログボックスで、[プレビュー] オプションを選択します。パフォーマンスを優先する必要がある場合は、このオプションの選択を解除できます。

2 設定済みのオプションのセットを使用する場合は、保存されているカラーパレットの設定の 1 つをポップアップメニューから選択します。

3 プレビューしているイメージをポインタツールで選択し、そのイメージを移動して他の部分を表示します。

4 切り抜きツールを使用して、イメージのサイズを小さくします。最初にズームアウトしないと、イメージ全体が表示されないことがあります。

5 [ズーム] ポップアップメニューから値を選択し、プレビューしたイメージの表示を拡大または縮小します。また、ズームツールを選択し、クリックしてズームインしたり、Alt キーを押しながらクリックするか (Windows)、Option キーを押しながらクリックして (Macintosh) ズームアウトすることもできます。

6 プレビューパネルの下部にある [2 アップ] ボタンまたは [4 アップ] ボタンをクリックし、それぞれのペインで異なるカラーパレットを選択することにより、2 つまたは 4 つの異なる最適化設定の効果をプレビューできます。

7 Photoshop イメージにアニメーションコントロールは適用されません。

(オプション) [ファイル] タブでのイメージの拡大 / 縮小または領域オプションの書き出し

1 [ファイル] タブを選択します。

2 次のいずれかの方法で、イメージを縮小または拡大します。

- 拡大 / 縮小の割合を指定します。
- 高さと幅をピクセル単位の値で入力します。

3 [縦横比率を固定] をオンにすると、拡大 / 縮小するときにイメージの元の縦横比率が維持されます。

4 [Export Area] オプションを選択して配置されているイメージの形状を変更し、次のいずれかの操作を行います。

- プレビューしたイメージを囲む点線の枠を必要な位置までドラッグします。枠線内のイメージをドラッグすると、イメージによって隠されていた領域を表示できます。
- イメージの枠線のピクセル座標を入力します。

イメージの書き出しおよび保存

1 すべての設定を定義したら [OK] をクリックします。

2 サイトの初期設定のイメージフォルダを定義した場合はそのフォルダに、それ以外の場合はサイトのルートフォルダにファイルを保存するように求めるメッセージが表示されます。保存する場所を参照し、[OK] をクリックします。

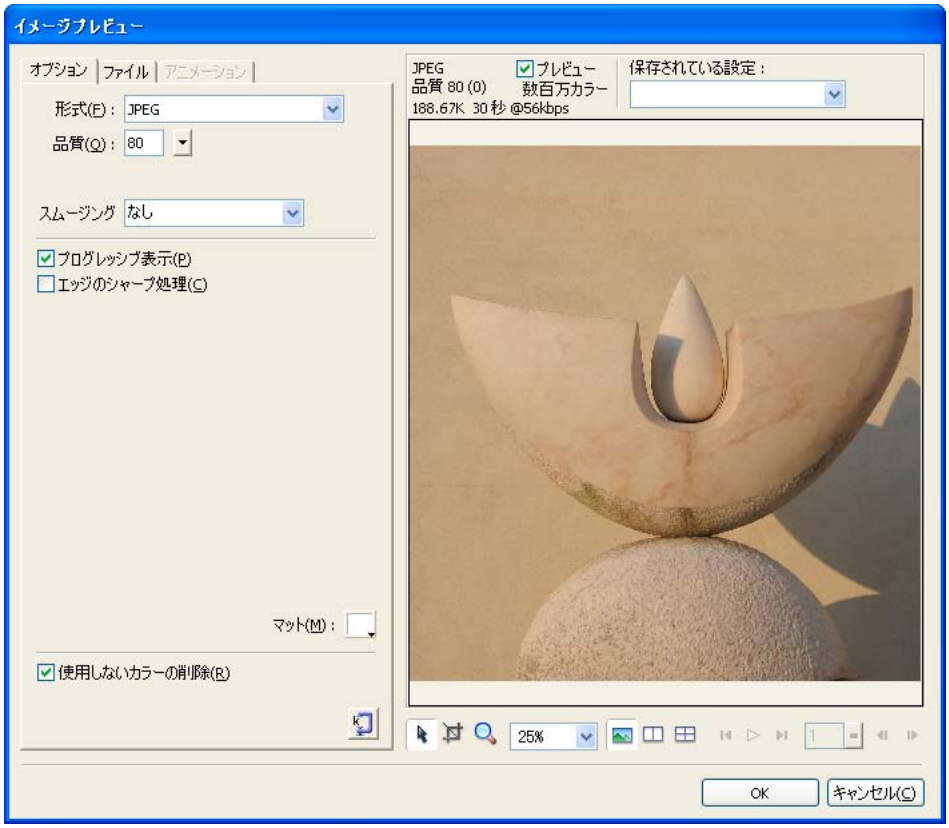
もう一度最適化するには、プロパティインスペクタの [最適化] ボタンをクリックします。これにより、[イメージプレビュー] ダイアログボックスが表示されます。Photoshop でイメージを作成した場合、Photoshop イメージをもう一度読み込むと、最適化設定を適用し直すことができます。イメージに関連付けられた Photoshop PSD ファイルがない場合は、Web 対応イメージが表示されます。

最適化設定

Photoshop からイメージファイルを挿入するかイメージの一部をコピーすると、[イメージプレビュー] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、Web 対応イメージに対して正しい色の混合率、圧縮率、および品質に関する次の設定を定義してプレビューできます。

- イメージの圧縮オプションを含めたファイル形式
- (オプション) 色数を減らしファイルサイズを小さくするためのカラーパレット
- (オプション) イメージの拡大 / 縮小または書き出し領域

Web 対応イメージは、最新のすべての Web ブラウザでの表示が可能で、ユーザーが使用するどのシステムやブラウザでも同じように表示されます。Photoshop イメージを挿入すると表示される [イメージプレビュー] ダイアログボックスでは、イメージを Web に最適に公開するためのさまざまな設定を調整できます。一般に、これらの設定は、品質が向上するとファイルサイズが増加し、品質が低下するとファイルサイズも減少する関係にあります。



注意：選択する設定はいずれも、書き出すイメージファイルに対してのみ有効です。元の Photoshop PSD ファイルは変更されません。

[オプション] タブには数多くのイメージオプションが用意されており、使用できるオプションは選択するファイル形式によって異なります。[イメージプレビュー] ダイアログボックスの [Saved Settings] ポップアップメニューでは、GIF イメージと JPEG イメージ用のいくつかのオプションのセットを使用できます。

JPEG イメージのオプション

圧縮オプションと滑らかさのオプションを設定することにより、JPEG イメージを最適化できます。カラーパレットは編集できません。

品質 スライダを使用して、イメージの品質を向上または低下させます。品質を向上させるとファイルが大きくなります。

スムージング 必要に応じて滑らかさを向上させることができます。品質の低いイメージに対して、大きい値の設定が必要になることがあります。

プログレッシブ表示 イメージを最初は低解像度で表示し、ダウンロード中に次第に解像度を高めます。初期設定では選択されていません。

エッジのシャープ処理 高品質のイメージを取得できます。

マット イメージの背景を設定できます。[マット] ダイアログボックスの透明化アイコンをクリックすることにより、32 bpc (ビット / チャネル) PNG の透明度を維持できます。また、[マット] ダイアログボックスを使用してマットカラーを目的の背景と同じ色に設定すると、キャンバスの真上に配置された不鮮明な輪郭のオブジェクトをアンチエイリアス処理することもできます。

Optimize to Size イメージのサイズをキロバイト単位で指定します。8 bpc イメージの場合、ウィザードがカラー数の調整やディザ処理を実行してファイルが指定されたサイズになるように設定します。

GIF イメージと PNG イメージのオプション

[オプション] タブで、指定した色の領域に Web ページの背景が表示されるように、GIF イメージや 8 bpc PNG イメージの個々のカラーに対して透明度の値を設定することができます。[オプション] タブの左側でカラーパレットを調整して、透明度を設定できます。32 bpc 形式の PNG イメージ用の透明度オプションは [最適化] パネルに表示されませんが、32 bpc PNG イメージには透明度が自動的に設定されます。

パレット 初期設定で [割り付け] に設定されます。

Loss 初期設定で 0 に設定されます。8 bpc PNG イメージには適用できません。

ディザ 中間色が表示されるように類似した色のピクセルを交互に配置することにより、現在のパレットにない色を表現します。ディザリングは、複雑な配色やグラデーションのイメージを書き出す場合、または、写真のイメージを GIF などの 8 bpc グラフィックフォーマットに書き出す場合に特に役立ちます。初期設定では選択されていません。

注意：ディザリングを使用するとファイルサイズが大幅に大きくなる可能性があります。

[表示色] リスト 初期設定で 256 に設定されます。色の数は、パレットの現在のビヘイビアに応じて変わります。たとえば、Web 216 パレットで表示されるのは 216 色だけです。

カラーパレット 表示される色は、選択したパレットのビヘイビアと表示色の最大数によって異なります。

パレット ツール パレットの任意のピクセルをクリックした後、これらのツールのアイコンをクリックして、色の変更、追加、または削除や、色の透明化、Web セーフ、ロックの指定を行います。

透明色選択のアイコン これらのボタンを使用すると、パレットの色を選択、追加、または削除できます。たとえば、[Select Transparency Color] オプションを選択し、パレットの任意のピクセルをクリックするか、またはプレビューパネルのカラーの点をクリックすることにより、その色を透明色として表示できます。

[透明度] ポップアップメニュー インデックス、アルファチャンネル、または透明色なしを設定できます。ドキュメントプレビューの白黒のチェッカーボードで、透明領域が表示されます。選択した設定によってイメージがどのように変わるかを確認するには、イメージプレビューの [2 アップ] または [4 アップ] を選択し、元のイメージ以外のイメージをクリックします。

- **インデックス** 透明領域が含まれた GIF イメージを書き出すときにインデックス透明カラーを使用します。インデックス透明カラーを使用して、書き出すときに透明にする特定の色を設定します。インデックス透明カラーで、特定のカラー値のピクセルをオンまたはオフにします。
- **アルファチャンネル** 透明領域が含まれた 8 bpc PNG イメージを書き出すときにアルファチャンネル透明部分を使用します。アルファチャンネル透明部分を使用すると、透明度のグラデーションや半透明のピクセルを設定できます。

マット イメージの背景を設定できます。[マット] ダイアログボックスの透明化アイコンをクリックすることにより、32 bpc PNG の透明度を維持できます。また、[マット] ダイアログボックスを使用してマットカラーを目的の背景と同じ色に設定すると、キャンバスの真上に配置された不鮮明な輪郭のオブジェクトをアンチエイリアス処理することもできます。

使用しないカラーの削除 イメージに使用しない色を削除してファイルのサイズを小さくします。

Interlaced Browser Display インターレースイメージを最初は低解像度で表示し、ダウンロード中にフル解像度まで次第に解像度を高めます。初期設定では選択されていません。

Optimize to Size イメージのサイズをキロバイト単位で指定します。8 bpc イメージの場合、ウィザードがカラー数の調整やディザ処理を実行してファイルが指定されたサイズになるように設定します。

保存されている設定

Dreamweaver には、あらかじめいくつかのオプション設定が用意されています。ここで選択する保存済みの設定に応じて、前で説明したファイルタイプ固有のイメージオプションが異なる場合があります。

GIF Web 216 すべての色を Web セーフカラーにします。カラーパレットに最大 216 色まで含まれます。

GIF Websnap 256 色 非 Web セーフカラーを、その色に最も近い Web セーフカラーに変換します。カラーパレットに最大 256 色まで含まれます。

GIF Websnap 128 色 非 Web セーフカラーを、その色に最も近い Web セーフカラーに変換します。カラーパレットに最大 128 色まで含まれます。

GIF Adaptive 256 グラフィックに使用される実際の色だけを並べたカラーパレットです。カラーパレットに最大 256 色まで含まれます。

JPEG 高画質 品質を 80、滑らかさを 0 に設定します。これにより画質は向上しますが、グラフィックのサイズは大きくなります。

JPEG ファイルサイズ小 品質を 60、滑らかさを 2 に設定します。これによりグラフィックのサイズは JPEG 高画質の半分になりますが、画質は低下します。

Animated GIF Websnap 128 ファイル形式をアニメーション GIF に設定し、非 Web セーフカラーをその色に最も近い Web セーフカラーに変換します。カラーパレットに最大 128 色まで含まれます。

関連項目

360 ページの「イメージの最適化設定の選択」

Flash による作業

Flash での Dreamweaver の SWF ファイルの編集

Flash と Dreamweaver の両方がインストールされている場合は、Dreamweaver ドキュメントで SWF ファイルを選択し、Flash を使用してそのファイルを編集できます。Flash では、選択された SWF ファイルを直接編集するわけではなく、ソースドキュメント（FLA ファイル）を編集して、再度 SWF ファイルに書き出します。

1 Dreamweaver でプロパティインスペクタを開きます（ウィンドウ／プロパティ）。

2 Dreamweaver ドキュメント内で、次のいずれかの操作を行います。

- SWF ファイルプレースホルダをクリックして選択します。次に、プロパティインスペクタの「編集」をクリックします。
- SWF ファイルのプレースホルダを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Macintosh）し、コンテキストメニューの「Flash で編集」を選択します。

Dreamweaver が Flash にフォーカスを切り替えます。Flash は、選択された SWF ファイルの Flash オーサリングファイル（FLA）を見つけようとします。Flash が Flash オーサリングファイルを見つけられない場合、その場所の指定を求めるメッセージが表示されます。

注意：FLA ファイルまたは SWF ファイルがロックされている場合は、Dreamweaver のファイルを確認します。

3 Flash で FLA ファイルを編集します。Flash ドキュメントウィンドウに、Dreamweaver 内からファイルを編集していることが示されます。

4 編集作業が完了したら、「終了」をクリックします。

Flash が FLA ファイルを更新し、そのファイルを SWF ファイルに再度書き出して終了します。Dreamweaver ドキュメントにフォーカスが戻ります。

注意：SWF ファイルを更新して Flash を開いたままにしておく場合は、ファイル／ Dreamweaver で更新を選択します。

5 更新された SWF ファイルをドキュメントに表示するには、プロパティインスペクタの「再生」をクリックするか、F12 キーを押します。ブラウザウィンドウでページをプレビューできます。

SWF ファイル内のリンクの更新

Dreamweaver を使用して Flash (SWF) ファイル内の URL リンクを更新し、その変更内容を Flash オーサリングドキュメント (FLA) ファイルに反映できます。

1 サイトのホームページをまだ設定していない場合は、ここで設定します。

サイトマップを作成する場合は、ホームページを設定する必要があります。SWF ファイル内のリンクを更新するには、[マップ] ビューで依存ファイルを表示する必要があります。初期設定では、サイトマップに依存ファイルは表示されないため、表示するように設定する必要があります。

2 [ファイル] パネルで、[表示] ポップアップメニューから [マップビュー] を選択します。

3 依存ファイルを表示するには、[ファイル] パネルの右上隅にある [オプション] メニューから [表示] を選択し、次に [サイトマップ]-[依存ファイルの表示] を選択します。

4 サイトマップで次のいずれかの操作を行い、SWF ファイルの下にあるリンクを変更します。

- 選択した SWF にあるリンクを変更するには、そのリンクを右クリックするか (Windows)、または Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[リンクの変更] を選択します。表示されるダイアログボックスで、新しい URL パスを入力します。
- 同じリンクが出現する箇所をすべて一括で更新するには、[サイト]-[サイト全体のリンクの変更] を選択します。[変更するリンク先] テキストボックスで、変更対象のリンク先を参照して選択するか、そのパスを入力します。[変更後のリンク先] テキストボックスで、新しいリンク先を参照して選択するか、その URL パスを入力します。

5 [OK] をクリックします。

編集のために Flash を起動すると、Dreamweaver により更新された SWF ファイル内のリンクは、対応する FLA ソースドキュメントに反映されます。Dreamweaver では、SWF ファイル内のリンクの変更内容が自動的にデザインノートに記録されます。Flash で変更内容が FLA ファイルに反映されると、その変更内容の記録がデザインノートから削除されます。

関連項目

48 ページの「サイトマップの使用」

51 ページの「サイトマップファイルの表示 / 非表示」

Bridge による作業

Adobe Bridge について

Dreamweaver は、スタンドアロンのファイル参照アプリケーションである Adobe® Bridge とシームレスに統合することができます。Adobe Bridge は、Adobe® Creative Suite® 3 コンポーネントに組み込まれている、プラットフォームに依存しないアプリケーションです。Bridge を使用すると、印刷、Web、ビデオ、オーディオの各コンテンツの作成に必要なアセットを検出、編成、参照することができます。Bridge は、Acrobat 8 以外の Creative Suite コンポーネントから起動して、Adobe 用と非 Adobe 用のどちらのタイプのアセットに対するアクセスにも使用することができます。

Adobe Bridge では、以下の操作を行うことができます。

- イメージファイルの管理 : 個々のアプリケーションを開かずに、ファイルのプレビュー、検索、並べ替え、および処理を行います。ファイルのメタデータを編集した後、Bridge を使用してドキュメント、プロジェクト、またはコンポジションにファイルを配置することもできます。

- 写真を管理します。デジタルカメラのカードから写真を読み込んで編集する、関連する写真をグループ化する、Camera Raw ファイルを開いて読み込む、Photoshop を起動せずに写真の設定を編集するなどの操作ができます。また、Adobe Stock Photos を使用すると、他に類のない豊富なストックライブラリを検索して、ロイヤリティフリーのイメージをダウンロードすることもできます。
- Adobe Version Cue® で管理されたアセットの操作。
- バッチコマンドなどの自動化されたタスクの実行。
- カラーマネジメントされた Creative Suite コンポーネント間でのカラー設定の同期。

Adobe Bridge および Web 開発ワークフローのチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0192_jp を参照してください。

Dreamweaver からの Bridge の起動

Dreamweaver から Bridge を起動すると、ファイルをプレビューしてからページレイアウトに配置したりドラッグできます。

❖ Bridge は、次のようなさまざまな方法で起動できます。

- [ファイル]-[Bridge で参照] を選択する。
- 標準ツールバーの [Bridge で参照] ボタンをクリックする。
- キーボードで、[Bridge で参照] ショートカットの Ctrl + Alt + O (Windows) または Command + Option + O (Macintosh) を押す。

Bridge がファイルブラウザモードで開き、前回 Dreamweaver で開いたフォルダのコンテンツが表示されます。既に Bridge が開かれている場合は、Bridge がアクティブなウィンドウになります。

注意： Bridge がインストールされていない場合、エラーメッセージが表示されます。Bridge をインストールしてからこれらの機能を使用する必要があります。

Bridge から Dreamweaver へのファイルの配置

ファイルをページに挿入するか Bridge からページにドラッグすることにより、Dreamweaver ページにファイルを挿入できます。Dreamweaver ドキュメントにファイルを挿入するには、デザインビューでドキュメントを開いて挿入機能を使用する必要があります。

大部分のファイルタイプをページに挿入できますが、Dreamweaver でのファイルの処理方法は異なります。

- Web 対応イメージ (JPEG、GIF、または PNG) を挿入すると、ページにイメージファイルが直接挿入され、Web サイトの初期設定のイメージフォルダにファイルのコピーが配置されます。
- Photoshop PSD ファイルを挿入する場合は、最適化設定を定義してから Dreamweaver でページにファイルを配置する必要があります。
- MP3 や PDF といったイメージ以外のファイルまたはファイルタイプが不明のファイルを挿入する場合、ソースファイルへのリンクが挿入されます。
- HTML ファイルを挿入する場合、ソースファイルへのリンクが挿入されます。
- (Windows のみ) Microsoft Office をインストール済みのコンピュータで Microsoft Word または Excel ファイルを挿入する場合、ファイル自体を挿入するのか、またはソースファイルへのリンクを挿入するのかを指定する必要があります。ファイルを挿入する場合は、維持するファイル形式の数を指定できます。

関連項目

357 ページの「ページへの Photoshop イメージの挿入」

356 ページの「Photoshop による作業」

ページへの Bridge ファイルの配置

1 Dreamweaver (デザインビュー) で、ファイルを挿入するページ上の場所に挿入ポイントを置きます。

2 Bridge で、ファイルを選択し、[ファイル]-[Place In Dreamweaver] を選択します。

3 ファイルがサイトのルートフォルダにない場合、ルートフォルダにファイルをコピーするように求めるメッセージが表示されます。

4 [編集]-[環境設定]-[アクセシビリティ] を選択し、イメージを挿入するときに属性が表示されるように設定すると、JPEG や GIF などの Web 対応イメージを挿入するときに、[イメージタグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスが表示されます。

注意： 挿入ポイントがコードビュー内にある場合、Bridge は通常と同じように起動しますが、コードビューにファイルを配置できません。ファイルはデザインビュー内にのみ配置できます。

Bridge からページへのファイルのドラッグ

1 Dreamweaver (デザインビュー) で、イメージを挿入するページ上の場所に挿入ポイントを置きます。

2 Bridge をまだ開いていない場合は開きます。

3 Bridge で、1 つまたは複数のファイルを開き、Dreamweaver ページにドラッグします。

4 ファイルがサイトのルートフォルダにない場合、ルートフォルダにファイルをコピーするように求めるメッセージが表示されます。

5 [編集]-[環境設定]-[アクセシビリティ] を選択し、イメージを挿入するときに属性が表示されるように設定すると、JPEG や GIF などの Web セーフ イメージを挿入するときに、[イメージタグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスが表示されます。

注意：挿入ポイントがコードビュー内にある場合、Bridge は通常と同じように起動しますが、コードビューにファイルを配置できません。ファイルはデザインビュー内にのみ配置できます。

Bridge からの Dreamweaver の起動

❖ Bridge でファイルを選択して、次のいずれかの操作を行います。

- [ファイル]-[ツールを指定して開く]-[Adobe Dreamweaver] を選択します。
- 右クリックし (Macintosh では Control キーを押しながらクリック)、コンテキストメニューから [ツールを指定して開く]-[Adobe Dreamweaver] を選択します。

注意：既に Dreamweaver が開いている場合、この操作でプログラムがアクティブになります。Dreamweaver が開いていない場合、Bridge が起動し、[ようこそ] 画面は表示されません。

Device Central での作業

Adobe Device Central と Dreamweaver の併用

Device Central を使用すると、Dreamweaver ファイルが様々なモバイルデバイスでどのように表示されるかをプレビューできます。Device Central では、Opera のスモールスクリーンレンダリング ™ を使用して、画面の小さいモバイルデバイス上での Web ページの表示をプレビューしています。CSS が正しく機能するかどうかをテストすることもできます。

例えば、Web サイトを携帯電話で利用できるようにしたい場合に、Dreamweaver を使用して Web ページを作成し、Device Central を使用して、そのページが様々なデバイスでどのように表示されるかをテストできます。

モバイルデバイス向けの Dreamweaver Web コンテンツを作成するためのヒント

Device Central では、Opera のスモールスクリーンレンダリング機能を使用して、Dreamweaver で作成された Web ページをプレビューできます。このプレビューによって、Web ページがモバイルデバイスでどのように表示されるかがわかります。

注意：実際のデバイスには、Opera のスモールスクリーンレンダリング機能が搭載されていないものがあります。Opera のスモールスクリーンレンダリング機能が搭載されてるデバイスの場合に、Device Central で実機と同じようなプレビューができます。

以下のヒントを使用して、Dreamweaver で作成した Web ページがモバイルデバイスで適切に表示されるようにします。

- Adobe® Spry framework を使用してコンテンツを開発する場合、Device Central で適切に CSS をレンダリングし JavaScript™ を実行するために、以下の HTML の行をページに追加します。

```
<link href="SpryAccordion.css" media="screen" rel="stylesheet" type="text/css"/>
<link href="SpryAccordion2.css" media="handheld" rel="stylesheet" type="text/css"/>
```

- Opera のスモールスクリーンレンダリングでは、フレーム、ポップアップ、下線、取り消し線、上線、点滅および囲み枠はサポートされていません。これらのデザインエレメントは使用しないようにしてください。
- モバイルデバイス向けの Web ページは単純な作りにします。特に、使用するフォント、フォントサイズおよびカラーの数は最小限にします。
- 画像サイズを縮小し、必要な色数を減らすと、意図したとおりに画像が表示される可能性が高くなります。CSS または HTML を使用して、使用する各画像の高さと幅を正確に指定します。すべての画像に alt テキストを付けます。

注意：Opera ソフトウェアの Web サイトに、モバイルデバイス向けに Web ページを最適化するための情報が多数あります。

第 14 章：テンプレートの作成と管理

テンプレートは、1 つのデザインに基づいて多くのページを作成する場合、またはユーザーが編集できる領域をページに設定する場合に便利です。Adobe® Dreamweaver® CS3 には、テンプレートを作成および管理するための多くのツールが用意されています。

Dreamweaver テンプレートについて

Dreamweaver テンプレートの概要

テンプレートは、" 固定 " ページレイアウトをデザインするために使用する特殊なドキュメントです。そのページレイアウトを継承したテンプレートに基づいて、ドキュメントを作成することができます。テンプレートをデザインする際、そのテンプレートに基づいて、ドキュメント内でユーザーが編集できるコンテンツを " 編集可能 " として指定します。テンプレートにより、ライターやグラフィックアーティスト、Web デベロッパーなどのテンプレートユーザーが編集できるページエレメントをテンプレートの作成者が制御できます。テンプレートの作成者がドキュメントに設定できるテンプレート領域には数種類あります。

注意：テンプレートを使用することにより、広範囲のデザイン領域を制御し、レイアウト全体を再利用することができます。サイトの著作権情報やロゴなど、個別のデザインエレメントを再利用する場合は、ライブラリ項目を作成します。

テンプレートを使用すると、複数のページを同時に更新することができます。テンプレートを使用して作成されたドキュメントは、後からテンプレートを切り離さない限り、そのテンプレートに関連付けられたまま維持されます。テンプレートを変更すると、そのテンプレートから作成されたすべてのドキュメントのデザインを、瞬時に更新することができます。

注意：Dreamweaver のテンプレートは、Dreamweaver テンプレートのページセクションが初期設定で固定または編集不能になっている、他の Adobe Creative Suite ソフトウェアのテンプレートと異なります。

関連項目

104 ページの「アセットとライブラリの管理」

376 ページの「Dreamweaver テンプレートの作成」

テンプレート領域のタイプ

ドキュメントをテンプレートとして保存すると、ドキュメントのほとんどの領域がロックされます。テンプレートの作成者は、テンプレートから作成されたドキュメントのどの領域を編集できるようにするかを、テンプレートに編集可能領域または編集可能パラメータを挿入することによって指定します。

編集可能領域およびロックされている領域は、テンプレートを作成しながら変更することができます。ただし、テンプレートから作成されたドキュメントでは、テンプレートユーザーが編集できる領域は、編集可能領域に制限されます。つまり、ロックされている領域を変更することはできません。

テンプレート領域には、次の 4 つのタイプがあります。

編集可能領域 テンプレートから作成されたドキュメント内のロックされていない領域、つまりテンプレートユーザーが編集できる部分です。テンプレートの作成者は、テンプレートの任意の領域を編集可能領域として指定できます。テンプレートを有効にするには、最低 1 つの編集可能領域を定義する必要があります。そうでないと、テンプレートから作成されたページを編集することができません。

リピート領域 テンプレートから作成されたドキュメントに設定されたドキュメントレイアウトの 1 つのセクションです。テンプレートユーザーは、必要に応じてこのリピート領域のコピーを追加または削除できます。たとえば、テーブルの行を繰り返すように設定できます。リピート領域は編集可能で、テンプレートユーザーは繰り返しエレメント内のコンテンツを編集できます。デザイン自体はテンプレートの作成者によって制御されます。

テンプレートに挿入できるリピート領域には、リピート領域とリピートテーブルの 2 つのタイプがあります。

オプション領域 ドキュメントに表示または非表示にするテキストまたはイメージなどのコンテンツが保持された、テンプレートの一部分です。テンプレートから作成されたページにコンテンツを表示するかどうかは、通常、テンプレートユーザーが制御します。

編集可能なタグ属性 テンプレート内のタグ属性のロックを解除して、テンプレートから作成されたページで属性を編集できます。たとえば、テンプレートの作成者がドキュメントに表示するイメージを " ロック " して、イメージを左、右、中央のいずれに表示するかは、テンプレートユーザーが設定できるようにすることができます。

関連項目

394 ページの「テンプレートから作成されたドキュメントのコンテンツの編集」

379 ページの「編集可能領域の作成」

380 ページの「リピート領域の作成」

382 ページの「オプション領域の使用」

384 ページの「編集可能なタグ属性の定義」

テンプレート内のリンク

既存のページをテンプレートとして保存する方法でテンプレートファイルを作成すると、"Templates" フォルダ内に保存される新しいテンプレートとファイル内のすべてのリンクが、正しいドキュメント相対パスに更新されます。そのテンプレートを使用してドキュメントを作成し保存すると、ドキュメント相対リンクがすべて更新され、正しいファイルへのリンクが維持されます。

新しいドキュメント相対リンクをテンプレートファイルに追加する場合、プロパティインスペクタの [リンク] テキストボックスにパスを入力すると、誤ったパス名を入力してしまうことがあります。テンプレートファイルの正しいパスは、"Templates" フォルダから、リンクするドキュメントへのパスです。テンプレートから作成されたドキュメントのフォルダから、リンクするドキュメントへのパスではありません。テンプレートにリンクを作成する場合は、プロパティインスペクタのフォルダアイコンまたは [ファイルの指定] アイコンを使用して、リンクの正しいパスを設定します。

Dreamweaver 8.01 のリンク更新の環境設定

Dreamweaver 8 より前の、Dreamweaver MX 2004 以前のバージョンでは、Dreamweaver は、"Templates" フォルダ内に配置されているファイルへのリンクを更新しません。たとえば、"Templates" フォルダ内に "main.css" という名前のファイルがあり、テンプレートファイルに href="hmain.css" と記述されたリンクがある場合、テンプレートからページを作成するときに Dreamweaver はこのリンクを更新しません。

一部のユーザーは、"Templates" フォルダ内にあるファイルへのリンクの一貫性が確保されない Dreamweaver のこの処理方法を利用して、テンプレートからページを作成するときに更新しないリンクを意図的に作成していました。たとえば、Dreamweaver MX 2004 を使用している環境に、Dreamweaver、Flash、Photoshop などの異なるアプリケーションのさまざまなフォルダを使用するサイトがあるとします。それぞれの製品フォルダにテンプレートで作成した "index.html" ページがあり、同じレベルに "main.css" ファイルの固有のバージョンもあります。このとき、"Templates" フォルダの "main.css" ファイルのバージョンにリンクする href="hmain.css" というドキュメント相対リンクがテンプレートファイルにあり、テンプレートから作成される "index.html" ページにもこのリンクの記述を格納するとします。この場合、Dreamweaver でこれらのリンクが更新されるかどうかを考慮しなくても、テンプレートから "index.html" ページを作成することができます。Dreamweaver MX 2004 でテンプレートから "index.html" ページを作成すると、href="hmain.css" リンクは更新されないため、"Templates" フォルダにある "main.css" ファイルではなく、Dreamweaver、Flash、Photoshop の各フォルダにある "main.css" ファイルが参照されます。

一方、Dreamweaver 8 ではこの動作が変更されたため、テンプレートからページを作成すると、リンク先ファイルの場所に関係なくすべてのドキュメント相対リンクが更新されます。この場合、Dreamweaver はテンプレートファイル内のリンク href="main.css" を調べ、テンプレートから作成されたページにある新しいドキュメントの場所への相対的なリンクを作成します。たとえば、"Templates" フォルダの 1 つ上のレベルにテンプレートからドキュメントを作成する場合、

新しいドキュメントへの href="Templates/main.css" というリンクが作成されます。このため、"Templates" フォルダ内にあるファイルへのリンクは更新されないという、Dreamweaver の以前の動作を利用してデザイナーが作成したページのリンクが更新されます。

Dreamweaver 8.01 には、相対的なリンクを更新する動作のオンとオフを切り替える環境設定が追加されています。この特殊な環境設定は、"Templates" フォルダ内のファイルへのリンクにのみ適用され、一般のリンクには適用されません。初期設定の動作では、Dreamweaver MX 2004 およびそれ以前のバージョンと同じように、これらのリンクは更新されません。テンプレートからページを作成するときにこれらの種類のリンクを更新する場合は、この環境設定を解除することができます。この環境設定は、たとえば、"Templates " フォルダにカスケーディングスタイルシート （CSS) ページ "main.css" があり、テンプレートから作成したドキュメントにリンク href="Templates/main.css" を格納する場合にのみ解除してください。一方、"Templates" フォルダ内に Dreamweaver テンプレート (DWT) ファイルのみがある場合は、この設定の解除はお勧めしません。

"Templates" フォルダ内にあるテンプレート以外のファイルへのドキュメント相対パスを更新するには、[サイト定義] ダイアログボックスの [詳細設定] タブにある [テンプレート] カテゴリを選択し、[ドキュメントの相対パスを再書き込みしない] オプションをオフにします。

詳細については、Adobe の Web サイトに掲載されている Dreamweaver TechNote (www.adobe.com/go/f55d8739_jp) を参照してください。

関連項目

271 ページの「[ファイルの指定] アイコンによるドキュメントのリンク」

268 ページの「ドキュメント相対パス」

テンプレートのサーバースクリプトおよびテンプレートから作成されたドキュメント

サーバースクリプトの中には、ドキュメントの最先端または最後尾 (<html> タグの前、または </html> タグの後) に挿入されるものがあります。このようなスクリプトは、テンプレートおよびテンプレートから作成したドキュメントにおいて、特別な扱いが必要です。通常、テンプレートの <html> タグの前、または </html> タグの後にあるスクリプトコードを変更しても、テンプレートから作成するドキュメントに変更はコピーされません。そのため、テンプレートの本体に含まれる他のサーバースクリプトが、コピーされなかったスクリプトに依存している場合、サーバーにエラーが生じる可能性があります。テンプレートの <html> タグの前、または </html> タグの後にあるスクリプトを変更すると、警告が表示されます。

この問題を避けるには、テンプレートの head セクションに、以下のコードを挿入します。

```
<!-- TemplateInfo codeOutsideHTMLIsLocked="true" -->
```

このコードがテンプレートに挿入されると、<html> タグの前または </html> タグの後のスクリプトへの変更は、テンプレートから作成されたドキュメントにコピーされます。ただし、ドキュメント側でこれらのスクリプトを編集することはできなくなります。つまり、これらのスクリプトの編集は、テンプレート、またはテンプレートから作成したドキュメントのいずれかで行います。両方では編集できません。

テンプレートパラメータ

テンプレートパラメータは、テンプレートから作成されたドキュメント内のコンテンツを制御するための値を示します。テンプレートパラメータは、オプション領域や編集可能タグ属性に使用するだけでなく、添付先のドキュメントに継承する値の設定に使用できます。それぞれのパラメータには、名前、データタイプ、および初期設定値を選択します。パラメータ名は、大文字と小文字が区別され一意の名前でなければなりません。パラメータには、テキスト、Boolean、カラー、URL、数値の 5 つの許可されたデータタイプのいずれかを使用する必要があります。

テンプレートパラメータは、インスタンスパラメータとしてドキュメントに渡されます。テンプレートユーザーは、通常、パラメータの初期設定値を編集して、テンプレートから作成されたドキュメントに表示するコンテンツをカスタマイズできます。また、テンプレート作成者は、テンプレート式の値に基づいて、ドキュメントに表示するコンテンツを決定することできます。

注意：関連情報については、http://www.adobe.com/devnet/dreamweaver/articles/template_parameters.html_jp を参照してください。

関連項目

382 ページの「オプション領域の使用」

384 ページの「編集可能なタグ属性の定義」

テンプレート式

テンプレート式は、値を計算または評価するステートメントです。

式を使用して値を保存し、その値をドキュメントに表示することができます。たとえば、@@(Param)@@ などのようにパラメータの値と同じくらいシンプルな式、または @@((_index & 1) ? red : blue)@@ などのように、テーブル行の背景色を変換するための値を計算する複雑な式を作成することができます。

単独の if 条件または複数の if 条件を表す式を定義することもできます。条件ステートメントで使用される式は、Dreamweaver では true (真) または false (偽) として評価されます。条件が true の場合、テンプレートから作成されたドキュメントにオプション領域が表示され、条件が false の場合は表示されません。

テンプレート式は、オプション領域を挿入するときにコードビューまたは [オプション領域] ダイアログボックスで定義できます。

コードビューでテンプレート式を定義する方法は 2 つあります。コメントまたは @@(式)@@ を使用します。-- TemplateExpr expr="your expresson"--> コメントまたは @@(your expression)@@。テンプレートコードにテンプレート式を挿入すると、デザインビューに式のマーカーが表示されます。そのテンプレートを適用すると、Dreamweaver によって式が評価され、テンプレートから作成されたドキュメントに値が表示されます。

関連項目

372 ページの「テンプレート式の言語」

373 ページの「テンプレートコードの複数の If 条件」

テンプレート式の言語

テンプレート式の言語は JavaScript の少数のサブセットであり、JavaScript のシンタックスと優先ルールが使用されています。たとえば以下のように JavaScript の演算子を使用して、式を記述します。

```
@@(firstName+lastName)@@
```

サポートされている機能および演算子は以下のとおりです。

- 数字リテラル、ストリングリテラル (二重引用符のシンタックスのみ)、ブールリテラル (true または false)
- 変数リファレンス (この項の後半に示された定義済みの変数のリストを参照)
- フィールドリファレンス ("dot" 演算子)
- 単項演算子 : +, -, ~, !
- バイナリ演算子 : +, -, *, /, %, &, |, ^, &&, ||, <, <=, >, >=, ==, !=, <<, >>
- 条件演算子 : ?:
- カッコ : ()

データタイプには、ブール、IEEE 64 bpc 浮動小数点、ストリング、およびオブジェクトが使用されます。Dreamweaver のテンプレートでは、JavaScript の "null" タイプおよび "undefined" タイプはサポートされていません。また、オブジェクトに暗黙的に変換されるスカラータイプも使用できません。したがって、"abc".length という式はエラーを引き起こし、3 という値を求めることはできません。

式オブジェクトモデルで定義されているオブジェクトのみ使用できます。定義されている変数は、以下のとおりです。

_document ドキュメント内のパラメータごとに 1 つずつフィールドがあり、ドキュメントレベルのテンプレートデータを保持します。

_repeat リピート領域内に表示される式に対してのみ定義されます。領域に関する以下の組み込み情報を指定します。

_index 現在のエントリの数字インデックス (0 から)。

_numRows このリピート領域に含まれるエントリの合計数。

_isFirst 現在のエントリがリピート領域の最初のエントリの場合は true。

_isLast 現在のエントリがリピート領域の最後のエントリの場合は true。

_prevRecord _repeat オブジェクト。領域の最初のエントリに対してこのプロパティを使用するとエラーになります。

_nextRecord _repeat オブジェクト。領域の最後のエントリに対してこのプロパティを使用するとエラーになります。

_parent ネストされたリピート領域で、外側のリピート領域の "_repeat" オブジェクトを指定します。ネストされたリピート領域以外にこのプロパティを使用するとエラーになります。

式の評価では、_document オブジェクトおよび _repeat オブジェクトのすべてのフィールドが暗黙的に使用可能になります。たとえば、_document.title の代わりに title を入力して、ドキュメントのタイトルパラメータを表示することができます。

フィールドの衝突が生じた場合は、_repeat オブジェクトのフィールドが _document オブジェクトのフィールドに優先します。したがって、_document または _repeat を明示的に参照する必要はありません。ただし、リピート領域のパラメータによって非表示にされているドキュメントパラメータを参照するために、リピート領域の内側に _document が必要な場合を除きます。

ネストされたリピート領域が使用されている場合は、最も内側にあるリピート領域のフィールドのみが暗黙的に使用可能になります。外側の領域は、_parent を使用して明示的に参照する必要があります。

テンプレートコードの複数の If 条件

単独の if 条件または複数の if 条件を表すテンプレート式を定義できます。以下の例は、"Dept" というパラメータを定義して、初期値を設定した後、表示するロゴを確定する複数の If 条件を定義しています。

以下は、テンプレートの head セクションに入力するコード例です。

```
<!-- TemplateParam name="Dept" type="number" value="1" -->
```

次の条件ステートメントは、Dept パラメータに割り当てられた値をチェックします。条件が true、つまり一致する場合は、適切なイメージが表示されます。

```
<!-- TemplateBeginMultipleIf -->
<!-- checks value of Dept and shows appropriate image-->
<!-- TemplateBeginIfClause cond="Dept == 1" --> <img src=".../sales.gif"> <!-- TemplateEndIfClause -->
<!-- TemplateBeginIfClause cond="Dept == 2" --> <img src=".../support.gif"> <!-- TemplateEndIfClause-->
<!-- TemplateBeginIfClause cond="Dept == 3" --> <img src=".../hr.gif"> <!-- TemplateEndIfClause -->
<!-- TemplateBeginIfClause cond="Dept != 3" --> <img src=".../spacer.gif"> <!-- TemplateEndIfClause -->
<!-- TemplateEndMultipleIf -->
```

テンプレートからドキュメントを作成すると、テンプレートパラメータが自動的にそのドキュメントに渡されます。テンプレートユーザーは表示するイメージを決定します。

関連項目

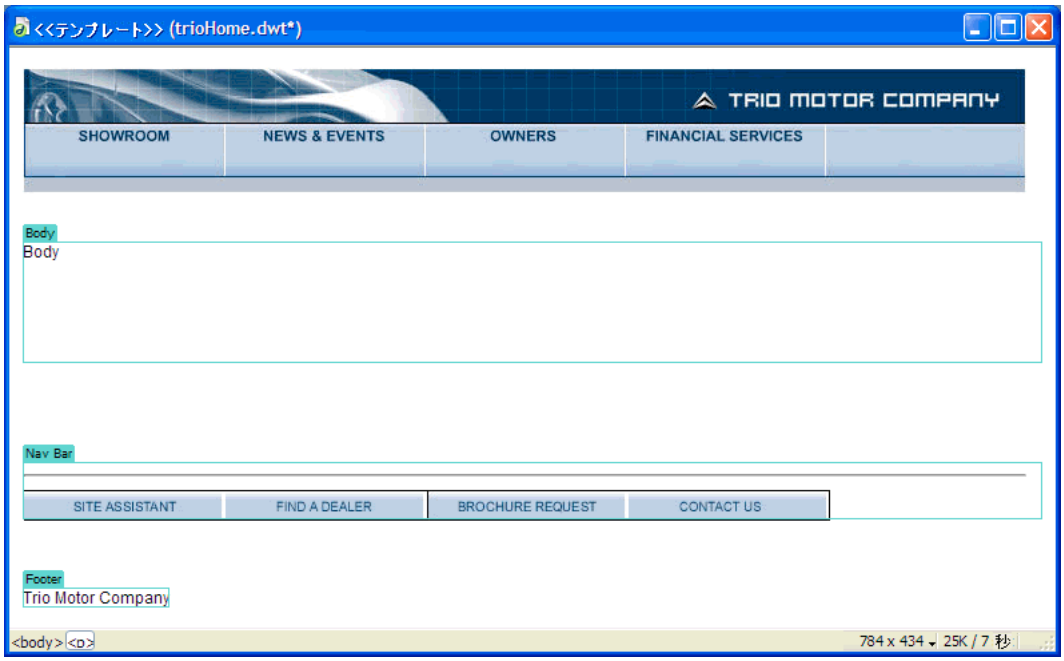
394 ページの「テンプレートプロパティの修正」

テンプレートおよびテンプレートから作成されたドキュメントの認識

デザインビューのテンプレートの認識

デザインビューでは、編集可能領域は、既定のハイライトカラーを使用した四角いアウトラインに囲まれてドキュメントウィンドウに表示されます。各編集可能領域の左上隅には、小さいタブが表示され、定義済みの領域の名前を示します。

ドキュメントウィンドウのタイトルバーを確認することで、テンプレートファイルを識別することができます。テンプレートファイルのタイトルバーには、"<< テンプレート >>" という語が表示されます。ファイルの拡張子は .dwt です。



コードビューのテンプレートの認識

コードビューでは、編集可能なコンテンツ領域は、HTML にコメント と でマークされます。

<!-- TemplateBeginEditable> および <!-- TemplateEndEditable -->

コードカラーリング環境設定を使用して独自のカラースキームを設定しておくことにより、コードビューでドキュメントを表示したときに、テンプレート領域を見分けやすくできます。

これらのコメントの間に記述されているものはすべて、テンプレートから作成されたドキュメントで編集することができます。編集可能領域の HTML ソースコードは、以下のようになります。

```
<table width="75%"  border="1"  cellspacing="0" cellpadding="0">
  <tr bgcolor="#333366">
    <td>Name</td>
    <td><font color="#FFFFFF">Address</font></td>
    <td><font color="#FFFFFF">Telephone Number</font></td>
  </tr>
  <!-- TemplateBeginEditable name="LocationList" -->
  <tr>
    <td>Enter name</td>
    <td>Enter Address</td>
    <td>Enter Telephone</td>
  </tr>
  <!-- TemplateEndEditable -->
</table>
```

注意：コードビューでテンプレートコードを編集する際には、Dreamweaver が依存しているテンプレートに関連するコメントタグを変更しないようにしてください。

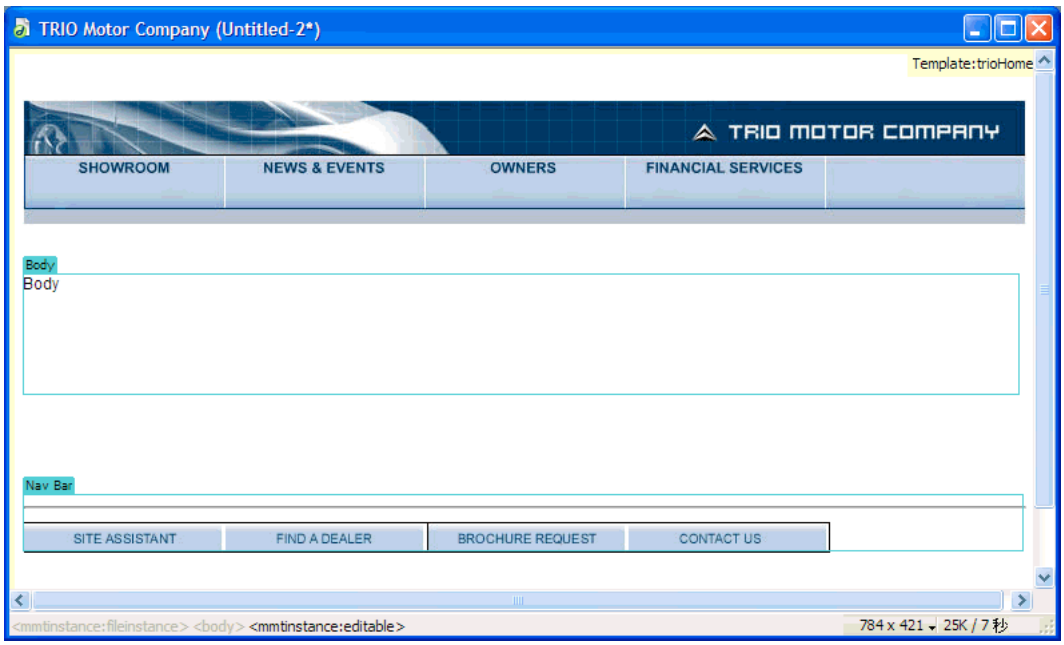
関連項目

398 ページの「テンプレートのコードカラーリング環境設定のカスタマイズ」

デザインビューでのテンプレートから作成されたドキュメントの認識

デザインビューでは、テンプレートから作成されたドキュメントの編集可能領域は、既定のハイライトカラーを使用した四角いアウトラインに囲まれてドキュメントウィンドウに表示されます。各編集可能領域の左上隅には、小さいタブが表示され、定義済みの領域の名前を示します。

編集可能領域がアウトラインで囲まれるだけでなく、ページ全体も別の色のアウトラインで囲まれ、右上隅のタブにドキュメントの基となったテンプレートの名前が示されます。このハイライト表示されている四角形のアウトラインは、ドキュメントがテンプレートから作成されていること、また編集可能領域の外側にあるコンテンツが変更不可能であることを示します。



関連項目

398 ページの「テンプレート領域のハイライト表示の環境設定」

コードビューでのテンプレートから作成されたドキュメントの認識

コードビューでは、テンプレートから作成されたドキュメントの編集可能領域は、編集不可能な領域のコードとは異なるカラーで表示されます。変更できるのは、編集可能領域内のコードまたは編集可能パラメータだけです。Dreamweaver では、ロックされた領域に入力することはできません。

編集可能なコンテンツは、HTML では以下の Dreamweaver コメントでマークされます。

<!-- InstanceBeginEditable> および <!-- InstanceEndEditable -->

これらのコメントの間に記述されているものはすべて、テンプレートから作成されたドキュメントで編集することができます。編集可能領域の HTML ソースコードは、以下のようになります。

```
<body bgcolor="#FFFFFF" leftmargin="0">
<table width="75%"  border="1"  cellspacing="0" cellpadding="0">
  <tr bgcolor="#333366">
    <td>Name</td>
    <td><font color="#FFFFFF">Address</font></td>
    <td><font color="#FFFFFF">Telephone Number</font></td>
  </tr>
  <!-- InstanceBeginEditable name="LocationList" -->
  <tr>
    <td>Enter name</td>
    <td>Enter Address</td>
    <td>Enter Telephone</td>
  </tr>
  <!-- InstanceEndEditable -->
</table>
</body>
```

編集不可能なテキストの初期設定のカラーはグレーですが、編集可能な領域も編集不可能な領域も、[環境設定] ダイアログボックスで別の色を選択することができます。

関連項目

398 ページの「テンプレートのコードカラーリング環境設定のカスタマイズ」

Dreamweaver テンプレートの作成

Dreamweaver テンプレートの作成について

テンプレートは、HTML、Macromedia ColdFusion、Microsoft Active Server Pages ドキュメントなどの既存のドキュメント、または新規のドキュメントから作成できます。

テンプレートを作成したら、テンプレート領域を挿入して、テンプレートのコードカラーとテンプレート領域のハイライトカラーの環境設定を設定できます。

作成者や前回の編集日時、レイアウトの決定理由など、テンプレートの追加情報をそのテンプレートのデザインノートファイルに格納することもできます。テンプレートから作成されたドキュメントには、テンプレートのデザインノートは継承されません。

注意：Adobe Dreamweaver のテンプレートは、Dreamweaver テンプレートのページセクションが初期設定で固定または編集不能になっている、他の Adobe Creative Suite 製品のテンプレートと異なります。

テンプレートの作成方法のチュートリアルは、www.adobe.com/go/vid0157_jp を参照してください。

テンプレートの使用方法のチュートリアルは、www.adobe.com/go/vid0158_jp を参照してください。

関連項目

369 ページの「テンプレート領域のタイプ」

398 ページの「テンプレートのオーサリング環境の設定」

99 ページの「デザインノートとファイルの関連付け」

既存のドキュメントからのテンプレートの作成

既存のドキュメントからテンプレートを作成できます。

1 テンプレートとして保存するドキュメントを開きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [ファイル]-[テンプレートとして保存] を選択します。

- [挿入] バーの [一般] カテゴリで、[テンプレート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [テンプレートの作成] を選択します。

注意：以前、[次からこの警告を表示しない] を選択していない限り、保存するドキュメントに編集可能領域が定義されていないことを通知する警告が表示されます。[OK] をクリックしてドキュメントをテンプレートとして保存するか、または [キャンセル] をクリックしてテンプレートを作成せずにダイアログボックスを閉じます。

3 [サイト] ポップアップメニューからテンプレートを保存するサイトを選択し、[保存先] ボックスにテンプレートの一意の名前を入力します。

4 [保存] をクリックします。Dreamweaver では、テンプレートファイルは、ファイル拡張子 .dwt を付けて、サイトのローカルルートフォルダにあるサイトの "Templates" フォルダに保存されます。サイトに "Templates" フォルダがない場合は、新しいテンプレートを保存するときに自動的に作成されます。

注意："Templates" フォルダからテンプレートを移動したり、"Templates" フォルダにテンプレート以外のファイルを置くことはできません。また、"Templates" フォルダは、ローカルルートフォルダから移動しないでください。移動すると、テンプレートのパスにエラーが発生します。

関連項目

67 ページの「空白テンプレートの作成」

65 ページの「ドキュメントを作成して開く」

[アセット] パネルを使用した新しいテンプレートの作成

1 [アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) で、パネルの左側にある [テンプレート] カテゴリを選択します。

2 [アセット] パネルの下部にある [新規テンプレート] ボタン をクリックします。

名前の付いていない、新しいテンプレートが [アセット] パネルのテンプレート一覧に追加されます。

3 テンプレートを選択したまま、テンプレートの名前を入力し、Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

Dreamweaver により、[アセット] パネルおよび "Templates" フォルダに空白のテンプレートが作成されます。

Contribute サイト用のテンプレートの作成について

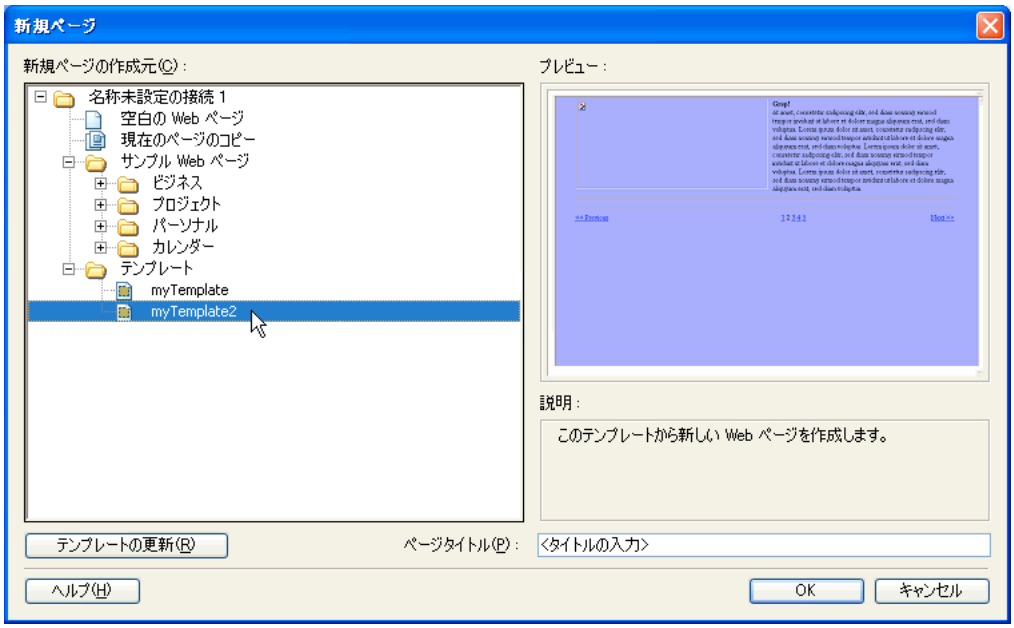
Dreamweaver を使用して、Adobe® Contribute® ユーザーが新しいページを作成する際に役立つテンプレートを作成することができます。テンプレートを使用することで、サイトの外観と印象に統一感を与えたり、多数のページのレイアウトを一度に更新することができます。

テンプレートを作成してサーバーにアップロードすると、サイトに接続したすべての Contribute ユーザーが利用できます。ただし、一部の Contribute のロールでテンプレートの使用を制限している場合を除きます。テンプレートの使用を制限している場合は、新しいテンプレートを作成するたびに、Contribute ユーザー用のテンプレートリストにそのテンプレートを追加する必要があります (詳細については、『Contribute の使用と管理』を参照してください)。

注意：各 Contribute ユーザーのサイト定義に設定されたサイトルートフォルダが、Dreamweaver のサイト定義に設定されたサイトルートフォルダと同じであることを確認します。ユーザーのサイトルートフォルダが Dreamweaver の設定と一致しない場合は、そのユーザーはテンプレートを使用できません。

Dreamweaver テンプレートに加えて、Contribute の管理ツールを使用して "Dreamweaver 以外のテンプレート " を作成することもできます。Dreamweaver 以外のテンプレートは、Contribute ユーザーが新しいページを作成するのに使用できる既存のページです。Dreamweaver テンプレートと似ていますが、テンプレートを変更してもそれをベースにしたページが更新されない点で異なります。また、Dreamweaver 以外のテンプレートには、編集可能、ロック、繰り返し、およびオプション領域など、Dreamweaver テンプレートのエレメントを含めることができません。

Contribute ユーザーが Dreamweaver テンプレートの含まれているサイト内で新しいドキュメントを作成するときには、Contribute の [新規ページ] ダイアログボックスに、利用可能なテンプレート (Dreamweaver テンプレートと Dreamweaver 以外のテンプレートの両方) が一覧表示されます。



Latin-1 以外のエンコードを使用するページをサイトに追加するには、テンプレート (Dreamweaver テンプレートまたは Dreamweaver 以外のテンプレート) を作成する必要があります。Contribute ユーザーは、どのようなエンコード形式のページでも編集できますが、Contribute ユーザーが新しいブランクページを作成すると、そのページでは Latin-1 エンコードが使用されます。異なるエンコードを使用するページを作成するには、Contribute ユーザーは、他のエンコード形式の既存ページのコピーを作成するか、他のエンコード形式のテンプレートを使用します。ただし、他のエンコード形式のページやテンプレートがサイトにない場合は、まず Dreamweaver でそのエンコード形式のページやテンプレートを作成する必要があります。

Contribute サイト用のテンプレートの作成

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 サイトを選択し、[編集] をクリックします。

3 [サイト定義] ダイアログボックスの [詳細設定] タブをクリックします。

4 左の [カテゴリ] リストから [Contribute] カテゴリを選択します。

5 まだ Contribute の互換性を有効にしていない場合は、有効にします。

[Contribute 互換性を有効化] を選択し、サイトルートの URL を入力します。

6 [Contribute でサイトを管理] をクリックします。

7 管理者のパスワードを入力するよう求められた場合は、管理者のパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

8 [ユーザーと役割] カテゴリで、ロールを選択して [役割の設定を編集] ボタンをクリックします。

9 [新規ページ] カテゴリを選択し、[このリストからページをコピーして新規ページを作成] の下にあるリストに既存のページを追加します。

詳細については、『Contribute の使用と管理』を参照してください。

10 [OK] を 2 回クリックしてダイアログボックスを閉じます。

関連項目

55 ページの「Contribute で使用するサイトの準備」

編集可能領域の作成

編集可能領域の挿入

編集可能なテンプレート領域は、テンプレートから作成されたページで、ユーザーが編集できる領域を制御します。編集可能領域を挿入する前に、操作しているドキュメントをテンプレートとして保存する必要があります。

注意：テンプレートファイルではなく、ドキュメントに編集可能領域を挿入すると、ドキュメントがテンプレートとして自動的に保存されるという警告が表示されます。

編集可能領域はページの任意の位置に配置することができますが、テーブルや絶対位置のエレメント (AP エレメント) を編集可能にする場合には、以下の点に注意してください。

- テーブル全体または個別のテーブルセルは編集可能としてマークできますが、複数のテーブルセルを 1 つの編集可能領域としてマークすることはできません。<td> タグが選択されている場合、編集可能領域にはセルの周囲の領域も含まれます。選択されていない場合は、セルの内部のコンテンツだけが編集可能領域となります。
- AP エレメントと AP エレメントのコンテンツは、それぞれ別のエレメントとして扱われます。AP エレメントを編集可能にすると、AP エレメントの位置および AP エレメントのコンテンツを変更することができますが、AP エレメントのコンテンツを編集可能にした場合は、AP エレメントのコンテンツだけを変更でき、AP エレメントの位置は変更できません。

1 ドキュメントウィンドウで、以下のいずれかの操作を行って、領域を選択します。

- 編集可能領域として設定するテキストまたはコンテンツを選択します。
- 編集可能領域を挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 以下のいずれかの操作を行って、編集可能領域を挿入します。

- [挿入]-[テンプレートオブジェクト]-[編集可能領域] を選択します。
- 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[テンプレート]-[新規の編集可能領域] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで、[テンプレート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [編集可能領域] を選択します。

3 [名前] ボックスに、領域の一意の名前を入力します。特定のテンプレートでは、複数の編集可能領域に同一の名前を使用することはできません。

注意：[名前] ボックスには特殊文字は使用しないでください。

4 [OK] をクリックします。テンプレートでは、編集可能領域はハイライト表示された四角形のアウトラインで囲まれます。このハイライトカラーは、環境設定で設定されています。領域の左上隅にあるタブに、領域の名前が表示されます。ドキュメントに空の編集可能領域を挿入する場合は、領域内にも領域名が表示されます。

関連項目

376 ページの「Dreamweaver テンプレートの作成」

398 ページの「テンプレート領域のハイライト表示の環境設定」

編集可能領域の選択

テンプレート領域は、テンプレートドキュメントからも、テンプレートから作成されたドキュメントからも、簡単に識別し、選択することができます。

ドキュメントウィンドウでの編集可能領域の選択

❖ 編集可能領域の左上隅にあるタブをクリックします。

ドキュメントでの編集可能領域の検索と選択

❖ [修正]-[テンプレート] を選択し、サブメニューの下部の一覧から領域名を選択します。

注意：このメニューには、リピート領域内の編集可能領域は表示されません。リピート領域内の編集可能領域は、ドキュメントウィンドウでタブ付きのボーダーによって識別できます。

ドキュメント内の編集可能領域が選択されます。

編集可能領域の削除

テンプレートファイルで編集可能と指定した領域を再度ロックしてテンプレートから作成されたドキュメントで編集できないようにする場合は、[テンプレートマークアップの削除] コマンドを使用します。

1 編集可能領域の左上隅にあるタブをクリックし、選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [修正]-[テンプレート]-[テンプレートマークアップの削除] を選択します。
- 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[テンプレート]-[テンプレートマークアップの削除] を選択します。

領域を編集できなくなります。

編集可能領域の名前の変更

編集可能領域を挿入した後、その名前を変更することができます。

1 編集可能領域の左上隅にあるタブをクリックし、選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で新しい名前を入力します。

3 Enter キー (Windows) または Return キー (Macintosh) を押します。

リピート領域の作成

テンプレートリピート領域について

リピート領域は、テンプレートの一部分で、テンプレートから作成されたページ内で何度でも複製することができます。一般にリピート領域はテーブルに使用されますが、その他のページエレメントにも定義することができます。

リピート領域を使用すると、カタログ項目や説明レイアウト、または項目リストなどのデータ行など、特定の項目を繰り返すことで、ページレイアウトを制御することができます。

使用できるリピート領域のテンプレートオブジェクトには、リピート領域とリピートテーブルの 2 つがあります。

関連項目

369 ページの「テンプレート領域のタイプ」

テンプレートでのリピート領域の作成

リピート領域を使用すると、テンプレートユーザーが、テンプレート内に指定された領域を何度でも複製することができます。リピート領域は必ずしも編集可能領域ではありません。

テンプレートから作成されたドキュメントのテーブルのセルにテキストを入力できるようにするなど、リピート領域のコンテンツを編集可能にするには、リピート領域に編集可能領域を挿入する必要があります。

1 ドキュメントウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- リピート領域として設定するテキストまたはコンテンツを選択します。
- リピート領域を挿入するドキュメント内の位置に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[テンプレートオブジェクト]-[リピート領域] を選択します。
- 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[テンプレート]-[新規リピート領域] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで、[テンプレート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [リピート領域] を選択します。

3 [名前] ボックスに、テンプレート領域の一意の名前を入力します (1 つのテンプレート内の複数のリピート領域に同じ名前を使用することはできません)。

注意：領域に名前を付けるときは、特殊文字を使用しないでください。

4 [OK] をクリックします。

関連項目

379 ページの「編集可能領域の挿入」

リピートテーブルの挿入

リピートテーブルを使用すると、リピート行のある編集可能領域をテーブル形式で作成することができます。テーブルの属性を定義し、テーブルのどのセルを編集できるようにするかを設定できます。

1 ドキュメントウィンドウで、リピートテーブルを挿入するドキュメント内の位置に挿入ポイントを置きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[テンプレートオブジェクト]-[リピートテーブル] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで、[テンプレート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [リピートテーブル] を選択します。

3 次のオプションを指定して、[OK] をクリックします。

行 テーブルの行数を指定します。

列 テーブルの列数を指定します。

セル内余白 セルのコンテンツと境界線の間のピクセル数を指定します。

セル内間隔 隣接するテーブルセルの間隔をピクセル単位で指定します。

セル内余白やセル内間隔を明示的に指定しなければ、一般的なブラウザでは、セル内余白が 1、セル内間隔が 2 に設定されているものとしてテーブルが表示されます。テーブルに余白と間隔を表示しないようにするには、[セル内余白] および [セル内間隔] を 0 に設定します。

幅 テーブル幅をピクセル値で指定するか、またはブラウザウィンドウの幅に対する割合で指定します。

ボーダー テーブルのボーダー幅をピクセル値で指定します。

ボーダーの値を明示的に指定しなければ、一般的なブラウザでは、ボーダーが 1 に設定されているものとしてテーブルが表示されます。ボーダーなしのテーブルをブラウザに確実に表示するには、[ボーダー] を 0 に設定してください。ボーダーを 0 に設定しているときにセルおよびテーブルの境界を見るには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[テーブルボーダー] を選択してください。

テーブルのリピート行 リピート領域に含めるテーブルの行を指定します。

開始行 リピート領域に最初の行として挿入する行の番号を設定します。

終了行 リピート領域に最後の行として挿入する行の番号を設定します。

領域名 リピート領域の一意の名前を設定します。

リピートテーブルの代替背景色の設定

リピートテーブルをテンプレートに挿入した後、テーブル行の背景色を交互に色分けして、リピートテーブルをカスタマイズできます。

1 ドキュメントウィンドウで、リピートテーブルの行を選択します。

2 ドキュメントツールバーの [コードビューの表示] または [コードビューおよびデザインビューの表示] ボタンをクリックすると、選択したテーブル行のコードを表示できます。

3 コードビューで <tr> タグを編集して、以下のコードを挿入します。

```
<tr bgcolor="@@( _index & 1 ? '#FFFFFF' : '#CCCCCC' )@@">
```

16 進数の #FFFFFF と #CCCCCC は、他の色と置き換えることができます。

4 テンプレートを保存します。

以下は、テーブル行の代替背景色が設定されたテーブルのコード例です。

```
<table width="75%"  border="1"  cellspacing="0" cellpadding="0">
<tr><th>Name</th><th>Phone Number</th><th>Email Address</th></tr>
<!-- TemplateBeginRepeat name="contacts" -->
<tr bgcolor="@@(_index & 1 ? '#FFFFFF' : '#CCCCCC')@@">
<td> <!-- TemplateBeginEditable name="name" --> name <!-- TemplateEndEditable -->
</td>
<td> <!-- TemplateBeginEditable name="phone" --> phone <!-- TemplateEndEditable -->
</td>
<td> <!-- TemplateBeginEditable name="email" --> email <!-- TemplateEndEditable -->
</td>
</tr>
  <!-- TemplateEndRepeat -->
</table>
```

オプション領域の使用

テンプレートオプション領域について

オプション領域は、テンプレートから作成されたドキュメントで、ユーザーが表示または非表示を設定できるテンプレート内の領域です。ドキュメントにコンテンツを表示するための条件を設定する場合、オプション領域を使用します。

オプション領域を挿入する際には、テンプレートパラメータに特定の値を設定するか、テンプレート領域に "If...else" の条件ステートメントを定義できます。ここでは、簡単な true/false 演算を使用するか、複雑な条件ステートメントや式を定義します。オプション領域は、必要に応じて後で修正できます。定義した条件に基づいて、テンプレートユーザーは、テンプレートから作成されたドキュメント内のパラメータを編集し、そのオプション領域を表示するかどうかを制御することができます。

複数のオプション領域を 1 つの指定パラメータにリンクさせることができます。テンプレートから作成されたドキュメントでは、両領域は一単位として表示または非表示になります。たとえば、" 閉店大売出し " のイメージと販売価格テキスト領域を 1 つの販売商品として表示することができます。

関連項目

394 ページの「テンプレートプロパティの修正」

369 ページの「テンプレート領域のタイプ」

オプション領域の挿入

オプション領域を使用して、テンプレートから作成したドキュメントにコンテンツを表示するかどうかを制御することができます。オプション領域には、次の 2 つのタイプがあります。

- 編集不能オプション領域では、テンプレートユーザーは特別にマークされた領域を表示または非表示にすることができます。ただし、コンテンツを編集することはできません。

オプション領域のテンプレートタブは、**if** の後ろに続きます。テンプレートの条件セットに基づいて、テンプレートユーザーは各自が作成するページにその領域を表示するかどうかを定義します。

- 編集可能オプション領域では、テンプレートユーザーはその領域を表示または非表示に設定でき、さらに領域内のコンテンツも編集できます。

たとえば、オプション領域にイメージまたはテキストが含まれる場合、ユーザーはそれを表示するかどうかを設定できるだけでなく、必要に応じてそれを編集することができます。編集可能領域は、条件ステートメントで制御されます。

関連項目

394 ページの「テンプレートプロパティの修正」

編集不能オプション領域の挿入

1 ドキュメントウィンドウで、オプション領域として設定するエレメントを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[テンプレートオブジェクト]-[オプション領域] を選択します。
- コンテンツを選択して右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[テンプレート]-[新規オプション領域] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで、[テンプレート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [オプション領域] を選択します。

3 オプション領域の名前を入力します。オプション領域の値を設定する場合は [詳細設定] タブをクリックします。次に、[OK] をクリックします。

編集可能オプション領域の挿入

1 ドキュメントウィンドウで、オプション領域を挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

編集可能なオプション領域は、範囲を選択することによっては作成できません。領域を挿入した後で、その領域にコンテンツを挿入します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[テンプレートオブジェクト]-[編集可能オプション領域] を選択します。
- [挿入] バーの [一般] カテゴリで、[テンプレート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [編集可能オプション領域] を選択します。

3 オプション領域の名前を入力します。オプション領域の値を設定する場合は [詳細設定] タブをクリックします。次に、[OK] をクリックします。

オプション領域の値の設定

オプション領域をテンプレートに挿入した後に、領域の設定を編集することができます。たとえば、コンテンツの表示 / 非表示を決定する初期設定の変更、既存のオプション領域へのパラメータのリンク、テンプレート式の修正などを行うことができます。

テンプレートパラメータを作成し、テンプレート領域の If...else 条件ステートメントを定義します。ここでは、簡単な true/false 演算を使用したり、複雑な条件ステートメントや式を定義することができます。

[詳細設定] タブでは、複数のオプション領域を 1 つの指定パラメータにリンクさせることができます。テンプレートから作成されたドキュメントでは、両領域は一単位として表示または非表示になります。たとえば、" 閉店大売出し " のイメージと販売価格テキスト領域を 1 つの販売商品として表示することができます。

また、[詳細設定] タブを使用して、オプション領域の値を評価するテンプレート式を記述し、その値に基づいてオプション領域の表示 / 非表示を切り替えることもできます。

1 ドキュメントウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- デザインビューで、修正するオプション領域のテンプレートタブをクリックします。
- デザインビューのテンプレート領域に挿入ポイントを置き、ドキュメントウィンドウの下部にあるタグセレクタで <mmtemplate:if> というテンプレートタグを選択します。
- コードビューで、修正するテンプレート領域のコメントタブをクリックします。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [編集] をクリックします。

3 [基本] タブで、[名前] ボックスにパラメータの名前を入力します。

4 [初期設定では表示] を選択し、選択した領域がドキュメントで表示されるように設定します。この選択を解除すると、初期設定値が false に設定されます。

注意：パラメータに別の値を設定するには、コードビューでドキュメントの選択したセクションからそのパラメータを検索し値を編集します。

5 (オプション) [詳細設定] タブをクリックし、以下のオプションを設定します。

- オプション領域のパラメータをリンクする場合は、[詳細設定] タブをクリックして [パラメータの使用] を選択し、ポップアップメニューから、選択したコンテンツのリンク先となる既存のパラメータを選択します。
- テンプレート式を記述してオプション領域の表示を制御する場合は、[詳細設定] タブをクリックして [式を入力] を選択し、ボックスに式を入力します。

注意：入力したテキストの周囲に二重引用符が挿入されます。

6 [OK] をクリックします。

[オプション領域] テンプレートオブジェクトを使用すると、テンプレートのコメントがコードに自動的に挿入されます。テンプレートパラメータは、head セクションで以下の例のように定義されます。

```
<!-- TemplateParam name="departmentImage" type="boolean" value="true" -->
```

オプション領域が挿入される位置に、以下のようなコードが表示されます。

```
<!-- TemplateBeginIf cond="departmentImage" -->
<p><img src="/images/airfare_on.gif" width="85" height="22"> </p>
<!-- TemplateEndIf -->
```

これにより、テンプレートから作成されたドキュメントでテンプレートパラメータを編集できるようになります。

関連項目

394 ページの「テンプレートプロパティの修正」

372 ページの「テンプレート式」

編集可能なタグ属性の定義

テンプレートでの編集可能タグ属性の指定

テンプレートから作成されたドキュメントで、指定したタグの属性をテンプレートユーザーが編集できるようにできます。

たとえば、テンプレートドキュメントの背景色はテンプレートの作成者が設定し、テンプレートユーザーが作成するページの背景色については、ユーザーが別の色を設定できるようにすることができます。ユーザーが更新できるのは、テンプレートの作成者が編集可能に指定した属性だけです。

また、ページに複数の編集可能な属性を設定して、テンプレートユーザーがテンプレートから作成されたドキュメントで属性を修正できるようにすることもできます。サポートされているデータタイプは、テキスト、Boolean (true/false)、色、および URL です。

編集可能なタグ属性を作成すると、コードにテンプレートパラメータが挿入されます。テンプレートドキュメントには属性の初期値が設定され、テンプレートからドキュメントが作成されるとパラメータを継承します。これにより、ユーザーはテンプレートから作成されたドキュメント内のパラメータを編集できるようになります。

注意：スタイルシートへのリンクを編集可能属性にすると、テンプレートファイルのスタイルシートの属性を表示および編集できなくなります。

1 ドキュメントウィンドウで、編集可能なタグ属性を設定するアイテムを選択します。

2 [修正]-[テンプレート]-[属性を編集可能にする] を選択します。

3 [編集可能なタグ属性] ボックスで次のいずれかの操作をして、[属性] テキストボックスに属性の名前を入力するか属性を選択します。

- 編集可能にする属性が [属性] ポップアップメニューにある場合は、それを選択します。
- 編集可能にする属性が [属性] ポップアップメニューにない場合は、[追加] をクリックします。表示されるダイアログボックスで、追加する属性の名前を入力し、[OK] をクリックします。

4 [属性を編集可能にする] オプションが選択されていることを確認します。

5 [ラベル] ボックスに、属性の一意の名前を入力します。

編集可能なタグ属性を後から簡単に識別できるようにするには、エレメントと属性を識別するラベルを使用します。たとえば、ソースを編集できるイメージには、logoSrc というラベルを付けたり、body タグ内の編集可能な背景色には bodyBgcolor というラベルを付けたりします。

6 [タイプ] メニューで、以下のいずれかのオプションを設定し、この属性に許可する値のタイプを選択します。

- この属性にテキスト値を入力できるようにするには、[テキスト] を選択します。たとえば、align 属性にテキストを使用すると、ユーザーはこの属性の値を、[左]、[右]、または [中央] に設定することができます。
- イメージのファイルパスなど、エレメントにリンクを挿入するには、[URL] を選択します。このオプションを使用すると、リンクに使用されているパスが自動的に更新されます。ユーザーがイメージを新しいフォルダに移動すると、[リンクの更新] ダイアログボックスが表示されます。
- 値を選択する際にカラーピッカーを使用できるようにするには、[カラー] を選択します。
- イメージの高さや幅を変更する場合など、ユーザーが数値を入力して属性を更新できるようにするには、[数字] を選択します。

7 [初期設定値] ボックスに、選択したテンプレートのタグ属性値が表示されます。このボックスに新しい値を入力し、テンプレートから作成されたドキュメント内のパラメータに別の初期値を設定します。

8 (オプション) 選択したタグの別の属性を変更するには、属性を選択し、その属性のオプションを設定します。

9 [OK] をクリックします。

関連項目

394 ページの「テンプレートプロパティの修正」

編集可能なタグ属性を編集不能にする

編集可能として指定されていたタグを、編集不能にマークすることができます。

1 テンプレートドキュメントで、編集可能な属性に対応するエレメントをクリックするか、タグセレクタを使用してタグを選択します。

2 [修正]-[テンプレート]-[属性を編集可能にする] を選択します。

3 [属性] ポップアップメニューで、変更する属性を選択します。

4 [属性を編集可能にする] をオフにし、[OK] をクリックします。

5 テンプレートから作成されたドキュメントを更新します。

ネストされたテンプレートの作成

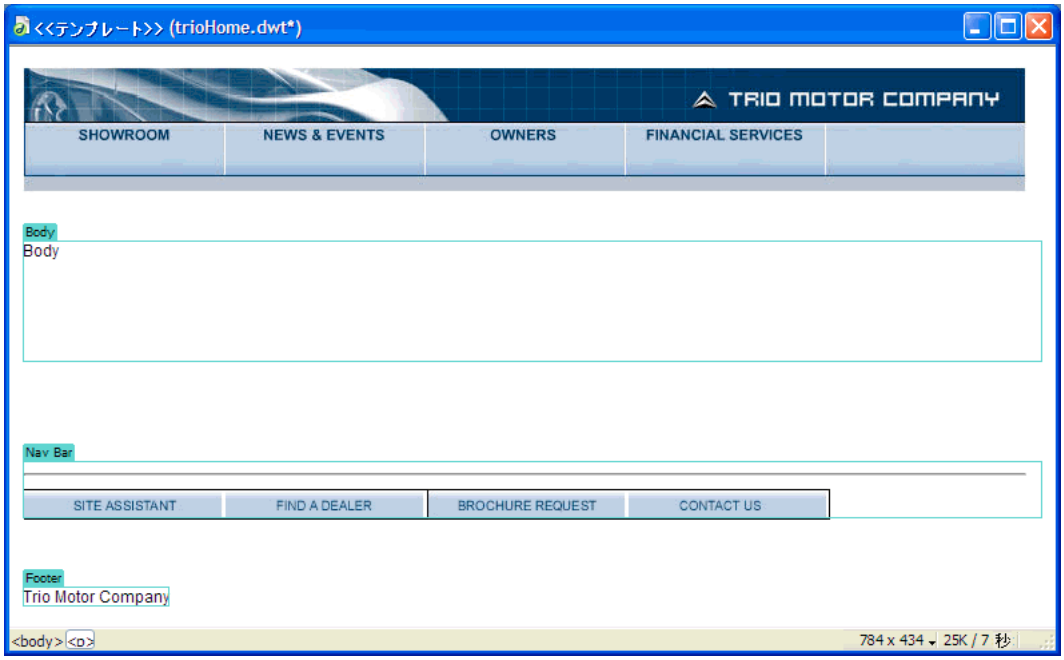
ネストされたテンプレートについて

ネストされたテンプレートは、デザインおよび編集可能領域が別のテンプレートを基に作成されているテンプレートです。ネストされたテンプレートは、サイト内の複数ページで多数のデザインエレメントが共有されているがページ間の違いが少ない場合に、コンテンツを制御するために便利です。たとえば、基本テンプレートでは、デザイン領域を広く定義し、サイトにコンテンツを提供する多数の製作者が利用できるようにします。一方、ネストされたテンプレートでは、サイト内の特定の部分用に編集可能領域をさらに定義します。

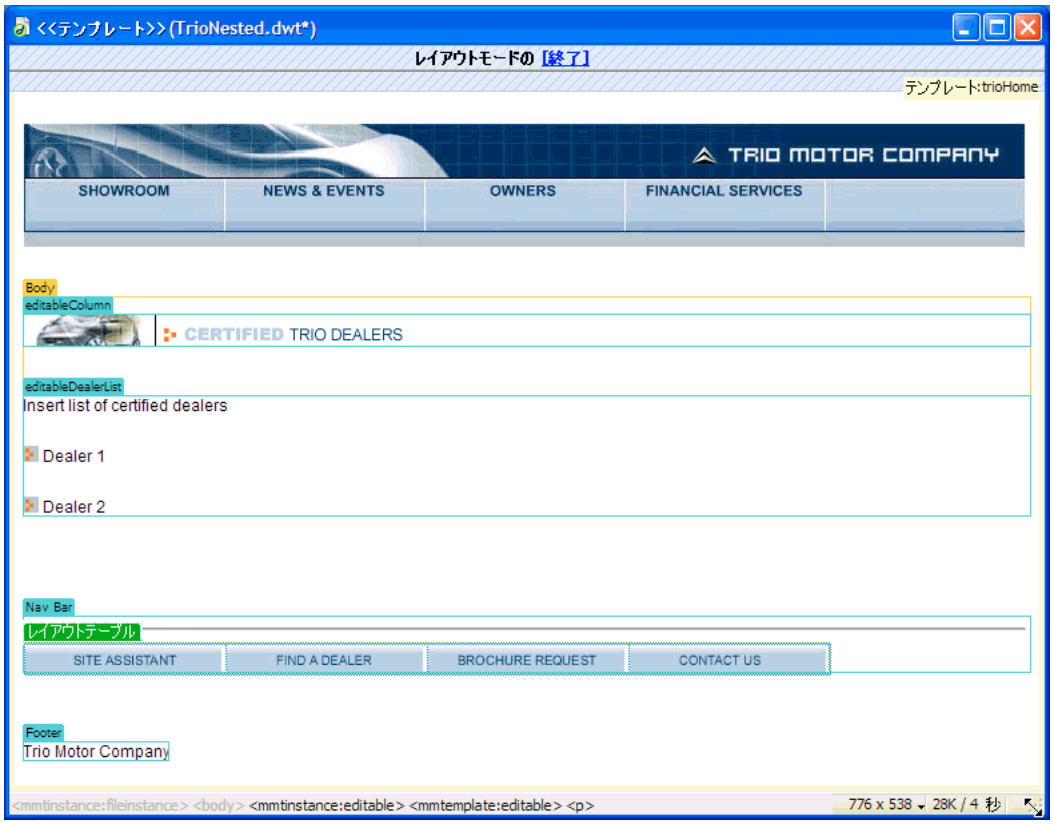
基本テンプレート内の編集可能領域はネストされたテンプレートに継承されます。それらの領域に新しいテンプレート領域が挿入されない限り、ネストされたテンプレートから作成されるページでも、編集可能なまま保持されます。

基本テンプレートに変更を加えると、基本テンプレートから作成されたテンプレートに自動的に反映されます。さらに、基本テンプレートとネストされたテンプレートから作成されたすべてのドキュメントに自動的に反映されます。

以下の例では、テンプレート *trioHome* に 3 つの編集可能領域があり、それぞれに Body、NavBar、Footer という名前が付けられています。



ネストされたテンプレートを作成するために、テンプレートを基に新規ドキュメントを作成します。それをテンプレートとして保存して、「TrioNested」という名前を付けました。ネストされたテンプレートの Body と名付けられた編集可能領域には、2 つの編集可能領域を追加しました。



ネストされたテンプレートに継承された編集可能領域に新しい編集可能領域を追加すると、編集可能領域のハイライト表示がオレンジ色に変わります。editableColumn のグラフィックなど、編集可能領域の外側に追加したコンテンツは、ネストされたテンプレートから作成されたドキュメントでは編集できなくなります。青でハイライト表示されている編集可能領域は、ネストされたテンプレートで追加された場合も、基本テンプレートから継承された場合も、ネストされたテンプレートから作成されたドキュメントで編集可能なまま維持されます。編集可能領域を挿入しなかったテンプレート領域は、テンプレートベースのドキュメントに編集可能領域として継承されます。

ネストされたテンプレートの作成

ネストされたテンプレートは、基本テンプレートのバリエーションです。複数のテンプレートをネストすれば、次々と特定のレイアウトを定義することができます。

初期設定では、基本テンプレートの編集可能なテンプレート領域はすべてネストされたテンプレートに継承され、さらにネストされたテンプレートを基に作成されるドキュメントに継承されます。つまり、基本テンプレートに編集可能領域を作成し、その後でネストされたテンプレートを作成すると、ネストされたテンプレートの編集可能領域に新しいテンプレート領域を挿入しない限り、その編集可能領域はネストされたテンプレートから作成されるドキュメントに表示されます。

注意：編集可能領域内にテンプレートマークアップを挿入し、ネストされたテンプレートから作成されるドキュメントに編集可能領域として継承されないようにすることができます。このような領域は、青のボーダーの代わりにオレンジ色のボーダーで表示されます。

1 以下のいずれかの操作を行って、ネストされたテンプレートの基となるテンプレートからドキュメントを作成します。

- [アセット] パネルの [テンプレート] カテゴリで、ドキュメントの基となるテンプレートを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、コンテキストメニューから [テンプレートから新規作成] を選択します。
- [ファイル]-[新規] を選択します。[新規ドキュメント] ダイアログボックスで、[ページをテンプレートに] カテゴリを選択し、使用するテンプレートが設定されているサイトを選択します。[テンプレート] リストでそのテンプレートをダブルクリックして、新規ドキュメントを作成します。

2 [ファイル]-[テンプレートとして保存] を選択して、新規ドキュメントをネストされたテンプレートとして保存します。

3 [保存先] ボックスに名前を入力し、[保存] をクリックします。

関連項目

371 ページの「テンプレートのサーバースクリプトおよびテンプレートから作成されたドキュメント」

ネストされたテンプレートへの編集可能領域継承の防止

ネストされたテンプレートでは、継承される編集可能領域は、青のボーダーで表示されます。編集可能領域内にテンプレートマークアップを挿入し、ネストされたテンプレートから作成されるドキュメントに編集可能領域として継承されないようにすることができます。このような領域は、青のボーダーの代わりにオレンジ色のボーダーで表示されます。

1 コードビューで、継承しない編集可能領域を選択します。

編集可能領域は、テンプレートコメントタグで定義されています。

2 編集可能領域 (コメントタグも含む) を以下のマーカーで囲みます。

```
@@("")@@
```

詳細については、Adobe の Web サイトに掲載されている TechNote 16416 (www.adobe.com/go/16416_jp) を参照してください。

テンプレートの編集、更新、および削除

テンプレートの編集と更新について

テンプレートを変更して保存すると、テンプレートから作成されたすべてのドキュメントが更新されます。必要に応じて、テンプレートから作成されたドキュメントまたはサイト全体を手動で更新することもできます。

注意：Contribute サイトのテンプレートを編集するには、Dreamweaver を使用する必要があります。Contribute サイトではテンプレートは編集できません。

テンプレートファイルの名前の変更やテンプレートファイルの削除など、既存のテンプレートの管理を行うには、[アセット] パネルの [テンプレート] カテゴリを使用します。

[アセット] パネルでは、次のテンプレート管理タスクを実行できます。

- テンプレートの作成
- テンプレートの編集と更新
- 既存のドキュメントでのテンプレートの適用または削除

Dreamweaver では、テンプレートを保存するときにテンプレートのシンタックスがチェックされますが、テンプレートを編集している間にテンプレートのシンタックスを手動でチェックすることをお勧めします。

関連項目

376 ページの「Dreamweaver テンプレートの作成」

397 ページの「テンプレートのシンタックスのチェック」

392 ページの「既存のドキュメントでのテンプレートの適用または削除」

テンプレート名の変更

1 [アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) で、パネルの左側にある [テンプレート] カテゴリを選択します。

2 テンプレートの名前をクリックして選択します。

3 名前をもう一度クリックすると、テキストが編集可能になり、新しい名前を入力できます。

この名前の変更方法は、Windows のエクスプローラまたは Macintosh の Finder でファイルの名前を変更する操作と同じです。Windows のエクスプローラおよび Macintosh の Finder 場合と同様に、必ず間をおいてクリックしてください。ダブルクリックはしないようにしてください。名前をダブルクリックすると、編集用にテンプレートが開いてしまいます。

4 [アセット] パネルの別の領域をクリックするか、Enter (Windows) または Return (Macintosh) キーを押して、変更を反映させます。

このテンプレートを基に作成されたドキュメントを更新するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 サイト内にある、このテンプレートを基に作成されたすべてのドキュメントを更新するには、[更新] をクリックします。このテンプレートを基に作成されたドキュメントを更新しない場合は、[更新しない] をクリックします。

関連項目

376 ページの「Dreamweaver テンプレートの作成」

392 ページの「既存のドキュメントでのテンプレートの適用または削除」

テンプレートを開いて編集

テンプレートを直接開いて編集したり、テンプレートから作成されたドキュメントを開いてから、そのドキュメントに添付されたテンプレートを開いて編集することができます。

テンプレートを変更すると、そのテンプレートから作成されたドキュメントを更新するよう要求されます。

注意：必要に応じて、テンプレートの変更に合わせてドキュメントを手動で更新することもできます。

関連項目

397 ページの「テンプレートのシンタックスのチェック」

テンプレートファイルを開いて編集

1 [アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) で、パネルの左側にある [テンプレート] カテゴリを選択します。

[アセット] パネルには、サイトで使用できるすべてのテンプレートが一覧表示され、選択したテンプレートのプレビューが表示されます。

2 使用できるテンプレートのリストで、以下のいずれかの操作を行います。

- 編集するテンプレートの名前をダブルクリックします。
- 編集するテンプレートを選択し、[アセット] パネルの下部にある [編集] ボタン をクリックします。

3 テンプレートのコンテンツを修正します。

テンプレートのページプロパティを修正するには、[修正]-[ページプロパティ] を選択します。テンプレートから作成されたドキュメントには、テンプレートのページプロパティが継承されます。

4 テンプレートを保存します。テンプレートから作成されたページを更新するよう要求されます。

5 変更したテンプレートから作成されたドキュメントすべてを更新するには [更新] をクリックします。変更したテンプレートから作成されたドキュメントを更新しない場合は、[更新しない] をクリックします。

Dreamweaver によって、更新されたファイルを示すログが表示されます。

現在のドキュメントに添付されているテンプレートを開いて修正

1 テンプレートから作成されたドキュメントをドキュメントウィンドウで開きます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [修正]-[テンプレート]-[添付テンプレートを開く] を選択します。
- 右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[テンプレート]-[添付テンプレートを開く] を選択します。

3 テンプレートのコンテンツを修正します。

テンプレートのページプロパティを修正するには、[修正]-[ページプロパティ] を選択します。テンプレートから作成されたドキュメントには、テンプレートのページプロパティが継承されます。

4 テンプレートを保存します。テンプレートから作成されたページを更新するよう要求されます。

5 変更したテンプレートから作成されたドキュメントすべてを更新するには [更新] をクリックします。変更したテンプレートから作成されたドキュメントを更新しない場合は、[更新しない] をクリックします。

Dreamweaver によって、更新されたファイルを示すログが表示されます。

テンプレートから作成されたドキュメントの手動更新

テンプレートを変更すると、そのテンプレートから作成されたドキュメントを更新するよう要求されますが、必要に応じて、現在のドキュメントまたはサイト全体を手動で更新することもできます。テンプレートから作成されたドキュメントの手動更新は、テンプレートを再度適用することと同じです。

テンプレートから作成された現在のドキュメントへのテンプレート変更の適用

1 ドキュメントをドキュメントウィンドウで開きます。

2 [修正]-[テンプレート]-[現在のページを更新] を選択します。

Dreamweaver によって、テンプレートの変更に合わせてドキュメントが更新されます。

指定したテンプレートが使用されているサイト全体またはすべてのドキュメントの更新

サイトのすべてのページを更新、または特定のテンプレートのページだけを更新することもできます。

1 [修正]-[テンプレート]-[サイト全体を更新] を選択します。

2 [更新場所] メニューで、以下のいずれかの操作を行います。

- 選択したサイトのすべてのファイルを対応するテンプレートの内容に更新するには、[サイト全体] を選択し、隣接するポップアップメニューからサイト名を選択します。
- 特定のテンプレートのファイルを更新するには、[次を含むファイル] を選択し、隣接するポップアップメニューからテンプレート名を選択します。

3 [更新] オプションで [テンプレート] が選択されていることを確認します。

4 Dreamweaver で更新されたファイルのログを参照しない場合は、[ログを表示] オプションをオフにします。参照する場合は、オプションをオンのままにします。

5 [開始] をクリックし、指定のファイルを更新します。[ログを表示] オプションを選択した場合は、正常に更新されたかどうかなど、更新対象ファイルに関する情報が表示されます。

6 [閉じる] をクリックします。

Contribute サイトでのテンプレートの更新

Contribute ユーザーは、Dreamweaver のテンプレートを変更できません。ただし、Dreamweaver を使用して、Contribute サイトのテンプレートを変更することはできます。

Contribute サイトでテンプレートを更新する際には、以下のことに注意してください。

- Contribute は、Contribute の起動時、および Contribute ユーザーによって接続情報が変更されたときにのみ、サイトから新しいテンプレートと変更されたテンプレートを取得します。テンプレートを変更する際に Contribute ユーザーがそのテンプレートをベースにしたファイルを編集中の場合、テンプレートに加えた変更は、Contribute を再起動するまでユーザーに表示されません。
- テンプレートから編集可能な領域を削除すると、そのテンプレートをベースにしたページを編集している Contribute ユーザーは、削除された領域にあったコンテンツをどう処理したらよいか混乱してしまう可能性があります。

Contribute サイトでテンプレートを更新するには、次の手順を実行します。

1 Dreamweaver で Contribute テンプレートを開き、編集してから保存します。手順については、「389 ページの「テンプレートを開いて編集」」を参照してください。

2 サイト上で作業している Contribute ユーザー全員に、Contribute を終了して再起動するように指示します。

テンプレートファイルの削除

1 [アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) で、パネルの左側にある [テンプレート] カテゴリを選択します。

2 テンプレートの名前をクリックして選択します。

3 パネルの下部にある [削除] ボタン をクリックし、そのテンプレートを削除することを確認します。

重要：テンプレートファイルを削除すると、再び取得することはできなくなります。テンプレートファイルがサイトから削除されます。

削除したテンプレートで作成されたドキュメントはテンプレートから切り離されないため、テンプレートファイルを削除する前の構造および編集可能領域がそのまま保持されます。このドキュメントは、編集可能領域やロックされている領域のない HTML ファイルに変換することができます。

関連項目

394 ページの「テンプレートからのドキュメントの切り離し」

392 ページの「既存のドキュメントでのテンプレートの適用または削除」

376 ページの「Dreamweaver テンプレートの作成」

テンプレートのコンテンツの書き出しと読み込み

テンプレート XML コンテンツについて

テンプレートから作成されたドキュメントには、名前と値のペアで表されるデータが含まれます。各ペアは編集可能領域の名前、および領域のコンテンツで構成されています。

これらの名前と値のペアを XML ファイルに書き出すことができるので、Dreamweaver 以外の、たとえば XML エディタ、テキストエディタ、データベースアプリケーションなどでデータを操作することができます。逆に、適切な構成の XML ドキュメントがある場合は、そのデータを Dreamweaver のテンプレートから作成されたドキュメントに読み込むことができます。

ドキュメントの編集可能領域の XML としての書き出し

1 編集可能領域を含む、テンプレートから作成されたドキュメントを開きます。

2 [ファイル]-[書き出し]-[テンプレートデータを XML として書き出し] を選択します。

3 [表記法] オプションの次のいずれかを選択します。

- テンプレートにリピート領域またはテンプレートパラメータが含まれる場合は、[標準 Dreamweaver XML タグを使用] を選択します。
- テンプレートにリピート領域またはテンプレートパラメータが含まれない場合は、[編集可能領域名を XML タグとして使用] を選択します。

4 [OK] をクリックします。

5 表示されるダイアログボックスで、フォルダを選択し、XML ファイルの名前を入力して [保存] をクリックします。

ドキュメントのパラメータと編集可能領域から取得されたマテリアルが含まれる XML ファイルが生成されます。これには、リピート領域またはオプション領域内の編集可能領域も含まれます。XML ファイルには、元のテンプレートの名前の他、それぞれのテンプレート領域の名前とコンテンツも含まれます。

注意：編集不能な領域のコンテンツは、XML ファイルに書き出されません。

XML コンテンツの読み込み

1 [ファイル]-[読み込み]-[XML をテンプレートに読み込み] を選択します。

2 XML ファイルを選択して、[開く] をクリックします。

Dreamweaver が、XML ファイルに指定されているテンプレートに基づいて新しいドキュメントを作成します。XML ファイルのデータから、それぞれの編集可能領域のコンテンツがドキュメントに入力されます。生成されたドキュメントが新しいドキュメントウィンドウに表示されます。

XML ファイルが Dreamweaver に対応するように正確に設定されていない場合は、データを読み込めないことがあります。この問題を解決する 1 つの方法として、正しい構成の XML ファイルを得るため、Dreamweaver からダミーの XML ファイルを書き出すという方法があります。次に、書き出された XML ファイルに元の XML ファイルのデータをコピーします。これによって、読み込むことのできる適切なデータが含まれた、正しい構成の XML ファイルが生成されます。

テンプレートマークアップを省略したサイトの書き出し

テンプレートマークアップを省略して、サイト内のテンプレートから作成されたドキュメントを別のサイトに書き出すことができます。

1 [修正]-[テンプレート]-[マークアップを省略して書き出し] を選択します。

2 [フォルダ] ボックスで、ファイルの書き出し先となるフォルダのファイルパスを入力するか、または [参照] をクリックしてフォルダを選択します。

注意：現在のサイト外のフォルダを選択する必要があります。

3 書き出したテンプレートから作成されたドキュメントを XML として保存する場合は、[テンプレートデータファイルを保持] を選択します。

4 既に書き出したファイルに行った変更を更新する場合は、[変更したファイルのみを抽出] を選択し、[OK] をクリックします。

既存のドキュメントでのテンプレートの適用または削除

既存のドキュメントへのテンプレートの適用

既にコンテンツがあるドキュメントにテンプレートを適用する場合、Dreamweaver は既存のコンテンツとテンプレートの領域を可能な限り一致させます。既存のテンプレートを修正したものを適用する場合、通常は名前が一致します。

テンプレートが適用されていないドキュメントにテンプレートを適用すると、比較する編集可能領域がないため、不一致が発生します。Dreamweaver では、これらの不一致を記録しているため、現在のページにあるコンテンツの移動先となる領域の選択や、一致しないコンテンツの削除が行えます。

[アセット] パネルまたはドキュメントウィンドウを使用して、テンプレートを既存のドキュメントに適用できます。テンプレートの適用は、必要に応じて元に戻すこともできます。

重要：既存のドキュメントにテンプレートを適用すると、そのドキュメントのコンテンツがテンプレートのひな形のコンテンツに置き換えられます。必ずページのコンテンツをバックアップしてから、ドキュメントにテンプレートを適用してください。

[アセット] パネルを使用した既存ドキュメントへのテンプレートの適用

1 テンプレートを適用するドキュメントを開きます。

2 [アセット] パネル ([ウィンドウ]-[アセット]) で、パネルの左側にある [テンプレート] カテゴリを選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- 適用するテンプレートを [アセット] パネルからドキュメントウィンドウにドラッグします。
- 適用するテンプレートを選択し、[アセット] パネルの下部にある [適用] ボタンをクリックします。

テンプレート領域に自動的に割り当てることができないコンテンツがドキュメントにある場合、[領域名の不一致] ダイアログボックスが表示されます。

4 [コンテンツを新しい領域に移動] メニューを使用してコンテンツの移動先を選択し、以下のいずれかを選択します。

- 既存のコンテンツの移動先となる新規テンプレート内の領域を選択します。
- [なし] を選択して、ドキュメントからコンテンツを削除します。

5 選択した領域に未解決のコンテンツをすべて移動するには、[すべてに使用] をクリックします。

6 [OK] をクリックしてテンプレートを適用するか、または [キャンセル] をクリックしてテンプレートのドキュメントへの適用をキャンセルします。

重要：既存のドキュメントにテンプレートを適用すると、そのドキュメントのコンテンツがテンプレートのひな形のコンテンツに置き換えられます。必ずページのコンテンツをバックアップしてから、ドキュメントにテンプレートを適用してください。

ドキュメントウィンドウから既存のドキュメントへのテンプレートの適用

1 テンプレートを適用するドキュメントを開きます。

2 [修正]-[テンプレート]-[テンプレートをページに適用] を選択します。

[テンプレートの選択] ダイアログボックスが表示されます。

3 リストからテンプレートを選択し、[選択] をクリックします。

テンプレート領域に自動的に割り当てることができないコンテンツがドキュメントにある場合、[領域名の不一致] ダイアログボックスが表示されます。

4 [コンテンツを新しい領域に移動] メニューを使用してコンテンツの移動先を選択し、以下のいずれかを選択します。

- 既存のコンテンツの移動先となる新規テンプレート内の領域を選択します。
- [なし] を選択して、ドキュメントからコンテンツを削除します。

5 選択した領域に未解決のコンテンツをすべて移動するには、[すべてに使用] をクリックします。

6 [OK] をクリックしてテンプレートを適用するか、または [キャンセル] をクリックしてテンプレートのドキュメントへの適用をキャンセルします。

重要：既存のドキュメントにテンプレートを適用すると、そのドキュメントのコンテンツがテンプレートのひな形のコンテンツに置き換えられます。必ずページのコンテンツをバックアップしてから、ドキュメントにテンプレートを適用してください。

テンプレートの変更の取り消し

❖ [編集]-[取り消し テンプレートの適用] を選択します。

これにより、テンプレートを適用する前の状態にドキュメントを戻すことができます。

テンプレートからのドキュメントの切り離し

テンプレートから作成されたドキュメントのロックされている領域を変更するには、テンプレートからドキュメントを切り離す必要があります。ドキュメントを切り離すと、ドキュメント全体が編集可能になります。

1 切り離すテンプレートから作成されたドキュメントを開きます。

2 [修正]-[テンプレート]-[テンプレートから切り離す] を選択します。

ドキュメントがテンプレートから切り離され、すべてのテンプレートコードが削除されます。

テンプレートから作成されたドキュメントのコンテンツの編集

テンプレートから作成されたドキュメントのコンテンツの編集について

Dreamweaver テンプレートは、テンプレートから作成されたドキュメントに対して、編集不能なロックされた領域と編集可能な領域を指定します。

テンプレートから作成されたページ内で、テンプレートユーザーが編集できるのは、編集可能領域内にあるコンテンツのみです。編集可能領域を簡単に識別し、選択してコンテンツを編集することができます。テンプレートユーザーは、ロックされている領域にあるコンテンツは編集できません。

注意：ハイライト表示されていないときに、テンプレートから作成されたドキュメントのロックされている領域を編集しようとすると、マウスポインタが変化して、ロックされている領域をクリックできないことを示します。

テンプレートユーザーは、テンプレートから作成されたドキュメントで、プロパティの修正およびリピート領域の編集を行うこともできます。

関連項目

69 ページの「既存のテンプレートに基づくページの作成」

369 ページの「Dreamweaver テンプレートについて」

379 ページの「編集可能領域の選択」

テンプレートプロパティの修正

テンプレートの作成者がテンプレートにパラメータを作成すると、そのテンプレートから作成されたドキュメントに、パラメータとその初期値が自動的に継承されます。テンプレートユーザーは、編集可能なタグ属性や、オプション領域設定などのテンプレートパラメータを更新することができます。

関連項目

371 ページの「テンプレートパラメータ」

382 ページの「オプション領域の使用」

384 ページの「編集可能なタグ属性の定義」

編集可能なタグ属性の修正

1 テンプレートから作成されたドキュメントを開きます。

2 [修正]-[テンプレートプロパティ] を選択します。

[テンプレートプロパティ] ダイアログボックスが開き、使用できるプロパティのリストが表示されます。このダイアログボックスには、オプション領域および編集可能タグ属性が表示されます。

3 [名前] リストでプロパティを選択します。

ダイアログボックスの下部の領域が更新され、選択したプロパティのラベルと割り当てられている値が表示されます。

4 プロパティラベルの右側のフィールドで値を編集し、ドキュメントのプロパティを修正します。

注意：フィールド名と更新可能な値は、テンプレートに定義されています。[名前] リストに表示されない属性は、テンプレートから作成されたドキュメントに使用できない属性です。

5 ネストされたテンプレートから作成されたドキュメントに編集可能なプロパティを継承する場合は、[ネストされたテンプレートによる制御を許可] をオンにします。

オプション領域のテンプレートパラメータの修正

1 テンプレートから作成されたドキュメントを開きます。

2 [修正]-[テンプレートプロパティ] を選択します。

[テンプレートプロパティ] ダイアログボックスが開き、使用できるプロパティのリストが表示されます。このダイアログボックスには、オプション領域および編集可能タグ属性が表示されます。

3 [名前] リストでプロパティを選択します。

ダイアログボックスが更新され、選択したプロパティのラベルと割り当てられている値が表示されます。

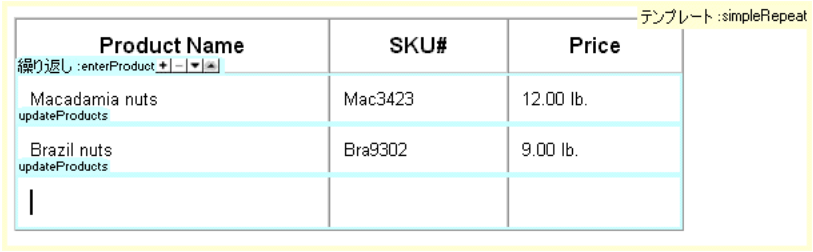
4 [表示] をオンにしてドキュメントにオプション領域を表示するか、またはオフにしてオプション領域を非表示にします。

注意：このフィールド名と初期設定は、テンプレートで定義されています。

5 ネストされたテンプレートから作成されたドキュメントに編集可能なプロパティを継承する場合は、[ネストされたテンプレートによる制御を許可] をオンにします。

リピート領域エントリの追加、削除、および順序の変更

リピート領域のコントロールを使用して、テンプレートから作成されたドキュメントでのエントリの追加、削除、または順序の変更を行います。リピート領域のエントリを追加すると、リピート領域全体のコピーが追加されます。リピート領域のコンテンツを更新するには、元のテンプレートのリピート領域に編集可能領域が挿入されている必要があります。



関連項目

380 ページの「リピート領域の作成」

リピート領域の追加、削除、または順序の変更

1 テンプレートから作成されたドキュメントを開きます。

2 リピート領域に挿入ポイントを置いて選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- [+] ボタンをクリックして、現在選択しているリピート領域エントリの下にエントリを追加します。
- [-] ボタンをクリックして、選択したリピート領域エントリを削除します。

- 下矢印ボタンをクリックして、選択したエントリを 1 つ下の位置に移動します。
- 上矢印ボタンをクリックして、選択したエントリを 1 つ上の位置に移動します。

注意：または、[修正]-[テンプレート] を選択し、コンテキストメニューの下部付近にあるリピートエントリオプションのいずれかを選択することもできます。このメニューは、新しいリピートエントリの追加や、選択したエントリの位置の移動にも使用できます。

エントリのカット、コピー、および削除

1 テンプレートから作成されたドキュメントを開きます。

2 リピート領域に挿入ポイントを置いて選択します。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- リピートエントリをカットするには、[編集]-[リピートエントリ]-[リピートエントリのカット] を選択します。
- リピートエントリをコピーするには、[編集]-[リピートエントリ]-[リピートエントリのコピー] を選択します。
- リピートエントリを削除するには、[編集]-[リピートエントリ]-[リピートエントリの削除] を選択します。
- リピートエントリをペーストするには、[編集]-[ペースト] を選択します。

注意：ペーストすると、新しいエントリが挿入されます。既存のエントリが置き換えられることはありません。

テンプレートのシンタックス

一般的なシンタックスルール

Dreamweaver では、HTML コメントタグを使用して、テンプレートとテンプレートから作成されたドキュメントの領域を定義します。このため、テンプレートから作成されたドキュメントも有効な HTML ファイルになります。テンプレートオブジェクトを挿入すると、テンプレートタグがコードに挿入されます。

一般的なシンタックスルールを以下に示します。

- スペースがある位置には、いずれも任意の数のスペース、タブ、改行などのホワイトスペースを代入できます。ホワイトスペースはコメントの先頭と末尾を除き必須です。
- 属性は任意の順序で指定できます。たとえば、TemplateParam では、名前の前にタイプを指定することができます。
- コメントおよび属性名は、大文字と小文字が区別されます。
- 属性はすべて引用符で囲む必要があります。一重または二重引用符を使用できます。

テンプレートタグ

Dreamweaver では、以下のテンプレートタグが使用されます。

```
<!-- TemplateBeginEditable name="..." -->
<!-- TemplateEndEditable -->
<!-- TemplateParam name="..." type="..." value="..." -->
<!-- TemplateBeginRepeat name="..." -->
<!-- TemplateEndRepeat -->
<!-- TemplateBeginIf cond="..." -->
<!-- TemplateEndIf -->
<!-- TemplateBeginPassthroughIf cond="..." -->
<!-- TemplateEndPassthroughIf -->
<!-- TemplateBeginMultipleIf -->
<!-- TemplateEndMultipleIf -->
<!-- TemplateBeginPassthroughMultipleIf -->
<!-- TemplateEndPassthroughMultipleIf -->
<!-- TemplateBeginIfClause cond="..." -->
<!-- TemplateEndIfClause -->
<!-- TemplateBeginPassthroughIfClause cond="..." -->
<!-- TemplateEndPassthroughIfClause -->
<!-- TemplateExpr expr="..." --> (equivalent to @@...@@)
<!-- TemplatePassthroughExpr expr="..." -->
<!-- TemplateInfo codeOutsideHTMLIsLocked="..." -->
```

インスタンスタグ

Dreamweaver では、以下のインスタンスタグが使用されます。

```
<!-- InstanceBegin template="..." codeOutsideHTMLIsLocked="..." -->
<!-- InstanceEnd -->
<!-- InstanceBeginEditable name="..." -->
<!-- InstanceEndEditable -->
<!-- InstanceParam name="..." type="..." value="..." passthrough="..." -->
<!-- InstanceBeginRepeat name="..." -->
<!-- InstanceEndRepeat -->
<!-- InstanceBeginRepeatEntry -->
<!-- InstanceEndRepeatEntry -->
```

テンプレートのシンタックスのチェック

Dreamweaver では、テンプレートを保存するときにテンプレートのシンタックスがチェックされますが、テンプレートを保存する前にテンプレートのシンタックスを手動でチェックすることもできます。たとえば、コードビューでテンプレートパラメータやテンプレート式を追加する場合などに、コードのシンタックスが正しいか確認できます。

1 ドキュメントウィンドウでチェックするドキュメントを開きます。

2 [修正]-[テンプレート]-[テンプレートシンタックスのチェック] を選択します。

シンタックスの書式が不適切な場合は、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージには、エラーの他、エラーがあるコード行が示されます。

関連項目

374 ページの「テンプレートおよびテンプレートから作成されたドキュメントの認識」

372 ページの「テンプレート式」

テンプレートのオーサリング環境の設定

テンプレートのコードカラーリング環境設定のカスタマイズ

コードカラーリング環境設定は、コードビューに表示されるテキストの色、背景色、およびスタイル属性を制御します。独自のカラースキームを設定すると、コードビューにドキュメントを表示したときに、テンプレート領域を見分けやすくなります。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストから [コードカラーリング] を選択します。

3 [ドキュメントタイプ] リストから [HTML] を選択し、[カラーリングスキームの編集] ボタンをクリックします。

4 [スタイル] リストで [テンプレートタグ] を選択します。

5 以下の操作を行って、コードビューのテキストの色、背景色、およびスタイル属性を設定します。

- 選択したテキストの色を変更する場合は、適用する色を [テキストカラー] ボックスに 16 進数値で入力するか、またはカラーピッカーから選択します。選択したテキストの既存の背景色に色を追加、または色を変更する場合は、[背景色] フィールドで同じ操作を行います。
- 選択したコードにスタイル属性を追加する場合は、[B] (ボールド)、[I] (イタリック)、または [U] (アンダーライン) ボタンをクリックして、目的のフォーマットを設定します。

6 [OK] をクリックします。

注意：環境設定全体を変更する場合は、環境設定が格納されているソースファイルを編集します。このファイルは、C:¥Documents and Settings¥%username%¥Application Data¥Adobe¥Dreamweaver 9¥Configuration¥CodeColoring¥Colors.xml にあります (Windows)。

テンプレート領域のハイライト表示の環境設定

Dreamweaver のハイライト表示の環境設定では、デザインビューに表示されるテンプレートの編集可能領域やロックされている領域のアウトラインに使用するハイライトカラーをカスタマイズできます。編集可能領域の色は、テンプレートだけでなく、そのテンプレートから作成されるドキュメントにも表示されます。

関連項目

375 ページの「デザインビューでのテンプレートから作成されたドキュメントの認識」

374 ページの「デザインビューのテンプレートの認識」

テンプレートのハイライトカラーの変更

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストで [ハイライト] を選択します。

3 [編集可能領域]、[ネストされた編集可能領域]、または [ロックされた領域] カラーボックスをクリックし、カラーピッカーを使用してハイライトカラーを選択します。または、ボックスにハイライトカラーの 16 進数値を入力します。

カラーピッカーの詳細については、「213 ページの「カラーピッカーの使用」」を参照してください。

4 (オプション) 必要に応じて、その他のテンプレート領域のタイプに対してもこの手順を繰り返します。

5 [表示] オプションをクリックして、ドキュメントウィンドウでのこれらのカラーの表示 / 非表示を切り替えます。

注意：[ネストされた編集可能領域] には [表示] オプションはありません。この領域の表示は、[編集可能領域] オプションで制御します。

6 [OK] をクリックします。

ドキュメントウィンドウでのハイライトカラーの表示

❖ [表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。

[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] が有効になっており、[ハイライト] 環境設定で適切なオプションが選択されている場合にのみ、ハイライトカラーがドキュメントウィンドウに表示されます。

注意：不可視エレメントが表示されているにもかかわらずハイライトカラーが表示されていない場合は、[編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択し、[ハイライト] カテゴリを選択します。該当するハイライトカラーの横にある [表示] オプションが選択されていることを確認します。さらに、ページの背景色に対して、目的の色が見分けられることを確認します

第 15 章：XML データの表示

Adobe® Dreamweaver® CS3 には、Web ページに XML (Extensible Markup Language) データを表示し、クライアントまたはサーバー上で XSLT (Extensible Stylesheet Language Transformations) を実行するページを作成するツールが用意されています。

XML および XSLT について

Web ページで XML と XSL を使用する

XML (Extensible Markup Language) は、情報を構造化するための言語です。HTML と同様に、XML ではタグを使用して情報を構造化することができますが、XML タグは、HTML タグとは異なり、事前に定義されていません。その代わりに、XML では、自分のデータ構造 (スキーマ) に適したタグを作成できます。タグの中にタグをネストして、親タグと子タグのスキーマを作成します。大半の HTML タグと同様に、XML スキーマのすべてのタグには開始タグと終了タグがあります。

次の例では、XML ファイルの基本構造を示します。

```
<?xml version="1.0">
<mybooks>
    <book bookid="1">
        <pubdate>03/01/2004</pubdate>
        <title>Displaying XML Data with Adobe Dreamweaver</title>
        <author>Charles Brown</author>
    </book>
    <book bookid="2">
        <pubdate>04/08/2004</pubdate>
        <title>Understanding XML</title>
        <author>John Thompson</author>
    </book>
</mybooks>
```

この例では、各親 <book> タグには 3 つの子タグ、<pubdate>、<title>、および <author> があります。同時に、各 <book> タグは、スキーマの 1 レベル上位にある <mybooks> タグの子タグでもあります。XML タグは、タグのネストが適切であり、開始タグと終了タグが対応している限り、自由に名前を付けて構造化することができます。

XML ドキュメントには書式は含まれません。構造化された情報が含まれるだけです。XML スキーマを作成した後は、XSL (Extensible Stylesheet Language) を使用して情報を表示することができます。CSS で HTML をフォーマットするように、XSL で XML データをフォーマットします。XSL ファイルでスタイル、ページエレメント、レイアウトなどを定義して、それを XML ファイルに適用すると、ユーザーが XML データをブラウザに表示するときに、XSL ファイルで定義した内容に基づいてデータがフォーマットされるようになります。コンテンツ (XML データ) とプレゼンテーション (XSL ファイルで定義したもの) は完全に分離されており、Web ページに情報を表示する際に自由な表現が可能になります。本質的に XSL は、HTML ページが基本的な出力である XML のプレゼンテーションテクノロジーです。

XSLT (Extensible Stylesheet Language Transformations) は XSL のサブセット言語であり、XML データを実際に Web ページに表示し、XSL スタイルを使用して読みやすく整えられた HTML 形式に「変換」します。Dreamweaver を使用すると、アプリケーションサーバーやブラウザを使用した XSL の変換が実行できる XSLT ページを作成できます。サーバーサイド XSL 変換では、サーバーで XML と XSL の変換が実行され、ページに表示されます。クライアントサイド変換では、ブラウザ (Internet Explorer など) で処理されます。

最終的に使用する方法 (サーバーサイド変換またはクライアントサイド変換) は、最終的に求めている結果、利用可能なテクノロジー、XML ソースファイルへのアクセスレベルなどの要因によって決まります。いずれの方法にも、それぞれの利点と限界があります。たとえば、サーバーサイド変換はすべてのブラウザで機能しますが、クライアントサイド変換が機能するのは最近のブラウザ (Internet Explorer 6、Netscape 8、Mozilla 1.8、および Firefox 1.0.2) だけです。サーバーサイド変換では、自分のサーバーや Web 上の他の場所にある XML データを動的に表示することができますが、ク

ライアントサイド変換では、自分の Web サーバーにあるローカルの XML データを使用する必要があります。最後に、サーバーサイド変換では、設定済みのアプリケーションサーバーにページを配置する必要がありますが、クライアントサイド変換で必要なのは Web サーバーへのアクセスだけです。

XML に関するチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0165_jp を参照してください。

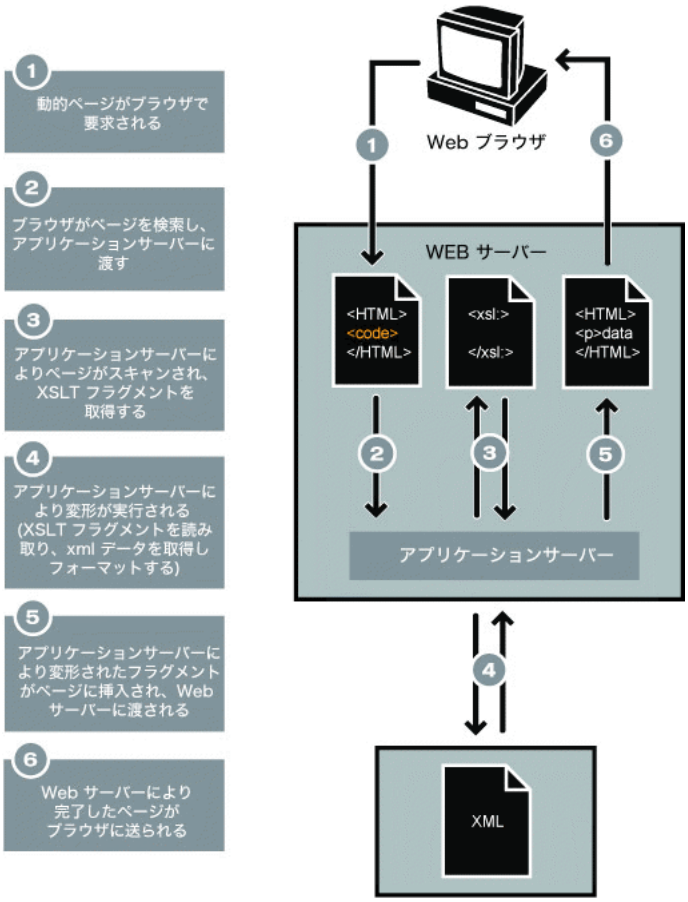
サーバーサイド XSL 変換

Dreamweaver では、サーバーサイド XSL 変換が実行できる XSLT ページを作成できます。アプリケーションサーバーが XSL 変換を実行する場合、XML データを含むファイルは、ユーザー独自のサーバーまたは Web 上の任意の場所に配置できます。さらに、変換されたデータは任意のブラウザで表示できます。ただし、サーバーサイド変換でのページの配置はやや複雑であり、アプリケーションサーバーにアクセスできることが条件になります。

サーバーサイド XSL 変換を使用すると、Dreamweaver を使用して完全な HTML ドキュメント (XSLT ページ全体) を生成する XSLT ページ、または HTML ドキュメントの一部を生成する XSLT フラグメントを作成できます。XSLT ページ全体は一般の HTML ページと似ています。<body> タグと <head> タグがあり、HTML データと XML データを組み合わせてページに表示できます。XSLT フラグメントは、XML データをフォーマットして表示するためのコードの集まりで、別のドキュメントによって使用されます。これは、完全な XSLT ページとは異なる独立したファイルで、<body> タグや <head> タグは含まれません。XML データを独自のページに表示する場合は、XSLT ページ全体を作成して、そのページに XML データをバインドします。一方、XML データを既存の動的ページの特定のセクションに表示する場合 (たとえば、スポーツ用品店の動的ページの左側に RSS フィードからのスポーツ競技の得点を表示する場合) は、XSLT フラグメントを作成して、そのフラグメントへの参照を動的ページに挿入します。XSLT フラグメントを作成し、他の動的ページと共にそのフラグメントを使用することは、より一般的な手順です。

こうした種類のページを作成する最初の手順は、XSLT フラグメントを作成することです。これは、動的ページで最終的に表示する XML データのレイアウトやフォーマットなどが含まれた別個のファイルです。XSLT フラグメントを作成したら、そのフラグメントへの参照を動的ページ (PHP ページや ColdFusion ページなど) に挿入します。挿入したフラグメントへの参照は、サーバーサイドインクルード (SSI) と同じような機能を持ちます。フォーマットされた XML データ (

フラグメント) は別のファイルに存在し、デザインビューでは、フラグメントのプレースホルダーが動的ページに表示されます。フラグメントへの参照のある動的ページがブラウザで要求されると、サーバーで命令が実行され、プレースホルダーの代わりに、フラグメントのフォーマットされたコンテンツが表示される新しいドキュメントが作成されます。



XSLT フラグメントへの参照を動的ページに挿入するには、XSL 変換サーバービヘイビアを使用します。参照を挿入すると、Dreamweaver により、ランタイムライブラリファイルが格納された "includes/MM_XSLTransform/" フォルダが、サイトのルートフォルダに生成されます。アプリケーションサーバーは、指定された XML データを変換するときに、このファイルに定義されている関数を使用します。このファイルは、XML データと XSLT フラグメントを取得し、XSL 変換を実行して、結果を Web ページに出力します。

ページを正しく表示するには、XSLT フラグメントを含むファイル、データを含む XML ファイル、および生成されたランタイムライブラリファイルは、すべてサーバー上にある必要があります。データソースとしてリモート XML ファイル (RSS フィードのファイルなど) を選択した場合、そのファイルはインターネット上の他の場所にある必要があります。

Dreamweaver により、サーバーサイド変換で使用する XSLT ページ全体を作成することもできます。XSLT ページ全体が XSLT フラグメントとまったく同じように動作するのは、XSL 変換サーバービヘイビアを使って XSLT ページ全体への参照を挿入し、HTML ページの完全なコンテンツを挿入するときだけです。そのため、動的ページ (コンテナページとして動作する .cfm、.php、.asp、または .net ページ) では、参照を挿入する前にすべての HTML をクリアしておく必要があります。

Dreamweaver は、ColdFusion、ASP、ASP.NET、PHP の各ページの XSL 変換をサポートしています。

注意：サーバーは、サーバーサイド変換を実行するように正しく設定しておく必要があります。詳細については、サーバー管理者に確認するか、www.adobe.com/go/dw_xsl_jp を参照してください。

関連項目

407 ページの「サーバーでの XSL 変換の実行」

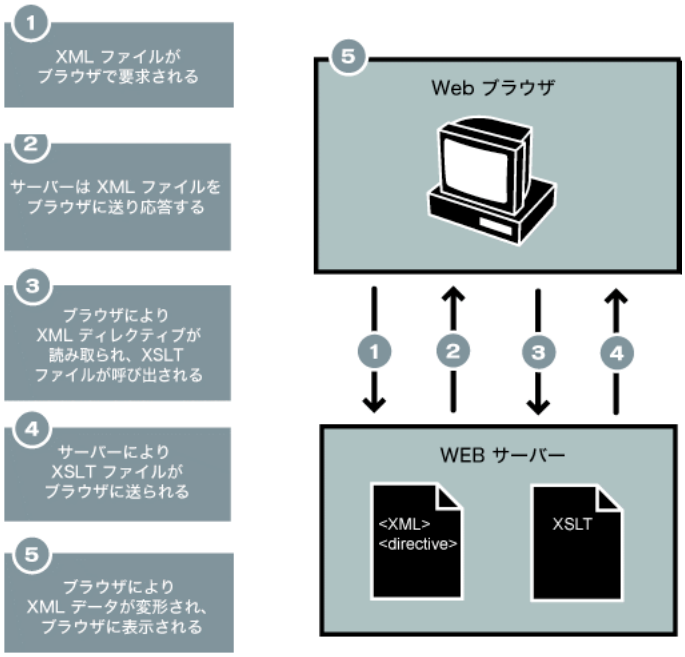
クライアントサイド XSL 変換

アプリケーションサーバーを使用せずに、クライアントで XSL 変換を実行することができます。Dreamweaver を使用して、XSL 変換を実行する XSLT ページ全体を作成できますが、クライアントサイド変換では、表示データが含まれる XML ファイルを操作する必要があります。さらに、クライアントサイド変換は、最新のブラウザ (Internet Explorer 6、Netscape 8、Mozilla 1.8、および Firefox 1.0.2) のみで動作します。XSL 変換をサポートするブラウザとサポートしないブラウザの詳細については、www.w3schools.com/xsl/xsl_browsers.asp を参照してください。

まず、XSLT ページ全体を作成して XML データソースを適用します (新規ページを作成する際に、Dreamweaver によってデータソースの適用が要求されます)。最初から XSLT ページを作成するか、既存の HTML ページを XSLT ページに変換することができます。既存の HTML ページを XSLT ページに変換するときは、[バイディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) を使用して、XML データを適用する必要があります。

XSLT ページを作成したら、XSLT ページへの参照を XML ファイルに挿入し、XML データを含む XML ファイルに XSLT ページをリンクする必要があります。これは、HTML ページの <head> セクションに外部 CSS スタイルシートへの参照を挿入するのと同様です。サイトのビジターは、ブラウザで、XSLT ページではなく XML ファイルを表示する必要があります。サイトのビジターがページを表示すると、ブラウザで XSL 変換が実行され、リンクされた XSLT ページによってフォーマットされた XML データが表示されます。

リンクされた XSLT ページと XML ページの関係は、外部 CSS/HTML ページモデルと似ていますが、実際には異なります。テキストなどのコンテンツを含む HTML ページがある場合は、外部スタイルシートを使ってコンテンツをフォーマットします。HTML ページによってコンテンツが決まり、ユーザーには表示されない外部 CSS コードによって表示が決まります。XSLT および XML の場合、状況は逆になります。ユーザーにはそのままの形式で表示されない XML ファイルによってコンテンツが決まり、XSLT ページによって表示が決まります。XSLT ページには、通常は標準の HTML に含まれる、テーブル、レイアウト、グラフィックなどが含まれます。ユーザーがブラウザで XML ファイルを表示すると、XSLT ページによってコンテンツがフォーマットされます。



Dreamweaver を使用して XSLT ページを XML ページにリンクすると、Dreamweaver により XML ページの先頭に適切なコードが挿入されます。リンク先の XML ページを自分が所有している場合 (つまり XML ファイルが自分の Web サーバー上に排他的に存在する場合)、Dreamweaver を使用して、2 つのページをリンクする適切なコードを挿入するだけで済みます。XML ファイルを所有している場合、クライアントによって実行される XSL 変換は完全に動的になります。つまり、XML ファイルでデータを更新するたびに、リンクされた XSLT ページを使用する HTML 出力は、新しい情報で自動的に更新されます。

注意：クライアントサイド変換に使用する XML ファイルと XSL ファイルは、同じディレクトリにある必要があります。同じディレクトリにない場合、ブラウザは XML ファイルを読み取り、変換する XSLT ページを見つけますが、XSLT ページに相対リンクで定義されているアセット (スタイルシートやイメージなど) を見つけることができません。

リンク先の XML ページを自分が所有していない場合 (たとえば、Web 上の RSS フィードからの XML データを使用する場合)、ワークフローは少し複雑になります。外部ソースからの XML データを使ってクライアントサイド変換を実行する場合は、最初に、XSLT ページが存在するディレクトリに XML ソースファイルをダウンロードする必要があります。XML ページをローカルサイトにダウンロードしたら、Dreamweaver を使用して、そのページを XSLT ページにリンクする適切なコードを追加し、両方のページ (ダウンロードした XML ファイルおよびリンク先の XSLT ページ) を Web サーバーにポストできます。ユーザーがブラウザで XML ページを表示すると、XSLT ページによって前述のようにコンテンツがフォーマットされます。

外部ソースからの XML データでクライアントサイド XSL 変換を実行する上での短所は、XML データが部分的にしか " 動的 " にならないということです。ダウンロードして変更する XML ファイルは、Web 上の他の場所にあるファイルの " スナップショット " にすぎません。Web 上にある元の XML ファイルが変更された場合は、ファイルを再度ダウンロードし、そのファイルを XSLT ページにリンクして、Web サーバーにファイルを再ポストする必要があります。ブラウザは、元の XML ソースファイルに含まれたデータではなく、Web サーバー上の XML ファイルから受信したデータを表示するのみです。

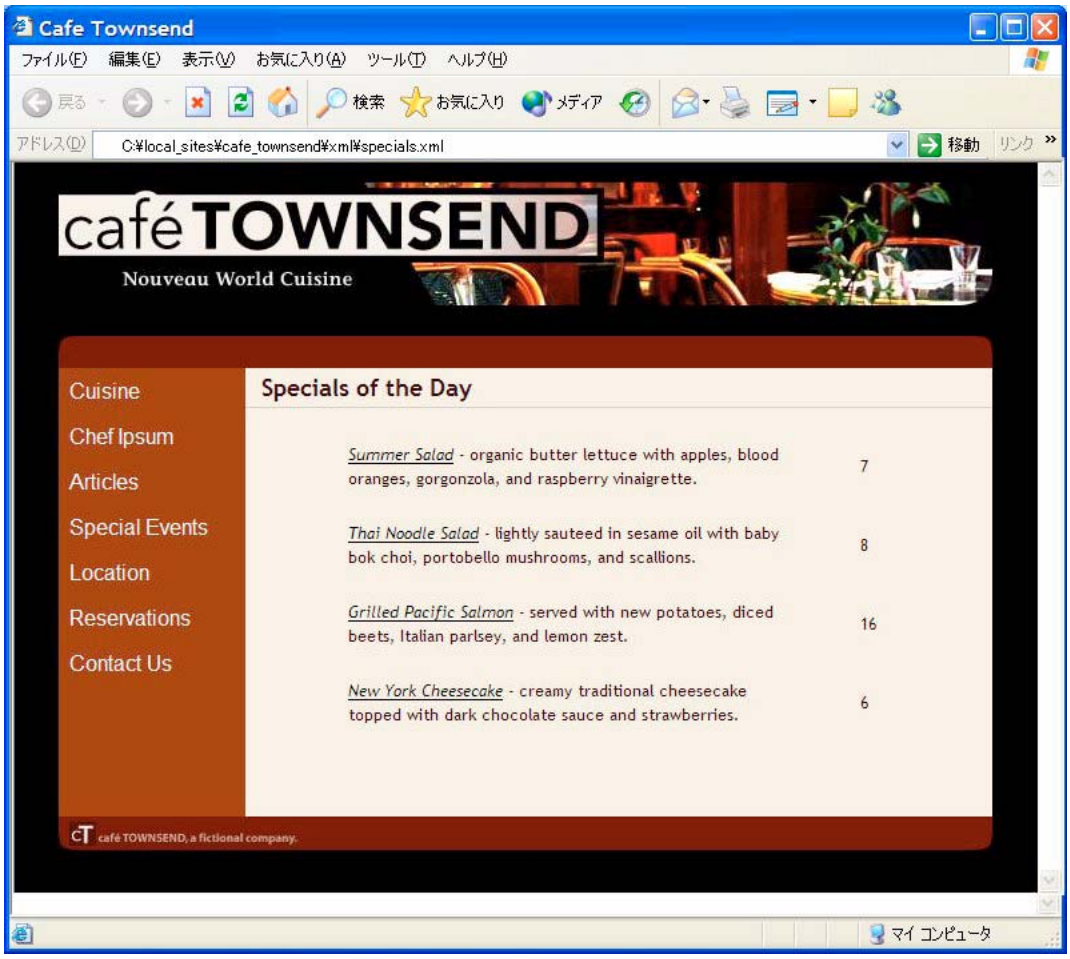
関連項目

423 ページの「クライアントでの XSL 変換の実行」

XML データと繰り返しエレメント

リピート領域 XSLT オブジェクトを使用すると、XML ファイルの繰り返しエレメントをページ内に表示できます。XML データプレースホルダーが含まれる領域は、リピート領域に変換することができます。ただし、通常はテーブル、テーブル行、または複数のテーブル行などをリピート領域にします。

次の例では、レストランのメニューを表示するテーブル行にリピート領域 XSLT オブジェクトを適用する方法を示します。最初の行は、XML スキーマの 3 つの異なるエレメントであるアイテム、説明、価格を表示します。リピート領域 XSLT オブジェクトがテーブル行に適用され、ページがアプリケーションサーバーまたはブラウザで処理されると、新しい各テーブルに一意のデータが挿入されてテーブル行が繰り返されます。



リピート領域 XSLT オブジェクトをドキュメントウィンドウでエレメントに適用すると、リピート領域は薄いグレーの枠線で囲まれます。上記の図のように、ブラウザでプレビューすると ([ファイル]-[ブラウザでプレビュー])、グレーの枠線が消え、選択範囲が拡張されて、XML ファイルにある指定した繰り返しエレメントが表示されます。

リピート領域 XSLT オブジェクトをページに追加すると、ドキュメントウィンドウの XML データプレースホルダーの長さが切り捨てられます。これは、繰り返しエレメントのパスを基準にした相対パスになるように、Dreamweaver では XML データプレースホルダーの XPath (XML Path Language) 式が更新されるためです。

たとえば、次のコードは、テーブルにリピート領域 XSLT オブジェクトを適用せずに、2 つの動的プレースホルダーを含むテーブルを対象にしています。

```
<table width="500" border="1">
    <tr>
        <td><xsl:value-of select="rss/channel/item/title"/></td>
    </tr>
    <tr>
        <td><xsl:value-of select="rss/channel/item/description"/></td>
    </tr>
</table>
```

次のコードは、リピート領域 XSLT オブジェクトを適用した同じテーブルを対象としています。

```
<xsl:for-each select="rss/channel/item">
    <table width="500" border="1">
        <tr>
            <td><xsl:value-of select="title"/></td>
        </tr>
        <tr>
            <td><xsl:value-of select="description"/></td>
        </tr>
    </table>
</xsl:for-each>
```

前述の例では、Dreamweaver により、完全なドキュメントではなく、<xsl:for-each> タグ間の XPath に対して相対的なリピート領域 (title および description) 内にある項目の XPath が更新されました。

その他の状況でも、Dreamweaver によってコンテキスト相対 XPath 式が生成されます。たとえば、既にリピート領域 XSLT オブジェクトが適用されたテーブルに XML データプレースホルダーをドラッグすると、Dreamweaver により、<xsl:for-each> タグ内にある既存の XPath に対して相対的な XPath が自動的に表示されます。

関連項目

411 ページの「繰り返し XML エレメントを表示する」

XML データをプレビューする

[ブラウザでプレビュー] ([ファイル]-[ブラウザでプレビュー]) を使用して、XSLT フラグメントまたは XSLT ページ全体に挿入した XML データをプレビューする際に、XSL 変換を実行するエンジンは状況によって異なります。XSLT フラグメントを含む動的ページに対しては、アプリケーションサーバーが常に変換を実行します。Dreamweaver またはブラウザによって変換が実行される場合もあります。

次の表では、[ブラウザでプレビュー] を使用する状況と、変換を実行するエンジンを示します。

ブラウザでプレビューするページのタイプ	データ変換を実行するエンジン
XSLT フラグメントを含む動的ページ	アプリケーションサーバー
XSLT フラグメントまたは XSLT ページ全体	Dreamweaver
XSLT ページ全体へのリンクが設定された XML ファイル	ブラウザ

以下のトピックでは、ニーズに応じて適切なプレビュー方法を判断するためのガイドラインを示します。

サーバーサイド変換のためのページのプレビュー

サーバーサイド変換の場合、最終的にサイトのビジターに表示されるコンテンツは、アプリケーションサーバーによって変換されます。サーバーサイド変換で使用する XSLT および動的ページを作成するときは、XSLT フラグメントそのものではなく、XSLT フラグメントを含む動的ページをプレビューすることを常にお勧めします。前の例では、ビジターに表示されるページとプレビューとの一貫性を保つために、アプリケーションサーバーを使用しました。後の例では、Dreamweaver によって変換を実行しましたが、結果に若干の不整合が生ずる可能性がありました。Dreamweaver により、作成中に XSLT フラグメントをプレビューできますが、XSLT フラグメントを挿入した後にアプリケーションサーバーを使用して動的ページをプレビューすると、データ表示の最も正確な結果を取得できます。

クライアントサイド変換のためのページのプレビュー

クライアントサイド変換の場合、最終的にサイトのビジターに表示されるコンテンツは、ブラウザによって変換されます。このためには、XML ファイルから XSLT ページにリンクを追加します。Dreamweaver で XML ファイルを開き、ブラウザでプレビューすると、ブラウザで強制的に XML ファイルが読み込まれ、変換されます。これにより、サイトのビジターと同じ体験をすることができます。

ただし、この方法を使用すると、ブラウザにより XML が変換され、HTML が内部的に生成されるため、ページのデバッグが困難になります。ブラウザのソースを表示するオプションを選択して、生成された HTML をデバッグする場合、ページを表示する完全な HTML (タグ、スタイルなど) ではなく、ブラウザが受け取った元の XML のみが表示されます。ソースコードを表示するときに完全な HTML を表示するには、代わりにブラウザで XSLT ページをプレビューする必要があります。

XSLT ページ全体と XSLT フラグメントのプレビュー

XSLT ページ全体と XSLT フラグメントを作成するときは、作業をプレビューして、データが正しく表示されるかどうか確認することをお勧めします。[ブラウザでプレビュー] を使用して XSLT ページ全体または XSLT フラグメントを表示する場合、Dreamweaver では組み込み変換エンジンを使って変換が実行されます。この方法により、素早く結果を得て、ページの作成とデバッグを徐々に行うのが簡単になります。また、ブラウザでソースを表示するオプションを選択することで、完全な HTML (タグ、スタイルなど) を表示する方法が得られます。

注意：このプレビュー方法は、クライアントとサーバーのどちらを使用してデータを変換するかに関係なく、XSLT ページの作成を開始するときに一般的に使用されます。

サーバーでの XSL 変換の実行

サーバーサイド XSL 変換を実行するためのワークフロー

サーバーサイド XSL 変換はサーバーで実行できます。XML データを表示するページを作成する前に、サーバーサイドおよびクライアントサイド XSL 変換と、Web ページでの XML および XSL の使用を確認してください。

注意：サーバーは、サーバーサイド変換を実行するように正しく設定しておく必要があります。詳細については、サーバー管理者に確認するか、www.adobe.com/go/dw_xsl_jp を参照してください。

サーバーサイド XSL 変換を実行する一般的なワークフローは、次のとおりです。各手順については別のトピックで説明します。

1. Dreamweaver サイトを設定します。

2. サーバーテクノロジーを選択し、アプリケーションサーバーを設定します。

3. アプリケーションサーバーをテストします。

たとえば、処理が必要なページを作成し、そのページがアプリケーションサーバーによって処理されることを確認します。この方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/dw_xsl_jp を参照してください。

4. XSLT フラグメントまたはページを作成するか、HTML ページを XSLT ページに変換します。

- Dreamweaver サイトに、XSLT フラグメントまたは XSLT ページ全体を作成します。
- 既存の HTML ページを XSLT ページ全体に変換します。

5. XML データソースをページに適用します。

6. データを XSLT フラグメントまたは XSLT ページ全体にバインドすることで、XML データを表示します。

7. 必要に応じて、XML データプレースホルダーを含むテーブルまたはテーブル行にリピート領域 XSLT オブジェクトを追加します。

8. 参照を挿入します。

- XSLT フラグメントへの参照を動的ページに挿入するには、XSL 変換サーバービヘイビアを使用します。
- XSLT ページ全体への参照を動的ページに挿入するには、動的ページからすべての HTML コードを削除してから、XSL 変換サーバービヘイビアを使用します。

9. ページとフラグメントをポストします。

動的ページと XSLT フラグメント (または XSLT ページ全体) の両方をアプリケーションサーバーにポストします。ローカルの XML ファイルを使用している場合は、そのファイルもポストする必要があります。

10. 動的ページをブラウザに表示します。

動的ページをブラウザに表示すると、アプリケーションサーバーによって XML データが変換され、動的ページに挿入されて、ブラウザに表示されます。

関連項目

37 ページの「Dreamweaver サイトの設定」

475 ページの「アプリケーションサーバーの選択」

400 ページの「Web ページで XML と XSL を使用する」

403 ページの「クライアントサイド XSL 変換」

401 ページの「サーバーサイド XSL 変換」

XSLT ページを作成する

XML データを Web ページに表示するための XSLT ページを作成できます。<body> タグと <head> タグが含まれる完全な XSLT ページを作成するか、XSLT フラグメントを作成します。XSLT フラグメントを作成すると、body タグや head タグのない、後で動的ページに挿入されるコードの集まりから成る独立したファイルが作成されます。

注意 : 既存の XSLT ページを使用して作成する場合、XML データソースをページに適用する必要があります。

1 [ファイル]-[新規] を選択します。

2 [新規ドキュメント] ダイアログボックスの [空白ページ] カテゴリにあるページタイプ列から、次のいずれかを選択します。

- XSLT ページ全体を作成する場合、[XSLT (Entire page)] を選択します。
- XSLT フラグメントを作成する場合、[XSLT (Fragment)] を選択します。

3 [作成] をクリックし、[XML ソースの指定] ダイアログボックスで次のいずれかの操作を実行します。

- [コンピュータまたはローカルエリアネットワークにローカルファイルを添付] を選択し、[参照] ボタンをクリックしてコンピュータ上にあるローカル XML ファイルを参照し、[OK] をクリックします。
- [インターネット上のリモートファイルを添付] を選択し、インターネット上にある XML ファイル (RSS フィードのファイルなど) の URL を入力して [OK] をクリックします。

注意 : [キャンセル] ボタンをクリックすると、XML データソースが関連付けられていない、新しい XSLT ページが生成されます。

[バインディング] パネルに、XML データソースのスキーマの値が取り込まれます。

次の表では、スキーマで表示される可能性のあるさまざまなエレメントについて説明します。

エレメント	表す内容	詳細
<>	必須の非繰り返し XML エレメント	親ノード内に 1 回のみ表示されるエレメント
<>+	繰り返し XML エレメント	親ノード内に 1 回以上表示されるエレメント
<>+	オプションの XML エレメント	親ノード内で 0 回以上表示されるエレメント
太字のエレメントノード	現在のコンテキストエレメント	挿入ポイントがリピート領域内にある場合、通常は繰り返しエレメント
@	XML 属性	

4 新しいページを .xsl または .xslt (デフォルトは .xsl) という拡張子で保存します ([ファイル]-[保存])。

HTML ページを XSLT ページに変換する

既存の HTML ページを XSLT ページに変換することができます。たとえば、XML データを追加したい、あらかじめデザインされた静的ページがある場合、XSLT ページを作成し、最初からページを再デザインする代わりに、そのページを XSLT ページに変換できます。

1 変換する HTML ページを開きます。

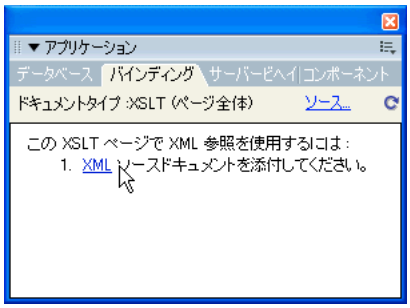
2 [ファイル]-[変換]-[XSLT 1.0] を選択します。

ページのコピーがドキュメントウィンドウで開きます。この新しいページは XSL スタイルシートであり、.xsl 拡張子を付けて保存されます。

XML データソースを適用する

既存の XSLT ページから開始する場合や、Dreamweaver を使用して新しい XSLT ページを作成する際に XML データソースを適用しない場合は、[バインディング] パネルを使用して XML データソースを適用する必要があります。

1 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [XML] リンクをクリックします。



注意：[バインディング] パネルの右上隅にある [ソース] リンクをクリックして、XML データソースを追加することもできます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- [コンピュータまたはローカルエリアネットワークにローカルファイルを添付] を選択し、[参照] ボタンをクリックしてコンピュータ上にあるローカル XML ファイルを参照し、[OK] をクリックします。
- [インターネット上のリモートファイルを添付] を選択し、インターネット上にある XML ファイル (RSS フィードのファイルなど) の URL を入力します。

3 [OK] をクリックして [XML ソースの指定] ダイアログボックスを閉じます。

[バインディング] パネルに、XML データソースのスキーマの値が取り込まれます。

XSLT ページで XML データを表示する

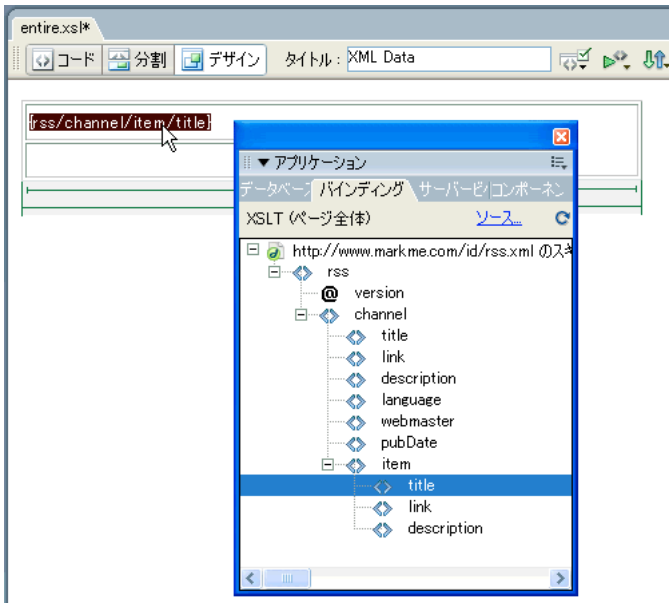
XSLT ページを作成し、XML データソースを適用したら、データをページにバインドできます。そのためには、ページに XML データプレースホルダーを追加し、XPATH 式ビルダーまたはプロパティインスペクタを使用して、ページに表示される選択したデータをフォーマットします。

1 適用した XML データソースと共に XSLT ページを開きます。

2 (オプション) [挿入]-[テーブル] を選択し、テーブルをページに追加します。テーブルを使用して XML データを整理します。

注意：一般的には、リピート領域 XSLT オブジェクトを使用して、繰り返し XML エレメントを 1 ページに表示します。その場合は、列が 1 列以上ある 1 行のテーブルを作成するか、テーブルヘッダを含める場合は 2 行のテーブルを作成します。

3 [バインディング] パネルで XML エレメントを選択し、ページのデータ挿入位置までドラッグします。



XML データプレースホルダーがページに表示されます。プレースホルダーがハイライト表示され、波カッコで囲まれます。ここでは、XML スキーマの階層構造を表すために、XPath (XML Path Language) のシンタックスが使用されます。たとえば、子エレメント *title* をページにドラッグし、そのエレメントに親エレメント *rss*、*channel*、*item* がある場合、動的コンテンツプレースホルダーのシンタックスは {rss/channel/item/title} となります。

ページで XML データプレースホルダーをダブルクリックし、XPATH 式ビルダーを開きます。XPATH 式ビルダーを使用すると、選択したデータをフォーマットするか、XML スキーマから他のアイテムを選択できます。

4 (オプション) XML データプレースホルダーを選択し、プロパティインスペクタや [CSS スタイル] パネルを使用して他のコンテンツと同じようにスタイルを追加すると、XML データにスタイルを適用できます。また、デザインタイムスタイルシートを使用して XSLT フラグメントにスタイルを追加することもできます。これらの方法には、いずれも利点と制限事項があります。

5 作業結果をブラウザでプレビューします ([ファイル]-[ブラウザでプレビュー])。

注意 : [ブラウザでプレビュー] でプレビューすると、Dreamweaver ではアプリケーションサーバーを使用することなく、内部 XSL 変換が実行されます。

関連項目

406 ページの「XML データをプレビューする」

169 ページの「テーブルを使用したコンテンツの表示」

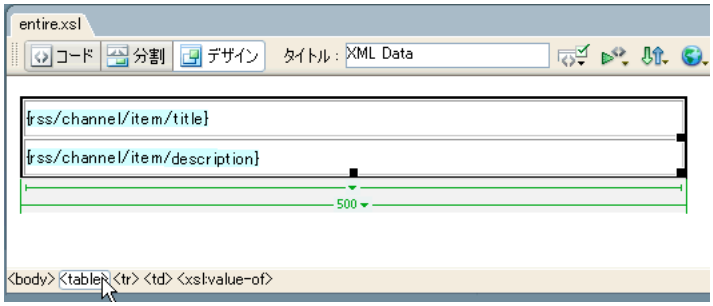
繰り返し XML エレメントを表示する

リピート領域 XSLT オブジェクトを使用すると、XML データソースの繰り返しエレメントを Web ページに表示できます。たとえば、ニュースフィードにある記事のタイトルと説明を表示する場合で、そのニュースフィードに 10 ～ 20 の記事があるときは、多くの場合、XML ファイル内の各タイトルと記事内容は繰り返しエレメントの子エレメントです。

XML データプレースホルダーが含まれるデザインビューの領域は、リピート領域に変更することができます。ただし、通常はテーブル、テーブル行、または複数のテーブル行などをリピート領域にします。

1 デザインビューで、XML データプレースホルダーが含まれる領域を選択します。

テーブル、テーブルの行、テキストの段落など、任意の領域を選択できます。

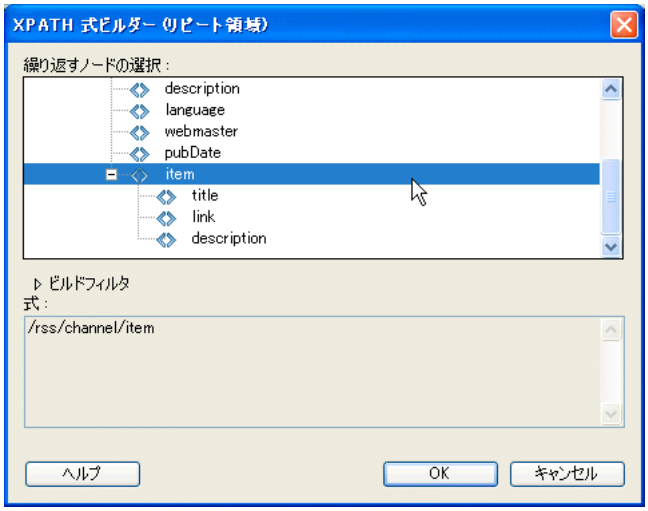


ページの領域を正確に選択するには、ドキュメントウィンドウの左下隅にあるタグセレクタを使用します。たとえば、領域がテーブルである場合は、ページにあるテーブルの内側をクリックし、タグセレクタでタグをクリックします。

2 以下のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[XSLT オブジェクト]-[リピート領域] を選択します。
- [挿入] バーの [XSLT] カテゴリで、[リピート領域] ボタンをクリックします。

3 XPATH 式ビルダーで、小さいプラス (+) 記号で表されている繰り返しエレメントを選択します。



4 [OK] をクリックします。

ドキュメントウィンドウでは、リピート領域は薄いグレーの枠線で囲まれます。ブラウザでプレビューすると ([ファイル]-[ブラウザでプレビュー])、グレーの枠線が消え、選択範囲が拡張されて、XML ファイルにある指定した繰り返しエレメントが表示されます。

リピート領域 XSLT オブジェクトをページに追加すると、ドキュメントウィンドウの XML データプレースホルダーが切り捨てられます。これは、繰り返しエレメントのパスを基準にした相対パスになるように、Dreamweaver では XML データプレースホルダーの XPath が切り捨てられるためです。

関連項目

419 ページの「XPATH 式ビルダーを使用して XML データの式を追加する」

404 ページの「XML データと繰り返しエレメント」

リピート領域 (XSL) プロパティを設定する

プロパティインスペクタで別の XML ノードを選択し、リピート領域を作成することができます。

❖ [選択] ボックスに新しいノードを入力して稲妻アイコンをクリックし、表示される XML スキーマツリーからノードを選択します。

リピート領域 XSLT オブジェクトを編集する

リピート領域 XSLT オブジェクトを領域に追加した後は、プロパティインスペクタを使用して編集できます。

1 リピート領域を囲むグレーのタブをクリックしてオブジェクトを選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[選択] テキストフィールドの横にある動的アイコンをクリックします。

3 XPATH 式ビルダーで変更を行い、[OK] をクリックします。

動的ページに XSLT フラグメントを挿入する

XSLT フラグメントを作成した後は、XSL 変換サーバービヘイビアを使用して動的 Web ページに挿入できます。サーバービヘイビアをページに追加してブラウザでページを表示すると、選択した XSLT フラグメントの XML データを表示するための変換がアプリケーションサーバーで実行されます。Dreamweaver は、ColdFusion、ASP、ASP.NET、PHP の各ページの XSL 変換をサポートしています。

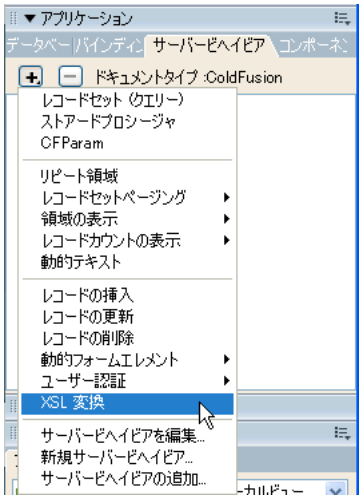
注意：XSLT ページ全体のコンテンツを動的ページに挿入する場合の手順はまったく同じです。XSL 変換サーバービヘイビアを使用して XSLT ページ全体を挿入する前に、動的ページからすべての HTML コードを削除します。

1 既存の ColdFusion、ASP、ASP.NET、または PHP ページを開きます。

2 デザインビューで、XSLT フラグメントを挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

注意：XSLT フラグメントを挿入する際は、ページに挿入ポイントを置いたら必ず [コードビューおよびデザインビューの表示] をクリックして、挿入ポイントが正しい位置にあることを確認します。正しい位置にない場合は、コードビューの他の場所をクリックして挿入ポイントを目的の位置に合わせます。

3 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で、[+] ボタンをクリックし、[XSL 変換] を選択します。



4 [XSL 変換] ダイアログボックスで [参照] ボタンをクリックし、XSLT フラグメントまたは XSLT ページ全体を参照します。

Dreamweaver により次のテキストフィールドに、指定したフラグメントに適用されている XML ファイルのファイルパスと URL が入力されます。これを変更するには、[参照] ボタンをクリックして別のファイルを参照します。

5 (省略可能) [+] ボタンをクリックして、XSLT パラメータを追加します。

6 [OK] をクリックして、XSLT フラグメントへの参照をページに挿入します。このフラグメントは編集できません。フラグメントを編集するには、フラグメントをダブルクリックしてフラグメントのソースファイルを開きます。

ランタイムライブラリファイルを含むサイトのルートフォルダに、includes/MM_XSLTransform/ フォルダも作成されます。アプリケーションサーバーは、このファイルに定義された関数を使用して変換を実行します。

7 動的ページをサーバーにアップロード ([サイト]-[PUT]) し、[はい] をクリックして依存ファイルを含めます。ページを正しく表示するには、XSLT フラグメントを含むファイル、データを含む XML ファイル、および生成されたランタイムライブラリファイルは、すべてサーバー上にある必要があります。データソースとしてリモート XML ファイルを選択した場合、そのファイルはインターネット上の他の場所にある必要があります。

関連項目

408 ページの「XSLT ページを作成する」

401 ページの「サーバーサイド XSL 変換」

動的ページで XSLT フラグメントを削除する

ページから XSLT フラグメントを削除するには、フラグメントを挿入するのに使用した XSL 変換サーバービヘイビアを削除します。サーバービヘイビアを削除しても、XSLT フラグメントだけが削除され、関連付けられている XML ファイル、XSLT ファイル、またはランタイムライブラリファイルは削除されません。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で、削除する XSL 変換サーバービヘイビアを選択します。

2 [-] ボタンをクリックします。

注意：必ずこの方法を使用してサーバービヘイビアを削除する必要があります。生成されたコードを手動で削除すると、[サーバービヘイビア] パネルにサーバービヘイビアが表示されない場合でも、サーバービヘイビアの一部は削除されずに残ったままになります。

XSL 変換サーバービヘイビアを編集する

XSLT フラグメントを動的 Web ページに追加した後は、XSL 変換サーバービヘイビアを随時編集することができます。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で、編集する XSL 変換サーバービヘイビアをダブルクリックします。

2 変更を加え、[OK] をクリックします。

動的リンクの作成

XSLT ページには、ユーザーが XML データ内の指定された単語または語句をクリックすると特定の URL にリンクする動的リンクを作成できます。具体的な手順については、www.adobe.com/support/documentation/jp/dreamweaver/ で Dreamweaver の正誤表を参照してください。

XSLT フラグメントへのスタイルの適用

完全な XSLT ページ (<body> タグと <head> タグを含む XSLT ページ) を作成する場合は、XML データをページに表示し、プロパティインスペクタまたは [CSS スタイル] パネルを使用して、他のコンテンツと同じようにデータをフォーマットできます。ただし、動的ページに挿入する XSLT フラグメント (たとえば、SP、PHP、Cold Fusion ページに挿入するフラグメント) を作成する場合は、フラグメントのスタイルと動的ページのスタイルの表示が複雑になります。動的ページとは個別に XSLT フラグメントを操作できますが、フラグメントが動的ページ内で使用されること、および XSLT フラグメントの出力は最終的には動的ページの <body> タグ内に置かれるということに注意してください。このワークフローでは、<head> エレメント (スタイル定義や外部スタイルシートのリンクなど) が XSLT フラグメントに含まれていないことを確認してください。これらのエレメントが含まれていると、アプリケーションサーバーによってエレメントがダイナミックページの <body> に配置され、無効なマークアップが生成されます。

たとえば、動的ページに挿入する XSLT フラグメントを作成し、動的ページと同じ外部スタイルシートを使用してフラグメントをフォーマットするとします。このスタイルシートをフラグメントに関連付ける場合、結果の HTML ページには、スタイルシートへの重複したリンク (動的ページの <head> セクションに 1 つと、XSLT フラグメントのコンテンツが表示されるページの <body> セクションに 1 つ) が設定されます。この方法の代わりに、デザインタイムスタイルシートを使用して外部スタイルシートを参照します。

XSLT フラグメントのコンテンツをフォーマットするには、次のワークフローを使用します。

- まず、動的ページに外部スタイルシートを適用します。これは、どのような Web ページのコンテンツにスタイルを割り当てる場合でも最適な方法です。
- 次に、同じ外部スタイルシートを XSLT フラグメントにデザインタイムスタイルシートとして適用します。名前が表すとおり、デザインタイムスタイルシートは Dreamweaver のデザインビューでのみ機能します。

前の 2 つの手順を完了した後は、動的ページに適用したのと同じスタイルシートを使用して、XSLT フラグメントで新しいスタイルを作成できます。スタイルシートへの参照は Dreamweaver での作業中に限り有効なため、HTML 出力はより簡潔なものになり、フラグメントによってデザインビューに適切なスタイルが表示されます。さらに、すべてのスタイルは、デザインビューで動的ページを表示するか、ブラウザで動的ページをプレビューするときに、フラグメントと動的ページの両方に適用されます。

注意：XSLT フラグメントをブラウザでプレビューしても、ブラウザではスタイルは表示されません。動的ページをブラウザでプレビューして、動的ページのコンテキスト内で XSLT フラグメントを表示してください。

CSS を使用して XSLT フラグメントをフォーマットする方法については、www.adobe.com/go/dw_xsl_styles_jp を参照してください。

関連項目

137 ページの「デザインタイムスタイルシートの使用」

XSL 変換でパラメータを使用する

XSL 変換サーバービヘイビアを Web ページに追加するとき、XSL 変換のパラメータを定義できます。パラメータにより、XML データの処理方法と表示方法が決まります。たとえば、ニュースフィードの特定の記事を指定して一覧表示するパラメータを使用することができます。ページがブラウザに読み込まれると、パラメータで指定した記事だけが表示されます。

XSLT パラメータを XSL 変換に追加する

1 [XSL 変換] ダイアログボックスを開きます。そのためには、[サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で XSL 変換サーバービヘイビアをダブルクリックするか、新規の XSL 変換サーバービヘイビアを追加します。

2 [XSL 変換] ダイアログボックスで、XSLT パラメータの横にある [+] ボタンをクリックします。

3 [パラメータの追加] ダイアログボックスの [名前] ボックスに、パラメータの名前を入力します。名前にはアルファベットだけが使用できます。スペースは使用できません。

4 次のいずれかの操作を実行します。

- 静的な値を使用するには、[値] ボックスに入力します。

- 動的な値を使用する場合は、[値] ボックスの横にある動的アイコンをクリックし、[動的データ] ダイアログボックスに入力して [OK] をクリックします。詳細については、[動的データ] ダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

5 [初期設定値] ボックスから、ページでランタイム値が受信されない場合に使用するパラメータの値を入力して [OK] をクリックします。

XSLT パラメータを編集する

1 [XSL 変換] ダイアログボックスを開きます。そのためには、[サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で XSL 変換サーバービヘイビアをダブルクリックするか、新規の XSL 変換サーバービヘイビアを追加します。

2 XSLT パラメータリストからパラメータを選択します。

3 [編集] ボタンをクリックします。

4 変更を加え、[OK] をクリックします。

XSLT パラメータを削除する

1 [XSL 変換] ダイアログボックスを開きます。そのためには、[サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で XSL 変換サーバービヘイビアをダブルクリックするか、新規の XSL 変換サーバービヘイビアを追加します。

2 XSLT パラメータリストからパラメータを選択します。

3 [-] ボタンをクリックします。

条件 XSLT 領域を作成および編集する

XSLT ページに簡単な条件領域または複数の条件領域を作成することができます。デザインビューでエレメントを選択して選択範囲に条件領域を適用するか、ドキュメントで挿入ポイントのある任意の場所に条件領域を挿入できます。

たとえば、アイテムが入手できない場合に、そのアイテムの価格の横に " ご利用できません " と表示するときは、ページで「ご利用できません」と入力し、そのテキストを選択して、選択したテキストに条件領域を適用します。Dreamweaver によって選択範囲が <xsl:if> タグで囲まれ、データが条件式の条件に一致する場合のみ、このテキストがページに表示されます。

条件 XSLT 領域を適用する

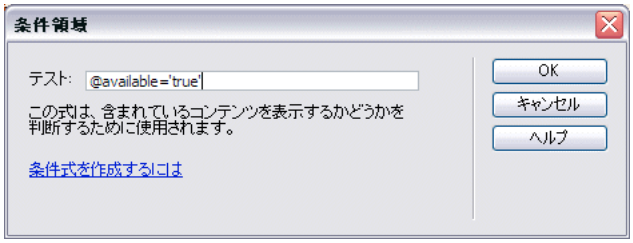
XSLT ページに挿入する単純な条件式を作成できます。[条件領域] ダイアログボックスを開いたときにコンテンツが選択されている場合、そのコンテンツは <xsl:if> ブロックによって囲まれます。コンテンツが選択されていない場合は、ページの挿入ポイントに <xsl:if> ブロックが追加されます。最初にこのダイアログボックスを使って式を作成し、次にコードビューで式をカスタマイズすることをお勧めします。

<xsl:if> エレメントは、他の言語の if ステートメントに似ています。このエレメントにより、条件をテストし、その結果に基づいて操作を実行することができます。<xsl:if> エレメントを使用すると、単一の true または false 値の式をテストできます。

1 [挿入]-[XSLT オブジェクト]-[条件領域] を選択するか、[挿入] バーの XLST カテゴリにある [条件領域] アイコンをクリックします。

2 [条件領域] ダイアログボックスに、領域に使用する条件式を入力します。

次の例では、コンテキストノードの @available 属性が true であるかどうかをテストします。



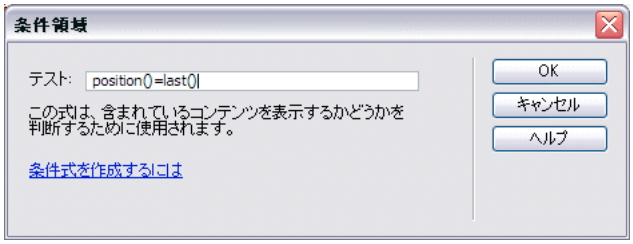
3 [OK] をクリックします。

次のコードが XSLT ページに挿入されます。

```
<xsl:if test="@available=&apos;true&apos;">
    Content goes here
</xsl:if>
```

注意：true などのストリング値は、二重引用符で囲む必要があります。 Dreamweaver によって二重引用符がエンコードされ (')、有効な XHTML として入力されます。

値についてノードをテストすることに加えて、任意の条件ステートメントで、サポートされている任意の XSLT 関数を使用できます。XML ファイル内で、現在のノードについて条件がテストされます。次の例では、結果セットの最後のノードについてテストします。



条件式の記述の詳細と例については、[リファレンス] パネルの「<xsl:if>」セクションを参照してください ([ヘルプ]-[リファレンス])。

複数の条件 XSLT 領域を適用する

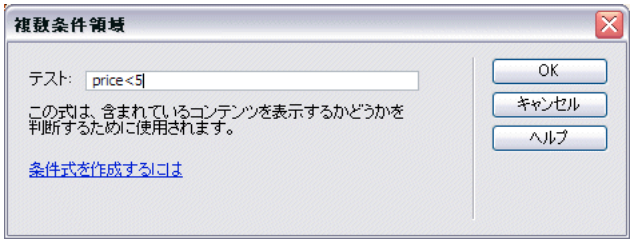
XSLT ページに挿入する単純な条件式を作成できます。[条件領域] ダイアログボックスを開いたときにコンテンツが選択されている場合、そのコンテンツは <xsl:choose> ブロックによって囲まれます。コンテンツが選択されていない場合は、ページの挿入ポイントに <xsl:choose> ブロックが追加されます。最初にこのダイアログボックスを使って式を作成し、次にコードビューで式をカスタマイズすることをお勧めします。

<xsl:choose> エレメントは、他の言語の case ステートメントに似ています。このエレメントにより、条件をテストし、その結果に基づいて操作を実行することができます。<xsl:choose> エレメントを使用すると、複数の条件についてテストできます。

1 [挿入]-[XSLT オブジェクト]-[複数条件領域] を選択するか、[挿入] バーの XLST カテゴリにある [複数条件領域] アイコンをクリックします。

2 [複数条件領域] ダイアログボックスに最初の条件を入力します。

次の例では、コンテキストノードの price サブエレメントが 5 より小さいかどうかをテストします。



3 [OK] をクリックします。

この例では、次のコードが XSLT ページに挿入されます。

```
<xsl:choose>
    <xsl:when test="price&lt;5">
        Content goes here
    </xsl:when>
    <xsl:otherwise>
        Content goes here
    </xsl:otherwise>
</xsl:choose>
```

4 他の条件を挿入するには、コードビューで <xsl:when> タグペアの間、または <xsl:otherwise> タグの直前に挿入ポイントを置き、条件領域を挿入します ([挿入]-[XSLT オブジェクト]-[複数条件領域])。

条件を指定して [OK] をクリックすると、別の <xsl:when> タグが <xsl:choose> ブロックに挿入されます。

条件式の記述の詳細と例については、[リファレンス] パネルの「<xsl:choose>」セクションを参照してください ([ヘルプ]-[リファレンス])。

条件領域 (If) プロパティを設定する

この条件領域設定のプロパティインスペクタでは、XSL ページの条件領域で使用される条件を変更します。条件領域は条件をテストし、その結果に基づいて操作を実行します。

❖ [テスト] ボックスに新しい条件を入力し、Enter キーを押します。

条件 (When) プロパティの設定

この条件領域設定のプロパティインスペクタでは、XSL ページの複数の条件領域で使用される条件を変更します。複数の条件領域で条件がテストされ、その結果に基づいて操作が実行されます。

❖ [テスト] ボックスに新しい条件を入力し、Enter キーを押します。

XSL コメントを挿入する

ドキュメントに XSL コメントタグを追加するか、選択範囲を XSL コメントタグで囲むことができます。

ドキュメントに XSL コメントタグを追加する

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- デザインビューで [挿入]-[XSLT オブジェクト]-[XSL コメント] を選択し、コメントの内容を入力して (またはテキストボックスを空白のままにして) [OK] をクリックします。
- コードビューで [挿入]-[XSLT オブジェクト]-[XSL コメント] を選択します。

[挿入] バーの XSLT カテゴリにある [XSL コメント] アイコンをクリックすることもできます。

選択範囲を XSL コメントタグで囲む

1 コードビューに切り替えます ([表示]-[コード])。

2 コメントするコードを選択します。

3 コーディングツールバーで、[コメントの適用] ボタンをクリックし、[<xsl:comment></xsl:comment> コメントの適用] を選択します。

XPATH 式ビルダーを使用して XML データの式を追加する

XPath (XML Path Language) は、XML ドキュメントの一部に対応する非 XML シンタックスです。SQL 言語がデータベースのクエリーに使用されるように、ほとんどの場合、XPath は XML データのクエリー言語として使用されます。XPath の詳細については、W3C Web サイト (www.w3.org/TR/xpath) の XPath 言語仕様を参照してください。

XPATH 式ビルダーは、データの特定のノードを識別し、領域を繰り返すための単純な XPath 式を作成できる Dreamweaver の機能です。XML スキーマツリーから値をドラッグする代わりにこの方法を使用する利点は、表示される値をフォーマットできることにあります。現在のコンテキストは、[XPATH 式ビルダー] ダイアログボックスが開いたときの XSL ファイルの挿入ポイントの位置に基づいて識別されます。現在のコンテキストは、XML スキーマツリーで太字で表示されます。このダイアログボックス内で選択すると、現在のコンテキストに対して相対的な、正しい XPath ステートメントが生成されます。これにより、初級ユーザーおよび上級ユーザーにとって、正しい XPath 式を記述する処理が簡単になります。

注意：この機能は、特定のノードを識別する、またはリピート領域のための単純な XPath 式を作成できるように設計されています。手動で式を編集することはできません。複雑な式を作成する必要があるときは、最初に XPATH 式ビルダーを使って式を作成し、次にコードビュー内、またはプロパティインスペクタを使って式をカスタマイズします。

特定のノードを識別する XPath 式を作成する

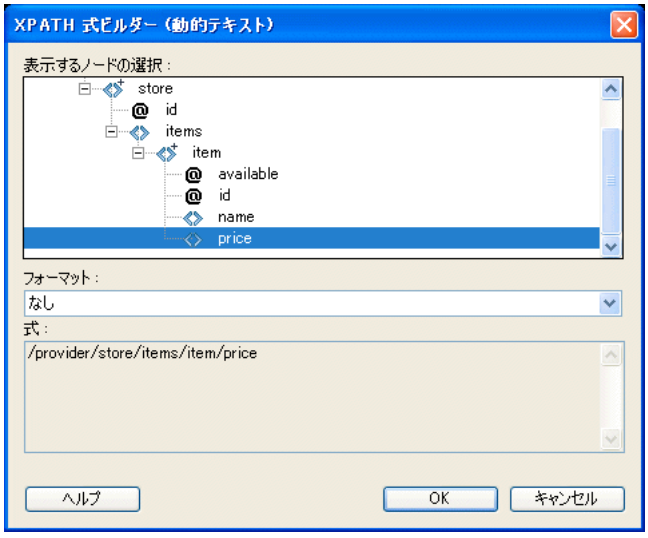
1 ページで XML データプレースホルダーをダブルクリックし、XPATH 式ビルダーを開きます。

2 [XPATH 式ビルダー (動的テキスト)] ダイアログボックスで、XML スキーマツリーの任意のノードを選択します。

[式] ボックスで、ノードを識別するための正しい XPath 式が作成されます。

注意：XML スキーマツリーで別のノードを選択すると、その選択を反映して式が変更されます。

次の例では、price サブエレメント (item ノード) を表示します。



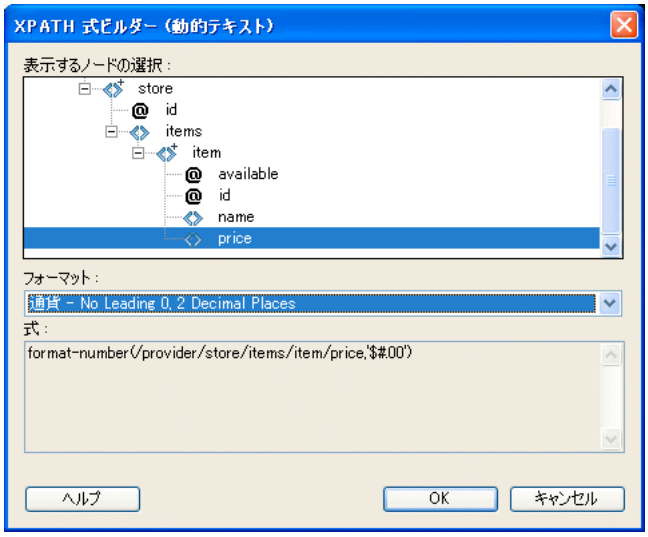
この選択により、XSLT ページに次のコードが挿入されます。

```
<xsl:value-of select="price"/>
```

3 (オプション) [フォーマット] ポップアップメニューからフォーマットオプションを選択します。

ノードの値が数値を返す場合に、選択範囲のフォーマットが役立ちます。Dreamweaver には事前に定義されているフォーマット関数のリストが表示されます。使用できるフォーマット関数と例の詳細なリストについては、[リファレンス] パネルを参照してください。

次の例では、price サブエレメントを小数点以下 2 桁の通貨としてフォーマットします。



このオプションでは、次のコードを XSLT ページに挿入します。

```
<xsl:value-of select="format-number(provider/store/items/item/price,'$#.00')"/>
```

4 [OK] をクリックします。

5 XML ファイルで各ノードの値を表示するには、動的テキスト (HTML テーブル行や段落など) を含むエレメントにリピート領域を適用します。

ノードの選択と戻り値の詳細と例については、[リファレンス] パネルの「<xsl:value-of/>」セクションを参照してください。

繰り返すノードを選択する

繰り返すノードを選択し、必要に応じて結果をフィルタ処理できます。[XPATH 式ビルダー] ダイアログボックス内では、選択したコンテンツが <xsl:for-each> ブロックによって囲まれます。コンテンツを選択していない場合、挿入ポイントに <xsl:for-each> ブロックが挿入されます。

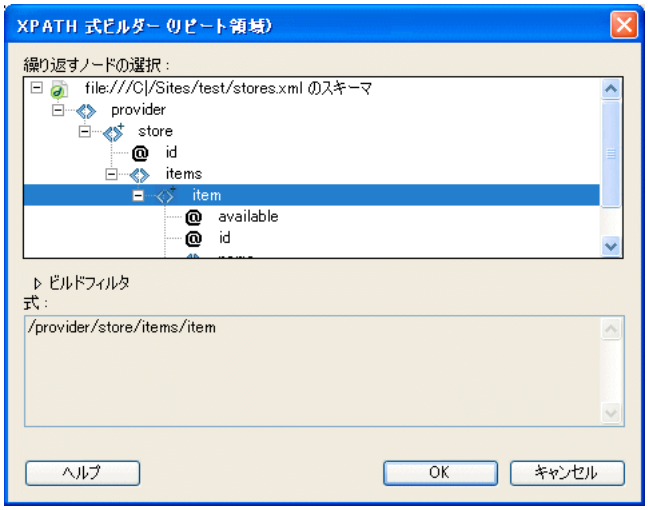
1 ページで XML データプレースホルダーをダブルクリックし、XPATH 式ビルダーを開きます。

2 [XPATH 式ビルダー (リピート領域)] ダイアログボックスから、XML スキーマツリーで繰り返すアイテムを選択します。

[式] ボックスで、ノードを識別するための正しい XPath 式が作成されます。

注意：繰り返しアイテムは、XML スキーマツリーで [+] 記号で表されます。

次の例では、XML ファイル内で各 item ノードを繰り返します。



[OK] をクリックすると、次のコードが XSLT ページに挿入されます。

```
<xsl:for-each select="provider/store/items/item">
 Content goes here
</xsl:for-each>
```

場合によっては、繰り返しノードのサブセットを操作することがあります。たとえば、属性に特定の値があるアイテムだけを操作するなどです。この場合は、フィルタを作成する必要があります。

繰り返すデータをフィルタ処理する

特定の属性値を持つ繰り返しノードを識別するには、フィルタを使用します。

1 XML スキーマツリーで、繰り返すノードを選択します。

2 [ビルドフィルタ] ボタンをクリックします。

3 [+] ボタンをクリックして空のフィルタを作成します。

4 次のフィールドにフィルタ条件を入力します。

フィルタ条件 フィルタ処理に使用するデータを含む繰り返しノードを指定します。ポップアップメニューには、XML スキーマツリーで選択したノードに対して相対的な祖先ノードのリストが表示されます。

場所 結果を絞り込むために使用する [フィルタ条件] ノードの属性またはサブエレメントを指定します。このポップアップメニューから属性またはサブエレメントを選択するか、このフィールドに独自の XPath 式を入力して、スキーマツリーのより深い場所に存在する子を識別することができます。

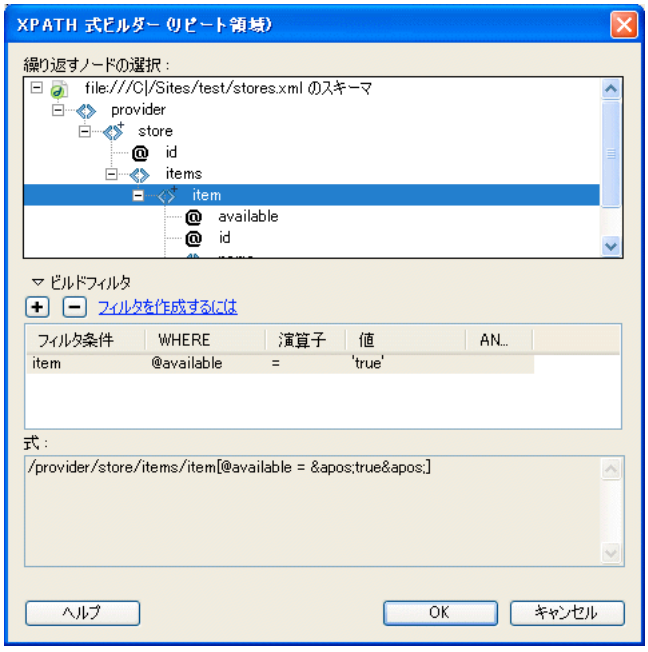
演算子 フィルタ式で使用する比較演算子を指定します。

値 [フィルタ条件] ノードで確認する値を指定します。値を入力します。XSLT ページに対して動的パラメータが指定されている場合は、ポップアップメニューからパラメータを選択できます。

5 別のフィルタを指定するには、もう一度 [+] ボタンをクリックします。

値を入力するか、ポップアップメニューで選択する場合、[式] ボックスの XPath 式が変更されます。

次の例では、結果セットを item ノード (@available 属性の値が true となるもの) に制限します。

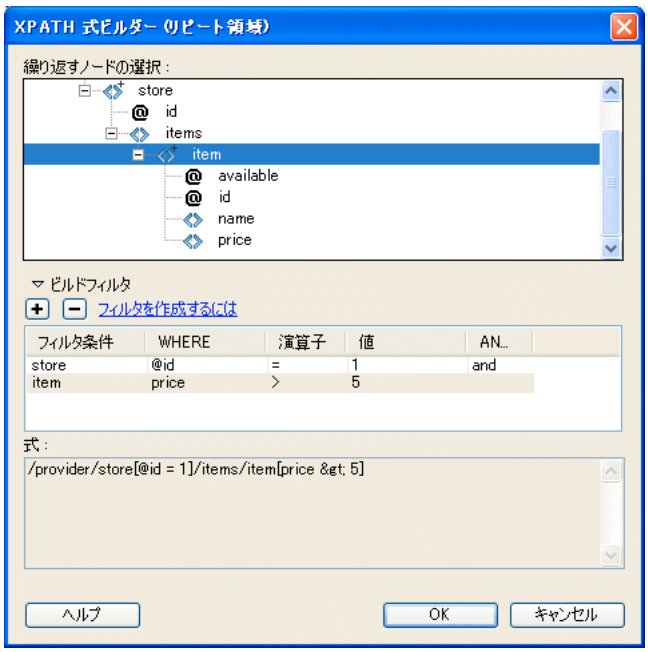


[OK] をクリックすると、次のコードが XSLT ページに挿入されます。

```
<xsl:for-each select="provider/store/items/item[@available = &apos;true&apos;]">
    Content goes here
</xsl:for-each>
```

注意 : true などのストリング値は二重引用符で囲む必要があります。Dreamweaver によって二重引用符がエンコードされ (')、有効な XHTML として入力されます。

親ノードをフィルタ条件の一部として指定できる、より複雑なフィルタを作成することができます。次の例では、結果セットを item ノード (store の @id 属性が 1 で、item の price ノードが 5 より大きいもの) に制限します。



[OK] をクリックすると、次のコードが XSLT ページに挿入されます。

```
<xsl:for-each select="provider/store[@id = 1]/items/item[price &gt; 5]">
    Content goes here
</xsl:for-each>
```

リピート領域の詳細と例については、[リファレンス] パネルの「<xsl:for-each>」セクションを参照してください。

XSL 変換のトラブルシューティング

XSL 変換が機能しない場合は、www.adobe.com/go/dw_xsl_faq_jp のトラブルシューティングガイドを参照してください。ここには、さまざまなよくある質問への回答が記載されています。

クライアントでの XSL 変換の実行

クライアントサイド XSL 変換を実行するためのワークフロー

クライアントサイド XSL 変換を実行できます。XML データを表示するページを作成する前に、サーバーサイドおよびクライアントサイド XSL 変換と、Web ページでの XML および XSL の使用を確認してください。

クライアントサイド XSL 変換を実行する一般的なワークフローは、次のとおりです。各手順については別のトピックで説明します。

1. Dreamweaver サイトを設定します。

2. XSLT ページを作成するか、HTML ページを XSLT に変換します。

- Dreamweaver サイトで、XSLT ページ全体を作成します。
- 既存の HTML ページを XSLT ページ全体に変換します。

3. XML データソースをページにまだ適用していない場合、適用します。

適用する XML ファイルは、XSLT ページと同じディレクトリにある必要があります。

4. XSLT ページに XML データをバインドします。

5. データを XSLT ページ全体にバインドすることで、XML データを表示します。

6. 必要に応じて、XML データプレースホルダーを含むテーブルまたはテーブル行にリピート領域 XSLT オブジェクトを追加します。

7. XML ページに XSLT ページを適用します。

8. XML ページおよびリンクされた XSLT ページの両方を Web サーバーにポストします。

9. ブラウザで XML ページを表示します。

このときに、ブラウザは XML データを変換し、XSLT ページを使ってフォーマットして、スタイルが設定されたページをブラウザ内で表示します。

関連項目

37 ページの「Dreamweaver サイトの設定」

475 ページの「アプリケーションサーバーの選択」

424 ページの「XSLT ページを XML ページにリンクする」

400 ページの「Web ページで XML と XSL を使用する」

403 ページの「クライアントサイド XSL 変換」

401 ページの「サーバーサイド XSL 変換」

XSLT ページ全体を作成してデータを表示する

クライアントサイド変換には完全な XSLT ページを使用する必要があります (このタイプの変換の場合、XSLT フラグメントは機能しません)。クライアント変換用に XML データの作成とバインド、XSLT ページのフォーマットを行う場合、次に示す一般的な手順に従ってください。

1. **XSLT ページを作成する。**

2. **XSLT ページにデータを表示する。**

3. **XSLT ページに繰り返しエレメントを表示する。**

4. **問題が発生した場合、トラブルシューティングを行う。**

関連項目

408 ページの「XSLT ページを作成する」

410 ページの「XSLT ページで XML データを表示する」

411 ページの「繰り返し XML エレメントを表示する」

423 ページの「XSL 変換のトラブルシューティング」

XSLT ページを XML ページにリンクする

XML データの動的コンテンツプレースホルダーを持つ XSLT ページ全体を作成したら、XSLT ページへの参照を XML にページに挿入する必要があります。

注意 : クライアントサイド変換に使用する XML ファイルと XSL ファイルは、同じディレクトリにある必要があります。同じディレクトリにない場合、ブラウザは XML ファイルを読み取り、変換する XSLT ページを見つけますが、XSLT ページに相対リンクで定義されているアセット (スタイルシートやイメージなど) を見つけることができません。

1 XSLT ページにリンクする XML ファイルを開きます。

2 [コマンド]-[XSLT スタイルシートの適用] を選択します。

3 そのダイアログボックスで [参照] ボタンをクリックし、リンク先となる XSLT ページを参照し、そのページを選択して [OK] をクリックします。

4 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、XML ドキュメントの上部に XSLT ページへの参照を挿入します。

XSL 変換のトラブルシューティング

XSL 変換が機能しない場合は、www.adobe.com/go/dw_xsl_faq_jp のトラブルシューティングガイドを参照してください。ここには、さまざまなよくある質問への回答が記載されています。

存在しない文字エンティティ

存在していない文字エンティティを指定する

XSLT では、特定の状況で一部の文字を使用することができません。たとえば、タグ内のテキストまたは属性値では、" より小さい " (<) およびアンパサンド (&) を使用できません。これらの文字が間違って使用されている場合は、XSLT 変換エンジンでエラーが発生します。この問題を解決するには、文字エンティティを指定して特殊文字を置き換えます。

文字エンティティは、他の文字を表す文字のストリングです。文字エンティティには名前または番号が付けられます。名前エンティティはアンパサンド (&) で始まり、名前または文字が続き、セミコロン (;) で終わります。たとえば < は、" より小さい " (<) を表します。番号エンティティも同じ方法で始まって終わりますが、シャープ記号 (#) と数字によって文字を指定することが異なります。

XSLT には、事前に定義された次の 5 つのエンティティが用意されています。

文字	エンティティコード
<(より小さい)	<
&(アンパサンド)	&
>(より大きい)	>
"(二重引用符)	"
‘(アポストロフィー)	'

XSL ファイルで他の文字エンティティを使用する場合は、XSL ファイルの DTD セクションで文字エンティティを定義する必要があります。Dreamweaver には、Dreamweaver で作成された XSL ファイルの最上部に表示される、デフォルトのエンティティ定義がいくつか用意されています。このデフォルトエンティティには、頻繁に使用される文字が含まれています。

XSL ファイルをブラウザでプレビューすると、Dreamweaver によって XSL ファイル内に未定義のエンティティがないかが確認され、未定義のエンティティが見つかった場合は通知されます。

XSLT ファイルに適用された XML ファイルをプレビューするか、XSLT 変換を持つサーバーサイドページをプレビューすると、Dreamweaver ではなくサーバーまたはブラウザによって、定義されていないエンティティに関するメッセージが通知されます。次の例では、XSL ファイルによって変換された XML ファイルを要求し、エンティティ定義が存在しない場合に Internet Explorer で表示されることのあるメッセージを示します。

```
Reference to undefined entity 'auml'. Error processing resource 'http://localhost/testthis/list.xsl'.
Line 28, Position 20
<p class=''test''>&auml;</p>
-------------------^
```

ページのエラーを修正するには、ページにエンティティ定義を手動で追加する必要があります。

存在していないエンティティ定義を指定する

1 W3C Web サイトの文字エンティティ参照ページ (www.w3.org/TR/REC-html40/sgml/entities.html) で、存在していない文字を検索します。

この Web ページには、HTML 4 および XHTML 1.0 で使用できる 252 個のエンティティが記載されています。

たとえば、文字エンティティ Egrave が存在していない場合は、W3C Web ページで "Egrave" を検索します。次のエントリが見つかります。

```
<!ENTITY Egrave CDATA "&#200;" -- latin capital letter E with grave, U+00C8 ISOlat1 -->
```

2 エントリのエンティティ名とエンティティコードをメモします。

この例では、Egrave がエンティティ名で &#200 がエンティティコードになります。

3 この情報を使用して、コードビューに切り替え、XSL ファイルの先頭の、Doctype 宣言の後に、他のエンティティタグと共に、次のエンティティタグを入力します。

```
<!ENTITY entityname "entitycode;">
```

この例では、次のエンティティタグを入力します。

```
<!ENTITY Egrave "&#200;">
```

4 ファイルを保存します。

同じ文字エンティティを繰り返して使用する場合、[ファイル]-[新規作成] を選択した際に Dreamweaver によってデフォルトで作成される XSL ファイルに対して、こうした文字エンティティの定義を永続的に追加することができます。

Dreamweaver で初期設定で作成される XSL ファイルにエンティティ定義を追加する

1 Dreamweaver アプリケーションフォルダで次の設定ファイルを探し、任意のテキストエディタで開きます。

Configuration/DocumentTypes/MMDocumentTypeDeclarations.xml

2 mm_xslt_1: という宣言を見つけます。

```
<documenttypedeclaration id="mm_xslt_1">
```

3 次のように、エンティティタグのリストに新しいエンティティタグを入力します。

```
<!ENTITY entityname "entitycode;">
```

4 ファイルを保存して Dreamweaver を再起動します。

第 16 章：Spry 表示ページの作成

Spry フレームワークは、高度な Web ページの作成を可能にする JavaScript および CSS ライブラリです。Spry フレームワークを使用すると、XML データを表示できるだけでなく、ページ全体を更新せずに動的データを表示できるインタラクティブなページエレメントを作成できます。

Spry フレームワークについて

Spry フレームワークについて

Spry フレームワークは、豊かなサイト体験が得られる Web ページの作成を可能にする JavaScript ライブラリです。Spry では、HTML、CSS、および最小限の JavaScript を使用して、XML データを HTML ドキュメントに組み込むことや、アコーディオンやメニューバーなどの仕掛けを作成することや、さまざまなページエレメントに多彩な効果を追加することができます。Spry フレームワークは、HTML、CSS、および JavaScript の基礎的な知識があれば容易にマークアップを使用できるように設計されています。

Spry フレームワークは、主にプロの Web デザイナーや上級のノンプロ Web デザイナーを対象としています。企業レベルの Web 開発で使用される完全装備型 Web アプリケーションフレームワークとしては設計されていません。ただし、他の企業レベルページと組み合わせて使用することはできます。

詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_spryframework_jp を参照してください。

Spry を使用して Web ページを作成する方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0166_jp を参照してください。.

Spry Widget の追加

Spry Widget について

Spry Widget は、ユーザーインタラクションを可能にすることにより豊かな体験を提供するページエレメントです。Spry Widget は次の部分で構成されます。

Widget 構造 Widget の構成を定義する HTML コードブロック。

Widget ビヘイビア ユーザーが開始したイベントに対する Widget の反応をコントロールする JavaScript。

Widget スタイル Widget の外観を指定する CSS。

Spry フレームワークは、標準 HTML、CSS、および JavaScript で書かれた再利用可能な一連の Widget をサポートします。これらの Widget は、最も単純なものは HTML と CSS のコードであり、容易に挿入し修正して使用できます。フレームワークのビヘイビアには、ユーザーがさまざまな操作をできるようにする機能が含まれます。これにはたとえば、ページコンテンツの表示と非表示を切り替える、ページの色などの外観を変える、メニュー項目をインタラクティブに使用するなどの機能があります。

Spry フレームワークの各 Widget は、それぞれ固有の CSS および JavaScript に関連付けられています。CSS ファイルには、Widget のスタイル設定に必要なすべての設定が含まれています。JavaScript ファイルは、Widget の機能を提供します。Dreamweaver インターフェイスを使用して Widget を挿入すると、Widget が機能とスタイルを持つように、Dreamweaver によってこれらのファイルがページに自動的にリンクされます。

ある Widget に関連付けられた CSS および JavaScript ファイルは、その Widget にちなんだ名前が付けられています。このため、どのファイルがどの Widget に対応するかを容易に見分けられます。たとえば、アコーディオン Widget に関連付けられたファイルの名前は SpryAccordion.css および SpryAccordion.js です。保存されているページに Widget を挿入すると、Dreamweaver によってサイトに SpryAssets ディレクトリが作成され、対応する JavaScript および CSS ファイルがその場所に保存されます。

Spry Widget の使用方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0167_jp を参照してください。

関連項目

116 ページの「カスケーディングスタイルシートについて」

Spry Widget の挿入

❖ [挿入]-[Spry] を選択し、挿入する Widget を選択します。

Widget を挿入すると、ページを保存したときに、Dreamweaver によって必要な Spry JavaScript および CSS ファイルが自動的にサイトに含められます。

注意：[挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用して Spry Widget を挿入することもできます。

Spry Widget の選択

1 Widget の上にマウスポインタを置きます。タブグループ化された青色のアウトラインが表示されます。

2 Widget の左上隅にある Widget のタブをクリックします。

Spry Widget の編集

❖ 編集する Widget を選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で必要な変更を加えます。

特定の Widget に変更を加える方法の詳細については、各 Widget に関する適切な項を参照してください。

Spry Widget のスタイル設定

❖ Widget に適した CSS ファイルをサイトの SpryAssets フォルダから見つけ、必要に応じてその CSS ファイルを編集します。

特定の Widget のスタイルを設定する方法の詳細については、各 Widget に関する適切なカスタマイズの項を参照してください。

Spry Widget のフォーマットは、他のページエレメントのスタイルと同様に、[CSS] パネルでスタイルを編集して設定することもできます。

デフォルトの Spry アセットフォルダの変更

保存されているページに Spry Widget、データセット、またはエフェクトを挿入すると、Dreamweaver によってサイトに SpryAssets ディレクトリが作成され、対応する JavaScript および CSS ファイルがその場所に保存されます。Dreamweaver が Spry アセットを保存する初期設定の場所を変更して、別の場所に保存することもできます。

1 [サイト]-[サイトの管理] を選択します。

2 [サイトの管理] ダイアログボックスでサイトを選択して、[編集] をクリックします。

3 [サイト定義] ダイアログボックスで [Spry] カテゴリを選択します。

4 Spry アセットを使用するフォルダへのパスを入力して、[OK] をクリックします。フォルダアイコンをクリックして、場所を参照することもできます。

関連項目

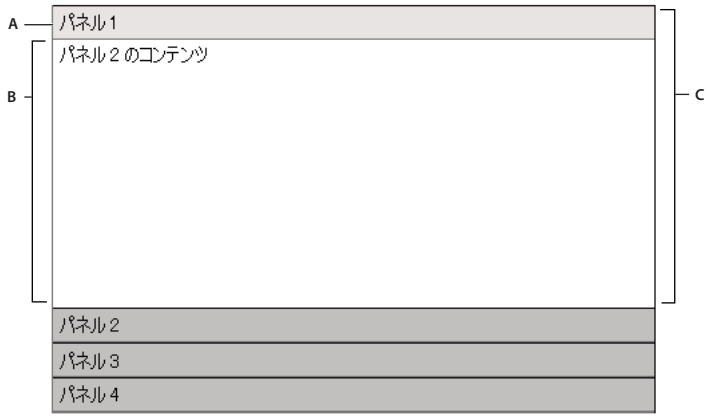
455 ページの「Spry XML データセットの定義」

461 ページの「Spry エフェクトの概要」

アコーディオン Widget の操作

アコーディオン Widget について

アコーディオン Widget は、折りたたみ式のパネルのセットです。アコーディオン Widget を使用すると、わずかなスペースに多くのコンテンツを格納できます。ユーザーがパネルのタブをクリックすると、アコーディオンに格納されたコンテンツの表示 / 非表示が切り替わります。アコーディオンの各パネルは、ユーザーがクリックしたタブに応じて拡張および縮小されます。各アコーディオンでは、一度に 1 つのコンテンツパネルのみが開いて表示されます。次にアコーディオン Widget の例を示します。この例では 2 番目のパネルが拡張されています。



A. アコーディオンパネルタブ **B.** アコーディオンパネルのコンテンツ **C.** アコーディオンパネル (開いているパネル)

アコーディオン Widget の初期設定 HTML は、すべてのパネルが含まれる外側の div タグ、各パネルの div タグ、各パネルのタグ内のヘッダー div およびコンテンツ div で構成されます。アコーディオン Widget には任意の数のパネルを含めることができます。アコーディオン Widget の HTML には、ドキュメントの head 内とアコーディオンの HTML マークアップの後に script タグも含まれます。

アコーディオン Widget の動作およびコードの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_spryaccordion_jp を参照してください。

アコーディオン Widget の挿入

❖ [挿入]-[Spry]-[Spry アコーディオン] を選択します。

注意：[挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用してアコーディオン Widget を挿入することもできます。

アコーディオン Widget へのパネルの追加

1 ドキュメントウィンドウでアコーディオン Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) のパネル追加 [+] ボタンをクリックします。

3 (オプション) パネルの名前を変更する場合は、デザインビューでパネルのテキストを選択し、テキストを変更します。

アコーディオン Widget からのパネルの削除

1 ドキュメントウィンドウでアコーディオン Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [パネル] メニューで削除するパネルの名前を選択し、マイナス [-] ボタンをクリックします。

パネルを開いて編集

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- デザインビューで開くパネルのタブの上にマウスポインタを置き、タブの右に表示される目のアイコンをクリックします。
- ドキュメントウィンドウでアコーディオン Widget を選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [パネル] メニューで編集するパネルの名前をクリックします。

パネルの順序の変更

1 ドキュメントウィンドウでアコーディオン Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、移動するアコーディオンパネルの名前を選択します。

3 上向き矢印または下向き矢印をクリックしてパネルを上または下に移動します。

アコーディオン Widget のカスタマイズ

プロパティインスペクタでは、アコーディオン Widget の簡単な編集は可能ですが、カスタマイズされたスタイル設定タスクはサポートされません。アコーディオン Widget に関する CSS ルールを変更すると、自由にスタイル設定したアコーディオンを作成できます。高度なスタイル設定タスクの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_spryaccordion_custom_jp を参照してください。

以下のトピックに登場する CSS ルールは、すべて SpryAccordion.css ファイルに格納された初期設定ルールです。Spry アコーディオン Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダに SpryAccordion.css ファイルが保存されます。このファイルには、その Widget に適用されるさまざまなスタイルに関するコメント付き情報も格納されます。このため、このファイルを参照すると役に立つ場合があります。

アコーディオン Widget に関するルールは CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用してアコーディオンの CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

アコーディオン Widget のテキストのスタイル設定

アコーディオン Widget のテキストのスタイルを設定するには、アコーディオン Widget コンテナ全体のプロパティを設定するか、Widget の各コンポーネントのプロパティを個別に設定します。

❖ アコーディオン Widget のテキストスタイルを変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、独自のテキストスタイルプロパティおよび値を追加します。

変更するテキスト	関連する CSS ルール	追加するプロパティおよび値の例
アコーディオン全体 (タブとコンテンツパネルの両方を含む) のテキスト	.Accordion または .AccordionPanel	font: Arial; font-size:medium;
アコーディオンパネルタブのテキストのみ	.AccordionPanelTab	font: Arial; font-size:medium;
アコーディオンコンテンツパネルのテキストのみ	.AccordionPanelContent	font: Arial; font-size:medium;

アコーディオン Widget の背景色の変更

❖ アコーディオン Widget のさまざまな部分の背景色を変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、背景色プロパティおよび値を追加または変更します。

変更する Widget の部分	関連する CSS ルール	追加または変更するプロパティおよび値の例
アコーディオンパネルタブの背景色	.AccordionPanelTab	background-color: #CCCCCC; (これが初期設定値です)
アコーディオンコンテンツパネルの背景色	.AccordionPanelContent	background-color: #CCCCCC;
開いたアコーディオンパネルの背景色	.AccordionPanelOpen .AccordionPanelTab	background-color: #EEEEEE; (これが初期設定値です)
マウスポインタがあるときのパネルタブの背景色	.AccordionPanelTabHover	color: #555555; (これが初期設定値です)
マウスポインタがあるときの開いたパネルタブの背景色	.AccordionPanelOpen .AccordionPanelTabHover	color: #555555; (これが初期設定値です)

アコーディオンの幅の固定

初期設定では、アコーディオン Widget は使用可能なスペースいっぱいに拡張されます。ただし、アコーディオンコンテナの幅プロパティを設定すると、アコーディオン Widget の幅を制限できます。

1 SpryAccordion.css ファイルを開くことによって .Accordion CSS ルールを見つけます。これは、アコーディオン Widget のメインコンテナエレメントのプロパティを定義するルールです。

アコーディオン Widget を選択して [CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS]) を調べることによってルールを探すこともできます。パネルが [現在] モードに設定されていることを確認します。

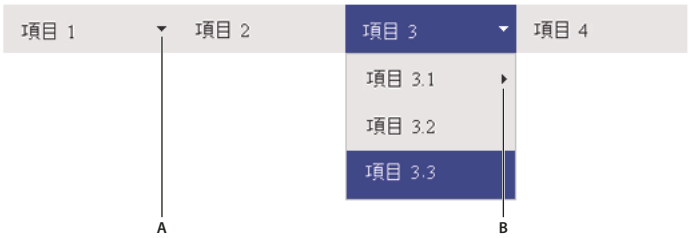
2 このルールに、width: 300px; のように幅プロパティと値を追加します。

メニューバー Widget の操作

メニューバー Widget について

メニューバーは、ボタンの 1 つにポインタが置かれたときにサブメニューが表示される、ナビゲーションメニューボタンのセットです。メニューバーを使用すると、わずかなスペースに多くのナビゲーション情報を表示できるだけでなく、ユーザーに長い距離をブラウザさせることなくサイト上の情報の全体像を把握させることができます。

Dreamweaver で挿入できるメニューバー Widget には、垂直と水平の 2 種類があります。次に水平メニューバー Widget の例を示します。この例では 3 番目のメニュー項目が展開されています。



メニューバー Widget (<ul>、<li>、および <a> タグで構成されます)
A. メニュー項目のサブメニュー **B.** サブメニュー項目のサブメニュー

メニューバー Widget の HTML は、外側の ul タグと、最上位レベルのメニュー項目ごとにこのタグに含まれる li タグで構成されます。一方最上位レベルのメニュー項目 (li タグ) には、各項目のサブメニューを定義する ul および li タグが含まれます。同様にサブメニューにサブメニューを含めることもできます。最上位レベルのメニューにもサブメニューにも、任意の数のサブメニューを含めることができます。

メニューバー Widget の動作およびコードの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_sprymenubar_jp を参照してください。

Spry メニューバーを作成する方法のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0168_jp を参照してください。

メニューバー Widget の挿入

1 [挿入]-[Spry]-[Spry のメニューバー] を選択します。

2 [Horizontal] または [Vertical] を選択し、[OK] をクリックします。

注意：[挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用してメニューバー Widget を挿入することもできます。

注意：Spry メニューバー Widget では、他のセクションの上に HTML のセクションを表示するため、DHTML レイヤーが使用されます。ページに Flash コンテンツ が含まれる場合は、問題が生じる可能性があります。これは、Flash ムービーは常に他のすべての DHTML レイヤー上に表示されるため、Flash コンテンツがサブメニューの上に表示される可能性があるためです。この問題を解決するには、Flash ムービーが wmode="transparent" を使用するようにパラメータを変更します。詳細については、www.adobe.com/go/15523_jp を参照してください。

メニューおよびサブメニューの追加または削除

メニューバー Widget のメニュー項目を追加または削除するには、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) を使用します。

メインメニュー項目の追加

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタで、1 列目の上にある [+] ボタンをクリックします。

3 (オプション) 新しいメニュー項目の名前を変更する場合は、ドキュメントウィンドウまたはプロパティインスペクタのテキストボックスで初期設定テキストを変更します。

サブメニュー項目の追加

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタで、サブメニューを追加するメインメニュー項目の名前を選択します。

3 2 列目の上にある [+] ボタンをクリックします。

4 (オプション) 新しいサブメニュー項目の名前を変更する場合は、ドキュメントウィンドウまたはプロパティインスペクタのテキストボックスで初期設定テキストを変更します。

サブメニューにサブメニューを追加するには、プロパティインスペクタでサブメニュー項目を追加するサブメニュー項目の名前を選択し、3 列目の上にある [+] ボタンをクリックします。

注意：Dreamweaver のデザインビューでサポートされるサブメニューの深さは 2 レベルまでですが、コードビューでは任意の深さのサブメニューを追加できます。

メインメニュー項目またはサブメニュー項目の削除

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタで、削除するメインメニュー項目またはサブメニュー項目の名前を選択し、[-] ボタンをクリックします。

メニュー項目の順序の変更

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、順序を変更するメニュー項目の名前を選択します。

3 上向き矢印または下向き矢印をクリックしてメニュー項目を上または下に移動します。

メニュー項目のテキストの変更

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、テキストを変更するメニュー項目の名前を選択します。

3 テキストボックスで必要な変更を加えます。

メニュー項目のリンク

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、リンクを適用するメニュー項目の名前を選択します。

3 [リンク] テキストボックスにリンクを入力するか、フォルダアイコンをクリックしてファイルを参照します。

メニュー項目のツールヒントの作成

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、ツールヒントを作成するメニュー項目の名前を選択します。

3 [タイトル] テキストボックスにツールヒントのテキストを入力します。

メニュー項目のターゲット属性の割り当て

ターゲット属性では、リンクされたページをどこで開くかを指定します。たとえば、ユーザーがリンクをクリックするとリンクされたページが新しいブラウザウィンドウで開くように、メニュー項目にターゲット属性を割り当てることができます。フレームセットを使用している場合は、リンクされたページが開くフレームの名前も指定できます。

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、ターゲット属性を適用するメニュー項目の名前を選択します。

3 ターゲットボックスで次のいずれかの属性を入力します。

_blank リンクされたページを新しいブラウザウィンドウで開きます。

_self リンクされたページを同じブラウザウィンドウで読み込みます。初期設定ではこれが選択されます。フレームまたはフレームセット内のページの場合は、そのフレーム内にページが読み込まれます。

_parent リンクされたドキュメントを、そのドキュメントの直接の親フレームセットに読み込みます。

_top リンクされたページをフレームセットの一番上のウィンドウに読み込みます。

スタイルのオフ

Widget の HTML 構造がデザインビューで見やすいように、メニューバー Widget のスタイル設定を無効にできます。スタイルを無効にすると、たとえばメニューバー項目が、メニューバーのスタイル設定された項目としてではなく、ブレットリストとしてページに表示されます。

1 ドキュメントウィンドウで、メニューバー Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [スタイルをオフに] ボタンをクリックします。

メニューバー Widget の方向の変更

メニューバー Widget の方向を水平方向から垂直方向に、またはその逆に変更できます。手順は、メニューバーの HTML コードを変更し、SpryAssets フォルダに適切な CSS ファイルがあることを確認するのみです。

次の例では、水平メニューバー Widget を垂直メニューバー Widget に変更しています。

1 Dreamweaver で、水平メニューバー Widget を含むページを開きます。

2 垂直メニューバー Widget を挿入し ([挿入]-[Spry]-[Spry のメニューバー])、ページを保存します。この手順で、垂直メニューバーの適切な CSS ファイルがサイトに含まれることを確認します。

注意：サイトの別の場所に既に垂直メニューバー Widget が含まれる場合は、新たに挿入する必要はありません。[CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS スタイル]) で [スタイルシートを添付] ボタンをクリックし、ページに SpryMenuBarVertical.css ファイルを添付するだけで済みます。

3 垂直メニューバーを削除します。

4 コードビュー ([表示]-[コード]) で MenuBarHorizontal クラスを見つけ、MenuBarVertical に変更します。MenuBarHorizontal クラスは、メニューバーのコンテナ ul タグで定義されます (<ul id="MenuBar1" class="MenuBarHorizontal">)。

5 メニューバーのコードの後に、メニューバーコンストラクタを見つけます。

```
var MenuBar1 = new Spry.Widget.MenuBar("MenuBar1", {imgDown:"SpryAssets/SpryMenuBarDownHover.gif", imgRight:"SpryAssets/SpryMenuBarRightHover.gif"});
```

6 コンストラクタから imgDown プリロードオプション (およびカンマ) を削除します。

```
var MenuBar1 = new Spry.Widget.MenuBar("MenuBar1", {imgRight:"SpryAssets/SpryMenuBarRightHover.gif"});
```

注意：垂直メニューバーから水平メニューバーに変更する場合は、代わりに imgDown プリロードオプションとカンマを追加します。

7 (オプション) ページに他の水平メニューバー Widget が含まれない場合は、ドキュメントの head に埋め込まれている前の MenuBarHorizontal.css ファイルへのリンクを削除します。

8 ページを保存します。

メニューバー Widget のカスタマイズ

プロパティインスペクタでは、メニューバー Widget の簡単な編集は可能ですが、カスタマイズされたスタイル設定タスクはサポートされません。メニューバー Widget に関する CSS ルールを変更すると、自由にスタイル設定したメニューバーを作成できます。高度なスタイル設定タスクの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_sprymenubar_custom_jp を参照してください。

以下のトピックに登場する CSS ルールは、すべて SpryMenuBarHorizontal.css ファイルまたは SpryMenuBarVertical.css ファイルに格納された初期設定ルールです。Spry メニューバー Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダにこれらの CSS ファイルが保存されます。これらのファイルには、Widget に適用されるさまざまなスタイルに関する、役に立つコメント付き情報も含まれています。

メニューバー Widget に関するルールは、対応する CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用してメニューバーの CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

メニュー項目のテキストスタイルの変更

<a> タグに関連付けられた CSS には、テキストスタイルに関する情報が含まれています。<a> タグには、さまざまなメニュー状態に関連するテキストスタイルクラス値も関連付けられています。

❖ メニュー項目のテキストスタイルを変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定値を変更します。

変更するスタイル	垂直または水平メニューバーに関する CSS ルール	関連するプロパティおよび初期設定値
初期設定テキスト	ul.MenuBarVertical a、 ul.MenuBarHorizontal a	color: #333; text-decoration: none;
マウスポインタが上にあるときのテキストの色	ul.MenuBarVertical a:hover、 ul.MenuBarHorizontal a:hover	color: #FFF;
フォーカスがあるときのテキストの色	ul.MenuBarVertical a:focus、 ul.MenuBarHorizontal a:focus	color: #FFF;
マウスポインタが上にあるときのメニューバー項目の色	ul.MenuBarVertical a.MenuBarItemHover、 ul.MenuBarHorizontal a.MenuBarItemHover	color: #FFF;
マウスポインタが上にあるときのサブメニュー項目の色	ul.MenuBarVertical a.MenuBarItemSubmenuHover、 ul.MenuBarHorizontal a.MenuBarItemSubmenuHover	color: #FFF;

メニュー項目の背景色の変更

<a> タグに関連付けられた CSS には、メニュー項目の背景色に関する情報が含まれています。<a> タグには、さまざまなメニュー状態に関連する背景色クラス値も関連付けられています。

❖ メニュー項目の背景色を変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定値を変更します。

変更する色	垂直または水平メニューバーに関する CSS ルール	関連するプロパティおよび初期設定値
初期設定の背景	ul.MenuBarVertical a、 ul.MenuBarHorizontal a	background-color: #EEE;
マウスポインタが上にあるときの背景色	ul.MenuBarVertical a:hover、 ul.MenuBarHorizontal a:hover	background-color: #33C;
フォーカスがあるときの背景色	ul.MenuBarVertical a:focus、 ul.MenuBarHorizontal a:focus	background-color: #33C;
マウスポインタが上にあるときのメニューバー項目の色	ul.MenuBarVertical a.MenuBarItemHover、 ul.MenuBarHorizontal a.MenuBarItemHover	background-color: #33C;
マウスポインタが上にあるときのサブメニュー項目の色	ul.MenuBarVertical a.MenuBarItemSubmenuHover、 ul.MenuBarHorizontal a.MenuBarItemSubmenuHover	background-color: #33C;

メニュー項目の寸法の変更

メニュー項目の寸法を変更するには、メニュー項目の li および ul タグの幅プロパティを変更します。

1 ul.MenuBarVertical li または ul.MenuBarHorizontal li ルールを見つけます。

2 幅プロパティを必要に応じて変更します。または、プロパティを auto に変更して固定幅を削除し、このルールにプロパティおよび値 white-space: nowrap; を追加します。

3 ul.MenuBarVertical ul または ul.MenuBarHorizontal ul ルールを見つけます。

4 幅プロパティを必要に応じて変更します。または、プロパティを auto に変更して固定幅を削除します。

5 ul.MenuBarVertical ul li または ul.MenuBarHorizontal ul li ルールを見つけます。

6 このルールにプロパティ float: none; および background-color: transparent; を追加します。

7 width: 8.2em; プロパティおよび値を削除します。

サブメニューの位置の設定

Spry メニューバーのサブメニューの位置は、サブメニュー ul タグのマージンプロパティによって制御されます。

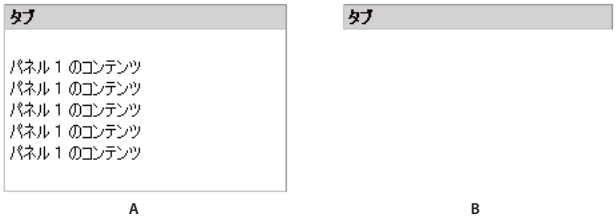
1 ul.MenuBarVertical ul または ul.MenuBarHorizontal ul ルールを見つけます。

2 margin: -5% 0 0 95%; の初期設定値を必要に応じて変更します。

折りたたみパネル Widget の操作

折りたたみパネル Widget について

折りたたみパネル Widget は、わずかなスペースにコンテンツを格納できるパネルです。折りたたみパネルに格納されたコンテンツは、ユーザーが Widget のタブをクリックすると表示 / 非表示が切り替わります。次に示すのは、折りたたみパネル Widget が展開された例と縮小された例です。



A. 展開 **B.** 縮小

折りたたみパネル Widget の HTML は、外側の div タグと、このタグに含まれるコンテンツ div タグおよびコンテナ div タグで構成されます。折りたたみパネル Widget の HTML には、ドキュメントの head 内と折りたたみパネルの HTML マークアップの後の script タグも含まれます。

折りたたみパネル Widget の動作およびコードの詳細については、
www.adobe.com/go/learn_dw_sprycollapsiblepanel_jp を参照してください。

折りたたみパネル Widget の挿入

❖ [挿入]-[Spry]-[Spry の折りたたみパネル] を選択します。

注意：[挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用して折りたたみパネル Widget を挿入することもできます。

デザインビューで折りたたみパネルを開くまたは閉じる

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- デザインビューでパネルのタブの上にマウスポインタを置き、タブの右に表示される目のアイコンをクリックします。
- ドキュメントウィンドウで折りたたみパネル Widget を選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [表示] ポップアップメニューから [開く] または [閉じた状態] を選択します。

折りたたみパネル Widget の初期設定状態の設定

Web ページがブラウザに読み込まれたときの、折りたたみパネル Widget の初期設定の状態 (開いた状態または閉じた状態) を設定できます。

1 ドキュメントウィンドウで、折りたたみパネル Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[初期設定の状態] ポップアップメニューから [開く] または [閉じた状態] を選択します。

折りたたみパネル Widget のアニメーションの有効と無効の切り替え

初期設定では、折りたたみパネル Widget のアニメーションを有効にすると、ユーザーがパネルのタブをクリックしたときにパネルが滑らかに開閉します。アニメーションを無効にすると、折りたたみパネル Widget が瞬間的に開閉します。

1 ドキュメントウィンドウで、折りたたみパネル Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[アニメーションを有効にする] チェックボックスをオンまたはオフにします。

折りたたみパネル Widget のカスタマイズ

プロパティインスペクタでは、折りたたみパネル Widget の簡単な編集は可能ですが、カスタマイズされたスタイル設定タスクはサポートされません。折りたたみパネル Widget に関する CSS を変更すると、自由にスタイル設定した折りたたみパネルを作成できます。高度なスタイル設定タスクの詳細については、
www.adobe.com/go/learn_dw_sprycollapsiblepanel_custom_jp を参照してください。

以下のトピックに登場する CSS ルールは、すべて SpryCollapsiblePanel.css ファイルに格納された初期設定ルールです。Spry の折りたたみパネル Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダに SpryCollapsiblePanel.css ファイルが保存されます。このファイルには、Widget に適用されるさまざまなスタイルに関する、役に立つコメント付き情報も含まれています。

折りたたみパネル Widget に関するルールは、対応する CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用して折りたたみパネルの CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

折りたたみパネル Widget のテキストのスタイル設定

折りたたみパネル Widget のテキストのスタイルを設定するには、折りたたみパネル Widget コンテナ全体のプロパティを設定するか、Widget の各コンポーネントのプロパティを個別に設定します。

❖ 折りたたみパネル Widget のテキストフォーマットを変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、独自のテキストスタイルプロパティおよび値を追加します。

変更するスタイル	関連する CSS ルール	追加または変更するプロパティおよび値の例
折りたたみパネル全体のテキスト	.CollapsiblePanel	font: Arial; font-size:medium;
パネルタブのみのテキスト	.CollapsiblePanelTab	font: bold 0.7em sans-serif; (これが初期設定値です)
コンテンツパネルのみのテキスト	.CollapsiblePanelContent	font: Arial; font-size:medium;

折りたたみパネル Widget の背景色の変更

❖ 折りたたみパネル Widget のさまざまな部分の背景色を変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、背景色プロパティおよび値を必要に応じて追加または変更します。

変更する色	関連する CSS ルール	追加または変更するプロパティおよび値の例
パネルタブの背景色	.CollapsiblePanelTab	background-color: #DDD; (これが初期設定値です)

変更する色	関連する CSS ルール	追加または変更するプロパティおよび値の例
コンテンツパネルの背景色	.CollapsiblePanelContent	background-color: #DDD;
パネルが開いているときのタブの背景色	.CollapsiblePanelOpen .CollapsiblePanelTab	background-color: #EEE; (これが初期設定値です)
マウスポインタが上にあるときの、開いたパネルタブの背景色	.CollapsiblePanelTabHover、 .CollapsiblePanelOpen .CollapsiblePanelTabHover	background-color: #CCC; (これが初期設定値です)

折りたたみパネルの幅の固定

初期設定では、折りたたみパネル Widget は使用可能なスペースいっぱいに拡張されます。ただし、折りたたみパネルのコンテナの幅プロパティを設定すると、折りたたみパネル Widget の幅を制限できます。

1 SpryCollapsible Panel.css ファイルを開き、.CollapsiblePanel CSS ルールを見つけます。このルールは、折りたたみパネル Widget のメインコンテナエレメントに間すくプロパティを定義します。

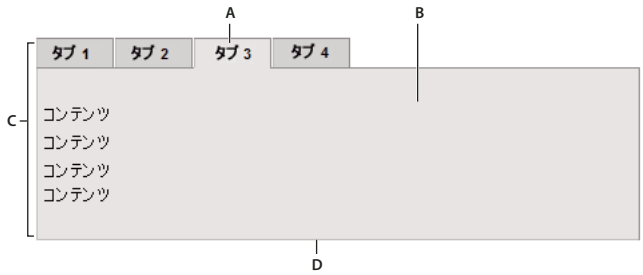
折りたたみパネル Widget を選択して [CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS スタイル]) を調べることによってルールを探すこともできます。パネルが [現在] モードに設定されていることを確認します。

2 このルールに、width: 300px; のように幅プロパティと値を追加します。

タブ付きのパネル Widget の操作

タブ付きのパネル Widget について

タブ付きのパネル Widget は、わずかなスペースにコンテンツを格納できるパネルのセットです。ユーザーがアクセスしたいパネルのタブをクリックすると、タブ付きのパネルに格納されたコンテンツの表示 / 非表示が切り替わります。ユーザーが別のタブをクリックすると、それに従って Widget のパネルが開きます。タブ付きのパネル Widget では、一度に 1 つのコンテンツパネルのみが開きます。次にタブ付きのパネル Widget の例を示します。この例では、3 番目のパネルが開いています。



A. タブ **B.** コンテンツ **C.** タブ付きのパネル Widget **D.** タブ付きのパネル

タブ付きのパネル Widget の HTML コードは、外側の div タグと、このタグに含まれるすべてのパネル、タブのリスト、コンテンツパネルを含めるための div、および各コンテンツパネルの div で構成されます。タブ付きのパネル Widget の HTML には、ドキュメントの head 内とタブ付きのパネル Widget の HTML マークアップの後の script タグも含まれます。

タブ付きのパネル Widget の動作およびコードの詳細については、
www.adobe.com/go/learn_dw_sprytabbedpanels_jp を参照してください。

タブ付きのパネル Widget の挿入

❖ [挿入]-[Spry]-[Spry のタブ付きのパネル] を選択します。

注意：[挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用してタブ付きのパネル Widget を挿入することもできます。

タブ付きのパネル Widget へのパネルの追加

1 ドキュメントウィンドウで、タブ付きのパネル Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) のパネル追加 [+] ボタンをクリックします。

3 (オプション) タブ名を変更する場合は、デザインビューでタブのテキストを選択して変更します。

タブ付きのパネル Widget からのパネルの削除

1 ドキュメントウィンドウで、タブ付きのパネル Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [パネル] メニューで削除するパネルの名前を選択し、マイナス [-] ボタンをクリックします。

パネルを開いて編集

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- デザインビューで開くパネルのタブの上にマウスポインタを置き、タブの右に表示される目のアイコンをクリックします。
- ドキュメントウィンドウでタブ付きのパネル Widget を選択し、プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [パネル] メニューで編集するパネルの名前をクリックします。

パネルの順序の変更

1 ドキュメントウィンドウで、タブ付きのパネル Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) の [パネル] メニューで、移動するパネルの名前を選択します。

3 上向き矢印または下向き矢印をクリックしてパネルを上または下に移動します。

最初に開くパネルの設定

ブラウザでページが開かれたとき、最初に開くタブ付きのパネル Widget を設定できます。

1 ドキュメントウィンドウで、タブ付きのパネル Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、最初に開くパネルを [初期設定のパネル] ポップアップメニューから選択します。

タブ付きのパネル Widget のカスタマイズ

プロパティインスペクタでは、タブ付きのパネル Widget の簡単な編集は可能ですが、カスタマイズされたスタイル設定タスクはサポートされません。タブ付きのパネル Widget に関する CSS ルールを変更すると、自由にスタイル設定した Widget を作成できます。高度なスタイル設定タスクの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_sprytabbedpanels_custom_jp を参照してください。

以下のトピックに登場する CSS ルールは、すべて SpryTabbedPanels.css ファイルに格納された初期設定ルールです。Spry のタブ付きのパネル Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダに SpryTabbedPanels.css ファイルが保存されます。このファイルには、Widget に適用されるさまざまなスタイルに関する、役に立つコメント付き情報も含まれています。

タブ付きのパネル Widget に関するルールは、対応する CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用して Widget の CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

タブ付きのパネル Widget のテキストのスタイル設定

タブ付きのパネル Widget のテキストのスタイルを設定するには、タブ付きのパネル Widget コンテナ全体のプロパティを設定するか、Widget の各コンポーネントのプロパティを個別に設定します。

❖ タブ付きのパネル Widget のテキストスタイルを変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、独自のテキストスタイルプロパティおよび値を追加します。

変更するテキスト	関連する CSS ルール	追加するプロパティおよび値の例
Widget 全体のテキスト	.TabbedPanels	font: Arial; font-size:medium;
パネルタブのみのテキスト	.TabbedPanelsTabGroup または .TabbedPanelsTab	font: Arial; font-size:medium;
コンテンツパネルのみのテキスト	.TabbedPanelsContentGroup または .TabbedPanelsContent	font: Arial; font-size:medium;

タブ付きのパネル Widget の背景色の変更

❖ タブ付きのパネル Widget のさまざまな部分の背景色を変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、背景色プロパティおよび値を必要に応じて追加または変更します。

変更する色	関連する CSS ルール	追加または変更するプロパティおよび値の例
パネルタブの背景色	.TabbedPanelsTabGroup または .TabbedPanelsTab	background-color: #DDD; (これが初期設定値です)
コンテンツパネルの背景色	.Tabbed PanelsContentGroup または .TabbedPanelsContent	background-color: #EEE; (これが初期設定値です)
選択されたタブの背景色	.TabbedPanelsTabSelected	background-color: #EEE; (これが初期設定値です)
マウスポインタが上にあるときのパネルタブの背景色	.TabbedPanelsTabHover	background-color: #CCC; (これが初期設定値です)

タブ付きのパネルの幅の固定

初期設定では、タブ付きのパネル Widget は使用可能なスペースいっぱいに拡張されます。ただし、アコーディオンコンテナの幅プロパティを設定すると、タブ付きのパネル Widget の幅を制限できます。

1 SpryTabbedPanels.css ファイルを開き、.TabbedPanels CSS ルールを見つけます。このルールは、タブ付きのパネル Widget のメインコンテナエレメントに間すくプロパティを定義します。

タブ付きのパネル Widget を選択して [CSS スタイル] パネル ([ウィンドウ]-[CSS スタイル]) を調べることによってルールを探すこともできます。パネルが [現在] モードに設定されていることを確認します。

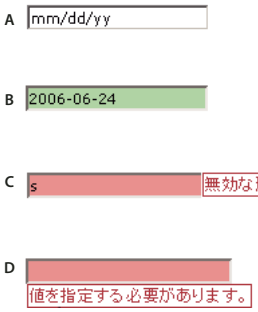
2 このルールに、width: 300px; のように幅プロパティと値を追加します。

テキストフィールド検査 Widget の操作

テキストフィールド検査 Widget について

Spry テキストフィールド検査 Widget は、ユーザーがテキストを入力したときに有効か無効かを表示するテキストフィールドです。テキストフィールド検査 Widget は、たとえばユーザーが電子メールアドレスを入力するフォームに追加します。ユーザーが電子メールアドレスの「@」記号やピリオドを入力し忘れると、入力された情報が無効であることを示すメッセージが返されます。

次にテキストフィールド検査 Widget の例を示します。この例では有効状態を示しています。



A. テキストフィールド Widget、ヒントのアクティブ化 **B.** テキストフィールド Widget、有効状態 **C.** テキストフィールド Widget、無効状態 **D.** テキストフィールド Widget、必須状態

テキストフィールド検査 Widget には、有効、無効、必須などのいくつかの状態が含まれます。これらの状態のプロパティは、使用する検査結果に応じて、プロパティインスペクタで変更できます。検査が実行されるタイミングは、さまざまに設定できます。たとえば、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、入力したとき、フォームを送信しようとしたときなどに設定できます。

初期状態 ページがブラウザに読み込まれたとき、またはユーザーがフォームをリセットしたときの Widget の状態。

フォーカス状態 ユーザーが挿入ポイントを置いたときの Widget の状態。

有効状態 ユーザーが情報を正しく入力し、フォームを送信できる状態になったときの Widget の状態。

無効状態 ユーザーが無効な形式のテキストを入力したときの Widget の状態。たとえば年のフィールドに「2006」ではなく「06」と入力したときの状態です。

必須状態 ユーザーがテキストフィールドに必須テキストを入力しなかったときの Widget の状態。

最小文字数状態 ユーザーが入力した文字数がテキストフィールドの最小文字数に満たなかったときの Widget の状態。

最大文字数状態 ユーザーが入力した文字数がテキストフィールドの最大文字数を超えていたときの Widget の状態。

最小値状態 ユーザーが入力した値がテキストフィールドの最小値に満たなかったときの Widget の状態。整数、実数、およびデータタイプの検査に適用されます。

最大値状態 ユーザーが入力した値がテキストフィールドの最大値を超えていたときの Widget の状態。整数、実数、およびデータタイプの検査に適用されます。

ユーザーとのインタラクションの中で、テキストフィールド検査 Widget によってこれらのいずれかの状態が入力されると、実行時に Spry フレームワークロジックにより、この Widget の HTML コンテナに特定の CSS クラスが適用されます。たとえば、ユーザーがフォームを送信しようとしたときに必須テキストフィールドにテキストが入力されていない場合は、「値を指定する必要があります。」というエラーメッセージを表示するクラスが Widget に適用されます。エラーメッセージのスタイルと表示状態を制御するルールは、この Widget に対応する SpryValidationTextField.css という CSS ファイルに存在します。

テキストフィールド検査 Widget の初期設定 HTML は、通常はフォームの内部に配置され、テキストフィールドの <input> タグを囲むコンテナ タグで構成されます。テキストフィールド検査 Widget の HTML には、ドキュメントの head 内とこの Widget の HTML マークアップの後の script タグも含まれます。

テキストフィールド検査 Widget の動作およびコードの詳細については、
www.adobe.com/go/learn_dw_sprytextfield_jp を参照してください。

テキストフィールド検査 Widget の挿入

1 [挿入]-[Spry]-[Spry テキストフィールド検査] を選択します。

2 [Input タグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

注意： [挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用してテキストフィールド検査 Widget を挿入することもできます。

関連項目

581 ページの「アクセシビリティを考慮した HTML フォームの作成」

検査の種類とフォーマットの指定

テキストフィールド検査 Widget では、さまざまな種類の検査を指定できます。たとえば、クレジットカード番号を入力するテキストフィールドにはクレジットカード検査を指定できます。

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[タイプ] メニューから検査の種類を選択します。

3 該当する場合は、[フォーマット] ポップアップメニューでフォーマットを選択します。

ほとんどの検査では、検査が行われるために標準のフォーマットが必要になります。たとえばテキストフィールドに整数検査を適用した場合は、テキストフィールドに数字が入力されない限り検査は行われません。ただし検査の種類によっては、テキストフィールドに入力できるフォーマットの種類を選択できます。次の表は、プロパティインスペクタで利用できる検査の種類とフォーマットのリストです。

検査の種類	フォーマット
なし	特別なフォーマットは不要です。
整数	数字のみを入力できます。
電子メール	@ およびピリオド (.) を含み、ピリオドの前後に 1 文字以上の文字がある 電子メールアドレスのみを入力できます。
日付	フォーマットはさまざまです。プロパティインスペクタの [フォーマット] ポップアップメニューで選択します。
時間	フォーマットはさまざまです。プロパティインスペクタの [フォーマット] ポップアップメニューで選択します。「tt」は am/pm フォーマットを表し、「t」は a/p フォーマットを表します。
クレジットカード	フォーマットはさまざまです。プロパティインスペクタの [フォーマット] ポップアップメニューで選択します。すべてのクレジットカードを受け入れるようにすることも、特定の種類のクレジットカード (MasterCard、Visa など) のみを受け入れるようにすることもできます。. 4321 3456 4567 4567 のように、クレジットカード番号にスペースを入力することはできません。
ZIP コード	フォーマットはさまざまです。プロパティインスペクタの [フォーマット] ポップアップメニューで選択します。
電話番号	米国またはカナダの (000) 000-0000 フォーマット、またはカスタムフォーマットで入力できます。オプションでカスタムフォーマットを選択する場合は、[パターン] テキストボックスに 000.00(00) のようにフォーマットを入力します。
社会保障番号	社会保証番号を 000-00-0000 のフォーマットで入力できます。
通貨	1,000,000.00 または 1.000.000,00 のフォーマットで金額を入力できます。
実数 / 科学的記数法	整数 (1 など)、浮動値 (12.123 など)、科学的記数法による浮動値 (e を 10 の累乗数としたときの 1.212e+12、1.221e-12 など) など、さまざまな種類の数字を検査します。

検査の種類	フォーマット
IP アドレス	フォーマットはさまざまです。プロパティインスペクタの [フォーマット] ポップアップメニューで選択します。
URL	http://xxx.xxx.xxx または ftp://xxx.xxx.xxx のフォーマットで URL を入力できます
カスタム	カスタム検証の種類とフォーマットを指定できます。プロパティインスペクタにフォーマットのパターン (および、必要に応じてヒント) を入力します。

検査を実行するタイミングの指定

検査がどの時点で実行されるかを指定できます。指定できるのは、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、ユーザーが入力すると同時、またはユーザーがフォームの送信を試みたときのいずれかです。

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、検査をどの時点で行うかを指定するオプションを選択します。すべてのオプションを選択することも、いずれのオプションも選択しないこともできます。

ぼかし ユーザーがテキストフィールドの外側をクリックしたときに常に検査します。

修正 ユーザーがテキストフィールド内でテキストを変更したときに検査します。

送信 ユーザーがフォームの送信を試みたときに検査します。

最小および最大文字数の指定

このオプションは、なし、整数、電子メールアドレス、および URL の検査についてのみ選択可能になります。

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[最小文字数] または [最大文字数] ボックスに数字を入力します。たとえば、[最小文字数] ボックスに「3」と入力すると、ユーザーが 3 文字以上入力した場合にのみ入力が受け入れられます。

最小値および最大値の指定

このオプションは、整数、時刻、通貨、および実数 / 科学的記数法の検査についてのみ選択可能になります。

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[最小値] または [最大値] ボックスに数字を入力します。たとえば、[最小値] ボックスに「3」入力すると、ユーザーが 3 以上の値 (4、5、6 など) を入力した場合にのみ入力が受け入れられます。

デザインビューでの Widget の状態の表示

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[プレビューの状態] ポップアップメニューから表示する状態を選択します。たとえば、有効状態でこの Widget を表示する場合は [有効] を選択します。

テキストフィールドの必須状態の変更

初期設定では、Dreamweaver で挿入したテキストフィールド検査 Widget を Web ページでパブリッシュすると、ユーザー入力が必須になります。ただし、テキストフィールドの入力をオプションにすることもできます。

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[必須] チェックボックスを必要に応じてオンまたはオフにします。

テキストフィールドのヒントの作成

テキストフィールドのフォーマットは種類が非常に多いので、入力フォーマットをヒントで知らせるとユーザーに便利です。たとえば、電話番号検査が設定されたテキストフィールドでは、(000) 000-0000 の形式の電話番号のみが受け入れられます。ユーザーがブラウザでページを読み込んだときにテキストフィールドに正しいフォーマットが表示されるように、このサンプル電話番号をヒントとして入力することができます。

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[ヒント] テキストボックスにヒントを入力します。

無効な文字のブロック

テキストフィールド検査 Widget にユーザーが無効な文字を入力するのを防止できます。たとえば、整数検査が設定された Widget にこのオプションを選択すると、ユーザーがこのテキストフィールドに文字を入力しようとしても何も表示されません。

1 ドキュメントウィンドウでテキストフィールド検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[パターンを適用] オプションを選択します。

テキストフィールド検査 Widget のカスタマイズ

プロパティインスペクタでは、テキストフィールド検査 Widget の簡単な編集は可能ですが、カスタマイズされたスタイル設定タスクはサポートされません。テキストフィールド検査 Widget の CSS を変更すると、自由にスタイル設定した Widget を作成できます 高度なスタイル設定タスクの詳細については、
www.adobe.com/go/learn_dw_sprytextfield_custom_jp を参照してください。

以下のトピックに登場する CSS ルールは、すべて SpryValidationTextField.css ファイルに格納された初期設定ルールです。Spry テキストフィールド検査 Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダに SpryValidationTextField.css ファイルが保存されます。このファイルには、その Widget に適用されるさまざまなスタイルに関するコメント付き情報も格納されています。このため、このファイルを参照すると役に立ちます。

テキストフィールド検査 Widget に関するルールは、対応する CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用して Widget の CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

テキストフィールド検査 Widget のエラーメッセージのテキストのスタイル設定

テキストフィールド検査 Widget のエラーメッセージは、初期設定では、1 ピクセルのボーダーで囲まれた赤いテキストで表示されます。

❖ テキストフィールド検査 Widget のエラーメッセージのテキストスタイルを変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定プロパティを変更するか、または独自のテキストスタイルプロパティおよび値を追加します。

変更するテキスト	関連する CSS ルール	変更する関連プロパティ
エラーメッセージのテキスト	.textfieldRequiredState .textfieldRequiredMsg、 .textfieldInvalidFormatState .textfieldInvalidFormatMsg、 .textfieldMinValueState .textfieldMinValueMsg、 .textfieldMaxValueState .textfieldMaxValueMsg、 .textfieldMinCharsState .textfieldMinCharsMsg、 .textfieldMaxCharsState .textfieldMaxCharsMsg	color: #CC3333; border: 1px solid #CC3333;

テキストフィールド検査 Widget の背景色の変更

❖ さまざまな状態のテキストフィールド検査 Widget の背景色を変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定の背景色値を変更します。

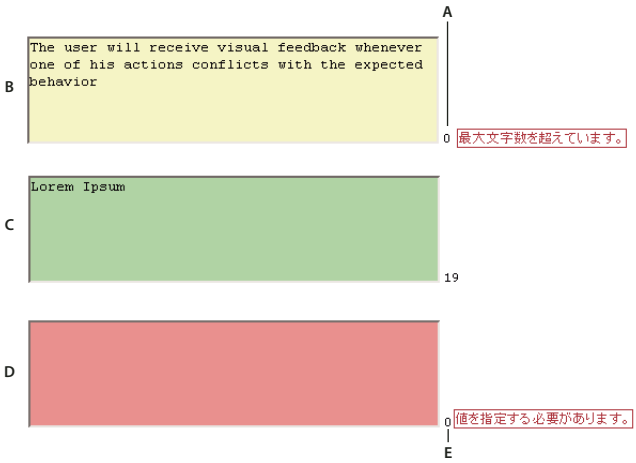
変更する色	関連する CSS ルール	変更する関連プロパティ
有効状態の Widget の背景色	.textfieldValidState input、input.textfieldValidState	background-color: #B8F5B1;
無効状態の Widget の背景色	input.textfieldRequiredState、.textfieldRequiredState input、input.textfieldInvalidFormatState、.textfieldInvalidFormatState input、input.textfieldMinValueState、.textfieldMinValueState input、input.textfieldMaxValueState、.textfieldMaxValueState input、input.textfieldMinCharsState、.textfieldMinCharsState input、input.textfieldMaxCharsState、.textfieldMaxCharsState input	background-color: #FF9F9F;
フォーカスがある Widget の背景色	.textfieldFocusState input、input.textfieldFocusState	background-color: #FFFFCC;

テキスト領域検査 Widget の操作

テキスト領域検査 Widget について

Spry テキスト領域検査 Widget は、ユーザーが文をいくつか入力したときに有効か無効かを表示するテキスト領域です。必須フィールドであるテキスト領域にユーザーが何もテキストを入力していない場合は、値が必須であることを示すメッセージが返されます。

次にテキスト領域検査 Widget の例を示します。この例では有効状態を示しています。



A. 入力可能な残り文字数カウンタ **B.** フォーカスがあるときのテキスト領域 Widget、最大文字数状態 **C.** フォーカスがあるときのテキスト領域 Widget、有効状態 **D.** テキスト領域 Widget、必須状態 **E.** 入力文字数カウンタ

テキスト領域検査 Widget には、有効、無効、必須などのいくつかの状態が含まれます。これらの状態のプロパティは、使用する検査結果に応じて、プロパティインスペクタで変更できます。検査が実行されるタイミングは、さまざまに設定できます。たとえば、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、入力したとき、フォームを送信しようとしたときなどに設定できます。

初期状態 ページがブラウザに読み込まれたとき、またはユーザーがフォームをリセットしたときの Widget の状態。

フォーカス状態 ユーザーが挿入ポイントを置いたときの Widget の状態。

有効状態 ユーザーが情報を正しく入力し、フォームを送信できる状態になったときの Widget の状態。

必須状態 ユーザーがテキストを入力していないときの Widget の状態。

最小文字数状態 ユーザーが入力した文字数がテキスト領域の最小文字数に満たなかったときの Widget の状態。

最大文字数状態 ユーザーが入力した文字数がテキスト領域の最大文字数を超えていたときの Widget の状態。

ユーザーとのインタラクションの中で、テキスト領域検査 Widget によってこれらのいずれかの状態が入力されると、実行時に Spry フレームワークロジックにより、この Widget の HTML コンテナに特定の CSS クラスが適用されます。たとえば、ユーザーがフォームを送信しようとしたときにテキスト領域にテキストが入力されていない場合は、「値を指定する必要があります。」というエラーメッセージを表示するクラスが Widget に適用されます。エラーメッセージのスタイルと表示状態を制御するルールは、この Widget に対応する SpryValidationTextArea.css という CSS ファイルに存在します。

テキスト領域検査 Widget の初期設定 HTML は、通常はフォームの内部に配置され、テキスト領域の <textarea> タグを囲むコンテナ タグで構成されます。テキスト領域検査 Widget の HTML には、ドキュメントの head 内とこの Widget の HTML マークアップの後の script タグも含まれます。

テキスト領域検査 Widget の動作およびコードの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_sprytextarea_jp を参照してください。

テキスト領域検査 Widget の挿入

1 [挿入]-[Spry]-[Spry テキストエリア検査] を選択します。

2 [Input タグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

注意：[挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用してテキスト領域検査 Widget を挿入することもできます。

関連項目

581 ページの「アクセシビリティを考慮した HTML フォームの作成」

検査を実行するタイミングの指定

検査がどの時点で実行されるかを指定できます。指定できるのは、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、ユーザーが入力すると同時、またはユーザーがフォームの送信を試みたときのいずれかです。

1 ドキュメントウィンドウでテキスト領域検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、検査をどの時点で行うかを指定する [検査日] オプションを選択します。すべてのオプションを選択することも、いずれのオプションも選択しないこともできます。

ぼかし ユーザーがテキストフィールドの外側をクリックしたときに常に検査します。

修正 ユーザーがテキストフィールド内でテキストを変更したときに検査します。

送信 ユーザーがフォームの送信を試みたときに検査します。

最小および最大文字数の指定

1 ドキュメントウィンドウでテキスト領域検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[最小文字数] または [最大文字数] ボックスに数字を入力します。たとえば、[最小文字数] ボックスに「20」と入力すると、ユーザーがそのテキスト領域に 20 文字以上入力した場合にのみ入力が受け入れられます。

文字カウンタの追加

ユーザーが何文字入力したかを知ることができる文字カウンタ、またはそのテキスト領域の入力文字数が残り何文字かを知ることができる文字カウンタを追加できます。初期設定では、文字カウンタを追加すると、Widget の右下隅にカウンタが表示されます。

1 ドキュメントウィンドウでテキスト領域検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[文字数カウント] または [残りの文字数] オプションを選択します。

注意：[残りの文字数] オプションは、最大文字数を設定してある場合にのみ選択可能になります。

デザインビューでの Widget の状態の表示

1 ドキュメントウィンドウでテキスト領域検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[プレビューの状態] ポップアップメニューから表示する状態を選択します。たとえば、有効状態でこの Widget を表示する場合は [有効] を選択します。

テキスト領域の必須状態の変更

初期設定では、Dreamweaver で挿入したテキスト領域検査 Widget を Web ページでパブリッシュすると、ユーザー入力が必須になります。ただし、テキスト領域の検査をオプションにすることもできます。

1 ドキュメントウィンドウでテキスト領域検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[必須] チェックボックスを必要に応じてオンまたはオフにします。

テキスト領域のヒントの作成

入力する情報の種類をユーザーに知らせるため、テキスト領域に「ここに説明を入力します」などのヒントを追加できます。ユーザーがブラウザでページを読み込むと、テキスト領域にこのヒントが表示されます。

1 ドキュメントウィンドウでテキスト領域検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[ヒント] テキストボックスにヒントを入力します。

余分な文字のブロック

ユーザーが、テキスト領域検査 Widget の最大文字数を超える文字を入力するのを防止できます。たとえば、最大文字数が 20 文字に設定された Widget にこのオプションを選択すると、ユーザーはこのテキスト領域に 20 字を超えて入力できなくなります。

1 ドキュメントウィンドウでテキスト領域検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[余分な文字をブロック] オプションを選択します。

テキスト領域検査 Widget のカスタマイズ

プロパティインスペクタでは、テキスト領域検査 Widget の簡単な編集は可能ですが、カスタマイズされたスタイル設定タスクはサポートされません。テキスト領域検査 Widget の CSS を変更すると、自由にスタイル設定した Widget を作成できます 高度なスタイル設定タスクの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_sprytextarea_custom_jp を参照してください。

以下のトピックに登場する CSS ルールは、すべて SpryValidationTextArea.css ファイルに格納された初期設定ルールです。Spry テキスト領域検査 Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダに SpryValidationTextArea.css ファイルが保存されます。このファイルには、その Widget に適用されるさまざまなスタイルに関するコメント付き情報も格納されています。このため、このファイルを参照すると役に立ちます。

テキスト領域検査 Widget に関するルールは、対応する CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用して Widget の CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

テキスト領域検査 Widget のエラーメッセージのテキストのスタイル設定

テキスト領域検査 Widget のエラーメッセージは、初期設定では、1 ピクセルのボーダーで囲まれた赤いテキストで表示されます。

❖ テキスト領域検査 Widget のエラーメッセージのテキストスタイルを変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定プロパティを変更するか、または独自のテキストスタイルプロパティおよび値を追加します。

変更するテキスト	関連する CSS ルール	変更する関連プロパティ
エラーメッセージのテキスト	.textareaRequiredState .textareaRequiredMsg、 .textareaMinCharsState .textareaMinCharsMsg、 .textareaMaxCharsState .textareaMaxCharsMsg	color: #CC3333; border: 1px solid #CC3333;

テキスト領域検査 Widget の背景色の変更

❖ さまざまな状態のテキスト領域検査 Widget の背景色を変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定の背景色値を変更します。

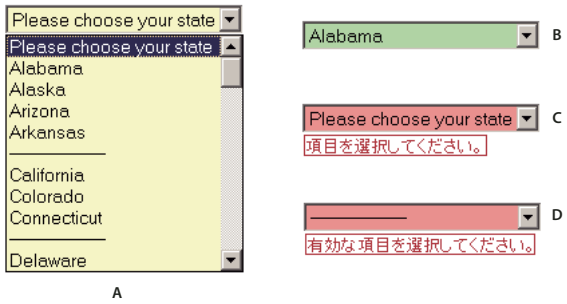
変更する背景色	関連する CSS ルール	変更する関連プロパティ
有効状態の Widget の背景色	.textareaValidState textarea、 textarea.textareaValidState	background-color: #B8F5B1;
無効状態の Widget の背景色	textarea.textareaRequiredState、 .textareaRequiredState textarea、 textarea.textareaMinCharsState、 .textareaMinCharsState textarea、 textarea.textareaMaxCharsState、 .textareaMaxCharsState textarea	background-color: #FF9F9F;
フォーカスがある Widget の背景色	.textareaFocusState textarea、 textarea.textareaFocusState	background-color: #FFFFCC;

選択検査 Widget の操作

選択検査 Widget について

Spry 選択検査 Widget は、ユーザーが選択すると有効状態または無効状態が表示されるドロップダウンメニューです。たとえば、ある選択検査 Widget に含まれるリストが、横線で区切ってグループ化されているとします。このときユーザーが誤って区切りの横線を選択すると、その選択が無効であることを示すメッセージが返されます。

次に、展開された選択検査 Widget の例と、さまざまな状態の折りたたまれた選択検査 Widget の例を示します。



A. フォーカスがあるときの選択検査 Widget **B.** 選択 Widget、有効状態 **C.** 選択 Widget、必須状態 **D.** 選択 Widget、無効状態

選択検査 Widget には、有効、無効、必須などのいくつかの状態が含まれます。これらの状態のプロパティは、使用する検査結果に応じて、プロパティインスペクタで変更できます。検査が実行されるタイミングは、さまざまに設定できます。たとえば、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、選択したとき、フォームを送信しようとしたときなどに設定できます。

初期状態 ページがブラウザに読み込まれたとき、またはユーザーがフォームをリセットしたときの Widget の状態。

フォーカス状態 ユーザーがクリックしたときの Widget の状態。

有効状態 ユーザーが有効な項目を選択し、フォームを送信できる状態になったときの Widget の状態。

無効状態 ユーザーが無効な項目を選択したときの Widget の状態。

必須状態 ユーザーが有効な項目を選択し忘れたときの Widget の状態。

ユーザーとのインタラクションの中で、選択検査 Widget によってこれらのいずれかの状態が入力されると、実行時に Spry フレームワークロジックにより、この Widget の HTML コンテナに特定の CSS クラスが適用されます。たとえば、ユーザーがフォームを送信しようとしてメニューから項目が選択されていなかった場合に、「項目を選択してください。」というエラーメッセージが表示されるように Widget にクラスが適用されます。エラーメッセージのスタイルと表示状態を制御するルールは、この Widget に対応する SpryValidationSelect.css という CSS ファイルに存在します。

選択検査 Widget の初期設定 HTML は、通常はフォームの内部に配置され、テキスト領域の <select> タグを囲むコンテナ タグで構成されます。選択検査 Widget の HTML には、ドキュメントの head 内とこの Widget の HTML マークアップの後の script タグも含まれます。

選択検査 Widget の動作およびコードの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_spryselect_jp を参照してください。

選択検査 Widget の挿入

1 [挿入]-[Spry]-[Spry 選択検査] を選択します。

2 [Input タグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

3 コードビューで、メニュー項目と値を含むオプションタグを追加します。Dreamweaver ではこれは自動的には行われません。詳細については、前のトピックを参照してください。

注意： [挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用して選択検査 Widget を挿入することもできます。

関連項目

581 ページの「アクセシビリティを考慮した HTML フォームの作成」

検査を実行するタイミングの指定

検査がどの時点で実行されるかを指定できます。指定できるのは、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、ユーザーが入力すると同時、またはユーザーがフォームの送信を試みたときのいずれかです。

1 ドキュメントウィンドウで、選択検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、検査をどの時点で行うかを指定するオプションを選択します。すべてのオプションを選択することも、いずれのオプションも選択しないこともできます。

ぼかし ユーザーが Widget の外側をクリックしたときに常に検査します。

修正 ユーザーが選択したときに検査します。

送信 ユーザーがフォームの送信を試みたときに検査します。

デザインビューでの Widget の状態の表示

1 ドキュメントウィンドウで、選択検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[プレビューの状態] ポップアップメニューから表示する状態を選択します。たとえば、有効状態でこの Widget を表示する場合は [有効] を選択します。

空白値の禁止または許可

初期設定では、Dreamweaver で挿入した選択検査 Widget を Web ページでパブリッシュすると、値を関連付けられたメニュー項目の選択が必須になります。ただし、このオプションを無効にすることもできます。

1 ドキュメントウィンドウで、選択検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[Do Not Allow Blank Values] チェックボックスを必要に応じてオンまたはオフにします。

無効な値の指定

関連付けられたメニュー項目をユーザーが選択すると無効とされる値を指定できます。たとえば、無効な値として -1 を指定し、その値をオプションタグに割り当てると、ユーザーがメニュー項目を選択したときに Widget はエラーメッセージを返します。

```
<option value="-1"> ------------------- </option>
```

1 ドキュメントウィンドウで、選択検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[無効な値] ボックスに数値を入力します。

選択検査 Widget のカスタマイズ

プロパティインスペクタでは、選択検査 Widget の簡単な編集は可能ですが、カスタマイズされたスタイル設定タスクはサポートされません。選択検査 Widget の CSS を変更すると、自由にスタイル設定した Widget を作成できます 高度なスタイル設定タスクの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_spryselect_custom_jp を参照してください。

以下のトピックに登場する CSS ルールは、すべて SpryValidationSelect.css ファイルに格納された初期設定ルールです。Spry 選択検査 Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダに SpryValidationSelect.css ファイルが保存されます。このファイルには、その Widget に適用されるさまざまなスタイルに関するコメント付き情報も格納されています。このため、このファイルを参照すると役に立ちます。

選択検査 Widget に関するルールは、対応する CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用して Widget の CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

選択検査 Widget のエラーメッセージのテキストのスタイル設定

選択検査 Widget のエラーメッセージは、初期設定では、1 ピクセルのボーダーで囲まれた赤いテキストで表示されます。

❖ 選択検査 Widget のエラーメッセージのテキストスタイルを変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定プロパティを変更するか、または独自のテキストスタイルプロパティおよび値を追加します。

スタイルを設定するテキスト	関連する CSS ルール	変更する関連プロパティ
エラーメッセージのテキスト	.selectRequiredState .selectRequiredMsg、.selectInvalidState .selectInvalidMsg	color: #CC3333; border: 1px solid #CC3333;

選択検査 Widget の背景色の変更

❖ さまざまな状態の選択検査 Widget の背景色を変更するには、次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定の背景色値を変更します。

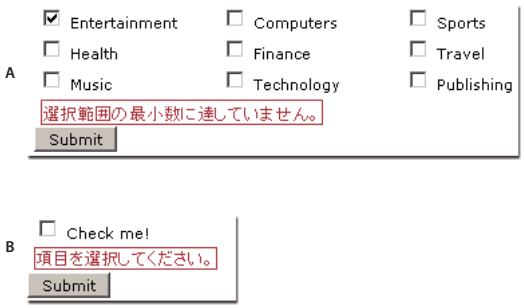
変更する背景色	関連する CSS ルール	変更する関連プロパティ
有効状態の Widget の背景色	.selectValidState select、 select.selectValidState	background-color: #B8F5B1;
無効状態の Widget の背景色	select.selectRequiredState、 .selectRequiredState select、 select.selectInvalidState、 .selectInvalidState select	background-color: #FF9F9F;
フォーカスがある Widget の背景色	.selectFocusState select、 select.selectFocusState	background-color: #FFFFCC;

チェックボックス検査 Widget の操作

チェックボックス検査 Widget について

Spry チェックボックス検査 Widget は、ユーザーが HTML フォーム内のあるチェックボックスを選択したとき、または選択しなかったときに、有効状態または無効状態を表示する (単独またはグループの) チェックボックスです。たとえば、ユーザーが 3 つのオプションを選択する必要があるフォームにチェックボックス検査 Widget を追加します。ユーザーが 3 つのオプションを選択していない場合は、最小選択数が満たされていないことを示すメッセージが返されます。

次にチェックボックス検査 Widget の例を示します。この例では有効状態を示しています。



A. チェックボックス検査 Widget グループ、最小選択数状態 **B.** チェックボックス検査 Widget、必須状態

チェックボックス検査 Widget には、有効、無効、必須などのいくつかの状態が含まれます。これらの状態のプロパティは、使用する検査結果に応じて、プロパティインスペクタで変更できます。検査が実行されるタイミングは、さまざまに設定できます。たとえば、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、選択したとき、フォームを送信しようとしたときなどに設定できます。

初期状態 ページがブラウザに読み込まれたとき、またはユーザーがフォームをリセットしたときの Widget の状態。

有効状態 ユーザーが適切な数のオプションを選択し、フォームを送信できるようになったときの Widget の状態。

必須状態 ユーザーが必要な数のオプションを選択し忘れたときの Widget の状態。

最小選択数状態 ユーザーが選択したチェックボックスの数が必要最小数に満たないときの Widget の状態。

最大選択数状態 ユーザーが選択したチェックボックスの数が許容最大数を超えているときの Widget の状態。

ユーザーとのインタラクションの中で、チェックボックス検査 Widget によってこれらのいずれかの状態が入力されると、実行時に Spry フレームワークロジックにより、この Widget の HTML コンテナに特定の CSS クラスが適用されます。たとえば、ユーザーがフォームをオプションを選択せずに送信しようとすると、「項目を選択してください。」というエラーメッセージを表示するクラスが Widget に適用されます。エラーメッセージのスタイルと表示状態を制御するルールは、この Widget に対応する SpryValidationCheckbox.css という CSS ファイルに存在します。

チェックボックス検査 Widget の初期設定 HTML は、通常はフォームの内部に配置され、チェックボックスの <input type="checkbox"> タグを囲むコンテナ タグで構成されます。チェックボックス検査 Widget の HTML には、ドキュメントの head 内とこの Widget の HTML マークアップの後の script タグも含まれます。

チェックボックス検査 Widget の動作およびコードの詳細については、
www.adobe.com/go/learn_dw_sprycheckbox_jp を参照してください。

チェックボックス検査 Widget の挿入

1 [挿入]-[Spry]-[Spry チェックボックス検査] を選択します。

2 [Input タグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

注意：[挿入] バーの [Spry] カテゴリを使用してチェックボックス検査 Widget を挿入することもできます。

関連項目

581 ページの「アクセシビリティを考慮した HTML フォームの作成」

検査を実行するタイミングの指定

検査がどの時点で実行されるかを指定できます。指定できるのは、ユーザーが Widget の外側をクリックしたとき、ユーザーが選択すると同時、またはユーザーがフォームの送信を試みたときのいずれかです。

1 ドキュメントウィンドウで、チェックボックス検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、検査をどの時点で行うかを指定するオプションを選択します。すべてのオプションを選択することも、いずれのオプションも選択しないこともできます。

ぼかし ユーザーがチェックボックスの外側をクリックしたときに常に検査します。

修正 ユーザーが選択したときに検査します。

送信 ユーザーがフォームの送信を試みたときに検査します。

選択オプション数の範囲の指定

初期設定では、チェックボックス検査 Widget が初期設定で必須になるように設定されます。ただし、ページに複数のチェックボックスを挿入する場合は、選択オプション数の範囲を指定できます。たとえば、1 つのチェックボックス検査 Widget の タグ内に 6 つのチェックボックスがあり、ユーザーに 3 つ以上のチェックボックスを選択させたい場合は、Widget 全体にそのような環境設定を指定できます。

1 ドキュメントウィンドウで、チェックボックス検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[範囲を適用] オプションを選択します。

3 ユーザーに選択させたい最小または最大チェックボックス数 (またはその両方) を入力します。

デザインビューでの Widget の状態の表示

1 ドキュメントウィンドウで、チェックボックス検査 Widget を選択します。

2 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、[Display state] ポップアップメニューから表示する状態を選択します。たとえば、初期状態の Widget を表示する場合は [初期] を選択します。

チェックボックス検査 Widget のエラーメッセージのカスタマイズ

チェックボックス検査 Widget のエラーメッセージは、初期設定では、1 ピクセルのボーダーで囲まれた赤いテキストで表示されます。チェックボックス検査 Widget の CSS を変更すると、自由にスタイル設定した Widget を作成できます 高度なスタイル設定タスクの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_sprycheckbox_custom_jp を参照してください。

1 SpryValidationCheckbox.css ファイルを開きます。

Spry チェックボックス検査 Widget を作成すると、Dreamweaver によってサイトの SpryAssets フォルダに SpryValidationCheckbox.css ファイルが保存されます。このファイルには、その Widget に適用されるさまざまなスタイルに関するコメント付き情報も格納されています。このため、このファイルを参照すると役に立ちます。

2 次の表を使用して適切な CSS ルールを見つけ、初期設定プロパティを変更するか、または独自のテキストスタイルプロパティおよび値を追加します。

スタイルを設定するテキスト	関連する CSS ルール	変更する関連プロパティ
エラーメッセージのテキスト	.checkboxRequiredState .checkboxRequiredMsg、 .checkboxMinSelectionsState .checkboxMinSelectionsMsg、 .checkboxMaxSelectionsState .checkboxMaxSelectionsMsg	color: #CC3333; border: 1px solid #CC3333;

チェックボックス検査 Widget に関するルールは、対応する CSS ファイルで直接編集することもできますが、[CSS スタイル] パネルを使用して Widget の CSS を編集することもできます。[CSS スタイル] パネルでは、Widget のさまざまな部分に割り当てられた CSS クラスを見つけやすくなっています。特に [現在] モードがこの点に優れています。

関連項目

120 ページの「[現在] モードでの [CSS スタイル] パネル」

Spry でのデータの表示

Spry データセットについて

Spry フレームワークでは、データオブジェクトを挿入することにより、ユーザーがブラウザウィンドウからすばやく動的にページを操作できるようになります。たとえば、ユーザーがソートできるテーブルを挿入することや、ページ全体を更新せずにページ上の別の場所のデータ更新をトリガする Spry 動的テーブルオブジェクトを挿入することができます。

これを行うには、最初に該当するデータを含む XML ソースファイル (「Spry データセット」) を Dreamweaver で特定し、次にこのデータを表示するための Spry データオブジェクトを挿入します。ユーザーがブラウザでページを開くと、行と列を含む標準テーブルに似た外観を持つ、平面化された配列の XML データとしてデータセットがロードされます。

たとえば、XML ファイルに次の XML データ構造があるとします。

```
<products>
    <product>
        <name>Adobe Photoshop CS2</name>
        <category>Digital Imaging</category>
        <boximage>images/photoshop.gif</boximage>
        <descheader>The professional standard in desktop digital imaging</descheader>
        <desc>Adobe Photoshop CS2 software, the professional image-editing ...</desc>
        </product>

    <product>
        <name>Adobe Illustrator CS2</name>
        <category>Print Publishing</category>
        <boximage>images/illustrator.gif</boximage>
        <descheader>Vector graphics reinvented</descheader>
        <desc>Adobe Illustrator CS2 software gives you new creative freedom ...</desc>
    </product>
</products>
```

<product> を繰り返しエレメントとして選択すると、平面化された配列の XML データが、データセット内の製品エレメント (<name> など) ごとのデータ列になります。

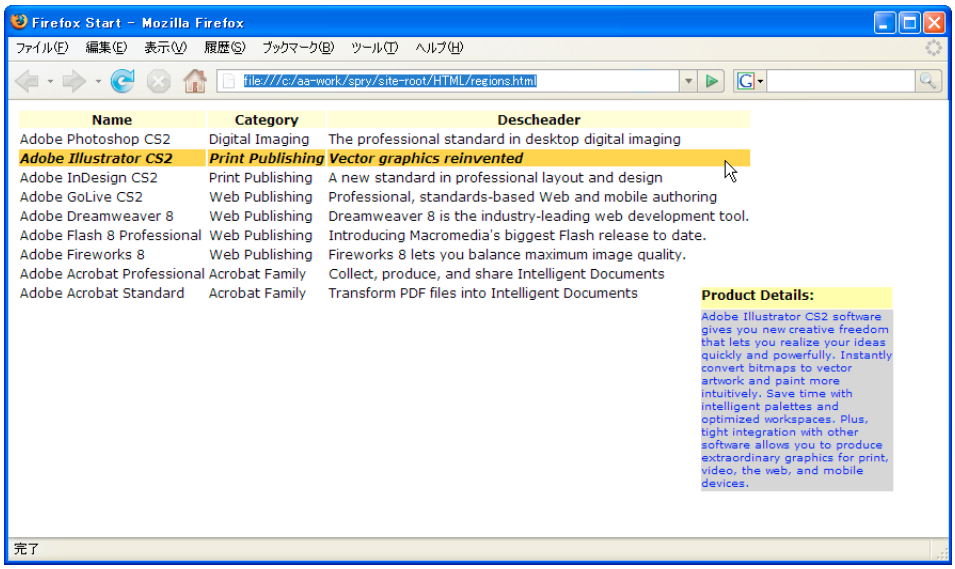
name	category	boximage	descheader	desc
Adobe Photosho...	Digital Imaging	images/photosho...	The professional ...	Adobe Photosho...
Adobe Illustrator ...	Print Publishing	images/illustrator...	Vector graphics r...	Adobe Illustrator ...
Adobe InDesign ...	Print Publishing	images/indesign.gif	A new standard i...	Join the growing ...
Adobe GoLive CS2	Web Publishing	images/golive.gif	Professional, sta...	Adobe GoLive CS...
Adobe Dreamwe...	Web Publishing	images/dreamwe...	Dreamweaver 8 i...	With Dreamweav...
Adobe Flash 8 Pr...	Web Publishing	images/flash_pro...	Introducing Macr...	Flash Professiona...
Adobe Fireworks 8	Web Publishing	images/fireworks...	Fireworks 8 lets y...	Create animated ...
Adobe Acrobat P...	Acrobat Family	images/acrobat_...	Collect, produce,...	Adobe Acrobat 7...
Adobe Acrobat S...	Acrobat Family	images/acrobat_...	Transform PDF fil...	Adobe Acrobat 7...

このデータをさまざまな方法で表示するオブジェクトを挿入できます。次の例に、3 つのエレメントのみを含む Web ページ上のテーブルを作成する方法を示します。

名前	カテゴリ	説明
Adobe Photoshop CS2	デジタル画像加工	プロが使用するデスクトップデジタル画像加工ソフトのスタンダード。
Adobe Illustrator CS2	印刷出版	ベクターグラフィックを強化。

Spry では、このようなテーブルを Dreamweaver ページに容易に追加できます。特定の列をソート可能にして、ユーザーが列をクリックするだけで並べ替えられるようにすることもできます。

ページに動的テーブルと独立した領域 (Spry 詳細領域) を挿入し、1 つの製品の <desc> エレメント (詳細な製品説明) のみが表示される詳細領域に、データをバインドすることもできます。動的テーブルと詳細領域の両方の領域にデータをバインドした場合、ユーザーが動的テーブルのある行をクリックすると、詳細領域の製品詳細が更新されます。



ユーザーがテーブル内の別の製品をクリックすると、詳細領域が更新されてその製品の情報が表示されます。テーブルのソートも詳細領域の更新も、ブラウザでページ全体を更新せずに行うことができます。

Spry データオブジェクトは、さまざまな方法で Dreamweaver ページに組み込むことができます。一部の方法では、Spry フレームワークに関する詳細な知識が必要です。フレームワークの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_spryframework_jp を参照してください。特に Spry データセットの詳細にいては、www.adobe.com/go/learn_dw_sprydataset_jp を参照してください。

動的 Spry テーブルについて

Spry データの最も一般的な使用法の 1 つは、ユーザーの操作に反応して他のページデータを動的に更新する HTML テーブルを作成することです。たとえば、テーブルに表示された製品の 1 つをユーザーが選択すると、ページ全体を更新しなくても Dreamweaver によって直ちにページの別の場所が更新され、そこにその製品に関する詳細が表示されます。

これらをマスター動的領域と詳細動的領域と呼びます。通常、ページ上のある領域 (マスターテーブル) にはデータセットから簡略化された列のセットが表示され、別の領域 (詳細領域) には選択されたレコードに関するより詳細な情報が表示されます。詳細領域はマスターテーブルに依存するため、マスターテーブルのデータに行った変更は、詳細領域のデータに反映されます。

動的領域を操作するときは、毎回マスターテーブルと詳細領域の 2 つの領域を作成します。また、マスターテーブルを作成するときに詳細領域をバインドするため、[行がクリックされたときに詳細領域を更新] オプションを選択する必要があります。

ユーザーがマスターテーブルの行を選択すると、対象となった現在の行が特定され、関連付けられた詳細領域に表示されるデータが動的に更新されます。

Spry XML データセットの定義

HTML ページに Spry 領域、テーブル、またはリストを追加するには、操作するデータを特定する必要があります。

注意：テスト用の XML データセットがまだない場合は、www.adobe.com/go/learn_dw_spryframework_jp の Spry アセットに含まれるサンプルデータセットを利用できます。

1 [挿入]-[Spry]-[Spry XML データセット] を選択します。

[挿入] バーの [Spry] カテゴリにある [Spry XML データセット] ボタンをクリックする方法もあります。

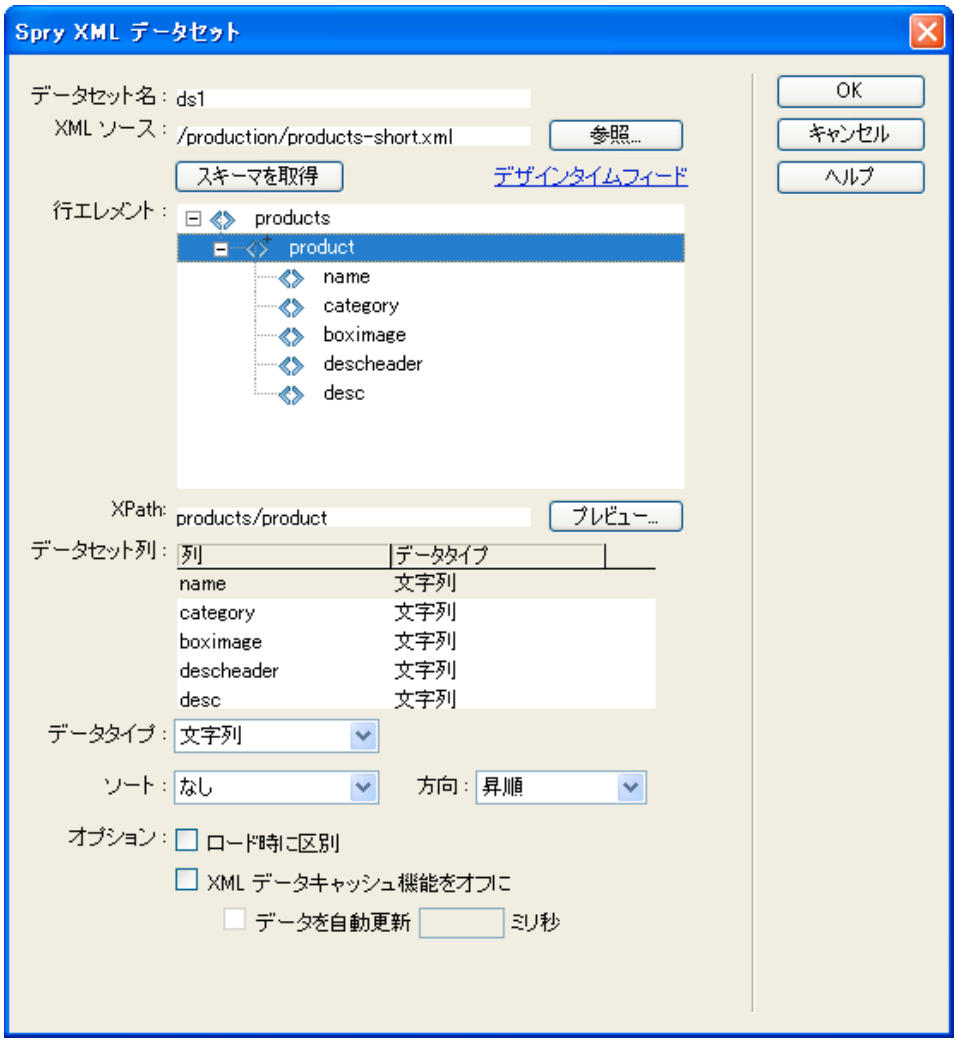
2 初期設定の Spry データセット名「ds1」をそのまま使用するか、よりわかりやすい名前を入力します。

3 操作する XML データファイルがある場合は、[参照] ボタンをクリックして選択します。

4 テストサーバーのサンプルフィードを使用してページをデザインする場合は、[デザインタイムフィード] リンクをクリックします。

5 使用するデータセットを特定してから、[スキーマを取得] ボタンをクリックして [行エレメント] パネルに値を取り込みます。このパネルでは、繰り返すエレメント (小さなプラス (+) 記号が付きます) と、他のエレメントに従属するエレメント (インデントされます) を見分けることができます。

6 [行エレメント] パネルで、表示するデータを含むエレメントを選択します。通常これは、<name>、<category>、<descheader> などの複数の従属フィールドを持つ、<product> などの繰り返しノードです。



7 [XPath] テキストボックスに、選択されたノードが XML ソースファイルのどこに存在するのかを示す式が表示されます。たとえば、上の図のようなスキーマを持つデータセットを使用し、<product> 繰り返しノードを選択すると、[XPath] テキストボックスに「products/product」と表示されます。これは、<products> データセット内の繰り返し <product> ノードに存在するデータが表示されることを示します。

注意：XPath (XML Path Language) は、XML ドキュメントの一部に対応するシンタックスです。SQL 言語がデータベースのクエリーに使用されるように、ほとんどの場合、XPath は XML データのクエリー言語として使用されます。XPath の詳細については、W3C Web サイト (www.w3.org/TR/xpath) の XPath 言語仕様を参照してください。

8 データがブラウザでどのように表示されるかを確認するには、[プレビュー] ボタンをクリックします。これにより、XML データファイルの最初の 20 行が、1 エレメントが 1 列に対応する状態で表示されます。

9 フィールドを特定のタイプ (数値型など) として定義すると、データ入力の検証やソート順序の定義に役立つ場合があります。エレメントのデータタイプを変更するには、[データセット列] パネルでエレメントを選択し、[データタイプ] メニューから値を選択します。

10 データがロードされたときに自動的にソートされるようにするには、[ソート] メニューからエレメントを選択します。ソート順序が異なるソート可能な Spry テーブルを後から挿入すると、そちらのソート順序が優先されます。

11 実行するソートのタイプを指定するため、[方向] メニューから [昇順] または [降順] を選択します。

12 列が重複しないようにするには、[ロード時に区別] オプションを選択します。

13 データをサーバーから直接ロードする場合は、[Turn XML Caching Off] オプションを選択します。初期設定では、パフォーマンス向上のため、Spry XML データセットはユーザーのコンピュータのローカルキャッシュにロードされます。ただし高度に動的なデータがある場合、この方法には利点がありません。

14 [データを自動更新] を選択し、ミリ秒単位で値を入力します。このオプションを選択すると、このデータセットでは、指定された間隔でサーバーからの XML データが更新されます。これは、データが頻繁に変化する場合に役立ちます。

15 [OK] をクリックして、このデータセットをページに関連付けます。

重要：Spry データセットを定義すると、Spry アセットの xpath.js および SpryData.js files を識別するため、ファイルにさまざまなコードの行が追加されます。このコードを削除しないでください。削除した場合、Spry データセット関数が機能しなくなります。

デザインタイムフィードの使用

まだ作成中のデータで作業する場合は、デザインタイムフィードが役立つことがあります。たとえば、サーバーデベロッパーがデータベースをまだ仕上げており、XML データファイルの進行に追い付いていない場合、テストバージョンのファイルを使用することにより、データベースの作成から独立してページをデザインできます。

デザインタイムフィードを使用するには、[サイト定義] ダイアログボックスの [テストサーバー] カテゴリにすべての情報を入力する必要があります。

❖ デザインタイムフィードを取得するには、ファイルの場所を探して選択し、[OK] をクリックします。このダイアログボックスにアクセスするには、[Define Spry Data Set] ダイアログボックスのリンクをクリックします。

注意：最終的なファイルをアップロードするとき、サーバーファイルを使用するため、データセットファイルの場所を忘れずに変更してください。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

Spry 領域の作成

Spry フレームワークには 2 つのタイプの領域があります。1 つは、テーブルやリピートリストなどのデータオブジェクトを囲む Spry 領域です。もう 1 つは、Dreamweaver ページ上のデータの動的更新を可能にするマスターテーブルオブジェクトと共に使用される Spry 詳細領域です。

すべての Spry データオブジェクトは、Spry 領域に含まれる必要があります。ページに Spry 領域を追加する前に Spry データオブジェクトを追加しようとすると、Spry 領域を追加するように求めるメッセージが Dreamweaver によって表示されます。初期設定では、Spry 領域は HTML コンテナ内に存在します。Spry 領域は、テーブルを追加する前に追加することも、テーブルまたはリピートリストを挿入するときに自動で挿入することも、既存のテーブルまたはリピートリストオブジェクトを囲むように挿入することもできます。

詳細領域を追加する場合は、通常、最初にマスターテーブルオブジェクトを追加し、[Update Detail Regions] オプションを選択します。詳細領域に固有の値は、[Spry 領域の挿入] ダイアログボックスの [タイプ] オプションのみです。

1 [挿入]-[Spry]-[Spry 領域] を選択します。

[挿入] バーの [Spry] カテゴリにある [Spry 領域] ボタンをクリックする方法もあります。

2 オブジェクトコンテナの場合は、 または オプションを選択します。初期設定では コンテナを使用します。

3 次のようなオプションがあります。

- Spry 領域を作成する場合は、挿入する領域のタイプとして [領域] (初期設定) を選択します。
- Spry 詳細領域を作成する場合は、[詳細領域] を選択します。詳細領域を使用するのは、別の Spry 領域が変更されるのに合わせて更新される動的データをバインドする場合に限られます。

重要：マスターテーブル領域から、別の に詳細領域を挿入する必要があります。コードビューを使用して、挿入ポイントを正確に置く必要がある場合があります。

4 メニューから Spry データセットを選択します。

5 オブジェクトに定義された領域を作成または変更する場合は、オブジェクトを選択して次のいずれかを選択します。

選択範囲を囲む オブジェクトの周囲に新しい領域を配置します。

選択範囲を置き換え オブジェクトの既存の領域を置き換えます。

6 [OK] をクリックするとページに領域プレースホルダーが挿入され、「ここに Spry 領域のコンテンツを挿入」というテキストが Dreamweaver によって表示されます。このプレースホルダーテキストは、テーブルやリピートリストなどの Spry データオブジェクトと置き換えることや、[バインディング] パネルから動的データと置き換えることができます。

7 プレースホルダーテキストを Spry データオブジェクト (Spry テーブルなど) と置き換えるには、[挿入] バーの [Spry] カテゴリにある適切な Spry データオブジェクトボタンをクリックします。

8 プレースホルダーテキストを動的データと置き換えるには、次のいずれかの操作を行います。

- [バインディング] パネルからエレメントを選択テキストの上部にドラッグします。

注意：[バインディング] パネルには、組み込みの Spry エレメントである ds_RowID、ds_CurrentRowID、および ds_RowCount も表示されています。これらは、動的詳細領域の更新方法を定義するときにユーザーがクリックした行を定義するために使用されます。

- コードビューで、エレメントのコードを直接入力します。{dataset-name::element-name} のフォーマットを使用します。たとえば、{ds1::category}. または {dsProducts::desc} のようにします。ファイル内で 1 つのデータセットのみを使用している場合、またはその領域に対して定義した同じデータセットからのデータエレメントを使用している場合は、データセット名を省略して単に {category} または {desc} と書くことができます。

領域のコンテンツを定義するために使用する方法にかかわらず、HTML コードには次の行が追加されます。

```
<div spry:region="ds1">{name}{category}</div>
<div spry:region="ds2">{ds1::name}{ds1::descheader}</div>
```

Spry テーブルの作成

Spry テーブルには 2 つのタイプがあります。1 つは単純なテーブルで、もう 1 つは Dreamweaver ページ上のデータの動的更新を可能にするために詳細領域をバインドした動的マスターテーブルです。

単純なテーブルを作成している場合は、1 つまたは複数の列をソート可能に設定し、さまざまなテーブルエレメントに CSS スタイルを定義することができます。

動的マスターテーブルを作成するプロセスは、単純なテーブルを作成するプロセスと同じですが、マスターテーブルの場合は、ユーザーがマスターテーブルの行をクリックすると詳細領域のデータが動的に更新されるように、詳細動的領域をテーブルにバインドすることができます。

動的マスター Spry テーブルを作成するには、最初にマスターテーブルを挿入し、次に詳細領域を挿入します。マスターテーブルには、動的な変更のトリガに使用されるデータが表示されます。詳細領域には、変更を受けるデータが含まれます。

1 [挿入]-[Spry]-[Spry テーブル] を選択します。

[挿入] バーの [Spry] カテゴリにある [Spry テーブル] ボタンをクリックする方法もあります。

2 メニューから Spry データセットを選択します。

注意：領域を作成する前にテーブルを挿入しようとすると、テーブルを挿入する前に領域を追加するように求めるメッセージが Dreamweaver によって表示されます。すべての Spry データオブジェクトは、領域内に含まれている必要があります。

3 [列] パネルで次の操作を行い、テーブルの列を調整します。

- [+] または [-] をクリックし、列を追加または減らします。
- 上向き矢印または下向き矢印をクリックして列を移動します。列を上に移動するとテーブル内でさらに左に表示され、上に移動するとテーブル内でさらに右に表示されます。

4 ソートの基準になる列を定義するには、[列] パネルで該当する列を選択し、[ヘッダーがクリックされたときに列をソート] を選択します。ソートの基準にする列ごとにこの作業を繰り返します。

5 添付されたスタイルシートとして、HTML ページ内の個別スタイルのセットとして、ページに関連付けられた CSS スタイルがある場合は、次のオプション (複数可) の CSS クラスを選択できます。

Odd Row クラス 奇数行の外観を変更します。

Even Row クラス 偶数行の外観を変更します。

Hover クラス マウスが上を移動しているときの行の外観を変更します。

Select クラス クリックしたときの行の外観を変更します。

6 単純な Spry テープルを作成する場合は、初期設定のオプションである [行がクリックされたときに詳細領域を更新] の選択を解除します。動的マスター Spry テープルを作成する場合は、このオプションが選択されたままにします。

注意：動的マスターテーブルを挿入する場合は、コードビューで、HTML テーブルタグと spry:repeat タグが Dreamweaver によって挿入されているのを、現在の行に対する onClick 操作と共に確認できます。Spry では、ユーザーがクリックした場所と動的に更新するデータがこの方法で判別されます。

7 [OK] をクリックします。デザインビューにテーブルが表示されます。含まれるエレメントごとに、ヘッダーの行とデータ参照の行が波カッコ ({}) で囲まれています。コードビューでは、ファイルに HTML テーブルタグが挿入されています。また、ソート可能な名前およびカテゴリ列を識別するコードも挿入されています。

Spry リピート領域の作成

データを表示するためのリピート領域を追加できます。リピート領域とは、データ表示の必要に合わせてフォーマットを設定できる単純なデータ構造です。たとえば、AP div エレメントなどのページレイアウトオブジェクトに、写真のサムネールを並べて配列したいとします。

1 [挿入]-[Spry]-[Spry 繰り返し] を選択します。

[挿入] バーの [Spry] カテゴリにある [Spry 繰り返し] ボタンをクリックする方法もあります。

2 オブジェクトコンテナの場合は、タグのタイプに応じて または オプションを選択します。初期設定では コンテナを使用します。

3 [繰り返し] (初期設定) または [子の繰り返し] オプションを選択します。

高度な柔軟性が必要な場合は、[子の繰り返し] オプションを使用するとよい場合があります。このオプションでは、データ検査が、子レベルで、リストの各行に対して行われます。たとえば、 リストがある場合、データが <li> レベルでチェックされます。[繰り返し] オプションを選択した場合は、データが <ul> レベルでチェックされます。[子の繰り返し] オプションが特に役立つのは、コードで条件式を使用する場合です。

4 メニューから Spry データセットを選択します。

5 テキストまたはエレメントがすでに選択されている場合は、これらを囲むか置き換えることができます。

6 [OK] をクリックするとページにリピート領域が表示されます。

注意：領域を作成する前にリピート領域を挿入しようとすると、テーブルを挿入する前にリピート領域を追加するように求めるメッセージが Dreamweaver によって表示されます。すべての Spry データオブジェクトは、領域内に存在する必要があります。

7 [OK] をクリックすると、Dreamweaver によってページに領域プレースホルダーが挿入され、「ここに Spry 領域のコンテンツを挿入」というテキストが表示されます。このプレースホルダーテキストは、テーブルやリピートリストなどの Spry データオブジェクトと置き換えることや、[バインディング] パネルから動的データと置き換えることができます。

8 レースホルダーテキストを Spry データオブジェクトと置き換えるには、[挿入] バーにある適切な Spry データオブジェクトボタンをクリックします。

9 プレースホルダーテキストを動的データと置き換えるには、次のいずれかの操作を行います。

- [バインディング] パネルからエレメントを選択テキストの上部にドラッグします。

注意：[バインディング] パネルには、組み込みの Spry エレメントである ds_RowID、ds_CurrentRowID、および ds_RowCount も表示されています。これらは、動的詳細領域の更新方法を定義するときにユーザーがクリックした行を定義するために使用されます。

- コードビューで、エレメントのコードを直接入力します。{dataset-name::element-name} のフォーマットを使用します。たとえば、{ds1::category}. または {dsProducts::desc} のようにします。ファイル内で 1 つのデータセットのみを使用している場合、またはその領域に対して定義した同じデータセットからのデータエレメントを使用している場合は、データセット名を省略して単に {category} または {desc} と書くことができます。

領域のコンテンツを定義するために使用する方法にかかわらず、HTML コードには次のコード行が追加されます。

```
<div spry:region="ds1">{name}{category}</div>
<div spry:region="ds2">{ds1::name}{ds1::descheader}</div>
```

Spry リピートリスト領域の作成

リピートリストを追加して、データを番号リスト、リスト (ブレットリスト)、定義リスト、またはドロップリストとして表示できます。

1 [挿入]-[Spry]-[Spry リピートリスト] を選択します。

[挿入] バーの [Spry] カテゴリにある [Spry リピートリスト] ボタンをクリックする方法もあります。

2 使用するコンテナタグ UL、OL、DL、または SELECT を選択します。以降のオプションは、選択するコンテナによって変わります。SELECT を選択した場合は、次のフィールドを定義する必要があります。

- 表示列 : ユーザーがブラウザでページを表示したときにこれが表示されます。
- 値列 : これは、バックグラウンドサーバーに送信される実際の値です。

たとえば、州のリストを作成し、ユーザーには「アラバマ」および「アラスカ」と表示する一方、サーバーには「AL」または「AL」と送信することができます。SELECT をナビゲーションツールとして使用することもできます。ユーザーには「Adobe Dreamweaver」や「Adobe Acrobat」などの製品名を表示する一方、サーバーには「support/products/dreamweaver.html」や「support/products/acrobat.html」などの URL を送信することもできます。

3 メニューから Spry データセットを選択します。

4 表示する列を選択します。

5 [OK] をクリックするとページにリピートリスト領域が表示されます。コードビューでは、HTML 、<ol>、<dl> または FORM 選択タグがファイルに挿入されているのを確認できます。

注意 : 領域を作成する前にリピートリスト領域を挿入しようとすると、テーブルを挿入する前にリピートリスト領域を追加するように求めるメッセージが Dreamweaver によって表示されます。すべての Spry データオブジェクトは、領域内に含まれている必要があります。

Spry エフェクトの追加

Spry エフェクトの概要

Spry エフェクト は、JavaScript を使用して HTML ページのほぼすべてのエレメントに適用できる視覚効果です。効果は、情報の強調、移行アニメーションの作成、ページエレメント外観の一時的な変更などによく使用されます。HTML エレメントに効果を適用するときに、追加のカスタムタグは不要です。

注意 : エレメントに効果を適用するには、そのエレメントが現在選択されているか、ID を持っている必要があります。たとえば、現在選択されていない div タグにハイライト表示を適用する場合は、この div が有効な ID 値を持つ必要があります。このエレメントに有効な ID 値がない場合は、その HTML コードに有効な ID 値を追加する必要があります。

効果を使用すると、エレメントの透明度、拡大 / 縮小率、位置、およびスタイルプロパティ (背景色など) を変更できます。複数のプロパティを組み合わせると、おもしろい視覚効果を作成できます。

これらの効果は Spry をベースにしているため、効果が適用されたオブジェクトをユーザーがクリックすると、HTML ページ全体が更新されることなく、このオブジェクトのみが動的に更新されます。

Spry には次のエフェクトがあります。

表示 / フェード エレメントを表示またはフェードアウトします。

ハイライト エレメントの背景色を変更します。

ブラインドアップ / ブラインドダウン 上下に動く窓用ブラインドのようにエレメントの表示 / 非表示を切り替えます。

スライドアップ / スライドダウン エレメントを上下に動かします。

拡張 / 縮小 エレメントのサイズを拡大または縮小します。

シェイク 左から右へのエレメントの揺れをシミュレートします。

スキッシュ エレメントをページの左上隅に消します。

重要 : 効果を使用すると、コードビューでファイルにさまざまなコード行が追加されます。1 つの行では SpryEffects.js ファイルを特定しています。これは効果を含めるために必要です。この行をコードから削除しないでください。削除した場合効果が機能しなくなります。

Spry フレームワークで使用可能な Spry エフェクトの詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_spryeffects_jp を参照してください。

表示 / フェード効果の適用

注意：この効果は、applet、body、iframe、object、tr、tbody、および th を除く任意の HTML オブジェクトに使用できます。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、メニューから [効果]-[表示 / フェード] を選択します。

3 ターゲットエレメントメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

4 [効果の期間] ボックスで、効果が持続する時間の長さをミリ秒単位で指定します。

5 [フェード] と [表示] のどちらの効果を適用するかを選択します。

6 [開始] ボックスで、効果が表示されたときの透明度 (%) を指定します。

7 [終了] ボックスで、フェード終了時の透明度 (%) を指定します。

8 クリックするたびにフェードと表示が切り替わるようにするには、[効果の切り替え] を選択します。

ブラインドアップ / ブラインドダウン効果の適用

注意：この効果を使用できる HTML オブジェクトは、address、dd、div、dl、dt、form、h1、h2、h3、h4、h5、h6、p、ol、ul、li、applet、center、dir、menu、および pre のみです。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択して [ビヘイビア] パネルを開き、[+] ボタンをクリックして、メニューから [効果]-[ブラインド] を選択します。

3 ターゲットエレメントメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

4 [効果の期間] ボックスで、効果が持続する時間の長さをミリ秒単位で指定します。

5 [ブラインドアップ] と [ブラインドアップダウン] のどちらの効果を適用するかを選択します。

6 [ブラインドアップ開始]/[ブラインドダウン開始] ボックスで、ブラインドスクロールの開始点を割合 (%) またはピクセルス数で指定します。これらの値はオブジェクトの上部から計算します。

7 [ブラインドアップ終了]/[ブラインドダウン終了] ボックスで、ブラインドスクロールの終点を割合 (%) またはピクセルス数で指定します。これらの値はオブジェクトの上部から計算します。

8 クリックするたびにスクロールアップとスクロールダウンが切り替わるようにするには、[効果の切り替え] を選択します。

拡張 / 縮小効果の適用

注意：この効果を使用できる HTML オブジェクトは、address、dd、div、dl、dt、form、p、ol、ul、applet、center、dir、menu、および pre です。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [効果]-[拡張 / 縮小] を選択します。

3 ターゲットエレメントポップアップメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

4 [効果の期間] フィールドで、効果が持続する時間の長さをミリ秒単位で指定します。

5 [拡張] と [縮小] のどちらの効果を適用するかを選択します。

6 [拡張の開始]/[縮小の開始] ボックスで、効果が開始されときのオブジェクトのサイズを指定します。これはサイズの割合 (%) またはピクセル数で入力します。

7 [拡張の終了]/[縮小の終了] ボックスで、効果が終了するときのオブジェクトのサイズを指定します。これはサイズの割合 (%) またはピクセル数で入力します。

8 [拡張の開始]/[縮小の開始] または [拡張の終了]/[縮小の終了] ボックスでピクセルス数を選択した場合は、幅 / 高さフィールドが表示されます。選択したオプションに応じて、エレメントが比例的に拡張または縮小します。

9 エレメントの拡張または縮小をページの左上隅に向かって行うか、ページの中央に向かって行うかを選択します。

10 クリックするたびに拡張と縮小が切り替わるようにするには、[効果の切り替え] を選択します。

ハイライト効果の適用

注意：この効果は、applet、body、frame、frameset、および noframes を除く任意の HTML オブジェクトに使用できます。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で、[+] ボタンをクリックして、メニューから [効果]-[ハイライト] を選択します。

3 ターゲットエレメントメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

4 [効果の期間] ボックスで、効果が持続する時間の長さをミリ秒単位で指定します。

5 ハイライト開始時のカラーを選択します。

6 ハイライト終了時のカラーを選択します。このカラーは、[効果の期間] で指定した長さだけ持続します。

7 ハイライト完了後のオブジェクトのカラーを選択します。

8 クリックするたびにハイライトカラーのサイクルが繰り返されるようにするには、[効果の切り替え] を選択します。

シェイク効果の適用

注意：この効果を使用できる HTML オブジェクトは、address、blockquote、dd、div、dl、dt、fieldset、form、h1、h2、h3、h4、h5、h6、iframe、img、object、p、ol、ul、li、applet、dir、hr、menu、pre、および table です。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で、[+] ボタンをクリックし、メニューから [効果]-[シェイク] を選択します。

3 ターゲットエレメントメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

スライドアップ / スライドダウン効果の適用

注意：この効果を使用できる HTML オブジェクトは blockquote、dd、div、form、および center のみです。スライド効果を使用するには、スライドするコンテンツを 1 つの タグが囲んでいる必要があります。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で、[+] ボタンをクリックして、メニューから [効果]-[スライド] を選択します。

3 ターゲットエレメントメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

4 [効果の期間] フィールドで、効果が持続する時間の長さをミリ秒単位で指定します。

5 [スライドアップ] と [スライドダウン] のどちらの効果を適用するかを選択します。

6 [スライドアップ開始]/[スライドダウン開始] ボックスで、スライドの開始点を割合 (%) またはピクセルス数で指定します。

7 [スライドアップ終了]/[スライドダウン終了] ボックスで、スライドの終点を割合 (%) または正のピクセルス量で指定します。

8 クリックするたびにスライドアップとスライドダウンが切り替わるようにするには、[効果の切り替え] を選択します。

スキッシュ効果の適用

注意：この効果を使用できる HTML オブジェクトは、address、dd、div、dl、dt、form、img、p、ol、ul、applet、center、dir、menu、および pre のみです。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で、[+] ボタンをクリックし、メニューから [効果]-[スキッシュ] を選択します。

3 ターゲットエレメントメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

追加効果の適用

同じオブジェクトに複数の効果ビヘイビアを関連付けて、おもしろい結果を生むことかできます。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で、[+] ボタンをクリックし、[効果] メニューから効果を 1 つ選択します。

3 ターゲットエレメントメニューからオブジェクトの ID を選択します。既にオブジェクトを選択してある場合は、< 現在の選択範囲 > を選択します。

効果の削除

オブジェクトから効果ビヘイビアを削除できます。

1 (オプション) この効果を適用するコンテンツまたはレイアウトオブジェクトを選択します。

2 [ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で、ビヘイビアのリストから削除する効果をクリックします。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- サブパネルタイトルバーのイベント削除 [-] ボタンをクリックします。
- ビヘイビアを右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリックし (Macintosh)、[Delete Behavior] を選択します。

第 17 章：動的サイトを構築するための準備

動的 Web ページを構築する前に、Web アプリケーションサーバーの設定や ASP、ASP.NET、JSP および PHP アプリケーションのデータベースへの接続など、いくつかの準備作業を行う必要があります。Adobe® Dreamweaver® CS3 でのデータベース接続の処理は、選択したサーバーテクノロジーによって異なります。

Web アプリケーションについて

Web アプリケーションについて

Web アプリケーションとは、コンテンツが部分的または全体的に未決定の状態のページを含む Web サイトのことです。ページの最終的なコンテンツは、ビジターが Web サーバーに対してページを要求したときに決定されます。ページの最終的なコンテンツは、ビジターから要求されるアクションによって変わります。このため、この種のページは動的ページと呼ばれます。

Web アプリケーションを構築すると、さまざまな課題や問題に対応することができます。この項では、Web アプリケーションの一般的な用途とその例を示します。

Web アプリケーションの一般的な用途

サイトビジターもデベロッパーもさまざまな目的で Web アプリケーションを構築できます。たとえば、次のような目的で Web サイトを構築できます。

- 大量のコンテンツを含む Web サイトで情報をすばやくかつ簡単に検索する

この種の Web アプリケーションでは、目的に適した方法でコンテンツを検索、整理およびナビゲートできます。この例には、企業のイントラネット、Microsoft MSDN (www.msdn.microsoft.com) および Amazon.com (www.amazon.com) があります。

- サイトビジターから提供されるデータを収集、保存、および分析する

従来、HTML フォームに入力されたデータは、電子メールメッセージで社員や CGI アプリケーションに送られ、処理されていました。Web アプリケーションでは、フォームのデータを直接データベースに保存できる他、分析用にそれを抽出して、Web ベースのレポートを作成できます。この例には、オンラインバンキングのページ、オンラインショップの支払いのページ、調査用のページ、およびユーザーフィードバックのフォームなどがあります。

- 頻繁に変更されるコンテンツを含む Web サイトを更新する

Web アプリケーションを使用すると、Web デザイナーはサイトの HTML を定期的に更新する作業から解放されます。たとえば、ニュースエディタなどのコンテンツプロバイダから Web アプリケーションにコンテンツが提供されると、サイトは Web アプリケーション側で自動的に更新されます。この例には、Economist (www.economist.com) および CNN (www.cnn.com) があります。

Web アプリケーションの例

Janet は、社員 1000 人の中規模企業のイントラネットおよびインターネットサイトの管理を担当するプロの Web デザイナーで、長く Dreamweaver を使用しています。ある日、人事部の Chris が Janet のもとに来て問題があると切り出しました。人事部では、社員のフィットネスプログラムを管理しており、ウォーキング、ランニング、または自転車での走行マイルごとに、社員にポイントを与えています。各社員は、総走行マイル数を電子メールで Chris に毎月報告することになっています。Chris は月末にすべての電子メールをまとめ、ポイント合計数に応じた少額の賞金を社員に渡します。

Chris にとって問題なのは、フィットネスプログラムがうまく行きすぎているということです。あまりに多くの社員が参加するようになったため、毎月月末になると電子メールが Chris のもとへ殺到するようになりました。Chris は、Janet に Web ベースのソリューションがないか尋ねました。

Janet はイントラネットベースの Web アプリケーションを提案します。このアプリケーションでは、次の処理が行われます。

- 社員に自分の走行マイル数を簡単な HTML フォームを使用した Web ページに入力してもらう
- 社員の走行マイル数をデータベースに格納する
- 走行マイルのデータに基づいたフィットネスポイントを計算する
- 毎月の進捗を従業員にトラッキングさせる
- 1 回のクリックで Chris が毎月末、ポイント合計数を確認できるようにする

Janet は Dreamweaver を使用して、昼食前にアプリケーションを完成させます。Dreamweaver では、このようなアプリケーションをすばやくかつ簡単に構築できます。

Web アプリケーションのしくみ

Web アプリケーションは、静的 Web ページと動的 Web ページで構成されます。静的 **Web** ページは、サイトビジターから要求があっても変化しません。Web サーバーは、ページを変更せずに要求元 Web ブラウザに送信します。一方、動的 **Web** ページは、サーバー側で変更されてから要求元ブラウザに返されます。このようにページが変化するため、「動的」と呼ばれます。

たとえば、フィットネスの結果を表示するページを設計し、社員名や結果などの特定の情報は、特定の社員からページが要求されたときに決定すべき情報として残しておくことができます。

次の各項では、Web アプリケーションのしくみについて詳しく説明します。

静的 Web ページの処理

静的 Web サイトは、相互に関連付けられた HTML ページとファイルのセットで構成されており、Web サーバーを実行するコンピュータでホスト管理されています。

Web サーバーは、Web ブラウザからの要求に応答して Web ページを処理するソフトウェアです。ビジターが Web ページ上のリンクをクリックする、ブラウザに登録されたブックマークを選択する、ブラウザの [アドレス] テキストボックスに URL を入力する、のいずれかを行うと、ページ要求が発生します。

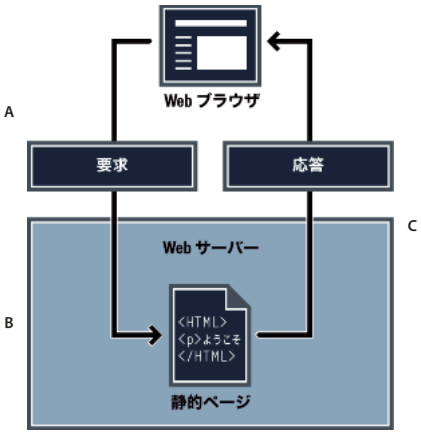
静的 Web ページの最終的なコンテンツは、ページデザイナーが決定し、ページの要求時には変更されません。次に、その例を示します。

```
<html>
    <head>
        <title>Trio Motors Information Page</title>
    </head>
    <body>
        <h1>About Trio Motors</h1>
        <p>Trio Motors is a leading automobile manufacturer.</p>
    </body>
</html>
```

Web ページの HTML コードの各行は、ページがサーバーに配置される前にデザイナーによってすべて記述されます。HTML はサーバーにいったん配置されると変更されないため、静的ページと呼ばれます。

注意：厳密に言うと、静的ページは必ずしも常に " 静的 " なわけではありません。たとえば、ロールオーバーイメージや Flash コンテンツ (SWF ファイル) を使用すると、静的なページに動きを与えることができます。ただし、本マニュアルでは、変更されずにブラウザに送信されるページを " 静的ページ " と呼びます。

Web サーバーが静的ページの要求を受信すると、まずサーバーがその要求を読み込み、ページを検索して、結果を要求元ブラウザに返します。以下はこの流れを示す例です。



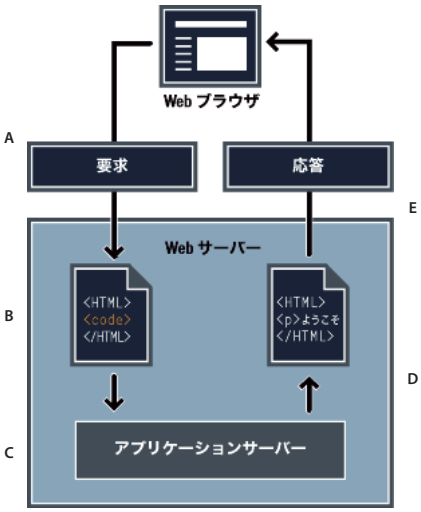
A. 手順 1 - Web ブラウザが静的ページを要求します。**B.** 手順 2 - Web サーバーがページを検索します。**C.** 手順 3 - Web サーバーが要求元ブラウザにページを返します。

Web アプリケーションでは、ビジターがページを要求した時点では、数行のコードが未決定になっています。これらの行は、ページをブラウザに送信する前に何らかのメカニズムで決定する必要があります。このメカニズムについては、次の項で説明します。

動的ページの処理

Web サーバーに対して静的 Web ページが要求されると、要求元のブラウザにページが直接返されます。しかし、動的ページが要求された場合は、異なった処理が実行されます。この場合、Web サーバーは、ページを完成させるため、特別なソフトウェアにページを渡します。この特別なソフトウェアをアプリケーションサーバーと呼びます。

アプリケーションサーバーは、ページ内のコードを読み込み、そのコードに記述されている命令に従ってページを完成させ、コードをページから削除します。その結果、アプリケーションサーバーは Web サーバーに静的ページを返し、Web サーバーはそのページの要求元ブラウザにページを返します。ページの受信時にブラウザが受け取るのは、純粋な HTML だけです。以下は、処理の図です。



A. 手順 1 - Web ブラウザが動的ページを要求します。**B.** 手順 2 - Web サーバーがページを検索してアプリケーションサーバーに渡します。**C.** 手順 3 - アプリケーションサーバーは、ページから命令をスキャンしてページを完成させます。**D.** 手順 4 - アプリケーションサーバーが完成したページを Web サーバーに返します。**E.** 手順 5 - Web サーバーが完成したページを要求元ブラウザに返します。

データベースへのアクセス

アプリケーションサーバーを使用すると、データベースなどのサーバーサイドのリソースを扱うことになります。たとえば、データベースからデータを抽出し、HTML に挿入するよう動的ページからアプリケーションサーバーに命令が送られる場合があります。詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_dbguide_jp を参照してください。

データベースからデータを抽出する命令は、データベースクエリーと呼ばれます。クエリーは、SQL (Structured Query Language) というデータベース言語で表された検索条件で構成されています。SQL クエリーは、ページのサーバーサイドのスクリプトまたはタグに書き込まれます。

アプリケーションサーバーは、データベース固有のデータ形式を解釈できないため、データベースと直接通信できません。これは、Microsoft Word 文書をメモ帳または BBEdit で開いても内容を判読できないのと同じです。アプリケーションサーバーは、データベースドライバを介さないとデータベースと通信できません。データベースドライバは、アプリケーションサーバーとデータベースの間でインタープリタのような働きをするソフトウェアです。

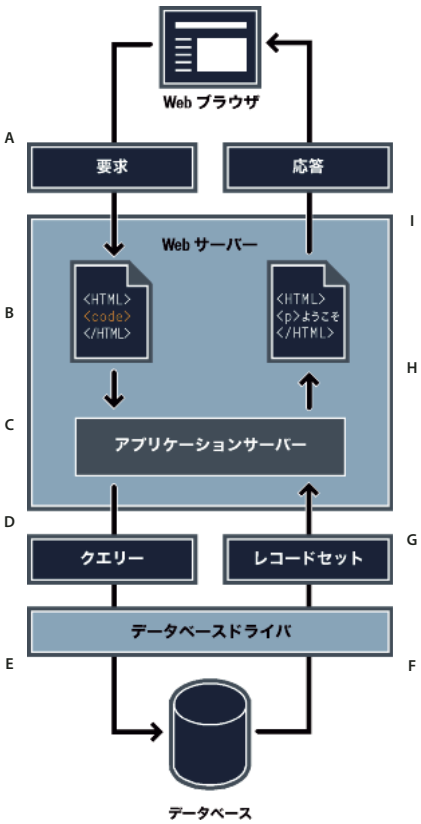
ドライバが通信を確立すると、データベースに対してクエリーが実行され、レコードセットが作成されます。レコードセットとは、データベース内のいくつかのテーブルから抽出されたデータのセットです。レコードセットはアプリケーションサーバーに返され、そのデータが使用されてページが完成します。

以下は、SQL で記述された簡単なデータベースクエリーです。

```
SELECT lastname, firstname, fitpoints
FROM employees
```

このステートメントによって、3 列構成のレコードセットが作成され、データベースの全社員の姓、名、フィットネスポイントが各行に挿入されます。詳細については、www.adobe.com/go/learn_dw_sqlprimer_jp を参照してください。

以下はデータベースのクエリを実行し、ブラウザにデータを返す処理を示す例です。



A. 手順 1 - Web ブラウザが動的ページを要求します。**B.** 手順 2 - Web サーバーがページを検索してアプリケーションサーバーに渡します。**C.** 手順 3 - アプリケーションサーバーがページをスキャンして命令を検索します。**D.** 手順 4 - アプリケーションサーバーがクエリーをデータベースドライバに送信します。**E.** 手順 5 - ドライバがデータベースに対するクエリーを実行します。**F.** 手順 6 - レコードセットがドライバに返されます。**G.** 手順 7 - ドライバがレコードセットをアプリケーションサーバーに渡します。**H.** 手順 8 - アプリケーションサーバーがデータをページに挿入し、そのページを Web サーバーに渡します。**I.** 手順 9 - Web サーバーが完成したページを要求元ブラウザに返します。

適切なデータベースドライバがサーバーにインストールされていれば、ほとんどのデータベースを Web アプリケーションで使用できます。

小規模な低コストアプリケーションを作成する場合は、Microsoft Access で作成したファイルベースのデータベースを使用できます。ビジネス上、重要性が高く堅牢なアプリケーションを作成する場合には、Microsoft SQL Server、Oracle 9i、MySQL などで作成したサーバーベースのデータベースを使用できます。

データベースが Web サーバー以外のシステムにある場合は、Web アプリケーションが迅速かつ効率的に動作するように、2 つのシステム間に高速接続を用意してください。

動的ページのオーサリング

動的ページをオーサリングするには、HTML を記述し、サーバーサイドのスクリプトまたはタグを HTML に追加して、ページを動的にします。完成したコードを表示すると、ページの HTML の中に言語が埋め込まれています。したがって、これらの言語は HTML 埋め込み型のプログラミング言語と呼ばれます。次の基本的な例では、CFML (ColdFusion Markup Language) を使用しています。

```
<html>
    <head>
        <title>Trio Motors Information Page</title>
    </head>
    <body>
        <h1>About Trio Motors</h1>
        <p>Trio Motors is a leading automobile manufacturer.</p>
        <!--- embedded instructions start here --->
        <cfset department="Sales">
        <cfoutput>
        <p>Be sure to visit our #department# page.</p>
        </cfoutput>
        <!--- embedded instructions end here --->
    </body>
</html>
```

このページに埋め込まれた命令は、次のアクションを実行します。

1 変数「**department**」を作成し、文字列 " 営業 " を割り当てます。

2 変数の値である " 営業 " を HTML コードに挿入します。

アプリケーションサーバーは次のページを Web サーバーに返します。

```
<html>
    <head>
        <title>Trio Motors Information Page</title>
    </head>
    <body>
        <h1>About Trio Motors</h1>
        <p>Trio Motors is a leading automobile manufacturer.</p>
        <p>Be sure to visit our Sales page.</p>
    </body>
</html>
```

Web サーバーが要求元ブラウザにページを返すと、次のように表示されます。

About Trio Motors

Trio Motors is a leading automobile manufacturer.

Be sure to visit our Sales page.

サーバーで使用できるサーバーテクノロジーに応じて、使用するスクリプトまたはタグ言語を選択します。次に、Dreamweaver でサポートされる 5 つのサーバーテクノロジーについて最もよく使用される言語を示します。

サーバーテクノロジー	言語
ColdFusion	CFML (ColdFusion Markup Language)[CFML (ColdFusion Markup Language)]
ASP.NET	Visual Basic[Visual Basic] C#
ASP (Active Server Pages)	VBScript[VBScript] JavaScript
JSP (JavaServer Pages)	Java
PHP	PHP

ページの動作に必要なサーバーサイドのスクリプトまたはタグは、Dreamweaver に記述させることも、ユーザーが Dreamweaver のコーディング環境内で手動で記述することもできます。

関連項目

475 ページの「アプリケーションサーバーの選択」

Web アプリケーションの用語

この項では、Web アプリケーションに関してよく使用される用語について説明します。

アプリケーションサーバー サーバーサイドのスクリプトまたはタグを含む Web ページを処理する Web サーバーを支援するソフトウェア。このようなページが要求されると、ページがブラウザに返される前に、Web サーバーはページをアプリケーションサーバーに渡して処理します。詳細については、「466 ページの「Web アプリケーションのしくみ」」を参照してください。

一般的に使用されるアプリケーションサーバーには、ColdFusion、Macromedia JRun Server、Microsoft .NET Framework、IBM WebSphere、および Apache Tomcat があります。

データベース テーブルに格納されたデータの集合体。テーブルの各行は単一のレコードを、各列は次の例のようにレコード内の単一のフィールドを構成します。

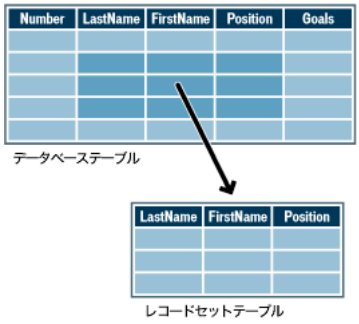
データベースドライバ Web アプリケーションとデータベースとの間でインタープリタのような働きをするソフトウェア。データベース内のデータは、独自の形式で格納されます。データベースドライバは、そのままでは解読不能なデータを Web アプリケーションが読み取って処理できるようにします。

データベース管理システム (DBMS またはデータベースシステム) データベースを作成し操作するためのソフトウェア。一般的に使用されるデータベースシステムには、Microsoft Access、Oracle 9i、および MySQL があります。

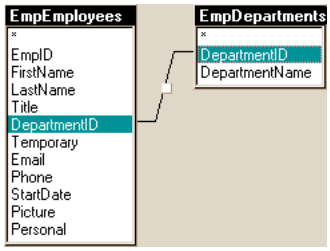
データベースクエリー データベースからレコードセットを抽出する操作。クエリーは、SQL というデータベース言語で表された検索条件で構成されています。たとえば、クエリーでは、特定の列だけ、または特定のレコードだけをレコードセットに含めるように指定できます。

動的ページ アプリケーションサーバーによってカスタマイズされてから、ブラウザに送信される Web ページ。

レコードセット データベース内のいくつかのテーブルから抽出されたデータのセット。次はその例です。



リレーショナルデータベース データを共有する複数のテーブルを格納したデータベース。次のデータベースは、2 つのテーブルが DepartmentID 列を共有しているため、リレーショナルです。



サーバーテクノロジー アプリケーションサーバーが実行時に動的ページを変更するためのテクノロジー。

Dreamweaver の開発環境は、次のサーバーテクノロジーをサポートしています。

- Adobe ColdFusion®
- Microsoft ASP.NET
- Microsoft Active Server Pages (ASP)
- Sun JavaServer Pages (JSP)
- PHP: Hypertext Preprocessor (PHP)

Dreamweaver のコーディング環境では、上記以外のサーバーテクノロジーを使用してもページを作成できます。

静的ページ アプリケーションサーバーによって変更されずにブラウザに返される Web ページ。詳細については、「466 ページの「静的 Web ページの処理」」を参照してください。

Web アプリケーション コンテンツが部分的または全体的に未決定の状態のページを含む Web サイト。ページの最終的なコンテンツは、ユーザーが Web サーバーに対してページを要求したときに決定されます。ページの最終的なコンテンツは、ビジターから要求されるアクションによって変わります。このため、この種のページは動的ページと呼ばれます。

Web サーバー Web ブラウザからの要求に応答して Web ページを送信するソフトウェア。ビジターが、ブラウザに表示されている Web ページのリンクをクリックする、ブラウザのブックマークを選択する、ブラウザの [アドレス] テキストボックスに URL を入力する、のいずれかを行うと、ページ要求が発生します。

一般的に使用されている Web サーバーには、Microsoft Internet Information Server、Microsoft Personal Web Server、Apache HTTP Server、Netscape Enterprise Server、および Sun ONE Web Server などがあります。

ローカル Web サーバーのインストール

Web サーバーの基本事項

動的な Web ページを開発してテストするには、正常に動作する Web サーバーが必要です。Web サーバーは、Web ブラウザからの要求に応答して Web ページを処理するソフトウェアです。Web サーバーは、HTTP サーバーとも呼ばれます。Web サーバーは、ローカルコンピュータにインストールして使用することができます。

Macintosh を使用している場合は、Macintosh に既にインストールされている Apache Web サーバーを使用できます。

注意：Adobe では、IIS (Microsoft Internet Information Server) などのサードパーティ製ソフトウェアに対するテクニカルサポートは提供していません。サポートが必要な場合は、Microsoft のテクニカルサポートに連絡してください。

IIS (Internet Information Server) を使用して Web アプリケーションを開発する場合、Web サーバーの初期設定の名前は、使用しているコンピュータの名前になります。サーバー名を変更するには、コンピュータの名前を変更します。コンピュータに名前が付いていない場合は、localhost という名前が使用されます。

サーバー名は、サーバーのルートフォルダに対応していて、Windows コンピューターでは多くの場合 "C:¥Inetpub¥wwwroot" になります。コンピュータ上で実行しているブラウザに、次の URL を入力すると、ルートフォルダに格納されている Web ページを開くことができます。

http:// サーバー名 / ファイル名

たとえば、mer_noire という名前のサーバーの C:¥Inetpub¥wwwroot¥ に soleil.html という Web ページが格納されている場合は、ローカルコンピュータで実行するブラウザに次の URL を入力するとページが開きます。

http://mer_noire/soleil.html

注意：URL では、バックスラッシュではなくスラッシュを使用してください。

また、ルートフォルダの任意のサブフォルダを URL に指定すると、サブフォルダに格納されている Web ページを開くことができます。たとえば、次のように "soleil.html" ファイルがサブフォルダ "gamelan" に格納されているとします。

C:¥Inetpub¥wwwroot¥gamelan¥soleil.html

コンピュータで実行するブラウザに次の URL を入力すると、このページが開きます。

http://mer_noire/gamelan/soleil.html

使用しているコンピュータ上で Web サーバーが実行されている場合は、サーバー名を **localhost** に置き換えて使用できます。たとえば、次の 2 つの URL は、どちらも同じページをブラウザに表示します。

http://mer_noire/gamelan/soleil.html

http://localhost/gamelan/soleil.html

注意：サーバー名と localhost の他に、127.0.0.1 (たとえば、http://127.0.0.1/gamelan/soleil.html) も使用できます。

関連項目

472 ページの「ローカル Web サーバーのインストール」

Web サーバーの選択

Web アプリケーションを開発およびテストする場合、Microsoft Internet Information Server (IIS)、Netscape Enterprise Server、Sun ONE Web Server、Apache HTTP Server など、各種の一般的な Web サーバーから選択できます。

Web ホスティングサービスを使用していない場合は、Web サーバーを選択し、それをローカルコンピュータまたはリモートコンピュータにインストールします。Windows で ColdFusion Web アプリケーションを開発する場合は、ColdFusion MX 7 アプリケーションサーバーのデベロッパー版に付属している Web サーバーを使用できます。この Web サーバーは、無償でインストールして使用することができます。

それ以外で Windows を使用している場合は、IIS をインストールして、ローカルコンピュータで Web サーバーを実行することができます。この Web サーバーは、既にシステムにインストールされている可能性もあります。フォルダ構造を調べて、"C:¥Inetpub" フォルダまたは "D:¥Inetpub" フォルダがあるかどうかを確認してください。IIS がインストールされていれば、インストール時にこのフォルダが作成されています。

ASP.NET ページは、Microsoft IIS 5 以降の Web サーバーでのみ使用できます。IIS 5 は Windows 2000 および Windows XP Professional オペレーティングシステムのサービスであるため、これら 2 つのバージョンの Windows を使用して ASP.NET アプリケーションをホストできます。ただし、ホストする場合とは異なり、ASP.NET アプリケーションは、Dreamweaver が実行されている任意のコンピュータ (Mac OS を含む) 上で開発できます。

Mac OS を使用している場合は、Web ホスティングサービスを使用するか、リモートコンピュータ上に必要なソフトウェアをインストールします。オペレーティングシステムと共にインストールされている Apache Web サーバーと PHP アプリケーションサーバーを使用して、PHP サイトをローカルで開発することもできます。

その他の Web サーバーのインストールと設定については、サーバーのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

IIS (Internet Information Server) のインストール (Windows)

Windows XP Professional のユーザーは、Internet Information Server (IIS) をインストールすることができます。

注意：ColdFusion アプリケーションを開発する場合は、代わりに ColdFusion MX 7 のデベロッパー版と共にインストールされる Web サーバーを使用できます。

Windows XP Professional ユーザーは、システムに IIS がインストールされ実行されていることを確認してください。インストールされているかどうかを確認するには、C:¥Inetpub フォルダを検索します。フォルダがない場合、IIS はシステムにインストールされていません。

1 [スタート]-[設定]-[コントロール パネル]-[アプリケーションの追加と削除] または [スタート]-[コントロール パネル]-[プログラムの追加と削除] を選択します。

2 [Windows コンポーネントの追加と削除] を選択します。

3 [インターネット インフォメーション サービス (IIS)] を選択し、[次へ] をクリックします。

4 インストール手順に従って、Web サーバーをテストします。

IIS (Internet Information Server) のテスト

1 Web サーバーをテストするには、"myTestFile.html" という簡単な HTML ページを作成し、それを Web サーバーが実行されているコンピュータの "Inetpub¥wwwroot" フォルダに保存します。HTML ページは、次のような 1 行のページでかまいません。

```
<p>My web server is working.</p>
```

2 次に、Web ブラウザで HTTP 要求を使用しテストページを開きます。IIS がローカルコンピュータ上で実行されている場合、Web ブラウザに次の URL を入力します。

http://localhost/myTestFile.html

3 IIS がネットワークコンピュータ上で実行されている場合は、ドメイン名にネットワークコンピュータ名を使用します。たとえば、IIS を実行するコンピュータの名前が rockford-pc の場合、Web ブラウザで次の URL を入力します。

http://rockford-pc/myTestFile.html

4 ブラウザにページが表示されれば、Web サーバーは正常に動作しています。

ブラウザにページが表示されない場合は、サーバーが動作しているかを確認してください。それでもページが開かない場合は、.htm または .html のファイル拡張子が付いたテストページが "Inetpub¥wwwroot" フォルダにあることを確認してください。

Macintosh Web サーバーの起動

PHP または ColdFusion アプリケーションを開発するために、Macintosh に既にインストールされている Apache Web サーバーを使用できます。

注意：ColdFusion アプリケーションを開発する場合は、代わりに ColdFusion MX 7 のデベロッパー版と共にインストールされる Web サーバーを使用できます。

1 アップルメニューから [システム環境設定]-[共有] を選択します。

2 [サービス] タブで [パーソナル Web 共有] オプションを選択します。

3 [開始] ボタンをクリックして Web サーバをテストします。

Macintosh Web サーバーのテスト

1 このサーバーをテストするには、"myTestFile.html" という簡単な HTML ページを作成し、Macintosh の "/Users/ユーザー名 /Sites/" フォルダに保存します。ユーザー名 は、Macintosh ユーザー名です。HTML ページは、次のような 1 行のページでかまいません。

```
<p>My web server is working.</p>
```

2 次に、Web ブラウザで以下の URL を入力し、HTTP 要求を使用してテストページを開きます。

http://localhost/~ ユーザー名 /myTestFile.html

3 ブラウザにページが表示されれば、Web サーバーは正常に動作しています。ブラウザにページが表示されない場合は、Macintosh ユーザー名の前に ~ (チルド) が付いているかどうかを確認してください。

注意：初期設定では、Apache Web サーバーは PHP と共には機能しません。PHP を使用できるようにするには、Apache Web サーバーを設定する必要があります。

関連項目

476 ページの「PHP アプリケーションサーバーのインストール」

Web アプリケーションの設定

Web アプリケーションの構築に必要なソフトウェア

Adobe® Dreamweaver® CS3 で Web アプリケーションを構築するには、以下のソフトウェアが必要です。

- Web サーバー
- Web サーバーと共に動作するアプリケーションサーバー

注意：Web アプリケーションに関しては、**Web** サーバーとアプリケーションサーバーという用語は、ハードウェアではなくソフトウェアを意味します。

アプリケーションと共にデータベースを使用する場合は、以下のソフトウェアも必要です。

- データベースシステム
- データベースをサポートするデータベースドライバ

Web ホスティング会社では、Web アプリケーションをテストおよび配置するためのソフトウェアを貸し出すサービスを提供しています。Dreamweaver がインストールされているコンピュータに、必要なソフトウェアをインストールして開発できる場合もあります。また、ソフトウェアをネットワークコンピュータ (通常 Windows 2000 または Windows XP コンピュータ) にインストールし、チームの他のデベロッパーがプロジェクトに参加できるようにすることもできます。

Web アプリケーションと共にデータベースを使用する場合は、まずデータベースに接続する必要があります。

関連項目

472 ページの「ローカル Web サーバーのインストール」

アプリケーションサーバーの選択

アプリケーションサーバーは、Web サーバーによる動的ページの処理を支援するソフトウェアです。アプリケーションサーバーは、予算、使用するサーバーテクノロジー (ColdFusion、ASP.NET、ASP、JSP、または PHP)、使用する Web サーバーの種類などを考慮して選択します。

予算 ハイエンドアプリケーションサーバーの中には、高価なうえに管理に手間がかかるものもあります。一方、管理が簡単でコストが低いソリューション (ColdFusion Server および JRun Server など) を提供するベンダーもあります。アプリケーションサーバーの中には、Web サーバーに組み込まれているもの (Microsoft IIS など) や、インターネットから無償でダウンロードできるもの (Jakarta Tomcat や PHP など) があります。

サーバーテクノロジー アプリケーションサーバーは、さまざまなテクノロジーを使用します。Dreamweaver は、5 つのサーバーテクノロジー (ColdFusion、ASP.NET、ASP、JSP、および PHP) をサポートしています。次の表は、Dreamweaver でサポートされている 5 つのサーバーテクノロジーで使用できる一般的なアプリケーションサーバーを示します。

サーバーテクノロジー	アプリケーションサーバー
ColdFusion	Macromedia ColdFusion MX 7
ASP.NET	.NET Framework を使用する Microsoft IIS 6
ASP	Microsoft IIS[Microsoft IIS] Sun ONE ASP (Active Server Pages)
JSP	Macromedia JRun Apache Tomcat
PHP	PHP サーバー

注意：選択したアプリケーションサーバーが Web サーバーと連動することを確認します。たとえば、.NET Framework は IIS 5 以降とのみ連動します。

ColdFusion の詳細については、[ヘルプ] メニューの『ColdFusion ヘルプ』を選択してください。

ASP.NET の詳細については、Microsoft Web サイト (http://msdn.microsoft.com/asp.net/) を参照してください。

ASP の詳細については、Microsoft Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/dnanchor/html/activeservpages.asp) を参照してください。

JSP の詳細については、Sun Microsystems Web サイト (java.sun.com/products/jsp/) を参照してください。

PHP の詳細については、PHP Web サイト (www.php.net/) を参照してください。

ColdFusion アプリケーションサーバーのインストール

ColdFusion ページを実行するには、ColdFusion アプリケーションサーバーが必要です。このサーバーは、Windows、Linux、Solaris、および HP-UX システムで使用できます。

Windows または Macintosh を使用している場合は、フル機能を備えた ColdFusion MX 7 のデベロッパー版を Adobe の Web サイト (www.adobe.com/go/coldfusion_jp) からダウンロードしてインストールできます。

注意：デベロッパー版は、Web アプリケーションを開発およびテストするために、非営利目的で使用してください。これには、配布のライセンスは与えられていません。デベロッパー版は、ローカルホストからの要求と 2 つのリモート IP アドレスからの要求をサポートしています。デベロッパー版には有効期限がないので、必要なだけ Web アプリケーションの開発とテストを行うことができます。詳細については「ColdFusion ヘルプ ([ヘルプ]-[ColdFusion ヘルプ]) を参照してください。

インストール時に ColdFusion を設定し、ColdFusion に組み込まれている Web サーバーを使用するか、またはシステムにインストールされている別の Web サーバーを使用するかを選択できます。一般に、開発環境と本稼動環境は同じ条件にするのが好ましいとされています。そのため、開発用のコンピュータに Microsoft IIS などの既存の Web サーバーがある場合は、必要に応じて、ColdFusion に組み込まれている Web サーバーではなく、既存の Web サーバーを使用してください。

アプリケーションサーバーをインストールしたら、Web アプリケーションのルートフォルダを作成します

PHP アプリケーションサーバーのインストール

PHP ページを実行するには、PHP アプリケーションサーバーが必要です。これは、Web から入手可能なオープンソースソフトウェアです。このアプリケーションサーバーには、Windows、Linux、UNIX、HP-UX、Solaris、および Mac OS X システム用のものがあります。

アプリケーションサーバーの詳細については、PHP のマニュアルを参照してください。マニュアルも PHP の Web サイト (www.php.net/download-docs.php) からダウンロードできます。

Windows での PHP アプリケーションサーバーのインストール

1 Administrator 権限で Windows システムにログインします (該当する場合)。

2 PHP の Web サイト (www.php.net/downloads.php) から Windows PHP 5.x インストーラをダウンロードします。

3 ダウンロードしたインストーラファイルをダブルクリックし、画面上の指示に従って操作します。

4 [Choose Items To Install] 画面で [Extensions] の横の [+] ボタンをクリックし、リストから [MySQL] を見つけ、[Will Be Installed On Local Hard Drive] オプションを選択します。

PHP 5 を使用する場合、初期設定では、PHP を MySQL データベースサーバーと連携させる MySQL 拡張機能は、Windows インストーラによってインストールされず有効になっていません。

5 PHP インストールフォルダ (通常は C:¥Program Files¥PHP) から "php.ini" というファイルを見つけて、メモ帳で開きます。

MySQL 拡張機能を有効にするには、このファイルを編集する必要があります。

6 "php.ini" ファイルで、次の行を検索します。

;extension=php_mysql.dll

行頭にセミコロン (;) がある行は PHP で無視されます。

7 行頭のセミコロンを削除して、拡張機能を有効にします。

extension=php_mysql.dll

8 "php.ini" ファイルを保存して閉じます。

9 PHP インストールフォルダで "libmysql.dll" というファイルを見つけて "C:¥Windows¥system32" フォルダにコピーします。

このファイルは、IIS で PHP 5 と MySQL を操作するために必要です。

10 IIS を再起動します。

PHP のインストールが終了したら、サーバーが正常に動作していることを確認するテストを実行できます 次の項を参照してください。

Windows での PHP インストールのテスト

1 Dreamweaver またはテキストエディタを使用してプレーンテキストファイルを作成し、"timetest.php" という名前を付けます。

2 このファイルに、次のコードを入力します。

```
<p>This page was created at <b>
<?php echo date("h:i:s a", time()); ?>
</b> on the computer running PHP.</p>
```

このコードは、サーバー上でページが処理された時刻を表示します。

3 このファイルを、IIS を実行している Windows コンピュータの "C:¥Inetpub¥wwwroot" フォルダにコピーします。

4 Web ブラウザで、テストページの URL を入力して Enter キーを押します。

PHP がローカルコンピュータ上にインストールされている場合は、次の URL を入力します。

http://localhost/timetest.php

テストページが開き、時刻が表示されます。

ページ上に指定される時刻は、ページを要求するたびに変化するため、" 動的コンテンツ " と呼ばれます。ブラウザの [更新] をクリックすると、新しいページが生成され、前とは異なる時刻が表示されます。

注意：ソースコード (Internet Explorer では [表示]-[ソース]) を参照すると、このページでは、動的コンテンツを表示するのに、クライアントサイド JavaScript を使用していないことがわかります。

ページが予期したとおりに動作しない場合は、次のようなエラーが考えられます。

- ファイルの拡張子が .php ではない。
- ブラウザのアドレステキストボックスに、URL (たとえば http://localhost/timetest.php) ではなく、ページのファイルパス (C:¥Inetput¥wwwroot¥timetest.php) が入力されている。

通常の HTML ページを表示する場合のように、ブラウザにファイルパスを入力すると、Web サーバーとアプリケーションサーバーはバイパスされます。その結果、ページがサーバーによって処理されません。

- URL が正しく入力されていない。入力ミスがないことを確認し、http://localhost/timetest.php/ のようにファイル名の後にスラッシュが付いていないかチェックします。
- ページにコードが正しく入力されていない。

サーバーソフトウェアのインストールとテストが終了したら、次に Web アプリケーションのルートフォルダを作成します 479 ページの「アプリケーションのルートフォルダの作成」を参照してください。

Macintosh で PHP アプリケーションサーバーをインストールするには

1 Administrator 権限で Macintosh システムにログインします (該当する場合)。

2 メインのユーザーフォルダ、"Users/ ユーザー名 /webapps" に "webapps" というフォルダを作成します。

3 Entropy web サイト (www.entropy.ch/software/macosx/php/) から、Apache 1.3 パッケージの 5.x 用 PHP (たとえば、entropy-php-5.2.0-3.tar.gz) をダウンロードして、"webapps" フォルダに保存します。

4 Macintosh で [ターミナル] ([アプリケーション]-[ユーティリティ]) を開き、コマンドラインに次の行を入力して Enter キーを押して、初期設定のフォルダを "webapps" に変更します。

cd webapps

5 [ターミナル] で、「**gunzip**」に続けて "webapps" フォルダの gz ファイル名を入力し、gz ファイルを解凍します。

たとえば、"entropy-php-5.2.0-3.tar.gz" をダウンロードした場合は、次のコマンドを入力して Enter キーを押します。

gunzip entropy-php-5.2.0-3.tar.gz

注意：ファイルの解凍には Stuffit Expander を使用しないでください。

6 [ターミナル] で、「**tar xf**」に続けて tar ファイルの名前を入力し、解凍された tar アーカイブを開きます。例 :

tar xf entropy-php-5.2.0-3.tar

"entropy-php.mpkg" というインストーラパッケージがアーカイブから抽出されます。

7 "entropy-php.mpkg" インストーラパッケージをダブルクリックし、画面上の指示に従って操作します。

PHP のインストールが終了したら、サーバーが正常に動作していることを確認するテストを実行できます 次の項を参照してください。

Macintosh での PHP インストールのテスト

1 Dreamweaver またはテキストエディタを使用してプレーンテキストファイルを作成し、"timetest.php" という名前を付けます。

2 このファイルに、次のコードを入力します。

```
<p>This page was created at <b>
<?php echo date("h:i:s a", time()); ?>
</b> on the computer running PHP.</p>
```

このコードは、サーバー上でページが処理された時刻を表示します。

3 ファイルを Macintosh 上の "/Users/ ユーザー名 /Sites" フォルダにコピーします。

この "Sites" フォルダが Apache Web サーバーのユーザー自身のルートフォルダになります。

4 Web ブラウザで、以下の URL を入力し、Return キーを押します。

http://localhost/~ ユーザー名 /timetest.php

テストページが開き、時刻が表示されます。

ページ上に指定される時刻は、ページを要求するたびに変化するため、" 動的コンテンツ " と呼ばれます。ブラウザの [更新] をクリックすると、新しいページが生成され、前とは異なる時刻が表示されます。

注意 : ソースコード (Safari では [表示]-[ソースを表示]) を参照すると、このページでは、動的コンテンツを表示するのに、クライアントサイド JavaScript を使用していないことがわかります。

ページが予期したとおりに動作しない場合は、次のようなエラーが考えられます。

- ファイルの拡張子が .php ではない。
- URL が正しく入力されていない。入力ミスがないことを確認し、http://localhost/~ ユーザー名 /timetest.php/ のようにファイル名の後にスラッシュが付いていないかチェックします。また、ユーザー名の前にチルド (~) が付いていることを確認します。
- ページにコードが正しく入力されていない。
- Apache サーバーが起動していない。[システム環境設定] の [共有] カテゴリで [パーソナル Web 共有] が有効になっているか確認します。

サーバーソフトウェアのテストが終了したら、次に Web アプリケーションのルートフォルダを作成します 479 ページの「アプリケーションのルートフォルダの作成」を参照してください。

ASP アプリケーションサーバーのインストール

ASP ページを実行するには、Microsoft IIS (Internet Information Services) など、Microsoft Active Server Pages 2.0 をサポートするアプリケーションサーバーが必要です。Microsoft IIS は、Windows 2000 および Windows XP Professional に同梱されています。

Windows XP Professional を使用している場合は、ローカルコンピュータに IIS をインストールして実行できます。手順については、473 ページの「IIS (Internet Information Server) のインストール (Windows)」を参照してください。

Macintosh を使用している場合は、ASP サービスを提供する Web ホスティングサービスを使用するか、リモートコンピュータに IIS をインストールできます。

IIS をインストールしたら、Web アプリケーションのルートフォルダを作成します。

ASP.NET アプリケーションサーバーのインストール

ASP.NET ページを開発して実行するには、以下のソフトウェアが必要です。

- IIS 5 以降を実行する Windows 2000 または Windows XP Professional コンピュータ。
- Microsoft .NET Framework 1.1 と Microsoft .NET Framework 1.1 Software Development Kit (SDK)。Microsoft の Web サイトからダウンロード可能です。

注意：Framework と SDK の両方が、IIS 5 以降を実行している Windows 2000 または Windows XP Professional のシステムにインストールされていることを確認してください。

1 [プログラムの追加と削除] ダイアログボックス ([スタート]-[コントロール パネル]-[プログラムの追加と削除]) のアプリケーションリストを調べて、.NET Framework がシステムにインストールされていることを確認します。リストに Microsoft .NET Framework 1.1 が含まれていれば、Framework は既にインストールされているので、手順 3 に進むことができます。

2 .NET Framework がシステムにインストールされていない場合は、Microsoft の Web サイトから Microsoft .NET Framework 1.1 再頒布可能パッケージをダウンロードしてインストールし、Web サイトの指示に従います。

注意：Framework は Windows Update としてインストールします。

3 Microsoft の Web サイトから Microsoft .NET Framework 1.1 Software Development Kit (SDK) をダウンロードし、インストールの指示に従います。

.NET Framework と SDK をインストールした後で MDAC (Microsoft Data Access Components) 2.8 パッケージもインストールすることをお勧めします。MDAC パッケージは、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/data/mdac/downloads/) から無償でダウンロードしてインストールできます。

Macintosh を使用している場合は、ASP.NET サービスを提供する Web ホスティングサービスを使用するか、IIS 5 以降を実行しているリモートの Windows 2000 または Windows XP Professional コンピュータに .NET Framework および SDK をインストールすることができます。

.NET Framework と SDK をインストールしたら、Web アプリケーションのルートフォルダを作成します

JSP アプリケーションサーバーのインストール

JSP ページを実行するには、JavaServer Pages をサポートするアプリケーションサーバーが必要です。以下に、一般的なアプリケーションサーバーを示します。

- Windows、Mac OS X、Linux、Solaris、または UNIX 用の Macromedia JRun。JRun のトライアル版を Adobe の Web サイト (www.adobe.com/jp/products/jrun/) からダウンロードできます。
- Windows および UNIX 用 (Mac OS X を含む) の Tomcat。Tomcat は Jakarta Project の Web サイト (http://tomcat.apache.org/ からダウンロードできます。Tomcat の Macintosh へのインストールに関する詳細については、Apple の Web サイト (http://developer.apple.com/internet/java/tomcat1.html) を参照してください。

JSP アプリケーションサーバーをインストールしたら、Web アプリケーションのルートフォルダを作成します。

アプリケーションのルートフォルダの作成

Web ホスティング業者にサインアップするか、またはサーバーソフトウェアを自身で設定した後、Web サーバーを実行しているコンピュータに Web アプリケーションのルートフォルダを作成します。Web サーバーを実行している場所によって、ルートフォルダはローカルまたはリモートになります。

Web サーバーは、Web ブラウザからの HTTP 要求に対して、このフォルダまたはそのサブフォルダ内にあるファイルを返します。たとえば、ColdFusion MX 7 を実行しているコンピュータの "¥CFusionMX7¥wwwroot" フォルダおよびそのサブフォルダ内にあるすべてのファイルが、Web ブラウザで開けるようにします。

次の表では、選択した Web サーバーのデフォルトルートフォルダを示します。

Web サーバー	デフォルトルートフォルダ
ColdFusion MX 7	¥CFusionMX7¥wwwroot
IIS	¥Inetpub¥wwwroot
Apache (Windows)	¥apache¥htdocs
Apache (Macintosh)	Users:MyUserName:Sites
Jakarta Tomcat (Windows)	¥jakarta-tomcat-4.x.x¥webapps¥ROOT¥

Web サーバーをテストするには、テスト用の HTML ページをデフォルトルートフォルダに置き、ブラウザでそのページの URL を入力して開いてみます。URL は、www.example.com/testpage.htm のように、ドメイン名と HTML ページのファイル名で構成されます。

Web サーバーがローカルコンピュータで実行されている場合は、ドメイン名を **localhost** の代わりに使用できます。使用している Web サーバーに応じて、以下の localhost URL のいずれかを入力します。

Web サーバー	**Localhost URL**
ColdFusion MX 7	http://localhost:8500/testpage.htm
IIS	http://localhost/testpage.htm
Apache (Windows)	http://localhost:80/testpage.htm
Apache (Macintosh)	http://localhost/~MyUserName/testpage.htm (ここで、MyUserName は、Macintosh ユーザー名です)
Jakarta Tomcat (Windows)	http://localhost:8080/testpage.htm

注意：初期設定では、ColdFusion MX 7 の Web サーバーはポート 8500、Jakarta Tomcat の Web サーバーはポート 8080 で実行されます。

ページが期待どおりに開かない場合は、次のようなエラーが考えられます。

- Web サーバーが起動していない。起動手順については、Web サーバーのマニュアルを参照してください。
- ファイルの拡張子が .htm または .html ではない。
- ブラウザの [アドレス] テキストボックスに、ページの URL (たとえば、http://localhost:8500/testpage.htm) ではなく、ページのファイルパス (たとえば、c:¥CFusionMX7¥wwwroot¥testpage.htm) が入力されている。
- URL が正しく入力されていない。入力ミスがないことを確認し、http://localhost:8080/testpage.htm/ のようにファイル名の後にスラッシュが付いていないかチェックします。

アプリケーション用のルートフォルダを作成したら、ファイルを管理するための Dreamweaver サイトを定義します。

関連項目

472 ページの「ローカル Web サーバーのインストール」

37 ページの「Dreamweaver サイトの設定」

Dreamweaver サイトの定義について

Web アプリケーションを開発するためにシステムを設定したら、ファイルを管理するための Dreamweaver サイトを定義します。

定義するには、以下の要件を満たしておく必要があります。

- Web サーバーにアクセスできる。Web サーバーは、ローカルコンピュータ、開発サーバーなどのリモートコンピュータ、または Web ホスティング業者によって管理されているサーバーで実行できます。
- アプリケーションサーバーが Web サーバーを実行しているシステムにインストールされ、実行されている。
- Web サーバーを実行しているシステムに Web アプリケーションのルートフォルダが作成されている。

Web アプリケーション用の Dreamweaver サイトを定義するには、次の手順に従います。

1. ローカルフォルダの定義

ローカルフォルダとは、ハードディスクにあるサイトファイルの作業用コピーを保存するフォルダです。作成した新しい Web アプリケーションごとにローカルフォルダを定義できます。ローカルフォルダを定義すると、ファイルの管理や Web サーバーとのファイル転送を簡単に行うことができます。

2. リモートフォルダの定義

Web サーバーを実行しているコンピュータにある 1 つのフォルダを、Dreamweaver リモートフォルダとして定義します。リモートフォルダとは、Web サーバーに Web アプリケーション用に作成したフォルダです。

3. テストフォルダの定義

Dreamweaver では、作業中に動的コンテンツを生成および表示し、データベースに接続するためにこのフォルダが使用されます。テストサーバーは、ローカルコンピュータ、開発サーバー、ステージングサーバー、またはプロダクションサーバーのいずれかにすることができます。開発する動的ページを処理することができれば、どのサーバーを選択してもかまいません。

Dreamweaver サイトを定義したら、Web アプリケーションの構築を開始できます。

関連項目

37 ページの「Dreamweaver サイトの設定」

39 ページの「ローカルルートフォルダの設定および編集」

40 ページの「リモートフォルダの設定」

45 ページの「テストサーバーの設定」

ColdFusion デベロッパーのためのデータベース接続

ColdFusion データベースへの接続

Dreamweaver で ColdFusion の Web アプリケーションを開発する際には、サーバーの管理コンソールである Dreamweaver または ColdFusion Administrator で定義された ColdFusion のデータソースを選択して、データベースに接続します。

データベースに接続する前に、ColdFusion の Web アプリケーションを設定する必要があります。また、ネットワークや FTP にアクセスできるローカルコンピュータまたはシステムにデータベースを設定する必要があります。

さらに、Dreamweaver が ColdFusion のデータソースの場所を認識できるようにする必要があります。ColdFusion のデータソースをデザイン時に取得できるように、Dreamweaver では、ColdFusion を実行しているコンピュータのフォルダにスクリプトが保存されます。[サイト定義] ダイアログボックスの [テストサーバー] カテゴリで、このフォルダを指定してください。

次に、Dreamweaver または ColdFusion Administrator で ColdFusion のデータソースを作成します (既存のデータソースがない場合)。ColdFusion のデータソースを作成したら、Dreamweaver でこのデータソースを使用してデータベースに接続できます。

ColdFusion のデータソースの作成または修正

データベース情報をページで使用するには、ColdFusion のデータソースを作成する必要があります。ColdFusion MX 7 以降を実行している場合は、Dreamweaver で直接データソースを作成し修正することができます。ColdFusion MX を実行している場合は、サーバーの管理コンソールである ColdFusion MX Administrator を使用して、データソースを作成、修正する必要があります。この場合でも、Dreamweaver を使用して ColdFusion MX Administrator を起動することができます。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

640 ページの「ColdFusion 拡張機能の有効化」

ColdFusion MX 7 以降での ColdFusion のデータソースの作成または修正

1 ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータが、サイトのテストサーバーとして定義されていることを確認します。

2 Dreamweaver で 任意の ColdFusion ページを開きます。

3 データソースを新規作成するには、[データベース] パネル ([ウィンドウ]-[データベース]) で [+] ボタンをクリックし、データベースドライバに固有のパラメータ値を入力します。

注意：Dreamweaver では、[+] ボタンは ColdFusion MX 7 以降を実行している場合にだけ表示されます。

4 データソースを修正するには、[データベース] パネルでデータベース接続をダブルクリックし、必要な変更を加えます。

データソース名以外のパラメータを編集できます。詳細については、ドライバのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

ColdFusion MX 6.1 または 6.0 での ColdFusion のデータソースの作成または修正

1 Dreamweaver で 任意の ColdFusion ページを開きます。

2 Dreamweaver の [データベース] パネル ([ウィンドウ]-[データベース]) で、パネルツールバーの [データソースの変更] をクリックします。

3 ColdFusion MX Administrator にログインして、データソースを作成、または修正します。

手順については、ColdFusion ヘルプ ([ヘルプ]-[ColdFusion ヘルプ]) を参照してください。

ColdFusion のデータソースを作成するには、特定のパラメータ値を指定する必要があります。データベースドライバ固有のパラメータ値については、ドライバのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

ColdFusion のデータソースを作成すると、Dreamweaver で使用できるようになります。

Dreamweaver からのデータベースへの接続

ColdFusion のデータソースを作成したら、このデータソースを使用して Dreamweaver からデータベースに接続します。

Dreamweaver で任意の ColdFusion ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。パネルに ColdFusion のデータソースが表示されます。

データソースが表示されない場合は、パネル内のチェックリストが適切であることを確認してください。さらに、Dreamweaver が ColdFusion のデータソースの場所を認識できるようにする必要があります。[サイト定義] ダイアログボックスの [テストサーバー] カテゴリで、ColdFusion を実行しているコンピュータに保存されているサイトのルートフォルダを指定します。

関連項目

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

ASP デベロッパーのためのデータベース接続

ASP データベース接続について

ASP アプリケーションからデータベースに接続するには、ODBC (Open Database Connectivity) ドライバ、または OLE DB (Object Linking and Embedding Database) プロバイダを使用する必要があります。ドライバやプロバイダは、Web アプリケーションがデータベースと通信できるようにインタープリタの役割を果たします。次の表には、Microsoft Access、Microsoft SQL Server、および Oracle データベースで使用できるドライバの一部が示されています。

Database	データベースドライバ
Microsoft Access	Microsoft Access Driver (ODBC) Microsoft Jet Provider for Access (OLE DB)
Microsoft SQL Server[Microsoft SQL Server]	Microsoft SQL Server Driver (ODBC) Microsoft SQL Server Provider (OLE DB)
Oracle	Microsoft Oracle Driver (ODBC) Oracle Provider for OLE DB

データソース名 (DSN) または接続ストリングを使用して、データベースに接続できます。Windows システムにインストールされていない OLE DB プロバイダまたは ODBC ドライバを使用して接続する場合は、接続ストリングを使用する必要があります。

DSN は、接続するデータベースを示す 1 語からなる識別子で (例 : myConnection)、データベースに接続するために必要な情報をすべて含んでいます。DSN は、Windows で定義します。DSN は、Windows システムにインストールされている ODBC ドライバを使用して接続する場合に使用できます。

接続ストリングは、ハンドコーディングされた式です。次の例で示すように、データベースに接続するために必要な情報が列挙されていて、データベースを識別します。

```
Driver={SQL Server};Server=Socrates;Database=AcmeMktg;
UID=wiley;PWD=roadrunner
```

注意 : Windows システムにインストールされている ODBC ドライバを使用して接続する場合は、接続ストリングも使用できますが、DSN を使用する方が簡単です。

関連項目

467 ページの「データベースへのアクセス」

OLE DB 接続について

OLE DB プロバイダを使用して、データベースと通信することができます。OLE DB は、Windows NT、2000、または XP のみで使用できます。データベース固有の OLE DB による直接接続を作成すると、Web アプリケーションとデータベースの間にある ODBC 層を取り除き、接続の速度を向上させることができます。

データベースの OLE DB プロバイダを指定していない場合、ASP は ODBC ドライバに対応する初期設定の OLE DB プロバイダを使用して ODBC ドライバと通信し、その ODBC ドライバがデータベースと通信します。

データベースによって OLE DB プロバイダは異なります。Microsoft Access や SQL Server 用の OLE DB プロバイダをインストールするには、IIS を実行している Windows コンピュータに、Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.5 および 2.7 のパッケージをダウンロードおよびインストールします。MDAC パッケージは、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/data/mdac/downloads/) から無償でダウンロードできます。

注意 : MDAC 2.7 をインストールするには、MDAC 2.5 がインストールされている必要があります。

Oracle データベースに対応する OLE DB プロバイダは、Oracle の Web サイト (www.oracle.com/technology/software/tech/windows/ole_db/index.html) からダウンロードすることができます。ただし、ユーザー登録が必要です。

Dreamweaver では、接続ストリングの中で Provider パラメータを指定することで OLE DB 接続を作成します。Microsoft Access、SQL Server、Oracle の各データベースに対応する一般的な OLE DB プロバイダを指定するパラメータの例を次に示します。

```
Provider=Microsoft.Jet.OLEDB.4.0;...
Provider=SQLOLEDB;...
Provider=OraOLEDB;...
```

OLE DB プロバイダのパラメータ値については、プロバイダのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

接続ストリングについて

接続ストリングは、Web アプリケーションがデータベースに接続するために必要な情報をすべて組み合わせたものです。Dreamweaver では、アプリケーションサーバーが後の処理に使用できるように、このストリングをページのサーバーサイドスクリプトに挿入します。

Microsoft Access や SQL Server のデータベースに対する接続ストリングは、以下の各パラメータの組み合わせで構成されます。各パラメータ間は、セミコロンで区切ります。

Provider データベースに対応する OLE DB プロバイダを指定します。Microsoft Access、SQL Server、Oracle の各データベースに対応する一般的な OLE DB プロバイダを指定するパラメータの例を次に示します。

```
Provider=Microsoft.Jet.OLEDB.4.0;...
Provider=SQLOLEDB;...
Provider=OraOLEDB;...
```

OLE DB プロバイダのパラメータ値については、プロバイダのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

プロバイダのパラメータを省略した場合は、ODBC に対応する初期設定の OLE DB プロバイダが使用されるため、データベースに適切な ODBC ドライバを指定する必要があります。

ドライバ データベースに対応する OLE DB プロバイダを指定しない場合に使用する ODBC ドライバを指定します。

Server Web アプリケーションがデータベースとは異なるサーバー上で実行される場合に、SQL Server データベースをホストしているサーバーを指定します。

Database SQL Server データベースの名前。

DBQ Microsoft Access で作成したデータベースなどの、ファイルベースのデータベースのパス。このパスには、データベースファイルが置かれているサーバー上のパスを指定します。

UID ユーザー名を指定します。

PWD ユーザーパスワードを指定します。

DSN データソース名を使用する場合に、そのデータソース名。サーバー上での DSN の定義方法によっては、接続ストリング内の DSN 以外のパラメータを省略することができます。たとえば、DSN を作成したときに、その他のパラメータを定義した場合は、DSN=Results というストリングが有効な接続ストリングになります。

その他の種類のデータベースに対する接続ストリングでは、上記のパラメータを使用しない場合や、パラメータの名前または用途が異なる場合があります。詳細については、データベースのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

trees.mdb という Microsoft Access データベースに対する ODBC 接続を作成する接続ストリングの例を次に示します。

```
Driver={Microsoft Access Driver (*.mdb)};
DBQ=C:\Inetpub\wwwroot\Research\trees.mdb
```

Gojira というサーバー上にある Mothra という SQL Server データベースに対する OLE DB 接続を作成する接続ストリングの例を次に示します。

```
Provider=SQLOLEDB;Server=Gojira;Database=Mothra;UID=jsmith;
PWD=orlando8
```

ローカル DSN を使用した接続の作成

注意：この項では、既に ASP アプリケーションが設定済みであることを前提としています。また、ネットワークや FTP にアクセスできるローカルコンピュータまたはシステムに、データベースが設定されていることを前提としています。

データソース名 (DSN) を使用して、Web アプリケーションとデータベース間に ODBC 接続を作成することができます。DSN とは、ODBC ドライバを使用して特定のデータベースに接続するために必要なパラメータがすべて含まれている名前です。

DSN には ODBC ドライバしか指定できないため、OLE DB プロバイダを利用する場合には、接続ストリングを使用する必要があります。

ローカルに定義された DSN を使用して、Dreamweaver にデータベース接続を作成することができます。

1 Dreamweaver を実行している Windows コンピュータで DSN を定義します。

手順については、Microsoft の Web サイトで次の記事を参照してください。

- コンピュータで Windows 2000 を実行している場合は、Microsoft Knowledge Base の記事 300596 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;300596) を参照してください。
- コンピュータで Windows XP を実行している場合は、Microsoft Knowledge Base の記事 305599 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;305599) を参照してください。

2 Dreamweaver で ASP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

3 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューから [データソース名 (DSN)] を選択します。

4 新しい接続の名前を入力します (スペースまたは特殊文字は使用できません)。

5 [ローカルの DSN を使用] を選択し、[データソース名 (DSN)] メニューから使用する DSN を選択します。

ローカルの DSN を使用する際に、DSN が定義されていない場合は、[定義] をクリックして、[Windows ODBC データソースアドミニストレータ] を開きます。

6 [ユーザー名] テキストボックスと [パスワード] テキストボックスに情報を入力します。

7 [詳細設定] をクリックし、スキーマ名またはカタログ名を入力して、デザイン時に Dreamweaver が検索するデータベースの項目数を制限することができます。

注意：Microsoft Access では、スキーマやカタログは作成できません。

8 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、[OK] をクリックします。接続できない場合は、接続ストリングを再確認するか、Dreamweaver が動的ページの処理に使用するテストフォルダの設定をチェックしてください。

関連項目

512 ページの「Dreamweaver で表示されるデータベース情報の制限」

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

リモート DSN を使用した接続の作成

注意：この項では、既に ASP アプリケーションが設定済みであることを前提としています。また、ネットワークや FTP にアクセスできるローカルコンピュータまたはシステムに、データベースが設定されていることを前提としています。

注意：Dreamweaver で取得できるのは、[Windows ODBC データソースアドミニストレータ] で作成したサーバーサイドの DSN に限られます。

リモートコンピュータに定義された DSN を使用して、Dreamweaver にデータベース接続を作成することができます。リモートの DSN を使用する場合は、アプリケーションサーバー (通常は IIS) を実行している Windows コンピュータにその DSN が定義されている必要があります。

注意：DSN には ODBC ドライバしか指定できないため、OLE DB プロバイダを利用する場合には、接続ストリングを使用する必要があります。

1 アプリケーションサーバーを実行しているリモートシステム上で DSN を定義します。

手順については、Microsoft の Web サイトで次の記事を参照してください。

- リモートコンピュータで Windows 2000 を実行している場合は、Microsoft Knowledge Base の記事 300596 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;300596) を参照してください。
- リモートコンピュータで Windows XP を実行している場合は、Microsoft Knowledge Base の記事 305599 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;305599) を参照してください。

2 Dreamweaver で ASP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

3 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューから [データソース名 (DSN)] を選択します。

4 新しい接続の名前を入力します (スペースまたは特殊文字は使用できません)。

5 [テストサーバーの DSN を使用] を選択します。

注意：Macintosh を使用している場合は、すべてのデータベース接続でアプリケーションサーバーの DSN が使用されるため、この手順は無視してください。

6 DSN を入力するか [DSN] ボタンをクリックしてサーバーに接続し、使用するデータベースの DSN を選択してから、必要に応じてオプションを設定します。

7 [ユーザー名] テキストボックスと [パスワード] テキストボックスに情報を入力します。

8 [詳細設定] をクリックし、スキーマ名またはカタログ名を入力して、デザイン時に Dreamweaver が検索するデータベースの項目数を制限することができます。

注意：Microsoft Access では、スキーマやカタログは作成できません。

9 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、[OK] をクリックします。接続できない場合は、接続ストリングを再確認するか、Dreamweaver が動的ページの処理に使用するテストフォルダの設定をチェックしてください。

関連項目

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

512 ページの「Dreamweaver で表示されるデータベース情報の制限」

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

接続ストリングを使用した接続の作成

DSN を使用しない接続を使って、Web アプリケーションとデータベース間の ODBC 接続または OLE DB 接続を作成することができます。その際には、接続ストリングを使用して接続を作成します。

1 Dreamweaver で ASP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューから [カスタム接続ストリング] を選択します。必要に応じてオプションを設定し、[OK] をクリックします。

3 新しい接続の名前を入力します (スペースまたは特殊文字は使用できません)。

4 データベースの接続ストリングを入力します。接続ストリングで OLE DB プロバイダを指定しない場合、つまり Provider パラメータを省略した場合、ASP では ODBC ドライバに対応する OLE DB プロバイダが自動的に使用されます。この場合は、使用するデータベースに応じた適切な ODBC ドライバの指定が必要です。

ISP を利用してサイトをホストしている場合に、データベースの絶対パスがわからないときは、接続ストリング内で ASP サーバーオブジェクトの MapPath メソッドを使用します。

5 接続ストリングで指定したデータベースドライバが Dreamweaver と同じコンピュータにインストールされていない場合は、[テストサーバー上のドライバを使用] を選択します。

注意：Macintosh を使用している場合は、すべてのデータベース接続がアプリケーションサーバーで行われるため、この手順は無視してください。

6 [詳細設定] をクリックし、スキーマ名またはカタログ名を入力して、デザイン時に Dreamweaver が検索するデータベースの項目数を制限することができます。

注意：Microsoft Access では、スキーマやカタログは作成できません。

7 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、[OK] をクリックします。接続できない場合は、接続ストリングを再確認するか、Dreamweaver が動的ページの処理に使用するテストフォルダの設定をチェックしてください。

関連項目

481 ページの「ColdFusion データベースへの接続」

512 ページの「Dreamweaver で表示されるデータベース情報の制限」

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

ISP のデータベースへの接続

一般の ISP (Internet Service Provider: インターネットサービスプロバイダ) を使用して ASP を開発している場合、データベースファイルなど、アップロードするファイルの物理パスが不明なことがあります。

使用している ISP が DSN を定義しなかったり、定義に時間がかかる場合には、別の方法でデータベースファイルに対する接続を作成する必要があります。たとえば、データベースファイルに対して DSN を使用しない接続を作成する方法がありますが、このような接続を定義するには、ISP サーバーに保存されているデータベースファイルの物理パスの情報が必要になります。

ASP サーバーオブジェクトの MapPath メソッドを使用して、データベースファイルのサーバー上での物理パスを取得することができます。

注意 : この項で説明する方法は、データを .mdb ファイルに保存する Microsoft Access データベースなどのファイルベースのデータベースにのみ適用されます。

物理パスと仮想パスについて

Dreamweaver を使用してファイルをリモートサーバーにアップロードすると、ファイルはサーバーのローカルディレクトリツリーにあるフォルダ内に保存されます。たとえば、Microsoft IIS を実行しているサーバーでは、ホームページへのパスは次のようになります。

```
c:\Inetpub\wwwroot\accounts\users\jsmith\index.htm
```

このパスは、ファイルに対しては物理パスとなります。

しかし、ファイルを開くための URL は、物理パスではありません。次の例のように、サーバー名またはドメイン名の後に仮想パスが使用されます。

```
www.plutoserve.com/jsmith/index.htm
```

仮想パス "/jsmith/index.htm" が、物理パス "c:¥Inetpub¥wwwroot¥accounts¥users¥jsmith¥index.htm" の代わりとして機能します。

仮想パスを利用したファイルの物理パスの検索

ISP を使用している場合は、アップロードしたファイルの物理パスが常にわかるわけではありません。通常、ISP は FTP ホスト (ホストディレクトリ) とログイン名、パスワードをユーザーに通知します。また、インターネット上でページを確認できるようにホームページ (例 : www.plutoserve.com/jsmith/) を通知します。

URL がわかっている場合は、URL のサーバー名またはドメイン名に続くパスから、ファイルの仮想パスがわかります。仮想パスが判明すると、MapPath メソッドでサーバーにおけるファイルの物理パスを取得できます。

MapPath メソッドは仮想パスを引数として使用し、ファイルの物理パスとファイル名を返します。次にメソッドの構文を示します。

```
Server.MapPath("/virtualpath")
```

ファイルの仮想パスが /jsmith/index.htm である場合、次の式でファイルの物理パスが返されます。

```
Server.MapPath("/jsmith/index.htm")
```

MapPath メソッドを使用して、次のような処理ができます。

1 Dreamweaver で ASP ページを開き、コードビューに切り替えます ([表示]-[コード])。

2 ページの HTML コードに、次の式を入力します。

```
<%Response.Write(stringvariable)%>
```

3 MapPath メソッドを使用して、*stringvariable* 引数の値を求めます。

次に、その例を示します。

```
<% Response.Write(Server.MapPath("/jsmith/index.htm")) %>
```

4 デザインビューに切り替えて ([表示]-[デザイン])、ライブデータを有効にし ([表示]-[ライブデータ])、ページを表示します。

ページには、次の例のように、ファイルのアプリケーションサーバー上での物理パスが表示されます。

```
c:\Inetpub\wwwroot\accounts\users\jsmith\index.htm
```

MapPath メソッドの詳細については、Microsoft IIS のオンラインマニュアルを参照してください。

仮想パスを使用したデータベースへの接続

リモートサーバー上に存在するデータベースファイルに対して DSN を使用しない接続ストリングを記述するには、ファイルの物理パスの情報が必要です。たとえば、DSN を使用しない標準的な Microsoft Access データベース用の接続ストリングは、次のようになります。

```
Driver={Microsoft Access Driver (*.mdb)};
DBQ=c:\Inetpub\wwwroot\accounts\users\jsmith\data\statistics.mdb
```

リモートサーバーのファイルの物理パスが不明な場合は、接続ストリングに MapPath メソッドを使用して、物理パスを取得できます。

1 データベースファイルをリモートサーバーにアップロードし、仮想パスをメモしておきます (例 : /jsmith/data/statistics.mdb)。

2 Dreamweaver で ASP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

3 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューから [カスタム接続ストリング] を選択します。

4 新しい接続の名前を入力します (スペースまたは特殊文字は使用できません)。

5 接続ストリングを入力し、MapPath メソッドを使用して DBQ パラメータを指定します。

Microsoft Access データベースに対する仮想パスが /jsmith/data/statistics.mdb であるとします。スクリプト言語が VBScript である場合、接続ストリングは次のように表すことができます。

```
"Driver={Microsoft Access Driver (*.mdb)};DBQ=" & Server.MapPath¬
("/jsmith/data/statistics.mdb")
```

アンパサンド (&) は、2 つのストリングを連結するために使用されます。最初のストリングは引用符で囲まれ、2 番目のストリングは Server.MapPath 式によって返されます。2 つのストリングが連結されると、次のストリングが生成されます。

```
Driver={Microsoft Access Driver (*.mdb)};
DBQ=C:\Inetpub\wwwroot\accounts\users\jsmith\data\statistics.mdb
```

JavaScript を使用している場合も、この式は同じですが、アンパサンド (&) ではなくプラス (+) 記号を使用して 2 つのストリングを連結する点で異なっています。

```
"Driver={Microsoft Access Driver (*.mdb)};DBQ=" + Server.MapPath¬
("/jsmith/data/statistics.mdb")
```

6 [テストサーバー上のドライバを使用] を選択し、[テスト] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

注意 : Macintosh を使用している場合は、すべてのデータベース接続がアプリケーションサーバーで行われるため、この手順は無視してください。

注意 : 接続に失敗した場合は、接続ストリングを再確認するか、ISP に問い合わせて、接続ストリングで指定したデータベースドライバがリモートサーバーにインストールされていることを確認してください。また、ISP で使用されているドライバが、最新バージョンであるかどうかを確認してください。たとえば、Microsoft Access 2000 データベース用に、Microsoft Access Driver 3.5 を使用することはできません。Microsoft Access Driver 4.0 以降が必要になります。

7 既存の動的ページのデータベース接続を更新して (Dreamweaver で該当するページを開き、[バインディング] パネルまたは [サーバービヘイビア] パネルでレコードセット名をダブルクリックして、作成した接続を [接続] メニューから選択します)、新規に作成するページで新しい接続を使用します。

データベース接続の編集と削除

Dreamweaver では、データベース接続を作成すると、サイトのローカルルートフォルダ内の "Connections" サブフォルダにあるインクルードファイルに、接続情報が保存されます。ファイル内の接続情報は手動で編集または削除するか、次のように処理することもできます。

接続の編集

1 Dreamweaver で ASP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の編集] を選択します。

3 接続情報を編集し、[OK] をクリックします。

Dreamweaver により、インクルードファイルが更新され、さらに、該当するサイトでこの接続を使用しているすべてのページが更新されます。

接続の削除

1 Dreamweaver で ASP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の削除] を選択します。

3 表示されるダイアログボックスで、接続の削除を確認します。

注意：接続の削除後にエラーが発生しないようにするには、[バインディング] パネルでレコードセットの名前をダブルクリックし、新しい接続を選択して、削除された接続を使用しているレコードセットをすべて更新します。

PHP デベロッパーのためのデータベース接続

PHP データベース接続について

Dreamweaver で PHP を使用して開発するときに使用可能なデータベースシステムは、MySQL だけです。Microsoft Access や Oracle など、その他のデータベースシステムを使用することはできません。MySQL は、オープンソースソフトウェアです。非営利目的であれば、インターネットから無料でダウンロードできます。詳細については、MySQL の Web サイト (http://dev.mysql.com/downloads/) を参照してください。

この項では、既に PHP アプリケーションが設定済みであることを前提としています。また、MySQL データベースが、ローカルコンピュータまたはネットワークや FTP でアクセスできるシステムに設定されていることを前提としています。

開発目的で、MySQL データベースサーバーの Windows Essentials バージョンをダウンロードしてインストールします。

関連項目

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

データベースへの接続

Dreamweaver で PHP アプリケーションを開発する際にデータベースに接続するには、1 つまたは複数の MySQL データベースがあり、MySQL サーバーが起動されている必要があります。

1 Dreamweaver で PHP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューから [MySQL 接続] を選択して、ダイアログボックスに情報を入力します。

- 新しい接続の名前を入力します (スペースまたは特殊文字は使用できません)。

- [MySQL サーバー] ボックスで、MySQL がインストールされているコンピュータの IP アドレスまたはサーバー名を入力します。MySQL と PHP を同じコンピュータで実行する場合は、「localhost」と入力できます。
- MySQL ユーザー名とパスワードを入力します。
- [データベース] ボックスにデータベース名を入力するか、[選択] をクリックして MySQL データベースのリストからデータベースを選択し、[テスト] をクリックします。

Dreamweaver がデータベースへの接続を試みます。接続に失敗した場合は、サーバー名、ユーザー名、およびパスワードを再確認してください。それでも接続に失敗する場合は、Dreamweaver が動的ページの処理に使用するテストフォルダの設定をチェックしてください。

3 [OK] をクリックします。

注意：MySQL 4.1 への PHP データベース接続をテストして、「Client does not support authentication protocol requested. 「Consider upgrading MySQL client」というエラーメッセージが表示された場合は、502 ページの「MySQL エラーメッセージのトラブルシューティング」を参照してください。

データベース接続の編集と削除

Dreamweaver では、データベース接続を作成すると、サイトのローカルルートフォルダ内の "Connections" サブフォルダにあるインクルードファイルに、接続情報が保存されます。ファイル内の接続情報は手動で編集または削除するか、次のように処理することもできます。

接続の編集

1 Dreamweaver で PHP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の編集] を選択します。

3 接続情報を編集し、[OK] をクリックします。

Dreamweaver により、インクルードファイルが更新され、さらに、該当するサイトでこの接続を使用しているすべてのページが更新されます。

接続の削除

1 Dreamweaver で PHP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の削除] を選択します。

3 表示されるダイアログボックスで、接続の削除を確認します。

注意：接続を削除した後にエラーが発生しないようにするには、古い接続を使用しているレコードセットをすべて更新します。[バインディング] パネルでレコードセットの名前をダブルクリックし、[レコードセット] ダイアログボックスで新しい接続を選択してください。

ASP.NET デベロッパーのためのデータベース接続

ASP.NET データベースへの接続

データベースに接続するには、データベース用の OLE DB プロバイダを入手する必要があります。Microsoft SQL Server データベースに接続する場合は、.NET Framework Software Development Kit (SDK) によって提供されている SQL Server 用マネージデータプロバイダを使用できます。

データベースに接続する前に、ASP.NET アプリケーションを設定する必要があります。また、ネットワークや FTP にアクセスできるローカルコンピュータまたはシステムにデータベースを設定する必要があります。

データベースプロバイダをインストールすると、それを使用してデータベースに接続できます。

データベースに対応する OLE DB プロバイダの取得

ASP.NET アプリケーションは、OLE DB プロバイダを経由してデータベースと接続されます。プロバイダは、ASP.NET アプリケーションがデータベースと通信できるように、インタープリタの役割を果たします。

Microsoft SQL Server データベースに接続する場合は、.NET Framework 1.1 SDK に同梱される SQL Server 用マネージデータプロバイダを使用できます。SQL Server 用に最適化されていて非常に高速なこのプロバイダは、SDK をインストールするときに同時にインストールされます。

SQL Server 以外のデータベースに接続する場合は、使用しているデータベース用の OLE DB プロバイダが .NET Framework を実行しているコンピュータ上にインストールされていることを確認してください。Microsoft Access 用の OLE DB プロバイダは、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/data/mdac/downloads/) から MDAC (Microsoft Data Access Components) 2.7 パッケージをダウンロードしてコンピュータにインストールすると入手できます。

Oracle データベースに対応する OLE DB プロバイダは、Oracle の Web サイト (www.oracle.com/technology/software/tech/windows/ole_db/index.html) からダウンロードすることができます。サードパーティのベンダーから OLE DB プロバイダを購入することもできます。

関連項目

467 ページの「データベースへのアクセス」

Dreamweaver での ASP.NET データベース接続の作成

使用しているデータベース用の OLE DB プロバイダを取得したら、それを使用して Dreamweaver 内でデータベース接続を作成します。

また、[データリンクプロパティ] ダイアログボックスを使用して接続を作成することもできます。

1 Dreamweaver で ASP.NET ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューから [OLE DB 接続] または [SQL サーバー接続] を選択します。

注意： [SQL サーバー接続] は、Microsoft SQL Server データベースに接続する場合にのみ選択してください。

3 新しい接続の名前を入力し (スペースまたは特殊文字は使用できません)、接続ストリングを入力します。

注意： OLE DB 接続ストリングのヘルプを参照する場合は、[テンプレート] をクリックして [接続文字列テンプレート] ダイアログボックスを開き、使用している OLE DB プロバイダを選択して [OK] をクリックします。

4 ストリング内のプレースホルダーを要求された情報と置き換え、[テスト] をクリックしてから [OK] をクリックします。

関連項目

492 ページの「ASP.NET 用サンプル OLE DB 接続パラメータ」

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

[データリンクプロパティ] を使用した接続の作成

使用しているデータベース用の OLE DB プロバイダを取得した後は、Windows の [データリンクプロパティ] ダイアログボックスを使用してデータベース接続を作成できます。この方法は、使用する OLE DB プロバイダが Dreamweaver と同じ Windows コンピュータ上にインストールされている場合にのみ使用できます。

1 Dreamweaver で ASP.NET ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。サイトに定義されている接続がパネルに表示されます。

2 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューから [OLE DB 接続] を選択します。

3 [OLE DB 接続] ダイアログボックスで、[作成] をクリックします。Dreamweaver を実行している Windows コンピュータ上に現在ある OLE DB プロバイダが表示されます。

4 [データリンクプロパティ] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックして、接続ストリングを挿入します。

5 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、[OK] をクリックします。接続できない場合は、接続ストリングを再確認するか、Dreamweaver が動的ページの処理に使用するテストフォルダの設定をチェックしてください。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

ASP.NET 用サンプル OLE DB 接続パラメータ

OLE DB 接続ストリングは、ASP.NET アプリケーションがデータベースに接続するために必要な情報をすべて組み合わせたものです。Dreamweaver では、アプリケーションサーバーが後の処理に使用できるように、このストリングをページのサーバーサイドスクリプトに挿入します。

Dreamweaver には、ASP.NET アプリケーション用に OLE DB 接続ストリングを作成するためのストリングのテンプレートが用意されています。接続ストリングを作成するには、テンプレート内のプレースホルダーを要求されたパラメータ値に置き換えます。以下に、Microsoft Access および SQL Server データベース用のサンプルパラメータを示します。

注意：その他のデータベース固有のパラメータ値については、データベースのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

例 1： .NET Framework がローカルコンピュータ上にあり、ハードディスク上の C:¥Inetpub¥wwwroot¥SkyDiveSchool¥data のフォルダ内にある sdSchool.mdb という名前の Microsoft Access データベースに接続するとします。この接続ストリングを作成するためのパラメータは次のようになります。

```
Provider=Microsoft.Jet.OLEDB.4.0;
Data Source=c:\Inetpub\wwwroot\SkyDiveSchool\data\sdSchool.mdb;
```

例 2： .NET Framework がリモート開発サーバー上にあり、サーバー上の D:¥users¥tara¥projects¥MtnDrivingSchool¥data のフォルダ内にある mtnSchool.mdb という名前の Microsoft Access データベースに接続するとします。この接続ストリングを作成するためのパラメータは次のようになります。

```
Provider=Microsoft.Jet.OLEDB.4.0;
Data Source=d:\users\tara\projects\MtnDrivingSchool\data\mtnSchool.mdb;
```

例 3： .NET Framework が Savant というネットワーク接続された開発サーバー上にあり、サーバー上にある pubs という名前の Microsoft SQL データベースに接続するとします。SQL Server ユーザー名は "sa" で、パスワードはありません。SQL Server 用マネージデータプロバイダを使用している場合 (つまり、[データベース] パネルで [SQL サーバー接続] を選択した場合)、接続ストリングを作成するためのパラメータは次のようになります。

```
Data Source=Savant;
Initial Catalog=pubs;
User ID=sa;
Password=;
```

データベース接続の編集と削除

Dreamweaver では、データベース接続を作成すると、サイトのローカルルートフォルダ内の "Connections" サブフォルダにあるインクルードファイルに、接続情報が保存されます。ファイル内の接続情報は手動で編集または削除するか、次のように処理することもできます。

接続名を変更した場合は、[バインディング] パネルでレコードセットの名前をダブルクリックし、[データセット] ダイアログボックスで新しい接続名を選択して、旧接続名を使用しているデータセット (レコードセット) をすべて更新します。

接続の編集

1 Dreamweaver で ASP.NET ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の編集] を選択します。

3 変更を加え、[OK] をクリックします。Dreamweaver により、インクルードファイルが更新され、さらに、該当するサイトでこの接続を使用しているすべてのページが更新されます。

接続の削除

1 Dreamweaver で ASP.NET ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の削除] を選択します。

3 表示されるダイアログボックスで、接続の削除を確認します。

JSP デベロッパーのためのデータベース接続

JSP データベース接続について

JSP アプリケーションからデータベースに接続するには、JDBC ドライバを使用する必要があります。データベースドライバをインストールすると、それを介してデータベースに接続できるようになります。JDBC ドライバを使って接続するには、特定のパラメータ値を指定する必要があります。ドライバ固有のパラメータ値については、ドライバのベンダーのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

また、JDBC-ODBC ブリッジドライバが組み込まれている場合は、ODBC ドライバ (および Windows DSN) を使用することもできます。

注意：JSP アプリケーションサーバーがローカルコンピュータまたはリモートコンピュータで実行されている必要があります。また、ネットワークや FTP にアクセスできるローカルコンピュータまたはシステムにデータベースを設定する必要があります。

関連項目

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

467 ページの「データベースへのアクセス」

JDBC 接続パラメータ

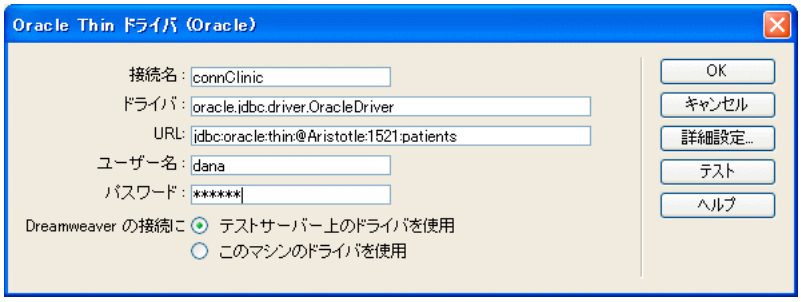
Dreamweaver で JSP データベース接続を作成するには、通常、JDBC 接続パラメータを入力する必要があります。JDBC 接続は通常、ドライバ、ユーザー名、パスワード、および URL (データベースの場所を指定します) の 4 つのパラメータで構成されています。一般に、ドライバと URL のパラメータの値は、ドライバの種類によって異なります。

この例は、Oracle Thin JDBC ドライバを使用して Dreamweaver で接続パラメータを定義する方法を示しています。その他のドライバの接続パラメータについては、各ドライバのベンダーのマニュアルを参照してください。

Oracle Thin JDBC ドライバは、Oracle データベースをサポートしています。このドライバを使用して Oracle データベースに接続するには、[データベース] パネルの [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [Oracle Thin ドライバ (Oracle)] ドライバを選択します。[Oracle Thin ドライバ] ダイアログボックスが表示されます。

接続名を入力して、プレースホルダー (角カッコで囲んだ部分) を有効な接続パラメータに置き換えます。[hostname] プレースホルダーには、システム管理者がデータベースサーバーに割り当てた IP アドレスまたは名前を入力します。[sid] プレースホルダーには、データベースシステム ID を入力します。同一のシステム上で複数の Oracle データベースを実行している場合は、この SID を使用して、それぞれのデータベースを区別します。

たとえば、サーバーの名前が Aristotle 、データベースのポート番号が 1521 である場合に、そのサーバー上で patients というデータベース SID を定義しているときは、Dreamweaver で次のようなパラメータ値を入力します。



使用しているデータベース用の JDBC ドライバの入手

データベース接続を作成する前に、使用しているデータベース用の JDBC ドライバが組み込まれていることを確認してください。Oracle Thin JDBC ドライバ、Oracle Java ドライバ、Microsoft SQL Server 対応の i-net JDBC ドライバなどが、一般的な JDBC ドライバです。

Oracle などのデータベースシステムベンダーは、通常は自社システムにドライバを組み込んでいます。サードパーティのベンダーからドライバを購入することもできます。たとえば、Microsoft SQL Server 用の JDBC ドライバは、i-net software (www.inetsoftware.de/products/jdbc/) から入手することができます。

また、Sun Microsystems 社は検索可能な JDBC ドライバのデータベースおよびそのベンダー情報を同社の Web サイト (http://developers.sun.com/product/jdbc/drivers) で提供しています。

関連項目

495 ページの「Sun JDBC-ODBC ブリッジドライバのインストール」

JPS データベース接続の作成

アプリケーションサーバーを実行しているコンピュータにデータベース用の適切な JDBC ドライバをインストールすると、Dreamweaver でデータベース接続を作成することができます。

1 Dreamweaver で JSP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 [+] ボタンをクリックして、メニューからドライバを選択します。使用するドライバがリストに表示されていない場合は、[カスタム JDBC 接続] を選択します。

3 [カスタム JDBC 接続] ダイアログボックスに接続パラメータを入力します。

4 使用する JDBC ドライバの場所を指定します。

- JDBC ドライバが Dreamweaver と同じコンピュータにインストールされている場合は、[このマシンのドライバを使用] を選択します。
- JDBC ドライバが Dreamweaver と同じコンピュータにインストールされていない場合は、[テストサーバー上のドライバを使用] を選択します。

注意：Macintosh を使用している場合は、すべてのデータベース接続がアプリケーションサーバーで行われるため、この手順は無視してください。

5 [詳細設定] をクリックし、スキーマ名またはカタログ名を入力して、デザイン時に Dreamweaver が検索するデータベースの項目数を制限することもできます。

注意：Microsoft Access では、スキーマやカタログは作成できません。

6 [テスト] をクリックし、[OK] をクリックします。

Dreamweaver がデータベースへの接続を試みます。接続に失敗した場合は、接続パラメータを確認してください。それでも接続に失敗する場合は、Dreamweaver が動的ページの処理に使用するテストフォルダの設定をチェックしてください。

関連項目

512 ページの「Dreamweaver で表示されるデータベース情報の制限」

494 ページの「使用しているデータベース用の JDBC ドライバの入手」

493 ページの「JDBC 接続パラメータ」

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

ODBC ドライバを使用した接続

JSP アプリケーションとデータベースの通信には JDBC ドライバを使う必要がありますが、JDBC-ODBC ブリッジドライバが組み込まれている場合は、ODBC ドライバを使って通信することもできます。ブリッジドライバは、JDBC を使用する JSP アプリケーションと、ODBC を使用する ODBC ドライバ間のインタープリタとしての役割を果たします。この通信手段によって、JSP アプリケーションがデータベースと通信できます。

Windows ユーザーの場合、このタイプの通信には 2 つの利点があります。第 1 に、Microsoft 社提供の無償の ODBC ドライバを使用できます。第 2 に、DSN を使って接続を簡単に作成することができます。

ODBC ドライバを使って接続するには、以下の要件を満たしている必要があります。

- JSP アプリケーションサーバーが Windows コンピュータで実行されている。
- データベース用の ODBC ドライバが、アプリケーションサーバーを実行している Windows コンピュータにインストールされている。
- JDBC-ODBC ブリッジドライバが、アプリケーションサーバーを実行している Windows コンピュータにインストールされている。

以上の要件が満たされている場合、ODBC ドライバを使って接続できます。

ODBC ドライバの確認

データベース用の ODBC ドライバが、JSP アプリケーションサーバーを実行している Windows コンピュータにインストールされていることを確認します。適切なドライバがインストールされていない場合は、JSP アプリケーションサーバーを実行しているコンピュータに Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.5 および 2.7 のパッケージをダウンロードして、インストールすることができます。MDAC は、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/data/mdac/downloads/) から無償でダウンロードできます。これらのパッケージには、Microsoft 社提供の最新の ODBC ドライバが含まれています。

注意：MDAC 2.7 をインストールする前に、MDAC 2.5 をインストールしてください。

Sun JDBC-ODBC ブリッジドライバのインストール

ODBC ドライバを使って接続するには、JSP アプリケーションサーバーを実行している Windows コンピュータに Sun JDBC-ODBC ブリッジドライバがインストールされている必要があります。このドライバは、Java 2 SDK for Windows の Standard Edition に同梱されています。

システムに Java 2 SDK とブリッジドライバがインストールされているかを調べるには、ハードディスク上の "jdk1.2"、"jdk1.3"、または "j2sdk1.4" の各フォルダを調べてください。

SDK がない場合は、Sun の Web サイト (http://java.sun.com/j2se/) からダウンロードしてインストールすることができます。これにより、ドライバもインストールされます。

Sun JDBC-ODBC ブリッジドライバは、Microsoft Access などのローエンドのデータベースシステムを使用し、開発を行うのには十分ですが、実際の稼動用には適していません。たとえば、Sun JDBC-ODBC ブリッジドライバでは、一度に 1 つの JSP ページしかデータベースに接続できません。つまり、複数のスレッドからの同時接続はサポートされていません。ドライバの制約の詳細については、Adobe サポートセンターの TechNote 17392 (www.adobe.com/go/17392_jp) を参照してください。

ブリッジドライバをインストールしたら、データベース接続を作成することができます。

ODBC 接続の作成

ODBC ドライバを使って接続する前に、JSP アプリケーションサーバーを実行している Windows コンピュータに適切な ODBC ドライバと Sun JDBC-ODBC ブリッジドライバがインストールされていることを確認してください。

1 アプリケーションサーバーを実行する Windows システム上で DSN を定義します。

手順については、Microsoft の Web サイトで次の記事を参照してください。

- Windows 2000 を使用している場合は、Microsoft Knowledge Base の記事 300596 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;300596) を参照してください。
- Windows XP を使用している場合は、Microsoft Knowledge Base の記事 305599 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;305599) を参照してください。

2 Dreamweaver で JSP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

3 パネルの [+] ボタンをクリックし、メニューで [ODBC データベース (Sun JDBC-ODBC Driver)] を選択します。

4 新しい接続の名前を入力します (スペースまたは特殊文字は使用できません)。

5 [URL] ボックス内の [odbc dsn] というプレースホルダーを手順 1 で定義した DSN に置き換えます。[URL] ボックスの内容は次のようになります。

```
jdbc:odbc:myDSN
```

6 データベースにアクセスするためのユーザー名とパスワードを指定します。

ユーザー名またはパスワードが必要でない場合は、これらのボックスを空白のままにしてください。たとえば、Acme という DSN が定義されており、ユーザー名とパスワードを指定しなくてもデータベースにアクセスできる場合は、次のようなパラメータ値を入力します。

ドライバ : sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver

[URL] : jdbc:odbc:Acme

7 JDBC-ODBC ブリッジドライバの場所を指定します。

- ドライバが Dreamweaver と同じコンピュータにインストールされている場合は、[このマシンのドライバを使用] を選択します。
- ドライバが Dreamweaver と同じコンピュータにインストールされていない場合は、[テストサーバー上のドライバを使用] を選択します。

注意 : Macintosh を使用している場合は、すべてのデータベース接続がアプリケーションサーバーで行われるため、この手順は無視してください。

8 [テスト] をクリックし、[OK] をクリックします。

Dreamweaver がデータベースへの接続を試みます。接続に失敗した場合は、DSN と他の接続パラメータを再確認してください。それでも接続に失敗する場合は、Dreamweaver が動的ページの処理に使用するテストフォルダの設定をチェックしてください。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

497 ページの「データベース接続のトラブルシューティング」

データベース接続の編集と削除

Dreamweaver では、データベース接続を作成すると、サイトのローカルルートフォルダ内の "Connections" サブフォルダにあるインクルードファイルに、接続情報が保存されます。ファイル内の接続情報は手動で編集または削除するか、次のように処理することもできます。

接続の編集

1 Dreamweaver で JSP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の編集] を選択します。

3 接続情報を編集し、[OK] をクリックします。

Dreamweaver により、インクルードファイルが更新され、さらに、該当するサイトでこの接続を使用しているすべてのページが更新されます。

接続の名前を変更した場合は、[バインディング] パネルでレコードセットの名前をダブルクリックし、[レコードセット] ダイアログボックスで新しい接続名を選択して、変更前の接続名を使用しているレコードセットをすべて更新します。

接続の削除

1 Dreamweaver で JSP ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

2 接続を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、メニューから [接続の削除] を選択します。

3 表示されるダイアログボックスで、接続の削除を確認します。

注意：接続の削除後にエラーが発生しないようにするには、[バインディング] パネルでレコードセットの名前をダブルクリックし、[レコードセット] ダイアログボックスから新しい接続を選択して、削除された接続を使用しているレコードセットをすべて更新します。

データベース接続のトラブルシューティング

権限に関するトラブルシューティング

適切なフォルダ権限やファイル権限がないことが原因で問題が発生することがあります。データベースが Windows 2000 または Windows XP コンピュータに置かれており、Web ブラウザで動的ページを表示したり、ライブデータモードのときに動的ページを表示しようとするとエラーメッセージが表示される場合は、権限に問題があると考えられます。

データベースにアクセスしようとしている Windows アカウントに、適切な権限がありません。認証済みアクセスに対しページにセキュリティが設定されている場合、そのアカウントは、匿名 Windows アカウント (初期設定では、IUSR_ コンピュータ名) または特定のユーザーアカウントのいずれかであることが考えられます。

権限を変更して、Web サーバーでデータベースファイルにアクセスできるように、IUSR_ コンピュータ名 アカウントに正しい権限を割り当てる必要があります。さらに、データベースファイルが置かれているフォルダにも、そのデータベースに書き込むための権限がいくつか設定されているはずです。

ページへの匿名アクセスを許可する場合は、以下の手順で説明するように、IUSR_ コンピュータ名 アカウントにフォルダおよびデータベースファイルに対するフル制御の権限を付与します。

さらに、データベースのパスが UNC を使用して参照されている場合 (\\Server\Share)、共有のアクセス権限に、IUSR_ コンピュータ名 アカウントのフルアクセスを割り当てます。共有がローカル Web サーバー上である場合も、この手順で解決できます。

データベースを他の場所からコピーすると、コピー先フォルダの権限が継承されない場合があります。その場合は、データベースに対する権限を変更する必要があります。

データベースファイルの権限の確認または変更 (Windows XP)

1 そのコンピュータに対する管理者権限を持っていることを確認します。

2 Windows Explorer で、データベースファイルまたはデータベースが格納されているフォルダを見つけて、そのファイルまたはフォルダを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

3 [セキュリティ] タブを選択します。

注意：この手順は、NTFS ファイルシステムを使用している場合のみ実行してください。FAT ファイルシステムを使用している場合は、ダイアログボックスに [セキュリティ] タブが表示されません。

4 IUSR_ コンピュータ名 アカウントが [グループ名またはユーザー名] リストに表示されていない場合は、[追加] ボタンをクリックして追加してください。

5 [ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択] ダイアログボックスで、[詳細設定] をクリックします。

ダイアログボックスに詳細オプションが表示されます。

6 [場所] をクリックし、コンピュータ名を選択します。

7 [今すぐ検索] をクリックすると、コンピュータと関連するアカウント名の一覧が表示されます。

8 IUSR_ コンピュータ名 アカウントを選択してから、[OK] を 2 回クリックして、ダイアログボックスを閉じます。

9 IUSR アカウントにすべての権限を割り当てるには、[フル コントロール] を選択してから [OK] をクリックします。

データベースファイルの権限の確認または変更 (Windows 2000)

1 そのコンピュータに対する管理者権限を持っていることを確認します。

2 Windows Explorer で、データベースファイルまたはデータベースが格納されているフォルダを見つけて、そのファイルまたはフォルダを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

3 [セキュリティ] タブを選択します。

注意：この手順は、NTFS ファイルシステムを使用している場合のみ実行してください。FAT ファイルシステムを使用している場合は、ダイアログボックスに [セキュリティ] タブが表示されません。

4 Windows アカウントとして IUSR_ コンピュータ名 アカウントが [アクセス許可] ダイアログボックス内に表示されていない場合は、[追加] ボタンをクリックして追加してください。

5 [ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択] ダイアログボックスの [場所] メニューからコンピュータ名を選択すると、コンピュータと関連するアカウント名の一覧が表示されます。

6 IUSR_ コンピュータ名 アカウントを選択して、[追加] をクリックします。

7 IUSR アカウントにすべての権限を割り当てるには、[アクセス許可] メニューから [フル コントロール] を選択し、[OK] をクリックします。

セキュリティを強化するには、データベースが格納されている Web フォルダの読み取り権限をオフにします。この設定によって、フォルダの参照は許可されなくなりますが、Web ページがデータベースにアクセスすることはできます。

IUSR アカウントと Web サーバー権限の詳細については、Adobe サポートセンターの以下のテクニカルノートを参照してください。

- Understanding anonymous authentication and the IUSR account (www.adobe.com/go/authentication_jp) (英語のみ)
- Setting IIS Web server permissions (www.adobe.com/go/server_permissions_jp) (英語のみ)

Microsoft エラーメッセージのトラブルシューティング

これらの Microsoft エラーメッセージは、IIS (Internet Information Server) を Access や SQL Server などの Microsoft データベースシステムで使用する場合に動的ページを要求すると表示されることがあります。

注意：Adobe では、Microsoft Windows および IIS などのサードパーティ製ソフトウェアに関するテクニカルサポートは提供していません。この情報を参照しても問題が解決しない場合には、Microsoft テクニカルサポートに問い合わせるか、Microsoft サポート Web サイト (http://support.microsoft.com/) を参照してください。

80004005 番のエラーの詳細については、Microsoft Web サイトの記事「Active Server Pages および Microsoft Data Access Components におけるエラー 80004005 のトラブルシューティング ガイド (Q306518)」(http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q306518) を参照してください。

[参照]80004005— データソース名が見つかりません。デフォルトドライバが指定されていません。

このエラーは、動的ページを Web ブラウザやライブデータモードで表示しようとすると発生します。エラーメッセージは、使用しているデータベースおよび Web サーバーによって異なります。エラーメッセージのバリエーションには、他に次のようなものがあります。

- 80004005— ドライバの SQLSetConnectAttr は失敗しました
- 80004005— 一般的なエラー。レジストリキー 'DriverId' を開けません

考えられるいくつかの原因と解決策を次に示します。

- ページから DSN を検索できません。Web サーバーとローカルマシンの両方で DSN が作成済みであることを確認してください。
- DSN が、システム DSN としてではなくユーザー DSN として設定されている可能性があります。ユーザー DSN を削除して、システム DSN を作成し、置き換えてください。

注意：ユーザー DSN を削除しないと、重複する DSN 名により新たに ODBC エラーが発生します。

Microsoft Access を使用している場合、データベースファイル (.mdb) がロックされていることも考えられます。異なる DSN 名からデータベースにアクセスすると、ロックされることがあります。Windows Explorer で、データベースファイル (.mdb) が保存されているフォルダ内にロックファイル (.ldb) がないか調べ、ある場合はその .ldb ファイルを削除してください。他の DSN が同じデータベースファイルをポイントしている場合、今後エラーが発生しないようにするため、その DSN を削除します。必要な変更を加えたら、コンピュータを再起動します。

[参照]80004005—'(不明)' を使用できません。ファイルは既に使用されています

このエラーは、Microsoft Access データベースを使用中に、動的ページを Web ブラウザやライブデータモードで表示しようとすると発生します。このエラーメッセージには、他に "80004005—Microsoft Jet データベースエンジンはファイル '(不明)' を開けません " があります。

原因として、権限の問題が考えられます。いくつかの具体的な原因と解決策を以下に示します。

- Internet Information Server のアカウント (通常 IUSR) に、ファイルベースのデータベースまたはそのファイルを含むフォルダに対する正しい Windows の権限がないことが考えられます。ユーザーマネージャで IIS アカウント (IUSR) に対する権限を確認してください。
- 一時ファイルを作成または破壊する権限がない可能性もあります。ファイルおよびフォルダに対する権限を確認してください。一時ファイルを作成または破壊する権限があることを確認します。一時ファイルは通常、データベースと同じフォルダに作成されますが、さらに /Winnt などの別のフォルダ内に作成されることもあります。
- Windows 2000 では、Access データベース DSN に対し、タイムアウト値の変更が必要になる場合があります。タイムアウト値を変更するには、[スタート]-[設定]-[コントロール パネル]-[管理ツール]-[データソース (ODBC)] を選択します。[システム DSN] タブをクリックし、正しい DSN をハイライトにし、[構成] ボタンをクリックします。[オプション] ボタンをクリックしてページのタイムアウト値を **5000** に変更します。

それでも問題が解決されない場合は、以下の Microsoft Knowledge Base の記事を参照してください。

- PRB: 80004005 「'(不明)' は既に使用されているので、使用できませんでした」 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;jp;Q174943)
- PRB:Microsoft Access Database Connectivity Fails in Active Server Pages (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q253604)
- PRB: "Error Cannot Open File Unknown" Using Access (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q166029)

[参照]80004005— ログインに失敗しました ()

このエラーは、Microsoft SQL Server の使用中に、動的ページを Web ブラウザやライブデータモードで表示しようとすると発生します。

このエラーは、送信されてきたログオンアカウントまたはパスワードを SQL Server が受け付けないか、認識しない場合 (標準セキュリティ使用時)、または Windows アカウントが SQL アカウントに対応付けられていない場合 (統合セキュリティ使用時) に SQL Server で発生します。

原因と解決策を以下に示します。

- 標準セキュリティ使用時には、アカウント名およびパスワードが間違っている可能性があります。接続ストリングで定義されている必要のある、システム管理者のアカウントとパスワード (UID="sa"、パスワードなし) を試してください。(DSN では、ユーザー名とパスワードは保存されません。)
- 統合セキュリティ使用時には、そのページを呼び出している Windows アカウントを調べ、対応付けられている SQL アカウント (ある場合) を調べてください。
- SQL Server では SQL アカウント名の中にアンダースコアを使用できません。Windows の IUSR_machinename アカウントを、手動で同名の SQL アカウントに対応付けると、失敗します。アンダースコアを使用しているアカウントを、アンダースコアを使用していない SQL のアカウント名に対応付けてください。

[参照]80004005— 更新可能なクエリを使用してください

このエラーは、イベントによりレコードセットが更新されたり、データがレコードセットに挿入されると発生します。

考えられるいくつかの原因と解決策を次に示します。

- データベースを格納するフォルダに設定された権限に対する制限が多すぎます。IUSR 権限を読み書き可能に設定する必要があります
- データベースファイル自体の権限で、完全に読み書きが有効になっていません。
- データベースが Inetpub/wwwroot ディレクトリ以外に置かれている可能性があります。データベースが wwwroot ディレクトリに置かれていないと、データの表示および検索はできても更新できません。
- レコードセットが更新不可能なクエリーに基づいています。更新不可能なクエリーの良い例は、データベース内の結合です。クエリーを再構成して、更新可能にします。

このエラーの詳細については、Microsoft Knowledge Base の記事「PRB: ASP Error "The Query Is Not Updateable" When You Update Table Record」(http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q174640) を参照してください。

[参照]80040e07— 条件式のデータタイプが一致しません

このエラーは、サーバーが [レコードの挿入] または [レコードの更新] サーバービヘイビアを含むページを処理しようとし、サーバービヘイビアで Microsoft Access データベース内の日付 / 時刻列の値を空文字列 ("") に設定しようとすると発生します。

Microsoft Access は、強力なデータタイプ付けを特徴としており、指定された列の値に対し厳格な規則があります。SQL クエリー内の空文字列値は、Access の日付 / 時刻列に格納できません。現時点の回避策としては、Access の日付 / 時刻列に空文字列 ("") を挿入または更新しない、あるいは使用するデータタイプに対し指定された値の範囲に対応しない他の値を挿入または更新しないようにする方法しかありません。

[参照]80040e10— パラメータが少なすぎます

このエラーは、SQL クエリーで指定した列がデータベーステーブル内に存在しない場合に発生します。SQL クエリーとデータベーステーブル内の列名を確認してください。このエラーは多くの場合、入力の際に文字を間違えることが原因です。

[参照]80040e10—COUNT フィールドが不正です

このエラーは、Web ブラウザで [レコードの挿入] サーバービヘイビアを含むページをプレビューし、これを使用して Microsoft Access データベースにレコードを挿入しようとすると発生します。

疑問符は、Microsoft Access などの一部のデータベースエンジンでは特殊文字として扱われます。したがって、データベースのテーブル名やフィールド名に使用すべきではありません。

データベースシステムを開き、フィールド名から疑問符 (?) を削除し、このフィールドを参照しているページのサーバービヘイビアを更新します。

[参照]80040e14—INSERT INTO ステートメントのシンタックスエラー

このエラーは、サーバーが [レコードの挿入] サーバービヘイビアを含むページを処理しようとすると発生します。

このエラーは通常、データベース内のフィールド、オブジェクト、または変数の名前に関する以下の問題の 1 つ以上が原因で発生します。

- 予約語を名前として使用している。大半のデータベースには予約語がいくつかあります。たとえば、"date" は予約語であり、データベース内の列名に使用することはできません。
- 名前の中で特殊文字を使用している。たとえば、以下の特殊文字があります。

. / * : ! # & - ?

- 名前の中でスペースを使用している。

このエラーは、データベース内のオブジェクトに対して定義した入力マスクに、挿入されたデータが適合しない場合にも発生します。

この問題を解決するには、データベース内で列名を指定するときに、"date"、"name"、"select"、"where"、"level" などの予約語を使用しないようにします。さらに、スペースと特殊文字は削除してください。

一般的なデータベースシステムの予約語は、以下の Web ページを参照してください。

- Microsoft Access (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q209187)
- Microsoft SQL Server (http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/tsqlref/ts_ra-rz_9oj7.asp)
- MySQL (http://dev.mysql.com/doc/mysql/en/reserved-words.html)

[参照]80040e21—Insert または Update の ODBC エラー

このエラーは、サーバーが [レコードの更新] または [レコードの挿入] サーバービヘイビアを含むページを処理しようとすると発生します。データベースでは、サーバービヘイビアが実行しようとする更新または挿入操作を処理できません。

考えられるいくつかの原因と解決策を次に示します。

- サーバービヘイビアが、データベーステーブルのオートナンバーフィールドを更新するか、またはレコードをオートナンバーフィールドに挿入しようとしています。オートナンバーフィールドはデータベースシステムによって自動的に値が埋め込まれるため、外部的に値を埋め込もうとしても失敗します。
- サーバービヘイビアで更新または挿入しているデータが、そのデータベースフィールドに合わない間違った型です。たとえば、データをブール (yes/no) 型フィールドに挿入する、文字列を数値型フィールドに挿入する、表示書式が間違っている文字列を日付 / 時刻型フィールドに挿入するなどです。

[参照]800a0bcd—BOF または EOF が true です

このエラーは、動的ページを Web ブラウザやライブデータモードで表示しようとすると発生します。

この問題は、空のレコードセットから抽出したデータをページに表示しようとすると発生します。この問題を解決するには、次のように [領域の表示] サーバービヘイビアを、ページに表示する動的コンテンツに適用します。

1 ページ上の動的コンテンツをハイライト表示します。

2 [サーバービヘイビア] パネルでプラス [+] ボタンをクリックし、[領域の表示]-[レコードセットが空でない場合は領域を表示] を選択します。

3 動的コンテンツの提供元のレコードセットを選択し、[OK] をクリックします。

4 ページ上の動的コンテンツの各エレメントに対し、手順 1 ～ 3 を繰り返します。

MySQL エラーメッセージのトラブルシューティング

MySQL 4.1 への PHP データベース接続をテストすると、「Client does not support authentication protocol requested. Consider upgrading MySQL client」というエラーメッセージが表示されることがよくあります。

以前のバージョンの MySQL に戻すか、PHP 5 をインストールしていくつかの DLL (ダイナミックリンクライブラリ) をコピーする必要があります。詳細な手順については、「476 ページの「PHP アプリケーションサーバーのインストール」」を参照してください。

また、以下のテクニカルノートも参照してください。

- TechNote c45f8a29 (www.adobe.com/go/c45f8a29_jp)
- TechNote 16515 (www.adobe.com/go/16515_jp)

接続スクリプトの削除

[接続スクリプトを削除] コマンドの使用

[接続スクリプトを削除] コマンドを使用して、データベースにアクセスするために Dreamweaver でリモートフォルダに配置されたスクリプトを削除することができます。これらのスクリプトは、Dreamweaver でデザイン時のオーサリングだけに必要なものです。

データベース接続ダイアログボックスの [テストサーバー上のドライバを使用] オプションまたは [テストサーバーの DSN を使用] オプションを選択すると、Dreamweaver により、MMHTTPDB スクリプトファイルがテストサーバーに自動的にアップロードされます。これで、Dreamweaver で HTTP プロトコルを使用してリモートデータベースドライバを操作することができます。これにより、Dreamweaver でサイトの作成に必要なデータベース情報を取得できます。ただし、このファイルを使用して、システムで定義されるデータソース名 (DSN) を見ることができます。DSN とデータベースがパスワードで保護されていない場合は、データベースに対して SQL コマンドを発行するスクリプトによる攻撃を受ける可能性があります。

MMHTTPDB スクリプトファイルは、Web サイトのルートにある "_mmServerScripts" フォルダ内にあります。

注意 : Dreamweaver のファイルブラウザ ([ファイル] パネル) では、"_mmServerScripts" フォルダは非表示です。サードパーティ製の FTP クライアントまたはファイルブラウザを使用している場合は、"_mmServerScripts" フォルダは表示されます。

構成によっては、これらのスクリプトがまったく必要ない場合もあります。Web サイトにアクセスするユーザーに対する Web ページのサービスではスクリプトは関係しないので、プロダクションサーバーには配置しないようにします。

MMHTTPDB スクリプトファイルをプロダクションサーバーにアップロードしている場合は、MMHTTPDB スクリプトファイルを削除してください。[接続スクリプトを削除] コマンドでは、スクリプトファイルが自動的に削除されます。

詳細については、Adobe の Web サイトに掲載されている TechNote 19214 (www.adobe.com/go/19214_jp) を参照してください。

第 18 章：Web アプリケーションのデータソース

多くのソースを使用して Web ページにデータを表示することができます。これらのソースには、データベース、フォームパラメータと URL パラメータ、セッション変数などが含まれます。これらのデータソースをさまざまな方法で使用し、異なる種類のデータを収集および表示することができます。

データベースを使用したコンテンツの保存

データベースへのコンテンツの保存

Web ベースのアプリケーションおよび動的 Web サイトには、データの取得元となるコンテンツソースが必要です。一般的に、データは、Web ページに返されてなんらかの形式でユーザーに表示されるテキストまたは数値の情報で構成されています。Adobe® Dreamweaver® CS3 を使用すると、データベースのデータの挿入、更新、または削除を行う Web フォームをデザインできます。

データベースを使用してコンテンツを保存すると、サイトのユーザーに対して表示するコンテンツと Web サイトのデザインとを切り離すことができます。ページごとに別の HTML ファイルを作成する代わりに、1 つのページ、すなわちテンプレートを作成するだけで、さまざまな種類の情報を表示することができます。また、データベースにコンテンツをアップロードすると、Web サイトでは、ユーザーの要求に応じてコンテンツを取得することができます。また、1 つのソースで情報を更新するだけで、各ページを手動で編集することなく Web サイト全体に変更を反映することができます。

データベースは、保存が必要なデータの量と複雑さに応じてさまざまな形式をとります。多くの Windows コンピュータにインストールされているデータベースに、Microsoft Access があります。データベースの詳しい知識がなくても、Access の使いやすいインターフェイスを利用して、データベーステーブルを操作することができます。Access は多くの Web サイトアプリケーションに対するデータソースとして使用できますが、ファイルサイズの上限が 2 ギガバイト (GB)、同時使用ユーザー数が 255 という制限があります。Access は、Web サイトの開発および企業内の作業グループでの利用に適しています。ただし、多数のユーザーがサイトにアクセスすることを想定している場合は、想定されるユーザー数に対応するよう設計されたデータベースを使用してください。

データモデリングにおける高い柔軟性と、同時に多数のユーザーをサポートする能力が必要な Web サイトの場合は、通常、MySQL、Microsoft SQL Server、Oracle などのサーバーベースのリレーショナルデータベース (一般に RDBMS と呼ばれます) を使用します。

データベースに保存されているデータへのアクセス

Web ページからデータベースに保存されているデータに直接アクセスすることはできません。その代わりに、レコードセットを使用してデータを操作します。レコードセットとは、データベースクエリーを使用してデータベースから抽出した情報 (レコード) のサブセットです。クエリーは、データベースで特定の情報を検索し、抽出するために設計された検索ステートメントです。Dreamweaver では、クエリーの作成に SQL (Structured Query Language、SQL は " シークエル " と読みます) を使用します。Dreamweaver では、SQL を学習しなくても簡単なクエリーを作成できますが、SQL の基本的な知識があるとより高度なクエリーを作成でき、結果として動的ページのデザインにおける柔軟性が高まります。

SQL クエリーを使用すると、特定の列のみ、特定のレコードのみ、またはその両方を含むレコードセットを作成できます。データベーステーブルのすべてのレコードと列が含まれるレコードセットを作成することもできます。ただし、アプリケーションでデータベース内の全データを使用することはほとんどないので、レコードセットはできる限り小さくしてください。Web サーバーではレコードセットが一時的にメモリに保存されるため、レコードセットが小さいほど使用されるメモリ量が少なくなり、サーバーパフォーマンスの向上につながります。

ユーザーから送信されたデータの収集

データの収集について

Web ページを使用してユーザーから収集した情報をサーバーのメモリに保存し、その情報を使用して、ユーザーの入力に基づいた動的な応答を作成することができます。情報を収集するための最も一般的なツールには、HTML フォームとハイパーテキストリンクがあります。

HTML フォーム ユーザーから情報を収集してサーバーのメモリに格納することができます。HTML フォームは、情報をフォームパラメータまたは URL パラメータとして送信できます。

ハイパーテキストリンク ユーザーから情報を収集してサーバーのメモリに格納することができます。ユーザーがリンクをクリックしたときに送信される値 (たとえば環境設定) を指定するには、アンカータグで指定されている URL にその値を付加します。ユーザーがリンクをクリックすると、URL および付加された値がブラウザによってサーバーに送信されます。

HTML フォームパラメータ

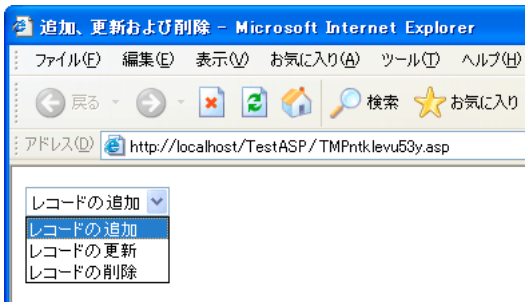
フォームパラメータは、POST メソッドまたは GET メソッドのいずれかを使用する HTML フォームを使用してサーバーに送信されます。POST メソッドを使用すると、パラメータはメッセージの本文に組み込まれた状態で送信されます。一方、GET メソッドでは、パラメータは要求された URL に付加されます。

Dreamweaver を使用すると、サーバーにフォームパラメータを送信する HTML フォームを簡単にデザインできます。ブラウザからサーバーに情報を送信するためのメソッドの使用に注意してください。

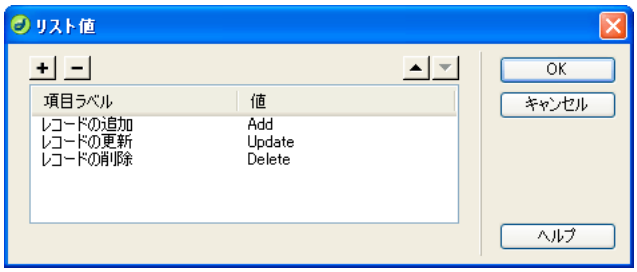
フォームパラメータの名前は、対応するフォームオブジェクトの名前です。たとえば、フォームに txtLastName というテキストフィールドがある場合、ユーザーが [送信] ボタンをクリックすると以下のフォームパラメータがサーバーに送信されます。

```
txtLastName=enteredvalue
```

Web アプリケーションに正確なパラメータ値を渡さなければならない場合 (いくつかのオプションの 1 つに基づいてアクションを実行する場合など) は、ラジオボタン、チェックボックス、またはリストおよびメニューフォームオブジェクトを使用して、ユーザーが送信できる値を制御します。これにより、ユーザーが情報を間違って入力することや、アプリケーションエラーを引き起こすことを防止できます。次の例は、3 つの項目から選択できるポップアップメニューフォームです。



メニューの各選択項目はハードコーディングされた値に対応しており、その値がサーバーにフォームパラメータとして送信されます。次の例に示す [リスト値] ダイアログボックスでは、各リスト項目に対応する値 (追加、更新、削除) が指定されています。



フォームパラメータを作成すると、Dreamweaver でその値を取得し、Web アプリケーションの中で使用することができます。Dreamweaver でフォームパラメータを定義した後で、ページ内にその値を挿入できます。

関連項目

569 ページの「フォームの作成」

534 ページの「ページへの動的コンテンツの追加」

503 ページの「データベースに保存されているデータへのアクセス」

URL パラメータ

URL パラメータを使用すると、ユーザーが入力した情報をブラウザからサーバーに渡すことができます。サーバーが要求を受信したとき、要求の URL にパラメータが付加されている場合は、サーバーは、要求されたページにそのパラメータへのアクセスを許可してから、そのページをブラウザに送信します。

URL パラメータは、URL に付加される名前と値のペアです。このパラメータは、疑問符 (?) で始まり、name=value という形式で表されます。複数の URL パラメータが存在する場合、各パラメータをアンパサンド (&) で区切ります。次の例は、2 つの名前 / 値のペアがある URL パラメータです。

```
http://server/path/document?name1=value1&name2=value2
```

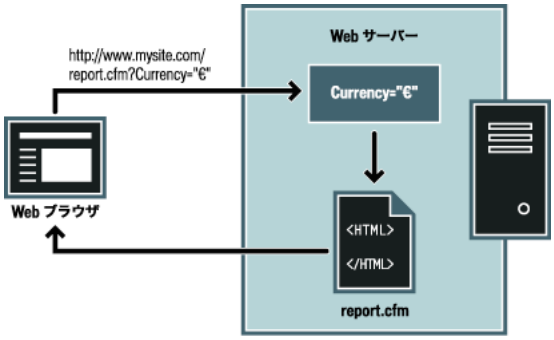
このワークフロー例では、Web ベースのショッピングサイトのアプリケーションを想定しています。できるだけ広範囲のユーザーがアクセスできるようにするため、サイトは外国通貨にも対応するように設計されています。ユーザーは、サイトにログインするときに、購入可能な商品の価格をどの通貨で表示するかを選択できます。

1 ブラウザは、サーバーの report.cfm ページを要求します。この要求には、URL パラメータ Currency="euro" が含まれています。Currency="euro" という変数は、取得された金額をすべて EU のユーロで表示することを指定します。

2 サーバーでは、この URL パラメータが一時的にメモリに格納されます。

3 report.cfm ページでは、このパラメータによりユーロ建ての商品価格を取得されます。取得された金額は、各種通貨のデータベーステーブルに保存しておくことも、各商品に関連付けられた単一の通貨からアプリケーションでサポートされている通貨に換算することもできます。

4 サーバーは、report.cfm ページをブラウザに送信し、要求された通貨で商品価格を表示します。このユーザーがセッションを終了すると、サーバーは URL パラメータの値を破棄し、新しいユーザー要求を保持できるようにサーバーメモリを解放します。



URL パラメータは、HTTP の GET メソッドが HTML フォームと共に使用されたときに作成されます。GET は、フォーム送信時にパラメータ値を URL 要求に付加することを指定します。

URL パラメータを利用する例には、ユーザーの好みに応じた Web サイトのパーソナライズがあります。たとえば、ユーザー名およびパスワードで構成された URL パラメータを使用してユーザーの認証を行い、そのユーザーが利用している情報のみを表示します。この方法は、ユーザーが事前に選択した株式市場シンボルに基づいて個々の株価を表示する金融 Web サイトなどで利用されています。Web アプリケーションでは、一般に URL パラメータを使用してアプリケーション内の変数に値を渡します。たとえば、検索条件を Web アプリケーションの SQL 変数に渡し、検索結果を生成します。

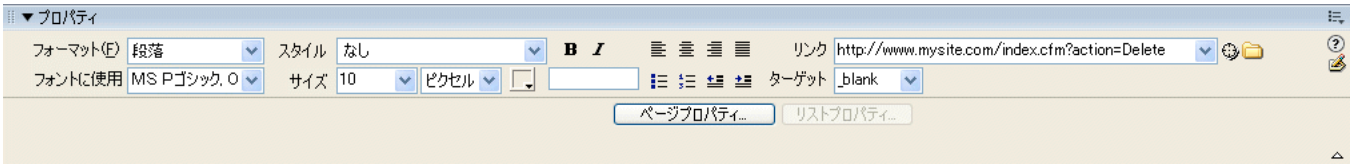
HTML リンクを使用した URL パラメータの作成

HTML リンクの中に URL パラメータを作成するには、HTML のアンカータグの href 属性を使用します。URL パラメータは、コードビュー ([表示]-[コード]) で属性に直接入力することも、プロパティインスペクタの [リンク] ボックスで、リンクする URL の最後に付加することもできます。

次の例では、3 つのリンクで同じ URL パラメータ (action) を作成しています。このパラメータが取り得る値は 3 つ (Add、Update、および Delete) あります。ユーザーがリンクをクリックすると、パラメータ値がサーバーに送信され、要求されたアクションが実行されます。

```
<a href="http://www.mysite.com/index.cfm?action=Add">Add a record</a>
<a href="http://www.mysite.com/index.cfm?action=Update">Update a record</a>
<a href="http://www.mysite.com/index.cfm?action=Delete">Delete a record</a>
```

プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) を使用して、同じ URL パラメータを作成することができます。その場合は、リンクを選択し、[リンク] ボックスでリンクする URL の最後に URL パラメータを付加します。



URL パラメータを作成すると、Dreamweaver でその値を取得し、Web アプリケーションの中で使用することができます。Dreamweaver で URL パラメータを定義した後で、ページ内にその値を挿入できます。

関連項目

516 ページの「URL パラメータとフォームパラメータについて」

528 ページの「フォームパラメータの定義」

534 ページの「ページへの動的コンテンツの追加」

503 ページの「データベースに保存されているデータへのアクセス」

セッション変数に格納されたデータへのアクセス

セッション変数のしくみ

ユーザーが訪問している間は、セッション変数に情報 (通常はユーザーから送信されたフォームパラメータまたは URL パラメータ) を格納しておき、その情報を Web アプリケーションのすべてのページで使用できるようにします。たとえば、電子メール、株価、天気予報、およびニュースを利用できる Web ポータルにユーザーがログオンすると、Web アプリケーションはログイン情報をセッション変数に格納し、サイトのページ全体でこの変数を使用してユーザーを識別します。これにより、ユーザーがサイト内を移動する間、ユーザーが選択した種類のコンテンツのみが表示されるようにすることができます。セッション変数は、安全機構として利用することもできます。つまり、アカウントで何も動作が行われない時間が一定の長さに達した場合は、そのユーザーのセッションを終了します。これにより、ユーザーが Web サイトからのログオフを忘れた場合も、サーバーメモリと処理リソースが解放されます。

セッション変数に情報が格納されているのは、ユーザーのセッションが終了するまでです。セッションは、ユーザーがアプリケーション内でページを開いたときに開始されます。セッションが終了するのは、一定の時間が経過してもユーザーが別のページを開かなかったとき、またはユーザーが明示的にセッションを終了したとき (通常は " ログオフ " リンクをクリック) です。セッションが存在している間は、セッションはユーザーに固有のもので、各ユーザーがそれぞれ別のセッションを持ちます。

セッション変数を使用して、Web アプリケーションのすべてのページでアクセスできる情報を格納します。格納する情報は、ユーザーの名前、初期設定のフォントサイズ、ユーザーのログインが正常に実行されたかどうかを示すフラグなどさまざまです。セッション変数のもう 1 つの一般的な用途は、ユーザーがオンラインクイズでこれまでに正解した問題数や、オンラインカタログでこれまでに選択した商品など、現在の記録を保持することです。

セッション変数が機能するのは、ユーザーのブラウザが Cookie を受け入れるように設定されている場合のみです。セッションの開始直後に、サーバーはユーザーを一意に識別するセッション ID 番号を作成し、この ID 番号が含まれている Cookie をユーザーのブラウザに送信します。ユーザーがサーバー上の別のページを要求した場合、サーバーはブラウザ内の Cookie を読み取ってユーザーを識別し、サーバーのメモリに格納されているユーザーのセッション変数を取得します。

セッション変数の情報の収集、保存、取得

セッション変数を作成する前に、格納する情報を取得し、サーバーに送信して保存する必要があります。URL パラメータを含む HTML フォームまたはハイパーテキストリンクを使用すると、情報を収集し、サーバーに送信することができます。また、ユーザーのコンピュータに保存されている Cookie、ページ要求と共にユーザーのブラウザから送信された HTTP ヘッダー、またはデータベースから情報を取得することもできます。

セッション変数に URL パラメータを保存する一般的な例は、ハードコーディングされた URL パラメータを使用しているある商品カタログです。このパラメータはリンクを使用して作成され、このパラメータによってサーバーに送信された商品情報がセッション変数に格納されます。ユーザーが買い物を続けている間、ユーザーが "Add to shopping cart" リンクをクリックすると、商品番号がセッション変数に格納されます。ユーザーが精算のページに進むと、セッション変数に格納されている商品番号が取得されます。

フォームベースの調査は、フォームパラメータをセッション変数に格納するページの一般的な例です。フォームによって選択された情報は、サーバーに送信されます。サーバーでは、アプリケーションのページによって、調査が記録され、回答がセッション変数に格納されます。セッション変数は、調査から収集した回答を集計するアプリケーションに送られます。または、後の使用に備えてデータベースに情報が格納されます。

サーバーに情報が送信された後でセッション変数に情報を格納するには、URL パラメータまたはフォームパラメータによって指定されたページに、サーバーモデルに応じたコードを追加します。このページは、「宛先」ページと呼ばれ、HTML フォームの action 属性または開始ページのハイパーテキストリンクの href 属性で指定します。

セッション変数に値を格納した後に、Dreamweaver を使用してセッション変数から値を取得し、Web アプリケーションで使用することができます。Dreamweaver でセッション変数を定義した後で、ページ内にその値を挿入できます。

それぞれの HTML のシンタックスは以下のとおりです。

```
<form action="destination.html" method="get" name="myform"> </form>
<param name="href"value="destination.html">
```

使用するサーバーテクノロジーと、情報を取得するために使用するメソッドの両方により、セッション変数へ情報を格納するためのコードが決まります。各サーバーテクノロジーの基本的なシンタックスは以下のとおりです。

ColdFusion

```
<CFSET session.variable_name = value>
```

ASP および ASP.NET

```
<% Session("variable_name") = value %>
```

value 式は、Request.Form(“lastname”) などのサーバー式です。たとえば、product という URL パラメータ (または HTML フォームと GET メソッドおよび product というテキストフィールド) を使用して情報を収集する場合は、以下のステートメントによって prodID というセッション変数に情報を格納します。

ColdFusion

```
<CFSET session.prodID = url.product>
```

ASP および ASP.NET

```
<% Session("prodID") = Request.QueryString("product") %>
```

HTML フォームと post メソッドおよび txtProduct というテキストフィールドを使用して情報を収集する場合、以下のステートメントによってセッション変数に情報を格納します。

ColdFusion

```
<CFSET session.prodID = form.txtProduct>
```

ASP および ASP.NET

```
<% Session("prodID") = Request.Form("txtProduct") %>
```

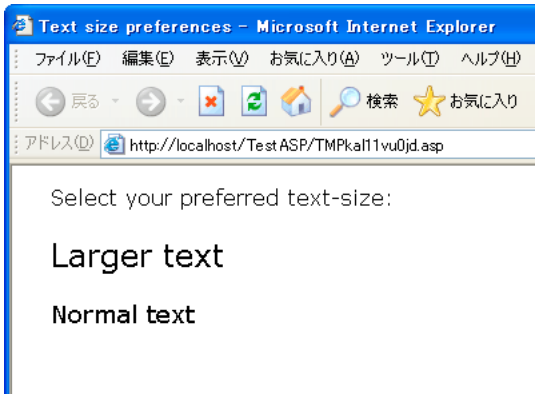
関連項目

534 ページの「ページへの動的コンテンツの追加」

529 ページの「セッション変数の定義」

セッション変数に格納する情報の例

多くの高齢者がアクセスするサイトをデザインしているとします。ユーザーがサイトのテキストサイズをカスタマイズできるように、Dreamweaver で [ようこそ] 画面に 2 つのリンクを追加します。リンクの 1 つをクリックすると大きくて読みやすいテキストが表示され、もう 1 つをクリックすると通常サイズのテキストが表示されます。



以下の Adobe ColdFusion® の例に示すように、各リンクに含まれている fontsize という URL パラメータによって、ユーザーが設定したテキストサイズがサーバーに送信されます。

```
<a href="resort.cfm?fontsize=large">Larger Text</a><br>
<a href="resort.cfm?fontsize=small">Normal Text</a>
```

テキストに関するユーザーの環境設定をセッション変数に格納し、この変数を使用してユーザーが要求する各ページのフォントサイズを設定します。

宛先ページの先頭付近に以下のコードを入力し、ユーザーのフォントサイズの環境設定を格納する font_pref というセッションを作成します。

ColdFusion

```
<CFSET session.font_pref = url.fontsize>
```

ASP および ASP.NET

```
<% Session("font_pref") = Request.QueryString("fontsize") %>
```

ユーザーがハイパーテキストリンクをクリックすると、テキストに関するユーザーの環境設定が、URL パラメータによってそのページから宛先ページに送信されます。宛先ページでは、この URL パラメータがコードによって font_pref セッション変数に格納されます。ユーザーのセッション中は、アプリケーションのすべてのページがこの値を取得し、選択されたフォントサイズで表示します。

第 19 章：動的ページの作成

データベースやセッション変数などの動的コンテンツソースの情報を表示する動的ページを作成することができます。Adobe® Dreamweaver® CS3 では、ColdFusion、ASP、ASP.NET、JSP、および PHP サーバーモデルに基づく動的ページの開発がサポートされています。

また Ajax ベースの Spry というフレームワークを使用して、XML データを表示および処理する動的ページを作成することもできます。作成済みの Spry フォームエレメントを使用すると、フルページの更新を必要としない動的ページを作成できます。

ビジュアル開発のためのワークスペースの最適化

Web アプリケーションの開発のパネルの表示

[挿入] バーの [データ] タブをクリックすると、ページに動的コンテンツとサーバービヘイビアの追加を可能にするボタンのセットが表示されます。

表示されるボタンの数と種類は、ドキュメントウィンドウで開いているドキュメントの種類によって異なります。ボタンの上にマウスを移動すると、そのボタンの機能を説明するツールヒントが表示されます。

[挿入] バーには、以下のアイテムをページに追加するボタンがあります。

- レコードセット
- 動的テキストまたは動的テーブル
- レコードナビゲーションバー

コードビューに切り替える ([表示]-[コード]) と、[挿入] バーのカテゴリに、ページにコードを挿入できる追加のパネルが表示されることがあります。たとえば、コードビューで ColdFusion ページを表示すると、[挿入] バーの [CFML] カテゴリで、CFML パネルが選択できる状態になります。

以下のパネルから、動的ページを作成するためのさまざまな機能にアクセスすることができます。

- [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) : ページの動的コンテンツのソースを定義し、そのコンテンツをページに追加するときに使用します。
- [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) : 動的ページにサーバーサイドロジックを追加するときに使用します。
- [データベース] パネル ([ウィンドウ]-[データベース]) : データベースの検証やデータベース接続の作成を行うときに使用します。
- [コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) : JavaBeans、Adobe ColdFusion コンポーネント、および Web サービスのコードを検査、追加、または修正するときに使用します。

注意：[コンポーネント] パネルを使用できるのは、ColdFusion、JSP、または ASP.NET ページを開いている場合のみです。また、コンポーネントによってはドキュメントでサポートされない場合もあります。たとえば、ColdFusion ドキュメントでは JavaBeans はサポートされません。

サーバービヘイビアは、デザインタイムに動的ページに挿入され、ランタイムにサーバー上で実行される一連の命令です。

開発ワークスペースの設定のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0144_jp を参照してください。

関連項目

517 ページの「[バインディング] パネル」

518 ページの「[サーバービヘイビア] パネル」

518 ページの「[データベース] パネル」

519 ページの「[コンポーネント] パネル」

Dreamweaver でのデータベースの表示

データベースに接続すると、Dreamweaver 内でその構造およびデータを表示できます。

1 [ウィンドウ]-[データベース] を選択して、[データベース] パネルを開きます。

[データベース] パネルには、接続が作成されているすべてのデータベースが表示されます。ColdFusion サイトを開発している場合は、ColdFusion Administrator でデータソースが定義されているすべてのデータベースがパネルに表示されます。

注意：Dreamweaver は、現在のサイトに対して定義した ColdFusion サーバーを確認します。

パネルにデータベースが表示されない場合は、データベース接続を作成する必要があります。

2 データベース内のテーブル、ストアードプロシージャ、およびビューを表示するには、リスト内の接続の横にある [+] 記号をクリックします。

3 テーブル内の列を表示するには、テーブル名をクリックします。

列アイコンは、データタイプを反映し、テーブルのプライマリキーを示します。

4 テーブル内のデータを表示するには、リスト内のテーブル名を右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、ポップアップメニューから [データの表示] を選択します

関連項目

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

ブラウザでの動的ページのプレビュー

Web アプリケーションのデベロッパーは通常、ページを Web ブラウザで頻繁にチェックすることによって、デバッグを実行します。動的ページは、最初に手動でサーバーにアップロードすることなく、ブラウザで素早く表示できます (F12 キーを押します)。

動的ページをプレビューするには、[サイト定義] ダイアログボックスの [テストサーバー] カテゴリにすべての情報を入力する必要があります。

作業中にデザインビューを使用してページを素早くチェックすることもできます。デザインビューには、ライブデータを含めて、ページの完全に編集可能な視覚的表現が表示されます。

Dreamweaver が元のファイルの代わりに一時ファイルを使用するように指定することができます。このオプションを使用すると、Dreamweaver によってページがブラウザに表示される前に Web サーバー上でページの一時的なコピーが実行されます (この一時的なコピーは、ページがブラウザに表示されたら、Dreamweaver によってサーバーから削除されます)。このオプションを設定するには、[編集]-[環境設定]-[ブラウザでプレビュー] を選択します。

[ブラウザでプレビュー] オプションを使用しても、結果ページや詳細ページなどの関連ページ、イメージファイルなどの依存ファイル、およびサーバーサイドインクルードはアップロードされません。欠落しているファイルをアップロードするには、[ウィンドウ]-[ファイル] を選択して [ファイル] パネルを開き、ローカルフォルダ内でファイルを選択します。次に、ツールバーの青色の上向き矢印をクリックして Web サーバーフォルダにファイルをコピーします。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

549 ページの「デザインビューでのライブデータの表示」

Dreamweaver で表示されるデータベース情報の制限

Oracle などの大規模なデータベースシステムを使用している場合は、Dreamweaver によってデザインタイムに取得および表示されるデータベース項目の数を制限する必要があります。Oracle データベースには、Dreamweaver がデザインタイムに処理できない項目が含まれている場合があります。Oracle でスキーマを作成し、デザインタイムに不必要なデータを除外するためにそのスキーマを Dreamweaver で使用できます。

注意：Microsoft Access では、スキーマやカタログは作成できません。

それ以外にも、Dreamweaver によってデザインタイムに取得される情報の量を制限することで作業の効率が向上する場合があります。データベースには、数十、数百のテーブルが含まれていることがあります。そのような場合、作業中に一部のテーブルだけを表示した方がよいこともあります。スキーマまたはカタログで、デザインタイムに取得されるデータベース項目の数を制限できます。

Dreamweaver でスキーマやカタログを適用するには、データベースシステム内で事前にスキーマまたはカタログを作成しておく必要があります。詳細については、データベースシステムのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

注意：ColdFusion アプリケーションを開発している場合は、Dreamweaver または Microsoft Access を使用してスキーマまたはカタログを適用することはできません。

1 Dreamweaver で動的ページを開き、[データベース] パネルを開きます ([ウィンドウ]-[データベース])。

- データベース接続が存在する場合は、リスト内の接続を右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、ポップアップメニューから [接続の編集] を選択します
- 接続が存在しない場合は、パネルの上部にある [+] ボタンをクリックして作成します。

2 接続のダイアログボックスで [詳細設定] をクリックします。

3 スキーマまたはカタログを指定し、[OK] をクリックします。

ColdFusion ストアードプロシージャ、ASP コマンド、JSP Callable のプロパティインスペクタの設定

選択したストアードプロシージャを修正します。選択可能なオプションは、サーバーテクノロジーによって異なります。

❖ オプションを編集します。プロパティインスペクタで新しいオプションを選択すると、Dreamweaver によってページが更新されます。

関連項目

538 ページの「動的コンテンツの編集」

JSP prepared ステートメントのプロパティインスペクタの設定

このプロパティインスペクタでは、選択した JSP prepared ステートメントを修正します。

❖ オプションを編集します。プロパティインスペクタで新しいオプションを選択すると、Dreamweaver によってページが更新されます。

[入力フィールド] のオプション

このプロパティインスペクタは、Dreamweaver で認識できない入力タイプが検出されると表示されます。通常、これはタイプミスやその他のデータ入力エラーによって起こります。

たとえば、プロパティインスペクタでスペルミスを修正するなどして、フィールドタイプを Dreamweaver で認識できる値に変更すると、プロパティインスペクタが更新され、該当するタイプのプロパティが表示されます。プロパティインスペクタで、以下のオプションを設定します。

入力フィールド フィールドに名前を割り当てます。このボックスへの入力は必須で、固有の名前が必要です。

タイプ フィールドの入力タイプを設定します。このボックスの内容には、現在 HTML ソースコードに表示されている入力タイプの値が反映されます。

値 フィールドの値を設定します。

パラメータ 選択すると、[パラメータ] ダイアログボックスが開くので、フィールドの現在属性の表示、および属性の追加または削除が可能になります。

動的ページのデザイン

Dreamweaver と動的ページのデザイン

以下の手順に従って、動的 Web サイトをデザインおよび作成します。

1 ページのデザイン

Web サイトのデザインにおいて重要な手順は、動的なサイトの場合も静的なサイトの場合も、そのページの視覚的なデザインの設計手順です。動的エレメントを Web ページに追加する場合、その操作性にはページのデザインが大きく影響します。ユーザーが個別ページおよび Web サイト全体をどのように使用するかをよく考えてください。

動的コンテンツを Web ページに組み込むには、コンテンツを表示するためのテーブルを作成してから、動的コンテンツをテーブルのセルに読み込む方法が一般的に用いられます。この方法を使用すると、構造化されたフォーマットでさまざまな種類の情報を表示できるようになります。

2 動的コンテンツのソースの作成

動的 Web サイトにはコンテンツソースが必要で、データはそのコンテンツソースから抽出された後に Web ページ上に表示されます。Web ページでコンテンツソースを使用するには、事前に次の操作を実行する必要があります。

- データベースなどの動的コンテンツソースへの接続と、ページを処理するアプリケーションサーバーへの接続を作成します。[バインディング] パネルを使用してデータソースを作成します。これにより、ページでデータソースを選択および挿入できるようになります。
- レコードセットを作成して、データベースのどの情報を表示するか、またページにどの変数を含めるかを指定します。[レコードセット] ダイアログボックスからクエリーをテストし、必要な調整を行ってから、そのクエリーを [バインディング] パネルに追加することもできます。
- 動的コンテンツエレメントを選択し、選択したページに挿入します。

3 Web ページに動的コンテンツを追加します。

レコードセットやその他のデータソースを定義し、[バインディング] パネルに追加すると、レコードセットが表す動的コンテンツをページに挿入できるようになります。Dreamweaver のメニュー方式のインターフェイスでは、[バインディング] パネルから動的コンテンツを選択し、現在のページ内の適切なテキスト、イメージ、またはフォームオブジェクトに挿入するだけで、簡単に動的コンテンツエレメントを追加できます。

動的コンテンツエレメントまたはその他のサーバービヘイビアをページに挿入すると、Dreamweaver によってサーバーサイドスクリプトがページのソースコードに挿入されます。スクリプトは、定義されたデータソースからデータを取得し、その結果を Web ページ内に描画するようにサーバーに指示します。Web ページに動的コンテンツを配置するには、以下のいずれかの操作を行います。

- Web ページに動的コンテンツを配置するには、以下のいずれかの操作を行います。
- コードビューまたはデザインビューから、挿入ポイントに動的コンテンツを配置します。
- テキスト文字列またはその他のプレースホルダーを置き換えます。

動的コンテンツを HTML 属性内に挿入します。たとえば、動的コンテンツで、イメージの src 属性やフォームフィールドの value 属性を定義できます。

4 ページにサーバービヘイビアを追加します。

動的コンテンツを追加するだけでなく、サーバービヘイビアを使用して複雑なアプリケーションロジックを Web ページに組み込むことができます。サーバービヘイビアとは、アプリケーションロジックを Web ページに追加する定義済みのサーバーサイドコードで、これによって相互作用と機能性が向上します。

Dreamweaver サーバービヘイビアによって、自分でコードを記述しなくてもアプリケーションロジックを Web サイトに追加できます。Dreamweaver で提供されるサーバービヘイビアは、ColdFusion、ASP、ASP.NET、JSP、および PHP ドキュメントタイプをサポートします。サーバービヘイビアは、高速、安全、および堅牢なものになるように、作成およびテストされています。組み込みのサーバービヘイビアは、異なるプラットフォーム上ですべてのブラウザ用の Web ページをサポートするよう設計されています。

Dreamweaver のポイント & クリックインターフェイスでは、テキストおよびデザインエレメントを挿入するときと同じように、動的コンテンツと複雑なビヘイビアを簡単にページに適用できます。使用できるサーバービヘイビアは、次のとおりです。

- 既存のデータベースからのレコードセットを定義します。定義したレコードセットは、[バインディング] パネルに保存されます。
- 1 つのページに複数のレコードを表示します。テーブル全体を選択するか動的コンテンツを含む個別のセルまたは行を選択して、各ページビューに表示するレコードの数を指定します。
- 動的テーブルを作成してページに挿入し、テーブルをレコードセットと関連付けます。プロパティインスペクタを使用してテーブルの外観を、また [リピート領域] サーバービヘイビアを使用してリピート領域を、それぞれ後から修正できます。
- 動的テキストオブジェクトをページに挿入します。挿入するテキストオブジェクトは、定義済みレコードセットのアイテムで、どのデータフォーマットも適用できます。
- レコードナビゲーションおよびステータスコントロール、マスター / 詳細ページ、およびデータベースの情報を更新するためのフォームを作成します。
- データベースレコードでレコードを複数表示します。
- ユーザーが、データベースレコードの前後のレコードを表示できるようにする、レコードセットナビゲーションリンクを作成します。
- 返されたレコード数およびどこに結果が返されたかがわかるように、レコードカウンタを追加します。

Dreamweaver サーバービヘイビアは、独自のサーバービヘイビアを作成するか、サードパーティ製サーバービヘイビアをインストールすることによって拡張できます。

5 ページをテストおよびデバッグします。

動的ページまたは Web サイト全体を Web に公開する前に、その機能をテストすることをお勧めします。また、アプリケーションの機能が、障害のある人にどのような影響を与えるかを考慮する必要があります。

動的ページの作成のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/learn_dw_webapp_jp を参照してください

関連項目

169 ページの「テーブルを使用したコンテンツの表示」

217 ページの「テキストの追加とフォーマット」

233 ページの「イメージの追加と変更」

244 ページの「Flash コンテンツの挿入」

503 ページの「Web アプリケーションのデータソース」

動的コンテンツソースの概要

動的コンテンツのソースについて

動的コンテンツソースは、Web ページで使用する動的コンテンツの取得元および表示元となる情報の保存場所です。動的コンテンツのソースには、データベースに保存された情報だけでなく、HTML フォームを使用して送信された値、サーバーオブジェクトに含まれる値、JavaBeans プロパティの値、およびその他のコンテンツソースを定義できます。

Dreamweaver では、簡単にデータベースに接続でき、動的コンテンツの抽出元になるレコードセットを作成できます。レコードセットは、データベースクエリーの結果です。クエリーによって、要求する特定の情報が抽出され、指定したページ内に表示されます。レコードセットは、データベースに含まれる情報と表示するコンテンツに基づいて定義されます。

レコードセットは、テクノロジーベンダーによって違う名前で呼ばれています。ASP と ColdFusion では、レコードセットは「クエリー」と定義されています。JSP では、レコードセットは「結果セット」と呼ばれます。ASP.NET では、レコードセットは「データセット」と呼ばれます。ユーザー入力やサーバー変数など、他のデータソースを使用している場合、Dreamweaver で定義されるデータソースの名前は、そのデータソースの名前と同じです。

動的 Web サイトには、動的コンテンツを取得および表示する元となるデータソースが必要です。Dreamweaver では、データベース、リクエスト変数、URL 変数、サーバー変数、フォーム変数、ストアードプロシージャ、およびその他の動的コンテンツのソースを使用できます。データソースに応じて、要求を満たす新しいコンテンツを取得するか、またはユーザーの要求を満たすようにページの内容を変更することができます。

Dreamweaver で定義したコンテンツソースはすべて、[バインディング] パネル内のコンテンツソースのリストに追加されます。これで、現在選択しているページにコンテンツソースを挿入できます。

レコードセットについて

動的 Web ページのコンテンツソースとしてデータベースを使用する場合は、まず、取得したデータを格納するレコードセットを作成する必要があります。「レコードセット」は、コンテンツを格納するデータベースと動的 Web ページを生成するアプリケーションサーバーの間を媒介します。レコードセットは、データベースクエリーによって返されるデータから構成され、データを高速に取得できるように一時的にアプリケーションサーバーのメモリに格納されます。不要になったレコードセットは、サーバーによって破棄されます。

レコードセット自体は、指定したデータベースから取得されたデータの集まりです。レコードセットには、データベーステーブル全体、またはテーブルの一部の行および列などを含めることができます。これらの行と列は、レコードセットに定義されたデータベースクエリーによって取得されます。データベースクエリーは、SQL (Structured Query Language) で記述します。SQL は簡単な言語で、データベースにデータを追加したり、データベースからデータを取得および削除することができます。Dreamweaver に装備された SQL ビルダーを使用すると、SQL の知識がなくても簡単なクエリーを作成できます。ただし、複雑な SQL クエリーを作成する場合は、SQL を学習し、Dreamweaver に入力する SQL ステートメントを手作業で記述する必要があります。

注意：Microsoft ASP.NET では、レコードセットはデータセットと呼ばれます。ASP.NET ドキュメントタイプを操作する場合、ASP.NET に固有のダイアログボックスとメニューでは、" データセット " というラベルが使用されます。Dreamweaver のマニュアルでは、通常、両方のタイプとも " レコードセット " と呼んでいますが、特に ASP.NET に関する機能について説明する場合は、" データセット " という用語を使用します。

ASP.NET で使用する SQL クエリーを作成する場合は、ASP.NET 特有のいくつかの条件に注意する必要があります。

Dreamweaver で使用するレコードセットを定義する前に、データベースへの接続を作成する必要があります。データが存在しない場合は、データベースにデータを入力します。サイトのデータベース接続をまだ定義していない場合は、開発するサーバーテクノロジーのデータベース接続に関する章を参照し、データベース接続の作成に関する手順に従ってください。

関連項目

519 ページの「SQL を使用しないレコードセットの定義」

ASP.NET 用の SQL の記述

詳細 [データセット] ダイアログボックスで SQL ステートメントを記述する際、ASP.NET 用のステートメントでは、ASP.NET に固有の以下の条件に従う必要があります。これらの条件については、次の項を参照してください。

パラメータ

パラメータを参照するために使用するシンタックスは、使用中のデータベース接続によって異なります (OLE DB、Microsoft SQL Server など)。

• OLE DB

OLE DB を使用してデータベースに接続する場合は、疑問符 (?) を使用してパラメータを参照する必要があります。以下に例を挙げます。

```
SELECT * FROM Employees WHERE HireDate > ?
```

• Microsoft SQL Server

.NET Framework で提供される Managed Data Provider for SQL Server を使用して Microsoft SQL Server に接続する場合は、すべてのパラメータを名前で指定する必要があります。以下に例を挙げます。

```
SELECT * FROM Employees WHERE HireDate > @hireDate
```

SQL ステートメントへのコードの挿入

ASP.NET 用に記述された SQL ステートメントにコードを挿入する場合は、次のようにすべてのストリングを引用符 (" ") で囲み、コードをカッコ ( ) で囲む必要があります。

```
SELECT * FROM Employees WHERE HireDate > "+ (Request.queryString("hireDate"))
```

関連項目

490 ページの「ASP.NET デベロッパーのためのデータベース接続」

URL パラメータとフォームパラメータについて

URL パラメータには、ユーザーによって入力された取得情報が格納されます。URL パラメータを定義するには、データを送信するために GET メソッドを使用するフォームまたはハイパーテキストリンクを作成します。この情報は、要求したページの URL に追加され、サーバーに送信されます。URL 変数を使用する場合、クエリーストリングには、フォームフィールドに関連する 1 つまたは複数の名前と値のペアが含まれます。これらの名前と値のペアは URL に追加されます。

フォームパラメータには、Web ページの HTTP 要求に含まれる取得情報が格納されます。POST メソッドを使用するフォームを作成した場合、フォームによって送信されたデータはサーバーに渡されます。作業を始める前に、フォームパラメータがサーバーに送信されたことを確認してください。

関連項目

505 ページの「URL パラメータ」

528 ページの「フォームパラメータの定義」

セッション変数について

セッション変数を使用すると、ユーザーのアクセス (セッション) 中に保持される情報を格納および表示することができます。サーバーは、各ユーザーに対して個別にセッションオブジェクトを作成し、指定期間中またはオブジェクトが明示的に終了されるまでこれを保持します。

セッション変数は、ユーザーのセッション期間全体にわたって持続し、ユーザーが Web サイト内のページを移動しても保持されるため、ユーザーの設定を格納するには最適です。また、セッション変数を使用すると、ページの HTML コードへの値の挿入、ローカル変数への値の割り当て、または条件式を評価するための値の提供が可能です。

ページのセッション変数を定義する前に、これらをソースコードで定義する必要があります。Web アプリケーションのソースコードでセッション変数を定義すると、Dreamweaver からセッション変数の値を取得し、Web ページで使用することができます。

関連項目

529 ページの「セッション変数の定義」

ASP と ColdFusion のアプリケーション変数

ASP および ColdFusion では、アプリケーション変数を使用して、アプリケーションの存続期間中にわたり保持される全ユーザー共通の情報を格納および表示できます。アプリケーションの存続期間とは、最初のユーザーがアプリケーションのページを要求してから Web サーバーが停止するまでの期間です。アプリケーションは、仮想ディレクトリおよびその従属ディレクトリ内のすべてのファイルとして定義されています。

アプリケーション変数はアプリケーションの存続期間にわたって持続し、全ユーザーに共通なので、現在の時刻や日付など全ユーザーに提示する必要がある情報を格納するには最適です。アプリケーション変数の値は、アプリケーションのコードで定義します。

ASP サーバー変数

動的コンテンツのソースとして Request.Cookie、Request.QueryString、Request.Form、Request.ServerVariables、および Request.ClientCertificates の ASP サーバー変数を定義することができます。

関連項目

530 ページの「サーバー変数の定義」

ColdFusion サーバー変数

ColdFusion では、以下のサーバー変数を定義できます。

クライアント変数 特定のクライアントにデータを関連付けます。クライアント変数は、ユーザーがアプリケーション内の各ページおよびセッションを移動するときに、アプリケーションの状態を維持します。" 状態の維持 " とは、ページ間またはセッション間で情報を保持することです。これによって、ユーザーおよびユーザーの以前の選択や設定をアプリケーションに記憶します。

Cookie 変数 ブラウザによってサーバーに渡された Cookie にアクセスします。

CGI 変数 ColdFusion を実行しているサーバーに関する情報、ページを要求しているブラウザに関する情報、およびその他の処理環境に関する情報を提供します。

サーバー変数 すべてのクライアントとサーバー上のすべてのアプリケーションからアクセスできます。サーバー変数は、サーバーが停止するまで保持されます。

ローカル変数 ColdFusion ページ内で CFSET タグまたは CFPARAM タグで作成されます。

関連項目

530 ページの「サーバー変数の定義」

動的コンテンツのパネル

[バインディング] パネル

[バインディング] パネルは、動的コンテンツのソースの定義および編集、ページへの動的コンテンツの追加、および動的テキストへのデータフォーマットの適用を行うときに使用します。

次のタスクをこのパネルで実行できます。

- 519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」
- 534 ページの「ページへの動的コンテンツの追加」
- 534 ページの「コンテンツソースの変更または削除」
- 548 ページの「定義済みデータフォーマットの使用」
- 410 ページの「XML データソースを適用する」
- 410 ページの「XSLT ページで XML データを表示する」
- 505 ページの「URL パラメータ」
- 529 ページの「セッション変数の定義」
- 529 ページの「ASP と ColdFusion のアプリケーション変数の定義」
- 530 ページの「サーバー変数の定義」
- 533 ページの「コンテンツソースのキャッシュ」
- 534 ページの「別のページへのレコードセットのコピー」
- 536 ページの「HTML 属性を動的にする」

[サーバービヘイビア] パネル

[サーバービヘイビア] パネルは、ページへの Dreamweaver サーバービヘイビアの追加、サーバービヘイビアの編集、およびサーバービヘイビアの作成を行うときに使用します。

次のタスクをこのパネルで実行できます。

- 540 ページの「データベースのレコードの表示」
- 519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」
- 590 ページの「1 回の操作によるマスターページと詳細ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」
- 592 ページの「検索ページと結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」
- 597 ページの「データベース検索ページの作成 (ASP.NET)」
- 601 ページの「レコード挿入ページの作成 (すべてのサーバー)」
- 605 ページの「レコードを更新するページの作成 (すべてのサーバー)」
- 610 ページの「レコードを削除するページの作成 (すべてのサーバー)」
- 628 ページの「許可されたビジターのみがアクセスできるページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」
- 624 ページの「登録ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」
- 626 ページの「ログインページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」
- 628 ページの「許可されたビジターのみがアクセスできるページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」
- 620 ページの「ストアードプロシージャの追加 (ColdFusion)」
- 622 ページの「ストアードプロシージャの追加 (ASP.NET)」
- 538 ページの「動的コンテンツの削除」
- 559 ページの「カスタムサーバービヘイビアの追加」

[データベース] パネル

[データベース] パネルは、データベース接続の作成、データベースの検査、およびページへのデータベース関連コードの挿入を行うときに使用します。

このパネルを使用して、データベースの表示とデータベースへの接続を実行できます。

- 511 ページの「Dreamweaver でのデータベースの表示」
- 481 ページの「ColdFusion デベロッパーのためのデータベース接続」
- 490 ページの「ASP.NET デベロッパーのためのデータベース接続」
- 482 ページの「ASP デベロッパーのためのデータベース接続」
- 493 ページの「JSP デベロッパーのためのデータベース接続」
- 489 ページの「PHP デベロッパーのためのデータベース接続」

[コンポーネント] パネル

[コンポーネント] パネルは、コンポーネントの作成と検査およびページへのコンポーネントコードの挿入を行うときに使用します。

注意：このパネルは、デザインビューでは機能しません。

次のタスクをこのパネルで実行できます。

- 631 ページの「ColdFusion コンポーネントの使用 (ColdFusion)」
- 553 ページの「Web サービスの使用 (Windows のみ)」

動的コンテンツのソースの定義

SQL を使用しないレコードセットの定義

SQL ステートメントを手作業で入力することなくレコードセットを作成することができます。

1 ドキュメントウィンドウに、レコードセットを使用するページを開きます。

2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

3 [バインディング] パネルで [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューで [レコードセット (クエリー)] を選択します。

基本 [レコードセット] ダイアログボックスが表示されます。ColdFusion または ASP.NET のサイトを開発している場合、[レコードセット] ダイアログボックスの内容は多少異なります。詳細 [レコードセット] ダイアログボックスが表示された場合は、[基本設定] をクリックして、基本 [レコードセット] ダイアログボックスに切り替えてください。

4 ドキュメントタイプに対応する [レコードセット] ダイアログボックスに情報を入力します。

手順については、以下のトピックを参照してください。

5 [テスト] ボタンをクリックしてクエリーを実行し、要求する情報が取得されたことを確認します。

ユーザーによって入力されたパラメータを使用するフィルタを定義した場合は、[テスト値] ボックスに値を入力して、[OK] をクリックします。レコードセットのインスタンスが正常に作成されると、レコードセットから抽出されたデータを表示するテーブルが表示されます。

6 [OK] をクリックして、[バインディング] パネルの使用可能なコンテンツソースのリストにレコードセットを追加します。

関連項目

490 ページの「ASP.NET デベロッパーのためのデータベース接続」

基本 [レコードセット] ダイアログボックスのオプション (PHP, ASP, JSP)

1 [名前] ボックスに、レコードセットの名前を入力します。

一般的には、接頭辞「**rs**」をレコードセット名に付けることで、レコードセット名をコード内の他のオブジェクト名と区別します (例 : rsPressReleases)。

レコードセット名には、文字、数字、およびアンダースコア (_) のみを使用できます。特殊文字またはスペースは使用できません。

2 [接続] ポップアップメニューから接続を選択します。

リストに接続が表示されない場合は、[定義] をクリックして接続を設定します。

3 [テーブル] ポップアップメニューで、レコードセットにデータを提供するデータベーステーブルを選択します。

ポップアップメニューには、指定したデータベース内のすべてのテーブルが表示されます。

4 テーブルの一部の列だけをレコードセットに含めるには、[選択] をクリックし、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらリスト内の目的の列をクリックします。

5 テーブルから返されたレコードをさらに限定するには、[フィルタ] セクションに値を入力します。

- 1 つ目のポップアップメニューで、定義したテスト値と比較するための列をデータベーステーブルから 1 列選択します。
- 2 つ目のポップアップメニューで、各レコードの選択された値をテスト値と比較するための条件式を選択します。
- 3 つ目のポップアップメニューで [入力値] を選択します。
- ボックスにテスト値を入力します。

レコード内の指定した値がフィルタ条件に一致すると、そのレコードはレコードセットに含まれます。

6 (オプション) レコードを並べ替えるには、並べ替えの対象とする列を選択し、レコードを昇順 (1、2、3... や A、B、C...) または降順のどちらで並べ替えるかを指定します。

7 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、データソースのインスタンスを作成します。[OK] をクリックして、データソースを閉じます。

返されたデータを含むテーブルが表示されます。各行にはレコードが含まれており、各列はレコードのフィールドを表しています。

8 [OK] をクリックします。[バインディング] パネルに、新しく定義したレコードセットが表示されます。

基本 [レコードセット] ダイアログボックスのオプション (ColdFusion)

SQL ステートメントを手作業で記述せずに、動的コンテンツのソースとして ColdFusion ドキュメントタイプのレコードセットを定義することができます。

注意 : ColdFusion 5 以前のバージョンで使用するレコードセットを作成する場合は、ASP や JSP などの他のドキュメントタイプで共通して使用される一般的な基本 [レコードセット] ダイアログボックスを使用してください。

1 [名前] ボックスに、レコードセットの名前を入力します。

一般的には、接頭辞「**rs**」をレコードセット名に付けることで、レコードセット名をコード内の他のオブジェクト名と区別します。例 : rsPressReleases

レコードセット名には、文字、数字、およびアンダースコア (_) のみを使用できます。特殊文字またはスペースは使用できません。

2 ColdFusion コンポーネントのレコードセットを定義している場合 (CFC ファイルが現在 Dreamweaver で開いている場合) は、[関数] ポップアップメニューから既存の CFC 関数を選択するか、[新しい関数] をクリックして関数を新規作成します。

注意 : [関数] ポップアップメニューは、CFC ファイルが現在のドキュメントであり、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にだけ使用できます。

レコードセットは関数内で定義します。

3 [データソース] ポップアップメニューでデータソースを選択します。

データソースがポップアップメニューに表示されない場合は、ColdFusion データソースを作成する必要があります。

4 必要に応じて、[ユーザー名] と [パスワード] ボックスに、ColdFusion アプリケーションサーバーのユーザー名とパスワードを入力します。

ColdFusion のデータソースにアクセスするために、ユーザー名とパスワードが必要な場合があります。ColdFusion のデータソースにアクセスするためのユーザー名とパスワードを持っていない場合は、所属する組織の ColdFusion の管理者に連絡してください。

5 [テーブル] ポップアップメニューで、レコードセットにデータを提供するデータベーステーブルを選択します。

[テーブル] ポップアップメニューには、指定したデータベース内のすべてのテーブルが表示されます。

6 テーブルの一部の列だけをレコードセットに含めるには、[選択] をクリックし、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらリスト内の目的の列をクリックします。

7 テーブルから返されたレコードをさらに限定するには、[フィルタ] セクションに値を入力します。

- 1 つ目のポップアップメニューで、定義したテスト値と比較するための列をデータベーステーブルから 1 列選択します。
- 2 つ目のポップアップメニューで、各レコードの選択された値をテスト値と比較するための条件式を選択します。
- 3 つ目のポップアップメニューで [入力値] を選択します。
- ボックスにテスト値を入力します。

レコード内の指定した値がフィルタ条件に一致すると、そのレコードはレコードセットに含まれます。

8 (オプション) レコードを並べ替えるには、並べ替えの対象とする列を選択し、レコードを昇順 (1、2、3... や A、B、C...) または降順のどちらで並べ替えるかを指定します。

9 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、データソースのインスタンスを作成します。

返されたデータを含むテーブルが表示されます。各行にはレコードが含まれており、各列はレコードのフィールドを表しています。[OK] をクリックしてテストレコードセットを閉じます。

10 [OK] をクリックします。[バインディング] パネルに、新しく定義した ColdFusion レコードセットが表示されます。

基本 [データセット] ダイアログボックスのオプション (ASP.NET)

SQL ステートメントを手作業で記述せずに、動的コンテンツのソースとして ASP.NET データセットを定義することができます。

1 [名前] ボックスに、データセットの名前を入力します。

一般的には、接頭辞「**ds**」をデータセット名に付けることで、データセット名をコード内の他のオブジェクト名と区別します (例 : dsPressReleases)。

データセット名には、文字、数字、およびアンダースコア (_) のみを使用できます。特殊文字またはスペースは使用できません。

2 [接続] ポップアップメニューから接続を選択します。

リストに接続が表示されない場合は、[定義] をクリックして接続を設定します。

3 [テーブル] ポップアップメニューで、データセットにデータを提供するデータベーステーブルを選択します。

ポップアップメニューには、指定したデータベース内のすべてのテーブルが表示されます。

4 テーブルの一部の列だけをデータセットに含めるには、[選択] をクリックし、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらリスト内の目的の列をクリックします。

5 テーブルの特定のレコードのみを含める場合は、次の手順に従って [フィルタ] セクションに値を入力します。

- 1 つ目のポップアップメニューで、定義したテスト値と比較するための列をデータベーステーブルから 1 列選択します。
- 2 つ目のポップアップメニューで、各レコードの選択された値をテスト値と比較するための条件式を選択します。

- 3 つ目のポップアップメニューで [入力値] を選択します。
- ボックスにテスト値を入力します。

指定したレコードの値がフィルタ条件に一致すると、そのレコードはデータセットに含まれます。

6 (オプション) レコードを並べ替えるには、並べ替えの対象とする列を選択し、レコードを昇順 (1、2、3... や A、B、C...) または降順のどちらで並べ替えるかを指定します。

7 なんらかの理由でデータセットクエリーの実行に失敗した場合にユーザーを転送するページを指定できます。たとえば、データベースがクエリーの実行時に使用できず、ページのデータセットを返すことができない場合は、サイトのホームページへのリンクが含まれたエラーページを表示できます。

8 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、データソースのインスタンスを作成します。

返されたデータを含むテーブルが表示されます。各行にはレコードが含まれており、各列はレコードのフィールドを表しています。[OK] をクリックしてデータセットを閉じます。

9 [OK] をクリックします。[バインディング] パネルに、新しく定義したデータセットが表示されます。

SQL を使用した高度なレコードセットの定義

詳細 [レコードセット] ダイアログボックスでは、独自の SQL ステートメントを記述したり、グラフィカルな [データベース項目] のツリーを使用して SQL ステートメントを作成したりできます。

注意：ASP.NET ドキュメントタイプの SQL ステートメントを記述する場合は、ASP.NET に固有なルールについて 516 ページの「ASP.NET 用の SQL の記述」を参照してください。

1 ドキュメントウィンドウに、レコードセットを使用するページを開きます。

2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

3 [バインディング] パネルで [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューで [レコードセット (クエリー)] を選択します。

詳細 [レコードセット] ダイアログボックスが表示されます。ColdFusion または ASP.NET のサイトを開発している場合、[レコードセット] ダイアログボックスの内容は多少異なります。基本 [レコードセット] ダイアログボックスが表示された場合は、[詳細設定] ボタンをクリックして、詳細 [レコードセット] ダイアログボックスに切り替えてください。

4 詳細 [レコードセット] ダイアログボックスに情報を入力します。

手順については、以下のトピックを参照してください。

5 [テスト] ボタンをクリックしてクエリーを実行し、要求する情報が取得されたことを確認します。

ユーザーによって入力されたパラメータを使用するフィルタを定義した場合、[テスト] ボタンをクリックすると [テスト値] ダイアログボックスが表示されます。[テスト値] ボックスに値を入力して、[OK] をクリックします。レコードセットのインスタンスが正常に作成されると、レコードセットのデータを表示するテーブルが表示されます。

6 [OK] をクリックして、[バインディング] パネルの使用可能なコンテンツソースのリストにレコードセットを追加します。

関連項目

526 ページの「[データベース項目] のツリーを使用した SQL クエリーの作成」

482 ページの「ASP デベロッパーのためのデータベース接続」

489 ページの「PHP デベロッパーのためのデータベース接続」

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

620 ページの「ストアードプロシージャの追加 (ColdFusion)」

詳細 [レコードセット] ダイアログボックスのオプション (PHP, ASP, JSP)

カスタム SQL ステートメントを記述するか、またはグラフィカルな [データベース項目] のツリーを使用して SQL ステートメントを作成することにより、動的コンテンツのソースとしてレコードセットを定義することができます。

1 [名前] ボックスに、レコードセットの名前を入力します。

一般的には、接頭辞「**rs**」をレコードセット名に付けることで、レコードセット名をコード内の他のオブジェクト名と区別します。例 : rsPressRelease

レコードセット名には、文字、数字、およびアンダースコア (_) のみを使用できます。特殊文字またはスペースは使用できません。

2 [接続] ポップアップメニューから接続を選択します。

3 SQL テキスト領域に SQL ステートメントを入力するか、またはダイアログボックスの下部にあるグラフィカルな [データベース項目] のツリーを使用して、選択したレコードセットから SQL ステートメントを作成します。

[データベース項目] のツリーを使用して SQL ステートメントを作成するには、次の操作を行います。

- SQL テキスト領域が空白であることを確認します。
- 必要なデータベースオブジェクトが表示されるまでツリーのブランチを展開します。このオブジェクトとしては、テーブルの列やデータベース内にあるストアードプロシージャなどがあります。
- データベースオブジェクトを選択し、ツリーの右側にあるいずれかのボタンをクリックします。

たとえば、テーブル列を選択した場合は、[SELECT] ボタン、[WHERE] ボタン、および [ORDER BY] ボタンを利用できます。いずれかのボタンをクリックして、関連する句を SQL ステートメントに追加します。

また、[データベース項目] のツリーからストアードプロシージャを選択し、[プロシージャ] ボタンをクリックすることにより、ストアードプロシージャ内の定義済み SQL ステートメントを使用することもできます。この場合、Dreamweaver によって [SQL] 領域と [変数] 領域に値が入力されます。

4 SQL ステートメントに変数が含まれる場合は、[変数] 領域で [+] ボタンをクリックし、変数名、初期設定値 (ランタイム値が返されなかった場合に変数で使用する値)、およびランタイム値を入力して、これらの変数の値を定義します。

SQL ステートメントに変数が含まれる場合は、[変数] ボックスの [初期設定値] 列に有効なテスト値が入力されていることを確認してください。

ランタイム値は、通常、ユーザーが HTML フォームフィールドに入力した URL パラメータまたはフォームパラメータです。

[ランタイム値] 列の URL パラメータ :

サーバーモデル	URL パラメータに使用するランタイム値
ASP	Request.QueryString("formFieldName")
JSP	request.getParameter("formFieldName")
PHP	#formFieldName#

[ランタイム値] 列のフォームパラメータ :

サーバーモデル	フォームパラメータに使用するランタイム値
ASP	Request.Form("formFieldName")
JSP	`request.getParameter("formFieldName")`
PHP	#formFieldName#

5 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、レコードセットのインスタンスを作成します。

SQL ステートメントに変数が含まれる場合は、[テスト] をクリックする前に、[変数] ボックスの [初期設定値] 列に有効なテスト値が入力されていることを確認してください。

特に問題がなければ、テーブルが表示され、レコードセットのデータが表示されます。各行にはレコードが含まれており、各列はレコードのフィールドを表しています。[OK] をクリックしてレコードセットをクリアします。

6 作業が終わったら [OK] をクリックします。

詳細 [レコードセット] ダイアログボックスのオプション (ColdFusion)

詳細 [レコードセット] ダイアログボックスでは、カスタム SQL クエリーを記述したり、[データベース項目] のツリーを使用してポイント & クリックインターフェイスで SQL ステートメントを作成したりできます。

注意：ColdFusion 5 以前のバージョンで使用するレコードセットを作成する場合は、ASP や JSP などの他のドキュメントタイプで共通して使用される一般的な詳細 [レコードセット] ダイアログボックスを使用してください。

1 [名前] ボックスに、レコードセットの名前を入力します。

一般的には、接頭辞「**rs**」をレコードセット名に付けることで、レコードセット名をコード内の他のオブジェクト名と区別します。例 : rsPressReleases

レコードセット名には、文字、数字、およびアンダースコア (_) のみを使用できます。特殊文字またはスペースは使用できません。

ColdFusion コンポーネントのレコードセットを定義している場合 (CFC ファイルが現在 Dreamweaver で開いている場合) は、[関数] ポップアップメニューから既存の CFC 関数を選択するか、[新しい関数] をクリックして関数を新規作成します。

注意：[関数] ポップアップメニューは、CFC ファイルが現在のドキュメントであり、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にだけ使用できます。

レコードセットは関数内で定義します。

2 [データソース] ポップアップメニューでデータソースを選択します。

データソースがポップアップメニューリストに表示されない場合は、最初に ColdFusion データソースを作成する必要があります。

3 必要に応じて、[ユーザー名] と [パスワード] ボックスに、ColdFusion アプリケーションサーバーのユーザー名とパスワードを入力します。

ColdFusion のデータソースにアクセスするために、ユーザー名とパスワードが必要な場合があります。ColdFusion のデータソースにアクセスするためのユーザー名とパスワードを持っていない場合は、所属する組織の ColdFusion の管理者に連絡してください。

4 SQL テキスト領域に SQL ステートメントを入力するか、またはダイアログボックスの下部にあるグラフィカルな [データベース項目] のツリーを使用して、選択したレコードセットから SQL ステートメントを作成します。

5 (オプション) [データベース項目] のツリーを使用して SQL ステートメントを作成するには、次の操作を行います。

- SQL テキスト領域が空白であることを確認します。
- 必要なデータベースオブジェクトが表示されるまでツリーのブランチを展開します。このオブジェクトとしては、テーブルの列などがあります。
- データベースオブジェクトを選択し、ツリーの右側にあるいずれかのボタンをクリックします。

たとえば、テーブル列を選択した場合は、[SELECT] ボタン、[WHERE] ボタン、および [ORDER BY] ボタンを利用できます。いずれかのボタンをクリックして、関連する句を SQL ステートメントに追加します。

SQL ステートメントにパラメータが含まれる場合は、[パラメータ] 領域で [+] ボタンをクリックし、パラメータ名と初期設定値 (ランタイム値が返されなかった場合にパラメータで使用する値) を入力して、これらのパラメータの値を定義します。

SQL ステートメントにパラメータが含まれる場合は、[パラメータ] ボックスの [初期設定値] 列に有効なテスト値が入力されていることを確認してください。

[ページパラメータ] では、記述する SQL のランタイム値を参照するための初期設定値を指定できます。たとえば、以下の SQL ステートメントでは、社員 ID の値に基づいて社員レコードが選択されます。このパラメータには、ランタイム値が必ず返されるように、初期設定値を割り当てることができます。この例では、*FormFieldName* は、ユーザーが社員 ID を入力したフォームフィールドを参照します。

```
SELECT * FROM Employees WHERE EmpID = + (Request.Form(#FormFieldName#))
```

[ページパラメータ] ダイアログボックスには、以下のような名前と値の組み合わせが表示されます。

名前	デフォルト値
FormFieldName	0001

ランタイム値は、通常、ユーザーが HTML フォームフィールドに入力した URL パラメータまたはフォームパラメータです。

6 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、レコードセットのインスタンスを作成します。

SQL ステートメントにランタイム参照が含まれる場合は、[テスト] をクリックする前に、[ページパラメータ] フィールドの [初期設定値] 列に有効なテスト値を指定してください。

特に問題がなければ、テーブルが表示され、レコードセットのデータが表示されます。各行にはレコードが含まれており、各列はレコードのフィールドを表しています。[OK] をクリックしてレコードセットをクリアします。

7 作業が終わったら [OK] をクリックします。

詳細 [データセット] ダイアログボックスのオプション (ASP.NET)

カスタム SQL ステートメントを記述するか、または [データベース項目] のツリーを使用して SQL ステートメントを作成することにより、動的コンテンツのソースとしてデータセットを定義することができます。

1 [名前] ボックスに、データセットの名前を入力します。

一般的には、接頭辞「**ds**」をデータセット名に付けることで、データセット名をコード内の他のオブジェクト名と区別します。例 : dsPressRelease

データセット名には、文字、数字、およびアンダースコア (_) のみを使用できます。特殊文字またはスペースは使用できません。

2 [接続] ポップアップメニューから接続を選択します。

3 SQL テキスト領域に SQL ステートメントを入力するか、またはダイアログボックスの下部にある [データベース項目] のツリーを使用して、選択したデータベーステーブルから SQL ステートメントを作成します。

[データベース項目] のツリーを使用して SQL ステートメントを作成するには、次の操作を行います。

- SQL テキスト領域が空白であることを確認します。
- 必要なデータベースオブジェクトが表示されるまでツリーのブランチを展開します。このオブジェクトとしては、テーブルの列やデータベース内にあるストアードプロシージャなどがあります。
- データベースオブジェクトを選択し、ツリーの右側にあるいずれかのボタンをクリックします。

たとえば、テーブル列を選択した場合は、[SELECT] ボタン、[WHERE] ボタン、および [ORDER BY] ボタンを利用できます。いずれかのボタンをクリックして、関連する句を SQL ステートメントに追加します。

また、[データベース項目] のツリーからストアードプロシージャを選択し、[プロシージャ] ボタンをクリックすることにより、ストアードプロシージャ内の定義済み SQL ステートメントを使用することもできます。この場合、Dreamweaver によって [SQL] 領域と [パラメータ] 領域に値が入力されます。

4 なんらかの理由でデータセットクエリーの実行に失敗した場合にユーザーを転送するページを指定できます。たとえば、データベースがクエリーの実行時に使用できず、ページのデータセットを返すことができない場合は、サイトのホームページへのリンクが含まれたエラーページを表示できます。

5 SQL ステートメントにパラメータが含まれる場合は、[パラメータ] 領域で [+] ボタンをクリックし、パラメータ名と初期設定値 (ランタイム値が返されなかった場合にパラメータで使用する値) を入力して、これらのパラメータの値を定義します。

SQL ステートメントにパラメータが含まれる場合は、[パラメータ] ボックスの [初期設定値] 列に有効なテスト値が入力されていることを確認してください。

[ページパラメータ] では、記述する SQL のランタイム値を参照するための初期設定値を指定できます。たとえば、以下の SQL ステートメントでは、社員 ID の値に基づいて社員レコードが選択されます。このパラメータには、ランタイム値が必ず返されるように、初期設定値を割り当てることができます。この例では、*FormFieldName* は、ユーザーが社員 ID を入力したフォームフィールドを参照します。

```
"SELECT * FROM Employees WHERE EmpID = " + (Request.Form("FormFieldName"))
```

[ページパラメータ] ダイアログボックスには、以下のような名前と値の組み合わせが表示されます。

名前	デフォルト値
FormFieldName	0001

ランタイム値は、通常、ユーザーが HTML フォームフィールドに入力した URL パラメータまたはフォームパラメータです。

6 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、レコードセットのインスタンスを作成します。

SQL ステートメントにランタイム参照が含まれる場合は、[テスト] をクリックする前に、[ページパラメータ] フィールドの [初期設定値] 列に有効なテスト値を指定してください。

特に問題がなければ、テーブルが表示され、データセットのデータが表示されます。各行にはレコードが含まれており、各列はレコードのフィールドを表しています。[OK] をクリックしてデータセットをクリアします。

7 作業が終わったら [OK] をクリックします。

SQL ステートメントでのパラメータの定義 (ColdFusion、ASP.NET)

SQL ステートメントに含まれるパラメータを定義することができます。初期設定値は、ランタイム値が返されなかった場合にパラメータに使用する値です。

1 [名前] ポップアップメニューからパラメータ名を選択します。

2 [初期設定値] ボックスに初期設定値を入力して、[OK] をクリックします。

SQL ステートメントでのパラメータの定義 (PHP)

SQL ステートメントに含まれるパラメータを定義することができます。初期設定値は、ランタイム値が返されなかった場合にパラメータに使用する値です。

1 [名前] ボックスにパラメータ名を入力します。

2 [初期設定値] ボックスに初期設定値を入力します。

3 [ランタイム値] ボックスにパラメータのランタイム値を入力して、[OK] をクリックします。

[データベース項目] のツリーを使用した SQL クエリーの作成

SQL ステートメントを SQL ボックスに手作業で入力する代わりに、[データベース項目] のポイント & クリックインターフェイスを使用して、複雑な SQL クエリーを作成することができます。[データベース項目] のツリーを使用すると、データベースオブジェクトを選択し、SQL の SELECT、WHERE、および ORDER BY 句を使用してこれらのデータベースオブジェクトをリンクできます。SQL クエリーを作成してから、ダイアログボックスの [変数] 領域を使用して任意の変数を定義できます。

以下の 2 つの例では、2 つの SQL ステートメントと、これらを詳細 [レコードセット] ダイアログボックスの [データベース項目] ツリーを使用して作成する手順について説明します。

例 : テーブルの選択

この例では、[Employees] テーブルの内容すべてを選択します。このクエリーを定義する SQL ステートメントは以下のとおりです。

```
SELECT * FROM Employees
```

このクエリーを作成するには、以下の手順に従います。

1 [テーブル] ブランチを展開し、選択したデータベース内のすべてのテーブルを表示します。

2 [Employees] テーブルを選択します。

3 [SELECT] ボタンをクリックします。

4 [OK] をクリックして、[バインディング] パネルにレコードセットを追加します。

例 : テーブルからの特定の行の選択、および結果の並べ替え

次の例では、[Employees] テーブルから 2 つの行を選択し、変数 (定義必要) を使用して職種を選択します。次に、結果を社員名で並べ替えます。

```
SELECT emplNo, emplName
FROM Employees
WHERE emplJob = 'varJob'
ORDER BY emplName
```

1 [テーブル] ブランチを展開し、選択したデータベース内のすべてのテーブルを表示します。次に、[Employees] テーブルを展開し、個々のテーブル行を表示します。

2 次の手順に従って SQL ステートメントを作成します。

- [emplNo] を選択して、[SELECT] ボタンをクリックします。
- [emplName] を選択して、[SELECT] ボタンをクリックします。
- [emplJob] を選択して、[WHERE] ボタンをクリックします。
- [emplName] を選択して、[ORDER BY] ボタンをクリックします。

3 挿入ポイントを SQL テキスト領域の WHERE emplJob の後に置き、「='varJob'」と入力します。等号記号も含めます。

4 変数 'varJob' を定義します。これを行うには、[変数] 領域で [+] ボタンをクリックし、[名前]、[初期設定値]、および [ランタイム値] 列にそれぞれ「varJob」、「CLERK」、「Request("job")」と入力します。

5 [OK] をクリックして、[バインディング] パネルにレコードセットを追加します。

URL パラメータの定義

URL パラメータには、ユーザーによって入力された取得情報が格納されます。作業を始める前に、フォームパラメータまたは URL パラメータがサーバーに渡されたことを確認してください。URL 変数を定義すると、その値を現在選択しているページで使用できます。

1 ドキュメントウィンドウに、変数を使用するページを開きます。

2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

3 [バインディング] パネルで [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから次の項目のいずれかを選択します。

ドキュメントタイプ	URL 変数に関する [バインディング] パネルのメニュー項目
ASP	リクエスト変数 > Request.QueryString
ColdFusion	URL 変数
JSP	リクエスト変数
PHP	URL 変数

4 [URL 変数] ダイアログボックスで、ボックスに URL 変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

URL 変数名は、通常、HTML フォームフィールドの名前、またはその値を取得するために使用されたオブジェクトの名前です。

5 URL 変数が [バインディング] パネルに表示されます。

関連項目

516 ページの「URL パラメータとフォームパラメータについて」

534 ページの「ページへの動的コンテンツの追加」

505 ページの「URL パラメータ」

517 ページの「ColdFusion サーバー変数」

505 ページの「URL パラメータ」

フォームパラメータの定義

フォームパラメータには、Web ページの HTTP 要求に含まれる取得情報が格納されます。POST メソッドを使用するフォームを作成した場合、フォームによって送信されたデータはサーバーに渡されます。作業を始める前に、フォームパラメータがサーバーに送信されたことを確認してください。フォームパラメータをコンテンツソースとして定義すると、その値をページで使用できます。

1 ドキュメントウィンドウに、変数を使用するページを開きます。

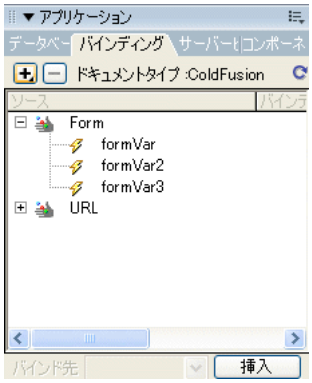
2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

3 [バインディング] パネルで [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから次の項目のいずれかを選択します。

ドキュメントタイプ	フォーム変数に関する [バインディング] パネルのメニュー項目
ASP	リクエスト変数 > Request.Form
ColdFusion	フォーム変数
JSP	リクエスト変数
PHP	フォーム変数

4 [フォーム変数] ダイアログボックスで、フォーム変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。フォームパラメータ名は、通常、HTML フォームフィールドの名前、またはその値を取得するために使用されたオブジェクトの名前です。

フォームパラメータが [バインディング] パネルに表示されます。



関連項目

515 ページの「動的コンテンツのソースについて」

516 ページの「URL パラメータとフォームパラメータについて」

530 ページの「サーバー変数の定義」

セッション変数の定義

セッション変数を使用すると、ユーザーのアクセス (セッション) 中に保持される情報を格納および表示することができます。サーバーは、各ユーザーに対して個別にセッションオブジェクトを作成し、指定期間中またはオブジェクトが明示的に終了されるまでこれを保持します。

ページのセッション変数を定義する前に、これらをソースコードで定義する必要があります。Web アプリケーションのソースコードでセッション変数を定義すると、Dreamweaver からセッション変数の値を取得し、Web ページで使用することができます。

1 ソースコードでセッション変数を作成し、そのセッション変数に値を割り当てます。

たとえば、以下の ColdFusion の例では、username という名前のセッションがインスタンス化され、これに値 Cornelius が割り当てられています。

```
<CFSET session.username = Cornelius>
```

2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

3 [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [セッション変数] を選択します。

4 アプリケーションのソースコードで定義した変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

関連項目

504 ページの「ユーザーから送信されたデータの収集」

507 ページの「セッション変数に格納されたデータへのアクセス」

507 ページの「セッション変数のしくみ」

507 ページの「セッション変数の情報の収集、保存、取得」

ASP と ColdFusion のアプリケーション変数の定義

ASP および ColdFusion では、アプリケーション変数を使用して、アプリケーションの存続期間中にわたり保持される全ユーザー共通の情報を格納および表示できます。アプリケーション変数を定義すると、その値をページで使用できます。

注意：JSP または PHP にはアプリケーション変数オブジェクトは存在しません。

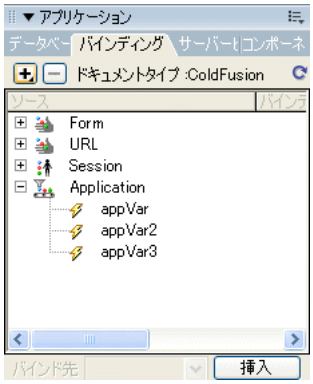
1 ドキュメントウィンドウに、動的ドキュメントタイプを開きます。

2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

3 [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [アプリケーション変数] を選択します。

4 アプリケーションのソースコードで定義した変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

アプリケーション変数がアプリケーションアイコンの下の [バインディング] パネルに表示されます。



関連項目

534 ページの「動的コンテンツの追加について」

530 ページの「サーバー変数の定義」

ColdFusion レコードセットのデータソースとしての変数の使用

ページのレコードセットを [バインディング] パネルで定義すると、Dreamweaver ではそのページの cfquery タグに ColdFusion データソースの名前が入力されます。より柔軟な操作性を実現するために、データソース名を変数に格納し、その変数を cfquery タグ内で使用することもできます。Dreamweaver では、視覚的な方法でこのような変数をレコードセット内に指定することができます。

1 ドキュメントウィンドウで、ColdFusion ページがアクティブであることを確認します。

2 [バインディング] パネルで [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューで [データソース名変数] を選択します。

[データソース名変数] ダイアログボックスが表示されます。

3 変数を定義し、[OK] をクリックします。

4 レコードセットを定義するときに、この変数をレコードセットの " データソース " として選択します。

[レコードセット] ダイアログボックスでは、サーバー上の ColdFusion データソースと共に [データソース] ポップアップメニュー内に変数が表示されます。

5 [レコードセット] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

6 変数を初期化します。

Dreamweaver では変数が自動的に初期化されることはないので、変数を初期化する方法や場所は必要に応じて選択できます。変数は、セッション変数やアプリケーション変数としてページのコード内 (cfquery タグの前) やインクルードファイル内で初期化できる他、その他のファイル内でも初期化することができます。

サーバー変数の定義

Web アプリケーション内で使用する動的コンテンツのソースとしてサーバー変数を定義します。サーバー変数は、ドキュメントタイプに応じて異なり、フォーム変数、URL 変数、セッション変数、およびアプリケーション変数があります。

サーバー変数は、サーバーにアクセスしているすべてのクライアント、およびサーバー上で実行されているすべてのアプリケーションからアクセスできます。サーバー変数は、サーバーが停止するまで保持されます。

関連項目

534 ページの「ページへの動的コンテンツの追加」

505 ページの「URL パラメータ」

504 ページの「HTML フォームパラメータ」

517 ページの「ColdFusion サーバー変数」

ColdFusion サーバー変数の定義

1 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択し、[バインディング] パネルを開きます。[サーバー変数] ダイアログボックスで、サーバー変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

2 [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [サーバー変数] を選択します。

3 変数の名前を入力し、「OK」をクリックします。ColdFusion サーバー変数が [バインディング] パネルに表示されます。

以下の表に、組み込み ColdFusion サーバー変数のリストを示します。

変数	説明
Server.ColdFusion.ProductName	ColdFusion の製品名。
Server.ColdFusion.ProductVersion	ColdFusion のバージョン番号。
Server.ColdFusion.ProductLevel	ColdFusion の種類 (Enterprise、Professional)。
Server.ColdFusion.SerialNumber	現在インストールされている ColdFusion のシリアル番号。
Server.OS.Name	サーバーで実行されているオペレーティングシステムの名前 (Windows XP、Windows 2000、Linux など)。
Server.OS.AdditionalInformation	インストールされているオペレーティングシステムに関する補足情報 (サービスパック、アップデートなど)。
Server.OS.Version	インストールされているオペレーティングシステムのバージョン。
Server.OS.BuildNumber	インストールされているオペレーティングシステムのビルド番号。

ColdFusion ローカル変数の定義

ローカル変数は、ColdFusion ページ内で CFSET タグまたは CFPARAM タグを使用することによって作成されます。定義済のローカル変数が [バインディング] パネルに表示されます。

❖ [ローカル変数] ダイアログボックスで、ローカル変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

ASP サーバー変数の定義

動的コンテンツのソースとして Request.Cookie、Request.QueryString、Request.Form、Request.ServerVariables、および Request.ClientCertificates の ASP サーバー変数を定義することができます。

1 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択し、[バインディング] パネルを開きます。

2 [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [リクエスト変数] を選択します。

3 [リクエスト変数] ダイアログボックスで、[タイプ] ポップアップメニューから以下のいずれかのリクエストコレクションを選択します。

QueryString コレクション GET メソッドを使用する HTML フォームがページに含まれる場合など、送信元ページの URL に追加された情報を取得します。 クエリーストリングは、たとえば、last=Smith、first=Winston のように、名前と値の組み合わせで構成されます。組み合わせは複数でもかまいません。このストリングは URL の後に疑問符 (?) と共に追加されます。). クエリー文字列に複数の名前と値の組み合わせが含まれている場合、各組み合わせはアンパサンド (&) を使用して結合されます。

Form コレクション POST メソッドを使用する HTML フォームの HTTP 要求の本文に含まれるフォーム情報を取得します。

ServerVariables コレクション 定義済みの環境変数の値を取得します。このコレクションには、多くの値のリストが含まれます。CONTENT_LENGTH (フォームが空かどうかを確認するために使用する、HTTP 要求で送信されたコンテンツの長さ) や HTTP_USER_AGENT (ユーザーのブラウザに関する情報を提供) などです。

たとえば、Request.ServerVariables("HTTP_USER_AGENT") には送信元のブラウザに関する情報が含まれます。Mozilla/4.07 [en] (WinNT; I) の場合は、Netscape Navigator 4.07 ブラウザを示しています。

ASP サーバーの環境変数の詳細なリストについては、インストールした PWS (Microsoft Personal Web Server) または IIS (Internet Information Server) に用意されているオンラインマニュアルを参照してください。

Cookies コレクション HTTP 要求で送信される Cookie の値を取得します。たとえば、ページで、ユーザーシステム上にある "readMe" という Cookie を読み込むとします。 サーバーで、Cookie の値は、変数 Request.Cookies("readMe") に格納されます。

ClientCertificate コレクション ブラウザから送信される HTTP 要求の証明書フィールドを取得します。証明書フィールドは、X.509 標準で指定されています。

4 アクセスするコレクションの変数名を指定して、[OK] をクリックします。

たとえば、変数 Request.ServerVariables("HTTP_USER_AGENT") の情報にアクセスする場合は、引数 HTTP_USER_AGENT を入力します。変数 Request.Form("lastname") の情報にアクセスする場合は、引数 lastname を入力します。

リクエスト変数が [バインディング] パネルに表示されます。

PHP および JSP サーバー変数の定義

PHP ドキュメントタイプおよび JSP ページの動的コンテンツのソースとしてサーバー変数を定義することができます。PHP および JSP サーバー変数が [バインディング] パネルに表示されます。

1 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択し、[バインディング] パネルを開きます。

2 [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから変数を選択します。

JSP リクエスト変数は、通常、フォームパラメータまたは URL パラメータです。パラメータが HTML フォームによって渡された場合、変数名は、フォームフィールドの名前、またはその値を取得するために使用されたオブジェクトの名前です。

3 [リクエスト変数] ダイアログボックスで、変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

ColdFusion クライアント変数の定義

ページの動的コンテンツのソースとして ColdFusion クライアント変数を定義することができます。[バインディング] パネルに、新しく定義した ColdFusion クライアント変数が表示されます。

❖ [クライアント変数] ダイアログボックスで、変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

たとえば、ColdFusion 変数 Client.LastVisit の情報にアクセスする場合は、「LastVisit」と入力します。

クライアント変数は、特定のクライアントにデータを関連付けるためにコードで作成される変数です。クライアント変数は、ユーザーがアプリケーション内の各ページおよびセッションを移動するときに、アプリケーションの状態を維持します。

クライアント変数は、ユーザー定義変数または組み込み変数です。以下の表に、組み込み ColdFusion クライアント変数のリストを示します。

変数	説明
Client.CFID	サーバーに接続する各クライアントのインクリメンタル ID。
Client.CFTOKEN	特定のクライアントを一意に識別するために使用する無作為に生成される番号。
Client.URLToken	Cookie が使用されていない場合に、テンプレート間で渡される CFID と CFTOKEN の組み合わせ。
Client.LastVisit	クライアントが最後に訪問したときのタイムスタンプ。
Client.HitCount	1 つのクライアントに関連付けられたページ要求の数 (CFID と CFTOKEN を使用して追跡されます)。
Client.TimeCreated	特定のクライアントに対して CFID と CFTOKEN が最初に作成されたときのタイムスタンプ。

ColdFusion Cookie 変数の定義

Cookie 変数がコードに作成され、ブラウザからサーバーに渡された Cookie に含まれる情報にアクセスします。定義済みの Cookie 変数が [バインディング] パネルに表示されます。

❖ [Cookie 変数] ダイアログボックスで、Cookie 変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

ColdFusion CGI 変数の定義

定義済みの CGI 変数が [バインディング] パネルに表示されます。

❖ [CGI 変数] ダイアログボックスで、変数の名前を入力して、[OK] をクリックします。

たとえば、変数 CGI.HTTP_REFERER の情報にアクセスする場合は、「HTTP_REFERER」と入力します。

以下の表に、サーバーで作成される最も一般的な ColdFusion CGI 変数のリストを示します。

変数	説明
SERVER_SOFTWARE	要求に応答する (およびゲートウェイを実行する) 情報サーバーソフトウェアの名前とバージョン。形式は name/version です。
SERVER_NAME	自己参照 URL に表示される、サーバーのホスト名、DNS エイリアス、または IP アドレス。
GATEWAY_INTERFACE	このサーバーが準拠する CGI 仕様のリビジョン。形式は CGI/revision です。
SERVER_PROTOCOL	要求によって使用された情報プロトコルの名前とバージョン。形式は protocol/revision です。
SERVER_PORT	要求の送信先のポート番号。
REQUEST_METHOD	要求の処理に使用されたメソッド。HTTP の場合は、Get、Head、Post などです。
PATH_INFO	クライアントによって指定された追加パス情報。仮想パス名の最後に追加情報を加えることによって、スクリプトにアクセスできます。追加情報は、PATH_INFO として送信されます。
PATH_TRANSLATED	サーバーによって提供される、変換したバージョンの PATH_INFO。この変数はパスを取得し、任意の仮想パスと物理パスの間のマッピングを実行します。
SCRIPT_NAME	実行されるスクリプトへの仮想パス。自己参照 URL に使用されます。
QUERY_STRING	このスクリプトを参照した URL の中で、疑問符 (?) の後に続くクエリー情報。
REMOTE_HOST	要求を行うホスト名。サーバーにこの情報がない場合、サーバーは、REMOTE_HOST の代わりに REMOTE_ADDR を設定します。
REMOTE_ADDR	要求を行うリモートホストの IP アドレス。
AUTH_TYPE	サーバーがユーザー認証をサポートし、スクリプトが保護されている場合に、ユーザーの検証に使用されるプロトコル固有の認証方法。
REMOTE_USER AUTH_USER	サーバーがユーザー認証をサポートし、スクリプトが保護されている場合に、サーバーで認証されたユーザー名。AUTH_USER としても使用できます。
REMOTE_IDENT	HTTP サーバーが RFC 931 による識別をサポートしている場合に、サーバーから取得したリモートユーザーに設定される。この変数は、ログ記録にのみ使用します。
CONTENT_TYPE	HTTP POST や PUT のように、情報が添付されたクエリーの場合の、データのコンテンツタイプ。
CONTENT_LENGTH	クライアントによって指定されたコンテンツの長さ。

以下の表に、ブラウザで作成され、サーバーに渡される最も一般的な CGI 変数のリストを示します。

変数	説明
HTTP_REFERER	参照ドキュメント。リンク先のドキュメント、または送信されたフォームデータです。
HTTP_USER_AGENT	要求を送信するためにクライアントが現在使用しているブラウザ。形式は software/version library/version です。
HTTP_IF_MODIFIED_SINCE	ページが最後に修正された日時。この変数は、通常、LAST_MODIFIED HTTP ヘッダを送信したサーバーに対する応答で、ブラウザの判断により送信されます。この変数を使用すると、ブラウザ側のキャッシュ機能を利用できます。

コンテンツソースのキャッシュ

動的コンテンツのソースは、デザインノートにキャッシュ、つまり保存することができます。これにより、動的コンテンツのソースを保存しているデータベースやアプリケーションサーバーにアクセスしていない場合でも、サイトで作業することができます。キャッシュを行うことにより、ネットワーク経由でデータベースやアプリケーションサーバーに繰り返しアクセスする必要がなくなるため、開発時間を短縮することができます。

❖ [バインディング] パネルの右上隅にある矢印ボタンをクリックして、ポップアップメニューの [キャッシュ] をオンに切り替えます。

コンテンツソースを変更した場合は、[バインディング] パネルの右上隅にある [更新] ボタン (丸い矢印のアイコン) をクリックして、キャッシュを更新できます。ボタンが表示されていない場合は、パネルを拡張してください。

コンテンツソースの変更または削除

動的コンテンツの既存のソース ([バインディング] パネルに表示されているコンテンツソース) は、変更または削除できます。

[バインディング] パネルのコンテンツソースを変更または削除しても、ページのコンテンツのインスタンスが変更または削除されることはありません。ページに使用可能なコンテンツのソースとして変更または削除するだけです。

[バインディング] パネルでのコンテンツソースの変更

1 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で編集するコンテンツソース名をダブルクリックします。

2 表示されたダイアログボックスで変更を行います。

3 作業が終わったら [OK] をクリックします。

[バインディング] パネルでのコンテンツソースの削除

1 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) のリストからコンテンツソースを選択します。

2 [-] ボタンをクリックします。

別のページへのレコードセットのコピー

レコードセットは、定義したサイト内のあるページから別のページにコピーすることができます。

1 [バインディング] パネルまたは [サーバービヘイビア] パネルのいずれかでレコードセットを選択します。

2 レコードセットを右クリックして、ポップアップメニューから [コピー] を選択します。

3 レコードセットのコピー先となるページを開きます。

4 [バインディング] パネルまたは [サーバービヘイビア] ツールバーを右クリックし、ポップアップメニューから [ペースト] を選択します。

関連項目

515 ページの「動的コンテンツのソースについて」

534 ページの「コンテンツソースの変更または削除」

ページへの動的コンテンツの追加

動的コンテンツの追加について

動的コンテンツのソースを定義すると、そのソースを使用してページに動的コンテンツを追加できます。コンテンツソースの内容として可能なものには、レコードセットの列、HTML フォームを使用して送信された値、サーバーオブジェクトに含まれている値、およびその他のデータがあります。

Dreamweaver では、Web ページやその HTML ソースコードのほとんどすべての場所に動的コンテンツを配置できます。動的コンテンツを挿入ポイントに配置したり、テキストストリングを置き換えたりできる他、HTML 属性として挿入することもできます。たとえば、動的コンテンツを使用して、イメージの src 属性やフォームフィールドの value 属性を定義することができます。

[バインディング] パネルでコンテンツのソースを選択して、ページに動的コンテンツを追加できます。Dreamweaver によってページのコードにサーバーサイドスクリプトが挿入されます。これは、ブラウザからこのページが要求されたときに、コンテンツソースからページの HTML コードにデータを転送することをサーバーに指示するものです。

あるページエレメントを動的にする (ダイナミック化する) には、通常、複数の方法があります。たとえば、イメージを動的にする場合は、[バインディング] パネル、プロパティインスペクタ、または [挿入] メニューの [イメージ] コマンドを使用することができます。

初期設定では、HTML ページには一度に 1 レコードだけを表示できます。レコードセットの他のレコードを表示するには、一度に 1 つずつレコード間を移動するリンクを追加します。または、リピート領域を作成して、複数のレコードを同じページに表示します。

関連項目

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

541 ページの「レコードセットナビゲーションバーの作成」

544 ページの「複数のレコードセット結果の表示」

541 ページの「動的データへの印刷レイアウトエレメントとページレイアウトエレメントの適用」

548 ページの「定義済みデータフォーマットの使用」

動的テキストについて

動的テキストには、既存のテキストまたは挿入ポイントに設定されているテキストフォーマットがすべて適用されます。たとえば、選択したテキストに CSS (Cascading Style Sheet) スタイルが設定されている場合は、そのテキストを置き換える動的コンテンツにもそのスタイルが適用されます。動的コンテンツのテキストフォーマットは、Dreamweaver のテキストフォーマットツールを使用して追加または変更できます。

動的テキストには、データフォーマットを適用することもできます。たとえば、データに日付が含まれている場合、米国のビジターには 04/17/00、カナダのビジターには 17/04/00 など、特定の日付フォーマットを指定することができます。

テキストを動的にする

既存のテキストを動的テキストで置き換えることも、動的テキストをページ上の特定の挿入ポイントに挿入することもできます。

関連項目

515 ページの「レコードセットについて」

548 ページの「定義済みデータフォーマットの使用」

動的テキストの追加

1 デザインビューで、ページ上のテキストを選択するか、動的テキストを追加する場所をクリックします。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) のリストからコンテンツソースを選択します。レコードセットを選択する場合は、レコードセット内の希望の列を指定します。

コンテンツソースとして使用するのは、その内容がプレーンテキスト (ASCII テキスト) のものです。プレーンテキストには HTML も含まれます。リストにコンテンツソースがまったく表示されない場合や、表示されたコンテンツソースの中に要求を満たすものがない場合は、[+] ボタンをクリックして新しいコンテンツソースを定義します。

3 (オプション) テキストのデータフォーマットを選択します。

4 [挿入] をクリックするか、コンテンツソースをページにドラッグします。

[ライブデータ] を有効にして ([表示]-[ライブデータ]) デザインビューで作業をしている場合は、動的コンテンツがページに表示されます。

[ライブデータ] が無効な場合は、代わりにプレースホルダーが表示されます。ページ上のテキストが選択されている場合は、選択範囲がプレースホルダーで置換されます。レコードセットコンテンツを表すプレースホルダーのシンタックスは {RecordsetName.ColumnName} です。ここで、Recordset はレコードセットの名前、ColumnName はレコードセットから選択した列の名前です。

動的テキストのプレースホルダーの長さによっては、ドキュメントウィンドウでのページのレイアウトが変形することがあります。この問題を解決するには、次のトピックで説明されているように、空の波カッコをプレースホルダーとして使用します。

動的テキストのプレースホルダーの表示

1 [編集]-[環境設定]-[不可視エレメント] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定]-[不可視エレメント] (Macintosh) を選択します。

2 [動的テキストの表示方法] ポップアップメニューで { } を選択して、[OK] をクリックします。

イメージを動的にする

ページ上のイメージを動的にすることができます。たとえば、チャリティオークションで販売する商品を表示するページをデザインするとします。1 ページに 1 つの商品の説明と写真を掲載します。ページの基本的なレイアウトは全商品に共通ですが、写真と説明は商品によって異なります。

1 デザインビュー ([表示]-[デザイン]) でページを開き、イメージを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[イメージ] を選択します。

[イメージソースの選択] ダイアログボックスが表示されます。

3 [データソース] オプション (Windows) または [データソース] ボタン (Macintosh) をクリックします。

コンテンツソースのリストが表示されます。

4 リストからコンテンツソースを選択し、[OK] をクリックします。

コンテンツソースは、イメージファイルへのパスを含むレコードセットであることが必要です。サイトのファイル構造によって、パスは絶対パス、ドキュメント相対パス、ルート相対パスのいずれかになります。

注意：現在、Dreamweaver はデータベース内に格納されているバイナリイメージをサポートしていません。

リストにレコードセットがまったく表示されない場合や、表示された中に必要なレコードセットがない場合は、新しいレコードセットを定義します。

関連項目

519 ページの「SQL を使用しないレコードセットの定義」

HTML 属性を動的にする

HTML 属性をデータにバインドすることにより、ページの外観を動的に変更できます。たとえば、テーブルの background 属性をレコードセットのフィールドにバインドすると、テーブルの背景イメージを変えることができます。

HTML 属性をバインドするには、[バインディング] パネルまたはプロパティインスペクタを使用します。

[バインディング] パネルを使用して HTML 属性を動的にする

1 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択し、[バインディング] パネルを開きます。

2 [バインディング] パネルに、使用するデータソースが表示されていることを確認します。

コンテンツソースには、バインドする HTML 属性に対して適切なデータが含まれている必要があります。リストにコンテンツソースがまったく表示されない場合や、表示されたコンテンツソースの中に要求を満たすものがない場合は、[+] ボタンをクリックして新しいコンテンツソースを定義します。

3 デザインビューで、HTML オブジェクトを選択します。

たとえば、HTML テーブルを選択するには、テーブルの内側をクリックし、ドキュメントウィンドウの左下にあるタグセレクタで <table> タグをクリックします。

4 [バインディング] パネルのリストからコンテンツソースを選択します。

5 [バインド先] ボックスのポップアップメニューで HTML 属性を選択します。

6 [バインド] をクリックします。

次にアプリケーションサーバーでページが実行されるときは、このデータソースの値が HTML 属性に割り当てられます。

プロパティインスペクタを使用して HTML 属性を動的にする

1 デザインビューで、HTML オブジェクトを選択し、プロパティインスペクタを開きます ([ウィンドウ]-[プロパティ])。

たとえば、HTML テーブルを選択するには、テーブルの内側をクリックし、ドキュメントウィンドウの左下にあるタグセレクタで <table> タグをクリックします。

2 動的コンテンツソースを HTML 属性にバインドする方法は、動的コンテンツソースの位置によって異なります。

- プロパティインスペクタで、バインドする属性の横にフォルダアイコンが表示されている場合は、そのフォルダアイコンをクリックするとファイル選択ダイアログボックスが表示されます。次に [データソース] オプションをクリックすると、データソースのリストが表示されます。
- バインドする属性の横にフォルダアイコンがない場合は、プロパティインスペクタの左側の [リスト] タブ (2 つあるタブのうち下のもの) をクリックしてください。

プロパティインスペクタのリストビューが表示されます。

- バインドする属性がリストビューに表示されていない場合は、[+] ボタンをクリックして属性名を入力するか、小さい矢印ボタンをクリックしてポップアップメニューから属性を選択します。

3 属性の値を動的にするには、属性をクリックして、稲妻アイコンをクリックするか、属性の行の最後にあるフォルダアイコンをクリックします。

稲妻アイコンをクリックした場合は、データソースのリストが表示されます。

フォルダアイコンをクリックした場合は、ファイル選択ダイアログボックスが表示されます。[データソース] オプションを選択して、コンテンツソースのリストを表示します。

4 コンテンツソースのリストからコンテンツのソースを選択して、[OK] をクリックします。

コンテンツソースには、バインドする HTML 属性に対して適切なデータが含まれている必要があります。リストにコンテンツソースがまったく表示されない場合や、表示されたコンテンツソースの中に要求を満たすものがない場合は、新しいコンテンツソースを定義します。

次にアプリケーションサーバーでページが実行されるときは、このデータソースの値が HTML 属性に割り当てられます。

ActiveX、Flash、およびその他のオブジェクトのパラメータを動的にする

ActiveX、Flash、Shockwave、Director、および Generator オブジェクトのパラメータだけでなく、Java アプレットやプラグインのパラメータも動的にすることができます。

作業を始める前に、レコードセットのフィールドに、バインドするオブジェクトパラメータに対して適切なデータが含まれていることを確認してください。

1 デザインビューで、ページ上のオブジェクトを選択し、プロパティインスペクタを開きます ([ウィンドウ]-[プロパティ])。

2 [パラメータ] ボタンをクリックします。

3 動的にするパラメータがリストに表示されない場合は、[+] ボタンをクリックして [パラメータ] 列にパラメータ名を入力します。

4 パラメータの [値] 列をクリックし、稲妻アイコンをクリックして動的な値を指定します。

データソースのリストが表示されます。

5 リストからデータソースを選択し、[OK] をクリックします。

データソースには、バインドするオブジェクトパラメータに対して適切なデータが含まれている必要があります。リストにデータソースがまったく表示されない場合や、表示されたデータソースの中に要求を満たすものがない場合は、新しいデータソースを定義します。

関連項目

503 ページの「Web アプリケーションのデータソース」

動的コンテンツの変更

動的コンテンツについて

ページ上の動的コンテンツを変更するには、コンテンツを表示するサーバービヘイビアを編集します。たとえば、レコードセットのサーバービヘイビアを編集して、ページ上により多くのレコードを表示することができます。

ページの動的コンテンツは、[サーバービヘイビア] パネルに表示されます。たとえば、ページにレコードセットを追加すると、[サーバービヘイビア] パネルには次のように表示されます。

```
Recordset(myRecordset)
```

ページに別のレコードセットを追加すると、[サーバービヘイビア] パネルには次のように両方のレコードセットが表示されます。

```
Recordset(mySecondRecordset)Recordset(myRecordset)
```

動的コンテンツの編集

1 [ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] を選択して、[サーバービヘイビア] パネルを開きます。

2 [+] ボタンをクリックしてサーバービヘイビアを表示し、パネルでサーバービヘイビアをダブルクリックします。

元のデータソースの定義に使用したものと同じダイアログボックスが表示されます。

3 ダイアログボックスで変更を行い、[OK] をクリックします。

動的コンテンツの削除

❖ ページに追加した動的コンテンツを削除するには、次のいずれかの操作を行います。

- ページ上の動的コンテンツを選択して、Delete キーを押します。
- [サーバービヘイビア] パネルで動的コンテンツを選択して、[-] ボタンをクリックします。

注意：この操作によって、データベースから動的コンテンツを取得するページのサーバーサイドスクリプトが削除されます。データベース内のデータが削除されることはありません。

動的コンテンツのテスト

[ライブデータ] ウィンドウを使用して、動的コンテンツをプレビューおよび編集できます。

注意：[ライブデータ] ウィンドウでは、リンクは機能しません。リンクをテストするには、Dreamweaver の [ブラウザでプレビュー] 機能を使用します。

動的コンテンツが表示されているときには、次のタスクを行うことができます。

- ページデザインツールを使用して、ページのレイアウトを調整できます。
- 動的コンテンツを追加、編集、または削除できます。
- サーバービヘイビアを追加、編集、または削除できます。

上記を行うため、Dreamweaver は動的ページを、サーバーで実行した後で [ライブデータ] ウィンドウに表示します。作業中に [ライブデータ] ウィンドウに切り替えると、開いているドキュメントの一時的なコピーがアプリケーションサーバーに送信され、処理されます。処理結果のページが返され、[ライブデータ] ウィンドウに表示されると、サーバー上の一時的なコピーは削除されます。

ドキュメントウィンドウと [ライブデータ] ウィンドウ ([表示]-[ライブデータ] を) を切り替えることができます。ユーザーがデータを指定 (たとえば、マスターページで選択するレコードの ID 番号など) するページである場合は、事前に [ライブデータの設定] ダイアログボックスでページにデータを指定しておくことができます。

1 ページに必要な変更を加えます。

2 ページが、GET メソッドを使用する HTML のフォームからの URL パラメータを待機する場合は、ツールバー上のボックスに名前と値のペアを入力し、[更新] ボタン (丸い矢印のアイコン) をクリックします。

次の形式でテストデータを入力します。

name=value;

この形式では、**name** はページが待機する URL パラメータ名を示し、**value** はそのパラメータに格納される値を示します。

[ライブデータの設定] ダイアログボックス ([表示]-[ライブデータの設定]) で名前と値のペアを定義し、それをページに保存することもできます。

3 ページを更新する必要がある場合は、[更新] ボタンをクリックします。

関連項目

551 ページの「ページが受け取るパラメータの指定」

549 ページの「デザインビューでのライブデータの表示」

504 ページの「HTML フォームパラメータ」

505 ページの「URL パラメータ」

507 ページの「セッション変数のしくみ」

Adobe Contribute ユーザーによる動的コンテンツの編集の許可

Contribute ユーザーが動的コンテンツまたは不可視エレメント (スクリプトやコメントなど) の含まれているページを編集するとき、これらのアイテムは黄色いマーカーで表示されます。初期設定では、Contribute ユーザーがこれらのアイテムの選択または削除を行うことはできません。

動的コンテンツや他の不可視エレメントの選択や削除を Contribute ユーザーが行えるようにするには、それらの操作を許可するように権限グループの設定を変更します。ただし、動的コンテンツについては、選択できるようにすることは可能ですが、編集を許可することは通常できません。

注意：サーバーテクノロジーを使用すると、サーバータグまたは関数を使用して静的テキストを表示することができます。そのようなサーバーテクノロジーを使用している動的ページの静的テキストを Contribute ユーザーが編集できるようにするには、静的テキストをサーバータグの外に配置します。詳細については、『**Adobe Contribute** の使用と管理』を参照してください。

1 [サイト]-[Contribute サイトの管理] を選択します。

2 Contribute 互換性のために必要な特定のオプションが有効になっていない場合は、それらのオプションを有効にするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックして、それらのオプションと Contribute 互換性を有効にします。

3 管理者のパスワードを入力するよう求められた場合は、管理者のパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

[Web サイトの管理] ダイアログボックスが表示されます。

4 [ユーザーと役割] カテゴリで、ロールを選択して [役割の設定を編集] ボタンをクリックします。

5 [編集] カテゴリを選択し、スクリプトとフォームを保護するオプションの選択を解除します。

6 [OK] をクリックして [設定の編集] ダイアログボックスを閉じます。

7 [閉じる] をクリックして [Web サイトの管理] ダイアログボックスを閉じます。

関連項目

53 ページの「Dreamweaver での Contribute サイトの管理」

378 ページの「Contribute サイト用のテンプレートの作成」

プロパティインスペクタでのレコードセットの修正

プロパティインスペクタでは、選択したレコードセットを修正することができます。選択可能なオプションは、サーバーモデルによって異なります。

1 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) を開き、[サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) でレコードセットを選択します。

2 オプションを編集します。プロパティインスペクタで新しいオプションを選択すると、Dreamweaver によってページが更新されます。

関連項目

538 ページの「動的コンテンツの編集」

データベースのレコードの表示

データベースのレコードについて

データベースのレコードを表示するには、データベースまたは他のコンテンツのソースに格納されている情報を取り出して、その情報を Web ページに表示する必要があります。Dreamweaver には、動的コンテンツを表示する数多くの方法が用意されています。また、動的コンテンツの表示効果を高めると同時に、データベースから返された情報をユーザーが簡単に検索してナビゲートできるようにする、サーバービヘイビアも多数組み込まれています。

データベースや動的コンテンツのその他のソースを利用すると、大規模な情報ストアの検索、ソート、表示で優れた性能と高い柔軟性を得ることができます。大量の情報を保存し、その情報を効果的な方法で取得および表示する必要がある場合は、データベースを使用して Web サイトのコンテンツを保存する方法が有効です。Dreamweaver には、データベースに保存されている情報を効果的に取得し、表示するために、ツールやあらかじめ作成済みのビヘイビアが用意されています。

サーバービヘイビアとフォーマットエレメント

Dreamweaver には、以下のサーバービヘイビアとフォーマットエレメントがあります。これらを使用して、動的データの表示効果を高めることができます。

フォーマット 数値、金額、日時、割合 (%) など異なる種類の値を動的テキストに適用できます。

たとえば、Dreamweaver の [通貨 - 小数点第 2 位] フォーマットを選択すると、レコードセットでは 10.989 と表示される価格データをページでは "$10.99" と表示できます。このフォーマットは数値を小数点以下 2 桁で表示します。数値の小数点以下の桁数が 2 桁を超える場合、データフォーマットは最も近い数値に丸められます。数値に小数点以下の桁がない場合は、小数点と 2 個の 0 が付加されます。

リピート領域 サーバービヘイビアでは、データベースクエリーから返された複数の項目を表示し、1 ページあたりに表示するレコード数を指定することができます。

レコードセットナビゲーション サーバービヘイビアでは、ナビゲーションエレメントを挿入できます。このエレメントは、ユーザーが、レコードセットで返された次のレコードセットまたは前のレコードセットに移動できるようにします。たとえば、[リピート領域] サーバーオブジェクトで 1 ページあたり 10 個のレコードを表示するように選択している場合に、レコードセットが 40 個のレコードを返したときに、レコードを一度に 10 個ずつナビゲートすることができます。

レコードセットナビゲーションステータス サーバービヘイビアを使用すると、カウンタを作成して、返されたレコードの総数に対する現在のレコードセットの位置をユーザーに示すことができます。

領域の表示 サーバービヘイビアでは、現在表示されているレコードの位置や条件に基づいてページに項目を表示するか、または非表示にするかを選択できます。たとえば、ユーザーがレコードセット内の最終のレコードに移動した場合、" 次のレコードへ移動 " というリンクを非表示にし、" 前のレコードへ移動 " というレコードリンクのみを表示するようにできます。

動的データへの印刷レイアウトエレメントとページレイアウトエレメントの適用

Dreamweaver の強力な機能の 1 つに、動的データを構造化されたページに表示し、HTML および CSS を使用して印刷フォーマットを適用する機能があります。Dreamweaver でフォーマットを動的データに適用するには、Dreamweaver のフォーマットツールを使用して、動的データのテーブルおよびプレースホルダーをフォーマットします。データソースからデータを挿入すると、指定したフォント、段落、およびテーブルのフォーマットが自動的に適用されます。

関連項目

169 ページの「テーブルを使用したコンテンツの表示」

217 ページの「テキストの追加とフォーマット」

データベースレコードセットの結果の移動

レコードセットナビゲーションリンクを使用すると、次のレコードまたはレコードセットへユーザーが移動できるようになります。たとえば、一度に 5 件のレコードを表示するページをデザインした後、次の 5 件のレコードまたは前の 5 件のレコードを表示するための " 次へ " または " 前へ " などのリンクを追加することができます。

レコードセットを移動するための 4 種類のナビゲーションリンク、" 先頭のレコードへ移動 "、" 前のレコードへ移動 "、" 次のレコードへ移動 "、" 最終のレコードへ移動 " を作成することができます。同一のレコードセットに対して機能するリンクである限り、1 つのページに含めることのできるリンク数に制限はありません。別のレコードセットに対して機能する複数のリンクを同じページに追加することはできません。

レコードセットナビゲーションリンクには、次の動的エレメントが必要です。

- ナビゲート対象のレコードセット
- レコードを表示するためのページの動的コンテンツ
- クリックして操作するナビゲーションバーとして使用するページ上のテキストまたはイメージ
- レコードセット間を移動するためのサーバービヘイビアの " 移動先レコード " セット

最後の 2 つのエレメントは、[レコードセットナビゲーションバー] サーバーオブジェクトを使用して追加することができます。または、デザインツールと [サーバービヘイビア] パネルを使用して別々に追加することもできます。

レコードセットナビゲーションバーの作成

[レコードセットナビゲーションバー] サーバービヘイビアを使用して、1 回の操作でレコードセットナビゲーションバーを作成することができます。このサーバーオブジェクトは、ページに以下の作成ブロックを追加します。

- テキストまたはイメージのリンクを含む HTML テーブル
- [(移動先) に移動] サーバービヘイビアのセット
- [領域の表示] サーバービヘイビアのセット

テキストを使用したレコードセットナビゲーションバーは、次のようになります。

イメージを使用したレコードセットナビゲーションバーは、次のようになります。

ページにナビゲーションバーを配置する前に、このページに、ナビゲート対象のレコードセットおよびレコードを表示するページレイアウトが含まれていることを確認します。

ページにナビゲーションバーを配置した後は、デザインツールを使用してバーを自由にカスタマイズできます。[サーバービヘイビア] パネル内の [(移動先) に移動] サーバービヘイビアおよび [領域の表示] サーバービヘイビアをダブルクリックして、これらのサーバービヘイビアを編集することもできます。

Dreamweaver によってテキストリンクまたはイメージリンクを含むテーブルが作成されます。ユーザーはこのリンクをクリックして選択したレコードセット内をナビゲートできます。レコードセットの先頭のレコードが表示されると、先頭のレコードへ移動および前のレコードへ移動のリンクまたはイメージは非表示になります。レコードセットの最終のレコードが表示されると、次のレコードへ移動および最終のレコードへ移動のリンクまたはイメージは非表示になります。

ナビゲーションバーのレイアウトは、デザインツールと [サーバービヘイビア] パネルでカスタマイズできます。

1 デザインビューで、ページ内のナビゲーションバーを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[データオブジェクト]-[レコードセットページング]-[レコードセットナビゲーションバー] を選択し、[レコードセットナビゲーションバー] ダイアログボックスを表示します。

3 [レコードセット] ポップアップメニューから、ナビゲート対象のレコードセットを選択します。

4 [表示] セクションで、ページにナビゲーションリンクを表示するフォーマットを選択し、[OK] をクリックします。

テキスト テキストリンクをページ上に配置します。

イメージ グラフィックイメージをリンクとして含めます。Dreamweaver では、独自のイメージファイルが使用されます。バーをページに配置したら、それらのイメージを他のイメージファイルに置き換えることができます。

カスタムレコードセットナビゲーションバー

[レコードセットナビゲーションバー] サーバーオブジェクトで作成された単純なテーブルよりも複雑なレイアウトとフォーマットスタイルを使用する独自のレコードセットナビゲーションバーを作成できます。

ユーザー独自のレコードセットナビゲーションバーを作成するには :

- テキストまたはイメージにナビゲーションリンクを作成します。
- デザインビューのページ内にリンクを配置します。
- 個々のサーバービヘイビアを各ナビゲーションリンクに割り当てます。

この項では、個々のサーバービヘイビアをナビゲーションリンクに割り当てる方法を説明します。

サーバービヘイビアの作成とナビゲーションリンクへの割り当て

1 デザインビューで、レコードナビゲーションリンクとして使用するページ上のテキストストリンクまたはイメージを選択します。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) を開いて、[+] ボタンをクリックします。

3 ポップアップメニューで [レコードセットページング] を選択し、表示されるサーバービヘイビアから、そのリンクに適切なサーバービヘイビアを選択します。

レコードセットに大量のレコードが含まれている場合は、ユーザーがリンクをクリックしたときの [最終のレコードへ移動] サーバービヘイビアの実行に時間がかかる可能性があります。

4 [レコードセット] ポップアップメニューからレコードを含むレコードセットを選択して、[OK] をクリックします。

サーバービヘイビアがナビゲーションリンクに割り当てられます。

[(移動先) に移動] (サーバービヘイビア) ダイアログボックスのオプションの設定

ユーザーがレコードセット内のレコードをナビゲートするためのリンクを追加することができます。

1 ページで何も選択していない場合は、ポップアップメニューでリンクを選択します。

2 ナビゲートするレコードを含むレコードセットを選択して、[OK] をクリックします。

注意：レコードセットに大量のレコードが含まれている場合は、ユーザーがリンクをクリックしたときの [最終のレコードへ移動] サーバービヘイビアの実行に時間がかかる可能性があります。

ナビゲーションバーのデザインタスク

カスタムナビゲーションバーを作成する場合は、まず Dreamweaver のページデザインツールを使用して外観から作成します。テキストストリングやイメージのリンクを作成する必要はありません。Dreamweaver によって自動的に作成されます。

ナビゲーションバーが作成されるページには、ナビゲート対象のレコードセットが含まれている必要があります。単純なレコードセットナビゲーションバーは次のような外観です。リンクボタンは、イメージまたは他のコンテンツエレメントから作成されます。

レコードセットをページに追加し、ナビゲーションバーを作成したら、個々のサーバービヘイビアを各ナビゲーションエレメントに適用する必要があります。たとえば、標準的なレコードセットナビゲーションバーには、該当するビヘイビアに一致する以下のリンク表示が含まれます。

ナビゲーションリンク	サーバービヘイビア
先頭のページに戻る	先頭のページへ移動
前のページに戻る	前のページへ移動
次のページに進む	次のページへ移動
最終のページに進む	最終のページへ移動

関連項目

515 ページの「レコードセットについて」

レコードセットの結果に基づく領域の表示と非表示

また、レコードセットが空であるかどうかに基づいて領域の表示 / 非表示を指定することもできます。レコードセットが空の場合 (たとえば、使用するクエリーに一致するレコードが見つからなかった場合) は、レコードが返されなかったことをユーザーに知らせるメッセージを表示することができます。これは、ユーザーがキーワードを入力してクエリーを実行する検索ページを作成するときに役立ちます。同様に、データベースとの接続に問題が生じた場合や、ユーザー名およびパスワードがサーバーによって認識されるユーザー名およびパスワードと一致しない場合に、エラーメッセージを表示することができます。

[領域の表示] サーバービヘイビアは、以下のとおりです。

- レコードセットが空の場合に表示
- レコードセットが空でない場合に表示
- 先頭のページの場合に表示
- 先頭のページでない場合に表示
- 最終のページの場合に表示
- 最終のページでない場合に表示

1 デザインビューで、表示または非表示にするページの領域を選択します。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で、[+] ボタンをクリックします。

3 ポップアップメニューで [領域の表示] を選択し、表示されるサーバービヘイビアのいずれかを選択して、[OK] をクリックします。

関連項目

540 ページの「データベースのレコードについて」

545 ページの「動的テーブルの作成」

複数のレコードセット結果の表示

[リピート領域] サーバービヘイビアでは、ページ内のレコードセットの複数のレコードを表示できます。任意の動的データ選択範囲をリピート領域にすることができます。ただし、通常はテーブル、テーブル行、または複数のテーブル行などをリピート領域にします。

1 デザインビューで、動的コンテンツを含む領域を選択します。

テーブル、テーブルの行、テキストの段落など、任意の領域を選択できます。

ページの領域を正確に選択するには、ドキュメントウィンドウの左隅にあるタグセレクタを使用します。たとえば、領域がテーブル行の場合は、ページで行の内側をクリックしてから、タグセレクタの一番右にある <tr> タグをクリックしてテーブル行を選択します。

2 [ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] を選択して、[サーバービヘイビア] パネルを表示します。

3 [+] ボタンをクリックして、[リピート領域] を選択します。

4 ポップアップメニューから、使用するレコードセットの名前を選択します。

5 1 ページあたりに表示するレコード数を選択して、[OK] をクリックします。

ドキュメントウィンドウでは、リピート領域は薄いグレーの枠線で囲まれます。[ライブデータ] ウィンドウ ([表示]-[ライブデータ]) では、グレーの枠線は消え、指定したレコード数が表示されるように選択範囲が拡張されます。

関連項目

540 ページの「データベースのレコードについて」

538 ページの「動的コンテンツの編集」

プロパティインスペクタでのリピート領域の修正

❖ 必要に応じて以下のオプションを変更して、選択したリピート領域を修正します。

- リピート領域の名前
- リピート領域のレコードを保持しているレコードセット。
- 表示するレコード数

新しいオプションを選択すると、Dreamweaver によってページが更新されます。

1 ページに複数のレコードを表示するためのリピート領域の作成および追加

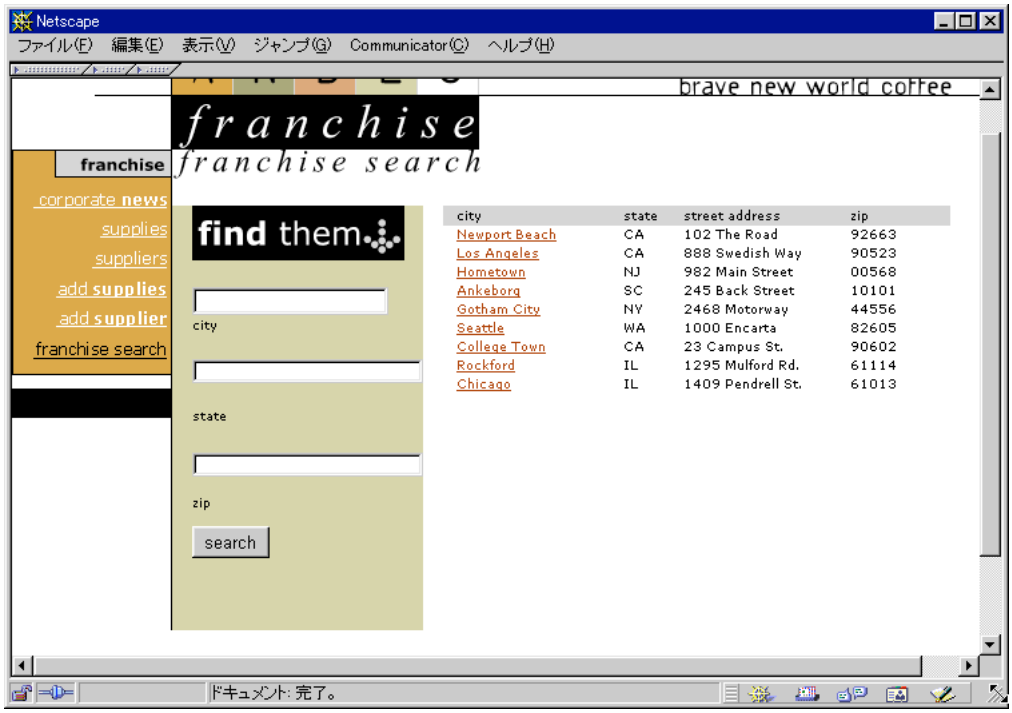
1 リピート領域に表示するデータを含むレコードセットを指定します。

2 各ページに表示するレコード数を指定して、[OK] をクリックします。

ページあたりのレコード数を少なめに指定したものの、要求されるレコード数がその数を超える可能性がある場合は、ビジターが他のレコードを表示できるようにレコードナビゲーションリンクを追加します

動的テーブルの作成

以下の例は、[リピート領域] サーバービヘイビアをテーブル行に適用する方法を説明しています。この例では、1 ページあたり 9 個のレコードを表示するように指定しています。行には、city、state、street、zip code の 4 つの異なるレコードが表示されます。



前の例のようなテーブルを作成するには、動的コンテンツを含むテーブルを作成し、[リピート領域] サーバービヘイビアを動的コンテンツが含まれるテーブル行に適用する必要があります。ページがアプリケーションサーバーによって処理される場合、行が [リピート領域] サーバーオブジェクトで指定した回数だけ繰り返され、異なるレコードがそれぞれの新しい行に挿入されます。

注意：[動的テーブル] サーバーオブジェクトは、ASP.NET ドキュメントタイプを使用する場合は利用できません。

1 以下のいずれかの操作を行って、動的テーブルを挿入します。

- [挿入]-[Data Objects]-[動的データ]-[動的テーブル] を選択して、[動的テーブル] ダイアログボックスを表示します。
- [挿入] バーのデータカテゴリで [動的データ] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [動的テーブル] アイコンを選択します。

2 [レコードセット] ポップアップメニューからレコードセットを選択します。

3 1 ページあたりに表示するレコード数を選択します。

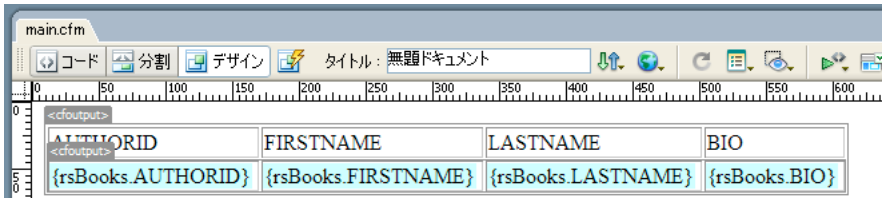
4 (オプション) テーブルボーダー、セル内余白、セル内間隔の値を入力します。

[動的テーブル] ダイアログボックスでは、テーブルボーダー、セル内余白、およびセル内間隔について入力した値が保持されます。

注意： 同じ外観の複数の動的テーブルを必要とするプロジェクトで作業している場合は、テーブルレイアウト値を入力することにより、より簡単にページを作成することができます。これらの値は、テーブルを挿入した後、テーブルのプロパティインスペクタを使用して調整できます。

5 [OK] をクリックします。

関連するレコードセット内で定義されている動的コンテンツのテーブルとプレースホルダーがページ内に挿入されます。



この例では、レコードセットに AUTHORID、FIRSTNAME、LASTNAME、および BIO の 4 つの列が含まれています。テーブルの見出し行に、それぞれの列の名前が入力されています。この見出しは、説明文を入れて編集したり、内容を表すイメージに置き換えたりできます。

レコードカウンタの作成

レコードカウンタは、ユーザーがレコードセットをナビゲートしているときに参照ポイントとして使用されます。通常、レコードカウンタには、返されたレコードの総数と、表示されている現在レコードの数が表示されます。たとえば、レコードセットが 40 個の個別レコードを返し、1 ページあたり 8 個のレコードが表示される場合、最初のページのレコードカウンタには、" 全 40 件中 1-8 のレコードを表示 " のように表示されます。

レコードカウンタをページに作成する前に、そのページのレコードセット、動的コンテンツを含む適切なページレイアウト、およびレコードセットナビゲーションバーを作成する必要があります。

関連項目

515 ページの「レコードセットについて」

541 ページの「レコードセットナビゲーションバーの作成」

544 ページの「複数のレコードセット結果の表示」

545 ページの「動的テーブルの作成」

簡単なレコードカウンタの作成

レコードカウンタを使用すると、返されたレコードの総数に対する現在のレコードセットの位置をユーザーに示すことができます。したがって、Web ページを使用しやすくする上で、レコードカウンタは有効なビヘイビアです。

[レコードセットナビゲーションステータス] サーバーオブジェクトを使用して、簡単なレコードカウンタを作成します。このサーバーオブジェクトは、ページにテキスト入力項目を作成し、現在のレコードステータスを表示します。レコードカウンタは、Dreamweaver のページデザインツールを使用してカスタマイズできます。

1 レコードカウンタを挿入する位置に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[Data Objects]-[レコードカウントの表示]-[レコードセットナビゲーションステータス] を選択し、[レコードセット] ポップアップメニューからレコードセットを選択して、[OK] をクリックします。

[レコードセットナビゲーションステータス] サーバーオブジェクトは、次の例に示すようなテキストレコードカウンタを挿入します。

```
{Employees_first} ～ {Employees_last} 件 / 全 {Employees_total} 件
```

[ライブデータ] ウィンドウまたはブラウザでは、このカウンタは次の例のように表示されます。

```
1 ～ 10 件 / 全 22 件
```

レコードカウンタの作成とページへの追加

❖ [レコードセットナビゲーションステータスの挿入] ダイアログボックスで、カウンタの対象とするレコードセットを選択し、[OK] をクリックします。

カスタムレコードカウンタの作成

個々のレコードカウントビヘイビアを使用して、カスタムレコードカウンタを作成します。カスタムレコードカウンタの作成では、[レコードセットステータス] サーバーオブジェクトによって挿入される単純な 1 行のテーブルとは異なる、詳細なレコードカウンタを作成できます。さまざまな独創的な方法でデザインエレメントを配列し、適切なサーバービヘイビアを各エレメントに適用します。

レコードカウントサーバービヘイビアは、以下のとおりです。

- 開始レコード番号を表示
- 終了レコード番号を表示
- 合計レコード数を表示

カスタムレコードカウンタをページに作成する前に、まずそのページのレコードセット、動的コンテンツを含む適切なページレイアウト、およびレコードセットナビゲーションバーを作成する必要があります。

この例で作成するレコードカウンタは、「簡単なレコードカウンタ」の例に似ています。この例では、sans-serif フォントを使用しているテキストは、ページに挿入されるレコードカウンタのプレースホルダーを表しています。この例のレコードカウンタは以下のように表示されます。

StartRow - EndRow のレコードを全 RecordSet.RecordCount 件中から表示。

1 デザインビューで、ページに表示するカウンタのテキストを入力します。次の例のように、任意のテキストを指定できます。

```
Displaying records thru of .
```

2 挿入ポイントを " 全 " と " 件 " の間に置きます。

3 [ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] を選択して、[サーバービヘイビア] パネルを開きます。

4 左上隅の [+] ボタンをクリックし、[レコードカウントの表示] をクリックします。このサブメニュー内で、[合計レコードを表示] を選択します。[合計レコードを表示] ビヘイビアがページに挿入され、プレースホルダーが挿入ポイントを置いた場所に挿入されます。テキストストリングは、次のように表示されます。

```
Displaying records thru of {Recordset1.RecordCount}.
```

5 挿入ポイントを単語 records の後に置き、[サーバービヘイビア] を選択して [+] ボタンをクリックし、表示された [レコードカウントの表示] パネルで [開始レコード番号を表示] を選択します。テキストストリングは、次のように表示されます。

```
Displaying records {StartRow_Recordset1} thru of {Recordset1.RecordCount}.
```

6 ここで、挿入ポイントを単語 thru と of の間に置き、[サーバービヘイビア] を選択して [+] ボタンをクリックし、表示された [レコードカウントの表示] パネルで [終了レコード番号を表示] を選択します。テキストストリングは、次のように表示されます。

```
Displaying records {StartRow_Recordset1} thru {EndRow_Recordset1} of{Recordset1.RecordCount}.
```

7 [ライブデータ] ウィンドウ ([表示]-[ライブデータ]) にページを表示して、カウンタが正常に機能していることを確認します。正常に機能するカウンタでは、以下のように表示されます。

```
Displaying records 1 thru 8 of 40.
```

結果ページに、次のレコードセットへ移動するためのナビゲーションリンクがある場合は、リンクをクリックするとレコードカウンタが更新され、次のように表示されます。

```
Showing records 9 thru 16 of 40.
```

[ライブデータ] ウィンドウでは、リンクは機能しません。リンクをテストするには、[ブラウザでプレビュー] 機能を使用できます。[ファイル]-[ブラウザでプレビュー] を選択します。[環境設定] には、[編集]-[環境設定]-[ブラウザでプレビュー] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定]-[ブラウザでプレビュー] (Macintosh) を選択してアクセスします。

現在のデータセットページ番号の表示 (ASP.NET)

ASP.NET のデータセットページは、データグリッドまたはデータリストに表示されるレコードのサブセットです。ASP.NET ページには、現在のデータセットページ番号を表示するコードを挿入することができます。たとえば、コントロールに 10 のレコードを挿入する場合、データセットに 24 のレコードがある場合は、データセットはそれぞれ 10、10、4 のレコードを含む 3 ページになります。

1 データセットページで、ページ番号を表示したい場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[データオブジェクト]-[レコードカウントの表示]-[現在のページ番号] を選択します。

3 [現在のページ番号の表示] ダイアログボックスで、[データセット] を選択して [OK] をクリックします。

定義済みデータフォーマットの使用

Dreamweaver には、いくつかの定義済みデータフォーマットが付属しています。これらのフォーマットは、動的データエレメントに適用することができます。データフォーマットのスタイルには、日時、通貨、数値、および割合 (%) のフォーマットがあります。

データフォーマットの動的コンテンツへの適用

1 [ライブデータ] ウィンドウでは動的コンテンツを、ドキュメントウィンドウではそのプレースホルダーを選択します。

2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

3 [フォーマット] 列の下向き矢印ボタンをクリックします。

下向きの矢印が表示されていないときは、パネルを拡大してください。

4 [フォーマット] ポップアップメニューから、使用するデータフォーマットカテゴリを選択します。

データフォーマットが、データのタイプに適したフォーマットであることを確認します。たとえば、動的データが数字でない場合、[通貨] フォーマットは機能しません。また、同一のデータに複数のフォーマットを適用することはできません。

5 [ライブデータ] ウィンドウまたはブラウザのいずれかでページをプレビューして、フォーマットが正しく適用されたかどうかを確認します。

データフォーマットのカスタマイズ

1 デザインビューで、動的データが含まれているページを開きます。

2 フォーマットをカスタマイズする動的データを選択します。

選択された動的データを含むバインドデータ項目が、[バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) でハイライト表示されます。このパネルには選択した項目の [バインディング] 列および [フォーマット] 列が表示されます。[フォーマット] 列が表示されていないときは、[バインディング] パネルの幅を広げてください。

3 [バインディング] パネルで [フォーマット] 列内の下向き矢印をクリックすると、使用可能なデータフォーマットのポップアップメニューが表示されます。

下向きの矢印が表示されていないときは、[バインディング] パネルの幅を広げてください。

4 ポップアップメニューから、[フォーマットリストの編集] を選択します。

5 ダイアログボックスの入力を完了させ、[OK] をクリックします。

a リストからフォーマットを選択し、[編集] をクリックします。

b 必要に応じて、[通貨]、[数値]、または [%] ダイアログボックスで以下のパラメータを変更し、[OK] をクリックします。

- 小数点以下の表示桁数
- 端数の場合に先頭にゼロを付けるかどうか
- 負の値に対しカッコを使用するか、マイナス記号を使用するかどうか
- 桁を区切るかどうか

c データフォーマットを削除するには、リスト内のフォーマットをクリックして、[-] ボタンをクリックします。

データフォーマットの作成

1 デザインビューで、動的データが含まれているページを開きます。

2 カスタムフォーマットを作成する動的データを選択します。

3 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを開き、[フォーマット] 列の下向き矢印をクリックします。下向きの矢印が表示されていないときは、パネルを拡大してください。

4 ポップアップメニューから、[フォーマットリストの編集] を選択します。

5 [+] ボタンをクリックし、フォーマットタイプを選択します。

注意： Dreamweaver では、ASP および JSP サーバーモデルを使用する場合にのみ、データフォーマットを作成できます。ColdFusion、PHP、および ASP.NET ユーザーが Dreamweaver 内からデータフォーマットを作成することはできません。

6 フォーマットを定義し、[OK] をクリックします。

7 新しいフォーマット名を [名前] 列に入力し、[OK] をクリックします。

注意： ColdFusion、PHP、または ASP.NET の拡張機能のデベロッパーは、他のデベロッパーが作成したフォーマットをダウンロードしたり、サーバーフォーマットを作成して Dreamweaver Exchange に掲載したりできます。サーバーフォーマット API の詳細については、『Dreamweaver 拡張ガイド』([ヘルプ]-[Dreamweaver 拡張ガイド]-[拡張機能 API]-[サーバーフォーマット]) を参照してください。

ライブデータの表示

デザインビューでのライブデータの表示

Dreamweaver では、デザインビューでページを編集中に、そのページの動的コンテンツを表示することができます。

1 ライブデータを表示できるよう Dreamweaver が正しく設定されていることを確認します。

詳細については、550 ページの「ライブデータを表示するための要件」を参照してください。

2 [表示]-[ライブデータ] を選択します。

動的コンテンツを含む完全なページがデザインビューに表示されます。

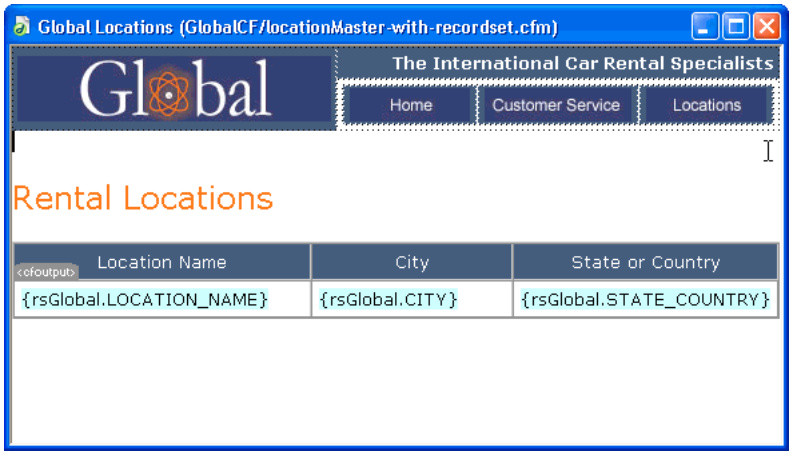
デザインビューで [ライブデータ] を有効にすると、次の操作を行うことができます。

- ページデザインツールを使用して、ページのレイアウトを調整できます。
- 動的コンテンツを追加、編集、または削除できます。
- サーバービヘイビアを追加、編集、または削除できます。

注意： デザインビューではリンクは機能しません。リンクをテストするには、[ブラウザでプレビュー] 機能を使用します

動的コンテンツに影響を与える変更をページに加えた場合は、[更新] ボタン (丸い矢印のアイコン) をクリックすると、ページを更新できます。Dreamweaver によってページが自動的に更新されるように設定することもできます。

次の例は、[ライブデータ] を無効にした場合の動的ページを示しています。



次の例は、[ライブデータ] をオンにした状態の同じページを示しています。

ライブデータを表示するための要件

デザインビューでライブデータを表示するには、次の作業が必要です。

- 動的ページを処理するフォルダを定義します。

[ライブデータ] を有効にすると、開いているドキュメントの一時的なコピーがそのフォルダに送信されて処理されます。処理結果のページが返され、デザインビューに表示されると、サーバー上の一時的なコピーは削除されます。

[ライブデータ] を有効にしたときにページにエラーメッセージが表示された場合は、[サイト定義] ダイアログボックスの URL 接頭辞が正しく指定されているか確認してください。

- 関連するファイルがある場合は、それをフォルダにコピーします。
- ページに、通常ユーザーが入力するパラメータを指定します。

ライブデータを正しく表示できない場合は、「552 ページの「ライブデータの表示に関するトラブルシューティング」」を参照してください。

ライブデータを含むページのデザインビューでの指定

1 [ライブデータの設定] ダイアログボックス ([表示]-[ライブデータの設定]) を開きます。

2 [URL 要求] 領域で、[+] ボタンをクリックし、ページが待機するパラメータを入力します。

3 パラメータごとに、名前とテスト値を指定してください。

4 [メソッド] ポップアップメニューで、ページが待機する HTML フォームのメソッド (POST または GET) を選択します。

5 [初期化スクリプト] テキスト領域で、実行前にページの最上部に挿入したいソースコードを入力します。

初期化スクリプトは、通常、セッション変数を設定するコードで構成されています。

6 現在のページに対する設定を保存するには、[このドキュメントの設定を保存] をクリックして、[OK] をクリックします。

注意：設定を保存するには、デザインノート ([ファイル]-[デザインノート]) を有効にする必要があります。

関連項目

23 ページの「ドキュメントウィンドウでのビューの切り替え」

511 ページの「ブラウザでの動的ページのプレビュー」

依存ファイルのコピー

動的ページは、適切に機能するために他のファイルに依存している場合があります。このため、イメージファイルや JSP クラスファイルなどのサーバーサイドインクルードや依存ファイルを含むすべての関連ファイルを、動的ページを処理するために指定したフォルダにアップロードする必要があります。デザインビューで [ライブデータ] を有効にしても、Dreamweaver によって依存ファイルがフォルダに自動的にコピーされることはありません。

注意：ライブデータは、サーバーサイドインクルード、および "global.asa" (ASP) や "application.cfm" (ColdFusion) などのアプリケーションファイルのコードをサポートしています。これらのファイルは、[ライブデータ] を有効にする前に、必ずサーバーにアップロードしておく必要があります。

1 [ファイル] パネルを開き ([ウィンドウ]-[ファイル])、[展開 / 折りたたむ] ボタン (パネルのツールバーの右端のアイコン) をクリックします。

[ファイル] パネルが最大サイズに拡張されます。

2 拡張された [ファイル] パネルのツールバーの [テストサーバー] アイコン (左から 2 番目のアイコン) をクリックします。

[リモートサイト] の下にテストサーバーのルートフォルダが表示されます。

3 [ローカルファイル] の中で、依存ファイルを選択します。

4 ツールバーにある青色の上向き矢印をクリックして、選択したファイルをテストサーバーにコピーするか、選択したファイルを [リモートサイト] の中の適切なフォルダにドラッグします。

依存ファイルを追加しない限り、この操作を行う必要があるのは 1 つのサイトについて一度だけです。依存ファイルを追加した場合は、追加したファイルもフォルダにコピーする必要があります。

関連項目

474 ページの「Web アプリケーションの設定」

ページが受け取るパラメータの指定

動的コンテンツを生成するために、ユーザーからのパラメータの指定が必要なページがあります。たとえば、レコードを表示するために、レコードの ID 番号が必要なページなどです。そのデータがない場合、Dreamweaver では、動的コンテンツを生成してデザインビューで表示することはできません。

ページがユーザーからのパラメータを必要とする場合は、以下のようにパラメータを指定する必要があります。

1 ドキュメントウィンドウで、[表示] メニューの [ライブデータの設定] を選択します。

2 ダイアログボックスの入力を完了させ、[OK] をクリックします。

[ライブデータの設定] ダイアログボックスで GET メソッドを指定した場合、デザインビューツールバーにテキストボックスが表示されます。このボックスにさまざまな URL パラメータを入力し、[更新] ボタン (丸い矢印のアイコン) をクリックしてパラメータによるページへの影響を調べます。

各 URL パラメータは、次の形式で入力します。

```
name=value;
```

この形式では、*name* はページが待機する URL パラメータ名を示し、*value* はそのパラメータに格納される値を示します。

関連項目

505 ページの「URL パラメータ」

ページの更新

- [ライブデータ] を有効にした場合に、動的コンテンツに影響を与える変更を行った後にページを更新するには、ドキュメントツールバーの [更新] ボタン (丸い矢印のアイコン) をクリックします。
- 動的コンテンツに影響を与える変更を加えるたびにページを更新するには、ツールバーの [自動更新] オプションを選択します。低速なデータベース接続を使用している場合、[ライブデータ] ウィンドウで作業しているときには、このオプションをオフにしておいた方がよいこともあります。

ライブデータの表示に関するトラブルシューティング

ライブデータを表示する際の問題の多くは、[サイト定義] ダイアログボックス ([サイト]-[サイトの編集]) の値の一部が入力されていないか、適切でないために発生します。

[サイトの定義] ダイアログボックスの [テストサーバー] カテゴリを確認します。[リモートフォルダ] ボックスには、動的ページの処理が可能なフォルダを指定する必要があります。以下は、ハードディスクで IIS または PWS を稼動している場合の適切なリモートフォルダの例です。

C:¥Inetpub¥wwwroot¥**myapp¥**

[URL 接頭辞] ボックスに、リモートフォルダに対応する (マップされた) URL が指定されていることを確認します。たとえば、PWS または IIS がローカルコンピュータ上で稼動している場合は、以下のリモートフォルダの URL 接頭辞は次のようになります。

リモートフォルダ	URL 接頭辞
C:¥Inetpub¥wwwroot¥	http://localhost/
C:¥Inetpub¥wwwroot¥myapp¥	http://localhost/myapp/
C:¥Inetpub¥wwwroot¥fs¥planes	http://localhost/fs/planes

デザインビューでのライブデータを使用しない作業

ライブデータを無効にするか、テストサーバーから一時的に切断した場合でも、デザインビューで動的ページを編集することができます。Dreamweaver では、プレースホルダーを使用してページ上の動的コンテンツを視覚的に表現します。たとえば、データベースから抽出された動的テキストのプレースホルダーでは、シンタックス {RecordsetName.ColumnName} が使用されます。ここで、Recordset はレコードセットの名前、ColumnName はレコードセットから選択した列の名前です。

動的テキストのプレースホルダーの長さによっては、デザインビューのページのレイアウトが変形することがあります。この問題を解決するには、空の波カッコをプレースホルダーとして使用します。

1 [編集]-[環境設定]-[不可視エレメント] または [Dreamweaver]-[環境設定]-[不可視エレメント] (Mac OS X) を選択します。

2 [動的テキストの表示方法] ポップアップメニューで { } を選択して、[OK] をクリックします。

Web サービスの使用 (Windows のみ)

Web サービスについて

Web サービスは、Web ページから分散アプリケーションへのアクセスを可能にする新しいテクノロジーです。Web ページからは、サービスとして提供される機能に必要なときに接続して利用できるので、Web ページのデベロッパーおよびサービスプロバイダは、強力な分散アプリケーションを柔軟に設計して配置することができます。Web サービスは、オペレーティングシステムやプログラミング言語に関係なく、どのプラットフォームからでも常に利用できます。次に、Web サービスの例と Web サービスによって利用可能となる情報や機能を示します。

- ユーザーの認証と権限付与
- クレジットカードの検証
- 指定されたチッカー記号に対応する株価を返す金融市場サービス
- ユーザーが商品をオンラインで注文できるショッピングサービス
- 選択された分野、地域、またはその他の個人情報に基づいてニュースなどの情報を提供する情報サービス

Web サービスを使用する Web ページを作成するには、使用するアプリケーションの基礎となるサーバーテクノロジーおよびアプリケーションに必要なプログラミング構造に関する知識が必要です。

Web サービスに接続された Web ページは一般に " コンシューマ " と呼ばれ、サービス自体は " パブリッシャ " と呼ばれます。Dreamweaver では、Web サービスのコンシューマとなるページやサイトを作成できます。Dreamweaver では、ColdFusion、ASP.NET、JavaServer Pages (JSP) の各ドキュメントタイプを使用する Web サービスのコンシューマを作成でき、また、ColdFusion を使用する Web サービスをパブリッシュおよび配置できます。Dreamweaver で実行できる Web サービスの開発タスクには以下のものがあります。

- インターネット上で利用可能な Web サービスの選択
- Web ページが Web サービスパブリッシャと通信できるようにするための Web サービスプロキシの生成

プロキシ (または抽象クラス) には、Web サービスのフィールド、メソッド、およびプロパティが含まれており、ローカルでホストされるページではプロキシによってこれらを利用できるようになります。これらは、ページのプロキシを生成すると、Dreamweaver の [コンポーネント] パネルに表示されるようになります。

- メソッドおよびデータタイプを Web ページのコードにドラッグ

Dreamweaver での Web サービスのワークフロー

Web サービスのコンシューマとなるページやサイトを Dreamweaver で作成するには、以下のタスクを実行する必要があります。

1. プロキシジェネレータをインストールして設定します。

Dreamweaver には、JSP Web サービスの開発をサポートする Apache SOAP プロキシジェネレータである Axis があらかじめ設定されています。ColdFusion によるページを作成する場合は、ColdFusion サーバーに含まれている Web サービスプロキシジェネレータを使用します。ColdFusion サーバーへの接続を確立すると、プロキシジェネレータにアクセスできます。

ASP.NET で使用する Web サービスを作成する場合は、ASP.NET SDK をインストールする必要がありますが、これは Microsoft 社から入手できます。

2. ブラウザを使用して、Web ベースの Web サービスレジストリを参照します。

Web サービスのソースには、Web サービスレジストリサイトから単純なリストまで、さまざまなものがあります。Web サービスレジストリでは、サービスの提供側と要求側が相互に検索および取引を行うための標準である UDDI が使用されています。UDDI を使用すると、企業のニーズを満たすサービスを Web 上で見つけることができます。たとえば、特定の条件 (あるサービスに対する最低価格など) を指定したり、特定の情報が返されるように指定したりできます。

3. 必要な機能を提供する Web サービスを見つけて選択したら、[Web サービスを追加] ダイアログボックスに WSDL の URL を入力します。

4. Web サービス用のプロキシを、サービスパブリッシャの WSDL 記述から生成します。

Web サービスを Web ページに埋め込むには、プロキシを作成する必要があります。プロキシによって、Web サービスと通信するために必要な情報が Web ページに渡され、Web サービスが提供するメソッドにアクセスできるようになります。

WSDL ファイルからプロキシを作成するには、プロキシジェネレータを使用します。作成したプロキシは、次のいずれかにインストールできます。

- Web サービスコンシューマを作成しているローカルコンピュータ。
- アプリケーションサーバーを実行するサーバーコンピュータ。Web ページを配置して Web サービスパブリッシャと通信できるようにするには、サーバー上にプロキシをインストールする必要があります。

5. Dreamweaver を使用して、Web サービスをページに追加し、サービスの機能を利用するために必要なパラメータおよびメソッドを編集します。

関連項目

555 ページの「プロキシジェネレータについて」

557 ページの「ページへの Web サービスの追加」

Web サービスパブリッシャの検索

Web サービス自体は、サービスパブリッシャによって利用可能になります。一般的に、サービスパブリッシャが自身の Web サービスを利用可能にするには、アクセス可能なサービスのディレクトリを管理する Web ベースのレジストリを使用します。このようなディレクトリを提供する Web サイトは多数ありますが、その一部を次に示します。

- X Methods (http://www.xmethods.net)
- Microsoft UDDI レジストリ (http://uddi.microsoft.com/default.aspx)

これらのレジストリは、UDDI (Universal Description, Discovery and Integration) サービス、つまり、オープンな e コマース用サービスレジストリを使用します。このレジストリには、企業の概要を説明したり、販売する商品やサービスを説明するためのフォーラムが用意されています。このレジストリは、" オペレータ " と呼ばれる企業のグループによって維持されています。オペレータの責務は、登録者に関するすべての公開情報をオペレータおよびサービス利用者間で共有し、UDDI サービスネットワークの複数のピアノード間の相互運用性を維持することです。公共の Web サービスの他、加入者だけが利用できる非公開 UDDI レジストリもあります。

UDDI の仕様は既存のインターネット標準に基づくものであるため、プラットフォームや実装に依存することはありません。

Web サービスソフトウェアのコンポーネント

Web ページから Web サービスにアクセスして利用するには、Web サービスと通信する必要があります。また、サービスが提供する機能、呼び出し可能なメソッド、およびサービスが返すパラメータの記述が必要です。WSDL (Web Service Description Language) は、XML をベースとしたサービス記述です。Web サービスは、サービスへのバインド方法、Web ページから呼び出し可能なメソッド、およびデータの入出力などを記述する WSDL として提供されます。WSDL は、ファイル内に存在することも、実行時に Web サービスによって生成されることもあります。

サービスを要求する Web ページと Web サービスは、SOAP (Simple Object Access Protocol) を使用して通信します。SOAP は XML ベースのプロトコルで、Web クライアントはこれを利用して Web サービスのメソッドおよびパラメータにアクセスし、呼び出すことができます。

関連項目

556 ページの「WSDL 記述を使用した Web サービスプロキシの追加」

Web サービスリファレンス

Web サービスの詳細、およびその基礎となるテクノロジーの詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

- WSDL 仕様 (http://www.w3.org/TR/wsdl)
- UDDI 仕様 (http://www.uddi.org/specification.html)
- XML 仕様 (http://www.w3.org/TR/REC-xml)
- SOAP 仕様 (http://www.w3.org/TR/SOAP/)

プロキシジェネレータについて

プロキシジェネレータによって、Web サービスプロキシ (Web ページが Web サービスパブリッシャと通信するために使用するソフトウェアコンポーネント) が生成されます。Web サービスプロキシは、Web サービスを記述する WSDL (Web Service Description Language) から生成されます。開発する Web サービスコンシューマのサーバーテクノロジーによっては、そのテクノロジーに対応するプロキシジェネレータのインストールと設定が必要となる場合があります。

Dreamweaver によって、JSP Web サービスをサポートする Axis プロキシジェネレータがインストールされます。Axis は、オープンソースのプロキシジェネレータで、Apache SOAP プロジェクトから配布されています。Dreamweaver では、別のベンダーの Web サービス実装や新しい Web サービス技術をサポートするプロキシジェネレータを追加、入手、および設定することができます。

注意：Axis を使用するために必要なソフトウェアは、すべて初期設定で Dreamweaver によってインストールされます。

Axis の詳細については、Apache Axis の Web サイト http://ws.apache.org/axis/ を参照してください。

他のプロキシジェネレータの入手

Dreamweaver に同梱されていないプロキシジェネレータをインストールする場合は、プロキシジェネレータおよび関連するソフトウェアコンポーネントをベンダーから入手する必要があります。ベンダーの Web サイトから必要なすべてのファイルをダウンロードできることを確認してください。

プロキシジェネレータによっては、他のソフトウェアライブラリに依存するプロキシを作成するものがありますが、プロキシジェネレータがアクセスできるようにこれらのライブラリを正しくインストールする必要があります。たとえば、Axis プロキシジェネレータによって作成されるプロキシは Apache SOAP ライブラリに依存しますが、このライブラリも他のソフトウェアライブラリに依存します。プロキシジェネレータを選択するときは、付属のマニュアルを参照して必要なソフトウェアコンポーネントおよびライブラリが揃っていることを確認してください。これは、正しくインストールおよび設定するために必要です。

プロキシジェネレータを正常にインストールして設定した後に、Dreamweaver で使用できるように設定する必要があります。

注意：現在、Dreamweaver を使用して Web サービスを開発できるのは Windows 環境だけです。Web サービスにアクセスするページを Macintosh で作成するには、Windows NT/2000/XP または UNIX のいずれかを実行する別のアプリケーションサーバーを用意して、このサーバーで Web サービスプロキシとそのアプリケーション環境を実行する必要があります。

プロキシジェネレータを Dreamweaver で使用するための設定

Web サービスのプロキシジェネレータをインストールした後、Dreamweaver で使用できるように設定する必要があります。

1 [ウィンドウ]-[コンポーネント] を選択して [コンポーネント] パネルを開きます。

2 [コンポーネント] パネルで、パネルの左上隅にあるポップアップメニューから [Web サービス] を選択し、[+] ボタンをクリックして、[WSDL を使用して追加] を選択します。

3 [WSDL を使用して追加] ダイアログボックスで、[プロキシジェネレータ] ポップアップメニューから [プロキシジェネレータリストの編集] を選択します。

4 [新規作成] をクリックし、ポップアップメニューからプロキシジェネレータを選択して [終了] を選択します。

- リストからプロキシジェネレータを削除するには、選択して [削除] をクリックします。
- プロキシジェネレータを変更するには、リストから変更するプロキシジェネレータを選択して [編集] をクリックします。表示されたダイアログボックスで、変更を行います。
- プロキシジェネレータのコピーを作成するには、リストからプロキシジェネレータを選択して [複製] をクリックします。

注意：ColdFusion プロキシジェネレータを編集することはできません。

5 [プロキシジェネレータ初期設定] を選択して、選択したプロキシジェネレータまたは新しいプロキシジェネレータを設定します。以下のオプションを設定して、[OK] をクリックします。

名前 ポップアップメニューに表示されるプロキシジェネレータインスタンスの名前です。

サポートされているサーバーモデル プロキシジェネレータがサポートするサーバーモデルのリストです。[+] ボタンと [-] ボタンを使用して、リストを編集できます。

[+] ボタンをクリックすると、[サーバーモデルの選択] ダイアログボックスが表示されます。利用可能なサーバーモデルのリストからサーバーモデルを選択し、[OK] をクリックします。複数のサーバーモデルを選択するには、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらリストから選択します。

プロキシの生成コマンド WSDL の情報から、プロキシのソースコードを生成します。プロキシジェネレータコマンドでは、次のトークンを使用できます。

プロキシのコンパイルコマンド プロキシのソースコードをコンパイルして実行可能コードを作成します。

コンパイルされたプロキシのイントロスペクト ポップアップメニューからイントロスペクタを選択して、コンパイルされたプロキシをイントロスペクトします。

出力先のフォルダ コンパイルされた Web サービスプロキシおよびそのソースコードを出力するフォルダ

Dreamweaver によって Web サービスの WSDL 記述が読み取られると、[プロキシジェネレータ初期設定] のフィールドに関連した以下のアクションが Dreamweaver によって実行されます。

- WSDL を、その Web サービスを検出するための入力として読み取ります。
- Web サービスプロキシを、指定されたランタイム環境で生成します。
- プロキシを、指定されたコンパイラでコンパイルします。
- プロキシのソースコードおよびコンパイルしたプロキシを指定されたフォルダに返します。

WSDL 記述を使用した Web サービスプロキシの追加

プロキシジェネレータを指定して、サポートする必要のある Web サービスサーバーモデルを設定した後に、目的の機能を提供する Web サービスを特定して、そのサービス向けのプロキシを生成する必要があります。

1 Web サービスを追加するページを開きます。

2 [コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) で、パネルの左上隅にあるポップアップメニューから [Web サービス] を選択し、[+] ボタンをクリックして、[WSDL を使用して追加] を選択します。

3 次のいずれかの操作を行って、使用する WSDL ファイルの URL を指定します。

- WSDL ファイルの URL がわかっている場合は、[WSDL ファイルの URL] ボックスに入力します。この URL は、Web サービス用のプロキシとスクリプト情報を生成するときに使用されます。
- WSDL ファイルの URL がわからない場合は、UDDI ブラウザボタン (地球のアイコン) をクリックして Web サービスのディレクトリを参照するか、リストから Web サービスレジストリを選択するか、またはその Web サービスの URL をコピーして WSDL 編集ボックスにペーストします。

注意：Web サービスレジストリのリストを編集して、他の Web サービスディレクトリや特定の Web サービスプロバイダを追加することもできます。

4 使用する Web サービスサーバーモデルをサポートするプロキシジェネレータを、[プロキシジェネレータ] ポップアップメニューから選択します。

5 システムにプロキシジェネレータがインストールされ、設定されていることを確認し、[OK] をクリックします。

プロキシジェネレータによって Web サービス用のプロキシが作成され、イントロスペクトが行われます。イントロスペクトとは、プロキシジェネレータが Web サービスプロキシの内部構造を検索して、そのインターフェイス、メソッド、およびプロパティを Dreamweaver から利用できるようにするプロセスです。

これで Web サービスをサイトで使用できるようになり、[コンポーネント] パネルに表示されます。Web サービスをページに追加できます。

関連項目

554 ページの「Web サービスソフトウェアのコンポーネント」

UDDI ベースの Web サービスサイトリストの変更

[WSDL を使用して追加] には UDDI ベースの Web サービスディレクトリのリストが表示され、ここから Web サービスを選択できます。このリストを編集して、Web サービスディレクトリを追加または削除することができます。

1 [コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) で、パネルの左上隅にあるポップアップメニューから [Web サービス] を選択し、[+] ボタンをクリックして Web サービスを追加します。

2 [WSDL を使用して追加] ダイアログボックスで、地球のアイコンをクリックして表示されるポップアップメニューから [UDDI サイトリストの編集] を選択します。

3 [UDDI サイト] ダイアログボックスに情報を入力し、[終了] をクリックします。

- 新しいサイトを追加する場合は [新規作成] ボタン、既存のサイトを変更する場合は [編集] ボタンをクリックします。UDDI Web サイトの名前と URL を入力して [OK] をクリックします。
- 既存のサイトを削除するには、リストで該当するサイトを選択して [削除] ボタンをクリックします。

ページへの Web サービスの追加

Web サービスを選択してプロキシを生成し、[コンポーネント] パネルに追加すると、その Web サービスをページに挿入できるようになります。

次の例では、[コンポーネント] パネルに Web サービスプロキシ Helloworld が追加されています。Helloworld プロキシには sayHello というメソッドがあり、"Hello World!" を出力します。

次の例では、ColdFusion を使用して HelloWorld Web サービスをインスタンス化します。

1 ドキュメントウィンドウのコードビューで、sayHello メソッドをページの HTML にドラッグします。

Dreamweaver によってこのメソッドおよびダミーパラメータがページに追加されます。

2 挿入されたコードを編集し、サービスインスタンス名、データタイプ、およびパラメータ値を Web サービスで要求されるとおりに指定します。データタイプおよびパラメータ値の記述は、Web サービスによって提供されます。

次の ColdFusion の例では、Web サービスは <cfinvoke> タグで囲まれています。ColdFusion で Web サービスを作成する場合は、<cfinvoke> を使用して Web サービスをインスタンス化し、そのメソッドを呼び出します。

```
<html>
<head>
<title>Web Service</title>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=iso-8859-1">
</head>
<cfinvoke
webservice="http://www.mysite.com:8500:8500/helloworld/HelloWorld.cfc?wsdl"
method="sayHello"
returnvariable="aString">
</cfinvoke>
</body>
</html>
```

3 戻り値をビジュアルエレメントにバインドする場合は、デザインビューに切り替えて、データバインディングが可能なページにビジュアルエレメントを配置します。次に、コードビューに戻り、戻り値をビジュアルエレメントにバインドするためのコードを入力します。Web サービスを作成するときは、各テクノロジーのマニュアルを参照して正しいシンタックスを調べてください。これは、サービスをインスタンス化する場合と、戻り値をページに表示する場合に必要です。

この例では、変数 aString で返される値は、ColdFusion の <cfoutput> タグを使用して出力されます。これにより、"The web service says: Hello world!" という文がページに表示されます。

```
<html>
<head>
<title>Web Service</title>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=iso-8859-1">
</head>
<cfinvoke
webservice="http://www.mysite.com:8500/helloworld/HelloWorld.cfc?wsdl"
method="sayHello"
returnvariable="aString">
</cfinvoke>
The web service says: <cfoutput>#aString#</cfoutput>
</body>
</html>
```

4 Web ページをプロダクションサーバーに配置するとき、Dreamweaver によってページ、プロキシ、および必要なライブラリが自動的に Web サーバーにコピーされます。

注意：ページを作成したコンピュータとは別のコンピュータにインストールされているプロキシを使用してアプリケーションを作成する場合や、使用しているサイト管理ツールでは一部の関連ファイルがサーバーにコピーされない場合は、プロキシおよび従属するライブラリファイルの両方が配置されていることを確認する必要があります。これらが配置されていないと、ページは Web サービスアプリケーションと通信できません。

プロキシクラスを使用した Web サービスの追加

.NET または JSP 開発フレームワークを使用するときに Web サービスプロキシをイントロスペクトするローカルの .NET DLL または JSP リーダーを選択することができます。

1 [ウィンドウ]-[コンポーネント] を選択して [コンポーネント] パネルを開きます。

2 [コンポーネント] パネルで、パネルの左上隅にあるポップアップメニューから [Web サービス] を選択し、[+] ボタンをクリックして、[プロキシクラス を使用して追加] を選択します。

3 プロキシクラスリーダーの場所をボックスに入力するか、そのファイルを参照します。

4 ポップアップメニューからプロキシリーダーを選択し、[OK] をクリックします。

初期設定では、次の 2 種類のプロキシリーダーがあります。

- .NET DLL Reader (ASP.NET ドキュメントタイプ用)
- Java Class Reader (JSP ドキュメントタイプ用)

カスタムサーバービヘイビアの追加

カスタムサーバービヘイビアについて

Dreamweaver には、サイトに動的な機能を簡単に追加できる組み込みのサーバービヘイビアのセットが用意されています。 開発の目的に合わせて新しいサーバービヘイビアを作成したり、Dreamweaver Exchange の Web サイトからサーバービヘイビアをダウンロードしたりすることによって、Dreamweaver の機能をさらに強化することもできます。

独自のサーバービヘイビアを作成する前に、Dreamweaver Exchange の Web サイトを調べて、Web サイトに追加しようとしている機能と同じ機能を持つサーバービヘイビアを他のユーザーが既に作成していないか確認してください。用途に合ったサーバービヘイビアをサードパーティのデベロッパーが既に作成し、テスト済みとなっていることもよくあります。

Dreamweaver Exchange へのアクセス

1 Dreamweaver は、次のいずれかの操作を行って、Dreamweaver Exchange にアクセスします。

- [ヘルプ]-[Dreamweaver Exchange] を選択します。
- [ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] を選択し、[+] ボタンをクリックして、[サーバービヘイビアの追加] を選択します。

Dreamweaver Exchange の Web ページがブラウザに表示されます。

2 Adobe ID を使用して Exchange にログオンします。Dreamweaver Exchange ID を取得していない場合は、説明に従って Adobe アカウントを作成します。

Dreamweaver へのサーバービヘイビアまたはその他の拡張機能のインストール

1 [コマンド]-[拡張機能の管理] を選択して、Extension Manager を起動します。

2 Extension Manager で、[ファイル]-[拡張機能の管理] を選択します。

詳細については、『**Extension Manager** の使用』を参照してください。

カスタムサーバービヘイビアのワークフロー

ColdFusion、ASP.NET、JavaScript、VBScript、PHP、または Java に精通したデベロッパーであれば、自分でサーバービヘイビアを記述することもできます。サーバービヘイビアを作成する手順は、次のとおりです。

- 目的のアクションを実行するコードブロックを記述します。
- ページの HTML コードのどこにコードブロックを挿入するかを指定します。
- サーバービヘイビアがパラメータ値の指定を必要とする場合は、ダイアログボックスを作成して、Web デベロッパーが適切な値をビヘイビアに指定できるようにします。
- 他のユーザーが使用できるように公開する前に、サーバービヘイビアをテストします。

関連項目

566 ページの「サーバービヘイビアのパラメータの要求」

568 ページの「サーバービヘイビアのテスト」

サーバービヘイビアビルダーの使用

サーバービヘイビアビルダーを使用すると、ビヘイビアによってページに挿入されるコードブロックを追加できます。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) を開いて [+] ボタンをクリックし、[新規サーバービヘイビア] を選択します。

2 [ドキュメントタイプ] ポップアップメニューから、開発するサーバービヘイビアのドキュメントタイプを選択します。

3 [名前] ボックスにサーバービヘイビアの名前を入力します。

4 (オプション) 既存のサーバービヘイビアをコピーして、作成しているビヘイビアに追加するには、[既存のサーバービヘイビアをコピー] チェックボックスをオンにし、[コピーするビヘイビア] ポップアップメニューからサーバービヘイビアを選択します。[OK] をクリックします。

[サーバービヘイビアビルダー] ダイアログボックスが表示されます。

5 新しいコードブロックを追加するには、[+] ボタンをクリックし、コードブロック名を入力して [OK] をクリックします。

入力した名前がサーバービヘイビアビルダーに表示され、[コードブロック] ボックスには適切なスクリプトタグが表示されます。

6 [コードブロック] ボックスに、サーバービヘイビアの実装に必要なランタイムコードを入力します。

注意 : [コードブロック] ボックスにコードを入力するとき、それぞれの名前付きコードブロック (たとえば、myBehavior_block1、myBehavior_block2、myBehavior_blockn) に入力できるタグまたはコードブロックは 1 つのみです。. 複数のタグまたはコードブロックを入力する場合は、コードブロックを必要な数だけ作成します。コードはページ間でコピー & ペーストできます。

7 コードブロック内のパラメータを挿入する場所に挿入ポイントを置くか、パラメータに置き換えるストリングを選択します。

8 [コードブロックにパラメータを挿入] ボタンをクリックします。

9 [パラメータ名] ボックスにパラメータの名前 (たとえば、「Session」) を入力し、[OK] をクリックします。

パラメータを定義する前に挿入ポイントを置いたコードブロック内の位置に、そのパラメータが挿入されます。ストリングを選択した場合は、コードブロック内の選択したストリングのすべてのインスタンスがパラメータマーカーに置き換えられます。たとえば、@@Session@@ に置き換えられます。

10 [コードの挿入] ポップアップメニューから、コードブロックを埋め込む場所を指定するオプションを選択します。

11 (オプション) サーバービヘイビアについての追加情報を指定するには、[詳細設定] ボタンをクリックします。

12 複数のコードブロックを作成するには、手順 5 ～ 11 を繰り返します。

13 サーバービヘイビアにパラメータが必要な場合は、ビヘイビアを適用するユーザーがパラメータを指定するためのダイアログボックスを作成する必要があります。以下のリンクを参照してください。

14 サーバービヘイビアを作成するのに必要な手順を実行したら、[OK] をクリックします。

サーバービヘイビアの一覧が [サーバービヘイビア] パネルに表示されます。

15 サーバービヘイビアが正しく動作するかどうかをテストします。

関連項目

564 ページの「ループディレクティブによるコードブロックの繰り返し」

568 ページの「コーディングのガイドライン」

566 ページの「サーバービヘイビアのパラメータの要求」

559 ページの「カスタムサーバービヘイビアの追加」

高度なオプション

各コードブロックにソースコードとその挿入場所を指定すれば、サーバービヘイビアの定義は完了です。ほとんどの場合、追加情報を指定する必要はありません。

上級ユーザーの方は、必要に応じて、以下のオプションを設定することができます。

識別子 コードブロックを識別子として処理するかどうかを指定します。

初期設定では、すべてのコードブロックは識別子です。ドキュメント内で識別子コードブロックが Dreamweaver により検出されると、[サーバービヘイビア] パネルにそのビヘイビアが表示されます。[識別子] オプションを使用して、コードブロックを識別子として処理するかどうかを指定します。

サーバービヘイビアのコードブロックのうち少なくとも 1 つは、識別子にする必要があります。ただし、別のサーバービヘイビアで同じコードブロックが使用される場合、またはコードブロックが非常にシンプルで、ページで普通に使用される可能性が高い場合は、そのコードブロックを識別子にしないでください。

サーバービヘイビアタイトル [サーバービヘイビア] パネルのビヘイビアのタイトルを指定します。

ページデザイナーが [サーバービヘイビア] パネルで [+] ボタンをクリックすると、新しいサーバービヘイビアのタイトルがポップアップメニューに表示されます。デザイナーがサーバービヘイビアのインスタンスをドキュメントに適用すると、そのビヘイビアが [サーバービヘイビア] パネルの適用済みビヘイビアのリストに表示されます。[+] ポップアップメニューのコンテンツと適用済みビヘイビアのリストを指定するには、[サーバービヘイビアタイトル] ボックスを使用します。

このボックスの初期値は、[新規サーバービヘイビア] ダイアログボックスで指定した名前です。パラメータを定義すると、自動的にこの名前が更新され、サーバービヘイビア名の後のカッコ内にパラメータが表示されます。

```
Set Session Variable (@@Name@@, @@Value@@)
```

ユーザーが初期設定値を受け入れる場合は、カッコの前にあるすべてのコードが [+] ポップアップメニューに表示されます。この例ではセッション変数の設定が表示されます。名前とパラメータは、適用済みビヘイビアのリストに表示されます。ここでは、セッション変数の設定 ("abcd", "5") となります。

選択するコードブロック ユーザーが [サーバービヘイビア] パネルでビヘイビアを選択したとき、選択された状態で表示するコードブロックを指定します。

サーバービヘイビアを適用すると、ビヘイビアのコードブロックの 1 つが「選択するコードブロック」に指定されます。サーバービヘイビアを適用してから [サーバービヘイビア] パネルでそのビヘイビアを選択すると、指定されたブロックがドキュメントウィンドウで自動的に選択されます。初期設定では、Dreamweaver は html タグより後にあるコードブロックの中で、最初のコードブロックを選択します。すべてのコードブロックが html タグより前にある場合は、その中で最初のコードブロックが選択されます。上級ユーザーの方は、選択された状態にするコードブロックを指定できます。

コードブロックの作成

サーバービヘイビアビルダーで作成したコードブロックは、サーバービヘイビアにカプセル化され、[サーバービヘイビア] パネルに表示されます。コードは、指定されたサーバーモデルに対して有効なランタイムコードになります。たとえば、カスタムサーバービヘイビアのドキュメントタイプとして ColdFusion を選択した場合は、記述するコードは、ColdFusion アプリケーションサーバーで実行可能な ColdFusion コードにする必要があります。

サーバービヘイビアビルダーで直接コードブロックを作成することも、他のソースからコードをコピー & ペーストすることもできます。サーバービヘイビアビルダーで作成するコードブロックは、それぞれが 1 つのタグまたはスクリプトブロックである必要があります。複数のタグブロックを挿入する必要がある場合は、それらを個別のコードブロックに分割します。

コードブロックの条件

Dreamweaver では、条件付きで実行される制御ステートメントを持つコードブロックを作成できます。サーバービヘイビアビルダーでは if、elseif、および else ステートメントを使用します。必要に応じてサーバービヘイビアパラメータを含めることもできます。これにより、サーバービヘイビアパラメータ間の OR 関係の値に基づいて切り替わるテキストブロックを挿入できます。

次の例では、if、elseif、および else ステートメントを示します。角カッコ ([]) はオプションのコードを表し、アスタリスク (*) は 0 個以上のインスタンスを表します。コードブロックの一部またはコードブロック全体を特定の条件でのみ実行するには、次のシンタックスを使用します。

```
<@ if (expression1) @>conditional text1[<@ elseif (expression2) @>conditional text2]*[<@ else @>
    conditional text3]<@ endif @>
```

条件は、eval() 関数で評価可能な JavaScript の条件式で表し、必要に応じて、@@ によってマークされるサーバービヘイビアパラメータを含めます (@@ は、JavaScript の変数とキーワードをパラメータと区別します)。

条件式の効果的な使用

if、else、および elseif ディレクティブを insertText XML タグ内で使用する場合、if ディレクティブを特定し、結果にどのテキストを含めるかを決定するために、構成要素テキストが事前に処理されます。if および elseif ディレクティブでは、式が引数として使用されます。条件式は、JavaScript の条件式と同じで、サーバービヘイビアパラメータを含めることもできます。このようなディレクティブを使用すると、サーバービヘイビアパラメータの値、またはそれらの関係に基づいて代替コードブロックを選択できます。

たとえば、次の JSP コードは、条件付きコードブロックを使用する Dreamweaver サーバービヘイビアのものです。

```
@@rsName@@.close();
<@ if (@@callableName@@ != '') @>
@@callableName@@.execute();
@@rsName@@ = @@callableName@@.getResultSet();<@ else @>
@@rsName@@ = Statement@@rsName@@.executeQuery();
<@ endif @>
@@rsName@@_hasData = @@rsName@@.next();
```

条件付きコードブロックは、<@ if (@@callableName@@ != '') @> で始まり、<@ endif @> で終わります。コードに従い、サーバービヘイビアの [パラメータ] ダイアログボックスで @@callableName@@ パラメータにユーザーが値を入力すると (すなわち、@@callableName@@ パラメータ値がヌルまたは (@@callableName@@ != '')) でない場合)、条件付きコードブロックは次のステートメントに置き換えられます。

```
@@callableName@@.execute();
@@rsName@@ = @@callableName@@.getResultSet();
```

それ以外の場合は、コードブロックは次のステートメントに置き換えられます。

```
@@rsName@@ = Statement@@rsName@@.executeQuery();
```

関連項目

564 ページの「ループディレクティブによるコードブロックの繰り返し」

コードブロックの配置

サーバービヘイビアビルダーを使用してコードブロックを作成する場合、ページの HTML コードのどこにコードブロックを挿入するか指定する必要があります。

たとえば、コードブロックを <html> 開始タグの前に挿入するには、そのコードブロックの位置を、そのページの HTML コードのセクションにある他のタグ、スクリプト、サーバービヘイビアに対する相対位置で指定します。典型的な例には、先頭の <html> 開始タグより前のページコードの中にもレコードセットクエリーが存在する場合があるときに、レコードセットクエリーの前または後のどちらにサーバービヘイビアを配置するかを指定するというのがあります。

[コードの挿入] ポップアップメニューで挿入位置のオプションを選択すると、[相対位置] ポップアップメニューで選択できるオプションは、ページのその挿入箇所に関連するオプションを指定するものに変更されます。たとえば、[コードの挿入] ポップアップメニューで [<html> タグの上] を選択すると、[相対位置] ポップアップメニューでは、ページのその部分に関連した選択項目に変更されます。

次の表は、コードブロックの挿入オプションと、それに対応する相対位置オプションを示しています。

[コードの挿入] オプション	[相対位置] オプション
[<html> タグの上]	• [ファイルの先頭] • [レコードセットのすぐ前] • [レコードセットのすぐ後] • [<html> タグのすぐ上] • [カスタム位置]
[</html> タグの下]	• [ファイルの終わりの前] • [レコードセットのクローズの前] • [レコードセットのクローズの後] • [</html> タグの後] • [カスタム位置]
[特定タグに対する相対位置]	[タグ] ポップアップメニューからタグを選択し、タグの挿入オプションを選択します。
[選択範囲に対する相対位置]	[選択範囲の前] [選択範囲の後] [選択範囲を置換] [選択範囲を囲む]

カスタム位置を指定する場合は、コードブロックに「ウェイト」を割り当てる必要があります。複数のコードブロックを特定の順序で挿入する必要がある場合は、[カスタム位置] オプションを使用します。たとえば、レコードセットを開くコードブロックの後に 3 つのコードブロックを順に挿入するには、最初のブロックに 60、2 つ目のブロックに 65、3 つ目のブロックに 70 のウエイトを入力します。

Dreamweaver では、<html> タグの前に挿入された、レコードセットを開くコードブロックすべてに初期設定で 50 のウエイトが割り当てられます。2 つ以上のブロックのウエイトが同じ場合は、Dreamweaver によりブロック間の順序がランダムに設定されます。

関連項目

566 ページの「サーバービヘイビアのパラメータの要求」

568 ページの「コーディングのガイドライン」

559 ページの「カスタムサーバービヘイビアについて」

561 ページの「コードブロックの作成」

568 ページの「サーバービヘイビアのテスト」

コードブロックの配置 (一般的な方法)

1 サーバービヘイビアビルダーを使用して、コードブロックを記述します。

2 [サーバービヘイビアビルダー] ダイアログボックスで、[コードの挿入] ポップアップメニューからコードブロックを挿入する場所を選択します。

3 [サーバービヘイビアビルダー] ダイアログボックスで、[コードの挿入] ポップアップメニューで選択した場所に対する相対位置を選択します。

4 コードブロックの作成が完了したら、[OK] をクリックします。

サーバービヘイビアの一覧が [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) に表示されます。[+] ボタンをクリックして、サーバービヘイビアを表示します。

5 サーバービヘイビアが正しく動作するかどうかをテストします。

ページの他のタグに対する相対位置へのコードブロックの配置

1 [コードの挿入] ポップアップメニューから [特定タグに対する相対位置] を選択します。

2 [タグ] ボックスにタグを入力するか、ポップアップメニューからタグを 1 つ選択します。

タグを入力するときは、山カッコ (<>) を使用しないでください。

3 [相対位置] ポップアップメニューからオプションを選択し、指定済みのタグに対する相対位置を指定します。

ページデザイナーが選択したタグに対する相対位置へのコードブロックの配置

1 [コードの挿入] ポップアップメニューから [選択範囲に対する相対位置] を選択します。

2 [相対位置] ポップアップメニューからオプションを選択し、ページデザイナーによる選択範囲に相対位置を指定します。

選択範囲の直前または直後に、コードブロックを挿入できます。選択範囲をコードブロックに置き換えることも、前後をコードブロックで囲むこともできます。

選択範囲をコードブロックで囲む場合は、次に示すように、選択範囲には開始タグと終了タグのみがあり、両タグの間には何もないようにします。

```
<CFIF Day="Monday"></CFIF>
```

コードブロックの開始タグ部分は選択範囲の開始タグの前に挿入し、コードブロックの終了タグ部分は選択範囲の終了タグの後に挿入します。

ループディレクティブによるコードブロックの繰り返し

コードブロックの一部またはコードブロック全体を繰り返すには、次のシンタックスを使用します。

```
<@ loop (@@param1@@,@@param2@@) @>code block<@ endloop @>
```

サーバービヘイビアを作成するときには、ループ構造を使用して、コードブロックを指定された回数繰り返すことができます。

```
<@ loop (@@param1@@,@@param2@@,@@param3@@,@@param_n@@) @>code block
<@ endloop @>
```

ループディレクティブでは、引数として、カンマで区切られたパラメータ配列を使用します。この場合、ユーザーはパラメータ配列引数を使用して、1 つのパラメータに対して複数の値を指定できます。繰り返すテキストは、**n** 回複製されます。ここで、**n** はパラメータ配列の引数の長さを表します。複数のパラメータ配列引数を指定する場合は、すべての配列を同じ長さにする必要があります。ループの **i** 回目の検証で、パラメータ配列の **i** 番目のエレメントは、コードブロックの関連するパラメータインスタンスを置換します。

後でサーバービヘイビアにダイアログボックスを作成するときに、ページデザイナーがパラメータ配列の作成に使用できるコントロールをそのダイアログボックスに追加することができます。Dreamweaver には、ダイアログボックスの作成に利用できる簡単な配列コントロールが用意されています。このコントロールは、テキストフィールドカンマ区切りリストと呼ばれ、サーバービヘイビアビルダーから使用できます。より複雑なユーザーインターフェイスエレメントを作成するには、API マニュアルで、配列を作成するためのコントロール (グリッド コントロールなど) を持つダイアログボックスの作成に関する項目を参照してください。

条件およびループディレクティブは、いくつでも条件ディレクティブ内にネストできます。たとえば、ある条件が true であればループを実行するように指定できます。

次の例は、このような繰り返しコードブロックを使用してサーバービヘイビアを作成する方法を示します。この例は、ストアードプロシージャへのアクセスに使用される ColdFusion ビヘイビアです。

```
<CFSTOREDPROC procedure="AddNewBook"
    datasource=#MM_connection_DSN#
    username=#MM_connection_USERNAME#
    password=#MM_connection_PASSWORD#>
<CFPROCPARAM type="IN" dbvarname="@CategoryId" value="#Form.CategoryID#"
    cfsqltype="CF_SQL_INTEGER">
<CFPROCPARAM type="IN" dbvarname="@ISBN" value="#Form.ISBN#"
    cfsqltype="CF_SQL_VARCHAR">
</CFSTOREDPROC>
```

この例では、CFSTOREDPROC タグの中に CFPROCPARAM タグが含まれますが、条件によってはない場合もあります。ただし、ループディレクティブがない場合は、CFPROCPARAM タグを CFSTOREDPROC タグの中に含めることはできません。ループディレクティブを使用せずに、これをサーバービヘイビアとして作成する場合には、メインの CFSTOREDPROC タグと、複数のタイプの構成要素を持つ CFPROCPARAM タグの 2 つに分割する必要があります。

ループディレクティブを使用すると、同じプロシージャを次のように記述できます。

```
<CFSTOREDPROC procedure="@@procedure@@"
datasource=#MM_@@conn@@_DSN#
username=#MM_@@conn@@_USERNAME#
password=#MM_@@conn@@_PASSWORD#>
<@ loop (@@paramName@@,@@value@@,@@type@@) @>
    <CFPROCPARAM type="IN"
    dbvarname="@@paramName@@"
    value="@@value@@"
    cfsqltype="@@type@@">
<@ endloop @>
</CFSTOREDPROC>
```

注意："@>" の後の新しい行は無視されます。

ユーザーが、サーバービヘイビアのダイアログボックスに、次のパラメータ値を入力するとします。

```
procedure = "proc1"
conn = "connection1"
paramName = ["@CategoryId", "@Year", "@ISBN"]
value = ["#Form.CategoryId#", "#Form.Year#", "#Form.ISBN#"]
type = ["CF_SQL_INTEGER", "CF_SQL_INTEGER", "CF_SQL_VARCHAR"]
```

この場合、サーバービヘイビアは、次のランタイムコードをページに挿入します。

```
<CFSTOREDPROC procedure="proc1"
datasource=#MM_connection1_DSN#
username=#MM_connection1_USERNAME#
password=#MM_connection1_PASSWORD#>
<CFPROCPARAM type="IN" dbvarname="@CategoryId" value="#Form.CategoryId#"
    cfsqltype="CF_SQL_INTEGER">
<CFPROCPARAM type="IN" dbvarname="@Year" value="#Form.Year#"
    cfsqltype="CF_SQL_INTEGER">
<CFPROCPARAM type="IN" dbvarname="@ISBN" value="#Form.ISBN#"
    cfsqltype="CF_SQL_VARCHAR">
</CFSTOREDPROC>
```

注意：パラメータ配列は、条件ディレクティブ式の一部として使用する場合を除き、ループの外では使用できません。

ループディレクティブの _length 変数および _index 変数の使用

ループディレクティブには、埋め込まれた if 条件で使用可能な 2 つの組み込み変数があります。この変数は、_length と _index です。変数 _length は、ループディレクティブによって処理される配列の長さを評価します。一方、変数 _index は、ループディレクティブの現在のインデックスを評価します。変数がディレクティブとしてのみ認識され、実際のパラメータとしてループに渡されないようにするには、どちらの変数も @@ で囲まないでください。

組み込み変数をページディレクティブの属性 import に適用することができます。属性 import では、パッケージをカンマで区切ってください。loop ディレクティブが属性 import 全体にかかる場合、1 回目のループでは属性名 import= のみを出力します。これには、終了の二重引用符 (") が含まれます。ループの最後の反復ではカンマは出力されません。 組み込み変数を使用して、次のように記述します。

```
<@loop (@@Import@@)@>
<@ if(_index == 0)@>import="
<@endif@>@@Import@@<@if (_index == _length-1)@>"<@else@>,
<@ endif @>
<@endloop@>
```

サーバービヘイビアのパラメータの要求

多くのサーバービヘイビアでは、ページデザイナーがパラメータ値を指定する必要があります。この値は、サーバービヘイビアのコードがページに挿入される前に指定する必要があります。

ダイアログボックスを作成するには、デザイナー指定パラメータをコードに定義します。次に、サーバービヘイビアが必要とするパラメータ値をページデザイナーが入力できるようにするダイアログボックスを生成します。

注意：ページデザイナーが選択した特定のタグに対して相対的にコードが挿入されるように指定した場合、つまり [コードの挿入] ポップアップメニューから [特定タグに対する相対位置] を選択した場合は、コードブロックにパラメータが自動的に追加されます。このパラメータにより、ビヘイビアのダイアログボックスにタグメニューが追加され、ページデザイナーがタグを選択できるようになります。

サーバービヘイビアコードでのパラメータの定義

1 指定されたパラメータ値を挿入するコードに、パラメータマーカーを入力します。パラメータのシンタックスは、次のとおりです。

```
@@parameterName@@
```

2 formParam ストリングをパラメータマーカー (@@) で囲みます。

```
<% Session("lang_pref") = Request.Form("@@formParam@@"); %>
```

たとえば、サーバービヘイビアに次のコードブロックが含まれるとします。

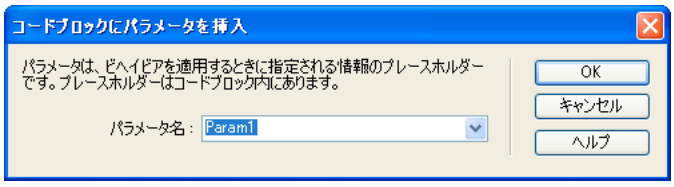
```
<% Session("lang_pref") = Request.Form("Form_Object_Name"); %>
```

Form_Object_Name の値をページデザイナーが指定できるようにするには、パラメータマーカー (@@) でストリングを囲みます。

```
<% Session("lang_pref") = Request.Form("@@Form_Object_Name@@"); %>
```

また、ストリングをハイライト表示してから、[コードブロックにパラメータを挿入] ボタンをクリックすることもできます。パラメータ名を入力して、[OK] をクリックします。Dreamweaver によって、ハイライト表示されたストリングのすべてのインスタンスが、パラメータマーカー内に指定したパラメータ名に置き換えられます。

Dreamweaver は、パラメータマーカーで囲まれたストリングを使用して、生成するダイアログボックスのコントロールのラベルを指定します (以下の手順を参照してください)。前述の例では、Dreamweaver は次のラベルを使用してダイアログボックスを作成します。



注意：サーバービヘイビアのコードのパラメータ名には、スペースは使用できません。したがって、ダイアログボックスのラベルにはスペースを指定できません。ラベルにスペースを含めるには、生成した HTML ファイルを編集します。

パラメータ値を要求するサーバービヘイビアのダイアログボックスの作成

1 サーバービヘイビアビルダーで [次へ] をクリックします。

2 ダイアログボックスでのコントロールの表示順を変更するには、パラメータを選択してから、上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

3 パラメータのコントロールを変更するには、パラメータを選択してから、[表示] 列で別のコントロールを選択します。

4 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によって、定義したそれぞれのデザイナー指定パラメータに対して、ラベル付きコントロールを持つダイアログボックスが生成されます。

ダイアログボックスの表示

❖ [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) の [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューからカスタムサーバービヘイビアを選択します。

サーバービヘイビア用に作成したダイアログボックスの編集

1 [ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] メニューコマンドを選択して [サーバービヘイビア] パネルを開き、[+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [サーバービヘイビアを編集] を選択します。

2 リストからサーバービヘイビアを選択し、[編集] をクリックします。

3 [次へ] をクリックします。

コードで定義したデザイナー指定パラメータがすべてリストされているダイアログボックスが表示されます。

4 ダイアログボックスでのコントロールの表示順を変更するには、パラメータを選択してから、上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

5 パラメータのコントロールを変更するには、パラメータを選択してから、[表示] 列で別のコントロールを選択します。

6 [OK] をクリックします。

サーバービヘイビアの編集と修正

サーバービヘイビアビルダーで作成したサーバービヘイビアは、すべて編集可能です。Dreamweaver Exchange の Web サイトからダウンロードしたサーバービヘイビアや、サードパーティ製のサーバービヘイビアも同様です。

サーバービヘイビアをページに適用してから、Dreamweaver でそのビヘイビアを編集すると、以前のビヘイビアのインスタンスは [サーバービヘイビア] パネルに表示されなくなります。[サーバービヘイビア] パネルでは、認識しているサーバービヘイビアのコードと一致するコードのページを検索します。サーバービヘイビアのコードを変更すると、そのページ上にある変更前のビヘイビアは認識されなくなります。

関連項目

559 ページの「サーバービヘイビアビルダーの使用」

562 ページの「コードブロックの配置」

パネルでの変更前と変更後の両方のビヘイビアの保持

❖ [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) の [+] ボタンをクリックし、[新規サーバービヘイビア] を選択して、変更前にサーバービヘイビアのコピーを作成しておきます。

サーバービヘイビアビルダーで作成したサーバービヘイビアのコードの編集

1 [ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] メニューコマンドを選択して [サーバービヘイビア] パネルを開き、[+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [サーバービヘイビアを編集] を選択します。

[サーバービヘイビアを編集] ダイアログボックスに現在のサーバーテクノロジーに対応するビヘイビアがすべて表示されます。

2 サーバービヘイビアを選択し、[編集] をクリックします。

3 適切なコードブロックを選択し、コード、パラメータマーカー、またはページに挿入するコードブロックの位置を修正します。

4 修正したコードにデザイナー指定パラメータが含まれていない場合は、[OK] をクリックします。

Dreamweaver によりダイアログボックスを表示しないサーバービヘイビアが再生成されます。[サーバービヘイビア] パネルの [+] ポップアップメニューに、この新しいサーバービヘイビアが追加されます。

5 修正したコードにデザイナー指定パラメータが含まれている場合は、[次へ] をクリックします。

以前のダイアログボックスに上書きして新しいダイアログボックスを作成するかどうか Dreamweaver により尋ねられます。変更を加え、[OK] をクリックします。

Dreamweaver によって、すべての変更がサーバービヘイビアの EDML ファイルに保存されます。

コーディングのガイドライン

一般に、サーバービヘイビアのコードは、簡潔かつ強固であることが必要です。Web アプリケーションデベロッパーは、自分の作成したページに追加されるコードに対してはきわめて慎重です。ColdFusion、ASP.NET、JavaScript、VBScript、PHP、Visual Basic、Java などの各ドキュメントタイプの言語で一般的に使用されているコーディング方法に従ってください。コメントを記述する際は、Web デザイナー、インタラクションデザイナー、他の Web アプリケーションデベロッパーなど、別の技術を専門とするユーザーもコードが理解できるように考慮する必要があります。コードの目的を正確に説明するコメント、およびページに設定するための指示を記述します。

サーバービヘイビアを作成する際、以下に示すコーディングのガイドラインに留意してください。

エラーチェック 重要な要件。エラーに対して適切に対処できるように、サーバービヘイビアのコードを作成しておく必要があります。あらゆるエラーの可能性を予測する努力が必要です。たとえば、パラメータ要求が失敗するとどうなるか、クエリーから何もレコードが戻されない場合はどうなるか、などについて考慮します。

固有の名前 コードを明確に識別できるだけでなく、既存のコードで使用されている名前との競合を避けることができます。たとえば、ページに hideLayer() という関数と ERROR_STRING というグローバル変数が含まれている場合、作成したサーバービヘイビアによってこれらと同じ名前のコードが挿入されると、既存のコード内でサーバービヘイビアの競合が発生します。

コード接頭辞 作成したランタイム関数やグローバル変数をページ内で容易に識別できます。よく使用される方法として、自分のイニシャルを接頭辞として追加する方法があります。MM_ という接頭辞は、Macromedia 専用の接頭辞として割り当てられているので使用しないでください。Macromedia では、すべての関数とグローバル変数の前に接頭辞 MM_ を付けて、ユーザーが作成したコードとの名前の競合を回避しています。

```
var MM_ERROR_STRING = "...";
function MM_hideLayer() {
```

類似したコードブロックを作成しない ようにすることで、自分で作成したコードと他のブロック内のコードが酷似しないようにします。ページの 1 つのコードブロックが他のコードブロックと酷似していると、[サーバービヘイビア] パネルで、最初のコードブロックが 2 番目のコードブロックのインスタンスとして (またはその逆として)、誤って識別される可能性があります。この問題を簡単に回避するには、コードブロックにコメントを追加して、他のコードブロックと区別します。

関連項目

559 ページの「カスタムサーバービヘイビアについて」

559 ページの「カスタムサーバービヘイビアのワークフロー」

サーバービヘイビアのテスト

Dreamweaver Exchange では、作成したサーバービヘイビアごとに、次のテストを実行することをお勧めします。

- [サーバービヘイビア] パネルでビヘイビアを適用します。ダイアログボックスが表示されたときは、各フィールドに有効なデータを入力し、[OK] をクリックします。ビヘイビアを適用したときに、エラーが発生しないかどうかを確認します。サーバービヘイビアのランタイムコードが [コードインスペクタ] に表示されていることを確認します。
- もう一度サーバービヘイビアを適用し、ダイアログボックスの各フィールドに無効なデータを入力してみます。フィールドを空白のままにする、大きい数値や負の数値を入力する、無効な文字 (/、?、:、* など) を入力する、数値フィールドに文字を入力するなどの方法でテストします。無効なデータを処理するフォームバリデートルーチンを記述します。バリデートルーチンにはハンドコーディングが含まれますが、本マニュアルでは取り上げません。

作成したサーバービヘイビアが正常にページに適用されたら、次のテストを実行します。

- [サーバービヘイビア] パネルで、サーバービヘイビア名が、ページに追加されたビヘイビアのリストに表示されているかどうかを確認します。
- サーバーサイドスクリプトを使用する場合は、そのアイコンがページに表示されているかどうかを確認します。一般的なサーバーサイドスクリプトのアイコンは、金の盾の形です。アイコンを表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド] メニューコマンドを選択し、[不可視エレメント] を有効にします。
- コードビュー ([表示]-[コード]) で、無効なコードが生成されていないことを確認します。

また、サーバービヘイビアで、ドキュメントにデータベースへの接続を確立するコードを挿入している場合は、テスト用データベースを作成し、そのドキュメントに挿入されているコードをテストします。種類やサイズの異なるデータセットを生成するクエリーを定義して、接続が確立できるか確認します。

最後に、ページをサーバーにアップロードし、ブラウザでそのページを開きます。ページの HTML ソースコードを表示して、サーバーサイドスクリプトによって無効な HTML コードが生成されていないか確認します。

フォームの作成

フォームについて

Dreamweaver を使用すると、テキストフィールド、パスワードフィールド、ラジオボタン、チェックボックス、ポップアップメニュー、クリックできるボタンなどのフォームオブジェクトを配置したフォームを作成できます。 また、Dreamweaver では、ビジターが入力した情報を検査するコードを作成することもできます。たとえば、入力された電子メールアドレスに @ 記号があるか、必須テキストフィールドに値が入力されているかなどを確認できます。

ColdFusion フォームと ASP.NET フォームの詳細については、「640 ページの「ColdFusion MX 7 フォームの作成」」および「651 ページの「ASP.NET フォームの作成」」を参照してください。

フォームのクライアントサイドでの役割

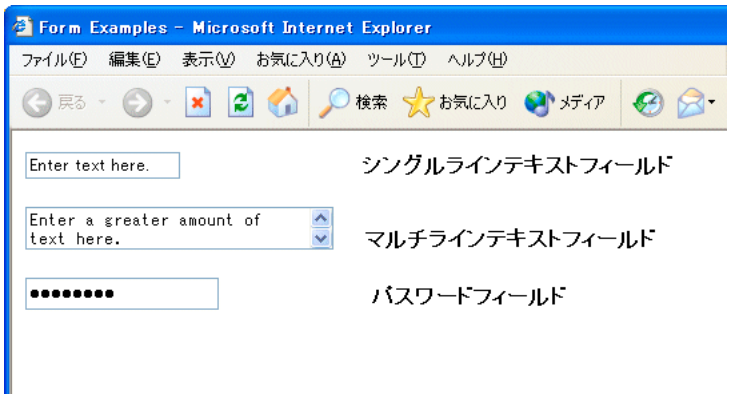
フォームは、クライアントとサーバーの関係におけるクライアントサイドをサポートします。ビジターが Web ブラウザ (クライアント) に表示されたフォームに情報を入力し、送信ボタンをクリックすると、その情報はサーバーに送信され、サーバー上のサーバーサイドスクリプトやアプリケーションで処理されます。サーバーは、要求された情報をユーザー、つまりクライアントに送り返すか、フォームの内容に基づいて何らかのアクションを実行することで、応答します。

注意：フォームデータを電子メール受信者に直接送信することもできます。

フォームオブジェクト

Dreamweaver では、フォームの入力タイプのことを「フォームオブジェクト」といいます。フォームオブジェクトは、ユーザー入力を可能にするための機構です。フォームには、以下のフォームオブジェクトを追加できます。

テキストフィールド あらゆる英数字を入力できます。テキストフィールドは、シングルラインまたはマルチラインのフィールドとして表示できるほか、パスワードフィールドとして表示することもできます。パスワードフィールドでは、入力したテキストが第三者の目に触れないようにアスタリスクやブレットに置き換えられます。

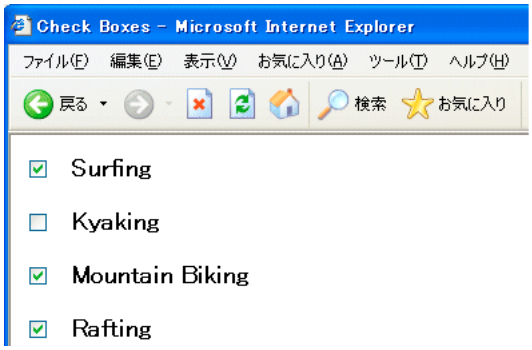


注意：パスワードフィールドに入力されたパスワードおよびその他の情報は、サーバーに送信される際に暗号化されるわけではありません。転送データは、不正に取得され、英数字テキストとして読み取られる可能性があります。このため、データを保護する必要がある場合は、そのデータを暗号化してください。

非表示フィールド 名前、電子メールアドレス、表示の傾向など、一度入力した情報を保存できるので、ユーザーは次に同サイトへアクセスしたときにそのデータを使用できます。

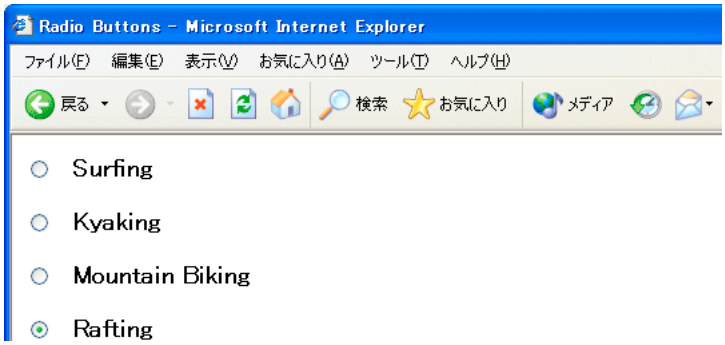
ボタン クリックするとアクションを実行します。ボタンのカスタム名またはラベルを追加したり、" 送信 " または " リセット " など定義済みのラベルを使用することもできます。フォームデータをサーバーに送信する場合や、フォームをリセットする場合にボタンを使用します。また、スクリプト内で定義した他の処理タスクを割り当てることもできます。たとえば、ボタンによって、割り当てられた値を基に選択された項目の合計費用を計算することもできます。

チェックボックス 1 つのオプショングループで複数の応答を選択できるように設定するときに使用します。ユーザーは、必要に応じてオプションを複数選択できます。次の例では、[サーフィン]、[マウンテンバイク]、[急流下り] の 3 つのチェックボックス項目が選択されています。



ラジオボタン 1 つの項目しか選択できない排他的な選択リストです。ラジオボタングループで 1 つのボタンを選択すると、そのグループの他のボタンはすべて選択解除されます。グループは、共通の名前を持つ複数のボタンで構成されます。次

の例では、現在 [急流下り] がオンになっています。ここでユーザーが [サーフィン] をクリックすると、[急流下り] ボタンは自動的にオフになります。



リストメニュー スクロールリストにオプションの値を表示します。ユーザーはこのリストから複数のオプションを選択できます。[リスト] オプションを選択すると、メニューにオプションの値が表示され、ユーザーはその中から 1 つだけ選択できます。メニューは、多くのアイテムを限られたスペースで表示する場合や、サーバーに返される値を制御する必要がある場合に使用します。テキストフィールドではユーザーが自由に情報を入力できるため、無効な値でも入力可能ですが、メニューではメニューから返される値を設計者が設定できます。

注意： HTML フォーム上のポップアップメニューは、グラフィックポップアップメニューとは異なります。グラフィックポップアップメニューの作成、編集、および表示と非表示の切り替えについては、この項の最後にあるリンクを参照してください。

ジャンプメニュー ナビゲーションリストまたはポップアップメニューのことで、それぞれのオプションは、ドキュメントまたはファイルにリンクしています。

ファイルフィールド ユーザーがコンピュータ上のファイルを参照して、そのファイルをフォームのデータとしてアップロードできるように設定するときに使用します。

イメージフィールド フォームにイメージを挿入するときに使用します。イメージフィールドは、[送信] ボタンや [リセット] ボタンなどのグラフィックボタンの作成に使用します。イメージを使用して、データの送信以外のタスクを実行するには、ビヘイビアをフォームオブジェクトに関連付ける必要があります。

関連項目

344 ページの「[ポップアップメニューを表示] ビヘイビアの適用」

HTML フォームの作成

1 ページを開き、フォームを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[フォーム] を選択するか、[挿入] バーの [フォーム] タブを選択して [フォーム] アイコンをクリックします。

デザインビューでは、フォームは赤い点線のアウトラインで示されます。アウトラインが表示されない場合は、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。

3 プロパティインスペクタ ([ウィンドウ]-[プロパティ]) で、HTML フォームのプロパティを設定します。

a ドキュメントウィンドウで、フォームのアウトラインをクリックしてフォームを選択します。

b[フォーム名] ボックスに、フォームを識別する固有の名前を入力します。

フォームに名前を付けると、JavaScript や VBScript などのスクリプト言語を使用してそのフォームの参照または制御できるようになります。フォームに名前を付けない場合は、Dreamweaver によってシンタックス formn が使用され、名前が生成されます。*n* の値は、ページにフォームが追加されるごとに増加します。

c[アクション] ボックスで、フォームデータを処理するページまたはスクリプトを指定します。該当するページまたはスクリプトを選択するには、パスを入力するか、フォルダアイコンをクリックします。

d[メソッド] ポップアップメニューで、フォームデータをサーバーに送信するためのメソッドを指定します。 次のいずれかのオプションを設定します。

指定なし ブラウザの初期設定を使用してフォームデータがサーバーに送信されます。通常、初期設定値は GET メソッドです。

GET ページを要求する URL に値が付加されます。

POST フォームデータが HTTP 要求に埋め込まれます。

GET メソッドを使用して長いフォームを送信しないでください。 URL の長さは 8192 文字に制限されています。送信するデータが大きすぎる場合は、データは切り捨てられ、予期しない処理結果が生じたり、処理に失敗する可能性があります。

GET メソッドによって渡されたパラメータで生成される動的ページは、ブックマークに登録することができます。これは、ブラウザの [アドレス] ボックスに表示される URL には、ページを再生成する上で必要なすべての値が含まれているためです。それに対して、POST メソッドによって渡されたパラメータで生成される動的ページは、ブックマークに登録できません。

秘密のユーザー名やパスワード、クレジットカード番号など、機密性の高い情報を収集する場合には、POST メソッドの方が GET メソッドを使用するよりも安全性が高くなります。ただし、POST メソッドによって送信される情報は暗号化されていないので、ハッカーには容易に入手される可能性があります。セキュリティを確保するには、安全なサーバーに安全な方法で接続するようにします。

e(オプション) [エンコーディングタイプ] ポップアップメニューで、サーバーに送信して処理するデータの MIME エンコードタイプを指定します。

初期設定の application/x-www-form-urlencode 設定は通常、POST メソッドと共に使用されます。ファイルアップロードフィールドを作成する場合は、multipart/form-data MIME タイプを指定します。

f(オプション) [ターゲット] ポップアップメニューで、呼び出されたプログラムが返したデータを表示するためのウィンドウを指定します。

名前が付けられたウィンドウが開いていない場合は、名前を付けた新しいウィンドウが開きます。必要に応じて、[ターゲット] の値を以下のいずれかに設定します。

_blank 送信先ドキュメントを、新規の名前のないウィンドウで開きます。

_parent 送信先ドキュメントを、現在表示されているドキュメントの親ウィンドウで開きます。

_self 送信先ドキュメントを、フォームが送信されたウィンドウと同じウィンドウで開きます。

_top 送信先ドキュメントを、現在のウィンドウのボディ部分で開きます。この値は、元のドキュメントがフレームで表示されている場合でも、送信先ドキュメントがウィンドウ全体に表示されるようにするためのものです。

4 ページにフォームオブジェクトを挿入します。

a フォーム内でフォームオブジェクトを表示する位置に挿入ポイントを置きます。

b[挿入]-[フォーム] または [挿入] バーの [フォーム] カテゴリでオブジェクトを選択します。

c オブジェクトのプロパティを設定します。

d プロパティインスペクタで、オブジェクトの名前を入力します。

それぞれのテキストフィールド、非表示フィールド、チェックボックス、およびリスト / メニューオブジェクトには、フォーム内で一意に識別されるように、固有の名前を割り当てる必要があります。フォームオブジェクトの名前に、スペースまたは特殊文字を含めることはできません。英数字と下線 (_) の任意の組み合わせを使用できます。オブジェクトに割り当てたラベルは、フィールドの値 (入力されたデータ) を保存する変数名となります。この値は、サーバーに送信されて処理されます。

注意：同一グループのラジオボタンすべてに、同じ名前を付ける必要があります。

e ページ上のテキストフィールド、チェックボックス、またはラジオボタンオブジェクトにラベルを付けるには、オブジェクトの横をクリックして、ラベルを入力します。

5 フォームのレイアウトを調整します。

行の区切り、段落の区切り、フォーマット済みのテキスト、またはテーブルを使用して、フォームをフォーマットします。1 ページに複数のフォームを入れることはできますが、別のフォームにフォームを追加すること、つまり、タグのオーバーラップはできません。

フォームをデザインするとき、フォームフィールドに説明のテキストを付けてユーザーが質問内容を理解するようにします。たとえば、" 名前を入力してください " というラベルによって名前の情報を要求します。

テーブルを使用して、フォームオブジェクトとフィールドラベルを構造化します。フォームでテーブルを使用するときには、必ずすべての table タグが form タグの間にあるようにします。

フォームの作成のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0160_jp を参照してください。

CSS を使用したフォームのスタイル指定のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0161_jp を参照してください。

関連項目

651 ページの「ASP.NET フォームの作成」

640 ページの「ColdFusion MX 7 フォームの作成」

577 ページの「動的フォームオブジェクトについて」

580 ページの「HTML フォームオブジェクトへの JavaScript ビヘイビアの割り当て」

580 ページの「HTML フォームボタンへのカスタムスクリプトの割り当て」

ラジオボタンのグループの挿入

1 挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入]-[フォーム]-[ラジオボタングループ] を選択します。

3 ダイアログボックスの入力を完了させ、[OK] をクリックします。

a[名前] ボックスに、ラジオボタングループの名前を入力します。

ラジオボタンを、サーバーにパラメータを返すように設定するには、名前にパラメータを関連付けます。たとえば、グループに myGroup という名前を付け、フォームメソッドを GET (つまり、ユーザーが送信ボタンをクリックしたときに、フォームパラメータではなく、URL パラメータを渡すようにする) に設定すると、式 myGroup=”*CheckedValue*” が URL でサーバーに渡されます。

b[+] ボタンをクリックして、ラジオボタンをグループに追加します。新しいボタンのラベルとチェック済み値を入力します。

c 上向き矢印または下向き矢印をクリックし、ボタンを並べ替えます。

d ページをブラウザで表示するときに、特定のラジオボタンがオンの状態で表示されるようにするには、ラジオボタンと同じ値を [同等値の選択] ボックスに入力します。

固定値を入力するか、ボックスの横の稲妻アイコンをクリックし、チェック済み値として使用可能な値を含むレコードセットを選択して、動的な値を指定します。いずれの場合も、指定する値は、グループのいずれかのラジオボタンのチェック済み値と一致している必要があります。ラジオボタンのチェック済み値を表示するには、それぞれのラジオボタンを選択し、プロパティインスペクタを表示します ([ウィンドウ]-[プロパティ])。

eDreamweaver によって実行されるボタンのレイアウトの方法を選択します。

改行またはテーブルを使用してボタンをレイアウトします。テーブルオプションを選択すると、Dreamweaver によって 1 列のテーブルが作成され、ラジオボタンが左に、ラベルが右に設定されます。

プロパティインスペクタで、またはコードビューから直接プロパティを設定することもできます。

イメージボタンの挿入

イメージをボタンアイコンとして使用できます。イメージを使用して、データの送信以外のタスクを実行するには、ビヘイビアをフォームオブジェクトに関連付ける必要があります。

1 ドキュメントで、挿入ポイントをフォームのアウトライン内に設定します。

2 [挿入]-[フォーム]-[イメージフィールド] を選択します。

[イメージソース] ダイアログボックスが表示されます。

3 [イメージソースの選択] ダイアログボックスでボタンのイメージを選択し、[OK] をクリックします。

4 プロパティインスペクタで、以下のオプションを設定します。

イメージボタン ボタンに名前を割り当てます。" 送信 " と " リセット " という定義済みの 2 つの名前は、それぞれ、フォームのデータを処理用のアプリケーションまたはスクリプトに提出する、およびすべてのフォームフィールドをオリジナルの値にリセットする、ということを意味します。

ソース ボタンに使用するイメージを指定します。

代替 イメージがブラウザにロードされなかった場合に表示する説明文を入力できます。

行揃え オブジェクトの align 属性を設定します。

イメージの編集 初期設定のイメージエディタが起動し、イメージファイルが開いて編集可能になります。

クラス オブジェクトに CSS ルールを適用できます。

5 ボタンに JavaScript ビヘイビアを関連付けるには、イメージを選択してから、[ビヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) でビヘイビアを選択します。

ファイルアップロードフィールドの挿入

ユーザーが、自分のコンピュータからアップロードするファイル (ワードプロセッサの文書やグラフィックファイルなど) を選択し、そのファイルをサーバーに送信するためのファイルアップロードフィールドを作成できます。ファイルフィールドは、[参照] ボタンがあることを除けば、外観は他のテキストフィールドと同じです。ユーザーは、アップロードするファイルへのパスを手動で入力したり、[参照] ボタンでファイルの場所を検索して選択することができます。

ファイルアップロードフィールドを使用するには、ファイル転送を処理できるサーバーサイドスクリプトまたはページが必要です。フォームデータの処理に使用するサーバーテクノロジーのマニュアルを参照してください。たとえば、PHP を使用する場合は、『PHP マニュアル』の「ファイルアップロードの処理」(http://us2.php.net/manual/ja/features.file-upload.php) を参照してください。

ファイルフィールドの場合、ブラウザからサーバーにファイルを転送するには、POST メソッドを使用します。ファイルは、フォームの [アクション] ボックスで指定されたアドレスに送信されます。

注意： ファイルフィールドを使用する前に、匿名ファイルのアップロードが許可されているかどうか、サーバーのシステム管理者に確認してください。

1 ページにフォームを挿入します ([挿入]-[フォーム])。

2 プロパティインスペクタを表示するフォームを選択します。

3 フォームの [メソッド] を POST に設定します。

4 [エンコーディングタイプ] ポップアップメニューから multipart/form-data を選択します。

5 [アクション] ボックスで、アップロードされるファイルを処理できるサーバーサイドスクリプトまたはページを指定します。

6 フォームのアウトラインの内側に挿入ポイントを置き、[挿入]-[フォーム]-[ファイルフィールド] を選択します。

7 プロパティインスペクタで、以下のオプションを設定します。

ファイル送信 ファイルフィールドオブジェクトの名前を指定します。

文字幅 フィールドに表示できる最大文字数を設定します。

最大文字数 フィールドに保持する最大文字数を指定します。ファイルの場所を参照して指定する場合は、ファイル名およびパスは指定された最大文字数を超える場合があります。しかし、ユーザーがファイル名およびパスを入力する場合は、ファイルフィールドは最大文字数を超えることはできません。

HTML テキストフィールドオブジェクトのプロパティ

テキストフィールドオブジェクトを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

文字幅 フィールドに表示できる最大文字数を設定します。この数値は、フィールドに入力できる最大文字数を指定する [最大文字数] の数値より小さくてもかまいません。たとえば、[文字幅] を 20 (初期設定値) に設定している場合は、ユーザーが 100 文字入力しても、20 文字しかテキストフィールドには表示されません。ただし、フィールドに表示されていない文字も、フィールドオブジェクトによって認識され、サーバーに送信されます。

最大文字数 シングルラインのテキストフィールドに入力できる最大文字数を設定します。たとえば、[最大文字数] を使用して郵便番号を 5 桁に、またはパスワードを 10 文字に制限します。[最大文字数] ボックスを空白のままにすると、文字数の制限はなくなります。ユーザーが、テキストフィールドの幅に収まる文字数 (長さ) を超えて入力した場合、テキストはスクロールされます。最大文字数を超える入力があった場合、警告音が鳴ります。

ライン数 マルチラインのテキストフィールドの高さを設定します。このオプションは、[マルチライン] オプションを選択した場合にのみ設定できます。

折り返し 定義済みのテキスト領域に表示できる長さを超える情報をユーザーが入力した場合に、その情報をどのように表示するかを指定します。このオプションは、[マルチライン] オプションを選択した場合にのみ設定できます。折り返しのオプションは、次のとおりです。

- **オフまたは初期設定** 選択すると、テキストは次の行に折り返されなくなります。ユーザーがテキスト領域の右の境界線を越えて入力すると、テキストは左方向にスクロールされます。挿入ポイントをテキスト領域の次の行に移動するには、Return キーを押す必要があります。
- **仮想** 選択すると、テキスト領域でのテキストの折り返しが設定されます。ユーザーがテキスト領域の右の境界線を越えて入力すると、テキストは次の行に折り返されます。処理のためにデータが送信されるときには、折り返しはデータに適用されず、一続きのデータとして送信されます。
- **物理的** 選択すると、テキスト領域だけでなく、処理用に送信するデータにもテキストの折り返しが設定されます。

タイプ [シングルライン]、[マルチライン]、[パスワード] のいずれかを指定します。

- **シングルライン** 選択すると、input タグの type 属性が text に設定されます。[文字幅] の設定は、size 属性にマッピングされ、[最大文字数] の設定は maxlength 属性にマッピングされます。
- **マルチライン** 選択すると、textarea タグが設定されます。[文字幅] の設定は、cols 属性にマッピングされ、[ライン数] の設定は rows 属性にマッピングされます。
- **パスワード** 選択すると、input タグの type 属性が password に設定されます。[文字幅] と [最大文字数] の設定は、シングルラインテキストフィールドと同じ属性にマッピングされます。ユーザーがパスワードテキストフィールドにテキストを入力すると、入力したテキストは、他人に見られないように黒丸またはアスタリスクとして表示されます。

初期値 フォームを最初にロードするときフィールドに表示される値を割り当てます。たとえば、フィールドに、ユーザー入力情報についてのメモや入力例を示すことができます。

クラス オブジェクトに CSS ルールを適用できます。

ボタンオブジェクトのオプション

ボタン ボタンに名前を割り当てます。" 送信 " と " リセット " という定義済みの 2 つの名前は、それぞれ、フォームのデータを処理用のアプリケーションまたはスクリプトに提出する、およびすべてのフォームフィールドをオリジナルの値にリセットする、ということを意味します。

ラベル ボタンに表示するテキストを入力します。

アクション ボタンがクリックされたときに生じる動作を設定します。

- **フォーム送信** ボタンがクリックされたときにフォームデータを処理のために送信する場合に選択します。データは、フォームの [アクション] プロパティで指定されているページまたはスクリプトに送信されます。

• **フォームリセット** ボタンがクリックされたときにフォームの内容をクリアする場合に選択します。

• **なし** ボタンがクリックされたときに実行されるアクションを指定する場合に選択します。たとえば、ボタンをクリックしたときに別のページを開く JavaScript ビヘイビアを追加できます。

クラス 選択すると、オブジェクトに CSS ルールが適用されます。

HTML チェックボックスオブジェクトのオプション

チェック済み値 チェックボックスをオンにした場合にサーバーに送信される値を設定します。たとえば、アンケートの回答などで、" 同意する " 場合は値を 4 に、" まったく同意できない " 場合は値を 1 に設定します。

初期値 フォームがブラウザにロードされるときにチェックボックスをオンの状態にするかどうかを指定します。

動的 選択すると、チェックボックスの初期値がサーバーによって動的に決定されます。たとえば、データベースレコードに格納されている Yes/No の情報をチェックボックスを使用して視覚的に表示することができます。この情報は、デザイン時には表示されません。実行時にサーバーがデータベースレコードを読み取り、その値が Yes であればチェックボックスをオンにします。

クラス オブジェクトにカスケーディングスタイルシート (CSS) ルールが適用されます。

ラジオボタンオブジェクトのオプション

チェック済み値 ラジオボタンを選択した場合にサーバーに送信される値を設定します。たとえば、ユーザーが [スキー] を選択したことを示すには [チェック済み値] ボックスに「**skiing**」と入力します。

初期値 フォームがブラウザにロードされるときにラジオボタンを選択されている状態にするかどうかを指定します。

動的 ラジオボタンの初期値がサーバーによって動的に決定されます。たとえば、データベースレコードに保存されている情報をラジオボタンを使用して視覚的に表示することができます。この情報は、デザイン時には表示されません。実行時にサーバーがデータベースレコードを読み取り、その値が指定した値と一致すれば、該当するラジオボタンが選択されます。

クラス 選択すると、オブジェクトに CSS ルールが適用されます。

メニューのオプション

リスト / メニュー メニューに名前を割り当てます。固有の名前を指定してください。

タイプ クリックされたときにドロップダウン形式で表示する ([メニュー] オプション) か、スクロール可能なリストとして表示する ([リスト] オプション) かを指定します。フォームがブラウザに表示されたときに、選択項目を 1 つだけ表示するには、[メニュー] オプションを選択します。下向き矢印をクリックすると、その他の選択項目が表示されます。

フォームがブラウザに表示されたときに選択項目の一部または全部をリストとして表示する場合や、複数の項目を選択できるようにする場合は、[リスト] オプションを選択します。

高さ ([リスト] タイプのみ) メニューに表示する項目の数を指定します。

選択 ([リスト] タイプのみ) リストから複数の項目を選択できるようにするかどうかを指定します。

リスト値 フォームメニューに選択項目を追加するためのダイアログボックスを開きます。

1 [+] ボタンと [-] ボタンを使用して、リストのアイテムを追加または削除します。

2 メニューアイテムごとに、ラベルのテキストとオプションの値を入力します。

リストの各アイテムには、リストに表示されるテキストであるラベルと、アイテムが選択された場合に処理アプリケーションに送信されるアイテムの値が含まれます。値が指定されていないと、代わりにラベルが処理アプリケーションに送信されます。

3 リストのアイテムを並べ替えるには、上向き矢印と下向き矢印のボタンを使用します。

各アイテムは、[リスト値] ダイアログボックスに表示されている順序と同じ順序でメニューに表示されます。リストで最初のアイテムは、ページがブラウザにロードされるときに選択されているアイテムです。

動的 メニューに最初に表示する選択項目がサーバーによって動的に選択されます。

クラス オブジェクトに CSS ルールを適用できます。

初期選択値 初期設定で選択された状態になる項目をリストの中から設定します。リスト内で目的の項目をクリックします。

非表示フィールドオブジェクトのオプション

非表示フィールド フィールドの名前を指定します。

値 フィールドに値を割り当てます。この値は、フォームが送信されたときにサーバーに渡されます。

クラス 選択すると、オブジェクトに CSS ルールが適用されます。

動的フォームオブジェクトについて

" 動的フォームオブジェクト " とは、フォームの設計者がデザイン時に初期値を指定するのではなく、該当するページをサーバーが要求したときにそのサーバーによって初期値が決定されるフォームオブジェクトです。たとえば、メニューが配置されているフォームを持つ PHP ページをユーザーが要求すると、ページ内の PHP スクリプトによって、データベースに格納されている値が自動的にメニューに挿入されます。その後で、完成したページがサーバーからユーザーのブラウザに送信されます。

フォームオブジェクトを動的にすると、サイトのメンテナンスを簡略化できます。たとえば、多くのサイトでは、ユーザーに一連のオプションを提供するためにメニューを使用しています。メニューが動的フォームオブジェクトであれば、メニュー項目を 1 つの場所、つまりメニュー項目が格納されているデータベーステーブルで追加、削除、または変更するだけで、サイト上の同じメニューのすべてのインスタンスを更新することができます。

関連項目

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

動的 HTML フォームメニューの挿入または変更

HTML フォームメニューやリストメニューには、データベースに格納されているエントリを動的に表示できます。HTML メニューオブジェクトは、ほとんどのページに使用できます。

注意： ASP.NET ページの場合は、DropDownList フォームコントロールまたは ListBox フォームコントロールを使用する必要があります。

作業を開始する前に、ColdFusion、PHP、ASP、または JSP のページ内に HTML フォームを挿入し、メニューで使用する動的コンテンツのレコードセットやその他のソースを定義する必要があります。

1 HTML リスト / メニューフォームオブジェクトをページに挿入します。

a ページの HTML フォーム内をクリックします ([挿入]-[フォーム]-[フォーム])。

b[挿入]-[フォーム]-[リスト / メニュー] を選択し、フォームオブジェクトを挿入します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- 新しいまたは既存の HTML リスト / メニューフォームオブジェクトを選択し、プロパティインスペクタの [動的] ボタンをクリックします。
- [挿入]-[Data Objects]-[動的データ]-[Dynamic Select List] を選択します。

3 [動的リスト / メニュー] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

a[レコードセットからのオプション] ポップアップメニューで、コンテンツソースとして使用するレコードセットを選択します。 このメニューは、静的および動的リスト / メニューアイテムを後で編集する場合にも使用します。

b[静的オプション] 領域に、リストまたはメニューの初期設定のアイテムを入力します。また、リスト / メニューフォームオブジェクトの動的コンテンツを追加した後で静的エントリを編集する場合にも、このオプションを使用します。

c(オプション) [+] ボタンと [-] ボタンを使用して、リストのアイテムを追加または削除します。アイテムは、[リストの値] ダイアログボックスに表示されているのと同じ順序で表示されます。リストで最初のアイテムは、ページがブラウザにロードされるときに選択されているアイテムです。リストのアイテムを並べ替えるには、上向き矢印と下向き矢印のボタンを使用します。

d[値] ポップアップメニューで、メニュー項目の値を含むフィールドを選択します。

e[ラベル] ポップアップメニューで、メニュー項目のラベルを含むフィールドを選択します。

f(オプション) ページをブラウザで表示したり、フォームにレコードを表示したりするときに、特定のメニュー項目が選択された状態で表示されるようにするには、[同等値の選択] ボックスに、メニュー項目の値と同じ値を入力します。

固定値を入力することも、ボックスの横の稲妻アイコンをクリックしてデータソースのリストから動的な値を選択して動的な値を指定することもできます。いずれの場合も、指定する値はメニュー項目の値のいずれかと一致している必要があります。

既存の HTML フォームメニューを動的にする

1 デザインビューで、リスト / メニューフォームオブジェクトを選択します。

2 プロパティインスペクタの [動的] ボタンをクリックします。

3 ダイアログボックスの入力を完了させ、[OK] をクリックします。

HTML テキストフィールドでの動的コンテンツの表示

ブラウザにフォームが表示されるときに、HTML テキストフィールドに動的コンテンツを表示できます。

注意：ASP.NET ページの場合は、ASP.NET TextBox コントロールを使用する必要があります。

作業を開始する前に、ColdFusion、PHP、ASP、または JSP のページ内にフォームを作成し、テキストフィールドで使用する動的コンテンツのレコードセットやその他のソースを定義する必要があります。

1 ページの HTML フォームで目的のテキストフィールドを選択します。

2 プロパティインスペクタの [初期値] ボックスの横にある稲妻アイコンをクリックして、[動的データ] ダイアログボックスを表示します。

3 テキストフィールドに入力される値のソースとなるレコードセットの列を選択し、[OK] をクリックします。

[動的テキストフィールド] ダイアログボックスのオプションの設定

1 [テキストフィールド] ポップアップメニューから、動的にするテキストフィールドを選択します。

2 [設定値] ボックスの横の稲妻アイコンをクリックし、データソースのリストからデータソースを選択して、[OK] をクリックします。

データソースには、テキスト形式で情報が含まれている必要があります。リストにデータソースがまったく表示されない場合や、表示された中に必要なデータソースがない場合は、[+] ボタンをクリックして新しいデータソースを定義します。

関連項目

503 ページの「Web アプリケーションのデータソース」

HTML チェックボックスの動的な事前選択

ブラウザにフォームが表示されるときに、事前にチェックボックスをオンにするかどうかをサーバー側で判断するように設定できます。

作業を開始する前に、ColdFusion、PHP、ASP、または JSP のページ内にフォームを作成し、チェックボックスで使用する動的コンテンツのレコードセットやその他のソースを定義する必要があります。コンテンツのソースに Yes/No や true/false などのブール値のデータが含まれていれば理想的です。

注意：ASP.NET ページの場合は、ASP.NET CheckBox コントロールを使用する必要があります。

1 ページ上のチェックボックスフォームオブジェクトを選択します。

2 プロパティインスペクタの [動的] ボタンをクリックします。

3 [動的チェックボックス] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

• [チェック項目] ボックスの横の稲妻アイコンをクリックし、データソースのリストからフィールドを選択します。

データソースには、Yes または No、あるいは true または false などのブール値のデータが含まれている必要があります。リストにデータソースがまったく表示されない場合や、表示された中に必要なデータソースがない場合は、[+] ボタンをクリックして新しいデータソースを定義します。

• [同等値の選択] ボックスに、チェックボックスが選択された状態で表示される場合のフィールドの値を入力します。

たとえば、レコードの特定フィールドの値が Yes である場合にチェックボックスをオンの状態で表示するには、[同等] ボックスに「**Yes**」と入力します。

注意：この値は、ユーザーがフォームの [送信] ボタンをクリックした場合にサーバーにも返されます。

HTML ラジオボタンの動的な事前選択

ブラウザで HTML フォームにレコードが表示されるときに、HTML ラジオボタンを動的に事前選択できます。

作業を開始する前に、ColdFusion、PHP、ASP、または JSP のページ内にフォームを作成し、HTML ラジオボタンのグループを少なくとも 1 つ挿入する必要があります ([挿入]-[フォーム]-[ラジオボタングループ])。また、ラジオボタンで使用する動的コンテンツのレコードセットやその他のソースも定義する必要があります。コンテンツのソースに Yes/No や true/false などのブール値のデータが含まれていれば理想的です。

注意：ASP.NET ページの場合は、ASP.NET RadioButtonList コントロールを使用する必要があります。

1 デザインビューで、ラジオボタングループの中からラジオボタンを 1 つ選択します。

2 プロパティインスペクタの [動的] ボタンをクリックします。

3 [動的ラジオボタングループ] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

[動的ラジオボタングループ] ダイアログボックスのオプションの設定

1 [ラジオボタングループ] ポップアップメニューで、ページのフォームおよびラジオボタンのグループを選択します。

[ラジオボタンの値] ボックスに、グループ内のすべてのラジオボタンの値が表示されます。

2 値のリストから、動的に事前選択する値を選択します。この値は、[値] ボックスに表示されます。

3 [同等値の選択] ボックスの横にある稲妻アイコンをクリックし、グループのラジオボタンに使用することが可能なチェック済み値を含むレコードセットを選択します。

選択するレコードセットは、ラジオボタンのチェック済み値と一致する値を含んでいます。ラジオボタンのチェック済み値を表示するには、それぞれのラジオボタンを選択し、プロパティインスペクタを表示します ([ウィンドウ]-[プロパティ])。

4 [OK] をクリックします。

[動的ラジオボタングループ] ダイアログボックスのオプションの設定 (ColdFusion、ASP.NET)

1 [ラジオボタングループ] ポップアップメニューから、ラジオボタングループおよびフォームを選択します。

2 [同等値の選択] ボックスの横にある稲妻アイコンをクリックします。

3 [動的データ] ダイアログボックスに情報を入力し、[OK] をクリックします。

a データソースのリストからデータソースを選択します。

b(オプション) テキストのデータフォーマットを選択します。

c(オプション) 動的テキストを表示するように、Dreamweaver によってページに挿入されるコードを修正します。

4 [OK] をクリックすると、[動的ラジオボタングループ] ダイアログボックスが閉じ、動的コンテンツプレースホルダーがラジオボタングループに挿入されます。

HTML フォームデータの検証

Dreamweaver では、ユーザーが適切なタイプのデータを入力したかどうかを判断するために、特定のテキストフィールドの内容をチェックする JavaScript コードを追加できます。

Spry フォーム Widget を使用してフォームを作成し、特定のフォームエレメントのコンテンツを検証することができます。詳細については、以下の Spry のトピックを参照してください。

また、Dreamweaver では、指定したフィールドのコンテンツを検証する ColdFusion フォームおよび ASP.NET フォームを作成することもできます。ASP.NET フォームの場合は、コードビューに ASP.NET 検証コントロールを挿入できます。詳細については、以下の ColdFusion および ASP.NET の章を参照してください。

1 テキストフィールドと [送信] ボタンが含まれている HTML フォームを作成します。

検証するテキストフィールドに、それぞれ固有の名前が割り当てられていることを確認します。

2 [送信] ボタンを選択します。

3 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択して [ビヘイビア] パネルを開き、[+] ボタンをクリックして、リストから [検査フォーム] ビヘイビアを選択します。

4 各テキストフィールドに検証ルールを設定し、[OK] をクリックします。

たとえば、年齢を入力するためのテキストフィールドには数字のみを入力できるようにします。

注意：[検査フォーム] ビヘイビアを使用できるのは、ドキュメントにテキストフィールドが挿入されている場合だけです。

関連項目

440 ページの「テキストフィールド検査 Widget の操作」

445 ページの「テキスト領域検査 Widget の操作」

448 ページの「選択検査 Widget の操作」

451 ページの「チェックボックス検査 Widget の操作」

640 ページの「ASP.NET フォームおよび ColdFusion フォームの作成」

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

HTML フォームオブジェクトへの JavaScript ビヘイビアの割り当て

Dreamweaver にあらかじめ用意されている JavaScript ビヘイビアを、ボタンなどの HTML フォームオブジェクトに割り当てることができます。

注意：ASP.NET フォームコントロールはサーバー上で処理されるので、これらのコントロールではこの機能は使用できません。

1 HTML フォームオブジェクトを選択します。

2 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択して [ビヘイビア] パネルを開き、[+] ボタンをクリックして、リストからビヘイビアを 1 つ選択します。

HTML フォームボタンへのカスタムスクリプトの割り当て

一部のフォームは、JavaScript または VBScript スクリプトを使用してクライアントサイドでフォームの処理またはその他のアクションを実行します。この場合、フォームのデータが処理のためにサーバーに送信されることはありません。Dreamweaver を使用して、クリックするとクライアントサイドの特定のスクリプトが実行されるフォームボタンを設定できます。

注意：この機能は、ASP.NET フォームには使用できません。

1 フォームの [送信] ボタンを選択します。

2 [ウィンドウ]-[ビヘイビア] を選択して [ビヘイビア] パネルを開き、[+] ボタンをクリックして、リストから [JavaScript の呼出し] を選択します。

3 [JavaScript の呼出し] ボックスに、ボタンがクリックされたときに実行する JavaScript 関数の名前を入力し、[OK] をクリックします。

たとえば processMyForm() など、まだ存在しない関数名を入力することもできます。

4 指定した JavaScript 関数がドキュメントの head セクションに存在しない場合は、その関数を追加します。

たとえば、以下の JavaScript 関数をドキュメントの head セクションに定義して、ユーザーが [送信] ボタンをクリックしたときにメッセージが表示されるように設定できます。

```
function processMyForm(){
    alert('Thanks for your order!');
}
```

関連項目

334 ページの「[JavaScript の呼出し] ビヘイビアの適用」

アクセシビリティを考慮した HTML フォームの作成

HTML フォームオブジェクトを挿入するときにフォームオブジェクトをアクセシブルにしたり、後でアクセシビリティ属性を変更したりできます。

アクセシブルなフォームオブジェクトの追加

1 アクセシブルなフォームオブジェクトを初めて追加するときには、そのフォームオブジェクトに対応する [アクセシビリティ] ダイアログボックスをアクティブにします (詳細については、「510 ページの「ビジュアル開発のためのワークスペースの最適化」」を参照してください)。

この操作は、最初に一度だけ実行します。

2 ドキュメントで、フォームオブジェクトを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

3 [挿入]-[フォーム] を選択し、挿入するフォームオブジェクトを選択します。

[Input タグのアクセシビリティ属性] ダイアログボックスが表示されます。

4 ダイアログボックスの入力を完了させ、[OK] をクリックします。これらのオプションは、次のとおりです。

注意：スクリーンリーダーは、オブジェクトのラベル属性として入力した名前を読み上げます。

ID フォームフィールドに ID を割り当てます。この値を使用すると、JavaScript からフィールドを参照できます。スタイルオプションで [for 属性によるラベルタグの添付] オプションを選択した場合に、属性の値として使用することもできます。

ラベルタグで囲む 指定すると、次のように、フォームアイテムが label タグで囲まれます。

```
<label>
<input type="radio" name="radiobutton" value="radiobutton">
RadioButton1</label>
```

for 属性によるラベルタグの添付 指定すると、次のように、フォームアイテムが for 属性を使用した label タグで囲まれます。

```
<input type="radio" name="radiobutton" value="radiobutton" id="radiobutton">
<label for="radiobutton">RadioButton2</label>
```

このオプションを選択すると、ブラウザでは、チェックボックスおよびラジオボタンと関連するテキストに長方形のフォーカスが配置されます。Web サイトのビジターは、チェックボックスやラジオボタンを選択する際、そのチェックボックスやラジオボタンのコントロールだけでなく、関連するテキストの任意の場所をクリックしても、選択できるようになります。

注意：これは、アクセシビリティの向上には好ましいオプションですが、実際の動作はブラウザにより異なります。

ラベルタグなし 指定すると、次のようにラベルタグが使用されません。

```
<input type="radio" name="radiobutton" value="radiobutton">
RadioButton3
```

アクセスキー ブラウザ内のフォームオブジェクトを選択するのに使用できるキーボードの文字 (1 文字) と Alt キー (Windows) または Control キー (Macintosh) の組み合わせを指定します。たとえば、アクセスキーとして「**B**」と入力すると、Macintosh ブラウザを使用するユーザーは、Control + B キーでフォームオブジェクトを選択できます。

タブインデックス フォームオブジェクトのタブ順序を指定します。1 つのオブジェクトに対してタブ順序を設定したら、他のすべてのオブジェクトについてもタブ順序を設定する必要があります。

タブ順序を設定しておくと、ページに他のリンクやフォームオブジェクトがある場合に、Web サイトのビジターは、Tab キーを使用して特定の順序でオブジェクト間を移動できます。

5 [はい] をクリックして form タグを挿入します。

フォームオブジェクトがドキュメントに表示されます。

注意：[キャンセル] を押すと、フォームオブジェクトはドキュメント内に表示されますが、Dreamweaver は、アクセシビリティタグや属性をこのフォームオブジェクトに関連付けません。

フォームオブジェクトのアクセシビリティ設定の変更

1 ドキュメントウィンドウで、オブジェクトを選択します。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- コードビューで該当する属性を編集します。
- 右クリックするか (Windows)、Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、[タグの編集] を選択します。

第 20 章：アプリケーションのビジュアル開発

Adobe® Dreamweaver® CS3 では、Adobe ColdFusion、PHP、JSP、ASP、または ASP を使用できます。NET を使用して、データベースレコードの検索、挿入、削除、および更新、マスター情報や詳細情報の表示、特定のユーザーに対するアクセス制限を行うページを作成できます。

マスターページと詳細ページの作成 (すべてのサーバー)

マスターページと詳細ページについて

マスターページと詳細ページは、レコードセットデータの整理と表示に使用される一連のページです。これらのページに、サイトの概要情報と詳細情報の両方を表示できます。マスターページには、すべてのレコードの一覧が表示され、各レコードの追加情報を表示する詳細ページへのリンクも掲載されます。

マスターページ

詳細ページ

マスターページと詳細ページを作成するには、データオブジェクトを挿入してマスターページと詳細ページを一度に作成する方法か、サーバービヘイビアを使用してマスターページと詳細ページをカスタマイズしながら作成していく方法があります。サーバービヘイビアを使用してマスターページと詳細ページを作成する場合は、まずマスターページを作成してレコードの一覧を用意し、この一覧から詳細ページへのリンクを追加します。

関連項目

592 ページの「検索ページと結果ページについて」

マスターページの作成

作業を開始する前に、サイトのデータベース接続を定義してください。

1 空のページを作成するには、[ファイル]-[新規]-[空白ページ] を選択し、ページタイプを選択して [作成] をクリックします。このページがマスターページになります。

2 レコードセットを定義します。

[バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、[レコードセット] (ColdFusion、PHP) または [データセット] を選択して、適宜オプションを選択します。SQL ステートメントを自分で記述する場合は、[詳細設定] をクリックします。

レコードセットには、マスターページの作成に必要なテーブル列をすべて含めてください。また、レコードセットには、各レコードのユニークキーを含むテーブル列、つまりレコード ID 列も含まれている必要があります。次の例では、CODE 列に、各レコードに固有のキーが含まれます。

マスターページの選択したレコードセットの列

通常、マスターページのレコードセットは、データベーステーブルから数列を抽出します。一方、詳細ページのレコードセットは、詳細な情報を提供するため、同じテーブルからそれより多くの列を抽出します。

レコードセットは、実行時にユーザー側で定義することができます。詳細については、592 ページの「検索ページと結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」を参照してください。

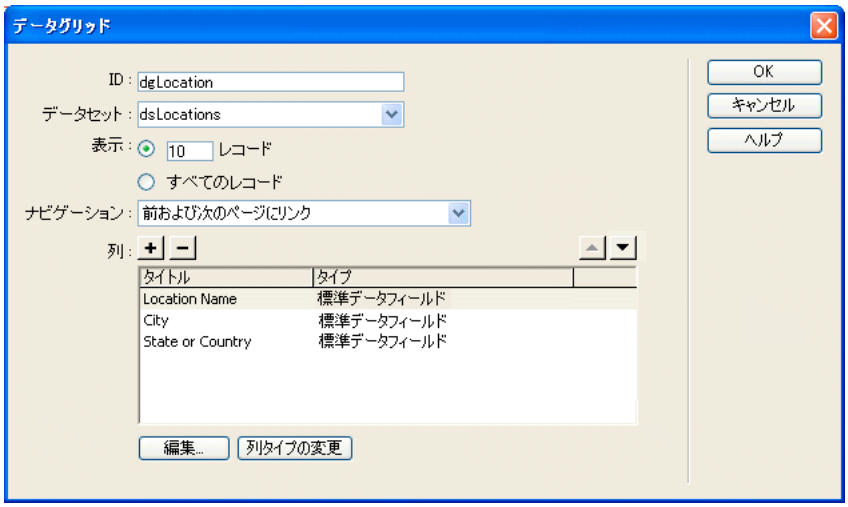
3 (ColdFusion、PHP) レコードを表示するための動的テーブルを挿入します。

動的テーブルを表示するページ上の位置に挿入ポイントを配置します。[挿入]-[データオブジェクト]-[動的データ]-[動的テーブル] を選択し、オプションを設定して [OK] をクリックします。

サイト上にレコード ID を表示しない場合は、動的テーブルからその列を削除します。ページ内の任意の場所をクリックして、フォーカスをページに移動します。動的テーブル内の列の上部にカーソルを移動して、列のセルの外枠が赤くなったら、クリックしてその列を選択します。Delete キーを押して、テーブルからその列を削除します。

4 (ASP.NET) レコードを表示するためのデータグリッドを作成します。

[サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、[データグリッド] を選択します。データグリッドの各列で [標準データフィールド] という初期設定の列タイプをそのまま使用します。次の例では、データグリッドに 3 つの列が定義されています。



関連項目

519 ページの「SQL を使用しないレコードセットの定義」

522 ページの「SQL を使用した高度なレコードセットの定義」

545 ページの「動的テーブルの作成」

詳細ページへのリンクの作成

マスターページを作成し、レコードセットを追加した後で、詳細ページを開くためのリンクを作成します。その後で、ユーザーが選択したレコードの ID を渡すようにリンクを修正します。詳細ページでは、この ID を使用して、要求されたレコードをデータベース内で検索し、その結果を表示します。

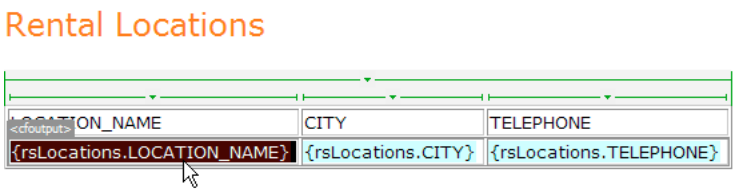
注意：ページを更新するリンクも同じ手順で作成します。結果ページはマスターページに、更新ページは詳細ページに似ています。

関連項目

605 ページの「レコードを更新するページの作成 (すべてのサーバー)」

詳細ページを開きレコード ID を渡す (ColdFusion、PHP)

1 動的テーブル内で、リンクとして表示するテキストのコンテンツプレースホルダーを選択します。



選択したプレースホルダーへのリンクの適用

2 プロパティインスペクタの [リンク] ボックスの横にあるフォルダアイコンをクリックします。

3 詳細ページに移動して、選択します。詳細ページがプロパティインスペクタの [リンク] ボックス内に表示されます。

動的テーブルで、選択したテキストがリンクされた状態で表示されます。サーバーでページが実行されると、リンクが各テーブル行内のテキストに適用されます。

4 マスターページの動的テーブル内のリンクを選択します。

ライブデータビューが有効になっている場合は、最初の行のリンクを選択します。

5 (ColdFusion) プロパティインスペクタの [リンク] ボックスで、URL の末尾に次のストリングを追加します。

```
?recordID=#recordsetName.fieldName#
```

疑問符は、後に URL パラメータが続いていることをサーバーに示します。recordID という単語は、URL パラメータの名前です (好きな名前を指定できます)。この URL パラメータの名前は後で詳細ページで使用するため、覚えておく必要があります。

等号の後の式は、パラメータの値です。この例では、レコードセットからのレコード ID を返す ColdFusion の式で生成された値です。動的テーブル内の行ごとに異なる ID が生成されます。ColdFusion の式の中の recordsetName を、使用するレコードセットの名前で置き換え、fieldName を、各レコードを一意に識別するレコードセット内のフィールドの名前で置き換えます。ほとんどの場合、フィールドはレコード ID 番号で構成されます。次の例では、フィールドは一意の場所コードで構成されています。

```
locationDetail.cfm?recordID=#rsLocations.CODE#
```

ページを実行すると、コードセットの CODE フィールドの値が、動的テーブル内の対応する行に挿入されます。たとえば、オーストラリア、キャンベラのレンタル営業所の場所コードが CBR の場合、動的テーブル内のキャンベラ営業所の行では次の URL が使用されます。

```
locationDetail.cfm?recordID=CBR
```

6 (PHP) プロパティインスペクタの [リンク] フィールドで、URL の末尾に次のストリングを追加します。

```
?recordID=<?php echo $row_recordsetName['fieldName']; ?>
```

疑問符は、後に URL パラメータが続いていることをサーバーに示します。recordID という単語は、URL パラメータの名前です。ここには好きな名前を指定できます。この URL パラメータの名前は後で詳細ページで使用するため、覚えておく必要があります。

等号の後の式は、パラメータの値です。この例では、レコードセットからのレコード ID を返す PHP の式で生成された値です。動的テーブル内の行ごとに異なる ID が生成されます。PHP の式の中の *recordsetName* を、使用するレコードセットの名前で置き換え、*fieldName* を、各レコードを一意に識別するレコードセット内のフィールドの名前で置き換えます。ほとんどの場合、フィールドはレコード ID 番号で構成されます。次の例では、フィールドは一意の場所コードで構成されています。

```
locationDetail.php?recordID=<?php echo $row_rsLocations['CODE']; ?>
```

ページを実行すると、コードセットの CODE フィールドの値が、動的テーブル内の対応する行に挿入されます。たとえば、オーストラリア、キャンベラのレンタル営業所の場所コードが CBR の場合、動的テーブル内のキャンベラ営業所の行では次の URL が使用されます。

```
locationDetail.php?recordID=CBR
```

7 ページを保存します。

詳細ページを開きレコード ID を渡す (ASP、JSP)

1 リンク機能を割り当てる動的コンテンツを選択します。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [詳細ページへ移動] を選択します。

3 [詳細ページ] ボックスで [参照] をクリックし、詳細ページを指定します。

4 [レコードセット] および [列] ポップアップメニューでレコードセットと列を選択し、詳細ページに渡す値を指定します。通常、レコードのユニークキー ID など、レコードに固有の値を指定します。

5 必要に応じて、[URL パラメータ] または [フォームパラメータ] オプションを選択して、既存のページのパラメータを詳細ページに渡します。

6 [OK] をクリックします。

選択したテキストの周りに特別なリンクが設定されます。ビジターがリンクをクリックすると、[詳細ページへ移動] サーバービヘイビアによって、レコード ID を含む URL パラメータが詳細ページに渡されます。たとえば、URL パラメータが id で、リンク先の詳細ページが customerdetail.asp の場合、ビジターがリンクをクリックしたときの URL は以下のようになります。

http://www.mysite.com/customerdetail.asp?id=43

URL の最初の部分 http://www.mysite.com/customerdetail.asp は詳細ページを開きます。次の部分 ?id=43 は URL パラメータです。これは、詳細ページにどのレコードを検索して表示するかを示しています。id は URL パラメータの名前であり、43 はその値です。この例では、URL パラメータにはレコードの ID 番号 43 が含まれています。

詳細ページを開きレコード ID を渡す (ASP.NET)

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) でデータグリッドをダブルクリックします。

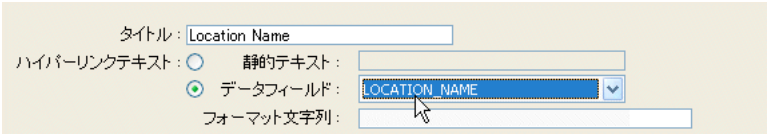
2 [列] ボックスで、リンクを適用する列のタイトルを選択します。

3 [列タイプの変更] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [ハイパーリンク] を選択します。[ハイパーリンクの列] ダイアログボックスが表示されます。

4 [ハイパーリンクテキスト] 領域で、ハイパーリンク列内に表示するテキストを指定します。

静止テキスト リンクテキストを入力し、データグリッド内のすべての行に適用する汎用リンク (詳細など) を作成します。データグリッド内の各行のハイパーリンク列に、同じテキスト (詳細など) が表示されます。

データフィールド データセット内のデータフィールドを選択し、ハイパーリンク列に表示されるデータにリンクを追加します。指定したデータフィールドから、ハイパーリンク列に表示されるリンクのテキストが抽出されます。次の例では、データグリッド内の各行に場所の名前が表示されます。



5 [リンクされたページ] 領域で、ハイパーリンク列内のテキストに適用する URL を作成します。

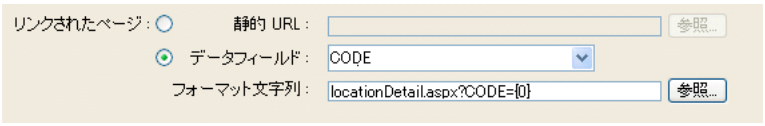
この URL は、詳細ページを開くだけでなく、詳細ページに表示するレコードを一意に識別する URL である必要があります。

詳細ページに表示するレコードを識別するには、[データフィールド] オプションを選択して、各レコードを一意に識別するデータセット内のフィールドを選択します。多くの場合、レコード ID 番号で構成されるフィールドを選択します。次の例では、フィールドは一意の場所コードで構成されています。

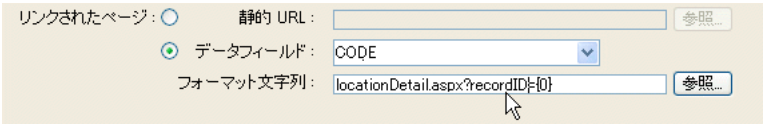
6 [リンクされたページ] 領域内の [フォーマット文字列] ボックスの [参照] ボタンをクリックして、詳細ページを見つけて選択します。

Dreamweaver によって、選択した詳細ページを指す URL が作成されます。この URL には、詳細ページに表示するレコードを識別する URL パラメータも含まれます。この URL パラメータの名前は後で詳細ページで使用するため、覚えておく必要があります。

たとえば、locationDetail.aspx を詳細ページとして選択した場合、次の URL が作成されます。



上の例では、URL パラメータの名前は CODE になっています。Dreamweaver によってデータフィールドの名前が自動的にコピーされますが、この名前を使用する必要はありません。次の例に示すように、recordID などのわかりやすい名前に変更できます。



{0} エレメントは、データフィールドの値に対応するプレースホルダーです。ページを実行すると、データセットの CODE フィールドの値がデータグリッド内の対応する行に挿入されます。たとえば、オーストラリア、キャンベラのレンタル営業所の場所コードが CBR の場合、データグリッド内のキャンベラ営業所の行では次の URL が使用されます。

```
locationDetail.aspx?recordID=CBR
```

7 [OK] をクリックして [ハイパーリンク] ダイアログボックスを閉じます。次に [OK] をクリックして [データグリッド] ダイアログボックスを閉じます。

ページ上のデータグリッドが更新されます。

要求したレコードの検索と詳細ページへの表示

マスターページで要求されたレコードを表示するためには、単一のレコードを保持するレコードセットを定義し、そのレコードセットの列を詳細ページにバインドする必要があります。

1 詳細ページに切り替えます。詳細ページをまだ作成していない場合は、空のページを作成します ([ファイル]-[新規])。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードセット (クエリー)] または [データセット (クエリー)] を選択します。

基本設定の [レコードセット] ダイアログボックスまたは [データセット] ダイアログボックスが表示されます。詳細設定のダイアログボックスが表示された場合は、[基本設定] をクリックします。

3 レコードセットの名前を指定し、データソースと、レコードセットにデータを提供するデータベーステーブルを選択します。

4 [列] 領域で、レコードセットに含めるテーブル列を選択します。

レコードセットは、マスターページのレコードセットと同一でも、異なっていてもかまいません。通常、詳細ページのレコードセットには、詳細な情報を表示するためにより多くの列が含まれます。

レコードセットが異なる場合、詳細ページのレコードセットにマスターページ上のレコードセットと共通の列が少なくとも 1 つ含まれていることを確認してください。通常はレコード ID 列が共通ですが、関連テーブルの結合フィールドでもかまいません。

テーブルの特定の列だけをレコードセットに含めるには、[選択] をクリックし、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらリスト内の目的の列をクリックします。

5 マスターページから渡される URL パラメータで指定されたレコードを取得して表示するために、[フィルタ] 領域で以下の設定を行います。

- [フィルタ] 領域の最初のポップアップメニューで、マスターページから渡される URL パラメータの値と一致する値を含む、レコードセット内の列を選択します。たとえば、URL パラメータにレコード ID 番号が含まれている場合は、レコード ID 番号が格納されている列を選択します。前の項で説明した例では、CODE という名前のレコードセット列に、マスターページによって渡された URL パラメータの値と一致する値が含まれます。
- 最初のメニューの横にあるポップアップメニューで、等号記号 (初期設定) を選択します。
- 3 番目のポップアップメニューから [URL パラメータ] を選択します。マスターページでは URL パラメータを使用して、情報を詳細ページに渡します。
- 4 番目のボックスに、マスターページから渡される URL パラメータの名前を入力します。

6 [OK] をクリックします。レコードセットが [バインディング] パネルに表示されます。

7 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で列を選択し、これをページにドラッグしてレコードセットの列と詳細ページをバインドします。

マスターページおよび詳細ページの両方をサーバーにアップロードすると、ブラウザでマスターページを開くことができます。マスターページの詳細リンクをクリックすると、詳細ページが開き、選択されているレコードに関する詳細情報が表示されます。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

関連ページを開くリンクの作成 (ASP、JSP)

関連ページを開いて、既存のパラメータをそのページに渡すリンクを作成できます。このサーバービヘイビアは、ASP または JSP サーバーモデルを使用する場合のみ使用できます。

[詳細ページへ移動] サーバービヘイビアを追加する前に、ページが別のページからフォームパラメータまたは URL パラメータを受け取ることを確認してください。このサーバービヘイビアの役割は、パラメータを 3 番目のページに渡すことです。たとえば、結果ページから受け取った検索パラメータを別のページに渡すことにより、ビジターが再度検索パラメータを入力する手間を省くことができます。

また、ページ上で選択したテキストまたはイメージを関連ページへのリンクとして使用することもできます。または、何も選択せずにページ上にカーソルを置くと、自動的にリンクテキストが挿入されます。

1 [関連ページ] ボックスで [参照] をクリックし、関連ページファイルを指定します。

現在のページにデータを送信する場合は、現在のページのファイル名を入力します。

2 GET メソッドを使用する HTML フォームから直接受け取ったパラメータや、ページの URL に含まれているパラメータを渡す場合は、[URL パラメータ] オプションを選択します。

3 POST メソッドを使用する HTML フォームから直接受け取ったパラメータを渡す場合は、[フォームパラメータ] オプションを選択します。

4 [OK] をクリックします。

新しいリンクをクリックすると、クエリーストリングを使用して関連ページにパラメータが渡されます。

関連項目

504 ページの「ユーザーから送信されたデータの収集」

特定のレコードの検索とページでの表示 (ASP、JSP)

ページにレコードセットを表示できるように、レコードセット内の特定のレコードを検索するサーバービヘイビアを追加できます。このサーバービヘイビアは、ASP または JSP サーバーモデルを使用する場合のみ使用できます。

1 以下の前提条件を満たすページを作成します。

- 別のページから現在のページに渡された URL パラメータにレコード ID が含まれている。HTML ハイパーリンクまたは HTML フォームで他のページ上に URL パラメータを作成できます。詳細については、504 ページの「ユーザーから送信されたデータの収集」を参照してください。
- 現在のページにレコードセットが定義されている。サーバービヘイビアにより、このレコードセットからレコードの詳細情報が抽出されます。詳細手順については、519 ページの「SQL を使用しないレコードセットの定義」または 522 ページの「SQL を使用した高度なレコードセットの定義」を参照してください。
- 現在のページにレコードセットの列がバインドされている。ページ上に特定のレコードが表示される必要があります。詳細については、535 ページの「テキストを動的にする」を参照してください。

2 URL パラメータによって指定されたレコードを検索するサーバービヘイビアを追加するには、[サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、[レコードセットページング]-[特定のレコードへ移動] を選択します。

3 [レコード移動先] ポップアップメニューで、そのページ用に定義したレコードセットを選択します。

4 [列の場所] ポップアップメニューで、他のページから渡される値が格納されている列を選択します。

たとえば、他のページからレコード ID 番号が渡される場合は、レコード ID 番号が格納されている列を選択します。

5 [URL パラメータとの一致] ボックスに、他のページから渡される URL パラメータの名前を入力します。

たとえば、他のページで詳細ページを開くために使用する URL が id=43 の場合は、[URL パラメータとの一致] ボックスに「**id**」と入力します。

6 [OK] をクリックします。

次にこのページがブラウザから要求されたときは、サーバービヘイビアは他のページから渡された URL パラメータ内のレコード ID を読み込み、レコードセット内の指定されたレコードに移動します。

1 回の操作によるマスターページと詳細ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

Web アプリケーションの開発時に、[マスター詳細ページセット] データオブジェクトを使用すると、マスターページと詳細ページを簡単に作成できます。

1 空の動的ページを作成するには、[ファイル]-[新規]-[空白ページ] を選択し、ページタイプのリストから動的ページを選択して [作成] をクリックします。

このページがマスターページになります。

2 そのページのレコードセットを定義します。

マスターページに必要な列だけではなく、詳細ページに必要な列もすべてレコードセットに含めてください。通常、マスターページのレコードセットは、データベーステーブルから数列を抽出します。一方、詳細ページのレコードセットは、詳細な情報を提供するため、同じテーブルからそれより多くの列を抽出します。

3 デザインビューでマスターページを開き、[挿入]-[データオブジェクト]-[マスター詳細ページセット] を選択します。

4 [レコードセット] ポップアップメニューで、マスターページに表示するレコードを含むレコードセットが選択されていることを確認します。

5 [マスターページフィールド] 領域で、マスターページに表示するレコードセットの列を選択します。

初期設定では、レコードセットのすべての列が選択されます。レコードセットに recordID などのユニークキー列が含まれている場合は、この列を選択し [-] ボタンをクリックしてページに表示されないようにします。

6 マスターページに表示する列の順序を変更するには、リストで列をクリックし、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

マスターページでは、レコードセットの列はテーブル内に横一列に配置されます。上向き矢印をクリックすると列は左に移動します。下向き矢印をクリックすると列は右に移動します。

7 [詳細へのリンク元] ポップアップメニューで、詳細ページへのリンクテキストとして表示する値を含むレコードセットの列を選択します。

たとえば、マスターページの各製品名を詳細ページにリンクさせるには、製品名を含むレコードセットの列を選択します。

8 [ユニークキーの引き渡し] ポップアップメニューで、レコードを識別する値を含むレコードセットの列を選択します。

通常は、レコードの ID 番号の列を選択します。この値が詳細ページに渡され、ビジターが選択したレコードを識別します。

9 ユニークキー列が数値でない場合は、[数値] チェックボックスをオフにします。

注意：このオプションは初期設定で選択されており、サーバーモデルによっては表示されないものもあります。

10 マスターページに表示するレコード数を指定します。

11 [詳細ページ名] ボックスで [参照] をクリックして作成済みの詳細ページファイルを指定するか、任意の名前を入力してデータオブジェクトに詳細ページファイルを作成させます。

12 [詳細ページフィールド] 領域で、詳細ページに表示する列を選択します。

初期設定では、マスターページのレコードセット内のすべての列が選択されます。レコードセットに recordID などのユニークキー列が含まれている場合は、この列を選択し [-] ボタンをクリックして、詳細ページに表示されないようにします。

13 詳細ページに表示する列の順序を変更するには、リストで列をクリックし、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

詳細ページでは、レコードセットの列はテーブル内に縦一列に配置されます。上向き矢印をクリックすると列は上に移動します。下向き矢印をクリックすると列は下に移動します。

14 [OK] をクリックします。

詳細ページが作成されていない場合は、データオブジェクトにより詳細ページが作成され、マスターページと詳細ページに動的コンテンツとサーバービヘイビアが追加されます。

15 マスターページと詳細ページのレイアウトを目的に合わせてカスタマイズします。

各ページのレイアウトは、Dreamweaver のページデザインツールで自在にカスタマイズできます。[サーバービヘイビア] パネルでサーバービヘイビアをダブルクリックして編集することもできます。

データオブジェクトを用いてマスターページと詳細ページを作成した後、[サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で、データオブジェクトによってページに挿入された作成ブロックを修正できます。

関連項目

538 ページの「動的コンテンツの編集」

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

検索ページと結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

検索ページと結果ページについて

Dreamweaver で一連のページを作成し、これらのページでビジターがデータベースを検索して結果を表示できるようにすることが可能です。使用するメソッドは、ColdFusion、ASP、JSP、および PHP ページで同一です。

ほとんどの場合、Web アプリケーションにこの検索機能を追加するには、少なくとも 2 つのページが必要です。1 つは、ビジターが検索パラメータを入力する HTML フォームがあるページです。このページは、実際の検索を行うものではありませんが、「検索ページ」と呼ばれます。

もう 1 つは、実際の検索処理のほとんどを実行する結果ページです。結果ページでは、以下のタスクを行います。

- 検索ページから渡された検索パラメータの読み取り
- データベースへの接続とレコードの検索
- 検索されたレコードを含むレコードセットの作成
- レコードセットの内容の表示

必要に応じて、詳細ページを追加することができます。詳細ページには、結果ページの特定のレコードに関する詳細情報が表示されます。

ASP.NET を使用する場合は、検索ページと結果ページを 1 つのページにまとめることができます。

検索パラメータが 1 つだけの場合、Dreamweaver で Web アプリケーションに検索機能を追加するときに、SQL クエリーおよび変数を設定する必要はありません。このような場合、ページをデザインし、ダイアログボックスに入力するだけで検索機能を追加できます。検索パラメータが複数の場合は、SQL ステートメントを記述し、複数の変数を定義する必要があります。

Dreamweaver によって SQL クエリーがページに挿入されます。サーバーでページが実行されると、データベーステーブル内の各レコードがチェックされます。レコード内の指定されたフィールドが SQL クエリーの条件に一致すると、そのレコードはレコードセットに追加されます。実行された SQL クエリーによって、検索結果のみを含むレコードセットが作成されます。

たとえば、販売担当者が、担当地域内の一定レベル以上の収入がある顧客の情報を調べるとします。検索ページのフォームに、地域と最低収入レベルを入力し、[送信] ボタンをクリックしてサーバーに 2 つの値を送ります。サーバーでは、これらの値は結果ページの SQL ステートメントに渡され、特定の地域に住む、指定したレベル以上の収入がある顧客のみを含むレコードセットが作成されます。

関連項目

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

592 ページの「検索ページと結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

597 ページの「データベース検索ページの作成 (ASP.NET)」

検索ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

通常、Web の検索ページには、ビジターが検索パラメータを入力するフォームフィールドがあります。検索ページには、少なくとも [送信] ボタン付きの HTML フォームが必要です。

検索ページに HTML フォームを追加するには、以下の手順を実行します。

1 検索ページまたは新規ページを開き、[挿入]-[フォーム]-[フォーム] を選択します。

ページに空白のフォームが作成されます。フォームの境界線を表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択する必要があります。フォームの境界線は細い赤線で表示されます。

2 [挿入]-[フォーム] を選択し、検索パラメータを入力するためのフォームオブジェクトを追加します。

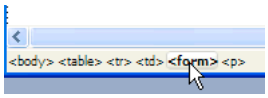
フォームオブジェクトには、テキストフィールド、メニュー、オプション、およびラジオボタンがあります。追加できるフォームオブジェクトの数に制限はありません。数が多いほどビジターが検索条件を詳しく指定できるようになります。ただし、検索ページの検索パラメータ数が多くなると、SQL ステートメントも複雑になります。

3 [挿入]-[フォーム]-[ボタン] を選択して、フォームに [送信] ボタンを追加します。

4 (オプション) [送信] ボタンのラベルを変更するには、ボタンを選択し、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[値] ボックスに新しい値を入力します。

次に、ビジターが [送信] ボタンをクリックしたときにフォームからどこに検索パラメータを送信するかを指定します。

5 次の図に示すように、ドキュメントウィンドウの下部のタグセレクタで <form> タグを選択し、フォームを選択します。



6 フォームのプロパティインスペクタの [アクション] ボックスに、データベース検索を行う結果ページのファイル名を入力します。

7 [メソッド] ポップアップメニューで、フォームからサーバーにデータを送る際に使用するメソッドを次の中から 1 つ選択します。

- GET] では、フォームデータはクエリーストリングとして URL に付加され、送信されます。URL の文字数には制限 (最長 8192 文字) があるため、フォームデータが長くなる場合は GET メソッドは使用しないでください。
- POST] では、フォームデータはメッセージの本文として送信されます。
- Default では、ブラウザの初期設定のメソッド (通常は GET) が使用されます。

これで検索ページが完成しました。

関連項目

592 ページの「検索ページと結果ページについて」

569 ページの「フォームの作成」

基本的な結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ビジターがフォームの [検索] ボタンをクリックすると、検索パラメータがサーバー上の結果ページに送信されます。ブラウザの検索ページではなく、サーバーの結果ページがデータベースからレコードを取得します。検索ページからサーバーに送信される検索パラメータが 1 つだけの場合は、SQL クエリーおよび変数を使用せずに結果ページを作成することができます。基本レコードセットと、検索ページから送信された検索パラメータに一致しないレコードを除外するフィルタを作成します。

注意：検索条件が複数の場合は、詳細設定の [レコードセット] ダイアログボックスを使用してレコードセットを定義する必要があります (詳細については、595 ページの「高度な結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」を参照してください)。

関連項目

592 ページの「検索ページと結果ページについて」

592 ページの「検索ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

596 ページの「結果ページの詳細ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

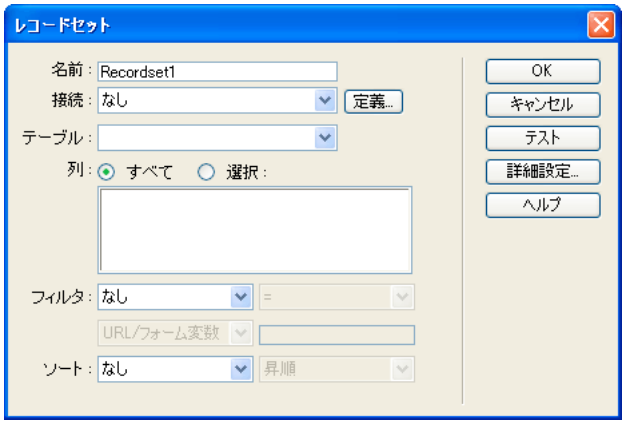
検索結果を保持するレコードセットの作成

1 ドキュメントウィンドウで結果ページを開きます。

結果ページをまだ作成していない場合は、[ファイル]-[新規]-[空白ページ] を選択して空の動的ページを作成します。

2 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを開きます。[+] ボタンをクリックしてポップアップメニューから [レコードセット] を選択し、新しいレコードセットを作成します。

3 基本設定の [レコードセット] ダイアログボックスが表示されることを確認します。



詳細設定のダイアログボックスが表示された場合は、[基本設定] ボタンをクリックして、基本設定のダイアログボックスに切り替えてください。

4 レコードセットの名前を入力し、接続を選択します。

ビジターが検索するデータが存在するデータベースへの接続を選択してください。

5 [テーブル] ポップアップメニューで、データベース内の検索対象テーブルを選択します。

注意：単一パラメータ検索の場合は、単一テーブルでのみレコードを検索できます。複数のテーブルを同時に検索するには、詳細設定の [レコードセット] ダイアログボックスを使用して SQL クエリーを定義する必要があります。

6 テーブルの特定の列だけをレコードセットに含めるには、[選択] をクリックし、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらリスト内の目的の列をクリックします。

結果ページに表示する情報が格納されている列のみを含める必要があります。

[レコードセット] ダイアログボックスは開いたままにしておきます。これは、次に検索ページから送られるパラメータを取得し、パラメータに一致しないレコードを除外するレコードセットフィルタを作成するときに使用するためです。

レコードセットフィルタの作成

1 [フィルタ] 領域の最初のポップアップメニューで、一致するデータを検索するデータベーステーブルの列を選択します。

たとえば、検索ページから送られる値が都市名の場合は、都市名が保存されているテーブルの列を選択します。

2 最初のメニューの横にあるポップアップメニューで、等号記号 (初期設定) を選択します。

3 検索ページのフォームで POST メソッドを使用する場合は、3 番目のポップアップメニューで [フォーム変数] を選択します。GET メソッドを使用する場合は、[URL パラメータ] を選択します。

検索ページでは、フォーム変数または URL パラメータを使用して、結果ページに情報を渡します。

4 4 番目のボックスに、検索ページの検索パラメータを入力するためのフォームオブジェクト名を入力します。

オブジェクト名はフォーム変数または URL パラメータの名前にもなります。名前を調べるには、検索ページに切り替え、フォーム上のフォームオブジェクトをクリックして選択し、プロパティインスペクタでオブジェクト名を参照します。

たとえば、特定の国への冒険旅行のみを含むレコードセットを作成するとします。テーブルに TRIPLOCATION という名前の列があるとします。また、検索ページの HTML フォームでは GET メソッドを使用しており、国のリストを表示する Location という名前のメニューオブジェクトがあるとします。この場合、[フィルタ] 領域の設定は次のようになります。

5 (オプション) [テスト] をクリックして、テスト値を入力します。次に、[OK] をクリックしてデータベースに接続し、レコードセットのインスタンスを作成します。

テスト値は、検索ページから返される値をシミュレートします。[OK] をクリックしてテストレコードセットを閉じます。

6 レコードセットを確認したら、[OK] をクリックします。

ページにサーバーサイドスクリプトが挿入されます。このスクリプトは、サーバーでの実行時にデータベーステーブル内の各レコードを調べます。レコード内の指定されたフィールドがフィルタ条件に一致すると、そのレコードはレコードセットに追加されます。このスクリプトによって、検索結果のみを含むレコードセットが作成されます。

次の手順では、結果ページにレコードセットを表示します。詳細については、596 ページの「検索結果の表示 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」を参照してください。

高度な結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

検索ページからサーバーに複数の検索パラメータが送信される場合は、結果ページ用に SQL クエリーを記述し、検索パラメータを SQL 変数に格納して使用する必要があります。

注意： 検索条件が 1 つしかない場合は、基本設定の [レコードセット] ダイアログボックスを使用してレコードセットを定義できます (詳細については、593 ページの「基本的な結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」を参照してください)。

1 Dreamweaver で結果ページを開き、[ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを開きます。[+] ボタンをクリックしてポップアップメニューから [レコードセット] を選択し、新しいレコードセットを作成します。

2 詳細設定の [レコードセット] ダイアログボックスが表示されることを確認します。

詳細設定のダイアログボックスには、SQL ステートメントを入力するためのテキスト領域があります。基本設定のダイアログボックスが表示された場合は、[詳細設定] ボタンをクリックして、詳細設定のダイアログボックスに切り替えてください。

3 レコードセットの名前を入力し、接続を選択します。

ビジターが検索するデータが存在するデータベースへの接続を選択してください。

4 SQL テキスト領域に Select ステートメントを入力します。

ステートメントに、検索パラメータを保持する変数を使用した WHERE 句があることを確認します。次の例では、変数は varLastName と varDept です。

```
SELECT EMPLOYEEID, FIRSTNAME, LASTNAME, DEPARTMENT, EXTENSION ¬
FROM EMPLOYEE WHERE LASTNAME LIKE 'varLastName' AND DEPARTMENT ¬
LIKE 'varDept'
```

キーボードからの入力を少なくするために、詳細設定の [レコードセット] ダイアログボックスの下部にあるデータベース項目のツリーを使用することができます。手順については、522 ページの「SQL を使用した高度なレコードセットの定義」を参照してください。

SQL シンタックスのヘルプについては、www.adobe.com/go/learn_dw_sqlprimer_jp の SQL primer を参照してください。

5 SQL 変数に、検索パラメータの値を指定します。[変数] 領域で [+] ボタンをクリックして、変数名、初期設定値 (ランタイム値が返されなかった場合に変数で使用する値)、およびランタイム値 (通常はリクエスト変数などブラウザから送信された値を保持するサーバーオブジェクト) を入力します。

次の ASP の例では、検索ページの HTML フォームは GET メソッドを使用し、[LastName] と [Department] という 2 つのテキストフィールドを持ちます。

ColdFusion の場合、ランタイム値は #LastName# と #Department# になります。JSP の場合、ランタイム値は request.getParameter("LastName") と request.getParameter("Department") になります。

6 (オプション) [テスト] をクリックすると、初期設定の変数値を使用してレコードセットのインスタンスが作成されます。

初期設定値は、検索ページから返される値をシミュレートします。[OK] をクリックしてテストレコードセットを閉じます。

7 レコードセットを確認したら、[OK] をクリックします。

SQL クエリーがページに挿入されます。

次の手順では、結果ページにレコードセットを表示します。

検索結果の表示 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

検索結果を保持するレコードセットを作成したら、結果ページに情報を表示する必要があります。レコードの表示は、[バインディング] パネルから結果ページに列を 1 つずつドラッグするだけで簡単に指定できます。前後のレコードセットに移動するためのナビゲーションリンクの追加や、ページに複数のレコードを表示するためのリピート領域の作成を行うことができます。また、詳細ページへのリンクを追加することもできます。

動的テーブルへの検索結果の表示以外にも、ページに動的コンテンツを表示する方法はあります。詳細については、540 ページの「データベースのレコードの表示」を参照してください。

1 動的テーブルを表示する結果ページ上の場所に挿入ポイントを置き、[挿入]-[データオブジェクト]-[動的データ]-[動的テーブル] を選択します。

2 [動的テーブル] ダイアログボックスに必要な値を入力します。その際に、検索結果を保持するために定義したレコードセットを選択します。

3 [OK] をクリックします。検索結果を表示する動的テーブルが、結果ページに挿入されます。

結果ページの詳細ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

検索 / 結果ページのグループに、結果ページの特定のレコードの詳細情報を表示するための詳細ページを追加することができます。この場合、結果ページはマスター / 詳細ページセットでマスターページとしても動作します。

関連項目

590 ページの「1 回の操作によるマスターページと詳細ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

592 ページの「検索ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

593 ページの「基本的な結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

データベース検索ページの作成 (ASP.NET)

データベース検索ページについて (ASP.NET)

データベースを検索し、その結果をデータグリッドに表示するページを Dreamweaver で作成できます。フォームコントロールを追加してデータベースの検索方法を指定し、検索結果の表示方法を制御することが可能です。

関連項目

592 ページの「検索ページと結果ページについて」

検索コントロールの追加 (ASP.NET)

通常、Web の検索ページには、ビジターが検索パラメータを入力するフォームフィールドがあります。ビジターがボタンをクリックすると、検索結果が表示されます。

1 検索ページを開き、[挿入]-[フォーム]-[フォーム] を選択します。

ページに空白のフォームが作成されます。フォームの境界線を表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択する必要があります。フォームの境界線は細い赤線で表示されます。

フォームのプロパティインスペクタで、フォームのメソッド属性として POST を選択する必要があります。フォームのアクション属性を指定する必要はありません。ASP.NET ページでそのページ自身にポストバックが行われ、検索結果が同じページに表示されます。

2 検索パラメータを入力するためのフォームコントロールを追加します ([挿入]-[ASP.NET オブジェクト])。

TextBox、CheckBox、RadioButton、ListBox、または DropDownList など、どのような ASP.NET フォームコントロールでも挿入できます。追加できるコントロールの数に制限はありません。数が多いほどビジターが検索条件を詳しく指定できるようになります。ただし、検索ページの検索パラメータ数が多くなると、SQL ステートメントも複雑になります。

コントロールごとに、TextBox コントロールの txtCity、ListBox コントロールの lbxCountry などの ID 属性を指定するようにしてください。詳細については、651 ページの「ページへの ASP.NET フォームコントロールの追加」を参照してください。

3 [挿入]-[ASP.NET オブジェクト]-[asp:button] を選択して、フォームに ASP.NET ボタンを追加します。

ボタンの ID 属性 (**btnSearch** など) およびボタンラベルのテキスト (「検索」など) を指定してください。

これで検索フォームが完成しました。検索ページの作成における次の手順では、検索を行って検索結果を格納するデータセットを定義します。

検索パラメータを 1 つだけ使用する検索 (ASP.NET)

ビジターがページの [検索] ボタンをクリックすると、検索パラメータがサーバーに送信されます。サーバーによって、要求が処理され、パラメータに基づいてフィルタ処理されたデータセットが作成され、データグリッドに初期値が入力され、ページがブラウザに戻されます。

データグリッドを追加する前に、検索基準を満たすレコードをすべて検索して保存するデータセットを定義してください。

検索結果を保持するデータセットの作成

1 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、[データセット (クエリー)] を選択します。

詳細設定のダイアログボックスが表示されたときは、[基本設定] ボタンをクリックして、基本設定のダイアログボックスを開きます。詳細設定のダイアログボックスには、SQL ステートメントを入力するためのテキスト領域があります。基本設定のダイアログボックスにはこのテキスト領域がありません。

2 データセットに名前を付け、接続と、ビジターに検索させるデータが含まれるデータベーステーブルを選択します。

3 [列] 領域で、[選択] オプションをクリックし、キー列 (通常、そのレコードの ID 列) と、データグリッドに表示するデータが含まれている列を選択します。

[データセット] ダイアログボックスは開いたままにしておきます。これは、次に検索ページから送られるパラメータを取得し、パラメータに一致しないレコードを除外するデータセットフィルタを作成するときに使用するためです。

カスタムデータセットフィルタの作成

1 [フィルタ] 領域の最初のポップアップメニューで、検索ページから送られた検索パラメータと比較するテーブルの列を選択します。

たとえば、検索ページから送られる値が都市名の場合は、都市名が保存されているテーブルの列を選択します。

2 最初のメニューの横にあるポップアップメニューで、等号記号 (初期設定) を選択します。

この場合、選択したテーブル列において、検索ページで指定されたパラメータと正確に一致するレコードのみが検索されます。" で始まる " や " を含む " など、制限の弱いオプションを使用できます。

3 3 番目のポップアップメニューで [フォーム変数] を選択します。

このパラメータは、POST メソッドを使用したフォームでサーバーに送られます。

4 4 番目のボックスに、検索パラメータをサーバーに送るためのフォームコントロールの名前を入力します。

名前を調べるには、フォーム上のフォームコントロールをクリックして選択し、プロパティインスペクタでコントロールの ID を参照します。

5 必要な場合は、[テスト] をクリックして、テスト値を入力し、[OK] をクリックしてデータベースに接続し、データセットのインスタンスを作成します。

テスト値は、検索ページから返される値をシミュレートします。[OK] をクリックしてデータセットを閉じます。

6 データセットを確認したら、[OK] をクリックします。

ページにコードが挿入されます。このコードは、サーバーでの実行時にデータベーステーブル内の各レコードを調べます。レコード内の指定されたフィールドがフィルタ条件に一致すると、そのレコードはデータセットに追加されます。このコードによって、検索結果のみを含むレコードセットが作成されます。

検索ページの作成における次の手順では、データグリッドに検索結果を表示します。詳細については、599 ページの「データグリッドへの結果の表示 (ASP.NET)」を参照してください。

複数の検索パラメータを使用する検索 (ASP.NET)

検索ページからサーバーに複数の検索パラメータが送信される場合は、SQL クエリーを記述し、検索パラメータを SQL 変数に格納して使用する必要があります。

注意：検索条件が 1 つしかない場合は、基本設定の [データセット] ダイアログボックスを使用してデータセットを定義できます。詳細については、597 ページの「検索パラメータを 1 つだけ使用する検索 (ASP.NET)」を参照してください。

1 Dreamweaver で結果ページを開き、[ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを開きます。[+] ボタンをクリックしてポップアップメニューから [データセット] を選択し、新しいデータセットを作成します。

2 詳細設定の [データセット] ダイアログボックスが表示されることを確認します。

基本設定のダイアログボックスが表示された場合は、[詳細設定] ボタンをクリックして、詳細設定のダイアログボックスに切り替えてください。詳細設定のダイアログボックスには、SQL ステートメントを入力するためのテキスト領域があります。

3 データセットの名前を入力し、接続を選択します。

ビジターが検索するデータが存在するデータベースへの接続を選択してください。

4 SQL テキスト領域に Select ステートメントを入力します。

このステートメントには、検索パラメータを表す疑問符 (?) プレースホルダーを使用した WHERE 句を含めてください。以下の例には、2 つのプレースホルダーが含まれます。

```
SELECT EMPLOYEEID, FIRSTNAME, LASTNAME, DEPARTMENT, EXTENSION
FROM EMPLOYEE WHERE LASTNAME LIKE ?
AND DEPARTMENT LIKE ?
```

5 [パラメータ] 領域の [+] ボタンをクリックし、パラメータの名前、タイプ、および値を入力して、検索パラメータの値をプレースホルダーに指定します。

パラメータは、SQL ステートメントに記述されるのと同じ順序で並んでいる必要があります。

[名前] ボックスに有効なパラメータ名を入力します。名前に、スペースまたは特殊文字を含めることはできません。

[タイプ] ポップアップメニューでデータタイプを選択します。たとえば、パラメータにテキストを使用する場合は、WChar を選択します。

[値] ボックスに、パラメータ値を格納するサーバー変数を入力します。たとえば、検索ページのフォームコントロールの名前が txtCity であれば、Request.Form("txtCity") という名前のサーバー変数が作成され、値がその変数に格納されます。

サーバー変数が存在しない場合の初期設定値を指定する、より完全な形の式を入力することもできます。たとえば、Microsoft Access データベースを検索する場合には、% を初期設定値として使用できます。次の式は、サーバー変数 Request.Form("txtCity") が存在するかどうかをチェックします。変数が存在する (つまり、Nothing ではない) 場合、変数の値が返されます。変数が存在しない場合は、初期設定値の % が返されます。

```
(IIf((Request.Form("txtCity") <> Nothing),
Request.Form("txtCity"), "")) + "%"
```

詳細については、Visual Basic または C# 言語リファレンスを参照してください。

6 [テスト] をクリックすると、初期設定の変数値を使用してデータセットのインスタンスが作成されます。

初期設定値は、検索ページから返される値をシミュレートします。[OK] をクリックしてテストデータセットを閉じます。

7 データセットを確認したら、[OK] をクリックします。

SQL クエリーがページに挿入されます。

次の手順では、データグリッドに検索結果を表示します。

データグリッドへの結果の表示 (ASP.NET)

検索結果を保持するデータセットを作成したら、データグリッドを使用して情報をページに表示することができます。

1 検索ページで、データグリッドを表示したい場所に挿入ポイントを置きます。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、[データグリッド] を選択します。

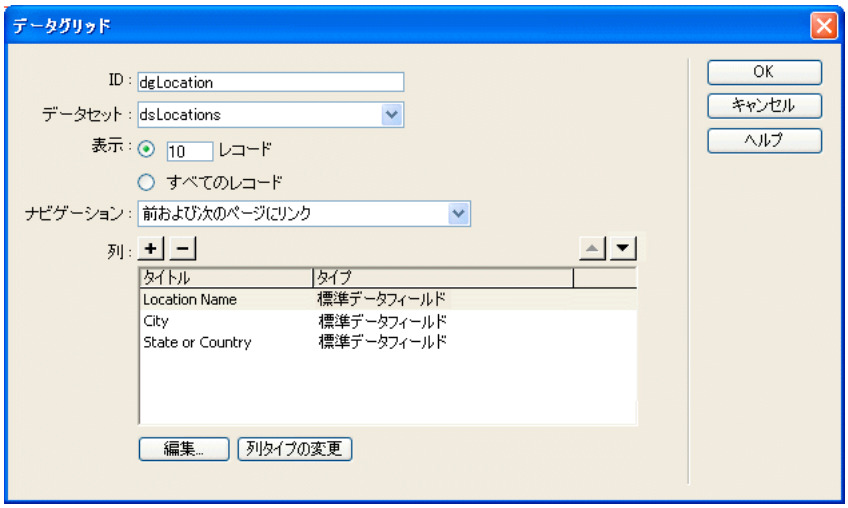
[データグリッド] ダイアログボックスが表示されます。

3 [ID] ボックスに、「dgLocation」などのデータグリッドの名前を入力します。

4 [データセット] ポップアップメニューで、検索結果を保持するために定義したデータセットを選択します。

5 必要に応じて、ダイアログボックスの残りの項目を設定します。

以下の例は、3 列と 10 行で構成され、結果の前ページと次ページへのリンクがあるデータグリッドを作成する場合の [データグリッド] ダイアログボックスを示しています。



データグリッドは、ビジターが検索を実行していない場合でも、検索ページが最初にロードされたときに表示されます。ページが最初にロードされるときに、データグリッドが表示されないように設定できます。

関連項目

597 ページの「検索パラメータを 1 つだけ使用する検索 (ASP.NET)」

598 ページの「複数の検索パラメータを使用する検索 (ASP.NET)」

最初にページをロードするときにデータグリッドを非表示にする (ASP.NET)

検索ページが最初にロードされるときに、検索結果を表示するのに使用するデータグリッドが非表示されないように設定できます。

1 コードビュー ([表示]-[コード]) で検索ページを開きます。

2 ページ言語が Visual Basic であれば、ページの上部にある Register ディレクティブの直後に、次のコードブロックを入力します。

```
<script runat="server">
Sub Page_Load()
    If Not IsPostBack Then
        dgName.Visible = falseElse
        dgName.Visible = trueEnd IfEnd Sub
</script>
```

ここで、*dgName* はデータグリッドの ID です。

ページ言語が C# であれば、次のコードを入力します。

```
<script runat="server">
void Page_Load() {
    if (!IsPostBack) {
        dgName.Visible = false;} else {
        dgName.Visible = true;}}
</script>
```

3 ページを保存します。

詳細ページの作成 (ASP.NET)

検索ページに、データグリッドに表示される特定のレコードの詳細を表示する、詳細ページを追加できます。この場合、検索ページはマスター / 詳細ページセットでマスターページとして動作します。詳細については、583 ページの「マスターページと詳細ページの作成 (すべてのサーバー)」を参照してください。

レコード挿入ページの作成 (すべてのサーバー)

レコード挿入ページについて

ユーザーがデータベースに新しいレコードを挿入するためのページを、アプリケーションに含めることができます。

レコード挿入ページの作成のチュートリアルについては、www.adobe.com/go/learn_dw_webapp_jp を参照してください。

挿入ページは、次の 2 つの作成ブロックで構成されます。

- ユーザーがデータを入力する HTML フォーム
- データベースを更新する [レコードの挿入] サーバービヘイビア

ユーザーがフォーム上の [送信] ボタンをクリックしたときに、サーバービヘイビアによってデータベーステーブルにレコードが挿入されます。

これらの 2 つの作成ブロックは、[レコード挿入フォーム] データオブジェクトを使用して 1 回の操作で追加できます。または、Dreamweaver のフォームツールと [サーバービヘイビア] パネルを使用して 1 つずつ追加することもできます。

注意 : 挿入ページが保有できるレコード編集用のサーバービヘイビアは、常に 1 つだけです。たとえば、挿入ページには [レコードの更新] や [レコードの削除] などのサーバービヘイビアを追加できません。

ブロックごとの挿入ページの作成

フォームツールとサーバービヘイビアを使用して挿入ページを作成することもできます。

関連項目

569 ページの「フォームの作成」

挿入ページへの HTML フォームの追加

1 [ファイル]-[新規]-[空白ページ] を選択して動的ページを新規作成し、Dreamweaver のデザインツールを使用してページをレイアウトします。

2 フォームを挿入する位置に挿入ポイントを置いて、[挿入]-[フォーム]-[フォーム] を選択し、HTML フォームを追加します。

ページに空白のフォームが作成されます。フォームの境界線を表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択する必要があります。フォームの境界線は細い赤線で表示されます。

3 HTML フォームの名前を指定します。ドキュメントウィンドウの下部にある <form> タグをクリックし、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[フォーム名] ボックスに名前を入力します。

フォームの action 属性や method 属性を指定して、ビジターが [送信] ボタンをクリックしたときのレコードの送信先や送信方法を指示する必要はありません。[レコードの挿入] サーバービヘイビアが自動的にこれらの属性を設定します。

4 レコードの挿入先となるデータベーステーブルの各列に、テキストフィールドなどのフォームオブジェクトを追加します ([挿入]-[フォーム]-[テキストフィールド])。

フォームオブジェクトはデータエントリ用です。データエントリには一般的にテキストフィールドを使用しますが、メニュー、オプション、ラジオボタンなども使用できます。

5 [挿入]-[フォーム]-[ボタン] を選択して、フォームに [送信] ボタンを追加します。

[送信] ボタンのラベルを変更するには、ボタンを選択し、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[ラベル] ボックスに新しい値を入力します。

データベーステーブルにレコードを挿入するサーバービヘイビアの追加 (ColdFusion)

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードの挿入] を選択します。

2 [値送信元] ポップアップメニューからフォームを選択します。

3 [データソース] ポップアップメニューからデータベースへの接続を選択します。

4 ユーザー名とパスワードを入力します。

5 [更新対象テーブル] ポップアップメニューから、レコードの挿入先のデータベーステーブルを選択します。

6 レコードの挿入先のデータベース列を指定し、[値] ポップアップメニューからレコードの挿入元のフォームオブジェクトを選択し、このフォームオブジェクトのデータタイプを [送信形式] ポップアップメニューから選択します。

データタイプとは、データベーステーブルの列に入力できるデータの種類です。データタイプには、テキスト、数値、ブールオプション値があります。

フォーム内の各フォームオブジェクトについて、この操作を繰り返します。

7 テーブルにレコードを挿入した後に開くページを、[挿入後の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックしてファイルを参照します。

8 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によってサーバービヘイビアがページに追加されます。HTML フォームに記入して [送信] ボタンをクリックすることで、ユーザーがレコードをデータベーステーブルに挿入できるようになります。

データベーステーブルにレコードを挿入するサーバービヘイビアの追加 (ASP、JSP)

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードの挿入] を選択します。

2 [接続] ポップアップメニューからデータベースへの接続を選択します。

接続を定義する必要がある場合は、[定義] ボタンをクリックします。

3 [更新対象テーブル] ポップアップメニューから、レコードの挿入先のデータベーステーブルを選択します。

4 テーブルへのレコード挿入後に開くページを、[挿入後の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] をクリックしてファイルを参照します。

5 [値取得元] ポップアップメニューから、データ入力に使用する HTML フォームを選択します。

Dreamweaver によって、ページの最初のフォームが自動的に選択されます。

6 レコードの挿入先のデータベース列を指定し、[値] ポップアップメニューからレコードの挿入元のフォームオブジェクトを選択し、このフォームオブジェクトのデータタイプを [送信形式] ポップアップメニューから選択します。

データタイプとは、データベーステーブルの列に入力できるデータの種類です。データタイプには、テキスト、数値、ブールオプション値があります。

フォーム内の各フォームオブジェクトについて、この操作を繰り返します。

7 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によってサーバービヘイビアがページに追加されます。HTML フォームに記入して [送信] ボタンをクリックすることで、ユーザーがレコードをデータベーステーブルに挿入できるようになります。

サーバービヘイビアを編集するには、[ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] を選択して [サーバービヘイビア] パネルを開き、[レコードの挿入] ビヘイビアをダブルクリックします。

データベーステーブルにレコードを挿入するサーバービヘイビアの追加 (ASP.NET)

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードの挿入] を選択します。

2 [値送信元] ポップアップメニューからフォームを選択します。

3 [接続] ポップアップメニューからデータベースへの接続を選択します。

接続を定義する必要がある場合は、[定義] ボタンをクリックします。

4 [更新対象テーブル] ポップアップメニューから、レコードの挿入先のデータベーステーブルを選択します。

5 レコードの挿入先のデータベース列を指定し、[値] ポップアップメニューからレコードの挿入元のフォームオブジェクトを選択し、このフォームオブジェクトのデータタイプを [送信形式] ポップアップメニューから選択します。

データタイプとは、データベーステーブルの列に入力できるデータの種類です。データタイプには、テキスト、数値、ブールオプション値があります。

フォーム内の各フォームオブジェクトについて、この操作を繰り返します。

6 サーバービヘイビアが成功した場合に表示するページの場所を、[成功時の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックして場所を参照します。

7 サーバービヘイビアが失敗した場合に表示するページの場所を、[失敗時の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックして場所を参照します。

8 サーバービヘイビアが失敗したときにデバッグ情報を参照する場合は、[失敗時のデバッグ情報の表示] オプションを選択します。

このオプションを選択すると、Dreamweaver は [失敗時の移動先] オプションを無視します。

開発中にはデバッグオプションを使用し、サイトがライブになったら [失敗時の移動先] オプションを使用します。

9 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によってサーバービヘイビアがページに追加されます。HTML フォームに記入して [送信] ボタンをクリックすることで、ユーザーがレコードをデータベーステーブルに挿入できるようになります。

データベーステーブルにレコードを挿入するサーバービヘイビアの追加 (PHP)

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードの挿入] を選択します。

2 [値送信元] ポップアップメニューからフォームを選択します。

3 [接続] ポップアップメニューからデータベースへの接続を選択します。

4 [テーブルの挿入] ポップアップメニューから、レコードの挿入先のデータベーステーブルを選択します。

5 レコードの挿入先のデータベース列を指定し、[値] ポップアップメニューからレコードの挿入元のフォームオブジェクトを選択し、このフォームオブジェクトのデータタイプを [送信形式] ポップアップメニューから選択します。

データタイプとは、データベーステーブルの列に入力できるデータの種類です。データタイプには、テキスト、数値、ブールオプション値があります。

フォーム内の各フォームオブジェクトについて、この操作を繰り返します。

6 テーブルにレコードを挿入した後に開くページを、[挿入後の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックしてファイルを参照します。

7 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によってサーバービヘイビアがページに追加されます。HTML フォームに記入して [送信] ボタンをクリックすることで、ユーザーがレコードをデータベーステーブルに挿入できるようになります。

1 回の操作による挿入ページの作成

1 デザインビューでページを開き、[挿入]-[データオブジェクト]-[レコードの挿入]-[レコード挿入フォームウィザード] を選択します。

2 [接続] ポップアップメニューからデータベースへの接続を選択します。接続を定義する必要がある場合は、[定義] ボタンをクリックします。

3 [更新対象テーブル] ポップアップメニューから、レコードの挿入先のデータベーステーブルを選択します。

4 ColdFusion を使用する場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

5 テーブルにレコードを挿入した後に開くページを、[挿入後の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックしてファイルを参照します。

6 ASP.NET を使用する場合、成功時または失敗時に移動するページをそれぞれ指定できます。または、失敗したときにはデバッグ情報を表示するように選択することができます。

[失敗時のデバッグ情報の表示] を選択した場合、Dreamweaver は [失敗時の移動先] オプションを無視します。

開発中には、[失敗時のデバッグ情報の表示] オプションを使用し、ページがライブになったら [失敗時の移動先] オプションを使用します。

7 [フォームフィールド] 領域で、挿入ページの HTML フォームに含めるフォームオブジェクトを指定し、各フォームオブジェクトが更新するデータベーステーブル内の列を指定します。

初期設定では、Dreamweaver は、データベーステーブルの各列に対してフォームオブジェクトを 1 つずつ作成します。使用しているデータベースで、新規作成されたレコードに対して自動的に固有のキー ID が生成される場合は、そのキー列に対応するフォームオブジェクトをリストから選択し、[-] ボタンをクリックして削除してください。削除しておけば、フォームを使用するユーザーが既に存在している ID の値を入力してしまうことはありません。

リストからフォームオブジェクトを選択し、ダイアログボックスの右側にある上向きまたは下向きの矢印をクリックすると、HTML フォームのフォームオブジェクトの並び順を変更することができます。

8 [フォームフィールド] テーブルの行をクリックし、このテーブルの下のボックスに次の情報を入力して、HTML フォームでの各データエントリフィールドの表示方法を指定します。

- [ラベル] ボックスに、データエントリフィールドの横に表示する説明ラベルを入力します。Dreamweaver では、初期設定のラベルとしてテーブル列の名前が表示されます。
- [表示形式] ポップアップメニューから、データエントリフィールドとして使用するフォームオブジェクトを選択します。[テキストフィールド]、[テキストエリア]、[メニュー]、[チェックボックス]、[ラジオボタングループ]、[テキスト] から選択できます。読み取り専用エントリの場合は、[テキスト] を選択してください。また [パスワードフィールド]、[ファイルフィールド]、および [非表示フィールド] を選択することもできます。

注意：非表示フィールドは、フォームの末尾に挿入されます。

- [送信形式] ポップアップメニューから、データベーステーブルで受信する際のデータ形式を選択します。たとえば、数値データのみを表示するテーブル列の場合は、[数値] を選択します。
- フォームオブジェクトのプロパティを設定します。オプションは、データエントリフィールドとして選択したフォームオブジェクトによって異なります。テキストフィールド、テキスト領域、およびテキストの場合は、初期値を入力できます。メニューグループとラジオボタングループの場合は、別のダイアログボックスが開き、そこでプロパティを設定します。オプションの場合は [チェック済み] または [未チェック] を選択します。
- ASP.NET を使用する場合、Web フォームコントロールを使用するかどうかを選択することができます。

9 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によって、HTML フォームと [レコードの挿入] サーバービヘイビアの両方がページに自動的に追加されます。フォームオブジェクトが基本テーブルに配置され、Dreamweaver のページデザインツールでカスタマイズできるようになります。フォームオブジェクト全体がフォームの境界内に収まるようにしてください。

サーバービヘイビアを編集するには、[ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] を選択して [サーバービヘイビア] パネルを開き、[レコードの挿入] ビヘイビアをダブルクリックします。

レコードを更新するページの作成 (すべてのサーバー)

レコード更新ページについて

ユーザーがデータベーステーブルの既存レコードを更新できるページを、アプリケーションに含めることができます。ページは通常、検索ページ、結果ページ、および更新ページで構成されます。検索および結果ページではレコードを取得し、更新ページではレコードを修正できます。

更新するレコードの検索

ユーザーがレコードを更新する場合、まずそのレコードをデータベースで検索する必要があります。そのために、更新ページと連動する検索および結果ページが必要となります。ユーザーは、検索ページに検索基準を入力し、結果ページ上のレコードを選択します。ユーザーが結果ページ上のレコードをクリックすると、更新ページが開き、選択したレコードが HTML フォーム内に表示されます。

関連項目

592 ページの「検索ページと結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

597 ページの「データベース検索ページの作成 (ASP.NET)」

更新ページへのリンクの作成

検索ページと結果ページを作成した後で、更新ページを開くためのリンクを結果ページ上に作成します。その後で、ユーザーが選択したレコードの ID を渡すようにリンクを修正します。更新ページでは、この ID を使用して、要求されたレコードをデータベース内で検索し、その結果を表示します。

更新ページを開いてレコード ID を渡す手順は、詳細ページを開いてレコード ID を渡す手順と同じです。詳細については、586 ページの「詳細ページへのリンクの作成」を参照してください。

関連項目

505 ページの「URL パラメータ」

更新するレコードの取得

更新対象のレコードを指定するレコード ID が結果ページから更新ページに渡されると、更新ページ側でそのパラメータを読み取り、データベーステーブルから該当レコードを取得してレコードセットに一時的に格納する必要があります。

1 Dreamweaver でページを作成して保存します。

このページが更新ページになります。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で、[+] ボタンをクリックして [レコードセット] を選択します。

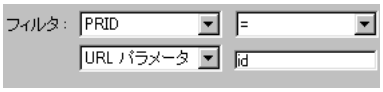
詳細設定のダイアログボックスが表示された場合は、[基本設定] をクリックします。詳細設定のダイアログボックスには、SQL ステートメントを入力するためのテキスト領域があります。基本設定のダイアログボックスにはこのテキスト領域がありません。

3 レコードセットの名前を指定し、[接続] と [テーブル] ポップアップメニューを使用して、更新するデータが存在する場所を指定します。

4 [選択] オプションをクリックし、キー列 (通常、そのレコードの ID 列) と、更新するデータが含まれている列を選択します。

5 キー列の値が、結果ページから渡された対応する URL パラメータの値と同じになるように、[フィルタ] 領域を設定します。

このフィルタにより、結果ページで指定したレコードだけを含むレコードセットが作成されます。たとえば、キー列がレコード ID 情報を含む PRID という名前の列で、結果ページがこれに一致するレコード ID 情報を id という名前の URL パラメータで渡す場合、[フィルタ] 領域は次のように表示されます。



6 [OK] をクリックします。

ユーザーが結果ページのレコードを選択すると、更新ページでは、選択したレコードだけが含まれるレコードセットが生成されます。

ブロックごとの更新ページの作成

更新ページには、次の 3 つの作成ブロックが含まれます。

- データベーステーブルからレコードを取得するためのフィルタ済みレコードセット
- ユーザーがレコードのデータを修正するための HTML フォーム
- データベーステーブルを更新する [レコードの更新] サーバービヘイビア

フォームツールと [サーバービヘイビア] パネルを使用し、更新ページの最後の 2 つの基本作成ブロックを 1 つずつ追加することができます。

関連項目

605 ページの「更新するレコードの取得」

569 ページの「フォームの作成」

更新ページへの HTML フォームの追加

1 [ファイル]-[新規]-[空白ページ] を選択してページを作成します。このページが更新ページになります。

2 Dreamweaver のデザインツールを使用してページをレイアウトします。

3 フォームを挿入する位置に挿入ポイントを置いて、[挿入]-[フォーム]-[フォーム] を選択し、HTML フォームを追加します。

ページに空白のフォームが作成されます。フォームの境界線を表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択する必要があります。フォームの境界線は細い赤線で表示されます。

4 HTML フォームの名前を指定します。ドキュメントウィンドウの下部にある <form> タグをクリックし、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[フォーム名] ボックスに名前を入力します。

フォームの action 属性や method 属性を指定して、ビジターが [送信] ボタンをクリックしたときのレコードの送信先や送信方法を指示する必要はありません。[レコードの更新] サーバービヘイビアが自動的にこれらの属性を設定します。

5 データベーステーブル内のレコードを更新する列ごとに、テキストフィールド ([挿入]-[フォーム]-[テキストフィールド]) などのフォームオブジェクトを追加します。

フォームオブジェクトはデータエントリ用です。データエントリには一般的にテキストフィールドを使用しますが、メニュー、オプション、ラジオボタンなども使用できます。

各フォームオブジェクトに対し、レコードセット内の列がユーザーにより事前定義されています。唯一の例外は固有のキー列で、この列には対応するフォームオブジェクトがありません。

6 [挿入]-[フォーム]-[ボタン] を選択して、フォームに [送信] ボタンを追加します。

[送信] ボタンのラベルを変更するには、ボタンを選択し、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[ラベル] ボックスに新しい値を入力します。

フォームへのレコードの表示

1 ユーザーが更新したいレコードを保持するレコードセットを定義してあるかを確認します。

詳細については、605 ページの「更新するレコードの取得」を参照してください。

2 次の項で説明しているように、各フォームオブジェクトをレコードセット内のデータにバインドします。

- 578 ページの「HTML テキストフィールドでの動的コンテンツの表示」
- 578 ページの「HTML チェックボックスの動的な事前選択」
- 579 ページの「HTML ラジオボタンの動的な事前選択」
- 577 ページの「動的 HTML フォームメニューの挿入または変更」
- 578 ページの「既存の HTML フォームメニューを動的にする」

データベーステーブルを更新するサーバービヘイビアの追加

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードの更新] を選択します。

[レコードの更新] ダイアログボックスが表示されます。

2 [値送信元] ポップアップメニューからフォームを選択します。

3 [データソース] または [接続] ポップアップメニューからデータベースへの接続を選択します。

4 該当する場合はユーザー名とパスワードを入力します。

5 [更新するテーブル] ポップアップメニューから、更新するレコードを含むデータベーステーブルを選択します。

6 (ColdFusion、PHP、ASP.NET) 更新するデータベース列を指定し、[値] ポップアップメニューから列の更新元のフォームオブジェクトを選択し、このフォームオブジェクトのデータタイプを [送信形式] ポップアップメニューから選択します。この列をプライマリキーとして指定する場合は [プライマリキー] を選択します。

データタイプとは、データベーステーブルの列に入力できるデータの種類です。データタイプには、テキスト、数値、ブールオプション値があります。

フォーム内の各フォームオブジェクトについて、この操作を繰り返します。

7 (ASP、JSP) [レコード選択元] ポップアップメニューから、HTML フォームに表示するレコードが含まれているレコードセットを指定します。[ユニークキー列] ポップアップメニューから、データベーステーブルのレコードを特定するキー列 (通常は、レコード ID 列) を選択します。値が数値の場合は、[数値] オプションを選択します。通常、キー列に入力できるのは数値だけですが、テキスト値を使用できる場合もあります。

8 テーブルのレコードを更新した後に開くページを、[更新後の移動先] または [成功時の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックしてファイルを参照します。

9 (ASP.NET) サーバービヘイビアが失敗した場合に表示するページの場所を、[失敗時の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックして場所を参照します。

10 (ASP.NET) サーバービヘイビアが失敗したときにデバッグ情報を参照する場合は、[失敗時のデバッグ情報の表示] オプションを選択します。このオプションを選択すると、Dreamweaver は [失敗時の移動先] オプションを無視します。

開発中にはデバッグオプションを使用し、サイトがライブになったら [失敗時の移動先] オプションを使用します。

11 (ASP、JSP) 更新するデータベース列を指定し、[値] ポップアップメニューから列の更新元のフォームオブジェクトを選択してから、このフォームオブジェクトのデータタイプを [送信形式] ポップアップメニューから選択します。データタイプとは、データベーステーブルの列に入力できるデータの種類です。データタイプには、テキスト、数値、ブールオプション値があります。フォーム内の各フォームオブジェクトについて、この操作を繰り返します。

12 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によってサーバービヘイビアがページに追加されます。HTML フォームに表示されている情報を修正して [送信] ボタンをクリックすることで、ユーザーがデータベーステーブル内のレコードを更新できるようになります。

サーバービヘイビアを編集するには、[ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] コマンドメニューを選択して [サーバービヘイビア] パネルを開き、[レコードの更新] ビヘイビアをダブルクリックします。

1 回の操作による更新ページの作成

更新ページには、次の 3 つの作成ブロックが含まれます。

- データベーステーブルからレコードを取得するためのフィルタ済みレコードセット
- ユーザーがレコードのデータを修正するための HTML フォーム
- データベーステーブルを更新する [レコードの更新] サーバービヘイビア

[レコード更新フォーム] データオブジェクトを使用すると、更新ページの最後の 2 つの作成ブロックを 1 回の操作で追加できます。このデータオブジェクトにより、HTML フォームと [レコードの更新] サーバービヘイビアの両方が更新ページに追加されます。

まず Web アプリケーションが、更新するレコードを特定できるように設定し、さらに、更新ページでそのレコードを取得できるようにしてから、データオブジェクトを使用します。

データオブジェクトで作成ブロックをページに配置した後は、Dreamweaver のデザインツールを使用して、そのフォームを自由にカスタマイズすることも、[サーバービヘイビア] パネルを使用して [レコードの更新] サーバービヘイビアを編集することもできます。

注意：更新ページが同時に保有できるレコード編集用のサーバービヘイビアは、常に 1 つだけです。たとえば、更新ページには [レコードの挿入] や [レコードの削除] などのサーバービヘイビアを追加できません。

1 デザインビューでページを開き、[挿入]-[データオブジェクト]-[レコードの更新]-[レコード更新フォームウィザード] を選択します。

[レコード更新フォーム] ダイアログボックスが表示されます。

2 [接続] ポップアップメニューからデータベースへの接続を選択します。

接続を定義する必要がある場合は、[定義] ボタンをクリックします。

3 [更新対象テーブル] ポップアップメニューから、更新するレコードを含むデータベーステーブルを選択します。

4 [レコード選択元] ポップアップメニューから、HTML フォームに表示するレコードが含まれているレコードセットを指定します。

5 [ユニークキー列] ポップアップメニューから、データベーステーブルのレコードを特定するキー列 (通常は、レコード ID 列) を選択します。

値が数値の場合は、[数値] オプションを選択します。通常、キー列に入力できるのは数値だけですが、テキスト値を使用できる場合もあります。

6 テーブルのレコードの更新後に開くページを、[更新後の移動先] ボックスまたは ASP.NET の場合は [成功時の移動先] ボックスに入力します。

7 (ASP.NET) 更新が失敗した場合は、その失敗に関する Web ページまたはデバッグ情報を表示します。

開発中にはデバッグオプションを使用し、サイトがライブになったら [失敗時の移動先] オプションを使用します。デバッグオプションを選択すると、Dreamweaver は [失敗時の移動先] オプションを無視します。

8 [フォームフィールド] 領域で、各フォームオブジェクトが更新するデータベーステーブル内の列を指定します。

初期設定では、Dreamweaver は、データベーステーブルの各列に対してフォームオブジェクトを 1 つずつ作成します。使用しているデータベースで、新規作成されたレコードに対して自動的に固有のキー ID が生成される場合は、そのキー列に対応するフォームオブジェクトをリストから選択し、[-] ボタンをクリックして削除してください。削除しておけば、フォームを使用するユーザーが既に存在している ID の値を入力してしまうことはありません。

リストからフォームオブジェクトを選択し、ダイアログボックスの右側にある上向きまたは下向きの矢印をクリックすると、HTML フォームのフォームオブジェクトの並び順を変更することができます。

9 [フォームフィールド] テーブルの行をクリックし、このテーブルの下のボックスに次の情報を入力して、HTML フォームでの各データエントリフィールドの表示方法を指定します。

- [ラベル] ボックスに、データエントリフィールドの横に表示する説明ラベルを入力します。Dreamweaver では、初期設定のラベルとしてテーブル列の名前が表示されます。
- [表示形式] ポップアップメニューから、データエントリフィールドとして使用するフォームオブジェクトを選択します。[テキストフィールド]、[テキストエリア]、[メニュー]、[チェックボックス]、[ラジオボタングループ]、[テキスト] から選択できます。読み取り専用エントリの場合は、[テキスト] を選択してください。また [パスワードフィールド]、[ファイルフィールド]、および [非表示フィールド] を選択することもできます。

注意：非表示フィールドは、フォームの末尾に挿入されます。

- [送信形式] ポップアップメニューから、データベーステーブルで受信する際のデータ形式を選択します。たとえば、数値データのみを表示するテーブル列の場合は、[数値] を選択します。
- フォームオブジェクトのプロパティを設定します。オプションは、データエントリフィールドとして選択したフォームオブジェクトによって異なります。テキストフィールド、テキスト領域、およびテキストの場合は、初期値を入力できます。メニューグループとラジオボタングループの場合は、別のダイアログボックスが開き、そこでプロパティを設定します。オプションの場合は [チェック済み] または [未チェック] を選択します。

10 他の [フォームフィールド] 行を選択し、ラベル、表示形式の値、送信形式の値を入力して、他のフォームオブジェクトのプロパティを設定します。

メニューグループとラジオボタングループの場合は、別のダイアログボックスが開き、そこでプロパティを設定します。オプションの場合は、レコードの表示時にオプションをオンにするかどうかを決定できるように、オプションの現在のレコード値と指定値との比較を定義します。

11 [OK] をクリックします。

Dreamweaver によって、HTML フォームと [レコードの更新] サーバービヘイビアの両方がページに自動的に追加されます。

このデータオブジェクトにより、HTML フォームと [レコードの更新] サーバービヘイビアの両方がページに追加されます。フォームオブジェクトが基本テーブルに配置され、Dreamweaver のページデザインツールでカスタマイズできるようになります。フォームオブジェクト全体がフォームの境界内に収まるようにしてください。

サーバービヘイビアを編集するには、[ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] コマンドメニューを選択して [サーバービヘイビア] パネルを開き、[レコードの更新] ビヘイビアをダブルクリックします。

関連項目

605 ページの「更新するレコードの取得」

577 ページの「動的 HTML フォームメニューの挿入または変更」

[フォームエレメントプロパティ] ダイアログボックスのオプション

[フォームエレメントプロパティ] ダイアログボックスでは、ユーザーがデータベース内のレコードを更新するための、ページ上のフォームエレメントのオプションを設定することができます。

1 フォームエレメントをどのように作成するかに応じて、[手動] または [データベースから] のいずれかを選択します。

2 [+] ボタンをクリックし、エレメントを追加します。

3 エレメントのラベルおよび値を入力します。

4 ページをブラウザで開くとき、またはフォームにレコードを表示するときに、特定のエレメントが選択された状態で表示されるようにするには、そのエレメントの値と同じ値を [同等値の選択] ボックスに入力します。

固定値を入力できる他、稲妻アイコンをクリックしてデータソースのリストから動的な値を選択して動的な値を指定することもできます。いずれの場合も、指定する値はエレメントの値のいずれかと一致している必要があります。

レコードを削除するページの作成 (すべてのサーバー)

レコード削除ページについて

ユーザーがデータベースのレコードを削除できるページセットを、アプリケーションに含めることができます。ページは通常、検索ページ、結果ページ、および削除ページで構成されます。通常、削除ページは、結果ページと連動している詳細ページです。検索ページと結果ページではレコードを取得し、削除ページではレコードを確認のうえ削除できます。

検索ページと結果ページを作成した後で、削除ページを開くためのリンクを結果ページに追加し、該当レコードと [送信] ボタンを表示する削除ページを作成します。

削除するレコードの検索

ユーザーがレコードを削除する場合、まずそのレコードをデータベースで検索する必要があります。そのために、削除ページと連動する検索および結果ページが必要となります。ユーザーは、検索ページに検索基準を入力し、結果ページ上のレコードを選択します。ユーザーがレコードをクリックすると、削除ページが開き、レコードが HTML フォーム内に表示されます。

関連項目

592 ページの「検索ページと結果ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

597 ページの「データベース検索ページの作成 (ASP.NET)」

削除ページへのリンクの作成 (ColdFusion、PHP、ASP.NET)

検索ページと結果ページを作成した後で、削除ページを開くためのリンクを結果ページ上に作成する必要があります。その後で、ユーザーが削除対象として指定したレコードの ID を渡すようにリンクを修正します。削除ページでは、この ID を使用してレコードが検索、表示されます。

関連項目

505 ページの「URL パラメータ」

削除ページを開きレコード ID を渡す (ColdFusion、PHP)

1 結果ページで、最後のテーブル列をクリックし、[修正]-[テーブル]-[行または列の挿入] を選択して、レコードの表示に使用する新しい列をテーブル内に作成します。

2 [列] オプションを選択し、[後の列] オプションを選択して、[OK] をクリックします。

列がテーブルに追加されます。

3 新規作成のテーブル列で、動的コンテンツプレースホルダーが含まれる行に「削除」というストリングを入力します。タブ付きのリピート領域内に、このストリングを必ず入力します。

さらに、削除を表す単語または記号と共にイメージを挿入することもできます。

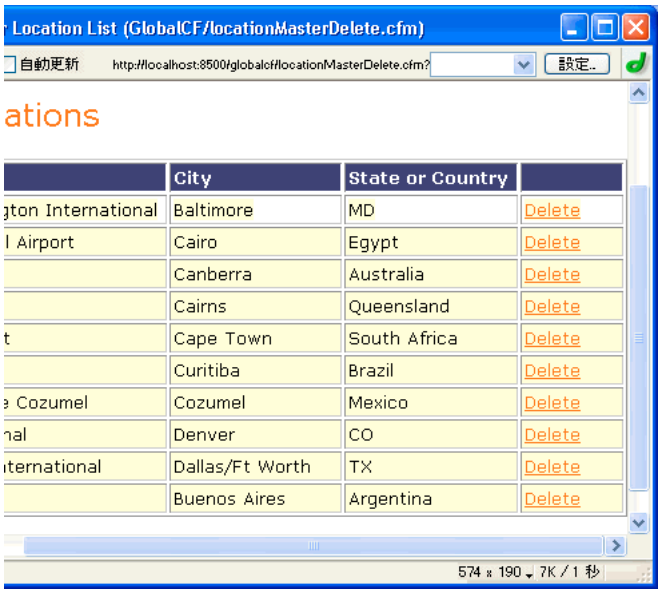
ライブデータビューが有効になっている場合、レコードの最初の行にこのストリングを入力し、[更新] アイコンをクリックします。

4「削除 "」というストリングを選択し、リンクを適用します。

ライブデータビューが有効になっている場合は、レコードの最初の行にあるストリングを選択します。

5 プロパティインスペクタの、[リンク] ボックスに削除ページを入力します。任意のファイル名を入力できます。

[リンク] ボックスの外側でクリックすると、「削除」ストリングがテーブル内に、リンクされた状態で表示されます。ライブデータビュー ([表示]-[ライブデータ]) をオンにすると、リンクが各テーブル行内の同じテキストに適用されていることを確認できます。ライブデータビューが有効になっている場合は、[更新] アイコンをクリックすると、リンクが各行に適用されます。



6 結果ページ上の削除リンクを選択します。

ライブデータビューが有効になっている場合は、最初の行のリンクを選択します。

7 (ColdFusion、PHP) プロパティインスペクタの [リンク] ボックスで、URL の末尾に次のストリングを追加します。

```
?recordID=#recordsetName.fieldName#
```

疑問符は、後に URL パラメータが続いていることをサーバーに示します。recordID という単語は、URL パラメータの名前です (好きな名前を指定できます)。この URL パラメータの名前は後で削除ページで使用するため、覚えておく必要があります。

等号の後の式は、パラメータの値です。この例では、レコードセットからのレコード ID を返す ColdFusion の式で生成された値です。動的テーブル内の行ごとに異なる ID が生成されます。ColdFusion の式の中の recordsetName を、使用するレコードセットの名前で置き換え、fieldName を、各レコードを一意に識別するレコードセット内のフィールドの名前で置き換えます。ほとんどの場合、フィールドはレコード ID 番号で構成されます。次の例では、フィールドは一意の場所コードで構成されています。

```
confirmDelete.cfm?recordID=#rsLocations.CODE#
```

ページを実行すると、コードセットの CODE フィールドの値が、動的テーブル内の対応する行に挿入されます。たとえば、オーストラリア、キャンベラのレンタル営業所の場所コードが CBR の場合、動的テーブル内のキャンベラ営業所の行では次の URL が使用されます。

```
confirmDelete.cfm?recordID=CBR
```

8 (PHP) プロパティインスペクタの [リンク] フィールドで、URL の末尾に次のストリングを追加します。

```
?recordID=<?php echo $row_recordsetName['fieldName']; ?>
```

疑問符は、後に URL パラメータが続いていることをサーバーに示します。recordID という単語は、URL パラメータの名前です (好きな名前を指定できます)。この URL パラメータの名前は後で削除ページで使用するため、覚えておく必要があります。

等号の後の式は、パラメータの値です。この例では、レコードセットからのレコード ID を返す PHP の式で生成された値です。動的テーブル内の行ごとに異なる ID が生成されます。PHP の式の中の recordsetName を、使用するレコードセットの名前で置き換え、fieldName を、各レコードを一意に識別するレコードセット内のフィールドの名前で置き換えます。ほとんどの場合、フィールドはレコード ID 番号で構成されます。次の例では、フィールドは一意の場所コードで構成されています。

```
confirmDelete.php?recordID=<?php echo $row_rsLocations['CODE']; ?>
```

ページを実行すると、コードセットの CODE フィールドの値が、動的テーブル内の対応する行に挿入されます。たとえば、オーストラリア、キャンベラのレンタル営業所の場所コードが CBR の場合、動的テーブル内のキャンベラ営業所の行では次の URL が使用されます。

```
confirmDelete.php?recordID=CBR
```

9 ページを保存します。

削除ページを開きレコード ID を渡す (ASP.NET)

データグリッド内に削除リンクを作成するには、ハイパーリンク列を追加してその属性を設定します。

1 [サーバービヘイビア] パネルでデータグリッドをダブルクリックします。[+] ボタンをクリックしたときにポップアップメニューに表示されるデータグリッドアイテムではなく、パネル内に一覧されたデータグリッドをダブルクリックします。

2 [+] ボタンをクリックして、[ハイパーリンク] を選択すると、削除リンクの列を追加できます。

3 [タイトル] ボックスで、列に「削除」などのタイトルを付けます。

このタイトルは列見出しに表示されます。

4 [静的テキスト] オプションを選択して、「**delete record**」などのリンクのテキストを入力します。

データグリッド内の各行のハイパーリンク列に、同じテキストが表示されます。

5 [リンクされたページ] 領域で、ハイパーリンク列内のテキストに適用する URL を作成します。

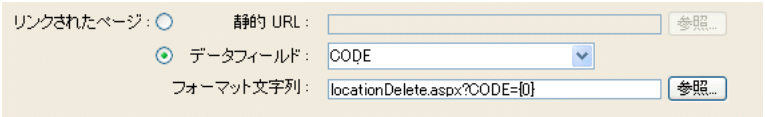
この URL は、削除ページを開くだけでなく、削除ページに表示するレコードを一意に識別する URL である必要があります。

削除ページに表示するレコードを識別するには、[データフィールド] オプションを選択して、各レコードを一意に識別するデータセット内のフィールドを選択します。ほとんどの場合、フィールドはレコード ID 番号で構成されます。

6 [リンクされたページ] 領域内の [フォーマット文字列] テキストボックスの [参照] ボタンをクリックして、削除ページを見つけて選択します。

選択した削除ページを指す URL が作成されます。この URL には、削除ページに表示するレコードを識別する URL パラメータも含まれます。この URL パラメータの名前は後で削除ページで使用するため、覚えておく必要があります。

たとえば、削除ページとして locationDelete.aspx を選択し、各レコードを一意に識別するデータセット内のフィールドとして CODE を選択した場合は、次の URL が作成されます。



上の例では、URL パラメータの名前は CODE になっています。Dreamweaver によってデータフィールドの名前が自動的にコピーされますが、この名前を使用する必要はありません。URL パラメータの名前は、次の例で示すように、recordID などわかりやすい名前に変更できます。

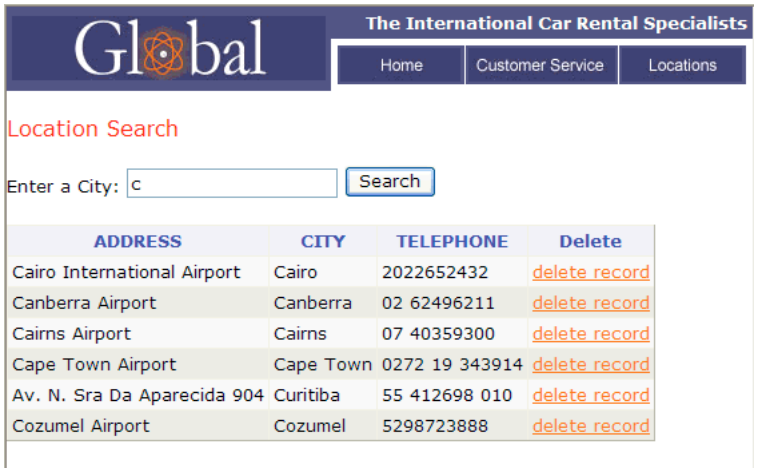
```
locationDelete.aspx?recordID={0}
```

{0} エレメントは、データフィールドの値に対応するプレースホルダーです。ページを実行すると、データセットの CODE フィールドの値がデータグリッド内の対応する行に挿入されます。たとえば、オーストラリア、キャンベラのレンタル営業所の場所コードが CBR の場合、データグリッド内のキャンベラ営業所の行では次の URL が使用されます。

```
locationDelete.aspx?recordID=CBR
```

7 [OK] をクリックして [ハイパーリンク] ダイアログボックスを閉じます。次に [OK] をクリックして [データグリッド] ダイアログボックスを閉じます。

ページ上のデータグリッドが更新されます。次の例は、文字 "**c**" から始まるすべての市町村を検索した後、ブラウザに表示されるデータグリッドを示しています。



削除ページの作成

レコードの一覧を表示するページを作成したら、削除ページに切り換えてください。削除ページには、レコードが表示され、そのレコードを削除するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。ユーザーがフォームボタンをクリックして削除の確認を行うと、Web アプリケーションによりデータベースからレコードが削除されます。

このページを作成するには、HTML フォームを作成し、そのフォームに表示するレコードを取得します。次に、そのレコードをフォームに表示し、データベースからそのレコードを削除するロジックを追加します。レコードを取得して表示するには、単一のレコード (ユーザーが削除しようとしているレコード) を保持するレコードセットを定義し、レコードセットの列とフォームのバインドを行います。

注意：削除ページが同時に保有できるレコード編集用のサーバービヘイビアは、常に 1 つだけです。たとえば、削除ページには [レコードの挿入] や [レコードの更新] などのサーバービヘイビアを追加できません。

レコードを表示する HTML フォームの作成

1 新規ページを作成し、前の項で指定した削除ページとして保存します。

前の項で削除リンクを作成したときに、削除ページを指定しています。最初にファイルを保存するときはこの名前を使用します (たとえば、deleteConfirm.cfm)。

2 ページに HTML フォームを挿入します ([挿入]-[フォーム]-[フォーム])。

3 非表示フォームフィールドをフォームに追加します。

非表示フォームフィールドは、URL パラメータによって渡されたレコード ID を格納する場合に必要です。非表示フィールドを追加するには、挿入ポイントをフォーム内に配置し、[挿入]-[フォーム]-[非表示フィールド] を選択します。

4 ボタンをフォームに追加します。

このボタンをクリックすると、確認が行われ、表示されているレコードが削除されます。ボタンを追加するには、挿入ポイントをフォーム内に配置し、[挿入]-[フォーム]-[ボタン] を選択します。

5 必要に応じてページのデザインを改良し、それを保存します。

ユーザーが削除するレコードの取得

1 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードセット (クエリー)] を選択します。

基本設定の [レコードセット] ダイアログボックスまたは [データセット] ダイアログボックスが表示されます。詳細 [レコードセット] ダイアログボックスが表示された場合は、[基本設定] をクリックします。

2 レコードセットの名前を指定し、データソースと、ユーザーが削除できるレコードが含まれるデータベーステーブルを選択します。

3 [列] 領域で、ページに表示するテーブル列 (レコードフィールド) を選択します。

レコードの特定のフィールドだけを表示するには、[選択] をクリックし、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらリスト内の目的のフィールドをクリックします。

表示しない場合であっても、レコード ID フィールドを含めるようにします。

4 結果ページから渡される URL パラメータで指定されたレコードを取得して表示するために、[フィルタ] 領域に以下のように入力します。

- [フィルタ] 領域の最初のポップアップメニューで、削除リンクが配置されているページから渡される URL パラメータの値と一致する値を含むレコードセット内の列を選択します。たとえば、URL パラメータにレコード ID 番号が含まれている場合は、レコード ID 番号が格納されている列を選択します。前の項で説明した例では、CODE という名前のレコードセット列に、削除リンクが配置されているページによって渡された URL パラメータの値と一致する値が含まれます。
- 最初のメニューの横にあるポップアップメニューで、等号記号を選択します (選択されていない場合)。
- 3 番目のポップアップメニューから [URL パラメータ] を選択します。削除リンクが配置されているページでは、URL パラメータを使用して、情報を削除ページに渡します。
- 4 番目のボックスに、削除リンクが配置されているページから渡される URL パラメータの名前を入力します。

5 [OK] をクリックします。

レコードセットが [バインディング] パネルに表示されます。

ユーザーが削除するレコードの表示

1 [バインディング] パネルでレコードセット列 (レコードフィールド) を選択し、削除ページにドラッグします。

フォームの境界線内にこの読み取り専用の動的コンテンツを挿入します。動的コンテンツをページに挿入する方法については、535 ページの「テキストを動的にする」を参照してください。

次に、レコード ID 列を非表示フォームフィールドにバインドする必要があります。

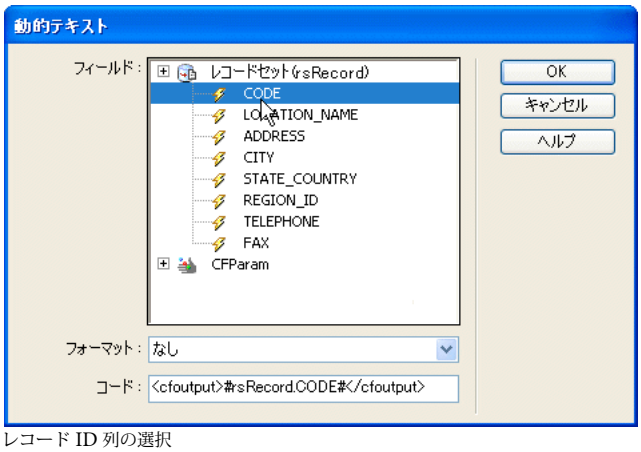
2 [不可視エレメント] が有効になっていることを確認し ([表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント])、非表示フォームフィールドを表す黄色のシールドアイコンをクリックします。

非表示フォームフィールドが選択されます。

3 プロパティインスペクタの [値] ボックスの横にある稲妻アイコンをクリックします。

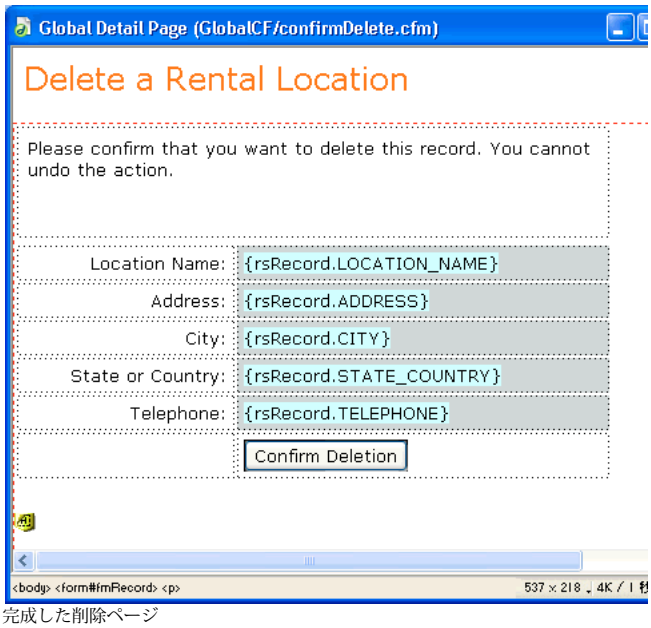
4 [動的データ] ダイアログボックスで、レコードセット内のレコード ID 列を選択します。

次の例で、レコード ID 列 CODE には一意の保存コードが含まれています。



レコード ID 列の選択

5 [OK] をクリックしてページを保存します。



完成した削除ページ

レコードを削除するロジックの追加 (ColdFusion、PHP、ASP.NET)

選択されたレコードを削除ページに表示したら、ユーザーが削除の確認ボタンをクリックしたときにデータベースからそのレコードを削除するロジックをページに追加する必要があります。このロジックは、[レコードの削除] サーバービヘイビアを使用して素早く簡単に追加できます。

1 Dreamweaver で削除ページが開いていることを確認します。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、[レコードの削除] を選択します。

3 [最初に変数が定義されているかどうかをチェック] ボックスで、[プライマリキー値] が選択されていることを確認します。

後からこのダイアログボックスで、プライマリキー値を指定します。

4 影響を受けるデータベースにサーバービヘイビアが接続できるように、[接続] または [データソース] (ColdFusion) ポップアップメニューからそのデータベースへの接続を選択します。

5 [テーブル] ポップアップメニューから、削除するレコードを含むデータベーステーブルを選択します。

6 [プライマリキー列] ポップアップメニューから、レコード ID を含むテーブル列を選択します。

[レコードの削除] サーバービヘイビアによって、一致するレコード ID がこの列で検索されます。この列には、ページ上の非表示フォームフィールドにバインドしたレコードセットの列と同じレコード ID データが含まれている必要があります。

レコード ID が数値の場合は、[数値] オプションを選択します。

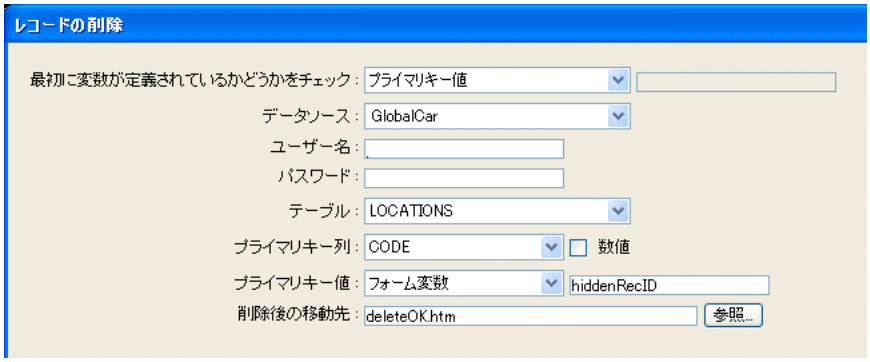
7 (ASP.NET) [プライマリキーの送信形式] ポップアップメニューから、プライマリキー列のデータタイプを選択します。

8 (PHP) [プライマリキー値] ポップアップメニューから、削除するレコードを識別するレコード ID が格納されている、ページ上の変数を選択します。

変数は、非表示フォームフィールドによって作成されます。この変数は、非表示フィールドの name 属性と同じ名前を持ち、フォームの method 属性に応じてフォームまたは URL パラメータのいずれかになります。

9 [削除後の移動先] または [成功時の移動先] ボックスで、レコードがデータベーステーブルから削除された後に開くページを指定します。

ユーザーに対する短い成功メッセージが格納されているページ、または残りのレコードの一覧のページを指定して、レコードが削除されたことをユーザーが確認できるようにします。



10 (ASP.NET)(オプション) [失敗時のデバッグ情報の表示] オプションを選択します。デバッグ情報は、サーバーによって生成されます。カスタムエラーメッセージを出力する場合は、[失敗時のデバッグ情報の表示] オプションをオフにし、[失敗時の移動先] ボックスで開くページを指定します。

11 [OK] をクリックして作業を保存します。

ページを Web サーバーにアップロードし、ブラウザを開き、削除するレコードを検索します。結果ページ上の削除リンクをクリックすると、削除ページが表示されます。[確認] ボタンをクリックして、データベースからレコードを削除します。レコードが削除されたことを確認するには、削除リンクのページをもう一度開きます。削除したレコードはリストに表示されません。

注意：レコードがページに表示される場合は、[更新] をクリックしてください。

レコードを削除するロジックの追加 (ASP、JSP)

レコードをクリックで削除できるボタンを追加したら、最後の手順では、ビジターが [送信] ボタンをクリックするとデータベーステーブルを更新する [レコードの削除] サーバービヘイビアを追加します。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードの削除] を選択します。

2 [接続] ポップアップメニューでデータベースへの接続を選択します。

接続を定義する必要がある場合は、[定義] ボタンをクリックします。

3 [テーブルから削除] ポップアップメニューから、削除するレコードを含むデータベーステーブルを選択します。

4 [レコード選択元] ポップアップメニューから、削除するレコードが含まれているレコードセットを指定します。

5 [ユニークキー列] ポップアップメニューから、データベーステーブルのレコードを特定するキー列 (通常は、レコード ID 列) を選択します。

値が数値の場合は、[数値] オプションを選択します。通常、キー列に入力できるのは数値だけですが、テキスト値を使用できる場合もあります。

6 [送信により削除] ポップアップメニューから、サーバーに削除コマンドを送信する [送信] ボタンのある HTML フォームを指定します。

7 データベーステーブルからレコードを削除した後に開くページを、[削除後の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックしてファイルを参照します。

Dreamweaver によりサーバービヘイビアがページに追加されます。フォーム上の [送信] ボタンをクリックすることにより、ユーザーがデータベーステーブル内のレコードを削除できるようになります。

高度なデータ操作オブジェクトでのページの作成 (ColdFusion、ASP、ASP.NET、JSP)

ASP コマンドオブジェクトについて

ASP コマンドオブジェクトは、データベースを処理するサーバーオブジェクトです。オブジェクトには任意の有効な SQL ステートメントを含めることができます。たとえば、レコードセットを返す SQL ステートメントや、データベースにレコードを挿入、更新、削除する SQL ステートメントなどを含めることができます。コマンドオブジェクトでは、SQL ステートメントでテーブル内に列を追加または削除する場合に、データベースの構造を変えることができます。コマンドオブジェクトを使用すると、データベース内のストアードプロシージャを実行することもできます。

コマンドオブジェクトの再利用とは、アプリケーションサーバーが、コンパイルされた 1 つのオブジェクトを繰り返し利用して、コマンドを何回も実行できるという意味です。コマンドを再利用可能にするには、以下の VBScript ステートメントのように Command オブジェクトの Prepared プロパティを true に設定します。

```
mycommand.Prepared = true
```

コマンドを何度も実行する場合は、コンパイルされたオブジェクトがあると、データベースの処理を効率的に行うことができるようになります。

注意：すべてのデータベースが、[Prepared] コマンドをサポートしているわけではありません。ご使用のデータベースでサポートされていない場合は、このプロパティを true に設定したときにエラーが返されることがあります。コマンドの準備要求が無視され、Prepared プロパティが false に設定されてしまう場合もあります。

コマンドオブジェクトは、ASP ページのスクリプトで作成されますが、Dreamweaver では、ASP コードを 1 行も記述することなくコマンドオブジェクトを作成できます。

ASP コマンドによるデータベースの修正

Dreamweaver を使用して、データベースへのレコードの挿入と、データベースのレコードの更新および削除を行う ASP コマンドオブジェクトを作成できます。コマンドオブジェクトには、データベースの処理を行う SQL ステートメントまたはストアードプロシージャを渡します。

1 Dreamweaver で、コマンドを実行する ASP ページを開きます。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) を開いて [+] ボタンをクリックし、[コマンド] を選択します。

3 コマンドの名前を入力し、編集するレコードを含むデータベースへの接続を選択してから、コマンドで実行する編集処理、つまり [挿入]、[更新]、または [削除] を選択します。

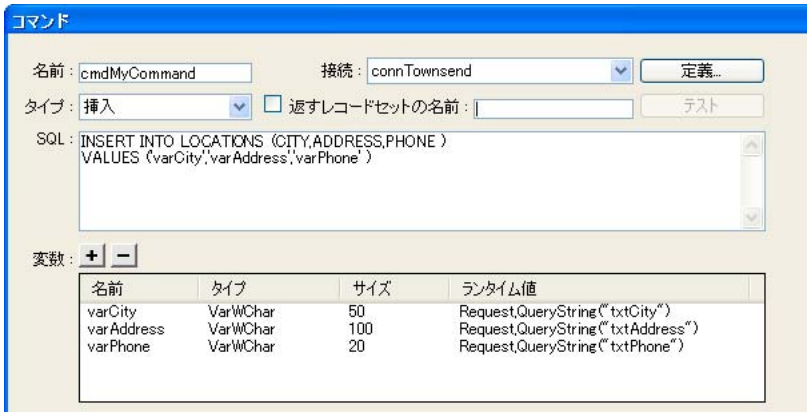
選択した処理に基づいて、Dreamweaver により SQL ステートメントが開始されます。たとえば、[挿入] を選択した場合のダイアログボックスは次の例のようになります。

4 SQL ステートメントを作成します。

データベースを修正する SQL ステートメントを作成する方法の詳細については、Transact-SQL のマニュアルを参照してください。

5 [変数] 領域を使用して SQL 変数を定義します。名前とランタイム値を指定します。各変数の型とサイズを指定してインジェクションアタックを防ぎます。

次の例は、SQL 変数を 3 つ含む Insert ステートメントを示しています。これらの変数の値は、[変数] 領域の [ランタイム値] 列で定義されたとおり、ページに渡される URL パラメータで提供されます。



サイズ値を取得するには、Dreamweaver で [データベース] パネルを使用します。[データベース] パネルでデータベースを見つけて展開します。次に、操作するテーブルを見つけて展開します。テーブルにはフィールドのサイズが一覧表示されます。たとえば、ADDRESS (WChar 50) というように表示されます。この例では、50 がサイズです。データベースアプリケーションでサイズを見つけることもできます。

注意：数値、ブール値、日付 / 時刻データ型はサイズとして常に -1 を使用します。

型の値を確認するには、次の表を参照してください。

データベースにおける型	Dreamweaver における型	サイズ
数値 (MS Access、MS SQL Server、MySQL)	Double	-1
ブール値、Yes/No (MS Access、MS SQL Server、MySQL)	Double	-1
日付 / 時刻 (MS Access、MS SQL Server、MySQL)	DBTimeStamp	-1

データベースにおける型	Dreamweaver における型	サイズ
MySQL テキストデータ型の char、varchar、longtext など、テキストフィールドのその他のすべての型	LongVarChar	データベーステーブルをチェック
テキスト (MS Access) または nvarchar、nchar (MS SQL Server)	VarWChar	データベーステーブルをチェック
Memo (MS Access)、ntext (MS SQL Server)、または大容量のテキストをサポートするフィールド	LongVarWChar	1073741823

SQL 変数の型およびサイズの詳細については、www.adobe.com/go/4e6b330a_jp を参照してください。

6 ダイアログボックスを閉じます。

Dreamweaver によって ASP コードがページに自動的に挿入されます。サーバー上でこのコードを実行すると、データベースレコードを挿入、更新、または削除するコマンドが作成されます。

コマンドオブジェクトの Prepared プロパティは、初期設定で true に設定されます。これにより、アプリケーションサーバーは、コマンドが実行されるたびに、コンパイルされた 1 つのオブジェクトを使用するようになります。この設定を変更するには、コードビューに切り替えて、Prepared プロパティを false に変更します。

7 ユーザーがレコードデータを入力するための HTML フォームを含むページを作成します。HTML フォームには、テキストフィールドを 3 つ (txtCity、txtAddress、および txtPhone) と [送信] ボタンを作成します。フォームでは GET メソッドを使用し、コマンドが含まれているページに、テキストフィールドの値を送信します。

JSP prepared ステートメントについて

JSP prepared ステートメントは、SQL ステートメントを含む再利用可能なサーバーオブジェクトです。prepared ステートメントには、有効な SQL ステートメントであればどのようなものでも記述できます。たとえば、prepared ステートメントにはレコードセットを返す SQL ステートメントや、データベースにレコードを挿入、更新、または削除する SQL ステートメントを含めることができます。

コマンドオブジェクトが再利用可能であるということは、単一インスタンスの prepared ステートメントオブジェクトを使用して、アプリケーションサーバーからデータベースに対して繰り返しクエリーを実行できるという意味です。JSP ステートメントオブジェクトと異なり、prepared ステートメントオブジェクトの新規インスタンスは、新規データベースクエリーごとには作成されません。ステートメントを何度も実行する場合は、単一インスタンスのオブジェクトの使用により、データベース処理が効率的になり、使用するサーバーメモリ容量も少なくてすみます。

prepared ステートメントオブジェクトは、JSP ページ上の Java スクリプトレットによって作成されます。しかし、Dreamweaver では、Java コードを 1 行も記述せずに prepared ステートメントを作成することができます。

コードに関心がある場合は、以下のスクリプトレットで prepared ステートメントを作成できます。

```
String myquery = "SELECT * FROM EMPLOYEES WHERE DEPARTMENT = ?";
PreparedStatement mystatement = connection.prepareStatement(myquery);
```

最初の行で、SQL ステートメントを myquery というストリング変数に格納します。その際、疑問符は SQL 変数値のプレースホルダーとして使用されます。2 番目の行では、mystatement という prepared ステートメントオブジェクトが作成されます。

次に、以下のように値を SQL 変数に割り当てます。

```
mystatement.setString(1, request.getParameter("myURLparam"));
```

setString メソッドは、値を変数に割り当て、引数を 2 つ受け取ります。最初の引数は、影響を受ける変数を位置 (ここでは、SQL ステートメント内の最初の位置) で指定します。2 番目の引数では、変数の値を指定します。この例では、値は、ページに渡される URL パラメータから提供されます。

注意：SQL 変数にストリング以外の値を割り当てるには、別のメソッドを使用する必要があります。たとえば、整数を変数に割り当てるには、mystatement.setInt() メソッドを使用します。

最後に、以下のようにレコードセットを生成します。

```
ResultSet myresults = mystatement.execute();
```

JSP prepared ステートメントによるデータベースの修正

Dreamweaver を使用して、データベースへのレコードの挿入と、データベースのレコードの更新および削除を行う JSP prepared ステートメントを作成できます。JSP prepared ステートメントは、SQL ステートメントを含む再利用可能なサーバーオブジェクトです。prepared ステートメントには、データベース上で処理を実行する SQL を渡します。

1 Dreamweaver で、コマンドを実行する JSP ページを開きます。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) を開いて [+] ボタンをクリックし、[Prepared (挿入、更新、削除)] を選択します。

[Prepared (挿入、更新、削除)] ダイアログボックスが表示されます。

3 prepared ステートメントの名前を入力し、編集するレコードを含むデータベースへの接続を選択してから、prepared ステートメントで実行する編集操作、つまり [挿入]、[更新]、または [削除] を選択します。

選択した処理に基づいて、Dreamweaver により SQL ステートメントが開始されます。

4 SQL ステートメントを作成します。

データベースを修正する SQL ステートメントを作成する方法の詳細については、Transact-SQL のマニュアルを参照してください。

5 [変数] 領域を使用して SQL 変数を定義します。

[Param] 列に SQL ステートメントで使用されている SQL パラメータ名を入力します。[ランタイム値] 列に各 SQL パラメータに値を供給するフォームまたは URL パラメータを入力します。たとえば、SQL パラメータに割り当てられる値が txtCity という URL パラメータによって供給される場合は、次のようなランタイム値を入力します。

```
request.getParameter("txtCity")
```

6 [OK] をクリックします。

ダイアログボックスを閉じると、JSP コードがページに挿入されます。サーバー上でこのコードを実行すると、データベースレコードを挿入、更新、または削除する prepared ステートメントが作成されます。

ストアードプロシージャについて

サーバービヘイビアを使用して、データベースを修正するページを作成できますが、ストアードプロシージャや、ASP コマンドオブジェクト、JSP prepared ステートメントなどのデータベース操作オブジェクトを使用してページを作成することもできます。

ストアードプロシージャは、データベースに対する処理を行う、再利用できるデータベースアイテムです。ストアードプロシージャは SQL コードを含んでいます。このコードは特に、レコードの挿入、更新、または削除を実行します。ストアードプロシージャでは、データベース自体の構造を変えることもできます。たとえば、ストアードプロシージャを使用して、テーブル列の追加、またはテーブルの削除などを行うことができます。

ストアードプロシージャは、他のストアードプロシージャを呼び出すこともできますが、入力パラメータを受け取り、複数の値を出力パラメータという形式で、呼び出した側のプロシージャに返すこともできます。

ストアードプロシージャの再利用とは、コンパイルされた 1 つのプロシージャを繰り返し利用して、データベース処理を何回も実行できるという意味です。データベースタスクを何度も実行する、または同じタスクを別のアプリケーションで実行する予定の場合は、ストアードプロシージャを使用してそのタスクを実行すると、データベース操作の効率が向上します。

注意 : MySQL データベースおよび Microsoft Access データベースでは、ストアードプロシージャをサポートしていません。

ストアードプロシージャの追加 (ColdFusion)

データベースを修正するには、ストアードプロシージャを使用します。ストアードプロシージャは、データベースに対する処理を行う、再利用できるデータベースアイテムです。

注意：MySQL データベースおよび Microsoft Access データベースでは、ストアードプロシージャをサポートしていません。

データベースを修正するストアードプロシージャを使用する前に、何らかの方法でデータベースを修正する SQL がストアードプロシージャに記述されていることを確認してください。データベースにストアードプロシージャを作成して格納する方法の詳細については、ご使用のデータベースのマニュアルおよび Transact-SQL のマニュアルを参照してください。

1 Dreamweaver で、ストアードプロシージャを実行するページを開きます。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、[ストアードプロシージャ] を選択します。

3 [データソース] ポップアップメニューから、ストアードプロシージャを含むデータベースへの接続を選択します。

4 ColdFusion データソースのユーザー名とパスワードを入力します。

5 [プロシージャ] ポップアップメニューからストアードプロシージャを選択します。

Dreamweaver がパラメータに値を自動的に入力します。

6 値を修正する必要がある場合は、目的のパラメータを選択して [編集] をクリックします。

[ストアードプロシージャ変数の編集] ダイアログボックスが表示されます。編集している変数の名前が [名前] ボックスに表示されます。

注意：すべてのストアードプロシージャ入力パラメータにテスト値を入力する必要があります。

7 必要に応じて変更を行います。

- ポップアップメニューから方向を選択します。ストアードプロシージャには、入力値、出力値、または入力値と出力値の両方がある場合があります。
- ポップアップメニューから SQL タイプを選択します。戻り変数、ランタイム値、およびテスト値を入力します。

8 ストアードプロシージャがパラメータを受け取る場合には、[+] ボタンをクリックして、ページパラメータを追加します。

注意：それぞれのストアードプロシージャパラメータの戻り値に対して、対応するページパラメータを入力する必要があります。対応する戻り値がない場合は、ページパラメータは追加しないでください。

必要に応じて、[+] ボタンを再度クリックして他のページパラメータを追加します。

9 ページパラメータを選択し、必要に応じて [-] ボタンをクリックしてパラメータを削除するか、または [編集] をクリックしてパラメータに変更を加えます。

10 ストアードプロシージャがレコードセットを返す場合には、[次のレコードセットを返す] オプションを選択してレコードセットの名前を入力し、[テスト] ボタンをクリックして、ストアードプロシージャが返すレコードセットを確認します。

Dreamweaver がストアードプロシージャを実行し、レコードセットがある場合は表示します。

注意：ストアードプロシージャがレコードセットを返し、パラメータを受け取る場合、[変数] ボックスに [初期設定値] 列内の値を入力して、ストアードプロシージャをテストする必要があります。

異なるテスト値を使用して、異なるレコードセットを生成できます。テスト値を変更するには、[パラメータ] の [編集] ボタンをクリックしてからテスト値を変更するか、または [ページパラメータ] の [編集] ボタンをクリックしてから初期設定の値を変更します。

11 ストアードプロシージャがステータスコードの戻り値を返す場合には、[次のステータスコードを返す] オプションを選択し、ステータスコードの名前を入力します。[OK] をクリックします。

ダイアログボックスを閉じると、Dreamweaver によって ColdFusion コードが自動的にページに挿入されます。このコードをサーバ上で実行すると、データベース内のストアードプロシージャが呼び出されます。続いて、ストアードプロシージャにより、レコードを挿入するなどのデータベース処理が実行されます。

ストアードプロシージャがパラメータを受け取る場合、ストアードプロシージャを使用して、パラメータ値を収集するページを作成し、収集したパラメータ値をそのページに送信できます。たとえば、ユーザーからパラメータ値を収集するために、URL パラメータまたは HTML フォームを使用するページを作成できます。

関連項目

522 ページの「SQL を使用した高度なレコードセットの定義」

ストアードプロシージャの追加 (ASP.NET)

データベースを修正するには、ストアードプロシージャを使用します。ストアードプロシージャは、データベースに対する処理を行う、再利用できるデータベースアイテムです。

注意：Microsoft Access および MySQL データベースでは、ストアードプロシージャをサポートしていません。

データベースを修正するストアードプロシージャを使用する前に、何らかの方法でデータベースを修正する SQL がストアードプロシージャに記述されていることを確認してください。データベースにストアードプロシージャを作成して格納する方法の詳細については、ご使用のデータベースのマニュアルおよび Transact-SQL のマニュアルを参照してください。

1 Dreamweaver で、ストアードプロシージャを実行するページを開きます。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、[ストアードプロシージャ] を選択します。

3 [ストアードプロシージャ] ダイアログボックスで、ストアードプロシージャの名前を入力します。

4 [接続] ポップアップメニューから、ストアードプロシージャを含むデータベースへの接続を選択します。

接続を定義する必要がある場合は、[定義] ボタンをクリックします。

5 [プロシージャ] ポップアップメニューからストアードプロシージャを選択します。

Dreamweaver がパラメータに値を自動的に入力します。

6 ストアードプロシージャがデータセットを返す場合には、[データセットを返す] オプションを選択し、[テスト] ボタンをクリックして、ストアードプロシージャが返すデータセットを確認します。

7 パラメータを選択して、変更する必要がある場合は [編集] ボタンをクリックします。

8 [ストアードプロシージャ変数の編集] ダイアログボックスで、必要に応じて変更を行います。

- 編集している変数の名前が [名前] ボックスに表示されます。
- ポップアップメニューから変数のタイプを選択します。変数のサイズを入力します。
- ポップアップメニューから方向を選択します。ストアードプロシージャには、入力値、出力値、または入力値と出力値の両方がある場合があります。
- テスト値を入力します。
- [作成] ボタンをクリックして値を作成します。[ビルド値] ダイアログボックスでポップアップメニューからソースを選択し、初期設定の値を入力して [OK] をクリックします。
- [OK] をクリックして [ストアードプロシージャ変数の編集] ダイアログボックスを閉じ、変更内容を受け入れます。

9 ストアードプロシージャが成功した場合に表示するページの場所を、[ストアードプロシージャ] ダイアログボックスの [成功時の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックして場所を参照します。

10 ストアードプロシージャが失敗した場合に表示するページの場所を、[失敗時の移動先] ボックスに入力するか、または [参照] ボタンをクリックして場所を参照します。

11 ストアードプロシージャが失敗したときにデバッグ情報を参照する場合は、[失敗時のデバッグ情報の表示] オプションを選択します。

このオプションを選択すると、Dreamweaver は [失敗時の移動先] オプションを無視します。

開発中にはデバッグオプションを使用し、サイトがライブになったら [失敗時の移動先] オプションを使用します。

12 [OK] をクリックします。

[ストアードプロシージャ] ダイアログボックスを閉じると、Dreamweaver によって ASP.NET コードがページに挿入されます。このコードをサーバー上で実行すると、データベース内のストアードプロシージャが実行されます。続いて、ストアードプロシージャにより、レコードの挿入やクエリーの実行などのデータベース処理が実行されます。

ストアードプロシージャがパラメータを受け取る場合、ストアードプロシージャを使用して、パラメータ値を収集するページを作成し、収集したパラメータ値をそのページに送信できます。たとえば、ユーザーからパラメータ値を収集するために、URL パラメータまたは HTML フォームを使用するページを作成できます。

関連項目

522 ページの「SQL を使用した高度なレコードセットの定義」

ストアードプロシージャの実行 (ASP)

ASP ページには、ストアードプロシージャを実行するコマンドオブジェクトを追加する必要があります。コマンドオブジェクトの詳細については、617 ページの「ASP コマンドオブジェクトについて」を参照してください。

1 Dreamweaver で、ストアードプロシージャを実行するページを開きます。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で、[+] ボタンをクリックして [コマンド (ストアードプロシージャ)] を選択します。

[コマンド] ダイアログボックスが表示されます。

3 コマンドの名前を入力し、ストアードプロシージャを含むデータベースへの接続を選択してから、[タイプ] ポップアップメニューから [ストアードプロシージャ] を選択します。

4 [データベース項目] ボックス内の [ストアードプロシージャ] ブランチを展開して、一覧からストアードプロシージャを選択し、[プロシージャ] ボタンをクリックして、ストアードプロシージャを選択します。

5 変数テーブルに必須パラメータを入力します。

RETURN_VALUE 変数のパラメータは入力する必要はありません。

6 [OK] をクリックします。

ダイアログボックスを閉じると、ASP コードがページに挿入されます。このコードをサーバー上で実行すると、データベース内のストアードプロシージャを実行するコマンドオブジェクトが作成されます。続いて、ストアードプロシージャにより、レコードを挿入するなどのデータベース処理が実行されます。

コマンドオブジェクトの Prepared プロパティは、初期設定で true に設定されます。これにより、ストアードプロシージャが実行されるたびに、アプリケーションサーバーは、コンパイルされた 1 つのオブジェクトを使用するようになります。コマンドを何度も実行する場合は、コンパイルされたオブジェクトがあると、データベースの処理を効率的に行うことができるようになります。しかし、1、2 回しかコマンドを実行しない場合に、コンパイルされたオブジェクトを使用すると、システムがコマンドをコンパイルするために一時停止するので、Web アプリケーションの実行速度が遅くなることがあります。この設定を変更するには、コードビューに切り替えて、Prepared プロパティを false に変更します。

注意 : すべてのデータベースが、[Prepared] コマンドをサポートしているわけではありません。ご使用のデータベースがサポートしていないと、ページの実行時にエラーメッセージが表示されることがあります。コードビューに切り替えて、Prepared プロパティを *false* に変更してください。

ストアードプロシージャがパラメータを受け取る場合、ストアードプロシージャを使用して、パラメータ値を収集するページを作成し、収集したパラメータ値をそのページに送信できます。たとえば、ユーザーからパラメータ値を収集するために、URL パラメータまたは HTML フォームを使用するページを作成できます。

ストアードプロシージャの実行 (JSP)

JSP ページには、ストアードプロシージャを実行する [Callable] サーバービヘイビアをページに追加する必要があります。

1 Dreamweaver で、ストアードプロシージャを実行するページを開きます。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で、[+] ボタンをクリックして [Callable (ストアードプロシージャ)] を選択します。

3 [Callable (ストアードプロシージャ)] ダイアログボックスで、ストアードプロシージャの名前を入力します。

4 [接続] ポップアップメニューから、ストアードプロシージャを含むデータベースへの接続を選択します。

5 [データベース項目] ボックスで、[ストアードプロシージャ] ブランチを展開し、一覧からストアードプロシージャを選択して、[プロシージャ] ボタンをクリックします。

[Callable テキスト] ボックスと [変数] ボックスの値は、Dreamweaver によって自動的に入力されます。

6 ストアードプロシージャがレコードセットを返す場合には、[次のレコードセットを返す] オプションを選択してレコードセットの名前を入力し、[テスト] ボタンをクリックして、ストアードプロシージャが返すレコードセットを確認します。

Dreamweaver がストアードプロシージャを実行し、レコードセットがある場合は表示します。

注意： ストアードプロシージャがレコードセットを返し、パラメータを受け取る場合、[変数] ボックスに [初期設定値] 列内の値を入力して、ストアードプロシージャをテストする必要があります。

7 [OK] をクリックします。

[Callable (ストアードプロシージャ)] ダイアログボックスを閉じると、JSP コードがページに挿入されます。このコードをサーバー上で実行すると、データベース内のストアードプロシージャが呼び出されます。続いて、ストアードプロシージャにより、レコードを挿入するなどのデータベース処理が実行されます。

ストアードプロシージャがパラメータを受け取る場合、ストアードプロシージャを使用して、パラメータ値を収集するページを作成し、収集したパラメータ値をそのページに送信できます。たとえば、ユーザーからパラメータ値を収集するために、URL パラメータまたは HTML フォームを使用するページを作成できます。

登録ページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

登録ページについて

Web アプリケーションの一部として、ビジターが初めてサイトにアクセスしたときに登録を要求するページを作成することができます。

登録ページは、次の作成ブロックで構成されます。

- ビジターのログイン情報を保存するデータベーステーブル
- ビジターがユーザー名とパスワードを選択するための HTML フォーム

このフォームを使用して、ビジターのその他の個人情報を入手することもできます。

- サイトのビジターのデータベーステーブルを更新する [レコードの挿入] サーバービヘイビア
- ビジターが入力したユーザー名が他のユーザーによって使用されていないことを確認する [新規ユーザー名を確認] サーバービヘイビア

使用するメソッドは、ColdFusion、ASP、JSP、および PHP ページで同一です。Dreamweaver には、ASP.NET ページで使用するための認証サーバービヘイビアはありません。

関連項目

625 ページの「ユーザー名とパスワードの選択用 HTML フォームの追加 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

626 ページの「データベースのユーザーテーブルの更新 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

626 ページの「ユーザー名が一意かどうかを確認するサーバービヘイビアの追加 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

ビジターのログイン情報の保存 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

登録ページには、ビジターが入力したログイン情報を保存するデータベーステーブルが必要です。

- このデータベーステーブルに、ユーザー名とパスワードの列があることを確認してください。ログインしたビジターにそれぞれ異なるアクセス権を設定する場合は、アクセス権を保存する列も必要です。
- サイトの全ビジターに共通のパスワードを設定するときは、すべての新規ビジターのレコードに初期設定でその共通パスワードが入力されるように、Microsoft Access、Microsoft SQL Server、Oracle などのデータベースアプリケーションを設定します。ほとんどのデータベースアプリケーションでは、新規レコードを作成するたびに、列を初期設定値に設定できます。初期設定値として、共通パスワードを設定します。
- データベーステーブルを使用して、その他の有用なビジター情報を保存することもできます。

次の手順では、HTML フォームを登録ページに追加し、ビジターがユーザー名とパスワードを選択できるようにします (該当する場合)。

関連項目

630 ページの「ユーザーデータベースへのアクセス権の保存 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

ユーザー名とパスワードの選択用 HTML フォームの追加 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ビジターがユーザー名とパスワードを選択できるようにする場合は、選択するための HTML フォームを登録ページに追加します。

1 [ファイル]-[新規]-[空白ページ] を選択して新規ページを作成し、Dreamweaver のデザインツールを使用して登録ページをレイアウトします。

2 フォームを挿入する位置に挿入ポイントを置いて、[挿入]-[フォーム] を選択し、HTML フォームを追加します。

ページに空白のフォームが作成されます。フォームの境界線を表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択する必要があります。フォームの境界線は細い赤線で表示されます。

3 HTML フォームの名前を指定します。ドキュメントウィンドウの下部にある <form> タグをクリックし、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[フォーム名] ボックスに名前を入力します。

フォームの action 属性や method 属性を指定して、ビジターが [送信] ボタンをクリックしたときのレコードの送信先や送信方法を指示する必要はありません。[レコードの挿入] サーバービヘイビアが自動的にこれらの属性を設定します。

4 [挿入]-[フォーム]-[テキストフィールド] を選択してテキストフィールドを追加し、ビジターがユーザー名とパスワードを入力できるようにします。

このフォームには、その他の個人データを記録するためのフォームオブジェクトも追加できます。

フォームオブジェクトの内容がビジターにわかるように、ラベルを各フォームオブジェクトの横に追加してください。ラベルはテキストでもイメージでもかまいません。また、フォームオブジェクトを HTML テーブル内に配置して、位置を揃える必要があります。フォームオブジェクトの詳細については、569 ページの「フォームの作成」を参照してください。

5 [挿入]-[フォーム]-[ボタン] を選択して、フォームに [送信] ボタンを追加します。

[送信] ボタンのラベルを変更するには、ボタンを選択し、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[値] ボックスに新しい値を入力します。

次の手順では、データベースのユーザーテーブルにレコードを挿入する [レコードの挿入] サーバービヘイビアを追加します。

データベースのユーザーテーブルの更新 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

データベースのユーザーテーブルを更新するには、[レコードの挿入] サーバービヘイビアを登録ページに追加する必要があります。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードの挿入] を選択します。

[レコードの挿入] ダイアログボックスが表示されます。

2 ユーザーのデータの挿入先になる、データベースのユーザーテーブルを必ず指定してから、ダイアログボックスを閉じます。[OK] をクリックします。

登録ページ作成の最後の手順は、ユーザー名が他の登録ユーザーに使用されていないことを確認することです。

関連項目

601 ページの「ブロックごとの挿入ページの作成」

ユーザー名が一意かどうかを確認するサーバービヘイビアの追加 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ビジターを登録ユーザーのデータベースに追加する前に、そのユーザー名が一意であるかどうかを確認するサーバービヘイビアをユーザー登録ページに追加できます。

ビジターが登録ページの [送信] ボタンをクリックすると、サーバービヘイビアは、ビジターが入力したユーザー名と、登録ユーザーのデータベーステーブルに保存されているユーザー名を比較します。データベーステーブルに一致するユーザー名がなければ、サーバービヘイビアは通常のレコードの挿入処理を実行します。一致するユーザー名が検出された場合は、サーバービヘイビアはレコードの挿入処理をキャンセルし、新しいページを開きます。通常、このページは、ユーザー名が他のビジターに既に使用されていることを通知するページです。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [ユーザー認証]-[新規ユーザー名を確認] を選択します。

2 [ユーザー名フィールド] ポップアップメニューで、ビジターがユーザー名の入力に使用するフォームテキストフィールドを選択します。

3 [既存ユーザー名入力時の表示ページ] ボックスで、データベーステーブルに同じユーザー名が見つかったときに開くページを指定して [OK] をクリックします。

開かれるページでは、ユーザー名が既に使用されていることをビジターに通知し、ビジターがもう一度選択できるようにする必要があります。

ログインページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ログインページについて

Web アプリケーションの一部として、登録ユーザーがサイトにログインするためのページを作成することができます。

ログインページは、次の作成ブロックで構成されます。

- 登録ユーザーのデータベーステーブル
- ビジターがユーザー名とパスワードを入力するための HTML フォーム
- 入力されたユーザー名とパスワードが有効であることを確認する [ログイン] サーバービヘイビア

ビジターが正常にログインすると、そのビジターに対して、ユーザー名で構成されるセッション変数が作成されます。

使用するメソッドは、ColdFusion、ASP、JSP、および PHP ページで同一です。Dreamweaver には、ASP.NET ページで使用するための認証サーバービヘイビアはありません。

関連項目

627 ページの「ログイン用 HTML フォームの追加 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

627 ページの「ユーザー名とパスワードの検証 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

登録ユーザーのデータベーステーブルの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ログインページに入力されたユーザー名とパスワードが有効であるかどうかを検証するには、登録ユーザーのデータベーステーブルが必要です。

❖ このテーブルは、データベースアプリケーションと登録ページを使用して作成します。

ログインページを作成する次の手順では、HTML フォームをページに追加して、ビジターがログインできるようにします。

関連項目

626 ページの「ログインページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

ログイン用 HTML フォームの追加 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ビジターがユーザー名とパスワードを入力してログインするための HTML フォームを、ページに追加します。

1 [ファイル]-[新規]-[空白ページ] を選択して新規ページを作成し、Dreamweaver のデザインツールを使用してログインページをレイアウトします。

2 フォームを挿入する位置に挿入ポイントを置いて、[挿入]-[フォーム] を選択し、HTML フォームを追加します。

ページに空白のフォームが作成されます。フォームの境界線を表示するには、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択する必要があります。フォームの境界線は細い赤線で表示されます。

3 HTML フォームの名前を指定します。ドキュメントウィンドウの下部にある <form> タグをクリックし、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[フォーム名] ボックスに名前を入力します。

フォームの action 属性や method 属性を指定して、ビジターが [送信] ボタンをクリックしたときのレコードの送信先や送信方法を指示する必要はありません。[ログイン] サーバービヘイビアが自動的にこれらの属性を設定します。

4 [挿入]-[フォーム]-[テキストフィールド] を選択し、ユーザー名とパスワードのテキストフィールドをフォームに追加します。

各テキストフィールドの横にラベルを追加します。ラベルはテキストでもイメージでもかまいません。次に、テキストフィールドを HTML テーブル内に配置し、テーブルの border 属性を 0 に設定して、テキストフィールドの位置を揃えます。

5 [挿入]-[フォーム]-[ボタン] を選択して、フォームに [送信] ボタンを追加します。

[送信] ボタンのラベルを変更するには、ボタンを選択し、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択してプロパティインスペクタを開き、[ラベル] ボックスに新しい値を入力します。

次の手順では、入力されたユーザー名とパスワードが有効であるかどうかを確認する [ログイン] サーバービヘイビアを追加します。

ユーザー名とパスワードの検証 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ビジターが入力したユーザー名とパスワードが有効であることを確認するために、[ログイン] サーバービヘイビアをログインページに追加する必要があります。

ビジターがログインページの [送信] ボタンをクリックすると、[ログイン] サーバービヘイビアは、ビジターが入力した値と登録ユーザーの値を比較します。値が一致した場合、サーバービヘイビアは所定のページ (通常は、サイトの [ようこそ] 画面) を開きます。値が一致しない場合、サーバービヘイビアは別のページを開きます。通常は、ログイン試行が失敗したことをビジターに通知するページです。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [ユーザー認証]-[ログイン] を選択します。

2 ビジターがユーザー名とパスワードの入力に使用するフォームとフォームオブジェクトを指定します。

3 (ColdFusion) 該当する場合はユーザー名とパスワードを入力します。

4 登録ユーザー全員のユーザー名とパスワードが保存されているデータベーステーブルと列を指定します。

サーバービヘイビアは、ログインページでビジターが入力したユーザー名とパスワードを、これらの列の値と比較します。

5 正常にログインできたときに開くページを指定します。

通常、サイトの [ようこそ] 画面を指定します。

6 ログインに失敗したときに開くページを指定します。

通常、ログインに失敗したことをビジターに通知し、ビジターが再入力できるページを指定します。

7 アクセスが制限されているページにビジターがアクセスしようとした場合に、ログインページにリダイレクトし、ログイン後に再び元のページに戻れるようにするには、[前の URL へ移動] オプションを選択します。

ビジターがログインせずに制限されているページを開いてサイトにアクセスしようとした場合は、制限されているページからログインページにリダイレクトします。ビジターが正常にログインした後は、ログインページから、最初にビジターをログインページにリダイレクトした制限されているページに戻ります。

これらのページの [ページへのアクセス制限] サーバービヘイビアのダイアログボックスに入力するときに、[アクセス拒否後の表示ページ] ボックスにログインページを指定していることを確認してください。

8 ユーザー名およびパスワードのみでページへのアクセスを許可するか、認証レベルも使用して許可するかを指定して、[OK] をクリックします。

ビジターが入力したユーザー名とパスワードが有効であるかどうかを確認するサーバービヘイビアが、ログインページに追加されます。

関連項目

629 ページの「許可されていないビジターのリダイレクト (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

628 ページの「許可されたビジターのみがアクセスできるページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

許可されたビジターのみがアクセスできるページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

プロテクトされたページについて

Web アプリケーションの一部として、許可されたビジターのみがアクセスできるプロテクトされたページを作成することができます。

注意： Dreamweaver には、ASP.NET ページで使用するための認証サーバービヘイビアはありません。

たとえば、プロテクトされたページの URL をブラウザに入力して、ログインページを経由せずに直接アクセスしようとしたビジターは、別のページにリダイレクトされます。同様に、ページの認証レベルを "Administrator" に設定した場合は、"Administrator" のアクセス権を持つビジターだけがそのページを表示できます。ログインしたビジターが、適切なアクセス権を持たずにプロテクトされたページにアクセスしようとした場合は、別のページにリダイレクトします。

また、認証レベルを使用して、新規登録ユーザーにサイトへのフルアクセス権を与える前に、そのビジターを調べることもできます。たとえば、支払いが済んだビジターだけに、サイトのメンバー用ページへのアクセスを許可するとします。このようにするには、メンバーページを "Member" 認証レベルを持つビジターだけが表示できるようにプロテクトし、新規登録ビジターには "Guest" というアクセス権のみを与えます。ビジターからの支払いを確認したら、登録ユーザーのデータベーステーブルで、このビジターのアクセス権を "Member" にアップグレードします。

認証レベルを使用する予定がない場合は、[ページへのアクセス制限] サーバービヘイビアをページに追加するだけで、サイトのページをプロテクトすることができます。このサーバービヘイビアにより、正常にログインしていないビジターは別のページにリダイレクトされます。

認証レベルを使用する場合は、次の作成ブロックを使用してサイトの任意のページをプロテクトすることができます。

- 許可されていないビジターを別のページにリダイレクトする [ページへのアクセス制限] サーバービヘイビア
- ビジターのデータベーステーブル内の、各ビジターのアクセス権を保存するための列

認証レベルを使用するかどうかにかかわらず、ビジターをログアウトさせてセッション変数をすべてクリアするリンクを、プロテクトされたページに追加できます。

使用するメソッドは、ColdFusion、ASP、JSP、および PHP ページで同一です。Dreamweaver には、ASP.NET ページで使用するための認証サーバービヘイビアはありません。

関連項目

631 ページの「アプリケーションのフォルダの保護 (ColdFusion)」

許可されていないビジターのリダイレクト (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

許可されていないビジターがページにアクセスできないようにするには、[ページへのアクセス制限] サーバービヘイビアをページに追加します。ビジターがプロテクトされたページの URL をブラウザに入力して、ログインページを経由せずにアクセスしようとした場合、または、ログインしたビジターが適切なアクセス権を持たずにプロテクトされたページにアクセスしようとした場合、このサーバービヘイビアによってビジターは別のページにリダイレクトされます。

注意：[ページへのアクセス制限] サーバービヘイビアでプロテクトできるのは HTML ページのみです。イメージファイルやオーディオファイルなどの、その他のサイトリソースはプロテクトされません。

サイトの多数のページに同じアクセス権を設定する必要がある場合は、1 つのページから他のページにアクセス権をコピー & ペーストできます。

許可されていないビジターの別のページへのリダイレクト

1 プロテクトするページを開きます。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [ユーザー認証]-[ページへのアクセス制限] を選択します。

3 ページのアクセスレベルを選択します。特定のアクセス権を持つビジターだけがページを表示できるようにする場合は、[ユーザー名、パスワード、およびアクセスレベル] オプションを選択し、そのページの認証レベルを指定します。

たとえば、認証レベルのリストで [Administrator] を選択すると、"Administrator" のアクセス権を持つビジターだけがページを表示できます。

4 リストに認証レベルを追加するには、[定義] をクリックします。表示される [アクセスレベルの定義] リストで、新しい認証レベルを入力して [+] ボタンをクリックします。新しい認証レベルは保存されるため、他のページでも使用できます。

認証レベルのストリングが、ユーザーデータベースに保存されているストリングと完全に一致することを確認します。たとえば、データベースの認証列に、"Administrator" という値がある場合、[名前] ボックスには「**Admin**」ではなく「**Administrator**」と入力してください。

5 1 つのページに複数の認証レベルを設定する場合は、Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながら、リスト内のレベルを続けてクリックします。

たとえば、"Guest"、"Member"、または "Administrator" というアクセス権を持つビジターがそのページを表示できるように指定することができます。

6 許可されていないビジターがプロテクトされたページを開こうとしたときに開くページを指定します。

プロテクトされていないページを選択してください。

7 [OK] をクリックします。

サイトのページ間でのアクセス権のコピー & ペースト

1 プロテクトされたページを開き、[サーバービヘイビア] パネルで [ページへのアクセス制限] サーバービヘイビアを選択します。[+] ポップアップメニューからではなく、パネル上のサーバービヘイビアを選択してください。

2 パネルの右上にある矢印ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [コピー] を選択します。

[ページへのアクセス制限] サーバービヘイビアが、システムのクリップボードにコピーされます。

3 同様にプロテクトする他のページを開きます。

4 [ウィンドウ]-[サーバービヘイビア] を選択して [サーバービヘイビア] パネルを開き、右上隅の矢印ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [ペースト] を選択します。

5 プロテクトする各ページについて、手順 3 と 4 を繰り返します。

ユーザーデータベースへのアクセス権の保存 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

この作成ブロックは、一部のログインユーザーに異なるアクセス権を与える場合にのみ必要です。ビジターにログインだけを要求する場合は、アクセス権を保存しておく必要はありません。

1 特定のログインユーザーに異なるアクセス権を与える場合は、各ビジターのアクセス権 ("Guest"、"User"、"Administrator" など) を指定する列がビジターのデータベーステーブルにあることを確認します。各ビジターのアクセス権をデータベースに入力するのは、サイト管理者です。

ほとんどのデータベースアプリケーションでは、新規レコードを作成するたびに、列を初期設定値に設定できます。サイトの最も一般的なアクセス権を初期設定値として設定してから、それ以外のアクセス権を手動で変更します。たとえば、一般的なアクセス権を "Guest" にしておき、例外のビジターは "Guest" から "Administrator" に変更します。このようにした場合、例外のビジターはすべての管理者用ページにアクセスできます。

2 データベースでは、各ビジターに対して、"User、Administrator" のように複数のアクセス権を与えるのではなく、"Guest" や "Administrator" などの単独のアクセス権を与えるようにしてください。たとえば、すべてのゲストと管理者がページを表示できるようにするなど、ページに複数のアクセス権を設定する場合は、データベースレベルではなく、ページレベルでこれらのアクセス権を設定してください。

ビジターのログアウト (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)

ビジターが正常にログインすると、ユーザー名で構成されるセッション変数が作成されます。ビジターがサイトを去るときに、[ログアウト] サーバービヘイビアを使用してこのセッション変数をクリアし、ビジターを別のページ (通常は「ご利用ありがとうございました」などのメッセージを表示するページ) にリダイレクトすることができます。

ビジターがリンクをクリックしたとき、または特定のページをロードしたときに、[ログアウト] サーバービヘイビアを呼び出すことができます。

ビジターがログアウトするためのリンクの追加

1 ページ上で、リンクとして使用するテキストまたはイメージを選択します。

2 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[ビヘイビア]) で [+] ボタンをクリックし、[ユーザー認証]-[ログアウト] を選択します。

3 ビジターがリンクをクリックしたときに開くページを指定して [OK] をクリックします。

通常、このページは「ご利用ありがとうございました」などのメッセージを表示するページです。

特定ページのロード時のビジターのログアウト

1 Dreamweaver でロードするページを開きます。

通常、このページは「ご利用ありがとうございました」などのメッセージを表示するページです。

2 [サーバービヘイビア] パネルで [+] ボタンをクリックし、[ユーザー認証]-[ログアウト] を選択します。

3 [ページのロード時にログアウト] オプションを選択して [OK] をクリックします。

アプリケーションのフォルダの保護 (ColdFusion)

サーバー上のフォルダまたはサイトの保護 (ColdFusion)

Dreamweaver では、ColdFusion アプリケーションのルートフォルダなど、特定のフォルダをパスワードで保護することができます。サイトにアクセスするビジターが、保護されたフォルダ内のページを要求すると、ユーザー名とパスワードを入力するための画面が表示されます。ColdFusion ではユーザー名とパスワードをセッション変数に保存するので、セッション中であれば、ビジターはユーザー名とパスワードを再入力する必要がありません。

注意：この機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にだけ使用できます。

1 Dreamweaver で ColdFusion ドキュメントを開き、[コマンド]-[ColdFusion ログインウィザード] を選択します。

2 ColdFusion ログインウィザードを完了します。

a 保護するフォルダのフルパスを指定して、[次へ] をクリックします。

b 次の画面で、以下に示す認証タイプの中から 1 つを選択します。

簡易認証 全ユーザーに対して、1 つのユーザー名とパスワードを使用してアプリケーションを保護します。

Windows NT 認証 NT ユーザー名とパスワードを使用してアプリケーションを保護します。

LDAP 認証 LDAP サーバーに保存されているユーザー名とパスワードを使用してアプリケーションを保護します。

c ユーザーがログインする際に、ColdFusion ログインページまたはポップアップメニューのどちらを使用するかを指定します。

d 次の画面で、以下に示す設定を指定します。

- [簡易認証] を選択した場合は、ユーザーが入力する必要のあるユーザー名とパスワードを指定します。
- [Windows NT 認証] を選択した場合は、検証対象の NT ドメインを指定します。
- [LDAP 認証] を選択した場合は、検証対象の LDAP サーバーを指定します。

3 新規ファイルをリモートサイトにアップロードします。ファイルはローカルのサイトフォルダにあります。

関連項目

640 ページの「ColdFusion 拡張機能の有効化」

628 ページの「許可されたビジターのみがアクセスできるページの作成 (ColdFusion、ASP、JSP、PHP)」

631 ページの「アプリケーションのフォルダの保護 (ColdFusion)」

ColdFusion コンポーネントの使用 (ColdFusion)

ColdFusion コンポーネントについて

ColdFusion コンポーネント (CFC) を使用すると、アプリケーションおよびビジネスロジックを自己完結型の再利用可能なユニットにカプセル化できます。また CFC を使用すると、Web サービスを迅速かつ簡単に作成することができます。

CFC は ColdFusion マークアップ言語 (CFML) で記述された再利用可能なソフトウェアユニットで、コードの再利用とメンテナンスを効率化します。

Dreamweaver では CFC を操作できます。CFC のタグおよびシンタックスの詳細については、Dreamweaver から ColdFusion のヘルプ ([ヘルプ]-[ColdFusion の使用]) を参照してください。

注意：CFC は、ColdFusion MX 以降でのみ使用できます。CFC は、ColdFusion 5 ではサポートされていません。

CFC を使用すると、デベロッパーは、Web サイトのエレメントを単純かつ強力な方法でカプセル化できます。コンポーネントは一般的に、アプリケーションまたはビジネスロジックに対して使用します。一方、カスタムタグは、カスタマイズしたあいさつメッセージや動的メニューなど、プレゼンテーションエレメントに対して使用します。

他の多くの構成と同様に、動的サイトには、置き換え可能な要素という利点があります。たとえば、動的サイトでは、同じクエリーを繰り返し実行したり、ショッピングカートページの合計金額を計算し、商品が追加されるたびに再計算することが可能です。これらのタスクは、コンポーネントによって処理されます。コンポーネントは、アプリケーションの他の部分への影響を最小限に抑えつつ、修正、改良、拡張したり、他のコンポーネントと置き換えることができます。

たとえば、あるオンラインストアで、注文価格に基づいて送料を計算する場合を考えます。$20 未満の注文の送料は $4、$20 ～ $40 の範囲の注文の送料は $6、などとなります。ショッピングカートページと精算ページの両方に送料を計算するロジックを挿入できますが、HTML プレゼンテーションコードおよび CFML ロジックコードが混合することになり、ほとんどの場合はコードのメンテナンスおよび再利用が困難になります。

そこで、特に ShippingCharge という関数を備えた Pricing という名前の ColdFusion コンポーネントを作成することに決めます。この関数は、価格をパラメータとして取り、送料を返します。たとえば、パラメータの値が 32.80 であれば、この関数は 6 を返します。

ショッピングカートページと精算ページの両方に、ShippingCharge 関数を呼び出す特別なタグを挿入します。ページが要求されると、この関数が呼び出され、送料がページに返されます。

後で、オンラインストアから、$100 を超える注文についてはすべて送料を無料にするというキャンペーンの通知がありました。この場合、1 か所 (Pricing コンポーネントの ShippingCharge 関数) で送料に変更を加えると、この関数を使用するすべてのページで正確な送料が自動的に取得されます。

[コンポーネント] パネルの概要 (ColdFusion)

[コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) では、ColdFusion コンポーネントを表示および編集することや、CFM ページが要求されたときに関数を呼び出すコードをそのページに追加することができます。

注意：[コンポーネント] パネルは、Dreamweaver で ColdFusion ページを表示している場合にのみ使用できます。

関連項目

635 ページの「CFC を使用する Web ページの作成」

Dreamweaver での CFC の作成または削除

Dreamweaver では、CFC やその関数を視覚的に定義できます。Dreamweaver によって、.cfc ファイルが作成され、必要な CFML タグが自動的に挿入されます。

注意：コンポーネントによっては、一部のコードを手動で入力する必要があります。

1 Dreamweaver で ColdFusion ページを開きます。

2 [コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) のポップアップメニューから [CF コンポーネント] を選択します。

3 [+] ボタンをクリックし、[コンポーネントの作成] ダイアログボックスで必要な設定を行い、[OK] をクリックします。

a[コンポーネント] セクションに、コンポーネントの詳細を入力します。主なオプションは、次のとおりです。

名前 コンポーネントのファイル名を指定します。名前に使用できるのは、英数字とアンダースコア (_) だけです。名前を入力するときに .cfc ファイル拡張子を付けないでください。

コンポーネントディレクトリ コンポーネントの保存場所を指定します。Web アプリケーションのルートフォルダ (¥Inetpub¥wwwroot¥myapp¥ など) またはそのサブフォルダを選択します。

b コンポーネントに対して関数を定義する場合は、[セクション] リストから [関数] を選択して [+] ボタンをクリックし、新しい関数の詳細を入力します。

[返されるタイプ] オプションには、関数が返す値のタイプを指定します。

[アクセス] メニューから [リモート] を選択した場合、関数は Web サービスとして利用できるようになります。

c 関数に対して引数を定義する場合は、[セクション] リストから [引数] を選択し、ポップアップメニューから関数を選択して [+] ボタンをクリックし、新しい引数の詳細をその右に入力します。

4 リモート開発サーバーを使用している場合は、CFC ファイルとその依存ファイル (関数を実装するために使用するファイルやインクルードファイルなど) をリモートサーバーにアップロードします。

ファイルをアップロードすると、ライブデータビューや [ブラウザでプレビュー] などの Dreamweaver の機能が正常に動作するようになります。

Dreamweaver によって、CFC ファイルが作成され、指定したフォルダに保存されます。また、[更新] をクリックすると、新しいコンポーネントも [コンポーネント] パネルに表示されます。

5 コンポーネントを削除するには、サーバーから手動で CFC ファイルを削除する必要があります。

関連項目

635 ページの「CFC を使用する Web ページの作成」

631 ページの「ColdFusion コンポーネントについて」

Dreamweaver での CFC の表示

Dreamweaver では、サイトフォルダまたはサーバーにある ColdFusion コンポーネント (CFC) を視覚的な方法で確認することができます。Dreamweaver では、CFC ファイルを読み込み、それらのファイルに関する情報を [コンポーネント] パネル内のツリービューに表示します。このツリービューは、簡単に操作することができます。

Dreamweaver では、テストサーバー上のコンポーネントが検索されます。詳細については、482 ページの「Dreamweaver からのデータベースへの接続」を参照してください。CFC を新規作成する場合または既存の CFC を変更する場合は、CFC ファイルをテストサーバーにアップロードして、[コンポーネント] パネルに正確に反映されるようにします。

他のサーバーに置かれているコンポーネントを表示するには、テストサーバーの設定を変更してください。

CF コンポーネントについて表示できる情報は次のとおりです。

- サイトに定義されているすべての ColdFusion コンポーネントのリストを表示します。
- ColdFusion MX 7 以降を実行している場合は、リストをフィルタしてサイトフォルダにある CFC だけを表示します。
- 各コンポーネントの関数と引数を確認します。
- Web サービスとして機能する関数のプロパティを確認します。

Web サイトのルートにあるサイトファイルを管理しながら、一方で Dreamweaver を使用して別のサーバーのルートにある CFC を調べるために、2 つの Dreamweaver サイトを定義できます。1 番目のサイトがサーバーのルートを指すように設定し、2 番目のサイトが Web サイトのルートを指すように設定します。[ファイル] パネルの [サイト] ポップアップメニューを使用して、2 つのサイトを素早く切り替えます。

Dreamweaver で CFC を表示するには、以下の手順に従います。

1 Dreamweaver で 任意の ColdFusion ページを開きます。

2 [コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) のポップアップメニューから [CF コンポーネント] を選択します。

3 パネルの [更新] ボタンをクリックして、コンポーネントを取得します。

サーバー上のコンポーネントパッケージが表示されます。コンポーネントパッケージは、CFC ファイルが格納されているフォルダです。

既存のコンポーネントパッケージが表示されない場合は、パネルのツールバーにある [更新] ボタンをクリックします。

4 サイトフォルダにある CFC だけを表示する場合は、[コンポーネント] パネルツールバーの [現在のサイトの CFC のみを表示] ボタンをクリックします。

注意：この機能は、ColdFusion MX 6 以降を実行するコンピュータを Dreamweaver のテストサーバーとして定義している場合にのみ使用できます。

注意：現在のリストがリモートサーバーの仮想フォルダに表示される場合は、フィルタリングがうまく機能していません。

5 パッケージ名の隣の [+] ボタンをクリックして、パッケージに格納されているコンポーネントを表示します。

- コンポーネントの関数のリストを表示するには、コンポーネント名の隣の [+] ボタンをクリックします。
- 関数が取る引数、引数のタイプ、それらの引数が必須またはオプションであるかを確認するには、ツリービューの関数のブランチを開きます。

引数を取らない関数は、その隣に [+] ボタンが表示されません。

- 引数、関数、コンポーネント、またはパッケージの詳細を素早く表示するには、ツリービュー内で項目を選択して、パネルのツールバー上の [詳細を取得します] ボタンをクリックします。

または、項目を右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Macintosh) し、ポップアップメニューから [詳細を取得します] を選択します。

選択した項目に関する詳細情報がメッセージボックスに表示されます。

関連項目

45 ページの「テストサーバーの設定」

640 ページの「ColdFusion 拡張機能の有効化」

635 ページの「CFC を使用する Web ページの作成」

Dreamweaver での CFC の編集

Dreamweaver では、サイトに対して定義された ColdFusion コンポーネントのコードを効率的に編集することができます。たとえば、Dreamweaver を終了せずに、コンポーネント関数を追加、変更、または削除できます。

この機能を使用するには、開発環境を以下のように設定する必要があります。

- ColdFusion をローカルで実行します。
- Dreamweaver の詳細設定の [サイト定義] ダイアログボックスの [テストサーバー] カテゴリで、[ローカル / ネットワーク] のアクセスタイプを指定します。
- 詳細設定の [サイト定義] ダイアログボックスで、ローカルルートフォルダのパスに、テストサーバーフォルダのパスと同じものを指定します (たとえば、c:¥Inetpub¥wwwroot¥cf_projects¥myNewApp¥)。パスを確認して変更する場合は、[サイト]-[サイトの編集] を選択します。
- コンポーネントは、ローカルサイトフォルダ、またはご使用のハードディスクの任意のサブフォルダに格納します。

Dreamweaver で任意の ColdFusion ページを開き、[コンポーネント] パネルにコンポーネントを表示します。コンポーネントを表示するには、[コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) を開き、パネルのポップアップメニューから [CF コンポーネント] を選択し、パネル上の [更新] ボタンをクリックします。

ColdFusion をローカルで実行しているため、Dreamweaver には、ご使用のハードディスク上のコンポーネントパッケージが表示されます。

次の手順でコンポーネントを編集します。

1 Dreamweaver で任意の ColdFusion ページを開き、[コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) にコンポーネントを表示します。

2 パネルのポップアップメニューから [CF コンポーネント] を選択し、パネル上の [更新] ボタンをクリックします。

ColdFusion をローカルで実行しているため、Dreamweaver には、ご使用のハードディスク上のコンポーネントパッケージが表示されます。

注意：CFC レコードセットを視覚的に編集するには、[バインディング] パネルでレコードセットをダブルクリックします。

3 コンポーネントファイルを編集するには、パッケージを開き、ツリービュー内のコンポーネント名をダブルクリックします。

コンポーネントのファイルがコードビューで開きます。

4 特定の関数、パラメータ、またはプロパティを編集するには、ツリービュー内の項目をダブルクリックします。

5 コードビュー内で変更を手作業で行います。

6 ファイルを保存します ([ファイル]-[保存])。

7 [コンポーネント] パネルで新しい関数を確認するには、パネルのツールバーにある [更新] ボタンをクリックして表示を更新します。

関連項目

633 ページの「Dreamweaver での CFC の表示」

CFC を使用する Web ページの作成

Web ページでコンポーネント関数を使用する方法の 1 つに、ページが要求されたときに関数を呼び出すコードをページに書き込む方法があります。Dreamweaver は、このコードの作成を支援します。

注意：コンポーネントを使用する他の方法については、Dreamweaver から ColdFusion のヘルプ ([ヘルプ]-[ColdFusion の使用]) を参照してください。

1 Dreamweaver で、コンポーネント関数を使用する ColdFusion ページを開きます。

2 コードビューに切り替えます ([表示]-[コード])。

3 [コンポーネント] パネル ([ウィンドウ]-[コンポーネント]) を開き、パネルのポップアップメニューから [CF コンポーネント] を選択します。

4 必要なコンポーネントを見つけ出し、以下の方法のいずれかで挿入します。

- 関数をツリービューからページにドラッグします。関数を呼び出すコードがページに挿入されます。
- パネル内の関数を選択し、パネルのツールバー上の [挿入] ボタン (右の 2 番目のボタン) をクリックします。ページの挿入ポイントにコードが挿入されます。

5 パラメータのある関数を挿入する場合は、手作業でパラメータコードを完成させます。

詳細については、Dreamweaver から ColdFusion のヘルプ ([ヘルプ]-[ColdFusion の使用]) を参照してください。

6 ページを保存します ([ファイル]-[保存])。

CFC のレコードセットの定義

Dreamweaver では、ColdFusion コンポーネント (CFC) にレコードセット (ColdFusion クエリー) を定義できます。CFC にレコードセットを定義しておくことで、レコードセットを使用するページごとにレコードセットを定義する必要がなくなります。CFC にレコードセットを一度定義し、異なるページでその CFC を使用します。

注意：この機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にだけ使用できます。詳細については、640 ページの「ColdFusion 拡張機能の有効化」を参照してください。

1 Dreamweaver で CFC ファイルを作成するか、既存の CFC ファイルを開きます。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードセット (クエリー)] を選択します。

[レコードセット] ダイアログボックスが表示されます。基本設定または詳細設定の [レコードセット] ダイアログボックスを使用することができます。

3 CFC の既存の関数を使用する場合は、[関数] ポップアップメニューから関数を選択し、手順 5 に進みます。

レコードセットは関数内で定義します。

4 CFC の新規関数を定義する場合は、[新しい関数] ボタンをクリックし、表示されるダイアログボックスに関数名を入力して、[OK] をクリックします。

名前に使用できるのは、英数字とアンダースコア (_) だけです。

5 関数のレコードセットを定義するには、[レコードセット] ダイアログボックスのオプションを適宜設定します。

新しい関数が、そのレコードセットが定義されている CFC ファイルに挿入されます。

関連項目

632 ページの「Dreamweaver での CFC の作成または削除」

CFC レコードセットを動的コンテンツのソースとして使用

ColdFusion コンポーネント (CFC) にレコードセットを定義する関数がある場合は、コンポーネントをページの動的コンテンツのソースとして使用できます。

注意：この機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にだけ使用できます。詳細については、「ColdFusion 拡張機能の有効化」を参照してください。

1 Dreamweaver で ColdFusion ページを開きます。

2 [バインディング] パネル ([ウィンドウ]-[バインディング]) で [+] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [レコードセット (クエリー)] を選択します。

[レコードセット] ダイアログボックスが表示されます。基本設定または詳細設定の [レコードセット] ダイアログボックスを使用することができます。

3 [CFC クエリー] ボタンをクリックします。

4 [CFC クエリー] ダイアログボックスで適宜設定を行い、[OK] をクリックします。もう一度 [OK] をクリックして、CFC レコードセットを [バインディング] パネルの使用可能なコンテンツソースのリストに追加します。

5 [バインディング] パネルを使用して、各種ページエレメントにレコードセットをバインドします。

詳細については、534 ページの「ページへの動的コンテンツの追加」を参照してください。

CFC による動的コンテンツの定義

Dreamweaver では、レコードセット定義を含む CFC を使用して、レコードセットを動的コンテンツのソースとして定義できます。

1 [名前] ボックスに、CFC レコードセットの名前を入力します。

一般的には、接頭辞「**rs**」をレコードセット名に付けることで、レコードセット名をコード内の他のオブジェクト名と区別します (例 : rsPressRelease)。

レコードセット名に使用できるのは、英数字とアンダースコア (_) だけです。特殊文字またはスペースは使用できません。

2 サーバーで既に定義されているパッケージから選択します。

パッケージがポップアップメニューに表示されない場合は、ポップアップメニューの近くにある [更新] ボタンをクリックしてパッケージリストを更新します。

最初に CFC をテストサーバーにアップロードしていることを確認します。テストサーバーの CFC だけが表示されます。

3 現在選択しているパッケージで定義されているコンポーネントを選択します。

[コンポーネント] ポップアップメニューにコンポーネントが 1 つも表示されない場合、または以前に作成したコンポーネントがメニューに表示されない場合は、CFC ファイルをテストサーバーにアップロードする必要があります。

4 (オプション) コンポーネントを作成するには、[新規コンポーネントの作成] ボタンをクリックします。

a[名前] ボックスに、新規 CFC の名前を入力します。名前に使用できるのは、英数字とアンダースコア (_) だけです。

b[コンポーネントディレクトリ] ボックスに、CFC の保存場所のパスを入力するか、[参照] ボタンを使用してフォルダを指定します。

注意：フォルダは、サイトのルートフォルダの相対パスである必要があります。

5 [関数] ポップアップメニューから、レコードセット定義が含まれる関数を選択します。

[関数] ポップアップメニューには、現在選択しているコンポーネントで定義される関数だけが表示されます。ポップアップメニューに関数が 1 つも表示されない場合、または現在表示されている関数リストに最後に行った変更が反映されていない場合は、最後に行った変更が保存されておりサーバーにアップロードされていることを確認します。

注意：[接続] ボックスと [SQL] ボックスは読み取り専用です。

6 [編集] ボタンをクリックして、関数のパラメータとして渡す必要のある各パラメータ (タイプ、値、デフォルト値) を編集します。

a 現在のパラメータの値を入力するには、[値] ポップアップメニューから値タイプを選択し、右側のボックスに値を入力します。

値タイプは URL パラメータ、フォーム変数、Cookie、セッション変数、アプリケーション変数、または入力値のいずれかです。

b[初期設定値] ボックスにパラメータの初期設定値を入力します。

ランタイム値が返されない場合は、パラメータの初期設定値が使用されます。

c[OK] をクリックします。

レコードセットのデータベース接続と SQL クエリーは修正できません。これらのフィールドは、常に無効になっています。接続と SQL は参照用に表示されています。

7 [テスト] をクリックしてデータベースに接続し、レコードセットのインスタンスを作成します。

SQL ステートメントにページパラメータが含まれる場合は、[テスト] をクリックする前に、[パラメータ] ボックスの [初期設定値] 列に有効なテスト値が入力されていることを確認してください。

クエリーの実行に成功した場合は、テーブルにレコードセットが表示されます。各行にはレコードが含まれており、各列はレコードのフィールドを表しています。

[OK] をクリックして CFC クエリーをクリアします。

8 [OK] をクリックします。

JavaBeans の使用 (JSP)

JavaBeans の操作

JavaBeans コンポーネントは、複数層の JSP アプリケーションの構成エレメントです。JavaBeans は、通常、中間 " ビジネスロジック " 層の一部として、データアクセスロジックとプレゼンテーションロジックを分離するために使用されます。JSP アプリケーションでは、JSP ページではなく JavaBeans ("beans" とも言います) に、データベースに直接アクセスするロジックが含まれています。

Dreamweaver では、JavaBeans コンポーネントは JSP ページの動的コンテンツのソースとして扱われ、[バインディング] パネルに表示されます。[バインディング] パネルの JavaBeans をダブルクリックして、そのプロパティを表示します。表示されたプロパティをページにドラッグして、動的データ参照を作成できます。

また、JavaBeans コレクション (一連の JavaBeans) を動的コンテンツのソースとして定義することもできます。ただし、Dreamweaver では、JavaBeans コレクションの使用時に、リピート領域と動的バインディングのみをサポートします。

JavaBean クラスファイルへのアクセス

bean クラスの複製 (または bean クラスを含む ZIP ファイルや JAR ファイル) は、以下の場所に配置する必要があります。

- Dreamweaver を実行しているシステムでは、bean クラスの複製は Dreamweaver の "Configuration/classes" フォルダまたはシステムのクラスパスに配置します (Dreamweaver は、デザインタイムにこのクラスの複製を使用します)。
- JSP アプリケーションサーバーを実行しているシステムでは、bean クラスはアプリケーションサーバーのクラスパスに配置します アプリケーションサーバーは、ランタイムにこのクラスの複製を使用します。アプリケーションサーバーのクラスパスは、アプリケーションサーバーにより異なりますが、一般的には "classes/bean" サブフォルダを含む "WEB-INF" フォルダに指定します。

Dreamweaver およびアプリケーションサーバーの両方が同じシステム上で実行されており、アプリケーションサーバーが内部クラスパスではなくシステムクラスパスを使用している場合は、そのコンピュータのシステムクラスパスに JavaBeans クラスの複製を 1 つだけ配置します。アプリケーションサーバーと Dreamweaver の両方が、このクラスの複製を使用します。それ以外の場合は、上に示したように、コンピュータ上の 2 つのパスに JavaBeans クラスの複製を配置する必要があります。

フォルダの構造は、JavaBeans のパッケージと一致している必要があります。たとえば、JavaBeans のパッケージが com.ardvark.myBean と呼ばれる場合は、JavaBeans パッケージをクラスパス内または Dreamweaver の "Configuration/classes" フォルダ内の "/com/ardvark/" に格納します。

JSP ページの JavaBean の定義

1 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

2 [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [JavaBean] を選択します。

3 [JavaBean ダイアログボックス] に、bean の名前を入力します。

4 bean のスコープを選択します。

5 bean のクラスを選択します。ZIP ファイルまたは JAR ファイル内のクラスを一覧表示するには、[参照] をクリックしてファイルを選択します。

クラスは次のような形式で表されます。

```
packagename.classname
```

6 JavaBean のプロパティの 1 つに初期設定値を指定するには、リストからプロパティを選択し、リストの下にある [初期設定値] ボックスに値を入力します。プロパティの初期設定値を動的な値に設定するには、[初期設定値] ボックスの横にある稲妻アイコンをクリックします。

7 [OK] をクリックします。[バインディング] パネルに、新しく定義した JavaBean が表示されます。

JSP ページの JavaBean コレクションの定義

1 [ウィンドウ]-[バインディング] を選択して [バインディング] パネルを表示します。

2 [+] ボタンをクリックして、ポップアップメニューから [JavaBean コレクション] を選択します。

3 [JavaBean コレクション] ダイアログボックスの [コレクションクラス] ポップアップメニューから、コレクションのクラスを選択します。

クラスは次のような形式で表されます。

```
packagename.classname
```

ZIP ファイルまたは JAR ファイル内のクラスを一覧表示するには、[参照] をクリックしてファイルを選択します。

4 [インデックスプロパティ] ポップアップメニューからコレクションのインデックスプロパティを 1 つ選択します。

5 (オプション) [アイテムクラス] ボックスに表示される初期設定の名前を変更します。

6 [スコープ] ポップアップメニューから bean のスコープを選択します。

7 [OK] をクリックします。[バインディング] パネルに、新しく定義した JavaBean コレクションが表示されます。

第 21 章：ASP.NET フォームおよび ColdFusion フォームの作成

データベースレコードの検索、挿入、削除、および更新、マスター情報や詳細情報の表示、特定のユーザーに対するアクセス制限を行うページを作成できます。このようなページは、ASP.NET および ColdFusion サーバーモデルに対して作成できます。この情報は、Web アプリケーションページ上のフォームに表示する場合がほとんどです。ASP.NET および ColdFusion サーバーの場合は、フォーム上でサーバー固有のコントロールを使用します。

ColdFusion MX 7 フォームの作成

ColdFusion 拡張機能について

Dreamweaver には、ColdFusion MX 7 以降を開発サーバーとして使用するための多数の拡張機能があります。この拡張機能では、[挿入] バーのボタン、メニュー項目、プロパティインスペクタが追加されており、ColdFusion フォームのプロパティを迅速に作成、設定することができます。さらに、サイトのビジターが入力した情報を検査するコードを生成することもできます。たとえば、ユーザーが入力した電子メールアドレスに @ 記号があるか、必須テキストフィールドに特定の型の値が入力されているかなどを確認できます。

注意：これらの拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

ColdFusion 拡張機能の有効化

この拡張機能の中には、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータを Dreamweaver のテストサーバーとして定義しておくことが必要なものもあります。たとえば、フォームコントロールのプロパティインスペクタを使用できるのは、適切なテストサーバーを指定した場合だけです。

テストサーバーを定義するのは 1 回だけです。Dreamweaver では、テストサーバーのバージョンを自動的に検出し、ColdFusion を検出した場合に拡張機能を使用可能にします。

1 ColdFusion プロジェクトの Dreamweaver サイトを定義していない場合は、ここで定義します。

2 [サイト]-[サイトの管理] を選択し、[サイト定義] ダイアログボックスの [詳細設定] でサイトを選択して [編集] をクリックします。

[サイト定義] ダイアログボックスが表示されたら、[詳細設定] タブをクリックして詳細情報に切り替えます。

3 [テストサーバー] カテゴリを選択し、ColdFusion MX 7 以降を Dreamweaver サイトのテストサーバーとして実行しているコンピュータを指定します。有効な URL 接頭辞を指定します。

4 ColdFusion ドキュメントを開きます。

ColdFusion ドキュメントを開くまで、Dreamweaver ワークスペースに対する変更は表示されません。

関連項目

631 ページの「アプリケーションのフォルダの保護 (ColdFusion)」

37 ページの「Dreamweaver サイトの設定」

45 ページの「テストサーバーの設定」

ColdFusion フォームの作成

多数の [挿入] バーのボタン、メニュー項目、およびプロパティインスペクタを使用して、ColdFusion フォームを迅速に作成し、そのプロパティを設定することができます。

注意：これらの拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にだけ使用できます。

1 ColdFusion ページを開き、ColdFusion フォームを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[ColdFusion オブジェクト]-[CFForm]-[CFForm] を選択するか、[挿入] バーの [CFForm] カテゴリを選択して [CF Form] アイコンをクリックします。

Dreamweaver では空の ColdFusion フォームが挿入されます。デザインビューでは、フォームは赤い点線のアウトラインで示されます。アウトラインが表示されない場合は、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。

3 フォームが選択されていることを確認したら、プロパティインスペクタを使用して以下のフォームプロパティを設定します。

CFForm フォームの名前を設定します。

アクション フォームを送信する際に処理される ColdFusion ページの名前を指定します。

メソッド ブラウザでフォームデータをサーバーに送信する際に使用するメソッドを定義します。

- **POST** HTTP post メソッドを使用してデータを送信します。このメソッドでは、データを個別のメッセージでサーバーに送信します。
- **GET** HTTP get メソッドを使用してデータを送信します。このとき、フォームフィールドコンテンツを URL クエリーストリングに配置します。

ターゲット cfform タグのターゲット属性の値を修正します。

エンコーディングタイプ フォームデータの送信に使用するエンコードメソッドを指定します。

注意：エンコードの種類は文字エンコードを基準としません。この属性では、メソッドの値が post のばあいに、フォームをサーバに送信する際に使用するコンテンツタイプを指定します。この属性の初期設定値は application/x-www-form-urlencoded です。

フォーマット 作成されるフォームの種類を決定します。

- **HTML** HTML フォームを生成してクライアントに送信します。cfgrid 子コントロールと cftree 子コントロールは Flash またはアプレットフォーマットでもかまいません。
- **Flash** Flash フォームを生成してクライアントに送信します。すべてのコントロールが Flash フォーマットになります。
- **XML** XForms XML を生成し、ColdFusion フォーム名を付けた変数に結果を保存します。クライアントには何も送信されません。cfgrid 子コントロールと cftree 子コントロールは Flash またはアプレットフォーマットでもかまいません。

スタイル フォームのスタイルを指定します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

Flash/XML Skin 出力を成型するための Macromedia ハローカラーを指定します。テーマにより、ハイライトまたは選択されたエレメントの色が決まります。

データを保持 フォーム自体に送信する際に、初期コントロール値を、送信された値で上書きするかどうかを指定します。

- False を指定した場合は、control タグ属性で指定した値が使用されます。
- True を指定した場合は、送信された値が使用されます。

スクリプト src タグと子タグで使用されるクライアントサイドコードが含まれる JavaScript ファイルの URL を Web ルートを基準として指定します。ファイルが初期設定の場所にない場合に、この属性を使用します。"/CFIDE" ディレクトリへのアクセスがブロックされている一部のホスティング環境や構成で、この属性が必要になる場合があります。初期設定の場所は ColdFusion Administrator で設定されます。初期設定は "/CFIDE/scripts/cfform.js" です。

アーカイブ cfgrid、cfslider、cftree の各アプレットコントロールのダウンロード可能な Java クラスの URL を指定します。初期設定の場所は "/CFIDE/classes/cfapplets.jar" です。

高さ フォームの高さを指定します。

幅 フォームの幅を指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

4 ColdFusion フォームコントロールを挿入します。

ColdFusion フォームで ColdFusion フォームコントロールを表示する場所に挿入ポイントを置き、[挿入] メニュー ([挿入]-[ColdFusion オブジェクト]-[CFForm]) または [挿入] バーの [CFForm] カテゴリからコントロールを選択します。

5 必要に応じて、プロパティインスペクタでコントロールのプロパティを設定します。

コントロールがデザインビューで選択されていることを確認してから、プロパティインスペクタでプロパティを設定します。プロパティの詳細については、プロパティインスペクタの [ヘルプ] アイコンをクリックしてヘルプを参照してください。

6 ColdFusion フォームのレイアウトを調整します。

HTML ベースのフォームを作成している場合は、行の区切り、段落の区切り、フォーマット済みのテキスト、またはテーブルを使用してフォームをフォーマットできます。1 ページに複数の ColdFusion フォームを入れることはできますが、別の ColdFusion フォームに ColdFusion フォームを追加すること、つまり、タグのオーバーラップはできません。

Flash ベースのフォームを作成している場合は、CSS (Cascading Style Sheets: カスケーディングスタイルシート) スタイルを使用してフォームをレイアウトします。ColdFusion では、フォーム内の HTML は無視されます。

ColdFusion フォームフィールドのラベルには説明文を記述して、ユーザーにわかりやすくする必要があります。たとえば、名前情報を要求する場合は、「名前ラベルを入力してください」とします。

関連項目

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

571 ページの「HTML フォームの作成」

ColdFusion フォームコントロールの挿入

[挿入] バーまたは [挿入] メニューを使用すると、ColdFusion フォームコントロールを ColdFusion フォームに迅速に挿入できます。空の ColdFusion フォームを作成してからコントロールを挿入します。

注意 : これらの拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行するコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 デザインビューで、挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] メニューからコントロールを選択するか ([挿入]-[ColdFusion オブジェクト]-[CFForm])、または [挿入] バーの [CFForm] カテゴリからコントロールを選択します。

3 ページに配置されたコントロールをクリックし、プロパティインスペクタでそのプロパティを設定します。

特定のコントロールの挿入に関する詳細については、対象のコントロールに関するトピックを参照してください。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

ColdFusion テキストフィールドの挿入

ColdFusion テキストフィールドまたはパスワードフィールドをフォームに視覚的に挿入して、そのオプションを設定することができます。

注意 : この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

ColdFusion テキストフィールドの視覚的な挿入

1 デザインビューで、挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] バーの [CFForm] カテゴリで、[CF テキストフィールド] アイコンをクリックするか、[挿入]-[ColdFusion オブジェクト]-[CFForm]-[CFtextfield] を選択します。

テキストフィールドがフォームに表示されます。

3 テキストフィールドを選択し、プロパティインスペクタでそのプロパティを設定します。

4 ページ上のテキストフィールドにラベルを付けるには、テキストフィールドの横をクリックして、ラベルを入力します。

パスワードフィールドの視覚的な挿入

1 上記手順の 1 ～ 2 を繰り返してテキストフィールドを挿入します。

2 挿入したテキストフィールドを選択して、そのプロパティインスペクタを表示します。

3 プロパティインスペクタの [テキストモード] ポップアップメニューから [Password value] を選択します。

CFTextField のオプション (ColdFusion)

ColdFusion のテキストフィールドまたはパスワードフィールドのオプションを設定するには、CFTextField のプロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

CFtextfield id 属性を設定します (<cfinput> タグ)。

値 ブラウザで最初にページを開いたときにフィールドに表示されるテキストを指定します。情報は静的または動的のどちらでもかまいません。

動的値を指定するには、[値] テキストボックスの横にある稲妻アイコンをクリックし、[動的データ] ダイアログボックスでレコードセット列を選択します。ブラウザでフォームを表示するときに、テキストフィールドの値はこのレコードセット列から得られます。

テキストモード 標準のテキスト入力フィールドとパスワード入力フィールドを切り替えます。このコントロールで修正された属性は type です。

読み取り専用 表示テキストを読み取り専用にします。

最大長 テキストフィールドに入力可能な最大文字数を設定します。

マスク 要求したテキストのマスクを指定します。ユーザーの入力を検証する際に、このプロパティを使用します。マスクフォーマットは A、9、X、? の 各文字で構成されます。

注意：マスク属性は cfinput type="password" タグでは無視されます。

バリデート 現在のフィールドの検証の種類を指定します。

検査 フィールドを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル テキストフィールドのラベルを指定します。

パターン 入力を検証するための JavaScript 正規表現パターンを指定します。始めと終わりのスラッシュは省略します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。

サイズ コントロールのサイズを指定します。

必須 フォームをサーバーに送信する前にテキストフィールドにデータを含めるかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

ColdFusion 非表示フィールドの挿入

ColdFusion 非表示フィールドをフォームに視覚的に挿入して、そのプロパティを設定することができます。非表示フィールドは、ユーザーが入力しない情報を保存し送信するのに使用します。この情報は、ユーザーには表示されません。

注意：この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 デザインビューで、挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] バーの [CFForm] カテゴリ内で、[CF 非表示フィールド] アイコンをクリックします。

マーカーが ColdFusion フォームに表示されます。マーカーが表示されない場合は、[表示]-[ビジュアルエイド]-[不可視エレメント] を選択します。

3 ページ上の非表示フィールドを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cfhiddenfield 非表示フィールドの一意の名前を指定します。

値 非表示フィールドの値を指定します。データは静的または動的のどちらでもかまいません。

動的値を指定するには、[値] テキストボックスの横にある稲妻アイコンをクリックし、[動的データ] ダイアログボックスでレコードセット列を選択します。ブラウザでフォームを表示するときに、テキストフィールドの値はこのレコードセット列から得られます。

バリデート 現在のフィールドの検証の種類を指定します。

検査 フィールドを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル コントロールのラベルを指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

パターン 入力を検証するための JavaScript 正規表現パターンを指定します。始めと終わりのスラッシュは省略します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

サイズ コントロールのサイズを指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

必須 フォームをサーバーに送信する前に非表示フィールドにデータを含めるかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

ColdFusion テキスト領域の挿入

ColdFusion テキスト領域をフォームに視覚的に挿入して、そのプロパティを設定することができます。テキスト領域は、複数行のテキストから構成される入力エレメントです。

注意：この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] バーの [CFForm] カテゴリ内で、[CF テキスト領域] アイコンをクリックします。

テキスト領域が ColdFusion フォームに表示されます。

3 ページ上のテキストフィールドを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cftextarea コントロールの一意の名前を指定します。

文字幅 1 行あたりの文字数を設定します。

ライン数 テキスト領域に表示する行数を設定します。

折り返し ユーザーが入力したテキストの折り返し方法を指定します。

必須 ユーザーがフィールドにデータを入力する必要があるか (オン) ないか (オフ) を指定します。

初期値 ブラウザで最初にページを開いたときにテキスト領域に表示されるテキストを指定します。

バリデート フィールドの検証の種類を指定します。

検査 フィールドを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル コントロールのラベルを指定します。

スタイル コントロールのスタイルを指定します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

4 テキスト領域にラベルを付けるには、テキスト領域の横をクリックして、ラベルを入力します。

関連項目

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

ColdFusion ボタンの挿入

ColdFusion ボタンをフォームに視覚的に挿入して、そのプロパティを設定することができます。ColdFusion ボタンは、ColdFusion フォームの操作を制御します。ColdFusion フォームデータをサーバーに送信する場合や、ColdFusion フォームをリセットする場合にボタンを使用します。標準の ColdFusion ボタンには、通常、" 送信 "、" リセット " などのラベルが付けられます。また、スクリプト内で定義した他の処理タスクを割り当てることもできます。たとえば、ボタンを使用して、割り当てられた値を基に、選択した項目の合計費用を計算することもできます。

注意： この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 挿入ポイントを ColdFusion フォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] バーの [CFForm] カテゴリ内で、[CF ボタン] アイコンをクリックします。

ボタンが ColdFusion フォームに表示されます。

3 ページ上のボタンを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cfbutton コントロールの一意の名前を指定します。

アクション 作成するボタンのタイプを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

実行時の ColdFusion サーバーでは、その他のプロパティは無視されます。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

ColdFusion チェックボックスの挿入

ColdFusion チェックボックスをフォームに視覚的に挿入して、そのプロパティを設定することができます。ユーザーがオプション群から複数のオプションを選択できるようにする場合は、チェックボックスを使用します。

注意： この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] バーの [CFForm] カテゴリ内で、[CF チェックボックス] アイコンをクリックします。

チェックボックスが ColdFusion フォームに表示されます。

3 ページ上のチェックボックスを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cfcheckbox コントロールの一意の名前を指定します。

チェック済み値 ユーザーがチェックボックスをオンにしたときにチェックボックスから返す値を指定します。

初期値 ブラウザで最初にページを開いたときにチェックボックスをオンにするかどうかを指定します。

バリデート チェックボックスの検証の種類を指定します。

検査 チェックボックスを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル チェックボックスのラベルを指定します。

パターン 入力を検証するための JavaScript 正規表現パターンを指定します。始めと終わりのスラッシュは省略します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

サイズ コントロールのサイズを指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

必須 フォームをサーバーに送信する前にチェックボックスをオンにするかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

4 チェックボックスにラベルを付けるには、ページ上のチェックボックスの横をクリックし、ラベルのテキストを入力します。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

ColdFusion ラジオボタンの挿入

ColdFusion ラジオボタンをフォームに視覚的に挿入して、そのプロパティを設定することができます。ユーザーが一連のオプションからオプションを 1 つだけ選択できるようにする場合は、ラジオボタンを使用します。ラジオボタンは、通常、グループで使用します。同一グループのラジオボタンすべてに、同じ名前を付ける必要があります。

注意： この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入]-[ColdFusion オブジェクト]-[CFForm]-[CFradiobutton] を選択します。

ラジオボタンが ColdFusion フォームに表示されます。

3 ページ上のラジオボタンを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cfradiobutton コントロールの一意の名前を指定します。

チェック済み値 ユーザーがラジオボタンをオンにしたときにラジオボタンから返す値を指定します。

初期値 ブラウザで最初にページを開いたときにラジオボタンをオンにするかどうかを指定します。

バリデート ラジオボタンの検証の種類を指定します。

検査 ラジオボタンを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル ラジオボタンのラベルを指定します。

パターン 入力を検証するための JavaScript 正規表現パターンを指定します。始めと終わりのスラッシュは省略します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

サイズ コントロールのサイズを指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

必須 フォームをサーバーに送信する前にラジオボタンをオンにするかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

4 ラジオボタンにラベルを付けるには、ページ上のラジオボタンの横をクリックして、ラベルを入力します。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

ColdFusion 選択ボックスの挿入

ColdFusion 選択ボックスをフォームに視覚的に挿入して、そのプロパティを設定することができます。選択ボックスは、ユーザーがリストから 1 つまたは複数の項目を選択する場合に使用します。選択ボックスは、多くの項目を限られたスペースで表示するのに便利です。また、サーバーに返される値を制御する場合にも便利です。テキストフィールドではユーザーが自由に情報を入力できるため、無効な値でも入力可能ですが、選択ボックスではメニューから返される値を設計者が設定できます。

フォームには、2 つのタイプの選択ボックスを挿入できます。1 つは、ユーザーがクリックしたときにドロップダウン形式で表示されるメニューで、もう 1 つは、選択できる項目をスクロール可能なリストとして表示するメニューです。

注意： この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] バーの [CFForm] カテゴリ内で、[CF 選択] アイコンをクリックします。

選択ボックスが ColdFusion フォームに表示されます。

3 ページ上の選択ボックスを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cfselect コントロールの一意の名前を指定します。

タイプ ポップアップメニューまたはリストのいずれかを選択します。リストタイプを選択すると、[リストの高さ] オプションと [複数リストの選択を許可] オプションが使用できるようになります。

リストの高さ リストメニューに表示する行数を指定します。リストタイプを選択した場合にだけ使用できます。

複数リストの選択を許可 ユーザーがリストから一度に複数のオプションを選択できるかどうかを指定します。リストタイプを選択した場合にだけ使用できます。

値の編集 選択ボックスからオプションを追加、編集、削除するためのダイアログボックスを開きます。

初期選択値 初期設定で選択するオプションを指定します。[複数リストの選択を許可] オプションを選択している場合は、複数のオプションを選択できます。

レコードセット リストまたはメニューに入力するのに使用する ColdFusion クエリーの名前を指定します。

列の表示 各リストエレメントの表示ラベルに使用するレコードセット列を指定します。Recordset プロパティとともに使用します。

値列 各リストエレメントの値を指定するのに使用するレコードセット列を指定します。Recordset プロパティとともに使用します。

Flash ラベル 選択ボックスのラベルを指定します。

Flash の高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

Flash の幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

メッセージ Required プロパティに Yes を設定している場合に、ユーザーが選択を行わずにフォームを送信したときに表示するメッセージを指定します。

必須 フォームをサーバーに送信する前にメニュー項目を選択するかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

ColdFusion イメージフィールドの挿入

ColdFusion イメージフィールドをフォームに視覚的に挿入して、そのオプションを設定することができます。イメージフィールドは、カスタムボタンを作成する場合に使用します。

注意：この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 デザインビューで、挿入ポイントをフォームのアウトライン内に置きます。

2 [挿入] バーの [CFForm] カテゴリ内で、[CF イメージフィールド] アイコンをクリックします。挿入するイメージを参照して選択し、[OK] をクリックします。または、[ソース] テキストボックスにイメージファイルのパスを入力します。

注意：イメージがサイトのルートフォルダ以外の場所にある場合は、ルートフォルダにイメージをコピーする必要があります。ルートフォルダ以外の場所にあるイメージは、サイトをパブリッシュする際にアクセスできない場合があります。

3 ページ上のイメージフィールドを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cfimagefield コントロールの一意の名前を指定します。

ソース 挿入イメージの URL を指定します。

代替 イメージを表示できない場合に表示するメッセージを指定します。

行揃え ピクチャの整列を指定します。

ボーダー イメージボーダーの幅を設定します。

イメージの編集 初期設定のイメージエディタでイメージを開きます。

初期設定のイメージエディタを定義するには、[編集]-[環境設定]-[ファイルタイプ / エディタ] を選択します。初期設定のイメージエディタを定義していない場合は、[イメージの編集] ボタンを押しても何も実行されません。

バリデート イメージフィールドの検証の種類を指定します。

検査 フィールドを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル ラジオボタンのラベルを指定します。

パターン 入力を検証するための JavaScript 正規表現パターンを指定します。始めと終わりのスラッシュは省略します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。

サイズ コントロールのサイズを指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

必須 フォームをサーバーに送信する前にコントロールにデータを含めるかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

ColdFusion ファイルフィールドの挿入

ColdFusion ファイルフィールドをフォームに視覚的に挿入して、そのプロパティを設定することができます。ファイルフィールドは、ユーザーがコンピュータからワードプロセッサのドキュメントやグラフィックファイルなどのファイルを選択して、サーバーにアップロードするときに使用します。ColdFusion ファイルフィールドは、[参照] ボタンがあることを除けば、外観は他のテキストフィールドと同じです。ユーザーは、アップロードするファイルのパスを手動で入力するか、[参照] ボタンでファイルの場所を検索して選択することができます。

ファイルフィールドの場合、ブラウザからサーバーにファイルを転送するには、POST メソッドを使用します。ファイルは、フォームの [アクション] ボックスで指定されたアドレスに送信されます。フォームでファイルフィールドを使用する前に、匿名ファイルのアップロードが許可されているかどうかをサーバーのシステム管理者に確認してください。

ファイルフィールドでは、フォームエンコードが multipart/form に設定されている必要があります。Dreamweaver では、ファイルフィールドコントロールを挿入したときに自動的に設定されます。

注意： この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 デザインビューで、プロパティインスペクタを表示する CFForm を選択します。

フォームを簡単に選択するには、フォームアウトラインの内側をクリックし、ドキュメントウィンドウの下部にあるタグセレクタの <cfform> タグをクリックします。

2 プロパティインスペクタで、フォームメソッドに POST を設定します。

3 [エンコーディングタイプ] ポップアップメニューから [multipart/form-data] を選択します。

4 ファイルフィールドを表示するフォームのアウトライン内に挿入ポイントを置きます。

5 [挿入]-[ColdFusion オブジェクト]-[CFForm]-[CFfilefield] を選択します。

ファイルフィールドがドキュメントに表示されます。

6 ページ上のファイルフィールドを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のプロパティを設定します。

Cffilefield コントロールの一意の名前を指定します。

最大長 ファイルへのパスの最大文字数を指定します。

バリデート フィールドの検証の種類を指定します。

検査 フィールドを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル フィールドのラベルを指定します。

パターン 入力を検証するための JavaScript 正規表現パターンを指定します。始めと終わりのスラッシュは省略します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。実行時の ColdFusion サーバーでは、このプロパティは無視されます。

サイズ コントロールのサイズを指定します。

必須 フォームをサーバーに送信する前にファイルフィールドにデータを含めるかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

関連項目

650 ページの「ColdFusion フォームコントロールの修正」

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

ColdFusion 日付フィールドの挿入

Dreamweaver では ColdFusion 日付フィールドを視覚的に挿入できませんが、プロパティは視覚的に設定することができます。ColdFusion 日付フィールドは特殊なテキストフィールドで、ユーザーがポップアップカレンダーから日付を選択してテキストフィールドに挿入することができます。

注意：この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 デザインビューで、プロパティインスペクタを表示する CFForm を選択します。

フォームを簡単に選択するには、フォームアウトラインの内側をクリックし、ドキュメントウィンドウの下部にあるタグセレクタの <cfform> タグをクリックします。

2 プロパティインスペクタで、フォームの Format プロパティに Flash を設定します。

日付フィールドコントロールは、Flash ベースの ColdFusion フォームだけでレンダリングできます。

3 コードビューに切り替え ([表示]-[コード])、CFForm の開始タグと終了タグの間に以下のタグを入力します。

```
<cfinput name="datefield" type="datefield">
```

4 デザインビューに切り替えてページ上のデータフィールドを選択し、必要に応じて、プロパティインスペクタで以下のオプションを設定します。

Cfdatefield コントロールの一意の名前を指定します。

値 ブラウザで最初にページを開いたときにフィールドに表示される日付を指定します。日付は静的または動的のどちらでもかまいません。

動的値を指定するには、[値] テキストボックスの横にある稲妻アイコンをクリックし、[動的データ] ダイアログボックスでレコードセット列を選択します。レコードセット列により、ブラウザでフォームを表示するときに、日付フィールドに値が入力されます。

バリデート フィールドの検証の種類を指定します。

検査 フィールドを検証する時期を onSubmit、onBlur、または onServer の中から指定します。

ラベル フィールドのラベルを指定します。

パターン 入力を検証するための JavaScript 正規表現パターンを指定します。始めと終わりのスラッシュは省略します。詳細については、ColdFusion のマニュアルを参照してください。

高さ コントロールの高さをピクセル単位で指定します。

幅 コントロールの幅をピクセル単位で指定します。

サイズ コントロールのサイズを指定します。

必須 フォームをサーバーに送信する前に日付フィールドに値を含めるかどうかを指定します。

タグエディタを表示 プロパティインスペクタで表示されないプロパティを編集します。

関連項目

651 ページの「ColdFusion フォームデータの検証」

ColdFusion フォームコントロールの修正

ColdFusion フォームコントロールのプロパティは、デザインビューでもコードビューでも視覚的に変更できます。

注意：この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 デザインビューでは、ページのフォームコントロールを選択します。コードビューでは、コントロールのタグ内をクリックします。

フォームコントロールのプロパティがプロパティインスペクタで表示されます。

2 プロパティインスペクタでフォームコントロールのプロパティを変更します。

詳細については、プロパティインスペクタの [ヘルプ] アイコンをクリックしてヘルプを参照してください。

3 詳細なプロパティを設定するには、プロパティインスペクタの [タグエディタを表示] ボタンをクリックし、表示されるタグエディタ内でプロパティを設定します。

ColdFusion フォームデータの検証

指定したフィールドのコンテンツを検証するための ColdFusion フォームを作成して、ユーザーが正しいデータタイプを入力したことを確認することができます。

注意： この拡張機能は、ColdFusion MX 7 以降を実行しているコンピュータにアクセスできる場合にのみ使用できます。

1 入力フィールドと [送信] ボタンが含まれている ColdFusion フォームを作成します。検証する ColdFusion フィールドに、それぞれ固有の名前が割り当てられていることを確認します。

2 検証するフォームのフィールドを選択します。

3 プロパティインスペクタで、フィールドの検証方法を指定します。

各入力プロパティインスペクタの下部には、特定の検証ルールを定義するためのコントロールがあります。たとえば、電話番号を含むテキストフィールドを指定できます。この場合には、プロパティインスペクタの [値] ポップアップメニューから [電話番号] を選択します。[検査] ポップアップメニューで検証時期を指定することもできます。

ASP.NET フォームの作成

ページへの ASP.NET フォームコントロールの追加

Dreamweaver では、視覚的なデザイン環境を使用して ASP.NET フォームコントロールをページに追加できます。

1 [表示]-[デザイン] を選択し、デザインビューで ASP.NET ページを開きます。

2 ページ上でフォームコントロールを表示する位置に挿入ポイントを置きます。

フォームコントロールは、タグに runat='server' 属性を持つフォーム内に挿入する必要があります。ページにフォームがない場合、Dreamweaver は、最初の ASP.NET フォームコントロールを挿入するときに、runat='server' 属性を持つフォームを自動的に作成します。ページに HTML フォームが含まれている場合は、最初のフォームコントロールを挿入するときに、そのフォームのタグに runat='server' 属性が自動的に追加されます。

3 次のいずれかの操作を実行します。

- [挿入]-[ASP.NET オブジェクト] を選択し、サブメニューからフォームコントロールを選択します。
- [挿入] バーの [ASP.NET] カテゴリで、フォームコントロールのアイコンを選択します。

4 ダイアログボックスが表示されたら、フォームコントロールのオプションを設定し、[OK] をクリックします。

各コントロールのプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpconaspsyntaxforwebcontrols.asp) にあるマニュアルを参照してください。

コントロールごとに、TextBox コントロールの txtCity、ListBox コントロールの lbxCountry などの ID 属性を指定するようにしてください。

関連項目

652 ページの「動的な ASP.NET メニューの作成」

654 ページの「ASP.NET の CheckBoxList コントロールの挿入」

655 ページの「ASP.NET の RadioButtonList コントロールの挿入」

ASP.NET フォームコントロールのプロパティまたはイベントの修正

1 デザインビューで、ページ上のフォームコントロールを選択します。

2 プロパティインスペクタでフォームコントロールのプロパティを修正します。

各コントロールのプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpconaspsyntaxforwebcontrols.asp) にあるマニュアルを参照してください。

3 詳細なプロパティまたはイベントを設定するには、プロパティインスペクタの [タグエディタ] ボタンをクリックし、タグエディタ内でプロパティを設定します。

動的な ASP.NET メニューの作成

DropDownList や ListBox など、ASP.NET メニューコントロールには、データベースに格納されているエントリを動的に表示できます。

注意：作成を開始する前に、メニューに表示する動的コンテンツのデータセットやその他のソースを定義する必要があります。

1 動的メニューを挿入する ASP.NET ページを開き、メニューを表示する場所に挿入ポイントを置きます。

2 [挿入]-[ASP.NET オブジェクト] を選択し、[asp:DropDownList] または [asp:ListBox] を選択します。

3 フォームコントロールのオプションを設定し、[OK] をクリックします。

ページ内の挿入ポイントにフォームコントロールが挿入されます。フォームを挿入していない場合は、Dreamweaver が runat=”server” 属性を持つフォームを挿入します。

関連項目

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

651 ページの「ASP.NET フォームコントロールのプロパティまたはイベントの修正」

653 ページの「既存の ASP.NET メニューを動的にする」

ASP.NET の DropDownList のオプション

ID フォームコントロールに割り当てる名前を指定します。ID は必須項目です。

データセット リストコントロールに項目を挿入するときに使用するデータソースを指定します。ここでデータセットを指定しなくても、後で指定できます。また、プロパティインスペクタの [リスト項目] ボタンをクリックして、リスト項目を静的に設定することもできます。

ラベル取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目のラベルとして使用する値を含むフィールドを指定します。

値取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目の値として使用する値を含むフィールドを指定します。

同等値の選択 ドロップダウンリストがブラウザに表示されたときに、どのリスト項目が選択されたかを判断するためにサーバーで使用する値を指定します。ここで指定した値とそれぞれの項目の値がサーバーで比較されます。値が一致すると、その一致した項目が選択されます。

アクセスキー ユーザーがブラウザ内のフォームコントロールにすばやく移動できるようにキーボードショートカットを作成します。たとえば、ここに「K」と入力すると、ユーザーが Alt + K を押したときにフォームコントロールに移動できるようになります。アクセスキーに使用できるのは、1 つの文字のみです。

自動ポストバック ユーザーがリストの選択を変更したときにサーバーへのポストバックを自動的に実行するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、ポストバックが可能になります。

ASP.NET の DropDownList のプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpcondropdownlistwebservercontrol.asp) にあるマニュアルを参照してください。

ASP.NET の ListBox のオプション

ID フォームコントロールに割り当てる名前を指定します。ID は必須項目です。

データセット リストコントロールに項目を挿入するときに使用するデータソースを指定します。ここでデータセットを指定しなくても、後で指定できます。また、プロパティインスペクタの [リスト項目] ボタンをクリックして、リスト項目を静的に設定することもできます。

ラベル取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目のラベルとして使用する値を含むフィールドを指定します。

値取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目の値として使用する値を含むフィールドを指定します。

アクセスキー ユーザーがブラウザ内のフォームコントロールにすばやく移動できるようにキーボードショートカットを作成します。たとえば、ここに「K」と入力すると、ユーザーが Alt + K を押したときにフォームコントロールに移動できるようになります。アクセスキーに使用できるのは、1 つの文字のみです。

自動ポストバック ユーザーがリストの選択を変更したときにサーバーへのポストバックを自動的に実行するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、ポストバックが可能になります。

ASP.NET の ListBox のプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpconlistboxwebservercontrol.asp) にあるマニュアルを参照してください。

既存の ASP.NET メニューを動的にする

既存の ASP.NET メニューオブジェクトを動的にすることができます。ASP.NET メニューオブジェクトには、DropDownList コントロールや ListBox コントロールなどがあります。

1 デザインビューで、動的にする DropDownList オブジェクトまたは ListBox オブジェクトを選択します。

2 プロパティインスペクタで [リスト項目] ボタンをクリックします。

3 リストに値をどのように取り込むかに応じて、[手動] または [データベースから] を選択します。

4 [手動] を選択した場合は、以下の操作を行います。

- リスト項目を追加するには、[+] ボタンをクリックし、[ラベル] テキストボックスにラベル、[値] テキストボックスに値を指定します。
- リスト項目を削除するには、リストから削除する項目を選択し、[-] ボタンをクリックします。
- リスト項目を編集するには、編集するリスト項目を選択し、[ラベル] テキストボックスに新しいラベルを指定するか、[値] テキストボックスに新しい値を指定します。
- リストが最初に表示されるときの初期設定の項目を指定するには、[同等値の選択] テキストボックスに初期設定の項目の値を入力します。

5 [データベースから] を選択した場合は、以下の操作を行います。

- リストの値のソースとなるデータセットを選択します。
- 選択したデータセットから、リスト項目のラベルのソースとなる列を指定します。
- 選択したデータセットから、リスト項目の値のソースとなる列を指定します。
- リストが最初に表示されるときの初期設定の項目を指定するには、[同等値の選択] テキストボックスに初期設定の項目の値を入力します。

関連項目

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

652 ページの「動的な ASP.NET メニューの作成」

578 ページの「既存の HTML フォームメニューを動的にする」

ASP.NET TextBox コントロールでの動的コンテンツの表示

ブラウザに ASP.NET ページが表示されるときに、ASP.NET TextBox フォームコントロールに動的コンテンツを表示できます。

作業を開始する前に、TextBox で使用する動的コンテンツのデータセットやその他のソースを定義する必要があります。

1 デザインビューで、ページ上の TextBox を選択します。

2 プロパティインスペクタの [テキスト] テキストボックスの横にある稲妻アイコンをクリックします。

[動的データ] ダイアログボックスが表示されます。

3 TextBox オブジェクトに入力される値のソースとなるレコードセットの列を選択し、[OK] をクリックします。

関連項目

578 ページの「HTML テキストフィールドでの動的コンテンツの表示」

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

ASP.NET CheckBox コントロールの動的な事前選択

CheckBox コントロールを選択するかどうかをサーバー側で判断するように設定できます。実行時には、指定した値がデータセットの値と比較されます。値が一致すると、ASP.NET ページがブラウザにロードされるときに自動的にチェックボックスがオンになります。

注意：作業を開始する前に、チェックボックスで使用する動的コンテンツのデータセットやその他のソースを定義する必要があります。コンテンツのソースに Yes/No や true/false などのブール値のデータが含まれていれば理想的です。

1 ASP.NET ページ上の CheckBox フォームコントロールを選択します。

2 プロパティインスペクタの [動的] オプションを選択します。

3 [動的チェックボックス] のオプションに情報を入力し、[OK] をクリックします。

ASP.NET の CheckBox のプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpconcheckboxwebservercontrol.asp) にあるマニュアルを参照してください。

関連項目

578 ページの「HTML チェックボックスの動的な事前選択」

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

ASP.NET の CheckBoxList コントロールの挿入

1 [挿入]-[ASP.NET オブジェクト]-[asp:CheckBoxList] を選択します。

2 [asp:RadioButtonList] ダイアログボックスで、次のようにオプションを設定します。

ID フォームコントロールに割り当てる名前を指定します。ID は必須項目です。

ツールヒント ブラウザ内でフォームコントロールの上にマウスポインタを置いたときに表示されるテキストを指定します。

データセット リストコントロールに項目を挿入するときに使用するデータソースを指定します。ここでデータセットを指定しなくても、後で指定できます。また、プロパティインスペクタの [リスト項目] ボタンをクリックして、リスト項目を静的に設定することもできます。

ラベル取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目のラベルとして使用する値を含むフィールドを指定します。

値取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目の値として使用する値を含むフィールドを指定します。

アクセスキー ユーザーがブラウザ内のフォームコントロールにすばやく移動できるようにキーボードショートカットを作成します。たとえば、ここに「K」と入力すると、ユーザーが Alt + K を押したときにフォームコントロールに移動できるようになります。アクセスキーに使用できるのは、1 つの文字のみです。

自動ポストバック ユーザーがリストの選択を変更したときにサーバーへのポストバックを自動的に実行するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、ポストバックが可能になります。

ASP.NET の CheckBoxList のプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpconcheckboxlistwebservercontrol.asp) にあるマニュアルを参照してください。

ASP.NET の RadioButtonList コントロールの挿入

1 [挿入]-[ASP.NET オブジェクト]-[asp:RadioButtonList] を選択します。

2 [asp:RadioButtonList] ダイアログボックスで、次のようにオプションを設定します。

ID フォームコントロールの名前を指定します。ID は必須項目です。

ツールヒント ブラウザ内でフォームコントロールの上にマウスポインタを置いたときに表示されるテキストを指定します。

データセット リストコントロールに項目を挿入するときに使用するデータソースを指定します。ここでデータセットを指定しなくても、後で指定できます。また、プロパティインスペクタの [リスト項目] ボタンをクリックして、リスト項目を静的に設定することもできます。

ラベル取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目のラベルとして使用する値を含むフィールドを指定します。

値取得元 選択したデータセット内のフィールドのうち、リスト項目の値として使用する値を含むフィールドを指定します。

同等値の選択 ラジオボタンリストがブラウザに表示されたときに、どのリスト項目が選択されたかを判断するためにサーバーで使用する値を指定します。ここで指定した値とそれぞれの項目の値がサーバーで比較されます。値が一致すると、その一致した項目が選択されます。

アクセスキー ユーザーがブラウザ内のフォームコントロールにすばやく移動できるようにキーボードショートカットを作成します。たとえば、ここに「K」と入力すると、ユーザーが Alt + K を押したときにフォームコントロールに移動できるようになります。アクセスキーに使用できるのは、1 つの文字のみです。

自動ポストバック ユーザーがリストの選択を変更したときにサーバーへのポストバックを自動的に実行するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、ポストバックが可能になります。

ASP.NET の RadioButtonList のプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpconradiobuttonlistwebservercontrol.asp) にあるマニュアルを参照してください。

ASP.NET RadioButtonList コントロールの項目の事前選択

ブラウザに ASP.NET ページがロードされるときに、RadioButtonList コントロールのラジオボタンをオンにするかどうかをサーバー側で判断するように設定できます。

注意：作業を開始する前に、ページに ASP.NET RadioButtonList コントロールを挿入しておく必要があります。また、ラジオボタンで使用する動的コンテンツのデータセットやその他のソースも定義する必要があります。コンテンツのソースに Yes/No や true/false などのブール値のデータが含まれていれば理想的です。

1 デザインビューで、RadioButtonList コントロールを選択します。

2 プロパティインスペクタの [リスト項目] をクリックします。

3 [データベースから] オプションを選択し、以下のオプションを設定します。

関連項目

579 ページの「HTML ラジオボタンの動的な事前選択」

519 ページの「動的コンテンツのソースの定義」

ASP.NET RadioButton コントロールの事前選択

グループ内で選択するラジオボタンをサーバーで判断するように設定できます。実行時には、指定したそれぞれのチェック済み値がデータセットの値と比較されます。値が一致すると、該当するラジオボタンが選択されます。

ASP.NET の RadioButton のプロパティの詳細については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpconradiobuttonwebservercontrol.asp) にあるマニュアルを参照してください。

❖ プロパティインスペクタの [動的] オプションを選択し、[動的ラジオボタングループ] のオプションを設定します。

ASP.NET データグリッド Web コントロールおよびデータリスト Web コントロールの作成

ASP.NET データグリッドコントロールとデータリストコントロールの比較

ASP.NET データグリッドコントロールおよびデータリストコントロールには、さまざまなデータタイプ (特に、データベースの動的コンテンツ) を表示するオプションが多数用意されており、データソースをこれらのコントロールに簡単にバインドできるようになっています。Dreamweaver では、データグリッドコントロールとデータリストコントロールの両方をサーバービヘイビアとしてサポートしています。これらのコントロールには、次の機能があります。

データグリッド 複数列のデータバインドグリッドを作成します。このコントロールを使用すると、さまざまなタイプの列を定義することができ、グリッドのコンテンツのレイアウトと特定の機能 (編集ボタン列、ハイパーリンク列など) の追加の両方が可能です。

データリスト テンプレートを使用して、データソースからアイテムを表示します。さまざまなコンポーネントを構成するテンプレートを操作することにより、コントロールの外観をカスタマイズできます。

ASP.NET のデータグリッド Web コントロールについて

Dreamweaver のデータグリッドを使用すると、ASP.NET データグリッド Web コントロールを挿入できます。データグリッドコントロールでは、テーブルは複数列のグリッドとして描画されるので、セルコンテンツのレイアウトを定義する際に、さまざまなタイプの列 (種類の異なる列) を選択することができます。列のタイプには、バインド列、ボタン列、テンプレート列などがあります。さらに、データグリッドは、列のソート、編集、およびコマンドなどのインタラクティブな機能にも対応しています。次の表は、データグリッドで使用できる列のタイプを示しています。

データグリッド列のタイプ	説明
標準データフィールド	標準データフィールド列は、ASP.NET では " バインド列 " と呼ばれます。この列では、表示するデータソースフィールド、および .NET フォーマット式で使用するフィールドのデータフォーマットを指定できます。
フリーフォーム	フリーフォーム列は、ASP.NET では " テンプレート列 " と呼ばれます。この列を使用すると、HTML テキストとサーバーコントロールを組み合わせて、列のカスタムレイアウトをデザインできます。フリーフォーム列内のコントロールでは、データをバインドできます。フリーフォーム列を使用すると、データの表示方法およびユーザーがグリッド内の行を操作した場合の動作を完全に制御できるため、グリッドコンテンツのレイアウトおよび機能を柔軟に定義できます。

データグリッド列のタイプ	説明
ハイパーリンク	ハイパーリンク列では、情報がハイパーテキストリンクとして表示されます。通常は、データ (顧客番号や製品名など) をハイパーリンクとして表示するために使用します。ユーザーは、このハイパーリンクをクリックするだけで、そのアイテムの詳細が表示された別のページに移動できます。
[編集]、[更新]、[キャンセル] ボタン	[編集]、[更新]、[キャンセル] ボタン列は、ASP.NET では " 編集コマンド " 列と呼ばれます。これを使用して、データグリッド行内で情報の埋め込み編集を実行できます。この編集を行うには、編集、更新、キャンセル列を作成します。この列には、実行時に " 編集 " というラベルの付いたボタンが表示されます。ユーザーが [編集] ボタンをクリックすると、行データがテキストボックスなどの編集可能コントロールに表示され、[編集] ボタンは [更新] ボタンおよび [キャンセル] ボタンに置き換えられます。
[削除] ボタン	[削除] ボタン列を使用すると、ボタンをクリックして特定の行を削除できます。

[データグリッド] サーバービヘイビアを使用する前に、データグリッド用のデータセット (他のドキュメントタイプではレコードセットと呼ばれます) を定義する必要があります。

データグリッドコントロールの詳細、およびそれを使用して動的データをフォーマットする方法については、Microsoft の Web サイト (http://msdn.microsoft.com/library/en-us/cpgenref/html/cpcondatagridwebservercontrol.asp) を参照してください。

関連項目

515 ページの「レコードセットについて」

ページへの ASP.NET データグリッドコントロールの追加

データグリッドコントロールでは、テーブルとして描画される複数列のグリッドで動的データのフォーマットと表示ができます。

注意 : [データグリッド] サーバービヘイビアを挿入する前に、データグリッド用のデータセット (他のドキュメントタイプではレコードセットと呼ばれます) を定義する必要があります。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) を開いて [+] ボタンをクリックし、[データグリッド] を選択します。

2 データグリッドコントロールの ID 属性 (またはラベル) を選択します。

このフィールドには、あらかじめ値が入力されています。データグリッドの値は変更可能ですが、フィールドの値を既存の ID の値に設定している場合は、新規の属性値を入力する必要があります。

3 データグリッドと関連付けるデータセットを選択します。

データグリッドでは、このデータセットから情報を取得します。グリッド列の一覧には、選択したデータセット内のすべてのフィールドのバインド列が自動的に挿入されます。

4 表示するレコード数を指定します。

5 実装するページナビゲーションリンクのタイプを選択します。

- [前および次のページにリンク] を選択すると、[次へ] リンクおよび [戻る] リンクが追加されます。
- [すべてのページへの番号付きリンク] を選択すると、ページ番号リンク ("1 2 3 4 5 **n**..." など) が追加されます。

6 必要のないグリッド列を削除するには、グリッド列の一覧でその列を選択し、[-] ボタンをクリックします。

7 残りのグリッド列を編集するには、グリッド列の一覧で列を選択し、その列のプロパティを設定します。

データグリッド列のタイプを変更するには、[編集] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから列のタイプを選択します。選択した列のタイプに固有のダイアログボックスが表示されます。選択したデータグリッド列のコンテンツとフォーマットを指定します。次の表は、列のタイプのリストです。

データグリッド列のタイプ	説明
標準データフィールド	標準データフィールド列は、ASP.NET では " バインド列 " と呼ばれます。この列では、表示するデータソースフィールド、および .NET フォーマット式で使用するフィールドのデータフォーマットを指定できます。詳細については、660 ページの「データグリッド内のデータソースフィールドの指定とフォーマット」を参照してください。
フリーフォーム	フリーフォーム列は、ASP.NET では " テンプレート列 " と呼ばれます。フリーフォーム列を使用すると、HTML テキストとサーバーコントロールを組み合わせて、列のカスタムレイアウトをデザインできます。フリーフォーム列内のコントロールでは、データをバインドできます。フリーフォーム列を使用すると、データの表示方法およびユーザーがグリッド内の行を操作した場合の動作を完全に制御できるため、グリッドコンテンツのレイアウトおよび機能を自由に定義できます。詳細については、660 ページの「フリーフォームデータグリッド列のカスタムレイアウトのデザイン」を参照してください。
ハイパーリンク	ハイパーリンク列では、情報がハイパーリンクとして表示されます。通常は、データ (顧客番号や製品名など) をハイパーリンクとして表示するために使用します。ユーザーは、このハイパーリンクをクリックするだけで、そのアイテムの詳細が表示された別のページに移動できます。詳細については、660 ページの「データグリッドへのハイパーリンクとしてのデータ表示」を参照してください。
[編集]、[更新]、[キャンセル] ボタン	[編集]、[更新]、[キャンセル] ボタン列は、ASP.NET では " 編集コマンド " 列と呼ばれます。これを使用して、データグリッド行内で情報の埋め込み編集を実行できます。この編集を行うには、編集、更新、キャンセルボタン列を作成します。この列には、実行時に " 編集 " というラベルの付いたボタンが表示されます。ユーザーが [編集] ボタンをクリックすると、行データがテキストフィールドなどの編集可能コントロールに表示され、[編集] ボタンは [更新] ボタンおよび [キャンセル] ボタンに置き換えられます。詳細については、661 ページの「データグリッド行で編集を可能にする」を参照してください。
[削除] ボタン	[削除] ボタン列を使用すると、ボタンをクリックして特定の行を削除できます。詳細については、661 ページの「データグリッド内で行の削除を可能にする」を参照してください。

8 変更する各列について、前の手順を繰り返します。

9 データグリッド内の列の順序を変更するには、グリッド列の一覧内の列を選択し、上または下向き矢印をクリックして、データグリッド内で列を左または右に移動します。

ドキュメントウィンドウでは、データグリッドがグレーの枠線で囲まれ、タブ付きで表示されます。[ライブデータ] ウィンドウ ([表示]-[ライブデータ]) では、グレーの枠線が消え、オブジェクトのプレースホルダーが指定されたデータグリッドで置き換えられます。

ページへの ASP.NET データリストコントロールの追加

Dreamweaver の [データリスト] サーバービヘイビアを使用して、ASP.NET データリストオブジェクトをページに挿入することができます。このオブジェクトは、ASP.NET ドキュメントタイプでのみ使用可能です。

注意： [データリスト] サーバービヘイビアを挿入する前に、データリスト用のデータセット (他のドキュメントタイプではレコードセットと呼ばれます) を定義する必要があります。

1 [サーバービヘイビア] パネル ([ウィンドウ]-[サーバービヘイビア]) を開いて [+] ボタンをクリックし、[データリスト] を選択します。

2 (オプション) データリストの初期設定の名前を変更します。

3 データセットをデータリストに関連付けます。

既存のデータセットを選択するか、または任意の値を入力することができます。初期設定では、リスト内の最初のデータセットが選択されます。

4 以下の操作を順番に実行してデータリストに表示するデータを指定します。

a [テンプレート] リストで [項目] テンプレートを選択します。[項目] テンプレートは、ヘッダーおよびフッター行以外のリスト内のすべての行を表します。

b[コンテンツにデータフィールドを追加] ボタンをクリックします。

c[データフィールドの追加] ダイアログボックスでデータセット列を選択し、[OK] をクリックします。適切なデータバインディング式が [データリスト] ダイアログボックス内の [コンテンツ] ボックスに追加されます。

d[コンテンツ] ボックス内でバインディング式を HTML タグで囲み、表示するデータをフォーマットします。

5 必要に応じて、データリストのレイアウトを調整します。

[テンプレート] リスト内のテンプレートから選択し、[コンテンツ] テキストボックスに HTML タグを追加して、データリストのレイアウトを決めます。次の表は、使用できるテンプレートのリストです。

テンプレート	説明
ヘッダー	リストの先頭に表示するテキストとコントロール。
項目	データソース内の各行に 1 回表示する HTML エレメントおよびコントロール。
代替項目	項目テンプレートエレメントに似ていますが、データリスト内で 1 行おきに表示される点で異なります。このテンプレートは、通常、背景色を項目テンプレートと異なる色にするなど、異なる外観にする場合に使用します。
編集項目	編集モードのときの項目のレイアウト。このテンプレートには、通常、テキストボックスコントロールなどの編集コントロールが含まれています。
選択した項目	ユーザーがデータリストで項目を選択したときに表示されるエレメント。通常は、背景色またはフォント色を使用して、行に視覚的なマークを付けます。さらに、データソースから追加フィールドを表示することにより項目を展開することもできます。
区切り	各項目の間に表示するエレメント。代表的な例としては罫線があります (<HR> エレメントを使用する)。
フッター	リストの末尾に表示するテキストとコントロール。

6 テーブル内の項目を編成するには、[テーブル形式で編成] オプションをオンにします。

テーブルを使用する場合は、テーブル内の列の数を指定します。この数値が 1 よりも大きい場合は、テーブルセルの入力順序を指定します。[上から下へ折り返す] オプションをオンにしてデータを横方向で折り返すか、または [左から右に折り返し] をオンにしてデータを縦方向で折り返します。

7 [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じると、データリストが作成されます。

ドキュメントウィンドウでは、データリストオブジェクトがグレーの枠線で囲まれ、タブ付きで表示されます。[ライブデータ] ウィンドウ ([表示]-[ライブデータ]) では、グレーの枠線が消え、オブジェクトのプレースホルダーが指定されたデータリストで置き換えられます。

ASP.NET データグリッドコントロールまたはデータリストコントロールの修正

データグリッドコントロールおよびデータリストコントロールは、ページデザインに適するようにいつでも修正できます。

- デザインビューのデータグリッドまたはデータリストの左上隅のアイコンをクリックして編集モードに切り替え、表示されるタブ付き領域の内容を追加または修正します。

注意：[バインディング] パネルから動的コンテンツのソースをタブ付き領域にドラッグすることもできます。

- デザインビューでコントロールを選択し、プロパティインスペクタを使用してオプションを変更します。
- [サーバービヘイビア] パネルでオブジェクトをダブルクリックし、開いたダイアログボックスでプロパティを変更します。
- コードビューで、そのページのデータグリッドまたはデータリストを選択し、タグダイアログを使用してその属性を変更します。

データグリッド内のデータソースフィールドの指定とフォーマット

データグリッドを作成または編集する場合、標準データフィールド列 (ASP.NET ではバインド列と呼ばれる) を使用して、表示するデータソースフィールド、および .NET フォーマット式で使用するフィールドのデータフォーマットを指定します。

1 [データグリッド] ダイアログボックスで、グリッド列の一覧から [標準データフィールド] 列を選択します。

2 [標準データフィールド] ダイアログボックスで、グリッドのヘッダー行またはフッター行のタイトルを入力します データグリッドに対するヘッダー行やフッター行の表示は、データグリッドのプロパティインスペクタで制御します。

3 [データフィールド] ポップアップメニューから、データグリッド列に挿入するためのデータセット列を選択します。

4 [読み取り専用] オプションを選択すると、データグリッドでは追加、更新、または削除権限が無効になります。

5 [送信形式] ポップアップメニューからデータタイプを選択し、[OK] をクリックします。

関連項目

657 ページの「ページへの ASP.NET データグリッドコントロールの追加」

659 ページの「ASP.NET データグリッドコントロールまたはデータリストコントロールの修正」

フリーフォームデータグリッド列のカスタムレイアウトのデザイン

データグリッドを作成または編集する場合、フリーフォームオプション (ASP.NET ではテンプレート列と呼ばれる) を使用して HTML テキストとサーバーコントロールを組み合わせ、列のカスタムレイアウトをデザインします。フリーフォーム列内のコントロールでは、データをバインドできます。フリーフォーム列を使用すると、データの表示方法およびユーザーがグリッド内の行を操作した場合の動作を完全に制御できるため、グリッドコンテンツのレイアウトおよび機能を自由に定義できます。

1 [データグリッド] ダイアログボックスで、グリッド列の一覧から [フリーフォーム] 列を選択します。

2 [フリーフォーム] ダイアログボックスで、グリッドのヘッダー行またはフッター行のタイトルを入力します データグリッドに対するヘッダー行やフッター行の表示は、データグリッドのプロパティインスペクタで制御します。

3 [テンプレート] ポップアップメニューから、フリーフォームデータグリッドで使用するテンプレートを選択します。

4 [データフィールドの追加] ボタンをクリックし、グリッド列に挿入するデータセット列を選択して [OK] をクリックします。

適切なデータバインディング式が [コンテンツ] テキストボックスに表示されます。

5 [コンテンツ] テキストボックス内でバインディング式を HTML タグで囲み、フリーフォーム列をフォーマットします。

6 [送信形式] ポップアップメニューからデータタイプを選択し、[OK] をクリックします。

関連項目

657 ページの「ページへの ASP.NET データグリッドコントロールの追加」

659 ページの「ASP.NET データグリッドコントロールまたはデータリストコントロールの修正」

データグリッドへのハイパーリンクとしてのデータ表示

データグリッドを作成または編集する場合、ハイパーリンク列を使用すると、情報をハイパーリンクとして表示できます。通常は、データ (顧客番号や製品名など) をハイパーリンクとして表示するために使用します。ユーザーは、このハイパーリンクをクリックするだけで、そのアイテムの詳細が表示された別のページに移動できます。

1 [データグリッド] ダイアログボックスで、グリッド列の一覧から [ハイパーリンク] 列を選択します。

2 [ハイパーリンクの列] ダイアログボックスで、列のタイトルを入力します。

3 [ハイパーリンクテキスト] セクションで、[静的テキスト] オプションまたは [データフィールド] オプションをオンにします。

- [静的テキスト] をオンにした場合は、ハイパーリンクのテキストを入力します。
- [データフィールド] をオンにした場合は、データセット列を選択してハイパーリンクテキストを指定します。

4 [リンクされたページ] セクションで、[静的 URL] オプションまたは [データフィールド] オプションをオンにします。

- [静的 URL] をオンにした場合は、目的とするページの URL を入力するか、または目的とするページを参照して選択します。
- [データフィールド] をオンにした場合は、データセット列を選択して URL を指定します。

5 [データフィールド] オプションを使用してハイパーリンクを作成している場合は、[フォーマット文字列] テキストボックスでハイパーリンクテキストのフォーマット式を指定します。フォーマット式の詳細については、該当する ASP.NET マニュアルでデータグリッドの String.Format メソッドに関する記述を参照してください。

6 [OK] をクリックします。

関連項目

657 ページの「ページへの ASP.NET データグリッドコントロールの追加」

659 ページの「ASP.NET データグリッドコントロールまたはデータリストコントロールの修正」

データグリッド行で編集を可能にする

データグリッドを作成または編集する場合、[編集]、[更新]、[キャンセル] ボタン列 (ASP.NET では " コマンドの編集列 " と呼ばれる) を使用すると、データグリッド行内の情報の埋め込み編集ができます。この列には、実行時に " 編集 " というラベルの付いたボタンが表示されます。ユーザーが [編集] ボタンをクリックすると、行データがテキストボックスなどの編集可能コントロールに表示され、[編集] ボタンは [更新] ボタンおよび [キャンセル] ボタンに置き換えられます。

1 [データグリッド] ダイアログボックスで、グリッド列の一覧から [編集]、[更新]、[キャンセル] ボタン列を選択します。

2 [[編集]、[更新]、[キャンセル] ボタン] ダイアログボックスで、列のタイトルを入力します。

3 [ボタンタイプ] ポップアップメニューから、リンクボタンまたはプッシュボタンを選択します。

この列には、実行時に " 編集 " というラベルの付いたボタンが表示されます。リンクボタンにはボタン用のテキストリンクが使用され、プッシュボタンにはイメージが使用されます。

4 [更新するテーブル] ポップアップメニューから、データを修正するデータベーステーブルを選択します。

5 [プライマリキー] ポップアップメニューから、テーブルと関連付けられているプライマリキーを選択します。

6 [送信形式] ポップアップメニューからデータタイプを選択し、[OK] をクリックします。

関連項目

657 ページの「ページへの ASP.NET データグリッドコントロールの追加」

659 ページの「ASP.NET データグリッドコントロールまたはデータリストコントロールの修正」

データグリッド内で行の削除を可能にする

データグリッドを作成または編集する場合、[削除] ボタン (ASP.NET ではボタン列と呼ばれる) を使用すると、ボタンをクリックすることで特定の行を削除できます。

1 [データグリッド] ダイアログボックスで、グリッド列の一覧から [削除ボタン] 列を選択します。

2 [ボタンの削除] ダイアログボックスで、列の名前を入力します。

3 [ボタンタイプ] ポップアップメニューから、リンクボタンまたはプッシュボタンのいずれかを選択します。

この列は、実行時に " 削除 " というラベルの付いたボタンを表示します。リンクボタンにはボタン用のテキストリンクが使用され、プッシュボタンにはイメージが使用されます。

4 [テーブルから削除] ポップアップメニューから、データを削除するデータベーステーブルを選択します。

5 [プライマリキー] ポップアップメニューから、テーブルと関連付けられているプライマリキーを選択します。

6 [送信形式] ポップアップメニューからデータタイプを選択し、[OK] をクリックします。

関連項目

657 ページの「ページへの ASP.NET データグリッドコントロールの追加」

659 ページの「ASP.NET データグリッドコントロールまたはデータリストコントロールの修正」

第 22 章：タスクの自動化

[ヒストリ] パネルに記録されたステップを繰り返すか、または、コマンドとして一連のステップを保存すると、タスクを自動化することができます。頻繁に実行されるタスクを自動化すると、時間と労力を節約することができます。

タスクの自動化

タスクの自動化

タスクを完了すると、実行したステップが [ヒストリ] パネルに記録されます。これらのステップを [ヒストリ] パネルから再実行するか、ステップを自動的に実行する新しいコマンドを作成して、頻繁に実行されるタスクを自動化します。

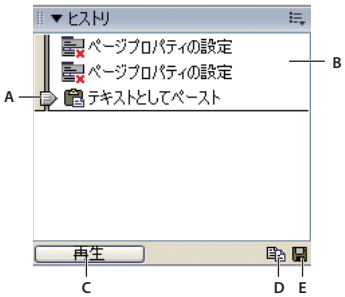
ドキュメントウィンドウでクリックして行う選択操作など、一部のマウス操作は、再生したり保存したりすることができません。このようなマウス操作を実行すると、[ヒストリ] パネルに黒線が表示されます。この黒線は、別のアクションを実行するまで実際には表示されません。これを避けるためには、マウスの代わりに矢印キーを使用して、ドキュメントウィンドウ内の挿入ポイントを移動します。

この他にも、ページエレメントをそのページ内の他の場所にドラッグするなど、繰り返すことができないステップがあります。このようなステップを実行すると、小さな赤い **X** の付いたアイコンが [ヒストリ] パネルに表示されます。

保存したコマンドは、削除しない限り永久に保持されます。一方、記録されたコマンドは、Adobe® Dreamweaver® CS3 の終了時に消去され、コピーされた一連のステップは、他のものをコピーしたときに消去されます。

[ヒストリ] パネルの使用

[ヒストリ] パネル ([ウィンドウ]-[ヒストリ]) には、そのドキュメントを作成または開いてからの、アクティブなドキュメントで実行したすべてのステップの一覧が表示されます。ただし、他のフレーム、他のドキュメントウィンドウ、または [サイト] パネルで実行したステップは含まれません。[ヒストリ] パネルを使用すると、複数のステップを一度に取り消して元に戻したり、タスクを自動化することができます。



A. スライダ (つまみ) **B.** ステップ **C.** 再生ボタン **[ステップのコピー] ボタン E.** [選択したステップをコマンドとして保存] ボタン

[ヒストリ] パネルのスライダは、直前に実行したステップを示しています。

注意： [ヒストリ] パネルのステップの順序を変更することはできません。[ヒストリ] パネルは、任意のコマンドを集めたものではなく、実行した順にステップを表示するものです。

直前のステップを取り消して元に戻す

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [編集]-[取り消し] を選択します。
- [ヒストリ] パネルのスライダを、リストの一段上にドラッグします。

注意：特定のステップに自動的にスクロールするには、ステップの左側をクリックします。ステップそのものをクリックすると、そのステップが選択されます。ステップの選択は、取り消しヒストリでそのステップに戻る操作とは異なります。

複数のステップを一度で取り消す

❖ スライダをドラッグして任意のステップを示すか、スライダのレールに沿ってステップの左側をクリックします。

スライダが自動的にそのステップにスクロールされ、ステップが取り消されます。

注意：単一のステップを元に戻すのと同様に、ドキュメントの中で一連のステップを取り消し、別の操作を行った場合は、取り消したステップは [ヒストリ] パネルから消去されるため、再実行することができません。

[ヒストリ] パネルに表示されるステップ数の設定

ステップ数の初期設定は、ほとんどのユーザーに適した設定である必要があります。数値が高いほど、[ヒストリ] パネルに必要なメモリ容量は大きくなります。それによって、パフォーマンスに影響し、コンピュータの処理速度が著しく低下する場合があります。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストで [一般] を選択します。

3 [ヒストリステップの最大数] の数を入力します。

[ヒストリ] パネルのステップの数が最大に達したら、最初のステップが除去されます。

現在のドキュメントのヒストリー覧の消去

❖ [ヒストリ] パネルのコンテキストメニューから、[ヒストリの消去] を選択します。

このコマンドによって、現在のドキュメントの取り消し情報がすべてクリアされます。[ヒストリの消去] を選択したら、クリアしたステップを元に戻すことはできません。[ヒストリの消去] では、ステップを取り消すことはできません。メモリから、これらのステップの記録が削除されるだけです。

ステップの繰り返し

[ヒストリ] パネルを使用すると、直前に実行したステップ、一連の連続するステップ、連続しないステップを繰り返すことができます。[ヒストリ] パネルで、直接、ステップを再実行します。

1 つのステップの繰り返し

❖ 次のいずれかの操作を実行します。

- [編集]-[やり直し] を選択します。
- [ヒストリ] パネルで、ステップを選択して [再生] ボタンをクリックします。選択したステップが再生され、そのコピーが [ヒストリ] パネルに表示されます。

一連のステップの繰り返し

1 [ヒストリ] パネルで、ステップを選択します。

- 連続ステップを選択するには、1 つのステップから別のステップまでドラッグします。スライダをドラッグするのではなく、1 つのステップのテキストラベルから別のステップのテキストラベルまでドラッグしてください。または、最初のステップを選択して、次に Shift キーを押しながら最後のステップをクリックします。
- 連続しないステップを選択するには、ステップを 1 つ選択して、次に Ctrl キー (Windows) または Command キー (Macintosh) を押しながらその他のステップをクリックし、他のステップを選択するか、その選択を解除します。

再生されるステップは、選択 (ハイライト表示) されているステップです。スライダが現在指しているステップであるとは限りません。

注意：記録することができないステップであることを示す黒のインジケータラインが表示されるマウス操作を含む一連のステップを選択することができますが、そのマウス操作はステップの再生時には省略されます。

2 [再生] をクリックします。

ステップは順番に再生され、[ステップの再生] という新しいステップが [ヒストリ] パネルに表示されます。

選択範囲の作成または拡張

❖ Shift キーを押しながら矢印キーを押します。

後で繰り返すことにしているタスクの実行中に、マウス操作による黒いインジケータラインが表示された場合は、そのステップを取り消して、矢印キーを使うなど別の方法を試すことができます。

オブジェクトへのヒストリのステップの適用

[ヒストリ] パネルに表示されている一連のステップを、ドキュメントウィンドウ内の任意のオブジェクトに適用できます。

複数のオブジェクトを選択して [ヒストリ] パネルからステップを適用する場合、これらのオブジェクトは単一の選択範囲として扱われます。つまり、Dreamweaver では結合された 1 つの選択範囲にステップが適用されます。ただし、一連のステップは、一度に 1 つのオブジェクトに対してのみ適用できます。

ステップをオブジェクトセットの各オブジェクトに適用するには、一連の最後のステップで、オブジェクトセット内の次のオブジェクトを選択する必要があります。2 つ目の具体例でステップを説明します。ここでは、一連のイメージの垂直方向および水平方向の間隔を設定します。

他の 1 つのオブジェクトへのステップの適用

1 オブジェクトを選択します。

2 [ヒストリ] パネルで関連するステップを選択して、[再生] をクリックします。

複数のオブジェクトへのステップの適用

1 ドキュメントの各行に、グラフィックブレットやアイコンなどの小さなイメージとそれに続くテキストがあるものとします。

このイメージが、テキストおよび上下にある他のイメージから離れて表示されるようにします。

2 プロパティインスペクタが開いていない場合は、[ウィンドウ]-[プロパティ] を選択して開きます。

3 最初のイメージを選択します。

4 プロパティインスペクタで、[縦間隔] および [横間隔] の各ボックスに数値を入力して、イメージの間隔を設定します。

5 イメージをもう一度クリックして、挿入ポイントを移動せずにドキュメントウィンドウをアクティブにします。

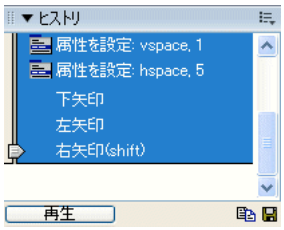
6 左矢印キーを押して、挿入ポイントをイメージの左に移動します。

7 下矢印キーを押して、挿入ポイントを 1 行下に移動し、2 番目のイメージのすぐ左に置きます。

8 Shift キーを押しながら右矢印キーを押して、2 番目のイメージを選択します。

注意： クリックしてイメージを選択しないでください。クリックすると、すべてのステップを再生できなくなります。

9 [ヒストリ] パネルで、イメージの間隔を変更して次のイメージを選択するという、一連のステップを選択します。[再生] をクリックして、これらのステップを再生します。



現在のイメージの間隔が変更されて、次のイメージが選択されます。

Locations

Special Offers

Customer Service

10 すべてのイメージの間隔が適切に設定されるまで、続けて [再生] をクリックします。

ドキュメント間でのステップのコピー & ペースト

開いているドキュメントには、それぞれ固有のヒストリステップがあります。1 つのドキュメントから別のドキュメントに、ステップをコピーしてペーストできます。

ドキュメントを閉じると、そのヒストリがクリアされます。後でそのドキュメントのステップを使用する場合は、ドキュメントを閉じる前にステップをコピーまたは保存しておきます。

1 再使用するステップが含まれるドキュメントで、[ヒストリ] パネルからステップを選択します。

2 [ヒストリ] パネルで、[ステップのコピー] を選択します。

注意： [ヒストリ] パネルの [選択したステップをクリップボードにコピー] ボタンは、[編集] メニューの [コピー] コマンドとは異なります。[編集]-[コピー] を使用してステップをコピーすることはできませんが、[編集]-[ペースト] を使用してステップをペーストすることはできます。

[コピー] コマンドまたは [ペースト] コマンドが含まれているステップをコピーするときは、注意が必要です。

- コピーするステップの 1 つが [コピー] コマンドである場合は、[ステップのコピー] は使用しないでください。そのようなステップは正しくペーストできません。
- コピーするステップに [ペースト] コマンドが含まれる場合は、その [ペースト] コマンドの前に [コピー] コマンドがある場合を除き、ステップをペーストすることはできません。

3 他方のドキュメントを開きます。

4 ステップを実行する位置に挿入ポイントを置くか、ステップを適用するオブジェクトを選択します。

5 [編集]-[ペースト] を選択します。

ドキュメントの [ヒストリ] パネルにステップをペーストすると、再生されます。[ヒストリ] パネルには、これらのステップは、[ステップのペースト] という 1 つのステップとして表示されます。

ステップをテキストエディタ、コードビュー、またはコードインスペクタにペーストすると、ステップは JavaScript コードとして表示されます。これは、自分でスクリプトを書く方法を習得したい場合に役立ちます。

関連項目

299 ページの「コードの記述と編集」

ヒストリステップからのコマンドの作成と使用

一連のヒストリステップに名前を付けて 1 つのコマンドとして保存することができます。このコマンドは、[コマンド] メニューから使用できるようになります。一連のステップを再使用する場合、特に次に Dreamweaver を起動する場合は、新規コマンドを作成し、保存します。

コマンドの作成

1 [ヒストリ] パネルで、1 つのステップ、または一連のステップを選択します。

2 [コマンドとして保存] ボタンをクリックするか、[ヒストリ] パネルのコンテキストメニューから [コマンドとして保存] を選択します。

3 コマンドの名前を入力して、[OK] をクリックします。

コマンドが、[コマンド] メニューに表示されます。

注意：コマンドは、JavaScript ファイル、または場合によっては HTML ファイルとして、"Dreamweaver¥Configuration¥Commands" フォルダに保存されます。Dreamweaver をマルチユーザーオペレーティングシステムで使用している場合、ファイルは特定のユーザーの "Commands" フォルダに保存されます。

保存したコマンドの使用

1 コマンドを適用するオブジェクトを選択するか、コマンドを適用する位置に挿入ポイントを置きます。

2 [コマンド] メニューからコマンドを選択します。

コマンド名の編集

1 [コマンド]-[コマンドリストの編集] を選択します。

2 名前を変更するコマンドを選択し、新しい名前を入力して、[閉じる] をクリックします。

[コマンド] メニューからの名前の削除

1 [コマンド]-[コマンドリストの編集] を選択します。

2 コマンドを選択します。

3 [削除] をクリックして、[閉じる] をクリックします。

コマンドの記録と保存

短期間使用するコマンドを一時的に記録するか、後で使用するコマンドを記録および保存します。Dreamweaver では、記録されたコマンドは、一度に 1 つしか保持されません。記録前に保存しない限り、新しいコマンドの記録を開始すると、古いコマンドは失われます。

一連のステップの一時的な記録

1 [コマンド]-[記録開始] を選択するか、Ctrl+Shift+X (Windows) または Command+Shift+X (Macintosh) を押します。

ポインタが変化し、コマンドの記録中であることを示します。

2 記録が完了したら、[コマンド]-[記録停止] を選択するか、Ctrl+Shift+X (Windows) または Command+Shift+X (Macintosh) を押します。

記録したコマンドの再生

❖ [コマンド]-[記録済みコマンドの再生] を選択するか、Ctrl+Shift+R (Windows) または Command+Shift+R (Macintosh) を押します。

記録したコマンドの保存

1 [コマンド]-[記録済みコマンドの再生] を選択します。

2 [ヒストリ] パネルのステップリストに表示される [起動コマンド] ステップを選択して、[選択したステップをコマンドとして保存] ボタンをクリックします。

3 コマンドの名前を入力して、[OK] をクリックします。

コマンドが、[コマンド] メニューに表示されます。

第 23 章：アクセシビリティ

Adobe® Dreamweaver® CS3 は、アクセシビリティの高い Web ページのデザインおよび開発を可能にする多くの機能を備えています。また、アプリケーション自体も、障害を持つ人々にとって利用しやすくなっています。

Dreamweaver とアクセシビリティ

アクセシビリティの高いコンテンツ

アクセシビリティとは、視覚、聴覚、動作などに障害を持つ人々を配慮した Web サイトおよび Web 製品を作成することです。ソフトウェア製品および Web サイトのアクセシビリティ機能とは、たとえば、スクリーンリーダーのサポート、グラフィックのテキスト表示、キーボードショートカット、表示カラーのハイコントラストへの切り替えなどの機能です。Dreamweaver には、アクセシビリティの高い Web 製品や Web コンテンツを作成およびオーサリングするためのツールが用意されています。

アクセシビリティ機能を使用する必要がある Dreamweaver デベロッパー向けとして、アプリケーションには、スクリーンリーダー、キーボードによる操作、およびオペレーティングシステムのアクセシビリティ機能が用意されています。

アクセシビリティの高い Web コンテンツを作成する Web デザイナーは、Dreamweaver を使用すると、スクリーンリーダーに対応した支援コンテンツを含むアクセシビリティの高い Web ページや、政府のガイドラインに従った Web ページを作成できます。たとえば、ページエレメントの挿入時に、イメージのテキスト表示など、アクセシビリティ属性の入力を求めるダイアログボックスがあります。次に、このイメージが視覚障害者向けのページに表示されると、スクリーンリーダーによってその説明が読み上げられます。

Dreamweaver には、アクセシビリティを考慮してデザインされたサンプルページと、作成したページやサイトが第 508 条のアクセシビリティガイドラインに従っているかどうかを調べるときに実行するアクセシビリティレポートも用意されています。

注意：詳細については、World Wide Web Consortium の Web Accessibility Initiative (www.w3.org/wai) と米国リハビリテーション法の第 508 条 (www.section508.gov) を参照してください。

オーサリングツールで、開発プロセスを自動化することはできません。アクセシビリティの高い Web サイトをデザインするには、アクセシビリティの必要条件を理解し、そのような Web サイトを作成する過程でさまざまな判断を下す必要があります。デザイナーは、障害を持つビジターが Web ページをどのように閲覧し、操作するかということを考える必要があります。だれにでもアクセス可能な Web サイトを作成するには、入念な計画立案、開発、テスト、および評価を実施することが最良の方法です。

Dreamweaver のアクセシビリティ検査機能

Dreamweaver のアクセシビリティ検査機能には、UsableNet 社の技術が利用されています。UsableNet 社は、操作性とアクセシビリティのテストおよび修復を自動化する使いやすいソフトウェアを開発している業界大手です。さらに、別のツールによるアクセシビリティ検査テストを希望する場合は、UsableNet LIFT for Macromedia Dreamweaver を使用してください。UsableNet LIFT for Macromedia Dreamweaver は、利用しやすいアクセシブルな Web サイトを開発するためのソリューションです。UsableNet LIFT for Macromedia Dreamweaver には、複雑なテーブルやフォーム、イメージを修正するウィザード、グローバル ALT エディタ、カスタマイズ可能なレポート機能、およびページを作成しながら確実にアクセシブルなコンテンツを作成できる、新しいアクティブ監視モード機能が備えられています。LIFT for Macromedia Dreamweaver のデモ版は、www.usablenet.com から入手できます。

Dreamweaver アクセシビリティ機能

Dreamweaver でのスクリーンリーダーの使用

スクリーンリーダーは、コンピュータの画面に表示されるテキストを読み上げる機能です。また、コンテンツの作成時にアクセシビリティタグや属性が設定されている場合は、アプリケーション内のボタンのラベルやイメージの説明など、テキストでない情報も読み上げます。

Dreamweaver を使用して Web ページを作成している最中にも、スクリーンリーダーを使いながら作成すると、作業しやすくなります。スクリーンリーダーは、ドキュメントウィンドウの左上隅から読み始めます。

Dreamweaver は、Freedom Scientific (www.freedomscientific.com) の JAWS for Windows と GW Micro (www.gwmicro.com) の Window-Eyes スクリーンリーダーをサポートしています。

オペレーティングシステムのアクセシビリティ機能のサポート

Dreamweaver は、Windows と Macintosh の両方のオペレーティングシステムでアクセシビリティ機能をサポートします。たとえば、Macintosh では、[ユニバーサルアクセス] ダイアログボックス (アップルメニューから [環境設定]) で表示に関する環境設定を設定できます。設定は、Dreamweaver ワークスペースに反映されます。

また、Windows オペレーティングシステムのハイコントラスト設定もサポートしています。Windows のコントロールパネルで、このオプションを有効にすると、次のように Dreamweaver に反映されます。

- ダイアログボックスとパネルに、システムカラー設定が使用される。たとえば、カラーを [黒地に白色] に設定すると、Dreamweaver のすべてのダイアログボックスおよびパネルは、白の前景色に黒の背景色で表示されます。
- コードビューには、システムカラーとウィンドウテキストカラーが使用されます。たとえば、システムカラーを [黒地に白色] に設定している場合に、[編集]-[環境設定]-[コードカラーリング] でテキストカラーを変更しても、Dreamweaver では、これらのカラー設定が無視され、コードテキストが白の前景色に黒の背景色で表示されます。
- デザインビューでは、[修正]-[ページプロパティ] で設定した背景色とテキストカラーが使用され、デザインしたページのカラーはブラウザで表示されるものと同じになります。

キーボードによる Dreamweaver の操作

パネル、インスペクタ、ダイアログボックス、フレーム、およびテーブルを、マウスを使用せずにキーボードで操作することができます。

注意： Tab キーと矢印キーの使用は、Windows でのみサポートされています。

パネルの操作

1 ドキュメントウィンドウで、Ctrl + F6 キーを押して、フォーカスをパネルに移動します。

パネルのタイトルの周りの点線は、フォーカスがそのパネルにあることを示しています。スクリーンリーダーにより、フォーカスが置かれているパネルのタイトルバーが読み上げられます。

2 パネル上の目的の場所にフォーカスを移動するには、Ctrl + F6 キーをもう一度押します。Ctrl + Shift + F6 キーを押して、フォーカスを前のパネルに移動します。

3 目的のパネルが開いていない場合は、[ウィンドウ] メニューのキーボードショートカットを使用して該当するパネルを表示し、Ctrl + F6 キーを押してフォーカスをそのパネルに移動します。

目的のパネルが開いていても展開されていない場合は、フォーカスをパネルのタイトルバーに置いてから、スペースキーを押します。スペースキーをもう一度押すとパネルが縮小されます。

4 Tab キーを押すと、パネル内のオプションを移動することができます。

5 必要に応じて矢印キーを使用して移動できます。

- オプションに選択項目がある場合、矢印キーで選択項目間を移動し、スペースキーを押して選択を確定します。

- パネルグループに他のパネルを開くタブがある場合、開いているタブにフォーカスを置き、左または右矢印キーを使って他のタブを開きます。新しいタブを開いたら、Tab キーを押して、そのパネル内のオプションを移動します。

プロパティインスペクタの操作

1 プロパティインスペクタが表示されていない場合は、Ctrl + F3 (Windows のみ) キーを押して開きます。

2 Ctrl + Alt + Tab キーを押して、プロパティインスペクタにフォーカスを移動します。

3 Tab キーを押すと、プロパティインスペクタ内のオプションを移動することができます。

4 適切な矢印キーを使用して、オプションの選択項目間を移動します。

5 Ctrl + Tab キーを押すと、必要に応じてプロパティインスペクタを展開または縮小できます。右下隅の展開矢印にフォーカスを置いてスペースキーを押しても、同様の操作ができます。

ダイアログボックスの操作

1 Tab キーを押して、ダイアログボックス内のオプションを移動します。

2 矢印キーを使用して、オプションの選択項目間を移動します。

3 ダイアログボックスに [カテゴリ] リストがある場合、Ctrl + Tab キー (Windows) を押して、フォーカスを [カテゴリ] リストに移動し、矢印キーを使用してリスト内を上下に移動します。

4 もう一度 Ctrl + Tab キーを押して、カテゴリのオプションに移動します。

5 Enter キーを押してダイアログボックスを終了します。

フレームの操作

❖ ドキュメントでフレームが使用されている場合は、矢印キーを使用してフォーカスをフレームに移動できます。

フレームの選択

1 Alt+ ↓キーを押して、ドキュメントウィンドウに挿入ポイントを置きます。

2 Alt+ ↑キーを押して、現在フォーカスが置かれているフレームを選択します。

3 Alt + ↑キーを押し続けて、フォーカスをフレームセットに移動し、その後、ネストされたフレームセットがある場合は、親フレームセットに移動します。

4 Alt+ ↓キーを押して、フォーカスを子フレームセットまたはそのフレームセット内の 1 つのフレームに移動します。

5 フォーカスを 1 つのフレームに置いた状態で、Alt+ ←または Alt+ →キーを押して、フレーム間を移動します。

テーブルの操作

1 必要に応じて、矢印キーを押すか、または Tab キーを押してテーブル内の他のセルに移動します。

一番右のセルで Tab キーを押すと、テーブルに新しい行が 1 つ追加されます。

2 セルを選択するには、セル内に挿入ポイントがある状態で Ctrl + A キー (Windows のみ) を押します。

3 テーブル全体を選択するには、Ctrl + A キーを、セル内に挿入ポイントがある場合は 2 回、セルが選択されている場合は 1 回押します。

4 テーブルを閉じるには、Ctrl + A キーを、セル内に挿入ポイントがある場合は 3 回、セルが選択されている場合は 2 回、テーブルが選択されている場合は 1 回押し、上矢印キー、左矢印キー、右矢印キーのいずれかを押します。

アクセシビリティに配慮したページデザイン

アクセシビリティの高いページデザインのためのワークスペースの最適化

アクセシビリティを考慮した Web ページを作成するためには、ラベルや説明などの情報をページオブジェクトに関連付けて、どのようなビジターにもアクセス可能なコンテンツにする必要があります。

そのためには、オブジェクトごとに [アクセシビリティ] ダイアログボックスをアクティブにします。このようにすると、Dreamweaver では、オブジェクトを挿入するときにアクセシビリティ情報の入力を要求されます。[環境設定] の [アクセシビリティ] カテゴリにあるオブジェクトのいずれに対しても、ダイアログボックスをアクティブにすることができます。

1 [編集]-[環境設定] (Windows) または [Dreamweaver]-[環境設定] (Macintosh) を選択します。

2 左の [カテゴリ] リストで [アクセシビリティ] を選択してオブジェクトを選択します。次の設定をして [OK] をクリックします。

挿入時に属性を表示 [アクセシビリティ] ダイアログボックスをアクティブにするオブジェクトを選択します。たとえば、フォームオブジェクト、フレーム、メディア、イメージなどです。

開くときにフォーカスをパネル内に維持する フォーカスをパネル内に維持することにより、スクリーンリーダーが利用しやすくなります。これを選択しない場合は、パネルを開くときにフォーカスがデザインビューまたはコードビュー内に維持されます。

オフスクリーンレンダリング スクリーンリーダーを使用する場合に選択します。

注意：新しいテーブルを挿入するとき、[テーブルの挿入] ダイアログボックスにアクセシビリティ属性が表示されます。

関連項目

233 ページの「イメージの挿入」

244 ページの「Flash コンテンツの挿入」

580 ページの「HTML フォームデータの検証」

196 ページの「フレームおよびフレームセットの作成」

170 ページの「テーブルの挿入とコンテンツの追加」

第 24 章：ショートカットと拡張機能

キーボードショートカット (コードスニペットを含む) をカスタマイズしてショートカットのセットを定義し、異なるプロジェクトで使用することができます。さらに、テーブル形式の変更、バックエンドのデータベースへの接続、ブラウザ用スクリプトの記述などを可能にする新しい機能 (拡張機能) を追加して管理することもできます。

ショートカットキー

現在のショートカットセットのリファレンスシートを作成する

リファレンスシートとは、現在のショートカットのセットを記録したものです。この情報は HTML テーブル形式で保管されます。リファレンスシートは Web ブラウザで表示するか、または印刷することができます。

1 [編集]-[キーボードショートカット] (Windows) または [Dreamweaver]-[キーボードショートカット] (Macintosh) を選択します。

2 ダイアログボックスの上部にある 4 つのボタンのうち、3 つめの [セットを HTML として書き出す] ボタンをクリックします。

3 表示される保存用ダイアログボックスにリファレンスシートの名前を入力し、ファイルの適切な保存先を選択します。

キーボードショートカットをカスタマイズする

キーボードショートカットエディタを使用すると、コードスニペット用のキーボードショートカットも含め、独自のショートカットキーを作成できます。ショートカットの削除、既存のショートカットの編集、およびあらかじめ定義されているショートカットのセットの選択も可能です。

関連項目

301 ページの「コードスニペットの操作」

キーボードショートカットの作成

独自のショートカットキーを作成するか、既存のショートカットを編集するか、あらかじめ設定されているショートカットのセットを選択します。

1 [編集]-[キーボードショートカット] (Windows)、または [Dreamweaver]-[キーボードショートカット] (Macintosh) を選択します。

2 必要に応じて次のオプションを設定して、[OK] をクリックします。

現在のセット Dreamweaver にあらかじめ定義されているショートカットキーのセットや、ユーザーが定義したカスタムセットを選択できます。あらかじめ設定されているセットがメニューの上部に表示されます。たとえば、HomeSite や BBEdit にあるショートカットを使い慣れている場合は、対応するあらかじめ定義されているセットを選択してそれらのショートカットを使用できます。

コマンド 編集するコマンドのカテゴリを選択します。たとえば、[開く] コマンドなどのメニューコマンドや [カッコ内を選択] などのコード編集コマンドを編集できます。

コードスニペット用のキーボードショートカットを追加または編集するには、[コマンド] ポップアップメニューで [スニペット] を選択します。

コマンドリスト [コマンド] ポップアップメニューから選択したカテゴリに関連するコマンドと割り当てたショートカットキーが表示されます。[メニューコマンド] カテゴリには、このリストがメニューの構造と同様のツリービューとして表示されます。その他のカテゴリには、コマンドの名前 ([アプリケーションの終了] など) の一覧が表示されます。

ショートカット 選択したコマンドに割り当てたショートカットキーの一覧が表示されます。

ショートカットの作成 (+) 現在のコマンドに新しいショートカットを追加します。このボタンをクリックすると、新しい空白行が [ショートカット] に追加されます。新しいキーの組み合わせを入力し、[変更] をクリックすると、コマンドに新しいショートカットキーが追加されます。コマンドごとに 2 つの異なるキーボードショートカットを割り当てることができます。既に 2 つのショートカットがコマンドに割り当てられている場合、[項目の追加] ボタンをクリックしても何も実行されません。

ショートカットの削除 (-) 選択したショートカットをショートカット一覧から削除します。

キー制御 ショートカットを追加または変更するときに、入力したキーの組み合わせが表示されます。

修正 [キー制御] に表示されるキーの組み合わせをショートカットのリストに追加したり、選択したショートカットを指定したキーの組み合わせに変更します。

複製セット 現在のセットを複製します。新しいセットに名前を付けてください。初期設定の名前は、現在のセットの名前にコピーを付加したものです。

セットの名前を変更 現在のセットの名前を変更します。

HTML ファイルとして書き出す 現在のセットを、表示やプリントに便利な HTML テーブル形式で保存します。HTML ファイルをブラウザで開き、ショートカットキーの一覧を印刷して参照することができます。

セットの削除 セットを削除します。アクティブなセットは削除できません。

コマンドからショートカットを削除する

1 [編集]-[キーボードショートカット] (Windows) または [Dreamweaver]-[キーボードショートカット] (Macintosh) を選択します。

2 [コマンド] ポップアップメニューからコマンドカテゴリを選択します。

3 [コマンド] リストでコマンドを選択し、ショートカットを選択します。

4 [項目の削除 (-)] ボタンをクリックします。

コマンドにショートカットを追加する

1 [編集]-[キーボードショートカット] (Windows) または [Dreamweaver]-[キーボードショートカット] (Macintosh) を選択します。

2 [コマンド] ポップアップメニューからコマンドカテゴリを選択します。

3 [コマンド] リストでコマンドを選択します。

コードスニペット用のキーボードショートカットを追加するには、[コマンド] ポップアップメニューで [スニペット] を選択します。

コマンドに割り当てられているショートカットが [ショートカット] に表示されます。

4 以下のいずれかの操作を行って、ショートカットを追加するための準備をします。

- コマンドに既に割り当てられているショートカットが 2 つよりも少ない場合、[項目の追加 (+)] ボタンをクリックします。新しい空白行が [ショートカット] に表示され、挿入ポイントが [キー制御] に移動します。
- コマンドに既に 2 つショートカットが割り当てられている場合には、いずれかを選択します (選択したものが新しいショートカットに置き換えられます)。選択したら [キー制御] 内をクリックします。

5 キーの組み合わせを押します。キーの組み合わせが [キー制御] に表示されます。

注意：キーの組み合わせに問題がある場合 (キーの組み合わせが既に他のコマンドに割り当てられている場合など) は、[ショートカット] の下にメッセージが表示され、ショートカットの追加や編集ができない場合があります。

6 [変更] をクリックします。新しいキーの組み合わせがコマンドに割り当てられます。

既存のショートカットを編集する

1 [編集]-[キーボードショートカット] (Windows)、または [Dreamweaver]-[キーボードショートカット] (Macintosh) を選択します。

2 [コマンド] ポップアップメニューからコマンドカテゴリを選択します。

3 [コマンド] リストでコマンドを選択し、変更するショートカットを選択します。

4 [キー制御] 内をクリックし、新しいキーの組み合わせを入力します。

5 [変更] ボタンをクリックし、ショートカットキーを変更します。

注意：キーの組み合わせに問題がある場合 (たとえば、キーの組み合わせが既に他のコマンドに割り当てられている場合) は、[ショートカット] フィールドの下にメッセージが表示され、ショートカットの追加または編集ができない場合があります。

キーボードショートカットと非 US キーボードについて

Dreamweaver の初期設定のキーボードショートカットは、主に US 標準キーボードで機能します。他の国のキーボード (英国で製造されたものを含む) には、これらのショートカットを使用するために必要な機能が備えられていない場合があります。ご使用のキーボードが特定の Dreamweaver 対応ショートカットをサポートしていない場合、Dreamweaver のその機能は無効になります。

非 US 標準キーボードで機能するキーボードショートカットをカスタマイズするには、『*Dreamweaver* 拡張ガイド』の「キーボードショートカットのマッピングを変更する」を参照してください。

拡張機能

Dreamweaver の拡張機能を追加および管理する

拡張機能とは、Dreamweaver に簡単に追加できる新しい機能のことです。たとえば、テーブル形式の変更やバックエンドのデータベースへの接続が可能な機能、ブラウザのスクリプトの記述に役立つ機能など、さまざまなものがあります。

注意：マルチユーザーシステムで、すべてのユーザーがアクセスできる拡張機能をインストールするには、管理者 (Windows) または root (Mac OS X) としてログインする必要があります。

Dreamweaver 用の最新の拡張機能については、Adobe Exchange Web サイト (www.adobe.com/go/dreamweaver_exchange_jp/) を参照してください。Web サイトにログインすると、多くの無料の拡張機能をダウンロードしたり、ディスカッショングループへ参加したり、ユーザーの評価やレビューを参照したり、Extension Manager をインストールおよび使用することができます。拡張機能をインストールするには、Extension Manager をインストールする必要があります。

Extension Manager は、Adobe アプリケーションに拡張機能をインストールし、管理するための独立したアプリケーションです。Dreamweaver から Extension Manager を起動するには、[コマンド]-[拡張機能の管理] を選択します。

1 Adobe Exchange Web サイトで、拡張機能のダウンロードリンクをクリックしてください。

ご使用のブラウザによっては、サイトから直接インストールするか、ディスクに保存するかを選択できます。

- サイトから拡張機能を直接開いている場合は、Extension Manager が自動でインストールを行います。
- 拡張機能をディスクに保存する場合は、コンピュータの "Dreamweaver" アプリケーションフォルダ内にある "Downloaded Extensions" フォルダに拡張機能パッケージファイル (.mxp) を保存することをお勧めします。

2 拡張機能パッケージファイルをダブルクリックするか、または Extension Manager を開き、[ファイル]-[拡張機能のインストール] を選択します。アプリケーションを再起動しないとアクセスできない拡張機能もあります。

注意：Extension Manager は、拡張機能の削除や拡張機能に関する情報の表示にも使用します。

関連項目

34 ページの「マルチユーザーシステムでの Dreamweaver のカスタマイズについて」

索引

記号

?、フィールド名 500

数字

127.0.0.1 IP 番号 472

A

Access、「Microsoft Access」を参照
Active Server Pages、「ASP」を参照
ActiveX オブジェクト 537
ActiveX コントロール 263
Adobe Bridge
  Dreamweaver からの起動 366
  Dreamweaver の起動 367
  Dreamweaver へのファイルの配置 366, 367
  説明 365
  統合 349
Adobe ColdFusion、「ColdFusion」を参照
Adobe Contribute、「Contribute」を参照
Adobe CSS Advisor 135
Adobe Device Central
  統合 349
Adobe Dreamweaver
  Contribute との連携 53
  Device Central との併用 367
  Fireworks との統合 350
  Flash との連携 364
  Photoshop との連携 357
  作成したモバイルコンテンツのテスト 287
  モバイルデバイス向けの Dreamweaver コンテンツの最適化 368
Adobe Fireworks
  Dreamweaver との統合 350
  Flash および Photoshop との統合 349
  環境設定、起動と編集 354
  デザインノート 98
  ポップアップメニュー 344, 352, 353
Adobe Fireworks の統合
  Dreamweaver からのイメージの最適化 351
  Fireworks HTML の更新 355
  Fireworks HTML のコピー 354
  Fireworks イメージの編集 350
  ウェブフォトアルバムの作成 355
  起動と編集の環境設定 354
Adobe Flash
  「Flash」で始まる項目も参照
  Dreamweaver との連携 364
Adobe Flash Video
  Flash Player の検出 256
  ストリーミングビデオのオプション 255
  挿入 253, 254, 255
  配信オプション 253
  プログレッシブダウンロードのオプション 254
  編集と削除 256
Adobe Flash Video 検出、追加と削除 256
Adobe FlashPaper ドキュメント、挿入 252
Adobe InDesign
  統合 349
Adobe Photoshop
  Dreamweaver との統合 356, 359
  Dreamweaver との連携 357
  Dreamweaver に合わせたイメージの最適化 360
  Flash および Fireworks との統合 349
  PSD イメージの挿入 357
  イメージのコピーと結合 358
  イメージの再コピー 360
  イメージの再挿入 360
  イメージプレビューオプション 360
  スライスのコピーとペースト 358
  ファイルの編集 359
Adobe Video Workshop 4
Adobe ヘルプ 1
AP エレメント
  AP エレメントパネルによる表示 / 非表示の変更 152
  CSS スタイルを使用した配置 128
  アンカーポイント 211
  移動 153
  オーバーラップ防止 155
  重ね順の変更 151
  環境設定 155
  環境設定の表示および設定 148
  グリッドに吸着 167
  サイズ変更 152
  スタイルで定義 128
  整列 153
  説明 145
  操作 145, 146
  単一のプロパティ 148
  テーブルデザインの 154

テーブルへの変換 154
ドラッグ可能な 338
ネスト 146, 147
配置 148
ビヘイビアを使用した表示と非表示の変更 344
表示 / 非表示、変更 152
複数の選択 150, 151
複数のプロパティ 149, 150
プロパティ、設定 148
ボーダーの表示と非表示 146
AP エレメントのオーバーラップ防止コマンド 155
AP エレメントのテーブルへの変換 154
AP エレメントパネル 150
Apache Web サーバー (Mac OS X) 474
AppleTalk サーバー 41, 62, 63
ASP
DSN 接続 484
DSN を使用しない接続 486
ISP への接続 487
OLE DB 接続 483
アプリケーションサーバー 478
検索ページ、作成 592
コマンドオブジェクト、使用 617
スクリプトの編集 320
ストアードプロシージャ 623
挿入ページ、作成 601
データベース接続 482
マスターページおよび詳細ページ 590
ログインページ 626
ASP.NET
.NET Framework のインストール 478
CheckBox コントロール 654
ListBox コントロール 652
SQL の記述 516
TextBox コントロール 654
検索ページ、作成 597
使用する言語 469
ストアードプロシージャ 622
挿入ページ、作成 601
タグの読み込み 329
データグリッド Web コントロール 656
データグリッドコントロール 656, 657
データグリッド削除ボタン 656
データグリッド列のタイプ 656
データベース接続 490
データリストコントロール 656
動的 652
フォームコントロール、修正 651
フォームコントロール、追加 651
ラジオボタン、事前選択 655

B

blockquote タグ、適用 229
BOM 71
Bridge Home 8

C

C# 言語 469
CFForm 641
CFML (ColdFusion Markup Language) 469
CheckBox コントロール 654
code タグ 36
ColdFusion
インストール 475
クライアント変数 517
検索ページ、作成 592
更新ページ 605
コンポーネント 631
コンポーネントパネル 635
コンポーネントを使用するページ 635
コンポーネント、使用 633, 635
コンポーネント、データソースとしてのレコードセット 636
コンポーネント、レコードセットの定義 635
削除ページ 610
使用する言語 469
ストアードプロシージャ 621
選択ボックス 647
挿入ページ、作成 601
チェックボックス 645
データソース、作成 481
データベース接続 481
テキスト領域 644
パスワードフィールド 642
非表示フィールド 643
フィールドの挿入 648, 650
フォーム 640
フォームコントロール、修正 650
フォームデータの検証 651
ページ、デバッグ 314
ボタン 645
マスターページおよび詳細ページ (ColdFusion、ASP、JSP、PHP) 590
ラジオボタン 646
ログインページ 626, 631
ColdFusion Markup Language (CFML)
CFML タグの編集 316
デバッグ 179, 314

ColdFusion Markup Language、「ColdFusion Markup Language」を参照
ColdFusion MX 7 拡張機能 640
Contribute
CSS スタイル 138
Dreamweaver との連携 53
イベントのログ 56
管理設定、変更 56
互換性、有効にする 55
サーバー上の権限 54
サイト構造、作成 53
サイト定義、書き出し 56
サイトルート URL、設定 56
サイト、Dreamweaver での管理 53, 56
テンプレート 377, 391
動的コンテンツ 539
特殊ファイル、操作 55
ファイルのロールバック 95
ファイル、管理 53, 54, 58
ロール、変更 56
Contribute サイトとのファイルのやり取り 54
Contribute サイトの共有設定ファイル 55
Contribute サイトへの接続、トラブルシューティング 58
CPS (Contribute Publishing Server) 53, 56
CSS (カスケーディングスタイルシート)
CSS スタイルパネル 22
概要 116
環境設定 124
ショートハンドプロパティ 119
ルールの新規作成 124
レイアウト、作成 66, 143
CSS スタイルパネル 22, 123
説明 120
CSS タイププロパティの定義 125
CSS レイアウトブロック、「レイアウトブロック」を参照

D

DBMS、「データベース管理システム」を参照
Device Central の統合
Dreamweaver 367
Device Central、「Adobe Device Central」を参照
Director、Shockwave ムービーの作成 261
Div タグ、挿入 155
Dreamweaver サイト、「サイト」を参照 37
ローカルサイト、「サイト」を参照 39
Dreamweaver Exchange 559, 675
Dreamweaver からの Photoshop による編集 359
Dreamweaver、「Adobe Dreamweaver」を参照
DropDownList コントロール 652
DSN
DSN を使用しない接続 486
接続の作成 484
トラブルシューティング 499
DTD (Document Type Definition) ファイル 329
DTD ファイル 329

E

Excel、「Microsoft Excel ファイル」を参照
Extension Manager 675

F

Fireworks での HTML を更新コマンド 355
Fireworks での起動と編集の環境設定 354
Fireworks、「Adobe Fireworks」を参照
Flash SWF ファイル
アセットとして使用、「アセット」を参照
制御 336
挿入 245
プロパティ 245
「Adobe Flash」も参照
Flash Video、「Adobe Flash Video」を参照
Flash オブジェクトを動的にする 537
Flash コンテンツ
説明 244
デザインノート 98
Flash コンポーネント
使用 249
プロパティの編集 250
Flash テキストオブジェクト
挿入とプレビュー 249
プロパティ 246
Flash ボタンオブジェクト
修正 246
プロパティ 246
FlashPaper ドキュメント、挿入 252
Flash、「Adobe Flash」を参照
FTP
GET と PUT、ファイル 83
環境設定 81
トラブルシューティング 44
パッシブ FTP オプションの使用 41
ログ 84, 85

G

Generator オブジェクトを動的にする 537
GIF イメージ
使用 233
トレーシングイメージとして使用 168

GoLive
移行サイト 23
GoLive 移行サイト 23

H

head セクション、表示と編集 321
HTML
「コード」も参照
Roundtrip 編集 288
XHTML への変換 313
埋め込み型のプログラミング言語 469
区切りなしスペース 218
ソースコード、検索 219
属性レポート 101
属性、動的にする 536
ファイル拡張子の設定 71
フォーマットと挿入 217
HTML 以外のファイル、開く 294
HTML 属性、データへのバインド 537
HTML タグ、クリーンアップ 73
HTML フォーム、「フォーム」を参照
HTML ヘッドタグ
リンクを同じターゲットに設定 270
HTML、Word による生成 72
HTTP サーバー 472
HTTP サーバー、「サーバー」も参照

I

IIS (インターネットインフォメーションサービス)、インストール 473
InDesign、「Adobe InDesign」を参照
Internet Explorer
アクティブコンテンツ 206
コンテンツの制限 285
Internet Protocol, version 6 (IPv6) 41
IP アドレスと IP 番号 (127.0.0.1) 472
ISP 487

J

Jakarta Tomcat アプリケーションサーバー (JSP) 479
JAR ファイル 330
Java アプレット
挿入 258, 264
動的にする 537
プロパティ 264
JavaScript 469
アクション 332
警告 340
実行 334
デザインビューでのコードの挿入 319
ビヘイビア 331
ファイル 72
フォームオブジェクトへの割り当て 580
フォームデータの処理 580
ポップアップメニュービヘイビア 344
JavaScript の呼出しアクション 334
JavaServer Pages、「JSP」を参照
Java、JSP 469
JDBC
接続パラメータ 493
ドライバ 494
JPEG イメージ
使用 233
トレーシングイメージとして使用 168
JRun 330, 479
JRun アプリケーションサーバー 479
JRun タグ 330
JSP (JavaServer Pages)
Callable サーバービヘイビア 624
JavaBeans 637
JDBC ドライバ 494
JSP 変数 532
ODBC 接続 495
prepared ステートメント 619, 620
アプリケーションサーバー 479
結果セット、説明 515
検索ページ、作成 592
サーバーテクノロジー 469
ストアードプロシージャ 624
挿入ページ、作成 601
タグの読み込み 330
マスターページおよび詳細ページ、作成 590
ログインページ、作成 626

L

link href タグ 133
ListBox コントロール 652
LiveDocs 1
localhost 472

M

Mac OS カラーオプション 214
Macintosh
アクセシビリティ 670
サーバー 474
タブ付きドキュメント 32
map タグ 281
Mark of the Web、コード 285

MDAC (Microsoft Data Access Components) 491
Microsoft Access
　ファイルベースのデータベース 469
Microsoft Access、ロックされたデータベースファイル 499
Microsoft Excel ファイルの読み込み 171
Microsoft IIS 478
Microsoft Knowledge Base の記事 499
Microsoft OLE DB プロバイダ 491
Microsoft Personal Web Server (PWS) 471
Microsoft SQL Server 469
Microsoft Word ドキュメント
　HTML のクリーンアップ 72
　ペースト 217, 223
　読み込み 72
Microsoft エラーメッセージ、トラブルシューティング 498
Microsoft テクニカルサポート 498
MPEG ムービー
　アセットとして使用、「アセット」を参照
MySQL
　PHP 用データベース 489
　サーバーベースのデータベース 469

N

Netscape Enterprise Server 471
Netscape Navigator 4
　AP エレメント互換性 155
　AP エレメントとの互換性 148
Netscape Navigator プラグイン
　ドキュメントウィンドウでの再生 262
　トラブルシューティング 263
　プロパティ 262
NFS サーバー 41, 62, 63

O

ODBC エラー 501
OLE DB
　接続 483
　プロバイダの取得 491
onBlur イベント 348
Oracle 9i データベース 469
Oracle OLE DB プロバイダ 491
Oracle Thin ドライバ 493

P

Perl、サポートされている機能 288
Photoshop、「Adobe Photoshop」を参照
PHP
　Mac OS X 476
　PHP のインストール 476
　検索ページ 592
　サーバーテクノロジー 469
　挿入ページ 601
　データベース接続 489
　トラブルシューティング (Macintosh) 478
　トラブルシューティング (Windows) 477
　マスターページおよび詳細ページ 590
　ログインページ 626
PNG イメージ
　使用 233
　トレーシングイメージとして使用 168
pre タグ 36
prepared ステートメント、JSP 620
PSD ソースファイル
　Dreamweaver からの編集 359
PUT コマンド 85
PWS (Microsoft Personal Web Server) 471

Q

QuickTime ムービー
　アセットとして使用、「アセット」を参照
　挿入 262

R

RadioButton コントロール 655
RadioButtonList コントロール 655
Return キー、段落の追加 230
Roundtrip 編集
　Roundtrip HTML 288

S

Sequel (SQL) 468
Shockwave オブジェクトを動的にする 537
Shockwave および Flash のコントロールアクション 336
Shockwave ムービー
　アセットとして使用、「アセット」を参照
　制御 336
　挿入 245, 261
　プロパティ 245
SOAP と Web サービス 554
SourceSafe データベースアクセスオプション 41, 62, 63
Spry
　Widget、説明 427
　エフェクト、説明 461
　繰り返し領域 459
　子領域 459
　詳細領域、説明 455, 457
　データセット、説明 453
　データセット、定義 455

テーブル、作成 458
デザインタイムフィード 456, 457
動的テーブル、説明 455
バインディングパネルの組み込みエレメントの表示 458, 460
フレームワーク、説明 427
マスター / 詳細領域 455
リピートリスト領域 460
領域、作成 457
Spry エフェクト
拡張 / 縮小 462
削除 464
シェイク 463
スキッシュ 464
スライドアップ / スライドダウン 463
追加の適用 464
ハイライト 463
表示 / フェード 462
ブラインドアップ / ブラインドダウン 462
Spry の詳細領域 455, 457
Spry のマスター領域と詳細領域 455
SQL
ASP.NET 516
データベース項目ツリー 526
変数 523, 524
変数の使用 526
レコードセット SQL 変数の定義 523
レコードセット、SQL を使用して定義 522
SQL (Structured Query Language) 468
SQL Server 接続、作成 491
SQL Server、動的ページのトラブルシューティング 499
Structured Query Language (SQL) 468
Sun JDBC-ODBC ブリッジドライバ 495
Sun ONE Web Server 471
SWF ファイル
Flash での Dreamweaver ファイルの編集 364
リンクの更新 365

T

TextBox コントロール 654
tld ファイル 330
tt タグ 36

U

UDDI
公開ディレクトリ 554
サイトリスト、編集 557
Unicode 正規化形式 71
URL
「パス」も参照
URL アセットの作成 110
アセットとして使用、「アセット」を参照
選択範囲への適用 108
URL 接頭辞 46
URL に移動アクション 339
usemap 属性 281
UTF-8 71

V

VBScript 469
VBScript、デザインビューでのコードの挿入 319
Video Workshop 4
Visual Basic 469

W

Web
サーバー、設定 472
ホスティングサービス 487
Web アプリケーション
Dreamweaver サイトの定義 480
Web サーバーおよびアプリケーションサーバーの設定 472
一般的な用途 465
設定のワークフロー 13
定義 471
データベース接続 474
要件 474
ルートフォルダの作成 479
Web アプリケーションの用語 470
Web アプリケーションの用語、定義 470
Web アプリケーションの例 465
Web サーバー 471
「サーバー」、「アプリケーションサーバー」も参照
Web サービス
AXIS プロキシジェネレータ 555
SOAP 554
UDDI サイトリスト、編集 557
UDDI ディレクトリ 554
説明 553
プロキシジェネレータ、インストール 555
プロキシジェネレータ、設定 555
プロキシジェネレータ、追加 555
ページへの追加 557
ワークフロー 553
Web セーフカラーに吸着カラーパレット 214
Web 対応イメージ
Photoshop での編集 359
説明 362

Web ページの保存と復帰 216
Web ページ、「ページ」を参照
WebDAV アクセスオプション 41, 62, 63
WebDAV アクセス、サイトの構成 88
WebDAV ソースコントロール 88
Word HTML のクリーンアップコマンド 72
Word 特有の HTML
削除 73

X
XHTML
HTML を XHTML に変換 313
コード 289
ページの作成 313
XML (Extensible Markup Language)
DTD ファイル 329
Web ページでの表示 400
繰り返しエレメント 404
説明 400
テンプレートの 391
動的ページでの表示 401
XML Spry データセット 453
XML キャッシュ Spry オプション 457
XPath
Spry で使用 456
XSL (Extensible Stylesheet Language)
「XSLT」も参照
コメント、挿入 418
説明 400
XSL 変換
クライアントサイド 403, 423
サーバーサイド 401
パラメータの使用 415
編集 414
XSL 変換サーバービヘイビア 402, 413
XSLT (Extensible Stylesheet Language Transformations)
クライアントサイド変換 403, 423
サーバーサイド変換 401
条件領域の作成 416
説明 400
動的ページでの使用 401
動的リンク 414
フラグメント 401, 413, 414
ページ 401, 403, 408, 409, 414
ページ、XML ファイルへのリンク 424
リピート領域 XSLT オブジェクト 404, 411, 413

Z
Z インデックスオプション (AP エレメント)
重ね順の変更 151
スタイル定義 128

あ
アカウント、アカウントのログオンのトラブルシューティング 500
アクション
個々のアクション名も参照
Dreamweaver に搭載 334
説明 331
ビヘイビアで変更 333
ビヘイビアパネルで選択 333
ブラウザ互換性 334
アクセシビリティ
アクティブ化 672
イメージ 236
イメージタグ値の入力 234
オブジェクト、挿入 581
オペレーティングシステムの機能 670
キーボードのみの操作 670
検証ユーティリティ 669
スクリーンリーダー 670
属性、編集 259
フレーム 197, 200
ヘルプ 3
メディアオブジェクト 258
アクセスオプション、ファイルの転送で使用
FTP 40, 62
SourceSafe データベース 41, 62, 63
WebDAV 41, 62, 63
ローカル / ネットワーク 41, 62, 63
アクセス権
データベースへの保存 630
ページへの追加 629
アクティブコンテンツ
制限の回避策 285
トラブルシューティング 285
変換 206
アクティブリンクカラーオプション (ページプロパティ) 229
アコーディオン Widget
「Spry」も参照
カスタマイズ 430
説明 429
挿入 429
パネルの削除 429
パネルの順序の変更 430
パネルの追加 429
パネルを開いて編集 430

アセット
URL、作成 110
アセットパネルの使用 105
お気に入りフォルダ、作成 111
お気に入りリスト 105, 109
カテゴリ 106
カラー、作成 110
管理 105
コピーとペースト 109
サイトリスト 105, 107
操作 105
挿入 107
表示 105
複数の選択 108
別のサイトでの再利用 109
編集 108
アセットパネル
使用 105
テンプレートカテゴリ 377
開く 105
新しいリモートアイテムの選択コマンド 91
アップデート 9
アドビデザインセンター 8
アニメーション 161
オブジェクトへの適用 164
向上 164
コピーとペースト 163
作成 161
タイムライン 159
複雑なパスに沿った 161
アプリケーションオブジェクト
レコードセットカウンタ 546
レコードセットナビゲーションリンク 541
アプリケーションサーバー
設定 475
説明 467
アプリケーションの統合、他の Adobe ソフトウェア 349
アプリケーション変数 529
アプレット、「Java アプレット」を参照
アンカーオブジェクト (挿入バー) 273
アンカーポイント 273
作成 273
表示 211
アンダースコア、SQL アカウント名 500
アンダーライン 230

い

依存ファイル 51, 81, 83
依存ファイルの表示オプション 52
イタリック、テキストの設定 230
位置
スタイルの定義 128
一時ファイル , 権限の制限 499
一般環境設定 34
移動
コード部分 310
ファイルとフォルダ 78
移動先レコードビヘイビア 542
移動ボタン、ジャンプメニューと関連付け 339
移動用ショートカットキー、Adobe ヘルプ 3
移動、コード 305
イベント
アクションの実行 333
さまざまなブラウザおよびオブジェクトで使用可能 332
説明 331
ビヘイビアで変更 333
ログ 56
イベントハンドラ、「イベント」を参照
イメージ
Fireworks から挿入 350
Fireworks での最適化 240, 351
Photoshop イメージの最適化 357, 358, 360
Photoshop から挿入 357
明るさとコントラスト 240
アセットとして使用、「アセット」を参照
イメージマップ 280
外部エディタで編集 242
切り抜き 240
サポートされるフォーマット 233
スケーラビリティ 239
スワップとスワップの復元 (ビヘイビア) 347
整列 229
挿入 233
タイムラインによるソースファイルの変更 162
動的にする 536
ビヘイビアの適用 243
プリロード (ビヘイビア) 341
プロパティ 234
レイアウトモードでの挿入 187
イメージの最適化
Fireworks の 351
Photoshop イメージ用の設定 360
Photoshop の 362
Web 用の Photoshop イメージ 357, 358, 360
プレビュー 361
イメージの作成、Fireworks コマンド 351
イメージのプレースホルダー、Fireworks での修正 351
イメージプレースホルダーのプロパティ 237

イメージプレビューオプション、Photoshop イメージの最適化 357, 358, 362
イメージボタン 574
イメージマップ
概要 280
クライアントサイドでの作成 281
ドキュメント内の表示 211
複数のホットスポットの選択 282
ホットスポット 281
色
フレームの背景 202
インクルード、サーバーサイド 325
印刷、コード 309
インストール、IIS (インターネットインフォメーションサービス) 473
インスペクタ
タグインスペクタ 316
プロパティインスペクタ 28
インデント、コード 295, 305, 308, 328

う

ウィンドウサイズオプション 25
ウエイトオプション、CSS ルール定義 125
上に整列 238
ウェブフォトアルバムの作成コマンド 355
ウェブフォトアルバム、作成 355
埋め込みスタイルオプション 211

え

エディタ、「外部エディタ」を参照
エフェクト、Spry 461
エラーメッセージ
「トラブルシューティング」も参照
Microsoft、トラブルシューティング 498
ファイルは既に使用されています 499
エレメント
アンカーポイント 211
グリッドに吸着 167
エレメント、整列 238
エンコーディング
エンティティエンコーディング 71, 209
エンコード
タイプ 36

お

オートナンバーフィールド、トラブルシューティング 501
オーバーフローオプション 128
オーバーラップしているタグ、コードの 288
大文字 / 小文字オプション、CSS ルール定義 125
大文字と小文字を区別するリンク 40
大文字と小文字、変更 295, 307
置き換え、イメージプレースホルダー 238
お気に入りフォルダ 111
お気に入りリスト (アセットパネル)
URL の追加 110
アセットの追加と削除 109
お気に入りフォルダの作成 111
カラーの追加 110
説明 105
ニックネームの作成 110
表示 105
オブジェクト
挿入時にダイアログボックスを表示 34
挿入バーによる挿入 26
タイムラインへの追加 161
動的にする 537
ライブラリに追加 111
オブジェクト挿入中にダイアログを表示オプション 34
オプションメニュー、パネルグループ 30
オプション領域 (テンプレート)
オプションの設定 383
オペレーティングシステム、マルチユーザー 34
折り返し、コードビューの行 295
折りたたみパネル Widget
「Spry」も参照
アニメーションを有効にする 437
カスタマイズ 437
初期設定の状態の設定 436
説明 436
挿入 436
開くまたは閉じる 436
音声、「サウンド」を参照
オンラインリソース 6

か

カーソル (ポインタ) オプション 129
改行、不可視エレメントの環境設定 211
ガイド
テンプレートの使用 167
レイアウトの使用 166
外部エディタ
HTML 299
JPEG、GIF、および PNG ファイル用の Photoshop の設定 359
PSD ファイル用の Photoshop の設定 359
イメージ 242
環境設定 299
テキスト 299
メディア 259

外部スタイルシート
作成 133
へのリンク 133
編集 130
外部リンク 282
改ページオプション 129
改ページ、設定 129
書き換え、コード 288, 298
書き出し
Contribute の接続キー 56
最適化された Photoshop イメージの保存 361
サイト 47
テーブルデータ 171
拡張機能
インストール 559
管理 675
作成 559
拡張性、サードパーティのビヘイビア 334
拡張テーブルモード 176
重ね順
AP エレメント 151
タイムラインによる変更 162
飾りオプション、CSS ルール定義 125
可視性オプション 128
カスケーディングスタイルシート (CSS)
(クラス) ルールの使用 131
Contribute サイトでの CSS スタイルシートの更新 138
CSS スタイルパネル 120
CSS ルールを使用したコードのフォーマット 134
インライン CSS の変換 133
異なるブラウザ間のスタイルレンダリング 135
ショートハンドルール 124
選択範囲からのスタイルの削除 132
タイププロパティの設定 125
背景プロパティの設定 125
ルールの移動 132
レイアウト、説明 139
カスタマイズ、コーディング環境 293
カスタムタグの読み込み 329
画像
再サンプル 239
シャープ化 240
説明 233
仮想サーバーサイドインクルード 325
仮想ディレクトリ 46
仮想パス 487
カタログ、データベース 512
カッコ、対応 312
カテゴリ、アセット 106
カラー
Web セーフ 213
アセットとして使用、「アセット」を参照
アセットに追加 110
コード、環境設定 298
スポイト、使用 213
選択 213
テキスト、変更 229
ページテキストの初期設定 229
ページの背景 208
見本 213
カラーオプション、CSS ルール定義 125
カラーピッカー
Dreamweaver 213
Mac OS 214
Windows OS オプション 214
グレースケールオプション 214
システム 214
使用 214
連続したトーンオプション 214
空のタグ、削除 311
環境設定
AP エレメント 148, 155
CSS スタイル 124
一般 34
外部エディタ 260
コード 295, 297, 298
コードビュー 295
サイト 81
新規ドキュメント 70
ステータスバー 25
スペルチェック用辞書 124, 223
テンプレート 398
ハイライト表示の変更 157
ハイライト表示、テーブル 173
ハイライト表示、テンプレート領域 398
ハイライト表示、ライブラリ 113
ハイライト表示、レイアウトセル 187
ハイライト表示、レイアウトブロック 157
バリデータ 311
ファイルタイプ / エディタ 260, 299
フォント / エンコード 36
不可視エレメント 211
リンクの更新 275
レイアウトモード 192
環境設定のハイライト表示
テンプレート領域 398
関数、表示 305
完了時にログを表示オプション 73

き

キーフレーム
　作成 161
キーボードショートカット
　および非 US キーボード 675
　編集と表示 673
キーワード、指定 322
記述、コード 299, 559
起動時にドキュメントを開くオプション 34
基本情報タブ、デザインノート 99
疑問符、データベースフィールド 500
キャッシュ、データソース 533
行および列、追加および削除 179
行間 (ライン高) 125
行、コードビューで折り返し 295
切り抜きオプション 128
切り離し
　テンプレートからドキュメントを 394
　編集可能にするライブラリ項目 114
記録、コマンド 667

く

クイックタグ編集
　開く 317
　ヒントメニュー 318
クエリー
　SQL のトラブルシューティング 500
　データベース 468
区切り線の挿入および修正 230
区切りなしスペース、挿入 218
クライアントサイドのイメージマップ、「イメージマップ」を参照
グラフィック、「画像」を参照
グリッド
　エレメントの吸着 167
　ビジュアルガイド 23
　表示と非表示 167
グレースケールオプション 214
クローク解除
　サイトフォルダ 96
　すべてのフォルダとファイル 97
　ファイルタイプ 96
クローク実行、サイト
　すべてクローク解除 97
クローク、サイト
　ファイル 96
　有効化と無効化 95

け

結果セット、JSP 515
結果パネルグループ
　バリデータパネル 313
結果ページ 592
権限
　Contribute のロール 56
　一時ファイルの作成と破壊 499
　サーバー上 54
　サーバー上の書き込み権限 54
　セキュリティ 498
　データベースを含むフォルダ 500
　トラブルシューティング 497
言語
　Dreamweaver でサポート 288
　サーバーサイド 469
　リファレンス 308
現在のページを更新コマンド 112, 390
検索
　検索と置換 219
　検索パターンの保存 306
　コード 306
　正規表現 291
　タグと属性 306
　ファイル 219
　ファイル内のテキスト 219
検索する文字列オプション 220
検索と置換、「検索」を参照
検索場所オプション 220
検索ページ、作成
　ASP 592
　ASP.NET 597
　ColdFusion 592
　JSP 592
　PHP 592
検査フォームアクション 348
検出、Flash Video 用の Flash Player 256

こ

更新
　サイトリスト (アセットパネル) 107
　デザインビュー 293
　ファイルパネル 78
更新プロパティ 323
更新ページ、作成
　ColdFusion 605
コーディングツールバー 19, 302
コーディングのガイドライン 568
コーディングのワークフロー 13

コード
Contribute での選択 539
XHTML 289
印刷 309
インデント 295, 305, 308, 328
大文字と小文字、変更 295
折りたたみ 309
外部エディタ 299
外部ファイル 319
カラーリングの環境設定 298
環境設定、設定 295
記述と編集 299
行番号 295
クイックタグ編集を使用して選択範囲を囲む 318
クリーンアップ 311
言語、サポート 288
検索 306
コーディング環境、カスタマイズ 293
コーディングのガイドライン 568
コピーとペースト 305
コメント 305
サーバービヘイビア 292
自動書き換え 288
スニペット 301
ソースの表示 293
タグエディタ 304
タグライブラリ 326
タグ、終了 300
テンプレートで編集 371
ドキュメントの head セクション 321
ナビゲーション 305
バリデータの環境設定、設定 311
表示オプション 295
ファイルの比較 92
フォーマットの環境設定 295
無効 288
リファレンスパネル 308
ワードラップ 295
コードインスペクタ 293
設定、初期設定フォント 36
コードナビゲーションボタン 305
コードの行番号 295
コードビュー
HTML 以外のファイルを開く 294
コードの記述と編集 299
デザインビューとの組み合わせ 16
デザインビューへの切り替え 23
テンプレートから作成されたドキュメントの表示 375
テンプレートの表示 374
表示 293
コードヒント
環境設定 297
クイックタグ編集 318
説明 299
タグライブラリ 326
コードブロック
記述 559
コーディングのガイドライン 568
配置 562
パラメータマーカー 566
コードをたたむ 309, 310
コード、挿入
クイックタグ編集の使用 317
挿入バーの使用 303
タグ選択ダイアログボックスの使用 304
デザインビュー 319
コード、編集
クイックタグ編集の使用 318
タグインスペクタ 316
プロパティインスペクタ 315
子タグ、選択 315
コピーとペースト
Photoshop から Dreamweaver 358
アセット 109
コードの折りたたみ 310
テーブルセル 181
レコードセット 534
コマンド
記録 667
コンテキストメニューからアクセス 29
作成、ヒストリステップから 667
コマンドオブジェクト、ASP 617
コメント
コメントタグの追加と削除 307
挿入と編集 305
コメントオプション 211
コンテキストメニュー 29
コンテンツ、テーブルに追加 170
コンポーネント
ColdFusion 631
コンポーネントパネル 635

さ

サーバー
「Web サーバー」、「アプリケーションサーバー」も参照
AppleTalk 41, 62, 63
HTTP 472
IP アドレス 472

NFS 41, 62, 63
Web サーバー、定義 471
アプリケーションサーバー 467
既存の接続を開く 80
説明 472
テスト 473
トラブルシューティング 473
ページのアップロード 574
リモートフォルダのトラブルシューティング 44
サーバーオブジェクト
ColdFusion 変数 517
アプリケーション変数 529
セッション変数 529
サーバーサイドインクルード
説明 325
挿入と編集 326
タイプの変更 326
タイプの変更 (仮想またはファイル) 326
サーバーサイドのイメージマップ 281
サーバーサイドのスクリプト言語 469
サーバー上の書き込み権限 54
サーバー上の読み取り権限 54
サーバースクリプト、テンプレート 371
サーバーテクノロジー
サポート 469
定義 471
サーバーのテクニカルサポート 472
サーバーのテスト
ビヘイビア 568
サーバービヘイビア
カスタムビヘイビアの編集 567
コーディングのガイドライン 568
コード 292
作成 559
ダイアログボックスの作成 566
追加インストール 559
テスト 568
リピート領域 544
レコードの更新 607
レコードへの移動 542
サーバービヘイビアビルダー 559
サーバーモデル、「サーバーテクノロジー」を参照
再使用
コード 301
サイズ変更
AP エレメント 152
エレメント、ハンドルの使用 239
テーブルセル 177
フレーム 198
レイアウトセルおよびテーブル 188
再生、Flash オブジェクト 248
サイト
GoLive 移行サイト 23
アセット、再利用 109
既存の Web サイトの編集 39, 47
キャッシュファイル 275
クローク 95
サイトマップ、操作 48
サイトリストからの削除 47
新規作成、サイト定義ウィザード 39
セキュリティ 624
大規模、アセット 109
デザインノートの使用 98
テストサーバーカテゴリのオプション 45
テストに関するガイドライン 100
破損リンク、修正 283
表示用に開く 80
ファイルの管理、ワークフロー 12
ファイルの検索 78, 219
ファイルパネルの表示、変更 82
ファイル、操作 77
フォルダの構造 37
ブラウザでプレビュー 285
プランニング 12
読み込みおよび書き出し 47
リモート情報カテゴリのオプション 40
リモートフォルダ、リモートフォルダのトラブルシューティング 44
リンク、サイト全体の変更 276
リンク、操作 267
リンク、チェック 282
レポート 101
ローカルとリモート 37
ローカルとリモートの同期 90
サイトウィンドウ、テキストの検索 219
サイト全体のリンクチェックコマンド 283
サイト全体のリンクの変更コマンド 276
サイト全体のリンクの変更ダイアログボックス 276
サイト全体を更新コマンド 390
サイト定義ダイアログボックス
サイトマップレイアウトカテゴリ 52
デザインノートカテゴリ 98
テストサーバーカテゴリ 45
表示列カテゴリ 82
リモート情報カテゴリ 40
サイトのテスト 100, 101
サイトの読み込み 47
サイトファイルのビュー 74

サイトマップ
依存ファイルの表示 52
イメージファイルとして保存 52
サイトへのファイルの追加 50
サイトマップレイアウトカテゴリ 52
新規ファイルへリンクコマンド 51
操作 276
定義された 48
表示 50
ファイルの非表示 51
ファイルの表示 51
ページの操作 48
ホームページの設定 49
リンクの変更 276
リンク、操作 275
レイアウトの修正 49
サイトマップレイアウトカテゴリ 52
サイトリスト (アセットパネル)
更新 107
説明 105
表示 105
サイトルート URL オプション 56
サイトルート相対パス、「ルート相対パス」を参照
再利用
アセット 109
検索 306
ライブラリ項目 112
サウンド
埋め込み 258
音声ファイルへのリンク 258
再生 340
ページへの追加 257
サウンドの再生アクション 340
作業環境、ライブデータウィンドウ 549
削除
Contribute サイトのファイル 57
Word が生成した HTML コード 73
空の HTML タグ 311
行および列 179
タイムラインのフレーム 161, 162
データソース 534
デザイン時接続スクリプト 502
動的コンテンツ 538
ファイルとフォルダ 77
未使用のファイル 79
ライブラリ項目 113
レコードセット 534
削除ページ、作成
ColdFusion 610
差分ツール 92
サポートされる言語 288

し

システムカラーピッカー 214
システムの必要構成 1
自動化、タスク 663
自動再生オプション (タイムラインパネル) 160
自動伸縮、レイアウトモード 185
写真 233
ジャンプメニュー
移動ボタン 277, 339
説明 571
選択プロンプトの作成 277
挿入 277
編集 339
メニュー項目の変更 278
収集、ビジター指定のデータ 593, 597
修正
データベース、ストアードプロシージャの使用 622
終了タグ 300
詳細プロパティ、検索の設定 323
詳細レコードセットダイアログボックス
SQL の入力 524, 526
データベース項目ツリー 526
ショートカットキー
ヘルプ 3
ショートカットメニュー、「コンテキストメニュー」を参照
初期設定ドキュメントタイプ (DTD) 313
新規ドキュメントの環境設定 70
新規ドキュメント、初期設定のタイプ、設定 70
新規保存コマンド 216
シンタックスエラー、insert ステートメント 501

す

数値ネットワークアドレス 472
ズームツール 214
スキーマ 329, 512
スクリーンリーダー、Window-Eyes と JAWS for Windows 670
スクリプト
アセットとして使用、「アセット」を参照
外部ファイルのリンク 319
カッコの対応、確認 312
関数の表示 305
スクリプトリンクの作成 274
挿入 319
ドキュメントに表示 211
編集 319
スクリプトオプション 211

スクリプトダイアログボックスのオプション 319
スクリプトリンク
作成 274
変更 276
スクリプト、サーバーサイド 468
スクロール、背景イメージ 126
スタイル
「スタイルシート」も参照
CSS (カスケーディングスタイルシート) 124
CSS ルールの移動 132
インライン CSS の変換 133
エレメントの配置 127
カスタム CSS スタイルの適用、削除、名前の変更 131
間隔オプション 126
行揃えオプション 126
ボーダーの定義 127
スタイルサブメニュー 230
スタイルシート
外部 133
スタイルシートの編集ダイアログボックス 134
デザインタイム、使用 137
編集 130
スタイルシートの添付アイコン 133
スタイル定義 (CSS)
エレメントの配置 127
エレメントのボーダー 127
拡張 129
タイプ 125
タグとプロパティ 126
配置 128
リスト 128
スタイルレンダリングツールバー 19
スタンダードモード
プロパティインスペクタ 537
ステータスバー
環境設定 25
説明 17
テキストの設定 (ビヘイビア) 343
ドキュメントウィンドウのサイズ変更 18
ステータスバーテキストを設定アクション 343
ストアードプロシージャ
ASP 623
ASP.NET 622
ColdFusion 621
JSP 624
説明 620
データベースの修正 620, 622
スニペット
キーボードショートカットの作成 302
スニペットパネル 301
レガシーフォルダ 301
スニペットパネル 301
スペース
区切りなしスペースの挿入 218
タブに変換 307
すべて保存コマンド 216
スペル
辞書 223
スペルオプション、設定 223
スペルチェックコマンド 124, 223
スペル、スペルチェックコマンドでのチェック 124, 223
スポイト 213
スマート折りたたみ機能 309
スライス
Photoshop からのコピー 358
スライダコントロール、作成 337
スワップイメージアクション 347
スワップイメージの復元アクション 347

せ

正規表現 291
正規表現を使用オプション 220
制限、サイトへのアクセス 624
制限、テーブル 512
静的ページ 466
「ページ」も参照
整列
AP エレメント 153
イメージ 229
オプション 238
トレーシングイメージ 169
ページエレメント 238
整列のアンカーポイントオプション 212
セキュリティ
データベースの権限の設定 498
フォルダのパスワード保護 631
セッション変数
説明 507
定義 529
データ、取得 507
データ、保存 507
フォームパラメータと URL パラメータ 507
接続キー、書き出し 56
接続スクリプト、削除 502
接続ストリング
OLE DB 492
設定 484

接続スピードオプション 25
接続パラメータ、JDBC 493
絶対位置エレメントのパスを記録コマンド 161
絶対位置の DIV 内に作成する場合はネストするオプション 155
絶対パス 268
設定
イメージプレースホルダーのプロパティ 237
イメージプロパティ 234
コードカラーリング 398
初期設定の新規ドキュメントタイプ 70
ドキュメントのプロパティ 207
フォントと属性の変更 230
リストのプロパティ 218
セルの結合コマンド 180
セル、「レイアウトセル」を参照
全情報タブ、デザインノート 99
選択
AP エレメント 151
タグ 319
テーブルエレメント 172
ドキュメントウィンドウのオブジェクト 210
複数のアセット 108
フレームおよびフレームセット 198
レイアウトセルおよびテーブル 188
選択検査 Widget
「Spry」も参照
カスタマイズ 450
空白値の許可または禁止 450
検査を実行するタイミングの指定 449
説明 448
挿入 449
デザインビューでの状態の表示 449
無効な値の指定 450

そ

送信ボタン 570
相対パス 272
相対リンク、同じターゲットに設定 270
挿入
ActiveX コントロール 263
Div タグ 155
Fireworks イメージ 350
Flash SWF ファイル 245
Flash テキストオブジェクト 249
HTML ヘッドタグ 270
Photoshop イメージ 357
Shockwave ムービー 245, 261
アセット 107
イメージ 233
イメージプレースホルダー 236
コメント 305
サーバーサイドインクルード 326
電子メールリンク 274
特殊文字 217
日時 232
ネストされた AP エレメント 147
ページ 601
メディア要素 258
ライブラリ項目 112
ロールオーバーイメージ 241
挿入バー
カテゴリ 18
カテゴリのタブ表示 27
使用 26
説明 15
挿入、コード 303
ソースコード
「コード」も参照
Dreamweaver 内に配置されている Fireworks HTML の更新 355
Fireworks から Dreamweaver へのコピーとペースト 354
ドキュメントウィンドウでの選択 210
ソースコントロール 87
ソースフォーマットの適用オプション 73
属性
「コード」も参照
値のエンコード 298
検索 306
タグインスペクタを使用して編集 316
動的にする 536
その他 6
ソフトウェア
ダウンロード 9
登録 1
ライセンス認証 1
ソフトウェアの登録 1
ソフトウェアのライセンス認証 1
揃え
テキスト 229

た

ターゲット
フレーム 203
リンク 270
対応、カッコ 312
体験版 9
代替 (Alt) テキスト 234
タイトル、ページ 322

タイムライン
AP エレメントプロパティの変更 162
アニメーションのヒント 164
イメージソースファイルの変更 162
オブジェクトの追加 161
キーフレーム 161
作成 161
自動再生 162
修正 162
名前の変更 164
複雑なパス 161
複数 163
フレームの追加および削除 162
ループ 162
タイムラインの削除コマンド 163
タイムラインのループ 162
ダウンロード 9
アップデート、プラグイン、体験版 9
サイズ、時間の推定 18, 215
ビヘイビア 334
ファイル 84
タグ
「コード」も参照
ASP 320
ASP.NET、読み込み 329
CFML (ColdFusion Markup Language) 316
code 36
JRun、読み込み 330
JSP、読み込み 330
pre 36
tt 36
オーバーラップ 288
カスタム、読み込み 329
空、削除 311
クイックタグ編集での編集 317
検索 306
サーバーサイド 468
削除 307, 319
終了 298, 300
選択 210, 319
タグエディタでの編集 304
タグライブラリへの追加 327
ネスト、結合 311
ネスト、無効 298
無効 288
ライブラリ 326
タグインスペクタ 316
タグエディタ 304
タグシンタックステンプレート 396, 397
タグセレクタ 15, 319
タグ選択
タグの挿入 304
タグバリデータ 313
タグライブラリエディタ 326
縦横比の維持 239
タブ付きのパネル Widget
「Spry」も参照
カスタマイズ 439
最初に開くパネルの設定 439
説明 438
挿入 438
パネルの削除 439
パネルの順序の変更 439
パネルの追加 439
パネルを開いて編集 439
タブ、スペースに変換 307
単語間隔オプション 126
単語単位で検索オプション 220
単独ファイル 79, 282
段落
改行の追加 230
書式設定 228
段落タグ 228

ち

チェックイン / チェックアウトシステム
依存ファイル 81
設定 87
説明 87
チェックアウトされたファイルの検索 78
ファイルのチェックアウトの取り消し 90
ファイルのチェックインとチェックアウト 89
チェックブラウザアクション 335
チェックボックス検査 Widget
「Spry」も参照
カスタマイズ 453
検査を実行するタイミングの指定 452
最小および最大選択オプション数の指定 452
説明 451
挿入 452
デザインビューでの状態の表示 452
抽出、データベースのデータ 467

つ

ツールバー
コーディング 19, 302
スタイルレンダリング 19
ドキュメント 16

表示 26
標準 17

て

データオブジェクト
レコード更新フォーム 608
データソース
JavaBeans 637
JSP 変数 532
URL パラメータ、説明 505
アプリケーション変数 529
キャッシュ 533
削除 534
セッション変数 507, 529
説明 515
定義、Dreamweaver 481
フォームパラメータ、説明 504
ユーザーからの送信 504
レコードセットの作成 (簡単) 519
レコードセット、説明 515
データソース名、「DSN」を参照
データタイプ、不一致 500, 501
データフォーマット
定義済み 548
プリセットスタイルの使用 548
データベース
MySQL 469, 489
Web アプリケーションで使用 465
クエリー 468
結果ページ 592
結果ページ、作成 597
権限、変更 497
検索ページ、作成 592
更新ページ、作成 605
コンテンツの保存 503
サーバーベース 469
スキーマとカタログ 512
ストアードプロシージャ 620, 622
ストアードプロシージャを使用した修正 620
接続 474
説明 470
選択 469
挿入ページ 601
データを表示 467
テーブル 468
ドライバ 468, 470
ファイルベース 469
リレーショナル 471
レコードセット 468
ログインページ 626
ロックの適用 499
データベース管理システム 470
データベース項目ツリー 525, 526
データベース項目ツリー、SQL 変数の定義 523
データベース接続
ASP 482
ASP.NET 490
ColdFusion 481
JDBC 493
MySQL 489
OLE DB 483, 491
OLE DB パラメータ 492
PHP 489
Web アプリケーション用 474
接続ストリング 484
データベースへの接続 474
データリンクプロパティ 491
テーブル
「列、行、セル」も参照
AP エレメント、変換 154
エレメント、選択 172
拡張テーブルモード 176
既存のデザイン 174, 176
行および列、追加および削除 179
コンテンツの作成と追加 170
サイズ変更 177
書式設定 174, 176
制限 512
説明 169
セル、ハイライト表示 172, 183
セル、幅と高さのクリア 178
セル、マージおよび分割 180
ソート 182
データベース 468
データ、書き出し 171
ネスト 182
ハイライト表示の環境設定 173
幅と高さ 178
プロパティ 174, 176
編集 174, 176
読み込み 171
列幅、調節 178, 179, 192
テーブルセル
「レイアウトセル」、「レイアウトテーブル」も参照
カット、コピー、およびペースト 181
背景色と背景イメージの追加 175
ハイライト表示の環境設定 173

ヘッダーセルの指定 175
マージと分割 170
テーブルの書き出しコマンド 172
テーブルヘッダーメニュー
説明 169
セルの幅を固定 178, 192
高さと幅のクリア 179
テーブルエレメントの選択 172
表示 179, 184
テキスト
アンダーライン 125
イメージに揃える 238
インデント 229
インデント解除 229
カラーの変更 107, 229
区切りなしスペース 218
書式設定 217, 225, 230
挿入 217
動的にする 535
ドキュメント内で検索 219
ドキュメントへの追加 217
表データの読み込み 224
ファイル、開く 72
フィールド 570
フィールド、テキストをビヘイビアで設定 343
フォーマット (プロパティインスペクタを使用) 226
フォントリストの変更 231
ページでの整列 229
ページの初期設定カラー 229
ペースト 217, 223
ペーストの環境設定 222
他のドキュメントからの読み込み 224
テキストエディタ
「外部エディタ」も参照
作成ファイル 72
指定 299
テキストカラーオプション 229
テキストフィールド検査 Widget
「Spry」も参照
カスタマイズ 444
検査の種類とフォーマットの指定 442
検査を実行するタイミングの指定 443
最小および最大文字数の指定 443
最小値および最大値の指定 443
説明 440
挿入 441
デザインビューでの状態の表示 443
必須状態の変更 443
ヒントの作成 444
無効な文字のブロック 444
テキストフィールドのテキストを設定アクション 343
テキストベースの HTML エディタ、「外部エディタ」を参照
テキスト領域検査 Widget
「Spry」も参照
カスタマイズ 447
検査を実行するタイミングの指定 446
最小および最大文字数の指定 446
説明 445
挿入 446
デザインビューでの状態の表示 447
必須状態の変更 447
ヒントの作成 447
文字カウンタの追加 446
余分な文字のブロック 447
デザインスキーム、テーブルのフォーマット 174, 176
デザインセンター 8
デザインタイムスタイルシート、使用 137
デザインタイムフィード、Spry で使用 456, 457
デザインノート
Fireworks または Flash ファイル用 98
Fireworks、Flash、および Photoshop ファイル用 349
Photoshop ファイル用 358
関連しないものの削除 100
基本情報タブ 99
ステータス選択肢の追加 100
設定 98
説明 97, 98
全情報タブ 99
開く 99
ファイル情報の保存 99
メディアオブジェクト 261
有効化と無効化 98
デザインビュー
JavaScript、挿入 319
VBScript、挿入 319
更新 293
コードビューとの同時表示 293
コードビューへの切り替え 23
子タグの選択 315
テンプレートから作成されたドキュメントの表示 375
テンプレートの表示 374
デザインファイル 70
デザイン、フレーム 194
デスクトップ、ファイルのアクセス 80
テストサーバー
設定 475
説明 473

テストサーバーカテゴリ 45
手のひらツール 17, 214
デバッグ、ColdFusion ページ 314
電子メールファイル 72
電子メールリンク
作成 274
挿入 274
変更 276
電子メールリンクダイアログボックス 274
添付テンプレートを開くコマンド 390
テンプレート
Contribute サイトの更新 391
Contribute サイト用に作成 377
XML コンテンツ 391
アセットとして使用、「アセット」を参照
アセットパネル 377
オプション領域 383
環境設定 398
既存のドキュメントへの適用 392
コードの編集 371
コードビュー 374
サーバースクリプトの編集 371
削除 391
式 372
シンタックスのチェック 397
説明 369
タグシンタックス 396
適用の取り消し 394
デザインビュー 374
テンプレートから作成されたドキュメントのプロパティの修正 394
ドキュメントの切り離し 394
ドキュメントの更新 390
名前の変更 389
ネスト 386, 387
パラメータ 371
編集 389
編集可能なタグ属性 385
編集可能領域 379, 380
編集可能領域の検索 380
リピートテーブル 381, 382
リピート領域 370, 380, 395
領域のタイプ 369
領域のハイライトカラーの変更 398
領域を編集不可にする 380
ロックされている領域のクリック 394
テンプレートから作成されたドキュメント
コードビュー 375
修正 394, 395
デザインビュー 375
テンプレートの切り離し 394
テンプレートの添付 392
テンプレート式 372
テンプレートの更新 390
テンプレートのコードカラーリング環境設定 398
テンプレートパラメータ
概要 371
テンプレートから作成されたドキュメントの修正 395
テンプレートプロパティダイアログボックス 395
テンプレートをページに適用コマンド 393
テンプレート、オプション領域
修正 383
挿入 383
テンプレート、作成 376
テンプレート、式オブジェクトモデル 373
テンプレート、編集可能なタグ属性
設定 385
テンプレートから作成されたドキュメントの修正 394
編集不能にする 385
テンプレート、編集可能領域
作成 379
操作 379, 380
ネストされたテンプレートでの制御 387
の名前の変更 380
テンプレート、リピートテーブル
挿入 381
代替色 382
テンプレート、リピート領域
作成 380
代替色 382
定義 370
テンプレートから作成されたドキュメント 395
表示 404
リピートテーブル 381

と

同期、ローカルサイトとリモートサイト 90
動的 Spry テーブル
作成 458
説明 455
動的コンテンツ
Contribute での選択 539
HTML 属性のバインド 537
イメージ 536
オブジェクト 537
高度なレコードセット、作成 522
削除 538
説明 515, 577
属性 536

置換 538
テキスト 535
フォームチェックボックス 578
フォームテキストフィールド 578
フォームメニュー 577, 578
ページへの追加 534
ラジオボタン 579
レコードセット、作成 519
レコードセット、説明 515
ワークフロー 13
動的ページ
説明 470
操作 467, 469
等幅フォントオプション 36
透明ピクセル、背景 208
登録ページ 624
ドキュメント
Word HTML のクリーンアップ 72
カスケード 24
空白テンプレートの作成 67
検索 219
作成 66, 70
作成、デザインファイルに基づく 70
作成、テンプレートに基づく 69
新規の初期設定タイプの設定 70
その他のタイプを開く 72
ダウンロードサイズ、時間 215
タブで表示 (Macintosh) 32
デザインノートの使用 98
テンプレートの切り離し 394
テンプレートの適用 392
並べて表示 24
ブラウザでプレビュー 285
プロパティの設定 207
保存、テンプレートとして 376
リンクのチェック 282
ドキュメントウィンドウ
Navigator プラグインの再生 262
ウィンドウサイズポップアップメニュー 18
エレメントの選択 210
基本 16, 23
コードの表示 23
サイズ変更 24
ズーム 214
ステータスバー 17
タイトルバー 16
タグセレクタ 17
テキストの検索 219
倍率 214
ページサイズとダウンロード時間 18
ドキュメント相対パス
設定 272
説明 268
ドキュメントツールバー 15, 16
ドキュメントをカスケード表示 24
ドキュメントを並べて表示 24
特殊文字
SQL アカウント名 500
改行 230
挿入 217
フィールド名の疑問符 500
ドライバ、指定なし 499
ドライバ、データベース 468, 470
トラブルシューティング
BOF エラー 501
Contribute 58
Contribute 互換性、有効にする 55
Contribute サイト内のロックされたファイル 58
Contribute サイトへのチェックインとチェックアウト 58
COUNT フィールドが不正 500
DSN エラー 499
EOF エラー 501
Microsoft エラーメッセージ 498
Netscape Navigator プラグイン 263
ODBC エラー 501
PHP (Macintosh) 478
PHP (Windows) 477
権限 497
更新可能なクエリー 500
サーバー 472, 473
シンタックスエラー 501
説明 478
データタイプの不一致 500
パラメータ、少なすぎる場合 500
ファイル使用中 499
ページが表示されない 477
リンク、破損、Contribute の 58
ログオンの失敗 499
ロックされている領域のクリック 394
取り消し
切り抜きコマンド 240
シャープコマンド 241
ファイルのチェックアウト 90
取り消し線 (カラーの指定なし) ボタン 214

トレーシングイメージ
位置の調整 169
ガイド 168
表示 168
ドロップダウンメニューフォームオブジェクト 571

な

ナビゲーションバー
エレメントの修正 280
説明 279
挿入 279
ナビゲーションバーイメージの設定アクション 341
ナビゲーションリンク、レコード、設定 541
名前の変更
パネルグループ 32
ライブラリ項目 113
名前変更
ファイルとフォルダ 77

に

日時
挿入 232
認証レベル 629

ぬ

ヌルリンク
作成 274
変更 276

ね

ネスト
AP エレメント 146
AP エレメント、環境設定 148, 155
テーブル 182
テンプレート、作成 387
テンプレート、説明 386
テンプレート、操作 387
フレームセットの説明 195
ネットワーク操作、ログ 56

は

背景
CSS スタイル設定 125
イメージとカラー、設定 125, 208
透明度 208
背景イメージとカラー、設定 125
プロパティ 125
背景色の設定オプション 73
配置
コードブロック 562
リスト項目 128
配置オプション 128
ハイパーリンクダイアログボックス 271
ハイパーリンク列 (ASP.NET) ダイアログボックス 660
ハイライト環境設定
ライブラリ項目 113
ハイライト表示の環境設定
コンテンツブロック 157
テーブル 173
レイアウトセル 187
バインディングパネル
HTML 属性を動的にする 536
Spry 組み込みエレメントの表示 458, 460
データソースの削除 534
動的テキストの追加 535
フォーマット列 548
フォームを動的にする 577
レコードカウンタの作成 547
破壊、一時ファイル、権限 499
パス
絶対 268
ドキュメント相対 268
物理 487
ルート相対 269
パスワード
ビジターが選択できる 625
不正 500
保存 625
ログイン時のチェック 627
破損リンク 282
バックグラウンドでのファイル転送 83
バックグラウンドファイル操作ダイアログボックス 86
パッシブ FTP オプション 41
パッシブ FTP オプションの使用 59
パネル
アセット 105
アセット、テンプレートカテゴリ 377
カスタムレイアウトの保存 32, 33
パネルグループ 15
ビヘイビア 331
ファイル 74
フレーム 198
パラメータ
SQL ステートメントでの定義 526
少なすぎる (SQL エラー) 500
テンプレート 371
動的にする 537
マーカー 566
メディア要素の制御 265
バリアントオプション、CSS ルール定義 125

バリデータ
環境設定 311
使用 313
パレット、カラー 213
番号、コードの行 295

ひ
ピクセル、透明、背景 208
ビジターのログアウト 630
ビジュアルガイド
説明 22
トレーシングイメージ 168
ルーラ 167
ヒストリパネル
概要 663
コマンド、ヒストリステップから作成 667
最大数、設定 664
ステップ、コピー & ペースト 666
ヒストリ一覧、消去 664
日付
トラブルシューティング 500
ビットマップイメージ
「イメージ」も参照
サイズ変更 239
必要構成、システム 1
ビデオ、Flash および Flash 以外のメディアオブジェクトの追加 258
非表示および表示
不可視エレメント 210
非表示の文字 295
非表示ファイル、表示 / 非表示 51
非表示フォームフィールド 211, 570
ビヘイビア
JavaScript 331
イメージ 243
サードパーティ、インストール 334
説明 331
操作 333
フォーム、ビヘイビアの割り当て 580
ブラウザ互換性 334
フレームでの使用 204
メディア、追加 265
ライブラリ項目 114
リンク、割り当て 270
ビヘイビアの追加コマンド 334
ビヘイビアパネル 331
表
表データ、読み込み 224
描画
AP エレメント 146
ネストされた AP エレメント 147
表示
AP エレメント 152
Dreamweaver サイト上のファイル 80
FTP ログ 85
head セクションのコード 321
アセット 105
コード 293
コードビューのテンプレート 374
コードヒント 299
サーバー上のファイル 80
テーブルと列の幅 179
デザインビューでのテンプレート 374
ドライブまたはデスクトップのファイル 80
トレーシングイメージ 168
不可視エレメント 210
複数のレコード 544
表示オプション
フォント 36
表示と非表示
ポップアップメニュー 346
標準ツールバー 15, 17
標準モード
説明 169
表示列カテゴリ 82
表データの読み込みコマンド 171
表データ、読み込み 171, 224
開く
Dreamweaver サイト 80
HTML 以外のファイル 294
アセットパネル 105
既存のドキュメント 72
テキストファイル 72
ファイル 77
リンクされたドキュメント 277
ヒントメニュー、コード 299

ふ
ファイヤーウォール
オプション 42, 59
ホストおよびポートの定義 81
ファイヤーウォールを使用オプション 59
ファイル
Contribute サイトでの管理 53
Contribute サイトでのロック解除 58
Dreamweaver サイトでのアクセス 80
WebDAV で転送 41, 62, 63
アップロード 85

依存 81
一時 499
移動 78
エディタ、環境設定 299
拡張子、設定 71
クローク実行およびクローク解除 96
検索 78, 79, 219
コードビューで開く 294
サーバーでのアクセス 80
削除 77
差分 92
送信 85
ダウンロード 84
テキスト 72
デザインノートの使用 98
転送 40, 41, 62, 63
転送中の作業 83
名前変更 77
バックグラウンド転送 86
比較 92
開く 72, 77
ファイルパネルでの表示 75
未使用、検索 79
ローカルサイトとリモートサイトの同期 90
ローカルドライブまたはデスクトップでのアクセス 80
ロールバック 95
ファイルアップロードフィールド 574
ファイル形式、イメージ 233
ファイルサーバーサイドインクルード 325
ファイルタイプ
Flash ファイル 244
外部エディタの環境設定 299
説明 65
ファイルタイプ / エディタ環境設定 260
ファイル転送機能の環境設定 81
ファイル転送、ログ 87
ファイルの GET と PUT 84
ファイルの PUT と GET
リモートサーバー 83, 85
ファイルのアップロード 85, 574
ファイルの送信 85
ファイルの送信と取得
依存ファイル 81
ファイルの転送 83
ファイルの比較 92
ファイルのロールバック 95
" ファイルは既に使用されています " エラーメッセージ 499
ファイルパネル
環境設定 81
更新 78
サイトファイルのビュー 74
サイトマップ 48
縮小と展開 76
ツールバーオプション 74
表示の変更 76
開くまたは閉じる 76
ファイルとフォルダの移動 78
ファイルとフォルダの操作 77
ファイルの検索 78
ファイルの表示 75
ファイルを開く 77
列の表示と順序の変更 82
ログボタン 87
ファイルパネルのサイトのビュー、変更 76
ファイルを移動するときにリンクを更新するオプション 34
フィルタ
CSS スタイルの設定 129
フィルタ、レコードセット 520
フォーマット
コード、環境設定 294
テーブルおよびセル 174, 176
テキスト、CSS と HTML 227
フォーム
ASP.NET 651
ColdFusion 640
ColdFusion フォームの検証 651
HTML の検証 580
JavaScript、使用 580
アクセシビリティ 581
イメージフィールド 574
エレメントの境界線の区切り 212
クライアントサイドでのスクリプト記述 580
コントロール、ColdFusion 642
サーバーサイドでのスクリプト記述 569
作成 571
ジャンプメニュー、作成 277
説明 569
データの収集 593, 597
テキストフィールド 570
動的オブジェクトについて 577
動的オブジェクトの挿入または変更 577
動的チェックボックス 578
動的テキストフィールド 578
動的メニュー 577, 578
動的ラジオボタン 579
非表示フィールド 570

ファイルフィールド 571, 574
フィールド、検査 348
文書への追加 571
ペーストするときにフォームアイテムの名前を変更 298
ボタン 570
ラジオボタン 570
リストメニュー 571
フォームコントロール
ASP.NET 651
フォームの検証
ColdFusion 651
HTML 580
フォトアルバム、Web 用に作成 355
フォルダ 96
お気に入り、アセット 111
クローク実行およびクローク解除 96
検索 219
操作 77, 78
フォント
エンコード環境設定 36
エンコード、フォントの設定 36
環境設定、設定 36
基本設定 125
スタイルの変更 230
リストの変更 231
不可視エレメント
環境設定 211
コメント 305
スクリプト 319
選択および表示 210
不可視のエレメント
表示 / 非表示 210
不正な文字、アカウント名に使用できない文字 500
復帰コマンド 216
復帰、保存済み最新バージョン 216
ブラウザ
カラー、Web セーフ 213
バージョン、チェック 335
プライマリ、定義 286
フレームとの互換性 204
プレビュー 285
ブラウザウィンドウを開くアクション 340
ブラウザ互換性チェック機能 135
ブラウザでプレビュー 285
ブラウザでプレビュー環境設定 215
ブラウザでプレビューコマンド 285
プラグイン 6
Netscape Navigator 262
アドビストア 9
チェック 336
動的にする 537
ドキュメントウィンドウでの再生 262
トラブルシューティング 263
プラグインのチェックアクション 336
プランニング、フレーム 194
プリロードイメージアクション 341
プレースホルダーイメージ 237
フレーム
アクセシビリティ属性の追加 197
アクセシビリティ属性の編集 200
コンテンツのプランニング 194
サイズ変更 198
削除 198
作成 196
説明 193
選択 198
ターゲットの指定 203
タイムラインへの追加 162
ネスト 195
背景色の変更 202
ビヘイビアの使用 204
ブラウザとの互換性 204
フレームパネル 198
プロパティ、設定 200
保存 199
リンクを持つコンテンツの変更 203
フレームセット
「フレーム」も参照
説明 193
選択 198
ターゲットリンク 269
名前付け 200
ネスト 195
プロパティ 202
保存 199
フレームテキストを設定アクション 342
フレームパネル 198
ブレットイメージオプション 128
フローティングパネル、組み合わせ 29
フロートオプション、CSS スタイル 127
ブロックカテゴリ (CSS スタイル) 126
ブロックプロパティ、定義 126
プロパティ
ActiveX コントロール 263
Flash 245
Java アプレット 264
Shockwave 245
イメージ 234

イメージプレースホルダー 237
単一の AP エレメント 148
テーブル 174, 176
テンプレートから作成されたドキュメント 394
ドキュメントの設定 207
ビヘイビアを使用した変更 335
表示 28
複数の AP エレメント 149
フレームとフレームセット 200, 202
ライブラリ項目 114
レイアウトセルおよびレイアウトテーブル 189
プロパティインスペクタ
ActiveX コントロールのプロパティ 263
Flash プロパティ 245
HTML 属性を動的にする 537
Java アプレットプロパティ 264
Netscape Navigator プラグインのプロパティ 262
Shockwave ムービーのプロパティ 245
イメージプレースホルダー 237
イメージプロパティの設定 234
コードの編集 315
破損リンクの修正 284
表示 28
ライブラリ項目のプロパティ 114
レコードセットの編集 538
プロパティの変更アクション 335

へ

ページ
XHTML、作成 313
XML データの表示 410
アクセスの制限 628
コンテンツの追加、ワークフロー 12
初期設定のテキストカラー 229
静的 466
挿入、作成 601
ダイナミック、作成のワークフロー 13
ダウンロード時間とサイズの環境設定 215
データベースのデータを表示 467
デザインノートの使用 98
動的 465, 467, 469
背景イメージとカラー、設定 208
ブラウザでプレビュー 285
モニタに合わせてサイズ変更 24
ユーザー登録 624
レイアウト、ワークフロー 12
レコードの更新、作成 605
ページタイトル 322
ページレイアウト、「レイアウトモード」を参照
ペースト
ヒストリステップ 666
フォームアイテム 298
ベースプロパティ 323
ベースラインに整列 238
ヘッダーセル、フォーマット 175
ヘルプ
説明 1
編集 534
ASP.NET フォームコントロール 651
CSS スタイルシート 134
Dreamweaver サイトのファイル 80
Flash ボタンオブジェクト 246
Photoshop PSD ファイル 359
Web サイト、既存のリモート 47
Web サイト、既存のローカル 39
アセット 108
キーボードショートカット 673
コード 299
サーバー上のファイル 80
サーバービヘイビア 567
サイト 38
スタイルシート、外部 130
データソース 534
データフォーマット 548
テンプレート 389
フォントリスト 231
フレームなしコンテンツ 204
メディアオブジェクト属性 259
ライブラリ項目 112
レコードセット 534
編集可能領域のマーク解除コマンド 380
変数、CFML 469

ほ

ポインタ、イメージの変更 129
訪問済みリンクカラーオプション 229
ボーダーオプション、CSS ルール定義 127
ボーダープロパティ 127
ホームページに設定コマンド 49
ホームページ、サイトマップの設定 49
ボールドテキスト、設定 230
保存
検索 306
サイトマップ 52
復帰、保存済み最新バージョン 216
フレームファイルとフレームセットファイル 199
レポート 103

ボタン
移動ボタン 339
挿入 570
ボックスオプション、CSS ルール定義 127
ホットスポット
イメージマップでの複数の選択 282
イメージマップ内 281
サイズ変更 282
ビヘイビアの適用 243
ポップアップメッセージアクション 340
ポップアップメニュー
Fireworks 344, 352, 353
HTML フォーム 571
JavaScript ビヘイビア 344
位置の設定 346
ポップアップメニューを表示ビヘイビア 344
ホワイトスペースオプション 126

ま
マーカー、不可視エレメント 210
マークアップ、「コード」を参照
マージンオプション、CSS ルール定義 127
マクロ、作成、コマンド 667
マスターページおよび詳細ページ、作成 (ColdFusion、ASP、JSP、および PHP) 590
マルチメディア、「メディア要素」を参照
マルチユーザーシステム 34

み
未使用ファイルの検索 79
見出しタグ 228
見本、カラー 213

む
ムービー、挿入 258
無効化
サイトのクローク 95
デザインノート 98
無効なタグ、表示 288

め
メタプロパティ 321
メディアオブジェクト属性
編集 259
メディア要素
挿入 258
パラメータ 265
メニューバー Widget
「Spry」も参照
カスタマイズ 434
スタイルのオフ 433
説明 431
挿入 432
ターゲット属性の割り当て 433
ツールヒントの作成 433
方向の変更 433
メニューおよびサブメニューの追加と削除 432
メニュー項目の順序の変更 432
メニュー項目のテキストの変更 433
メニュー項目のリンク 433

も
モード
拡張テーブルモード 176
標準モード 169
レイアウトモード 183
文字、アカウント名として有効な文字 500
モニタサイズ、ページのサイズ調整 24
モバイルデバイス
Dreamweaver コンテンツの最適化 368

ゆ
有効化
クローク 95
デザインノート 98
ユーザー名
一意性のチェック 626
ビジターが選択できる 625
保存 625
ログイン時のチェック 627
ユニバーサルアクセス 670

よ
要件、Web アプリケーション 474
用語集、よく使用される Web アプリケーションの用語 470
余白オプション、CSS ルール定義 127
読み込み
ASP.NET タグ 329
JRun タグ 330
JSP タグ 330
Microsoft Word ファイル 72
外部 CSS スタイルシート 133
カスタムタグ 329
表データ 171, 224
他のドキュメントのテキスト 224
読み取り専用ファイルの警告 34
読み取り専用ファイルを開く際に警告するオプション 34

ら
ライブデータウィンドウ
欠落ファイル 551
自動更新 552
説明 538
ツールバー上の URL パラメータ 539, 552
表示 550
予想されるパラメータの指定 551
ライブデータの設定ダイアログボックス 551
ライブラリ項目
アセットとして使用、「アセット」を参照
環境設定 113
再作成 113
削除 113
作成 111
説明 104
ドキュメント内で編集可能にする 114
名前の変更 113
ハイライトカラーの変更 113
ビヘイビアの編集 114
プロパティ 114
ページへの追加 112
編集 112
ライン高 125
ラウンドトリップ編集 349
ラジオボタン 570

り
リスト
作成 218
スタイルの定義 128
リストプロパティ 128, 218
リストメニュー 571
リピートオプション 125
リピート領域 XSLT オブジェクト 411, 413
リピート領域ビヘイビア 544
リファレンスパネル 308
リモート情報カテゴリ 40
リモートフォルダ
構造 37
設定 39
トラブルシューティング 44
領域
ロックされている領域のクリック 394
リレーショナルデータベース 471
リンク
Microsoft Word または Excel ドキュメント 225
アンカーポイント 273
大文字と小文字を区別 40
外部 CSS スタイルシート 133
外部スタイルシートへの 133
キャッシュファイル 275
更新 274
サイト全体の変更 276
サイトマップ 275
サイトマップのファイル 50
サイトルートに対する相対オプション 270
削除 275
スクリプトファイル 319
スタイルシートへの 133
相対パスの設定 272
ソースを開く 275
ターゲット 269
チェック 282
ドキュメント 269
ドキュメントに対する相対オプション 270
ナビゲーション 267
ヌルリンクの作成 274
破損の修正 283
破損、検索 282
ファイルの指定アイコンによるアンカーポイント 273
ファイルの指定アイコンによるドキュメント 271
フレームの変更 203
プロパティ 324
リンクされたドキュメント、開く 277
リンクチェックパネル 283
リンクページを開くコマンド 277
リンク、カラーの設定 (ページプロパティ) 229

る
ルート相対パス
設定 272
説明 269
ルーラ
説明 167
デザインビュー 166
ルーラのリセットコマンド 167

れ
レイアウトセル
折り返さないオプション 189
環境設定 192
説明 183
高さのクリア 188
背景色 189
ハイライト表示の環境設定 187
フォーマット 189

レイアウトテーブル
環境設定 192
説明 183
ネスト 186
レイアウトブロック
Div タグの操作 156
挿入 155
デザインタイムスタイルシート 158
ハイライト表示の環境設定 157
表示 157
レイアウトモード
環境設定 192
固定幅 185
コンテンツの追加 187
自動伸縮 185
スペーサーイメージを削除 190
スペーサーイメージ、環境設定 185
セル内間隔 190
セルの高さのクリア 188
セルの幅を固定 190
ネストされたレイアウトテーブル 186
ネストを削除 190
幅の設定 185
標準モードとの切り替え 185
レイアウトセルおよびテーブルについて 183
レイアウトセルとテーブルのサイズ変更と移動 189
レイアウトセルとテーブルのサイズ変更と移動、操作 188
列ヘッダーメニュー 191
レイアウト、プランニング、「レイアウトモード」を参照
レイヤー
Photoshop からコピー 358
レイヤーテキストを設定アクション 343
レイヤーのアンカーポイントオプション 212
レイヤーのドラッグアクション 337
レイヤーの表示 - 非表示アクション 344
レガシーフォルダ、コードスニペット 301
レコード
カウンタの作成 546
更新 605
挿入 601
ナビゲーションリンク 541
複数を表示 544
レコードカウンタ、作成 546
レコード更新フォームデータオブジェクト 608
レコードセット
「データベース」を参照
SQL を使わずに定義 519
SQL、カスタムステートメントの記述 522
空、トラブルシューティング 501
簡単、作成 519
キャッシュ 533
コピーとペースト 534
説明 515
データベース項目ツリー 526
編集または削除 534
例 471
レコード数の制限 520
レコードセットダイアログボックス
基本 519
詳細 522
レコードセットナビゲーションステータスアプリケーションオブジェクト 546
レコードセットナビゲーションバー
作成 541
レコードセットナビゲーションバーアプリケーションオブジェクト 541
レコードの更新ビヘイビア 607
列幅のクリア 179
列幅、クリア 178
列ヘッダーメニュー
間隔の変更 191
スペーサーイメージを削除 192
すべてのスペーサーイメージを削除 192
説明 169
表示 179, 184
列の挿入 179
列幅、設定 191
列を選択 173
列、行、セル
追加および削除 179
背景色の追加 175
レポート
コードの検証 313
サイト 101
実行 101
表示 103
保存 103

ろ

ローカルドライブ、ファイルのアクセス 80
ローカルフォルダ、構造 37
ロールオーバー
作成 241
説明 241
ログ
ネットワーク操作 56
ファイル転送 87
ログインページ
ColdFusion 631
作成 626

ログオンの失敗、SQL Server 499
ロック
　データベースファイル 499
ロックされている領域、クリック 394
ロックの適用
　ファイル、開く際に警告表示 34

わ

ワークスペース
　カスタムレイアウトの保存 32, 33
　説明 13
　フローティングレイアウト 13
　レイアウト 32
ワークフローレポート 101
ワークフロー、概要 12
ワークフロー、動的ページ 513
ワードプロセッサ、作成ファイル 72
ワードラップ 295